

OpenTP1 Version 7  
分散トランザクション処理機能

TP1/Server Base Enterprise Option メッセージ

操作書

3000-3-F53-70

---

## 前書き

### ■ 対象製品

- ・適用 OS : AIX 5L V5.2, AIX 5L V5.3, AIX V6.1, AIX V7.1  
P-1M64-2A21 uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option 07-91
- ・適用 OS : AIX V6.1, AIX V7.1, AIX V7.2  
P-1M64-1A11 uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64) 07-91  
P-1M64-9311 uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 01-05
- ・適用 OS : Red Hat Enterprise Linux 5 (AMD/Intel 64, x86), Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64, x86), Red Hat Enterprise Linux Server 6 (32-bit x86), Red Hat Enterprise Linux Server 6 (64-bit x86\_64)  
P-9S64-2A11 uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option 07-91
- ・適用 OS : Red Hat Enterprise Linux 5 (AMD/Intel 64), Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64), Red Hat Enterprise Linux Server 6 (64-bit x86\_64)  
P-9W64-2A21 uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64) 07-91  
P-9W64-9211 uCosminexus TP1/EE/Extended Transaction Controller 01-03  
P-9W64-9311 uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 02-02  
P-9W64-9411 uCosminexus TP1/EE/Extended Data Cache 01-03  
P-9W64-9511 uCosminexus TP1/Financial Service Platform 01-11
- ・適用 OS : Red Hat Enterprise Linux Server 6 (64-bit x86\_64), Red Hat Enterprise Linux Server 7 (64-bit x86\_64)  
P-8264-2A21 uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64) 07-91  
P-8264-9311 uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 02-04  
P-8264-9511 uCosminexus TP1/Financial Service Platform 01-11

これらのプログラムプロダクトのほかにもこのマニュアルをご利用になれる場合があります。詳細は「リリースノート」でご確認ください。

### ■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

## ■ 商標類

HITACHI, Cosminexus, HA モニタ, HiRDB, OpenTP1, uCosminexus および XDM は、株式会社日立製作所の商標または登録商標です。

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

IBM, AIX は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

IBM, AIX 5L は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

## ■ 発行

2019年4月 3000-3-F53-70

## ■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2008, 2019, Hitachi, Ltd.

## 変更内容

変更内容 (3000-3-F53-70) uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64)  
07-91, uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 02-04, uCosminexus TP1/  
Financial Service Platform 01-11

追加・変更内容	変更箇所
次のメッセージを追加した。 KFSB45637-E, KFSB45638-W, KFSB50974-E, KFSB85654-I, KFSB85655-I, KFSB95208-I, KFSB95209-I, KFSB95210-I, KFSB95211-I	3.1, 4.1, 6.1, 7.1
次のメッセージを変更した。 KFSB45624-E, KFSB45660-W, KFSB55350-E, KFSB55600-E, KFSB65385-E, KFSB90935-E, KFSB90943-I, KFSB95021-E, KFSB95503-E, KFSB95624-I, KFSB95650-E, KFSB95651-E	3.1, 4.1, 5.1, 7.1

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

## はじめに

このマニュアルは、次に示すプログラムプロダクトで出力されるメッセージについて説明したものです。

- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option
- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64)
- uCosminexus TP1/EE/Extended Transaction Controller
- uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension
- uCosminexus TP1/EE/Extended Data Cache
- uCosminexus TP1/Financial Service Platform

以降、このマニュアルでは、プログラムプロダクトを次のとおりに表記します。

プログラムプロダクト名	このマニュアルでの表記
uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option	TP1/EE
uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64)	
uCosminexus TP1/EE/Extended Transaction Controller	XTC
uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension	MCP
uCosminexus TP1/EE/Extended Data Cache	XDB
uCosminexus TP1/Financial Service Platform	TP1/FSP

## ■ 対象読者

システム管理者、およびオペレータの方を対象としています。

また、次に示す知識があることを前提としています。

- オペレーティングシステム（AIX, Linux など）とオンラインシステムの基礎的な知識
- TP1/EE とあわせて使用する TP1/Server Base の知識

## ■ 謝辞

COBOL 言語仕様は、CODASYL (the Conference on Data Systems Languages : データシステムズ言語協議会) によって、開発された。原開発者に対し謝意を表すとともに、CODASYL の要求に従って以下の謝辞を掲げる。なお、この文章は、COBOL の原仕様書「CODASYL COBOL JOURNAL OF DEVELOPMENT 1984」の謝辞の一部を再掲するものである。

いかなる組織であっても、COBOL の原仕様書とその仕様の全体又は一部分を複製すること、マニュアルその他の資料のための土台として原仕様書のアイデアを利用することは自由である。ただし、その場合には、その刊行物のまえがきの一部として、次の謝辞を掲載しなければならない。書評などに短い文章を引用するときは、"COBOL"という名称を示せば謝辞全体を掲載する必要はない。

COBOL は産業界の言語であり、特定の団体や組織の所有物ではない。

CODASYL COBOL 委員会又は仕様変更の提案者は、このプログラミングシステムと言語の正確さや機能について、いかなる保証も与えない。さらに、それに関連する責任も負わない。

次に示す著作権表示付資料の著作者及び著作権者

FLOW-MATIC (Sperry Rand Corporation の商標), Programming for the Univac

(R) I and II, Data Automation Systems, Sperry Rand Corporation 著作権表示

1958 年, 1959 年 ;

IBM Commercial Translator Form No.F 28-8013, IBM 著作権表示 1959 年;

FACT, DSI 27A5260-2760, Minneapolis-Honeywell, 著作権表示 1960 年

は、これら全体又は一部分を COBOL の原仕様書中に利用することを許可した。この許可は、COBOL 原仕様書をプログラミングマニュアルや類似の刊行物に複製したり、利用したりする場合にまで拡張される。

# 目次

前書き	2
変更内容	4
はじめに	5

<b>1</b>	<b>メッセージの概要</b>	<b>9</b>
1.1	メッセージの出力形式	10
	メッセージの出力先	10
1.2	メッセージの記述形式	13
	KFSBn1n2n3n4n5-X	13
1.3	メッセージの系統	16
1.4	データ連携支援の仕様	17
1.4.1	概要	17
1.4.2	メッセージの出力先	17
1.4.3	メッセージ識別子出力	18
1.4.4	データ連携支援の出力先種別について	18
1.4.5	syslog へ出力されるメッセージ	18
1.5	データ抽出ユティリティの仕様	20
1.5.1	概要	20
1.5.2	メッセージの出力先	20
1.5.3	メッセージログ関連定義	20
1.5.4	出力先種別について	22
1.6	オフラインバッチの仕様	24
1.6.1	ジョブ識別子出力	24
1.7	オフラインバッチおよびデータ連携支援のメッセージ形式	25
1.7.1	メッセージログの形式	25
1.7.2	メッセージログの説明	25
1.7.3	標準出力時のメッセージログの形式	27
<b>2</b>	<b>KFSB30000~KFSB39999</b>	<b>29</b>
2.1	KFSB30000~KFSB39999	30
<b>3</b>	<b>KFSB40000~KFSB49999</b>	<b>87</b>
3.1	KFSB40000~KFSB49999	88
<b>4</b>	<b>KFSB50000~KFSB59999</b>	<b>235</b>
4.1	KFSB50000~KFSB59999	236

<b>5</b>	<b>KFSB60000~KFSB69999</b>	<b>531</b>
5.1	KFSB60000~KFSB69999	532
<b>6</b>	<b>KFSB80000~KFSB89999</b>	<b>722</b>
6.1	KFSB80000~KFSB89999	723
<b>7</b>	<b>KFSB90000~KFSB99999</b>	<b>831</b>
7.1	KFSB90000~KFSB99999	832

## **付録 1190**

付録 A	中央処理通番	1191
付録 B	各バージョンの変更内容	1192
付録 B.1	変更内容 (3000-3-F53-60)	1192
付録 B.2	変更内容 (3000-3-F53-50)	1192
付録 B.3	変更内容 (3000-3-F53-40)	1193
付録 B.4	変更内容 (3000-3-F53-30)	1193
付録 B.5	変更内容 (3000-3-F53-20)	1195
付録 B.6	変更内容 (3000-3-F53-10)	1198
付録 B.7	変更内容 (3000-3-F53)	1198
付録 B.8	変更内容 (3000-3-984-40)	1200
付録 B.9	変更内容 (3000-3-984-30)	1201
付録 C	このマニュアルの参考情報	1202
付録 C.1	関連マニュアル	1202
付録 C.2	このマニュアルでの表記	1205
付録 C.3	英略語	1207
付録 C.4	KB (キロバイト) などの単位表記	1209

## **索引 1210**



# 1

## メッセージの概要

この章では、メッセージの出力形式、記述形式、および系統について説明します。

## 1.1 メッセージの出力形式

### メッセージの出力先

メッセージの出力先を次の表に示します。

表 1-1 メッセージの出力先

出力先	出力するメッセージの種類
メッセージログファイル※	メッセージログファイル出力設定がある TP1/EE のメッセージ、および UAP のメッセージを出力します。すべてのメッセージを付加情報付きで出力します。
syslog※	syslog 出力設定がある TP1/EE のメッセージ、および UAP のメッセージを出力します。メッセージログ関連定義の log_syslog_out オペランドで、出力するメッセージのレベルを指定できます。また、付加情報付きで出力することもできます。
標準出力	標準出力の出力設定がある TP1/EE のメッセージを出力します。
標準エラー出力	標準エラー出力の出力設定がある TP1/EE のエラーメッセージおよび警告メッセージを出力します。また、障害などが原因で、メッセージログファイルにメッセージを出力できない場合は、該当するメッセージを出力します。

注※

標準出力、および標準エラー出力に複数行で出力するメッセージ、または UAP から出力するメッセージテキスト内に改行「¥n」を含んだメッセージは、1 行で出力します。

メッセージログファイル、標準出力および標準エラー出力の格納先を次に示します。

メッセージログファイル

格納先：\$DCDIR/spool/dceeinf/log/\*

ファイル名：XX....XXlognnn

XX....XX：サービスグループ名（最大 31 文字の半角英数字）

nnn：メッセージログファイルの ID（001～010 の半角数字）

標準出力および標準エラー出力

格納先：/tmp

格納先は、TP1/EE のあるシステムの TP1/Server Base に設定されているデフォルトの格納先です。格納先の変更方法は、マニュアル「OpenTP1 運用と操作」を参照してください。

ファイル名：betran.log

betran.log には、コマンド実行時のメッセージ、およびエラーメッセージは格納されません。

### メッセージの付加情報と形式

メッセージの付加情報と形式について説明します。

## syslog およびメッセージログに出力するメッセージの形式

syslog およびメッセージログに出力するメッセージには、TASKTM 情報との対応を取るために、メッセージ ID とメッセージテキストのほかに、付加情報が出力されます。syslog に出力する付加情報は、メッセージログ関連定義で指定できます。

メッセージログに出力される付加情報とメッセージの形式を次に示します。

```
AAAAAAAAAA BBBBBBBB CCCCC DD.....DD EEEEEEEE yyyy/mm/dd hh:mm:ss KFSB00000-X YY.....YY
```

### 付加情報

AAAAAAAAAA：プロセス ID（半角数字 10 文字）  
BBBBBBB：プロセス内メッセージ通番（半角数字 7 文字）  
CCCCC：IFA 番号（半角数字 5 文字）  
DD.....DD：サービス名（半角英数字 31 文字）  
EEEEEEEE：中央処理通番（半角数字 8 文字）  
yyyy/mm/dd：年月日（半角数字 10 文字）  
hh:mm:ss：時分秒（半角数字 8 文字）

### メッセージ固定部

KFSB00000-X：メッセージ ID（半角英数字 11 文字）  
YY.....YY：メッセージテキスト※

### 注※

UAP から出力されるメッセージの場合、プログラム ID（半角英数字 2 文字）+半角スペース 1 文字+メッセージテキスト（最大 222 バイト）となります。

メモリまたはバッファが不足して syslog に出力できないメッセージは、syslog 失敗リストに保管し、syslog 失敗リストから syslog に出力を再試行します。syslog 失敗リストの要素のメッセージ格納領域長より長いメッセージを syslog 失敗リストに保管する場合は、（超過文字列+4 バイト）の文字列をメッセージ終端から切り捨てます。文字列を切り捨てられたメッセージには、文字列の最後に「(EL)」(4 バイトの半角英字記号) が付加されます。なお、syslog 失敗リストは OS が AIX の場合に使用できます。

## 標準出力および標準エラー出力に出力するメッセージの形式

標準出力および標準エラー出力に出力するメッセージには、メッセージ ID とメッセージテキストのほかに、付加情報が出力されます。標準出力および標準エラー出力に出力する付加情報は、メッセージログ関連定義で指定できます。

標準出力および標準エラー出力に出力される付加情報とメッセージの形式を次に示します。

```
AAAAAAA BBBBBBBBBB CCCCCC DD yyyy/mm/dd hh:mm:ss EEEEEEEE FFF KFSB00000-X YY.....YY
```

## 付加情報

AAAAAAA：プロセス内メッセージ通番（半角数字 7 文字）※1

BBBBBBBBBB：プロセス ID（半角数字 10 文字）

CCCCCCC：プロセス内メッセージ通番（半角数字 7 文字）※1

DD：TP1/EE 識別子（半角数字 2 文字）※2

yyyy/mm/dd：年月日（半角数字 10 文字）

hh:mm:ss：時分秒（半角数字 8 文字）

EEEEEEEE：要求元ホスト名（半角英数字 8 文字）

FFF：要求元プログラム ID（半角英字 3 文字）※3

### 注※1

「AAAAAAA」と「CCCCCCC」に出力される情報の内容は、同一です。「AAAAAAA」を出力するかどうかは、メッセージログ関連定義の `log_msg_allno` オペランドで指定します。「CCCCCCC」を出力するかどうかは、メッセージログ関連定義の `log_msg_prcno` オペランドで指定します。

### 注※2

RPC 関連定義の `node_id` オペランドの指定値の下 2 けたが出力されます。

### 注※3

「ee」+半角スペース 1 文字が出力されます。

## メッセージ固定部

KFSB00000-X：メッセージ ID（半角英数字 11 文字）

YY……YY：メッセージテキスト※

### 注※

UAP から出力されるメッセージの場合、プログラム ID（半角英数字 2 文字）+半角スペース 1 文字+メッセージテキスト（最大 222 バイト）となります。

メモリまたはバッファが不足して `syslog` に出力できないメッセージは、`syslog` 失敗リストに保管し、`syslog` 失敗リストから `syslog` に出力を再試行します。`syslog` 失敗リストの要素のメッセージ格納領域長より長いメッセージを `syslog` 失敗リストに保管する場合は、（超過文字列+4 バイト）の文字列をメッセージ終端から切り捨てます。文字列を切り捨てられたメッセージには、文字列の最後に「(EL)」(4 バイトの半角英字記号) が付加されます。なお、`syslog` 失敗リストは OS が AIX の場合に使用できます。

## 1.2 メッセージの記述形式

このマニュアルでの記述形式を次に示します。

### KFSBn1n2n3n4n5-X

メッセージテキスト (Y) (L) (DDD)

メッセージの意味を説明します。

(S)システムがメッセージを出力したあとにする主な処理を示します。

(O)メッセージ確認時、オペレータが行う必要のある処置を示します。

(P)メッセージ確認時、プログラマが行う必要のある処置を示します。

[対策] メッセージ確認時の TP1/EE 管理者の処置を示します。

注

メッセージ中の、オペレータの処置、または対策で「保守員に連絡してください。」とは、購入時の契約に基づいて、システム管理者が弊社問い合わせ窓口へ連絡することを示します。

### メッセージ ID の記号の説明

メッセージ ID の記号の意味を次に示します。

KFSB：TP1/EE のメッセージであることを示します。

n1n2n3n4n5：メッセージの通し番号を示します。

X：メッセージの種類を示します。

メッセージの種類を次の表に示します。

表 1-2 メッセージの種類

種類	意味
E	<ul style="list-style-type: none"><li>TP1/EE の稼働できない障害が起きたことを示しています。</li><li>TP1/EE の環境設定誤り、定義誤り、コマンドのオペランド指定誤りによって動作できないことを示しています。</li></ul>
W	<ul style="list-style-type: none"><li>各ライブラリ、コマンド、サーバからのメモリの使用状況などについての警告を示しています。</li><li>環境設定誤り、定義誤り、コマンドのオペランド指定誤りはありましたが、値を仮定して動作を続行することを示しています。</li></ul>
I	<ul style="list-style-type: none"><li>上記 E、W に該当しないメッセージで、単純に動作（起動／終了、コマンド実行など）を示しています。</li></ul>
Q	<ul style="list-style-type: none"><li>出力メッセージに対するユーザからの応答を待っていることを示しています。</li></ul>

Y: メッセージの出力先種別を示します。

一つのメッセージが、複数の出力先種別を持つ場合は、出力される可能性のある種別を '+' でつないであります。 '+' でつながれた出力先種別に該当メッセージが同時に出力されることを示します。 ', ' で区切られた出力先種別は, ' の前の出力先種別または, ' のあとの出力先種別のどちらかに出力されることを示します。

'L' だけの場合は省略し、空白にします。

メッセージの出力先種別を次の表に示します。

表 1-3 出力先種別

種類	出力先
E	標準エラー出力
S	標準出力
P	メッセージログファイル
L	syslog
A	SQL 連絡領域 (SQLCA) *

注※

XDB 使用時に出力します。なお、コマンドを実行したときに出力される KFSB30000~KFSB39999 メッセージの出力先は E または L になります。

L: メッセージの出力レベルを示します。

メッセージの出力先が syslog の場合、メッセージログ関連定義の log\_syslog\_out オペランドで、出力するメッセージのレベルを指定できます。コマンド実行時に表示されるメッセージには、出力レベルは設定されていません。

メッセージの出力レベルを次の表に示します。レベルの数字が小さいほど、優先順位の高いメッセージです。

表 1-4 出力レベル

レベル	メッセージの種類	
1	I	TP1/EE の起動および終了などを示すメッセージ
	E	プロセスダウンなどの致命的な障害を示すメッセージ
	Q	ユーザからの応答が必要なメッセージ このメッセージは、コンソール出力のため常に出力されます。
2	E	業務レベルでの障害などを示すメッセージ
3	E	基本レイヤ (部品) の障害を示すメッセージ
4	W	処理続行に支障はないが、ユーザに状況 (障害) を通知するメッセージ
5	I	スレッド起動、コネクション確立などの情報を示すメッセージ
6	I	レベル 5 よりも優先順位が低い情報を示すメッセージ

DDD：TP1/FSP のメッセージ出力抑止の対象のメッセージかどうかを示します。メッセージ出力抑止については、TP1/FSP の関連ドキュメントを参照してください。

表 1-5 メッセージ出力抑止種別

種類	出力先
SUP	出力抑止の対象のメッセージ
NOS	出力抑止の対象外のメッセージ

なお、メッセージ出力抑止の関数の発行前に出力されたメッセージは、抑止対象のメッセージ（SUP）でも、抑止対象外となります。

## 1.3 メッセージの系統

TP1/EE のメッセージはメッセージ ID ごとに系統が分かれています。メッセージの系統を次の表に示します。

表 1-6 メッセージの系統

メッセージ ID	メッセージの系統
KFSB05000~KFSB06999	ユーザ任意のメッセージ
KFSB30000~KFSB39999	XDB に関するメッセージ
KFSB40000~KFSB49999	基本レイヤ（部品）のエラーメッセージ
KFSB50000~KFSB59999	機能のエラーメッセージ
KFSB60000~KFSB69999	致命的なエラーメッセージ
KFSB80000~KFSB89999	正常に動作しているときのメッセージ
KFSB90000~KFSB99999	コマンド実行時のメッセージ

XDB 使用時に出力する KFSB30000~KFSB32999 メッセージは、さらに SQLCODE（SQL 実行時に XDB が返却するリターンコード）で分類されています。SQLCODE の詳細については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache SQL プログラミング」を参照してください。

メッセージ ID と UAP で使用する SQL 連絡領域（SQLCA）の SQLCODE の対応を次の表に示します。

表 1-7 メッセージ ID と SQLCODE の対応

メッセージ ID	SQLCODE
KFSB30nnn	-nnn
KFSB31nnn	-1nnn
KFSB32nnn	+ nnn

例えば、リターンコード（SQLCODE）が「-204」の場合、メッセージ ID は KFSB30204-E となります。

また、リターンコード（SQLCODE）が「0」の場合、メッセージ ID は KFSB32000-I となります。



## 1.4 データ連携支援の仕様

---

データ連携支援機能のメッセージは TP1/EE のメッセージ仕様とは差異があります。

次に仕様差異について説明します。

### 1.4.1 概要

メッセージの形式は、TP1/EE のメッセージとの仕様差異はありません。

コマンドと同期して出力するメッセージについては、TP1/EE のメッセージと同様の仕様とします（メッセージログファイル、syslog、標準出力ファイルへの出力はありません）。

コマンドと非同期に出力するメッセージは、メッセージログファイルと syslog への出力はほかの TP1/EE のメッセージと同様ですが、標準出力ファイルへの出力はありません。

また、サービスグループ名を出力するメッセージは、「サービスグループ名」を「データ連携支援 ID」に読み替えてください。

メッセージの出力先や形式について、以降で説明します。

### 1.4.2 メッセージの出力先

メッセージログファイル

格納先：「\$EERKSDIR/job/データ連携支援 ID/spool/dceeinf/log」ディレクトリ

ファイル名：XX....XXlogrksnnn

XX....XX：データ連携支援 ID

nnn：メッセージログファイルの ID（001～010 の半角数字）

シグナル用メッセージログファイル

格納先：「\$EERKSDIR/job/データ連携支援 ID/spool/dceeinf/log」ディレクトリ

メッセージログファイル名：XX....XXsiglogrksnnn

XX....XX：データ連携支援 ID

nnn：メッセージログファイルの ID（001～010 の半角数字）

標準出力および標準エラー出力

コンソール

### 1.4.3 メッセージ識別子出力

eeaphrunrksh コマンドの「-e」オプションでメッセージ識別子（半角英字 1～31 バイト）を指定した場合、メッセージ識別子をメッセージのヘッダ部に追加出力します。ただし、データ連携支援プロセス起動前に出力するコマンド専用メッセージ（KFSB90000～KFSB99999）については、メッセージ識別子を追加出力しません。

### 1.4.4 データ連携支援の出力先種別について

出力先種別に「P」を表記した場合、データ連携支援が出力するメッセージの出力先は、データ連携支援のメッセージログファイルであることを示します。

出力先種別が「E」または「S」の場合、データ抽出ユーティリティのメッセージの TP1/EE との仕様差を、次の表に示します。

表 1-8 出力先種別が「E」または「S」の場合の TP1/EE との仕様差

メッセージ ID	仕様差の有無	仕様差
KFSB81900-I	あり	標準出力には出力しません。
KFSB81901-I	あり	メッセージログファイルの使用状況を知るためには、メッセージログファイルまたは syslog を参照する必要があります。 最初にメッセージログファイルを参照する場合、メッセージログファイルの日付を参照することで、最新のメッセージログファイルを特定する必要があります。
KFSB40107-E	あり	メッセージログファイルへの出力を開始したあとは、標準エラー出力には出力せず、メッセージログファイルに出力します。
KFSB51901-E KFSB51903-E	あり	出力先種別が「L」でも、SYSLOG には出力しません。 メッセージログファイルへの出力を開始したあとは、出力先種別が「E」でも、標準エラー出力または標準出力には出力しません。
その他	あり	メッセージログファイルへの出力を開始したあとは、出力先種別が「E」または「S」でも、標準エラー出力または標準出力には出力しません。

メッセージログ初期化成功前のエラーメッセージは、標準エラー出力に英語メッセージを出力します。

### 1.4.5 syslog へ出力されるメッセージ

syslog の左端に"TP1EERKS"（プログラム名）を表示します。

TP1/EE の場合は"TP1EE"としていますので、プログラム名の違いによって、データ連携支援が出力したメッセージであることが区別できます。そのため、syslog に出力されたメッセージに対応するメッセージが、データ連携支援のメッセージログファイルに出力されていることを即時に決定することができます。

## 1.5 データ抽出ユティリティの仕様

データ抽出ユティリティは TP1/EE 未起動でも使用できるため、TP1/EE のメッセージ仕様とは差異があります。次に仕様差異について説明します。

### 1.5.1 概要

メッセージの形式については、TP1/EE のメッセージとの仕様の差異はありません。

### 1.5.2 メッセージの出力先

メッセージログファイル

格納先：

環境変数 EETRNILOGDIR の指定がある場合：

(環境変数 EETRNILOGDIR の指定値) /\*

環境変数 EETRNILOGDIR の指定がないとき：

(データ抽出ユティリティを使用した UAP を実行したカレントパス) /\*

ファイル名：EETRNIlogioannn

nnn：メッセージログファイルの ID (001~003 の半角数字)

標準出力および標準エラー出力

コンソール

### 1.5.3 メッセージログ関連定義

データ抽出ユティリティでは、TP1/EE のメッセージログ関連定義は無効です。

データ抽出ユティリティのメッセージログ関連の仕様を TP1/EE のメッセージログ関連定義と対比させた一覧を、次の表に示します。

表 1-9 データ抽出ユティリティのメッセージログ関連の仕様

TP1/EE メッセージログ 関連定義	意味	データ抽出ユティリ ティの仕様
log_file_size	メッセージログファイルの最大容量	1024
log_file_max	メッセージログファイルの最大ファイ ル数	3

TP1/EE メッセージログ 関連定義	意味	データ抽出ユーティ リティの仕様
log_syslog_out	syslog へのメッセージ出力レベル	3
log_syslog_prcid	syslog 出力時にプロセス ID を付けるか どうか	N (プロセス ID を付 けない)
log_base_infid	syslog 出力時およびメッセージの標準出 力時に付ける TP1/EE 識別子	省略 (TP1/EE 識別子を付 けない)
log_syslog_prcno	syslog 出力時にメッセージ通番を付ける かどうか	N (メッセージ通番を 付けない)
log_syslog_date	syslog 出力時に日付を付けるかどうか	N (日付を付けない)
log_syslog_time	syslog 出力時に時刻を付けるかどうか	N (時刻を付けない)
log_syslog_service_name	syslog 出力時にサービス名を付けるかど うか	N (サービス名を付け ない)
log_syslog_central_no	syslog 出力時に中央処理通番を付けるか どうか	N (中央処理通番を付 けない)
log_syslog_id	syslog 出力時に OpenTP1 識別子を付 けるかどうか	N (OpenTP1 識別子 を付けない)
log_syslog_elist	ログサービスが syslog ファイルへの出力 に失敗した場合に、該当するメッセージ をリトライタイミンまで保管するメモ リキューの要素数	0
log_msg_console	標準出力および標準エラー出力の出力設 定があるメッセージを標準出力および標 準エラー出力に出力するかどうか	Y (出力する)
log_msg_allno	メッセージの標準出力時にプロセス内の メッセージ通番を付けるかどうか	N (メッセージ通番を 付けない)
log_msg_prcid	メッセージの標準出力時にメッセージの 出力要求元のプロセスのプロセス ID を 付けるかどうか	N (プロセス ID を付 けない)
log_msg_prcno	メッセージの標準出力時にプロセス内の メッセージ通番を付けるかどうか	N (メッセージ通番を 付けない)
log_msg_sysid	メッセージの標準出力時に TP1/EE 識別 子を付けるかどうか	Y (TP1/EE 識別子を 付ける)  (TP1/EE 識別子には ["**"] を出力します)
log_msg_date	メッセージの標準出力時にメッセージの 出力要求時の日付を付けるかどうか	Y (日付を付ける)
log_msg_time	メッセージの標準出力時にメッセージの 出力要求時の時刻を付けるかどうか	Y (時刻を付ける)

TP1/EE メッセージログ 関連定義	意味	データ抽出ユーティリティの仕様
log_msg_hostname	メッセージの標準出力時にメッセージの出力要求元のホスト名を付けるかどうか	Y (ホスト名を付ける)
log_msg_pgmid	メッセージの標準出力時にメッセージの出力要求元のプログラム ID を付けるかどうか	Y (プログラム ID を付ける)
log_hsyslog_cmode	syslog 出力時に拡張 SYSLOG の文字コード変換機能を使用するかどうか	環境変数 EETRNOALOGCM ODE で指定する

## 1.5.4 出力先種別について

出力先種別が「P」の場合、データ抽出ユーティリティのメッセージ出力先は次のとおりとなります。

データ抽出ユーティリティの使用者が UAP の場合は、データ抽出ユーティリティのメッセージログファイルであることを示します。

データ抽出ユーティリティの使用者がデータ連携支援の場合は、データ連携支援のメッセージログファイルであることを示します。

データ抽出ユーティリティのメッセージ出力先種別の、TP1/EE との仕様差一覧を、次の表に示します。

メッセージ ID	仕様差の有無	仕様差
KFSB51906-E	なし	—
KFSB51907-E	なし	—
KFSB51908-E	なし	—
KFSB51911-E	なし	—
KFSB81900-I	なし	—
KFSB81901-I	なし	—
KFSB51900-E	なし	—
KFSB51902-E	なし	—
KFSB51904-E	なし	—
KFSB51909-E	なし	—
KFSB51901-E	あり	出力先種別が「L」でも、SYSLOG には出力しません。
KFSB51903-E	あり	
その他	あり	出力先種別が「E」または「S」でも、標準エラー出力または標準出力には出力しません。

メッセージID	仕様差の有無	仕様差
その他	あり	出力先種別が「P」でなくても、メッセージログファイルに出力します。

(凡例) - : 該当しません。

メッセージログ初期化成功前のエラーメッセージは、標準エラー出力に英語メッセージを出力します。

## 1.6 オフラインバッチの仕様

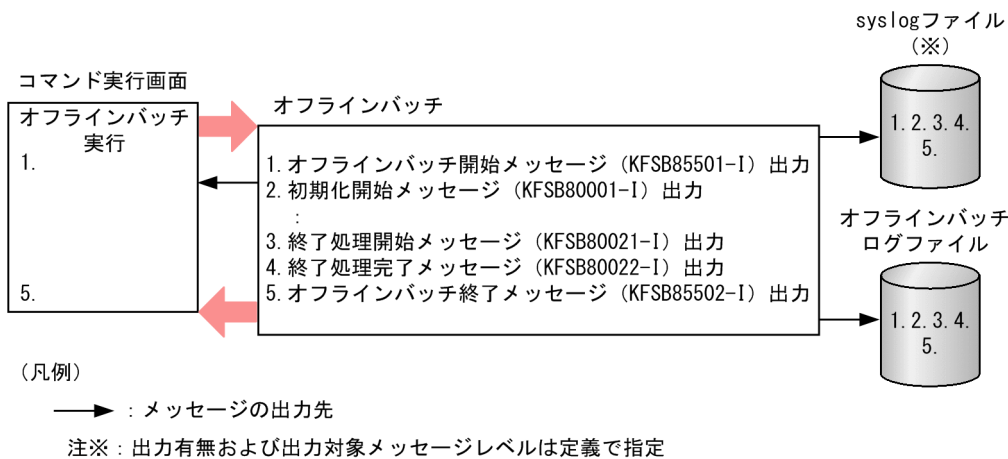
オフラインバッチのメッセージの出力先を次に示します。

表 1-10 メッセージ出力先一覧

出力先	出力対象メッセージ	出力形式
syslog	出力種別が「L」	ジョブ識別子を出力可能な点以外 は TP1/EE の syslog と同じ
オフラインバッチログファイル	出力種別が「E」、「S」または「P」	ジョブ識別子を出力可能な点以外 は TP1/EE の標準出力/標準エラー 出力と同じ
コマンド実行画面	オフラインバッチ専用	同上

メッセージ出力イメージを次の図に示します。

図 1-1 メッセージ出力イメージ



### 1.6.1 ジョブ識別子出力

eebprun コマンドの「-e」オプションでジョブ識別子（半角英字 1～31 バイト）を指定した場合、ジョブ識別子をメッセージのヘッダ部に追加出力します。ただし、オフラインバッチプロセス起動前に出力するコマンド専用メッセージ（KFSB90000～KFSB99999）については、ジョブ識別子を追加出力しません。



## 1.7 オフラインバッチおよびデータ連携支援のメッセージ形式

### 1.7.1 メッセージログの形式

メッセージ ID とメッセージテキストのほかに、付加情報を出力する。付加情報はシステム定義、またはコマンド引数 (II だけ) で項目ごとに出力可否を指定することができます。出力するメッセージログの形式を次に示します。

```
BB CC DD EE FF GG HH yyyy/mm/dd hh:mm:ss II KFSBN1N2N3N4N5-X△YY……YY
```

#### 付加情報

- BB：プロセス ID (半角数字 10 バイト)
- CC：メッセージ通番 (半角数字 7 バイト)
- DD：IFA 番号 (半角数字 5 バイト)
- EE：サービス名 (半角英数字 31 バイト)
- FF：中央処理通番 (半角数字 8 バイト)
- GG：OpenTP1 識別子 (TP1/SB の system\_id) (半角英数字 2 バイト)
- HH：TP1/EE 識別子 (半角英数字 2 バイト)
- yyyy/mm/dd：年月日 (半角数字記号 10 バイト)
- hh:mm:ss：時分秒 (半角数字記号 8 バイト)
- II：オフラインバッチのジョブ識別子 (識別子 1~31 バイト)  
または、データ連携支援のメッセージ識別子 (識別子 1~31 バイト)

#### メッセージ固定部

- KFSBN1N2N3N4N5-X：メッセージ ID (半角英数字記号 11 バイト)
- YY……YY：メッセージテキスト

(※) UAP から出力されるメッセージログの場合、プログラム ID (半角 2 バイト) + 半角スペース 1 バイト + メッセージテキスト (最大 222 バイト) となる。

#### その他

- △：スペース (半角 1 バイト)

syslog 遅延出力では、メッセージログの末尾を切り捨て、半角英字記号 4 バイト文字列” (EL)” を付加したメッセージログを syslog に出力することがあります。メッセージログの切り捨ては、syslog 失敗リストのエレメントのメッセージ領域を超えるメッセージログを保管した場合に発生します。

### 1.7.2 メッセージログの説明

メッセージログの記述形式を次に示します。

## KFSBN<sub>1</sub>N<sub>2</sub>N<sub>3</sub>N<sub>4</sub>N<sub>5</sub>-X

メッセージテキスト (Y) (L) (DDD)

メッセージの説明, 要因コードなど個別出力項目の説明です。

(S)システムの動作

(O)オペレータの処置

[対策] 管理者の処置

各項目の記述の説明を次に示します。

KFSB: メッセージプリフィックス

N<sub>1</sub>N<sub>2</sub>N<sub>3</sub>N<sub>4</sub>N<sub>5</sub>: コード

X: インジケータ

メッセージの種別を示します。インジケータは syslog へのメッセージログ出力のレベルとしても使用します。インジケータの表記種別を次の表に示します。

表 1-11 メッセージインジケータ

表記	内容
E	TP1/EE の稼働に支障のあるメッセージ。 <ul style="list-style-type: none"><li>• TP1/EE の環境設定誤り。</li><li>• TP1/EE の障害発生。</li><li>• コマンドオペランドの指定誤り。</li></ul>
W	TP1/EE は継続稼働するが注意が必要なメッセージ。 <ul style="list-style-type: none"><li>• TP1/EE の環境設定誤りのうち TP1/EE が継続稼働可能なケースの警告。</li><li>• メモリの使用状況などの警告。</li><li>• コマンドオペランドの指定誤りに関する警告。</li></ul>
I	TP1/EE の稼働状況変化 (正常動作) を示すメッセージ。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 起動/終了。</li><li>• コマンド入力。</li></ul>
Q	ユーザ入力応答待ちを示すメッセージ。

Y: メッセージログの出力先

メッセージログの出力先を示します。複数の出力先に出力する場合は, 出力する可能性のある出力先を複数記載します。出力先の表記種別を次の表に示します。

表 1-12 メッセージ出力先

表記	出力先
E	標準エラー出力
S	標準出力
P	メッセージログファイル
L	syslog

L:メッセージの出力優先順位

メッセージログの出力優先順位を示します。

表 1-13 メッセージ優先順位

レベル	優先順位	指針
1	高い ↑ 	情報 (I) : TP1/EE の起動および終了など。 異常 (E) : プロセスダウンなど致命的なエラーなど。 応答 (Q) : コンソール出力のため, 常に表示。
2		異常 (E) : 業務レベルでのエラーなど。
3		異常 (E) : 基本レイヤ (部品) でのエラーなど。
4	↓	警告 (W) : 処理継続に支障はないが, 通知が必要なもの。
5	低い	情報 (I) : スレッド起動, コネクション確立など。
6		情報 (I) : 5 よりも優先順位が低いもの。

DDD:メッセージ出力抑止対象

メッセージ出力の抑止対象かどうかを示します。

表 1-14 メッセージの抑止対象

表記	意味
SUP	抑止対象のメッセージ
NOS	抑止対象外のメッセージ

メッセージの出力抑止 API を発行する前に出力されたメッセージは, 抑止対象 (SUP) のメッセージであっても抑止対象外です。

### 1.7.3 標準出力時のメッセージログの形式

メッセージ ID とメッセージテキストのほかに, 付加情報を出力します。付加情報はシステム定義 (log\_msg\_~) またはコマンド引数 (II だけ) で項目ごとに出力可否を指定することができます。

出力するメッセージログの形式を次に示します。

```
AA BB CC DD yyyy/mm/dd hh:mm:ss EE FF II KFSBN1N2N3N4N5-X YY.....YY
```

付加情報

AA:プロセス内メッセージ通番 (半角数字 7 バイト) ※1

BB:プロセス ID (半角数字 10 バイト)

CC:プロセス内メッセージ通番 (半角数字 7 バイト)

DD:システム ID (半角数字 2 バイト) ※2

yyyy/mm/dd：年月日（半角数字記号 10 バイト）

hh:mm:ss：時分秒（半角数字記号 8 バイト）

EE：要求元ホスト名（半角英数字 8 バイト）

FF：プログラム ID（半角英字 3 バイト）※3

II：オフラインバッチのジョブ識別子（識別子 1～31 バイト）

または、データ連携支援のメッセージ識別子（識別子 1～31 バイト）

メッセージ固定部

KFSBN<sub>1</sub>N<sub>2</sub>N<sub>3</sub>N<sub>4</sub>N<sub>5</sub>-X：メッセージ ID（半角英数字記号 11 バイト）

YY……YY：メッセージテキスト

### ■ 注意事項

UAP から出力されるメッセージログの場合、プログラム ID（半角 2 バイト）+半角スペース 1 バイト+メッセージテキスト（最大 222 バイト）となります。

※1：TP1/SB のシステム内通番を表示する場合に合わせてプロセス内メッセージ通番（半角）を表示する。

※2：システム ID として node\_id の下 2 桁を表示する。

ただし、log\_base\_infid を指定している場合は log\_base\_infid 指定値を優先して表示する。

※3：プログラム ID として” ee” を表示する。

# 2

## KFSB30000～KFSB39999

この章では、XDB に関するメッセージ（SQLCODE に対応したメッセージと XDB の SQL プリプロセサが出力するメッセージ）（KFSB30000～KFSB39999）とその意味、および対策について説明します。

## 2.1 KFSB30000～KFSB39999

---

### KFSB30101-E

演算のネストの深さが255を超えています。またはシステムの処理上の制限によってSQL文が実行できません。

The number of nested operations exceeded 255, or the SQL statement could not be executed because of restrictions on system processing. (A) (3) (NOS)

演算のネストの深さが255を超えています。またはシステムの処理上の制限によってSQL文が実行できません。

(S)このSQL文を無視します。

(P)表数または列数を減らすなどSQL文を簡単にして、再度実行してください。

【対策】なし。

### KFSB30102-E

文字列定数の長さが32,000バイトを超えています。

The length of character string literal exceeds 32,000 bytes. (A) (3) (NOS)

文字列定数の長さが32000バイトを超えています。

(S)このSQL文を無視します。

(P)文字列定数の長さを32000バイト以下に修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

### KFSB30104-E

SQL文に不要な部分"aa....aa"があります。

There is an unnecessary part "aa....aa" in the SQL statement. (A) (3) (NOS)

SQL文に次のような誤りがあります。

- SQL文の後ろに余分な文字列があります。
- 構文上許されない文字、またはキーワードがあります。
- SQL文の最初のキーワードが誤っています。
- 名前が英字で始まっていません。

aa....aa : SQL 文中に誤りがある部分

構成の規則で指定できない文字がある場合、その文字とその文字の 16 進表示を括弧で囲んで表示します。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)誤りを修正して、再度実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB30105-E

トークン"bb....bb"の後ろのトークン"aa....aa"が不正です。

Token "aa....aa", which is after token "bb....bb", is invalid. (A) (3) (NOS)

トークンの指定が不正です。

aa....aa : 構文を満たさない誤った文字

bb....bb : 構文を満たした最後の文字

(S)この SQL 文を無視します。

(P)次に示すような誤りが考えられます。SQL 文を修正して、再度実行してください。

- 構文の規則どおりに指定されていません。
- 句の指定順序に誤りがあります。

**【対策】** なし。

## KFSB30106-E

SQL 文が完成していません。

The SQL statement is incomplete. (A) (3) (NOS)

SQL 文が完成していません。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を完成させて、再度実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB30107-E

識別子"aa....aa"の長さが 100 バイトを超えています。

The length of identifier "aa....aa" exceeds 100 bytes. (A) (3) (NOS)

名前の長さが 100 バイトを超えています。

aa....aa : 長さが 100 バイトを超えた名前

(S)この SQL 文を無視します。

(P)名前の長さを 100 バイト以下に修正して、再度実行してください。なお、認可識別子および DB エリア名の長さは 30 バイト以下に修正してください。

【対策】なし。

## KFSB30114-E

aa....aa 述語に誤りがあります。(誤りの種別 = bb....bb,オペランド番号 = c)

The use of the "aa....aa" predicate is invalid. (invalid factor = bb....bb, operand number = c) (A) (3) (NOS)

述語の指定方法に誤りがあります。

aa....aa : 述語の種類

COMPARISON : 比較述語

BETWEEN : BETWEEN 述語

bb....bb : 誤りの種別

OPERAND : オペランドに誤りがあります。

COMBINATION : オペランドの組み合わせに誤りがあります。

c : オペランド番号

bb....bb が OPERAND の場合、番号を表示します。それ以外は\*を表示します。

オペランド番号は、aa....aa 述語に指定された値式の指定順に付けた番号です。オペランド番号によって、エラー要因となった値式が、aa....aa 述語のどの位置（述語の左辺や述語の右辺など）に指定されているかがわかります。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30117-E

aa....aa の数と bb....bb の数が一致していません。

The number of aa....aa is not equal to the number of bb....bb. (A) (3) (NOS)

数が一致していないものがあります。



**aa....aa** : insert values

挿入値

**bb....bb** : insert columns

挿入列

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

[対策] なし。

## KFSB30119-E

集合関数の指定がある問合せでは、その選択式の列指定"aa....aa"は、集合関数の引数に指定する必要があります。

In a query using a set function specification, a select expression must be specified as the set function. (A) (3) (NOS)

集合関数の指定がある問い合わせで、その選択式の列指定を集合関数の引数に指定していません。

**aa....aa** : 列指定に誤りがある列の名前

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

[対策] なし。

## KFSB30120-E

集合関数は、aa....aa.の句、または文には指定できません。

A set function cannot be specified in the following clauses or statements: aa....aa. (A) (3) (NOS)

集合関数は、次に示す句、または文に指定できません。

- WHERE 句
- SET 句
- VALUES

**aa....aa** : 集合関数の指定されている句、または文の名前

"WHERE" clause : WHERE 句

"SET" clause : SET 句

insert values : INSERT 文の挿入値

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

### KFSB30121-E

更新列、または挿入列が重複しています。

The update columns or insert columns are duplicated. (A) (3) (NOS)

更新列、または挿入列が重複しています。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

### KFSB30123-E

列"aa....aa"が重複しています。(指定位置 = bb....bb)

Column "aa....aa" specified in bb....bb is duplicated. (A) (3) (NOS)

指定した列が重複しています。

aa....aa : 列名

bb....bb : 列 aa....aa を指定した場所

"ORDER BY" clause : ORDER BY 句

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

### KFSB30124-E

ソートキーの数が 16 個を超えています。

The number of sort keys exceeds 16. (A) (3) (NOS)

ORDER BY 句中に指定した列の数が 16 個を超えています。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)ORDER BY 句中に指定した列の数を 16 個以下に修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB30127-E

一つの間合せ指定中に、D I S T I N C T が 2 回以上指定されています。

"DISTINCT" is specified more than once in a query specification. (A) (3) (NOS)

一つの間い合わせ指定中に、DISTINCT を 2 回以上指定しないでください。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB30129-E

aa....aa の数が bb....bb を超えています。

The number of aa....aa exceeds bb....bb. (A) (3) (NOS)

指定した数が最大数を超えています。

**aa....aa** : 最大数を超えた指定

insert columns : INSERT 文に指定した挿入列

insert values : INSERT 文に指定した挿入値

parameters : 埋め込み変数

select columns : 問い合わせ指定によって導出される列

select tables : 問い合わせ指定の FROM 句に指定した表

update columns : UPDATE 文に指定した更新対象列

**bb....bb** : 指定できる最大数

(S)この SQL 文を無視します。

(P)aa....aa の数を bb....bb 以下に修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB30142-E

各国文字識別子が不正です。

The national character identifier is invalid. (A) (3) (NOS)

各国文字を使用した名前の指定に、次の構文上の誤りがあります。

- 全角の空白文字を使用しています。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)誤りを修正して、再度実行してください。

[対策] なし。

#### KFSB30149-E

ROW の使用方法に誤りがあります。

"ROW" is used incorrectly. (A) (3) (NOS)

ROW の使用方法で、次に示す誤りがあります。

- 集合関数を指定した問い合わせには、ROW を指定できません。
- ROW に対する挿入値、および更新値に埋め込み変数以外が指定されています。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)誤りを修正して、再度実行してください。

[対策] なし。

#### KFSB30150-E

行 ID を取り出す問合せに誤りがあります。

A query that fetches "ROWID" is invalid. (A) (3) (NOS)

行 ID を取り出す問い合わせに誤りがあります。

選択式に行 ID を指定した場合、次の指定はできません。

- 表の結合
- 集合関数

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

[対策] なし。

#### KFSB30151-E

行 ID を使用した問合せに誤りがあります。

A query that uses "ROWID" is invalid. (A) (3) (NOS)

行 ID を使用した問い合わせに誤りがあります。

WHERE 句に行 ID を指定した場合、次の指定はできません。

- 表の結合
- 行 ID を取り出す検索
- 集合関数
- LIMIT 句
- ORDER BY 句

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

### KFSB30201-E

修飾する表指定が、SQL 文に指定された有効な名称ではありません。

不正な修飾子は、"aa....aa"."bb....bb"、または"cc....cc"です。

The table specification qualifying the column name is not a valid name in an SQL statement.  
The invalid qualifier is "aa....aa"."bb....bb" or "cc....cc". (A) (3) (NOS)

修飾する表指定が、SQL 文に指定された有効な名称ではありません。

aa....aa：表指定中で指定したスキーマ名、または仮定されたスキーマ名

bb....bb：表識別子、または相関名

cc....cc：表識別子、または相関名

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

### KFSB30202-E

列"aa....aa"は、SQL 文または問合せ指定の表にありません。

Column "aa....aa" is not found in any table. (A) (3) (NOS)

指定した列は、SQL 文または問い合わせ指定の表にありません。

aa....aa：SQL 文中にない列名

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB30203-E

列"aa....aa"が、この問合せ中の二つ以上の表の中にあります。このため、列がどの表の列であるか決定できません。

Column "aa....aa" cannot be determined in the SQL statement. (A) (3) (NOS)

指定した列が、この問い合わせ中の二つ以上の表の中にあります。このため、指定した列がどの表の列であるか決定できません。

aa....aa：問い合わせ中に二つ以上ある列名

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB30204-E

表、またはインデクス"aa....aa"."bb....bb"が、システムにありません。

The table or index "aa....aa"."bb....bb" is not found in the system. (A) (3) (NOS)

指定した表またはインデクスは定義されていません。

aa....aa：スキーマ名

bb....bb：表識別子、またはインデクス識別子

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB30205-E

表、または FROM 句の相関名に、列"aa....aa"がありません。(表名="bb....bb"."cc....cc", 相関名="dd....dd")

Column "aa....aa" is not found in table "bb....bb"."cc....cc" or in correlation name "dd....dd" in the FROM clause. (A) (3) (NOS)

指定した表、または FROM 句の相関名に、該当する列がありません。

aa....aa：列名

bb....bb : スキーマ名

cc....cc : 表識別子, または相関名

dd....dd : 表識別子, または相関名

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して, 再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30208-E

集合関数が選択式に指定されているため, 選択式で指定されていない列名"aa....aa"はORDER BY 句に指定できません。

The column name "aa....aa" not specified by the selection expression cannot be specified for the "ORDER BY" clause, because the set function is specified in the selection expression.

(A) (3) (NOS)

集合関数が選択式に指定されているため, 選択式で指定されていない列名は ORDER BY 句に指定できません。

aa....aa : 列名

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して, 再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30210-E

ナル値が設定できない列にナル値を設定しようとしています。

An attempt was made to set a null value in a column specified as "NOT NULL". (A) (3) (NOS)

ナル値が設定できない列にナル値を設定しようとしています。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して, 再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30211-E

FROM 句中の名前"aa....aa"が重複しています。

The name "aa....aa" is duplicated in a "FROM" clause. (A) (3) (NOS)

FROM 句中の名前が重複しています。

aa....aa : 名前

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB30213-E

ROWがSQL文中のどの表に対応するか決定できません。

"ROW" applies to more than 1 table in the SQL statement. (A) (3) (NOS)

ROW を指定した問い合わせ中に、該当する表が二つ以上あります。

このため、ROW が SQL 文中のどの表に対応するか決定できません。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB30214-E

ROWを指定できません。(理由 = aa....aa)

"ROW" cannot be specified. (reason = aa....aa) (A) (3) (NOS)

ROW を指定できません。

aa....aa : ROW を指定できない項目

non-"FIX" attribute table : FIX 属性でない表

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB30219-E

ORDER BY句に指定された列名"aa....aa"は列指定だけから導出された列名でないため指定できません。



The column name "aa....aa" specified in the "ORDER BY" clause cannot be used, because the column name is not one derived from the column specification only. (A) (3) (NOS)

ORDER BY 句に指定された列名は列指定だけから導出された列名でないため指定できません。

aa....aa : ORDER BY 句に指定した列名

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30220-E

問合せの結果導出される表に、ORDER BY 句に指定した列"aa....aa"が 2 個以上あります。

The column "aa....aa" specified in the "ORDER BY" clause is found more than once in the derived table. (A) (3) (NOS)

問い合わせの結果導出される表に、ORDER BY 句に指定した列が 2 個以上あります。

aa....aa : ORDER BY 句に指定した列名

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30239-E

識別子"aa....aa"は、有効範囲内に候補となる対象物が存在しません。

For the identifier "aa....aa", there are no target candidates in the valid scope. (A) (3) (NOS)

指定した識別子は、有効範囲内に候補となる対象物が存在しません。

aa....aa : 不正な識別子

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30301-E

aa....aa 番目の入力変数のデータ型が、変換できるデータ型ではありません。

The data type of an input variable (item aa....aa) cannot be converted. (A) (3) (NOS)

入力変数のデータ型が、変換できるデータ型ではありません。

aa....aa：エラーとなった入力変数の順序番号

(S)この SQL 文を無視します。

(P)入力変数を、変換できるデータ型に変更し、再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30302-E

入力データが、列のデータ型の値の範囲を超えています。(列名="aa....aa")

The input data is outside the valid range for values of the column data type. (column name = "aa....aa") (A) (3) (NOS)

入力データが、列のデータ型の値の範囲を超えています。

aa....aa：エラーとなった列名

列名を表示できない場合は、\*\*\*を表示します。

(S)この SQL 文を無視します。またはこのトランザクションを無効にします。

(P)入力データに誤りがある場合は、修正して再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30303-E

aa....aa 番目の出力変数のデータ型が、変換できるデータ型ではありません。

The data type of an output variable (item aa....aa) cannot be converted. (A) (3) (NOS)

出力変数のデータ型が、変換できるデータ型ではありません。

aa....aa：エラーとなった出力変数の順序番号

(S)この SQL 文を無視します。

(P)このメッセージが OPEN 文についてのエラーメッセージの場合、同じカーソルの FETCH 文の埋め込み変数を変換できるデータ型に変更し、再度実行してください。

そうでない場合は、出力変数を変換できるデータ型に変更し、再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30305-E

aa....aa 番目の出力変数に標識変数が指定されていません。このため、ナル値の出力データが返せません。

An indicator is not specified for a variable (item aa....aa). Therefore, null-value output data cannot be returned. (A) (3) (NOS)

標識変数が指定されていません。このため、ナル値の出力データが返せません。

aa....aa : エラーとなった出力変数の順序番号

(S)この SQL 文を無視します。

(P)標識変数を指定し、再度実行してください。

[対策] なし。

## KFSB30311-E

aa....aa 番目の埋め込み変数の変数宣言が誤っています。(bb....bb)

The variable declaration of an embedded variable (item aa....aa) is invalid. (bb....bb) (A) (3) (NOS)

埋め込み変数の変数宣言が誤っています。

aa....aa : エラーとなった出力変数の順序番号

bb....bb : 埋め込み変数の入出力種別

input : 入力用埋め込み変数

output : 出力用埋め込み変数

(S)この SQL 文を無視します。

(P)埋め込み変数の変数宣言を修正し、再度実行してください。

[対策] なし。

## KFSB30312-E

データ格納領域の合計長が 2 GB を超えています。

The total size of the data storage area exceeds 2 GB. (A) (3) (NOS)

データ格納領域の合計長が 2GB を超えています。

(S)この SQL 文を無視します。またはこのトランザクションを無効にします。

(P)検索項目の数を減らすなど SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB30313-E

DECLARE CURSOR文の埋め込み変数の数が、OPEN文の埋め込み変数の数と一致しません。

The number of embedded variables in the DECLARE CURSOR statement and OPEN statement must be the same. (A) (NOS)

DECLARE CURSOR 文中の埋め込み変数の数が、OPEN 文で指定した埋め込み変数の数と一致しません。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正し、埋め込み変数の数を一致させ、再度実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB30317-E

TP1/EE/XDBの開始処理、または終了処理でエラーが発生しました。理由コード：aa....aa  
An error occurred during TP1/EE/XDB start or termination processing. information = aa....aa (E+P+L) (3) (NOS)

XDB の開始または終了処理でエラーが発生しました。

aa....aa：保守情報

(S)異常終了します。

(P)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 このメッセージの直前に出力されているメッセージがある場合は、そのメッセージの内容に従って対策してください。メッセージが出力されていない場合は、このメッセージを保存して保守員に連絡してください。

### KFSB30318-E

異常が発生したため、TP1/EE/XDBを停止しました。Information：aa....aa  
TP1/EE/XDB aborted because an error occurred. information = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

XDB で異常を検知したため、XDB を停止しました。

aa....aa：保守情報

(S)異常終了します。

(O)このメッセージの前に出力されているメッセージがある場合は、そのメッセージの内容に従って対策してください。メッセージが出力されていない場合は、このメッセージを保存してください。コアファイルが出力されているときは、コアファイルも保存して OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] なし。

## KFSB30326-E

aaaa 番目の埋め込み変数の入力データに誤りがあります。

The length or precision of the data entered for an embedded variable (item aaaa) is invalid. (A) (3) (NOS)

埋め込み変数の入力データに、次のどれかの誤りがあります。

- 入力データが可変長の文字データの場合  
入力データの長さが最大長を超えているか、または入力データの長さが 0 未満です。
- 入力データが固定小数点数の 10 進データの場合  
このデータの形式が誤っているか、または精度が異なっています。
- 入力データが時刻印データの場合  
このデータの形式が誤っているか、または存在しない日時です。
- 入力データの標識変数の値に誤りがあります。

aaaa : エラーとなった入力データの順序番号

(S)この SQL 文を無視します。またはこのトランザクションを無効にします。

(P)入力データまたはその標識変数の値を修正して、再度実行してください。

- 入力データには、埋め込み変数に対して仮定されたデータ型およびデータ長の値を指定してください。仮定されるデータ型およびデータ長については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache SQL プログラミング」の「埋め込み変数」を参照してください。入力データのデータ形式については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache SQL プログラミング」の「データ型」を参照してください。
- 標識変数の値については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache SQL プログラミング」の「変数」を参照してください。

[対策] なし。

## KFSB30385-E

コマンド送受信処理でタイムアウトを検出しました。タイムアウト時間 = aa....aa

A timeout was detected during command sending or receiving processing. timeout interval = aa....aa (E+P+L+A) (3) (NOS)

コマンドの処理依頼を送信してから、応答を受信するまでの時間でタイムアウトが発生しました。

aa....aa：タイムアウト時間（単位：分）

(S)この SQL 文を無視します。またはこのトランザクションを無効にします。

(O)コマンド処理打ち切り時間をオプションに指定できるコマンドの場合は、コマンド処理打ち切り時間を変更してコマンドを再度実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】時間の掛かる処理がある場合は、その原因を取り除いたあとにコマンドを再度実行してください。

## KFSB30401-E

述語 aa....aa の両側に指定したオペランドのデータ型が、比較変換できるデータ型ではありません。  
The data types of both operands specified in predicate "aa....aa" are not compatible. (A)  
(3) (NOS)

述語の両側に指定したオペランドのデータ型が、比較変換できるデータ型ではありません。

aa....aa：述語の種類

COMPARISON：比較述語

BETWEEN：BETWEEN 述語

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30402-E

集合関数の引数のデータ型が誤っています。  
The data type of the argument in the set function "aaaaa" is invalid. (A) (3) (NOS)

集合関数の引数のデータ型が誤っています。

aaaaa：集合関数の名称

COUNT：COUNT 集合関数

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30404-E

入力データが定義した列よりも長くなっています。(列名="aa....aa")

The input data is longer than the defined column. (column name = "aa....aa") (A) (3) (NOS)

入力データが定義した列よりも長くなっています。

aa....aa : エラーとなった列名

列名を表示できない場合は, \*\*\*を表示します。

(S)この SQL 文を無視します。またはこのトランザクションを無効にします。

(P)入力データを修正して, 再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB30405-E

数定数が範囲外です。

The numeric literal is outside the valid range. (A) (3) (NOS)

指定した数定数の値が, 指定できる範囲を超えています。指定できる範囲を次に示します。

整数定数 : -2,147,483,648 ~ +2,147,483,647

10 進数定数 : - (10<sup>30</sup>-1) ~ 10<sup>-29</sup>, 0, 10<sup>-29</sup> ~ (10<sup>30</sup>-1)

(S)この SQL 文を無視します。

(O)数定数の指定を修正して, 再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB30408-E

更新値, または挿入値のデータ型が, 変換できるデータ型ではありません。(列名="aa....aa")

The update value or insert value is not compatible with the data type of column "aa....aa". (A) (3) (NOS)

更新値または挿入値のデータ型が, 変換できるデータ型ではありません。

aa....aa : 更新列, または挿入列の列名

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して, 再度実行してください。

[対策] なし。

## KFSB30409-E

指定できない位置に行 ID型, または4, 037バイト以上の文字型データを指定しています。(位置 = aa....aa)

Data whose "ROWID", or character data that is 4,037 bytes or more, cannot be specified in the location aa....aa. (A) (3) (NOS)

指定できない位置に行 ID データ, または 4,037 バイト以上の文字データを指定しています。

aa....aa :

"COMPARISON" predicate

"SELECT" clause

"ORDER BY" clause

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して, 再度実行してください。

[対策] なし。

## KFSB30410-E

数定数 aa....aa が不正です。

The numeric literal aa....aa is invalid. (A) (3) (NOS)

数定数の指定に文法誤りがあります。

aa....aa : 誤りのある数定数

(S)この SQL 文を無視します。

(P)数定数を修正して, 再度実行してください。

[対策] なし。

## KFSB30416-E

データ型"aa....aa"の文字列表現が不正です。

The character expression for the data type "aa....aa" is invalid. (A) (3) (NOS)

文字列表現に誤りがあります。

aa....aa : データ型

(S)この SQL を無視します。



(P)文字列表現のデータを修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB30417-E

比較述語の両側、または比較述語以外の述語の左側のオペランドに埋め込み変数は指定できません。  
Embedded variables cannot be specified in both operands of a comparison predicate or in the left operand of other predicates. (A) (3) (NOS)

次に示す場所に埋め込み変数は指定できません。

- 比較述語の両側
- 比較述語以外の述語の左側

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB30418-E

選択式に埋め込み変数は指定できません。  
Embedded variables cannot be specified in a selection expression. (A) (3) (NOS)

選択式に埋め込み変数は指定できません。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB30449-E

1行 SELECT 文の検索結果が2行以上あります。  
There are 2 or more lines in the search results of a single-row SELECT statement. (A) (3) (NOS)

1行 SELECT 文の検索結果が2行以上あります。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)検索したい場合は、検索結果が1行以下になる問い合わせを指定するか、またはカーソルを使用して検索してください。

【対策】 なし。

## KFSB30501-E

カーソルが開かれていません。

The cursor is not opened. (A) (3) (NOS)

FETCH 文または CLOSE 文で指定したカーソルが開かれていません。

(S)この要求を無視します。

(P)カーソルを開いてから行を取り出して、カーソルを閉じるように UAP を修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB30502-E

カーソルは既に開かれています。

The cursor is already opened. (A) (3) (NOS)

すでに開いた状態のカーソルを開こうとしています。

(S)この要求を無視します。

(P)カーソルを閉じてから、再び開くように UAP を修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB30512-E

PREPARE (SQL の前処理) で前処理をした問合せ以外の SQL 文は実行できません。

An SQL statement other than a prepared query cannot be executed. (A) (3) (NOS)

PREPARE 文 (SQL の前処理) で前処理をした問い合わせ以外の SQL 文は実行できません。

(S)この要求を無視します。

(P)FETCH 文または CLOSE 文に対してこのメッセージが出力された場合、次に示すことを確認してください。確認後、UAP を修正して、再度実行してください。

- 該当するカーソルで OPEN 文が実行されているか
- 該当するカーソルで実行した SQL 文でエラーが発生していないか

【対策】 なし。

## KFSB30549-E

認可識別子またはスキーマ名に"aaaaaa"を指定しています。

The authorization identifier "aaaaaa" cannot be specified. (A) (3) (NOS)

認可識別子またはスキーマ名に MASTER を指定しています。誤った使用方法として、次のような使用方法が考えられます。

- スキーマ名が MASTER の表 (ディクショナリ表) を操作しようとしています。

aaaaaa : MASTER

(S)この SQL 文を無視します。またはこのトランザクションを無効にします。

(P)認可識別子またはスキーマ名を修正して、再度実行してください。

[対策] なし。

## KFSB30563-E

SQL 文の受付準備ができていないため、SQL 文が実行できませんでした。

An SQL statement could not be executed because the preparation for accepting SQL statements is incomplete. (A) (3) (NOS)

SQL 文の受け付け準備ができていないため、SQL が実行できませんでした。次に示すような原因が考えられます。

- 待機系の開始時に起動されたプロセス初期化トランザクションから SQL 文が発行された
- 待機系の終了時に起動されたプロセス終了トランザクションから SQL 文が発行された

(S)この SQL 文を無視します。

(P)次に示すどちらかの処置をしてください。

- プロセス初期化トランザクションおよびプロセス終了トランザクションからは SQL 文を発行しないように UAP を修正してください。
- このエラーが発生した以降は SQL 文を発行しないように UAP を修正してください。

[対策] なし。

## KFSB30564-E

認可識別子"aa....aa"に誤りがあります。

The authorization identifier "aa....aa" is invalid. (A) (3) (NOS)

指定した認可識別子に次に示す誤りがあります。

- 認可識別子に英数字以外の文字を使用している
- 認可識別子の長さが 30 バイトを超えている

なお、指定した認可識別子に非表示文字が含まれている場合、認可識別子が正しく表示されないことがあります。

aa....aa：誤りがある認可識別子

認可識別子を表示できない場合は、\*\*\*を表示します。

(S)この SQL 文を無視します。または、このトランザクションを無効にします。

(P)認可識別子を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30601-E

"aa....aa"."bb....bb"の cc....cc が重複しています。

"aa....aa"."bb....bb" of cc....cc is duplicated. (A) (3) (NOS)

次に示す SQL 文に指定した表識別子、またはインデクス識別子は、すでに定義されています。

- CREATE INDEX
- CREATE TABLE

aa....aa：スキーマ名

bb....bb：表識別子、またはインデクス識別子

cc....cc：

table：表

index：インデクス

(S)この SQL 文を無視します。

(P)表識別子、またはインデクス識別子を変更して、再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30602-E

表中の列数が、3,000を超えています。

The number of columns in the table exceeds 3,000. (A) (3) (NOS)

表の列数が、上限の 3000 を超えています。

(S)この SQL を無視します。

(P)SQL 文に誤りがある場合は SQL 文を修正して、再度実行してください。SQL 文に誤りがない場合は、表を設計し直して列数を 3000 以下にしてください。

作業表が作成される SQL を実行した場合に、KFSB30813-E メッセージ（エラー要因：The number of columns exceeds 3,000）が出力されたときは、作業表の構成列数が少なくなるように SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB30604-E

データ型"bb....bb"の aa....aa が不正です。

The aa....aa of the data type "bb....bb" is invalid. (A) (3) (NOS)

データ型の長さ、精度、位取り、小数秒精度のどれかに誤りがあります。

aa....aa :

length : 長さ

precision : 精度

scale : 位取り

fractional seconds precision : 少数秒精度

bb....bb : 指定に誤りのあるデータ型

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB30607-E

他ユーザの aaaaaa から定義系 SQL は実行できません。

The definition SQL cannot be used on other user's aaaaaa. (A) (3) (NOS)

実行ユーザが所有するスキーマ以外のスキーマは変更できません。

そのため、次のような定義はできません。

- 実行ユーザのスキーマと異なるスキーマ名を指定した表、およびインデクスの定義
- 実行ユーザのスキーマと異なるスキーマ名を指定した表へのインデクスの定義

なお、定義系 SQL 文中に指定したスキーマ名が、XDB と接続したときの認可識別子と異なっている場合にも出力されます。

aaaaaa :

schema : スキーマ名

(S)この SQL 文を無視します。

(P)正しいスキーマ名を指定して、再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30612-E

列名"aa....aa"が重複しています。

The column name "aa....aa" is duplicated. (A) (3) (NOS)

一つの表の中に、同じ列名の列は定義できません。

aa....aa : エラーとなった列名

列名を表示できない場合は、\*\*\*を表示します。

(S)このトランザクションを無効にします。

(P)列名が重複しないように SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30614-E

列"aa....aa"にインデックスを作成することができません。

An index cannot be created in column "aa....aa". (A) (3) (NOS)

次に示すデータ型の列は、インデックスを構成する列に指定できません。

- 精度が 20 けた以上の DECIMAL

aa....aa : エラーとなったデータ型の列名

列名を表示できない場合は、\*\*\*を表示します。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)この SQL 文を削除してください。

【対策】なし。

## KFSB30616-E

インデックスのキー長が最大長を超えています。

The index key length exceeded the maximum length. (A) (3) (NOS)

インデクスのキー長が、最大長を超えています。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)キー長を最大長以下に修正するか、またはインデクス用 DB エリアのページ長を大きくして、再度実行してください。

作業表のインデクスが作成される SQL 文を実行した場合に、KFSB30813-E メッセージ (エラー要因: the index key length is too long) が出力されたときは、次に示すどちらかの処置をして再度実行してください。

- 作業表のインデクス構成列のキー長が短くなるように SQL 文を修正してください。
- 作業表用 DB エリアのページ長を大きくしてください。

【対策】 なし。

## KFSB30617-E

インデクス中の列数が 16 を超えています。

The number of columns in the index exceeds 16. (A) (3) (NOS)

インデクスを構成する列の数が、上限の 16 を超えています。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)インデクスを構成する列の数を 16 以下に修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB30619-E

インデクス列名の中で"aa....aa"が重複しています。

Among the index columns names, index column name "aa....aa" is duplicated. (A) (3) (NOS)

インデクスを構成する列名が重複しています。

aa....aa : 重複している列名

列名を表示できない場合は、\*\*\*を表示します。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)インデクスを構成する列名が重複しないように SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB30652-E

指定したDBエリア"aa....aa"が存在しません。

The specified DB area "aa....aa" does not exist. (A) (3) (NOS)

次に示す SQL 文中に指定した DB エリアがありません。

- CREATE TABLE
- CREATE INDEX

aa....aa : DB エリア名

DB エリア名を表示できない場合は, \*\*\*を表示します。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)次に示すどちらかの処置をしたあとに再度実行してください。

- SQL 文中に指定している DB エリアを変更してください。
- XDB サービス定義の eexdbarea オペランドで, SQL 文中に指定している DB エリアを定義してください。

【対策】なし。

## KFSB30653-E

指定したDBエリア"aa....aa"は bbbbb 用ではありません。

The specified DB area "aa....aa" is not for bbbbb. (A) (3) (NOS)

bb....bb が data の場合, 指定した DB エリアは表用 DB エリアではありません。

bb....bb が index の場合, 指定した DB エリアはインデクス用 DB エリアではありません。

aa....aa : DB エリア名

DB エリア名を表示できない場合は, \*\*\*を表示します。

bbbbb :

data : 表用 DB エリア

index : インデクス用 DB エリア

(S)この SQL を無視します。

(P)用途に合った DB エリアを指定して再度実行してください。

【対策】なし。



## KFSB30657-E

ページ長 aa....aa が行長 bb....bb より小さい値です。

The page size of aa....aa is too small compared to the length of row bb....bb. (A) (3) (NOS)

行長がページ長を超えているため、表の定義ができません。

aa....aa : ページ長

bb....bb : 行長

ページ長、行長を表示できない場合は、\*\*\*を表示します。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)行長を短くするか、または表用 DB エリアのページ長を大きくして再度実行してください。

作業表が作成される SQL を実行した場合には、KFSB30813-E メッセージ (エラー要因 : the row length is too long) が出力されたときは、次に示すどちらかの処置をして再度実行してください。

- 作業表の行長が短くなるように SQL 文を修正してください。
- 作業表用 DB エリアのページ長を大きくしてください。

【対策】 なし。

## KFSB30661-E

同じ構成のインデクス"aa....aa"."bb....bb"がすでにあります。

Index "aa....aa"."bb....bb" with the same structure already exists. (A) (3) (NOS)

同じ構成のインデクスがすでにあります。

aa....aa : スキーマ名

スキーマ名を表示できない場合は、\*\*\*を表示します。

bb....bb : インデクス識別子

インデクス識別子を表示できない場合は、\*\*\*を表示します。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)この SQL 文を削除してください。

【対策】 なし。

## KFSB30673-E

bb....bb 文中で"aa....aa"が重複しています。

"aa....aa" in the bb....bb statement is duplicated. (A) (3) (NOS)

同じ表オプション、またはインデクスオプションを2回以上指定しています。

aa....aa : 2回以上指定した項目

bb....bb : 指定した SQL 文

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30692-E

表"aa....aa"."bb....bb"は使用中であるため実行できません。

Execution is not possible because table "aa....aa"."bb....bb" is in use. (A) (3) (NOS)

該当する表の表定義情報が表定義プールで使用中的であるため、この SQL 文は実行できません。

aa....aa : スキーマ名

スキーマ名を表示できない場合は、\*\*\*を表示します。

bb....bb : 表識別子

インデクス識別子を表示できない場合は、\*\*\*を表示します。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)トランザクション終了後、再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30705-E

cc....cc 文の"bb....bb"オプションの値 aa....aa が指定できる値の範囲外です。

The value aa....aa of option "bb....bb" in statement cc....cc is outside the specified range.

(A) (3) (NOS)

表オプションまたはインデクスオプションに、指定範囲外の値を指定しています。

aa....aa : 誤りがある指定値

指定値を表示できない場合は、\*\*\*を表示します。

bb....bb : 誤りがあるオプション名

PCTFREE : PCTFREE オプション

SEGMENT REUSE : SEGMENT REUSE オプション

cc....cc : 誤りがある SQL 文

CREATE TABLE : CREATE TABLE 文

## CREATE INDEX : CREATE INDEX 文

(S)この SQL 文を無視します。

(P)オプションの指定を変更して、再度実行してください。

[対策] なし。

### KFSB30706-E

表"aa....aa"."bb....bb"で定義できるインデックスの数が16を超えています。

The number of defined indexes in table "aa....aa"."bb....bb" exceeded 16. (A) (3) (NOS)

一つの表に指定できるインデックスの数が上限の16を超えました。

aa....aa : スキーマ名

スキーマ名を表示できない場合は、\*\*\*を表示します。

bb....bb : 表識別子

表識別子を表示できない場合は、\*\*\*を表示します。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)この SQL 文を実行する必要がある場合は、インデックスを削除してください。SQL 文を実行する必要がない場合は、この SQL 文を削除してください。

[対策] なし。

### KFSB30756-E

DB エリアのページ不足が発生しました。DB エリア="aa....aa"

DB area pages are insufficient. DB area = "aa....aa" (E+S+A) (3) (NOS)

DB エリアにこれ以上ページを作成できません。

aa....aa : DB area name

DB エリア名

(S)このトランザクションを無効にします。

(P)このメッセージが出力される前に、メモリ不足に関するメッセージが出力されている場合は、そのメッセージの内容に従って対策してください。

メモリ不足に関するメッセージが出力されていない場合は、DB エリアのページ数が上限 (16777215 ページ) に達しています。次に示すどちらかの方法で DB エリアのページ数を削減してください。

- DB エリアのページ長を大きくしてください。
- DB エリア内に複数の表を格納している場合は、複数の DB エリアに表を分けて格納してください。

[対策] なし。

## KFSB30802-E

列のデータ型が"bb....bb"である集合関数"aa....aa"の処理中にオーバーフローが発生しました。

An overflow occurred during processing of the set function "aa....aa", for which the column data type is "bb....bb". (A) (3) (NOS)

対象データの件数が 2147483647 を超えたため、集合関数の処理中にオーバーフローが発生しました。

aa....aa : 関数の種類

COUNT : COUNT 関数

bb....bb : オーバーフローが発生したデータ型

INTEGER : INTEGER

(S)この SQL 文を無視します。またはこのトランザクションを無効にします。

(P)演算対象のデータ件数を少なくするなど、オーバーフローが発生する原因を取り除き、再度実行してください。

[対策] なし。

## KFSB30803-E

ユニークインデックスのインデックスキー値が重複しています。インデックス I D = aa....aa

Key values on a unique index are duplicated. index ID = aa....aa (E+S+A) (3) (NOS)

重複した UNIQUE 指定の列値は追加できません。

aa....aa :

INDEX ID : インデックス ID

(S)このトランザクションを無効にします。

(P)重複する列値を修正したあと、再度トランザクションを実行してください。

[対策] なし。

## KFSB30811-E

表、またはインデックスの数が定義可能な最大数を超えました。

The number of tables or indexes exceeded the definable maximum. (A) (3) (NOS)

システムで定義できる表、またはインデックスの最大数を超えました。

(S)このトランザクションを無効にします。

(P)不要な表、およびインデクスを削除したあと、再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB30812-E

DB エリア"cc....cc"中の aa....aa の数が最大値 bbb に達しているため、aa....aa は、これ以上定義できません。

No more aa....aa can be defined because the number of aa....aa in the DB area "cc....cc" has reached the maximum bbb. (A) (3) (NOS)

DB エリア中の表またはインデクスの数が最大値に達しているため、これ以上表またはインデクスを定義できません。

**aa....aa** : object category  
tables または indexes

**bbb** : maximum number  
定義または格納できる最大数

**cc....cc** : DB area name  
DB エリア名

(S)このトランザクションを無効にします。

(P)次に示すどちらかの処置をしてください。

cc....cc が表用 DB エリアの場合

不要な表、またはインデクスを削除したあと、再度実行してください。

cc....cc が作業表用 DB エリアの場合

SQL 文を見直して、同時に作成される作業表の総数を削減してください。

【対策】なし。

## KFSB30813-E

aa....aa のため、SQL を実行できません。

SQL cannot be executed because aa....aa. (A) (3) (NOS)

作業表、およびインデクスが定義できないため、SQL 文は実行できません。

**aa....aa** : エラーとなった要因

the row length is too long : 行長がページ長を超えています。

the index key length is too long : インデクスのキー長が最大長を超えています。

the number of columns exceeds 3000 : 列数が 3000 を超えています。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)

aa....aa が the row length is too long の場合

KFSB30657-E メッセージの内容に従った処置をしてください。

aa....aa が the index key length is too long の場合

KFSB30616-E メッセージの内容に従った処置をしてください。

aa....aa が the number of columns exceeds 3000 の場合

KFSB30602-E メッセージの内容に従った処置をしてください。

[対策] なし。

### KFSB30821-E

SQL文の長さが300,000バイトを超えています。または長さが不正です。

The SQL statement length exceeds 300,000 bytes or is invalid. (A) (3) (NOS)

SQL文の長さが300000バイトを超えています。または長さが不正です。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)SQL文の長さを修正して、再度実行してください。

[対策] なし。

### KFSB30913-E

排他処理中にエラーが発生しました。

An error occurred during lock processing. (A) (3) (NOS)

排他処理中にエラーが発生しました。

(S)この SQL 文を無視します。またはこのトランザクションを無効にします。

(P)この SQL 文を再度実行してください。

[対策] なし。

### KFSB30914-E

排他の確保中にタイムアウトが発生しました。

Lock processing timed out. (A) (3) (NOS)

排他の確保中にタイムアウトが発生しました。

(S)この SQL 文を無視します。またはこのトランザクションを無効にします。

(P)この SQL 文を再度実行してください。

[対策] なし。

## KFSB30930-E

TP1/EE/XDB を実行するためのメモリが不足しています。メモリ種別 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb

Memory to execute TP1/EE/XDB is insufficient. memory type = aa....aa, request size = bb....bb (E+P+L+A) (2) (NOS)

XDB を実行するために必要なメモリの取得に失敗しました。

aa....aa : 不足しているメモリの種類

SEGMENT : TP1/EE プロセスで確保するメモリが不足しています。

HEAP : ヒープ領域が不足しています。

bb....bb : 取得しようとしたメモリ領域のサイズ (10 けた)

(S)この SQL 文を無視します。またはこのトランザクションを無効にします。

(P)次に示す方法で、使用できるメモリに余裕を持たせてください。その後、TP1/EE プロセスを再起動するか、またはコマンドプロセスを再度実行してください。

1. aa....aa が SEGMENT の場合、XDB 用ワーク領域を大きくしたあと、TP1/EE を再度実行してください。XDB 用ワーク領域については、マニュアル「TP1/EE/Extended Transaction Controller 使用の手引」の「ワーク領域の管理」を参照してください。
2. aa....aa が HEAP の場合、プロセスに割り当てられるヒープ領域のサイズを大きくしたあと、TP1/EE またはコマンドを再度実行してください。
3. 不要なプロセスがある場合は、そのプロセスを終了してください。

[対策] なし。

## KFSB30942-E

トランザクション中断状態です。

A transaction was interrupted. (A) (3) (NOS)

トランザクションの状態が中断状態です。

(S)この SQL 文を無視します。またはこのトランザクションを無効にします。

(P)TP1/EE のライブラリ関数を発行してトランザクションをロールバックするか、またはトランザクションを再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB30959-E

インポート用の一時ファイルに対する操作 aa....aa が失敗しました。ファイル名 = bb....bb

An import temporary file operation aa....aa has failed. file name = bb....bb (E+S+A) (3)  
(NOS)

インポート用の一時ファイルに対する操作が失敗しました。

aa....aa :

open : ファイルのオープン

close : ファイルのクローズ

write : ファイルへの書き込み

read : ファイルからの読み込み

unlink : ファイルの削除

bb....bb : ファイル名

(S)処理を終了します。

(P)エラーの原因を次の方法で調査し、エラーの原因を取り除いたあと、再度実行してください。

このメッセージの前に KFSB40107-E メッセージが出力されている場合

[KFSB40107-E](#) メッセージのエラーコードを参照し、原因を調査してください。

このメッセージの前に KFSB40107-E メッセージが出力されていない場合

インポート用の一時ファイルが誤って更新されたと考えられます。その原因を調査してください。

【対策】 なし。

## KFSB31310-E

開いているカーソルでは、すでにエラーが発生しています。

An error has already occurred in the opened cursor. (A) (3) (NOS)

開いているカーソルですでにエラーが発生しています。カーソルを閉じてください。

(S)この SQL 文を無視します。またはこのトランザクションを無効にします。

(P)カーソルが開いている問い合わせに対して、今回以前に発生したエラーの原因を取り除いてから、再度実行してください。

【対策】 なし。



## KFSB31405-E

"bb....bb"句に指定した aa....aa が不正です。

The aa....aa in the "bb....bb" clause is invalid. (A) (3) (NOS)

指定した値、またはデータ型が不正です。

**aa....aa** : エラーの要因

data type : データ型が INTEGER ではありません。

value : 指定値がリミット行数、もしくは行数の上限値に指定できる範囲の値ではありません。または指定値がナル値です。

**bb....bb** : エラーが発生した指定

LIMIT : LIMIT

(S)この SQL 文を無視します。またはこのトランザクションを無効にします。

(P)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB31713-E

行の更新の衝突が発生しました。表 I D = aa....aa, 行 I D = bb....bb

There was a conflict between attempts to update rows. table ID = aa....aa, ROWID = bb....bb (A) (3) (NOS)

ほかのトランザクションが更新または削除している行を、更新または削除しようとしています。

**aa....aa** : 表 ID (10 進数)

**bb....bb** : 行 ID (16 進数)

(S)このトランザクションを無効にします。

(P)実行中のトランザクションが終了したあとで、再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB31719-E

コマンド実行中または、A P によるトランザクション実行中のため、このトランザクションは実行できません。

A transaction cannot be executed because the command is being executed or the transaction by UAP is being executed. (A) (3) (NOS)

コマンド実行中、または UAP によるトランザクション実行中のため、このトランザクションは実行できません。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)実行中のコマンドまたはトランザクションが終了したあとで、再度実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB31824-E

一つのプログラム中で実行している SQL の数が 4095 を超えています。

The number of SQL statements in a program exceeds 4095. (A) (3) (NOS)

一つの UAP 中で実行している SQL 文の数が 4095 を超えています。

(S)この SQL 文を無視します。

(P)同時にオープンしているカーソルの数を 4095 より少なくして、再度実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB32000-I

SQL 文の実行が完了しました。

SQL statement execution has finished. (A) (6) (NOS)

SQL 文の実行が完了しました。

(S)処理を続行します。

(P)なし。

【対策】なし。

#### KFSB32100-I

条件に合う行がありません。または行の取り出しが終了しました。

There are no rows that match the search condition, or row fetching has finished. (A) (3) (NOS)

条件に合う行がありません。または行の取り出しを終了しました。

(S)処理を続行します。

(P)なし。

【対策】なし。

## KFSB33000-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bb....bb (E)  
(NOS)

コマンドの形式が不正です。

aa....aa : コマンド名称

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を終了します。

(O)なし。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
01	プリプロセスするファイル名が指定されていません。	ファイル名を指定して、プリプロセスを再度実行してください。
02	プリプロセスするファイル名が多過ぎます。	ファイル数を減らして、プリプロセスを再度実行してください。
03	指定したファイル名が誤っています。	ファイル名を見直して、プリプロセスを再度実行してください。

## KFSB33001-E

コマンドのオプションが不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

The command options are invalid. command name = aa....aa, reason code = bb....bb (E)  
(NOS)

コマンドのオプションが不正です。

aa....aa : コマンド名称

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を終了します。

(O)なし。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
01	フラグ引数の指定値に誤りがあります。	コマンドのオプションの誤りを修正して、プリプロセスを再度実行してください。
02	指定できないオプションフラグです。	

## KFSB33002-E

パス名が長過ぎます。

The pathname is too long. (E) (NOS)

登録集原文を検索するために指定したパス名が長過ぎます。

(S)処理を終了します。

(O)なし。

**【対策】** 環境変数 EEXDBCBLIB に指定するパス名を短くして、プリプロセスを再度実行してください。

## KFSB33050-E

メモリ不足が発生しました。サイズ = aa....aa

Insufficient memory occurred. size = aa....aa (E) (NOS)

メモリ不足が発生したため作業領域を確保できませんでした。

aa....aa : 確保できなかった領域の領域長 (単位: バイト)

(S)処理を終了します。

(O)なし。

**【対策】** メモリを増設してください。または、ほかのプログラムを終了して、作業領域を確保してからプリプロセスを再度実行してください。

## KFSB33100-E

文字列"aa....aa"に誤りがあります。

The character string "aa....aa" has an error. (E) (NOS)

SQL 文中の文字列に誤りがあります。

aa....aa : 誤りのある文字列

(S)この SQL 文を無視します。以降、このソースプログラムのプリプロセスを中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

**【対策】** 次に示す誤りが考えられます。誤りを修正してプリプロセスを再度実行してください。

- 予約語のつづりに誤りがあります。
- SQL 文の後ろに余分な文字列があります。

#### KFSB33101-E

この SQL 文はサポートしていません。

This SQL statement is not supported. (E) (NOS)

この SQL 文はサポートしていません。

(S)この SQL 文を無視します。以降、このソースプログラムのプリプロセスを中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

**【対策】** SQL 文を確認し、サポートされている SQL 文を指定してください。

#### KFSB33102-E

変数の定義部内の文字列"aa....aa"に誤りがあります。

The character string "aa....aa" in the definition of a variable has an error. (E) (NOS)

変数の定義部内の文字列に誤りがあります。

aa....aa : 誤りのある文字列

(S)この誤りを無視し、プリプロセスを続行します。

(O)なし。

**【対策】** 変数の定義部の誤りを修正し、プリプロセスを再度実行してください。

#### KFSB33104-E

このデータ属性"aa....aa"は変数として使用できません。

The data attribute "aa....aa" cannot be used as a variable. (E) (NOS)

このデータ属性は変数として使用できないため、指定できません。

aa....aa : 埋め込み変数

(S)この変数を無視し、プリプロセスを続行します。

(O)なし。

**【対策】** このデータ属性を修正し、プリプロセスを再度実行してください。

### KFSB33105-E

埋め込み変数"aa....aa"のデータ長に誤りがあります。

The data length for the embedded variable "aa....aa" is invalid. (E) (NOS)

埋め込み変数のデータ長に誤りがあります。

**aa....aa** : 埋め込み変数

(S)ポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

**【対策】** 埋め込み変数のデータ長の誤りを修正して、プリプロセスを再度実行してください。

### KFSB33108-E

名前"aa....aa"に誤りがあります。

The name "aa....aa" has an error. (E) (NOS)

SQL 文中に誤った名前があります。

**aa....aa** : 誤った名前

(S)この SQL 文を無視します。以降、このソースプログラムのプリプロセスを中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

**【対策】** SQL 文を修正し、プリプロセスを再度実行してください。

### KFSB33112-E

文字列"aa....aa"は、文字列"bb....bb"の後に指定できません。

The character string "aa....aa" cannot be specified after the character string "bb....bb". (E) (NOS)

SQL 文の構文上、指定できない位置に文字列を指定しています。または、予約語のつづりに誤りがあります。

**aa....aa** : SQL の文法上、指定できない位置に指定した文字列

**bb....bb** : SQL の文字列

(S)この SQL 文を無視します。以降、このソースプログラムのプリプロセスを中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

**【対策】** 誤りを修正して、プリプロセスを再度実行してください。

#### KFSB33114-E

SQL文が完成していません。

The SQL statement is incomplete. (E) (NOS)

SQL文に次に示す誤りがあるため、SQL文が完成していません。

1. SQL文に必要な構成要素が指定されていません。
2. SQL終了子が指定されていません。

(S)このSQL文を無視します。以降、このソースプログラムのプリプロセスを中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

**【対策】** SQL文を修正し、プリプロセスを再度実行してください。

#### KFSB33118-E

文字定数を閉じる二重引用符 (")、又はアポストロフィ (')がありません。

A closing single or double quotation mark is missing. (E) (NOS)

文字定数を囲む二重引用符 (")、またはアポストロフィ (')がありません。

(S)このSQL文を無視します。以降、このソースプログラムのプリプロセスを中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

**【対策】** 文字定数を二重引用符またはアポストロフィで囲んで、プリプロセスを再度実行してください。

#### KFSB33122-E

不正な埋め込み変数名"aa....aa"が使用されました。

The embedded variable "aa....aa" was used incorrectly. (E) (NOS)

不正な埋め込み変数名が使用されました。

**aa....aa** : 不正に使用された埋め込み変数

(S)このSQL文を無視します。以降、このソースプログラムのプリプロセスを中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

**【対策】** 誤りがないように埋め込み変数を修正し、プリプロセスを再度実行してください。

### KFSB33131-E

T Y P E D E F 句を指定したデータ記述項のレベル番号が 1 ではありません。

The level of a data description entry specified by a TYPEDEF clause is not 1. (E) (NOS)

TYPEDEF 句を指定したデータ記述項のレベル番号が 1 ではありません。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** TYPEDEF 句を指定したデータ記述項のレベル番号を 1 にしてください。

### KFSB33132-E

T Y P E 句の指定があるデータ記述項の後に、従属するデータ記述項又はレベル 8 8 記述項が続いています。

A subordinate element or level 88 entry cannot be specified after a data description entry specified by a TYPE clause. (E) (NOS)

TYPE 句の指定があるデータ記述項の後ろに、従属するデータ記述項またはレベル 88 記述項が続いています。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** TYPE 句の指定があるデータ記述項の後ろの、従属するデータ記述項またはレベル 88 記述項を削除してください。

### KFSB33133-E

"aa....aa"はこの記述項が従属している集団項目であるため、"bb....bb"句に指定できません。

"aa....aa" cannot be specified in a "bb....bb" clause because it is a data description entry subordinated to a group item. (E) (NOS)

TYPE 句の型名、または SAME AS 句のデータ名に、この記述項が従属している集団項目を指定していません。

aa....aa : 型名、または SAME AS 句中のデータ名

bb....bb : TYPE, または SAME AS



(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** 型名, または SAME AS 句中のデータ名は, この記述項が従属している集団項目を指定しないようにデータ記述項の宣言を見直してください。

### KFSB33134-E

レベル番号 77 に指定した型名, 又はデータ名 "aa....aa" が基本項目ではありません。

The type or data name "aa....aa" specified as level 77 is not an elementary item. (E) (NOS)

レベル番号 77 に指定した型名, またはデータ名が基本項目ではありません。

aa....aa : 型名, または SAME AS 句中のデータ名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** 記述項の左辺がレベル 77 項目の場合, 型名, または SAME AS 句中のデータ名は基本項目にしてください。

### KFSB33135-E

型名 "aa....aa" は無効です。

The type name "aa....aa" is invalid. (E) (NOS)

型名が宣言されていないか, または重複して宣言されています。

aa....aa : 型名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** TYPE 句より前に, 一度だけ型名を宣言してください。

### KFSB33136-E

SAME AS 句の指定のあるデータ記述項の後に, 従属するデータ記述項又はレベル 88 記述項が続いています。

A subordinate element or level 88 entry cannot be specified after a data description entry specified by a SAME AS clause. (E) (NOS)

SAME AS 句の指定があるデータ記述項の後ろに, 従属するデータ記述項またはレベル 88 記述項が続いています。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** SAME AS 句を指定したデータ記述項の後ろの、従属するデータ記述項またはレベル 88 記述項を削除してください。

### KFSB33138-E

SAME AS 句中で指定したデータ名"aa....aa"の記述にOCCURS句があります。

The data name "aa....aa" in a SAME AS clause contain an OCCURS clause. (E) (NOS)

SAME AS 句中で指定したデータ名の記述に OCCURS 句があります。

aa....aa : データ名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** SAME AS 句中で指定したデータ名の記述に、OCCURS 句を指定しないようにデータ記述項の宣言を見直してください。

### KFSB33139-E

SAME AS 句中のデータ名"aa....aa"が、基本項目又はレベル 1 集団項目ではありません。

The data name "aa....aa" in a SAME AS clause is not an elementary or level 1 group item.  
(E) (NOS)

SAME AS 句中のデータ名が、基本項目またはレベル 1 集団項目ではありません。

aa....aa : データ名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** SAME AS 句中のデータ名は、基本項目またはレベル 1 集団項目にしてください。

### KFSB33141-E

SAME AS 句中のデータ名"aa....aa"は無効です。

The data name "aa....aa" in a SAME AS clause is invalid. (E) (NOS)

SAME AS 句中のデータ名が宣言されていないか、または一意ではありません。

aa....aa : データ名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 SAME AS 句中のデータ名が参照するデータ項目を、この指定の前に記述してください。または、一意になるように SAME AS 句中のデータ名を修飾してください。

## KFSB33142-E

名前"aa....aa"の文字数が、指定できる文字数の最大値 bb を超えています。

The number of characters of name "aa....aa" exceeds maximum values bb of the number of characters that can be specified. (E) (NOS)

名前の文字数が、指定できる文字数の最大値を超えています。

aa....aa：指定できる文字数の最大値を超えている名前

bb：指定できる文字数の最大値

(S)この SQL 文を無視します。以降、このソースプログラムのプリプロセスを中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

【対策】 名前の文字数を最大値以下に修正し、プリプロセスを再度実行してください。

## KFSB33144-E

文字列定数の長さが aa....aa を超えています。

The length of the character string literal has exceeded aa....aa. (E) (NOS)

最大値を超えた長さの文字列定数が SQL 文中にあります。

aa....aa：指定できる長さの最大長

(S)この SQL 文を無視します。以降、このソースプログラムのプリプロセスを中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

【対策】 文字列定数の長さを最大値以下に修正し、プリプロセスを再度実行してください。

## KFSB33146-E

SQL 文の長さが 300,000 バイトを超えています。

The length of an SQL statement exceeds 300,000 bytes. (E) (NOS)

SQL 文の長さが 300000 バイトを超えています。

(S)この SQL 文を無視します。以降、このソースプログラムのポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

【対策】 SQL 文の 1 文の長さを 300000 バイト以下に修正し、プリプロセスを再度実行してください。

#### KFSB33150-E

一つのプログラム中のカーソルの数が 1 0 2 3 を超えています。

The number of cursors in a program exceeds 1023. (E) (NOS)

一つの UAP 中のカーソル数が 1023 を超えています。

(S)この SQL 文を無視します。以降、このソースプログラムのポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

【対策】 カーソルの数を 1023 以下に修正し、プリプロセスを再度実行してください。

#### KFSB33152-E

“aa....aa”の数が bb....bb を超えています。

The number of "aa....aa" exceeds bb....bb. (E) (NOS)

SQL 文の 1 文中の埋め込み変数、表識別子、または列名の数が、指定できる最大数を超えています。

aa....aa : 変数、表識別子、または列名の種別

bb....bb : 指定できる最大数

(S)この SQL 文を無視します。以降、このソースプログラムのポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

【対策】 aa....aa の数を最大数以下に修正し、プリプロセスを再度実行してください。

#### KFSB33160-E

変数"aa....aa"は既に定義されています。

The variable "aa....aa" is already defined. (E) (NOS)

指定した埋め込み変数または標識変数は、すでに定義されています。

aa....aa : 埋め込み変数、または標識変数

(S)このエラーを無視してポストソースの生成を続行します。

(O)なし。

【対策】別の埋め込み変数または標識変数を指定し、プリプロセスを再度実行してください。

### KFSB33162-E

カーソル"aa....aa"は既に定義されています。

The cursor "aa....aa" is already defined. (E) (NOS)

指定したカーソルはすでに定義されています。

aa....aa：カーソル名

(S)このエラーを無視します。以降、このソースプログラムのポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

【対策】別のカーソル名を指定し、プリプロセスを再度実行してください。

### KFSB33170-E

埋め込み変数、又は標識変数"aa....aa"に、コロン（:）が付いていません。

The colon is not attached to embedded or indicator variable "aa....aa". (E) (NOS)

UAP 中の埋め込み変数または標識変数に、コロン（:）が付いていません。

aa....aa：埋め込み変数、または標識変数

(S)このエラーを無視して処理を続行します。以降、このソースプログラムのポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

【対策】埋め込み変数または標識変数にコロンを付け、プリプロセスを再度実行してください。

### KFSB33201-E

カーソル名"aa....aa"は、カーソル宣言がされていません。

As for the cursor name "aa....aa", the cursor is not declared. (E) (NOS)

指定したカーソル名は、カーソル宣言がされていません。

aa....aa：カーソル名

(S)この SQL 文を無視します。このソースプログラムのポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

【対策】 カーソル名"aa....aa"をカーソル宣言してください。

#### KFSB33202-E

埋め込み変数"aa....aa"は定義されていません。

The embedded variable "aa....aa" is not defined. (E) (NOS)

指定した埋め込み変数は定義されていません。

aa....aa : 埋め込み変数

(S)この SQL 文を無視します。このソースプログラムのポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

【対策】 埋め込み変数"aa....aa"を定義してください。

#### KFSB33203-E

埋め込み変数"aa....aa"の定義属性に誤りがあります。

The definition attribute of an embedded variable "aa....aa" has an error. (E) (NOS)

指定した埋め込み変数の定義属性に誤りがあります。

aa....aa : 埋め込み変数

(S)この SQL 文を無視します。このソースプログラムのポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

【対策】 埋め込み変数の定義属性を修正してください。

#### KFSB33204-E

標識変数"aa....aa"は定義されていません。

The indicator variable "aa....aa" is not defined. (E) (NOS)

指定した標識変数は定義されていません。

aa....aa : 標識変数

(S)この SQL 文を無視します。このソースプログラムのポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

【対策】 標識変数"aa....aa"を定義してください。

### KFSB33205-E

標識変数"aa....aa"の定義属性に誤りがあります。

The definition attribute of an indicator variable "aa....aa" has an error. (E) (NOS)

指定した標識変数の定義属性に誤りがあります。

aa....aa : 標識変数

(S)この SQL 文を無視します。このソースプログラムのポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

【対策】 標識変数の定義属性を修正してください。

### KFSB33206-E

変数"aa....aa"を特定できません。

The variable "aa....aa" could not be identified. (E) (NOS)

埋め込み変数または標識変数の記述が誤っています。このため、変数を特定できません。

aa....aa : 埋め込み変数または標識変数

(S)ポストソースの生成を中止して、文法チェックだけをします。

(O)なし。

【対策】 埋め込み変数または標識変数を一意に特定できるようにソースプログラムを修正し、プリプロセスを再度実行してください。

### KFSB33207-E

埋め込み変数"aa....aa"の定義長が bb....bb バイトを超えました。

The embedded variable "aa....aa" exceeds bb....bb bytes. (E) (NOS)

埋め込み変数の定義長が最大長を超えました。

aa....aa : 埋め込み変数

bb....bb : 定義長

(S)処理を続行します。ポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

**【対策】** 埋め込み変数の定義長を bb....bb バイト以下にしてください。

## KFSB33212-E

SQL文の数が4095を超えています。

The number of SQL statements exceeds 4095. (E) (NOS)

一つのUAP中で使用しているSQL文の数が4095を超えています。

(S)処理を終了します。

(O)なし。

**【対策】** SQL文を4095以下に減らして、プリプロセスを再度実行してください。

## KFSB33214-E

DECLARE CURSORで入力した埋め込み変数の個数と、USING句の埋め込み変数の個数が一致していません。

The number of embedded variables in a USING clause and DECLARE CURSOR statement must be the same. (E) (NOS)

DECLARE CURSORで入力した埋め込み変数の個数と、USING句の埋め込み変数の個数が一致していません。

(S)このSQL文を無視します。このソースプログラムのポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

**【対策】** DECLARE CURSORで入力した埋め込み変数の個数と、USING句の埋め込み変数の個数を一致させてください。

## KFSB33225-E

埋め込み変数"aa....aa"のデータ長が、32,000バイトを超えました。

The data length of the embedded variable "aa....aa" exceeded 32,000 bytes. (E) (NOS)

ROW指定に対応する埋め込み変数"aa....aa"のデータ長が、32000バイトを超えました。

aa....aa : 埋め込み変数名



(S)処理を続行します。ポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

**【対策】** 埋め込み変数のデータ長を 32000 バイト以下に修正し、プリプロセスを再度実行してください。

### KFSB33233-E

この SQL 文で指定した表は、`DECLARE CURSOR` で指定した表と異なります。  
The table specified in this SQL statement and the `DECLARE CURSOR` statement are different. (E) (NOS)

この SQL 文で指定した表は、`DECLARE CURSOR` で指定した表と異なります。

(S)この SQL 文を無視します。このソースプログラムのポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

**【対策】** SQL 文を修正し、プリプロセスを再度実行してください。

### KFSB33240-E

`FETCH` 文に異なる埋め込み変数、または標識変数が指定されています。  
A different embedded or indicator variable is specified for a `FETCH` statement. (E) (NOS)

同一カーソルの `FETCH` 文に、異なる埋め込み変数または標識変数が指定されています。

(S)この SQL 文を無視します。このソースプログラムのポストソースの生成を中止し、文法チェックだけを実行します。

(O)なし。

**【対策】** 同一カーソルの `FETCH` 文に指定する埋め込み変数、または標識変数を一致させて、プリプロセスを再度実行してください。

### KFSB33511-E

SQL プリプロセッサで内部矛盾が発生しました。情報 1 = aa....aa, 情報 2 = bb....bb  
An internal contradiction occurred in SQL preprocessor. information 1 = aa....aa, information 2 = bb....bb (E) (NOS)

コマンドの処理で予期しない障害が発生したため、処理を中止しました。

**aa....aa** : エラーを検出したソースファイルの名称

**bb....bb** : エラーを検出した位置 (行番号)

(S)処理を終了します。

(O)このメッセージの内容を記録し、OpenTP1 管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、そのコアファイルを保存してください。

**【対策】** SQL プリプロセサを複数回実行してもこのメッセージが出力される場合は、保守員に連絡してください。

#### KFSB33580-E

```
UAP ソースファイル aa....aa がありません。  
The UAP source file aa....aa does not exist.    (E) (NOS)
```

指定した UAP ソースファイルがありません。

aa....aa : ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)なし。

**【対策】** ファイル名の誤りを修正したあと、プリプロセスを再度実行してください。

#### KFSB33584-E

```
ファイル aa....aa の読み込み時にエラーが発生しました。エラー = bb  
Read error occurred on file aa....aa. errno = bb    (E) (NOS)
```

指定した UAP ソースファイルの読み込み時にエラーが発生しました。

aa....aa : ファイル名

bb : エラーコード

(S)処理を終了します。

(O)なし。

**【対策】** エラーコード (errno : エラーの状態を表す外部整数変数) を調査し、errno.h およびユーザが使用する OS のマニュアルを参照して、エラーの原因を取り除き、プリプロセスを再度実行してください。

#### KFSB33586-E

```
ファイル名 aa....aa が誤っています。  
The file name aa....aa is invalid.    (E) (NOS)
```

指定したファイル名が誤っています。

aa....aa : ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)なし。

**【対策】** ファイル名の誤りを修正したあと、プリプロセスを再度実行してください。

#### KFSB33600-E

```
END DECLARE SECTIONがありません。  
END DECLARE SECTION is missing. (E) (NOS)
```

END DECLARE SECTION の前で、UAP の終わりを検出しました。

(S)処理を終了します。

(O)なし。

**【対策】** END DECLARE SECTION を追加して、プリプロセスを再度実行してください。

#### KFSB33601-E

```
BEGIN DECLARE SECTIONがありません。  
BEGIN DECLARE SECTION is missing. (E) (NOS)
```

BEGIN DECLARE SECTION がありません。

(S)処理を終了します。

(O)なし。

**【対策】** BEGIN DECLARE SECTION を追加して、プリプロセスを再度実行してください。

#### KFSB33602-E

```
EXEC SQLの後にSQL文がありません。  
There is no SQL statement after EXEC SQL. (E) (NOS)
```

EXEC SQL のあとに SQL 文がありません。

(S)この EXEC SQL を無視して、処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** SQL 文を追加して、プリプロセスを再度実行してください。

## KFSB33603-E

WORKING-STORAGE SECTIONがありません。  
WORKING-STORAGE SECTION is missing. (E) (NOS)

WORKING-STORAGE SECTION がありません。または、実行時に使用する作業領域を生成できません。

(S)処理を終了します。

(O)なし。

**【対策】** WORKING-STORAGE SECTION を追加して、プリプロセスを再度実行してください。

## KFSB33610-E

変数の定義部が完成していません。  
A variable definition is incomplete. (E) (NOS)

変数の定義部が完成していません。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** 変数の定義部を修正して、プリプロセスを再度実行してください。

## KFSB33635-E

ポストソースは生成されませんでした。  
The post source was not generated. (E) (NOS)

プリプロセスでエラーがあったため、ポストソースが生成されませんでした。

(S)処理を終了します。

(O)なし。

**【対策】** このメッセージより前に出力されているメッセージを参照し、エラーの原因を取り除いたあと、プリプロセスを再度実行してください。

## KFSB33706-E

ファイル aa....aa のオープン時にエラーが発生しました。エラー = bb  
Open error occurred on file aa....aa. errno = bb (E) (NOS)

ファイルのオープン時にエラーが発生しました。

aa....aa : エラーが発生したファイル名

bb : エラー番号

(S)処理を続行します。ただし、該当するファイルへの出力処理はしません。

(O)なし。

**【対策】** エラーコード (errno : エラーの状態を表す外部整数変数) を調査し、errno.h およびユーザが使用する OS のマニュアルを参照して、エラーの原因を取り除き、プリプロセスを再度実行してください。

## KFSB33707-E

```
ファイル aa....aa への書き込みエラーが発生しました。エラー = bb  
Write error occurred on file aa....aa. errno = bb    (E) (NOS)
```

ファイルへの書き込みエラーが発生しました。

aa....aa : エラーが発生したファイル名

bb : エラー番号

(S)処理を終了します。

(O)なし。

**【対策】** エラーコード (errno : エラーの状態を表す外部整数変数) を調査し、errno.h およびユーザが使用する OS のマニュアルを参照して、エラーの原因を取り除き、プリプロセスを再度実行してください。

## KFSB33708-E

```
UAP の 1 行の長さが 32,000 バイトを超えています。  
A line in a UAP exceeds 32,000 bytes.    (E) (NOS)
```

UAP の 1 行の長さが 32000 バイトを超えています。

(S)処理を終了します。

(O)なし。

**【対策】** エラーが発生した行を複数行に分割して、1 行の長さを制限内にして、プリプロセスを再度実行してください。

## KFSB33714-E

```
ファイル aa....aa の削除時にエラーが発生しました。エラー = bb  
Delete error occurred on file aa....aa. errno = bb    (E) (NOS)
```

ファイルの削除時にエラーが発生しました。

aa....aa : エラーが発生したファイル名

bb : エラー番号

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** 出力したポストソースに影響はないため、中間ファイル出力先から中間ファイルを削除してください。

## KFSB33808-I

```
使用方法 : eexdbcb1 [-o 出力するポストソースのファイル名称] [-Xc] 入力ファイル名称  
Usage:eexdbcb1 [-o <post-source-file-name>] [-Xc] <user-program-file-name>      (E)  
(NOS)
```

eexdbcb1 コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)処理を終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再度実行してください。

**【対策】** なし。

# 3

## KFSB40000～KFSB49999

この章では、基本レイヤ（部品）のエラーメッセージ（KFSB40000～KFSB49999）とその意味、および対策について説明します。

## 3.1 KFSB40000~KFSB49999

### KFSB40107-E

```
yyyy/mm/dd hh:mm:ss (aa....aa) (bb....bb) KFSB40107-E "cc....cc" failed. errno=ddd
ee....ee (E) (3) (NOS)
```

システムコールがエラーリターンしました。

yyyy/mm/dd : エラーリターンした年月日

hh:mm:ss : エラーリターンした時分秒

aa....aa : 該当するプロセス ID (10 進形式)

bb....bb : 該当するスレッド ID (10 進形式)

cc....cc : エラーリターンしたシステムコール名 (31 けた以内の半角英数字)

ddd : エラーコード (3 けた以内の 10 進形式)

エラーコードの出力内容とシステムコール名との対応を次に示します。

出力内容	システムコール名	
	AIX の場合	Linux の場合
0*	<ul style="list-style-type: none"> <li>• catclose</li> <li>• catopen</li> <li>• gettimeofday</li> <li>• getenv</li> <li>• openlog_r</li> <li>• putenv</li> <li>• sigemptyset</li> <li>• time_base_to_time</li> <li>• localtime_r</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• catclose</li> <li>• catopen</li> <li>• dlopen</li> <li>• dlsym</li> <li>• getenv</li> <li>• openlog_r</li> <li>• time_base_to_time</li> <li>• localtime_r</li> </ul>
システムコールリターン値	<ul style="list-style-type: none"> <li>• pthread_attr_destroy</li> <li>• pthread_attr_init</li> <li>• pthread_attr_setscope</li> <li>• pthread_attr_setstackaddr</li> <li>• pthread_attr_setstacksize</li> <li>• pthread_cancel</li> <li>• pthread_cond_destroy</li> <li>• pthread_cond_init</li> <li>• pthread_cond_signal</li> <li>• pthread_cond_timedwait</li> <li>• pthread_cond_wait</li> <li>• pthread_create</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• dlclose</li> <li>• pthread_attr_destroy</li> <li>• pthread_attr_init</li> <li>• pthread_attr_setscope</li> <li>• pthread_attr_setstackaddr</li> <li>• pthread_attr_setstacksize</li> <li>• pthread_cancel</li> <li>• pthread_cond_destroy</li> <li>• pthread_cond_init</li> <li>• pthread_cond_signal</li> <li>• pthread_cond_timedwait</li> <li>• pthread_cond_wait</li> </ul>



出力内容	システムコール名	
	AIX の場合	Linux の場合
システムコールリターン値	<ul style="list-style-type: none"> <li>• pthread_join</li> <li>• pthread_key_create</li> <li>• pthread_key_delete</li> <li>• pthread_kill</li> <li>• pthread_mutex_destroy</li> <li>• pthread_mutex_init</li> <li>• pthread_mutex_lock</li> <li>• pthread_mutex_trylock</li> <li>• pthread_mutex_unlock</li> <li>• pthread_setcancelstate</li> <li>• pthread_setcanceltype</li> <li>• pthread_setspecific</li> <li>• pthread_sigmask</li> <li>• sigwait</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• pthread_create</li> <li>• pthread_join</li> <li>• pthread_key_create</li> <li>• pthread_key_delete</li> <li>• pthread_kill</li> <li>• pthread_mutex_destroy</li> <li>• pthread_mutex_init</li> <li>• pthread_mutex_lock</li> <li>• pthread_mutex_trylock</li> <li>• pthread_mutex_unlock</li> <li>• pthread_setcancelstate</li> <li>• pthread_setcanceltype</li> <li>• pthread_setspecific</li> <li>• pthread_sigmask</li> <li>• sigwait</li> </ul>
EINVAL 値	<ul style="list-style-type: none"> <li>• raise</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• raise</li> </ul>
h_errno 値	<ul style="list-style-type: none"> <li>• gethostbyaddr_r</li> <li>• gethostbyname_r</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• gethostbyaddr_r</li> <li>• gethostbyname_r</li> </ul>
errno 値	上記以外	上記以外

注※ エラー内容を示す情報が返されないため、0 を出力します。

**ee...ee** : ダイナミックローディングモジュールのシステムコールがエラーリターンした場合のエラー内容  
ダイナミックローディングモジュール以外のシステムコールでは出力されません。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージ以降に出力されるほかのメッセージを参照し、必要があれば対策してください。

### KFSB40301-W

ホスト管理テーブルは既に作成されています。サービスグループ名 = aa....aa, ホスト名 = bb....bb, ポート番号 = cc....cc, 対象定義コード = dd....dd

A host management table has already been created. service group name = aa....aa, host name = bb....bb, port number = cc....cc, target definition code = dd....dd (E) (4) (SUP)

該当するホスト管理テーブルは、所属するサービスグループ管理テーブル内にすでに作成されています。

**aa....aa** : 該当するホスト管理テーブルが所属するサービスグループ名

bb....bb : 該当するホスト管理テーブルのホスト名

cc....cc : 該当するホスト管理テーブルのポート番号

dd....dd : 対象定義コード

mysvgdef : サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンド

eesvgdef : サービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンド

(S)通信機能初期化処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 対象定義コードで示すサービスグループ情報関連定義の-h オプションの設定値、または-u オプションの設定値を見直してください。

### KFSB40302-W

```
UAP 共用ライブラリのクローズに失敗しました。UAP 共用ライブラリ名 = aa....aa  
An attempt to close a UAP common library has failed. UAP common library name =  
aa....aa (E+P+L) (4) (SUP)
```

UAP 共用ライブラリをクローズしようとしたましたが失敗しました。

aa....aa : クローズできなかった UAP 共用ライブラリ名

(S)UAP 共用ライブラリのクローズ処理を中止します。

(O)なし。

**【対策】** なし。

### KFSB40303-W

```
UAP 共用ライブラリ名が2重に定義されています。UAP 共用ライブラリ名 = aa....aa  
A UAP common library name is defined twice. UAP common library name = aa....aa (E)  
(4) (SUP)
```

ユーザサービス関連定義の module オペランドに UAP 共用ライブラリ名が重複して指定されています。

aa....aa : 重複して指定されている UAP 共用ライブラリ名

(S)重複して指定されている UAP 共用ライブラリ名を無視して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** ユーザサービス関連定義の module オペランドを見直して、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB40304-W

定義解析中に 2 重定義を検出しました。1 つ目の定義を有効とし処理を続行します。オペランド名 = aa....aa, サービスグループ名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc

A duplicate definition was detected during definition analysis. The first definition is taken as the valid definition, and processing continues. operand name = aa....aa, service group name = bb....bb, reason code = cc....cc (E) (4) (SUP)

複数指定できないオペランドが複数回指定されました。先に指定された内容を有効にして、あとから指定された内容は無視します。

aa....aa : オペランド名

bb....bb : 該当するオペランドで指定されたサービスグループ名

cc....cc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)定義解析処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	複数の eesvgdef 定義コマンドに、同一のサービスグループ名が指定されていて、かつ-t オプションに RAP を指定しています。先に指定された eesvgdef 定義コマンドの内容を有効とします。	TP1/EE サービス定義ファイル中の定義内容を見直してください。
0002	eesvgdef 定義コマンドに、複数のホスト名とポート番号が指定されていて、かつ-t オプションに RAP を指定しています。先に指定されたホスト名とポート番号を有効とします。	TP1/EE サービス定義ファイル中の定義内容を見直してください。
0003	複数の eesvgdef 定義コマンドに、同一のサービスグループ名が指定されていて、かつ、複数の eesvgdef 定義コマンドで-t オプションの指定が統一されていません。先に指定された eesvgdef 定義コマンドの内容を有効とします。	TP1/EE サービス定義ファイル中の定義内容を見直してください。

## KFSB40305-W

R P C 関連定義の設定に矛盾があります。オペランド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

The settings of RPC-related definitions conflict. operand name = aa....aa, reason code = bb....bb (E) (4) (SUP)

RPC 関連定義の指定に矛盾があります。

aa....aa : オペランド名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	リモート API 機能によるサービスの受信口（サービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンドで指定）が一つも有効ではないため、リモート API 機能を使用できません。	必要に応じて、直前に出力されたメッセージを基に原因を取り除いて、TP1/EE を再起動してください。
0002	RPC 関連定義の rap_listen_inf オペランドで指定したサービス受信口が、サービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンドで一つも指定されていません。	必要に応じて、eesvgdef 定義コマンドの -t オプションと rap_listen_inf オペランドの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。
0003	UDP グループ情報関連定義の clgrpdef 定義コマンドを指定していますが、CL 連携が有効ではありません。	必要に応じて、クラスタ連携関連定義の cluster_mode オペランドと clgrpdef 定義コマンドの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。
0004	eesvgdef 定義コマンドの -t オプションに RPC を指定していますが、TCP/IP を使用した RPC 通信を行うことができません。	必要に応じて、eesvgdef 定義コマンドの -t オプションと RPC 関連定義の rpc_tcp_communication_use オペランドの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB40306-W

RPC 電文用の接続チェック機能を無効にしました。理由コード = aaaa, 詳細コード = bb....bb

The RPC-connection check function has been invalidated. reason code = aaaa, detail code = bb....bb (E+P+L) (4) (SUP)

RPC メッセージ用の接続チェック機能を無効にしました。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
9001	RPC メッセージ用のコネクションチェック機能が無効になりました。	保守員に連絡してください。

### KFSB40307-W

R P C呼び出し元のタイムアウトを検知したため、R P C要求を破棄しました。I Pアドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, RPC 要求受信時刻 = cc....cc, サーバ側取得時刻 = dd....dd, RPC 呼び出し元待ち時間 = ee....ee

rpc request is canceled to callers rpc timedout. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reception time of rpc request = cc....cc, server side acquisition time = dd....dd, wait time of rpc call source = ee....ee (E+P+L) (4) (SUP)

サーバ側でのサービス処理で、ee\_rpc\_call 関数発行元の応答受信タイムアウトを検知したため、RPC 要求を破棄しました。

aa....aa : 相手 IP アドレス

bb....bb : 相手ポート番号

cc....cc : RPC 要求受信時刻の通算秒 (10 進表記)

処理キューに登録した時刻を示します。

dd....dd : サーバ側取得時刻の通算秒 (10 進表記)

キューから要求メッセージを取り出した時刻を示します。

ee....ee : RPC 呼び出し元の待ち時間 (単位: 秒) (10 進表記)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

### KFSB40310-W

相手システムがコネクションを切断しました。I Pアドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 保守情報 = cc....cc

The remote system disconnected. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, maintenance information = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)

相手システムがコネクションを切断しました。

aa....aa : コネクションを切断した相手システムの IP アドレス

bb....bb : コネクションを切断した相手システムのポート番号

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB40311-W

受信スレッドの終了処理中に障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaa, 詳細コード 2 = bb....bb  
An error occurred during termination processing of a received thread. detail code 1 = aaaa,  
detail code 2 = bb....bb (E+P+L) (4) (SUP)

終了処理中に障害が発生しました。

aaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】保守員に連絡してください。

### KFSB40312-W

エントリポインタ未登録の為、トランザクションを登録できませんでした。トランザクション種別=  
aa, サービス名 = bb....bb  
A transaction could not be registered because the entry pointer was not registered. transaction  
type = aa, service name = bb....bb (E+P+L) (4) (SUP)

エントリポインタが登録されていないため、トランザクションを登録できませんでした。

aa : トランザクション種別

E1 : エラートランザクション 1

bb....bb : エラートランザクション 1 (ERRTRN1) の登録に失敗したサービス名  
サービス名がない場合は, \*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するトランザクションに対する処理が不要な場合は、このメッセージは無視してください。処理が必要な場合は、エントリポインタを追加し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB40313-W

相手システムから未サポートメッセージを受信しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 理由コード = cccc, 保守情報 = dd....dd

An unsupported message was received from the remote host. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reason code = cccc, maintenance information = dd....dd (E+P+L) (4) (SUP)

相手システムから TP1/EE がサポートしていないメッセージを受信したので、受信メッセージを破棄します。

**aa....aa** : メッセージを送信した相手システムの IP アドレス

**bb....bb** : メッセージを送信した相手システムのポート番号

**cccc** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**dd....dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	CUP からのサービス要求です。	サービス要求元の dc_rpc_call 関数の呼び出し形式や指定を見直して、再実行してください。
0002		
0003	RPC コールの応答または CUP への一方通知です。	
0100	メッセージのサービス要求元の RPC オプションをサポートしていません。	
0101	サービス要求元の RPC 形態をサポートしていません。	
0102	メッセージに SEC のヘッダ (認証情報) が付加されています。	
0103	トランザクション最適化の要求です。	
0104	メッセージにデータ圧縮情報が付加されています。	
0105	データ圧縮以外の読み飛ばしができないデータです。	
0200	要求コードが一致する非同期ハンドラが登録されていません。	

理由コード	意味	対策
0201	要求コードが一致する外部要求ハンドラが登録されていません。	サービス要求元の dc_rpc_call 関数の呼び出し形式や指定を見直して、再実行してください。
0301	サービス要求または送信以外のデータです。	
上記以外	上記以外のサポートしていないメッセージの要求です。	保守員に連絡してください。

## KFSB40320-E

クライアント接続の初期化に失敗しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd

An attempt to initialize a client connection has failed. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

相手システム (サーバ) にメッセージの送信要求をする接続の初期化処理に失敗しました。

aa....aa : 相手システムの IP アドレス

bb....bb : 相手システムのポート番号

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ソケットの生成に失敗しました。	プロセス関連定義の max_descriptors オペランドの指定値を見直してください。指定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0002	自 IP アドレスと自ポート番号のソケットへの割り当てに失敗しました。	次の対策をしてください。 サービスグループ情報関連定義の myreplydef 定義コマンドに -b オプションを指定している場合 myreplydef 定義コマンドの -h オプションの指定値を見直してください。指定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。 RPC 関連定義の rap_client_hostname オペランドを指定している場合 rap_client_hostname オペランドの指定値を見直してください。指定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。



理由コード	意味	対策
0002	自 IP アドレスと自ポート番号のソケットへの割り当てに失敗しました。	上記以外の場合 TCP/IP 共有送信用コネクションを使用する機能の設定を見直してください。設定に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0007	TCP/IP の受信バッファサイズの設定に失敗しました。	RPC 関連定義の ipc_rcvbuf_size オペランドおよび ipc_rcvbuf_size_dbq オペランドの指定値を見直してください。指定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0008	TCP/IP の送信バッファサイズの設定に失敗しました。	RPC 関連定義の ipc_sndbuf_size オペランドおよび ipc_sndbuf_size_dbq オペランドの指定値を見直してください。指定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB40321-E

サーバコネクションの初期化に失敗しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd

An attempt to initialize a server connection has failed. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

相手システム (クライアント) からのコネクションを受け付けるソケットの初期化処理に失敗しました。

**aa....aa** : 初期化処理に失敗した自システムの IP アドレス

次に示すときは、0.0.0.0 を表示します。

- RPC 要求メッセージ受信用コネクションの場合で、サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドに -b オプションを指定していないとき (ただし、UNIX ドメイン用のソケットの場合は、-b オプションの指定に関係なく設定したホスト名に対応する IP アドレスを表示します)
- RPC 応答メッセージ送受信用コネクションの場合で、サービスグループ情報関連定義の myreplydef 定義コマンドに -b オプションを指定していないとき
- rap 用コネクションを使用しているとき
- DB キューのイベント通知メッセージ受信用コネクションの場合で、サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドに -b オプションを指定していないとき

**bb....bb** : 初期化処理に失敗した自システムのポート番号

次に示すときは、0 を表示することがあります。

- RPC 要求メッセージ受信用コネクションの場合で、サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの -h オプション (ポート番号) に 0 を指定したとき
- RPC 応答メッセージ送受信用コネクションの場合で、RPC 関連定義の rpc\_reply\_port\_auto オペランドに Y を指定したとき

**cccc** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ソケットの生成に失敗しました。	プロセス関連定義の max_descriptors オペランドの指定値を見直してください。指定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0002	自システムの IP アドレスとポート番号のソケットへの割り当てに失敗しました。	サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの-h オプションの指定値を見直してください。サービスグループ情報関連定義の myreplydef 定義コマンドに-b オプションが指定されている場合は、myreplydef 定義コマンドの-h オプションの指定値を見直してください。指定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0007	TCP/IP の受信バッファサイズの設定に失敗しました。	RPC 関連定義の ipc_rcvbuf_size オペランドおよび ipc_rcvbuf_size_dbq オペランドの指定値を見直してください。指定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0008	TCP/IP の送信バッファサイズの設定に失敗しました。	RPC 関連定義の ipc_sndbuf_size オペランドおよび ipc_sndbuf_size_dbq オペランドの指定値を見直してください。指定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB40322-E

相手システムとの接続に失敗しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd

An attempt to connect to the remote system has failed. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

相手システム (サーバ) にメッセージの送信要求をする接続の確立に失敗しました。

aa....aa : 相手システムの IP アドレス

bb....bb : 相手システムのポート番号

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0005	接続の確立に失敗しました。	相手システムの状態、またはサービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンドの-h オプションの指定値を見直してください。 上記以外の場合は、TCP/IP 共有送信用接続を使用する機能の相手システムについての設定を見直してください。設定に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0011		
0101		
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB40323-E

相手システムからの接続受付に失敗しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd

An attempt to accept connection from the remote system has failed. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

相手システム (クライアント) からの接続要求の受け付けに失敗しました。

aa....aa : 接続要求元の相手システムの IP アドレス

bb....bb : 接続要求元の相手システムのポート番号

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0004	ファイル識別子 (ディスクリプタ) が枯渇しています。	プロセス関連定義 max_descriptors オペランドの設定値を見直してください。 設定値に問題がない場合は、システム全体のファイル識別子が枯渇しているおそれがあるので不要なプロセスなどを終了し、空きファイル識別子を増やしてください。
0100	接続要求を受け付けるソケット数が不足しています。	RPC 要求メッセージ受信用接続の場合は、サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの-s オプ

理由コード	意味	対策
0100	コネクション要求を受け付けるソケット数が不足しています。	<p>シヨンの指定値を見直してください。-s オプションの指定値が最大の場合は、相手システムのコネクション確立先を変更してください。</p> <p>RPC 応答メッセージ送受信信用コネクションの場合は、RPC 関連定義の rpc_reply_con_max_cnt オペランドの指定値を見直してください。rap 用コネクションの場合は、RPC 関連定義の rap_max_client オペランドの指定値を見直してください。</p> <p>DB キューのイベント通知メッセージ受信用コネクションの場合は、サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの-s オプションの指定値を見直してください。-s オプションの指定値が最大の場合は、相手システムのコネクション確立先を変更してください。</p>
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB40324-E

RPCサービス要求を行うコネクション取得時、排他確保に失敗しました。詳細コード1 = aaaa, 詳細コード2 = bb....bb

An attempt to obtain a lock has failed during the acquisition of a connection for performing RPC service requests. detail code 1 = aaaa, detail code 2 = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)

相手システム（サーバ）にRPCサービス要求するためのコネクション取得処理時に、排他確保に失敗しました。

**aaaa** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

### KFSB40325-E

メッセージ送信要求を行うコネクション取得に失敗しました。サービスグループ名 = aa....aa, 通信方法 = bbb

An attempt to acquire a connection for performing message transmission requests has failed. service group name = aa....aa, communication method = bbb (E+P+L) (3) (SUP)

メッセージ送信要求時、すべてのコネクションが送信処理中か、またはコネクション解放中のため、メッセージ送信コネクションの取得に失敗しました。

aa....aa : メッセージの送信要求先のサービスグループ名

bbb : 通信方法

RPC : リモートプロシジャコール通信

DBQ : DB キューを使用した TCP/IP 通信

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** サービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンドの-s オプションの指定値を増やしてください。

### KFSB40326-W

トランザクションのコミットまたはロールバックを実施したため、非同期応答型 RPC の応答を破棄しました。破棄した応答の数 = aa....aa

Reply of nowait RPC is canceled to commit or rollback. canceled reply = aa....aa (E+P+L) (4) (SUP)

UAP 内でトランザクションのコミットまたはロールバック処理が発生したため、コミットまたはロールバック以前の非同期応答型 RPC の応答を破棄しました。以降は、コミットまたはロールバック以前の応答を受信できません。

aa....aa : 破棄した応答の数

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** なし。

### KFSB40350-E

送信処理で障害が発生しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd

An error occurred during transmission processing. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

メッセージの送信処理で障害が発生しました。

aa....aa : 送信先システムの IP アドレス

bb....bb : 送信先システムのポート番号

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)メッセージの送信処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0021	TCP/IP バッファ不足が再実行回数を 超えて連続で発生しました。	RPC 関連定義の rpc_router_retry_count オペランドの指定値を 見直して、再実行してください。また、次の指定値を見直して ください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• RPC 関連定義の ipc_sendbuf_size オペランド</li><li>• RPC 関連定義の rpc_router_retry_interval オペランド</li><li>• RPC 関連定義の ipc_sendbuf_size_dbq オペランド</li><li>• RPC 関連定義の ipc_tcpcnodelay オペランド</li><li>• RPC 関連定義の ipc_tcpcnodelay_dbq オペランド</li><li>• メモリ関連定義の send_message_buf_size オペランド</li><li>• 送信先システムの TCP/IP の受信バッファサイズ</li></ul>
0022	ネットワーク障害が発生しました。	送信先システムが稼働しているかどうか確認して、再実行して ください。
0030	リトライ回数を超過しました。	送信元システムで、UDP グループ情報関連定義の eedpdef 定 義コマンドの次のオプションを見直してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• -w オプション</li><li>• -W オプション</li><li>• -R オプション</li></ul>
0031	送信先の UDP 用受信バッファ (UIBF) が不足しました。	送信先システムで、次のオペランドの指定値を見直してくださ い。 <ul style="list-style-type: none"><li>• メモリ関連定義の udp_rcv_message_buf_size オペランド</li><li>• メモリ関連定義の udp_rcv_message_buf_cnt オペランド</li></ul>
0032	送信先の UDP 通信を行うスレッドが 不足しました。	送信先システムで、次のオペランドの指定値を見直してくださ い。 <ul style="list-style-type: none"><li>• RPC 関連定義の rpc_udp_departure_limit オペランド</li></ul>
0033	送信先とパケットサイズが不一致です。	送信元システムと送信先システムで、RPC 関連定義の rpc_udp_packet_size オペランドの指定値を見直してください。
0034	送信先が受信できる状態ではありませ ん。	送信先システムの状態を確認して、再実行してください。
0035	送信先と接続できませんでした。	送信先システムが稼働しているか確認して、再実行してくださ い。また、次のオペランドの指定値を見直してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• UDP グループ情報関連定義の eedpdef オペランドの-a オ プションおよび-p オプション</li></ul> マルチキャスト送信時は、次のオペランドの指定値も見直して ください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• UDP グループ情報関連定義の myudpsnddef オペランドの- a オプションおよび-k オプション</li></ul>

理由コード	意味	対策
0035	送信先と接続できませんでした。	設定に問題がない場合は、理由コード 0030 の対策内容も見直してください。
9000 9001	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB40351-W

エントリポインタ未登録の為、トランザクションを登録できませんでした。トランザクション種別 = aa, サービス名 = bb...bb

A transaction could not be registered because the entry pointer was not registered. transaction type = aa, service name = bb...bb (E+P+L) (4) (SUP)

エントリポインタが登録されていないため、トランザクションを登録できませんでした。

**aa** : トランザクション種別

ES : エラートランザクション S

**bb...bb** : エラートランザクション S (ERRTRNS) の登録に失敗したサービス名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するトランザクションに対する処理が不要な場合は、このメッセージは無視してください。処理が必要な場合は、エントリポインタを追加し、TP1/EE を再起動してください。

### KFSB40352-E

バッファの確保に失敗しました。理由コード = aaaa, 対象領域コード = bbb, 詳細コード = cc...cc

An attempt to allocate buffers has failed. reason code = aaaa, target area code = bbb, detail code = cc...cc (E+P+L) (3) (SUP)

RPC サービス要求の送信処理、または応答送信でバッファの確保に失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bbb** : 対象領域コード

IBF : 受信バッファ

OBF : 送信バッファ

UOBF : UDP 用送信バッファ

**cc...cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報



(S)RPC サービス要求の送信処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0011	bbb (対象領域コード) で示すバッファ数が不足しました。	次の対策をしてください。 bbb が IBF の場合 メモリ関連定義の <code>recv_message_buf_cnt</code> オペランドの指定値を見直して、再実行してください。 bbb が OBF の場合 メモリ関連定義の <code>send_message_buf_cnt</code> オペランドの指定値を見直して、再実行してください。 bbb が UOBF の場合 メモリ関連定義の <code>udp_send_message_buf_cnt</code> オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
9000	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB40355-E

RPCサービスの呼び出し処理で障害が発生しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd

An error occurred during processing to call a RPC service. service group name = aa....aa, service name = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

RPC サービスの呼び出し処理で障害が発生しました。

aa....aa : 障害が発生したサービスのサービスグループ名

bb....bb : 障害が発生したサービス名

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)RPC サービス要求の送信処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】「\_ (アンダーライン)」で始まるサービス名は、TP1/EE が内部で使用する制御メッセージです。このメッセージ以降に出力されるほかのメッセージを参照し、必要があれば対策してください。

それ以外の場合は、理由コード一覧を見て対策してください。



理由コード	意味	対策
0002	子ブランチ生成限界数を超過しました。	トランザクション関連定義の <code>trn_max_subordinate_count</code> オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0011	RPC 応答待ちでタイムアウトが発生しました。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。
0020	Cosminexus に対する RPC 要求時に送信待ちタイムアウトが発生しました。	RPC 関連定義 <code>rpc_connect_conflict_timer</code> オペランドの設定値を見直して、再実行してください。
1001	トランザクショナル RPC 実行時に、相手システム上でトランザクションブランチを起動できませんでした。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。
1002	相手システムで異常が発生しました。	相手システムの状態を確認したあと、再実行してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB40356-W

rap クライアントからの要求を受け付ける事ができませんでした。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, サービス ID = cc....cc, 理由コード = dddd, 詳細コード = ee....ee  
 A request from RAP-processing client could not be accepted. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, service ID = cc....cc, reason code = dddd, detail code = ee....ee (E+P+L) (4) (SUP)

rap クライアントからの接続要求を受け付けられませんでした。

**aa....aa** : 接続要求元 rap クライアントの IP アドレス

常設接続の確立前, または rap クライアントが TP1/Client/J の場合は, 0.0.0.0 と表示されることがあります。

**bb....bb** : 接続要求元 rap クライアントのポート番号

常設接続の確立前, または rap クライアントが TP1/Client/J の場合は, 0 と表示されることがあります。

**cc....cc** : サービス ID

**dddd** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**ee....ee** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	接続中の rap クライアント数が RPC 関連定義の rap_max_client オペランドの指定値を超えているため、rap クライアントからの接続要求を拒否しました。	RPC 関連定義の rap_max_client オペランドの指定値を増加して、TP1/EE を再起動してください。または、不要な rap クライアントとの接続を解放してください。
0002	rap クライアントとの接続を解放中に、該当する rap クライアントからの接続要求を受信しました。	なし。

### KFSB40357-W

rap クライアントと接続中の為、プロセスを終了できません。 rap クライアント数 = aa....aa  
Process cannot be terminated because connections with RAP-processing clients exist. number of RAP-processing clients = aa....aa (E+P+L) (4) (SUP)

接続中の rap クライアントが存在するため、TP1/EE を終了できません。

aa....aa : 接続中の rap クライアント数

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 rap クライアントの終了を待たないで TP1/EE を終了させたい場合は、eerpccrapcls コマンドで rap クライアントとの接続を解放してください。

### KFSB40358-W

サービス応答用接続数が上限を超過したため、接続を切断します。 IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 理由コード = cccc  
Disconnection occurred because the number of connections for service responses exceeded the limit. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reason code = cccc (E+P+L) (4) (SUP)

サービス応答用接続数が上限値を超えたため、送受信後に接続を切断します。

aa....aa : 相手システムの IP アドレス

bb....bb : 相手システムのポート番号

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を続行し、接続を切断します。

(O)対策が必要な場合は、理由コード一覧を見て対策してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	送信時に、サービス応答用接続の接続先プロセスごとの上限数を超過しました。	RPC 関連定義の <code>rpc_reply_con_cnt</code> オペランドの指定値を見直してください。
0002	送信時に、サービス応答用接続の最大数、または接続先プロセスの最大数を超過しました。	RPC 関連定義の次のオペランドの指定値を見直してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <code>rpc_reply_con_max_cnt</code> オペランド</li><li>• <code>rpc_reply_proc_max_cnt</code> オペランド</li></ul>
0101	受信時に、サービス応答用接続の接続先プロセスごとの上限数を超過しました。	RPC 関連定義の <code>rpc_reply_con_cnt</code> オペランドの指定値を見直してください。
0102	受信時に、サービス応答用接続の最大数、または接続先プロセスの最大数を超過しました。	RPC 関連定義の <code>rpc_reply_proc_max_cnt</code> オペランドの指定値を見直してください。
0103		RPC 関連定義の <code>rpc_reply_con_max_cnt</code> オペランドの指定値を見直してください。

### KFSB40359-W

プロセスの負荷レベルを変更しました。変更前 = aaaaaa, 変更後 = bbbbbb

The load level of processes has changed. before the change = aaaaaa, after the change = bbbbbb (E+P+L) (4) (SUP)

プロセスの負荷レベルを変更しました。

**aaaaaa** : 変更前の負荷レベル

**bbbbbb** : 変更後の負荷レベル

LEVEL0 : 負荷レベル 0 (通常状態)

LEVEL1 : 負荷レベル 1 (軽度の負荷)

LEVEL2 : 負荷レベル 2 (重度の負荷)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** なし。

### KFSB40360-E

ネームサービス処理中に異常が発生しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, サービスグループ名 = cc....cc, 機能名 = dd....dd, 理由コード = eeee, 詳細コード 1 = ff....ff, 詳細コード 2 = gg....gg, 保守情報 = hh....hh

An error occurred during name service processing. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, service group name = cc....cc, function name = dd....dd, reason code = eeee, detail

code 1 = ff....ff, detail code 2 = gg....gg, maintenance information = hh....hh (E+P+L) (4)  
(SUP)

ネームサービスの処理中に異常が発生しました。

**aa....aa** : 相手 IP アドレス

通信障害以外の場合は, 0.0.0.0 を表示します。

**bb....bb** : 相手ポート番号

通信障害以外の場合は, 0 を表示します。

**cc....cc** : サービスグループ名

**dd....dd** : 異常が発生した動作

ADVERTISE : ネーム情報登録

UNADVERTISE : ネーム情報削除

LOAD BALANCE : 負荷レベル変更

LOOKUP : ネーム情報検索

**eeee** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**ff....ff** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**gg....gg** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**hh....hh** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0002	ネームサーバとの通信でタイムアウトが発生しました。	ネームサーバが正常に稼働しているかどうか確認してください。ネームサーバが正常に稼働していても、このエラーが多発する場合は、RPC 関連定義の <code>rpc_nam_watch_time</code> オペランドの指定値を大きくしてください。
0113		
0003	ネームサーバへのサービス検索要求の失敗によるリトライ回数が指定値を超えました。	ネームサーバが正常に稼働しているかどうか確認してください。ネームサーバが正常に稼働していても、このエラーが多発する場合は、RPC 関連定義の <code>rpc_nam_retry_count</code> オペランド、および <code>rpc_nam_retry_interval</code> オペランドの指定値を大きくしてください。
0114		

理由コード	意味	対策
0012	メモリ不足を検出しました。	メモリ関連定義の send_message_buf_cnt オペランドの指定値を見直してください。
0013	TCP/IP バッファ不足が、RPC 関連定義の rpc_router_retry_count オペランドに指定したりトライ回数を超えて連続で発生しました。	次に示すオペランドの指定値を見直してください。また、送信先システムの TCP/IP の受信バッファサイズを見直してください。 RPC 関連定義 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ipc_sendbuf_size オペランド</li> <li>• ipc_tcpnodelay オペランド</li> <li>• rpc_router_retry_count オペランド</li> <li>• rpc_router_retry_interval オペランド</li> </ul> メモリ関連定義 <ul style="list-style-type: none"> <li>• send_message_buf_size オペランド</li> </ul>
0100	サポートしていないメッセージを受信しました。	このエラーが多発する場合は保守員に連絡してください。
0101	不正なメッセージを受信しました。	このエラーが多発する場合は保守員に連絡してください。
0112		
0121	ネームサーバからエラー応答メッセージが返されました。	ネームサーバが正常に稼働しているかどうか確認してください。ネームサーバが正常に稼働していても、このエラーが多発する場合は保守員に連絡してください。
0122		
0200	キャッシュ不足によって、ネーム情報を格納できませんでした。	RPC 関連定義の name_cache_size オペランドの指定値を大きくしてください。
9000~9999	内部矛盾が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB40361-E

負荷分散処理中に異常が発生しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 要求元 IP アドレス = cc....cc, 要求元ポート番号 = dd....dd, 理由コード = eeee, 詳細コード = ff....ff, 保守情報 = gg....gg

An error occurred during load-balancing processing. service group name = aa....aa, service name = bb....bb, request-source IP address = cc....cc, request-source port number = dd....dd, reason code = eeee, detail code = ff....ff, maintenance information = gg....gg (E+P+L) (4) (SUP)

ノード間負荷バランス機能を使用した負荷分散処理中に異常が発生しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当するサービス名

cc....cc : サービス要求元の IP アドレス

dd....dd : サービス要求元のポート番号

eeee : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ff...ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

gg...gg : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0031	PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、再実行してください。

### KFSB40362-W

TCP/IP 共有送信用コネクション数が上限を超過したためコネクションを切断します。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 理由コード = cccc

Disconnection occurred because the number of connections for TCP/IP common transmission exceeded the limit. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reason code = cccc (E+P+L) (4) (SUP)

TCP/IP 共有送信用コネクション数が上限値を超えたため、送信後にコネクションを切断します。

aa....aa : 相手システムの IP アドレス

bb....bb : 相手システムのポート番号

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を続行し、コネクションを切断します。

(O)対策が必要な場合は、理由コード一覧を見て対策してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	送信時に、TCP/IP 共有送信用コネクションの接続先プロセスごとの上限数を超えました。	RPC 関連定義の rpc_tcpsend_con_cnt オペランドの指定値を見直してください。
0002	送信時に、TCP/IP 共有送信用コネクションの最大数、または接続先プロセスの最大数を超えました。	RPC 関連定義の次のオペランドの指定値を見直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• rpc_tcpsend_con_max_cnt オペランド</li> <li>• rpc_tcpsend_proc_max_cnt オペランド</li> </ul>

## KFSB40363-W

常設コネクションの解放待ち合わせ中です。常設コネクション数 = aa....aa  
Waiting permanent connections to be released. number of permanent connections =  
aa....aa (E+P+L) (4) (SUP)

接続中の常設コネクションを解放しています。

aa....aa : 常設コネクション数

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB40365-E

メッセージの送信処理で障害が発生しました。自IPアドレス = aa....aa, 自ポート番号 = bb....bb,  
相手IPアドレス = cc....cc, 相手ポート番号 = dd....dd, 理由コード = eeee, 保守情報1 = ff....ff,  
保守情報2 = gg....gg

A failure has occurred during message transmission. local IP address = aa....aa, local port  
number = bb....bb, target IP address = cc....cc, target port number = dd....dd, reason code =  
eeee, maintenance information 1 = ff....ff, maintenance information 2 = gg....gg (E+P+L)  
(3) (NOS)

UDP 通信機能によるメッセージ送信処理で障害が発生しました。

aa....aa : 自システムの IP アドレス

UDP グループ情報関連定義の myudpsnddef 定義コマンドの-a オプションを省略した場合は, 0.0.0.0  
と表示されます。

bb....bb : 自システムのポート番号

cc....cc : 相手システムの IP アドレス

dd....dd : 相手システムのポート番号

eeee : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ff....ff : XTC がトラブルシュートで使用する情報

gg....gg : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
2000	送信要求が失敗しました。	ネットワークインタフェースに障害が発生していないか確認してください。また、再送タイム値（UDP グループ情報関連定義の myudpsnddef 定義コマンドの-w オプションおよび-W オプションの設定値）を見直してください。 問題が解決できない場合は、保守員に連絡してください。
2002 2003	共有送信ソケットの割り当てで、タイムアウトが発生しました。	送信ソケット数（UDP グループ情報関連定義の myudpsnddef 定義コマンドの-P オプションおよび-p オプションの設定値）を見直してください。また、再送タイム値（UDP グループ情報関連定義の eeudpdef 定義コマンドの-w オプションおよび-W オプション、または、myudpsnddef 定義コマンドの-w オプションおよび-W オプションの設定値）を見直してください。 問題が解決できない場合は、保守員に連絡してください。
上記以外	内部矛盾が発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB40366-E

送信処理で障害が発生しました。 I P アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd, 保守情報 = ee....ee

An error occurred during transmission processing. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd, maintenance information = ee....ee (E +P+L) (3) (SUP)

メッセージの送信処理で障害が発生しました。

**aa....aa** : 送信先 IP アドレス

**bb....bb** : 送信先ポート番号

**cccc** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**dd....dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**ee....ee** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報



(S)送信処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0021	TCP/IP バッファ不足が再実行回数を超えて連続で発生しました。	RPC 関連定義の <code>rpc_router_retry_count</code> オペランドの指定値を見直して、再実行してください。また、次の指定値を見直してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>RPC 関連定義の <code>ipc_sendbuf_size</code> オペランド</li><li>RPC 関連定義の <code>rpc_router_retry_interval</code> オペランド</li><li>RPC 関連定義の <code>ipc_tcpnodelay</code> オペランド</li><li>RPC 関連定義の <code>ipc_sendbuf_size_dbq</code> オペランド</li><li>RPC 関連定義の <code>ipc_tcpnodelay_dbq</code> オペランド</li><li>メモリ関連定義の <code>send_message_buf_size</code> オペランド</li><li>送信先システムの TCP/IP の受信バッファサイズ</li></ul>
0022	ネットワーク障害が発生しました。	送信先システムが稼働しているかどうか確認して、再実行してください。
9000	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB40367-E

相手システムとの接続に失敗しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd, 保守情報 = ee....ee

An attempt to connect to the remote system has failed. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd, maintenance information = ee....ee (E+P+L) (3) (SUP)

相手システム (サーバ) にメッセージ送信要求を行う接続の確立に失敗しました。

aa....aa : 相手 IP アドレス

bb....bb : 相手ポート番号

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0005	コネクションに失敗しました。	相手システムの状態、またはサービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンドの-h オプションの指定値を見直してください。 上記以外の場合は、TCP/IP 共有送信用コネクションを使用する機能の相手システムについての設定を見直してください。設定に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0011		
0101		
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB40368-E

R P Cサービスの呼び出し処理で障害が発生しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd, 保守情報 = ee....ee

An error occurred during processing to call a RPC service. service group name = aa....aa, service name = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd, maintenance information = ee....ee (E+P+L) (3) (SUP)

RPC サービスの呼び出し処理で障害が発生しました。

aa....aa : サービスグループ名

bb....bb : 該当するサービス名

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)RPC サービス要求の送信処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 「\_ (アンダーライン)」で始まるサービス名は、TP1/EE が内部で使用する制御メッセージです。このメッセージ以降に出力されるほかのメッセージを参照し、必要があれば対策してください。

理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0002	子ブランチ生成限界数を超過しました。	トランザクション関連定義 trn_max_subordinate_count オペランドの指定値を見直して、再実行してください。

理由コード	意味	対策
0011	RPC 応答待ちでタイムアウトが発生しました。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。
1001	トランザクショナル RPC 実行時、相手システム上でトランザクションブランチを起動できませんでした。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。
1002	相手システムで異常が発生しました。	相手システムの状態を確認したあと、再実行してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB40500-E

SQL 実行においてエラーが発生しました。DBMS メッセージ = aa....aa, タイマデータ表名 = bb....bb, SQL CODE = cc....cc, 詳細コード = dd....dd  
 An error occurred for SQL execution. DBMS message = aa....aa, timer data table name = bb....bb, SQLCODE = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

SQL 実行時の DBMS のエラーメッセージを出力します。

aa....aa : DBMS のエラーメッセージ

bb....bb : タイマデータ表名

cc....cc : SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** DBMS のエラーメッセージを参照して、原因を取り除いてください。

## KFSB40801-W

サービス名が 2 重に定義されています。サービス名 = aa....aa  
 A service name is defined twice. service name = aa....aa (E) (4) (SUP)

TP1/EE サービス定義の service オペランドにサービス名が複数指定されています。最初に指定されているサービス名およびエントリポイント名を有効とします。

aa....aa : 複数指定されているサービス名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/EE サービス定義の service オペランドの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。

### KFSB40802-W

処理キュー滞留監視機能に関連する定義が不足しているため、処理キュー滞留監視機能オプションなしとして処理を続行します。オペランド名 = aa....aa[,bb....bb]

Processing will continue without the option for the function for monitoring processing queue retention because definitions related to this function are insufficient. operand name = aa....aa[,bb....bb] (E) (4) (SUP)

処理キュー滞留監視機能についてのオペランドが指定されていますが、処理キュー滞留監視機能に必要なほかのオペランドの指定が不足しています。

**aa....aa** : 指定が不足しているオペランド 1

**bb....bb** : 指定が不足しているオペランド 2

(S)処理キュー滞留監視機能が動作しない状態で処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** 処理キュー滞留監視機能を使用する場合は、指定が不足しているオペランドを指定し、TP1/EE を再起動してください。

### KFSB40803-W

サービス属性定義の設定が不正です。オプションフラグ = aa, サービス名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc

The service attribute definition is invalid. option flag = aa, service name = bb....bb, reason code = cc....cc (E) (4) (SUP)

ユーザサービス関連定義の service\_attr 定義コマンド (サービス属性定義) の設定が不正です。

**aa** : オプションフラグ

**bb....bb** : サービス名またはトランザクション種別

**cc....cc** : 理由コード

0001 : -v オプションで指定したサービス名が不正です。

0002 : -v オプションで指定したサービス名または-x オプションで指定したトランザクション種別が、すでに定義されています。

0003 : -x オプションで指定したトランザクション種別に対するエントリポインタの定義がありません。

0004 : -x オプションで指定したトランザクション種別が不正です。

0005: -e オプションの指定と、ユーザサービス関連定義の service オペランドで指定した同時処理限界数に矛盾があります。service オペランドで、同時処理限界数に 2 以上を指定していますが、-e オプションには serial を指定しています。

(S) 該当定義を無視して処理を続行します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** ユーザサービス関連定義の service\_attr 定義コマンドを見直して、TP1/EE を再起動してください。

### KFSB40804-W

入力メッセージキューに未読出しメッセージが滞留しています。

There are unloaded messages remaining in the input message queue. (E+P+L) (4) (NOS)

入力キュー (ITQ) に未読み出しメッセージが滞留しています。

(S) 入力キューに未読み出しメッセージがなくなるまで、オンライン終了監視処理を続けます。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]**

- XTC 使用時

オンラインを終了させたい場合は、まず、eelspcenum コマンドで未読み出しメッセージが滞留しているサービスを確認してください。その後、eepceskip コマンドで滞留メッセージを破棄するか、または eeactsv コマンドでサービスの閉塞を解除して、メッセージを読み出せる状態にしてください。

- XTC 未使用時

オンラインを終了させたい場合は eelspce コマンドによってメッセージが滞留しているサービスの状態を確認し、引き出し禁止状態を解除するコマンド\*を実行して滞留しているサービスを実行してください。

さらに、トランザクションレベル方式を使用している場合は、eelstrnlevel コマンドによってメッセージが滞留しているトランザクションレベルの状態を確認し、引き出し禁止状態を解除するコマンド\*を実行して滞留しているサービスを実行してください。

注※: サービスおよびトランザクションレベルの状態によって引出し禁止状態を解除するコマンドが異なります。詳細は eelspce コマンドおよび eelstrnlevel コマンドの出力形式の詳細を確認してください。

### KFSB40810-W

トランザクションの静止化が継続されています。

The staticization of a transaction continues. (E+P+L) (4) (SUP)

UAP 共有ライブラリの入れ替えによるトランザクションの静止化が長期にわたり継続されています。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** UAP 共有ライブラリの入れ替え状況を確認し、必要に応じてトランザクションの静止化状態を解除してください。

### KFSB40815-W

```
トランザクションレベル名が2重に定義されています。トランザクションレベル名 = aa....aa  
A transaction level name is defined twice. transaction level name = aa....aa (E) (4) (SUP)
```

TP1/FSP のユーザサービス関連定義の queue\_trnlevel オペランドに、トランザクションレベル名が重複して指定されています。最初に指定されたトランザクションレベル名を有効とします。

aa....aa : トランザクションレベル名

(S)処理を継続します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/FSP のユーザサービス関連定義の queue\_trnlevel オペランドの指定を見直して、TP1/EE を再起動してください。

### KFSB40900-E

```
テーブルの確保に失敗しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb  
An attempt to allocate a table has failed. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb  
(E, E+P+L) (3) (SUP)
```

テーブルの確保要求に対してテーブルを確保できませんでした。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 必要なメモリを確保し、TP1/EE を再起動してください。

### KFSB40901-W

```
ファイルクローズに失敗しました。file = aa....aa, rc = bb....bb  
An attempt to close a file has failed. file = aa....aa, rc = bb....bb (E+P+L) (4) (SUP)
```

ファイルのクローズに失敗しました。

aa....aa : クローズに失敗したファイル名

bb....bb : fclose 関数のリターンコード

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB40904-W

エントリポインタ未登録の為、トランザクションを登録できませんでした。トランザクション種別 = aa, サービス名 = bb....bb

A transaction could not be registered because the entry pointer has not been registered.  
transaction type = aa, service name = bb....bb (E+P+L) (4) (SUP)

エントリポインタを登録していないため、トランザクションを登録できませんでした。

aa : トランザクション種別

ER : エラートランザクション R

bb....bb : エラートランザクション R (ERRTRNR) の登録に失敗したサービス名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】該当するトランザクションに対する処理が不要な場合は、このメッセージは無視してください。処理が必要な場合は、エントリポインタを追加し、TP1/EE を再起動してください。

### KFSB40905-W

xa 関数の実行に失敗しました。cmd = aa....aa, rmid = bb....bb, RM = cc....cc, flags = dd....dd, rc = ee....ee

An attempt to execute an xa function has failed. cmd = aa....aa, rmid = bb....bb, RM = cc....cc, flags = dd....dd, rc = ee....ee (E+P+L) (4) (SUP)

xa 関数を実行しましたが、エラーリターンしました。

aa....aa : xa 関数種別

bb....bb : TP1/EE でリソースマネージャに割り当てた ID

cc....cc : リソースマネージャ名

dd....dd : 実行した xa 関数の flags 引数の指定値



ee....ee : xa 関数のリターンコード

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージが出力された場合、リソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが実行されていることがあります。このメッセージのリターンコード、および該当するリソースマネージャの保守情報があれば、その情報を基に障害を取り除いてください。障害が発生したリソースマネージャが起動していない場合は、起動してください。xa 関数種別が xa\_start で xa 関数のリターンコードが-6 の場合、TP1/EE 開始時の xa\_open 関数でエラーが発生していないかどうか、またはこのメッセージが出力される以前のトランザクションでリソースマネージャ障害が発生していないかどうか確認してください。

### KFSB40906-W

定義解析処理中にエラーが発生しました。2 重定義がありました。1 つ目の定義を有効とし処理を続行します。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, オペランド名 = cc....cc

An error occurred during definition analysis processing. A duplicated definition exists. The first definition is taken as the valid definition, and processing continues. file name = aa....aa, line number = bb....bb, operand name = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)

複数指定できないオペランドが複数回指定されました。先に指定された内容を有効にします。あとから指定された内容は無視します。

aa....aa : 定義ファイルの絶対パス

bb....bb : 複数回指定されたオペランドが出現する行数

cc....cc : 複数回指定されたオペランド名

(S)定義解析処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** リソースマネージャアクセス用文字列ファイル (aa....aa のファイル) 中の bb....bb 行目の定義内容を見直してください。

### KFSB40908-W

定義解析処理中にエラーが発生しました。理由コード = aaaa, オペランド名 = bb....bb, オプション内容 = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

An error occurred during definition analysis processing. reason code = aaaa, operand name = bb....bb, option information = cc....cc, detail code = dd....dd (E, E+P+L) (4) (SUP)

定義解析処理中に理由コードに示す障害が発生しました。



aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : 障害の原因となったオペランド名

cc....cc : 障害の原因となったオプション内容

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)定義解析処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	複数指定できないオペランドが複数回指定されました。先に指定された内容を有効にします。あとから指定された内容は無視します。	TP1/EE サービス定義ファイル中の bb....bb オペランドの指定を見直してください。
0002	トランザクション関連定義の trn_tran_process_count オペランドに指定された値が、指定できる最小値より小さいです。	定義内容を見直してください。

### KFSB40909-W

仕掛中トランザクションブランチがあるため終了できません。仕掛件数 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

Processing cannot be terminated because there are transaction branches in progress. number of in-progress transaction branches = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (4) (SUP)

仕掛り中のトランザクションがあるため、TP1/EE を終了できません。

aa....aa : 仕掛り中のトランザクションの件数

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** TP1/EE が終了しない場合、eetrlstr コマンドで仕掛り中のトランザクションの状態を確認してください。トランザクションが決着しない状態が続く場合は、保守員に連絡してください。

### KFSB40910-W

監視スレッドの終了処理中に障害が発生しました。監視スレッド種別 = a, 詳細コード 1 = bbbb, 詳細コード 2 = cc....cc

An error occurred during termination processing of a monitoring thread. monitoring thread type = a, detail code 1 = bbbb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)

終了処理中に障害が発生しました。

**a** : 監視スレッド種別

D : リソースマネージャ障害監視スレッド

I : 通信障害監視スレッド

W : UAP 履歴情報監視スレッド

**bbbb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB40911-W

仕掛中トランザクションブランチがあります。XID = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 対象 = cc....cc, 詳細情報 = dd....dd

There are transaction branches in progress. XID = aa....aa, service name = bb....bb, target = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (4) (SUP)

回復できないトランザクションブランチがあります。

**aa....aa** : 回復できないトランザクションブランチの識別子

**bb....bb** : サービス名

サービス名がない場合は, \*を表示します。

**cc....cc** : 回復できない対象

PCE : PCE 数の不足

RM : リソースマネージャ

RM\_RECOVER : 回復中のトランザクションがあるリソースマネージャ

SUPERIOR : 親トランザクションブランチ

SUBORDINATE : 子トランザクションブランチ

**dd....dd** : 回復できない対象の詳細情報

cc....cc が PCE の場合

\*を表示します。

cc....cc が RM の場合

リソースマネージャ名+リソースマネージャ拡張子+XA 関数の戻り値  
(リソースマネージャ拡張子と XA 関数の戻り値の間はコロン” :” で区切る)

cc....cc が RM\_RECOVER の場合

リソースマネージャ名+リソースマネージャ拡張子

cc....cc が SUPERIOR または SUBORDINATE の場合

通信先の IP アドレス+ポート番号  
(IP アドレスとポート番号の間はコロン” :” で区切る)

(S)トランザクションブランチの状態を保持し、回復処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 要因および対象を基に原因を調査し、障害を取り除いてください。

cc....cc が PCE のメッセージが同一の XID で多発する場合は、eetmlstr コマンドを実行して該当する XID のトランザクション状態を確認してください。トランザクションが決着しない状態が続く場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB40912-W

トランザクション制御電文の送受信処理で障害が発生しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード 1 = dd....dd, 詳細コード 2 = ee....ee, 詳細コード 3 = ff....ff

An error occurred in the send/receive of transaction control messages. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reason code = cccc, detail code 1 = dd....dd, detail code 2 = ee....ee, detail code 3 = ff....ff (E+P+L) (4) (SUP)

トランザクションの制御メッセージの送受信処理で障害が発生しました。

**aa....aa** : 送信先システムの IP アドレス

受信処理で障害が発生した場合は、\*を表示します。

**bb....bb** : 送信先システムのポート番号

受信処理で障害が発生した場合は、\*を表示します。

**cccc** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**dd....dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**ee....ee** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**ff....ff** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	子トランザクションブランチへのメッセージの送信処理に失敗しました。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。
0002	親トランザクションブランチへのメッセージの送信処理に失敗しました。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。
0003	トランザクション制御メッセージの受信処理に失敗しました。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。

### KFSB40913-E

リソースマネージャに残っていた未決着トランザクションをロールバックしました。 rmid = aa....aa, RM = bb....bb, XID = cc....cc  
Undetermined transactions remaining in a resource manager were rolled back. rmid = aa....aa, RM = bb....bb, XID = cc....cc (E+P+L) (3) (SUP)

リソースマネージャに決着していないトランザクションが残っていたため、強制的にロールバックしました。

aa....aa : TP1/EE がリソースマネージャに割り当てた ID

bb....bb : 該当するリソースマネージャ名 (リソースマネージャ拡張子を含む)

cc....cc : 該当するトランザクション識別子

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 次の事項について確認しても原因がわからないときは、保守員に連絡してください。

- 前回のオンラインで TP1/EE が正常終了していない場合、ステータスファイルが正しく定義されているかどうか、および TP1/EE を強制正常開始していないかどうか。
- RPC 関連定義の node\_id オペランドの指定を前回のオンライン時から変更していないかどうか。
- リソースマネージャの状態に問題がないかどうか。

### KFSB40914-E

リソースマネージャに TP1/EE が認識できない未決着トランザクションがあります。 rmid = aa....aa, RM = bb....bb, XID = cc....cc

An undetermined transaction that cannot be recognized by TP1/EE exists in a resource manager. rmid = aa....aa, RM = bb....bb, XID = cc....cc (E+P+L) (3) (SUP)

リソースマネージャ内に TP1/EE が認識できない未決着トランザクションがあります。

aa....aa : TP1/EE がリソースマネージャに割り当てた ID

bb....bb : 該当するリソースマネージャ名 (リソースマネージャ拡張子を含む)

cc....cc : 該当するトランザクション識別子

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 次の事項について確認しても原因がわからないときは、保守員に連絡してください。

- 前回のオンラインで TP1/EE が正常終了していない場合、ステータスファイルが正しく定義されているかどうか、および TP1/EE を強制正常開始していないかどうか。
- RPC 関連定義の node\_id オペランドの指定を前回のオンライン時から変更していないかどうか。
- リソースマネージャの状態に問題がないかどうか。

### KFSB40915-W

```
xa 関数の実行に失敗しました。cmd = aa....aa, rmid = bb....bb, RM = cc....cc, flags = dd....dd, rc = ee....ee, XID = ff....ff, dispo = gg....gg
```

```
An attempt to execute an xa function has failed. cmd = aa....aa, rmid = bb....bb, RM = cc....cc, flags = dd....dd, rc = ee....ee, XID = ff....ff, dispo = gg....gg (E+P+L) (4) (SUP)
```

トランザクションがリソースマネージャにないため、xa 関数の実行がエラーリターンしました。すでに決着済みのトランザクションであるか、またはリソースマネージャが強制正常開始され、トランザクション情報が回復されなかったおそれがあります。

aa....aa : xa 関数種別

bb....bb : TP1/EE がリソースマネージャに割り当てた ID

cc....cc : 該当するリソースマネージャ名 (リソースマネージャ拡張子を含む)

dd....dd : 該当する xa 関数の flags 引数

ee....ee : xa 関数のリターンコード

ff....ff : 該当するトランザクション識別子

gg....gg : トランザクションが実行する処理の種別

terminate : トランザクションを終了する

force : 処理を続行する

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** リターンコード、または該当するリソースマネージャの保守情報があれば、その情報を参照してください。必要があれば障害を取り除いてください。

## KFSB40950-E

```
SQL実行時にエラーが発生しました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 対象 = bb....bb, 表名 = cc....cc, DBMSメッセージ = dd....dd, SQLCODE = ee....ee, 詳細コード = ff....ff
```

```
An error occurred during SQL execution. UAP log information group name = aa....aa, object = bb....bb, table name = cc....cc, DBMS message = dd....dd, SQLCODE = ee....ee, detail code = ff....ff (E+P+L) (3) (SUP)
```

UAP履歴情報取得機能によるSQL実行時にエラーが発生しました。

**aa....aa** : UAP履歴情報グループ名

UAP履歴情報グループ名が不明な場合は、\*を表示します。

**bb....bb** : 処理の対象

0001 : グループ管理表

0002 : 履歴情報表

0003 : 通番割り当てルーチン

0004 : スワップ前処理ルーチン

0005 : スワップ後処理ルーチン

**cc....cc** : グループ管理表、履歴情報表の表名、またはストアドルーチン名

**dd....dd** : DBMSのエラーメッセージ

**ee....ee** : SQL実行時のSQLCA構造体の状態変数 (SQLCODE)

**ff....ff** : TP1/EEがトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)原因を取り除いて再実行してください。

**【対策】** 接続先のDBMSのバージョンが、TP1/EEが前提としているバージョンかどうかを確認してください。バージョンが正しい場合は、DBMSのエラーメッセージ、およびSQLCA構造体の状態変数を基に、DBMSのマニュアルを参照して原因を取り除いてください。

## KFSB40953-W

```
取得先ID情報定義に同一のUAP履歴情報グループ名称があります。取得先ID = aa....aa, UAP履歴情報グループ名 = bb....bb
```

The same UAP log information group name exists in the acquired destination ID information definition. acquired destination ID = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb  
(E+P+L) (4) (SUP)

TP1/FSP のトランザクション関連定義の `trnaphputid` 定義コマンドで指定する取得先 ID 情報定義で、UAP 履歴情報グループ名称が重複して指定されています。

**aa....aa** : 重複した UAP 履歴情報グループが所属する取得先 ID

**bb....bb** : 重複して指定した UAP 履歴情報グループ名

(S)先に指定された内容を有効とし、あとから指定された内容を無視して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/FSP のトランザクション関連定義の `trnaphputid` 定義コマンドで指定する取得先 ID 情報定義の内容を見直してください。

### KFSB40954-E

SQL 実行時にエラーが発生しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 対象 = bb....bb, 表名 = cc....cc, SQLCODE = dd....dd, SQLWARN = ee....ee, 詳細コード = ff....ff

An error occurred during SQL execution. UAP log information group name = aa....aa, object = bb....bb, table name = cc....cc, SQLCODE = dd....dd, SQLWARN = ee....ee, detail code = ff....ff (E+P+L) (3) (SUP)

SQL 実行時にエラーが発生しました。

**aa....aa** : UAP 履歴情報グループ名

UAP 履歴情報グループ名が不明な場合は、\*を表示します。

**bb....bb** : 処理の対象

0001 : グループ管理表

0002 : 履歴情報表

0003 : 通番割り当てルーチン

0004 : スワップ前処理ルーチン

0005 : スワップ後処理ルーチン

**cc....cc** : グループ管理表、履歴情報表の表名、またはストアドルーチン名

**dd....dd** : SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

**ee....ee** : SQL 実行時の SQLCA 構造体の警告情報 (sqlwarn0~sqlwarnf)

sqlwarn0 から sqlwarnf を連続で表示します。警告情報が空白のときは、\*を表示します。

**ff....ff** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報



(S)処理を続行します。

(O)原因を取り除いて再実行してください。

**【対策】** 接続先の DBMS のバージョンが、TP1/EE が前提としているバージョンかどうかを確認してください。バージョンが正しい場合は、SQLCA 構造体の状態変数と警告情報を基に、DBMS のマニュアルを参照して原因を取り除いてください。

### KFSB40955-W

以前のオンラインで使用した使用済の履歴情報表があります。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 使用済表数 = bb....bb

Some used log information table that previous online used exists. UAP log information group name = aa....aa, number of used tables = bb....bb (E+P+L) (4) (SUP)

オンラインを正常開始しましたが、UAP 履歴情報グループ内に以前のルート世代のオンラインで使用した履歴情報表が使用済みのまま残っています。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : 使用済みの履歴情報表の合計数

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/FSP の eeaphlsh コマンドで -t オプションを指定して履歴情報表の状態を確認します。その後、TP1/FSP の eeaphchgh コマンドで -c オプションに sby を指定して実行し、以前のオンラインで使用した履歴情報表の状態を使用済みから未使用に変更してください。

### KFSB40956-W

UAP 履歴情報メモリ通番機能を使用できません。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

Function of memory sequence for UAP log information is not available. UAP log information group name = aa....aa, reason code = bb....bb (E+P+L) (4) (SUP)

UAP 履歴情報メモリ通番機能を使用できません。トランザクション関連定義の trnaphgroup コマンドで指定した -m オプションは無効となります。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : 理由コード

MULTI\_ONLINE : オンライン共用機能を使用しています。

(S)UAP 履歴情報メモリ通番機能を使用しない状態で処理を続行します。



(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** UAP 履歴情報メモリ通番機能を使用する場合は TP1/EE を正常終了し、下記に示す理由コードに応じた対策を行ってください。その後、TP1/EE を起動してください。

理由コード	対策
MULTI_ONLINE	eeaphgrph コマンドの-n オプションに自プロセスのノード識別子だけ指定してグループ管理表を再作成してください。

### KFSB40957-W

開始時の表構成確認処理でエラーを検知しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error was detected when confirming table structure at startup. UAP log information group name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)

UAP 履歴情報取得機能による開始時の表構成確認処理でエラーを検知しました。

**aa....aa** : UAP 履歴情報グループ名

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cc....cc** : 詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	トランザクション関連定義の tm_aph_max_oj_size オペランド指定値の OJ 出力最大サイズに対して、履歴情報表のサイズが使用条件を満たしていない履歴情報表があります。	eeaphgrph コマンドの-z オプション指定値、および eeaphgrph コマンドまたは eeaphtblh コマンドの-c オプション指定値を見直してください。

### KFSB41000-W

予備ステータスファイルとして使用できないファイルがあります。グループ番号 = aa....aa, 物理ファイル名 = bb....bb, 理由コード = cccc

A file that cannot be used as a standby status file exists. group number = aa....aa, physical file name = bb....bb, reason code = cccc (E+P+L) (4) (SUP)

予備ステータスファイルとして使用できないファイルがあります。

aa....aa：使用できないファイルのファイルグループ番号

bb....bb：使用できないファイルのステータス物理ファイル名（14文字以内の英数字）

cccc：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0002	現用ステータスファイルとレコード数が不一致です。	予備ステータスファイルとして使用するファイルのレコード数を現用ステータスファイルのレコード数に合わせてください。

### KFSB41401-E

相手システムからの接続受付を拒否しました。論理端末名 = aa....aa, 接続 ID = bb....bb, 自 IP アドレス = cc....cc, 自ポート番号 = dd....dd, 相手 IP アドレス = ee....ee, 相手ポート番号 = ff....ff, 理由コード = gggg

Rejected connection acceptance from the other system. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb, local IP address = cc....cc, local port number = dd....dd, target IP address = ee....ee, target port number = ff....ff, reason code = gggg (E+P+L) (3) (SUP)

相手システム（クライアント）からの接続受付を拒否しました。

aa....aa：論理端末名

bb....bb：接続 ID

cc....cc：自 IP アドレス

dd....dd：自ポート番号

ee....ee：相手 IP アドレス

ff....ff：相手ポート番号

gggg：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)接続受付処理を中断し、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	該当コネクションはすでに確立済みです。	eemcplscn コマンドでコネクションの状態を確認してください。
0002	該当するコネクション定義がありません。	該当するコネクションを受け付ける場合は、MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpcn 定義コマンド) の-o オプションの内容を確認してください。
0003	未確立のコネクションがありません。	eemcplscn コマンドでコネクションの状態を確認してください。
0004	コネクションリプレースに失敗しました。	保守員に連絡してください。
0005	UAP または UOC の入れ替え中です。	なし。

### KFSB41471-W

受信スレッドの終了処理中に障害が発生しました。プロトコル種別 = aa....aa, 詳細コード 1 = bbbb, 詳細コード 2 = cc....cc

An error occurred while terminating the receiving thread. protocol type = aa....aa, detail code 1 = bbbb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)

受信スレッドの終了処理中に障害が発生しました。

aa....aa : プロトコル種別

TCP : TCP/IP プロトコル

UDP : UDP プロトコル

bbbb : MCP がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

### KFSB41472-E

サーバソケットの初期化に失敗しました。プロトコル種別 = aa....aa, 自 IP アドレス = bb....bb, 自ポート番号 = cc....cc, 理由コード = dddd, 詳細コード = ee....ee

Failed to initialize the server socket. protocol type = aa....aa, local IP address = bb....bb, local port number = cc....cc, reason code = dddd, detail code = ee....ee (E+P+L) (3) (SUP)

相手システム (クライアント) からのコネクションを受け付けるソケットの初期化処理に失敗しました。

aa....aa：プロトコル種別

TCP：TCP/IP プロトコル

bb....bb：自 IP アドレス

MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpcn 定義コマンド) の-r オプションで ipaddr オペランドまたは hostname オペランドを設定していない場合は、\*.\*.\*を表示します。

cc....cc：自ポート番号

dddd：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ee....ee：MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0003	想定外のエラーが発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB41473-E

相手システムとのコネクションに失敗しました。プロトコル種別 = aa....aa, 論理端末名 = bb....bb, コネクション ID = cc....cc, 自 IP アドレス = dd....dd, 自ポート番号 = ee....ee, 相手 IP アドレス = ff....ff, 相手ポート番号 = gg....gg, 理由コード = hhhh, 詳細コード = ii....ii

Failed to establish a connection to the other system. protocol type = aa....aa, logical terminal name = bb....bb, connection ID = cc....cc, local IP address = dd....dd, local port number = ee....ee, target IP address = ff....ff, target port number = gg....gg, reason code = hhhh, detail code = ii....ii (E+P+L) (3) (SUP)

相手システム (サーバ) にメッセージ送信要求を行うコネクションの確立に失敗しました。

aa....aa：プロトコル種別

TCP：TCP/IP プロトコル

bb....bb：論理端末名

cc....cc：コネクション ID

dd....dd：自 IP アドレス

MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpcn 定義コマンド) の-r オプションで ipaddr オペランドまたは hostname オペランドを設定していない場合は、\*.\*.\*を表示します。

ee....ee : 自ポート番号

MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpcn 定義コマンド) の-r オプションで portno オペランドを設定していない場合は, \*を表示します。

ff....ff : 相手 IP アドレス

gg....gg : 相手ポート番号

hhhh : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ii....ii : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0005	コネクションに失敗しました。	相手システム側の状態, または MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpcn 定義コマンド) の-o オプションの内容を確認してください。設定に問題がない場合は, 保守員に連絡してください。
0200	リトライ回数を超過しました。	相手システム側の状態, または MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpcn 定義コマンド) の-o オプションの内容を確認してください。また, eemcpcn 定義コマンドの-b オプションの concmptim, bretryint, bretrycnt オペランドの指定値を確認してください。
上記以外	上記以外のエラーが発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB41474-E

相手システムからのコネクション受付に失敗しました。プロトコル種別 = aa....aa, 論理端末名 = bb....bb, コネクション ID = cc....cc, 自 IP アドレス = dd....dd, 自ポート番号 = ee....ee, 相手 IP アドレス = ff....ff, 相手ポート番号 = gg....gg, 理由コード = hhhh, 詳細コード = ii....ii

Failed to accept a connection request from the other system. protocol type = aa....aa, logical terminal name = bb....bb, connection ID = cc....cc, local IP address = dd....dd, local port number = ee....ee, target IP address = ff....ff, target port number = gg....gg, reason code = hhhh, detail code = ii....ii (E+P+L) (3) (SUP)

相手システム (クライアント) からのコネクション要求の受け付けに失敗しました。

aa....aa : プロトコル種別

TCP : TCP/IP プロトコル

bb....bb : 論理端末名

論理端末名が特定できない場合は、\*を表示します。

cc....cc : コネクション ID

コネクション ID が特定できない場合は、\*を表示します。

dd....dd : 自 IP アドレス

エラーの内容によっては、\*.\*.\*を表示することがあります。

ee....ee : 自ポート番号

ff....ff : 相手 IP アドレス

相手 IP アドレスが特定できない場合は、0.0.0.0 を表示します。

gg....gg : 相手ポート番号

相手ポート番号が特定できない場合は、0 を表示します。

hhhh : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ii....ii : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0004	コネクションの受け付けに失敗しました。	次に示す原因が考えられます。解決しない場合は、保守員に連絡してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>コネクション要求元がコネクションを切断したことによる、一時的なタイミングであるため、処理に影響はありません。</li><li>プロセス関連定義 max_descriptors オペランドの設定値を見直し、設定値に問題がないか確認してください。設定値に問題がない場合は、システム全体のファイル識別子が枯渇しているおそれがあるので、不要なプロセスなどを終了し、空きファイル識別子を増やしてください。</li></ul>
0100	コネクション要求を受け付けるソケット数が不足しました。	保守員に連絡してください。
上記以外	上記以外のエラーが発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB41475-E

送信処理で障害が発生しました。プロトコル種別 = aa....aa, 論理端末名 = bb....bb, コネクション ID = cc....cc, 自 IP アドレス = dd....dd, 自ポート番号 = ee....ee, 相手 IP アドレス = ff....ff, 相手ポート番号 = gg....gg, 理由コード = hhhh, 詳細コード = ii....ii

An error occurred in the sending processing. protocol type = aa....aa, logical terminal name = bb....bb, connection ID = cc....cc, local IP address = dd....dd, local port number = ee....ee, target IP address = ff....ff, target port number = gg....gg, reason code = hhhh, detail code = ii....ii (E+P+L) (3) (SUP)

メッセージの送信処理で障害が発生しました。

**aa....aa** : プロトコル種別

TCP : TCP/IP プロトコル

UDP : UDP プロトコル

**bb....bb** : 論理端末名

**cc....cc** : コネクション ID

プロトコル種別が UDP の場合は, \*を表示します。

**dd....dd** : 自 IP アドレス

プロトコル種別が UDP の場合に, MCP 構成定義の論理端末定義 (eemcple 定義コマンド) の -r オプションで ipaddr オペランドまたは hostname オペランドを設定していない場合は, \*.\*.\*を表示します。

**ee....ee** : 自ポート番号

**ff....ff** : 相手 IP アドレス

**gg....gg** : 相手ポート番号

**hhhh** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**ii....ii** : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)送信処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0011	送信メッセージ長がシステムのメッセージ送信バッファ長を超えています。	MCP 構成定義の論理端末定義 (eemcple 定義コマンド) の -s オプションの syssndsize オペランドの設定値および OS の設定値を見直してください。設

理由コード	意味	対策
0011	送信メッセージ長がシステムのメッセージ送信バッファ長を超えています。	定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0022	ネットワーク障害が発生しました。	送信先システムが稼働しているかどうかを確認して、再実行してください。
0031	送信処理でタイムアウトを検知しました。	このあとに続けて出力される KFSB51403-E メッセージに従って対策してください。
0032		
0100	上記以外のエラーが発生しました。	送信メッセージ内の制御ヘッダに指定した相手 IP アドレスまたは相手ポート番号の値を見直してください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
9000	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB41476-E

バッファの確保に失敗しました。プロトコル種別 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 対象領域コード = ccc, 詳細コード = dd....dd  
Failed to secure a buffer. protocol type = aa....aa, reason code = bbbb, target area code = ccc, detail code = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

受信処理でバッファの確保に失敗しました。

**aa....aa** : プロトコル種別

TCP : TCP/IP プロトコル

UDP : UDP プロトコル

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**ccc** : 対象領域コード

IBF : 受信バッファ

**dd....dd** : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)受信処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0011	対象領域コードで示すバッファ数が不足しました。	対象領域コードが IBF の場合、メモリ関連定義の recv_message_buf_cnt オペランドの設定値を見直して、再実行してください。



理由コード	意味	対策
9000	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB41477-E

受信処理で障害が発生しました。プロトコル種別 = aa....aa, 論理端末名 = bb....bb, コネクション ID = cc....cc, 自 IP アドレス = dd....dd, 自ポート番号 = ee....ee, 相手 IP アドレス = ff....ff, 相手ポート番号 = gg....gg, 理由コード = hhhh, 詳細コード = ii....ii

An error occurred in the receiving processing. protocol type = aa....aa, logical terminal name = bb....bb, connection ID = cc....cc, local IP address = dd....dd, local port number = ee....ee, target IP address = ff....ff, target port number = gg....gg, reason code = hhhh, detail code = ii....ii (E+P+L) (3) (SUP)

メッセージの受信処理で障害が発生しました。

**aa....aa** : プロトコル種別

TCP : TCP/IP プロトコル

UDP : UDP プロトコル

**bb....bb** : 論理端末名

**cc....cc** : コネクション ID

プロトコル種別が UDP の場合は, \* を表示します。

**dd....dd** : 自 IP アドレス

プロトコル種別が UDP の場合に, MCP 構成定義の論理端末定義 (eemcple 定義コマンド) の -r オプションで ipaddr オペランドまたは hostname オペランドを設定していない場合は, \*.\*.\* を表示します。

**ee....ee** : 自ポート番号

**ff....ff** : 相手 IP アドレス

プロトコル種別が UDP の場合で相手 IP アドレスが特定できない場合は, 0.0.0.0 を表示します。

**gg....gg** : 相手ポート番号

プロトコル種別が UDP の場合で相手ポート番号が特定できない場合は, 0 を表示します。

**hhhh** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**ii....ii** : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)受信処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	後続セグメント待ちタイムアウト	UOC の後続メッセージ監視タイマの設定値を見直してください。
0022	ネットワーク障害が発生しました。	ネットワーク環境を確認して、再実行してください。

## KFSB41478-E

ソケットの初期化に失敗しました。プロトコル種別 = aa....aa, 論理端末名 = bb....bb, コネクション ID = cc....cc, 自 IP アドレス = dd....dd, 自ポート番号 = ee....ee, 相手 IP アドレス = ff....ff, 相手ポート番号 = gg....gg, 理由コード = hhhh, 詳細コード = ii....ii

Failed to initialize the socket. protocol type = aa....aa, logical terminal name = bb....bb, connection ID = cc....cc, local IP address = dd....dd, local port number = ee....ee, target IP address = ff....ff, target port number = gg....gg, reason code = hhhh, detail code = ii....ii (E+P+L) (3) (SUP)

ソケットの初期化処理に失敗しました。

aa....aa : プロトコル種別

UDP : UDP プロトコル

bb....bb : 論理端末名

cc....cc : コネクション ID

プロトコル種別が UDP の場合は, \* を表示します。

dd....dd : 自 IP アドレス

MCP 構成定義の論理端末定義 (eemcple 定義コマンド) の -r オプションで ipaddr オペランドまたは hostname オペランドを設定していない場合は, \*.\*.\* を表示します。

ee....ee : 自ポート番号

ff....ff : 相手 IP アドレス

\*.\*.\* を表示します。

gg....gg : 相手ポート番号

\* を表示します。

hhhh : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ii....ii : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ソケットの生成に失敗しました。	プロセス関連定義の max_descriptors オペランドの設定値を見直してください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0002	自 IP アドレスと自ポート番号のソケットへの割り当てに失敗しました。	MCP 構成定義の論理端末定義 (eemcple 定義コマンド) の-r オプションの ipaddr オペランド, hostname オペランドまたは portno オペランドの設定値を見直してください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0007	メッセージ受信バッファ長の設定に失敗しました。	MCP 構成定義の論理端末定義 (eemcple 定義コマンド) の-s オプションの sysrcvsize オペランドの設定値を見直してください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0008	メッセージ送信バッファ長の設定に失敗しました。	MCP 構成定義の論理端末定義 (eemcple 定義コマンド) の-s オプションの syssndsize オペランドの設定値を見直してください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0009	ソケットオプション「SO_REUSEADDR」の設定に失敗しました。	MCP 構成定義の論理端末定義 (eemcple 定義コマンド) の-k オプションの reuseaddr オペランドの設定値を見直してください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0018	マルチキャストメッセージを受信するポストグループまたは自 IP アドレスの設定に失敗しました。	MCP 構成定義の論理端末定義 (eemcple 定義コマンド) の-m オプションの hostgroupname オペランド, hostgroupaddr オペランド, ripaddr オペランドまたは rhostname オペランドの設定値を見直してください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0019	マルチキャストメッセージを送信する自 IP アドレスの設定に失敗しました。	MCP 構成定義の論理端末定義 (eemcple 定義コマンド) の-r オプションの ipaddr オペランドまたは hostname オペランドの設定値を見直してください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0020	マルチキャストパケットの生存期間の設定に失敗しました。	MCP 構成定義の論理端末定義 (eemcple 定義コマンド) の-m オプションの multicastttl オペランドの設定値を見直してください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
上記以外	上記以外のエラーが発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB41479-E

受信スレッドへの通知に失敗しました。プロトコル種別 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc

```
Failed to send a notice to the receiving thread. protocol type = aa....aa, reason code = bbbb,  
detail code = cc....cc (E+P+L) (3) (SUP)
```

受信スレッドへの通知に失敗しました。

**aa....aa** : プロトコル種別

TCP : TCP/IP プロトコル

UDP : UDP プロトコル

**bbbb** : MCP がトラブルシュートで使用する情報

**cc....cc** : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 保守員に連絡してください。

### KFSB41480-E

```
クライアント接続の初期化に失敗しました。プロトコル種別 = aa....aa, 論理端末名 =  
bb....bb, コネクション ID = cc....cc, 自 IP アドレス = dd....dd, 自ポート番号 = ee....ee, 相手 I  
P アドレス = ff....ff, 相手ポート番号 = gg....gg, 理由コード = hhhh, 詳細コード = ii....ii
```

```
Failed to initialize the client connection. protocol type = aa....aa, logical terminal name =  
bb....bb, connection ID = cc....cc, local IP address = dd....dd, local port number = ee....ee,  
target IP address = ff....ff, target port number = gg....gg, reason code = hhhh, detail code =  
ii....ii (E+P+L) (3) (SUP)
```

相手システム (サーバ) にメッセージ送信要求を行う接続の初期化処理に失敗しました。

**aa....aa** : プロトコル種別

TCP : TCP/IP プロトコル

**bb....bb** : 論理端末名

**cc....cc** : コネクション ID

**dd....dd** : 自 IP アドレス

MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpcn 定義コマンド) で -r オプションの ipaddr オペランドまたは hostname オペランドを設定していない場合は, \*.\*.\* を表示します。

**ee....ee** : 自ポート番号

MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpcn 定義コマンド) で -r オプションの portno オペランドを設定していない場合は, \* を表示します。

**ff....ff** : 相手 IP アドレス

gg....gg : 相手ポート番号

hhhh : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ii....ii : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ソケットの生成に失敗しました。	プロセス関連定義の max_descriptors オペランドの設定値を見直してください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0002	自 IP アドレスと自ポート番号のソケットへの割り当てに失敗しました。	MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpn 定義コマンド) の -r オプションを設定している場合は、設定値を見直してください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
上記以外	上記以外のエラーが発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB41481-E

無通信状態監視中にタイムアウトが発生しました。プロトコル種別 = aa....aa, 論理端末名 = bb....bb, コネクション ID = cc....cc, 自 IP アドレス = dd....dd, 自ポート番号 = ee....ee, 相手 IP アドレス = ff....ff, 相手ポート番号 = gg....gg, 監視時間 = hh....hh

Timeout occurred while monitoring state of silent traffic. protocol type = aa....aa, logical terminal name = bb....bb, connection ID = cc....cc, local IP address = dd....dd, local port number = ee....ee, target IP address = ff....ff, target port number = gg....gg, watch time = hh....hh (E+P+L) (3) (SUP)

無通信状態監視中にタイムアウトが発生しました。コネクションを強制解放します。

aa....aa : プロトコル種別

TCP : TCP/IP プロトコル

bb....bb : 論理端末名

cc....cc : コネクション ID

dd....dd : 自 IP アドレス

ee....ee : 自ポート番号

ff....ff : 相手 IP アドレス

gg....gg : 相手ポート番号

hh....hh : TP1/EE/MCP 構成定義のコネクション定義 eemcpn オペランドの-k オプションの notftime で指定した、無通信状態監視時間

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** MCP 構成定義のコネクション定義 eemcpn オペランドの-k オプションの notftime 指定値が正しいか見直してください。

### KFSB41801-W

定義解析処理中にエラーが発生しました。2重定義がありました。1つ目の定義を有効とし処理を続行します。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, オペランド名 = cc....cc

An error occurred during definition analysis. An entry is defined twice. The system uses the first entry and continues processing. file name = aa....aa, line = bb....bb, operand name = cc....cc (E) (4) (SUP)

複数指定できないオペランドが複数回指定されました。先に指定された内容を有効にします。あとから指定された内容は無視します。

aa....aa : 障害が発生したファイルの絶対パス

bb....bb : 複数回指定されたオペランドが出現する行数

cc....cc : 複数回指定されたオペランド名

(S)定義解析処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義ファイル中の cc....cc オペランドの指定を見直してください。

### KFSB41802-W

定義解析処理中にエラーが発生しました。設定値を複数指定しています。1つ目の設定値を有効とし処理を続行します。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, オペランド名 = cc....cc

An error occurred during definition analysis. Multiple values have been set. The system uses the first value and continues processing. file name = aa....aa, line = bb....bb, operand name = cc....cc (E) (4) (SUP)

複数の値を指定できないオペランドに複数の値が指定されています。先に指定された値を有効にします。あとから指定された値は無視して処理を続行します。

aa....aa : 障害が発生したファイルの絶対パス

bb....bb : 複数の値を指定されたオペランドが出現する行数

cc....cc : 複数の値を指定されたオペランド名

(S)定義解析処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 定義ファイル中の cc....cc オペランドの指定を見直してください。

### KFSB41803-W

定義解析処理中にエラーが発生しました。オペランド設定値の最後に不要なカンマがありますが、処理を続行します。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, オペランド名 = cc....cc

An error occurred during definition analysis. An operand value is followed by an unnecessary comma, but the system continues processing. file name = aa....aa, line = bb....bb, operand name = cc....cc (E) (4) (SUP)

オペランドの指定値の最後に不要なコンマがありますが、無視して処理を続行します。

aa....aa : 障害が発生したファイルの絶対パス

bb....bb : 不要なコンマのあるオペランドが出現する行数

cc....cc : 不要なコンマのあるオペランド名

(S)定義解析処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 定義ファイル中の cc....cc オペランドの指定を見直してください。

### KFSB41804-E

運用コマンド実行機能使用中にエラーが発生しました。理由コード 1 = aa....aa, 理由コード 2 = bb....bb

An error occurred while the operation command execution function was being used. reason code 1 = aa....aa, reason code 2 = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)

運用コマンド実行機能使用中に障害が発生しました。

aa....aa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : ee\_rpc\_call 関数のリターンコード

(S)ee\_adm\_call\_command 関数は通信エラーでエラーリターンします。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1	運用コマンド実行サーバとの通信中に障害が発生しました。	ee_rpc_call 関数のリターンコードに従って環境を見直し、再実行してください。

### KFSB41808-W

UAP 共用ライブラリ格納ディレクトリ名に同一のディレクトリ名を指定しています。UAP 共用ライブラリ格納ディレクトリ名 = aa....aa

In a UAP common library storage directory name a duplicate directory name has been specified. UAP common library storage directory name = aa....aa (E) (4) (SUP)

TP1/FSP のユーザサービス関連定義の module\_dir オペランド、または static\_module\_dir オペランドに、UAP 共用ライブラリ格納ディレクトリ名が重複して指定されています。2 回目以降に指定されたディレクトリ名は無視されます。

aa....aa : UAP 共用ライブラリ格納ディレクトリ名

(S)処理を継続します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/FSP のユーザサービス関連定義の module\_dir オペランド、または static\_module\_dir オペランドの指定を見直して、TP1/EE を再起動してください。

### KFSB42000-W

パラメタで指定された表情報はありません。制御文 = aa....aa, オペランド名 = bb....bb, オペランド値 = cc....cc

Table information specified in the parameters does not exist. control statement = aa....aa, operand name = bb....bb, operand value = cc....cc (P+L) (4) (NOS)

データ連携支援の開始時に、開始パラメタで指定した値が、グループ管理表にはありません。

aa....aa : 制御文 (CONTROL 文, INPUT 文, または OUTPUT 文)

bb....bb : オペランド名

cc....cc : オペランド値

(S)処理を続行します。



(O)必要に応じて、表示されたオペランド値を修正し、データ連携支援を再実行してください。

【対策】なし。

### KFSB42001-W

```
グループ管理表が更新されるまで待ちます。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, ルート世代番号 = bbbbbbbb, 要因 = cc....cc  
Now waiting for the group management table to be updated. UAP log information group name = aa....aa, root generation number = bbbbbbbb, cause = cc....cc (P+L) (4) (NOS)
```

グループ管理表に対するオンライン (TP1/EE) 側からの情報の出力がないため、データ抽出処理が待たされました。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bbbbbbbb : ルート世代番号 (8 けたの 16 進数)

cc....cc : 要因

PLAN END : 対応するオンラインが計画停止しています。

UNKNOWN : 対応するオンラインが異常終了しているか、または何らかの理由で UAP 履歴情報取得機能が動作していません。

(S)グループ管理表に情報が出力されるまで待ちます。

(O)必要に応じて抽出処理待ちとなった要因から、対応するオンラインでの処置をしてください。

【対策】なし。

### KFSB42002-W

```
共有メモリがありません。セグメント識別子 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc  
The shared memory does not exist. segment identifier = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (P+L) (4) (NOS)
```

共有メモリがありません。

aa....aa : 共有メモリのセグメント識別子

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	共有メモリのアタッチに失敗、または共有メモリのアタッチ時に、内部矛盾が発生しました。 新たに共有メモリを確保して、処理を続行します。	CONTROL 文の SHMID オペランドの指定に誤りがある場合は、正しい形式でデータ連携支援を再実行してください。
0002	共有メモリの形式が不一致です。 新たに共有メモリを確保して、処理を続行します。	
0003	データ連携支援 ID が不一致です。 新たに共有メモリを確保して、処理を続行します。	CONTROL 文の RKSID オペランドの指定に誤りがある場合は、正しい形式でデータ連携支援を再実行してください。
0004	共有メモリの状態が開始処理中であるため、参照する必要がありません。 既存の共有メモリを初期化して処理を続行します。	前回起動時に異常終了していた場合は、対策は不要です。 それ以外の場合は、保守員に連絡してください。

### KFSB42003-W

引継ぎファイルに障害が発生しました。理由コード = aaaa, ファイル名 = bb...bb, 詳細コード = cc...cc

An error occurred in the handoff file. reason code = aaaa, file name = bb...bb, detail code = cc...cc (P+L) (4) (NOS)

引継ぎファイルに障害が発生しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb...bb** : ファイル名

引継ぎファイル名を表示します。

**cc...cc** : 詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)理由コードが 0001~0003 の場合、引継ぎファイルを使用不可にして処理を続行します。そのほかの理由コードについては、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ファイル状態の取得に失敗しました。 (stat エラー)	ディスク容量不足、ファイルディスクリプタ不足、ファイルの作成権限があるか、ファイルシステムに異常がないかを確認してください。
0002	ファイルのオープンに失敗しました。	

理由コード	意味	対策
0002	(open エラー)	ディスク容量不足, ファイルディスクリプタ不足, ファイルの作成権限があるか, ファイルシステムに異常がないかを確認してください。
0003	ファイルの書き込みに失敗しました。 (write エラー)	
0004	ファイルの読み込みに失敗しました。引継ぎファイルが壊れている可能性があるため, 再作成します。 (read エラー)	
0010	引継ぎファイルが削除されています。	なし。
0011	引継ぎファイルが壊れていたため, 再作成します。	なし。

## KFSB42005-W

U J 抽出処理を一時中断しています。理由コード = aa....aa, 使用数 = bb....bb

UJ extraction processing was canceled temporarily. reason code = aa....aa, number of usages = bb....bb (P+L) (4) (SUP)

U J 抽出処理を一時中断しています。

**aa....aa** : 理由コード

理由コードの意味を表に示します。

**bb....bb** : 使用数

表示される使用数を表に示します。

(S)U J 抽出処理を一時中断し, 使用数が減少するのを待ちます。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コードと使用数, 対策を次に示します。

理由コード	意味	使用数	対策
0001	トランザクション数が最大値に達しました。	trn_rks_max_trn_num 定義値	trn_rks_max_trn_num 定義値を見直してください。または編集・反映 UOC 処理に時間が掛かっているか確認してください。
0002	サービス処理キューの使用数が最大値に達しました。	pce_no 定義値	pce_no 定義値を見直してください。または編集・反映 UOC 処理に時間が掛かっているか確認してください。
0003	UOC インタフェース領域の確保に失敗しました。	確保に成功した領域数	使用数が trn_rks_max_trn_num 定義値と同値の場合, 理由コード 0001 の対策と同様です。

理由コード	意味	使用数	対策
0003	UOC インタフェース領域の確保に失敗しました。	確保に成功した領域数	不一致の場合は OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB42006-W

リラン時変更不可定義の退避処理で障害が発生しました。理由コード = aa....aa, 定義種別 = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred in the back-up processing of the unchangeable definition when re-running.  
reason code = aa....aa, definition type = bb....bb, detail code = cc....cc (P+L) (4) (SUP)

リラン時変更不可定義の退避処理で障害が発生しました。

**aa....aa** : 理由コード

理由コードの意味を表に示します。

**bb....bb** : 障害が発生した定義種別

trn : 次のオペランドで障害が発生しました。

- trnrks\_service

dbq : 次のオペランドで障害が発生しました。

- dbq\_use
- dbqgrpdef
- dbqdef

**cc....cc** : 詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)理由コードに応じたメッセージ出力後の処理を表に示します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	メッセージ出力後の処理	対策
0001	前回起動時の定義情報取得に失敗しました。	今回起動時の定義情報で動作します。	ディスク容量不足, ファイルディスクリプタ不足, ファイルの作成権限があるか, ファイルシステムに異常がないかを確認してください。  OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。
0002	今回起動時の定義情報の退避に失敗しました。	処理を続行します (再開時に前回定義との定義チェックが行えない場合があります)。	
0003	引継ぎ領域のメモリ確保に失敗しました。		

## KFSB42007-W

同じ反映サービス名が trnrks\_service 定義に定義されています。反映サービス名 = aa....aa  
The same reflect service name is defined in the trnrks\_service definition. reflect service name = aa....aa (P+E) (4) (SUP)

-s オプション指定値が同じ trnrks\_service 定義が定義されています。最初に定義されている trnrks\_service 定義を有効とします。

aa....aa : 反映サービス名

(S)最初に定義されている trnrks\_service 定義を有効とし、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** データ連携支援関連定義の trnrks\_service 定義の-s オプション指定値を見直して、データ連携支援を再実行してください。

## KFSB42008-W

読み出し UJ 指定の再開始指示は既に行われています。  
Instructions to restart the specification of the retrieval UJ have already been issued (P+L)  
(4) (SUP)

以前、反映先指定 UOC で再開始（読み出し UJ 指定）指示をしているため、今回の再開始（読み出し UJ 指定）指示は無効です。

(S)再開始（読み出し UJ 指定）指示を無効として、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 反映先指定 UOC を見直して、データ連携支援を再実行してください。

## KFSB44300-W

ユーザ公開テーブルの保護に失敗しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc  
A public table could not be protected. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)

ユーザ公開テーブルの保護に失敗しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

### KFSB44301-W

複数のRMに同一のSDB名称が存在します。RM名称1 = aa....aa, RM名称2 = bb....bb, SDB名称 = cc....cc

Multiple RMs have the same SDB name. RM name 1 = aa....aa, RM name 2 = bb....bb, SDB name = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)

複数のリソースマネージャ内に同一のSDB名称が存在しています。

aa....aa : リソースマネージャ名1

bb....bb : リソースマネージャ名2

cc....cc : SDB名称

(S)リソースマネージャ名2の構造型データベースをSDBハンドラ機能の対象外に設定して、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** それぞれのリソースマネージャに定義されている構造型データベースを確認してください。または、トランザクション関連定義のtrnstring定義コマンドの指定値を見直して、TP1/EEを再起動してください。

### KFSB44302-W

RDエリア名称が指定されていません。環境変数名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

No RDAREA name was specified. environment variable name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)

環境変数にRDエリア名称が指定されていません。

aa....aa : 環境変数名

EESDHRDA : RDエリア名称を指定する環境変数

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EEがトラブルシュートで使用する情報

(S)RD エリア名称の指定なし（環境変数 EESDHRDAOPT に N を指定した場合と同じ動作）として、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	環境変数 EESDHRDAOPT に M を指定してしますが、RD エリア名称が指定されていません。	環境変数 EESDHRDA を指定してください。または、指定された値を確認してください。その後、TP1/EE を再起動してください。

### KFSB44303-W

指定された RD エリア名称内に不正な RD エリア名称が存在します。RD エリア名称 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd

The specified RDAREA names include an invalid name. RDAREA name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (E+P+L) (4) (SUP)

指定された RD エリア名称内に、不正な RD エリア名称が存在します。

**aa....aa** : RD エリア名称

「RD エリア名称 (RD エリア名称サイズ)」の形式で表示します。

RD エリア名称が 32 バイトより長い場合は、33 バイト以降を...で表示します。

RD エリア名称が 0 バイトの場合は、\* (0) を表示します。

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**dd....dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)不正な RD エリア名称は無視し、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	RD エリア名称のサイズが不正です。	RD エリア名称を確認してください。その後、TP1/EE を再起動してください。
0002	存在しない RD エリア名称です。	

### KFSB45008-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード = aa....aa

An internal contradiction occurred. detail code = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

TP1/EE で予期しない障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)直後に出力するメッセージを参照してください。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

### KFSB45009-W

定義で指定されたポート番号が使用中であったため、他のポート番号を使用します。ポート番号 = aa....aa

Another port number is being used because the port number specified in the definition is busy.  
port number = aa....aa (E) (4) (SUP)

システム定義の cmd\_port オペランドで指定したポート番号は使用中です。空いているほかのポート番号を使用します。

aa....aa : 起動に使用したポート番号

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/EE サービス定義の cmd\_port オペランドに、使用できるポート番号を指定してください。

### KFSB45010-W

U A P 共用ライブラリのクローズ処理で障害が発生しました。ライブラリ名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

An error occurred during the closing of the UAP common libraries. library name = aa....aa,  
detail code = bb....bb (E+P+L) (4) (NOS)

UAP 共用ライブラリのクローズ処理で障害が発生しました。

aa....aa : ライブラリ名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。



## KFSB45103-W

メモリ解放処理に失敗しました。詳細コード = aa....aa

An attempt to release memory has failed. detail code = aa....aa (E) (4) (SUP)

TP1/EE プロセスの終了処理で、メモリの解放処理に失敗しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)終了処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB45105-W

セグメントの使用率が超過しました。セグメント種別 = aa....aa, 確保数 = bb....bb, 最大使用率 = cc....cc

The use ratio of segments has exceeded the limit. segment type = aa....aa, number of allocations = bb....bb, maximum use ratio = cc....cc (P+L) (4) (SUP)

TP1/EE サービス定義で指定した次のセグメントまたはセグメント用領域の使用率が、TP1/EE サービス定義の memory\_alert\_rate オペランドの指定値を超えました。

aa....aa : 超過したセグメントの種別

CBLPOOL : メモリ関連定義の memory\_cobol\_area\_size オペランドの指定値

EIT : メモリ関連定義の user\_work\_size オペランドの指定値

EPBF : (プロセス関連定義の thread\_no オペランドの指定値 + プロセス関連定義の reserve\_thread\_no オペランドの指定値 + (TP1/FSP のタイマ関連定義の tim\_perm\_thread\_no オペランドの指定値 + 1) + 1) × 2

ETBF : プロセス関連定義の thread\_no オペランドの指定値 + プロセス関連定義の reserve\_thread\_no オペランドの指定値 + (TP1/FSP のタイマ関連定義の tim\_perm\_thread\_no オペランドの指定値 + 1) + 2

IBF : メモリ関連定義の recv\_message\_buf\_cnt オペランドの指定値

ICB : メモリ関連定義の icb\_no オペランドの指定値

MPSPPOOL : メモリ関連定義の memory\_mdpsys\_area\_size オペランドの指定値

MPUPPOOL : メモリ関連定義の memory\_mdpusr\_area\_size オペランドの指定値

OBF : メモリ関連定義の send\_message\_buf\_cnt オペランドの指定値

OBMPOOL : メモリ関連定義の memory\_obm\_area\_size オペランドの指定値

PCE : メモリ関連定義の pce\_no オペランドの指定値

QIBF : メモリ関連定義の dbq\_recv\_message\_buf\_cnt オペランドの指定値

QOBF : メモリ関連定義の dbq\_send\_message\_buf\_cnt オペランドの指定値

QWBF：メモリ関連定義の dbq\_use\_buf\_cnt オペランドの指定値

RIT：メモリ関連定義の system\_work\_size オペランド, user\_work\_size オペランド, および max\_mem\_size オペランドの指定値

SIT：メモリ関連定義の system\_work\_size オペランドの指定値

TTBF：メモリ関連定義の time\_message\_no オペランドの指定値

UIBF：メモリ関連定義の udp\_recv\_message\_buf\_cnt オペランドの指定値

UOBF：メモリ関連定義の udp\_send\_message\_buf\_cnt オペランドの指定値

XDBPOOL：メモリ関連定義の memory\_xdb\_area\_size オペランドの指定値

XTCPOOL：メモリ関連定義の memory\_xtc\_area\_size オペランドの指定値

**bb....bb**：該当するセグメントの確保数

セグメントの種別が CBLPOOL, EIT, MPSPPOOL, MPUPOOL, OBMPOOL, RIT, SIT, XDBPOOL, または XTCPOOL の場合は, セグメント用領域の最大サイズ (単位: バイト) です。

**cc....cc**：最大使用率

該当するセグメントの確保数に対する最大の使用率 (単位: %) です。

(S)終了処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 表示されたセグメント種別の TP1/EE サービス定義の設定値を見直してください。

## KFSB45107-W

次のメモリ管理機能使用設定がありましたがオンライン中に使用されませんでした。プール名称 = aa....aa

The setting for using the memory management function has not been used during online processing. pool name = aa....aa (P+L) (4) (SUP)

aa....aa で示したメモリ管理機能を使用する指定がありましたが, オンライン中に該当する領域のメモリが使用されませんでした。

**aa....aa**：プール名称

CBLPOOL：COBOL 用メモリ管理機能

EIT：ユーザ用ワーク領域

MPSPPOOL：大量処理用システムメモリ管理機能

MPUPOOL：大量処理用ユーザメモリ管理機能

OBMPOOL：OBM 機能用メモリ管理機能

XDBPOOL：XDB 用ワーク領域

XTCPOOL：XTC 用ワーク領域

(S)終了処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 出力されたプール名称によって次の対策をしてください。

プール名称が EIT の場合

ユーザ用ワーク領域が必要でなければ、メモリ関連定義の user\_work\_size オペランドに 0 を指定してください。

プール名称が CBLPOOL, MPSPPOOL, MPUPOOL, OBMPOOL, XDBPOOL, または XTCPOOL の場合

該当する製品向けのメモリ管理機能が必要な場合は、該当する製品の設定を見直してください。該当する製品向けのメモリ管理機能が不要な場合は、メモリ関連定義の memory\_xxxxx\_area\_size オペランドの指定を削除してください。

### KFSB45109-W

```
ユーザメモリダンプの即時出力でファイル出力に失敗しました。理由コード = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc, 詳細コード 3 = dd....dd  
An attempt to write user-memory-dump-file has failed. reason code = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc, detail code 3 = dd....dd (E+P+L) (4) (SUP)
```

ユーザメモリダンプの即時出力でファイル出力に失敗しました。

**aa....aa** : 理由コード

- 0001 : ファイルのオープンに失敗
- 0002 : ファイルへの出力に失敗
- 0003 : ファイルのクローズに失敗

**bb....bb** : 詳細コード 1

- 理由コードが 0001 の場合 : open システムコールの errno
- 理由コードが 0002 の場合 : write システムコールの errno
- 理由コードが 0003 の場合 : close システムコールの errno

**cc....cc** : 詳細コード 2

ファイル出力に成功した場合にアイキャッチャへ出力する予定の通番 (0 パディングなし)。

**dd....dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)該当する関数でのユーザメモリダンプの即時出力処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 詳細コード 1 に表示された errno に従って要因を取り除いてください。

なお、理由コードが 0002, または 0003 の場合、出力ファイルの内容は不完全です。

## KFSB45300-E

内部関数で障害が発生しました。理由コード = aaaa, サイズ = bb....bb, 詳細コード 1 = cccccccc, 詳細コード 2 = dddddddd, 詳細コード 3 = eeeeeeee

An error has occurred in an internal function. reason code = aaaa, size = bb....bb, detail code 1 = cccccccc, detail code 2 = dddddddd, detail code 3 = eeeeeeee (E+P+L) (3) (SUP)

TP1/EE 内の内部関数で障害が発生しました。

**aaaa** : 理由コード

- 0001 : システムリソース (メモリ) 不足
- 0002 : システムリソース (メモリ以外) 不足
- 0012 : TP1/EE システムテーブル不足
- 9999 : 上記以外

**bb....bb** : サイズ (10 進表記)

領域不足時に不足サイズが表示されます (単位: バイト)。領域不足以外の障害, または不足サイズが特定できない場合は, -1 が表示されます。

**cccccccc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**dddddddd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**eeeeeeee** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	対策
0001	物理メモリを増設するか, ページングスペースサイズを拡張するか, または不要なプログラムを終了するかしてください。
0002	不要なプログラムを終了させてください。
0012	メモリ関連定義の max_mem_size オペランドの指定値を見直してください。
9999	保守員に連絡してください。

## KFSB45310-E

時刻の同期に失敗しました。詳細コード 1 = aaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb

An attempt to synchronize the time has failed. detail code 1 = aaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbb (E+P+L) (3) (SUP)

TP1/EE 内の時刻とマシン時刻の同期に失敗しました。TP1/EE が出力するメッセージなどに含まれる時刻と、マシン時刻に誤差が生じるおそれがあります。

aaaaaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** このメッセージが多発する場合は、保守員に連絡してください。

### KFSB45311-W

時刻の誤差が 1 秒以上あります。マシン時刻 = aa....aa, プロセス内時刻 = bb....bb

The time error is one second or more. machine time = aa....aa, time in process = bb....bb

(E+P+L) (4) (SUP)

TP1/EE 内の時刻とマシン時刻の同期の結果、1 秒以上の誤差がありました。

aa....aa : マシン時刻 (10 進表記)

bb....bb : プロセス内時刻 (10 進表記)

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** TP1/EE 動作中にマシン時刻を変更している場合、またはマシン内の負荷 (CPU, ファイル入出力など) が大きい場合に、この現象が発生します。どちらにも当てはまらないのにこのメッセージが多発する場合は、保守員に連絡してください。

### KFSB45320-W

定義で設定したファイル識別子の最大数が、拡張可能なファイル識別子の上限数を超過しています。

ファイル識別子の最大数 = aa....aa

The maximum number of file descriptors specified in a definition has exceeded the upper limit for the number of file descriptors allowed in an increase. maximum number of file descriptors

= aa....aa (E+P+L) (4) (SUP)

定義で設定したファイル識別子の最大数 (プロセス関連定義の max\_descriptors オペランドの指定値) が、拡張できるファイル識別子の上限数を超過しています。拡張できる上限数まで、ファイル識別子の最大数を拡張します。

aa....aa : 拡張できるファイル識別子の最大数 (10 進表記)

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 拡張できるファイル識別子の上限数は、プラットフォームによって異なります。上限数を変更できる場合は、上限数を増やしてください。

**【Linux 限定】**

プロセス関連定義の「max\_descriptors」オペランドに 1024 よりも大きい値を指定している場合は、TP1/SB のユーザサービス定義にある setrlimit\_nofile オペランドの設定も見直してください。

上限数を変更できない場合は、プロセス関連定義の max\_descriptors オペランドの指定値を見直してください。

### KFSB45321-E

ファイル識別子の最大数の拡張に失敗しました。詳細コード 1 = aaaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb

An attempt to increase the maximum number of file descriptors has failed. detail code 1 = aaaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbb (E+P+L) (3) (SUP)

ファイル識別子の最大数の拡張に失敗しました。

aaaaaaaa: TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbbbbbb: TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

### KFSB45325-W

エントリポインタ未登録の為、トランザクションを登録できませんでした。トランザクション種別 = aa

A transaction could not be registered because the entry pointer was not registered. transaction type = aa (E+P+L) (4) (SUP)

エントリポインタを登録していないため、トランザクションを登録できませんでした。

aa: トランザクション種別

E3: エラートランザクション 3

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するトランザクションに対する処理が不要な場合は、このメッセージは無視してください。処理が必要な場合は、エントリポインタを追加し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB45330-W

トランザクション処理時間監視でタイムアウトを検出しました。 I F A 番号 = aa....aa, ユーザサーバ名称 = bb....bb, 中央処理通番 = cc....cc, トランザクション種別 = dd, サービス名 = ee....ee  
A timeout error was detected while the transaction processing time was being monitored. IFA number = aa....aa, user server name = bb....bb, central processing number = cc....cc, transaction type = dd, service name = ee....ee (E+P+L) (4) (SUP)

トランザクション処理時間監視でタイムアウトを検出しましたが、プロセスダウンまたはスレッドダウンしないで処理を続行します。

**aa....aa** : タイムアウトが発生したスレッドの IFA 番号 (10 進表記)

**bb....bb** : タイムアウトが発生したプロセスのユーザサーバ名

**cc....cc** : 中央処理通番\* (16 進表記)

タイムアウトが発生したトランザクションの中央処理通番を表示します。

**dd** : トランザクション種別\*

タイムアウトが発生したトランザクション種別を表示します。

**ee....ee** : タイムアウトが発生したサービス名\*

サービス名がないトランザクションの場合は、\*を表示します。

注※

トランザクション種別を確定できない場合は、\*を表示します。

**(S)** 新しいトランザクションが登録されるまで、該当する処理スレッドを監視対象から削除して処理は続行します。

**(O)** OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** マシン内の負荷 (CPU, ファイル入出力など) が増加したため、TP1/EE プロセスの処理が遅延したおそれがあります。次に示す内容を見直してください。

- UAP または UOC 内でハングアップが発生していないか
- 時間が掛かる処理をしていないか
- トランザクション関連定義の `trn_expiration_time` オペランドまたは `trn_expiration_time_**` オペランド (\*\*は小文字のトランザクション種別) の指定値が、UAP または UOC の処理内容と比べて妥当な値であるか

マシンの負荷が高い場合は、負荷の原因を取り除いてください。解決できない場合は、保守員に連絡してください。プロセスを終了したい場合は強制終了してください。



## KFSB45400-W

メモリDUMPファイルで障害が発生しました。ファイル名 = aa....aa, 理由コード = bb  
Failure occurred for the memory dump file. file name = aa....aa, reason code = bb (E+P  
+L) (4) (SUP)

メモリダンプファイルで障害が発生しました。

**aa....aa** : 該当するメモリダンプファイル名 (8~38 けたの英数字)

**bb** : 理由コード

01 : open エラー

02 : close エラー

03 : read エラー

04 : write エラー

05 : STAT エラー

(S)aa....aa のファイルを使用不可とし、システムを続行します。

(O)システムの続行に影響があり、このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って原因を取り除き、システムを再起動してください。

**【対策】** なし。

## KFSB45401-W

メモリDUMPファイルへ出力処理で障害が発生しました。理由コード = aa, 詳細コード = bb, ファイル名 = cc....cc  
Failure occurred for output processing to the memory dump file. reason code = aa, detail code = bb, file name = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)

メモリダンプファイルへの出力処理で障害が発生しました。

**aa** : 理由コード

01 : 出力可能なファイルの確保に失敗しました。

99 : 予期しない障害が発生しました。

**bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**cc....cc** : 使用不可となったメモリダンプファイルのファイル名

ファイル名がない場合は、\*を表示します。

(S)メモリダンプファイルへ出力しないで、処理を続行します。



(O)システムの続行に影響があり、このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って原因を取り除き、システムを再起動してください。または、メモリダンプファイル数の指定値を見直してシステムを再起動してください。

**【対策】** 詳細コードが有効な値を示す場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB45402-W

```
強制出力コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb, 詳細コード = cc  
The forced output command failed. command name = aa....aa, reason code = bb, detail code  
= cc (E+P+L) (4) (SUP)
```

強制出力コマンドが失敗しました。

**aa....aa** : 失敗した強制出力コマンド名

理由コードが 99 の場合、\*\*\*\* を表示する場合があります。

**bb** : 理由コード

01 : スワップ処理で障害が発生しました。

02 : タイミングエラー (コマンド処理中) です。

03 : タイミングエラー (機能停止中) です。

04 : タイミングエラー (スワップは発生しない) です。

05 : プロセス関連定義の trb\_stc\_use オペランドに N が指定されているか、または trb\_stc\_use オペランドの指定が省略されているため、統計情報機能を使用できません。

06 : 統計情報ファイルが縮退中です。

07 : プロセス関連定義の trb\_uap\_trace\_file\_out オペランドに N が指定されているか、または trb\_uap\_trace\_file\_out オペランドの指定が省略されているため、UAP トレースファイル出力機能を使用できません。

08 : トラブルシュート関連定義の trb\_middle\_trace\_use オペランドに N が指定されているか、または trb\_middle\_trace\_use オペランドの指定が省略されているため、ミドル固有トレース取得機能を使用できません。

99 : 予期しない障害が発生しました。

**cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)理由コードに示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

**【対策】** メッセージログファイルを参照して、原因を検証してください。cc が有効な値の場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB45403-W

トラブルシューティングファイルの数を縮退して開始します。ファイル種別 = a, 稼働ファイル数 = bb....bb, 定義指定ファイル数 = cc....cc

System will now start with fewer troubleshooting files. file type = a, operation file count = bb....bb, definition specification file count = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)

トラブルシューティングファイルの初期化処理で、一部のファイルに障害が発生したため、ファイル数を縮退して開始します。

**a** : 障害が発生したファイル種別

t : TASKTM ファイル

l : 回線トレースファイル

u : UAP トレースファイル

s : 統計情報ファイル

m : MCP トレースファイル

x : XDB トレース情報ファイル

i : ミドル固有トレースファイル

**bb....bb** : 稼働しているファイル数

**cc....cc** : システム定義で設定したファイル数

(S)システムを続行します。

(O)メッセージログファイルを参照し、原因を検証してください。システムの続行に影響がある場合は、原因を取り除き、システムを再起動してください。

[対策] なし。

## KFSB45404-W

トラブルシューティングファイルに障害が発生しました。ファイル名 = aa....aa, 理由コード = bb, 詳細コード = cc....cc

Failure occurred for the troubleshooting file. file name = aa....aa, reason code = bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)

トラブルシューティングファイルに障害が発生しました。

**aa....aa** : 障害が発生したファイル名 (10~40 けたの英数字)

**bb** : 理由コード

01 : open エラー

02 : close エラー

- 03 : read エラー (UHL)
- 04 : write エラー (UHL)
- 05 : write エラー (UHL 可変長部分)
- 06 : write エラー (ブロック)
- 07 : 書き込み読み込みポイント設定エラー
- 08 : fstat64 または fstat エラー

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)該当するファイルを使用不可として、システムを続行します。

(O)ファイルの使用状況を見直してください。システムの続行に影響がある場合は、原因を取り除き、システムを再起動してください。

[対策] なし。

### KFSB45405-W

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb, 詳細コード = cc  
 The command failed. command name = aa....aa, reason code = bb, detail code = cc (E  
 +P+L) (4) (SUP)

コマンドが失敗しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

理由コードが 99 の場合, \*\*\*\* を表示する場合があります。

bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)理由コードに示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。また、詳細コードが有効な値を示すときは保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
01	定義不正です。	プロセス関連定義の trb_stc_use オペランドに Y を指定して TP1/EE プロセスを再起動してください。
02	統計情報取得中です。	統計情報を取得しています。eetrbstcse コマンドの -r オプションを実行してから、コマンドを再実行してください。

理由コード	意味	対策
03	システム統計情報を取得していません。	eetrbstcse コマンドを実行してシステム統計情報の取得を開始してから、コマンドを再実行してください。
04	統計情報取得中ではありません。	なし。
05	TP1/EE システムが終了中のため、コマンドを受け付けません。	なし。
06	タイマ登録に失敗しました。TP1/EE システムで、タイマ登録をリトライしています。	なし。
07	統計情報種別の指定を無視しました。	前提機能のオプションが組み込まれているかどうか確認してください。
08	UAP トレースファイル出力機能は使用できません。	プロセス関連定義の trb_uap_trace_file_out オペランドに Y を指定して、TP1/EE プロセスを再起動してください。
10	MCP トレース出力機能は使用できません。	プロセス関連定義の mcp_use オペランドに Y を指定して、TP1/EE プロセスを再起動してください。
11	XDB トレース出力機能は使用できません。	プロセス関連定義の xdb_use オペランドに Y を指定して、TP1/EE プロセスを再起動してください。
12	OBM 統計情報取得中です。	OBM 統計情報を取得しています。-r 指定の eetrbstcse を実行してから、再実行してください。
13	OBM 統計情報取得中ではありません。	なし。
14	ミドル固有トレースファイル出力機能は使用できません。	トラブルシュート関連定義の trb_middle_trace_use に Y を指定して TP1/EE プロセスを再起動してください。
99	cc の値が有効な値を示しています。	保守員に連絡してください。

## KFSB45406-W

基本統計情報のインタバル取得を行いません。理由コード = aa

Interval acquisition for basic statistical information will not be performed. reason code = aa (E+P+L) (4) (SUP)

基本統計情報のインタバル取得を行いません。

aa : 理由コード

01 : 基本統計情報種別の指定がありません。

02 : 前提機能がないため、基本統計情報種別の指定が無視されました。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 必要に応じて、理由コードに示した原因を取り除き、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB45407-W

トラブルシューティング機能で使用するファイルが縮退しています。機能名 = aaa, ファイル数 = bb....bb  
The number of files used for the troubleshooting function has been reduced. function name = aaa, file count = bb....bb (E+P+L) (4) (SUP)

トラブルシューティング機能で使用するファイルが縮退しています。

**aaa** : トラブルシューティングで使用する機能名

tsk : TASKTM 機能

lin : 回線トレース機能

uat : UAP トレースファイル出力機能

stc : 統計情報機能

dmp : メモリダンプ機能

mcp : MCP トレース出力機能

xdb : XDB トレース情報出力機能

mid : ミドル固有トレース取得機能

**bb....bb** : 正常に出力できるファイル数

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 以前に出力されたメッセージに従って障害を取り除き、eetrbrcvr コマンドを実行してください。

## KFSB45408-E

キューダンプ出力の処理キュー登録に失敗しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb  
Failed to register processing queues to be used for queue dump outputs. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E+P+L) (3) (NOS)

キューダンプ出力の処理キュー登録に失敗しました。

**aa....aa** : XTC がトラブルシューティングで使用する情報

**bb....bb** : XTC がトラブルシューティングで使用する情報

(S)処理キュー登録をリトライします。

(O)このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB45601-W

リラン前にDB構成不正による使用不可だったDBキューを、障害による読み出し停止としました。DBキュー名 = aa....aa

Recording of a DB queue that was unusable before a rerun due to an invalid DB configuration has stopped because of an error. DB queue name = aa....aa (E) (3) (SUP)

再開始前にDB構成不正によって使用できなかったDBキューを、障害による読み出し停止にしました。

aa....aa : 読み出し停止にするDBキュー名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** DB キューの読み出しを再開する eedbqrst コマンドを実行してください。

## KFSB45602-W

DBキューの構成チェックがコミット決着できませんでした。DBキュー名 = aa....aa

A check of the DB queue configuration could not be committed. DB queue name = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

DB キューの構成チェックがコミット決着できませんでした。DB キューの構成チェックをリトライします。

aa....aa : DB キュー名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** [KFSB50919-E](#), [KFSB80900-I](#), [KFSB80905-I](#), および [KFSB80906-I](#) メッセージを参照し原因を取り除いてください。

## KFSB45603-W

DBキュー機能関連定義のオペランドの設定値が、他の同じオペランド名の設定値と重複しています。オペランド名 = aa....aa, 設定値 = bb....bb

The value of an operand in the definition related to the DB queue functions is also specified in another operand that has the same value. operand name = aa....aa, setting value = bb....bb (E) (3) (SUP)

DB キュー機能関連定義のオペランドの指定値が、ほかのオペランドの指定値と重複しています。最初に指定されたオペランドを有効にします。あとで指定されたオペランドは無効にします。

aa....aa : 該当するオペランド名

bb....bb : aa....aa で重複した指定値

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 必要に応じて、TP1/EE サービス定義を見直して、TP1/EE を再起動してください。

### KFSB45604-W

DB キュー機能関連のテーブル作成時に不正を検知しました。理由コード = aaaa, 該当オペランド名 = bb....bb, 不正設定値 = cc....cc

An invalid event was detected while tables related to DB queue functions were being created.  
reason code = aaaa, operand name = bb....bb, invalid setting value = cc....cc (E) (3)  
(SUP)

DB キュー機能関連のテーブル作成時に、オペランドで不正な値が指定されていることを検知しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : 該当するオペランド名

該当するエントリを特定するためのオプション指定値も表示します。

**cc....cc** : bb....bb で検知した不正な指定値 (該当するオプション名も表示), またはオプション名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	cc....cc (DB キューサービス定義のオペランドで指定している DB キュー名) が、DB キュー定義のオペランドに存在しません。または、存在するが、すでにそのオペランドが無効になっています。該当する DB キュー名の設定を無効にします。	必要に応じて、dbqsrvcdef 定義コマンドの-q オプションの指定値と dbqdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0002	cc....cc (DB キュー定義のオペランドで指定しているリソースマネージャ名 (拡張子)) が、トランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドに指定されていません。または、ユーザサーバ用 xa_open 関数文字列の指定がありません。該当するオペランドを無効にします。	必要に応じて、dbqdef 定義コマンドまたは dbqobsdef 定義コマンドの-n オプションまたは i オプションの指定値とトランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0003	cc....cc (DB キューメッセージ最大サイズの設定値) がメッセージ引き継ぎエリアサイズの指定値を超えています。	必要に応じて、メモリ関連定義の dbq_max_message_size オペランドの指定値と max_message_size オペランドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。



理由コード	意味	対策
0004	cc....cc (DB キューサービスグループ定義のオペランドで指定している DB キューグループ名) が、DB キューグループ定義のオペランドに存在しません。または、存在するが、すでにそのオペランドが無効になっています。該当するオペランドを無効にします。	必要に応じて、dbqsvgdef 定義コマンドの-d オプションの指定値と dbqgrpdef 定義コマンドを見直し、TP1/EE を再起動してください。
0005	cc....cc (DB キューサービス定義のオペランドで指定している DB キューサービスグループ名) が、DB キューサービスグループ定義のオペランドに存在しません。または、存在するが、すでにそのオペランドが無効になっています。該当するオペランドを無効にします。	必要に応じて、dbqsvrdef 定義コマンドの-p オプションの指定値と dbqsvgdef 定義コマンドを見直し、TP1/EE を再起動してください。
0006	cc....cc (DB キュー定義のオペランドで指定している DB キューグループ名) が、DB キューグループ定義のオペランドに存在しません。または、存在するが、すでにそのオペランドが無効になっています。該当するオペランドを無効にします。	必要に応じて、dbqdef 定義コマンドの-d オプションの指定値と dbqgrpdef 定義コマンドを見直し、TP1/EE を再起動してください。
0007	cc....cc (DB キューサービス定義のオペランドで指定している DB キュー名) が、重複して指定されています。DB キューサービス定義のオペランドは昇順ソートされるため、有効な DB キューサービス定義のオペランドは重複して指定されたもののうち、最小の DB キューサービス定義のオペランドで指定された値だけ有効にします。それ以外の指定値は無効にします。	必要に応じて、dbqsvrdef 定義コマンドの-q オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0008	cc....cc (DB キューグループ定義のオペランドで指定している DB キューサービスグループ名) と、それを指定している DB キューサービスグループ定義のオペランドとの関連づけができません。該当するオペランドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-p オプションの指定値と該当する dbqsvgdef 定義コマンドの-d オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0009	cc....cc (DB キューサービスグループ定義のオペランドで指定している DB キューグループ名) と、それを指定している DB キューグループ定義のオペランドとの関連づけができません。該当するオペランドを無効にします。	必要に応じて、dbqsvgdef 定義コマンドの-d オプションの指定値と該当する dbqgrpdef 定義コマンドの-p オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0010	DB キューサービスグループ定義の該当するオペランドには、関連づけされている DB キューサービス定義のオペランドが存在しません。または、存在するが、すでにそのオペランドが無効になっています。該当するオペランドを無効にします。	必要に応じて、dbqsvgdef 定義コマンドの-p オプションの指定値と該当する dbqsvrdef 定義コマンドの-v オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0011	cc....cc (DB キューサービス定義のオペランドで指定している DB キュー名) と、それを設定している DB キュー定義のオペランドとの関連づけができません。該当する DB キュー名の設定を無効にします。	必要に応じて、dbqsvrdef 定義コマンドの-p オプションの指定値と cc....cc に該当する dbqdef 定義コマンドの-d オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0012	DB キューグループ定義の該当するオペランドには、関連づけられている DB キュー定義のオペランドが存在しません。または、存在するが、すでにそのオペランドが無効になっています。該当オペランドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-d オプションの指定値と該当する dbqdef 定義コマンドの-q オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。



理由コード	意味	対策
0013	cc....cc (DB キューグループ定義のオペランドで指定している DB キューサービスグループ名) が、DB キューサービスグループ定義のオペランドに存在しません。または、存在するが、すでにそのオペランドが無効になっています。該当するオペランドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-p オプションの指定値と dbqsvgdef 定義コマンドを見直し、TP1/EE を再起動してください。
0014	cc....cc (ロット定義オペランドの-v オプションで指定しているバッチサービス名) が、バッチサービス定義のオペランドに存在しません。または、存在するが、すでにそのオペランドが無効になっています。該当する-v オプションを無効にし、バッチサービス名の指定を省略したと判断します。	必要に応じて、dbqobslotdef 定義コマンドの-v オプションの指定値と dbqobssrvdef 定義コマンドを見直し、TP1/EE を再起動してください。
0015	cc....cc (バッチサービス定義のオペランドで設定しているオプション名) は、ほかのバッチサービス定義のオペランドですでに指定されています。バッチサービス定義のオペランドは昇順ソートされるため、オプションが重複して指定されたオペランドのうち、最小のバッチサービス名のオペランドを有効にします。そのため、該当するオペランドを無効にします。	必要に応じて、dbqobssrvdef 定義コマンドを見直し、TP1/EE を再起動してください。
0016	dbqsvgdef 定義コマンドの-d オプションには、dbqgrpdef 定義コマンドの-e オプションに指定されている DB キューグループ名、および-f オプションに指定されている他サーバのプロセス識別子を指定できません。該当する定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqsvgdef 定義コマンドの-d オプション、dbqgrpdef 定義コマンドの-e オプション、および-f オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0017	dbqgrpdef 定義コマンドの-e オプション、または-f オプションが指定されているため、該当する定義コマンドに DB キューサービスグループ名を指定できません。dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-e オプション、-f オプション、または-p オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0018	dbqgrpdef 定義コマンドに、-e オプション、または-f オプションのどちらか、および-p オプションが指定されていません。dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-e オプション、-f オプション、または-p オプションを指定し、TP1/EE を再起動してください。
0019	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-e オプションで指定している関連づけるサービスグループ名) が、eesvgdef 定義コマンドの-g オプションに指定されていません。	必要に応じて、eesvgdef 定義コマンドの-g オプションを指定し、TP1/EE を再起動してください。
0020	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-f オプションで指定している関連づける他サーバのプロセス識別子) が、dbqprcdef 定義コマンドに存在しません。または、存在するが、すでにその定義コマンドが無効になっています。該当する定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-f オプション、または dbqprcdef 定義コマンドの-f オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0021	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-e オプションで指定している関連づけるサービスグループ名) を指定していますが、他サーバのプロセス情報を定義する dbqprcdef 定義コマンドも指定しています。該当する定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-e オプション、または dbqprcdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0022	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-f オプションで指定している関連づける他サーバのプロセス識別子) を指定して	必要に応じて、dbqprcdef 定義コマンド、または dbqgrpdef 定義コマンドの-f オプション

理由コード	意味	対策
0022	いますが、該当する他サーバのプロセス情報を定義する dbqprcdef 定義コマンドを指定していません。該当する定義コマンドを無効にします。	の指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0023	cc....cc (dbqprcdef 定義コマンドの-h オプションで指定しているホスト名とポート番号) の指定が、ほかの dbqprcdef 定義コマンドと重複しています。最初に指定した定義コマンドを有効にします。それ以外の指定値は無効にします。	必要に応じて、dbqprcdef 定義コマンドの-h オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0024	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-e オプション) を指定していますが、-p オプションも指定しています。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-e オプション、または-p オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0025	該当する dbqprcdef 定義コマンドへの関連づけをしている、dbqgrpdef 定義コマンドがありません。該当する dbqprcdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqprcdef 定義コマンドの-f オプション、または dbqgrpdef 定義コマンドの-f オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0026	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-p オプションで指定しているサービスグループ名) は、-f オプション (関連づける他サーバのプロセス識別子) が指定されている場合、指定できません。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-p オプション、または-f オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0027	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-e オプションで指定しているサービスグループ名) を指定していない場合、-t オプションは指定できません。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-e オプション、または-t オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0028	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-c オプション) を指定していますが、-p オプションを指定していません。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-c オプション、または-p オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0029	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-o オプションに my を指定または省略) を指定していますが、-p オプションを指定していません。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-o オプション、または-p オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0030	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-k オプションに 0) を指定していますが、-o オプションも指定しています。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-k オプション、または-o オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0031	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-k オプションに 0) を指定していますが、-c オプションも指定しています。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-k オプション、または-c オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0032	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-k オプションに 1) を指定していますが、-e オプションも指定しています。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-k オプション、または-e オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0033	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-k オプションに 1) を指定していますが、-t オプションも指定しています。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-k オプション、または-t オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。

理由コード	意味	対策
0034	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-k オプションに 1) を指定していますが、-f オプションも指定しています。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-k オプション、または-f オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0035	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-o に other を指定し、かつ-c オプションを省略) を指定している場合、該当する定義コマンドに DB キューサービスグループ名を指定できません。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-o オプション、-c オプション、または-p オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0036	dbqsvgdef 定義コマンドの-d オプションには、dbqgrpdef 定義コマンドの-o オプションに other を指定し、かつ-c オプションを指定していない DB キューグループ名を指定できません。該当する定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqsvgdef 定義コマンドの-d オプション、または dbqgrpdef 定義コマンドの-o オプションと-c オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0037	cc....cc (dbqdef 定義コマンドの-n オプション、または dbqobsdef 定義コマンドの-n オプションで指定しているリソースマネージャ名) に対応する DBMS は、DB キュー機能で使用できません。	必要に応じて、dbqdef 定義コマンドの-n オプション、または dbqobsdef 定義コマンドの-n オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0038	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-u オプションに user) を指定していますが、-k オプションに 0 を指定しています。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-u オプション、または-k オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0039	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-u オプションに user) を指定していますが、-p オプションも指定しています。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-u オプション、または-p オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0040	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-u オプションに user) を指定していますが、-e オプションも指定しています。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-u オプション、または-e オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0041	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-u オプションに user) を指定していますが、-t オプションも指定しています。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-u オプション、または-t オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0042	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-u オプションに user) を指定していますが、-f オプションも指定しています。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-u オプション、または-f オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0043	cc....cc (dbqsvrdef 定義コマンドの-q オプションで指定している DB キュー名) に、dbqdef 定義コマンドの-d オプションにユーザキューを使用する DB キューグループ名を指定しています。 該当する DB キュー名の設定を無効にします。	必要に応じて、dbqsvrdef 定義コマンドの-q オプションの指定値と cc....cc に該当する dbqdef 定義コマンドの-d オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0044	cc....cc (dbqdef 定義コマンド) に-t オプションを指定していますが、-d オプションにユーザキューを使用する DB キューグループ名も指定しています。 該当する dbqdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqdef 定義コマンドの-t オプションと-d オプションに関連づける dbqgrpdef 定義コマンドの-u オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。

理由コード	意味	対策
0045	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-u オプションに user) を指定していますが、-s オプションも指定しています。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-u オプション、または-s オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0046	cc....cc (dbqgrpdef 定義コマンドの-u オプションに user) を指定していますが、-r オプションも指定しています。該当する dbqgrpdef 定義コマンドを無効にします。	必要に応じて、dbqgrpdef 定義コマンドの-u オプション、または-r オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0047	cc....cc (dbqdef 定義コマンドの-d オプション) が指定されていますが、対応する trnrks_service 定義コマンドが存在しません。該当する dbqdef 定義コマンドを無効にします。	必要であれば、dbqdef 定義コマンドの-d オプション、または trnrks_service 定義コマンドの-d オプションを見直し、TP1/EE を再起動してください。
0048	cc....cc (dbqdef 定義コマンドの-l オプションの指定値) が、データ連携支援制御情報ファイルの PJUPITVL 指定値 ×UAPMXCT 指定値より小さいです。該当する dbqdef 定義コマンドを無効にします。	dbqdef 定義コマンドの-l オプションの指定値を大きくするか、データ連携支援制御情報ファイルの PJUPITVL 指定値、UAPMXCT 指定値を小さくして再起動してください。 dbqdef 定義コマンドの-l オプションの指定値を大きくする場合は、再起動前に eedbqtblh コマンドで DB キューを再作成してください。

## KFSB45605-W

DB キュー機能に関連するライブラリ設定と定義設定が矛盾しています。理由コード = aa....aa  
The library settings and definition settings related to the DB queue functions conflict. reason code = aa....aa (E) (3) (SUP)

DB キュー機能に関連するライブラリ設定と定義の指定とが矛盾しています。

aa....aa : 理由コード

0001 : ライブラリ設定では DB キュー共通ライブラリをリンケージしていますが、定義では DB キュー機能およびオンラインバッチ機能を使用しないと指定しています。

0002 : ライブラリ設定では DB キュー共通ライブラリをリンケージしていませんが、定義では DB キュー機能およびオンラインバッチ機能を使用すると指定しています。

0003 : ライブラリ設定では DB キュー共通ライブラリをリンケージしていませんが、定義では DB キュー機能を使用すると指定しています。

0004 : ライブラリ設定では DB キュー共通ライブラリをリンケージしていませんが、定義ではオンラインバッチ機能を使用すると指定しています。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 必要に応じて、DB キュー機能に関連するライブラリ設定と定義の指定を見直して、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB45606-W

DB キューサービスを永久閉塞します。DB キューサービス名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
A DB queue service will now be permanently blocked. DB queue service name = aa....aa,  
reason code = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)

DB キューサービスを永久閉塞します。

**aa....aa** : 永久閉塞した DB キューサービス名

**bb....bb** : 理由コード

0001 : 指定された DB キューサービスが TP1/EE で定義されていません。

0002 : 指定された DB キューサービスにエントリポイントが登録されていません。

0003 : 指定された DB キューサービスがユーザサービス関連定義の dbq\_service オペランドに指定されていません。

(S)処理を続行します。

(O)理由コードに示した原因を取り除き、TP1/EE を再起動してください。

**[対策]** 必要に応じて、TP1/EE サービス定義を見直して、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB45607-W

DB キューの構成チェックで暗黙的ロールバックが発生しました。DB キュー名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
Implicit rollback has occurred during a configuration check of the DB queue. DB queue name = aa....aa, reason code = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)

DB キューの構成チェックで暗黙的ロールバックが発生しました。DB キューの構成チェックをリトライします。

**aa....aa** : 暗黙的ロールバックが発生した DB キュー名

**bb....bb** : 理由コード

SQL 実行時の SQLCODE です。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** SQLCODE を基にマニュアル「HiRDB SQL リファレンス」を参照して、原因を取り除いてください。

## KFSB45608-W

ポーリング機能で暗黙的ロールバックが発生しました。DB キュー名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb



```
Implicit rollback has occurred in the polling function. DB queue name = aa....aa, reason code = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)
```

ポーリング機能で暗黙的ロールバックが発生しました。

**aa....aa** : 暗黙的ロールバックが発生した DB キュー名

**bb....bb** : 理由コード

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** SQLCODE を基にマニュアル「HiRDB SQL リファレンス」を参照して、原因を取り除いてください。

### KFSB45609-W

```
DB キューの構成チェックで、RM に接続できませんでした。DB キューの構成チェックをリトライします。DB キュー名 = aa....aa
```

```
A connection to a resource manager could not be established during a configuration check of the DB queue. The check of the DB queue configuration will now be retried. DB queue name = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)
```

DB キューの構成チェックで、リソースマネージャに接続できませんでした。DB キューの構成チェックをリトライします。

**aa....aa** : 構成チェックをできなかった DB キュー名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージより前に出力されている [KFSB50919-E](#) メッセージを参照してください。

### KFSB45610-W

```
オンラインバッチサービスを閉塞します。オンラインバッチサービス名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb
```

```
An online batch service will now be blocked. online batch service name = aa....aa, reason code = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)
```

オンラインバッチサービスを閉塞します。

**aa....aa** : 閉塞したオンラインバッチサービス名

bb...bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を続行します。

(O)理由コード一覧を見て対策し、TP1/EE を再起動してください。

理由コード	意味
0001	指定されたオンラインバッチサービスが TP1/EE で定義されていません。
0002	指定されたオンラインバッチにエントリポイントが登録されていません。
0003	指定されたオンラインバッチサービスがユーザーサービス関連定義の dbq_obs_service オペランドに指定されていません。

**【対策】** 必要に応じて、TP1/EE サービス定義を見直して、TP1/EE を再起動してください。

### KFSB45611-W

読出し元サーバが TP1/EE 以外のため自サーバ読出しにできません。DB キュー名 = aa...aa, IP アドレス = bb...bb, ポート番号 = cc...cc, 詳細コード 1 = dd...dd, 詳細コード 2 = ee...ee  
The local server cannot be specified as a read-destination server because the read-source server is not TP1/EE. DB queue name = aa...aa, IP address = bb...bb, port number = cc...cc, detail code 1 = dd...dd, detail code 2 = ee...ee (E+P+L) (3) (SUP)

DB キューからメッセージを読み出すサーバが TP1/EE 以外のため、自サーバ読み出しに変更できません。

aa...aa : DB キュー名

bb...bb : DB キュー読み出しサーバの IP アドレス

cc...cc : DB キュー読み出しサーバのポート番号

dd...dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee...ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 必要に応じて、DB キュー機能関連定義の dbqgrpdef 定義コマンドの指定値、および、Cosminexus Reliable Messaging などの DB キュー読み出しサーバでの定義を見直して、TP1/EE を再起動してください。

### KFSB45612-W

読出し先サーバがありません。DB キュー名 = aa...aa

No read-destination server exists. DB queue name = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

DB キュー機能関連定義の dbqgrpdef 定義コマンドの-o オプションに my を指定した DB キューからメッセージを読み出すサーバがありません。

aa....aa : DB キュー名

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** メッセージを読み出すサーバの動作状況を確認してください。

### KFSB45613-W

DB キューの構成チェックでロックによるデータアクセスの障害が発生しました。DBMS メッセージ = aa....aa, DB キュー名 = bb....bb, SQLCODE = cc....cc, 詳細コード = dd....dd  
Data access failed due to locking during a DB queue configuration check. DBMS message = aa....aa, DB queue name = bb....bb, SQLCODE = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L)  
(3) (SUP)

DB キューの構成チェックで、ロックによるデータアクセスの障害が発生しました。DB キューの構成チェックをリトライします。

aa....aa : DBMS のエラーメッセージ

bb....bb : DB キュー名

cc....cc : SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** DBMS のエラーメッセージを参照して、原因を取り除いてください。

### KFSB45614-E

DB キューは通番初期化機能に対応していません。トランザクションブランチをロールバックします。DB キュー名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, サービス名 = cc....cc, 基盤種別 = dd....dd, システム種別 = ee....ee  
DB queue does not support number initialization functionality. The transaction branch will now be rolled back. DB queue name = aa....aa, reason code = bbbb, service name = cc....cc, read basis type = dd....dd, system type = ee....ee (E+P+L) (3) (SUP)



同期点取得中 (UAP リターン後の, ee\_trn\_chained\_commit 関数または CBLEETR('C-COMMIT')の発行中) に該当する DB キューが通番初期化機能に対応していないことを検知しました。トランザクションをロールバックします。

aa....aa : DB キュー名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : サービス名

サービス名がない場合は, \*を表示します。

dd....dd : メッセージを読み出しているシステムの基盤種別

TP1EE : TP1/EE

CosmiRM : uCosminexus Reliable Messaging

読み出し先サーバがない場合は, \*を表示します。

ee....ee : メッセージを読み出しているシステムのシステム種別

dd....dd のシステムの基盤種別によって次の内容を表示します。

TP1EE : ノード識別子

CosmiRM : システム名 (RMSystemName 指定値)

読み出し先サーバがない場合は, \*を表示します。

(S)通番初期化を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	読み出し先サーバの TP1/EE または DB キューを作成した TP1/EE がバージョン 07-80 より前の TP1/EE です。	TP1/EE を停止し, DB キュー表作成コマンドで通番初期化属性を与えて (eedbqtblh コマンドで-a を指定), DB キュー表を再作成してください。
0002	読み出しサーバの基盤種別が CosmiRM です。	
0003	DB キューに通番初期化属性が与えられていません。	

### KFSB45615-W

DB キューのデータ連携支援引継ぎ情報を削除できませんでした。DB キュー名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb

An attempt to delete the handoff information regarding data linkage support for a DB queue has failed. DB queue name = aa....aa, service name = bb....bb (E+P+L) (4) (SUP)

DB キューのデータ連携支援引継ぎ情報を削除できませんでした。

aa....aa : DB キュー名

bb....bb : サービス名

(S)処理を続行します。

(O)この後に同じデータ連携支援 ID でデータ連携支援を実行する場合は、対策は不要です。

同じデータ連携支援 ID でデータ連携支援を実行せずに、データ連携支援 ID を変更、またはデータ連携支援実行環境を削除する場合は、eedbqrkscgh を実行して DB キューのデータ連携支援引継ぎ情報を削除してください。

【対策】 なし

### KFSB45616-W

DB キューの空きが不足しました。メッセージの書き込みをリトライします。DB キュー名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb

There is not enough free area to the DB queue. The writing process will be retried. DB queue name = aa....aa, service name = bb....bb (E+P+L) (4) (SUP)

DB キューの空きが不足しました。dbq\_rks\_retry\_interval に指定した間隔でメッセージの書き込みをリトライします。dbq\_rks\_retry\_interval を指定していない場合はデフォルト値でリトライします。

aa....aa : DB キュー名

bb....bb : サービス名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 DB キューからメッセージを読み出す TP1/EE の状態および DB キューの状態を確認してください。DB キューの状態は eedbqls コマンドで確認してください。

メッセージを読み出す TP1/EE が停止している場合は、TP1/EE を開始してください。

DB キューの状態が読み出し停止状態の場合は、DB キューからメッセージを読み出す TP1/EE で eedbqrst コマンドを実行して読み出しを開始してください。

### KFSB45620-E

SQL 実行においてエラーが発生しました。DB キュー名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, エラーコード = cc....cc, SQL CODE = dd....dd, 詳細コード = ee....ee

An error has occurred during SQL execution. DB queue name = aa....aa, service name = bb....bb, error code = cc....cc, SQLCODE = dd....dd, detail code = ee....ee (E+P+L) (3) (SUP)

SQL 実行時に障害が発生しました。

aa....aa : 障害が発生した DB キュー名

bb....bb : 障害が発生したサービス名  
サービス名がない場合は, \*を表示します。

cc....cc : SQL 実行時のエラーコード  
障害の発生した SQL が GET CONNECTION HANDLE 以外の場合は, \*を表示します。

dd....dd : SQL 実行時の SQLCODE  
障害の発生した SQL が GET CONNECTION HANDLE の場合は, \*を表示します。

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** エラーコード, または SQLCODE を基にマニュアル「HiRDB SQL リファレンス」を参照し原因を取り除いてください。

### KFSB45621-E

DB キューに書ける最大メッセージ数を超過しました。DB キュー名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb  
The maximum number of messages that can be written to a DB queue has been exceeded.  
DB queue name = aa....aa, service name = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)

DB キューに書ける最大メッセージ数を超過しました。

aa....aa : 該当する DB キュー名

bb....bb : 該当するサービス名  
サービス名がない場合は, \*を表示します。

(S)メッセージを破棄します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** メッセージを読み出すシステムの動作状況を確認してください。

### KFSB45622-W

トランザクション処理でオーバフローを検知しました。DB キュー名 = aa....aa, DB キューサービス名 = bb....bb, サイズ = cc....cc  
An overflow was detected during transaction processing. DB queue name = aa....aa, DB queue service name = bb....bb, size = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)

トランザクション処理でサービス関数インタフェース作成時に受け付けたメッセージが、メッセージ引き渡しエリアサイズを超えています。メッセージ引き渡しエリアサイズを超えた分のメッセージを切り捨てます。

aa....aa：該当する DB キュー名

bb....bb：該当する DB キューサービス名

cc....cc：不足しているサイズ（単位：バイト）

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の max\_message\_size オペランドの指定値を見直してください。

### KFSB45623-E

RMを利用しない状態でトランザクションが実行されました。DB キュー名 = aa....aa, DB キューサービス名 = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

A transaction was executed without a resource manager being used. DB queue name = aa....aa, DB queue service name = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (3) (SUP)

リソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが実行されました。メッセージを読み出せません。

aa....aa：該当する DB キュー名

bb....bb：該当する DB キューサービス名

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)メッセージの読み出しを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージより前に出力されている [KFSB50919-E](#) メッセージを参照してください。

### KFSB45624-E

バッファの確保に失敗しました。DB キュー名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 理由コード = cccc, 対象領域コード = dd....dd, 詳細コード = ee....ee

An attempt to allocate buffers has failed. DB queue name = aa....aa, service name = bb....bb, reason code = cccc, target area code = dd....dd, detail code = ee....ee (E+P+L) (3) (SUP)

メッセージの読み出しスキップ、メッセージの書き込み、またはメッセージの参照読み出しでバッファの確保に失敗しました。

aa....aa : 該当する DB キュー名

DB キューグループ指定で ee\_dbq\_msgput 関数, または CBLEEDBQ('MSGPUT ') を実行時に, 対象領域コードが QWBF, または QALIST でこのメッセージが出力された場合は, DB キュー名ではなく, DB キューグループ名を出力します。DB キューグループ名の先頭には\*を付けて出力します。

bb....bb : バッファ確保要求元トランザクションのサービス名

サービス名がない場合は, \*を表示します。

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : 対象領域コード

QWBF : メッセージを格納するバッファ

QALIST : メッセージを格納するバッファを管理するワークセグメント

RKSBF : メッセージを格納するワークセグメント

QTSP : 交替用メッセージ表書き込み機能用引き継ぎ情報を管理するワークセグメント

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)メッセージの読み出しスキップ, メッセージの書き込み, またはメッセージの参照読み出しを中止します。

データ連携支援の場合は, データ連携支援を強制停止します。

交替用メッセージ表書き込み機能の場合は, リトライロールバックしないでメッセージの読み出し, またはメッセージの書き込みを中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	対象領域コードで示すバッファ数が不足しました。	メモリ関連定義の dbq_use_buf_cnt オペランドの指定値を見直して, 再実行してください。
0011	対象領域コードのワークセグメントが不足しました。	メモリ関連定義 max_mem_size オペランドおよび system_work_size の設定値を見直して, 再実行してください。
9000	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB45625-E

送信バッファの確保に失敗しました。DB キュー名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 対象領域コード = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

An attempt to allocate transmission buffers has failed. DB queue name = aa....aa, reason code = bbbb, target area code = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

DB キュー処理でバッファの確保に失敗しました。

aa....aa : バッファの確保に失敗した DB キュー名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : 対象領域コード

QOBF : 送信バッファ

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) イベント送信を中止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0002	対象領域コードで示すバッファ数が不足しました。	メモリ関連定義の dbq_send_message_buf_cnt オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
9000	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB45626-W

当該DBキューはメッセージの書き込みが抑止されている為、メッセージを書き込めません。DB キュー名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd  
Messages cannot be written to this DB queue because message writing to the DB queue has been suppressed. DB queue name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

DB キュー処理でメッセージの書き込みに失敗しました。

aa....aa : DB キュー名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) メッセージの書き込みを中止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	メッセージの書き込み抑止を検知しました。	必要に応じて書き込み抑止を解除してください。

### KFSB45627-E

SQL 実行においてエラーが発生しました。DBMS メッセージ = aa....aa, DB キュー名 = bb....bb, サービス名 = cc....cc, SQLCODE = dd....dd, 詳細コード = ee....ee

An error occurred for SQL execution. DBMS message = aa....aa, DB queue name = bb....bb, service name = cc....cc, SQLCODE = dd....dd, detail code = ee....ee (E+P+L) (3) (SUP)

SQL 実行時の DBMS のエラーメッセージを出力します。

aa....aa : DBMS のエラーメッセージ

bb....bb : DB キュー名

cc....cc : サービス名

サービス名がない場合は, \*を表示します。

dd....dd : SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] DBMS のエラーメッセージを参照して, 原因を取り除いてください。

### KFSB45628-E

DB キューの通番初期化が失敗しました。DB キュー名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd

Number initialization failed. DB queue name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

DB キュー処理で通番初期化に失敗しました。

aa....aa : DB キュー名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)通番の初期化を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	メッセージの書き込み抑止中となっておりません。	必要に応じて書き込み抑止コマンド (eedbqwtpr コマンド) で書き込みを抑止してください。

### KFSB45629-W

DB キューの通番初期化を検知しました。トランザクションブランチをロールバックします。DB キュー名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb

Number initialization detected. The transaction branch will now be rolled back. DB queue name = aa....aa, service name = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)

同期点取得中 (UAP リターン後の, ee\_trn\_chained\_commit 関数または CBLEETR('C-COMMIT')の発行中) に DB キューの通番初期化を検知しました。メッセージを読み出すトランザクション, またはメッセージをスキップするトランザクションをロールバックします。

aa....aa : DB キュー名

bb....bb : サービス名

サービス名がない場合は, \*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

### KFSB45630-E

SQL 実行においてエラーが発生しました。DB キュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, サービス名 = cc....cc, エラーコード = dd....dd, SQLCODE = ee....ee, 詳細コード = ff....ff

An error has occurred during SQL execution. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, service name = cc....cc, error code = dd....dd, SQLCODE = ee....ee, detail code = ff....ff (E+P+L) (3) (SUP)

SQL 実行時に障害が発生しました。

aa....aa : 障害が発生した DB キュー名



bb....bb : 障害が発生したロット名

cc....cc : 障害が発生したサービス名  
サービス名がない場合は, \*を表示します。

dd....dd : SQL 実行時のエラーコード  
障害の発生した SQL が GET CONNECTION HANDLE 以外の場合は, \*を表示します。

ee....ee : SQL 実行時の SQLCODE  
障害の発生した SQL が GET CONNECTION HANDLE の場合は, \*を表示します。

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** エラーコード, または SQLCODE を基にマニュアル「HiRDB SQL リファレンス」を参照し原因を取り除いてください。

### KFSB45631-W

トランザクション処理で入力したデータの先頭に指定したデータ長と, 実際に入力したデータ長が一致しません。DB キュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, オンラインバッチサービス名 = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

The data length specified at the beginning of the data entered during transaction processing does not match the length of the data actually entered. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, online batch service name = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (4) (SUP)

トランザクション処理で入力したデータの先頭に指定したデータ長と, 実際に入力したデータ長が一致しません。データの先頭に指定したデータ長と, 実際に入力したデータ長とを比較し, 短い方の長さでメッセージを引き渡します。

aa....aa : 該当する DB キュー名

bb....bb : 該当するロット名

cc....cc : 該当するオンラインバッチサービス名

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** DB キューに登録したデータを見直してください。

## KFSB45632-W

トランザクション処理でオーバフローを検知しました。DB キュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, オンラインバッチサービス名 = cc....cc, サイズ = dd....dd

An overflow was detected during transaction processing. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, online batch service name = cc....cc, size = dd....dd (E+P+L) (4) (SUP)

トランザクション処理でサービス関数インタフェース作成時に受け付けたメッセージが、メッセージ引き渡しエリアサイズを超えています。メッセージ引き渡しエリアサイズを超えた分のメッセージを切り捨てます。

aa....aa : 該当する DB キュー名

bb....bb : 該当するロット名

cc....cc : 該当するオンラインバッチサービス名

dd....dd : 不足しているサイズ (単位: バイト)

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** メモリ関連定義の max\_message\_size オペランドの指定値を見直してください。

## KFSB45633-E

RMを利用しない状態でトランザクションが実行されました。DB キュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, オンラインバッチサービス名 = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

A transaction was executed without a resource manager being used. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, online batch service name = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

リソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが実行されました。

aa....aa : 該当する DB キュー名

bb....bb : 該当するロット名

cc....cc : 該当するオンラインバッチサービス名

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)メッセージの読み出しを停止します。または、コマンド、API の処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** このメッセージより前に出力されている [KFSB50919-E](#) メッセージを参照してください。

## KFSB45634-E

バッファの確保に失敗しました。DB キュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, サービス名 = cc....cc, 理由コード = dddd, 対象領域コード = ee....ee, 詳細コード = ff....ff

An attempt to allocate buffers has failed. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, service name = cc....cc, reason code = dddd, target area code = ee....ee, detail code = ff....ff (E+P+L) (3) (SUP)

オンラインバッチ処理の制御に使用するバッファの確保に失敗しました。

**aa....aa** : 該当する DB キュー名

**bb....bb** : 該当するロット名

**cc....cc** : バッファの確保要求元トランザクションのサービス名  
サービス名がない場合は, \*を表示します。

**dddd** : 理由コード  
理由コードの意味と対策を表に示します。

**ee....ee** : 対象領域コード  
CONT : 引き継ぎ情報の更新処理の管理に使用するワークセグメント  
END : オンラインバッチ終了/中断処理の管理に使用するワークセグメント  
RESTART : オンラインバッチ再開始処理の管理に使用するワークセグメント  
SKIP : メッセージ読み出しスキップ処理の管理に使用するワークセグメント  
START : オンラインバッチ開始処理の管理に使用するワークセグメント

**ff....ff** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)メッセージの読み出しスキップ, メッセージの書き込み, または引き継ぎ情報の更新を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0011	対象領域コードのワークセグメントが不足しました。	メモリ関連定義の max_mem_size オペランドの指定値を見直して, 再実行してください。
9000	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB45635-E

トランザクション処理で入力したデータのフォーマットが不正です。DB キュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, オンラインバッチサービス名 = cc....cc, 理由コード = dddd

The format of data entered during transaction processing is invalid. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, online batch service name = cc....cc, reason code = dddd (E+P+L) (3) (SUP)

トランザクション処理で入力したデータのフォーマットが不正です。

aa....aa : 該当する DB キュー名

bb....bb : 該当するロット名

cc....cc : 該当するオンラインバッチサービス名

dddd : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)メッセージの読み出しを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	データの先頭にデータ長が指定されていません。	DB キューに登録したデータを見直してください。
0002	データの先頭にデータ長だけが指定され、メッセージがありません。	

### KFSB45636-E

SQL 実行においてエラーが発生しました。DBMS メッセージ = aa....aa, DB キュー名 = bb....bb, ロット名 = cc....cc, サービス名 = dd....dd, SQL CODE = ee....ee, 詳細コード = ff....ff  
An error occurred for SQL execution. DBMS message = aa....aa, DB queue name = bb....bb, lot name = cc....cc, service name = dd....dd, SQLCODE = ee....ee, detail code = ff....ff (E+P+L) (3) (SUP)

SQL 実行時の DBMS のエラーメッセージを出力します。

aa....aa : DBMS のエラーメッセージ

bb....bb : DB キュー名

cc....cc : ロット名

dd....dd : サービス名

サービス名がない場合は、\*を表示します。

ee....ee : SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

ff...ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** DBMS のエラーメッセージを参照し、原因を取り除いてください。

## KFSB45637-E

SQL 実行においてエラーが発生しました。DB キュー名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, エラーコード = cc....cc, SQL CODE = dd....dd, テーブル名 = ee....ee, アクセス種別 = ff....ff, 理由コード = gggg, 出力回数 = hh....hh, 詳細コード = ii....ii

An error has occurred during SQL execution. DB queue name = aa....aa, service name = bb....bb, error code = cc....cc, SQLCODE = dd....dd, table name = ee....ee, access type = ff....ff, reason code = gggg, output count = hh....hh, detail code = ii....ii (E+P+L) (3) (SUP)

SQL 実行でエラーが発生しました。

**aa....aa** : DB キュー名

**bb....bb** : サービス名

サービス名がない場合は、\*を表示します。

**cc....cc** : SQL 実行時のエラーコード

エラーの発生した SQL が GET CONNECTION HANDLE の場合、\*を表示します。

**dd....dd** : SQL 実行時の SQLCODE

エラーの発生した SQL が GET CONNECTION HANDLE の場合、\*を表示します。

**ee....ee** : SQL 実行時の対象テーブル名

DB キュー名 + " MG" : 通常用メッセージ表

DB キュー名 + " AM" : 交替用メッセージ表

**ff....ff** : SQL 実行時のアクセス種別

read : AP 間通信のメッセージ読み出し処理, またはメッセージの読み込みもしくは読み出し関数の処理でエラーが発生

write : メッセージの書き込み関数実行後の同期点処理 (UAP リターン, CBLEETRN('C-COMMIT') 実行, ee\_trn\_chained\_commit 関数実行) でエラーが発生

**gggg** : 理由コード

0001 : SQL 実行エラー

0002 : SQL 実行エラー (リトライロールバック要)

0003 : SQL 実行エラー (通常メッセージ表でエラー)

0004 : SQL 実行エラー (交替用メッセージ表でエラー)

0005 : SQL 実行エラー (交替用メッセージ表に切り替え済みでエラー)

0006 : SQL 実行エラー (リトライロールバック失敗)

hh...hh : 出力回数

同一トランザクション内での同一 DB キューに対するこのメッセージの出力回数です。

ii...ii : 詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 同一 DB キュー名で出力回数の値に応じて、次の表に従って対策してください。

出力回数が 1 の場合

アクセス種別	理由コード	意味	対策
write	0001	通常のメッセージ表への書き込みに失敗しました。	テーブル名, エラーコード, SQLCODE を基に HiRDB マニュアルを参照し, 原因を取り除いてください。 このメッセージ出力後に KFSB85654-I が出力されている場合は原因を取り除いたあとに eedbqaltput コマンドを実行してください。
	0002		
	0005	交替用メッセージ表への書き込みに失敗しました。	通常のメッセージ表および交替用メッセージ表について, テーブル名, エラーコード, SQLCODE を基に HiRDB マニュアルを参照し原因を取り除いてください。 また, 原因を取り除いたあとに eedbqaltput コマンドを実行してください。
read	0002	通常のメッセージ表または交替用メッセージ表からの読み出しに失敗しました。	テーブル名, エラーコード, SQLCODE を基に HiRDB マニュアルを参照し, 原因を取り除いてください。
	0003	通常のメッセージ表からの読み出しに失敗しました。	
	0004	交替用メッセージ表からの読み出しに失敗しました。	

出力回数が 2 (出力回数が 1 のメッセージと組み合わせ) の場合

アクセス種別	理由コード		意味	対策
	出力回数が 1	出力回数が 2		
write	0001	0001	通常のメッセージ表および交替用メッセージ表への書き込みに失敗しました。	通常のメッセージ表および交替用メッセージ表について, テーブル名, エラーコード
	0002	0001		

アクセス種別	理由コード		意味	対策
	出力回数が1	出力回数が2		
write	0002	0001	通常メッセージ表および交替用メッセージ表への書き込みに失敗しました。	ド, SQLCODE を基に HiRDB マニュアルを参照し原因を取り除いてください。
	0002	0006	通常メッセージ表への書き込みに失敗し、リトライロールバックを実施しましたが、リトライロールバックできませんでした。TP1/FSP の関連ドキュメントを参照してください。	対策なし。
read	0001	0001	通常メッセージ表および交替用メッセージ表からの読み出しに失敗しました。	通常メッセージ表および交替用メッセージ表について、テーブル名、エラーコード、SQLCODE を基に HiRDB マニュアルを参照し原因を取り除いてください。
	0002	0001		
	0002	0006	通常メッセージ表または交替用メッセージ表からの読み出しに失敗し、リトライロールバックを実施しましたが、リトライロールバックできませんでした。TP1/FSP の関連ドキュメントを参照してください。	対策なし。

## KFSB45638-W

SQL 実行においてエラーが発生しました。DB キュー名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, エラーコード = cc....cc, SQLCODE = dd....dd, テーブル名 = ee....ee, 詳細コード = ff....ff

An error has occurred during SQL execution. DB queue name = aa....aa, service name = bb....bb, error code = cc....cc, SQLCODE = dd....dd, table name = ee....ee, detail code = ff....ff (E+P+L) (4) (SUP)

メッセージ読み出しの SQL 実行でエラーが発生しました。

このメッセージは API を要求した順に出力します。

**aa....aa** : DB キュー名

**bb....bb** : サービス名

サービス名がない場合は、\*を表示します。

**cc....cc** : SQL 実行時のエラーコード

エラーの発生した SQL が GET CONNECTION HANDLE の場合、\*を表示します。

**dd....dd** : SQL 実行時の SQLCODE

エラーの発生した SQL が GET CONNECTION HANDLE の場合、\*を表示します。

ee....ee : SQL 実行時のテーブル名

DB キュー名+” MG” : 通常用メッセージ表

DB キュー名+” AM” : 交替用メッセージ表

ff....ff : 詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)読み出すメッセージ表を切り替えて処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** テーブル名, エラーコード, SQLCODE を基に HiRDB マニュアルを参照し原因を取り除いてください。

### KFSB45640-W

イベント送信処理に失敗しました。サービスグループ名 = aa....aa, DB キュー名 = bb....bb, 理由コード 1 = cc....cc, 理由コード 2 = dd....dd, 詳細コード = ee....ee

An attempt to send an event has failed. service group name = aa....aa, DB queue name = bb....bb, reason code 1 = cc....cc, reason code 2 = dd....dd, detail code = ee....ee (E+P+L)

(4) (SUP)

イベント送信処理に失敗しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当する DB キュー名

cc....cc : 理由コード 1

0001 : RPC サービス要求の送信処理で障害が発生しました。

0002 : TCP/IP 通信の送信処理で障害が発生しました。

dd....dd : 理由コード 2

理由コードの意味と対策を表に示します。

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)イベント送信を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード 2	意味	対策
-305	接続の取得に失敗しました。	相手システムの状態を確認したあと, 再実行してください。



理由コード 2	意味	対策
-306	ネットワークに障害が発生しました。	相手システムの状態を確認したあと、再実行してください。
-310	サービスグループが定義されていません。	サービスグループ名の定義を見直して再実行してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB45641-W

イベント受信処理に失敗しました。DB キュー名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cccc  
 An attempt to receive an event has failed. DB queue name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code = cccc (E+P+L) (4) (SUP)

DB キューでイベント受信処理に失敗しました。

**aa....aa** : DB キュー名

DB キュー名を表示できない場合は、\*を表示します。

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cccc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	DB キュー機能のライブラリがリンケージされていません。	ライブラリのリンケージ方法を見直して、再実行してください。
0002	プロセス関連定義の dbq_use オペランドが DB キューを使用しない指定 (N を指定) になっています。	プロセス関連定義の dbq_use オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0003	自システムの読み出し DB キュー以外の DB キューに対してイベントを受信しました。	eedbqchgr コマンドを実行したかどうかを確認してください。実行していない場合は、次に示す定義の指定値を見直して、再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントを受信した TP1/EE の DB キュー機能関連定義の dbqgrpdef 定義コマンド</li> <li>イベント送信元のシステムの定義 TP1/EE の場合：DB キュー機能関連定義の dbqgrpdef 定義コマンド、dbqprcdef 定義コマンド、およびサービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンド</li> </ul>

理由コード	意味	対策
0003	自システムの読み出し DB キュー以外の DB キューに対してイベントを受信しました。	Cosminexus Reliable Messaging などの TP1/EE 以外の場合：その製品の定義
0004	DB キュー機能関連定義の dbqdef 定義コマンドで指定していない DB キューに対するイベントを受信しました。	次に示す定義の指定値を見直して、再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントを受信した TP1/EE の DB キュー機能関連定義の dbqdef 定義コマンド</li> <li>イベント送信元のシステムの定義  TP1/EE の場合：DB キュー機能関連定義の dbqdef 定義コマンド、dbqgrpdef 定義コマンド、dbqprcdef 定義コマンド、およびサービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンド  Cosminexus Reliable Messaging などの TP1/EE 以外の場合：その製品の定義</li> </ul>
0005	サポートしていないバージョンのイベントを受信しました。	イベント送信元のシステムのバージョンを確認したあと、再実行してください。
9999	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB45642-W

イベント送信処理に失敗しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, DB キュー名 = cc....cc, 理由コード = dd....dd, 詳細コード = ee....ee

An attempt to send an event has failed. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, DB queue name = cc....cc, reason code = dd....dd, detail code = ee....ee (E+P+L) (4) (SUP)

イベント送信処理に失敗しました。

**aa....aa** : イベント送信先である DB キュー読み出しサーバの IP アドレス

**bb....bb** : イベント送信先である DB キュー読み出しサーバのポート番号

**cc....cc** : DB キュー名

**dd....dd** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**ee....ee** : TP1/EE がトラブルシューティングで使用する情報

(S) イベント送信を中止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
-305	コネクションの取得に失敗しました。	相手システムの状態を確認したあと、再実行してください。
-306	ネットワークに障害が発生しました。	相手システムの状態を確認したあと、再実行してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB45643-W

イベント送信処理に失敗しました。プロセス識別子 = aa....aa, DB キュー名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

An attempt to send an event has failed. process ID = aa....aa, DB queue name = bb....bb, reason code = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (4) (SUP)

イベント送信処理に失敗しました。

aa....aa : イベント送信先である DB キュー読み出しサーバのプロセス識別子

bb....bb : DB キュー名

cc....cc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) イベント送信を中止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
-305	コネクションの取得に失敗しました。	相手システムの状態を確認したあと、再実行してください。
-306	ネットワークに障害が発生しました。	相手システムの状態を確認したあと、再実行してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB45660-W

DB キューコマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cccc

Execution of a DB queue command has failed. command name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code = cccc (E+P+L) (4) (SUP)

DB キューコマンドが失敗しました。

aa....aa : 失敗したコマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cccc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

理由コードが 9999 のときだけ有効な値になります。理由コードが 9999 以外のときは、\*\*\*\*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)理由コードに示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

**【対策】** TP1/EE プロセスのメッセージログファイルを参照し原因を検証してください。また、cccc が有効な値のときは保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
0001	DB キュー機能は使用できません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0002	リソースマネージャへのアクセスが失敗しました。	直前に出力されている次のメッセージを基に原因を取り除いてください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• KFSB45620-E メッセージ</li><li>• KFSB45627-E メッセージ</li><li>• KFSB45630-E メッセージ</li><li>• KFSB45636-E メッセージ</li><li>• KFSB55670-E メッセージ</li><li>• KFSB55671-E メッセージ</li><li>• KFSB55672-E メッセージ</li></ul>
0003	要求された DB キューは存在しません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0004	要求された DB キューは使用できないか、または読み出し停止中です。	TP1/EE プロセスのメッセージログファイルを参照し使用できなくなった原因を検証してください。または運用コマンドで読み出しを再開してください。
0005	要求された DB キューはリソースマネージャに接続されていません。	このメッセージより前に出力されている KFSB50919-E メッセージを基に原因を調査し、コマンドを再実行してください。
0006	要求された DB キューサービスは存在しません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0007	要求された DB キューのタイプが相手読み出しの場合、該当するコマンドは実行できません。	指定する DB キュー名のタイプを確認してください。
0008	要求のあった DB キューと DB キューサービスが属するグループとは接続、接続解除対象ではありません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0009	要求のあった DB キューは別の DB キューサービスと接続しているため、接続できません。ま	現在の接続状態を DB キュー情報の照会コマンドで確認したあと、コマンドを再実行してください。

理由コード	意味	対策
0009	たは、要求のあった DB キューと DB キューサービスとは接続解除の対象ではありません。	現在の接続状態を DB キュー情報の照会コマンドで確認したあと、コマンドを再実行してください。
0010	コマンド実行のタイミングが不正です。	コマンドを実行できる状態かどうか確認してください。または、しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。
0011	指定された通番が不正です。	DB キュー情報の照会コマンドで確認してください。
0012	要求された DB キューサービスは永久閉塞中です。	DB キューサービスの閉塞状態表示コマンドで確認してください。
0013	メモリが不足しています。	直前に出力されている KFSB45624-E メッセージまたは KFSB45634-E メッセージを基に原因を取り除いてください。
0014	DB キュー名、DB キューサービス名、または IFA 番号が不正です。	TP1/EE サービス定義を見直してください。または、入力コマンドを見直してください。
0015	DB キュー数が、該当する DB キューサービスで使用する最大 DB キュー数を超えるため、接続できません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0016	すべての DB キューサービスが永久閉塞中のため、閉塞、または閉塞解除できません。	DB キューサービスの閉塞状態表示コマンドで確認してください。
0017	オンラインバッチ機能が使用できません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0018	要求されたロット名は存在しません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0019	該当するロットは要求を受け付けられない状態です。	該当するロットの状態でも受け付けられるコマンドを実行してください。
0020	要求された DB キューグループ名は存在しません。	DB キュー機能関連定義を見直してください。
0021	この要求には読み出し済みにするメッセージはありません。	読み出し通番と書き込み通番を確認してください。
0022	コマンドの実行に必要な定義が指定されていません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0023	コマンドトランザクションのコミット決着に失敗したため、ロールバック決着しました。	コミット決着に失敗した原因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。
0024	コマンドトランザクションがヒューリスティックハザード決着したか、またはヒューリスティックミックス決着しました。	ヒューリスティックハザード決着、またはヒューリスティックミックス決着した原因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。
0025	要求された DB キューは UAP 間通信機能を使用する DB キューではありません。	DB キュー情報の照会コマンドで DB キュー種別を確認してください。
0026	コマンドの実行に必要な DB キュー属性が付与されていません。または、DB キューのフォーマットタイプが 1 ではありません。 eedbqclear コマンドの場合は、通番初期化属性がありません。	次の確認をしてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DB キュー照会コマンドで必要な DB キュー属性が与えられているか確認してください。</li> <li>指定した DB キュー名が属する DB キューグループ定義のフォーマットタイプを確認してください。</li> </ul>

理由コード	意味	対策
0026	eedbqaltput コマンドの場合、交替用メッセージ表書き込み機能を使用する属性がありません。	次の確認をしてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DB キュー照会コマンドに必要な DB キュー属性が与えられているか確認してください。</li> <li>指定した DB キュー名が属する DB キューグループ定義のフォーマットタイプを確認してください。</li> </ul>
0080	該当するコマンドの転送処理で、処理の実行後に読み出し先サーバの変更を検知しました。	要求した処理の結果は不定です。 実行結果は、eedbqls コマンドで確認してください。
0081	該当するコマンドの転送処理で、変更要求対象の読み出し先サーバが存在しません。	DB キュー読み出し先サーバ変更機能を使用して読み出し先サーバを決定するか、該当の DB キューを読み出す TP1/EE プロセスを開始してください。
0082	該当するコマンドの転送処理で、読み出し先サーバが RPC 通信を使用した DB キュー機能に対応していません。	メッセージを読み出しているサーバがバージョン 07-80 以降の TP1/EE であることを確認してください。
0083	該当するコマンドの転送処理で、処理実行後の結果確認でリソースマネージャへのアクセスが失敗しました。	要求した処理の結果は不定です。 理由コード 0002 の対策で障害要因を取り除いてから、eedbqls コマンドで実行結果を確認してください。
0084	該当するコマンドの転送処理で、処理実行後の結果確認で変更要求対象の読み出し先サーバが存在しません。	要求した処理の結果は不定です。 理由コード 0081 の対策で障害要因を取り除いてから、eedbqls コマンドで実行結果を確認してください。
0085	該当するコマンドの転送処理で、処理実行後の結果確認で読み出し先サーバが RPC 通信を使用した DB キュー機能に対応していません。	要求した処理の結果は不定です。 理由コード 0082 の対策で障害要因を取り除いてから、eedbqls コマンドで実行結果を確認してください。
0086	該当するコマンドの転送処理が時間切れになりました。	KFSB55626-E メッセージを基に、要求先の TP1/EE プロセスを特定します。 要求先の TP1/EE プロセスが出力するエラーメッセージを基に障害を取り除いてください。
0087	該当するコマンドの転送処理が失敗しました。	次のメッセージを参考に、障害を取り除いてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>KFSB40320-E</li> <li>KFSB40322-E</li> <li>KFSB40350-E</li> <li>KFSB40352-E</li> </ul>
9999	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB45661-W

DB キューライブラリがリンクされていません。

The DB queue library has not been linked. (E+P+L) (4) (SUP)

DB キュー共通ライブラリがリンクされていません。

(S)処理を続行します。

(O)DB キュー機能, またはオンラインバッチ機能を使用する場合は, DB キュー共通ライブラリをリンクしてください。

【対策】なし。

### KFSB45662-W

DB キューコマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, XID = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dddd

Execution of a DB queue command has failed. command name = aa....aa, XID = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dddd (E+P+L) (4) (SUP)

DB キューコマンドが失敗しました。

aa....aa : 失敗したコマンド名

bb....bb : トランザクション識別子

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dddd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

理由コードが 9999 のときだけ有効な値になります。理由コードが 9999 以外のときは, \*\*\*\* を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)理由コードに示した原因を取り除き, コマンドを再実行してください。

【対策】 TP1/EE プロセスのメッセージログファイルを参照し原因を検証してください。また, cccc が有効な値のときは保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
0001	コマンドトランザクションの決着に失敗したため, トランザクションの回復を行っています。	トランザクションの回復が完了してから, eedbqls コマンドで状態を確認してください。
9999	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB45671-W

最初に起動したサーバの J I トランザクションの終了を待っています。ノード識別子 = aaaa, ラン ID = bb....bb, 決定時刻 = YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss, 共有情報表名 = cc....cc

The system is waiting for the JI transaction of the server started first to end. Node ID = aaaa, Run ID = bb....bb, Decision time = YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss, JI table name = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)



最初に起動したサーバの JI トランザクションの終了を待っています。

**aaaa** : 最初に起動したサーバのノード識別子

最初に起動したサーバの情報が取得できなかった場合は、\*\*\*\*を表示します。

**bb...bb** : 最初に起動したサーバのラン ID

最初に起動したサーバの情報が取得できなかった場合は、\*\*\*\*\*を表示します。

**YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss** : 最初に起動したサーバを決定した時刻 (最初に起動したサーバのマシン時刻)

YYYY : 年 (西暦)

MM : 月

DD : 日

hh : 時

mm : 分

ss.ssssss : 秒 (マイクロ秒まで表示)

最初に起動したサーバの情報が取得できなかった場合は、\*\*\*\*/\*\*/\* \*\*:\*:\*.\*\*\*\*\*\*を表示します。

**cc....cc** : 共有情報表名

(S)最初に起動したサーバの JI トランザクションの終了を待ちます。

(O)このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** aaaa に表示されるサーバの状態を確認してください。JI トランザクションを実行中の場合は、時間が掛かっている原因を調査してください。プロセスダウンしている場合は、TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して対策してください。

## KFSB45672-E

SQL 実行においてエラーが発生しました。DBMS メッセージ = aa....aa, 共有情報表名 = bb....bb, SQL CODE = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

An error occurred during SQL execution. DBMS message = aa....aa, JI table name = bb....bb, SQLCODE = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

共有情報表への SQL 実行時に SQL エラーが発生しました。

SQL 実行時の DBMS のエラーメッセージを出力します。

ただし、障害の発生した SQL が GET CONNECTION HANDLE の場合は、aa....aa には\*を、cc....cc には GET CONNECTION HANDLE のリターンコードを表示します。

**aa....aa** : DBMS のエラーメッセージ

**bb....bb** : 共有情報表名



cc....cc : SQLCODE

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** DBMS のエラーメッセージを参照して、原因を取り除いてください。

### KFSB45673-W

共有情報表にアクセスしたトランザクションが決着していません。共有情報表名 = aa....aa, 種別 = bb, XID = cc....cc

The transaction that accessed the JI table is not complete. JI table name = aa....aa, type = bb, XID = cc....cc (E+P+L) (3) (SUP)

共有情報表にアクセスしたトランザクションが決着していません。

aa....aa : 共有情報表名

bb : トランザクション種別

DQ : JI トランザクションを制御するトランザクション

JI : JI トランザクション

cc....cc : トランザクション識別子

(S)共有情報表にアクセスしたトランザクションが決着するまで待ちます。トランザクションが決着すると処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** リソースマネージャの状態を確認して、トランザクションが決着しない原因を取り除いてください。

### KFSB45674-W

オンライン開始モードは再開始、共有情報表の状態は未起動状態で状態が不整合です。共有情報表名 = aa....aa

Statuses do not match because online start mode is currently in restart status and the JI table has not started. JI table name = aa....aa (E+P+L) (4) (SUP)

オンライン開始モードは再開始ですが共有情報表の状態は未起動状態です。

aa....aa : 共有情報表名

(S)2 番目以降に起動したサーバとして JI トランザクションを実行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 最初に起動したサーバとして JI トランザクションを実行したい場合は、共有情報表を使用するすべての TP1/EE プロセスを eesvstop コマンドで停止してから、eesvstart コマンドを再実行してください。

## KFSB45701-E

UOC でエラーが発生しました。UOC 種別 = aa....aa, OBM 名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc, UOC 設定値 = dd....dd, 詳細コード = ee....ee

An error occurred in a UOC. UOC type = aa....aa, OBM name = bb....bb, reason code = cc....cc, value set in UOC = dd....dd, detail code = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

UOC でエラーが発生しました。

**aa....aa** : UOC 種別

OWNOBED : OBM 終了/停止 UOC

OWNOBST : OBM 開始/再開始 UOC

OWNOBTL : OBM トランザクションレベル名判定 UOC

**bb....bb** : OBM 名

**cc....cc** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**dd....dd** : UOC 設定値

理由コードが UOC\_ERROR の場合は、UOC が設定した exit コードを表示します。

RETURN\_VALUE の場合は、UOC のリターン値を表示します。

**ee....ee** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)OBM 開始/再開始 UOC の場合、OBM 開始処理を中止します。

OBM 終了/停止 UOC の場合、OBM を強制停止します。

OBM トランザクションレベル名判定 UOC の場合、OBM を強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
RETURN_VALUE	UOC のリターン値 dd....dd が不正です。	UOC のリターン値 dd....dd が EEOBM_UOC_OK (0), または EEOBM_UOC_NG (1) になるように、UOC を見直してください。
UOC_ERROR	UOC が UOC 設定値 (OBM 開始コマンドの exit コード) dd....dd でエラーリターンしました。	dd....dd に示す exit コードから、開始/再開始 UOC 処理でのエラーの原因を調査してください。

理由コード	意味	対策
UOC_NG	UOC がエラーリターンしました。	UOC が EEOBM_UOC_NG (1) をリターンした原因を調査してください。

## KFSB45702-E

UOC の設定値エラーが発生しました。UOC 種別 = aa....aa, OBM 名 = bb....bb, ロット名 = cc....cc, 不正メンバ名 = dd....dd, 不正設定値 = ee....ee

An incorrect value was set in a UOC. UOC type = aa....aa, OBM name = bb....bb, lot name = cc....cc, name of the member containing the error = dd....dd, incorrect value that is set = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

UOC の設定値エラーが発生しました。

**aa....aa** : UOC 種別

- OWNOBED : OBM 終了 / 停止 UOC
- OWNOBSV : OBM サービス名決定 UOC
- OWNOBST : OBM 開始 / 再開始 UOC
- OWNOBTL : OBM トランザクションレベル名判定 UOC

**bb....bb** : OBM 名

**cc....cc** : 不正ロット名

不正となった要因にロット名が関係しない場合は, \*\*\*\* を表示します。

**dd....dd** : 不正メンバ名

不正メンバ名の詳細を表に示します。

**ee....ee** : 不正設定値

不正設定値の詳細を表に示します。

不正メンバ名 dd....dd	不正メンバの意味	不正設定値 ee....ee
child_lot_num	下位ロットエントリ数	-2147483648~2147483647
child_lot_top	先頭下位ロットエントリ番号	-2147483648~2147483647
exit_code	OBM 開始コマンドの exit コード	-32768~30, または 41~32767
header_address	ヘッダデータアドレス	アドレス (16 進表示)
header_len	ヘッダデータ長	-2147483648~2147483647
lot_lv	ロット階層レベル番号	-32768~32767
lot_name	ロット名	in_lot[], または w_lot[] の配列要素番号
service_name_len	サービス名長	-2147483648~0, または 32~2147483647

不正メンバ名 dd...dd	不正メンバの意味	不正設定値 ee...ee
start_lot	使用するロット情報	'I', 'W'以外の1文字
tplee_area	TP1/EEが使用する領域	-2147483648~2147483647
trnlevel_name	トランザクションレベル名	UOCで設定した値(最大31文字) 設定されなかった場合は "***"

(S)OBM開始/再開 UOCの場合、OBM開始処理を中止します。

OBM終了/停止 UOCの場合、およびOBMサービス名決定 UOCの場合、OBMを強制停止します。

OBMトランザクションレベル名判定 UOCの場合、OBMを強制停止します。

(O)OpenTP1管理者に連絡してください。

**[対策]** 次のように対策してください。

不正メンバ名	意味	対策
child_lot_num	「下位ロットエントリ数」の値が不正です。	OBM開始/再開 UOC内で「下位ロットエントリ数」の値を変更していないかを確認してください。
child_lot_top	OBM開始/再開 UOC内で設定した「先頭下位ロットエントリ番号」の値が不正です。	OBM開始/再開 UOC内で設定した「先頭下位ロットエントリ番号」の値を次の観点で確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>誤って先頭下位ロット以外のエントリ番号を指定していないか</li> <li>1階層ロット構成で0以外の値を指定していないか</li> </ul>
exit_code	OBM開始/再開 UOCで設定した「OBM開始コマンドのexitコード」の値が不正です。	OBM開始/再開 UOC内で設定した「exitコード」の値が31~40の範囲であることを確認してください。
header_address	OBM終了/停止 UOCで設定した「ヘッダレコードアドレス」が不正です。	OBM終了/停止 UOCで設定した「ヘッダレコードアドレス」を変更していないかを確認してください。
header_len	OBM終了/停止 UOCで設定した「ヘッダレコード長」が不正です。	OBM終了/停止 UOCで設定した「ヘッダレコード長」を変更していないかを確認してください。
lot_lv	子ロットが連続領域に配置されていません。	OBM開始/再開 UOC内で、同じロットに対する下位ロットが、連続したエントリ番号の領域に配置されているかを確認してください。 また、OBM開始/再開 UOC内で「ロット階層レベル番号」の値を変更していないかを確認してください。
lot_name	「ロット名」の値が不正です。	OBM開始/再開 UOC内で「ロット名」の値を変更していないかを確認してください。

不正メンバ名	意味	対策
lot_name	「ロット名」の値が不正です。	また、OBM 開始 UOC 内でロットの並び替えを行った場合に、ロットの親子関係が変更されていないかを確認してください。
service_name_len	OBM サービス名決定 UOC で設定した「サービス名長」が不正です。	OBM サービス名決定 UOC で設定した「サービス名長」が 1~31 文字の範囲であることを確認してください。
start_lot	OBM 開始/再開 UOC で設定した「OBM 実行に使用するロット情報」が不正です。	OBM 開始/再開 UOC 内で設定した「使用するロット情報」の値が、EEOBM_LOTUSE_IN ('I'), または EEOBM_LOTUSE_W ('W') であることを確認してください。
tplee_area	TP1/EE 領域で使用する値の不正です。	OBM 開始/再開 UOC 内で、ロットの並び替え処理時に、構造体全体を並び替えているか、ロットの親子関係を変更していないかを確認してください。
trmlevel_name	トランザクションレベル名判定 UOC で設定した「トランザクションレベル名」が不正です。	トランザクションレベル名判定 UOC で設定した「トランザクションレベル名」が 1~31 文字の範囲であることを確認してください。 また、queue_trmlevel に設定した値と等しいか確認してください。

## KFSB45703-W

バッチデータ表にヘッダレコードが存在しません。UOC種別 = aa....aa, OBM名 = bb....bb, バッチデータ表名 = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

A header record is missing from a batch data table. UOC type = aa....aa, OBM name = bb....bb, batch data table name = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (4) (SUP)

ヘッダレコードを使用する設定になっていますが、バッチデータ表にヘッダレコードが存在しません。

**aa....aa** : UOC 種別

OWNOBED : OBM 終了/停止 UOC

OWNOBST : OBM 開始/再開 UOC

**bb....bb** : OBM 名

**cc....cc** : バッチデータ表名

**dd....dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を継続します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/FSP の OBM 構成定義の obmdef 定義コマンドに指定する、-d オプションの header オペランドに N を指定するか、またはバッチデータ表名 (cc...cc) に対応するバッチデータ表にヘッダレコードを追加してください。

### KFSB45704-E

OBM サービスで不正電文を受信した為、電文を破棄しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd

An invalid message received by the OBM service was discarded. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

OBM サービスで不正メッセージを受信したため、メッセージを破棄しました。

aa....aa : 送信元の IP アドレス

bb....bb : 送信元のポート番号

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 送信元 IP アドレス、送信元のポート番号を参照して、送信先が誤っていないか確認してください。誤っていない場合は、保守員に連絡してください。

### KFSB45705-E

バッチデータ表の構成不正を検知しました。OBM名 = aa....aa, バッチデータ表名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc

An error was detected in a batch data table structure. OBM name = aa....aa, batch data table name = bb....bb, reason code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

バッチデータ表の構成不正を検知しました。

aa....aa : OBM 名

bb....bb : バッチデータ表名

cc....cc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)OBM 開始/再開処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策したあとで、TP1/FSP の eeobmstart コマンドを再実行してください。

理由コード	意味	対策
DATA_SIZE	バッチデータ列のサイズが範囲外です。	バッチデータ列のサイズを 1~32000 にして、バッチデータ表を作成してください。
DATA_TYPE	バッチデータ列の型が BINARY ではありません。	バッチデータ列の型を BINARY 型にして、バッチデータ表を作成してください。
INDEX	バッチデータ表に、キー列および一連通番列を定義した INDEX がありません。	キー列および一連通番列を定義した INDEX を作成してください。
KEY_SIZE	キー列のサイズが TP1/FSP の OBM 構成定義の lotentry 定義コマンドの-k オプションの指定値と不一致です。	キー列のサイズを lotentry コマンドの-k オプションの指定値と同じにして、バッチデータ表を作成してください。
KEY_TYPE	キー列の型が CHARACTER 型ではありません。	キー列の型を CHARACTER 型にして、バッチデータ表を作成してください。
SEQNUM_TYPE	一連通番列の型が INTEGER 型ではありません。	一連通番列の型を INTEGER 型にして、バッチデータ表を作成してください。

## KFSB45706-E

バッチデータ表の不正を検知しました。OBM名 = aa....aa, バッチデータ表名 = bb....bb  
An error was detected in a batch data table. OBM name = aa....aa, batch data table name = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

バッチデータの構成チェック後に、バッチデータ表が不正に変更されていることを検知しました。

aa....aa : OBM 名

bb....bb : バッチデータ表名

(S)OBM 開始/再開処理で発生した場合は、[KFSB55704-E](#) メッセージを出力して OBM 開始/再開処理を中止します。OBM 終了/停止処理で発生した場合は、OBM を強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** バッチデータ表を再作成してください。

## KFSB45707-E

RMを利用しない状態でトランザクションが実行されました。OBM名 = aa....aa  
A transaction was executed without using an RM. OBM name = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

OBM 管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが実行されました。

aa....aa : OBM 名

(S)OBM を一時休止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージより前に出力されている [KFSB50919-E](#) メッセージを参照して、対策してください。

### KFSB45708-W

ロット終了/停止時に処理済み件数の確認ができませんでした。OBM名/ロット名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

The number of records processed could not be determined when the lot was terminated or stopped. OBM/lot name = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (4) (SUP)

ロット終了/停止時に OBM 管理表の排他が取得できなかったため、バッチデータの処理済み件数を確認できませんでした。

**aa....aa** : OBM 名とロット名

ロットの階層が 1 階層の場合

OBM 名を表示します。

ロットの階層が 2 階層以上の場合

OBM 名のあとにアンダーライン ( ) で区切って、2 階層目以降のロット名を上位階層から順に表示します。

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)ロット終了/停止処理を続行します。このメッセージが出力された場合は、TP1/FSP の eeobmstart コマンド、および eeobmstatls コマンドが出力するバッチデータの処理済み件数が、実際に処理済みとした件数より少ないことがあります。

(O)なし。

**【対策】** なし。

### KFSB45709-W

OBM実行結果出力用の領域確保に失敗しました。OBM名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

Allocation of the output space for OBM execution results failed. OBM name = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (4) (SUP)

OBM 実行結果出力処理で使用する領域確保に失敗しました。

**aa....aa** : OBM 名

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報



(S)OBM 実行結果の出力内容を縮小して処理を続行します。OBM 実行結果のうち、ロット情報、および処理した件数は出力されません。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB45710-W

OBM実行結果のファイル出力処理で障害が発生しました。OBM名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred while an OBM execution results file was being output. OBM name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)

OBM 実行結果の出力処理で障害が発生しました。

aa....aa : OBM 名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
FCLOSE	ファイルのクローズに失敗しました。	出力ファイルの障害を取り除いて再起動してください。 考えられる障害の要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>パス（環境変数\$DCDIR/spool/dceinf/obm）が存在しません。</li><li>ファイル障害が発生しました。</li><li>ディスク障害が発生しました。</li><li>設定されたファイルに対するアクセス権が不正です。</li><li>リソースが不足しています。</li><li>OS の制限（ファイルディスクリプタ、シンボリックリンク数など）を超えています。</li><li>NFS 障害が発生しました。</li></ul>
FGETS	ファイルの読み込みに失敗しました。	
FOPEN	ファイルのオープンに失敗しました。	
FWRITE	ファイルの書き込みに失敗しました。	
MKDIR	出力ディレクトリの作成に失敗しました。	
PATH	出力ファイルのパス長が最大値を超えています。	保守員に連絡してください。
SNPRINTF	内部矛盾が発生しました。	

理由コード	意味	対策
STAT	ファイル情報の取得に失敗しました。	出力ファイルの障害を取り除いて再起動してください。 考えられる障害の要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パス（環境変数\$DCDIR/spool/dceeinf/obm）が存在しません。</li> <li>ファイル障害が発生しました。</li> <li>ディスク障害が発生しました。</li> <li>設定されたファイルに対するアクセス権が不正です。</li> <li>リソースが不足しています。</li> <li>OSの制限（ファイルディスクリプタ、シンボリックリンク数など）を超えています。</li> <li>NFS 障害が発生しました。</li> </ul>

### KFSB45711-E

UOC呼び出し処理でエラーが発生しました。UOC種別 = aa....aa, OBM名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

An error occurred during processing to call UOC. UOC type = aa....aa, OBM name = bb....bb, reason code = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

UOC 呼び出し処理でエラーが発生しました。

**aa....aa** : UOC 種別

OWNOBST : OBM 開始/再開 UOC

OWNOBED : OBM 終了/停止 UOC

**bb....bb** : OBM 名

**cc....cc** : 理由コード

**dd....dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)OBM 開始/再開 UOC の場合、OBM 開始処理を中止します。

OBM 終了/停止 UOC の場合、OBM を強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
MEMORY	UOC 制御内でメモリ確保に失敗しました。	OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

理由コード	意味	対策
TABLE	UOC 制御内のヘッダレコード入出力で DB アクセス障害（表構成不正）を検出しました。	このメッセージの前に出力される KFSB45706-E メッセージを参照して、エラーの原因を取り除いてください。
SQL	UOC 制御内のヘッダレコード入出力で DB アクセス障害（SQL エラー）を検出しました。	このメッセージの前に出力される KFSB45780-E メッセージを参照して、エラーの原因を取り除いてください。
LOCK	UOC 制御内のヘッダレコード入出力で DB アクセス障害（排他確保失敗）を検出しました。	このメッセージの前に出力される KFSB45780-E メッセージを参照して、エラーの原因を取り除いてください。
OTHER	UOC 制御内で論理不正を検出しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB45712-W

```
eeobmstart コマンドへの応答送信処理に失敗しました。OBM名 = aa....aa, 詳細コード 1 =
bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc
An attempt to send a reply to a command failed. OBM name = aa....aa, detail code 1 =
bb....bb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)
```

TP1/FSP の eeobmstart コマンドへの応答送信処理に失敗しました。

**aa....aa** : OBM 名

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** このメッセージより前に出力されている **KFSB55709-E** メッセージを参照して、対策してください。

## KFSB45713-W

```
一時休止状態の OBM があります。一時休止状態の OBM 数 = aa....aa
OBM are still pausing processed. number of OBM pausing processed = aa....aa (E+P+L)
(4) (SUP)
```

一時休止状態の OBM があります。

**aa....aa** : 一時休止状態の OBM の数

(S)一時休止状態の OBM がなくなるまで、TP1/FSP の OBM 関連定義の `obm_suspendmsg_interval` オペランドに指定した間隔でこのメッセージを出力します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して対策してください。

### KFSB45780-E

SQL 実行においてエラーが発生しました。DBMS メッセージ = aa....aa, 表名 = bb....bb, SQL CODE = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

An error occurred during SQL execution. DBMS message = aa....aa, table name = bb....bb, SQLCODE = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

SQL 実行時の DBMS のエラーメッセージを出力します。

aa....aa : DBMS のエラーメッセージ

bb....bb : SQL エラーが発生した表名

OBM 表の場合 : OBM 管理表名

OBM 状態管理表の場合 : OBM 管理表名に加え, ST が表示されます。

ロット状態管理表の場合 : OBM 管理表名に加え, LO が表示されます。

処理済み通番管理表の場合 : OBM 管理表名に加え, NO が表示されます。

バッチデータ表の場合 : バッチデータ表名

OPEN 状態管理表の場合 : OPEN 状態管理表名

BCM 管理表の場合 : OPEN 状態管理表名に加え, BC が表示されます。

cc....cc : SQLCODE

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 DBMS のエラーメッセージを参照して, 原因を取り除いてください。

### KFSB45781-W

OBM管理表の行が削除されています。OBM管理表名 = aa....aa, 処理コード = bb....bb

Rows in an OBM management table have been deleted. OBM management table name = aa....aa, processing code = bb....bb (E+P+L) (4) (SUP)

OBM 管理表の行の更新, または削除の前に不当に行が削除されていました。

aa....aa : OBM 管理表名

bb...bb : OBM 管理表に対する処理を示すコード

DELETE : 行削除処理

UPDATE : 行更新処理

(S)bb...bb が UPDATE の場合、削除されていた行を挿入して処理を続行します。

bb...bb が DELETE の場合、処理を続行します。

(O)なし。

**[対策]** TP1/FSP が提供するコマンド以外で OBM 管理表を更新していないかを確認してください。

### KFSB45782-W

OBMのトランザクションが決着していません。種別 = aa....aa, XID = bb....bb

The OBM transaction has not been committed. type = aa....aa, XID = bb....bb (E+P+L)

(4) (SUP)

OBM のトランザクションが決着していません。トランザクションが決着するまで待ちます。

aa...aa : OBM のトランザクションの種別

CLOSE : OBM クローズトランザクション

END : OBM 終了トランザクション

LOTPLN : ロット状態を計画停止に更新するトランザクション

LOTSCD : ロットスケジューラトランザクション

NORMAL : OBM ノーマルトランザクション

NORMAL ERR : OBM ノーマルトランザクションの障害後処理トランザクション

OPEN : OBM オープントランザクション

SKIP : OBM スキップデータ UOC を実行するトランザクション

SKIP ERR : OBM スキップデータ UOC を実行するトランザクションの障害後処理トランザクション

START : OBM 開始トランザクション

TBLUPD : OBM 管理表をオンライン状態に更新するトランザクション

bb...bb : XID

(S)トランザクションが決着するまで待ちます。決着後に処理を再開します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** リソースマネジャの状態を確認して、トランザクションが決着しない原因を取り除いてください。

### KFSB45900-W

前回起動時のHAモニタ情報ファイルが残っています。詳細コード = aa....aa

The last HA monitor information file remains. detail code = aa....aa (E+P+L) (4) (NOS)

HA モニタ情報ファイルが残っているため、HA モニタ関連の状態を初期化して、ファイルを削除します。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB45901-W

```
HA モニタ情報ファイルの読み込みに失敗しました。理由コード = aa....aa, 詳細コード = bb....bb  
An error has occurred during input processing of the HA monitor information file. reason code  
= aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (4)
```

HA モニタ情報ファイルの読み込みに失敗しました。

aa....aa : 理由コード

01 : HA モニタ情報ファイルのオープンに失敗しました。

02 : HA モニタ情報ファイルの読み込みに失敗しました。

03 : HA モニタ情報のサイズが違います。

04 : HA モニタ情報ファイルの情報取得に失敗しました。

bb....bb : 詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB46001-W

```
共有メモリの確保面数が aa....aa 面に到達しました。DB エリア名 = "bb....bb"  
The number of allocated shared memory segments exceeded aa....aa. DB area = "bb....bb"  
(E+L) (4) (NOS)
```

共用メモリセグメントの取得面数が、警告メッセージ出力タイミング 1 または警告メッセージ出力タイミング 2 の定義値に到達しました。

aa....aa : これまでに確保した共用メモリ面数

bb....bb : DB エリア名

(S)処理を続行します。

(P)なし。

【対策】なし。

### KFSB46003-W

DBエリアの拡張限界に到達しています。DBエリア名="aa....aa"

A DB area reached the maximum size. DB area = "aa....aa" (E+L) (4) (NOS)

共用メモリの確保面数が、該当するDBエリアが管理できる面数を超過したか、OSによる共用メモリ面数の上限に到達したため、これ以上DBエリアを拡張できません。

aa....aa : DB エリア名

(S)処理を続行します。

(O)次の原因が考えられます。

- TP1/EE のプロセスメモリが不足している。
- 確保した共用メモリ面数の合計がOSの限界を超えた。

TP1/EEの使用メモリサイズを増やしてから再実行してください。また、XDBサービス定義での共用メモリ1面分の確保サイズを大きくしてから再実行してください。

【対策】共用メモリ面数の合計がOSの上限を超えているおそれがあるため、その場合はOSの上限設定を変更する必要があります。また、物理的にメモリが不足している場合はメモリの追加が必要となります。

### KFSB46004-W

最大確保共有メモリ面数を超過するためDBエリアを拡張できません。DBエリア名="aa....aa"

A DB area cannot be expanded because the maximum number of allocated shared memory segments was exceeded. DB area = "aa....aa" (E+L) (4) (NOS)

共用メモリの確保面数が、該当するDBエリアの最大確保共有メモリ面数を超過するため、これ以上DBエリアを拡張できません。

aa....aa : DB エリア名

(S)処理を続行します。

(O)最大確保共有メモリ面数を増やしてから、再度実行してください。

【対策】なし。

### KFSB46005-E

予約されたDBエリア名です。DBエリア名="aa....aa"

The specified DB area name is reserved. DB area = "aa....aa" (E+L) (3) (NOS)

DB エリア名に EDMST および EDDIC は指定できません。

aa....aa : DB エリア名

(S)処理を終了します。

(O)DB エリア名に EDMST, EDDIC 以外の名称を指定してください。

【対策】なし。

### KFSB46006-E

DB エリア名に指定できない文字が使用されています。DB エリア名="aa....aa"

The DB area name is specified incorrectly. DB area = "aa....aa" (E+L) (3) (NOS)

DB エリア名に使用できない文字を含んだ DB エリアが指定されています。

aa....aa : DB エリア名

(S)処理を終了します。

(O)DB エリアの名称規則に従った DB エリア名を指定してください。

【対策】なし。

### KFSB46200-W

2 重定義がありました。1 つ目の定義を有効とし処理を続行します。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, オペランド名 = cc....cc

A definition is repeated. The first definition will be used and processing will continue. file = aa....aa, line = bb....bb, operand = cc....cc (E) (4) (NOS)

二重に定義された定義があったため、一つ目の定義を有効とし、二つ目以降の定義は無視します。

aa....aa : 二重定義が行われた定義ファイル名

bb....bb : 二つ目以降の定義が定義されている行数

cc....cc : 二重定義が行われた定義名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】有効となった定義で問題がある場合は、TP1/EE プロセスをいったん停止して再度起動してください。



## KFSB47001-E

OpenTP1 の関数でエラーが発生しました。論理端末名 = aa....aa, 送受信種別 = bbbb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dddd, リターン値 = ee....ee

An error occurred in an OpenTP1 function. logical terminal name = aa....aa, sending or receiving = bbbb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dddd, return value = ee....ee (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : 論理端末名

bbbb : 論理端末の送受信種別

SEND : 送信用論理端末

RECV : 受信用論理端末

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dddd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : 関数のリターン値

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 表示された関数のリターン値に従って対策してください。

リターン値	意味	対策
-502	サービス名称が不正です。	eemcpatmuap で指定したサービスの定義と TP1/FSP(ATM)入力メッセージ編集 UOC 関数 ee_atm_mcp_in の引数で指定したサービスの定義を見直し、誤りがあれば、正しい定義に修正してください。 定義に誤りがない場合は、TP1/FSP(ATM)入力メッセージ編集 UOC 関数 ee_atm_mcp_in の引数で指定したサービス名を見直し、サービス名に誤りがあれば、修正してください。
-503	ee_tim_execap に指定したデータ長が大き過ぎます。	メモリ関連定義の time_message_size オペランド指定値を見直し、対策してください。
-504	PCE, ICB, またはタイムバッファが不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランド指定値, icb_no オペランド指定値および time_message_no オペランド指定値を見直し、対策してください。
-10020	論理端末が閉塞しています。	論理端末の閉塞を解除してください。
-10021	出力メッセージ編集 UOC がエラーリターンしました。	UOC のエラー内容を確認して、対策してください。

リターン値	意味	対策
-10022	出力メッセージ編集 UOC が正しい値を設定していません。	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
-10025	送信障害が発生しました。	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
-10030	メモリ不足が発生しました。	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB47003-E

内部関数でエラーが発生しました。論理端末名 = aa....aa, 送受信種別 = bbbb, 関数名 = cc....cc, ファイル名 = dd....dd, 行番号 = ee....ee, リターン値 = ff....ff

An error occurred in an internal function. logical terminal name = aa....aa, sending or receiving = bbbb, function name = cc....cc, file name = dd....dd, line number = ee....ee, return value = ff....ff (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : 論理端末名

bbbb : 論理端末の送受信種別

SEND : 送信用論理端末

RECV : 受信用論理端末

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)MCP トレースファイル, syslog, メッセージログを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

### KFSB47004-E

タイマ監視の設定ができませんでした。論理端末名 = aa....aa, 送受信種別 = bbbb, タイマ要求識別子 = cc....cc, リターン値 = dd....dd

Timer monitoring could not be set. logical terminal name = aa....aa, sending or receiving = bbbb, timer request ID = cc....cc, return value = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : 論理端末名

bbbb : 論理端末の送受信種別

SEND : 送信用論理端末

RECV : 受信用論理端末

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : 関数のリターン値

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)MCP トレースファイル, syslog, メッセージログを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 表示された関数のリターン値に従って対策してください。

リターン値	意味	対策
-504	PCE, ICB が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランド指定値および icb_no オペランド指定値を見直し, 対策してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB47005-E

タイマ監視の取り消しができませんでした。論理端末名 = aa....aa, 送受信種別 = bbbb, タイマ要求識別子 = cc....cc, リターン値 = dd....dd

Timer monitoring could not be canceled. logical terminal name = aa....aa, sending or receiving = bbbb, timer request ID = cc....cc, return value = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : 論理端末名

bbbb : 論理端末の送受信種別

SEND : 送信用論理端末

RECV : 受信用論理端末

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)MCP トレースファイル, syslog, メッセージログを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 保守員に連絡してください。

## KFSB47006-E

システム関数でエラーが発生しました。関数名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb, 行番号 = cc....cc, リターン値 = dd....dd, errno = ee....ee

An error occurred in a system function. function name = aa....aa, file name = bb....bb, line number = cc....cc, return value = dd....dd, errno = ee....ee (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : エラーとなったシステム関数名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : システム関数リターン値

ee....ee : errno

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)MCP トレースファイル, syslog, メッセージログを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 表示された関数のエラー原因に従って対策してください。

## KFSB47007-E

内部関数でエラーが発生しました。関数名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb, 行番号 = cc....cc, リターン値 = dd....dd

An error occurred in an internal function. function name = aa....aa, file name = bb....bb, line number = cc....cc, return value = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)MCP トレースファイル, syslog, メッセージログを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 表示された関数のエラー原因に従って対策してください。

## KFSB47008-E

システム関数でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 関数名 = bb....bb, ファイル名 = cc....cc, 行番号 = dd....dd, リターン値 = ee....ee, errno = ff....ff

An error occurred in a system function. command name = aa....aa, function name = bb....bb, file name = cc....cc, line number = dd....dd, return value = ee....ee, errno = ff....ff (E+P+L)

(3) (SUP)

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)MCP トレースファイル, syslog, メッセージログを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 表示された関数のエラー原因に従って対策してください。

## KFSB47010-E

OpenTP1 の関数でエラーが発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bbbb, リターン値 = cc....cc

An error occurred in an OpenTP1 function. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bbbb, return value = cc....cc (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : 関数のリターン値

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 表示された関数のリターン値に従って対策してください。

リターン値	意味	対策
-5002	システムワーク領域の確保に失敗しました。	メモリ関連定義の system_work_size オペランド指定値を見直し、対策してください。
-5105	初期化処理で、領域の確保に失敗しました。	メモリ関連定義の max_mem_size オペランド指定値を見直し、対策してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB47011-E

MCP 構成定義オブジェクトファイルの情報が不正です。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bbbb

Information in an MCP configuration definition object file is invalid. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bbbb (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** MCP 構成定義オブジェクトファイルが壊れているおそれがあります。

eemcpgen コマンドで、MCP 構成定義オブジェクトファイルを再作成後、TP1/EE を再起動してください。TP1/EE を再起動しても、エラーとなる場合は、MCP 構成定義オブジェクトファイル、syslog、メッセージログを取得し、保守員に連絡してください。

## KFSB47013-E

サービス関数がコールされたときのトランザクション種別が不正です。サービス関数名 = aa....aa, トランザクション種別 = bb

The transaction type was invalid when a service function was called. service function name = aa....aa, transaction type = bb (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : サービス関数名

bb : トランザクション種別

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義を修正して、再度、実行してください。

## KFSB47014-E

サービス関数がコールされたときのパラメタが不正です。サービス関数名 = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cccc, 詳細コード 3 = dd....dd

A parameter was invalid when a service function was called. service function name = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cccc, detail code 3 = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : サービス関数名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cccc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 定義を修正して、再度、実行してください。

## KFSB47015-E

定義情報がありません。サービス関数名 = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cccc

No definition was found. service function name = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cccc (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : サービス関数名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cccc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 定義を修正して、再度、実行してください。

## KFSB47101-E

OpenTP1 の関数でエラーが発生しました。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb, 論理パス名 = cc....cc, 詳細コード 1 = dd....dd, 詳細コード 2 = eeee, リターン値 = ff....ff

An error occurred in an OpenTP1 function. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb, logical path name = cc....cc, detail code 1 = dd....dd, detail code 2 = eeee, return value = ff....ff (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : 論理端末名

bb....bb : コネクション ID

cc....cc : 論理パス名

dd....dd : 保守情報

eeee : 保守情報

ff....ff : 関数のリターン値

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 表示された関数のリターン値に従って対策してください。

リターン値	意味	対策
-504	PCE, ICB, またはタイマバッファが不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランド, icb_no オペランド, および time_message_no オペランドの指定値を見直してください。
-10030	メモリ不足が発生しました。	直前に出力されているメッセージに従って, 対策してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB47103-E

内部関数でエラーが発生しました。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb, 論理パス名 = cc....cc, 関数名 = dd....dd, ファイル名 = ee....ee, 行番号 = ff....ff, リターン値 = gg....gg  
An error occurred in an internal function. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb, logical path name = cc....cc, function name = dd....dd, file name = ee....ee, line number = ff....ff, return value = gg....gg (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : 論理端末名

bb....bb : コネクション ID

cc....cc : 論理パス名

dd....dd : 保守情報

ee....ee : 保守情報

ff....ff : 保守情報

gg....gg : 保守情報

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。



(S)処理を中止します。

(O)MCP トレースファイル, syslog, およびメッセージログファイルを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

### KFSB47104-E

タイマ監視の設定ができませんでした。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb, 論理パス名 = cc....cc, タイマ要求識別子 = dd....dd, リターン値 = ee....ee

Timer monitoring could not be set. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb, logical path name = cc....cc, timer request ID = dd....dd, return value = ee....ee (E+P+L)

(3) (SUP)

aa....aa : 論理端末名

bb....bb : コネクション ID

cc....cc : 論理パス名

dd....dd : 保守情報

ee....ee : 保守情報

表示できない場合は, \*\* .... \*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)MCP トレースファイル, syslog, およびメッセージログファイルを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 表示された関数のリターン値に従って対策してください。

リターン値	意味	対策
-504	PCE, ICB, またはタイマバッファが不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランド, icb_no オペランド, および time_message_no オペランドの指定値を見直してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB47105-E

タイマ監視の取り消しができませんでした。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb, 論理パス名 = cc....cc, タイマ要求識別子 = dd....dd, リターン値 = ee....ee

```
Timer monitoring could not be cancelled. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb, logical path name = cc....cc, timer request ID = dd....dd, return value = ee....ee (E+P+L) (3) (SUP)
```

aa....aa : 論理端末名

bb....bb : コネクション ID

cc....cc : 論理パス名

dd....dd : 保守情報

ee....ee : 保守情報

(S)処理を中止します。

(O)MCP トレースファイル, syslog, およびメッセージログを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

### KFSB47106-E

```
システム関数でエラーが発生しました。関数名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb, 行番号 = cc....cc, リターン値 = dd....dd, errno = ee....ee
```

```
An error occurred in a system function. function name = aa....aa, file name = bb....bb, line number = cc....cc, return value = dd....dd, errno = ee....ee (E+P+L) (3) (SUP)
```

aa....aa : エラーとなったシステム関数名

bb....bb : 保守情報

cc....cc : 保守情報

dd....dd : システム関数リターン値

ee....ee : errno

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)MCP トレースファイル, syslog, およびメッセージログファイルを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 表示された関数のエラー原因に従って対策してください。

## KFSB47107-E

内部関数でエラーが発生しました。関数名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb, 行番号 = cc....cc, リターン値 = dd....dd

An error occurred in an internal function. function name = aa....aa, file name = bb....bb, line number = cc....cc, return value = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : 保守情報

bb....bb : 保守情報

cc....cc : 保守情報

dd....dd : 保守情報

表示できない場合は, \*\*...\*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)MCP トレースファイル, syslog, およびメッセージログファイルを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB47108-E

システム関数でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 関数名 = bb....bb, ファイル名 = cc....cc, 行番号 = dd....dd, リターン値 = ee....ee, errno = ff....ff

An error occurred in a system function. command name = aa....aa, function name = bb....bb, file name = cc....cc, line number = dd....dd, return value = ee....ee, errno = ff....ff (E+P+L) (3) (SUP)

システム関数でエラーが発生したため, コマンド名 aa....aa が失敗しました。

aa....aa : 入力コマンド名

bb....bb : エラーとなったシステム関数名

cc....cc : 保守情報

dd....dd : 保守情報

ee....ee : システム関数リターン値

ff....ff : errno

表示できない場合は, \*\*...\*\*を表示します。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)MCP トレースファイル, syslog, およびメッセージログファイルを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 表示された関数のエラー原因に従って対策してください。

### KFSB47110-E

OpenTP1 の関数でエラーが発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bbbb, リターン値 = cc....cc

An error occurred in an OpenTP1 function. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bbbb, return value = cc....cc (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : 保守情報

bbbb : 保守情報

cc....cc : 関数のリターン値

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 表示された関数のリターン値に従って対策してください。

リターン値	意味	対策
-5002	システムワーク領域の確保に失敗しました。	メモリ関連定義の system_work_size オペランドの指定値を見直してください。
-5105	初期化処理で, 領域の確保に失敗しました。	メモリ関連定義の max_mem_size オペランドの指定値を見直してください。
-40012	必要なメモリの確保に失敗しました。	OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB47111-E

MCP 構成定義オブジェクトファイルの情報が不正です。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bbbb

Information in an MCP configuration definition object file is invalid. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bbbb (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : 保守情報

bbbb : 保守情報

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** MCP 構成定義オブジェクトファイルが壊れているおそれがあります。

eemcpgen コマンドで、MCP 構成定義オブジェクトファイルを再作成後、TP1/EE を再起動してください。TP1/EE を再起動してもエラーになる場合は、MCP 構成定義オブジェクトファイル、syslog、およびメッセージログファイルを取得し、保守員に連絡してください。

### KFSB47113-E

サービス関数がコールされたときのトランザクション種別が不正です。サービス関数名 = aa....aa,  
トランザクション種別 = bb

The transaction type was invalid when a service function was called. service function name  
= aa....aa, transaction type = bb (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : サービス関数名

bb : トランザクション種別

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義を修正して、再実行してください。

### KFSB47114-E

サービス関数がコールされたときのパラメタが不正です。サービス関数名 = aa....aa, 詳細コード 1  
= bb....bb, 詳細コード 2 = cccc, 詳細コード 3 = dd....dd

A parameter was invalid when a service function was called. service function name = aa....aa,  
detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cccc, detail code 3 = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : サービス関数名

bb....bb : 保守情報

cccc : 保守情報

dd....dd : 保守情報

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 表示されたサービス関数名と詳細コード 2 に従って対策してください。

サービス関数名	詳細コード 2	意味	対策
ee_zrc_errtrns	0001	trninf に設定した値が間違っています。	trninf の指定を見直し、対策してください。
	0002	in に設定した値が間違っています。	in の指定を見直し、対策してください。
	0003	in_len に設定した値が間違っています。	in_len の指定を見直し、対策してください。
	0004		
	0005	in または in_len に設定した値が間違っています。	in または in_len の指定を見直し、対策してください。
ee_zrc_mcp_rltn	任意	定義に誤りがあります。	定義を修正して、再実行してください。
ee_zrc_snd_message	0001	termnam に設定した値が間違っています。	termnam の指定を見直し、対策してください。
	0002		
	0003	senddata に設定した値が間違っています。	senddata の指定を見直し、対策してください。
	0004	sdataleag に 64 以下の値を設定しています。	sdataleag の指定を見直し、対策してください。
	0005	sdataleag にプロトコル最大長を超える値を設定しています。	sdataleag の指定を見直し、対策してください。
	0006	mcp_rtn に設定した値が間違っています。	mcp_rtn の指定を見直し、対策してください。
	0007	lcn に設定した値が間違っています。	lcn の指定を見直し、対策してください。
	0008		

### KFSB47115-E

定義情報がありません。サービス関数名 = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cccc  
 No definition was found. service function name = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cccc (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : サービス関数名

bb....bb : 保守情報

cccc : 保守情報

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 定義を修正して、再実行してください。

### KFSB47116-E

業務 UAP のエントリポインタ名がありません。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb, 論理パス名 = cc....cc, 詳細コード 1 = dd....dd, 詳細コード 2 = eeee

No operation UAP entry pointer exists. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb, logical path name = cc....cc, detail code 1 = dd....dd, detail code 2 = eeee (E+P+L) (3) (SUP)

aa....aa : 論理端末名

bb....bb : コネクション ID

cc....cc : 論理パス名

dd....dd : 保守情報

eeee : 保守情報

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 保守員に連絡してください。

### KFSB48001-W

定義解析処理中にエラーが発生しました。理由コード = aaaa, オペランド名 = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred during definition analysis processing. reason code = aaaa, operand name = bb....bb, detail code = cc....cc (E) (4) (NOS)

定義解析時にエラーが発生しました。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : オペランド名

cc....cc : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	同一のサービスグループ名を指定した送信先サービス関連定義の eemchsrvdef 定義コマンド中で、サービス名の指定が重複しています。	eemchsrvdef 定義コマンドの指定値を見直してください。
0002	次の計算式に示す値がメモリ関連定義の udp_send_message_buf_cnt オペランドの値を超えています。 クラスタ連携関連定義の mch_xdb_buf_pool_count オペランドの値×処理スレッド数（予備スレッドを含む）	mch_xdb_buf_pool_count オペランド、または udp_send_message_buf_cnt オペランドの指定値を見直してください。

### KFSB48201-W

未送信メッセージがあるため、終了できません。

Cannot terminate the program due to unsent messages. (E+P+L) (4) (NOS)

未送信の一方送信メッセージが残っているため、XTC を終了できません。

(S)高速メッセージ送信関連定義の mch\_send\_end\_otqwatch オペランドの指定値に従い、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] eemchotqls コマンドで出力キュー (OTQ) の状態を確認してください。

### KFSB48300-W

メッセージの送信処理で障害が発生しました。ノード識別子 = aaaa, 処理種別 = bb...bb, 詳細コード 1 = cc...cc, 詳細コード 2 = dd...dd

An error occurred during transmission processing. node ID = aaaa, processing type = bb...bb, detail code 1 = cc...cc, detail code 2 = dd...dd (E+P+L) (4) (NOS)

メッセージの送信処理で障害が発生しました。

aaaa : メッセージ送信先のノード識別子

bb...bb : 処理種別

CMTSEND\_ACK : 一方送信メッセージの送達確認

cc...cc : XTC がトラブルシュートで使用する情報

dd...dd : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)メッセージの送信処理を中止して処理を続行します。



(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 相手システムの状態を確認してください。相手システムが正常に稼働していてもこのエラーが多発する場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB48301-W

転送処理で障害が発生しました。ノード識別子 = aaaa, 処理種別 = bb...bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd...dd

A failure has occurred during transfer. node ID = aaaa, processing type = bb...bb, reason code = cccc, detail code = dd...dd (E+P+L) (4) (NOS)

転送処理で障害が発生しました。

**aaaa** : 転送先のノード識別子

障害が発生した転送先のノード識別子が特定できない場合は、\*\*\*\*を表示します。

**bb...bb** : 処理種別

CLSEND\_CL : システム情報の転送

CLSEND\_XDB : XDB 情報の転送

**cccc** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**dd...dd** : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)転送処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0201 0202	送信時に障害が発生しました。	CL サーバの実行系または待機系の状態を確認してください。また、次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>UDP グループ情報関連定義の clgrpdef 定義コマンドを見直してください。</li></ul>
0203 0204	受信時に障害が発生しました。	CL サーバの実行系または待機系の状態を確認してください。また、次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>処理種別が「CLSEND_CL」の場合、クラスタ連携関連定義の mch_clsend_sta_timer オペランドと mch_clsend_rrn_timer オペランドの指定値を見直してください。</li><li>クラスタ連携関連定義の send_thread_no オペランドの指定値 (送信スレッド数) を見直してください。送信スレッドの用途については、マニュアル「TP1/EE/Extended Transaction</li></ul>

理由コード	意味	対策
0203 0204	受信時に障害が発生しました。	Controller 使用の手引」の send_thread_no オペランドの説明を参照してください。
0301	RPC 関連定義の不正を検知しました。	次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>RPC 関連定義の rpc_udp_packet_size オペランドの指定値が、CL 連携を行うすべてのサーバで一致しているか。</li> <li>転送先ノードの RPC 関連定義の rpc_udp_departure_limit オペランドの指定値が不足していないか。</li> </ul>
0302	リソース不足を検知しました。	転送先ノードのメモリ関連定義の udp_rcv_message_buf_cnt オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0303		UDP グループ情報関連定義の myudpsnddef 定義コマンドの -b オプションの指定値を見直して、再実行してください。

# 4

## KFSB50000～KFSB59999

この章では、機能のエラーメッセージ（KFSB50000～KFSB59999）とその意味、および対策について説明します。

## 4.1 KFSB50000～KFSB59999

### KFSB50300-E

エントリポインタ名は見つかりませんでした。サービス名 = aa....aa, エントリポインタ名 = bb....bb  
The name of the entry pointer was not found. service name = aa....aa, entry pointer name = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

ユーザサービス関連定義で設定されたエントリポインタが UAP 共用ライブラリ内で見つかりませんでした。

aa....aa : 該当するサービス名

bb....bb : 該当するエントリポインタ名

(S) 該当するサービス名を使用不可にして、UAP 共用ライブラリのローディング処理を続行します。

(O) なし。

**【対策】** 該当するサービス名を使用できるようにしたい場合は、TP1/EE サービス定義、MCP 構成定義などを見直して、再起動してください。サービス名に出力された内容と見直す定義については、[KFSB60304-E](#) メッセージを参照してください。

### KFSB50301-E

UAP 共用ライブラリ入替処理において、UAP 共用ライブラリのオープンに失敗しました。理由コード = aaaa, UAP 共用ライブラリ名 = bb....bb  
An attempt to open a UAP common library has failed during switchover processing for a UAP common library. reason code = aaaa, UAP common library name = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

UAP 共用ライブラリの入れ替え処理で、UAP 共用ライブラリをオープンしようとしたが失敗しました。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : UAP 共用ライブラリ名

(S) 処理を中止します。

(O) 理由コードに示した原因を取り除き、再実行してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	UAP 共用ライブラリのオープンに失敗しました。	UAP 共用ライブラリファイルのアクセス権限を確認してください。

理由コード	意味	対策
0002	パス名が指定値を超えています。	パス名を確認してください。
0003	メモリが不足しています。	以前に出力されたメッセージに従って障害を取り除き、TP1/EE を再起動してください。
0004	ファイルのヘッダが正しくありません。	UAP 共用ライブラリファイルの状態を確認してください。
0005	シンボリックの数が多過ぎます。	
0006	ローディング時、またはシンボル解決時に障害が発生しました。	
0007	すでにほかのプロセスがファイルをオープンしています。	
0008	パス・プレフィクスが存在しません。	
0009	パス・プレフィクスの構成要素がディレクトリではありません。	
0010	対象ディレクトリがすでにアンマウントされたファイルシステムの領域に割り当てられています。	
8000	システムコールの呼び出しに失敗しました。	このメッセージの直前に出力された <b>KFSB40107-E</b> を参照して原因を取り除き、再実行してください。解決しない場合は、保守員に連絡してください。
9000	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB50302-E

UAP 共用ライブラリ入替処理において、エントリポインタ名は見つかりませんでした。サービス名 = aa....aa, エントリポインタ名 = bb....bb

The name of the entry pointer was not found during switchover processing for a UAP common library. service name = aa....aa, entry pointer name = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

UAP 共用ライブラリの入れ替え処理で、ユーザーサービス関連定義の service オペランドに指定されたエントリポインタが UAP 共用ライブラリ内で見つかりませんでした。

**aa....aa** : 該当するサービス名

**bb....bb** : 該当するエントリポインタ名

(S)処理を中止します。

(O)原因を取り除き、再実行してください。

**【対策】** ユーザーサービス関連定義の service オペランドの指定を見直してください。

## KFSB50303-E

サービスグループ情報関連定義の設定が不正です。通信方法 = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
The settings of definitions associated with the service group information are invalid.  
communication method = aa....aa, reason code = bb....bb (E) (2) (SUP)

サービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンド, または mysvgdef 定義コマンドの指定が不正です。

**aa....aa** : 通信方法

DBQ : DB キューを使用したシステム間通信を TCP/IP で行います。

RAP : リモート API 機能を使用したシステム間通信を行います。

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)指定した通信方法による通信ができませんでした。処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	サービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンドの-t オプションで指定した通信方法が, mysvgdef 定義コマンドの-t オプションで指定されていません。	サービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンドおよび mysvgdef 定義コマンドの-t オプションの指定値を見直してください。
0002	サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの-h オプションで指定したポート番号は不正です。	以前に出力されたメッセージに従ってください。
0003	サービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンドの-t オプションに RAP を指定していますが, シンプルランザクション機能を使用しているため, リモート API 機能は使用できません。	サービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンドの指定を見直してください。

## KFSB50304-E

TCP/IP 共有送信用コネクション関連のテーブル作成中に不正を検知しました。理由コード = aa....aa  
An invalid event was detected while tables associated with connections for TCP/IP common transmission were being created. reason code = aa....aa (E) (2) (SUP)

TCP/IP 共有送信用コネクション関連のテーブル作成中に不正を検知しました。

**aa....aa** : 理由コード

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0002	TCP/IP 共有送信用コネクション関連のテーブルを作成しましたが、該当コネクションを使用する機能が存在しません。	必要に応じて、TCP/IP 共有送信用コネクションに関連する定義*の指定値、または、TCP/IP 共有送信用コネクションを使用する機能の設定を見直して、TP1/EE を再起動してください。
0004	DB キュー機能関連定義 dbqgrpdef コマンドに-f、または-k 1 が指定されているため、サービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンドの-t オプションに DBQ を指定できません。該当する eesvgdef 定義コマンドを無効とします。	必要に応じて、次に示す定義の指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>DB キュー機能関連定義 dbqgrpdef の-f、-k の設定値</li><li>サービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンドの-t オプション</li></ul>
0005	DB キュー機能関連定義 dbqgrpdef コマンドに-f、または-k 1 が指定されていますが、サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの-t オプションに DBQ を指定した有効なオペランドがありません。このため、DB キュー機能の指定値は無効です。	必要に応じて、次に示す定義の指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>DB キュー機能関連定義 dbqgrpdef の-f、-k の設定値</li><li>サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの-t オプション</li></ul>

注※

TCP/IP 共有送信用コネクションに関連する定義とは、RPC 関連定義の rpc\_tcpsend\_con\_max\_cnt オペランド、rpc\_tcpsend\_con\_cnt オペランド、および rpc\_tcpsend\_proc\_max\_cnt オペランドを示します。

## KFSB50310-E

RPCサービスの受信処理で障害が発生しました。IPアドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd, 保守情報 = ee....ee

An error occurred in the receive processing of RPC services. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd, maintenance information = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

RPC サービスの受信処理で障害が発生しました。

aa....aa : 相手システムの IP アドレス

bb....bb : 相手システムのポート番号

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)受信メッセージを破棄します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0011	受信バッファ数が不足しました。	メモリ関連定義の <code>recv_message_buf_cnt</code> オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0012	フラグメント用バッファ数が不足しました。	RPC 関連定義の <code>fragment_buf_no</code> オペランドの指定値とサービスグループ情報関連定義の <code>mysvgdef</code> 定義コマンドおよび <code>myreplydef</code> 定義コマンドの <code>-f</code> オプションの指定値を見直して、再実行してください。
0013	受信バッファ長が不足しました。	メモリ関連定義の <code>recv_message_buf_size</code> オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0020	受信メッセージ待ち合わせ中に相手システムがコネクションを切断しました。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。また、自システムと相手システムで、RPC 関連定義の一時クローズ機能使用有無 ( <code>rpc_reply_sockctl_use</code> , <code>rpc_recv_sockctl_use</code> ) オペランドの設定値を見直して、再実行してください。
0022	システムコール (read) エラーが発生しました。	保守員に連絡してください。
0031	不正なメッセージを受信しました。	保守員に連絡してください。
0032	サービスグループ名が不正なメッセージを受信しました。	サービス要求元の定義を見直して、再実行してください。
0051	未受信メッセージの待ち合わせでタイムアウトを検知しました。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。
0052	フラグメントメッセージの待ち合わせでタイムアウトを検知しました。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。
0053	コネクション確立から初回 RPC メッセージ受信までの間に、タイムアウトを検知しました。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。
0061	TP1/EE がクライアント側の場合 受信した応答データ長がメッセージ格納領域を超過しました。 TP1/EE がサーバ側の場合 <code>out_len</code> がメッセージ格納領域超過の応答型 RPC 要求を受けました。	メモリ関連定義の <code>max_outmessage_size</code> オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0062	サポートしていないバージョンの RPC 要求を受信しました。	相手システムのバージョンを確認して、再実行してください。



理由コード	意味	対策
0101	PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0102	ノード間負荷バランス機能を使用している場合、次に示す原因によって自プロセスおよび他プロセスのサービスが実行できません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>トランザクション属性の不一致</li> <li>RPC メッセージの最大長拡張機能をサポートしている製品バージョンの不一致*</li> </ul>	指定サービスグループに TP1/Server Base のプロセスが含まれる場合、該当プロセスの atomic_update オペランドの指定値を確認したあと、再実行してください。 入力パラメタ長 (in_len) として 1MB より大きい値を指定する場合は、RPC メッセージの最大長拡張機能をサポートしている製品バージョンのプロセスがあることを確認後、再実行してください。
9000	受信バッファの割り当てで内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。
9100	転送処理中に内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。
9101		
9201	受信メッセージの解析処理中に内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。
9202		

#### 注※

サービス要求元の指定した入力パラメタ長 (in\_len) が 1MB より大きく、しかも RPC メッセージの最大長拡張機能をサポートしている製品バージョン (TP1/EE の場合は 07-00 以降、TP1/Server Base の場合は 06-02 以降) のプロセスがない場合も不一致となります。

## KFSB50311-E

処理キューの登録に失敗しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, サービス名 = cc....cc, 登録コード = dd....dd, 理由コード = ee....ee, 詳細コード = ff....ff

An attempt to register a processing queue has failed. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, service name = cc....cc, registration code = dd....dd, reason code = ee....ee, detail code = ff....ff (E+P+L) (2) (SUP)

受信処理で処理キュー登録に失敗しました。

**aa....aa** : 相手システムの IP アドレス

**bb....bb** : 相手システムのポート番号

**cc....cc** : 処理キュー登録に失敗したサービス名

サービス名がない場合は、\*を表示します。

**dd....dd** : 登録コード

RPCRCV : RPC 受信サービストランザクションの処理キュー登録に失敗しました。

ERRTRN1 : ERRTRN1 の処理キュー登録に失敗しました。

ee....ee : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)サービス名が不正のため、RPC 受信サービストランザクションの処理キュー登録に失敗した場合は、ERRTRN1 を起動します。それ以外の場合は、受信メッセージを破棄します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	サービス名が不正です。	サービス名の定義を見直して、再実行してください。
0002	サービスに対するエントリポイントがありません。	サービス名の定義を見直して、再実行してください。
0003	PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0011	RPC 要求の受信メッセージを永続化しているときに、UDP 用受信バッファが不足しました。	メモリ関連定義の udp_recv_message_buf_cnt オペランドの指定値を見直してください。
9001	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB50312-E

メッセージの受信処理で障害が発生しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd

An error occurred in the receive processing of messages. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

メッセージの受信処理で障害が発生しました。

aa....aa : 相手システムの IP アドレス

bb....bb : 相手システムのポート番号

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)受信メッセージを破棄します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0011	受信バッファ数が不足しました。	メモリ関連定義の dbq_recv_message_buf_cnt オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0020	受信メッセージ待ち合わせ中に相手システムがコネクションを切断しました。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。
0022	システムコール (read) エラーが発生しました。	保守員に連絡してください。
0051	未受信メッセージの待ち合わせでタイムアウトを検知しました。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。
0053	コネクション確立から初回メッセージ受信までの間に、タイムアウトを検知しました。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。
0071	メッセージ不正を検知しました。	このメッセージの前に出力されている KFSB45641-W メッセージを参照してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB50313-E

メッセージの受信処理で障害が発生しました。自 IP アドレス = aa....aa, 自ポート番号 = bb....bb, 相手 IP アドレス = cc....cc, 相手ポート番号 = dd....dd, 理由コード = eeee, 保守情報 1 = ff....ff, 保守情報 2 = gg....gg

An error occurred in the receive processing of messages. local IP address = aa....aa, local port number = bb....bb, target IP address = cc....cc, target port number = dd....dd, reason code = eeee, maintenance information 1 = ff....ff, maintenance information 2 = gg....gg (E+P+L)  
(2) (NOS)

UDP 通信機能によるメッセージ受信処理で障害が発生しました。

**aa....aa** : 自システムの IP アドレス

0.0.0.0 と表示されます。

**bb....bb** : 自システムのポート番号

**cc....cc** : 相手システムの IP アドレス

タイミングによっては、0.0.0.0 と表示されます。

**dd....dd** : 相手システムのポート番号

タイミングによっては、0 と表示されます。

**eeee** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ff...ff : 保守情報 1

XTC がトラブルシュートで使用する情報です。

gg...gg : 保守情報 2

XTC がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1000	受信関数が失敗しました。	ネットワークインタフェースに障害が発生していないか確認してください。問題ない場合は、保守員に連絡してください。
1001	UDP 用受信バッファ (UIBF) が不足しました。	メモリ関連定義の udp_recv_message_buf_cnt オペランドの指定値 (UDP 用受信バッファ面数) を見直してください。問題ない場合は、保守員に連絡してください。
1100 1101 1102 1103 1104 1105 1106 1107 1108 1109 1110 1111 1120	受信メッセージの不正です。	保守員に連絡してください。
上記以外	内部矛盾が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB50340-E

トランザクション処理でオーバフローを検知しました。サービス名 = aa....aa, サイズ = bb....bb  
An overflow was detected during transaction processing. service name = aa....aa, size =  
bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

トランザクション処理でサービス関数インタフェース作成時に受け付けたメッセージが、メッセージ引き渡しエリアサイズを超えていたため、以降のメッセージを破棄しました。

aa....aa : 該当するサービス名

bb....bb : 不足しているサイズ (単位: バイト)

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の max\_message\_size オペランドの指定値を見直してください。

#### KFSB50341-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa, 詳細コード 2 = bb....bb

An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa, detail code 2 = bb....bb (E+P+L) (2)  
(SUP)

内部矛盾が発生しました。

aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)該当する処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

#### KFSB50350-E

送信処理で障害が発生しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 処理種別 = cc....cc

An error occurred during transmission processing. service group name = aa....aa, service name = bb....bb, processing type = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

RPC サービス要求の送信処理で障害が発生しました。

aa....aa : 相手システムのサービスグループ名

bb....bb : 相手システムのサービス名

cc....cc : 処理種別

RSEND : 別処理スレッドによる再送信

ERRTRNS : エラートランザクション S

(S)RPC サービス要求の送信処理を中止し、処理種別で設定された送信障害後処理を起動します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って原因を取り除いてください。

## KFSB50351-E

エラートランザクションからのサービス要求に失敗しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, トランザクション種別 = cc

An attempt to request services from an error-transaction has failed. service group name = aa....aa, service name = bb....bb, transaction type = cc (E+P+L) (2) (SUP)

エラートランザクションからのサービス要求に失敗したため、該当するサービス要求を破棄します。

aa....aa : 相手システムのサービスグループ名

bb....bb : 相手システムのサービス名

cc : サービス要求元トランザクション種別

トランザクション種別については、マニュアル「TP1/Server Base Enterprise Option プログラム作成の手引」のトランザクション種別の説明を参照してください。

(S) 該当するサービスを中止します。サービス要求元のトランザクションがエラートランザクションであるため、別処理スレッドによる再送信、またはエラートランザクション S の起動は行いません。

(O) なし。

【対策】 なし。

## KFSB50352-E

サービス要求は失敗しました。

An attempt to request services has failed. (E+P+L) (2) (SUP)

トランザクションがロールバック、または送信障害やリソースマネージャ障害などによって、トランザクションの決着に失敗したため、該当するトランザクションで要求されたメッセージをすべて破棄しました。

(S) 送信処理を続行します。

(O) 該当するトランザクションの RPC サービス要求を再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB50353-E

処理キューの登録に失敗しました。理由コード = aaaa, サービス名 = bb....bb, 送信コード = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

An attempt to register a processing queue has failed. reason code = aaaa, service name = bb....bb, transmission code = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

RPC サービス要求の送信処理で処理キューの登録に失敗したため、メッセージを破棄しました。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : キュー登録先のサービス名

cc....cc : 送信コード

RPCRCV : 自プロセス送信要求の処理キュー登録に失敗しました。

RSEND : リトライ送信要求の処理キュー登録に失敗しました。

ERRTRNS : 送信エラートランザクション要求の処理キュー登録に失敗しました。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理キュー登録処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0002	サービス名が不正です。	ユーザサービス関連定義の service オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0003	サービスに対するエントリポイントがありません。	ユーザサービス関連定義の service オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
9000	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB50360-E

RPC サービス応答の送信処理で障害が発生しました。サービス名 = aa....aa, IP アドレス = bb....bb, ポート番号 = cc....cc, 理由コード = dddd, 詳細コード = ee....ee

An error occurred in the transmission processing of RPC service responses. service name = aa....aa, IP address = bb....bb, port number = cc....cc, reason code = dddd, detail code = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

RPC サービス応答の送信処理で障害が発生しました。

aa....aa : 障害が発生したサービス名

bb....bb : 相手システムの IP アドレス

自プロセス送信の場合は、IP アドレスが 0.0.0.0, ポート番号が 0 と表示されます。

cc....cc : 相手システムのポート番号

自プロセス送信の場合は、0 と表示されます。

dddd : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)RPC サービス応答の送信処理を中止し、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0010	TCP/IP プロトコルを使用した通信の場合 コネクションの確立に失敗しました。 UDP プロトコルを使用した通信の場合 相手システムとの状態が不一致です。	TCP/IP プロトコルを使用した通信の場合 相手システムの状態を確認したあと、再実行してください。 UDP プロトコルを使用した通信の場合 相手システムの RPC 関連定義の rpc_udp_packet_size オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0011	ネットワーク障害が発生しました。	直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージを参照して対策してください。直前にメッセージが出力されていない場合は、相手システムの状態を確認して、再実行してください。
0012	リソース不足が発生しました。	直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージを参照して対策してください。直前にメッセージが出力されていない場合は、使用しているプロトコルによって、次の対策をしてください。 TCP/IP プロトコルを使用した通信の場合 メモリ関連定義の send_message_buf_cnt オペランドの指定値を見直して、再実行してください。 UDP プロトコルを使用した通信の場合 メモリ関連定義の udp_send_message_buf_cnt オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0020	システムコール (write) エラーが発生しました。	保守員に連絡してください。
0030	OBF または UOBF が不足しました。	TCP/IP プロトコルを使用した通信の場合 メモリ関連定義の send_message_buf_cnt オペランドの指定値を見直して、再実行してください。 UDP プロトコルを使用した通信の場合 メモリ関連定義の udp_send_message_buf_cnt オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0031	PCE が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0032	IBF が不足しました。	メモリ関連定義の recv_message_buf_cnt オペランドの指定値を見直して、再実行してください。



理由コード	意味	対策
0101	抑止した RPC 応答メッセージの送信処理でメッセージ応答エリアが不足しました。	メモリ関連定義の max_outmessage_size オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0110	抑止した RPC 応答メッセージの送信処理でコネクションの確立に失敗しました。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。
0111	抑止した RPC 応答メッセージの送信処理でネットワークの障害が発生しました。	直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージを参照して対策してください。直前にメッセージが出力されていない場合は、相手システムの状態を確認して、再実行してください。
0112	抑止した RPC 応答メッセージの送信処理でリソース不足が発生しました。	直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージを参照して対策してください。直前にメッセージが出力されていない場合は、メモリ関連定義の send_message_buf_cnt オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0113	抑止した RPC 応答メッセージの送信がリトライオーバーしました。	相手システムの状態を確認して、再実行してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB50361-E

RPC サービス処理で障害が発生しました。サービス名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred during RPC service processing. service name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

RPC サービス処理で障害が発生しました。

**aa....aa** : 障害が発生したサービス名

システム用トランザクション処理で障害が発生した場合は、\*を表示します。

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)RPC サービス処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	サービス関数で指定した out_len が不正です。	サービス関数で指定した out_len の値を見直して、再実行してください。
0002	アドレス解決メッセージの送信に失敗しました。	直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージを参照して対策してください。直前にメッセージが出力されていない場合は、相手システムの状態を確認して、再実行してください。

## KFSB50362-E

RPC 応答メッセージの送信抑止処理がタイムアウトしました。サービス名 = aa....aa, IP アドレス = bb....bb, ポート番号 = cc....cc, 抑止識別子 = dd....dd, 抑止開始時刻 = yy/mm/dd hh:mm:ss  
The transmission suppression processing for RPC response messages timed out. service name = aa....aa, IP address = bb....bb, port number = cc....cc, suppression ID = dd....dd, suppression start time = yy/mm/dd hh:mm:ss (E+P+L) (2) (SUP)

RPC 応答メッセージの送信抑止処理がタイムアウトしました。

aa....aa : 該当するサービス名

bb....bb : 相手システムの IP アドレス

自プロセス送信の場合は、IP アドレスが 0.0.0.0, ポート番号が 0 と表示されます。

cc....cc : 相手システムのポート番号

自プロセス送信の場合は、0 と表示されます。

dd....dd : 抑止識別子

yy/mm/dd hh:mm:ss : 送信抑止処理の開始日時

(S)RPC 応答メッセージの送信抑止処理を中止し、RPC エラー応答を返します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB50370-E

領域の確保に失敗しました。詳細コード = aa....aa  
An attempt to allocate area has failed. detail code = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

通信制御コマンドの処理で、作業領域の確保に失敗しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)該当するコマンドの処理を中止し、次の処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB50371-E

通信障害が発生しました。詳細コード = aa....aa

A communication error has occurred. detail code = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

通信制御コマンドの処理で、通信障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)該当するコマンドの処理を中止し、次の処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB50372-E

サービスグループ名が不正です。サービスグループ名 = aa....aa

The service group name is invalid. service group name = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

通信制御コマンドの処理で、サービスグループ名不正が発生しました。

aa....aa : 不正なサービスグループ名

(S)該当するコマンドの処理を中止し、次の処理を続行します。

(O)通信制御コマンドのフラグ引数を確認してください。

【対策】 なし。

#### KFSB50373-E

ホスト名が不正です。ホスト名 = aa....aa

The host name is invalid. host name = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

通信制御コマンドの処理で、ホスト名不正が発生しました。

aa....aa : 不正なホスト名

(S)該当するコマンドの処理を中止し、次の処理を続行します。

(O)通信制御コマンドのフラグ引数を確認してください。

【対策】 なし。

#### KFSB50374-E

テーブルのエントリ位置が不正です。エントリ位置 = aa....aa

The entry location in the table is invalid. entry location = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

通信制御コマンドの処理で、エントリ位置不正が発生しました。

aa....aa : 不正なエントリ位置

(S)該当するコマンドの処理を中止し、次の処理を続行します。

(O)通信制御コマンドのフラグ引数を確認してください。

【対策】 なし。

#### KFSB50375-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード = aa....aa

An internal conflict has occurred. detail code = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

通信制御コマンドの処理で、TP1/EE で予期しない障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)該当するコマンドの処理を中止し、次の処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB50380-E

rap クライアントとの通信で障害が発生しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, サービス ID = cc....cc, 理由コード = dddd, 詳細コード = ee....ee, 保守情報 = ff....ff  
An error occurred during communication with RAP-processing clients. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, service ID = cc....cc, reason code = dddd, detail code = ee....ee, maintenance information = ff....ff (E+P+L) (2) (SUP)

rap クライアントとの通信で障害が発生しました。

aa....aa : rap クライアントの IP アドレス

常設接続の確立前、または rap クライアントが TP1/Client/J の場合は、0.0.0.0 と表示されることがあります。

bb....bb : rap クライアントのポート番号

常設コネクションの確立前, または rap クライアントが TP1/Client/J の場合は, 0 と表示されることがあります。

cc....cc : 障害が発生したサービス ID

dddd : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)rap クライアントとの接続を解除します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	rap クライアントからのメッセージ受信時に, ネットワーク障害を検出しました。	rap クライアントが稼働しているかどうか確認してください。稼働している場合は, 保守員に連絡してください。
0002	rap クライアントから不正なメッセージを受信しました。	保守員に連絡してください。
0003	受信バッファが不足しているため, 受信バッファ確保が失敗しました。	メモリ関連定義の <code>recv_message_buf_cnt</code> オペランドの指定値を見直して, 再実行してください。
0005	シーケンス不正が発生しました。	保守員に連絡してください。
0006	PCE が不足しているため, 処理キューを登録できませんでした。	メモリ関連定義の <code>pce_no</code> オペランドの指定値を見直して, 再実行してください。
0008	コネクション切断を検出しました。	接続先システムの状態を確認してください。
0009	rap メッセージ受信待ち状態でタイムアウトしました。	接続先システムの状態を確認してください。
1001	rap クライアントへのメッセージ送信時に, ネットワーク障害を検出しました。	rap クライアントが稼働しているかどうか確認してください。稼働している場合は, 保守員に連絡してください。
1002	TCP/IP バッファ不足が再実行回数を超えて連続で発生しました。	RPC 関連定義の <code>rpc_router_retry_count</code> オペランドの指定値を見直してください。
2001	rap クライアントからの要求最大待ち時間を満了しましたが要求が来ませんでした。	なし。
3001	rap クライアントマネージャへの起動通知をしたときに, ネットワーク障害を検出しました。	RPC 関連定義の <code>rap_client_manager_node</code> オペランドの指定値を見直してください。また, rap クライアントが稼働しているかどうかを確認してください。rap クライアントが稼働している場合は, 保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
3002	rap クライアントマネージャへの起動通知をしたときに、TCP/IP バッファ不足がリトライ回数を超えて連続で発生しました。	RPC 関連定義の rpc_router_retry_count オペランドの指定値を見直してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB50381-E

rap リスナーとの通信で障害が発生しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, サービス ID = cc....cc, 常設コネクション状態 = dd-ee, 理由コード = ffff, 詳細コード = gg....gg, 保守情報 = hh....hh

An error occurred during communication with RAP-processing listeners. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, service ID = cc....cc, permanent connection status = dd-ee, reason code = ffff, detail code = gg....gg, maintenance information = hh....hh (E+P+L) (2) (SUP)

rap リスナーとの通信で障害が発生しました。

**aa....aa** : リモート API 機能によるサービスの受信口となる IP アドレス  
常設コネクションの確立前は、0.0.0.0 と表示されることがあります。

**bb....bb** : リモート API 機能によるサービスの受信口となるポート番号  
常設コネクションの確立前は、0 と表示されることがあります。

**cc....cc** : サービス ID

**dd-ee** : 常設コネクションの状態  
次の表を参照してください。

dd	ee	状態
CN	RN	常設コネクション確立中
	FR	常設コネクション確立済み
AP	RN	代理実行処理中
RL	RN	常設コネクション解放中
NN	RN	TCP コネクション確立中
	W1	TCP コネクション切断待ち
	W2	TCP コネクション切断待ち (コネクションを再利用)

**ffff** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**gg....gg** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**hh....hh** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)接続先との接続を解除します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	接続先からのメッセージの受信時に、ネットワーク障害を検出しました。	接続先が稼働しているかどうかを確認してください。接続先が稼働している場合は、保守員に連絡してください。
0002	接続先から不正なメッセージを受信しました。	保守員に連絡してください。
0003	受信バッファ不足によって、受信バッファ確保に失敗しました。	メモリ関連定義の <code>recv_message_buf_cnt</code> オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0005	シーケンス不正が発生しました。	保守員に連絡してください。
0008	コネクション切断を検出しました。	接続先の状態を確認してください。
0009	rap メッセージ受信待ち状態でタイムアウトしました。	接続先の状態を確認してください。
1001	接続先へのメッセージ送信時に、ネットワーク障害を検出しました。	接続先が稼働しているか確認してください。接続先が稼働している場合は、保守員に連絡してください。
1002	TCP/IP バッファ不足がリトライ回数を超えて連続で発生しました。	RPC 関連定義の <code>rpc_router_retry_count</code> オペランドの指定値を見直してください。
1003	RPC 関連定義の <code>rpc_rap_connection_count</code> オペランドの指定値を超えて常設コネクションの接続要求をしていますが、解放できる常設コネクションが存在しないため、rap サーバへの接続要求ができませんでした。	<code>rpc_rap_connection_count</code> オペランドの指定値を増やして、TP1/EE を再起動してください。
1004	接続先からコネクション解放指示を受けたため、応答メッセージを受信できませんでした。	接続先の状態を確認してください。
1005	コネクション確立ができませんでした。	接続先の状態を確認してください。
1006	接続先から起動通知を受けたため、コネクションを解放します。	接続先の状態を確認してください。
2001	接続先からの応答最大待ち時間を満了しましたが、応答が来ませんでした。	接続先の状態を確認してください。
4001	代理実行先でサポートしていないエラーが発生しました。	エラーコードを基に、代理実行先で原因を取り除いてください。
4002	RAP サーバ側で代理実行が失敗しました。	エラーコードを基に、代理実行先で原因を取り除いてください。
上記以外	上記以外エラーが発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB50390-E

ネームサービス処理に失敗しました。サービスグループ名 = aa....aa, 機能名 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード 1 = dd....dd, 詳細コード 2 = ee....ee, 保守情報 = ff....ff

An attempt to perform name service processing has failed. service group name = aa....aa, function name = bb....bb, reason code = cccc, detail code 1 = dd....dd, detail code 2 = ee....ee, maintenance information = ff....ff (E+P+L) (2) (SUP)

ネームサービス処理に失敗しました。

**aa....aa** : 該当するサービスグループ名

**bb....bb** : 異常が発生した動作

ADVERTISE : ネーム情報登録

UNADVERTISE : ネーム情報削除

LOAD BALANCE : 負荷レベル変更

LOOKUP : ネーム情報検索

**cccc** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**dd....dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**ee....ee** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**ff....ff** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)ネームサービス処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0201	ネームサーバとの通信でタイムアウトが発生しました。	ネームサーバが正常に稼働しているかどうか確認してください。ネームサーバが正常に稼働していても、このエラーが多発する場合は、RPC 関連定義の rpc_nam_retry_count オペランド, rpc_nam_retry_interval オペランド, および rpc_nam_watch_time オペランドの指定値を大きくしてください。
0202		
0301	TP1/Server Base 下に同一のサービスグループ名が存在するため、登録できませんでした。	同一のサービスグループ名のサーバを終了させてください。
0303	ネームサーバ上で共用メモリ不足が発生しました。	TP1/Server Base のネームサービス定義の name_cache_size オペランド, または name_total_size オペランドの指定値を大きくしてください。



理由コード	意味	対策
0304	ネームサーバで異常が発生しました。	ネームサーバが正常に稼働しているかどうか確認してください。ネームサーバが正常に稼働していても、このエラーが発生する場合は保守員に連絡してください。
0401	メモリ不足を検出しました。	直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージを参照して対策してください。直前にメッセージが出力されていない場合、または対策ができない場合は、保守員に連絡してください。
0402		
0501	通信障害が発生しました。	
0901	システムエラーを検出しました。	
9000~9999	内部矛盾が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB50391-E

負荷分散処理で障害が発生しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, サービスグループ名 = cc....cc, 理由コード = dd....dd, 詳細コード = ee....ee

An error occurred during load-balancing processing. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, service group name = cc....cc, reason code = dd....dd, detail code = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

ノード間負荷バランス機能を使用した負荷分散処理で障害が発生しました。

**aa....aa** : サービス要求元の IP アドレス

ee\_rpc\_call 関数または ee\_rpc\_cmtsend 関数の発行時は、0.0.0.0 と表示されます。

**bb....bb** : サービス要求元のポート番号

ee\_rpc\_call 関数または ee\_rpc\_cmtsend 関数の発行時は、0 と表示されます。

**cc....cc** : サービスグループ名

**dd....dd** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**ee....ee** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)負荷分散処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0100	RPC 発行時にサービスグループ情報の取得に失敗しました。	ee_rpc_call 関数または ee_rpc_cmtsend 関数に正しいサービスグループ名を指定して、再実行してください。

理由コード	意味	対策
0101	メッセージの転送時にサービスグループ情報の取得に失敗しました。	サービス要求元で正しいサービスグループを指定して、再実行してください。
0200	転送できるプロセスがありません。	指定したサービスグループ名を確認したあと、再実行してください。
0201	転送処理中に通信障害が発生しました。	相手システムの状態と、RPC 関連定義の <code>scd_retry_of_commm_error</code> オペランドの指定値を確認したあと、再実行してください。
9000	内部矛盾が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB50395-E

ERRTRNR 連携の RPC 応答送信処理で障害が発生しました。サービス名 = aa....aa, IP アドレス = bb....bb, ポート番号 = cc....cc, 理由コード = dd....dd, 詳細コード = ee....ee  
 An error occurred during RPC response transmission processing linked with ERRTRNR. service name = aa....aa, IP address = bb....bb, port number = cc....cc, reason code = dd....dd, detail code = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

ERRTRNR による RPC 応答メッセージ送信処理で障害が発生しました。

**aa....aa** : サービス名

**bb....bb** : サービス要求元の IP アドレス

自プロセス送信の場合は、IP アドレスが 0.0.0.0, ポート番号が 0 と表示されます。

**cc....cc** : サービス要求元のポート番号

自プロセス送信の場合は、0 と表示されます。

**dd....dd** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**ee....ee** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)ERRTRNR による RPC 応答メッセージ送信処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ERRTRNR による RPC 応答メッセージ送信機能の同時使用数が、上限値を超えました。	RPC 関連定義の <code>rpc_reply_errtrnr_cnt</code> オペランドの指定値を見直してください。
9000~9999	内部矛盾が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB50396-E

ERRTRN3 連携のRPC 応答送信処理で障害が発生しました。サービス名 = aa....aa, IP アドレス = bb....bb, ポート番号 = cc....cc, 理由コード = dd....dd, 詳細コード = ee....ee  
An error occurred during RPC response transmission processing linked with ERRTRN3. service name = aa....aa, IP address = bb....bb, port number = cc....cc, reason code = dd....dd, detail code = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

ERRTRN3 連携のRPC 応答処理で障害が発生しました。

**aa....aa** : サービス名

**bb....bb** : サービス要求元の IP アドレス

自プロセス送信の場合は, 0.0.0.0 と表示されます。

**cc....cc** : サービス要求元のポート番号

自プロセス送信の場合は, 0 と表示されます。

**dd....dd** : 理由コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

**ee....ee** : 詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)ERRTRN3 連携のRPC 応答を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB50500-E

永続タイマの監視開始に失敗しました。タイマデータ表名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc  
An attempt to start persistent timer monitoring failed. timer data table name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

永続タイマの監視開始処理に失敗しました。

**aa....aa** : タイマデータ表名

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)該当するタイマデータ表をタイマ監視対象に追加しないで処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
COMMIT	監視追加処理の同期点処理でコミット決着しませんでした。	このメッセージより前に出力されているメッセージに従って、同期点処理が失敗した原因を取り除いてください。
USED	次のどれかに該当します。 <ul style="list-style-type: none"><li>ほかの TP1/EE が該当するタイマデータ表を監視中です。</li><li>タイマデータ表を監視していた TP1/EE が正常終了しませんでした。</li><li>タイマデータ表を監視していた TP1/EE の状態を確認できませんでした。</li></ul>	該当するタイマをタイマ監視対象としない場合は対策不要です。 監視対象とする場合は、タイマデータ表を監視している TP1/EE の起動状態を確認してください。

## KFSB50501-E

永続タイマの監視終了に失敗しました。タイマデータ表名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An attempt to stop persistent timer monitoring failed. timer data table name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

永続タイマの監視終了処理に失敗しました。

aa....aa : タイマデータ表名

特定のタイマデータ表に関係ない場合は、\*を表示します。

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)該当するタイマデータ表をタイマ監視対象としたまま処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
COMMIT	監視終了処理の同期点処理でコミット決着しませんでした。	このメッセージより前に出力されているメッセージに従って、同期点処理が失敗した原因を取り除いてください。
SQL	システム終了時の監視終了処理で SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されているメッセージに従って、SQL エラーが発生した原因を取り除いてください。

## KFSB50502-E

ステータスファイルアクセスでエラーが発生しました。理由コード = aaaa, 詳細コード = bb...bb  
An error occurred during access to a status file. reason code = aaaa, detail code = bb...bb  
(E+P+L) (2) (SUP)

ステータスファイルのアクセスに失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb...bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	タイマ監視表の監視追加・削除情報の書き込みに失敗しました。 再開始時に、前回起動中に変更したタイマ監視状態が正常に引き継がれません。	このメッセージより前に出力されているメッセージに従って対策してください。 再開始後は、TP1/FSP の eetimchown コマンドでタイマデータ表の監視状態を変更してください。

## KFSB50503-E

永続タイマの表の構成が不正です。表名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc  
The structure of a persistent timer table is invalid. table name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

永続タイマの表の構成が不正です。

**aa....aa** : 構成不正のタイマデータ表名, またはタイマ監視表名

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE 開始時に表構成不正を検知した場合は、開始処理を中止します。

それ以外の場合は、該当するタイマデータ表を監視しないで処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
COLNAME	aa....aa で示した表の列情報が不正です。	TP1/FSP のタイマ機能関連定義の timpermdef 定義コマンド、または eetimchown コマンドで、eetimtblh コマンドで作成した表を指定しているかを確認してください。
COLSIZE		
COLTYPE		
ROWNUM	aa....aa で示した表の行情報が不正です。	
TABLE	aa....aa で示した表が見つかりません。	TP1/FSP のタイマ機能関連定義の timpermdef 定義コマンド、または eetimchown コマンドで、正しいタイマデータ表を指定しているかを確認してください。

#### KFSB50504-E

トランザクション処理でオーバフローを検知しました。サービス名 = aa....aa, サイズ = bb....bb  
An overflow was detected during transaction processing. service name = aa....aa, size = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

永続タイマの起動時、受け付けた引継ぎデータがメッセージ引き渡しエリアサイズを超えていたため、以降のメッセージを破棄しました。

aa....aa : サービス名

bb....bb : 不足しているサイズ

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の time\_message\_size オペランドの指定値を見直してください。

#### KFSB50505-E

UOCでエラーが発生しました。UOC名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細情報 = cc....cc  
An error occurred in UOC. UOC name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail information = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

UOCでエラーが発生しました。

aa....aa : UOC名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : 詳細情報

(S)該当のタイマを破棄して、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
RETURN	UOC がリターンコード cc....cc でエラーリターンしました。	UOC 処理でのエラーの原因を調査してください。原因がわからない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB50506-E

処理キューの登録に失敗しました。サービス名 = aa....aa, 登録コード = bb....bb, 理由コード = cc....cc

Failed to register the processing queue. service name = aa....aa, registration code = bb....bb, reason code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

タイマの受信処理で処理キュー登録に失敗しました。

aa....aa : 処理キュー登録に失敗したサービス名, またはトランザクションレベル名

bb....bb : 登録コード

TIMRCV : タイマトランザクションの処理キュー登録に失敗しました。

cc....cc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)ERRTRN1 を起動します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
ENTRY	サービスに対するエントリポイントがありません。	サービス名の定義を見直して、再実行してください。
SERVICE	サービス名が不正です。	サービス名の定義を見直して、再実行してください。
TRANSACTION_LEVEL	トランザクションレベル名が不正です。	トランザクションレベル名の定義を見直して、再実行してください。

## KFSB50507-E

永続タイマ処理でRMに接続できませんでした。タイマデータ表名 = aa....aa, RM名称 = bb....bb, 理由コード = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

Persistent timer processing could not connect to an RM. timer data table name = aa....aa, RM name = bb....bb, reason code = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

永続タイマ処理でリソースマネージャに接続できませんでした。

aa....aa : タイマデータ表名

bb....bb : リソースマネージャ名称

cc....cc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
NOTHING	リソースマネージャ名が定義されていません。	トランザクション関連定義の tmstring 定義コマンドの -n オプション, -i オプションに指定したリソースマネージャ名を指定してください。
STATUS	リソースマネージャ接続状態が不正です。	このメッセージより前に出力されている KFSB50919-E メッセージを参照してください。

## KFSB50801-E

トランザクションレベル名判定 UOC においてトランザクションレベル名が決定できませんでした。  
トランザクションレベル名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd

The transaction level name could not be determined from the transaction level name identification UOC. transaction level name = aa....aa, service name = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

トランザクションレベル名判定 UOC でトランザクションレベル名を決定できませんでした。

このメッセージのあとに出力されたエラーメッセージにサービス名が記載されている場合は、「サービス名不正」を「トランザクションレベル名不正」と読み替えてください。

aa....aa : トランザクションレベル名

トランザクションレベル名判定 UOC で指定したトランザクションレベル名を表示します。

エラー原因がトランザクションレベル名に関係のない場合、またはトランザクションレベル名が指定されていない場合は、\*\*を表示します。



bb....bb : サービス名

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を継続します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	UOC がエラーリターンしました。	UOC の処理内容を確認してください。
0002	UOC のリターンコードが不正です。	UOC のリターン値の設定を確認してください。
0003	UOC で決定したトランザクションレベル名が定義に設定されていません。	UOC で指定したトランザクションレベル名が、TP1/FSP のユーザサービス関連定義の queue_trnlevel オペランドに指定されているかを確認してください。
0004	UOC で決定したトランザクションレベル名長が不正です。	UOC で指定したトランザクションレベル名の設定値を確認してください。

## KFSB50802-E

特定 P C I 用の初期化処理に失敗しました。理由コード = aa....aa, P C I 番号 = bb....bb

An attempt to perform initialization processing for a specific PCI has failed. reason code = aa....aa, PCI number = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

aa....aa : 理由コード

0001 : 特定 PCI 用処理スレッド定義に指定した PCI が存在しません。

bb....bb : PCI 番号

指定された PCI 番号

(S)トラブルシュート情報出力後、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB50900-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc, 詳細コード 4 = dd....dd, 詳細コード 5 = ee....ee

An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc, detail code 4 = dd....dd, detail code 5 = ee....ee (E, E+P+L) (2) (SUP)

内部矛盾が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

#### KFSB50901-E

実行対象 RM が静的 RM です。cmd = aa....aa, rmid = bb....bb, RM = cc....cc

An execution-target resource manager is a static resource manager. cmd = aa....aa, rmid = bb....bb, RM = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

リソースマネージャが静的リソースマネージャのため、処理を実行できませんでした。

aa....aa : ax 関数種別

bb....bb : TP1/EE でリソースマネージャに割り振った ID

cc....cc : 該当するリソースマネージャ名

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** UAP が使用するリソースマネージャの種別を動的にして、UAP を再作成してください。

#### KFSB50902-E

ファイルオープンに失敗しました。file = aa....aa

An attempt to open a file has failed. file = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

ファイルのオープンに失敗しました。

aa....aa : オープンに失敗したファイル名  
xa 文字列を格納するファイルです。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 aa....aa ファイルの障害を取り除き、再実行してください。障害の原因を次に示します。

- 指定されたファイルが存在しない。
- ファイル障害が発生した。
- ディスク障害が発生した。
- 指定されたファイルに対するアクセス権限が正しくない。
- リソースが不足している。
- OS の制限を超えている (ファイルディスクリプタ, シンボリックリンク数など)。
- NFS 障害が発生した。

#### KFSB50903-E

```
xa 文字列の設定値が不正です。open = aa....aa, close = bb....bb  
The setting values of xa character strings are invalid. open = aa....aa, close = bb....bb (E  
+P+L) (2) (SUP)
```

xa 文字列の指定値が不正です。

aa....aa : xa\_open 文字列の指定判定文字

0 が出力された場合は, xa\_open 文字列の指定値が不正です。

bb....bb : xa\_close 文字列の指定判定文字

0 が出力された場合は, xa\_close 文字列の指定値が不正です。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 xa 文字列の指定内容は, 「EE\_OPEN\_STRING, 連続したスペースまたはタブ, 設定値, EE\_CLOSE\_STRING, 連続したスペースまたはタブ, 指定値」の形式かどうか確認してください。指定内容が不正な場合は, 正しい値を指定し, TP1/EE を再起動してください。

#### KFSB50904-E

```
ステータスファイルアクセスでエラーが発生しました。理由コード = aaaa, 詳細コード 1 =  
bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc, 詳細コード 3 = dd....dd, 詳細コード 4 = ee....ee, 詳細コード 5  
= ff....ff
```

An error occurred during access to a status file. reason code = aaaa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc, detail code 3 = dd....dd, detail code 4 = ee....ee, detail code 5 = ff....ff (E+P+L) (2) (SUP)

ステータスファイルへのアクセスが失敗しました。

aaaa : 理由コード (4けたの数字)

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1000	ステータスファイルの読み込みに失敗しました。	以前に出力されているメッセージに従って対策してください。
1001	ステータスファイルの書き込みに失敗しました。	
1002	ステータスレコードの確保に失敗しました。	
1003	ステータスレコードサイズが不一致です。	再開始の場合、次の内容を確認してください。解決しない場合は、保守員に連絡してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>リソースマネージャ関連の定義を変更していないか。</li><li>前回起動時のステータスファイルを変更していないか。</li><li>TP1/EE のライブラリを入れ替えていないか。</li></ul>

## KFSB50909-E

ax 関数実行時の引数が不正です。cmd = aa....aa, rmid = bb....bb, RM = cc....cc, flags = dd....dd

An argument specified for execution of an ax function is invalid. cmd = aa....aa, rmid = bb....bb, RM = cc....cc, flags = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

リソースマネージャから実行された ax 関数の引数に不正がありました。

aa....aa : ax 関数種別

bb....bb : TP1/EE でリソースマネージャに割り振った ID

cc....cc : リソースマネージャ名

dd....dd : ax 関数実行の flags 引数

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** リソースマネージャの状態を確認してください。リソースマネージャが起動している場合は、リソースマネージャが出力するメッセージログファイルを参照してリソースマネージャの障害を取り除き、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB50910-E

処理キューの登録に失敗しました。理由コード = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 位置コード = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

An attempt to register a processing queue has failed. reason code = aa....aa, service name = bb....bb, location code = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

送信処理で処理キューの登録に失敗したため、メッセージを破棄しました。

aa....aa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : キュー登録先のサービス名

cc....cc : 位置コード

0 : トランザクション開始時

1 : トランザクション終了時

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理キュー登録処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。
1	PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、再実行してください。

理由コード	意味	対策
2	サービス名が不正です。	サービス名の定義を見直して、再実行してください。

## KFSB50911-E

回復トランザクションの決着処理に失敗しました。詳細コード = aa....aa, XID = bb....bb  
 An attempt to determine a recovered transaction has failed. detail code = aa....aa, XID = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

回復トランザクションのトランザクション決着処理に失敗しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : XID

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者およびリソースマネージャの管理者に連絡してください。

**【対策】** 出力されている XID に対するトラザクションが未決着状態のため、リソースマネージャでの決着処理を実行してください。決着方法の例を次に示します。なお、決着方法の詳細については、リソースマネージャの仕様に依存するため、ご使用のリソースマネージャのマニュアルを参照してください。

- リソースマネージャのトランザクションタイマによる決着処理を待つ。
- 出力された XID をキーにして、リソースマネージャのトランザクション決着コマンドで決着処理を実行する。

## KFSB50912-E

定義解析処理中にエラーが発生しました。システムの上限值を超える定義がされました。ファイル名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
 An error occurred during definition analysis processing. The definition exceeded the system limit. file name = aa....aa, reason code = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

システムの上限值を超える値が指定されました。

aa....aa : ファイル名の絶対パス

理由コードが 1 の場合は、1023 バイト分だけ表示されます。

bb....bb : 理由コード

1 : リソースマネージャアクセス用文字列ファイルの絶対パス名とファイル名の合計が 1023 文字を超えています。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コードが 1 の場合、TP1/Server Base のユーザサービス定義で環境変数 EERMFILに指定したリソースマネージャアクセス用文字列ファイル名を見直し、リソースマネージャアクセス用文字列ファイルの絶対パス名とファイル名の合計が 1023 文字を超えないように設定してください。その後、TP1/EE を再起動してください。

#### KFSB50913-E

```
HiRDB/Client コネクションハンドルの取得に失敗しました。詳細コード = aa....aa  
An attempt to get the HiRDB/Client connection handle has failed. detail code = aa....aa  
(E+P+L) (2) (SUP)
```

HiRDB/Client コネクションハンドルの取得に失敗しました。

**aa....aa** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者およびリソースマネージャの管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

#### KFSB50914-E

```
定義解析処理中にエラーが発生しました。定義形式が不正です。ファイル名 = aa....aa, 行数 =  
bb....bb, 理由コード = cc....cc  
An error occurred during definition analysis processing. The definition format is invalid. file  
name = aa....aa, line number = bb....bb, reason code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)
```

リソースマネージャアクセス用文字列ファイルの定義の形式が不正です。

**aa....aa** : 不正のあったファイルの絶対パス

**bb....bb** : 不正のあった行数

**cc....cc** : 理由コード

1 : オペランドが不正です。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** aa....aa, bb....bb で表示されたファイルの該当個所に指定した定義形式を見直して、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB50915-E

トランザクションサービスで障害が発生しました。理由コード = aaaa, XID = bb...bb, 詳細コード 1 = cc...cc, 詳細コード 2 = dd...dd, 詳細コード 3 = ee...ee, 詳細コード 4 = ff...ff  
An error occurred in a transaction service. reason code = aaaa, XID = bb...bb, detail code 1 = cc...cc, detail code 2 = dd...dd, detail code 3 = ee...ee, detail code 4 = ff...ff (E+P+L)  
(2) (SUP)

トランザクションサービス中に理由コードに示す障害が発生しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb...bb** : トランザクション識別子

トランザクション識別子がない場合は, \*を表示します。

**cc...cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**dd...dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**ee...ee** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**ff...ff** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	同時に実行中のトランザクションブランチ数がトランザクション関連定義の <code>trn_tran_process_count</code> オペランドの指定値を超えました。	定義を見直して, 再実行してください。
0002	トランザクションの開始からコミットまでに発行できる <code>ee_rpc_call</code> 関数の数 (生成できるトランザクションブランチの最大値) がトランザクション関連定義の <code>trn_max_subordinate_count</code> オペランドの指定値を超えました。	定義を見直して, 再実行してください。
0003	トランザクション関連定義の <code>trn_communication_tp1ee0101</code> オペランドに Y を指定したシステムに対して, TP1/EE 01-01, または TP1/EE 01-02 以降 ( <code>trn_communication_tp1ee0101</code> オペランドに Y を指定) 以外のシステムからトランザクション連携要求がありました。	サービス要求元の状態を確認して, 再実行してください。



理由コード	意味	対策
0004	トランザクション関連定義の trn_communication_tplee0101 オペランドに N を指定したシステムに対して、TP1/Server Base、または TP1/EE 01-02 以降 (trn_communication_tplee0101 オペランドに N を指定) 以外のシステムからトランザクション連携要求がありました。	サービス要求元の状態を確認して、再実行してください。 サービス要求元で TP1/Server Base のオンラインテストが動作している場合は、TP1/EE とのトランザクション連携はできません。
0005	トランザクション関連定義の trn_transactional_rpcless_use オペランドに Y を指定したシステムに対して、トランザクション連携要求がありました。	サービス要求元の状態を確認して、再実行してください。
0006	トランザクション関連定義の trn_transactional_rpcless_use オペランドに Y を指定したシステムで、UAP がトランザクション連携ありのサービス要求を行いました。	定義を見直して、再実行してください。

## KFSB50916-E

内部矛盾が発生したので当該スレッドを強制終了します。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc, 詳細コード 4 = dd....dd, 詳細コード 5 = ee....ee

The thread was forcibly terminated because an internal conflict occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc, detail code 4 = dd....dd, detail code 5 = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

内部矛盾が発生したので該当するスレッドを強制終了します。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)トランザクション処理を中止し、該当するスレッドを強制終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB50917-E

トランザクションをコミット決定しましたが、ロールバックしたリソースマネージャが存在します。

Even though a transaction was committed, a resource manager that rolled back the transaction exists. (E+P+L) (2) (SUP)

トランザクションをコミットするため、xa\_commit 関数を発行しましたが、リソースマネージャがロールバックしたことを示すリターンコードが返されました。

このメッセージが出力された場合、コミットしたリソースマネージャとロールバックしたリソースマネージャが混在するため、リソース間の整合性が失われているおそれがあります。必要に応じて、このメッセージのあとに出力されるすべての [KFSB50919-E](#) メッセージを参照してください。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)障害の発生したリソースマネージャを調査してください。

**【対策】** リソースマネージャの状態を確認してください。リソースマネージャが起動している場合は、リソースマネージャが出力するメッセージログファイルを参照してください。リソースマネージャの障害を取り除き、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB50918-E

定義解析処理中にエラーが発生しました。理由コード = aaaa, オペランド名 = bb...bb, オプション内容 = cc...cc, 詳細コード = dd...dd

An error occurred during definition analysis processing. reason code = aaaa, operand name = bb...bb, option information = cc...cc, detail code = dd...dd (E) (2) (SUP)

定義解析時に障害が発生しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb...bb** : 障害が発生したオペランド名

**cc...cc** : 障害が発生したオプション内容

理由コードが 0013, 0014 のときは、HiRDB 環境変数グループ識別子を表示します。

理由コードが 0010, 0019 のときは、UAP 履歴情報グループ名称を表示します。

**dd...dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	trnstring 定義コマンドとリソースマネージャ連携用オブジェクトファイル内のリソースマネージャ名が不一致です。	定義、またはリソースマネージャ連携用オブジェクトファイルを見直して、再実行してください。
0002	オプション内容に誤りがあります	オプション内容を見直して、再実行してください。
0003	定義の上限値を超える値が指定されました。	定義を見直して、再実行してください。
0004	リソースマネージャ連携用オブジェクトファイル内のリソースマネージャ名が重複しています。	リソースマネージャ連携用オブジェクトファイルを見直して、再実行してください。
0005	リソースマネージャに HiRDB を指定した場合の xa_close 関数用文字列の上限値を超える値が指定されました。	定義を見直して、再実行してください。
0008	ステータスファイル関連定義の sts_fileless_use オペランドに Y を指定していますが、トランザクション関連定義の指定値と矛盾があります。	次に示す原因が考えられます。定義を見直して、再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>リソースマネージャ連携オブジェクトファイルがリンケージされています。</li> <li>トランザクション関連定義の trn_transactional_rpcless_use オペランドを省略するか、または N を指定しています。</li> </ul>
0009	高速メッセージ送信関連定義の mch_send_err_rollback オペランドに Y を指定していますが、トランザクション関連定義の指定値と矛盾があります。	次に示す原因が考えられます。定義を見直して、再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>リソースマネージャ連携オブジェクトファイルがリンケージされています。</li> <li>トランザクション関連定義の trn_transactional_rpcless_use オペランドを省略するか、または N を指定しています。</li> </ul>
0010	UAP 履歴情報取得機能に必要なオペランドが指定されていないか、指定値が不正です。または、指定値が重複しています。	オペランド名で示す定義の指定数、および指定値を見直して、再実行してください。
0011	TP1/FSP のトランザクション関連定義の trnaphgroup 定義コマンドで指定したリソースマネージャが存在しません。	トランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドで指定したリソースマネージャを、trnaphgroup 定義コマンドに指定してください。
0012	TP1/FSP のトランザクション関連定義の trnaphputid 定義コマンドで指定した UAP 履歴情報グループが存在しません。または、UAP 履歴情報グループの指定がありません。	TP1/FSP のトランザクション関連定義の trnaphgroup 定義コマンドで指定した UAP 履歴情報グループを、trnaphputid 定義コマンドに指定してください。
0013	トランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドの -O オプションで指定した HiRDB 環境変数グループ識別子が、ほかのリソースマネージャの指定値と重複しています。	トランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドの次のオプションを見直して、再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>-O オプションで指定した HiRDB の環境変数グループ識別子が、ほかの trnstring 定義コマンドの -O オプションの指定値と重複していないか。</li> </ul>
0014	トランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドの -O オプションで指定した HiRDB 環境変	

理由コード	意味	対策
0014	数グループ識別子が、ほかのリソースマネージャの指定値と重複しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• -i オプションで複数のリソースマネージャ拡張子を指定していないか。</li> </ul>
0015	オフラインバッチ (EEBPP) で不要なファイル (リソースマネージャ連携オブジェクトファイル) がリンケージされています。	UAP 共用ライブラリ作成時の makefile を見直してください。
0016	トランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドの -n オプションに HiRDB 以外のリソースマネージャ名が指定されています。	トランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドの -n オプションの指定値を見直して、再実行してください。
0019	トランザクション関連定義 trnaphgroup コマンドで指定した通番予約要求の閾値に、一括予約通番数以上の値を指定しています。	trnaphgroup の -l オプションで指定する通番予約要求の閾値には、-r オプションで指定した一括予約通番数未満の値を指定してください。
0020	hub_use の指定が 'N' であるにもかかわらず、トランザクション関連定義 trnstring の -u オプションを指定しています。	hub_use オペランドと trnstring のオプションを見直して、再実行してください。
0021	非 XA 連携機能を使用したりソースマネージャが複数定義されています。	トランザクション関連定義 trnstring の -u オプションの指定を見直して、再実行してください。
0022	トランザクション関連定義 trnstring で指定したリソースマネージャ名がほかの trnstring で指定したリソースマネージャ名と重複しています。	トランザクション関連定義 trnstring の -n オプションと -i オプションの指定値を見直して、再実行してください。
0023	TP1/FSP のトランザクション関連定義の trnaphgroup 定義コマンドで指定したリソースマネージャが存在しません。	トランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドで -u オプションを指定したリソースマネージャを、trnaphgroup 定義コマンドに指定してください。

## KFSB50919-E

```
xa 関数の実行に失敗しました。cmd = aa....aa, rmid = bb....bb, RM = cc....cc, flags = dd....dd, rc = ee....ee, XID = ff....ff, dispo = gg....gg
```

```
An attempt to execute an xa function has failed. cmd = aa....aa, rmid = bb....bb, RM = cc....cc, flags = dd....dd, rc = ee....ee, XID = ff....ff, dispo = gg....gg (E+P+L) (2) (SUP)
```

xa 関数を実行しましたがエラーリターンしました。

aa....aa : エラーリターンした xa 関数種別

bb....bb : TP1/EE でリソースマネージャに割り振った ID

cc....cc : リソースマネージャ名 (リソースマネージャ拡張子を含む)

dd....dd : xa 関数実行の flags 引数

ee....ee : xa 関数のリターンコード

ff...ff：トランザクション識別子

xa 関数種別が xa\_open, xa\_close, または xa\_recover の場合は, \*を表示します。

gg...gg：トランザクションが実行する処理種別

xa 関数種別が xa\_close, または xa\_recover の場合は, \*を表示します。

terminate：トランザクションを終了する。

thread down：スレッドダウンする。

process down：プロセスダウンする。

retry：回復スレッドにトランザクション決着処理を移行して再実行する。

force：処理を続行する。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージが出力された場合は、リソースマネージャを利用しないでトランザクションが実行されていることがあります。このメッセージのリターンコード、および該当するリソースマネージャの保守情報があれば、その情報を基に障害を取り除いてください。障害が発生したリソースマネージャが起動していない場合は、該当するリソースマネージャを起動してください。

xa 関数の種別が xa\_open 関数の場合、次の項目についても確認してください。

- リソースマネージャとの接続数に問題がないか。
- トランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドで指定する xa\_open 関数用文字列に誤りがないか。

## KFSB50920-E

環境変数の取得中にエラーが発生しました。環境変数名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

An error occurred during the acquisition of an environment variable. environment variable name = aa....aa, detail code = bb....bb (E) (2) (SUP)

環境変数の取得中に障害が発生しました。

aa....aa：障害が発生した環境変数名

bb....bb：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 環境変数を見直してください。

## KFSB50921-E

トランザクションサービス開始中にエラーが発生しました。理由コード = aaaa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc

An error occurred when a transaction service was being started. reason code = aaaa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

トランザクションサービス開始中に障害が発生しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ステータスファイルの書き込みに失敗しました。	このメッセージの前後に出力されているメッセージを参照してください。
0002	ステータスファイルアクセスの準備に失敗しました。	このメッセージの前後に出力されているメッセージを参照してください。
0003	リソースマネージャスイッチがありません。	シンプルトランザクション機能を使用する設定の場合は、リソースマネージャがない構成にはできません。リソースマネージャ連携オブジェクトファイルを使用してください。
0004	リソースマネージャスイッチが複数設定されています。	シンプルトランザクション機能を使用する設定の場合は、使用できるリソースマネージャスイッチは一つだけです。リソースマネージャ連携オブジェクトファイルを見直してください。
0005	HiRDB 以外のリソースマネージャが設定されています。	シンプルトランザクション機能を使用する設定の場合は、HiRDB 以外のリソースマネージャを使用できません。リソースマネージャ連携オブジェクトファイルを見直してください。

## KFSB50922-E

トランザクションブランチをコミット、又はロールバック決定できません。XID = aa....aa, サービス名 = bb....bb

A transaction branch could not be committed or rolled back. XID = aa....aa, service name = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

通信障害やリソースマネージャ障害などが発生したため、トランザクションブランチをコミット、またはロールバックに決着できません。

aa....aa : 該当するトランザクション識別子

bb....bb : 該当するサービス名

サービス名がない場合は、\*を表示します。

(S)トランザクションブランチの状態を保持し、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** グローバルトランザクションの各トランザクションブランチの状態を調査してください。通信先システムがダウンしている場合は、通信先システムを再起動してください。リソースマネージャで障害が発生している場合は、障害を取り除いてください。TP1/EE はトランザクションブランチの回復を一定間隔でリトライしています。そのため、障害を取り除くと、自動的にトランザクションブランチを回復できます。

#### KFSB50923-E

トランザクションブランチの回復ができません。XID = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 決着種別 = cc

A transaction branch cannot be recovered. XID = aa....aa, service name = bb....bb, determination type = cc (E+P+L) (2) (SUP)

トランザクションブランチを回復できません。

aa....aa : 該当するトランザクション識別子

bb....bb : 該当するサービス名

サービス名がない場合は、\*を表示します。

cc : 決着種別

c : コミット

r : ロールバック

hc : ヒューリスティックコミット

hr : ヒューリスティックロールバック

hm : ヒューリスティックミックス

hh : ヒューリスティックハザード

(S)トランザクションブランチの状態を保持し、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。



**【対策】** グローバルトランザクションの各トランザクションブランチの状態を調査してください。通信先システムがダウンしている場合は、通信先システムを再起動してください。リソースマネージャで障害が発生している場合は、障害を取り除いてください。TP1/EE はトランザクションブランチの回復を一定間隔でリトライしています。そのため、障害を取り除くと、自動的にトランザクションブランチを回復できます。

## KFSB50924-E

リラン中にエラーが発生しました。理由コード = aaaa, 詳細コード 1 = bb...bb, 詳細コード 2 = cc...cc

An error occurred during a rerun. reason code = aaaa, detail code 1 = bb...bb, detail code 2 = cc...cc (E+P+L) (2) (SUP)

再開中に障害が発生しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb...bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**cc...cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ステータスファイルの読み込みに失敗しました。	このメッセージの前後に出力されているメッセージを参照してください。
0002	TP1/EE に登録されているリソースマネージャ数が前回起動時と不一致です。	TP1/EE に登録されているリソースマネージャを見直して再起動してください。
0003	テーブルの回復に失敗しました。	このメッセージの前後に出力されているメッセージを参照してください。
0004	回復処理に失敗しました。	このメッセージの前後に出力されているメッセージを参照してください。

## KFSB50925-E

ax 関数実行時の引数が不正です。cmd = aa....aa, rmid = bb....bb, RM = cc....cc, flags = dd....dd, 要因 = ee....ee

An argument specified for execution of an ax function is invalid. cmd = aa....aa, rmid = bb....bb, RM = cc....cc, flags = dd....dd, factor = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

リソースマネージャから実行された ax 関数の引数に不正がありました。



aa....aa : ax 関数種別

bb....bb : TP1/EE でリソースマネージャに割り振った ID

cc....cc : リソースマネージャ名 (リソースマネージャ拡張子を含む)

dd....dd : ax 関数実行の flags 引数

ee....ee : 障害の要因となった不正な引数の種別

rmid : rmid に使用できる範囲外の値が指定されています。

xid : 引数の XID のアドレスに NULL が指定されています。

flags : flags に TMNOFLAGS 以外が指定されています。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** リソースマネージャの状態を確認してください。リソースマネージャが起動している場合は、リソースマネージャが出力するメッセージログファイルを参照して、リソースマネージャの障害を取り除き、TP1/EE を再起動してください。

#### KFSB50926-E

HiRDB/Client コネクションハンドルの解放に失敗しました。rmid = aa....aa, RM = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An attempt to release the HiRDB/Client connection handle has failed. rmid = aa....aa, RM = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

HiRDB/Client コネクションハンドルの解放に失敗しました。

aa....aa : TP1/EE でリソースマネージャに割り当てた ID

bb....bb : リソースマネージャ名 (リソースマネージャ拡張子を含む)

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者およびリソースマネージャの管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

#### KFSB50927-E

コミットまたはロールバックの発行回数の上限值に達しました。サービス名 = aa....aa, 発行回数 = bb....bb, 発行種別 = cc....cc, 処理種別 = d

```
The number of commit or rollback requests has reached the limit. service name = aa....aa,
request count = bb....bb, api type = cc....cc, processing type = d    (E+P+L) (2) (SUP)
```

ee\_trn\_chained\_commit 関数, ee\_trn\_chained\_rollback 関数または ee\_trn\_rollback\_mark 関数の発行回数が上限値に達しました。プロセスダウンする場合, トラブルシュート情報出力後に TP1/EE プロセスを強制停止します。

**aa....aa** : 該当するサービス名

サービス名がない場合は, \*を表示します。

**bb....bb** : ee\_trn\_chained\_commit 関数, ee\_trn\_chained\_rollback 関数または ee\_trn\_rollback\_mark 関数の発行回数

**cc....cc** : 発行種別

ee\_trn\_chained\_commit : ee\_trn\_chained\_commit 関数

ee\_trn\_chained\_rollback : ee\_trn\_chained\_rollback 関数

ee\_trn\_rollback\_mark : ee\_trn\_rollback\_mark 関数

**d** : 処理種別

P : プロセスダウン

T : スレッドダウン

N : メッセージ出力

(S)処理種別の結果として出力された処理が行われます。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** サービスプログラムが無限ループになっていないかどうか, 見直してください。

## KFSB50928-E

```
トランザクション回復情報の登録・削除に失敗しました。ノード識別子 = aa....aa, 理由コード =
bb....bb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd
```

```
An attempt to register and delete transaction recovery information has failed. node ID =
aa....aa, reason code = bb....bb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd    (E+P+L)
(2) (SUP)
```

トランザクション回復情報の登録, 削除に失敗しました。

**aa....aa** : アクセス対象のノード識別子

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ネーム情報の登録に失敗しました。	このメッセージの前後に出力されているメッセージを参照してください。
0002	ネーム情報の削除に失敗しました。	
0003	トランザクション回復用のポート番号のオープンに失敗しました。	
0004	トランザクション回復用のポート番号のクローズに失敗しました。	

## KFSB50929-E

システムコールでエラーが発生しました。システムコール名 = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc, 詳細コード 3 = dd....dd, 詳細コード 4 = ee....ee

An error occurred in a system call. system call name = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc, detail code 3 = dd....dd, detail code 4 = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

システムコールでエラーが発生しました。

aa....aa : システムコール名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージを参照して対策してください。直前にメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB50930-E

XDB 連携処理で障害が発生しました。機能名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, dispo = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

An error occurred in the XDB linkage processing. feature name = aa....aa, reason code = bb....bb, dispo = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (2) (NOS)

XDB 連携処理中に障害が発生しました。

**aa....aa**：障害の発生した動作

START：トランザクション開始通知

REPORT：更新ログサイズ取得要求

COMMIT：コミット指示

ROLLBACK：ロールバック指示

UPDATE：更新ログ反映指示

**bb....bb**：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cc....cc**：処理種別

process down：プロセスダウン

force：処理を続行

**dd....dd**：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理種別の結果として出力された処理が行われます。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	XDB アクセス処理でエラーが発生しました。	このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されていれば、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。
0002	メモリが不足しています。	メモリ関連定義の <code>udp_send_message_buf_cnt</code> オペランドの指定値、または XTC 用ワーク領域 (XTCPOOL) に関連する定義を見直し、再実行してください。
9000~9999	内部矛盾が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB50950-E

履歴情報表の障害を検知しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 履歴情報表名 = bb....bb, 障害種別 = cc....cc, 理由コード = dd....dd, 詳細コード = ee....ee

An error in the log information table was detected. UAP log information group name = aa....aa, log information table name = bb....bb, error type = cc....cc, reason code = dd....dd, detail code = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

UAP 履歴情報取得機能による開始または終了時の表構成確認処理で、履歴情報表の障害を検知しました。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : 履歴情報表名

cc....cc : 障害種別

DCT : 閉塞中

ERR : 障害中

dd....dd : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。該当する履歴情報表が現用、切替中、障害でない場合は、閉塞中または障害中状態にします。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	閉塞状態のためアクセスできません。	TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して、対策してください。
0002	SQL エラーとなりました。	このメッセージより前に出力されているメッセージに従って対策してください。
0003	行数不一致による障害状態です。	TP1/FSP の eeaphtblh コマンドで履歴情報表を再作成してください。
0004	表が存在しない、または列構成が不正です。	
0005	その他の要因による障害状態です。	

## KFSB50951-E

開始時の表構成確認処理でエラーを検知しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

An error was detected when confirming table structure at startup. UAP log information group name = aa....aa, reason code = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

UAP 履歴情報取得機能による開始時の表構成確認処理で、エラーを検知しました。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)TP1/FSP のトランザクション関連定義の tm\_aph\_start\_err\_down オペランドの指定に従います。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	リソースマネージャと接続していません。	リソースマネージャの状態を確認してください。リソースマネージャが起動している場合は、リソースマネージャが出力するメッセージログファイルを参照してください。リソースマネージャの障害を取り除いたあとに、TP1/EE を再起動してください。
0002	使用できる履歴情報表数が、TP1/FSP のトランザクション関連定義の <code>trn_aph_table_min_count</code> オペランドで指定した値を満たしていません。	使用できる履歴情報表数を確保したあとに、TP1/EE を再起動してください。
0003	最大履歴情報長が、TP1/FSP のトランザクション関連定義の <code>tmaphgroup</code> 定義コマンドの <code>-z</code> オプションで指定した値を超えています。	次のどちらかの対策をしたあとに、TP1/EE を再起動してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>TP1/FSP のトランザクション関連定義の <code>tmaphgroup</code> 定義コマンドの <code>-z</code> オプションに、最大履歴情報長以上の値を指定してください。</li> <li>TP1/FSP の <code>eeaphgrph</code> コマンドでグループ管理表を再作成してください。</li> </ul>
0101	現用管理部情報の取得に失敗しました。	このメッセージより前に出力されているメッセージに従って対策したあとに、TP1/EE を再起動してください。
0102	表状態の取得に失敗しました。	
0201	グループ管理表が存在しません。	次のどちらかの対策をしたあとに、TP1/EE を再起動してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>TP1/FSP のトランザクション関連定義の <code>tmaphgroup</code> 定義コマンドの <code>-u</code> オプションの指定値を見直してください。</li> <li>TP1/FSP の <code>eeaphgrph</code> コマンドでグループ管理表を再作成してください。</li> </ul>
0202	グループ管理表の表構造が正しくありません。	
0203	グループ管理表の列構造が正しくありません。	
0204	グループ管理表の行数が正しくありません。	
0205	グループ管理表のバージョンが正しくありません。	
0206	グループ管理表が完成していません。	
0207	グループ管理表の登録先グループ名が正しくありません。	
0208	グループ管理表の注釈が正しくありません。	
0209	グループ管理表の格納データが正しくありません。	
0210	グループ管理表を格納している RD エリアが、閉塞などの障害のためアクセスできません。	
0211	プロセス管理部に対応するノード識別子がありません。	次のどれかの対策をしたあとに、TP1/EE を再起動してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>RPC 関連定義の <code>node_id</code> オペランドの指定値を見直してください。</li> </ul>

理由コード	意味	対策
0211	プロセス管理部に対応するノード識別子がありません。	<ul style="list-style-type: none"> <li>TP1/FSP の eeaphgrph コマンドの -n オプションに自プロセスのノード識別子を指定して、グループ管理表を再作成してください。</li> <li>TP1/FSP の eeaphmodh コマンドで、該当する TP1/EE のノード識別子を追加してください。</li> </ul>
0212	グループ管理表で SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されているメッセージに従って対策したあとに、TP1/EE を再起動してください。
0301	通番割り当てルーチンの疎通確認に失敗しました。	TP1/FSP の eeaphgrph コマンドでグループ管理表を再作成したあとに、TP1/EE を再起動してください。
0302	スワップ前処理ルーチンの疎通確認に失敗しました。	
0303	スワップ後処理ルーチンの疎通確認に失敗しました。	
0304	ストアドルーチンを格納している RD エリアが、閉塞などの障害のためアクセスできません。	RD エリアの状態を確認し、障害を回復したあとに、TP1/EE を再起動してください。
0305	ストアドルーチンで SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されているメッセージに従って対策したあとに、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB50952-E

開始時の起動情報設定処理でエラーを検知しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

An error was detected when startup information was being set at startup. UAP log information group name = aa....aa, reason code = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

UAP 履歴情報取得機能による開始時の起動情報設定処理で、エラーを検知しました。

**aa....aa** : UAP 履歴情報グループ名

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)TP1/FSP のトランザクション関連定義の `trn_aph_start_err_down` オペランドの指定に従い、プロセスダウンまたは [KFSB50955-E](#) メッセージを出力し、該当する UAP 履歴情報グループを使用不可として処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。



【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	リソースマネージャと接続していません。	リソースマネージャの状態を確認してください。リソースマネージャが起動している場合は、リソースマネージャが出力するメッセージログファイルを参照してください。リソースマネージャの障害を取り除いたあとに、TP1/EE を再起動してください。
0002	プロセス管理部に対応するノード識別子がありません。	次のどれかの対策をしたあとに、TP1/EE を再起動してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>RPC 関連定義の node_id オペランドの指定値を見直してください。</li> <li>TP1/FSP の eeaphgrph コマンドの -n オプションに自プロセスのノード識別子を指定して、グループ管理表を再作成してください。</li> <li>TP1/FSP の eaphmodh コマンドで該当する TP1/EE のノード識別子を追加してください。</li> </ul>
0003	正常終了（オンライン間共用機能を使用している場合はすべての TP1/EE が正常終了）したあとの正常開始ですが、現用表が存在します。	TP1/FSP の eeaphchgh コマンドで現用の履歴情報表の状態を使用済みに変更したあと、TP1/EE を再起動してください。
0008	現用管理部または履歴情報管理部の現用情報が壊れています。	TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して、対策してください。対策できないときは、保守員に連絡してください。
0010	使用済み情報の設定処理で履歴情報表の管理部の破壊を検知しました。	TP1/FSP の eeaphtblh コマンドで履歴情報表を再作成してください。
0101	現用管理部情報の取得に失敗しました。	このメッセージより前に出力されているメッセージに従って対策したあとに、TP1/EE を再起動してください。
0102	表状態の取得に失敗しました。	
0103	プロセス状態の取得に失敗しました。	
0104	起動情報の設定に失敗しました。	
0105	閉塞／障害情報の設定に失敗しました。	
0106	使用済み情報の設定に失敗しました。	
0107	グループ管理部の排他解放に失敗しました。	
0108	現用情報の設定に失敗しました。	
0109	現用管理部または履歴情報管理部の現用情報の修復に失敗しました。	
0110	現用管理部の排他解放に失敗しました。	
0111	メモリ通番情報の更新に失敗しました。	
0301	コミットに失敗しました。	



## KFSB50953-E

計画停止処理で履歴情報表のスワップに失敗しました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 履歴情報表名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc

Swapping of the log information table failed during planned termination processing. UAP log information group name = aa....aa, log information table name = bb....bb, reason code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

UAP履歴情報取得機能による計画停止処理で、履歴情報表のスワップに失敗しました。

aa....aa : UAP履歴情報グループ名

bb....bb : スワップ先履歴情報表名

スワップ先となる履歴情報表が決定できなかった場合は、\*を表示します。

cc....cc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 次回 TP1/EE を起動するまでに、理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	未使用の履歴情報表が存在しませんでした。	未使用の履歴情報表を確保してください。 現用表の決定は次回の TP1/EE 起動時に行います。
0002	テストモードを適用していますが、未使用および使用済みの履歴情報表が存在しませんでした。	
0101	現用管理部情報の取得に失敗しました。	このメッセージより前に出力されているメッセージに従って対策してください。 現用表の決定は次回の TP1/EE 起動時に行います。
0102	表状態の取得に失敗しました。	
0103	現用情報の更新に失敗しました。	
0104	閉塞/障害情報の設定に失敗しました。	
0105	使用済み情報の設定に失敗しました。	このメッセージより前に出力されているメッセージに従って対策してください。 また、TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して、対策してください。

## KFSB50954-E

終了時の終了情報設定処理でエラーを検知しました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

An error was detected when termination information was being set at termination. UAP log information group name = aa....aa, reason code = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

UAP 履歴情報取得機能による終了時の終了情報設定処理でエラーを検知しました。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)終了処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 次回 TP1/EE を起動するまでに、理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	リソースマネージャと接続していません。	リソースマネージャの状態を確認してください。リソースマネージャが起動している場合は、リソースマネージャが出力するメッセージログファイルを参照してください。リソースマネージャの障害を取り除いてください。
0002	現用管理部または履歴情報管理部の現用情報が壊れています。	TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して、対策してください。対策できないときは、保守員に連絡してください。
0003	使用済み情報の設定処理で履歴情報表の管理部の破壊を検知しました。	TP1/FSP の eeaphtblh コマンドで履歴情報表を再作成してください。
0004	終了情報の設定処理が、TP1/FSP のトランザクション関連定義の trn_apl_end_watch_time オペランドで指定した監視時間を超えても完了しなかったため、終了情報の設定ができませんでした。	TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して、対策してください。
0005	オンライン中に仕掛かっていたスワップの後処理に失敗しました。	対策はありません。
0101	現用管理部情報の取得に失敗しました。	
0102	表状態の取得に失敗しました。	
0103	プロセス状態の取得に失敗しました。	
0104	使用済み情報の設定に失敗しました。	TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して、対策してください。
0105	終了情報の設定に失敗しました。	対策はありません。
0106	予約通番の返却に失敗しました。	
0201	EOO の書き込み時の通番取得に失敗しました。	
0202	EOO の書き込みに失敗しました。	
0203	EOF の書き込み時の通番取得に失敗しました。	
0204	EOF の書き込みに失敗しました。	

理由コード	意味	対策
0205	現用管理部の排他解放に失敗しました。	対策はありません。
0206	グループ管理部の排他解放に失敗しました。	
0301	EOO/EOFの書き込み処理でコミットに失敗しました。	
0302	終了情報設定処理でコミットに失敗しました。	TP1/FSPの関連ドキュメントを参照して、対策してください。

## KFSB50955-E

UAP履歴情報グループで継続不可の障害を検知しました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 詳細コード = bb...bb

An error was detected that prevents the UAP log information group from continuing. UAP log information group name = aa....aa, detail code = bb...bb (E+P+L) (2) (SUP)

UAP履歴情報取得機能での表へのアクセスで、継続できない障害を検知しました。

**aa....aa** : UAP履歴情報グループ名

**bb...bb** : TP1/EEがトラブルシュートで使用する情報

(S)障害となったUAP履歴情報グループ下の表を使用不可状態として処理を続行します。

終了要求があった場合、表の状態変更やプロセス状態の変更を行わずに終了します。

(O)OpenTP1管理者に連絡してください。

**[対策]** このメッセージより前に出力されているメッセージを参照して、対策してください。

また、必要があれば、TP1/EE終了後、TP1/FSPの関連ドキュメントを参照して対策してください。

## KFSB50956-E

UAP履歴情報取得機能で処理キューの登録に失敗しました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 処理種別 = bb...bb, 理由コード = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

Registration of the processing queue in the UAP log information acquisition function has failed. UAP log information group name = aa....aa, processing type = bb...bb, reason code = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

UAP履歴情報取得機能による開始処理、または終了処理で処理キュー登録に失敗しました。

**aa....aa** : UAP履歴情報グループ名

**bb...bb** : 処理種別

PROCESS\_START1 : 開始処理 1 (表構造確認)

PROCESS\_START2 : 開始処理 2 (起動情報の設定)

PROCESS\_END：終了処理（終了情報の設定）

cc....cc：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理種別が PROCESS\_START1，または PROCESS\_START2 の場合は，TP1/FSP のトランザクション関連定義の trn\_aph\_start\_err\_down オペランドの指定に従い，プロセスダウンまたは KFSB50955-E メッセージを出力し，該当する UAP 履歴情報グループを使用不可として処理を続行します。処理種別が PROCESS\_END の場合は，処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0000	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。
0001	PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して，再実行してください。

## KFSB50957-E

履歴情報表のスワップに失敗しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa，履歴情報表名 = bb....bb，理由コード = cccc

An attempt to swap the log information table failed. UAP log information group name = aa....aa, log information table name = bb....bb, reason code = cccc (E+P+L) (3) (SUP)

履歴情報表のスワップに失敗しました。

aa....aa：UAP 履歴情報グループ名

bb....bb：スワップ元履歴情報表名

cccc：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)TP1/FSP のトランザクション関連定義の trn\_aph\_swap\_err\_down オペランドの指定に従い，プロセスダウンまたはロールバックして処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	スワップ先の履歴情報表がありません。	TP1/FSP の eeaphlsh コマンドで -t オプションを指定して，履歴情報表の状態を確認してください。

理由コード	意味	対策
0001	スワップ先の履歴情報表がありません。	未使用にできる表があるときは、TP1/FSP の eeaphchgh コマンドで、未使用の履歴情報表を確保してください。

## KFSB50958-E

未使用の履歴情報表数が監視対象数を満たしていません。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 未使用表数 = bb....bb, 監視対象数 = cc....cc

The number of unused log information tables is less than the number of monitoring targets.  
UAP log information group name = aa....aa, number of unused tables = bb....bb, number of monitoring targets = cc....cc (E+P+L) (1) (SUP)

UAP 履歴情報取得機能による表の空き監視で、未使用の履歴情報表数が監視対象数未満であることを検知しました。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : 未使用の履歴情報表の合計数

cc....cc : TP1/FSP のトランザクション関連定義の trn\_aph\_no\_use\_table\_count オペランドで指定した監視対象数

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/FSP の eeaphlsh コマンドで -t オプションを指定して履歴情報表の状態を確認し、TP1/FSP の eeaphchgh コマンドで、UAP 履歴情報グループ内の未使用状態の履歴情報表を監視対象数確保してください。

## KFSB50959-E

履歴情報表のスワップに失敗しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
An attempt to swap the log information table failed. UAP log information group name = aa....aa, reason code = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)

運用コマンド処理で、履歴情報表のスワップ処理に失敗しました。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を続行します。スワップ処理を途中まで実行していた場合は、以降の UAP 履歴情報の取得要求 (TP1/FSP の ee\_trn\_uap\_put 関数) や終了時に、スワップ処理を継続して行うことがあります。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0003	SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されているメッセージに従って対策してください。
0004	表不正です。	
0010	その他のエラーが発生しました。	

## KFSB50960-E

表の構造不正を検知しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 対象 = bb....bb, 表名 = cc....cc, 理由コード = dddd, 詳細コード = ee....ee

A table structure error was detected. UAP log information group name = aa....aa, object = bb....bb, table name = cc....cc, reason code = dddd, detail code = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

UAP 履歴情報取得機能で使用する表の構造不正を検知しました。

**aa....aa** : UAP 履歴情報グループ名

UAP 履歴情報グループ名が不明な場合は, \*を表示します。

**bb....bb** : 処理の対象

0001 : グループ管理表

0002 : 履歴情報表

0003 : 通番割り当てルーチン

0004 : スワップ前処理ルーチン

0005 : スワップ後処理ルーチン

**cc....cc** : グループ管理表, 履歴情報表の表名, またはストアドルーチン名

**dddd** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**ee....ee** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)実行中の処理に従って対処します。

開始処理の場合

TP1/FSP のトランザクション関連定義の trn\_apl\_start\_err\_down オペランドの指定値に従い, 処理を続行します。

終了処理の場合

処理を続行します。

## UAP 履歴情報取得処理の場合

- 処理対象が履歴情報表のとき  
障害によるスワップが発生します。
- 処理対象が履歴情報表以外のとき  
TP1/FSP のトランザクション関連定義の trn\_aph\_online\_err\_down オペランドの指定値に従い、処理を続行します。

上記以外の処理（TP1/FSP の eeaphswap コマンド含む）の場合  
処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0302	表に格納されている値が不正です。	保守員に連絡してください。

## KFSB50962-E

履歴情報表の監視を実行できません。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
The log information table cannot be monitored. UAP log information group name = aa....aa,  
reason code = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)

UAP 履歴情報取得機能による履歴情報表数の空き監視, およびスワップ完了監視を実行できません。

**aa....aa** : UAP 履歴情報グループ名

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)10 秒間隔で監視処理をリトライします。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	xa_open 関数の実行に失敗しました。	このメッセージより前に出力されている KFSB50919-E メッセージに従って対策してください。
0101	履歴情報表の状態取得に失敗しました。	履歴情報表数の空き監視およびスワップ完了監視を有効にしたい場合は, このメッセージより前に出力されているメッセージに従って対策してください。



## KFSB50963-E

メモリ通番の仮予約および同期に失敗しました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

Advance reservation and synchronization of memory sequence number failed. UAP log information group name = aa....aa, reason code = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)

UAP履歴情報メモリ機能での通番仮予約および通番同期に失敗しました。

**aa....aa** : UAP履歴情報グループ名

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)1秒間隔で通番仮予約および通番同期をリトライします。

リトライ後に通番仮予約および通番同期が成功した場合は、KFSB80960-Iメッセージを出力します。

(O)OpenTP1管理者に連絡してください。

**【対策】**理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	xa_open に失敗しました	以前に出力された KFSB50919-E メッセージに従って対策してください。
0101	グループ管理表の更新に失敗しました	以前に出力されたメッセージに従って対策してください。

## KFSB50964-E

プロセス終了情報の設定に失敗しました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

Setting of process termination information failed. UAP log information group name = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (1) (SUP)

UAP履歴情報取得機能による終了時のプロセス終了情報の設定に失敗しました。

**aa....aa** : UAP履歴情報グループ名

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1管理者に連絡してください。

**【対策】**TP1/FSPの関連ドキュメントを参照して対策してください。



## KFSB50965-E

UAP履歴情報取得処理中にエラーが発生しました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred during UAP log information acquisition processing. UAP log information group name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

UAP履歴情報取得処理中にエラーが発生しました。

**aa....aa** : UAP履歴情報グループ名

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	継続できない SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されているメッセージに従って対策してください。
9999	その他のエラーが発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB50966-E

スワップ完了監視で履歴情報表の障害を検知しました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 履歴情報表名 = bb....bb, 障害種別 = cc....cc

An error in the log information table was detected during swap completion monitoring processing. UAP log information group name = aa....aa, log information table name = bb....bb, error type = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

UAP履歴情報取得機能によるスワップ完了監視処理で、履歴情報表の障害を検知しました。

**aa....aa** : UAP履歴情報グループ名

**bb....bb** : 履歴情報表名

**cc....cc** : 障害種別

障害種別の意味と対策を表に示します。

(S)該当する履歴情報表を障害種別に示す状態に変更して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 障害種別一覧を見て対策してください。

障害種別	意味	対策
DCT	閉塞中です。閉塞状態のためアクセスできません。	TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して対策してください。
ERR	障害中です。表が存在しないか、または表の構造不正を検知しました。	TP1/FSP の eeaphtblh コマンドで履歴情報表を再作成してください。

## KFSB50967-E

未使用の履歴情報表数が必要最小数を満たしていません。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, モード種別 = bb....bb, 未使用表数 = cc....cc, 必要最小数 = dd....dd

The number of unused log information tables is less than necessary minimum number. UAP log information group name = aa....aa, mode type = bb....bb, number of unused tables = cc....cc, necessary minimum number = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

UAP 履歴情報取得機能による開始処理で、未使用の履歴情報表数が最小数に満たないことを検知しました。モード種別がテストモードの場合は、使用済みの履歴情報表も未使用としてカウントします。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : モード種別

NORMAL : 通常モード

TEST : テストモード

cc....cc : 未使用の履歴情報表の合計数 (モード種別がテストモードの場合は使用済みの履歴情報表数を含む)

dd....dd : 必要最小数

モード種別が通常モードの場合 : TP1/FSP のトランザクション関連定義の trn\_aph\_no\_use\_table\_min\_count オペランドで指定した最小数

モード種別がテストモードの場合 : 1

(S)TP1/FSP のトランザクション関連定義の trn\_aph\_start\_err\_down オペランドの指定に従い、プロセスダウンまたは [KFSB50955-E](#) メッセージを出力し、該当する UAP 履歴情報グループを使用不可として処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 次のどちらかの対策をしたあとに、TP1/EE を再起動してください。

- TP1/FSP の eeaphlsh コマンドで -t オプションを指定して履歴情報表の状態を確認し、TP1/FSP の eeaphchgh コマンドで、UAP 履歴情報グループ内の未使用状態の履歴情報表を必要最小数確保してください。

- モード種別が通常モードの場合は、TP1/FSP のトランザクション関連定義の `trn_aph_no_use_table_min_count` オペランドの指定値を確認してください。

## KFSB50968-E

テストモードの指定が現用表を決定したプロセスと異なります。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 指定モード種別 = bb....bb, 現用モード種別 = cc....cc

The specification of test mode is different from the process who determined the current table. UAP log information group name = aa....aa, specified mode type = bb....bb, current mode type = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

UAP 履歴情報取得機能による開始処理で、環境変数 `EEPARM1` で指定したテストモードがすでに現用表を決定したプロセスの指定と異なることを検知しました。

**aa....aa** : UAP 履歴情報グループ名

**bb....bb** : 指定したモード種別

NORMAL : 通常モード

TEST : テストモード

**cc....cc** : 現用表を決定したプロセスのモード種別

NORMAL : 通常モード

TEST : テストモード

(S)TP1/FSP のトランザクション関連定義の `trn_aph_start_err_down` オペランドの指定に従い、プロセスダウンまたは [KFSB50955-E](#) メッセージを出力し、該当する UAP 履歴情報グループを使用不可として処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 環境変数 `EEPARM1` で指定するテストモードを、すでに現用表を決定したプロセスのテストモードと同一にしたあとに、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB50969-E

切替中の履歴情報表の状態を変更できませんでした。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 切替中表数 = bb....bb, 要因種別 = cc....cc

The status of the log information table being switched was not changed. UAP log information group name = aa....aa, number of switched tables = bb....bb, factor type = cc....cc (E+P+L) (1) (SUP)

UAP 履歴情報取得機能による終了処理で、切り替え中の履歴情報表を使用済みまたは未使用に変更できませんでした。

**aa....aa** : UAP 履歴情報グループ名

**bb....bb** : 切り替え中の履歴情報表の合計数

要因種別が ACCESS\_ERR の場合は、\*を表示します。

**cc....cc** : 要因種別

SWAP\_WATCH : スワップ完了監視で表状態を変更できませんでした。

ACCESS\_ERR : 履歴情報表の表状態を取得できませんでした。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/FSP の eeaphlsh コマンドで -t オプションを指定して切り替え中の表の存在を確認したあと、TP1/FSP の eeaphchgh コマンドで切り替え中の履歴情報表を使用済みに変更してください。切り替え中の表がない場合は対策不要です。

## KFSB50970-E

SQL 実行時にエラーが発生しました。SQL 種別 = aa....aa, RM = bb....bb, DBMS メッセージ = cc....cc, SQL CODE = dd....dd, 詳細コード = ee....ee

An error occurred during SQL execution. cmd = aa....aa, RM = bb....bb, DBMS message = cc....cc, SQLCODE = dd....dd, detail code = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

SQL 実行時にエラーが発生しました。

**aa....aa** : SQL 要求種別

CONNECT : 接続要求

COMMIT : コミット要求

ROLLBACK : ロールバック要求

**bb....bb** : リソースマネージャ名 (リソースマネージャ拡張子を含む)

**cc....cc** : DBMS のエラーメッセージ

DBMS のエラーメッセージがない場合は、\*を表示します。

**dd....dd** : SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

DBMS のエラーメッセージとして\*が表示されたときは、接続ハンドルの割り当て (ALLOCATE CONNECTION HANDLE) のリターンコードを表示します。

**ee....ee** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)SQL 要求種別が CONNECT の場合、トランザクション関連定義の trn\_wait\_rm\_open オペランドの指定に従います。SQL 要求種別が CONNECT 以外の場合、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージで出力された DBMS メッセージ，および SQLCODE を基に障害を取り除いてください。

SQL 要求種別が CONNECT の場合，次の項目についても確認してください。

- リソースマネージャとの接続数に問題がないか。
- トランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドで指定する xa\_open 関数用文字列に誤りがないか。

## KFSB50971-E

UAP 履歴情報ファイル出力機能で障害が発生しました。理由コード = aaaa，ファイル名 = bb....bb，詳細コード = cc....cc

An error occurred while UAP log information file was being output. reason code = aaaa, file name = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

UAP 履歴情報ファイル出力機能で障害が発生しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : ファイル名

理由コードが 0001~0004 の場合は，ディレクトリ名を表示します。その他の理由コードの場合は，ファイル名を表示します。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)理由コードが 0001~0004 の場合，UAP 履歴情報ファイル出力機能を無効にして処理を続行します。その他の理由コードの場合，処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ディレクトリの作成に失敗しました (mkdir エラー)。	ディスク容量の不足，ディレクトリへのファイル作成権限があるか，またはファイルシステムに異常がないかを確認してください。
0002	ディレクトリの作成に失敗しました (stat エラー)。	
0003	ディレクトリのオープンに失敗しました (opendir エラー)。	
0004	ディレクトリエントリの取得に失敗しました (readdir_r エラー)。	
0005	ファイル状態の取得に失敗しました (stat エラー)。	
0010	ファイルのオープンに失敗しました (open エラー)。	ディスク容量の不足，ファイルディスクリプタの不足，ファイルの作成権限があるか，またはファイルシステムに異常がないかを確認してください。
0011	ファイルの書き込みに失敗しました (writev エラー)。	

理由コード	意味	対策
0012	ファイルの書き込みに失敗しました (lseek エラー)。	ディスク容量の不足, ファイルディスクリプタの不足, ファイルの作成権限があるか, またはファイルシステムに異常がないかを確認してください。
0100	ファイルのクローズに失敗しました (close エラー)。	

## KFSB50972-E

HiRDB ライブラリのローディングに失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc

Failed to load the HiRDB library. reason code = aaaa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

HiRDB ライブラリルーチンのローディングに失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ライブラリのオープンに失敗しました。	HiRDB ライブラリが TP1/FSP の前提バージョンを満たしているかを確認してください。 直前に <a href="#">KFSB40107-E</a> メッセージが出力されている場合は, エラーコード, およびダイナミックローディングモジュールのシステムコールがエラーリターンしたときのエラー内容を参照して原因を取り除いてください。 メッセージが出力されていない場合は, 保守員に連絡してください。
0002	ライブラリルーチンのアドレス取得に失敗しました。	

## KFSB50974-E

UAP 履歴情報の強制取得処理中にエラーが発生しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 履歴情報表名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

An error occurred during UAP log information forced acquisition processing. UAP log information group name = aa...aa, log information table name = bb...bb, reason code = cc...cc, detail code = dd...dd (E+P+L) (2) (SUP)

UAP 履歴情報の強制取得処理中にエラーが発生しました。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : 履歴情報表名

cc....cc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : 詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	SQL エラーです。	このメッセージより前に出力されているメッセージに従って対策してください。
0002	強制取得要求受付後に履歴情報表の状態が更新されています。	履歴情報表の状態を確認してください。
0003	一部の履歴情報の取得に失敗しました。	

## KFSB51000-E

ステータスファイルの初期化に失敗しました。物理ファイル名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

An attempt to initialize a status file has failed. physical file name = aa....aa, reason code = bbbb (E+P+L) (3) (SUP)

ステータスファイルの初期化に失敗しました。

aa....aa : ステータス物理ファイル名 (14 文字以内の英数字)

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	レコード入出力エラーを検知しました。	以前に出力されたメッセージに従って対策してください。



理由コード	意味	対策
0002	レコード数が不足しました。	必要なレコード数を eestsinit コマンドで指定してファイルを初期設定してください。

## KFSB51001-E

バッファを確保できません。要求サイズ = aa....aa  
 Buffers could not be allocated. request size = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

ステータスファイル作業用のバッファ領域の確保に失敗しました。

aa....aa : 要求サイズ (単位: バイト)

(S)初期化処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの指定値を見直して、再起動してください。

## KFSB51002-E

ステータスファイルのスタック用バッファが不足しました。バッファ数 = aa....aa  
 Buffers for stacking status files have become insufficient. number of buffers = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

ステータスファイルのスタックに必要なバッファ数がステータスファイル関連定義の sts\_buffer\_count オペランドで指定した値を超えました。

aa....aa : 必要なバッファ数

(S)初期化処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** ステータスファイル関連定義の sts\_buffer\_count オペランドに、必要なバッファ数以上の値を指定して、再起動してください。

## KFSB51003-E

最新の情報を持つステータスファイルで異常が発生しました。物理ファイル名 = aa....aa, 理由コード = bbbb  
 An error has occurred in the last updated status file. physical file name = aa....aa, reason code = bbbb (E+P+L) (3) (SUP)

最新の情報を持つステータスファイルで異常が発生しました。



aa....aa：異常が発生したステータス物理ファイル名（14文字以内の英数字）

bbbb：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)理由コードまたは障害状況に従って処理します。

理由コードが 0006 の場合

ファイルの障害を回復して、処理を続行します。

理由コードが 0006 以外の場合

予備ステータスファイルがある場合は、スワップ処理をします。

予備ステータスファイルがない場合は、開始処理を中止し、障害が発生したファイルを閉塞状態にします。

A系、B系の両方のファイルで障害が発生した場合

開始処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	A系、B系のファイルのレコード数が不一致です。	レコード数を正常な系と一致させて、eestsinit コマンドで初期設定してください。
0002	A系、B系のファイルのレコード数が不一致で、さらに、データの異常を検知しました。	A系、B系のファイルのレコード数を一致させて、eestsinit コマンドで初期設定してください。
0004	A系、B系の両方のファイルで、レコード更新の不正を検知しました。	A系、B系の両方のファイルを eestsinit コマンドで初期設定してください。
0005	レコードの入出力エラーを検知しました。	以前に出力されたメッセージに従って対策してください。
0006	ファイルの更新未完了を検知しました。	対策の必要はありません。ただし、A系、B系の両方のファイルで障害が発生した場合は、障害が発生したファイルを eestsinit コマンドで初期設定してください。

## KFSB51004-E

ステータス物理ファイルでエラーが発生しました。処理種別 = aa....aa, 物理ファイル名 = bb...bb, 理由コード = cccc, 詳細コード 1 = dd....dd, 詳細コード 2 = ee....ee, 詳細コード 3 = ff....ff, 詳細コード 4 = gg....gg, 詳細コード 5 = hh....hh, 詳細コード 6 = ii....ii

An error has occurred in a physical status file. processing type = aa....aa, physical file name = bb....bb, reason code = cccc, detail code 1 = dd....dd, detail code 2 = ee....ee, detail code 3 = ff....ff, detail code 4 = gg....gg, detail code 5 = hh....hh, detail code 6 = ii....ii (E+P+L, E) (3) (NOS)

ステータス物理ファイルで障害が発生しました。

**aa....aa**：処理種別

- create：ファイルの作成
- fstat：ファイルの状態報告
- open：ファイルのオープン
- close：ファイルのクローズ
- read：レコードの入力
- write：レコードの出力
- logical：レコードの整合性不正
- filecheck：ファイルの妥当性チェック
- clsdel：ファイルの削除

**bb....bb**：障害が発生したステータス物理ファイル名（14文字以内の英数字）

**cccc**：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**dd....dd**：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**ee....ee**：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**ff....ff**：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**gg....gg**：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**hh....hh**：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**ii....ii**：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)該当するファイルが制御用ステータスファイルで、予備ファイルがある場合は、スワップ処理をします。予備ファイルがない場合は、障害が発生したファイルを閉塞状態にして、処理を続行します。該当するファイルがシグナル用ステータスファイルの場合は、障害が発生したファイルを閉塞状態にして、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ステータスレコードの整合性が不正です（番号不一致エラー）。	該当するファイルを eestsinit コマンドで初期設定してください。
0004	TP1EE ファイルシステムの障害です。	直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って原因を取り除いてください。出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
0006	該当するファイルがステータスファイルとして定義されていません。	該当するファイルを eestsinit コマンドで初期設定してください。
0008	定義したファイルとファイル実体とで、レコード長、レコード数が不一致です。	該当するファイルを eestsinit コマンドで初期設定してください。
0009	ステータスファイル管理レコード (STR) 内のデータプロトコルのバージョンが不正です。	該当するファイルを eestsinit コマンドで初期設定してください。
0020	TP1EE ファイルシステムに対して、アクセス権限がありません。	TP1EE ファイルシステムに対するアクセス権限を付加してください。
0021	ステータスファイルに対して、アクセス権限がありません。	ステータスファイルに対するアクセス権限を付加してください。
0022	排他エラーが発生しました。	ステータスファイルがほかのプロセスで使用されていないかどうか確認してください。
0023	ロックセグメントが不足しています。	ステータスファイルの環境を見直してください。
0024	ステータスファイルがすでに存在します。	ステータスファイル名を見直してください。
0025	TP1EE ファイル数が上限値を超えました。	eefilmkfs コマンドの指定値を見直してください。
0026	TP1EE ファイルシステム用に初期化されていません。	eefilmkfs コマンドで初期化してください。
0027	入出力エラーが発生しました。	障害の発生したファイルを eestsinit コマンドで初期設定してください。
0028	メモリが不足しています。	プロセスが動作できるメモリを確保してください。
0029	ステータスファイルがありません。	eestsinit コマンドで初期設定してください。または、ステータスファイル関連定義を見直してください。
0030	オープンできるファイル数を超えました。	プロセス関連定義の max_descriptors オペランド、または OS のファイルシステムパラメータを見直してください。
0031	ステータスファイル名が不正です。	ステータスファイル関連定義を見直してください。
0037	TP1EE ファイルシステムが不正です。	以前に出力されたメッセージを参照して対策してください。メッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。
0038	TP1EE ファイルシステムの空き領域が不足しています。	eefilmkfs コマンドの設定値を見直してください。
0039	TP1EE ファイルシステムのバージョンが不一致です。	TP1EE ファイルシステムを作成するバージョンを合わせてください。
0040	TP1EE ファイルシステムの総数を超えました。	プロセス関連定義の fil_filesystem_no オペランドを見直してください。

## KFSB51005-E

エラーが発生したステータス物理ファイルをクローズ後、閉塞状態にします。物理ファイル名 = aa....aa  
The physical status file in which an error occurred will enter the shutdown state when it is closed. physical file name = aa....aa (E+P+L, E) (3) (NOS)

障害が発生したステータス物理ファイルをクローズし、閉塞します。

aa....aa : 障害が発生したステータス物理ファイル名 (14 文字以内の英数字)

(S)処理を続行します。

(O)該当するファイルが制御用ステータスファイルの場合は、障害が発生したファイルを回復し、予備ファイルにしてください。該当するファイルがシグナル用ステータスファイルの場合は、障害が発生したファイルを回復してください。

【対策】 なし。

## KFSB51006-E

現用ステータスファイルがなくなったため、今後ステータスファイルは使用できません。グループ番号 = aa....aa  
A status file cannot be used in the future because the current status file has been lost. group number = aa....aa (E+P+L, E) (3) (NOS)

現用ステータスファイルがなくなりました。今後は該当するグループのステータスファイルを使用できません。

aa....aa : 該当するファイルグループ番号

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB51007-E

現用ファイルが確定できません。グループ番号 = aa....aa, 論理ファイル名 = bb....bb  
The current status file cannot be determined. group number = aa....aa, logical file name = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)

ステータスファイル関連定義の sts\_initial\_error\_switch オペランドに continue の指定があり、現用ファイルが確定できません。オープンできたファイルの中から最新の情報を持つファイルを通知します。

aa....aa : 最新の情報を持つファイルのファイルグループ番号

bb....bb : 最新の情報を持つファイルのステータス論理ファイル名 (8文字以内の英数字)

(S)初期化処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** stsfgrp 定義コマンドの-l オプションに、前回までの最新の現用ステータス論理ファイル名を指定し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB51008-E

最新の情報を持つステータスファイルの片系に異常が発生しています。グループ番号 = aa....aa, 論理ファイル名 = bb....bb, 異常の発生した系 = c

An error has occurred in one system of the last updated status file. group number = aa....aa, logical file name = bb....bb, error system = c (E+P+L) (3) (SUP)

ステータスファイル関連定義の sts\_single\_operation\_switch オペランドに continue の指定があり、さらに最新の情報を持つ制御用ステータスファイルの片系に異常が発生しています。または、シグナル用ステータスファイルの片系に異常が発生しています。

aa....aa : 該当するファイルグループ番号

bb....bb : 該当するステータス論理ファイル名 (8文字以内の英数字)

c : 異常の発生した系 (A または B)

(S)該当するファイルが制御用ステータスファイルで、予備ファイルがある場合は、スワップ処理をします。予備ファイルがない場合は、障害が発生したファイルを閉塞状態にし、処理を続行します。該当するファイルがシグナル用ステータスファイルの場合は、障害が発生したファイルを閉塞状態にし、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 障害が発生したファイルを回復してください。

## KFSB51010-E

排他確保に失敗しました。グループ番号 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

An attempt to obtain a lock has failed. group number = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)

ステータスファイルの排他確保に失敗しました。

aa....aa : 該当するファイルグループ番号

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB51011-E

```
排他解放に失敗しました。グループ番号 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb  
An attempt to release a lock has failed. group number = aa....aa, detail code = bb....bb (E  
+P+L) (3) (SUP)
```

ステータスファイルの排他解放に失敗しました。

aa....aa : 該当するファイルグループ番号

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB51012-E

```
ステータス論理ファイルで容量不足エラーが発生しました。グループ番号 = aa....aa, 論理ファイル  
名 = bb....bb  
An space shortage error has occurred in a logical status file. group number = aa....aa, logical  
file name = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)
```

ステータス論理ファイルで、容量不足エラーが発生しました。

aa....aa : 該当するファイルグループ番号

bb....bb : 該当するステータス論理ファイル名 (8文字以内の英数字)

(S)ファイルを閉塞状態にします。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 ステータスファイルの容量を見直してください。

#### KFSB51013-E

```
現用ステータス論理ファイルが片系運転状態になりました。至急、対策してください。グループ番号  
= aa....aa, 論理ファイル名 = bb....bb, 正常系 = c
```

The current logical status file has entered the one-system operation state. Take action immediately. group number = aa....aa, logical file name = bb....bb, normal system = c (E+P+L, E) (2) (NOS)

ステータスファイルが、片系運転状態になりました。

aa....aa : 該当するファイルグループ番号

bb....bb : 該当するステータス論理ファイル名 (8文字以内の英数字)

c : 正常に動作している系 (A または B)

(S)処理を続行します。

(O)該当するファイルが制御用ステータスファイルの場合は、ステータスファイル関連定義の stsflgrp 定義コマンドに、正常に動作している系を指定し、次のどちらかを実行してください。

- 予備ファイルを用意し、eestsswap コマンドで現用ファイルを入れ替える。
- 該当するファイルを回復し、eestsopen コマンドでオープンして現用ファイルとして復帰させる。

該当するファイルがシグナル用ステータスファイルの場合は、ステータスファイル関連定義の stsflgrp 定義コマンドに、正常に動作している系を指定し、障害が発生したファイルを回復してください。

【対策】 なし。

## KFSB51020-E

ステータスファイルのスワップ処理でエラーが発生しました。グループ番号 = aa....aa, 理由コード = bbbb

An error has occurred during swap processing for a status file. group number = aa....aa, reason code = bbbb (E+P+L) (3) (SUP)

ステータスファイルのスワップ処理で障害が発生しました。

aa....aa : 該当するファイルグループ番号

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)スワップ処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	スワップ処理をできる予備ファイルがありません。	予備ファイルを用意してください。

理由コード	意味	対策
0002	ステータスファイルの管理レコードバッファリングエラーが発生しました。	直前に出力されているメッセージに従って、障害を取り除いてください。
0003	タイムスタンプの取得エラーが発生しました。	
0004	現用ファイルの状態エラーが発生しました。	ステータスファイル関連定義の指定を前回のオンライン時から変更した場合、制御用ステータスファイルを eestsinit コマンドで初期設定してください。 ステータスファイル関連定義の指定を変更していない場合、保守員に連絡してください。
0005	レコードの入出力エラーが発生しました。	直前に出力されているメッセージに従って、障害を取り除いてください。

## KFSB51021-E

予備のステータスファイルがありません。至急、対策してください。グループ番号 = aa....aa  
 No standby status file exists. Take action immediately. group number = aa....aa (E+P+L)  
 (2) (SUP)

予備のステータスファイルがありません。

aa....aa：該当するファイルグループ番号

(S)処理を続行します。

(O)予備のステータスファイルを用意してください。

【対策】なし。

## KFSB51022-E

シグナル用ステータスファイルのレコード数が不正です。レコード数 = aa....aa  
 The number of records in the signal status file is incorrect. number of records = aa....aa  
 (E+P+L) (3) (SUP)

シグナル用ステータスファイルのレコード数が不正です。

aa....aa：シグナル用ステータスファイルの作成時に指定できる最大レコード数

(S)初期化処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 eestsinit コマンドの -c オプションに最大レコード数以下の値を指定して、シグナル用ステータスファイルを初期設定し直してください。



## KFSB51050-E

ステータスファイルの状態表示に失敗しました。設定値 = aa....aa, 理由コード = bbbb  
An attempt to display the status file state has failed. specified value = aa....aa, reason code = bbbb (E+P+L) (3) (SUP)

ステータスファイル運用コマンドで、ステータスファイルの状態表示に失敗しました。

**aa....aa** : 該当するコマンドで指定した値

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S) 該当するファイルの処理を中止して、次の処理を実行します。

(O) 理由コード一覧を見て対策してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ファイルグループ番号が不正です。	正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。
0002	論理ファイル名が不正です。	
0003	物理ファイルのパス名が不正です。	

## KFSB51051-E

ステータスファイルのスワップ処理に失敗しました。グループ番号 = aa....aa, 理由コード = bbbb  
Swap processing for a status file has failed. group number = aa....aa, reason code = bbbb (E+P+L) (3) (SUP)

ステータスファイル運用コマンドで、ステータスファイルのスワップ処理に失敗しました。

**aa....aa** : 該当するファイルグループ番号

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S) 該当するファイルの処理を中止して、次の処理を実行します。

(O) 理由コード一覧を見て対策してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ファイルグループ番号が不正です。	正しいグループ番号を指定して、コマンドを再実行してください。

理由コード	意味	対策
0003	現用ファイルがありません。	正しいグループ番号を指定して、コマンドを再実行してください。
0004	スワップ先ファイルがありません。	以前に出力されたメッセージを参照して対策してください。
0005	スワップエラーが発生しました。	
0006	内部関数の処理が不正です。	保守員に連絡してください。
0007	片系運転状態ではありません。	正しいグループ番号を指定して、コマンドを再実行してください。

## KFSB51052-E

電文エラーを検知しました。詳細コード = aa....aa  
A message error was detected. detail code = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

ステータスファイル運用コマンドで、要求メッセージの障害を検知しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を中止し、次の処理を実行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB51053-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード = aa....aa  
An internal conflict has occurred. detail code = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

ステータスファイル運用コマンドで予期しない障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を中止し、次の処理を実行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB51054-E

ステータスファイルのオープンに失敗しました。理由コード = aaaa, ファイル名 = bb....bb  
An attempt to open a status file has failed. reason code = aaaa, file name = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)

ステータスファイル運用コマンド処理で、ステータスファイルのオープンに失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb...bb** : 該当するステータス論理ファイル名 (8 文字以内の英数字), またはステータス物理ファイルのパス名 (510 文字以内)

(S) 該当するファイルの処理を中止して、次の処理を実行します。

(O) 理由コード一覧を見て対策してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	論理ファイル名が不正です。	正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。
0002	物理ファイルのパス名が不正です。	
0003	シグナル用ステータスファイルは処理できません。	
0004	オープンエラーが発生しました。	以前に出力されたメッセージを参照して対策してください。
0005	ステータスファイル管理レコードの情報が不正です。	以前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って対策してください。または、コマンドに指定した引数を見直してください。原因が不明な場合は、ファイルを保存し、OpenTP1 管理者に連絡してください。
0006	現用ファイルと、レコード長またはレコード数が異なります。	eestsls コマンド、または eestsfills コマンドを使用してステータスファイルのレコード長およびレコード数を調査し、eestsinit コマンドを使用して初期設定してください。
0007	障害ファイルを初期化していません。	該当するファイルを eestsrm コマンドを使用して削除し、eestsinit コマンドを使用して初期設定してください。

## KFSB51055-E

ステータスファイルのクローズに失敗しました。理由コード = aaaa, ファイル名 = bb...bb

An attempt to close a status file has failed. reason code = aaaa, file name = bb...bb (E+P+L) (3) (SUP)

ステータスファイル運用コマンドで、ステータスファイルのクローズに失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : 該当するステータス論理ファイル名 (8 文字以内の英数字), またはステータス物理ファイルのパス名 (510 文字以内)

(S) 該当するファイルの処理を中止して, 次の処理を実行します。

(O) 理由コード一覧を見て対策してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	論理ファイル名が不正です。	正しいフラグ引数を指定して, コマンドを再実行してください。
0002	物理ファイルのパス名が不正です。	
0003	現用ファイル, または実体のない無効なファイルです。	
0004	クローズエラーが発生しました。	以前に出力されたメッセージを参照して対策してください。メッセージが出力されていない場合は, 保守員に連絡してください。
0005	シグナル用ステータスファイルは処理できません。	正しいフラグ引数を指定して, コマンドを再実行してください。

#### KFSB51088-E

内部関数で障害が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc, 詳細コード 4 = dd....dd

An error has occurred in an internal function. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc, detail code 4 = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

内部関数で障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) 処理を続行します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

#### KFSB51089-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc

An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc (E+P+L) (3) (SUP)

ステータスファイルで内部矛盾が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 保守員に連絡してください。

#### KFSB51401-E

UOCでエラーが発生しました。UOC名 = aa....aa, 論理端末名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

An error occurred in UOC. UOC name = aa....aa, logical terminal name = bb....bb, reason code = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

UOCでエラーが発生しました。

aa....aa : UOC エントリポイント名

bb....bb : 論理端末名

cc....cc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)入力セグメント判定 UOC の場合、コネクションを解放して MCP 後処理トランザクションを起動します。該当するメッセージは破棄します。

入力メッセージ編集 UOC または出力メッセージ編集 UOC の場合、論理端末を閉塞して MCP 後処理トランザクションを起動します。該当するメッセージは破棄します。

コネクション確立 UOC の場合、コネクション確立要求を拒否して MCP 後処理トランザクションを起動しません。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	UOC が詳細リターンコード dd....dd でエラーリターンしました。	dd....dd に示す詳細リターンコードから UOC 処理でのエラーの原因を調査してください。原因がわからない場合は、保守員に連絡してください。
0002	詳細リターンコードが不正です。	rtn_detail の設定値を確認してください。
0003	関数リターン値が不正です。	UOC のリターン値を確認してください。
1001	残っている該当メッセージのサイズが不正です。	eemcp_seguoc_prot の rest_data_size の設定値を確認してください。
1002	後続メッセージの監視タイマ値が不正です。	eemcp_uoctimer_inf の timer_value の設定値を確認してください。
1003	後続メッセージの監視タイマが不正です。	eemcp_uoctimer_inf の timer_code の設定値を確認してください。
1004	次のメッセージサイズが不正です。	eemcp_seguoc_prot の next_data_size の設定値を確認してください。
1005	次のメッセージの先頭アドレスが不正です。	eemcp_seguoc_prot の next_data_adr の設定値を確認してください。
1006	該当するメッセージサイズが不正です。	eemcp_seguoc_prot の now_data_size の設定値を確認してください。
1101	設定したメッセージサイズが受信バッファサイズを超過しました。	メモリ関連定義の受信バッファサイズ (recv_message_buf_size オペランド), または eemcp_seguoc_prot の now_data_size の設定値を確認してください。
1102	該当するメッセージサイズが不正です。	メッセージの合計サイズが受信メッセージの最大長を超過していないか確認してください。
2001	編集バッファリストの使用したバッファ情報の数が不正です。	eemcp_uocbuff_list_n の used_buf_num の設定値を確認してください。
2002	編集バッファリストのバッファの使用長が不正です。	eemcp_uocbufinf_n の seg_size の設定値を確認してください。
2003	受信バッファリストの使用したバッファ情報の数が不正です。	eemcp_uocbuff_list_n の used_buf_num の設定値を確認してください。
2004	受信バッファリストのバッファの使用長が不正です。	eemcp_uocbufinf_n の seg_size の設定値を確認してください。
2101	設定したメッセージサイズが受信バッファサイズを超過しました。	メモリ関連定義の受信バッファサイズ (recv_message_buf_size オペランド), eemcp_uocbufinf_n の seg_size, または eemcp_uocbufhead の buf_size の設定値を確認してください。

理由コード	意味	対策
2102	受信バッファ情報のバッファの有効長が不正です。	eemcp_uocbufhead の buf_size の設定値を確認してください。
2103	受信バッファ数が不足しました。	メモリ関連定義の受信バッファ数 (recv_message_buf_cnt オペランド) の設定値を確認してください。
3001	編集バッファリストの使用したバッファ情報の数が不正です。	eemcp_uocbuff_list_n の used_buf_num の設定値を確認してください。
3002	編集バッファリストのバッファの使用長が不正です。	eemcp_uocbufinf_n の seg_size の設定値を確認してください。
3003	送信バッファリストの使用したバッファ情報の数が不正です。	eemcp_uocbuff_list_n の used_buf_num の設定値を確認してください。
3004	送信バッファリストのバッファの使用長が不正です。	eemcp_uocbufinf_n の seg_size の設定値を確認してください。
3005	編集バッファリストまたは送信バッファリストのバッファの使用長が不正です。	eemcp_uocbufinf_n の seg_size の設定値を確認してください。
3101	設定したメッセージサイズが送信バッファサイズを超過しました。	メモリ関連定義の送信バッファサイズ (send_message_buf_size オペランド), eemcp_uocbufinf_n の seg_size, または eemcp_uocbufhead の buf_size の設定値を確認してください。
3102	送信バッファ情報のバッファの有効長が不正です。	eemcp_uocbufhead の buf_size の設定値を確認してください。
3103	送信バッファ数が不足しました。	メモリ関連定義の送信バッファ数 (send_message_buf_cnt オペランド) の設定値を確認してください。

## KFSB51402-E

メッセージの受信処理で障害が発生しました。論理端末名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred while receiving a message. logical terminal name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

メッセージの受信処理で障害が発生しました。

**aa....aa** : 論理端末名

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cc....cc** : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)送受信処理を中断し、処理を続行します。該当するメッセージは破棄します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	受信バッファ長が不足しました。	メモリ関連定義の受信バッファサイズ (recv_message_buf_size オペランド) の設定値を見直してください。
0002	受信バッファ数が不足しました。	メモリ関連定義の受信バッファ面数 (recv_message_buf_cnt オペランド) の設定値を見直してください。

## KFSB51403-E

メッセージの送信処理で障害が発生しました。論理端末名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred while sending a message. logical terminal name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

メッセージの送信処理で障害が発生しました。

aa....aa : 論理端末名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)送信処理を中断し、処理を続行します。該当するメッセージは破棄します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	送信バッファ長が不足しました。	次の設定値を見直して、再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>メモリ関連定義の送信バッファサイズ (send_message_buf_size オペランド)</li><li>MCP 構成定義の論理端末定義 (eemcple 定義コマンド) の -s オプションの syssndsize オペランド</li></ul>
0002	送信バッファ数が不足しました。	メモリ関連定義の送信バッファ数 (send_message_buf_cnt オペランド) の設定値を見直して、再実行してください。
0003	論理端末が閉塞解除中ではありません。	論理端末の状態を確認し、再実行してください。



理由コード	意味	対策
0004	コネクション状態が不正です。	コネクション状態を確認し、再実行してください。
0005	システムエラーが発生しました。	保守員に連絡してください。
0006 0007	送信監視時間が超過しました。	送信先の状態、および送信監視時間の設定値を確認し、再実行してください。送信監視時間は次に示す設定値で確認できます。  TCP/IP プロトコル使用時 <ul style="list-style-type: none"> <li>同期送信の場合は、送信 API の送信監視時間の引数、および MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpcn 定義コマンド) の -b オプションの sndsynctim オペランドの設定値</li> <li>同期送受信の場合は、コネクション定義 eemcpcn オペランドの -b オプションの sndcmptim 設定値</li> <li>非同期送信の場合は、MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpcn 定義コマンド) の -b オプションの sndtim オペランドの設定値</li> </ul> UDP プロトコル使用時 MCP 構成定義の論理端末定義 (eemcple 定義コマンド) の -b オプションの sndtim オペランドの設定値
0008	同期送受信監視時間が超過しました。	送信先の状態、および送受信監視時間の設定値を確認し、再実行してください。同期送受信監視時間の設定値は次の値を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ee_mcp_sendrecv または CBLEEMCP("SENDRECV") の送受信監視時間引数、およびコネクション定義 eemcpcn オペランドの -b オプションの sndrcvtim 設定値</li> </ul>

#### KFSB51404-E

コネクションの確立に失敗しました。コネクション ID = aa....aa  
Failed to establish a connection. connection ID = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

コネクションの確立に失敗しました。

aa....aa : コネクション ID

(S)該当するコネクションを切断し、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】直前のメッセージを確認し、対策してください。

#### KFSB51405-E

論理端末の閉塞解除に失敗しました。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb, 理由コード = cc....cc

Failed to release the shutdown state of the logical terminal. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb, reason code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

論理端末の閉塞解除に失敗しました。

aa....aa : 論理端末名

bb....bb : コネクション ID

UDP プロトコルの場合は, \*を表示します。

cc....cc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)該当する論理端末を閉塞し, 処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
10001	対応するコネクションが確立状態にありません。	コネクションを確立したあと, 再実行してください。
00119	上記以外の失敗	直前のメッセージを確認して対策してください。

## KFSB51406-E

コネクションを解放しました。コネクション ID = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
Released the connection. connection ID = aa....aa, reason code = bb....bb (E+P+L) (2)  
(SUP)

コネクションを解放しました。

aa....aa : コネクション ID

bb....bb : 理由コード

トランザクションインタフェースの MCP 固有情報 (TRNINF\_SERVICE\_MCP) の reason 値 (数値) を表示します。

MCP 固有情報 (TRNINF\_SERVICE\_MCP) の reason 値 (数値) については, マニュアル「TP1/EE/Message Control Extension 使用の手引」の「トランザクションインタフェース情報」を参照してください。COBOL 言語の場合は, 「データ名 MG」を参照してください。

(S)コネクションを解放し, 処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コードを確認し, 対策してください。

## KFSB51407-E

論理端末を閉塞しました。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb, 理由コード = cc....cc  
A logical terminal was shut down. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb,  
reason code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

論理端末を閉塞しました。

**aa....aa** : 論理端末名

**bb....bb** : コネクション ID

UDP プロトコルの場合は, \*を表示します。

**cc....cc** : 理由コード

トランザクションインタフェースの MCP 固有情報 (TRNINF\_SERVICE\_MCP) の reason 値 (数値) を表示します。

MCP 固有情報 (TRNINF\_SERVICE\_MCP) の reason 値 (数値) については, マニュアル「TP1/EE/Message Control Extension 使用の手引」の「トランザクションインタフェース情報」を参照してください。COBOL 言語の場合は, 「データ名 MG」を参照してください。

(S)論理端末を閉塞し, 処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コードを確認し, 対策してください。

## KFSB51408-E

トランザクション処理でオーバフローを検知しました。論理端末名 = aa....aa, サイズ = bb....bb  
Detected overflow while processing transactions. logical terminal name = aa....aa, size =  
bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

トランザクション処理でサービス関数インタフェースを作成したときに, 受け付けたメッセージがメッセージ引き渡しエリアサイズを超えていたため, 超過した分のメッセージを破棄しました。

**aa....aa** : 論理端末名

**bb....bb** : 不足しているサイズ

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の max\_message\_size オペランドの設定値を見直してください。

## KFSB51409-E

通信障害が発生しました。詳細コード = aa....aa

A communication error has occurred. detail code = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

通信制御コマンド処理で、通信障害が発生しました。

aa....aa : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)不正なメッセージを受信したため、該当するコマンドの処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB51410-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード = aa....aa

An internal conflict has occurred. detail code = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

通信制御コマンド処理中に、MCP で予期しない障害が発生しました。

aa....aa : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)該当するコマンドの処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB51461-E

処理キューの登録に失敗しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, サービス名 = cc....cc, コネクション ID = dd....dd, 論理端末名 = ee....ee, 登録コード = ff....ff, 理由コード = gg....gg

Failed to register the processing queue. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, service name = cc....cc, connection ID = dd....dd, logical terminal name = ee....ee, registration code = ff....ff, reason code = gg....gg (E+P+L) (2) (SUP)

受信処理で処理キュー登録に失敗しました。

aa....aa : 相手 IP アドレス

相手 IP アドレスがない場合は、\*.\*.\*を表示します。

bb....bb : 相手ポート番号

相手ポート番号がない場合は、\*を表示します。

cc....cc：処理キュー登録に失敗したサービス名

サービス名がない場合は、\*を表示します。

dd....dd：コネクション ID

UDP プロトコルの場合は、\*を表示します。

ee....ee：論理端末名

ff....ff：登録コード

MSGRCV：メッセージ受信トランザクションの処理キュー登録に失敗しました。

LEHOLD：論理端末の閉塞の処理キュー登録に失敗しました。

LEFREE：論理端末の閉塞解除の処理キュー登録に失敗しました。

CNCLOS：コネクションの解放の処理キュー登録に失敗しました。

CNOPEN：コネクションの確立の処理キュー登録に失敗しました。

ERRTRN1：ERRTRN1 の処理キュー登録に失敗しました。

ERRTRNS：ERRTRNS の処理キュー登録に失敗しました。

gg....gg：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)メッセージ受信サービストランザクションの処理キュー登録がサービス名不正によって失敗した場合は ERRTRN1 を起動します。それ以外の場合は破棄します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	サービス名が不正です。	サービス名の定義を見直して、再実行してください。
0002	サービスに対するエントリポイントがありません。	サービス名の定義を見直して、再実行してください。
0003	PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の処理キュー登録数 (pce_no オペランド) の設定値を見直して、再実行してください。
9001	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB51500-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc, 詳細コード 4 = dd....dd, 詳細コード 5 = ee....ee

An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc, detail code 4 = dd....dd, detail code 5 = ee....ee (E+P+L, E) (2) (SUP)

内部矛盾が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 次の内容を確認しても原因がわからない場合は、保守員に連絡してください。

- eefilmkfs コマンドのオプション、またはコマンドの引数に問題がないか。
- ファイルシステムの属性に問題がないか。

## KFSB51501-E

テーブルの確保に失敗しました。対象領域コード = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An attempt to allocate a table has failed. target area code = aa....aa, request size = bb....bb, detail code = cc....cc (E) (2) (SUP)

ファイルサービスの初期化処理で領域確保に失敗しました。

aa....aa : 領域確保に失敗した領域コード

PBSCTBL : ファイルサービス基幹テーブル

bb....bb : 初期化処理で要求した領域サイズ (単位: バイト)

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB51502-W

I/O処理時間監視のタイムアウトを検出しました。TP1EE ファイル名 = aa....aa, 監視時間 = bb....bb, 処理時間 = cc....cc

```
An I/O timer timeout was detected. TP1EE file = aa....aa, monitoring time = bb....bb,  
processing time = cc....cc (E+P+L) (3) (SUP)
```

TP1EE ファイルシステムへの I/O 処理が監視時間を超えて終了しました。

**aa....aa** : TP1EE ファイル名 (ステータス物理ファイル名)

**bb....bb** : ファイルサービス関連定義の fil\_watch\_time オペランドの指定値 (単位: 秒)

**cc....cc** : TP1EE ファイルシステムの I/O 処理時間 (単位: 秒)

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** TP1EE ファイルシステムがあるディスクへのアクセス多発によって、I/O 処理時間が増大したか、またはディスク障害が発生したおそれがあります。TP1EE ファイルシステムがあるディスクへのアクセス多発によって I/O 処理時間が増大した場合は、ファイルサービス関連定義の fil\_watch\_time オペランドの指定値を見直すか、TP1EE ファイルシステムを別のディスクに作成することを検討してください。解決できない場合は、保守員に連絡してください。

#### KFSB51801-E

```
領域確保に失敗しました。対象領域コード = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 領域サイズ = cc....cc  
バイト
```

```
Area allocation failed. code of affected area = aa....aa, reason code = bb....bb, area size =  
cc....cc bytes (E+P+L) (2) (SUP)
```

領域の確保に失敗しました。

**aa....aa** : 対象領域コード

1 : 定義引き継ぎ用作業領域

2 : ステータスファイル読み込み用作業領域

**bb....bb** : 理由コード

1 : メモリ不足

2 : その他の障害

**cc....cc** : 確保に失敗した領域のサイズ

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 必要に応じて、メモリを確保して、再起動してください。

## KFSB51802-E

リラン時に変更できない定義が変更されました。定義名 = aa....aa

A definition that must not be changed during a rerun was changed. definition name = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

前回（正常開始時）の TP1/EE システム定義の指定値と、今回（再開始時）の指定値とが異なっています。

aa....aa：再開始時に変更された TP1/EE システム定義

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 必要に応じて、TP1/EE システム定義を前回（正常開始時）と一致させて再起動してください。

## KFSB51803-E

リラン時変更不可定義の退避処理で障害が発生しました。詳細コード = aa....aa

An error occurred during backup of definitions that must not be changed during a rerun. detail code = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

再開始時に変更できない定義の退避処理で障害が発生しました。

aa....aa：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** ステータスファイルに異常がないかどうかを調査してください。

## KFSB51804-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード = aa....aa

An internal contradiction occurred. detail code = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

定義引継機能で障害が発生しました。

aa....aa：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 保守員に連絡してください。



## KFSB51805-E

リラン時にライブラリの変更がありました。理由コード = aa....aa  
A library was changed during a rerun. reason code = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

前回（正常開始時）のライブラリと、今回（再開時）のライブラリが異なります。

aa....aa：理由コード

DBQ：再開時のライブラリに DB キュー共通ライブラリが追加または削除されました。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB51807-E

処理キューの登録に失敗しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 登録コード = cc....cc, 理由コード = dd....dd, 詳細コード = ee....ee  
Registration of the processing queue failed. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, registration code = cc....cc, reason code = dd....dd, detail code = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

受信処理で処理キューの登録に失敗しました。

aa....aa：該当する IP アドレス

bb....bb：該当するポート番号

cc....cc：登録コード

RCVINFO：トランザクション回復情報の受信時に、処理キューの登録に失敗しました。

dd....dd：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ee....ee：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)トランザクション回復用の受信メッセージを破棄します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	要求種別が不正です。	保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
0002	PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
9000	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。
9999	不正なメッセージを受信しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB51900-E

メッセージ出力に失敗しました。メッセージログファイル名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb : cc....cc  
failed to output message. logfile name=aa....aa, detail code=bb....bb : cc....cc (E) (2)  
(NOS)

メッセージログファイルへのメッセージ出力に失敗しました。メッセージログファイルを切り替えてメッセージ出力を続行します。メッセージオブジェクトファイルの読み出し時に障害が発生した場合は、英語のメッセージが出力されます。

aa....aa : メッセージ出力に失敗したメッセージログファイル名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : 出力に失敗したメッセージ

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** ディスク容量が不足していないか、またはファイルシステムに異常がないかどうか確認してください。

## KFSB51901-E

メッセージログファイルの初期化に失敗しました。メッセージログファイル名 = aa....aa, 理由コード = bbbbbbbb, 詳細コード = cc....cc  
failed to initialize logfile. logfile name=aa....aa, reason code=bbbbbbbb, detail code=cc....cc (E+L) (2) (NOS)

メッセージログファイルの初期化に失敗しました。メッセージログファイルを切り替えてメッセージ出力を続行します。メッセージオブジェクトファイルの読み出し時に障害が発生した場合は、英語のメッセージが出力されます。

aa....aa : 初期化に失敗したメッセージログファイル名

bbbbbbbb : 理由コード

00000001 : ファイルオープンエラーです。

00000002 : ファイルヘッダ出力エラーです。

- 00000003：メッセージ出力開始の出力エラーです。
- 00000004：ファイル種別を取得できません。
- 00000005：ファイルが通常ファイルではありません。
- 00000006：ファイルに書き込み権限がありません。
- 00000007：ファイルを削除できません。
- 00000008：実効ユーザ ID を取得できません。

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** 次の事項を確認してください。

- ディスク容量が不足していないか。
- ディレクトリ／ファイルへのファイル作成権限があるか。
- ファイルシステムに異常がないか。

## KFSB51902-E

```
メッセージログファイルの切り替えに失敗しました。メッセージログファイル名= aa....aa, 理由コード= bbbbbbbb, 詳細コード= cc....cc  
failed to change logfile. logfile name=aa....aa, reason code=bbbbbbbb, detail  
code=cc....cc (E+L) (2) (NOS)
```

メッセージログファイルへの切り替えに失敗しました。次のメッセージログファイルに切り替えてメッセージ出力を続行します。メッセージオブジェクトファイルの読み出し時に障害が発生した場合は、英語のメッセージが出力されます。

aa....aa：切り替えに失敗したメッセージログファイル名

bbbbbbbb：理由コード

- 00000001：ファイルオープンエラーです。
- 00000002：ファイルヘッダ出力エラーです。
- 00000003：メッセージ出力開始の出力エラーです。
- 00000004：ファイル種別を取得できません。
- 00000005：ファイルが通常ファイルではありません。
- 00000006：ファイルに書き込み権限がありません。
- 00000007：ファイルを削除できません。
- 00000008：実効ユーザ ID を取得できません。

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** 次の事項を確認してください。

- ディスク容量が不足していないか。
- ディレクトリ／ファイルへのファイル作成権限があるか。
- ファイルシステムに異常がないか。

#### KFSB51903-E

```
メッセージログファイルへのメッセージ出力を停止しました。  
stopped to output message to logfile. (E+L) (2) (NOS)
```

すべてのメッセージログファイルへの切り替えに失敗したため、メッセージログファイルへのメッセージ出力を停止しました。メッセージオブジェクトファイルの読み出し時に障害が発生した場合は、英語のメッセージが出力されます。

(S)出力先にメッセージログファイルを指定していたメッセージは、標準エラー出力に出力して、処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** 次の事項を確認してください。

- ディスク容量が不足していないか。
- ディレクトリ／ファイルへのファイル作成権限があるか。
- ファイルシステムに異常がないか。

#### KFSB51904-E

```
全てのメッセージログファイルのオープンに失敗しました。メッセージログファイルへのメッセージ  
出力を停止しました。理由コード= aaaaaaaaa  
failed to open all logfiles, stopped to output message to logfile. reason code=aaaaaaaa (E  
+L) (2) (NOS)
```

すべてのメッセージログファイルのオープンに失敗したため、メッセージログファイルへのメッセージ出力を停止しました。メッセージオブジェクトファイルの読み出し時に障害が発生した場合は、英語のメッセージが出力されます。

**aaaaaaaa** : 理由コード

- 00000001 : メッセージログファイル格納ディレクトリの作成失敗
- 00000002 : すべてのメッセージログファイルのオープンエラー

(S)出力先にメッセージログファイルを指定していたメッセージは、標準エラー出力に出力して、処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 次の事項を確認してください。

- ディスク容量が不足していないか。
- ディレクトリ／ファイルへのファイル作成権限があるか。
- ファイルシステムに異常がないか。

#### KFSB51905-E

```
SYSLOG のオープンに失敗しました。SYSLOG へのメッセージ出力を停止しました。詳細コード=aa....aa
```

```
failed to open SYSLOG, stopped to output message to SYSLOG. detail code=aa....aa (E +P) (2) (NOS)
```

syslog のオープンに失敗したため、syslog へのメッセージ出力を停止しました。メッセージオブジェクトファイルの読み出し時に障害が発生した場合は、英語のメッセージが出力されます。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 syslog に異常がないかどうか確認してください。

#### KFSB51906-E

```
failed to initialize. reason code= aa....aa, detail code=bb....bb (E) (2) (NOS)
```

ログの初期化で障害が発生しました。メッセージを出力できません。

aa....aa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)理由コードが OTHER の場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
ENVIRON	環境変数 DCDIR を取得できません。	環境変数 DCDIR が設定されているかどうか確認してください。
CATALOG	メッセージオブジェクトファイルをオープンできません。	所定のディレクトリに、使用するシステムの言語環境に対応したメッセージオブジェクトファイルがあるかどうか確認してください。
MEMORY	メモリを確保できません。	しばらくしてから再実行してください。繰り返し発生する場合は、不要なプロセスを停止する、メモリを増やすなどの対策をしてください。
OTHER	その他の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

#### KFSB51907-E

failed to close. detail code1= aa....aa, detail code2=bb....bb (E) (2) (NOS)

ログの終了処理で障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB51908-E

failed in the assembly of the message. detail code1=aa....aa, detail code2=bb....bb, detail information=cc....cc (E) (2) (NOS)

メッセージの組み立て処理で障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : 詳細情報

出力に失敗したメッセージ番号と詳細情報とを、ハイフンで区切って表示します。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** システムのメモリが不足している場合は、メモリ不足を解消してください。メモリ不足ではない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB51909-E

```
SYSLOG へのメッセージ出力が失敗しました。理由コード= aa....aa, 詳細情報= bb....bb : cc....cc  
failed to output message to SYSLOG. reason code=aa....aa, detail information=bb....bb :  
cc....cc (E) (2) (NOS)
```

syslog へのメッセージ出力に失敗しました。メッセージオブジェクトファイルの読み出し時に障害が発生した場合は、英語のメッセージが出力されます。

### aa....aa : 理由コード

SYSTEM : メモリ不足またはバッファ不足以外の障害が syslog で発生しました。

OVERFLOW : syslog でメモリ不足およびバッファ不足が発生したあと、syslog 失敗リストに保存できるメッセージ数を超過しました。

### bb....bb : 詳細情報

理由コードが SYSTEM の場合

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

理由コードが OVERFLOW の場合

メッセージ出力に失敗した連続メッセージ数 (1~65536 の 10 進数) です。

メッセージ出力に失敗した連続メッセージ数が 65536 を超過した場合、65536 と出力します。

### cc....cc : 出力に失敗したメッセージ

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** 次のどれかの対策をしてください。

- syslog に異常がないかどうか確認する。
- syslog 失敗リストの要素数の指定値を増加させる。
- TP1/EE の syslog 出力レベルの定義値を上げる。

## KFSB51910-E

```
SYSLOG 失敗リストのメッセージを破棄しました。詳細情報= aa....aa  
discard messages in SYSLOG error list. detail information=aa....aa (E+P) (2) (NOS)
```

syslog 失敗リスト内のメッセージを破棄しました。メッセージオブジェクトファイルの読み出し時に障害が発生した場合は、英語のメッセージが出力されます。

### aa....aa : 破棄したメッセージ数 (10 進数)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** 次のどちらかの対策をしてください。

- syslog に異常がないかどうか確認する。
- TP1/EE の syslog 出力レベルの定義値を上げる。

#### KFSB51911-E

```
Failed to open the catalog file. catalog name=aa....aa (E) (2) (NOS)
```

aa....aa で示すカタログファイルのオープン処理で障害が発生しました。

**aa....aa** : メッセージカタログ名称

メッセージカタログ名称を示します。

(S)処理を続行します。

(O)あとに出力される KFSB51906-E メッセージに従ってください。

**【対策】** KFSB51906-E メッセージの理由コードで対策してください。

#### KFSB51912-W

```
コード変換ライブラリの初期化に失敗しました。コード変換機能を無効にします。
```

```
Failed to format the code conversion library. The code conversion function has been  
invalidated. (E) (4) (NOS)
```

コード変換ライブラリの初期化に失敗しました。コード変換機能を無効にして syslog にメッセージを出力します。

(S)コード変換機能を無効として、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 日立コード変換がインストールされているか確認してください。メッセージログ関連定義の log\_hsyslog\_cmode オペランドの指定値を確認してください。必要であれば再起動してください。

TP1/FSP のデータ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合、環境変数 EETRNIOALOGCMODE の指定値を確認してください。

TP1/FSP のデータ連携支援が出力したメッセージの場合、制御情報ファイルの EEINPARAM パラメタの FILE 文の LOGCMODE オペランドの指定値を確認してください。

#### KFSB51913-W

```
拡張 SYSLOG がインストールされていません。拡張 SYSLOG 機能を無効にします。
```



The SYSLOG delayed output function has been invalidated. (E) (4) (NOS)

拡張 SYSLOG がインストールされていません。拡張 SYSLOG 機能を無効にして syslog にメッセージを出力します。

(S) 拡張 SYSLOG 機能を無効にして、処理を続行します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 拡張 SYSLOG がインストールされているか確認してください。メッセージログ関連定義の log\_syslog\_elist オペランドの指定値を確認してください。必要であれば再起動してください。

TP1/FSP のデータ抽出ユティリティ、またはデータ連携支援が出力したメッセージの場合、必要であれば拡張 SYSLOG をインストールし、再実行してください。

## KFSB52000-E

統計情報ファイルの初期化に失敗しました。統計情報ファイル名 = aa....aa, 理由コード = bbbbbbbb, 詳細コード = cc....cc

Failed to initialize the statistics file. statistics file name = aa....aa, reason code = bbbbbbbb, detail code = cc....cc (P+L) (2) (NOS)

aa....aa で示す統計情報ファイルの初期化に失敗しました。統計情報ファイルを切り替えて統計情報の出力を継続します。

**aa....aa** : 統計情報ファイル名

理由コードが 00000001 または 00000002 の場合は、該当するディレクトリ名を出力します。

**bbbbbbbb** : 理由コード

00000001 : ディレクトリのオープンに失敗しました。

00000002 : ディレクトリの作成に失敗しました。

00000003 : ファイルの読み込みに失敗しました。

00000004 : ファイルが通常ファイルではありません。

00000005 : ファイル状態の取得に失敗しました。

00000006 : ファイルのオープンに失敗しました。

00000007 : 実効ユーザ ID の取得に失敗しました。

00000008 : ファイルに書き込み権限がありません。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) 処理を続行します。

(O) なし。

**【対策】** ディスク容量が不足していないか、ディレクトリもしくはファイルへの書き込み権限があるか、またはファイルシステムに異常がないかを確認してください。

## KFSB52001-E

統計情報出力に失敗しました。統計情報ファイル名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb  
Failed to output statistics. statistics file name = aa....aa, detail code = bb....bb (P+L) (2)  
(NOS)

aa....aa で示す統計情報ファイルへの統計情報の出力に失敗しました。データ連携支援は、統計情報ファイルを切り替えて統計情報の出力を継続します。

aa....aa : 統計情報ファイル名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** ディスク容量が不足していないか、またはファイルシステムに異常がないかを確認してください。

## KFSB52002-E

統計情報ファイルの切り替えに失敗しました。統計情報ファイル名 = aa....aa, 理由コード = bbbbbbbb, 詳細コード = cc....cc  
Failed to change the statistics file. statistics file name = aa....aa, reason code = bbbbbbbb, detail code = cc....cc (P+L) (2) (NOS)

aa....aa で示す統計情報ファイルへの切り替えに失敗しました。

aa....aa : 統計情報ファイル名

bbbbbbbb : 理由コード

00000001 : ファイルオープンエラー

00000002 : ファイルヘッダ出力エラー

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** ディスク容量が不足していないか、ディレクトリもしくはファイルへのファイル作成権限があるか、またはファイルシステムに異常がないかを確認してください。

## KFSB52003-E

統計情報ファイルへの統計情報出力を停止しました。理由コード = aaaaaaaaa

Stopped to output statistics to the statistics file. reason code = aaaaaaaa (P+L) (2)  
(NOS)

統計情報ファイルへの統計情報の出力を停止しました。

aaaaaaa : 理由コード

00000001 : 統計情報ファイル格納ディレクトリの作成に失敗しました。

00000002 : 統計情報ファイルのオープンに失敗しました。

00000003 : 統計情報ファイルへの出力に失敗しました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** このメッセージの前に出力されている KFSB52000-E, KFSB52001-E, または KFSB52002-E  
メッセージを参照してください。

#### KFSB52004-E

処理中に障害が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb

An error occurred during processing. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (P  
+L) (2) (NOS)

データ連携支援の処理中に障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

#### KFSB52006-E

反映処理中に障害が発生しました。データ連携支援を中断します。反映サービス名 = aa....aa, 反映  
処理方法 = bb....bb, 理由コード = cc....cc, 詳細情報 1 = dd....dd, 詳細情報 2 = ee....ee, 詳細情  
報 3 = ff....ff

An error occurred in the reflection processing. Data linkage support will now be canceled.  
reflect service name = aa....aa, reflection method = bb....bb, reason code = cc....cc, detail  
information 1 = dd....dd, detail information 2 = ee....ee, detail information 3 = ff....ff (P+L)  
(1) (SUP)

反映処理中に障害が発生しました。

aa....aa : 反映サービス名

bb....bb : 反映処理方法

rpc : RPC 送信処理

dbq : DB キュー書き込み

cc....cc : 理由コード

理由コードの意味を表に示します。

dd....dd : 詳細情報 1

理由コードに応じた詳細情報を表に示します。

ee....ee : 詳細情報 2

反映処理方法に応じた詳細情報を表に示します。

ff....ff : 詳細情報 3

反映処理方法に応じた詳細情報を表に示します。

(S)データ連携支援を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	詳細情報 1	対策
0001	RPC 送信処理に失敗。	ee_rpc_call()リターンコード (10 進数で表示)。	ee_rpc_call()リターンコード値に応じた対策を行い、データ連携支援を再実行してください。
0002	送信先で設定した応答値サイズが不正。	送信先で設定した応答値サイズ (10 進数で表示)。	RPC 送信先の処理を見直し、データ連携支援を再実行してください。
0003	DB キュー書き込み処理に失敗。	TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。	事前に原因となるメッセージが出力されている場合は、そのメッセージからエラー要因を取り除き、データ連携支援を再実行してください。

反映処理方法と詳細情報 2, 詳細情報 3 を次に示す。

項番	反映処理方法	詳細情報 2	詳細情報 3
1	dbq	DB キューグループ名	****
2	rpc	送信先サービスグループ名	送信先サービス名

## KFSB52007-W

R P C送信先から中断要求を受け取りました。データ連携支援を中断します。反映サービス名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 応答値 = cc....cc, 送信先サービスグループ名 = dd....dd, 送信先サービス名 = ee....ee

A cancel request has been received from the RPC sender. Data linkage support will now be canceled. reflect service name = aa....aa, reason code = bb....bb, response value = cc....cc, name of the service group to send = dd....dd, name of the service to send = ee....ee (P+L) (4) (SUP)

RPC 送信先から中断要求を受け取りました。

**aa....aa** : 反映サービス名

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味を表に示します。

**cc....cc** : 応答値

理由コードに応じた応答値を表に示します。

**dd....dd** : 送信先サービスグループ名

trnrks\_service -v オプション指定値

**ee....ee** : 送信先サービス名

trnrks\_service -v オプション指定値

(S)データ連携支援を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	応答値	対策
0001	送信先で中断要求の応答値が設定。	送信先で設定した応答値をホストバイトオーダーで表示 (16 進数で表示)。	RPC 送信先の処理を見直し、データ連携支援を再実行してください。

## KFSB52008-W

UOCからの中止要求を受け取りました。UOC種別 = aa....aa, 反映サービス名 = bb....bb, リターンコード = cc....cc, 終了モード = dd....dd

A cancel request has been received from the UOC. UOC type = aa....aa, reflect service name = bb....bb, return code = cc....cc, ending mode = dd....dd (P+L) (4) (SUP)

UOC からの中止要求を受け取りました。

**aa....aa** : UOC 種別

UOC 種別とその意味を表に示します。

**bb....bb** : 反映サービス名

出力する反映サービス名を表に示します。

**cc....cc** : UOC リターンコード

dd....dd：データ連携支援の終了モード

0001：中断

0002：強制停止

(S)dd....dd に応じた終了モードで、データ連携支援を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** UOC の処理を見直し、データ連携支援を再実行してください。

UOC 種別と反映サービス名を次に示します。

UOC 種別	意味	反映サービス名
ENTRY	反映先指定 UOC	「****」を表示します。
EDIT	編集 UOC	UOC を呼び出した反映サービス名を表示します。
REFLECT	反映 UOC	
STARTEND	開始終了 UOC	「****」を表示します。

## KFSB52009-E

データ抽出処理でエラーが発生しました。関数名 = aa....aa, メインリターンコード = bbb, サブリターンコード = ccc

An error occurred during data extraction processing. func = aa....aa, main return code = bbb, sub return code = ccc (P+L) (2) (SUP)

データ抽出処理でエラーが発生しました。

aa....aa：関数名

bbb：データ抽出ユーティリティが設定したメインリターンコード

ccc：データ抽出ユーティリティが設定したサブリターンコード

(S)データ連携支援を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メインリターンコードおよびサブリターンコード一覧に従って対策してください。

メインリターンコード	サブリターンコード	意味	対策
D	E	データ抽出処理に失敗しました。	次に示すオペランドに誤りがある場合は、正しく指定して、データ連携支援を再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>CONTROL 文 GRPNAME</li><li>CONTROL 文 START</li></ul>
	J		
O	1		

メインリターンコード	サブリターンコード	意味	対策
O	2	データ抽出処理に失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>CONTROL 文 SHMID</li> <li>CONTROL 文 BLOCKNO</li> <li>CONTROL 文 ROOTJSQ</li> <li>CONTROL 文 JSQ</li> <li>CONTROL 文 TBLTYPE</li> <li>TABLE 文 UAPTBL</li> </ul> 事前に原因となるメッセージが出力されている場合は、そのメッセージからエラー要因を取り除き、データ連携支援を再実行してください。解決できない場合は、保守員に連絡してください。
W	X		
O	G	OS メモリの確保に失敗しました。	OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。事前に原因となるメッセージが出力されている場合は、そのメッセージからエラー要因を取り除き、データ連携支援を再実行してください。解決できない場合は、保守員に連絡してください。
T	G		
W	G		
G	△		
上記以外		上記以外のエラーが発生しました。	事前に原因となるメッセージが出力されている場合は、そのメッセージからエラー要因を取り除き、データ連携支援を再実行してください。解決できない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB52100-E

制御情報ファイル解析処理中に制御情報ファイルのアクセスに失敗しました。ファイル名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, エラー番号 = cc....cc

Access of the control information file failed during control information file analysis. file name = aa....aa, reason code = bbbb, ermo = cc....cc (P+L) (2) (NOS)

制御情報ファイルのアクセスでエラーが発生しました。

**aa....aa** : ファイルパス

制御情報ファイルのパス名です。

**bbbb** : 理由コード

0001 : システムコール stat でエラーが発生しました。

0002 : 標準ライブラリ関数 fopen でエラーが発生しました。

0003 : 指定した制御情報ファイルはディレクトリファイルです。

0004 : 標準ライブラリ関数 getc でエラーが発生しました。

cc....cc：エラー番号

理由コードが 0001, 0002, および 0004 の場合は、ファイルオープン時のシステムコールが設定した errno の値を表示します。それ以外の場合は、\*を表示します。

(S)処理を終了します。

(O)制御情報ファイルを見直して、データ抽出ユーティリティを再実行してください。

**【対策】** 制御情報ファイルを見直してください。

## KFSB52101-E

制御情報ファイル解析処理中にエラーが発生しました。制御情報ファイル形式が不正です。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, パラメタ名 = cc....cc, 理由コード = dddd

An error occurred during control information file analysis. The control information file format is incorrect. file name = aa....aa, line = bb....bb, parameter name = cc....cc, reason code = dddd (P+L) (2) (NOS)

制御情報ファイルの bb....bb 行目の形式が不正です。

aa....aa：ファイルパス

制御情報ファイルのパス名です。

bb....bb：不正があった行番号

cc....cc：パラメタ名

理由コードが 0001 または 0002 の場合、\*を表示します。

dddd：理由コード

0001：制御文識別子に誤りがあります。

0002：パラメタ識別子に誤りがあります。

0003：パラメタ識別子とパラメタ値の間の=に誤りがあります。

0005：パラメタ値の形式が不正です。

0006：パラメタ値の後ろに誤りがあります。

(S)処理を終了します。

(O)制御情報ファイルを見直して、データ抽出ユーティリティを再実行してください。

**【対策】** 制御情報ファイルの形式を、行数、パラメタ名、および理由コードに従って見直してください。理由コードが 0005 の場合に考えられる要因を次に示します。

- 括弧で囲めないパラメタ値を括弧で囲んでいます。
- =のあとに何もありません。
- 使用できない文字を使用しています。



## KFSB52102-E

制御情報ファイル解析処理中にエラーが発生しました。設定値が不正です。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, パラメタ名 = cc....cc, 位置 = dd....dd, 理由コード = eeee

An error occurred during control information file analysis. An incorrect value is set. file name = aa....aa, line = bb....bb, parameter name = cc....cc, position = dd....dd, reason code = eeee (P+L) (2) (NOS)

制御情報ファイルの bb....bb 行目に指定したパラメタ値に不正な内容があります。

**aa....aa** : ファイルパス

制御情報ファイルのパス名です。

**bb....bb** : 不正があった行番号

**cc....cc** : パラメタ名

**dd....dd** : \*を表示

**eeee** : 理由コード

1001 : 長さが規定の範囲内にありません。

1002 : 使用できない文字を使用しています。

1003 : 選択値以外が設定されました。

1004 : 英大識別子の先頭に大文字のアルファベット以外の文字を使用しています。

1005 : 数値が範囲外です。

1006 : シングルクォートで囲んでください。

1007 : シングルクォートで囲めません。

(S)処理を終了します。

(O)制御情報ファイルを見直して、データ抽出ユティリティを再実行してください。

**【対策】** 設定値を、行数、パラメタ名、位置、および理由コードに従って見直してください。

## KFSB52103-E

制御情報ファイル解析処理中にエラーが発生しました。設定値間に矛盾があります。ファイル名 = aa....aa, 値 = bb....bb, 理由コード = cccc

An error occurred during control information file analysis. Values conflict. file name = aa....aa, value = bb....bb, reason code = cccc (P+L) (2) (NOS)

制御情報ファイルの指定値間に矛盾があります。

**aa....aa** : ファイルパス

制御情報ファイルのパス名です。

bb...bb : 値

理由コードが 3002 の場合、重複を検知した値を表示します。それ以外の場合は、\*を表示します。

cccc : 理由コード

2001 : CONTROL 文を複数指定できません。

2002 : CONTROL 文に、同じパラメタを複数指定できません。

3001 : TABLE 文を複数指定できません。

3002 : 一つの TABLE 文中の UAPTBL パラメタに、重複した値を指定できません。

3003 : 一つの TABLE 文中に、1001 個以上の UAPTBL パラメタを指定できません。

4001 : CONTROL 文の TBLTYPE パラメタに RELOAD を指定した場合、TABLE 文の UAPTBL パラメタは省略できません。

(S)処理を終了します。

(O)制御情報ファイルを見直して、データ抽出ユティリティを再実行してください。

**【対策】** 設定値を、値、および理由コードに従って見直してください。

#### KFSB52104-E

制御情報ファイル解析処理中にエラーが発生しました。省略できない定義が未定義です。ファイル名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

An error occurred during control information file analysis. A mandatory definition is missing. file name = aa....aa, reason code = bbbb (P+L) (2) (NOS)

省略できない定義が指定されていません。

aa....aa : ファイルパス

制御情報ファイルのパス名です。

bbbb : 理由コード

5001 : CONTROL 文がありません。

5002 : TABLE 文がありません。

(S)処理を終了します。

(O)制御情報ファイルを見直して、データ抽出ユティリティを再実行してください。

**【対策】** 制御情報ファイルを、理由コードに従って見直してください。

#### KFSB52105-E

制御情報ファイル解析処理中に領域確保に失敗しました。

Area allocation failed during control information file analysis. (P+L) (2) (NOS)

制御情報ファイル解析作業用領域の確保に失敗しました。

(S)処理を終了します。

(O)しばらく待ってから、データ抽出ユーティリティを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB52110-E

関数の引数が不正です。関数名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

A function argument is invalid. func = aa....aa, reason code = bbbb (P+L) (2) (NOS)

関数の引数が不正なため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 関数名

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

関数名および理由コード一覧に示した原因を取り除き、データ抽出ユーティリティを再実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

関数名および理由コード一覧を見て対策してください。

関数名	理由コード	意味	対策
ee_trn_ioa_init	0001	ioa_iparam_pt 引数が不正です。	指定値を見直してください。
	0002	flags 引数が不正です。	
ee_trn_ioa_get	0001	ioa_gparam_pt 引数が不正です。	
	0002	flags 引数が不正です。	
ee_trn_ioa_term	0001	ioa_tparam_pt 引数が不正です。	
	0002	flags 引数が不正です。	

関数名	理由コード	意味	対策
CBLEETR	0001	一意名_IPARAM, 一意名_GPARAM, または一意名_TPARAM が不正です。	指定値を見直してください。
	0002	データ名 C が不正です。	
	0003	データ名 A が不正です。	
	0004	一意名 1 が不正です。	

データ連携支援が出力したメッセージの場合  
保守員に連絡してください。

## KFSB52111-E

実行環境が不正です。理由コード = aaaa

The execution environment is incorrect. reason code = aaaa (P+L) (2) (NOS)

データ抽出ユーティリティの実行環境に不正があったため、処理を中止しました。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を終了します。

(O)理由コード一覧に示した原因を取り除き、データ抽出ユーティリティを再実行してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	TP1/FSP が正しくインストールされていません。	TP1/FSP を再インストールしてください。
0002	拡張 SYSLOG ライブラリルーチンのローディングに失敗しました。	拡張 SYSLOG のバージョン 02-00 以降がインストールされているか確認してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB52112-E

領域の確保に失敗しました。要求サイズ = aa....aa, 詳細コード = bbbb

An attempt to allocate area has failed. request size = aa....aa, detail code = bbbb (P+L) (3) (NOS)

必要なメモリの確保に失敗しました。

aa....aa : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

bbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

しばらく待ってから、データ抽出ユーティリティを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

しばらく待ってから、データ連携支援を再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB52113-E

表情報はあります。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 対象 = bbbb, 表名 = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

The table information does not exist. UAP log information group name = aa....aa, object = bbbb, table name = cc....cc, detail code = dd....dd (P+L) (3) (NOS)

表情報はあります。

**aa....aa** : UAP 履歴情報グループ名

UAP 履歴情報グループ名が不明な場合は、\*を表示します。

**bbbb** : 処理の対象

0001 : グループ管理表

0002 : 履歴情報表

0010 : PJ 管理表

0011 : PJ 突き合わせ表

**cc....cc** : グループ管理表, 履歴情報表, PJ 管理表, または PJ 突き合わせ表の表名

**dd....dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

処理の対象一覧に示した原因を取り除き、データ抽出ユーティリティを再実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

処理の対象一覧に示した原因を取り除き、データ連携支援を再実行してください。

**【対策】** メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合  
処理の対象一覧に従って対策してください。

処理の対象	対策
0001	UAP 履歴情報グループ名が正しいか確認してください。または、DROP TABLE 文などによって表を削除していないか確認してください。
0002	UAP 履歴情報グループ名、および UAPTBL パラメタに指定した履歴情報表名が正しいか確認してください。または、DROP TABLE 文などによって表を削除していないか確認してください。
0010	PJID パラメタに指定した PJ 引き継ぎ情報名が正しいか確認してください。または、DROP TABLE 文などによって表を削除していないか確認してください。
0011	

データ連携支援が出力したメッセージの場合

データ抽出ユーティリティの対策の、「UAP 履歴情報グループ名」を「CONTROL 文の GRPNAME オペランド」に、「UAPTBL パラメタ」を「TABLE 文の UAPTBL オペランド」に、「PJID パラメタ」を「eeaphrunrsh コマンドの-k オプション」に読み替えて実施してください。

## KFSB52114-E

SQL 実行時にエラーが発生しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 対象 = bbbb, 表名 = cc....cc, DBMS メッセージ = dd....dd, SQL CODE = ee....ee, 詳細コード = ff....ff

An error occurred during SQL execution. UAP log information group name = aa....aa, object = bbbb, table name = cc....cc, DBMS message = dd....dd, SQLCODE = ee....ee, detail code = ff....ff (P+L) (2) (NOS)

SQL 実行時にエラーが発生しました。

**aa....aa** : UAP 履歴情報グループ名

UAP 履歴情報グループ名が不明な場合は、\*を表示します。

**bbbb** : 処理の対象

0001 : グループ管理表

0002 : 履歴情報表

0006 : DBMS との接続

0007 : DBMS との切り離し

0008 : コミット

0009 : ロールバック

0010 : PJ 管理表

0011 : PJ 突き合わせ表

**cc....cc** : グループ管理表, 履歴情報表, PJ 管理表, または PJ 突き合わせ表の表名  
処理の対象が、0006, 0007, 0008, または 0009 の場合は、\*を表示します。

dd....dd : DBMS のエラーメッセージ

ee....ee : SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

原因を取り除き、データ抽出ユーティリティを再実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

原因を取り除き、データ連携支援を再実行してください。

**【対策】** 接続先の DBMS のバージョンが、TP1/EE が前提としているバージョンかどうか確認してください。バージョンが正しい場合は、DBMS のエラーメッセージ、および SQLCA 構造体の状態変数を基に、DBMS のマニュアルを参照して原因を取り除いてください。

## KFSB52115-E

SQL 実行時にエラーが発生しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 対象 = bbbb, 表名 = cc....cc, SQLCODE = dd....dd, SQLWARN = ee....ee, 詳細コード = ff....ff

An error occurred during SQL execution. UAP log information group name = aa....aa, object = bbbb, table name = cc....cc, SQLCODE = dd....dd, SQLWARN = ee....ee, detail code = ff....ff (P+L) (2) (NOS)

SQL 実行時にエラーが発生しました。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

UAP 履歴情報グループ名が不明な場合は、\*を表示します。

bbbb : 処理の対象

0001 : グループ管理表

0002 : 履歴情報表

0010 : PJ 管理表

0011 : PJ 突き合わせ表

cc....cc : グループ管理表、履歴情報表、PJ 管理表、または PJ 突き合わせ表の表名

dd....dd : SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

ee....ee : SQL 実行時の SQLCA 構造体の警告情報 (sqlwarn0~sqlwarnf)

sqlwarn0 から sqlwarnf まで連続で表示します。警告情報が空白のときは、\*を表示します。

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

原因を取り除き、データ抽出ユーティリティを再実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

原因を取り除き、データ連携支援を再実行してください。

**【対策】** 接続先の DBMS のバージョンが、TP1/EE が前提としているバージョンかどうか確認してください。バージョンが正しい場合は、SQLCA 構造体の状態変数と警告情報を基に、DBMS のマニュアルを参照して原因を取り除いてください。

## KFSB52116-E

表の構造不正を検知しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 対象 = bbbb, 表名 = cc....cc, 理由コード = dddd, 詳細コード = ee....ee

A table structure error was detected. UAP log information group name = aa....aa, object = bbbb, table name = cc....cc, reason code = dddd, detail code = ee....ee (P+L) (2) (NOS)

表の構造不正を検知しました。

**aa....aa** : UAP 履歴情報グループ名

UAP 履歴情報グループ名が不明な場合は、\*を表示します。

**bbbb** : 処理の対象

0001 : グループ管理表

0002 : 履歴情報表

0010 : PJ 管理表

0011 : PJ 突き合わせ表

**cc....cc** : グループ管理表, 履歴情報表, PJ 管理表, または PJ 突き合わせ表の表名

**dddd** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**ee....ee** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

理由コード一覧に示した原因を取り除き、データ抽出ユーティリティを再実行してください。



データ連携支援が出力したメッセージの場合

理由コード一覧に示した原因を取り除き、データ連携支援を再実行してください。

【対策】メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0101	表の構造が不正です。	次の対策をしてください。
0102	表の列の構造が不正です。	<p>処理の対象がグループ管理表の場合</p> <p>UAP 履歴情報グループ名にグループ管理表ではない表名を指定していないか見直してください。</p> <p>処理の対象が履歴情報表の場合</p> <p>UAPTBL パラメタに履歴情報表ではない表名を指定していないか見直してください。</p> <p>処理の対象がPJ 管理表、またはPJ 突き合わせ表の場合</p> <p>PJID パラメタを見直してください。</p> <p>PJ 管理表、またはPJ 突き合わせ表が別の表であるおそれがあります。</p>
0201	表の注釈の内容が不正です。	<p>次の対策をしてください。</p> <p>処理の対象が履歴情報表の場合</p> <p>TBLTYPE パラメタ、またはUAPTBL パラメタを見直してください。</p> <p>TBLTYPE パラメタにONLINE を指定している場合、UAPTBL パラメタにリロード用履歴情報表を指定しているおそれがあります。</p> <p>TBLTYPE パラメタにRELOAD を指定している場合、UAPTBL パラメタに取得用履歴情報表、またはTP1/FSP の eeaphtblh コマンドで作成中の表をリロードした表を指定しているおそれがあります。</p> <p>処理の対象がPJ 管理表、またはPJ 突き合わせ表の場合</p> <p>PJID パラメタを見直してください。</p> <p>PJ 管理表、またはPJ 突き合わせ表が別の表であるおそれがあります。</p> <p>eeaphpjtblh コマンド以外で表を作成していないか確認してください。</p>
0301	表に格納されている行数が不正です。	保守員に連絡してください。
0302	表に格納されている値が不正です。	
0303	リロード用履歴情報表の最大履歴情報長が不正です。	<p>UAPTBL パラメタを見直してください。UAPTBL パラメタに異なるオンラインの履歴情報表を指定しているおそれがあります。</p> <p>または、リロード用履歴情報表を作成し直してください。</p> <p>TP1/FSP の eeaphrtblh コマンドの-z オプションに指定した最大履歴情報長とアンロード元の履歴情報表の最大履歴情報長が異なるおそれがあります。</p>
0401	表が未完成です。	UAP 履歴情報グループ名、UAPTBL パラメタ、またはPJID パラメタを見直してください。

理由コード	意味	対策
0401	表が未完成です。	TP1/FSP の eeaphgrph, eeaphtblh, または eeaphjtblh コマンドで作成中の表を指定している, または作成に失敗した表を指定しているおそれがあります。 リロード用履歴情報表の場合, TP1/FSP の eeaphrtblh コマンドで作成後, UAP 履歴情報をリロードしていない表を指定しているおそれがあります。
0402	PJ 突き合わせ表の拡張が未完了です。	PJID パラメタを見直してください。 TP1/FSP の eeaphjtblh コマンドに -x オプションを指定して作成中の表を指定している, または拡張に失敗した表を指定しているおそれがあります。
0501	表に格納されている値が不正です。	保守員に連絡してください。
9000	予期しない障害が発生しました。	

#### データ連携支援が出力したメッセージの場合

データ抽出ユーティリティの対策の, 「UAP 履歴情報グループ名」を「CONTROL 文の GRPNAME オペランド」に, 「UAPTBL パラメタ」を「TABLE 文の UAPTBL オペランド」に, 「PJID パラメタ」を「eeaphrunrksh コマンドの -k オプション」に, 「TBLTYPE パラメタ」を「CONTROL 文の TBLTYPE オペランド」に, 「eeaphjtblh」を「eersaphjtblh」に読み替えて実施してください。

#### KFSB52117-E

SQL 実行時にエラーが発生しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 対象 = bbbb, 理由コード = cccc, エラーコード = dd....dd, 詳細コード = ee....ee

An error occurred during SQL execution. UAP log information group name = aa....aa, object = bbbb, reason code = cccc, error code = dd....dd, detail code = ee....ee (P+L) (2) (NOS)

SQL 実行時にエラーが発生しました。

**aa....aa** : UAP 履歴情報グループ名

UAP 履歴情報グループ名が不明な場合は, \*を表示します。

**bbbb** : 処理の対象

0001 : 接続ハンドルの割り当て

0002 : 接続ハンドルの解放

**cccc** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**dd....dd** : SQL 実行時のエラーコード

理由コードが 0002 の場合は, \*を表示します。

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユティリティが出力したメッセージの場合

理由コード一覧に示した原因を取り除き、データ抽出ユティリティを再実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

理由コード一覧に示した原因を取り除き、データ連携支援を再実行してください。

**【対策】** 接続先の DBMS のバージョンが、TP1/EE が前提としているバージョンかどうか確認してください。バージョンが正しい場合は、理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	メモリが不足しています。	しばらく待ってから、再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。
0002	環境変数の設定に失敗しました。	OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。
9000	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB52118-E

UAP 履歴情報グループに UAP 履歴情報はありません。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa  
The UAP log information was not found in the UAP log information group. UAP log information group name = aa....aa (P+L) (3) (NOS)

UAP 履歴情報グループに UAP 履歴情報がないため、UAP 履歴情報を入力できません。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユティリティが出力したメッセージの場合

UAP 履歴情報が存在する履歴情報表を指定して、データ抽出ユティリティを実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

UAP 履歴情報が存在する履歴情報表を指定して、データ連携支援を実行してください。

**【対策】** メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユティリティが出力したメッセージの場合

UAP 履歴情報グループ名、UAPTBL パラメタ、TBLTYPE パラメタ、および PJID パラメタを見直してください。

作成後、一度もオンラインで使用していない履歴情報表を指定しているおそれがあります。

または、オンラインで使用した UAP 履歴情報グループのすべての取得用履歴情報表を削除したおそれがあります。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

CONTROL 文の GRPNAME オペランド、TABLE 文の UAPTBL オペランド、CONTROL 文の TBLTYPE オペランド、および eeaphrunrksh コマンドの -k オプションを見直してください。

作成後、一度もオンラインで使用していない履歴情報表を指定しているおそれがあります。

または、オンラインで使用した UAP 履歴情報グループのすべての取得用履歴情報表を削除したおそれがあります。

## KFSB52119-E

履歴情報表は U A P 履歴情報グループにありません。U A P 履歴情報グループ名 = aa....aa, 履歴情報表名 = bb....bb

The log information table was not found in the UAP log information group. UAP log information group name = aa....aa, log information table name = bb....bb (P+L) (3) (NOS)

- データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合  
UAPTBL パラメタに指定した履歴情報表は、UAP 履歴情報グループにありません。
- データ連携支援が出力したメッセージの場合  
TABLE 文の UAPTBL オペランドに指定した履歴情報表は、UAP 履歴情報グループにありません。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : 履歴情報表名

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

指定値を見直して、データ抽出ユーティリティを再実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

指定値を見直して、データ連携支援を再実行してください。

**【対策】** メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

UAP 履歴情報グループ名、UAPTBL パラメタ、TBLTYPE パラメタ、および PJID パラメタを見直してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

CONTROL 文の GRPNAME オペランド、TABLE 文の UAPTBL オペランド、CONTROL 文の TBLTYPE オペランド、および eeaphrunrksh コマンドの -k オプションを見直してください。

## KFSB52120-E

環境変数が不正です。環境変数名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

An environment variable is incorrect. environment variable name = aa....aa, reason code = bbbb (P+L) (2) (NOS)

環境変数に設定した内容が不正です。

aa....aa : 環境変数名

bbbb : 理由コード

0001 : パスの長さが不正です。

0002 : パスが不正です。次のおそれがあります。

- パスが存在しない。
- ディレクトリ名が長過ぎる。
- パスのアクセス権限がない。
- 解決する必要があるシンボリックリンクが多過ぎる。
- パスの構成要素がディレクトリではない。

0003 : パスはディレクトリではありません。

1001 : 選択値以外が設定されました。

2001 : SJIS が設定されていません。環境変数 CBLSYSLOG に YES を指定した場合は、SJIS を設定してください。

(S)処理を終了します。

(O)環境変数を見直して、データ抽出ユーティリティを再実行してください。

【対策】理由コードを見て環境変数を見直してください。

## KFSB52121-E

ルート世代番号の履歴情報表はありません。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, ルート世代番号 = bb....bb

The log information table for the root generation number was not found. UAP log information group name = aa....aa, root generation number = bb....bb (P+L) (3) (NOS)

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

RJSQ パラメタに指定したルート世代番号, RJSQ パラメタ省略時にデータ抽出ユーティリティが決定したルート世代番号, または再開情報のルート世代番号は, 検索範囲の履歴情報表にありません。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

CONTROL 文の ROOTJSQ オペランドに指定したルート世代番号, ROOTJSQ オペランド省略時にデータ連携支援が決定したルート世代番号, または再開情報のルート世代番号は, 検索範囲の履歴情報表にありません。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : ルート世代番号 (16 進表示)

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって, 次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユティリティが出力したメッセージの場合

指定値を見直して, データ抽出ユティリティを再実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

指定値を見直して, データ連携支援を再実行してください。

**[対策]** メッセージの出力元によって, 次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユティリティが出力したメッセージの場合

UAP 履歴情報グループ名, UAPTBL パラメタ, RJSQ パラメタ, および PJID パラメタを見直してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

CONTROL 文の GRPNAME オペランド, TABLE 文の UAPTBL オペランド, CONTROL 文の ROOTJSQ オペランド, および eeaphrunrksh コマンドの -k オプションを見直してください。

## KFSB52122-E

世代番号の履歴情報表はありません。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, ルート世代番号 = bb....bb, 世代番号 = cc....cc

The log information table for the generation number was not found. UAP log information group name = aa....aa, root generation number = bb....bb, generation number = cc....cc (P+L) (3) (NOS)

データ抽出ユティリティが出力したメッセージの場合

JSQ パラメタに指定した開始世代番号, または再開情報の世代番号は, 検索範囲の履歴情報表にありません。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

CONTROL 文の JSQ オペランドに指定した開始世代番号, または再開情報の世代番号は, 検索範囲の履歴情報表にありません。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : ルート世代番号 (16 進表示)

cc....cc : 世代番号 (16 進表示)

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユティリティが出力したメッセージの場合

指定値を見直して、データ抽出ユティリティを再実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

指定値を見直して、データ連携支援を再実行してください。

**【対策】** メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユティリティが出力したメッセージの場合

UAP 履歴情報グループ名, UAPTBL パラメタ, RJSQ パラメタ, JSQ パラメタ, および PJID パラメタを見直してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

CONTROL 文の GRPNAME オペランド, TABLE 文の UAPTBL オペランド, CONTROL 文の ROOTJSQ オペランド, CONTROL 文の JSQ オペランド, および eeaphrunrksh コマンドの-k オプションを見直してください。

## KFSB52124-E

累積データ通番の UAP 履歴情報はあります。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, ルート世代番号 = bb....bb, 累積データ通番 = cc....cc

The UAP log information for the accumulated data number was not found. UAP log information group name = aa....aa, root generation number = bb....bb, accumulated data number = cc....cc (P+L) (3) (NOS)

データ抽出ユティリティが出力したメッセージの場合

RANG パラメタに指定した開始累積データ通番は、検索範囲の UAP 履歴情報にありません。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

CONTROL 文の BLOCKNO オペランドに指定した開始累積データ通番は、検索範囲の UAP 履歴情報にありません。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : ルート世代番号 (16 進表示)

cc....cc : 累積データ通番 (16 進表示)

(S)処理を終了します。



(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

指定値を見直して、データ抽出ユーティリティを再実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

指定値を見直して、データ連携支援を再実行してください。

**[対策]** メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

UAP 履歴情報グループ名、UAPTBL パラメタ、RJSQ パラメタ、JSQ パラメタ、および RANG パラメタを見直してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

CONTROL 文の GRPNAME オペランド、TABLE 文の UAPTBL オペランド、CONTROL 文の ROOTJSQ オペランド、CONTROL 文の JSQ オペランド、および CONTROL 文の BLOCKNO オペランドを見直してください。

## KFSB52125-E

履歴情報表は読み込み不可能な状態です。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 履歴情報表名 = bb....bb, 世代番号 = cc....cc, 表の状態 = ddd

The log information table could not be loaded. UAP log information group name = aa....aa, log information table name = bb....bb, generation number = cc....cc, table status = ddd (P+L) (3) (NOS)

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

読み込みできない履歴情報表があるため、データ抽出ユーティリティを実行できません。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

読み込みできない履歴情報表があるため、データ連携支援を実行できません。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : 履歴情報表名

cc....cc : 世代番号 (16 進表示)

ddd : 表の状態

ACT : 現用

DCT : 閉塞中

ERR : 障害中

(S)処理を終了します。



(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユティリティが出力したメッセージの場合

指定値を見直して、データ抽出ユティリティを再実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

指定値を見直して、データ連携支援を再実行してください。

**【対策】** メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユティリティが出力したメッセージの場合

表の状態が ACT の場合は、PJCK パラメタで現用の履歴情報表を入力対象にするか、JSQ パラメタに読み込めない履歴情報表の世代番号を除いた範囲の世代番号を指定してください。

表の状態が DCT, または ERR の場合、JSQ パラメタに読み込めない履歴情報表の世代番号を除いた範囲の世代番号を指定してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

表の状態が ACT の場合は、保守員に連絡してください。

表の状態が DCT, または ERR の場合、CONTROL 文の JSQ オペランドに読み込めない履歴情報表の世代番号を除いた範囲の世代番号を指定してください。

## KFSB52126-E

P J 突合せ表 (A系, B系) から再開情報を決定できません。P J 引継ぎ情報名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

The checkpoint data from the PJ comparison tables A and B cannot be determined. PJ checkpoint information name = aa....aa, detail code = bb....bb (P+L) (3) (NOS)

データ抽出ユティリティが出力したメッセージの場合

PJ 突き合わせ表 (A系, B系) から最新の再開情報を決定できないため、データ抽出ユティリティを実行できません。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

PJ 突き合わせ表 (A系, B系) から最新の再開情報を決定できないため、データ連携支援を実行できません。

aa....aa : PJ 引き継ぎ情報名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB52127-E

P J 管理表の U A P 履歴情報グループ名と P J 突合せ表の U A P 履歴情報グループ名が不一致です。  
P J 管理表名 = aa....aa, P J 突合せ表名 = bb....bb, P J 管理表の U A P 履歴情報グループ名 = cc....cc, P J 突合せ表の U A P 履歴情報グループ名 = dd....dd

UAP log information group names in a PJ management table and a PJ comparison table do not match. PJ management table name = aa....aa, PJ comparison table name = bb....bb, UAP log information group name in the PJ management table = cc....cc, UAP log information group name in the PJ comparison table = dd....dd (P+L) (3) (NOS)

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

PJ 管理表の UAP 履歴情報グループ名と PJ 突き合わせ表の UAP 履歴情報グループ名が不一致のため、データ抽出ユーティリティを実行できません。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

PJ 管理表の UAP 履歴情報グループ名と PJ 突き合わせ表の UAP 履歴情報グループ名が不一致のため、データ連携支援を実行できません。

aa....aa : PJ 管理表名

bb....bb : PJ 突き合わせ表名

cc....cc : PJ 管理表の UAP 履歴情報グループ名

dd....dd : PJ 突き合わせ表の UAP 履歴情報グループ名

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB52128-E

P J 突合せ表は障害中です。P J 突合せ表名 = aa....aa

An error has occurred in a PJ comparison table. PJ comparison table name = aa....aa (P+L) (3) (NOS)

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

PJ 突き合わせ表が障害中のため、データ抽出ユーティリティを実行できません。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

PJ 突き合わせ表が障害中のため、データ連携支援を実行できません。

aa....aa : PJ 突き合わせ表名

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

PJ 突き合わせ表を再作成して、データ抽出ユーティリティを再実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

PJ 突き合わせ表を再作成して、データ連携支援を再実行してください。

**[対策]** メッセージの出力元によって、次のどちらかの対策をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

TP1/FSP の eeaphjtblh コマンドに-r オプションを指定して実行し、障害になった PJ 突き合わせ表を再作成してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

TP1/FSP の eerksaphjtblh コマンドに-r オプションを指定して実行し、障害になった PJ 突き合わせ表を再作成してください。

## KFSB52129-E

P J 突き合わせ表の引継ぎ履歴情報数が足りないため再開情報の書き込みができません。P J 突き合わせ表名 = aa....aa, 引継ぎ履歴情報数 = bb....bb, 必要な引継ぎ履歴情報数 = cc....cc

The checkpoint data cannot be written to a PJ comparison table because of an insufficient number of checkpoint log information in the table. PJ comparison table name = aa....aa, number of checkpoint log information = bb....bb, number of necessary checkpoint log information = cc....cc (P+L) (3) (NOS)

PJ 突き合わせ表の引き継ぎ履歴情報数が足りないため再開情報の書き込みができません。

aa....aa : PJ 突き合わせ表名

bb....bb : PJ 突き合わせ表の引き継ぎ履歴情報数

cc....cc : 再開情報の書き込みに必要な引き継ぎ履歴情報数

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

PJ 突き合わせ表の引き継ぎ履歴情報数を拡張して、データ抽出ユーティリティを再実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

PJ 突き合わせ表の引き継ぎ履歴情報数を拡張して、データ連携支援を再実行してください。

**【対策】** メッセージの出力元によって、次のどちらかの対策をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

TP1/FSP の eeaphjtblh コマンドに-x オプションを指定して実行し、PJ 突き合わせ表の引き継ぎ履歴情報数を拡張してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

TP1/FSP の eerksaphjtblh コマンドに-x オプションを指定して実行し、PJ 突き合わせ表の引き継ぎ履歴情報数を拡張してください。

## KFSB52131-E

内部関数で障害が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc, 詳細コード 4 = dd....dd

An error has occurred in an internal function. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc, detail code 4 = dd....dd (P+L) (1) (NOS)

内部関数で障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。このメッセージ以外にメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB52132-E

開始世代番号を決定できませんでした。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, ルート世代番号 = bb....bb

A starting generation number could not be determined. UAP log information group name = aa....aa, root generation number = bb....bb (P+L) (3) (NOS)

ルート世代番号の履歴情報表に世代番号がないため、開始世代番号を決定できませんでした。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : ルート世代番号 (16 進表示)

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

世代番号が設定された履歴情報表を指定して、データ抽出ユーティリティを実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

世代番号が設定された履歴情報表を指定して、データ連携支援を実行してください。

**【対策】** メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

UAP 履歴情報グループ名、UAPTBL パラメタ、および RJSQ パラメタを見直してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

CONTROL 文の GRPNAME オペランド、TABLE 文の UAPTBL オペランド、および CONTROL 文の ROOTJSQ オペランドを見直してください。

## KFSB52133-E

開始累積データ通番を決定できませんでした。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, ルート世代番号 = bb....bb

A starting accumulated data number could not be determined. UAP log information group name = aa....aa, root generation number = bb....bb (P+L) (3) (NOS)

ルート世代番号の履歴情報表に UAP 履歴情報がないため、開始累積データ通番を決定できませんでした。

**aa....aa** : UAP 履歴情報グループ名

**bb....bb** : ルート世代番号 (16 進表示)

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

UAP 履歴情報が存在する履歴情報表を指定して、データ抽出ユーティリティを実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

UAP 履歴情報が存在する履歴情報表を指定して、データ連携支援を実行してください。

**【対策】** メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

UAP 履歴情報グループ名、UAPTBL パラメタ、RJSQ パラメタ、および JSQ パラメタを見直してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

CONTROL 文の GRPNAME オペランド, TABLE 文の UAPTBL オペランド, CONTROL 文の ROOTJSQ オペランド, および CONTROL 文の JSQ オペランドを見直してください。

## KFSB52134-E

終了世代番号の履歴情報表まで読み込みました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, ルート世代番号 = bb....bb, 終了世代番号 = cc....cc

Loading proceeded to the log information table of the ending generation number. UAP log information group name = aa....aa, root generation number = bb....bb, ending generation number = cc....cc (P+L) (3) (NOS)

検索範囲に指定した終了世代番号の履歴情報表まで入力したため、PJ 引き継ぎ情報の再開情報から再開できません。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : ルート世代番号 (16 進表示)

cc....cc : 終了世代番号 (16 進表示)

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

指定値を見直すか、または PJ 引き継ぎ情報を再作成して、データ抽出ユーティリティを実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

指定値を見直すか、または PJ 引き継ぎ情報を再作成して、データ連携支援を実行してください。

**【対策】** メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

PJID パラメータを見直してください。または、TP1/FSP の eeaphpjtblrmh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を削除したあと、TP1/FSP の eeaphpjtblh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を再作成してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

eeaphrunksh コマンドの -k オプションを見直してください。または、TP1/FSP の eerksaphpjtblrmh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を削除したあと、TP1/FSP の eerksaphpjtblh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を再作成してください。

## KFSB52135-E

終了累積データ通番の UAP 履歴情報まで読み込みました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, ルート世代番号 = bb....bb, 終了累積データ通番 = cc....cc



```
Loading proceeded to the UAP log information of the ending accumulated data number. UAP
log information group name = aa....aa, root generation number = bb....bb, ending accumulated
data number = cc....cc    (P+L) (3) (NOS)
```

検索範囲に指定した終了累積データ通番の UAP 履歴情報まで入力したため、PJ 引き継ぎ情報の再開情報から再開できません。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : ルート世代番号 (16 進表示)

cc....cc : 終了累積データ通番 (16 進表示)

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

指定値を見直すか、または PJ 引き継ぎ情報を再作成して、データ抽出ユーティリティを実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

指定値を見直すか、または PJ 引き継ぎ情報を再作成して、データ連携支援を実行してください。

**[対策]** メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

PJID パラメタを見直してください。または、TP1/FSP の eeaphjtblrmh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を削除したあと、TP1/FSP の eeaphjtblh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を再作成してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

eeaphrunrksh コマンドの -k オプションを見直してください。または、TP1/FSP の eerksaphjtblrmh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を削除したあと、TP1/FSP の eerksaphjtblh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を再作成してください。

## KFSB52136-E

```
再開情報と履歴情報表の内容が不整合です。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, ルート世代番号
= bb....bb, 世代番号 = cc....cc, 累積データ通番 = dd....dd
```

```
The checkpoint data and log information table are inconsistent. UAP log information group
name = aa....aa, root generation number = bb....bb, generation number = cc....cc, accumulated
data number = dd....dd    (P+L) (3) (NOS)
```

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

PJID パラメタに指定された PJ 引き継ぎ情報の再開情報と履歴情報表の内容が合わないため、PJ 引き継ぎ情報の再開情報から再開できません。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

eeaphrunrksh コマンドの-k オプションに指定された PJ 引き継ぎ情報の再開情報と履歴情報表の内容が合わないため、PJ 引き継ぎ情報の再開情報から再開できません。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : ルート世代番号 (16 進表示)

cc....cc : 世代番号 (16 進表示)

dd....dd : 累積データ通番 (16 進表示)

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

指定値を見直すか、または PJ 引き継ぎ情報を再作成して、データ抽出ユーティリティを実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

指定値を見直すか、または PJ 引き継ぎ情報を再作成して、データ連携支援を実行してください。

**【対策】** メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

PJID パラメタに指定した PJ 引き継ぎ情報の再開情報は、別の履歴情報表に対する再開情報のおそれがあります。PJID パラメタ、TBLTYPE パラメタ、および UAPTBL パラメタを見直してください。または、必要に応じて、PJ 引き継ぎ情報をバックアップしたあと、TP1/FSP の eeaphpjtblrmh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を削除し、TP1/FSP の eeaphpjtblh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を再作成してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

eeaphrunrksh コマンドの-k オプションに指定した PJ 引き継ぎ情報の再開情報は、別の履歴情報表に対する再開情報のおそれがあります。eeaphrunrksh コマンドの-k オプション、CONTROL 文の TBLTYPE オペランド、および TABLE 文の UAPTBL オペランドを見直してください。または、必要に応じて、PJ 引き継ぎ情報をバックアップしたあと、TP1/FSP の eerksaphpjtblrmh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を削除し、TP1/FSP の eerksaphpjtblh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を再作成してください。

## KFSB52137-E

UAP 履歴情報グループの最大履歴情報長と PJ 引き継ぎ情報の最大履歴情報長が不一致です。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, PJ 引き継ぎ情報名 = bb....bb, UAP 履歴情報グループの最大履歴情報長 = cc....cc, PJ 引き継ぎ情報の最大履歴情報長 = dd....dd

The maximum log information length in a UAP log information group and a PJ checkpoint information do not match. UAP log information group name = aa....aa, PJ checkpoint



```
information name = bb...bb, maximum log information length in the UAP log information
group = cc...cc, maximum log information length in the PJ checkpoint information =
dd...dd (P+L) (3) (NOS)
```

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

UAP 履歴情報グループの最大履歴情報長と PJ 引き継ぎ情報の最大履歴情報長が不一致のため、データ抽出ユーティリティを実行できません。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

UAP 履歴情報グループの最大履歴情報長と PJ 引き継ぎ情報の最大履歴情報長が不一致のため、データ連携支援を実行できません。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb : PJ 引き継ぎ情報名

cc....cc : UAP 履歴情報グループの最大履歴情報長

dd....dd : PJ 引き継ぎ情報の最大履歴情報長

(S)処理を終了します。

(O)メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

指定値を見直すか、または PJ 引き継ぎ情報を再作成して、データ抽出ユーティリティを実行してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

指定値を見直すか、または PJ 引き継ぎ情報を再作成して、データ連携支援を実行してください。

**[対策]** メッセージの出力元によって、次のどちらかの処置をしてください。

データ抽出ユーティリティが出力したメッセージの場合

PJID パラメタに指定した PJ 引き継ぎ情報の再開情報は、別の履歴情報表に対する再開情報のおそれがあります。PJID パラメタを見直してください。または、必要に応じて、PJ 引き継ぎ情報をバックアップしたあと、TP1/FSP の eeaphjtblh コマンドの -z オプションに UAP 履歴情報グループの最大履歴情報長を指定して、PJ 引き継ぎ情報を再作成してください。

データ連携支援が出力したメッセージの場合

eeaphrunrksh コマンドの -k オプションに指定した PJ 引き継ぎ情報の再開情報は、別の履歴情報表に対する再開情報のおそれがあります。eeaphrunrksh コマンドの -k オプションを見直してください。または、必要に応じて、PJ 引き継ぎ情報をバックアップしたあと、TP1/FSP の eerksaphjtblh コマンドの -z オプションに UAP 履歴情報グループの最大履歴情報長を指定して、PJ 引き継ぎ情報を再作成してください。

## KFSB54301-E

RM未起動によりSDB情報を取得できませんでした。RM名称= aa....aa, 詳細情報= bb....bb  
SDB information could not be obtained because RM was not running. RM name = aa....aa,  
detail information = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

リソースマネージャが未起動のため、SDB情報を取得できませんでした。

**aa....aa** : リソースマネージャ名

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** リソースマネージャの状態を確認してください。リソースマネージャが起動している場合は、リソースマネージャが出力するメッセージログファイルを参照して、リソースマネージャの障害を取り除いてください。その後、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB54302-E

領域の確保に失敗しました。理由コード= aa....aa, 対象領域コード= bb....bb, 要求サイズ= cc....cc, 詳細コード= dd....dd

An attempt to allocate area has failed. reason code = aa....aa, target area code = bb....bb,  
request size = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

SDBハンドラが使用する領域の確保に失敗しました。

**aa....aa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : 対象領域コード

SDHRM : SDBハンドラ用リソースマネージャ管理テーブル

SDHDB : SDBハンドラ用データベース管理テーブル

SDHRE : SDBハンドラ用レコード管理テーブル

SDHCO : SDBハンドラ用構成要素管理テーブル

SDHKEY : SDBハンドラ用キー管理テーブル

SDHKEYL : SDBハンドラ用キーリスト管理テーブル

SDHIFT : SDBハンドラ用インタフェースエリアテンプレート

SDHRDAREA : SDBハンドラ用RDエリア名称管理テーブル

SDHWK : SDBハンドラ用メモリ管理テーブル

TMPBUF : 一時領域

SDHCMIA : SDB定義情報領域 (正)

SDHCMIB : SDB 定義情報領域 (副)

cc....cc : 領域確保要求サイズ (単位 : バイト)

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	対象領域コードに示す領域の追加確保に失敗しました。	メモリ関連定義の system_work_size オペランドの指定値, max_mem_size オペランドの指定値, および TP1/FSP の SDB ハンドラ関連定義の sdh_workmem_size オペランドの追加確保サイズの指定値を見直して, 再実行してください。
0002	TP1/FSP の SDB ハンドラ関連定義の sdh_workmem_size オペランドの追加確保サイズに 0 が指定されているため, 対象領域コードに示す領域を確保しませんでした。	sdh_workmem_size オペランドの追加確保サイズの指定値を見直して, 再実行してください。
0003	対象領域コードに示す領域の初期確保に失敗しました。	メモリ関連定義の max_mem_size オペランドの指定値, および TP1/FSP の SDB ハンドラ関連定義の sdh_workmem_size オペランドの初期確保サイズの指定値を見直して, TP1/EE を再起動してください。
0011 0012 0021	対象領域コードに示す領域の確保に失敗しました。	メモリ関連定義の system_work_size オペランドの指定値を見直して, TP1/EE を再起動してください。

## KFSB54303-E

処理キューの登録に失敗しました。理由コード = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

An attempt to register a processing queue has failed. reason code = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

SDB ハンドラ処理で処理キューの登録に失敗しました。

aa....aa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、TP/EE を再起動してください。

## KFSB54304-E

DML 実行時にエラーが発生しました。API 種別 = aa....aa, RM 名称 = bb....bb, SDB 名称 = cc....cc, レコード名称 = dd....dd, 要求種別 = ee....ee, 理由コード = ff....ff, DBMS メッセージ = gg....gg, SQLCODE = hh....hh, 詳細コード = ii....ii

An error occurred during DML execution. API type = aa....aa, RM name = bb....bb, SDB name = cc....cc, record name = dd....dd, requested type = ee....ee, reason code = ff....ff, DBMS message = gg....gg, SQLCODE = hh....hh, detail code = ii....ii (E+P+L) (2) (SUP)

DML 実行時にエラーが発生しました。

**aa....aa** : API 種別

INIT : イニシャライズ

STRT : 個別開始

ACCS : DB アクセス

CLAR : 一括削除

REFS : システム構成表示

FNSH : 個別終了

\* : その他

**bb....bb** : リソースマネージャ名

**cc....cc** : SDB 名称

「SDB 名称 (DB 種別)」の形式で表示します。

SDB 名称がない場合は、\*を表示します。

DB 種別には次に示す項目を表示します。

FMB

FMB\_R (ルートレコード)

FMB\_S (子レコード)

DAM

MAM

TAM

SAM

**dd....dd** : レコード名称

要求レコードが一つの場合は、レコード名称を表示します。

DB 対応エントリの場合は、\$DBENTRY と表示します。

複数要求された場合やレコード名称がない場合は、\*を表示します。

ee....ee：要求種別

FTCH：検索

STOR：格納

MODF：変更

ERAS：削除

CLAR：一括削除

LCAP：キーの容量表示

FTCA：複数レコードの検索

\*：その他

ff....ff：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

gg....gg：DBMS のエラーメッセージ

hh....hh：DML 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

ii....ii：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	HiRDB で DML 実行エラーが発生しました。	DBMS のエラーメッセージを参照して原因を取り除いてください。
0002	HiRDB/SD が前提バージョン未満のため、DML 実行エラーが発生しました。	HiRDB クライアント、および HiRDB サーバのバージョンを確認してください。
00ff	その他のエラーが発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB54305-E

SDBハンドラのAPIが失敗しました。API種別 = aa....aa, SDB名称 = bb....bb, レコード名称 = cc....cc, 要求種別 = dd....dd, 理由コード = ee....ee, 情報1 = ff....ff, 情報2 = gg....gg, 情報3 = hh....hh, 詳細コード = ii....ii

An SDB handler API has failed. API type = aa....aa, SDB name = bb....bb, record name = cc....cc, requested type = dd....dd, reason code = ee....ee, information 1 = ff....ff, information 2 = gg....gg, information 3 = hh....hh, detail code = ii....ii (E+P+L) (2) (SUP)

SDB ハンドラの関数が失敗しました。

**aa....aa** : 関数種別

INIT : イニシャライズ

STRT : 個別開始

ACCS : DB アクセス

CLAR : 一括削除

REFS : システム構成表示

FNSH : 個別終了

**bb....bb** : SDB 名称

「SDB 名称 (DB 種別)」の形式で表示します。

SDB 名称がない場合は, \*を表示します。

DB 種別には次に示す項目を表示します。

FMB

FMB\_R (ルートレコード)

FMB\_S (子レコード)

DAM

MAM

TAM

SAM

**cc....cc** : レコード名称

DB 対応エントリの場合は, \$DBENTRY と表示します。

レコード名称がない場合は, \*を表示します。

**dd....dd** : 要求種別

FTCH : 検索

STOR : 格納

MODF : 変更

ERAS : 削除

CLAR : 一括削除

LCAP : キーの容量表示

FTCA : 複数レコードの検索

NNNN : 処理済み

\* : その他

**ee....ee** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**ff....ff** : 情報 1

gg....gg : 情報 2

hh....hh : 情報 3

理由コードごとの情報 1, 情報 2, および情報 3 の設定値を表に示します。

ii....ii : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	SDB ハンドラ機能が無効になっています。	TP1/FSP の SDB ハンドラ関連定義の sdh_use オペランドを見直し, TP1/EE を再起動してください。
1001	条件式の識別記号が不正です。	条件式を見直してください。
1011	条件式の構成要素名称が不正です。	
1012	条件ブロックの指定順序が不正です。	
1013	キー条件ブロックの上限数を超過しました。	
1014	条件ブロックの上限数を超過しました。	
1015	条件式の比較記号が不正です。	
1016	条件式の論理式または接続記号が不正です。	
1017	条件ブロック数が 0 です。	
1018	条件式の終了記号が不正です。	
1019	DB 対応エントリにキー以外の条件を指定しています。	
1031	構成要素の識別記号が不正です。	構成要素指定を見直してください。
1032	DB 対応エントリで構成要素指定エリアアドレスを指定しています。	
1041	構成要素名称が不正です。	
1042	同一の構成要素名称を指定しています。	
1043	構成要素名称数が 0 です。	
1051	構成要素番号数が不正です。	
1052	構成要素番号が不正です。	
1053	構成要素番号の指定順序が不正です。	
1054	構成要素番号指定の終了記号が不正です。	
1061	アクセス用エントリリストの形式が不正です。	アクセス用エントリリストを見直してください。

理由コード	意味	対策
1062	アクセス用エン트리リストのエン트리数が不正です。	アクセス用エン트리リストを見直してください。
1063	アクセス用エン트리リストの要求コードが未設定、または複数エン트리から同一のインタフェースエリアエントリを指定しています。	
1064	アクセス用エン트리リストのエントリ間で要求コードが不一致です。	アクセス用エン트리リストに指定した各エントリの要求コードを見直してください。
1065	インタフェースエリアのエントリ要求数が不正です。	インタフェースエリア指定値を見直してください。
1066	インタフェースエリアのエントリ間で要求コードが不一致です。	
1071	インタフェースエリアヘッダの識別子に指定した値が不正です。	
1072	インタフェースエリア内のデータベース名称に対応するインタフェースエリアテンプレートはありません。	
1073	インタフェースエリアヘッダのデータベース名称長がインタフェースエリアテンプレートと不一致です。	
1074	インタフェースエリアヘッダのデータベース名称がインタフェースエリアテンプレートと不一致です。	
1075	インタフェースエリアヘッダの指定値が不正です。	
1076	インタフェースエリアヘッダ指定値が個別開始時に指定した値と不一致です。	
1077	インタフェースエリアヘッダのパラメタの組み合わせが不正です。	
1078	DB 名称長が不正です。	
1081	インタフェースエリアエントリに指定した値が不正です。	
1082	インタフェースエリアエントリ指定値が検索または格納時と不一致です。	
1083	インタフェースエリアエントリ指定値のパラメタの組み合わせが不正です。	
1084	DB 対応エントリに指定できない条件コードを指定しました。	
1085	関数に指定した要求コードが不正です。	



理由コード	意味	対策
1086	一連番号に 0 以下を指定しています。	インタフェースエリア指定値を見直してください。
1087	参照モードで個別開始しています。	
1088	ダイレクトアクセス情報が不正です。	
1089	移行用ダイレクトアクセス情報内の一連番号に 0 を指定しています。	
1090	DB 対応エントリ指定を使用できない要求コードです。	
1091	システム構成表示（キーの容量）のエントリ数に 0 以下を指定しています。	
2001	対象データベースには%ENTRY の指定はできません。	
2002	対象データベースには指定できない要求コードです。	
2003	対象データベースには指定できないパラメタの組み合わせです。	
2004	対象データベースには指定できないパラメタ値です。	
2005	DB 対応エントリを使用できない DB 種別です。	
2101	MAM/TAM でデータが終端以外に格納されました。	
3001	ユーザキーが定義されていません。	
3002	レコード分割キーが定義されていません。	
3003	不正なレコード分割キーが指定されています。	
3005	DBKEY サイズは 0 ですが、条件コードに K を指定しています。	
3006	USER ポインタが定義されていないレコードですが、データ格納エリアの指定がありません。	
3007	%ENTRY が指定できる SDB データベース定義（キー種別）ではありません。	
3008	%ENTRY が指定できる SDB データベース定義（キーサイズ）ではありません。	
3009	%ENTRY が指定できる SDB データベース定義（キー構成）ではありません。	
3010	複数レコード型が定義されている SDB の DB 対応エントリに、%ENTRY を指定しています。	

理由コード	意味	対策
3020	RD エリア名称の指定がなく、かつ基点となる条件の指定もありません。	環境変数または個別開始で店群順にアクセスする RD エリア名称を指定するか、または基点となる条件を指定して検索してください。
3021	RD エリア名称のサイズが不正です。	指定した RD エリア名称を確認してください。
4001	個別開始していません。	個別開始を実行してください。
4002	指定されたインタフェースエリアは、すでに個別開始しています。	個別開始していないインタフェースエリアを指定して個別開始してください。
4003	オン中 SDB 定義変更によって正副切り替え済みですが、古いインタフェースエリアを使用しています。	最新のユーザ公開テーブルの読み込みを行ってください。
5001	ワークメモリが不足しました。	メモリ関連定義の system_work_size オペランドの追加確保サイズの指定値を見直してください。

理由コードごとの情報 1、情報 2、および情報 3 の設定値を次に示します。

値を設定しない項目は、\*を表示します。

理由コード	情報 1	情報 2	情報 3
0001	*	*	*
1001	条件式の条件式識別子に設定した値	*	*
1011	条件式に指定した構成要素名	*	*
1012	条件式に指定した構成要素名	*	*
1013	条件式に指定した構成要素名	*	*
1014	条件式に指定した構成要素名	*	*
1015	条件式に指定した比較記号	*	*
1016	条件式に指定した論理式または比較記号	*	*
1017	*	*	*
1018	条件式に指定した終了記号	*	*
1019	条件式に指定した構成要素名	*	*
1031	構成要素指定に指定した識別記号	*	*
1032	IER-COM-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
1041	構成要素指定に指定した構成要素名	*	*
1042	構成要素指定に指定した構成要素名	*	*

理由コード	情報 1	情報 2	情報 3
1043	*	*	*
1051	構成要素指定に指定した構成要素数	*	*
1052	構成要素指定に指定した構成要素番号	*	*
1053	構成要素指定に指定した構成要素番号を「X_Y」の形式で表示。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• X：一つ前の構成要素番号</li> <li>• Y：構成要素番号</li> </ul>	*	*
1054	構成要素指定に指定した終了記号	*	*
1061	アクセス用エントリリストに指定した指定値	*	*
1062	アクセス用エントリリストに指定したエントリ数	*	*
1063	*	*	*
1064	インタフェースエリアエントリ部に指定した要求コードを「XXXX_XXXX」の形式で表示。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• XXXX：FTCH, STOR, MODF, ERAS, または LCAP</li> </ul>	*	*
1065	インタフェースエリアのエントリ要求数	*	*
1066	インタフェースエリアのエントリ部に指定した要求コードを「XXXX_XXXX」の形式で表示。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• XXXX：FTCH, STOR, MODF, ERAS, または LCAP</li> </ul>	*	*
1071	インタフェースエリアヘッダ識別子に指定した値	*	*
1072	*	*	*
1073	IHM-DB-NM-SZ	指定した SDB 名称サイズ	*
1074	IHR-SP-DB-NM	指定した SDB 名称	*
	IHM-DB-NM	指定した SDB 名称	*
1075	IHR-FUNC-CD	指定値	*
	IHR-R-CD-1	指定値	*
	IHR-R-CD-2	指定値	*
	IHR-R-CD-3	指定値	*
	IHR-R-CD-4	指定値	*
	IHR-A-MD-1	指定値	*
	IHR-A-MD-2	指定値	*
	IHR-A-MD-3	指定値	*
IHR-A-MD-4	指定値	*	

理由コード	情報 1	情報 2	情報 3
1075	IHR-E-MD-1	指定値	*
	IHR-E-MD-2	指定値	*
	IHR-E-MD-3	指定値	*
	IHR-E-MD-4	指定値	*
	IHR-DT-AR-FM	指定値	*
	IHR-TB-CF-MD	指定値	*
	IHR-B-CND-O	指定値	*
	IHR-F-ALL-O	指定値	*
	IHR-O-CD-4	指定値	*
	IHR-O-CD-5	指定値	*
	IHR-O-CD-6	指定値	*
	IHR-O-CD-7	指定値	*
	IHR-O-CD-8	指定値	*
	IHR-DB-EL-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
	IHR-SC-D-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
	IHR-M-KEY-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
	IHR-TB-SZ	指定値	*
	IHR-SP-DB-NM-SZ	指定値	*
	IHR-DBKEY-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
IHR-RDA-NM-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*	
IHR-RDA-NM-SZ	指定値	*	
1076	IHR-FUNC-CD	指定値	*

理由コード	情報 1	情報 2	情報 3
1076	IHR-R-CD-1	指定値	*
	IHR-R-CD-2	指定値	*
	IHR-R-CD-3	指定値	*
	IHR-R-CD-4	指定値	*
	IHR-A-MD-1	指定値	*
	IHR-A-MD-2	指定値	*
	IHR-A-MD-3	指定値	*
	IHR-A-MD-4	指定値	*
	IHR-E-MD-1	指定値	*
	IHR-E-MD-2	指定値	*
	IHR-E-MD-3	指定値	*
	IHR-E-MD-4	指定値	*
	IHR-DT-AR-FM	指定値	*
	IHR-TB-CF-MD	指定値	*
	IHR-B-CND-O	指定値	*
	IHR-F-ALL-O	指定値	*
	IHR-O-CD-4	指定値	*
	IHR-O-CD-5	指定値	*
	IHR-O-CD-6	指定値	*
	IHR-O-CD-7	指定値	*
	IHR-O-CD-8	指定値	*
	IHR-DB-EL-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
	IHR-SC-D-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
	IHR-M-KEY-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
IHR-TB-SZ	指定値	*	

理由コード	情報 1	情報 2	情報 3
1076	IHR-SP-DB-NM-SZ	指定値	*
	IHR-DBKEY-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
	IHR-RDA-NM-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
	IHR-RDA-NM-SZ	指定値	*
1077	IHR-R-CD-1_IHR-A-MD-1	それぞれに指定した値を「X_Y」の形式で表示。 • X：要求コード 1 指定値 • Y：アクセスモード 1 指定値	*
	IHR-R-CD-1_IHR-SP-DB-NM-SZ	それぞれに指定した値を「X_Y」の形式で表示。 • X：要求コード 1 指定値 • Y：データベース名称サイズ指定値	*
	IHR-R-CD-1_IHR-DBKEY-ADR	それぞれに指定した値を「X_Y」の形式で表示。 • X：要求コード 1 指定値 • Y：NULL または NOTNULL NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
	IHR-E-MD-1_IHR-A-MD-1	それぞれに指定した値を「X_Y」の形式で表示。 • X：排他モード 1 指定値 • Y：アクセスモード 1 指定値	*
	IHR-TB-CF-MD_IHR-RDA-NM-ADR_IHR-RDA-NM-SZ	それぞれに指定した値を「X_Y_Z」の形式で表示。 • X：店番限定有無指定値 • Y：NULL または NOTNULL NULL：指定なし NOTNULL：指定あり • Z：RD エリア名称格納エリアサイズ指定値	*
1078	IHR-SP-DB-NM-SZ	指定値	*
1081	IER-REQ-CD	指定値	*
	IER-AS-CD	指定値	*

理由コード	情報 1	情報 2	情報 3
1081	IER-SC-CD	指定値	*
	IER-CND-CD	指定値	*
	IER-USR-P-AS-O	指定値	*
	IER-LM-AS-O	指定値	*
	IER-ST-AD-O	指定値	*
	IER-PG-SW-O	指定値	*
	IER-PCTF-O	指定値	*
	IER-2ND-SUSP-O	指定値	*
	IER-O-CD-6	指定値	*
	IER-O-CD-7	指定値	*
	IER-MIGR-I-FL	指定値	*
	IER-CND-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
	IER-COM-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
	IER-USR-DT-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
	IER-USR-DT-SZ	指定値	*
IER-SERNO	指定値	*	
1082	IER-REQ-CD	指定値	*
	IER-AS-CD	指定値	*
	IER-SC-CD	指定値	*
	IER-CND-CD	指定値	*
	IER-USR-P-AS-O	指定値	*
	IER-LM-AS-O	指定値	*
	IER-ST-AD-O	指定値	*
	IER-PG-SW-O	指定値	*
	IER-PCTF-O	指定値	*

理由コード	情報 1	情報 2	情報 3
1082	IER-2ND-SUSP-O	指定値	*
	IER-O-CD-6	指定値	*
	IER-O-CD-7	指定値	*
	IER-MIGR-I-FL	指定値	*
	IER-CND-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
	IER-COM-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
	IER-USR-DT-ADR	NULL または NOTNULL を表示。 NULL：指定なし NOTNULL：指定あり	*
	IER-USR-DT-SZ	指定値	*
	IER-SERNO	指定値	*
1083	IER-CND-CD_IER-CND-ADR	それぞれに指定した値を「X_NULL」の形式で表示。 • X：条件コード • NULL：指定なし	*
	IER-USR-DT-ADR_IER-USR-DT-SZ	それぞれに指定した値を「X_Y」の形式で表示。 • X：NULL または NOTNULL NULL：指定なし NOTNULL：指定あり • Y：データ格納サイズ	*
1084	IER-CND-CD	指定値	*
1085	IER-REQ-CD	指定値 FTCH, STOR, MODF, ERAS, または LCAP	*
1086	IER-SERNO	指定値	*
1087	IHR-A-MD-1	指定値	*
1088	IEO-ROW-ID	指定値	*
1089	IEO-MIGR-DA-I	指定値	*
1090	IER-REQ-CD	指定値	*



理由コード	情報 1	情報 2	情報 3
1091	指定エントリ数	*	*
2001	*	*	*
2002	*	*	*
2003	IER-AS-CD_IER-SC-CD	それぞれの値を「X_Y」の形式で表示。 • X：指示コード • Y：条件コード	*
	IHR-R-CD-1_IHR-SP-DB-NM	それぞれの値を「X_Y」の形式で表示。 • X：要求コード 1 指定値 • Y：データベース名称	*
2004	IER-COM-ADR	指定値	*
	IER-CND-CD	指定値	*
	IER-LM-AS-O	指定値	*
	IER-USR-P-AS-O	指定値	*
2005	'F'：FMB	*	*
2101	追加した一連番号	*	*
3001	*	*	*
3002	IHR-DBKEY-ADR	*	*
	IEK-KEY-SR-AR	*	*
3003	IHR-DBKEY-ADR	*	*
	IEK-KEY-SR-AR	*	*
3005	IER-CND-CD	指定値	*
3006	*	*	*
3007	DBKEY を構成する先頭構成要素のデータ種別 2 の値	*	*
3008	DBKEY を構成する先頭構成要素サイズ	*	*
3009	DBKEY の構成要素数	*	*
3010	「X_Y」の形式で表示。 • X：DBKEY の構成要素数 • Y：DBKEY を構成する先頭構成要素のキー定義数	*	*
3020	「A_B_C_D_E」の形式で表示。 • A：次の SDB 種別	*	*

理由コード	情報 1	情報 2	情報 3
3020	F : FMB D : DAM • B : 次の店群構成 Y : 店群 N : 非店群 • C : 次の RD エリア名称の指定有無 0x00 : 指定なし 0x01 : 指定あり • D : 指示コードの値 • E : 条件コードの値	*	*
3021	IHR-RDA-NM-ADR	「RD エリア名称 (RD エリア名称サイズ)」の形式で表示。 RD エリア名称サイズが 32 バイトより長い場合は、33 バイト以降を「...」と表示。 RD エリア名称が 0 バイトの場合は、* (0) を表示。	*
4001	*	*	*
4002	*	*	*
4003	ユーザが指定したインターフェースエリア内の通番	DB ハンドラ内部の通番	*
5001	ワークメモリから確保しようとしたサイズ	*	*

## KFSB54306-E

オン中 S D B 定義変更が失敗しました。要求種別 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 要求サイズ = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

An attempt to modify the online SDB definition has failed. request type = aa....aa, reason code = bb....bb, request size = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

オン中 S D B 定義変更が失敗しました。

**aa....aa** : 要求種別

GET : SDB 定義情報の事前取得

SWITCH : SDB 定義情報の正副切り替え

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cc....cc** : 要求サイズ (単位 : バイト)

理由コード「2001」の場合、追加確保に失敗したサイズを出力します。

理由コード「2001」以外の場合、「\*」を出力します。

dd...dd：詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	SQL エラーが発生しました。	直前に出力された KFSB54304-E メッセージを基に障害を取り除き、コマンドを再実行してください。
0002	HiRDB/SD が未起動の為、SDB 定義情報の取得ができませんでした。	直前に出力された KFSB54304-E メッセージを基に HiRDB/SD の状態を確認し、コマンドを再実行してください。
1001	SDB 定義情報の事前取得によって取得した SDB 表数が 0。	HiRDB/SD の常駐 SDB ディレクトリ情報を見直し、コマンドを再実行してください。
1002	TP1/EE 起動時は対象だった SDB 定義情報が、事前取得によって取得すると SDB 表数が 0。	HiRDB/SD の常駐 SDB ディレクトリ情報を見直し、コマンドを再実行してください。
1003	HiRDB/SD が前提バージョン未満のため、SDB 定義情報の取得ができませんでした。	HiRDB クライアント、および HiRDB サーバのバージョンを確認してください。
2001	SDB 定義情報格納領域の追加確保に失敗しました。	不要プロセス終了などによって OS の空きメモリを増やし、コマンド再実行してください。
2002	PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、TP/EE を再起動してください。
3001	SDB 定義情報の事前取得中に、再度、SDB 定義情報の事前取得を要求しました。	直前に実行した SDB 定義情報の事前取得が完了後、必要であれば、コマンドを再実行してください。
3102	SDB 定義情報の事前取得中に、SDB 定義情報の正副切り替えを要求しました。	SDB 定義情報の事前取得が完了後、コマンドを再実行してください。
3103	トランザクション静止化していない状態で、SDB 定義情報の正副切り替えを要求しました。	トランザクション静止化を行い、本コマンドを再実行してください。
3104	SDB 定義情報の正副切り替え時にステータスファイルへの書き込みに失敗しました。	ステータスファイルに異常がないか調査してください。
4101	SDB 定義情報領域（副）がない、かつ、-z オプションなしで、SDB 定義情報の正副切り替えを要求しました。	すでに SDB 定義情報の正副切り替えを実施済みの場合は、-z オプションを指定し、コマンドを再実行してください。 SDB 定義情報の正副切り替えを実施していない場合は、SDB 定義情報の事前取得を実施後、コマンドを再実行してください。

理由コード	意味	対策
4102	SDB 定義情報領域（副）の取得日時が、SDB 定義情報領域（正）の取得日時より古い状態で、SDB 定義情報の正副切り替えを要求した。	古い SDB 定義情報への戻しを行う場合は、-f オプションを指定し、コマンドを再実行してください。
上記以外	オン中 SDB 定義変更が失敗しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB54307-E

コマンドの他ノード実行で障害が発生しました。要求種別 = aa....aa, ノード情報 = bbbb(cccc:dd....dd)[:bbbb(cccc:dd....dd)...]

An error occurred in the execution of a command on the other node. request type = aa....aa, node information = bbbb(cccc:dd....dd)[:bbbb(cccc:dd....dd) ...] (E+P+L) (2) (SUP)

コマンドの他ノード実行で障害が発生しました。出力されるノード識別子に\*\*\*\*が表示された場合は、コマンドを受け付けたノードの障害を示します。このメッセージのノード情報は1度に5個まで出力されません。そのため、失敗したノードが5個を超える場合にはこのメッセージが複数回出力されます。

aa....aa：要求種別

GET：SDB 定義情報の事前取得

SWITCH：SDB 定義情報の正副切り替え

bbbb(cccc:dd....dd)：ノード情報

障害が発生したノードの情報

bbbb：ノード識別子

cccc：理由コード

dd....dd：詳細情報

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。対策できない場合は保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
7000 7100	実行サーバが存在しません。	-o オペランドで指定したサービスグループの指定値を見直し、実行サーバが起動されている事を確認してください。起動されている場合は、実行サーバ側で次のオペランドが設定されていることを確認してください。 • name_use=Y
7001 7101	実行サーバへの RPC 発行が失敗しました。	指示サーバの TP1/EE のメッセージログファイルに出力されているメッセージがある場合はその原因を取り除いてください。

理由コード	意味	対策
7002 7102	実行サーバからの応答がタイムアウトしました。	ネットワークの状態または実行サーバの状態を確認してください。
7004 7104	実行サーバの TP1/EE サービス定義が不正です。	実行サーバの TP1/EE サービス定義に以下を設定しているか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• fsp_use=Y</li> <li>• sdh_use=Y</li> <li>• sdh_redef_use=Y</li> </ul>
7005 7105	システムエラーが発生しました。	実行サーバの TP1/EE サービス定義の fsp_use オペランドの指定値を見直してください。 また、実行サーバの TP1/EE のバージョンが古い可能性があります。
7006 7106	実行サーバ側で PCE 不足が発生しました。	時間をおいてから、再度コマンド実行してください。
8001	実行サーバ側の TP1/EE サービス定義が不正です。	実行サーバの TP1/EE サービス定義に以下を設定しているか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• fsp_use=Y</li> <li>• sdh_use=Y</li> <li>• sdh_redef_use=Y</li> </ul>
8002	実行ノード側で指定時間内に処理が完了しませんでした。	実行サーバの状態を確認してください。
上記以外 (0XXX~6XXX)	実行サーバで、オン中 SDB 定義変更が失敗しました。	このメッセージの理由コードとして、KFSB54306-E の理由コードが出力されます。実行サーバの KFSB54306-E メッセージを基に障害を取り除き、コマンドを再実行してください。

## KFSB54370-E

領域の確保に失敗しました。詳細コード = aa....aa

An attempt to allocate area has failed. detail code = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

SDBハンドラコマンド処理で、作業領域の確保に失敗しました。

aa....aa : 詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)該当するコマンドの処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB54371-E

通信障害が発生しました。詳細コード = aa....aa

A communication error has occurred. detail code = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

SDBハンドラコマンド処理で、通信障害が発生しました。

aa....aa：詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)該当するコマンドの処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB54375-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード = aa....aa

An internal conflict has occurred. detail code = aa....aa (E+P+L) (3) (SUP)

SDBハンドラコマンド処理で、TP1/EE で予期しない障害が発生しました。

aa....aa：詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)該当するコマンドの処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB55002-E

コマンド制御の受信処理でエラーが発生しました。詳細コード = aa....aa

An error occurred during receive processing for command control. detail code = aa....aa  
(E+P+L) (2) (SUP)

コマンドからのメッセージ受信処理で障害が発生しました。

aa....aa：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB55003-E

コマンド制御の送信処理でエラーが発生しました。詳細コード = aa....aa

An error occurred during transmit processing for command control. detail code = aa....aa  
(E+P+L) (2) (SUP)

コマンドへのメッセージ送信処理で障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** コマンドがタイムアウトしていないか、またはコマンドを強制終了していないか確認してください。どちらにも当てはまらない場合は保守員に連絡してください。

#### KFSB55004-E

メモリ不足が発生しました。メモリ種別 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb  
Memory is insufficient. memory type = aa....aa, required size = bb....bb (E+P+L) (2)  
(SUP)

コマンド制御処理でメモリを確保できませんでした。

aa....aa : 要求したメモリ種別

CIBF : コマンド IBF

COBF : コマンド OBF

IBF : 受信バッファ

OBF : 送信バッファ

WORK : ワークセグメント

bb....bb : 確保しようとしたメモリのサイズ (単位: バイト)

(S)処理を続行します。

(O)aa....aa に出力されたメモリ種別によって、次の対策をしてください。

メモリ種別が IBF, OBF, WORK の場合

しばらくしてからコマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

メモリ種別が上記以外の場合

OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 次の表を見て対策してください。

メモリ種別	対策
IBF	メモリ関連定義の recv_message_buf_cnt オペランドの指定値 (受信バッファ面数) を見直して、再実行してください。

メモリ種別	対策
OBF	メモリ関連定義の send_message_buf_cnt オペランドの指定値（送信バッファ面数）を見直して、再実行してください。
WORK	メモリ関連定義の system_work_size オペランドの指定値（システムワーク領域最大サイズ）を増やして、再実行してください。
上記以外	保守員に連絡してください。

## KFSB55005-E

受信データの一部が失われました。詳細コード = aa....aa

Part of the received data was lost. detail code = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

コマンドからの受信データに設定したメッセージサイズ分のデータを受信できませんでした。コマンドからの要求に対して処理を実行しません。

**aa....aa** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB55006-E

不正な電文を受信しました。詳細コード = aa....aa

An invalid message was received. detail code = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

コマンドからの受信データに設定したメッセージサイズと、受信データサイズが一致しません。

**aa....aa** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB55007-E

電文バージョン不正が発生しました。詳細コード = aa....aa

A message version error occurred. detail code = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

コマンドから受信したメッセージが、処理できる形式ではありません。



aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** コマンドの環境変数 DCDIR を確認してください。

#### KFSB55009-E

受信電文サイズがシステム用バッファ領域より大きいので処理できません。詳細コード = aa....aa  
The received message cannot be processed because it is larger than the system buffer area.  
detail code = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

受信メッセージを格納する領域より大きいサイズのメッセージをコマンドから受信しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/EE のコマンド (eesvstart コマンドを除く) を実行していない場合にこのメッセージが出力されたときは、コマンド用ポートで不正なメッセージを受信したおそれがあります。

プロセス関連定義の cmd\_port オペランドの設定内容に誤りがないか、およびコマンド用ポートに対してメッセージを送信しているプロセスがないかを確認してください。

TP1/EE のコマンド (eesvstart コマンドを除く) を実行した場合にこのメッセージが出力されたときは、保守員に連絡してください。

#### KFSB55011-E

コマンド制御で障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaa, 詳細コード 2 = bb....bb  
A command control error occurred. detail code 1 = aaaa, detail code 2 = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

コマンド制御で障害が発生しました。

aaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB55012-E

ユーザコマンドトランザクションの応答パラメタが不正です。サービス名 = aa....aa, 理由コード 1 = bbbb, 理由コード 2 = cc....cc

The response parameter of the user command transaction is invalid. service name = aa....aa, reason code 1 = bbbb, reason code 2 = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

ユーザコマンドトランザクションの応答パラメタが不正です。

aa....aa : サービス名

bbbb : 理由コード 1

cc....cc : 理由コード 2

理由コード 1, 理由コード 2 の意味と対策を表に示します。

(S) 応答パラメタを破棄し, 処理を続行します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード 1	理由コード 2	意味	対策
0001	応答パラメタ長	ユーザコマンドトランザクションの応答パラメタ長が不正です。	ユーザコマンドトランザクションの応答パラメタ長を見直してください。
0002	exit コード値	ユーザコマンドトランザクションの応答パラメタに不正な exit コードを設定しています。	ユーザコマンドトランザクションの応答パラメタの exit コードを見直してください。

## KFSB55013-E

ユーザコマンドトランザクションの転送処理で障害が発生しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 理由コード 1 = cccc, 理由コード 2 = dd....dd

An error occurred during transfer of a user command transaction. service group name = aa....aa, service name = bb....bb, reason code 1 = cccc, reason code 2 = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

ユーザコマンドトランザクションの転送処理で障害が発生しました。

aa....aa : ユーザコマンドトランザクション実行先サービスグループ名

bb....bb : サービス名

cccc : 理由コード 1

dd....dd : 理由コード 2

理由コード 1, 理由コード 2 の意味と対策を表に示します。

(S)他ノードでのユーザコマンド処理を中止し、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード 1	理由コード 2	意味	対策
0200	0	応答がタイムアウトしました。	TP1/FSP の eeucmd コマンドの-t オプションの指定値、およびユーザコマンドトランザクション実行先ノードの状態を確認して、コマンドを再実行してください。
0201	0	指定したサービス名が見つかりません。	正しいサービス名を指定して、コマンドを再実行してください。
0202	0	指定したサービスは閉塞中です。	サービスの閉塞状態を確認して、コマンドを再実行してください。
0203	0	ユーザコマンドトランザクションがロールバック決着しました。またはコミット処理に失敗しました。	ユーザコマンドトランザクションの状態を確認してください。
0204	整数値	他ノードへのコマンド転送処理で通信障害が発生しました。 理由コード 2 は ee_rpc_call 関数のリターン値を意味します。	ユーザコマンドトランザクション実行先ノードの状態を確認して、コマンドを再実行してください。
0205	0	コマンド転送先のノードの TP1/FSP オプションが無効です。	ユーザコマンドトランザクション実行先ノードの状態を確認して、コマンドを再実行してください。
0210	0	指定したサービスグループ名が見つかりません。	正しいサービスグループ名を指定して、コマンドを再実行してください。

## KFSB55014-E

不正な電文を受信しました。理由コード = aaaa, 詳細コード = bb...bb

An invalid message was received. reason code = aaaa, detail code = bb...bb (E+P+L) (2)  
(SUP)

ユーザコマンドトランザクションの実行処理で不正なメッセージを受信しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb...bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)受信メッセージを破棄し、ユーザコマンド処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0003	TP1/FSP 機能が無効です。	プロセス関連定義の fsp_use オペランドに Y を指定して、TP1/EE を再起動してください。
上記以外	不正なメッセージです。	保守員に連絡してください。

## KFSB55015-E

処理キューの登録に失敗しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, サービス名 = cc....cc, 登録コード = dd....dd, 理由コード = ee....ee, 詳細コード = ff....ff

An attempt to register a processing queue has failed. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, service name = cc....cc, registration code = dd....dd, reason code = ee....ee, detail code = ff....ff (E+P+L) (2) (SUP)

ユーザコマンドトランザクションの受信処理で処理キュー登録に失敗しました。

aa....aa : 相手 IP アドレス

登録コードが CUMRCV の場合は, \*を表示します。

bb....bb : 相手ポート番号

登録コードが CUMRCV の場合は, \*を表示します。

cc....cc : 処理キュー登録に失敗したサービス名

サービス名がない場合は, \*を表示します。

dd....dd : 登録コード

CUMRCV : 自ノード上のユーザコマンドトランザクションの処理キュー登録に失敗

CUORCV : 他ノード上のユーザコマンドトランザクションの処理キュー登録に失敗

ee....ee : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)受信メッセージを破棄します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	サービス名が不正です。	TP1/FSP の eeucmd コマンドの -v オプションの指定値, およびサービス名の定義を見直して, 再実行してください。

理由コード	意味	対策
0003	PCE 数が不足しました。	しばらく待ってからコマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、メモリ関連定義の pce_no オペランドの処理キュー登録数の指定値を見直して、再実行してください。
9001	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB55016-E

トランザクション処理でオーバフローを検知しました。サービス名 = aa....aa, サイズ = bb...bb  
 An overflow was detected during transaction processing. service name = aa....aa, size = bb...bb (E+P+L) (2) (SUP)

トランザクション処理でサービス関数インタフェース作成時、受け付けたメッセージがメッセージ引き渡しエリアサイズを超えていたため、以降のメッセージを破棄しました。

**aa....aa** : サービス名

サービス名がない場合は、\*を表示します。

**bb...bb** : 不足しているサイズ

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** メモリ関連定義の max\_message\_size オペランドの指定値を見直してください。

## KFSB55020-E

UAP 共用ライブラリの入替えに失敗しました。理由コード = aaaa, ディレクトリ名 = bb....bb, 詳細コード = cc....cc  
 Replacement of the UAP common libraries failed. reason code = aaaa, directory name = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

UAP 共用ライブラリの入替えに失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : ディレクトリ名

理由コードが 0002, または 0006 以外の場合は、\*を表示します。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	すでに TP1/FSP の eechglib コマンドまたは eeexecut コマンドが実行中です。	先に実行中のコマンドの終了後に、コマンドを再実行してください。
0002	指定されたディレクトリのオープンに失敗しました。	表示されたディレクトリを見直して、コマンドを再実行してください。
0003	ライブラリファイルが存在しませんでした。	指定したディレクトリにライブラリファイルを格納し、コマンドを再実行してください。
0004	ライブラリファイルが上限値より多く存在します。	ライブラリ数が多過ぎます。1000 個以内にしてからコマンドを再実行してください。
0005	サービスの静止化に失敗しました。	実行しているサービスの終了後に、コマンドを再実行してください。
0006	ディレクトリ名称が重複しています。	表示されているディレクトリ名は、TP1/FSP のユーザサービス関連定義の static_module_dir に定義されています。指定するディレクトリを見直して、コマンドを再実行してください。

## KFSB55021-E

トランザクションの静止化に失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細情報 = bb....bb  
An attempt to staticize a transaction failed. reason code = aaaa, detail information =  
bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

トランザクションの静止化に失敗しました。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : 詳細情報

存在しなかったサービス名またはトランザクションレベル名を表示します。理由コードが 0001 以外の場合は、\*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	指定されたサービス名またはトランザクションレベル名が存在しませんでした。	存在しなかったサービス名またはトランザクションレベル名が詳細情報に出力されます。コマンドで指定するサービス名またはトラン

理由コード	意味	対策
0001	指定されたサービス名またはトランザクションレベル名が存在しませんでした。	ザクシヨソレベル名を見直して、コマンドを再実行してください。
0002	トランザクシヨソレベル方式ではありませんが、トランザクシヨソレベル名が指定されました。	静止化の対象にトランザクシヨソレベル名を指定する場合は、TP1/FSP のユーザーサービス関連定義の queue_draw_method オペランドの指定値を見直して TP1/EE を再起動してから、コマンドを再実行してください。
0003	実行中のトランザクシヨソが指定時間内に終了しませんでした。	指定する監視時間を変更してコマンドを再実行するか、または実行中のトランザクシヨソが終了してからコマンドを再実行してください。

## KFSB55022-E

トランザクシヨソの静止化解除に失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細情報 = bb....bb  
 An attempt to unstaticize a transaction failed. reason code = aaaa, detail information = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

トランザクシヨソの静止化解除に失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : 詳細情報

存在しなかったサービス名またはトランザクシヨソレベル名を表示します。理由コードが 0002 の場合は、\*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	指定されたサービス名またはトランザクシヨソレベル名が存在しませんでした。	存在しなかったサービス名またはトランザクシヨソレベル名が詳細情報に出力されます。コマンドで指定するサービス名またはトランザクシヨソレベル名を見直して、コマンドを再実行してください。
0002	トランザクシヨソレベル方式ではありませんが、トランザクシヨソレベル名が指定されました。	静止化解除の対象にトランザクシヨソレベル名を指定する場合は、TP1/FSP のユーザーサービス関連定義の queue_draw_method オペランドの指定値を見直して TP1/EE を再起動してから、コマンドを再実行してください。

## KFSB55023-E

UAP 共用ライブラリ情報の引継ぎに失敗しました。詳細コード = aa....aa

An attempt to transfer a UAP common library information failed. detail code = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

UAP 共用ライブラリ情報の引継ぎに失敗しました。このメッセージが出力された場合、TP1/FSP の eechglib コマンドで入れ替えた UAP 共用ライブラリ格納ディレクトリが TP1/EE の再開始時に引き継がれません。

また、起動時にこのメッセージが出力された場合には、初期化処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] ステータスファイルに異常がないかどうかを調査してください。

## KFSB55024-E

コマンドの他ノード実行で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ノード情報 = bbbb(cccc:dd....dd)[:bbbb(cccc:dd....dd)....]

An error occurred while a command was being executed on other node. command name = aa....aa, node information = bbbb (cccc:dd....dd) [:bbbb (cccc:dd....dd)....] (E+P+L) (2) (SUP)

コマンドの他ノード実行で障害が発生しました。出力されるノード識別子に\*\*\*\*が表示された場合は、コマンドを受け付けたノードの障害を示します。このメッセージのノード情報は 1 度に 5 個まで出力されず。そのため、失敗したノードが 5 個を超える場合には、このメッセージが複数回出力されます。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 障害が発生したノードのノード識別子

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : 詳細情報

障害情報がない場合は、\*を表示します。

詳細情報の意味と対策を表に示します。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。



[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	詳細情報	意味	対策
0001	サービスグループ名	ネーム情報の取得に失敗しました。	詳細情報に出力されたサービスグループ名を見直してコマンドを再実行してください。また、サービスグループ名に問題がない場合は、実行先ノードの状態を確認してコマンドを再実行してください。
0002	ee_rpc_call 関数のリターン値	他ノードへのコマンド転送処理で通信障害が発生しました。	ee_rpc_call 関数のリターン値から原因を特定して、障害を取り除いてからコマンドを再実行してください。
0003	*	他ノードからの応答がタイムアウトしました。	実行先ノードの状態を確認してコマンドを再実行してください。
0004	*	実行先ノードでの処理に失敗しました。	失敗した実行サーバの TP1/EE のメッセージログに出力されているメッセージから障害の原因を特定し、障害を取り除いてください。

## KFSB55101-E

メモリ確保処理に失敗しました。要求サイズ = aa....aa

An attempt to allocate memory has failed. request size = aa....aa (E) (2) (SUP)

TP1/EE プロセスの初期化処理で、メモリの確保処理に失敗しました。

aa....aa : TP1/EE サービス定義の max\_mem\_size オペランドに指定した値 (単位: バイト)

(S)初期化処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] マシンのシステムパラメタ、または TP1/EE サービス定義を見直して、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB55102-E

領域不足のため領域割当に失敗しました。詳細コード = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb

An attempt to allocate area has failed due to insufficient space. detail code = aa....aa, request size = bb....bb (E) (2) (SUP)

TP1/EE プロセスの初期化処理で、TP1/EE サービス定義に指定されたメモリ容量を超えました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : 要求サイズ

メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドで指定したメモリ容量を超過したときに必要としたサイズ (バイト) です。max\_mem\_size オペランドの指定値に対する不足分の合計サイズを示す値ではありません。

(S)初期化処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの指定値を大きくしたあとに、TP1/EE を再起動してください。max\_mem\_size オペランドの指定値の見積もりについては、TP1/EE のリリースノートを参照してください。

## KFSB55104-E

オンライン処理中にセグメントが不足しました。セグメント種別 = aa....aa

An insufficient segment has occurred during online processing. segment type = aa....aa (P+L) (1) (SUP)

TP1/EE 稼働中に、TP1/EE サービス定義で設定したセグメント数またはセグメント用領域が不足しました。

aa....aa : 不足したセグメント種別

CBLPOOL : OS からのメモリ確保 (malloc 関数) でメモリ不足発生

CIBF : システム固定数

COBF : システム固定数

EIT : メモリ関連定義の user\_work\_size オペランドの指定値

EPBF : (プロセス関連定義の thread\_no オペランドの指定値 + プロセス関連定義の reserve\_thread\_no オペランドの指定値 + (TP1/FSP のタイマ関連定義の tim\_perm\_thread\_no オペランドの指定値 + 1) + 1) × 2

ETBF : プロセス関連定義の thread\_no オペランドの指定値 + プロセス関連定義の reserve\_thread\_no オペランドの指定値 + (TP1/FSP のタイマ関連定義の tim\_perm\_thread\_no オペランドの指定値 + 1) + 2

IBF : メモリ関連定義の recv\_message\_buf\_cnt オペランドの指定値

ICB : メモリ関連定義の icb\_no オペランドの指定値

MPSPPOOL : OS からのメモリ確保 (malloc 関数) でメモリ不足発生

MPUPOOL : OS からのメモリ確保 (malloc 関数) でメモリ不足発生

OBF : メモリ関連定義の send\_message\_buf\_cnt オペランドの指定値

OBMPOOL : OS からのメモリ確保 (malloc 関数) でメモリ不足発生

PCE : メモリ関連定義の pce\_no オペランドの指定値

QIBF : メモリ関連定義の dbq\_recv\_message\_buf\_cnt オペランドの指定値

QOBF : メモリ関連定義の dbq\_send\_message\_buf\_cnt オペランドの指定値

QWBF：メモリ関連定義の dbq\_use\_buf\_cnt オペランドの指定値

RIT：メモリ関連定義の system\_work\_size, user\_work\_size オペランド, および max\_mem\_size オペランドの指定値

SIT：メモリ関連定義の system\_work\_size オペランドの指定値

TTBF：メモリ関連定義の time\_message\_no オペランドの指定値

UIBF：メモリ関連定義の udp\_recv\_message\_buf\_cnt オペランドの指定値

UOBF：メモリ関連定義の udp\_send\_message\_buf\_cnt オペランドの指定値

XDBPOOL：OS からのメモリ確保 (malloc 関数) でメモリ不足発生, またはメモリ関連定義の memory\_xdb\_limit\_size オペランドの指定値 (XDB 用ワーク領域の最大サイズ) を超過

XTCPOOL：OS からのメモリ確保 (malloc 関数) でメモリ不足発生, またはメモリ関連定義の memory\_xtc\_limit\_size オペランドの指定値 (XTC 用ワーク領域の最大サイズ) を超過

(S)終了処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するセグメント種別の TP1/EE サービス定義の指定を見直してください。

#### KFSB55106-E

```
UAP が確保したセグメントに解放漏れがありました。セグメント種別 = aa....aa  
Segments allocated to the UAP could not be released due to a leak. segment type =  
aa....aa (P+L) (1) (SUP)
```

UAP が使用したセグメントが, UAP リターンまでに解放されませんでした。

**aa....aa**：解放されなかったセグメント種別

EIT05B：1～512 バイトのセグメント

EIT10B：513～1024 バイトのセグメント

EIT40B：1025～4096 バイトのセグメント

EIT16K：4097～16384 バイトのセグメント

EIT32K：16385～32768 バイトのセグメント

EIT64K：32769～65536 バイトのセグメント

(S)終了処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** UAP を見直してください。

#### KFSB55107-E

```
UAP が確保したセグメントに解放漏れがありました。セグメント種別 = aa....aa, 属性 = bb....bb,  
サイズ = cc....cc
```

Segments allocated to the UAP could not be released due to a leak. segment type = aa....aa, attributes = bb....bb, size = cc....cc (P+L) (1) (SUP)

UAP が使用したセグメントが、UAP リターンまでに解放されませんでした。

**aa....aa** : 解放されなかったセグメント種別

EIT : ユーザ用ワーク領域

MPUPOOL : 大量処理用ユーザ領域

**bb....bb** : 属性

FREE : FREE 属性として確保したセグメント

TASK : TASK 属性として確保したセグメント

**cc....cc** : 解放されなかった要求サイズ

64 : 1~64 バイトのセグメント

128 : 65~128 バイトのセグメント

256 : 129~256 バイトのセグメント

512 : 257~512 バイトのセグメント

1024 : 513~1024 バイトのセグメント

2048 : 1025~2048 バイトのセグメント

4096 : 2049~4096 バイトのセグメント

8192 : 4097~8192 バイトのセグメント

16384 : 8193~16384 バイトのセグメント

32768 : 16385~32768 バイトのセグメント

65536 : 32769~65536 バイトのセグメント

131072 : 65537~131072 バイトのセグメント

262144 : 131073~262144 バイトのセグメント

393216 : 262145~393216 バイトのセグメント

524288 : 393217~524288 バイトのセグメント

655360 : 524289~655360 バイトのセグメント

786432 : 655361~786432 バイトのセグメント

917504 : 786433~917504 バイトのセグメント

1048576 : 917505~1048576 バイトのセグメント

2097152 : 1048577~2097152 バイトのセグメント

4194304 : 2097153~4194304 バイトのセグメント

8388608 : 4194305~8388608 バイトのセグメント

16777216 : 8388609~16777216 バイトのセグメント

(S)終了処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 UAP を見直してください。

## KFSB55108-E

解放漏れセグメント情報。セグメント種別 = aa....aa, 属性 = bb....bb, 解放漏れセグメント数 = cc....cc

Information on unreleased segments. segment type = aa....aa, attributes = bb....bb, number of unreleased segments = cc....cc (P+L) (1) (SUP)

システム終了までに解放されなかったセグメント数です。

aa....aa : セグメント種別

EIT : ユーザ用ワーク領域

MPUPOOL : 大量処理用ユーザ領域

bb....bb : 属性

FREE : FREE 属性として確保したセグメント

cc....cc : 解放漏れセグメント数

該当するセグメント種別・属性での解放されていないセグメントの総数が表示されます。

(S)終了処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 UAP を見直してください。

## KFSB55109-E

解放漏れセグメント情報。セグメント種別 = aa....aa, 属性 = bb....bb, サイズ = cc....cc, 中央処理通番 = dddddd, データ領域情報 = eeeeeeee eeeeeeee eeeeeeee eeeeeeee

Information on unreleased segments. segment type = aa....aa, attributes = bb....bb, size = cc....cc, central processing number = dddddd, data area information = eeeeeeee eeeeeeee eeeeeeee eeeeeeee (P) (1) (SUP)

システム終了までにセグメントが解放されませんでした。

解放漏れセグメントの数が 1000 を超える場合は、1000 セグメント分の情報が出力されます (解放漏れセグメントの総数については [KFSB55108-E](#) メッセージを参照してください)。

aa....aa : セグメント種別

EIT : ユーザ用ワーク領域

MPUPOOL : 大量処理用ユーザ領域

bb....bb : 属性

FREE : FREE 属性として確保したセグメント

cc....cc : サイズ

解放漏れがあったセグメントのデータ領域サイズ (データ領域サイズは、要求サイズを 64 バイトでバウンダリ調整したもの) が表示されます (単位: バイト)。

dddddddd : 中央処理通番

解放漏れがあったセグメントを確保したトランザクションの中央処理通番が表示されます。

eeeeeeee eeeeeeee eeeeeeee eeeeeeee : データ領域情報

解放漏れがあったセグメントのデータ領域の先頭 16 バイト (16 進数) が表示されます。

(S) 終了処理を続行します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] UAP を見直してください。

## KFSB55190-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード = aa....aa

An internal conflict has occurred. detail code = aa....aa (E, E+P+L) (2) (SUP)

関数発行時に、内部矛盾が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 保守員に連絡してください。

## KFSB55300-E

サービス閉塞状態の引継ぎに失敗しました。理由コード = aaaa, サイズ = bb....bb, 詳細コード 1 = ccccccc, 詳細コード 2 = dddddddd

An attempt to inherit the service shutdown state has failed. reason code = aaaa, size = bb....bb, detail code 1 = ccccccc, detail code 2 = dddddddd (E+P+L) (2) (SUP)

前回のオンライン時のサービス閉塞状態の引き継ぎに失敗しました。すべてのサービスを閉塞解除状態にします。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb...bb：不足した領域のサイズ（単位：バイト，10進表記）

領域不足以外の障害の場合，または不足した領域サイズが特定できない場合は，-1が表示されます。

cccccccc：TP1/EEがトラブルシュートで使用する情報

dddddddd：TP1/EEがトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)閉塞する必要がある場合は，閉塞コマンドで該当するサービスを閉塞してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0011	TP1/EEシステムワークが不足しています。	メモリ関連定義の max_mem_size オペランドの指定値を見直してください。
0021	ファイルが存在しません。	前回のオンライン時に KFSB55301-E メッセージが出力されている場合は，そのメッセージに従って，原因を取り除いてください。直前に KFSB51004-E メッセージが出力されている場合は，そのメッセージに従って，原因を取り除いてください。どちらにも当てはまらない場合は，保守員に連絡してください。
0022	ファイルの内容が不正です。	直前にほかのメッセージが出力されている場合は，そのメッセージに従って，原因を取り除いてください。出力されていない場合は，保守員に連絡してください。
0023	ファイルのオープンに失敗しました。	
0025	ファイルの読み込みに失敗しました。	
0041	定義ファイルに差分があります。または，差分チェックに失敗しました。	TP1/EEの稼働中には，定義を変更しないでください。稼働中に定義を変更していない場合は，保守員に連絡してください。
9999	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB55301-E

サービス閉塞状態の保存処理に失敗しました。理由コード = aaaa，サイズ = bb...bb，詳細コード 1 = cccccccc，詳細コード 2 = dddddddd

An attempt to save the service shutdown state has failed. reason code = aaaa, size = bb...bb, detail code 1 = cccccccc, detail code 2 = dddddddd (E+P+L) (2) (SUP)

サービス閉塞状態の保存処理に失敗しました。現時点のサービス閉塞状態の保存情報はすべて破棄し，以降のサービス閉塞またはサービス閉塞解除の情報は保存しません。次の再開時に，サービス閉塞状態を引き継ぎません。

aaaa：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb...bb：不足した領域のサイズ（単位：バイト，10進表記）

領域不足以外の障害の場合，または不足した領域サイズが特定できない場合は，-1が表示されます。



cccccccc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dddddddd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0011	TP1/EE システムワークが不足しています。	直前に出力されているメッセージに従って、原因を取り除いてください。解決しない場合は、保守員に連絡してください。
0023	ファイルのオープンに失敗しました。	直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。出力されていない場合は、保守員に連絡してください。
0024	ファイルの書き込みに失敗しました。	
9999	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

#### KFSB55302-E

サービス最大同時処理限界数の引継ぎに失敗しました。詳細コード = aa....aa

An attempt to inherit the maximum number of processing occurrences that a service can handle concurrently has failed. detail code = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

サービスの最大同時処理限界数の引き継ぎ処理で障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】ステータスファイルに異常がないかどうかを調査してください。

#### KFSB55303-E

トランザクションレベル最大同時処理限界数の引継ぎに失敗しました。詳細コード = aa....aa

An attempt to inherit the maximum number of processing occurrences that a transaction level can handle concurrently has failed. detail code = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

トランザクションレベル最大同時処理限界数の引き継ぎ処理で、障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報



(S)処理を続行します。初期化処理中にこのメッセージが出力された場合は、定義に従って処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 ステータスファイルに異常がないかどうかを調査してください。

#### KFSB55305-E

開始モードの判定に失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細コード 1 = bbbbbbbb, 詳細コード 2 = cccccccc

An attempt to determine the start mode has failed. reason code = aaaa, detail code 1 = bbbbbbbb, detail code 2 = cccccccc (E+P+L) (2) (SUP)

TP1/EE 開始モードの判定に失敗しました。正常開始として処理を続行します。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bbbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cccccccc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0022	ファイルの内容が不正です。	直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。出力されていない場合は、保守員に連絡してください。
0023	ファイルのオープンに失敗しました。	
0025	ファイルの読み込みに失敗しました。	
9999	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

#### KFSB55306-E

システムステータスの保存に失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細コード 1 = bbbbbbbb, 詳細コード 2 = cccccccc

An attempt to save the system status has failed. reason code = aaaa, detail code 1 = bbbbbbbb, detail code 2 = cccccccc (E+P+L) (2) (SUP)

システムステータスの保存に失敗しました。次回起動時に、開始モードを正しく判定できません。

aaaa：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bbbbbbbb：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cccccccc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0023	ファイルのオープンに失敗しました。	直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。出力されていない場合は、保守員に連絡してください。
0024	ファイルの書き込みに失敗しました。	

## KFSB55310-E

ハングアップタイマのタイムアウトを検出しました。 I F A 番号 = aa....aa, タイマ監視時間 = bb....bb, タイマ監視開始時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss, 詳細コード = cc....cc

A hang timer timeout was detected. IFA number = aa....aa, timer monitoring time = bb....bb, timer monitoring start time = yyyy/mm/dd hh:mm:ss, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

ハングアップタイマのタイムアウトを検出しました。

aa....aa：タイムアウトが発生したスレッドの IFA 番号 (10 進表記)

bb....bb：タイマ監視時間 (10 進表記)

タイムアウトが発生したタイマの監視時間が表示されます。

yyyy/mm/dd hh:mm:ss：タイマ監視開始時刻

タイムアウトが発生したタイマの監視開始時刻が表示されます。

cc....cc：詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** マシン内の負荷 (CPU, ファイル入出力など) が増加したため、TP1/EE プロセスの処理が遅延したおそれがあります。マシンの負荷が高い場合は、その原因を取り除いてください。また、UOC 内で

ハングアップ、または時間の掛かる処理をしていないか確認してください。解決できない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB55311-E

```
トランザクションタイマのタイムアウトを検出しました。 I F A 番号 = aa....aa, タイマ監視時間 =
bb....bb, タイマ監視開始時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss, 詳細コード = cc....cc
A transaction timer timeout was detected. IFA number = aa....aa, timer monitoring time =
bb....bb, timer monitoring start time = yyyy/mm/dd hh:mm:ss, detail code = cc....cc (E+P
+L) (2) (SUP)
```

トランザクションタイマのタイムアウトを検出しました。

**aa....aa** : タイムアウトが発生したスレッドの IFA 番号 (10 進表記)

**bb....bb** : タイマ監視時間 (10 進表記)

タイムアウトが発生したタイマの監視時間が表示されます。

**yyyy/mm/dd hh:mm:ss** : タイマ監視開始時刻

タイムアウトが発生したタイマの監視開始時刻が表示されます。

**cc....cc** : 詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。または、該当するスレッドを強制終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** UAP または UOC 内でハングアップしていないか、または時間の掛かる処理をしていないかどうか、見直してください。また、トランザクション関連定義の `trn_expiration_time` オペランドまたは `trn_expiration_time_*` オペランド (\*\*は小文字のトランザクション種別) の指定値が、UAP 処理内容と比べて適当な値であるかどうか、見直してください。マシン内の負荷 (CPU、ファイル入出力など) が増加したために、TP1/EE プロセスの処理が遅延したおそれがあります。マシンの負荷が高い場合は、その原因を取り除いてください。解決できない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB55312-E

```
I/O 処理時間監視のタイムアウトを検出しました。 I F A 番号 = aa....aa, タイマ監視時間 =
bb....bb, タイマ監視開始時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss, 詳細コード = cc....cc
An I/O timer timeout was detected. IFA number = aa....aa, timer monitoring time = bb....bb,
timer monitoring start time = yyyy/mm/dd hh:mm:ss, detail code = cc....cc (E+P+L) (2)
(SUP)
```

TP1EE ファイルシステムの I/O 処理時間監視のタイムアウトを検出しました。TP1/EE プロセスを強制停止します。

aa....aa : タイムアウトが発生したスレッドの IFA 番号 (10 進表記)

bb....bb : タイマ監視時間 (10 進表記)

タイムアウトが発生したタイマの監視時間が表示されます。

yyyy/mm/dd hh:mm:ss : タイマ監視開始時刻

タイムアウトが発生したタイマの監視開始時刻が表示されます。

cc....cc : 詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** TP1EE ファイルシステムがあるディスクへのアクセス多発によって、I/O 処理時間が増大したか、またはディスク障害が発生したおそれがあります。TP1EE ファイルシステムがあるディスクへのアクセス多発によって I/O 処理時間が増大した場合は、ファイルサービス関連定義の `fil_watch_time` オペランドの指定値を見直すか、TP1EE ファイルシステムを別のディスクに作成することを検討してください。解決できない場合は、保守員に連絡してください。

#### KFSB55313-E

監視タイマのタイムアウトを検出しました。IFA 番号 = aa....aa, タイマ種別 = bb....bb, タイマ監視時間 = cc....cc, タイマ監視開始時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss, 詳細コード = dd....dd

A timer timeout was detected. IFA number = aa....aa, timer type = bb....bb, timer monitoring time = cc....cc, timer monitoring start time = yyyy/mm/dd hh:mm:ss, detail code = dd....dd  
(E+P+L) (2) (SUP)

処理時間監視のタイムアウトを検出しました。TP1/EE プロセスを強制停止します。

aa....aa : タイムアウトが発生したスレッドの IFA 番号 (10 進表記)

bb....bb : タイマ種別

タイマ種別の意味と対策を表に示します。

cc....cc : タイマ監視時間 (10 進表記)

タイムアウトが発生したタイマの監視時間が表示されます。

yyyy/mm/dd hh:mm:ss : タイマ監視開始時刻

タイムアウトが発生したタイマの監視開始時刻が表示されます。

dd....dd : 詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** タイマ種別一覧を見て対策してください。解決できない場合は、保守員に連絡してください。

タイマ種別	意味	対策
LIB CHANGE	ライブラリ入れ替え監視タイマ	TP1/FSP の eechglib コマンドの-t オプションの指定値が適切な値であるかを確認してください。
UOC	UOC 監視タイマ	TP1/FSP の OBM 関連定義の bcmuocfunc 定義コマンドの-t オプションの指定値、または OBM 関連定義の bcsuocfunc 定義コマンドの-t オプション指定値が、UOC 処理内容と比べて妥当な値であるかを確認してください。データ連携支援の場合、タイムアウトした UOC およびその対策を参照し対策してください。
*	タイマ種別の取得失敗	保守員に連絡してください。

データ連携支援の場合、タイムアウトした UOC およびその対策を次に示します。

タイムアウトした UOC	KFSB55313-E メッセージのタイマ監視時間に出力される内容	KFSB65385-E メッセージのサービス名に出力される内容	対策
開始終了 UOC	trn_rks_startend_watchtime 定義値	RKS_STARTEND	タイマ監視時間の定義値が UOC 処理内容と比べて妥当な値であるかを確認してください。
反映先指定 UOC	trn_rks_entry_watchtime 定義値	RKS_ENTRY	
編集 UOC	trnrks_service 定義-e オプション指定値	trnrks_service 定義-s オプション指定値	
反映 UOC			

## KFSB55315-E

連続異常終了限界経過時間監視に失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細コード 1 = bbbbbbbb, 詳細コード 2 = cccccccc

An attempt to monitor the number of consecutive abnormal terminations occurring within a specified time has failed. reason code = aaaa, detail code 1 = bbbbbbbb, detail code 2 = cccccccc (E+P+L) (2) (SUP)

連続異常終了の限界経過時間の監視に失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bbbbbbbb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**cccccccc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)初期化処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0021	ファイルが存在しません。	前回のオンライン時に KFSB55316-E メッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。\$DCDIR/tmp ディレクトリ下のファイルを不正に削除した場合は、削除しないようにしてください。 TP1/Server Base の scdrles コマンドでスケジュール閉塞を解除した場合に、このメッセージが出力されることがあります。この場合は、このメッセージは無視してください。 解決しない場合は、保守員に連絡してください。
0022	ファイルの内容が不正です。	\$DCDIR/tmp ディレクトリ下のファイルを不正に変更した場合は、変更しないようにしてください。変更していない場合は、保守員に連絡してください。
0023	ファイルのオープンに失敗しました。	直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。メッセージが出力されていない場合は、次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• \$DCDIR/tmp ディレクトリのファイルシステムのディスク容量、および OS のファイルシステムパラメタ数が不足していないか。</li> <li>• プロセス関連定義の max_descriptors オペランドの指定値が、TP1/EE の構成に必要な値を下回っていないか (max_descriptors オペランドの指定値の見積もりについては、TP1/EE のリリースノートを参照してください)。</li> <li>• 同一マシン内に、ファイルを大量に使用するプロセスがあるため、マシン内で使用できるファイル識別子が不足していないか。</li> </ul> 解決しない場合は、保守員に連絡してください。
0025	ファイルの読み込みに失敗しました。	
9999	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB55316-E

連続異常終了の限界経過時間監視情報の保存に失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細コード 1 = bbbbbbbb, 詳細コード 2 = cccccccc

An attempt to save the information obtained from monitoring the number of consecutive abnormal terminations occurring within a specified time has failed. reason code = aaaa, detail code 1 = bbbbbbbb, detail code 2 = cccccccc (E+P+L) (2) (SUP)

連続異常終了の限界経過時間の監視情報の保存に失敗しました。次回の起動時に、連続異常終了の限界経過時間を監視できません。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bbbbbbbb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cccccccc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0023	ファイルのオープンに失敗しました。	直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。メッセージが出力されていない場合は、次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• \$DCDIR/tmp ディレクトリのファイルシステムのディスク容量、および OS のファイルシステムパラメタ数が不足していないか。</li><li>• プロセス関連定義の max_descriptors オペランドの指定値が、TP1/EE の構成に必要な値を下回っていないか (max_descriptors オペランドの指定値の見積もりについては、TP1/EE のリリースノートを参照してください)。</li><li>• 同一マシン内に、ファイルを大量に使用するプロセスがあるため、マシン内で使用できるファイル識別子が不足していないか。</li></ul> 解決しない場合は、保守員に連絡してください。
0024	ファイルの書き込みに失敗しました。	
0027	ファイル内のオフセット変更に失敗しました。	直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB55317-E

連続サービス異常終了限界経過時間監視に失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細コード 1 = bbbbbbbb, 詳細コード 2 = cccccccc

An attempt to monitor the number of consecutive abnormal service terminations occurring within a specified time has failed. reason code = aaaa, detail code 1 = bbbbbbbb, detail code 2 = cccccccc (E+P+L) (2) (SUP)

連続サービス異常終了の限界経過時間の監視に失敗しました。処理を続行します。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bbbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cccccccc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。



【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0011	TP1/EE システムワークが不足しています。	メモリ関連定義 max_mem_size オペランドの指定値を見直してください。
0021	ファイルが存在しません。	<p>前回のオンライン時に KFSB55318-E メッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。\$DCDIR/tmp ディレクトリ下のファイルを不当に削除した場合は、削除しないようにしてください。</p> <p>前回のオンライン時から定義を変更していて、次のどれかに一つ以上当てはまる場合は、TP1/EE 再開始時に出力されるこのメッセージは無視してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• service_hold オペランドを、N 指定から Y 指定へ変更したか、またはオペランドを省略した。</li> <li>• service_attr 定義コマンドの-c オプション指定を追加した。</li> <li>• service_hold_watch_use オペランドを、N 指定またはオペランド省略から Y 指定へ変更した。</li> <li>• service_term_watch_time オペランドの指定を 1 以上の値から 0 へ変更したか、またはオペランドを省略した。</li> </ul> <p>解決しない場合は、保守員に連絡してください。</p>
0022	ファイルの内容が不正です。	\$DCDIR/tmp ディレクトリ下のファイルを不当に変更した場合は、変更しないようにしてください。変更していない場合は、保守員に連絡してください。
0023	ファイルのオープンに失敗しました。	<p>直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。メッセージが出力されていない場合は、次の事項を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• \$DCDIR/tmp ディレクトリのファイルシステムのディスク容量、および i ノード数が不足していないか。</li> <li>• プロセス関連定義の max_descriptors オペランドの指定値が、TP1/EE の構成に必要な値を下回っていないか (max_descriptors オペランドの指定値の見積もりについては、TP1/EE のリリースノートを参照してください)。</li> <li>• 同一マシン内に、ファイルを大量に使用するプロセスが存在し、マシン内で使用可能なファイル識別子が不足していないか。</li> </ul> <p>解決しない場合は、保守員に連絡してください。</p>
0025	ファイルの読み込みに失敗しました。	
9999	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。



## KFSB55318-E

連続サービス異常終了限界経過時間監視情報の保存に失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細コード 1 = bbbbbbbb, 詳細コード 2 = cccccccc

An attempt to save the information obtained from monitoring the number of consecutive abnormal service terminations occurring within a specified time has failed. reason code = aaaa, detail code 1 = bbbbbbbb, detail code 2 = cccccccc (E+P+L) (2) (SUP)

連続サービス異常終了の限界経過時間監視情報の保存に失敗しました。次回の起動時に連続サービス異常終了の限界経過時間を監視できません。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bbbbbbbb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**cccccccc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0011	TP1/EE システムワーク不足です。	直前に出力されているメッセージに従って、原因を取り除いてください。解決しない場合は、保守員に連絡してください。
0023	ファイルのオープンに失敗しました。	直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。メッセージが出力されていない場合は、次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 「\$DCDIR/tmp」ディレクトリのファイルシステムのディスク容量、および i ノード数が不足していないか。</li><li>• プロセス関連定義の max_descriptors オペランドの指定値が、TP1/EE の構成に必要な値を下回っていないか (max_descriptors オペランドの指定値の見積もりについては、TP1/EE のリリースノートを参照してください)。</li><li>• 同一マシン内に、ファイルを大量に使用するプロセスが存在し、マシン内で使用可能なファイル識別子が不足していないか。</li></ul> 解決しない場合は、保守員に連絡してください。
0024	ファイルの書き込みに失敗しました。	
0027	ファイル内のオフセット変更に失敗しました。	直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB55320-E

COBOL 後処理に必要な COBOL サービスルーチンのローディングに失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細コード 1 = bbbbbbbb, 詳細コード 2 = cccccccc

An attempt to load COBOL service routines required for subsequent COBOL processing has failed. reason code = aaaa, detail code 1 = bbbbbbbb, detail code 2 = cccccccc (E+P +L) (2) (SUP)

COBOL 言語を使用する場合に、後処理に必要な COBOL サービスルーチンのローディングに失敗しました。後処理をしません。後処理をしない場合に、スレッドの強制終了/再起動を繰り返すと、リソースが不足するおそれがあります。また、UAP の障害発生時に異常終了時の要約情報リストを採取できません。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bbbbbbbb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**cccccccc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0033	COBOL ライブラリのオープンに失敗しました。	TP1/EE に対応する COBOL 言語がインストールされていて、かつプロセス関連定義の <code>cobol_lang</code> オペランドで指定した COBOL 製品のライブラリが存在することを確認してください。 COBOL 製品のライブラリを次に示します。 AIX の場合 COBOL85 : /opt/HILNGcbl/lib/libcbl85.a COBOL2002 : /opt/HILNGcbl2k/lib/libcbl2k.a Linux (x86)の場合 COBOL85 : /opt/HILNGcbl/lib/libcbl85.so Linux (EM64T)の場合 COBOL2002 : /opt/HILNGcbl2k64/lib/libcbl2k.so 問題がない場合で、直前にほかのメッセージが出力されているときは、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。メッセージが出力されていないときは、保守員に連絡してください。
0034	COBOL サービスルーチンのアドレス取得に失敗しました。	インストールされている COBOL 言語のバージョンが TP1/EE に対応しているかどうか、確認してください。COBOL 言語のバージョンが対応している場合で、直前にほかのメッセージが出力されているときは、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。メッセージが出力されていないときは、保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
0035	COBOL サービスルーチンのアドレス取得に失敗しました。	インストールされている COBOL 言語のバージョンが 01-04-01 以降である事を確認してください。また、プロセス関連定義の cobol_uap_cblend オペランド指定値を見直してください。理由コードが出力された場合は、TP1/EE を強制停止します。

## KFSB55321-E

COBOL 出力ファイル名に I F A 番号を付加する処理に失敗しました。ファイル種別 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード 1 = ccccccc, 詳細コード 2 = dddddddd

An attempt to add an IFA number to the name of a COBOL output file has failed. file type = aa....aa, reason code = bbbb, detail code 1 = ccccccc, detail code 2 = dddddddd (E+P +L) (2) (SUP)

COBOL 言語が出力するファイル名に IFA 番号を付加する処理に失敗しました。COBOL 言語が出力するファイル名は、COBOL 言語の命名規則に従います。

**aa....aa** : ファイル種別

- CBLABNLST : 異常終了時の要約情報リストの出力先ファイル
- CBL\_SYSOUP : UPON SYSOUP 設定時の DISPLAY 文の出力先ファイル
- CBL\_SYSPUNCH : UPON SYSPUNCH 設定時の DISPLAY 文の出力先ファイル
- CBL\_SYSERR : 実行時メッセージの出力先ファイル
- CBLDDUMP : データ領域ダンプの出力先ファイル

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**ccccccc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**ddddddd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0031	パス名が 256 バイト以上です。	256 バイト未満の正しいファイル名を環境変数に設定してください。
0032	ファイル種別が CBL_SYSOUP, CBL_SYSPUNCH, または CBL_SYSERR の場合に、ファイル名に+だけを設定しています。	
9999	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB55325-E

メインスレッドの初期化中に障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb

An error has occurred during initialization processing of the main thread. detail code 1 = aaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbb (E+P+L) (2) (SUP)

メインスレッドの初期化中に障害が発生しました。

aaaaaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

## KFSB55326-E

メインスレッドの終了中に障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb

An error has occurred during termination processing of the main thread. detail code 1 = aaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbb (E+P+L) (2) (SUP)

メインスレッドの終了中に障害が発生しました。

aaaaaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

## KFSB55330-E

モニタスレッドの処理中に障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb

An error has occurred during processing of a monitor thread. detail code 1 = aaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbb (E+P+L) (2) (SUP)

モニタスレッドの処理中に障害が発生しました。

aaaaaaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

#### KFSB55331-E

モニタスレッドの終了中に障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb

An error has occurred during termination processing of a monitor thread. detail code 1 = aaaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbb (E+P+L) (2) (SUP)

モニタスレッドの終了中に障害が発生しました。

aaaaaaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

#### KFSB55335-E

処理スレッドの終了中に障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb

An error has occurred during termination processing of a processing thread. detail code 1 = aaaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbb (E+P+L) (2) (SUP)

処理スレッドの終了中に障害が発生しました。

aaaaaaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

## KFSB55340-E

シグナルスレッドの終了中に障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb

An error has occurred during termination processing of a signal thread. detail code 1 = aaaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbb (E+P+L) (2) (SUP)

シグナルスレッドの終了中に障害が発生しました。

**aaaaaaaa** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**bbbbbbbb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

## KFSB55350-E

スレッドの強制終了を検出しました。I F A 番号 = aa....aa, 終了要因 = bb....bb, エラー要因コード = cccccccc, シグナル番号 = dd....dd, 中央処理通番 = eeeeeeee, トランザクション種別 = ff, サービス名 = gg....gg

A forced termination of a thread was detected. IFA number = aa....aa, termination cause = bb....bb, error cause code = cccccccc, signal number = dd....dd, central processing number = eeeeeeee, transaction type = ff, service name = gg....gg (E+P+L) (2) (SUP)

スレッドの強制終了を検出しました。強制終了したスレッドで処理中のトランザクション種別が MI, ME, またはその延長の RM の場合は、TP1/EE プロセスを強制停止します。それ以外の場合は、該当するスレッドを再起動します。

**aa....aa** : 強制終了したスレッドの IFA 番号 (10 進表記)

**bb....bb** : 終了要因

COMMIT LIMIT OVER : コミット関数の発行回数が上限値を超えました。

HUNGUP : ハングアップが発生しました。

ROLLBACK ABEND : UAP で、EETRN\_KILL または EETRN\_ABRT を指定した ee\_trn\_chained\_rollback 関数を呼び出しました。

ROLLBACK LIMIT OVER : ロールバック関数の発行回数が上限値を超えました。

RMERROR : リソースマネージャ障害が発生しました。

RMNETERROR：リソースマネージャ障害監視，または通信障害監視の依頼要因が発生しました。

SIGNAL：同期シグナルが発生しました。

UNKNOWN：UAP で pthread\_exit 関数または CBLABN サービスルーチン呼び出しました。または，COBOL 実行時に障害が発生しました。

XDB INSIDE：XDB で障害が発生しました。

RETRY ROLLBACK ABEND：リトライロールバック（UAP で ee\_trn\_retry\_rollback 関数を呼び出し）の回数が上限値を超えました。

RETRY ROLLBACK INSIDE：リトライロールバックの処理中に障害が発生しました。

RETRY ROLLBACK STOP：リトライロールバックの停止が指示されました（リトライロールバック前処理 UOC で，リターンコード EETRN\_UOC\_NORETRY\_KILL または EETRN\_UOC\_NORETRY\_ABORT が設定されました）。

cccccccc：エラー要因コード（16 進表記）

終了要因が ROLLBACK ABEND の場合は，ee\_trn\_chained\_rollback 関数で指定したエラー要因コードが表示されます。

RETRY ROLLBACK ABEND，および RETRY ROLLBACK INSIDE の場合，ee\_trn\_retry\_rollback 関数で設定したエラー要因コードが表示されます。

上記以外の場合は，TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報が表示されます。

dd...dd：シグナル番号（10 進表記）

終了要因が SIGNAL の場合は，終了契機になったシグナル番号が表示されます。終了要因が SIGNAL 以外の場合は，0 を表示します。

eeeeeeee：中央処理通番

トランザクション処理中に障害が発生した場合は，トランザクションのエントリ中央処理通番が表示されます。トランザクション処理中以外に障害が発生した場合は，00000000 を表示します。

ff：トランザクション種別

トランザクション種別については，マニュアル「TP1/Server Base Enterprise Option プログラム作成の手引」のトランザクション種別の説明を参照してください。

gg...gg：サービス名

サービス名がないトランザクションの場合は，\*を表示します。

(S)該当するスレッドを再起動するか，または TP1/EE プロセスを強制停止するかします。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 終了要因によって次に示す対策をしてください。

終了要因が HUNGUP，SIGNAL，または UNKNOWN の場合

UAP を見直してください。問題がないときは，保守員に連絡してください。

終了要因が RMERROR の場合

KFSB50919-E メッセージに従って原因を取り除いてください。



終了要因が RMNETERROR の場合

このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていないときは、保守員に連絡してください。

終了要因が ROLLBACK ABEND および RETRY ROLLBACK ABEND の場合

原因を取り除いてください。

終了要因が RETRY ROLLBACK INSIDE の場合

保守員に連絡してください。

## KFSB55351-E

```
スレッドの再起動に失敗しました。 I F A 番号 = aa....aa, 詳細コード 1 = bbbbbbbb, 詳細コード  
2 = cccccccc
```

```
An attempt to restart a thread has failed. IFA number = aa....aa, detail code 1 = bbbbbbbb,  
detail code 2 = cccccccc (E+P+L) (2) (SUP)
```

スレッドの再起動に失敗しました。

aa....aa : 再起動に失敗したスレッドの IFA 番号 (10 進表記)

bbbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cccccccc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)スレッド数が減少したまま処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB55355-E

```
U A P が不正な手段によりスレッドを強制終了しました。 I F A 番号 = aa....aa
```

```
The UAP has used an invalid method to forcibly terminate a thread. IFA number =  
aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)
```

UAP が不正な手段 (pthread\_exit など) でスレッドを強制終了しました。

aa....aa : 強制終了したスレッドの IFA 番号 (10 進表記)

(S)該当するスレッドを再起動します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。



**【対策】** ee\_trn\_chained\_rollback 関数以外でスレッドを強制終了させている場合は、ee\_trn\_chained\_rollback 関数でスレッドを強制終了するように UAP を修正してください。スレッドを強制終了させていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB55360-E

```
サービスの閉塞に失敗しました。サービス名 = aa....aa, 詳細コード 1 = bbbbbbbb, 詳細コード 2 = cccccccc
```

```
An attempt to shut down a service has failed. service name = aa....aa, detail code 1 = bbbbbbbb, detail code 2 = cccccccc (E+P+L) (2) (SUP)
```

スレッドの強制終了の原因となったサービスの閉塞に失敗しました。

**aa....aa** : 閉塞に失敗したサービス名

**bbbbbbbb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**ccccccc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)サービスを閉塞する必要がある場合は、閉塞コマンドで該当するサービスを閉塞してください。

**【対策】** 直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB55365-E

```
トランザクションの登録に失敗しました。トランザクション種別 = aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード 1 = cccccccc, 詳細コード 2 = dddddddd
```

```
An attempt to register a transaction has failed. transaction type = aa, reason code = bbbb, detail code 1 = cccccccc, detail code 2 = dddddddd (E+P+L) (2) (SUP)
```

トランザクションの登録に失敗しました。

**aa** : トランザクション種別

トランザクション種別については、マニュアル「TP1/Server Base Enterprise Option プログラム作成の手引」のトランザクション種別の説明を参照してください。

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**ccccccc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**ddddddd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0013	PCE が不足しています。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
9999	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB55370-E

ユーザコマンドの実行に失敗しました。理由コード = aaaa, e x i t コード = bb...bb, シグナル番号 = cc...cc, 詳細コード = dd...dd

Execution of a user command has failed. reason code = aaaa, exit code = bb...bb, signal number = cc...cc, detail code = dd...dd (E+P+L) (2) (SUP)

回復モード時、TP1/FSP のプロセス関連定義の recover\_command オペランドで指定したユーザコマンドを実行し、ユーザコマンドが異常終了しました。ユーザコマンドの出力結果は、TP1/EE プロセスの標準出力および標準エラー出力に出力しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb...bb** : ユーザコマンドの exit コード

exit()以外で異常終了した場合は、\*を表示します。

**cc...cc** : ユーザコマンドのシグナル番号

シグナル以外で異常終了した場合は、\*を表示します。

**dd...dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	プロセスの生成に失敗しました。	不要プロセスが多数存在する場合、不要プロセスを終了させてください。解決できない場合は保守員に連絡してください。
0002	ユーザコマンドが実行できません。	ユーザコマンドが存在するか、および実行権限があるかを確認してください。
0010	ユーザコマンドが 0 以外の値で exit()しました。	標準出力と標準エラー出力の内容、および exit コードを基に、ユーザコマンドを見直してください。

理由コード	意味	対策
0011	ユーザコマンドがシグナルで終了しました。	標準出力と標準エラー出力の内容、およびシグナル番号を基に、ユーザコマンドを見直してください。
9000	内部矛盾が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB55390-E

TP1/EE プロセスで障害が発生しました。IFA 番号 = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc

An error has occurred in a TP1/EE process. IFA number = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc (E) (1) (NOS)

TP1/EE プロセスで障害が発生したため、障害情報を表示します。

aa....aa : 障害が発生したスレッドの IFA 番号 (10 進表記)

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) このメッセージのあとに KFSB55350-E メッセージが出力された場合は処理を続行します。  
KFSB65385-E メッセージが出力された場合はプロセスを強制停止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] なし。

## KFSB55391-E

保護されたメモリ領域へのアクセスが発生しました。IFA 番号 = aa....aa, 領域名 = bb....bb, アドレス = cc....cc, 詳細コード 1 = dd....dd, 詳細コード 2 = ee....ee

A protected memory area has been accessed. IFA number = aa....aa, area name = bb....bb, address = cc....cc, detail code 1 = dd....dd, detail code 2 = ee....ee (E) (1) (NOS)

保護されたメモリ領域へのアクセスが発生しました。

aa....aa : 障害が発生したスレッドの IFA 番号 (10 進表記)

IFA 番号が特定できない場合は「0」が表示されます。

bb....bb : 保護されたメモリ領域の名称

SDHIFT : SDB ハンドラインタフェースエリアテンプレート

cc....cc : 保護されたメモリ領域へのアクセスが発生したアドレス

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)このメッセージのあとに KFSB55350-E メッセージが出力された場合は処理を続行します。

KFSB65385-E メッセージが出力された場合は、プロセスダウンします。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 UAP を見直してください。問題がない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB55392-I

```
バックトレース情報。プロセス ID = aa....aa, IFA 番号 = bb....bb, 表示件数 = cc....cc, スレッド ID = dd....dd, POSIX スレッド ID = ee....ee
PID=ff....ff, IFA=gg....gg, NO=hh....hh, SP=ii....ii, RP=jj....jj, FUNC=kk....kk, OFFSET=ll....ll
Backtrace information. process ID = aa....aa, IFA number = bb....bb, display numbers = cc....cc,
thread ID = dd....dd, POSIX thread ID = ee....ee
PID=ff....ff, IFA=gg....gg, NO=hh....hh, SP=ii....ii, RP=jj....jj, FUNC=kk....kk, OFFSET=ll....ll
(E) (5) (NOS)
```

障害発生時のバックトレースを表示します。

バックトレース情報行 (PID=...) は、バックトレース中の関数呼び出し 1 件分につき 1 行出力します。

バックトレース中の関数呼び出しが 128 件を超える場合は、直近の関数呼び出しから 128 件分までを出力します。

aa....aa : プロセス ID

bb....bb : IFA 番号

cc....cc : バックトレース情報行の表示件数

dd....dd : スレッド ID

ee....ee : POSIX スレッド ID

ff....ff : プロセス ID

gg....gg : IFA 番号

hh....hh : バックトレース情報行の通番

ii....ii : スタックポインタ (16 進数表記)

jj....jj : 関数ポインタ (16 進数表記)

kk....kk : 関数名

関数名を取得できない場合は「?」を表示します。

ll...ll : 関数オフセット (16 進数表記)

関数オフセットを取得できない場合は「?」を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB55395-I

CPU時間情報。プロセスID = aa....aa, IFA番号 = bb....bb, スレッドID = cc....cc, POSIXスレッドID = dd....dd, 詳細コード1 = ee....ee, 詳細コード2 = ff....ff

CPU time infomation. process ID = aa....aa, IFA number = bb....bb, thread ID = cc....cc, POSIX thread ID = dd....dd, detail code 1 = ee....ee, detail code 2 = ff....ff (E) (5) (NOS)

CPU 時間の情報を表示します。

aa....aa : プロセス ID

bb....bb : IFA 番号

cc....cc : スレッド ID

dd....dd : POSIX スレッド ID

ee....ee : 詳細コード 1

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

ff....ff : 詳細コード 2

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB55400-E

メモリDUMPファイル出力機能を停止します。理由コード = aa

The memory dump file output function will stop. reason code = aa (E+P+L) (2) (SUP)

メモリダンプファイル出力機能を停止します。

aa : 理由コード

01 : 出力できるメモリダンプファイルがなくなりました。

02：メモリダンプファイルを格納するディレクトリを作成できませんでした。

(S)システムを続行します。

(O)システムの続行に影響があり、直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除き、システムを再起動してください。

【対策】 なし。

## KFSB55401-E

トラブルシューティングファイルの初期化処理に障害が発生しました。ファイル種別 = a, 理由コード = bb  
Failure occurred for initialization processing for the troubleshooting file. file type = a, reason code = bb (E+P+L) (2) (SUP)

トラブルシューティングファイルの初期化処理で障害が発生しました。

**a**：ファイル種別

t：TASKTM ファイル

l：回線トレースファイル

u：UAP トレースファイル

s：統計情報ファイル

m：MCP トレースファイル

x：XDB トレース情報ファイル

i：ミドル固有トレースファイル

**bb**：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)システムを続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
01	ファイル作成エラーが発生しました。システム定義に指定した数のファイルを作成できませんでした。	メッセージログファイルを参照し、原因を検証してください。システムの続行に影響がある場合は、原因を取り除き、システムを再起動してください。
02	作業エリア確保エラーが発生しました。	メモリ関連定義の max_mem_size オペランドの指定値を見直してください。
03	ファイル入出力エラーが発生しました。	メッセージログファイルを参照し、原因を検証してください。システムの続行に影響がある場合は、原因を取り除き、システムを再起動してください。

理由コード	意味	対策
04	ファイルサイズエラーが発生しました。	<p>ファイル種別が t の場合は、トラブルシュート関連定義の trb_tasktm_file_size オペランドの指定値を見直してください。</p> <p>ファイル種別が l の場合は、トラブルシュート関連定義の trb_trace_file_size オペランドの指定値を見直してください。</p> <p>ファイル種別が u の場合は、トラブルシュート関連定義の trb_uap_trace_file_size オペランドの指定値を見直してください。</p> <p>ファイル種別が s の場合は、トラブルシュート関連定義の trb_stc_file_size オペランドの指定値を見直してください。</p> <p>ファイル種別が m の場合は、MCP 構成定義の eemcptrc 定義コマンドの指定値を見直してください。</p> <p>ファイル種別が x の場合は、XDB サービス定義の xdb_trace_file_size オペランドの指定値を見直してください。</p> <p>ファイル種別が i の場合は、トラブルシュート関連定義 trb_middle_trace_file_size オペランドの指定値を見直してください。</p>

## KFSB55402-E

T A S K T M出力機能を停止します。理由コード = aa

The TASKTM output function will stop. reason code = aa (E+P+L) (2) (SUP)

TASKTM 出力機能を停止します。

**aa** : 理由コード

- 01 : 出力できる TASKTM ファイルがなくなりました。
- 02 : TASKTM ファイルを格納するディレクトリを作成できませんでした。
- 03 : TASKTM ファイル初期化処理で障害が発生しました。

(S)システムを続行します。

(O)メッセージログファイルを参照し、原因を検証してください。システムの続行に影響がある場合は、原因を取り除き、システムを再起動してください。

【対策】なし。

## KFSB55403-E

回線トレース出力機能を停止します。理由コード = aa

The line trace output function will stop. reason code = aa (E+P+L) (2) (SUP)

回線トレース出力機能を停止します。

**aa** : 理由コード

- 01 : 出力できる回線トレースファイルがなくなりました。

02：回線トレースファイルを格納するディレクトリを作成できませんでした。

03：回線トレースファイル初期化処理で障害が発生しました。

(S)システムを続行します。

(O)メッセージログファイルを参照し、原因を検証してください。システムの続行に影響がある場合は、原因を取り除き、システムを再起動してください。

【対策】 なし。

#### KFSB55404-E

TASKTM取得機能におけるHiRDB/Clientとのインタフェースに不正を検知しました。これによりSQLに関連するTASKTM情報の取得を行いません。詳細コード= aa

An anomaly was detected with the interface for the HiRDB/Client for the TASKTM acquisition function. detail code = aa (E+P+L) (2) (SUP)

TASKTM 取得機能で HiRDB/Client とのインタフェースに不正を検知しました。このため、SQL に関連する TASKTM 情報を取得しません。

aa：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)システムを続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB55405-E

ディレクトリ作成処理に障害が発生しました。ディレクトリ名 = aa....aa, 理由コード = bb

Failure occurred for directory creation processing. directory name = aa....aa, reason code = bb (E+P+L) (2) (SUP)

ディレクトリ作成処理で障害が発生しました。

aa....aa：障害が発生したディレクトリ名

bb：理由コード

01：mkdir エラー

02：stat64 または stat エラー

(S)システムを続行します。

(O)ディレクトリの使用状況を見直してください。システムの続行に影響がある場合は、原因を取り除き、システムを再起動してください。



【対策】 なし。

#### KFSB55406-E

統計情報出力機能を停止します。理由コード = aa

The output function for statistical information will stop. reason code = aa (E+P+L) (2)  
(SUP)

統計情報出力機能を停止します。

aa：理由コード

- 01：出力できる統計情報ファイルがなくなりました。
- 02：統計情報ファイルを格納するディレクトリが作成できませんでした。
- 03：統計情報ファイルの初期化処理で障害が発生しました。

(S)システムを続行します。

(O)メッセージログファイルを参照し、原因を検証してください。システムの続行に影響がある場合は、原因を取り除き、システムを再起動してください。

【対策】 なし。

#### KFSB55407-E

タイマの登録に失敗しました。処理種別 = aa....aa

An attempt to register a timer failed. processing type = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

タイマの数が不足したため、タイマ登録に失敗しました。時間を置いて再度登録します。

aa....aa：処理種別

- 1：基本統計情報のインタバル取得
- 2：OBM 統計情報のインタバル取得

(S)処理を続行します。なお、タイマの再登録が失敗した場合はこのメッセージは出力されません。再登録が成功した場合は KFSB85405-I メッセージが出力されます。

(O)メモリ関連定義の icb\_no オペランドの指定値を見直してください。

【対策】 必要に応じてメモリ関連定義を見直して、TP1/EE を再起動してください。

#### KFSB55408-E

トラブルシューティング機能の回復に失敗しました。機能名 = aaa

An attempt to recover the troubleshooting function failed. function name = aaa (E+P+L)  
(2) (SUP)

トラブルシュート機能の回復に失敗しました。

**aaa** : トラブルシュートで使用する機能名

tsk : TASKTM 機能

lin : 回線トレース機能

uat : UAP トレースファイル出力機能

stc : 統計情報機能

dmp : メモリダンプ機能

mcp : MCP トレース機能

xdb : XDB トレース情報機能

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージを参照して対策してください。

#### KFSB55409-E

UAP トレースファイル出力機能を停止します。理由コード = aa

The output function for UAP trace files will stop. reason code = aa (E+P+L) (2) (SUP)

UAP トレースファイル出力機能を停止します。

**aa** : 理由コード

01 : 出力できる UAP トレースファイルがなくなりました。

02 : UAP トレースファイルを格納するディレクトリを作成できませんでした。

03 : UAP トレースファイルの初期化処理で障害が発生しました。

(S)システムを続行します。

(O)メッセージログファイルを参照し、原因を検証してください。システムの続行に影響がある場合は、原因を取り除き、システムを再起動してください。

**[対策]** なし。

#### KFSB55410-E

MCP トレース出力機能を停止します。理由コード = aa

The MCP trace output function will stop. reason code = aa (E+P+L) (2) (SUP)

MCP トレース出力機能を停止します。

**aa** : 理由コード

01 : 出力できる MCP トレースファイルがなくなりました。

02：MCP トレースファイルを格納するディレクトリが作成できませんでした。

03：MCP トレースファイルの初期化処理で障害が発生しました。

(S)システムを続行します。

(O)メッセージログファイルを参照し、原因を検証してください。システムの続行に影響がある場合は、原因を取り除いた上でシステムを再起動してください。

[対策] なし。

## KFSB55411-E

滞留メッセージのファイル出力を中止します。理由コード = aaaa, ファイル名 = bb...bb  
File output for remaining messages has been stopped. reason code = aaaa, file name = bb...bb (E+P+L) (2) (NOS)

滞留メッセージのファイル出力を中止します。

**aaaa**：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb...bb**：ファイル名

(S)滞留メッセージのファイル出力を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	処理キューの登録に失敗しました。	eememls コマンドで処理キュー制御用バッファ (PCE) に空きがあることを確認してから eepcerefer コマンドを再実行してください。空きがない場合は、しばらく待ってから eememls コマンドで PCE の使用状況を再確認してください。
0002	ワーク領域が不足しました。	eememls コマンドで共用ワーク領域、または XTC 用ワーク領域に空きがあることを確認してから eepcerefer コマンドを再実行してください。空きがない場合は、しばらく待ってから eememls コマンドで共用ワーク領域、または XTC 用ワーク領域の使用状況を再確認してください。
0003	タイミングエラーです。	次の項目を確認してから eepcerefer コマンドを再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• eelssv コマンドで、状態が DCT と表示される。</li><li>• eelspcenum コマンドで、滞留メッセージがある。</li></ul>

理由コード	意味	対策
0004	ファイルの出力に失敗しました。	このメッセージの前に出力されている KFSB45404-W メッセージの理由コード、および KFSB40107-E メッセージのエラーコードを参照して原因を取り除いてください。
0005	ファイルのクローズに失敗しました。	このメッセージの前に出力されている KFSB45404-W メッセージの理由コード、および KFSB40107-E メッセージのエラーコードを参照して原因を取り除いてください。

## KFSB55412-E

キューダンプファイルの I/O 処理時間が監視時間を超えました。監視時間 = aa....aa, 経過時間 = bb....bb, ファイル名 = cc....cc

Duration of I/O for the queue dump file has exceeded the monitoring time limit. monitoring time = aa....aa, duration = bb....bb, file name = cc....cc (E+P+L) (2) (NOS)

キューダンプファイルの入出力処理時間が監視時間を超えました。

aa....aa : 監視時間 (秒)

bb....bb : 入出力を開始してからこのメッセージを出力するまでに経過した時間 (秒)

cc....cc : ファイル名

(S) 処理を続行します。

(O) OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**[対策]** ディスクアクセスの多発によって入出力処理時間が増大したか、またはディスク障害が発生したおそれがあります。原因を調査して、その原因を取り除いてください。

## KFSB55413-E

XDB トレース出力機能を停止します。理由コード = aa

The XDB trace output function will stop. reason code = aa (E+P+L) (2) (SUP)

XDB トレース出力機能を停止します。

aa : 理由コード

01 : 出力できる XDB トレース情報ファイルがなくなりました。

02 : XDB トレース情報ファイルを格納するディレクトリが作成できませんでした。

03 : XDB トレース情報ファイルの初期化処理で障害が発生しました。

(S) システムを続行します。

(O)メッセージログファイルを参照し、原因を検証してください。システムの続行に影響がある場合は、原因を取り除いた上でシステムを再起動してください。

【対策】なし。

#### KFSB55414-E

ミドル固有トレース出力機能を停止します。理由コード = aa  
The middle trace output function will stop. reason code = aa (E+P+L) (2) (SUP)

ミドル固有トレース出力機能を停止します。

aa：理由コード

- 01：出力できるミドル固有トレースファイルがなくなりました。
- 02：ミドル固有トレースファイルを格納するディレクトリを作成できませんでした。
- 02：ミドル固有トレースファイル初期化処理に障害が発生しました。

(S)システムを続行します。

(O)メッセージログファイルを参照し、原因を検証してください。システムの続行に影響がある場合は、原因を取り除いた上でシステムを再起動してください。

【対策】なし。

#### KFSB55520-W

終了処理中にエラーが発生しました。理由コード = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc  
An error occurred during termination processing. reason code = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

終了処理中にエラーが発生しました。

aa....aa：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)終了処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	保守情報ファイルの更新に失敗しました。	ディスク容量の不足, ファイルシステムに異常がないかを確認してください。
9000	内部矛盾が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB55540-W

終了処理中にエラーが発生しました。理由コード = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc

An error occurred during termination processing. reason code = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

終了処理中にエラーが発生しました。

**aa....aa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : 詳細コード 1

**cc....cc** : 詳細コード 2

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

**(S)** 終了処理を続行します。

**(O)** OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	保守情報ファイルの更新に失敗しました。	ディスク容量の不足, ファイルシステムに異常がないかを確認してください。
9000	内部矛盾が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB55541-E

開始処理中にエラーが発生しました。理由コード = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc

An error occurred in the start-up processing. reason code = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

開始処理中にエラーが発生しました。

aa....aa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : 詳細コード 1

cc....cc : 詳細コード 2

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)データ連携支援のプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	デーモンプロセス化に失敗しました。	データ連携支援実行コマンドを再実行してください。
9000	内部矛盾が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB55600-E

DB キューの構成に誤りがあります。DB キュー名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
The configuration of a DB queue is invalid. DB queue name = aa....aa, reason code = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

DB キューの構成に誤りがあります。該当する DB キューを永久閉塞します。

aa....aa : 構成に誤りがある DB キュー名

bb....bb : DB キュー構成チェック時の理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)該当する DB キューを永久閉塞し、処理を続行します。

理由コードが 1002 で、TP1/EE のオンライン開始前に、このメッセージが出力された場合は、処理を続行しないで異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策し、DB キュー機能で使用する DB キュー表を作り直してください。

理由コードが 1002 の場合は、TP1/FSP 定義の `trn_max_retry_count` を省略するか、0 以外の値を設定してください。

eedbqtblh コマンド, または eedbqtblb コマンドで DB キュー表を作成した場合

理由コード	意味
0109	eedbqtblh コマンドの-c オプションまたは eedbqtblb コマンドの-c オプションと, DB キュー機能関連定義の dbqdef 定義コマンドの-l オプションに指定された最大書き込みメッセージ数とが不一致です。
0506	eedbqtblh コマンドの-a オプションに 4 (データ連携支援書き込み属性) を設定しないで作成した DB キューが DB キュー関連定義 dbqdef に指定されています。
1002	eedbqtblh コマンドの-a オプションに 8 (交替用メッセージ表書き込み機能を使用) を設定した DB キューが DB キュー関連定義 dbqdef に指定されていますが, TP1/FSP のリトライロールバック機能が使用されていません。
上記以外	DB キューが壊れています。

eedbqtblh コマンド以外の方法, または eedbqtblb コマンド以外の方法で DB キュー表を作成した場合

理由コード	意味
0001	ライト管理表の WC#が 0 ですが, リード管理表の RM#が 0 ではありません。
0002	リード管理表の RM#が定義の最大メッセージ数を超過しています。
0003	ライト管理表の WCLAP#, またはリード管理表の RMLAP#が不正です。
0100	ライト管理表の WC#列名のサイズが不正です。
0101	ライト管理表の WC#列名が不正です。
0102	ライト管理表の WC#列のデータ型が不正です。
0103	ライト管理表の WCLAP#列名のサイズが不正です。
0104	ライト管理表の WCLAP#列名が不正です。
0105	ライト管理表の WCLAP#列のデータ型が不正です。
0106	ライト管理表の WCMAx#列名のサイズが不正です。
0107	ライト管理表の WCMAx#列名が不正です。
0108	ライト管理表の WCMAx#列のデータ型が不正です。
0109	ライト管理表の WMAx#が定義に指定した値と異なります。
0110	ライト管理表の WC#が 0 以上, WMAx#以下での値ではありません。
0111	ライト管理表の WCLAP#が 0 以上, 最大値以下の値ではありません。
0112	ライト管理表に行がありません。
0120	ライト管理表の WSE1DATA 列名のサイズが不正です。
0121	ライト管理表の WSE1DATA 列名が不正です。
0122	ライト管理表の WSE1DATA 列のデータ型が不正です。
0123	ライト管理表の WSE1DATA 列のデータサイズが不正です。
0200	リード管理表の RM#列名のサイズが不正です。



理由コード	意味
0201	リード管理表の RM#列名が不正です。
0202	リード管理表の RM#列のデータ型が不正です。
0203	リード管理表の RMLAP#列名のサイズが不正です。
0204	リード管理表の RMLAP#列名が不正です。
0205	リード管理表の RMLAP#列のデータ型が不正です。
0206	リード管理表の RM#が 0 以上, WMAX#以下の値ではありません。
0207	リード管理表の RMLAP#が 0 以上, 最大値以下の値ではありません。
0208	リード管理表に行がありません。
0209	リード管理表の RSDATA 列名のサイズが不正です。
0210	リード管理表の RSDATA 列名が不正です。
0211	リード管理表の RSDATA 列のデータ型が不正です。
0212	リード管理表の RSDATA 列のデータサイズが不正です。
0220	リード管理表の RSE1DATA 列名のサイズが不正です。
0221	リード管理表の RSE1DATA 列名が不正です。
0222	リード管理表の RSE1DATA 列のデータ型が不正です。
0223	リード管理表の RSE1DATA 列のデータサイズが不正です。
0300	メッセージ管理表の MSG#列名のサイズが不正です。
0301	メッセージ管理表の MSG#列名が不正です。
0302	メッセージ管理表の MSG#列のデータ型が不正です。
0303	メッセージ管理表の MSG 列名のサイズが不正です。
0304	メッセージ管理表の MSG 列名が不正です。
0305	メッセージ管理表の MSG 列のデータ型が不正です。
0306	メッセージ管理表の行数が WMAX#と異なります。
0307	メッセージ管理表の MSG#値が不正です。
0320	メッセージ管理表の MSE1DATA 列名のサイズが不正です。
0321	メッセージ管理表の MSE1DATA 列名が不正です。
0322	メッセージ管理表の MSE1DATA 列のデータ型が不正です。
0323	メッセージ管理表の MSE1DATA 列のデータサイズが不正です。
0350	交替用メッセージ表の MSG#列名のサイズが不正です。
0351	交替用メッセージ表の MSG#列名が不正です。
0352	交替用メッセージ表の MSG#列のデータ型が不正です。

理由コード	意味
0353	交替用メッセージ表の MSG 列名のサイズが不正です。
0354	交替用メッセージ表の MSG 列名が不正です。
0355	交替用メッセージ表の MSG 列のデータ型が不正です。
0356	交替用メッセージ表の行数が WMAX#と異なります。
0357	交替用メッセージ表の MSG#値が不正です。
0370	交替用メッセージ表の MSE1DATA 列名のサイズが不正です。
0371	交替用メッセージ表の MSE1DATA 列名が不正です。
0372	交替用メッセージ表の MSE1DATA 列のデータ型が不正です。
0373	交替用メッセージ表の MSE1DATA 列のデータサイズが不正です。
0400	メッセージ管理表のインデクス種別が不正です。
0401	メッセージ管理表のインデクスのインデクス構成列数が不正です。
0402	メッセージ管理表のインデクスのインデクス構成列名が不正です。
0403	メッセージ管理表のインデクスがありません。
0450	交替用メッセージ表のインデクス種別が不正です。
0451	交替用メッセージ表のインデクスのインデクス構成列数が不正です。
0452	交替用メッセージ表のインデクスのインデクス構成列名が不正です。
0453	交替用メッセージ表のインデクスがありません。
0500	データ連携支援引継ぎ情報管理表の RKS_ID 列データ型が不正です。
0501	データ連携支援引継ぎ情報管理表の RKS_SERVICE 列データ型が不正です。
0502	データ連携支援引継ぎ情報管理表の RKS_RUNID 列 1 データ型が不正です。
0503	データ連携支援引継ぎ情報管理表の RKS_DATA 列データ型が不正です。
0504	データ連携支援引継ぎ情報管理表のインデクスが不正です。
0505	データ連携支援引継ぎ情報管理表の RKS_RUNID 列 2 データ型が不正です。
0506	リード管理表から SELECT した行の RSDATA にデータ連携支援書き込み属性が設定されていません。
1001	リード管理表から SELECT 文で抽出した行の RSDATA 列の値が、NULL であるかまたはデータ長が不正です。
1002	リード管理表から SELECT した行の RSDATA に交替用メッセージ表書き込み機能の使用が設定されていますが、リトライロールバック機能を使用していません。

## KFSB55601-E

タイマの登録に失敗しました。処理種別 = aa....aa

An attempt to register a timer has failed. processing type = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

タイマの数が不足したため、タイマの登録に失敗しました。時間を置いて再度登録します。

aa....aa：登録に失敗した処理種別

- 1：ポーリング機能
- 2：DB キュー構成チェック
- 3：DB キューからメッセージを読み出すサーバの監視

(S)処理を続行します。

(O)メモリ関連定義の icb\_no オペランドの指定値を見直してください。

【対策】 必要に応じて、メモリ関連定義の icb\_no オペランドの指定値を見直して、再起動してください。

## KFSB55602-E

処理キューの登録に失敗しました。処理種別 = aa....aa

An attempt to register a processing queue has failed. processing type = aa....aa (E+P+L)  
(2) (SUP)

プロセスの初期化処理で、処理キューが不足しています。

aa....aa：登録に失敗した処理種別

- 1：起動時の読み出しチェック

(S)処理を続行します。

(O)メモリ関連定義の pce\_no オペランドの指定値を見直してください。

【対策】 必要に応じて、メモリ関連定義の pce\_no オペランドの指定値を見直して、再起動してください。

## KFSB55603-E

ステータスファイルの入出力処理で障害が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc

An error has occurred during input/output processing of the status file. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

ステータスファイルの入出力処理で障害が発生しました。DB キューの状態を引き継げません。KFSB80003-I メッセージが出力される前の場合は、初期状態で開始します。

aa....aa：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 直前に出力されているメッセージを基にステータスファイル制御機能に異常がないかどうか、確認してください。必要に応じて TP1/EE を停止して原因を取り除き、TP1/EE を再起動してください。

#### KFSB55605-E

```
終了監視時に、DB キューに未読み出しのメッセージがあります。DB キュー名 = aa....aa  
Unread messages were found in a DB queue during termination monitoring. DB queue name  
= aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)
```

終了監視時に、DB キューに読み出していないメッセージがあります。

aa....aa : 読み出していないメッセージがある DB キュー名

(S)DB キューに読み出していないメッセージがなくなるまで、監視処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 必要な運用コマンドを実行してください。

#### KFSB55606-E

```
DB キューの構成チェックでの SQL 実行時にエラーが発生しました。DB キュー名 = aa....aa, エ  
ラーコード = bb....bb, SQL CODE = cc....cc  
An error has occurred while SQL was being executed during a configuration check of the DB  
queue. DB queue name = aa....aa, error code = bb....bb, SQLCODE = cc....cc (E+P+L)  
(2) (SUP)
```

DB キューの構成チェックの SQL 実行時に障害が発生しました。該当する DB キューを永久閉塞します。

aa....aa : 障害が発生した DB キュー名

bb....bb : SQL 実行時のエラーコード

障害の発生した SQL が GET CONNECTION HANDLE 以外の場合は、\*を表示します。

cc....cc : SQL 実行時の SQLCODE

障害の発生した SQL が GET CONNECTION HANDLE の場合は、\*を表示します。

(S)該当する DB キューを永久閉塞し、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** エラーコード、または SQLCODE を基にマニュアル「HiRDB SQL リファレンス」を参照し原因を取り除いてください。

## KFSB55607-E

領域確保に失敗しました。対象領域コード = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 領域サイズ = cc....cc  
An attempt to allocate area has failed. target area code = aa....aa, reason code = bb....bb,  
area size = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

領域の確保に失敗しました。

**aa....aa** : 確保に失敗した領域コード

- 1 : オンライン開始時のステータスファイル用作業領域
- 2 : オンライン実行時のステータスファイル用作業領域

**bb....bb** : 理由コード

- 1 : メモリが不足しています。
- 2 : その他の障害が発生しました。

**cc....cc** : 確保に失敗した領域のサイズ (単位 : バイト)

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** メモリ関連定義の system\_work\_size オペランドの指定値を見直してください。必要に応じて、system\_work\_size オペランドを変更し、TP1/EE を再起動してください。TP1/EE を続行した場合、次の状態になります。

理由コードが 1 の場合

再開する場合は、正常開始と同様の状態で起動します。

理由コードが 2 場合

このメッセージの出力後、オンラインを計画停止またはプロセスダウンし、再開する場合は、このメッセージの出力前の状態でプロセスを回復します。

## KFSB55608-E

DB キューの構成チェックでの SQL 実行時にエラーが発生しました。DBMS メッセージ = aa....aa, DB キュー名 = bb....bb, SQL CODE = cc....cc, 詳細コード = dd....dd  
An error occurred during SQL execution for a DB queue configuration check. DBMS message = aa....aa, DB queue name = bb....bb, SQLCODE = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

DB キューの構成チェックでの SQL 実行時にエラーが発生しました。該当する DB キューを永久閉塞します。

**aa....aa** : DBMS のエラーメッセージ

**bb....bb** : DB キュー名

cc....cc : SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)該当する DB キューを永久閉塞し、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 DBMS のエラーメッセージを参照して、原因を取り除いてください。

## KFSB55610-E

終了監視時に、処理中のロットがあります。DB キュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, 理由コード = c, 詳細コード = dd

A lot that was being processed was found during termination monitoring. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, reason code = c, detail code = dd (E+P+L) (2) (SUP)

終了監視時に処理中のロットがあります。

aa....aa : 処理中のロットがある DB キュー名

bb....bb : 該当するロット名

c : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)DB キューに処理中のロットがなくなるまで、監視処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
A	ロットを実行中です。	必要に応じて DB キューのオンラインバッチ処理の中断、または DB キューのオンラインバッチ処理の強制終了コマンドを実行してください。
B		
C		
E		
D	ロットを中断中です。	DB キューのオンラインバッチ処理の再開コマンドを実行してください。
F		

## KFSB55611-E

ステータスファイルの入出力処理で障害が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc

An error has occurred during input/output processing of the status file. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

ステータスファイルの入出力処理で障害が発生しました。オンラインバッチの状態を引き継ぎません。または初期状態で開始します。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 直前に出力されているメッセージを基に、ステータスファイル制御機能に異常がないかどうか調査してください。必要に応じて TP1/EE を停止して原因を取り除き、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB55612-W

トランザクションがロールバックしたためメッセージをスキップしました。DB キュー名 = aa....aa, DB キューサービス名 = bb....bb, メッセージ通番 = cc....cc

A message was skipped because a transaction was rolled back. DB queue name = aa....aa, DB queue service name = bb....bb, message sequence number = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)

トランザクションがロールバックしたためメッセージをスキップしました。

aa....aa : DB キュー名

bb....bb : DB キューサービス名

cc....cc : スキップしたメッセージの通番 (10 進数 10 けた以内)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**[対策]** なし。

## KFSB55620-E

処理キューの登録に失敗しました。DB キュー名 = aa....aa, DB キューサービス名 = bb....bb, 登録コード = cc....cc, 理由コード = dd....dd, 詳細コード 1 = ee....ee, 詳細コード 2 = ff....ff

An attempt to register a processing queue has failed. DB queue name = aa....aa, DB queue service name = bb....bb, registration code = cc....cc, reason code = dd....dd, detail code 1 = ee....ee, detail code 2 = ff....ff (E+P+L) (2) (SUP)

処理キューの登録に失敗しました。

**aa....aa** : 処理キューの登録に失敗した DB キュー名

DB キュー名がない場合は, \*を表示します。

**bb....bb** : 処理キューの登録に失敗した DB キューサービス名

DB キューサービス名がない場合は, \*を表示します。

**cc....cc** : 登録コード

DBQMSG : DB キューのメッセージ受信サービストランザクションの処理キューの登録に失敗しました。

DBQSYS : TP1/EE が DB キュー機能の制御に使用するトランザクションの登録に失敗しました。

DBQCHK : TP1/EE が DB キュー機能の開始制御に使用するトランザクションの登録に失敗しました。

**dd....dd** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**ee....ee** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**ff....ff** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)登録コードが DBQMSG の場合は, メッセージの読み出しを停止します。登録コードが DBQSYS の場合は, 処理を続行します。登録コードが DBQCHK の場合は, 該当する処理を中止し, TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0003	PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して, 再実行してください。
9001	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB55621-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc

An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)



内部矛盾が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)該当する処理を中止して、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

#### KFSB55622-E

DBキューの内容が矛盾しています。DBキュー名 = aa....aa, 詳細コード1 = bb....bb, 詳細コード2 = cc....cc, 詳細コード3 = dd....dd, 詳細コード4 = ee....ee, 詳細コード5 = ff....ff

The contents of a DB queue are invalid. DB queue name = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc, detail code 3 = dd....dd, detail code 4 = ee....ee, detail code 5 = ff....ff (E+P+L) (2) (SUP)

DBキューの内容が矛盾しています。該当するDBキューを永久閉塞します。

aa....aa : 内容が矛盾しているDBキュー名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)該当するDBキューを永久閉塞し、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するDBキューを使用するシステムの動作状況を確認してください。また、該当するDBキューを不正に更新しているプログラムがないかどうか確認してください。必要に応じて、DBキューを作成し直して、TP1/EE を再起動してください。

#### KFSB55623-E

DBキューグループ内に使用できるDBキューがありません。DBキューグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb

The DB queue group do not contain any DB queues that can be used. DB queue group name = aa....aa, service name = bb....bb (E+P+L) (3) (SUP)

DB キューグループ内のすべての DB キューが次のどれかの状態のため、使用できる DB キューがありません。

DB キューの状態

- 構成チェック障害による永久閉塞
- 内容矛盾による永久閉塞
- 構成チェックリトライ中
- リソースマネージャとの接続失敗
- 書き込み先から除外されている

aa....aa : 該当する DB キューサービスグループ名

bb....bb : 該当するサービス名

サービス名がない場合は、\*を表示します。

(S)メッセージの書き込みを中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当する DB キューグループ内の DB キューの状態を確認してください。

## KFSB55624-W

他サーバ読み出しDB キューへの変更を検知しました。トランザクションブランチをロールバックします。DB キュー名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb

A change in a DB queue used to read from a remote server was detected. The transaction branch will now be rolled back. DB queue name = aa....aa, service name = bb....bb (S+P+L) (5) (SUP)

UAP リターン後、または ee\_trn\_chained\_commit 関数の発行後に、他サーバ読み出しの DB キューへの変更を検知しました。メッセージ読み出しトランザクション、またはメッセージをスキップするトランザクションをロールバックします。

aa....aa : DB キュー名

bb....bb : サービス名

サービス名がない場合は、\*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

#### KFSB55625-E

ロールバックリトライ回数の上限を超えました。サービス名 = aa....aa, 処理種別 = b  
The rollback retry limit has been exceeded. service name = aa....aa, processing type = b  
(E+P+L) (2) (NOS)

ロールバックリトライ回数の上限を超えました。

aa....aa : サービス名

b : 処理種別

P : プロセスダウン

H : サービス閉塞

(S)処理種別に応じた処理をします。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] サービスがロールバックした原因を取り除いてください。

#### KFSB55626-E

DBキューのAPIまたはコマンドの転送処理が失敗しました。DBキュー名 = aa....aa, IPアドレス = bb....bb, ポート番号 = cc....cc, ノード識別子 = dd....dd, 中央処理通番 = ee....ee, 要求コード = ff....ff, 理由コード = gg....gg, 詳細コード = hh....hh

An attempt to transfer the API or a command for the DB queue failed. DB queue name = aa....aa, IP address = bb....bb, port number = cc....cc, node ID = dd....dd, central processing number = ee....ee, request code = ff....ff, reason code = gg....gg, detail code = hh....hh (E+P+L) (3) (SUP)

DBキューのAPIまたはコマンドの転送処理が失敗しました。

DBキューのAPIまたはコマンドの実行を中止します。

aa....aa : DB キュー名

bb....bb : RPC 要求先の TP1/EE の IP アドレス

cc....cc : RPC 要求先の TP1/EE のポート番号

dd....dd : RPC 要求先の TP1/EE のノード識別子

ee....ee : RPC 要求元の中央処理通番

#### ff...ff：要求コード

ACS：API の ee\_dbq\_acsctl 関数または CBLEEDBQ('ACSCTL ')  
AI2：API の ee\_dbq\_inquire2 関数または CBLEEDBQ('INQUIRE2')  
CST：eedbqstop コマンド  
CRS：eedbqrst コマンド  
CLS：eedbqls コマンド

#### gg...gg：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

#### hh...hh：TP1/EE がトラブルシューティングで使用する情報

(S)DB キューの API またはコマンドの実行を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1	メッセージ送信失敗	このメッセージの前に出力されている次のメッセージの対策を実施し、再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• KFSB40320-E</li><li>• KFSB40322-E</li><li>• KFSB40350-E</li><li>• KFSB40352-E</li></ul>
2	メッセージ受信タイムアウト	このメッセージが出力する情報を基に、RPC 要求先の TP1/EE プロセスを特定してください。 その後、RPC 要求先が出力するエラーメッセージを基に障害を取り除いてから、再実行してください。
9001	ハングアップタイム停止処理が失敗しました。	保守員に連絡してください。
9002	メッセージ送信処理のための時刻取得に失敗しました。	
9003		
9004	応答送信メッセージ制御部不正	
9005	応答送信メッセージ制御部 LL 不正	
9006	応答送信メッセージの受信制御で内部矛盾が発生しました。	

#### KFSB55627-E

DB キューの API またはコマンドの転送受信処理が失敗しました。

IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 中央処理通番 = cc....cc, 理由コード = dd....dd, 詳細コード = ee....ee

An attempt to receive a transfer API or command for the DB queue has failed.  
 IP address = aa....aa, port number = bb....bb, central processing number = cc....cc, reason code = dd....dd, detail code = ee....ee (E+P+L) (3) (SUP)

ほかの TP1/EE から要求を受けた DB キューの API またはコマンドの、転送受信処理が失敗しました。

aa....aa : RPC 要求元の TP1/EE の IP アドレス

bb....bb : RPC 要求元の TP1/EE のポート番号

cc....cc : RPC 要求元の中央処理通番

dd....dd : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)DB キューの API またはコマンドの実行を中止します。

DB キューの API またはコマンドを要求した TP1/EE では、DB キューの API またはコマンドがタイムアウトによって失敗します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1	DB キューの API またはコマンドの処理キュー登録時にタイミング不正を検知しました。	TP1/EE がオンライン状態であることを確認してください。
2	DB キューの API またはコマンドの処理キュー登録時にリソース不足が発生しました。	しばらく待ってから、API またはコマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、メモリ関連定義の pce_no オペランド (処理キュー登録数) の指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。
9001	送信メッセージ制御部不正	保守員に連絡してください。
9002	送信メッセージ制御部 LL 不正	
9003	送信メッセージ要求コード不正	
9004	送信メッセージフラグメント検知	
9005	トランザクション登録で内部矛盾が発生しました。	

## KFSB55628-E

SQL 実行時にエラーが発生した為、DB キューの通番初期化が完了していません。DB キュー名 = aa....aa

Number initialization for the DB queue is not finished because an error occurred during SQL execution. DB queue name = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

SQL 実行時にエラーが発生したため、DB キューの通番初期化が完了していません。通番初期化が完了 (KFSB85628-I メッセージを出力) するまで、メッセージの読み出し、または DB キュー情報の照会ができません。

aa....aa : DB キュー名

(S)SQL の実行が成功するまで、通番初期化を最大 30 秒間隔でリトライします。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** このメッセージより前に出力されている KFSB45620-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。

### KFSB55630-E

処理キューの登録に失敗しました。DB キュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, オンラインバッチサービス名 = cc....cc, 登録コード = dd....dd, 理由コード = ee....ee, 詳細コード 1 = ff....ff, 詳細コード 2 = gg....gg

An attempt to register a processing queue has failed. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, online batch service name = cc....cc, registration code = dd....dd, reason code = ee....ee, detail code 1 = ff....ff, detail code 2 = gg....gg (E+P+L) (2) (SUP)

処理キューの登録に失敗しました。

aa....aa : 処理キューの登録に失敗した DB キュー名

bb....bb : 処理キューの登録に失敗したロット名

cc....cc : 処理キュー登録に失敗したオンラインバッチサービス名  
オンラインバッチサービス名がない場合は、\*を表示します。

dd....dd : 登録コード

OBSCNT : バッチ制御トランザクションの登録に失敗しました。

OBSSEND : バッチ終了トランザクションの登録に失敗しました。

OBSYS : TP1/EE がオンラインバッチ機能の制御に使用するトランザクションの登録に失敗しました。

ee....ee : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

gg....gg : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)登録コードが OBSCNT または OBSEND の場合は、TP1/EE プロセスを強制停止します。登録コードが OBSSYS の場合は、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0003	PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
9001	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB55631-E

オンラインバッチ処理の回復が失敗しました。DB キュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, オンラインバッチサービス名 = cc....cc, 回復処理状態 = dd....dd, 詳細コード 1 = e

A recovery attempt for online batch processing has failed. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, online batch service name = cc....cc, recovery processing status = dd....dd, detail code 1 = e (E+P+L) (2) (SUP)

オンラインバッチ処理の回復に失敗しました。

aa....aa : オンラインバッチ処理の回復に失敗した DB キュー名

bb....bb : オンラインバッチ処理の回復に失敗したロット名

cc....cc : オンラインバッチ処理の回復に失敗したオンラインバッチサービス名

dd....dd : 回復処理状態

STOP : 回復処理を中止します。

e : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)このメッセージより前に出力されている KFSB45630-E, KFSB45633-E, KFSB45636-E, KFSB55670-E, KFSB55671-E, または KFSB55672-E メッセージを参照してください。必要に応じてオンラインバッチ処理を再開、または強制終了してください。

[対策] なし。

## KFSB55650-E

共有情報表のアクセスで障害が発生しました。共有情報表名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred during an attempt to access a JI table. JI table name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (3) (SUP)

共有情報表のアクセスで障害が発生しました。

aa....aa : 共有情報表名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)共有情報表の更新を中止してオンライン終了処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	共有情報表があるリソースマネージャと未接続です。	TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して、対策してください。
0002	SQL エラーが発生しました。	
0003	PCE が不足しました。	
0004	ロールバック決着しました。	
0005	ヒューリスティックミックス決着しました。	
9001	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB55651-E

共有情報表のアクセスで障害が発生しました。共有情報表名 = aa....aa, 種別 = bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd

An error occurred during an attempt to access a JI table. JI table name = aa....aa, type = bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd (E+P+L) (3) (SUP)

共有情報表のアクセスで障害が発生しました。

aa....aa : 共有情報表名

bb : トランザクション種別

DQ : JI トランザクションを制御するトランザクション

JI : JI トランザクション

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。



dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/FSP のユーザサービス関連定義の `ji_err_retry_use` オペランドに N を指定、または `ji_err_retry_use` オペランドを省略した場合は、TP1/EE プロセスを強制停止します。

`ji_err_retry_use` オペランドに Y を設定した場合は、トランザクションを再実行します。ただし、TP1/FSP のユーザサービス関連定義の `ji_err_retry_cnt` オペランドに設定した回数だけ再実行しているときは、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。プロセスが強制停止した場合は、TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して、対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	共有情報表があるリソースマネージャと未接続です。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
0002	SQL エラーが発生しました。	リソースマネージャの出力するメッセージ、およびこのメッセージの直前に出力されている <a href="#">KFSB45672-E</a> または <a href="#">KFSB50970-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
0003	ロールバック決着しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。

## KFSB55670-E

DB キューの構成に誤りがあります。DB キュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc

The configuration of a DB queue is invalid. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, reason code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

DB キューの構成に誤りがあります。

aa....aa : 構成に誤りがある DB キュー名

bb....bb : 構成に誤りがあるロット名

cc....cc : DB キュー構成チェック時の理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策し、DB キュー機能で使用する DB キュー表を作り直してください。

理由コード	意味	対策
0100	ライト管理表の WC#列名のサイズが不正です。	必要に応じて DB キュー表を作成し直し、TPI/EE を再起動してください。
0101	ライト管理表の WC#列名が不正です。	
0102	ライト管理表の WC#列のデータ型が不正です。	
0121	ライト管理表の LOTWKEY 列名のサイズが不正です。	
0122	ライト管理表の LOTWKEY が不正です。	
0123	ライト管理表の LOTWKEY のデータ型が不正です。	
0200	リード管理表の RM#列名のサイズが不正です。	
0201	リード管理表の RM#列名が不正です。	
0202	リード管理表の RM#列のデータ型が不正です。	
0221	リード管理表の LOTRKEY 列名のサイズが不正です。	
0222	リード管理表の LOTRKEY 列名が不正です。	
0223	リード管理表の LOTRKEY 列のデータ型が不正です。	
0224	リード管理表の RS#列名のサイズが不正です。	
0225	リード管理表の RS#列名が不正です。	
0226	リード管理表の RS#列のデータ型が不正です。	
0300	メッセージ管理表の MSG#列名のサイズが不正です。	
0301	メッセージ管理表の MSG#列名が不正です。	
0302	メッセージ管理表の MSG#列のデータ型が不正です。	
0303	メッセージ管理表の MSG 列名のサイズが不正です。	
0304	メッセージ管理表の MSG 列名が不正です。	
0305	メッセージ管理表の MSG 列のデータ型が不正です。	
0307	メッセージ管理表の MSG#値が昇順ではありません。	
0321	メッセージ管理表の LOTNAME 列名のサイズが不正です。	
0322	メッセージ管理表の LOTNAME 列名が不正です。	
0323	メッセージ管理表の LOTNAME 列のデータ型が不正です。	
0324	メッセージ管理表の行数が最大登録メッセージ数を超過しています。	
0400	メッセージ管理表のインデクス種別が不正です。	
0401	メッセージ管理表のインデクスのインデクス構成列数が不正です。	

理由コード	意味	対策
0402	メッセージ管理表のインデクスのインデクス構成列名が不正です。	必要に応じて DB キュー表を作成し直し、TP1/EE を再起動してください。
0403	リード管理表のインデクス種別が不正です。	
0404	リード管理表のインデクスのインデクス構成列数が不正です。	
0405	リード管理表のインデクスのインデクス構成列名が不正です。	
0406	メッセージ管理表のインデクスがありません。	
0407	リード管理表のインデクスがありません。	

## KFSB55671-E

DB キューの構成チェックでの SQL 実行時にエラーが発生しました。DB キュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, SQLCODE = cc....cc

An error has occurred while SQL was being executed during a configuration check of the DB queue. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, SQLCODE = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

DB キューの構成チェックの SQL 実行時に障害が発生しました。

aa....aa : 障害が発生した DB キュー名

bb....bb : 障害が発生したロット名

cc....cc : SQL 実行時の SQLCODE

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 SQLCODE を基に原因を取り除いてください。

## KFSB55672-E

DB キューの構成チェックでの SQL 実行時にエラーが発生しました。DBMS メッセージ = aa....aa, DB キュー名 = bb....bb, ロット名 = cc....cc, SQLCODE = dd....dd, 詳細コード = ee....ee

An error occurred during SQL execution for a DB queue configuration check. DBMS message = aa....aa, DB queue name = bb....bb, lot name = cc....cc, SQLCODE = dd....dd, detail code = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

DB キューの構成チェックの SQL 実行時にエラーが発生しました。

aa....aa : DBMS のエラーメッセージ

bb....bb : DB キュー名

cc....cc : ロット名

dd....dd : SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** DBMS のエラーメッセージを参照して、原因を取り除いてください。

## KFSB55701-E

ロットの実行に必要なリソースが不足しました。ロットの実行数を縮退して実行します。OBM名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

Resources are insufficient to execute all lots. Processing will continue with fewer lots. OBM name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (3) (SUP)

ロットの実行に必要なリソースが不足しました。該当する OBM のロットスケジュールを中止し、ロットの実行数を縮退して実行します。

aa....aa : OBM 名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)該当する OBM の実行中のロットが終了するか、または同時実行数が変更されるまで、該当する OBM のロットスケジュールを中止し、実行中のロットだけで処理を続行します。

(O)このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
DBAREA	DB の領域が不足しました。 DB の領域とは、RD エリアのことです。	DB の領域を増やしてください。
MEMORY	ロットの実行に必要なメモリが不足しました。	OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB55702-E

○OBM開始／再開処理で障害が発生したためOBMを強制停止します。OBM名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

OBM will now be terminated because an error occurred while the OBM was being started or restarted. OBM name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

OBM 開始／再開処理で障害が発生したため、OBM を強制停止します。

aa....aa : OBM 名

bb....bb : 理由コード

REPLY : BCS への応答送信処理で障害が発生しました。

REQUEST : BCS への要求送信処理で障害が発生しました。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)OBM を強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** BCS の TP1/EE が動作しているかを確認してください。

## KFSB55703-E

通信障害が発生したためOBMを強制停止します。OBM名 = aa....aa

OBM will now be terminated because a communication error occurred. OBM name = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

通信障害が発生したため OBM を強制停止します。

aa....aa : OBM 名

(S)OBM を強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** このメッセージの前に [KFSB55721-E](#) メッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って原因を取り除いてください。

このメッセージの前に [KFSB55721-E](#) メッセージが出力されていない場合は、[KFSB55709-E](#) メッセージに従って原因を取り除いてください。

どちらのメッセージも出力されていない場合は、BCS の TP1/EE を起動してください。

## KFSB55704-E

○OBM開始／再開要求を受け付けできませんでした。OBM名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An OBM start or restart request could not be accepted. OBM name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

OBM 開始／再開要求を受け付けできませんでした。

aa....aa : OBM 名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)OBM 開始／再開処理を中止します。

(O)理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
ALREADY	同一の OBM 名が指定された TP1/FSP の eeobmstart コマンドを受け付け済みです。 または、同一の OBM 名で次のコマンドのどれかを実行中です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• eeobmcancel</li> <li>• eeobmchgtrn</li> <li>• eeobmskip</li> </ul>	しばらく待ってから eeobmstart コマンドを再実行してください。
BCS	実行できる BCS がありません。	BCS の TP1/EE を起動してください。
CONNECT_DATA	バッチデータ表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが実行されました。	OpenTP1 管理者に連絡してください。
CONNECT_OBM	OBM 管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが実行されました。	OpenTP1 管理者に連絡してください。
CONNECT_OPEN	OPEN 状態管理表の RM を利用しない状態でトランザクションが実行されました。	OpenTP1 管理者に連絡してください。
HB_START	メモリ不足のため、ハートビートの開始に失敗しました。	OpenTP1 管理者に連絡してください。
LIMITS_OVER	TP1/FSP の eeobmstart コマンドの同時実行数が、TP1/FSP の OBM 構成定義の obminit 定義コマンドに指定する、-p オプションの maxobmstart オペランドの指定値を超えました。	TP1/FSP の eeobmcltls コマンドを実行してください。しばらく待ってから eeobmcltls コマンドを再実行し、表示される eeobmstart コマンドの数が減ってから、eeobmstart コマンドを再実行してください。
LOT_NAME	TP1/FSP の eeobmstart コマンドの-l オプションで指定されたロット名は、TP1/FSP の OBM	eeobmstart コマンドの-l オプションで指定したロット名が正しいかを確認してください。

理由コード	意味	対策
LOT_NAME	構成定義の lotdef 定義コマンドで定義されていません。	eeobmstart コマンドの-l オプションで指定したロット名が正しいかを確認してください。
LOTPPOOL	TP1/FSP の OBM 構成定義の obminit 定義コマンドに指定する、-p オプションの lotpool オペランドに指定した実行用ロットプールが不足しました。	TP1/FSP の eeobmstatls コマンドを実行してください。しばらく待ってから eeobmstatls コマンドを再実行し、未実行状態でない OBM の数が減ってから、TP1/FSP の eeobmstart コマンドを再実行してください。
MEMORY	メモリが不足しました。	OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。
NOT_OPEN	OBM を OPEN していません。	eebcmtbllsh コマンドで OPEN している BCM を確認してください。
OBM_NAME	TP1/FSP の eeobmstart コマンドの-o オプションで指定された OBM 名は、TP1/FSP の OBM 構成定義の obmdef 定義コマンドで定義されていません。	eeobmstart コマンドの-o オプションで指定した OBM 名が正しいかを確認してください。
OBM_TYPE	TP1/FSP の eeobmstart コマンドの-o オプションで指定された OBM 名はデータ型の OBM ですが、-l オプションが指定されました。	eeobmstart コマンドの-o オプションで指定した OBM 名が正しいか確認してください。
RETURN_VALUE	OBM 開始/再開 UOC でユーザが設定する項目の設定値が不正です。	OpenTP1 管理者に連絡してください。
STATUS	OBM の状態が TP1/FSP の eeobmstart コマンドを受け付けられない状態です。	TP1/FSP の eeobmstatls コマンドを実行して、OBM の状態が eeobmstart コマンドを実行できる状態か確認してください。
SQL_DATA	バッチデータ表で SQL エラーが発生しました。	OpenTP1 管理者に連絡してください。
SQL_OBM	OBM 管理表で SQL エラーが発生しました。	OpenTP1 管理者に連絡してください。
SQL_OPEN	OPEN 状態管理表で SQL エラーが発生しました。	OpenTP1 管理者に連絡してください。
TABLE	バッチデータ表の構成に誤りがあります。	OpenTP1 管理者に連絡してください。
UOC_ERROR	OBM 開始/再開 UOC がエラーリターンしました。	OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策したあとで、TP1/FSP の eeobmstart コマンドを再実行してください。

理由コード	対策
CONNECT_DATA	このメッセージより前に出力されている KFSB50919-E を参照して原因を取り除いてください。
CONNECT_OBM	このメッセージより前に出力されている KFSB50919-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
CONNECT_OPEN	このメッセージより前に出力されている KFSB50919-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。



理由コード	対策
HB_START	メモリ関連定義の max_mem_size オペランド、および system_work_size オペランドの指定値を変更し、メモリ領域を確保してください。
RETURN_VALUE	このメッセージより前に出力されている KFSB45701-E メッセージ、または KFSB45702-E メッセージで表示される UOC が設定した値を参照して、原因を取り除いてください。
SQL_DATA	このメッセージより前に出力されている KFSB45780-E メッセージ、または KFSB55782-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL_OBM	このメッセージより前に出力されている KFSB45780-E メッセージ、または KFSB55782-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL_OPEN	このメッセージより前に出力されている KFSB45780-E メッセージ、または KFSB55784-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
TABLE	このメッセージより前に出力されている KFSB45705-E メッセージ、KFSB45706-E メッセージ、または KFSB45780-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
UOC_ERROR	このメッセージより前に出力されている KFSB45701-E メッセージで表示される UOC が設定した exit コードを参照して、原因を取り除いてください。

## KFSB55706-E

○BM オープントランザクション実行要求の送信が失敗しました。OBM 名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An attempt to send a request to execute an OBM open transaction failed. OBM name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

OBM オープントランザクション実行要求の送信に失敗しました。

aa....aa : OBM 名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)OBM 開始/再開始処理を中止します。OBM オープントランザクションがコミット決着している場合は、OBM クローズトランザクションを実行して OBM を強制停止します。OBM オープントランザクションがコミット決着していない場合は、OBM 終了/停止 UOC を実行して、OBM を強制停止、または初期状態にします。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策したあとで、TP1/FSP の eeobmstart コマンドを再実行してください。

理由コード	意味	対策
BCS	実行できる BCS がありません。	BCS の TP1/EE を起動してください。



理由コード	意味	対策
COMMUNICATION	通信障害が発生しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB55709-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
TIMED_OUT	BCS からの応答待ちタイムアウトが発生しました。	BCS の TP1/EE の動作状況を確認してください。

## KFSB55707-E

○ OBM が一時休止状態になりました。O B M 名 = aa....aa  
 OBM paused. OBM name = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

O B M の処理を続行できない障害が発生したため、一時休止状態になりました。

aa....aa : O B M 名

(S) O B M の処理を中止して、O B M の状態を一時休止状態にします。複数の O B M が一時休止状態となった場合は、最初に一時休止状態となった O B M に対してだけこのメッセージを出力します。一時休止状態の O B M がなくなるまで、TP1/FSP の O B M 関連定義の obm\_suspendmsg\_interval オペランドに指定した間隔で、[KFSB45713-W](#) メッセージを出力します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して対策してください。

## KFSB55709-E

通信障害が発生しました。理由コード = aa....aa, 接続先情報 1 = bb....bb, 接続先情報 2 = cc....cc, 接続先情報 3 = dd....dd, 詳細コード 1 = ee....ee, 詳細コード 2 = ff....ff

A communication error occurred. reason code = aa....aa, connection destination information 1 = bb....bb, connection destination information 2 = cc....cc, connection destination information 3 = dd....dd, detail code 1 = ee....ee, detail code 2 = ff....ff (E+P+L) (2) (SUP)

通信障害が発生しました。

aa....aa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : 接続先情報 1

接続先の TP1/EE のサーバ種別を表示します。

BCM : BCM として動作している TP1/EE

BCS : BCS として動作している TP1/EE

eeobmstart : TP1/FSP の eeobmstart コマンド

**cc....cc** : 接続先情報 2

接続先情報 1 が BCM, または BCS の場合 : TP1/Server Base のノード識別子

接続先情報 1 が eeobmstart の場合 : OBM 名

**dd....dd** : 接続先情報 3

接続先情報 1 が BCM, または BCS の場合 : サービスグループ名

接続先情報 1 が eeobmstart の場合 : TP1/FSP の eeobmstart コマンドのプロセス ID

**ee....ee** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**ff....ff** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)接続先情報で示す TP1/EE, または TP1/FSP の eeobmstart コマンドとの通信を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

接続先情報 1 が BCM, または BCS の場合は, 対策後に **KFSB85702-I** メッセージが出力されたことを確認してから, TP1/FSP の eeobmstart コマンドを実行してください。

接続先情報 1 が eeobmstart の場合は, 対策後に eeobmstart コマンドを実行してください。

理由コード	意味	対策
HB	ハートビート機能によって障害を検知しました。	接続先情報で示すプロセスの動作状況を確認してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は, BCS の TP1/EE が動作する TP1/Server Base のノード識別子が一意の値になっているかを確認してください。一意になっている場合は, BCM で TP1/FSP の OBM 関連定義の bcmsgvdef 定義コマンドの -c オプションと -s オプションの指定値を大きくしてください。
HB_START	メモリ不足のため, ハートビートの開始に失敗しました。	メモリ関連定義の max_mem_size オペランド, および system_work_size オペランドの指定値を変更し, メモリ領域を確保してください。
LIMITS_OVER	TP1/FSP の eeobmstart コマンドの同時実行数が, TP1/FSP の OBM 構成定義の obminit 定義コマンドに指定する, -p オプションの maxobmstart オペランドの指定値を超えました。	このメッセージよりあとに出力される <b>KFSB55704-E</b> メッセージを参照して, 対策してください。
REPLY	応答送信に失敗しました。	このメッセージより前に出力されている <b>KFSB403xx</b> メッセージ, または <b>KFSB503xx</b> メッセージ (xx : 00~99) を参照して, 原因を取り除いてください。
SEND	送信に失敗しました。	このメッセージより前に出力されている <b>KFSB403xx</b> メッセージ, または <b>KFSB503xx</b> メッセージ (xx : 00~99) を参照して, 原因を取り除いてください。

理由コード	意味	対策
TIMED_OUT	応答待ちタイムアウトが発生しました。	<p>このメッセージより前に出力されている KFSB403xx メッセージ, または KFSB503xx メッセージ (xx:00~99) を参照して, 原因を取り除いてください。</p> <p>このメッセージの前に出力されているメッセージが <a href="#">KFSB40368-E</a> で理由コードが 0011, かつ接続先のサーバが起動していてこのメッセージが繰り返し出力される場合は, 次に示す定義をチューニングしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 接続先情報 1 で示すプロセス関連定義の thread_no オペランドの指定値を大きくする。</li> <li>• 接続先情報 1 が BCS の場合は, BCM で TP1/FSP の OBM 関連定義の bcmsvgdef 定義コマンドの -d オプションの指定値を大きくする。</li> <li>• TP1/FSP の eelstrnlevel コマンドを実行して, TP1/FSP の OBM 関連定義の obm_trnlevel オペランドで指定したトランザクションレベル名の同時処理限界数を減らす。</li> <li>• TP1/FSP の OBM 関連定義の obm_trnlevel オペランドで指定したトランザクションレベル名に対応する, TP1/FSP のユーザサービス関連定義の queue_trnlevel オペランドに指定した同時処理限界数を減らす。</li> <li>• TP1/FSP のユーザサービス関連定義の obm_service オペランドに指定した同時処理限界数を減らす。</li> <li>• OBM 構成定義の lotdef 定義コマンドの -s オプションの parallel_num オペランドに指定した下位ロット同時実行数を減らす。</li> <li>• TP1/FSP の eeobmchgtrn コマンドを実行して, ロットの同時実行数を減らす。</li> </ul>

## KFSB55710-E

○BMサービスで電文を受信しましたが、破棄しました。接続先情報 1 = aa....aa, 接続先情報 2 = bb....bb, 理由コード = cc....cc, 電文情報 = dd....dd

A message received by the OBM service will now be discarded. destination information 1 = aa....aa, destination information 2 = bb....bb, reason code = cc....cc, message information = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

OBM サービスでメッセージを受信しましたが、障害が発生したため破棄しました。

**aa....aa** : 接続先情報 1

送信元 IP アドレスを表示します。

**bb....bb** : 接続先情報 2

送信元ポート番号を表示します。

cc....cc：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)メッセージを破棄します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
COMMUNICATION	メッセージの受信中に通信障害が発生しました。	このメッセージより前に出力されている KFSB403xx メッセージ，または KFSB503xx メッセージ (xx：00~99) を参照して，原因を取り除いてください。
CONNECT	メッセージの受信中にコネクションが切断されました。	このメッセージより前に出力されている KFSB403xx メッセージ，または KFSB503xx メッセージ (xx：00~99) を参照して，原因を取り除いてください。
EEOBMSTART	BCS で TP1/FSP の eeobmstart コマンドを受け付けました。	送信元の eeobmstart コマンドの設定を確認してください。環境変数 DCHOST，DCNAMPORT を確認してください。
INVALID	不正なメッセージを受信しました。	このメッセージより前に出力されている KFSB403xx メッセージ，または KFSB503xx メッセージ (xx：00~99) を参照して，原因を取り除いてください。
MEMORY	メッセージの受信に使用するメモリが確保できませんでした。	OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。
NEGOTIATION	BCS でネゴシエーションを受け付けました。	送信元 BCS の TP1/FSP の OBM 関連定義の bcsvgdef 定義コマンドの -n オプション，および -g オプションを見直してください。
NODE_ID	TP1/Server Base と TP1/EE のノード識別子に同じ値が設定されています。	送信元の TP1/Server Base，TP1/EE のノード識別子が一意となるように定義を修正して，送信元の TP1/EE を再起動してください。
TIMED_OUT	メッセージの受信中に受信待ち時間がタイムアウトしました。	接続先情報で示すサーバの動作状況を確認してください。接続先情報で示すサーバが動作していて，このメッセージが繰り返し出力される場合は，次のオペランドの設定値をチューニングしてください。 <ul style="list-style-type: none"><li>このメッセージが出力された TP1/EE の，RPC 関連定義の ipc_recvbuf_size オペランド</li><li>接続先情報で示す TP1/EE の，RPC 関連定義の rpc_router_retry_count オペランド，rpc_router_retry_interval オペランド，および ipc_sendbuf_size オペランド</li></ul>

## KFSB55711-E

○OBM強制終了中に障害が発生したため強制終了を中止します。○OBM名 = aa....aa

An attempt to abort OBM will now be stopped because an error occurred. OBM name = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

TP1/FSP の eeobmcancel コマンドによる OBM 強制終了処理中に、障害が発生しました。強制終了処理を中止します。

aa....aa : OBM 名

(S)OBM 状態を eeobmcancel コマンド受け付け前の状態にして、OBM 強制終了処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** このメッセージの前に出力されているメッセージを参照して原因を取り除いたあとに、eeobmcancel コマンドを再実行してください。

## KFSB55712-E

○OBM停止/終了処理で障害が発生しました。○OBM名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred while the OBM was being stopped or terminated. OBM name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

OBM 停止/終了処理で障害が発生しました。

aa....aa : OBM 名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)理由コードが CONNECT\_DATA, または SQL\_DATA の場合は、OBM 終了/停止 UOC を呼び出さずに OBM を強制停止します。理由コードが CONNECT\_OBM, または SQL\_OBM の場合は、OBM 停止/終了処理を一時休止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
CONNECT_DATA	バッチデータ表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが実行されました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。

理由コード	意味	対策
CONNECT_OBM	OBM 管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが実行されました。	このメッセージより前に出力されている KFSB50919-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
CONNECT_OPEN	OPEN 状態管理表の RM を利用しない状態でトランザクションが実行されました。	このメッセージより前に出力されている KFSB50919-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL_DATA	バッチデータ表で SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されている KFSB45780-E メッセージ、または KFSB55782-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL_OBM	OBM 管理表で SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されている KFSB45780-E メッセージ、または KFSB55782-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL_OPEN	OPEN 状態管理表で SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されている KFSB45780-E メッセージ、または、KFSB55782-E メッセージを参照して原因を取り除いてください。

## KFSB55713-E

OBMの実行結果応答に失敗しました。OBM名 = aa....aa

An attempt to return OBM execution results failed. OBM name = aa....aa (E+P+L) (2)  
(SUP)

OBMは終了、または停止しましたが、TP1/FSPのeeobmstartコマンドへの実行結果の応答に失敗しました。

aa....aa : OBM 名

(S)処理を続行します。実行中のTP1/FSPのeeobmstartコマンドは、KFSB95773-Eメッセージ、またはKFSB95774-Wメッセージを出力して終了します。

(O)TP1/FSPのeeobmstatlsコマンドを実行してOBMの状態を確認してください。OBMの状態が初期状態の場合は、\$DCDIR/spool/dceefinf/obm/に出力されているOBM実行結果ファイルを参照して、OBMの実行結果を確認してください。

[対策] なし。

## KFSB55714-E

ネゴシエーションに失敗しました。ネゴシエーションをリトライします。理由コード = aa....aa, 接続先情報 1 = bb....bb, 接続先情報 2 = cc....cc, 詳細コード 1 = dd....dd, 詳細コード 2 = ee....ee

Negotiation failed. Negotiation will now be retried. reason code = aa....aa, connection destination information 1 = bb....bb, connection destination information 2 = cc....cc, detail code 1 = dd....dd, detail code 2 = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

ネゴシエーションに失敗しました。ネゴシエーションをリトライします。

aa....aa：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb：接続先情報 1

BCM の TP1/EE が動作する TP1/Server Base のノード識別子

cc....cc：接続先情報 2

BCM の TP1/EE のサービスグループ名

dd....dd：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)ネゴシエーションをリトライします。

(O)このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
COMMUNICATION	通信障害が発生しました。	BCM の TP1/EE が起動しているかを確認してください。起動している場合にこのメッセージが繰り返し出力される場合は、このメッセージの前に出力されている KFSB403xx メッセージ、または KFSB503xx メッセージ (xx：00~99) を参照して、原因を取り除いてください。
CONNECT	OBM 管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
HB_START	メモリ不足のため、ハートビートの開始に失敗しました。	メモリ関連定義の max_mem_size オペランド、および system_work_size オペランドの指定値を変更し、メモリ領域を確保してください。
INCOMPLETE	前回の接続を切断する処理が完了していないため BCM から接続を拒否されました。	BCM の TP1/EE が起動しているかを確認してください。起動している場合にこのメッセージが繰り返し出力される場合は、保守員に連絡してください。
LIMITS_OVER	BCS の接続数が上限を超えたため BCM から接続を拒否されました。	保守員に連絡してください。
NAME_REFRESH	BCM の TP1/EE でネーム情報の更新に失敗したため、BCM から接続を拒否されました。	BCM の TP1/EE で出力されている <a href="#">KFSB55728-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
RESTART	ネゴシエーション中に BCM の TP1/EE が停止/再開始しました。	BCM の TP1/EE が起動しているかを確認してください。起動している場合にこのメッセージ



理由コード	意味	対策
RESTART	ネゴシエーション中に BCM の TP1/EE が停止／再開始しました。	が繰り返し出力されるときは、保守員に連絡してください。
SQL	OBM 管理表で SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されている KFSB45780-E メッセージ、または KFSB55782-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。

## KFSB55715-E

ネゴシエーションに失敗しました。BCS の機能を停止します。理由コード 1 = aa....aa, 理由コード 2 = bb....bb, 接続先情報 1 = cc....cc, 接続先情報 2 = dd....dd, 詳細コード 1 = ee....ee, 詳細コード 2 = ff....ff

Negotiation failed. BCS functionality will now stop. reason code 1 = aa....aa, reason code 2 = bb....bb, connection destination information 1 = cc....cc, connection destination information 2 = dd....dd, detail code 1 = ee....ee, detail code 2 = ff....ff (E+P+L) (2) (SUP)

ネゴシエーションに失敗しました。BCS の機能を停止します。

aa....aa : 理由コード 1

bb....bb : 理由コード 2

理由コード 1, 理由コード 2 の意味と対策を表に示します。

cc....cc : 接続先情報 1

BCM の TP1/EE が動作する TP1/Server Base のノード識別子

dd....dd : 接続先情報 2

BCM の TP1/EE のサービスグループ名

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)BCS の機能を停止して TP1/EE を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

BCS の TP1/EE の定義を修正する場合は、BCS の TP1/EE を正常終了してから定義を修正してください。BCM の TP1/EE の定義、または TP1/FSP の OBM 構成定義ファイルを修正する場合は、BCM の TP1/EE と、このメッセージを出力した BCS の TP1/EE を停止してから定義を修正してください。

理由コード 1	理由コード 2	意味	対策
COMMUNICATION	-311	接続先の OBM サービスの起動に失敗しました。	BCS の TP1/FSP の OBM 関連定義の bcsvgdef 定義コマンド



理由コード 1	理由コード 2	意味	対策
COMMUNICATION	-311	接続先の OBM サービスの起動に失敗しました。	で、-n オプションと-g オプションを見直してください。
	-311 以外	接続先との通信に失敗しました。	このメッセージが繰り返し出力される場合は、このメッセージの前に出力されている KFSB403XX メッセージ、または KFSB503XX メッセージ (XX:00~99) を参照して、原因を取り除いてください。 または、ee_rpc_call_to 関数について、理由コード 2 に示すリターン値の原因を調査してください。
ENDIAN	*	BCM と BCS のエンディアンが異なります。	BCM と BCS のエンディアンは同一となるようにしてください。
OBM	*	BCM と BCS で OBM 管理表が異なります。	BCM と BCS の TP1/FSP の OBM 関連定義の obmstsdef 定義コマンドを見直してください。
SERVICE_NAME	OBM サービス名	TP1/FSP の OBM 構成定義で指定されている OBM サービス名が、BCS の TP1/EE サービス定義に設定されていません。	次の内容を見直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• OBM 構成定義の obmdef 定義コマンドで指定する、-t オペランド</li> <li>• BCS の TP1/FSP のユーザ サービス定義の obm_service オペランド</li> </ul>
SVG_NAME	*	BCM の TP1/EE サービス定義に指定している BCS のサービスグループと、BCS の TP1/EE サービス定義に指定しているサービスグループが一致していません。	次の内容を見直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• BCM の TP1/FSP の OBM 関連定義の bcsvgdef 定義コマンドで、-g オプションに設定しているサービスグループ名</li> <li>• BCS のプロセス関連定義の service_group オペランド</li> </ul>
UOC	service_uoc_use	TP1/FSP の OBM 構成定義では、サービス名決定 UOC を使用する OBM が指定されていますが、BCS の TP1/EE にサービス名決定 UOC が組み込まれていません。	次の内容を見直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• OBM 構成定義の obmdef 定義コマンドに指定する、-t オプションの service_uoc_use オペランド</li> <li>• BCS の OBM 関連定義の bcsuocfunc 定義コマンドの-s オプション</li> </ul>
	skip	TP1/FSP の OBM 構成定義では、スキップデータ UOC を使用するよう指定されていますが、BCS の TP1/EE	次の内容を見直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• OBM 構成定義の obminit 定義コマンドに指定する、-u オプションの skip オペランド</li> </ul>

理由コード 1	理由コード 2	意味	対策
UOC	skip	にスキップデータ UOC が組み込まれていません。	<ul style="list-style-type: none"> <li>BCS の OBM 関連定義の bcsuocfunc 定義コマンドの-d オプション</li> </ul>
	trnlevel_uoc_use	OBM 構成定義では、OBM のトランザクションレベル名判定 UOC を使用する OBM が定義されていますが、BCS の TP1/EE に OBM のトランザクションレベル名判定 UOC が組み込まれていません。	OBM 構成定義の obmdef の-k trnlevel_uoc_use オペランドと BCS の TP1/EE サービス定義の bcsuocfunc の-p オプションを見直してください。

## KFSB55716-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc  
 Command execution has failed. command name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

コマンド処理で障害が発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)理由コードが LOCK の場合は、しばらく待ってからコマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

理由コードが LOCK 以外の場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
CONNECT	OBM 管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
LOCK	OBM 管理表の排他に失敗しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ、または <a href="#">KFSB55782-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。

理由コード	意味	対策
ROLLBACK	トランザクションがロールバックしました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL	OBM 管理表の SQL で障害が発生しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ、または <a href="#">KFSB55782-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。

## KFSB55717-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, XID = bb....bb, 理由コード = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

Command execution has failed. command name = aa....aa, XID = bb....bb, reason code = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

コマンド処理を実行したトランザクションで障害が発生しました。トランザクションは回復中です。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : トランザクション識別子

cc....cc : 理由コード

COMPLETION : コミット要求しましたが、トランザクションが未決着です。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドは異常終了します。コマンドによる属性の変更、バッチデータのスキップ要求は、トランザクションがコミット決着した場合は、受け付けられます。ロールバック決着した場合は、コマンドの要求は受け付けられないで、実行前のままとなります。

(O)トランザクションが回復するまで待ってください。ロールバック決着した場合は、コマンドを再実行してください。トランザクションの回復と決着種別は、[KFSB80903-I](#) メッセージで出力されます。

[対策] なし。

## KFSB55718-W

仕掛かり中の OBM があります。仕掛かり中 OBM 数 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

OBM are still being processed. number of OBM being processed = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (4) (SUP)

BCM の TP1/EE 終了監視時に仕掛かり中の OBM があります。

aa....aa : 終了監視の対象となる仕掛かり中の OBM の数

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)仕掛かり中の OBM がなくなるまで、監視処理を続行します。

(O)TP1/FSP の eeobmstatls コマンドを実行して OBM の状態を確認してください。

TP1/EE の終了モードが正常終了で強制停止状態、または計画停止中の OBM がある場合は、TP1/FSP の eeobmstart コマンドで再開始するか、または TP1/FSP の eeobmcancel コマンドで強制終了してください。OBM の状態がそれ以外の場合は、しばらく待ってください。

TP1/EE の終了モードは、このメッセージより前に出力されている [KFSB80021-I](#) メッセージで確認してください。

【対策】なし。

## KFSB55719-W

BCS の終了を待ち合わせています。理由コード = aa....aa

Now waiting for BCS to stop. reason code = aa....aa (E+P+L) (4) (SUP)

BCS の TP1/EE の終了処理中に、理由コードに示す理由のため終了を待ち合わせています。

aa....aa : 理由コード

REPLY : BCS の終了開始連絡、またはネゴシエーションに対する BCM からの応答を待ち合わせています。

TRN : 仕掛かり中の OBM のトランザクションの終了を待ち合わせています。

(S)仕掛かり中の OBM のトランザクションがすべて終了し、BCS の終了開始連絡に対する BCM からの応答があるまで待ち合わせます。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB55721-E

OBM ノーマルトランザクションを実行する BCS が存在しません。OBM 名/ロット名 = aa....aa, BCS ノード識別子 = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

BCS which performs an OBM normal transaction does not exist. OBM/lot name = aa....aa, node ID of BCS = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

TP1/FSP の OBM 構成定義の lotdef 定義コマンドに指定する、-r オプションの node\_id オペランドで指定した BCS への送信に失敗しました。

aa....aa : OBM 名とロット名

ロットの階層が 1 階層の場合

OBM 名を表示します。

ロットの階層が 2 階層以上の場合

OBM 名のあとにアンダーライン ( ) で区切って、2 階層目以降のロット名を上位階層から順に表示します。

**bb....bb** : BCS の TP1/Server Base のノード識別子

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)OBM を強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/FSP の OBM 構成定義の lotdef 定義コマンドに指定する、-r オプションの node\_id オペランドで指定した BCS の TP1/EE を起動してください。

または、BCS として起動している TP1/EE が動作する TP1/Server Base のノード識別子を -n オプションに指定して、TP1/FSP の eeobmchgtrn コマンドを実行してください。

そのあとに、TP1/FSP の eeobmstart コマンドを再実行してください。

## KFSB55722-E

バッチデータの読み込みに失敗しました。OBM名/ロット名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An attempt to load batch data failed. OBM/lot name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

バッチデータの読み込みに失敗しました。

**aa....aa** : OBM 名とロット名

ロットの階層が 1 階層の場合

OBM 名を表示します。

ロットの階層が 2 階層以上の場合

OBM 名のあとにアンダーライン ( ) で区切って、2 階層目以降のロット名を上位階層から順に表示します。

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)OBM を強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策したあとで、TP1/FSP の eeobmstart コマンドを再実行してください。

理由コード	意味	対策
CONNECT	バッチデータ表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。	このメッセージより前に出力されている KFSB50919-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL	バッチデータ表の SQL で障害が発生しました。	このメッセージより前に出力されている KFSB45780-E メッセージ、または KFSB55782-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
TABLE	バッチデータ表の表構成不正を検知しました。	バッチデータ表を再作成してください。

## KFSB55724-E

OBM サービストランザクションで障害が発生しました。OBM名/ロット名 = aa....aa, 種別 = bb....bb, 処理済通番 = cc....cc, 今回処理対象通番 = dd....dd, 処理種別 = ee....ee, 接続先サービスグループ名 = ff....ff, 接続先ノード識別子 = gggg, 理由コード = hh....hh, 詳細コード = ii....ii

An error occurred in an OBM service transaction. OBM/lot name = aa....aa, type = bb....bb, sequence number of the processed record = cc....cc, sequence number of the record to be processed = dd....dd, processing type = ee....ee, connection destination service group name = ff....ff, connection destination node ID = gggg, reason code = hh....hh, detail code = ii....ii  
(E+P+L) (2) (SUP)

OBM サービストランザクションで障害が発生しました。

aa....aa : OBM 名とロット名

OBM トランザクション種別が NORMAL, SKIP の場合

- ロットの階層が 1 階層のとき  
OBM 名を表示します。
- ロットの階層が 2 階層以上のとき  
OBM 名のあとにアンダーライン ( ) で区切って、2 階層目以降のロット名を上位階層から順に表示します。

OBM トランザクション種別が OPEN, CLOSE の場合

OBM 名を表示します。

bb....bb : OBM トランザクション種別

OPEN : OBM オープントランザクション

NORMAL : OBM ノーマルトランザクション

SKIP : スキップデータ UOC を呼び出したトランザクション

CLOSE : OBM クローズトランザクション

cc....cc : 処理済み通番 (10 進数)

OBM トランザクション種別が NORMAL, SKIP の場合

- バッチ形態がデータ型のとき  
これまでに処理したバッチデータの通番を表示します。  
ただし、通番が確認できなかったときは、\*を表示します。
- バッチ形態がイベント型のとき  
\*を表示します。

OBM トランザクション種別が OPEN, CLOSE の場合

\*を表示します。

dd....dd : 今回処理対象通番 (10 進数)

OBM トランザクション種別が NORMAL, SKIP の場合

- バッチ形態がデータ型のとき  
今回処理したバッチデータの通番を表示します。
- バッチ形態がイベント型のとき  
\*を表示します。

OBM トランザクション種別が OPEN, CLOSE の場合

\*を表示します。

ee....ee : 処理種別

OBM トランザクションの種別が NORMAL, SKIP の場合

STOP : 今回処理したバッチデータを未処理として、OBM を強制停止します。

SKIP : 今回処理したバッチデータを処理済みとして、OBM を強制停止します (バッチ形態がデータ型のときだけ)。

OBM トランザクション種別が OPEN, CLOSE の場合

STOP : OBM を強制停止します。

ff....ff : 接続先サービスグループ名

接続先の TP1/EE のサービスグループ名を表示します。

BCM で OBM クローズトランザクションが動作した場合は、\*を表示します。

gggg : 接続先ノード識別子

接続先の TP1/EE が動作する TP1/Server Base のノード識別子を表示します。

BCM で OBM クローズトランザクションが動作した場合は、\*\*\*\*を表示します。

hh....hh : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ii....ii : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)OBM を強制停止します。



(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
CHAINED_RBK	ee_tm_chained_rollback 関数 (thkind に EETRN_KILL, または EETRN_ABRT を指定) が発行されました。	UAP で該当する API を発行した原因を調べてください。
COMMUNICATION	通信障害が発生しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB55709-E</a> メッセージを参照して、対策してください。
CONNECT	OBM 管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
RBK_MARK	ee_tm_rollback_mark 関数が発行されました。	UAP で該当する API を発行した原因を調べてください。
RETRY_RBK	TP1/FSP の ee_tm_retry_rollback 関数が発行されました。	
ROLLBACK	その他の要因でロールバックしました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SEQNUM	通番不正です。	バッチデータ表の一連通番の抜けている範囲を確認してください。バッチデータ表を再作成するか、または TP1/FSP の eeobmskip コマンドでスキップしてください。
SERVICE_NAME	サービス名不正により処理キュー登録に失敗しました。	サービス名決定 UOC と、BCS の TP1/FSP のユーザサービス定義の obm_service オペランドの指定値に誤りがないかを確認してください。
SQL	OBM 管理表の SQL で障害が発生しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ, または <a href="#">KFSB55782-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
STATUS	ほかのトランザクションによって、OBM の状態がこのトランザクションでコミットできない状態に更新されました。	BCM の TP1/EE で、次に示す現象が発生していないか確認してください。発生している場合は、その原因を調査してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• BCM の TP1/EE プロセスが強制停止している。</li> <li>• BCM の TP1/EE で、<a href="#">KFSB55709-E</a> メッセージが出力されている。</li> </ul>
TABLE	OBM 管理表の構成が不正です。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ, または



理由コード	意味	対策
TABLE	OBM 管理表の構成が不正です。	KFSB55782-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
THDDOWN	スレッドダウンが発生しました。	UAP がスレッドダウンした原因を調べてください。
TRANSACTION_LEVEL	トランザクションレベル名不正によって処理キュー登録が失敗しました。	このメッセージの前に出力されている KFSB45701-E メッセージ、または KFSB45702-E をメッセージ参照して原因を取り除いてください。

## KFSB55725-E

○BM サービストランザクションの通信で障害が発生しました。○BM名/ロット名 = aa....aa, 種別 = bb....bb, 処理済通番 = cc....cc, 今回処理対象通番 = dd....dd, 接続先サービスグループ名 = ee....ee, 接続先ノード識別子 = ffff, 理由コード = gg....gg, 詳細コード = hh....hh

A communication error occurred in an OBM service transaction. OBM/lot name = aa....aa, type = bb....bb, sequence number of the processed record = cc....cc, sequence number of the record to be processed = dd....dd, connection destination service group name = ee....ee, connection destination node ID = ffff, reason code = gg....gg, detail code = hh....hh (E+P+L) (2) (SUP)

OBM サービストランザクションの実行結果の送信で、通信障害が発生しました。

**aa....aa** : OBM 名とロット名

ロットの階層が 1 階層の場合

OBM 名を表示します。

ロットの階層が 2 階層以上の場合

OBM 名のあとにアンダーライン ( ) で区切って、2 階層目以降のロット名を上位階層から順に表示します。

**bb....bb** : OBM トランザクション種別

NORMAL : OBM ノーマルトランザクション

SKIP : スキップデータ UOC を呼び出したトランザクション

**cc....cc** : 処理済み通番 (10 進数)

これまでに処理したバッチデータの通番を表示します。

**dd....dd** : 今回処理対象通番 (10 進数)

今回処理したバッチデータの通番を表示します。

**ee....ee** : 接続先サービスグループ名

**ffff** : 接続先ノード識別子

接続先の TP1/Server Base のノード識別子を表示します。

gg....gg : 理由コード

COMMUNICATION : 通信障害

hh....hh : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)今回処理したバッチデータを処理済みとして、OBM を強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの前に出力されている [KFSB55709-E](#) メッセージを参照して、対策してください。

## KFSB55726-E

ロットの実行で障害が発生しました。OBM名/ロット名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

Execution of lot has failed. OBM/lot name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (3) (SUP)

ロットの実行で障害が発生しました。

aa....aa : OBM 名とロット名

ロットの階層が 1 階層の場合

OBM 名を表示します。

ロットの階層が 2 階層以上の場合

OBM 名のあとにアンダーライン ( ) で区切って、2 階層目以降のロット名を上位階層から順に表示します。ただし、障害によっては、ロットが 2 階層以上でもロット名を表示しないで OBM 名だけを表示することがあります。

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)OBM を強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
CONNECT	OBM 管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
DBAREA	DB の領域が不足しました。	DB の領域を増やしてください。

理由コード	意味	対策
DBAREA	DBの領域とは、RDエリアのことです。	DBの領域を増やしてください。
MEMORY	ロットの実行に必要なメモリが不足しました。	OS全体のメモリ使用状況を確認してください。
ROLLBACK	その他の要因でロールバックしました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL	OBM 管理表の SQL で障害が発生しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ、または <a href="#">KFSB55782-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。

## KFSB55727-W

バッチデータ表のデータ列長が、IMA サイズを超過しています。OBM名/ロット名 = aa....aa, データ列長 = bb....bb, IMA サイズ = cc....cc

The data column length of the batch data table exceeds the IMA size. OBM/lot name = aa....aa, data column length = bb....bb, IMA size = cc....cc (E+P+L) (4) (SUP)

バッチデータ表のデータ列長が、IMA サイズ（メモリ関連定義の max\_message\_size オペランドの指定値）を超えています。そのため、トランザクション処理でサービス関数インタフェース作成時、受け付けたバッチデータが IMA サイズを超えるおそれがあります。IMA サイズを超えた場合は、超えた分のバッチデータを切り捨てます。

**aa....aa** : OBM 名とロット名

ロットの階層が 1 階層の場合

OBM 名を表示します。

ロットの階層が 2 階層以上の場合

OBM 名のあとにアンダーライン ( \_ ) で区切って、2 階層目以降のロット名を上位階層から順に表示します。

**bb....bb** : バッチデータ表のデータ列長 (単位: バイト)

**cc....cc** : IMA サイズ (単位: バイト)

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** メモリ関連定義の max\_message\_size オペランドの指定値を見直してください。

## KFSB55728-E

ネゴシエーションに失敗しました。理由コード 1 = aa....aa, 理由コード 2 = bb....bb, 接続先情報 1 = cc....cc, 接続先情報 2 = dd....dd, 詳細コード 1 = ee....ee, 詳細コード 2 = ff....ff

Negotiation failed. reason code 1 = aa....aa, reason code 2 = bb....bb, connection destination information 1 = cc....cc, connection destination information 2 = dd....dd, detail code 1 = ee....ee, detail code 2 = ff....ff (E+P+L) (2) (SUP)

ネゴシエーションに失敗しました。

aa....aa : 理由コード 1

理由コード 1 の意味と対策を表に示します。

bb....bb : 理由コード 2

\*を表示します。

cc....cc : 接続先情報 1

BCS の TP1/EE が動作する TP1/Server Base のノード識別子を表示します。

dd....dd : 接続先情報 2

BCS の TP1/EE のサービスグループ名を表示します。

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)BCS からのネゴシエーションのリトライを待ちます。

(O)このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
HB_START	メモリ不足のため、ハートビートの開始に失敗しました。	メモリ関連定義の max_mem_size オペランド、および system_work_size オペランドの指定値を変更し、メモリ領域を確保してください。
INCOMPLETE	BCS からのネゴシエーション要求の応答後にネゴシエーション完了連絡がありません。	BCS の TP1/EE が停止していないかを確認してください。停止している場合は、BCS の TP1/EE を再起動してください。停止していない場合にこのメッセージが繰り返し出力される場合は、BCM の TP1/FSP の OBM 関連定義の bcmsvdef 定義コマンドの -s オプション、および -c オプションの指定値を大きくしてください。
NAME_REFRESH	ネーム情報の更新に失敗しました。	このメッセージの前に出力されている KFSB403xx メッセージ、または KFSB503xx メッセージ (xx : 00~99) を参照して、原因を取り除いてください。
REPLY	応答送信に失敗しました。	このメッセージの前に出力されている KFSB403xx メッセージ、または KFSB503xx メッセージ (xx : 00~99) を参照して、原因を取り除いてください。
RESTART	ネゴシエーション中に BCS の TP1/EE から新たなネゴシエーション要求を受信しました。	このメッセージが繰り返し出力される場合は、BCS の TP1/EE のノード識別子が一意となっているか確認してください。

## KFSB55729-E

○OBM停止処理に必要な領域確保に失敗しました。OBM実行中のBCSとの通信を停止します。要求サイズ= aa....aa, 詳細コード= bb....bb

An attempt to allocate area for OBM stop processing has failed. BCS communications during OBM execution will now stop. request size = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

OBM 停止処理に必要な領域確保に失敗しました。OBM 処理中の BCS との通信を切断します。BCS で動作中のロットがある OBM (停止しようとした OBM 以外の OBM 含む) は強制停止します。

aa....aa : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)該当する OBM が動作している BCS との通信を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 物理メモリを増設するか、ページングスペースサイズを拡張するか、または不要なプログラムを終了するかしてください。

## KFSB55782-E

○OBM管理表で障害が発生しました。OBM管理表名= aa....aa, 理由コード= bb....bb, 詳細コード= cc....cc

An error occurred in an OBM management table. OBM management table name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

OBM 管理表で障害が発生しました。

aa....aa : OBM 管理表名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
DBAREA	DB の領域が不足しました。 DB の領域とは、RD エリアのことです。	DB の領域を増やしてください。

理由コード	意味	対策
LOCK	OBM 管理表の排他の取得に失敗しました。	このメッセージより前に出力されている KFSB45780-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
NOT_FOUND	OBM 管理表の構成が不正です (行がありません)。 このメッセージのあとに KFSB55724-E メッセージが出力されている場合は、タイミングエラーです。	理由コードが NOT_FOUND で、このメッセージのあとに KFSB55724-E メッセージが出力されている場合は、対策は不要です。 それ以外の場合は、この OBM 管理表を使用するすべての BCM と BCS の TP1/EE を終了させて OBM 管理表を再作成してください。
SEQNUM	OBM 管理表の構成が不正です (同じエントリ番号の行が複数あります)。	
SQL	上記以外の SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されている KFSB45780-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
TABLE	OBM 管理表の構成が不正です (表または列がありません)。	この OBM 管理表を使用するすべての BCM と BCS の TP1/EE を終了させて OBM 管理表を再作成してください。

## KFSB55783-E

○BM表の状態の更新で障害が発生しました。○BM管理表名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred while the OBM table status was being updated. OBM management table name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

BCM 終了時の OBM 表の状態の更新で、障害が発生しました。

**aa....aa** : OBM 管理表名

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
CONNECT	OBM 管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。	OBM 構成定義ファイルを変更しない場合は対策不要です。
PUTPCE	処理キューの登録に失敗しました。	

理由コード	意味	対策
ROLLBACK	トランザクションがロールバック決着しました。	OBM 構成定義ファイルを変更する場合は、BCM の TP1/EE を起動して正常終了させてください。
SQL	OBM 管理表の SQL で障害が発生しました。	
TABLE	OBM 管理表の構成が不正です。	OBM 管理表を再作成してください。

## KFSB55784-E

OPEN状態管理表で障害が発生しました。OPEN状態管理表名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred in an OPEN management table. OPEN management table name = aa...aa, reason code = bb...bb, detail code = cc...cc (E+P+L) (2) (SUP)

OPEN 状態管理表で障害が発生しました。

aa....aa : OPEN 状態管理表名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
DBAREA	DB の領域が不足しました。 DB の領域とは、RD エリアのことです。	DB の領域を増やしてください。
LOCK	OPEN 状態管理表の排他の取得に失敗しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
NOT_FOUND	OPEN 状態管理表の構成が不正です (行がありません)。 このメッセージのあとに <a href="#">KFSB55724-E</a> メッセージが出力されている場合は、タイミングエラーです。	このメッセージのあとに <a href="#">KFSB55724-E</a> メッセージが出力されている場合は、対策は不要です。 それ以外の場合は、eeobminith コマンドで OBM 管理表と OPEN 状態管理表を初期化してください。
SEQNUM	OPEN 状態管理表の構成が不正です (同じエントリ番号の行が複数あります)。	この OPEN 状態管理表を使用するすべての BCM と BCS の TP1/EE を終了させて eebcmtblh コマンドで OPEN 状態管理表を再



理由コード	意味	対策
SEQNUM	OPEN 状態管理表の構成が不正です (同じエントリ番号の行が複数あります)。	作成してください。その後 eeobminith コマンドで OBM 管理表と OPEN 状態管理表を初期化してください。
SQL	上記以外の SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されている KFSB45780-E メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
TABLE	OPEN 状態管理表の構成が不正です (表または列がありません)。	この OPEN 状態管理表を使用するすべての BCM と BCS の TP1/EE を終了させて eebcmtblh コマンドで OPEN 状態管理表を再作成してください。その後 eeobminith コマンドで OBM 管理表と OPEN 状態管理表を初期化してください。

## KFSB55900-E

プロセスの終了に失敗しました。オプションフラグ = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc  
Failed to terminate the process. option flag = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

サーバを終了する eesvstop コマンドの実行に失敗しました。

aa....aa : eesvstop 実行時のオプションフラグ

\* : 正常終了

-b : 計画停止 B

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** eesvstop コマンドを実行できるかどうか確認してください。eesvstop コマンドに問題が見つからない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB55901-E

HA モニタとの通信で時間がかかっています。詳細コード = aa....aa

An attempt to connect to HA monitor has taken too much time. detail code = aa....aa (E+P+L) (3) (NOS)

HA モニタとの通信で時間が掛かっています。



aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**[対策]** HA モニタ, および TP1/EE (CL サーバ) の状態を確認してください。

#### KFSB55902-E

プロセスの終了に時間がかかっています。オプションフラグ = aa....aa

An attempt to terminate the process has taken too much time. option flag = aa....aa (E+P+L) (3) (NOS)

系監視スレッドで eesvstop コマンドを実行しましたが, サーバが停止しません。

系監視スレッドで eesvstop コマンドを実行するのは, 次の場合です。

- 実行系の TP1/EE が孤立した場合の, eetrbwtor 実行時
- 実行系の TP1/EE が eesvstop コマンドで正常終了する場合の, 待機系の TP1/EE の終了時

aa....aa : eesvstop 実行時のオプションフラグ

\* : 正常終了

-b : 計画停止 B

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]**

- オプションフラグが\*の場合, オプション指定なしで eesvstop コマンドを実行してください。
- オプションフラグが-bの場合, eesvstop コマンドに-b オプションを指定して実行してください。

#### KFSB55903-E

系を切り離しました。ノード識別子 = aa....aa

Other system was disconnected. node ID = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

ノード識別子で示す系を切り離しました。

aa....aa : 切り離したノード識別子

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** ノード識別子で示す待機系の状態を確認して、起動中の場合は速やかに停止してください。

#### KFSB56100-W

SQL プールサイズの指定が小さすぎます。SQL プール機能は動作しません。

The size specified for the SQL pool is too small. The SQL pool function will not work. (E+P+L) (4) (NOS)

XDB サービス定義の `xdb_sqlpool_size` オペランドで指定した SQL プールサイズとスレッド数から算出した、各スレッドに割り当てられる SQL プールサイズが小さいため、SQL プール機能は動作しません。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** XDB サービス定義の `xdb_sqlpool_size` オペランドの値を見直してください。SQL プール機能については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」を参照してください。

#### KFSB56161-W

表定義プールに格納できない表が存在します。表名 = aa....aa."bb....bb"

There is a table that cannot be stored in the table definition pool. The table is aa....aa."bb....bb". (E+P+L) (4) (NOS)

表定義情報の一括先読みで、表定義プールに格納できなかった表が存在します。

aa....aa : スキーマ名

bb....bb : 表識別子

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** ディクショナリ表を含むすべての表の定義情報を格納できるように、XDB サービス定義の `xdb_tabledefpool_size` オペランドの値を見直してください。

#### KFSB56201-E

XDB 管理テーブルの確保に失敗しました。

Acquiring XDB management table failed. (E) (1) (NOS)

XDB 管理テーブルの確保に失敗しました。

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの値を見直してください。

## KFSB56205-W

```
共有メモリのページ固定化に失敗しました。情報 1 = aaaa, 情報 2 = bb...bb, 情報 3 = cc...cc  
An attempt to fix a page in shared memory has failed. (information 1 = aaaa, information 2  
= bb...bb, information 3 = cc...cc) (E+P+L) (4) (NOS)
```

XDB サービス定義の xdb\_memory\_fixed オペランドに Y を指定している際、共用メモリの固定化に失敗しましたが、処理は続行します。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb...bb : 保守情報 1

cc...cc : 保守情報 2

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】TP1/Server Base のユーザサービス定義の setrlimit\_memlock オペランドに十分大きな値を指定して、再度 OpenTP1 を起動してください。setrlimit\_memlock オペランドの指定については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「共用メモリの固定化」を参照してください。

再度 OpenTP1 を起動してもこのメッセージが出力された場合は、理由コード一覧を見て対策してください。これらの対策を実行しても問題が解決しない場合は、このメッセージの内容を記録して、保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
0001	主記憶装置のメモリ不足によって、共用メモリの固定化に失敗しました。	次に示す対策のどれかを実施したあと、再度 OpenTP1 を起動してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 不要なプロセスがあれば削除する。</li><li>• メモリ関連のシステム定義を見直す。</li><li>• 主記憶装置を増設する。</li><li>• XDB サービス定義の xdb_memory_fixed オペランドの指定値を N に変更する。</li></ul>
0002	XDB を実行するためのメモリが不足しています。これによって、共用メモリの固定化に失敗しました。	直前に出力された KFSB30930-E メッセージに従って原因を取り除いてください。
0003	OS メモリ不足によって、共用メモリの固定化に失敗しました。	次に示す対策のどちらかを実施したあと、再度 OpenTP1 を起動してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 不要なプロセスがあれば削除する。</li><li>• メモリ関連のシステム定義を見直す。</li></ul>

理由コード	意味	対策
0004	OS メモリ不足またはプロセス数不足によって、共用メモリの固定化に失敗しました。	不要なプロセスがあれば削除し、再実行してください。不要なプロセスがない場合は、メモリ不足、またはプロセス数不足の対策を実施して、再度 OpenTP1 を起動してください。
上記以外	内部矛盾によって、共用メモリの固定化に失敗しました。	このメッセージの内容を記録して、保守員に連絡してください。

## KFSB56206-W

SQL 実行時にエラーが発生しており、そのため aa....aa の処理がエラーとなりました。理由コード = bbbbbb, I F A 番号 = cc....cc, 中央処理通番 = dd....dd, サービス名 = ee....ee

Processing of aa....aa ended in an error because an error occurred when SQL was executed. code = bbbbbb, IFA number = cc....cc, central processing number = dd....dd, service = ee....ee (E+P+L) (4) (NOS)

SQL 実行時にエラーが発生しています。そのため、aa....aa の処理がエラーとなりました。

**aa....aa** : エラーが発生した処理

COMMIT : コミット処理

**bbbbbb** : 理由コード

SQL 実行時の SQLCODE

**cc....cc** : IFA 番号 (10 進表記)

エラーが発生したスレッドの IFA 番号

**dd....dd** : 中央処理通番 (16 進表記)

エラーが発生したトランザクションの中央処理通番

**ee....ee** : サービス名

エラーが発生したサービス名

サービス名がないトランザクションの場合は、\*\*\*を表示します。

(S)エラーが発生しましたが、プロセスダウンしないで処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** エラー要因を取り除いたあと、該当するトランザクションの RPC サービス要求を再実行してください。

## KFSB56207-W

DB エリアのダンプ出力に失敗しました。理由コード = aaaa, 情報 1 = bb....bb, 情報 2 = cc....cc, ファイル名 = dd....dd

Output of the DB area dump has failed. code = aaaa, information 1 = bb....bb, information 2 = cc....cc, file = dd....dd (E+P+L) (4) (NOS)

DB エリアのメモリダンプの出力に失敗しました。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : 保守情報 1

cc....cc : 保守情報 2

dd....dd : メモリダンプファイル名

メモリダンプダンプファイルへの出力以前のエラーの場合は, \*\*\*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	出力対象の共用メモリがありません。 共用メモリが確保されていないか、またはすでに削除されているため、メモリダンプを出力できません。	—
0002	メモリ不足が発生しました。	不要なプロセスがあれば削除してください。
0003	ディレクトリの検索または書き込み許可がありません。	\$DCDIR/spool/dceeinf/hamdump までの絶対パスの中に、検索または書き込みが許可されていないディレクトリがないか、また、ディレクトリでないものが含まれていないかを確認してください。
0004	シンボリックリンクが多過ぎます。	\$DCDIR/spool/dceeinf/hamdump までの絶対パス中にあるシンボリックリンクの数を減らしたディレクトリ構成にしてください。
0005	オープンできるファイル数の上限を超えています。	不要なファイルをクローズしてください。
0006	ファイルまでのパス名が長過ぎます。	OpenTP1 の格納ディレクトリまでの絶対パスが長過ぎるおそれがあります。短いパス構成にしてください。
0007	該当するプロセスの最大ファイルサイズを超えるファイルを書き込もうとしました。	OS のファイルサイズが変更できないか確認してください。

(凡例)

— : 該当しません。

## KFSB56208-Q

ファイルの出力障害が発生しました。eetrbwtor コマンドを実行してください。サービスグループ名 = aa....aa, メッセージ識別子番号 = bb....bb, オプションフラグ={-r|-c}, ファイル名 = cc....cc

```
An error occurred in file output process. Execute the eetrbwtr command. service group name = aa....aa, message ID = bb....bb, option flag = {-r|-c}, file name = cc....cc (S+P+L) (1) (NOS)
```

ファイルの出力障害が発生しました。eetrbwtr コマンドを実行してください。

aa....aa : サービスグループ名

bb....bb : メッセージ識別子番号

cc....cc : ファイル名

(S)eetrbwtr コマンドが実行されるまで待ち合わせます。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

#### [対策]

ファイルの出力をリトライする場合

このメッセージより前に出力されているエラーコードを参照して障害の原因を取り除いてください。  
その後、eetrbwtr コマンドに-r オプションを指定して実行してください。

ファイルの出力を中止して終了する場合

eetrbwtr コマンドに-c オプションを指定して実行してください。

#### KFSB57003-E

```
論理端末が閉塞されているため、PVC 切断依頼の送信に失敗しました。論理端末名 = aa....aa, 送受信種別 = bbbb
```

```
Transmission of a PVC disconnection request failed because a logical terminal was closed.  
logical terminal name = aa....aa, sending or receiving = bbbb (E+P+L) (2) (SUP)
```

論理端末が閉塞されているため、PVC 切断依頼の送信に失敗しました。

aa....aa : 論理端末名

bbbb : 論理端末の送受信種別

SEND : 送信用論理端末

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 論理端末閉塞中を解除し、コマンドを再入力してください。

## KFSB57004-E

PVC 切断依頼の送信に失敗しました。論理端末名 = aa....aa, 送受信種別 = bbbb, 関数名 = cc....cc, リターン値 = dd....dd

Transmission of a PVC disconnection request failed. logical terminal name = aa....aa, sending or receiving = bbbb, function name = cc....cc, return value = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

PVC 切断依頼の送信に失敗しました。

aa....aa : 論理端末名

bbbb : 論理端末の送受信種別

SEND : 送信用論理端末

cc....cc : エラーが報告された関数名

dd....dd : 関数の設定したリターン値

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 保守員に連絡してください。

## KFSB57005-E

PVC 切断依頼の送信に失敗しました。PVC 切断依頼の送信を再試行します。論理端末名 = aa....aa, 送受信種別 = bbbb, 詳細コード 1 = cccc, リターン値 = dd....dd

Transmission of a PVC disconnection request failed. The PVC disconnection request will be retransmitted. logical terminal name = aa....aa, sending or receiving = bbbb, detail code 1 = cccc, return value = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

PVC 切断依頼の送信に失敗しました。PVC 切断依頼の送信を再試行します。

aa....aa : 論理端末名

bbbb : 論理端末の送受信種別

SEND : 送信用論理端末

cccc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

dd....dd : 関数のリターン値

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)タイマによって PVC 切断依頼の送信を再試行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 表示された関数のリターン値に従って対策してください。

リターン値	意味	対策
-10020	論理端末が閉塞しています。	論理端末の閉塞を解除してください。
-10021	出力メッセージ編集 UOC がエラーリターンしました。	UOC のエラー内容を確認して、対策してください。
-10022	出力メッセージ編集 UOC が正しい値を設定していません。	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
-10025	送信障害が発生しました。	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
-10030	メモリ不足が発生しました。	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB57006-E

電文区分が不正な電文を受信しました。電文区分 = aaaaaaaa  
A message of an invalid message type was received. message type = aaaaaaaa (E+P+L)  
(2) (SUP)

電文区分が不正な電文を受信しました。

aaaaaaa : 不正な電文区分 (16 進表記)

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)受信電文を破棄します。

(O)MCP トレースファイルを取得し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB57007-E

可変情報部データ長が電文情報部にセットされているデータ長を満たしていない電文を受信しました。  
電文区分 = aaaa, 電文情報部にセットされているデータ長 = bb....bb, 可変情報部データ長 = cc....cc  
The data length of the variable information in the received message does not match the data length set for message information. message type = aaaa, data length set for message information = bb....bb, data length of variable information = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

可変情報部データ長が電文情報部にセットされているデータ長を満たしていない電文を受信しました。

aaaa : 電文区分

bb....bb : 電文情報部にセットされているデータ長



cc....cc：可変情報部データ長

(S)受信電文を破棄します。

(O)MCP トレースファイルを取得し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB57008-E

IP アドレスまたはポート番号が不一致な電文を受信しました。電文区分 = aaaa, 受信した IP, ポート番号 = II....II, PP....PP, 処理対象の IP, ポート番号 = ii....ii, pp....pp

The IP address or port number of the received message does not match. message type = aaaa, received IP, port number = II....II, PP....PP, process object IP, port number = ii....ii, pp....pp (E+P+L) (2) (SUP)

IP アドレスまたはポート番号が不一致な電文を受信しました。

aaaa：電文区分

II....II：受信した「.」x 記法の IP アドレス（最大 15 文字）

PP....PP：受信したポート番号

ii....ii：TP1/FSP(ATM)が対象としている「.」記法の IP アドレス（最大 15 文字）

pp....pp：TP1/FSP (ATM) が対象としているポート番号

なお、TP1/FSP (ATM) を開始し、一度も PVC 接続をしていない状態の場合で、PVC 接続依頼電文以外の電文を受信した場合は ii....ii と pp....pp は「0.0.0.0」, 「0」を表示します。

(S)受信電文を破棄します。

(O)MCP トレースファイルを取得し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB57009-W

受信電文を破棄しました。理由コード = rr, ステータス = ssss, 電文区分 = eeee

A received message was discarded. reason code = rr, status = ssss, message type = eeee (E+P+L) (4) (SUP)

受信電文を破棄しました。

rr：理由コード

P1：受信した電文を受け付けられない状態（PVC 状態）であったため破棄しました。

P3：受信した電文を受け付けられる状態（PVC 状態）でしたが、依頼電文を送信していない状態で結果電文（\*1）を受信したため破棄しました。

\*1：PVC 状態監視結果電文および、PVC 時刻取得結果電文

SSSS：ステータス

0001：PVC 未接続

0002：PVC 接続済み

0003：PVC 切断中

eeee：電文区分

(S)受信電文を破棄します。

(O)MCP トレースファイルを取得し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB57010-E

フォーマット不正の電文を受信しました。電文区分 = aaaa, 不正個所 = bb, POST コード = xxyy, 受信電文 = cc....cc

A message regarding an invalid format was received. message type = aaaa, invalid location = bb, POST code = xxyy, received message = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

フォーマット不正の電文を受信しました。

aaaa：電文区分

bb：不正個所

F1：受信電文の I/F ヘッダ部

F2：受信電文の電文情報部

F3：受信電文の可変部

xxyy：上位 2 バイト xx：POST コード

下位 2 バイト yy：詳細 1 コード

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

表示できない場合は、\*\*....\*\*を表示します。

(S)フォーマットが不正の内容に従って必要に応じエラー送信し、受信電文を破棄します。

(O)MCP トレースファイルを取得し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB57011-W

結果電文が期待する電文ではありませんでした。電文区分 = aaaa, タイムスタンプ = TTTTTTTT(hh:mm:ss), tttttttt(hh:mm:ss)

The results message was not the expected message. message type = aaaa, time stamp = TTTTTTTT(hh:mm:ss), tttttttt(hh:mm:ss) (E+P+L) (4) (SUP)

受信した結果電文が送信時にセットした情報と異なっています。TP1/FSP (ATM) が送信した依頼電文の結果待ちタイムアウトと結果電文の受信がすれ違った可能性があります。

**aaaa** : 電文区分

**TTTTTTTT** : 受信電文に設定されている TP1/FSP (ATM) が依頼電文を送信した時刻 (16 進数 8 桁固定)

**(hh:mm:ss)** : 受信電文に設定されている TP1/FSP (ATM) が依頼電文を送信した時刻 (時:分:秒)

**tttttttt** : TP1/FSP(ATM)が期待する依頼電文を送信した時刻 (16 進数 8 桁固定)

**(hh:mm:ss)** : TP1/FSP(ATM)が期待する依頼電文を送信した時刻 (時:分:秒)

表示できない場合は, \*\*...\*\*を表示します。

なお, 16 進数表記の時刻はグリニッジ標準時 (GMT) となります。

(S)フォーマットが不正の内容に従って必要に応じエラー送信し, 受信電文を破棄します。

(O)MCP トレースファイルを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 保守員に連絡してください。

## KFSB57012-E

POST コードが 00 以外の結果電文を受信しました。電文区分 = aaaa, POST コード = xxyy

The POST code received a results message other than 00. message type = aaaa, POST code = xxyy (E+P+L) (2) (SUP)

POST コードが 00 以外の結果電文を受信しました。

**aaaa** : 電文区分

**xxyy** : 上位 2 バイト xx : POST コード

下位 2 バイト yy : 詳細 1 コード

(S)受信電文を破棄します。

(O)MCP トレースファイルを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 保守員に連絡してください。

## KFSB57013-E

受信シーケンス番号の重複を検知しました。電文区分 = aaaa, 受信シーケンス番号 = nn....nn  
A duplicate reception sequence number was detected. message type = aaaa, reception  
sequence number = nn....nn (E+P+L) (2) (SUP)

受信シーケンス番号の重複を検知しました。

aaaa : 電文区分

nn....nn : 受信シーケンス番号

(S) 依頼電文の場合, エラー送信 (POST = 14, 詳細 1 = D3) し, 受信電文を破棄します。

結果電文の場合, 受信電文を破棄します。

(O) MCP トレースファイルを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 保守員に連絡してください。

## KFSB57014-E

タイムスタンプチェックエラーを検知しました。送信時刻 = aaaaaaaa(hh:mm:ss), 受信時刻 =  
bbbbbbbb(hh:mm:ss)  
A time stamp check error was detected. transmission time = aaaaaaaa(hh:mm:ss), reception  
time = bbbbbbbb(hh:mm:ss) (E+P+L) (2) (SUP)

タイムスタンプチェックエラーを検知しました。

aaaaaaaa : ATM センタの送信時刻 (16 進数 8 桁固定)

(hh:mm:ss) : ATM センタの送信時刻 (時:分:秒)

bbbbbbbb : 受信した時刻 (オフセット値を加味した値) (16 進数 8 桁固定)

(hh:mm:ss) : 受信した時刻 (オフセット値を加味した値) (時:分:秒)

なお, 16 進数表記の時刻はグリニッジ標準時 (GMT) となります。

(S) エラー送信し, 受信電文を破棄します。

(O) MCP トレースファイルを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** このメッセージが多発する場合は, eeatmchg コマンドによるタイムスタンプチェック無効化機能の使用の検討を行ってください。

## KFSB57015-E

電文情報部にセットされているデータ長がプロトコル規定値と異なる電文を受信しました。電文区分  
= aaaa, プロトコル規定値 = b, 電文情報部にセットされているデータ長 = cc....cc

The data length set for message information in the received message is different from the value defined for the protocol. message type = aaaa, value defined for protocol = b, data length set for message information = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

電文情報部にセットされている可変情報部データ長が規定値と異なる電文を受信しました。

aaaa : 電文区分

b : プロトコル規定値

cc....cc : 電文情報部にセットされているデータ長

(S)受信電文を破棄します。

(O)MCP トレースファイルを取得し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB57016-E

送信論理端末が閉塞中のため受信電文を破棄しました。電文区分 = eeee

A received message was discarded because a logical terminal for transmission is closed.  
message type = eeee (E+P+L) (2) (SUP)

送信論理端末が閉塞中のため、結果電文が送信できないので受信電文を破棄しました。

eeee : 電文区分

(S)受信電文を破棄します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 送信論理端末が閉塞状態となった原因を取り除き、閉塞解除状態としてください。

#### KFSB57017-E

送信論理端末が閉塞中のため送信要求を却下しました。電文区分 = eeee

The transmission request was rejected because the logical terminal for transmission was closed. message type = eeee (E+P+L) (2) (SUP)

送信論理端末が閉塞中のため送信要求を却下しました。

eeee : 電文区分

(S)送信要求を却下しました。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 送信論理端末が閉塞状態となった原因を取り除き、閉塞解除状態としてください。

#### KFSB57018-E

PVC 状態監視依頼送信リトライ回数が規定値を超過しました。

The number of retransmissions for a PVC status monitoring request exceeded the defined value. (E+P+L) (2) (SUP)

PVC 状態監視依頼送信リトライ回数が規定値を超過しました。

(S)PVC 未接続状態とし、業務 UAP にはその旨を通知します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージは ATM センタ側の無応答だけでなく、送信論理端末閉塞状態の場合も該当するので、送信論理端末の状態を確認し、閉塞状態の場合はその原因を取り除き、閉塞解除状態としてください。

#### KFSB57019-E

PVC 切断結果待ちタイマのタイムアウト回数が規定値を超過しました。

The number of timeouts for the timer waiting for PVC disconnection results exceeded the defined value. (E+P+L) (2) (SUP)

PVC 切断結果待ちタイマのタイムアウト回数が規定値を超過しました。

(S)PVC 未接続状態とし、業務 UAP にはその旨を通知します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージは ATM センタ側の無応答だけでなく、送信論理端末閉塞状態の場合も該当するので、送信論理端末の状態を確認し、閉塞状態の場合はその原因を取り除き、閉塞解除状態としてください。

#### KFSB57020-E

PVC 時刻取得結果待ちタイマのタイムアウト回数が規定値を超過しました。

The number of timeouts for the timer waiting for PVC time acquisition results exceeded the defined value. (E+P+L) (2) (SUP)

PVC 時刻取得結果待ちタイマのタイムアウト回数が規定値を超過しました。

(S)時刻取得依頼のリトライを打ち切ります。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】**時刻補正が行われなかったためタイムスタンプチェックエラー (KFSB57014-E) が多発する可能性があります。多発した場合には `eeatmchg` コマンドによるタイムスタンプチェック無効化機能の使用の検討を行ってください。

また、このメッセージは ATM センタ側の無応答だけでなく、送信論理端末閉塞状態の場合も該当するので、送信論理端末の状態を確認し、閉塞状態の場合はその原因を取り除き、閉塞解除状態としてください。

## KFSB57021-E

PVC 時刻取得結果の伝送遅延リトライ回数が規定値を超過しました。

The number of transmission delay retries for a PVC time acquisition result exceeded the defined value. (E+P+L) (2) (SUP)

PVC 時刻取得結果の伝送遅延リトライ回数が規定値を超過しました。

(S)PVC 時刻取得依頼のリトライを打ち切ります。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】**時刻補正が行われなかったためタイムスタンプチェックエラー (KFSB57014-E) が多発する可能性があります。多発した場合には `eeatmchg` コマンドによるタイムスタンプチェック無効化機能の使用の検討を行ってください。

## KFSB57022-E

未実装回線で受信しました。電文区分 = aaaa, 受信した回線番号 = b, 実装回線番号 = c

A message was received on an unmounted line. message type = aaaa, receiving line number = b, mounted line number = c (E+P+L) (2) (SUP)

未実装回線で受信しました。

aaaa : 電文区分

b : 受信した回線番号

c : 実装回線番号

(S)エラー送信 (POST = 11, 詳細 1 = 03) し、受信電文を破棄します。

(O)MCP トレースファイルを取得し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB57023-W

受信電文を破棄しました。回線番号 = a, ステータス = ssss, 電文区分 = eeee



```
A received message was discarded. line number = a, status = ssss, message type = eeee  
(E+P+L) (4) (SUP)
```

受信した電文を受付られない状態（回線状態）であったため破棄しました。

**a**：電文を受信した回線の回線番号

**ssss**：ステータス

0001：回線クローズ状態

0002：回線オープン状態

**eeee**：電文区分

(S)エラー送信 (POST = 12) し、受信電文を破棄します。

(O)MCP トレースファイルを取得し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 保守員に連絡してください。

#### KFSB57024-W

```
結果電文が期待する電文ではありませんでした。電文区分 = aaaa, 送信シーケンス番号 = SS....SS,  
ss....ss
```

```
The results message was not the expected message. message type = aaaa, transmission  
sequence number = SS....SS, ss....ss (E+P+L) (4) (SUP)
```

受信した結果電文が送信時にセットした情報と異なっています。TP1/FSP (ATM) が送信した依頼電文の結果待ちタイムアウトと結果電文の受信がずれ違った可能性があります。

**aaaa**：電文区分

**SS....SS**：受信電文に設定されている TP1/FSP (ATM) が依頼電文を送信した送信シーケンス番号

**ss....ss**：TP1/FSP (ATM) が期待する依頼電文送信時の送信シーケンス番号

(S)受信電文を破棄します。

(O)MCP トレースファイルを取得し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 保守員に連絡してください。

#### KFSB57025-E

```
通信障害が発生しました。詳細コード = aa....aa
```

```
A communication error has occurred. detail code = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)
```

通信障害が発生しました。



aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB57026-E

受信したメッセージのサイズが不正です。メッセージ種別 = aa....aa, 論理端末名 = bb....bb, 送受信種別 = cccc, メッセージサイズ = dd....dd

The size of the received message is invalid. message type = aa....aa, logical terminal name = bb....bb, sending or receiving = cccc, message size = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

受信したメッセージのサイズが不正です。

aa....aa : 受信したメッセージ種別

RCVMSG : 相手システムから通信プロトコルを介して送られたメッセージ

bb....bb : 受信した論理端末名

cccc : 論理端末の送受信種別

RECV : 受信用論理端末

dd....dd : 受信したメッセージのサイズ

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)MCP トレースファイル, syslog, メッセージログを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB57101-E

エラートランザクションの起動を検知しました。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb, 論理パス名 = cc....cc, トランザクション名 = dd....dd, 理由コード = ee....ee

An error-transaction has been detected. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb, logical path name = cc....cc, transaction name = dd....dd, reason code = ee....ee (E+P+L) (2) (SUP)

エラートランザクションの起動を検知しました。

aa....aa : 論理端末名

bb....bb : コネクション ID

cc....cc：論理パス名

dd....dd：トランザクション名

ee....ee：理由コード

ERRTRNS：送信障害通知

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** マニュアル「TP1/EE/Message Control Extension 使用の手引」を参照して、障害情報を収集してください。

## KFSB57102-E

論理端末が閉塞されているため、送信要求を却下しました。論理端末名 = aa....aa

The transmission request was rejected because the logical terminal was closed. logical terminal name = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

論理端末が閉塞されているため、送信要求を却下しました。

aa....aa：論理端末名

(S)送信要求を却下します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 論理端末の閉塞を解除し、再度送信要求してください。

## KFSB57103-E

コネクションが接続状態にないため、送信要求を却下しました。コネクション ID = aa....aa, ステータス = bbb

The transmission request was rejected because a connection could not be established. connection ID = aa....aa, status = bbb (E+P+L) (2) (SUP)

コネクションが接続状態にないため、送信要求を却下しました。

aa....aa：コネクション ID

bbb：ステータス

INA：未確立状態

BID：確立処理中

OBS：解放処理中

(S)送信要求を却下します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** コネクションの状態を確認後、再度送信要求してください。

#### KFSB57104-E

論理端末が閉塞されているため、電文送信に失敗しました。論理端末名 = aa....aa, 電文種別 = bbb  
Message transmission failed because the logical terminal was closed. logical terminal name =  
aa....aa, message type = bbb (E+P+L) (2) (SUP)

論理端末が閉塞されているため、メッセージ送信に失敗しました。

**aa....aa** : 論理端末名

**bbb** : メッセージ種別

ACK : 送達管理メッセージ

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 論理端末の閉塞を解除してください。

#### KFSB57105-E

コネクションが接続状態にないため、電文送信に失敗しました。コネクション ID = aa....aa, 電文種別 = bbb, ステータス = ccc  
Message transmission failed because a connection could not established. connection ID =  
aa....aa, message type = bbb, status = ccc (E+P+L) (2) (SUP)

コネクションが接続状態にないため、メッセージ送信に失敗しました。

**aa....aa** : コネクション ID

**bbb** : メッセージ種別

ACK : 送達管理メッセージ

**ccc** : ステータス

INA : 未確立状態

BID : 確立処理中

OBS : 解放処理中

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** コネクションの状態を確認してください。

## KFSB57106-E

電文送信に失敗しました。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb, 論理パス名 = cc....cc, 電文種別 = ddd, 詳細コード 1 = ee....ee, 詳細コード 2 = ff....ff, リターン値 = gg....gg  
Message transmission failed. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb, logical path name = cc....cc, message type = ddd, detail code 1 = ee....ee, detail code 2 = ff....ff, return value = gg....gg (E+P+L) (2) (SUP)

メッセージ送信に失敗しました。

aa....aa : 論理端末名

bb....bb : コネクション ID

cc....cc : 論理パス名

ddd : メッセージ種別

INF : 情報メッセージ

ACK : 送達管理メッセージ

CTL : 制御メッセージ

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

gg....gg : 関数の設定したリターン値

表示できない場合は, \*\* .... \*\*を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 表示された関数のリターン値に従って対策してください。

リターン値	意味	対策
-10020	論理端末が閉塞しています。	論理端末の閉塞を解除してください。
-10021	出力メッセージ編集 UOC がエラーリターンしました。	UOC のエラー内容を確認して、対策してください。
-10022	出力メッセージ編集 UOC が正しい値を設定していません。	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
-10025	送信障害が発生しました。	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
-10030	メモリ不足が発生しました。	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB57108-W

受信電文を破棄しました。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb, 論理パス名 = cc....cc, 理由コード = dd, 電文種別 = eee, シーケンス番号 = ffffffff

A received message was discarded. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb, logical path name = cc....cc, reason code = dd, message type = eee, sequence number = ffffffff (E+P+L) (4) (SUP)

受信メッセージを破棄しました。

**aa....aa** : 論理端末名

**bb....bb** : コネクション ID

**cc....cc** : 論理パス名

**dd** : 理由コード

01 : 送達管理メッセージの場合、タイムアウト後の応答メッセージのため破棄しました。

制御メッセージの場合、受信したメッセージを受け付けられない状態のため破棄しました。

**eee** : メッセージ種別

ACK : 送達管理メッセージ

CTL : 制御メッセージ

**fffffff** : シーケンス番号

表示できない場合は、\*\*....\*\*を表示します。

(S)受信メッセージを破棄します。

(O)MCP トレースファイルを取得し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB57109-E

フォーマット不正の電文を受信しました。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb, ロケーション = cc....cc, 受信電文 = dd....dd

A message regarding an invalid format was received. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb, location = cc....cc, received message = dd....dd (E+P+L) (2) (SUP)

フォーマット不正のメッセージを受信しました。

**aa....aa** : 論理端末名

**bb....bb** : コネクション ID

cc....cc：フォーマット不正を検知した位置

dd....dd：受信メッセージ

受信データ有効サイズを最大 64 バイトで表示します。

表示できない場合は、\*\*....\*\*を表示します。

(S)TCP コネクションを解放します。

(O)MCP トレースファイルを取得し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** ロケーションに出力された数字が 24, 26, または 28 の場合は、表に示す定義を見直してください。

定義に誤りがない場合、およびロケーションに出力された数字が 24, 26, または 28 以外の場合は、保守員に連絡してください。

ロケーション	見直す定義
24	MCP 構成定義の eemcpn 定義コマンド (コネクション定義 (TCP/IP)) の-z オプションの blineno オペランド
26	MCP 構成定義の eemcpn 定義コマンド (コネクション定義 (TCP/IP)) の-z オプションの rlineno オペランド
28	MCP 構成定義の eemcpzrcpa 定義コマンド (全銀 RC パス定義) の-n オプション

## KFSB57110-E

シーケンス番号不正の電文を受信しました。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb, 論理パス名 = cc....cc, 電文種別 = ddd, シーケンス番号 1 = eeeeeeee, シーケンス番号 2 = ffffffff  
A message with an incorrect sequence number has been received. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb, logical path name = cc....cc, message type = ddd, sequence number 1 = eeeeeeee, sequence number 2 = ffffffff (E+P+L) (2) (SUP)

シーケンス番号不正のメッセージを受信しました。

aa....aa：論理端末名

bb....bb：コネクション ID

cc....cc：論理パス名

ddd：メッセージ種別

INF：情報メッセージ

ACK：送達管理メッセージ

eeeeeeee：受信メッセージに設定されていたシーケンス番号

fffffff：TP1/FSP (全銀 RC) が管理しているシーケンス番号

情報メッセージを送信していない場合は、\*\*....\*\*を表示します。

(S)TCP コネクションを解放します。

(O)MCP トレースファイルを取得し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 保守員に連絡してください。

#### KFSB57111-E

コネクション定期監視の無応答回数が規定値を超過しました。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb

The number of times there was no response to periodic connection monitoring exceeded the predefined value. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

コネクション定期監視の無応答回数が規定値を超過しました。

aa....aa : 論理端末名

bb....bb : コネクション ID

(S)コネクションを解放します。

(O)MCP トレースファイルを取得し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** このメッセージは全国銀行データ通信センタ側の無応答の場合だけでなく、論理端末閉塞状態の場合でも該当します。このため、論理端末の状態を確認し、閉塞状態の場合はその原因を取り除いて、閉塞解除状態にしてください。

#### KFSB57112-E

送達管理メッセージ受信待ちタイムアウト回数が規定値を超過しました。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb

The number of timeouts that occurred while waiting to receive a transmission management message exceeded the predefined number. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb (E+P+L) (2) (SUP)

送達管理メッセージ受信待ちタイムアウト回数が規定値を超過しました。

aa....aa : 論理端末名

bb....bb : コネクション ID

(S)コネクションを解放します。

(O)MCP トレースファイルを取得し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 保守員に連絡してください。

## KFSB57113-E

電文送信中状態のため送信要求を却下しました。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb, 論理パス名 = cc....cc

The transmission request was rejected because a message was transmitting. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb, logical path name = cc....cc (E+P+L) (2) (SUP)

メッセージ送信中状態のため送信要求を却下しました。

aa....aa : 論理端末名

bb....bb : コネクション ID

cc....cc : 論理パス名

(S)送信要求を却下します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** しばらく待ってから、再度送信要求してください。

## KFSB57114-E

発行条件が不正なため送信要求を却下しました。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb, 論理パス名 = cc....cc, 理由コード = dddd

The transmission request has been rejected due to an invalid issuance condition. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb, logical path name = cc....cc, reason code = dddd (E+P+L) (2) (SUP)

発行条件が不正なため送信要求を却下しました。

aa....aa : 論理端末名

bb....bb : コネクション ID

cc....cc : 論理パス名

dddd : 理由コード

0001 : ee\_trn\_rollback\_mark 関数が発行済みです。

0002 : 不正なトランザクションから発行しました。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 送信要求の発行条件を見直してください。



## KFSB57125-E

通信障害が発生しました。詳細コード = aa....aa

A communication error has occurred. detail code = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

コマンド処理において通信障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB57127-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード = aa....aa

An internal inconsistency has occurred. detail code = aa....aa (E+P+L) (2) (SUP)

コマンド処理において内部矛盾が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB58001-E

領域の確保に失敗しました。領域サイズ = aa....aa, 対象領域コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An attempt to allocate area has failed. area size = aa....aa, target area code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (2) (NOS)

領域の確保に失敗しました。

aa....aa : 領域サイズ (単位: バイト)

bb....bb : 対象領域コード

XDB\_POOLBUF : XDB の更新ログ転送用の送信バッファ

RCV\_WKSEG : キュー・ログ回復用ワークセグメント

SKIPMSG\_BUF : UDP 用送信バッファ (滞留メッセージのスキップ情報用)

REMAINMSG\_BUF : UDP 用送信バッファ (滞留メッセージの情報用)

cc....cc : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

#### [対策]

対象領域コードが XDB\_POOLBUF の場合

クラスタ連携関連定義の `mch_xdb_buf_pool_count` オペランド、またはメモリ関連定義の `udp_send_message_buf_cnt` オペランドを見直してください。必要であれば定義を変更したあと、再起動してください。

対象領域コードが RCV\_WKSEG の場合

XTC 用ワーク領域 (XTCPOOL) に関連する定義を見直してください。必要であれば定義を変更したあと、再起動してください。

対象領域コードが SKIPMSG\_BUF, または REMAINMSG\_BUF の場合

メモリ関連定義の `udp_send_message_buf_cnt` オペランドを見直してください。

### KFSB58002-E

不正なメッセージを受信しました。ノード識別子 = aaaa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc, 詳細コード 3 = dd....dd

Received an invalid message. node ID = aaaa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc, detail code 3 = dd....dd (E+P+L) (2) (NOS)

不正なメッセージを受信しました。

aaaa : メッセージ送信元のノード識別子

bb....bb : XTC がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : XTC がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)受信メッセージを破棄します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 保守員に連絡してください。

### KFSB58003-E

処理キューの登録に失敗しました。理由コード = aaaa, サービス名 = bb....bb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd, 詳細コード 3 = ee....ee

An attempt to register a processing queue has failed. reason code = aaaa, service name = bb...bb, detail code 1 = cc...cc, detail code 2 = dd...dd, detail code 3 = ee...ee (E+P+L)  
(2) (NOS)

処理キュー登録に失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb...bb** : キュー登録先のサービス名

サービス名を特定できない場合は\*を表示します。

**cc...cc** : XTC がトラブルシュートで使用する情報

**dd...dd** : XTC がトラブルシュートで使用する情報

**ee...ee** : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)理由コードに従って処理します。

理由コードが 0001 の場合

処理キュー登録処理を中止します。受信メッセージは破棄します。

理由コードが 0002 の場合

処理キュー登録処理を行わないで、受信メッセージを処理します。

理由コードが 0003 の場合

処理キュー登録処理を行わないで、サービス閉塞処理を続行します。

理由コードが 0004 の場合

処理キュー登録処理を中止します。系切り替え処理中の場合、受信メッセージはキューダンプファイルの出力対象になります。系切り替え処理中以外の場合、受信メッセージは破棄します。

理由コードが 0005 の場合

処理キュー登録処理を中止します。受信メッセージは破棄します。

理由コードが上記以外の場合

処理キュー登録処理を中止します。系切り替え処理中、かつ、サービス名が表示されている場合、受信メッセージはキューダンプファイルの出力対象になります。系切り替え処理中以外、または、サービス名が表示されていない場合、受信メッセージは破棄します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの設定値を見直して、再実行してください。

理由コード	意味	対策
0002	PCE 数が不足しました。	このエラーが多発する場合は、メモリ関連定義の pce_no オペランドの設定値を見直してください。
0003	サービス閉塞情報転送用の処理キュー登録に失敗しました。	表示されたサービス名について、CL サーバの実行系と待機系で eelssv コマンドを実施し、サービスの状態に相違がないか確認してください。相違がある場合は、待機系で eedctsv コマンドを実施し実行系のサービスの状態と一致させてください。
0004	入力キュー (ITQ) が満杯です。	サービスの閉塞状態および滞留メッセージ数を確認してください。必要に応じて閉塞解除または滞留メッセージのスキップを実行してください。
0005	PCE 数不足によって処理キュー仮登録に失敗しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの設定値を見直して、再実行してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	システムの状態を確認してください。開始または終了処理中ではない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB58010-E

トランザクション処理でオーバフローを検知しました。サービス名 = aa....aa, サイズ = bb....bb  
 An overflow was detected during transaction processing. service name = aa....aa, size = bb....bb (E+P+L) (2) (NOS)

トランザクション処理でサービス関数インタフェース作成時、受け付けたメッセージがメッセージ引き渡しエリアサイズを超えていたため、以降のメッセージを破棄しました。

**aa....aa** : サービス名

サービス名がない場合は、\*を表示します。

**bb....bb** : 不足しているサイズ (単位: バイト)

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の max\_message\_size オペランドの設定値を見直してください。

## KFSB58099-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc, 詳細コード 4 = dd....dd, 詳細コード 5 = ee....ee

An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc, detail code 4 = dd....dd, detail code 5 = ee....ee (E+P+L) (1) (NOS)

内部矛盾が発生しました。

**aa....aa** : XTC がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : XTC がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : XTC がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : XTC がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

#### KFSB58100-E

定義の送信に失敗しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb

Failed to send the definition. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E+P+L) (2)  
(NOS)

定義の送信に失敗しました。

aa....aa : XTC がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)定義の送信を中止して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されていれば、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。

#### KFSB58101-E

状態の送信に失敗しました。詳細コード = aa....aa

Failed to send the status. detail code = aa....aa (E+P+L) (2) (NOS)

状態の送信に失敗しました。

aa....aa : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されていれば、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。

## KFSB58102-E

状態通知送信に失敗しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb

Failed to send the status notification. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E+P+L) (2) (NOS)

状態通知送信に失敗しました。

**aa....aa** : XTC がトラブルシュートで使用する情報

**bb....bb** : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)状態の通知を中止して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されていれば、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB58103-E

実行系と待機系の定義情報が異なります。理由コード = aa....aa, オペランド名 = bb....bb

Definitions in the execution system are different from that in the standby system. reason code = aa....aa, operand name = bb....bb (E+P+L) (2) (NOS)

CL サーバの実行系と待機系の定義情報が異なります。

**aa....aa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : オペランド名

指定値の異なる定義名を表示します。

(S)XTC プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1	定義に指定された値が異なります。	オペランド名に出力された定義の指定値を確認してください。CL サーバの実行系と待機系の指定値が一致しているときに出力された場合は、関連するほかの定義でこのメッセージが出力されていないか、またはほかのメッセージが出力されていないか確認してください。
2	定義のバージョンが異なります。	CL サーバの実行系と待機系の製品のバージョンが同じかどうか確認してください。また、直前にほかのメッセージが出力されていないか確認してください。

## KFSB58104-E

処理キューの登録に失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc

An attempt to register a processing queue has failed. reason code = aaaa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (2) (NOS)

終了処理時, 処理キューの登録に失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : XTC がトラブルシュートで使用する情報

**cc....cc** : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理キューの登録を中止して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの設定値を見直して, 再実行してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	システムの状態を確認してください。開始または終了処理中でない場合は, 保守員に連絡してください。

## KFSB58105-E

待機系の起動完了待ちでタイムアウトになりました。

A timeout was detected during the standby system startup. (E+P+L) (2) (NOS)

CL サーバの待機系の起動完了待ちでタイムアウトになりました。タイムアウトになった時点で待機系が一つ以上起動完了していて, かつクラスタ連携関連定義の standby\_start\_error\_switch オペランドに continue が指定されているため, 処理を続行します。

(S)待機系の起動完了待ちを中止して処理を続行します。

(O)待機系が正常に起動できる状態か確認してください。

**[対策]** standby\_start\_watch\_time オペランドの指定値が, 待機系の起動に必要な十分な値であるか見直してください。

## KFSB58106-E

HA モニタ連携における終了処理でエラーが発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb

An error has occurred during termination of HA monitor linkage. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E+P+L) (2) (NOS)

終了処理中に HA モニタ連携の終了処理でエラーが発生しました。

aa....aa : XTC がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されていれば、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。待機系が終了していなければ、待機系に対して eesvstop コマンドを実行してください。

## KFSB58200-E

送信処理で障害が発生しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 処理種別 = cc....cc, 理由コード = dddd, 詳細コード 1 = ee....ee, 詳細コード 2 = ff....ff, 詳細コード 3 = gg....gg

A failure has occurred during transmission. service group name = aa....aa, service name = bb....bb, processing type = cc....cc, reason code = dddd, detail code 1 = ee....ee, detail code 2 = ff....ff, detail code 3 = gg....gg (E+P+L) (2) (NOS)

一方送信メッセージの送信処理で障害が発生しました。

aa....aa : 送信先のサービスグループ名

bb....bb : 送信先のサービス名

cc....cc : 処理種別

ee\_mch\_cmtsend : ee\_mch\_cmtsend 関数による一方送信メッセージの送信

ee\_mch\_cmtsend\_sync : ee\_mch\_cmtsend\_sync 関数による一方送信メッセージの送信

dddd : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ee....ee : XTC がトラブルシュートで使用する情報

ff....ff : XTC がトラブルシュートで使用する情報



gg....gg : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)一方送信メッセージ送信処理を中止し、エラーランザクションを起動します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0002	メッセージ送信障害 (RPC 関連定義の不正)	次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>RPC 関連定義の <code>rpc_udp_packet_size</code> オペランドの指定値が、送信先サービスグループの指定値と一致しているか。</li><li>送信先サービスグループの RPC 関連定義の <code>rpc_udp_departure_limit</code> オペランドの指定値が不足していないか。</li></ul>
0003	メッセージ送信障害 (リソース不足)	送信先サービスグループのメモリ関連定義の <code>udp_rcv_message_buf_cnt</code> オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0004	メッセージ送信障害 (受け付け不可状態)	送信先サービスグループの状態を確認して、再実行してください。
0005	メッセージ送信障害 (その他)	次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>送信先サービスグループの状態を確認してください。</li><li>UDP グループ情報関連定義の <code>eeudpdef</code> 定義コマンド、<code>myudpsnddef</code> 定義コマンド、および <code>myudprcvdef</code> 定義コマンドの指定値を見直してください。</li></ul>
0010	送達確認待ちタイムアウト	次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>高速メッセージ送信関連定義の <code>mch_send_ack_timer</code> オペランドの指定値を見直してください。</li><li>送信先のクラスタ連携関連定義の <code>send_thread_no</code> オペランドの指定値 (送信スレッド数) を見直してください。送信スレッドの用途については、マニュアル「TP1/EE/Extended Transaction Controller 使用の手引」の <code>send_thread_no</code> オペランドの説明を参照してください。</li></ul>
0011	送達確認エラー受信 (CL 同期エラー)	送信先サービスグループの次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>UDP グループ情報関連定義の <code>clgrpdef</code> 定義コマンドの指定値を見直してください。</li><li>クラスタ連携関連定義の <code>mch_cls_send_ack_timer</code> オペランドと <code>mch_cls_send_next_timer</code> オペランドの指定値を見直してください。</li><li>クラスタ連携関連定義の <code>send_thread_no</code> オペランドの指定値 (送信スレッド数) を見直してください。送信スレッドの用途については、マニュアル「TP1/EE/Extended Transaction Controller 使用の手引」の</li></ul>

理由コード	意味	対策
0011	送達確認エラー受信 (CL 同期エラー)	send_thread_no オペランドの説明を参照してください。
0012	送達確認エラー受信 (リソース不足)	送信先サービスグループの次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直してください。</li> <li>高速メッセージ送信関連定義の mch_receive_limit オペランドの指定値を見直してください。</li> </ul>
0014	送達確認エラー受信 (サービス閉塞), またはサービス閉塞 (自プロセスあて)	送信先サービスグループの状態を確認して, 再実行してください。
0016	送達確認エラー受信 (サービスグループ名の不正)	サービス関数で指定するサービスグループ名を見直して, 再実行してください。
0017	送達確認エラー受信 (サービス名の不正)	サービス関数で指定するサービス名を見直して, 再実行してください。
0019	送達確認エラー受信 (メッセージ送信形態の不正, またはオプションの不正)	サービス関数で指定するメッセージ形態とオプションを見直して, 再実行してください。
0020	処理キュー登録失敗	直前に出力されているメッセージを基に, 原因を取り除いてください。
0021	送達確認待ちエラー	保守員に連絡してください。

## KFSB58201-E

処理キューの登録に失敗しました。理由コード = aaaa, サービス名 = bb...bb, 送信コード = cc...cc, 詳細コード = dd...dd

An attempt to register a processing queue has failed. reason code = aaaa, service name = bb...bb, transmission code = cc...cc, detail code = dd...dd (E+P+L) (2) (NOS)

一方送信メッセージの送信処理で処理キュー登録処理に失敗しました。

### aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

### bb...bb : サービス名

メッセージ送信指示要求の場合は, \*を表示します。

### cc...cc : 送信コード

SEND : 送信スレッドへのメッセージ送信指示要求の処理キュー登録に失敗しました。

MYPROC : 自プロセス送信要求の処理キュー登録に失敗しました。

ERRTRNS : ERRTRNS 起動要求の処理キュー登録に失敗しました。

### dd...dd : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)送信コードに従って処理します。

送信コードが SEND の場合

処理キュー登録処理をいったん中止し、別のタイミングで処理キュー登録を行います。

送信コードが MYPROC の場合

処理キュー登録処理を中止し、エラートランザクション (ERRTRNS, または ERRTRNR) を起動します。

送信コードが ERRTRNS の場合

処理キュー登録処理を中止します。トランザクション同期の一方送信メッセージの場合、メッセージを破棄します。トランザクション非同期の一方送信メッセージの場合、別のタイミングで処理キュー登録処理を行います。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	PCE 数が不足しているか、または入力キュー (ITQ) が満杯です。	システムの状態を確認してください。また、メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0002	処理キューを登録できる状態ではありません。	システムの状態を確認してください。開始または終了処理中でない場合は、保守員に連絡してください。
0010	バッファの確保に失敗しました。	メモリ関連定義の udp_send_message_buf_cnt オペランドと udp_recv_message_buf_cnt オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
9000	その他の障害です。	保守員に連絡してください。

## KFSB58203-E

○ TQ閉塞監視を中止しました。サービスグループ名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

OTQ shutdown monitoring has been cancelled. service group name = aa....aa, reason code = bbbb (E+P+L) (2) (NOS)

出力キュー (OTQ) の閉塞監視を中止しました。

aa....aa : サービスグループ名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)出力キューの閉塞監視を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	サービス要求先のサービスグループ名の不正	サービス要求先のサービスグループ名を見直して、出力キューの閉塞解除要求をしてください。

## KFSB58204-E

転送処理で障害が発生しました。ノード識別子 = aaaa, 処理種別 = bb...bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd...dd

A failure has occurred during transfer. node ID = aaaa, processing type = bb...bb, reason code = cccc, detail code = dd...dd (E+P+L) (2) (NOS)

転送処理で障害が発生しました。

**aaaa** : 転送先のノード識別子

障害が発生した転送先のノード識別子が特定できない場合は, \*\*\*\*を表示します。

**bb...bb** : 処理種別

CLSEND : CL 同期要求 (永続または非永続)

CLSEND\_RESOURCE : CL 同期要求 (非同期)

CLSEND\_END : CL 同期済み通知

CLSEND\_ACK : CL 同期要求に対する送達確認

CLSEND\_CANCEL : 待機系への受信メッセージ破棄指示

CLSEND\_MESSAGE : CL 同期要求 (メッセージ転送)

**cccc** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**dd...dd** : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)転送処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	転送元のリソース不足を検知しました。	転送元のメモリ関連定義の udp_send_message_buf_cnt オペランドの指定値を見直してください。
0103	送達確認エラーを受信しました。	待機系の状態を確認してください。
0105	リソース不足の送達確認エラーを受信しました。	CL サーバの待機系のメモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、再実行してください。

理由コード	意味	対策
0201 0202	送信時に障害が発生しました。	CL サーバの実行系または待機系の状態を確認してください。また、次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>UDP グループ情報関連定義の clgrpdef 定義コマンドを見直してください。</li> </ul>
0203 0204	受信時に障害が発生しました。	CL サーバの実行系または待機系の状態を確認してください。また、次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>クラスタ連携関連定義の mch_clsend_ack_timer オペランドと mch_clsend_next_timer オペランドの指定値を見直してください。</li> <li>クラスタ連携関連定義の send_thread_no オペランドの指定値（送信スレッド数）を見直してください。送信スレッドの用途については、マニュアル「TP1/EE/Extended Transaction Controller 使用の手引」の send_thread_no オペランドの説明を参照してください。</li> </ul>
0301	RPC 関連定義不正を検知しました。	次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>RPC 関連定義の rpc_udp_packet_size オペランドの指定値が、クラスタを構成する全サーバで一致しているか。</li> <li>転送先ノードの RPC 関連定義の rpc_udp_departure_limit オペランドの指定値が不足していないか。</li> </ul>
0302	リソース不足を検知しました。	転送先ノードのメモリ関連定義の udp_rcv_message_buf_cnt オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0303		UDP グループ情報関連定義の myudpsnddef 定義コマンドの -b オプションの指定値を見直して、再実行してください。
0304	送信時に待機系の障害を検知しました。	CL サーバの待機系の状態を確認してください。また、次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>UDP グループ情報関連定義の clgrpdef 定義コマンドを見直してください。</li> </ul>

## KFSB58301-E

サービスの受信処理で障害が発生しました。ノード識別子 = aaaa, I F A 番号 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd

An error occurred in the receive processing of services. node ID = aaaa, IFA number = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd (E+P+L) (2) (NOS)

トランザクションと同期した一方送信メッセージの受信処理で障害が発生しました。

**aaaa** : 一方送信メッセージの送信元のノード識別子

**bb....bb** : 一方送信メッセージの IFA 番号

#### cccc：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

#### dd....dd：XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)受信メッセージを破棄します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0101	CL サーバ以外では、マルチキャスト指定の一方送信メッセージは処理できません。	サービス要求元のサービス関数で指定するメッセージ形態とオプションを見直して、再実行してください。
0102	CL サーバでは、ユニキャスト指定の一方送信メッセージは処理できません。	
0103	サービスグループ名が不正なメッセージを受信しました。	サービス要求元のサービス関数で指定するサービスグループ名を見直して、再実行してください。
0104	一方送信メッセージと待機系からの送達確認の待ち合わせでタイムアウトを検知しました。	サービス要求元、および CL サーバの待機系の状態を確認して再実行してください。このエラーが必ず発生する場合は、サービス要求元の UDP グループ情報関連定義の <code>eeudpdef</code> 定義コマンドおよび <code>myudpsnddef</code> 定義コマンドについて、次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <code>eeudpdef</code> 定義コマンドの <code>-c</code> オプションに MC を指定しているか。</li><li>• サービス要求元が自ホストの場合、<code>myudpsnddef</code> 定義コマンドの <code>-k</code> オプションを指定しているか。</li></ul> このエラーが多発する場合は、クラスタ連携関連定義の <code>mch_clsnd_ack_timer</code> オペランド、 <code>mch_clsnd_retry_count</code> オペランド、および <code>mch_clsnd_retry_interval</code> オペランドの指定値を見直してください。
0105	CL サーバの実行系で PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の <code>pce_no</code> オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0106	CL サーバの実行系で一方送信メッセージの送信元数が定義を超過しました。	高速メッセージ送信関連定義の <code>mch_receive_limit</code> オペランドの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。
0107	サービス名が不正なメッセージを受信しました。	サービス要求元のサービス関数で指定するサービス名を見直して、再実行してください。
0108	入力キュー (ITQ) が満杯です。	サービスの閉塞状態および滞留メッセージ数を確認してください。必要に応じて閉塞解除または滞留メッセージのスキップを実行してください。

理由コード	意味	対策
0109	CL サーバの待機系で PCE 数が不足しました。	システムの状態を確認してください。また、メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0110	CL サーバの待機系で一方送信メッセージの送信元数が定義を超過しました。	高速メッセージ送信関連定義の mch_receive_limit オペランドの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB58302-E

サービスの受信処理で障害が発生しました。ノード識別子 = aaaa, OTQ 識別番号 = bb...bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd...dd

An error occurred in the receive processing of services. node ID = aaaa, OTQ ID number = bb...bb, reason code = cccc, detail code = dd...dd (E+P+L) (2) (NOS)

トランザクションと非同期の一方送信メッセージの受信処理で障害が発生しました。

**aaaa** : 一方送信メッセージの送信元のノード識別子

**bb...bb** : 一方送信メッセージの出力キュー (OTQ) 識別番号

**cccc** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**dd...dd** : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S) 受信メッセージを破棄します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0101	CL サーバ以外では、マルチキャスト指定の一方送信メッセージは処理できません。	サービス要求元のサービス関数で指定するメッセージ形態とオプションを見直して、再実行してください。
0102	CL サーバでは、ユニキャスト指定の一方送信メッセージは処理できません。	
0103	サービスグループ名が不正なメッセージを受信しました。	サービス要求元のサービス関数で指定するサービスグループ名を見直して、再実行してください。
0104	一方送信メッセージと待機系からの送達確認の待ち合わせでタイムアウトを検知しました。	サービス要求元、および CL サーバの待機系の状態を確認して再実行してください。このエラーが必ず発生する場合は、サービス要求元の UDP グループ情報関連定義の eeudef 定義コマンドおよび myudpsnddef 定義コマンドについて、次の事項を確認してください。



理由コード	意味	対策
0104	一方送信メッセージと待機系からの送達確認の待ち合わせでタイムアウトを検知しました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• eeudef 定義コマンドの-c オプションに MC を指定しているか。</li> <li>• サービス要求元が自ホストの場合、myudpsndef 定義コマンドの-k オプションを指定しているか。</li> </ul> <p>このエラーが多発する場合は、クラスタ連携関連定義の mch_clsnd_ack_timer オペランド、mch_clsnd_retry_count オペランド、および mch_clsnd_retry_interval オペランドの指定値を見直してください。</p>
0105	CL サーバの実行系で PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0106	CL サーバの実行系で一方送信メッセージの送信元数が定義を超過しました。	高速メッセージ送信関連定義の mch_receive_limit オペランドの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。
0107	サービス名が不正なメッセージを受信しました。	サービス要求元のサービス関数で指定するサービス名を見直して、再実行してください。
0108	入力キュー (ITQ) が満杯です。	サービスの閉塞状態および滞留メッセージ数を確認してください。必要に応じて閉塞解除または滞留メッセージのスキップを実行してください。
0109	CL サーバの待機系で PCE 数が不足しました。	システムの状態を確認してください。また、メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、再実行してください。
0110	CL サーバの待機系で一方送信メッセージの送信元数が定義を超過しました。	高速メッセージ送信関連定義の mch_receive_limit オペランドの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB58303-E

メッセージの送信処理で障害が発生しました。ノード識別子 = aaaa, 処理種別 = bb...bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd...dd

An error occurred during transmission processing. node ID = aaaa, processing type = bb...bb, reason code = cccc, detail code = dd...dd (E+P+L) (2) (NOS)

メッセージの送信処理で障害が発生しました。

**aaaa** : メッセージの送信先のノード識別子

CL サーバの待機系から実行系への送信時、実行系の系切り替えによって実行系のノード識別子を特定できない場合は、\*\*\*\*を表示します。

**bb...bb** : 処理種別

CMTSEND\_ACK : CL サーバの実行系から一方送信メッセージの送信元への送達確認送信

CMTSEND\_CL\_ACK : CL サーバの待機系から実行系への一方送信メッセージの送達確認送信



CL\_ACK：CL サーバの待機系から実行系への CL 同期要求メッセージの送達確認送信

ACCEPT\_REPLY：CL サーバの実行系から受付確認要求メッセージの送信元への応答送信

cccc：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd...dd：XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)メッセージの送信処理を中止して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	RPC 関連定義の不正を検知しました。	次の事項を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>RPC 関連定義の rpc_udp_packet_size オペランドの指定値が、送信先のサービスグループの指定値と一致しているか。</li><li>送信先サービスグループの RPC 関連定義の rpc_udp_departure_limit オペランドの指定値が不足していないか。</li></ul>
0002	相手システムがメッセージを受け付けられる状態ではありません。	相手システムの状態を確認してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	

## KFSB58401-E

キュー・ログ回復処理で障害が発生しました。理由コード = aaaa, 詳細コード = bb...bb

A failure has occurred during queue and log recovery. reason code = aaaa, detail code = bb...bb (E+P+L) (2) (NOS)

キュー・ログ回復処理で障害が発生しました。

aaaa：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb...bb：XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)以下の一覧を参照してください。

理由コード	システムの処理
1001	処理を続行します。
1002	
1003	

理由コード	システムの処理
1004 2001 2002	CL サーバの待機系を切り離して処理を続行します。
4001 4002 5001~5007	CL サーバの実行系の場合、キュー・ログ回復を中断して実行系孤立状態になります。待機系の場合、処理続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1001~1003	CL サーバの実行系への送信エラー	このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていなければ、相手システムの状態を確認してください。相手システムが正常に稼働していても、このエラーが発生した場合は、保守員に連絡してください。
1004	CL サーバの待機系への送信エラー	
2001	CL サーバの待機系から受信エラー	
2002	CL サーバの待機系のキュー・ログ回復処理エラー	
4001 4002	サーバ静止化エラー	直前に出力したメッセージを参照してください。
5001~5006	仕掛かりリソース情報回復処理エラー	系間でリソース情報の状態が一致していません。それぞれの系の状態を確認し、キューダンプ機能で回復してください。
5007	仕掛かりリソース情報回復処理エラー	

# 5

## KFSB60000～KFSB69999

この章では、致命的なエラーメッセージ（KFSB60000～KFSB69999）とその意味、および対策について説明します。

## 5.1 KFSB60000~KFSB69999

### KFSB60300-E

領域確保に失敗しました。対象領域コード = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb, 詳細コード = cc....cc  
An attempt to allocate area has failed. target area code = aa....aa, request size = bb....bb,  
detail code = cc....cc (E) (1) (NOS)

通信機能の初期化処理で領域確保に失敗しました。

aa....aa : 対象領域コード

CON\_CLS : コネクション切断テーブル  
CON\_M\_CLS : コネクション切断管理テーブル  
DESAREA : ファイルディスクリプタ領域  
FGT : フラグメント管理テーブル  
HST : ホスト管理テーブル  
LUT : コネクション管理テーブル  
OJEDIT : OJ 編集領域  
RPC\_M\_STIME : 起動時刻管理テーブル  
RPC\_STIME : 起動時刻テーブル  
RPCAHMT : 非同期ハンドラ管理テーブル  
RPCAHT : 非同期ハンドラテーブル  
RPCCML : 起動通知送信先リスト  
RPCCOSMI : Cosminexus 連携用テーブル  
RPCDES : ファイルディスクリプタ管理用テーブル  
RPCDOBF : ダミー用 OBF テーブル  
RPCEHMT : 外部要求ハンドラ管理テーブル  
RPCEHT : 外部要求ハンドラテーブル  
RPCFAT : 空き管理テーブル  
RPCFAT\_T : TCP/IP 共有送信用コネクション用の空き管理テーブル  
RPCHRT : 操作依頼テーブル  
RPCHRT\_D : DB キュー機能用操作依頼テーブル  
RPCHSTH : ホスト管理テーブルハッシュテーブル  
RPCHSTH\_T : TCP/IP 共有送信用コネクション用のホスト管理テーブルハッシュテーブル  
RPCHSTHM : HSTH 管理テーブル  
RPCIFA : RPC インタフェーステーブル  
RPCNAMGC : ネームサービスグローバルキャッシュ  
RPCNAMLC : ネームサービスローカルキャッシュ

RPCNMT：ネームサービス管理テーブル  
RPCNSGH：ネームサービス用サービスグループハッシュ  
RPCNSL：ネームサーバリスト  
RPCNTIBUF：ネームサービス用スレッド間インタフェーステーブル  
RPCPSIB：ネームサービス用ポインタ SIB  
RPCPSIB2：RPC 用ポインタ SIB  
RPCRLI：rap 監視テーブル  
RPCRPMT：rap 管理テーブル  
RPCRPMTC：rap クライアント用 rap 管理テーブル  
RPCRPT：rap テーブル  
RPCRPTC：rap クライアント用 rap テーブル  
RPCRRMT：RPC 応答待ち管理テーブル  
RPCRRT：RPC 応答待ちテーブル  
RPCRSH：受信バッファ選択用ハンドラテーブル  
RPCRSHM：受信バッファ選択用ハンドラ管理テーブル  
RPCRSMT：応答抑止管理テーブル  
RPCRST：応答抑止テーブル  
RPCSAT：RPC システム管理テーブル  
RPCSCTLINF：一時クローズ情報テーブル  
RPCSCTLSRCH：LUT 検索用テーブル  
RPCSHMT：システム用サービスハンドラ管理テーブル  
RPCSHT：システム用サービスハンドラテーブル  
RPCTRMT：受信メッセージ管理テーブル  
RPCTSCM：トランザクション同期応答テーブル  
RPCU\_ACKM：UDP 用 ACK 管理テーブル  
RPCU\_ACKN：UDP 用 ACK ノード情報テーブル  
RPCU\_ADRG：UDP 用あて先 UDP グループテーブル  
RPCU\_DUMYBUF：UDP 用ダミーバッファテーブル  
RPCU\_MCINFO：UDP 用マルチキャスト情報テーブル  
RPCU\_NODEIF：UDP 用クラスタ内ノード情報テーブル  
RPCU\_PORT：UDP 用ポート番号重複チェックテーブル  
RPCU\_RCVG：UDP 用受信 UDP グループテーブル  
RPCU\_RCVMGR：UDP 用受信管理テーブル  
RPCU\_RCVPKT：UDP 用受信パケット管理テーブル  
RPCU\_RCVPKT\_H：UDP 用パケット管理テーブルハッシュテーブル  
RPCU\_SNDG：UDP 用送信 UDP グループテーブル

RPCU\_SNDPKT : UDP 用送信パケット管理テーブル  
RPCU\_SOCKET : UDP 用ソケットテーブル  
RPCU\_TMINF : UDP 用タイマ情報テーブル  
RPCU\_TMINFH : UDP 用タイマ情報テーブルハッシュテーブル  
SVG : サービスグループ管理テーブル  
SVGH : サービスグループ管理ハッシュテーブル  
SVGH\_D : DB キュー機能用サービスグループ管理ハッシュテーブル  
ULT : UAP ライブラリ管理テーブル

bb....bb : 領域確保要求サイズ (単位: バイト)

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)RPC 初期化処理を中止し, TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの指定値を見直して, TP1/EE を再起動してください。

## KFSB60301-E

テーブルの作成に失敗しました。理由コード = aaaa, 対象領域コード = bb....bb  
An attempt to create a table has failed. reason code = aaaa, target area code = bb....bb  
(E) (1) (NOS)

通信機能の初期化処理でテーブルの作成に失敗しました。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : 対象領域コード

FGT : フラグメント管理テーブル  
HST : ホスト管理テーブル  
LUT : コネクション管理テーブル  
RPCCML : 起動通知送信先リスト  
RPCCOSMI : Cosminexus 連携用テーブル  
RPCHRT\_D : DB キュー機能用操作依頼テーブル  
RPCHSTH : HST ハッシュテーブル  
RPCHSTH\_T : TCP/IP 共有送信用コネクション用のホスト管理テーブルハッシュテーブル  
RPCNSGH : ネームサービス用サービスグループハッシュ  
RPCNSL : ネームサーバリスト

RPCRAPCIP : rap クライアント用 IP アドレステーブル  
 RPCRLI : rap 監視テーブル  
 RPCRPMTC : rap クライアント用 rap 管理テーブル  
 RPCRPT : rap テーブル  
 RPCRPTC : rap クライアント用 rap テーブル  
 RPCTRMT : スレッド間メッセージ受信管理テーブル  
 RPCU\_ACKM : UDP 用 ACK 管理テーブル  
 RPCU\_ADRG : UDP 用あて先 UDP グループテーブル  
 RPCU\_RCVG : UDP 用受信 UDP グループテーブル  
 RPCU\_SNDG : UDP 用送信 UDP グループテーブル  
 SVG : サービスグループ管理テーブル

(S)通信機能の初期化処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	RPC 関連定義の指定値を超えるサイズのテーブルを作成しようとしてしました。	<p>次のどれかの対策をしてください。</p> <p>対象領域コードが SVG の場合</p> <p>RPC 関連定義の service_group_no オペランド、またはサービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンドの-g オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。</p> <p>対象領域コードが HST の場合</p> <p>RPC 関連定義の hostname_no オペランド、またはサービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドおよび eesvgdef 定義コマンドの-h オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。</p> <p>対象領域コードが LUT の場合</p> <p>RPC 関連定義の socket_no オペランド、またはサービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドおよび eesvgdef 定義コマンドの-s オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。</p> <p>対象領域コードが FGT の場合</p> <p>RPC 関連定義の fragment_buf_no オペランド、またはサービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの-f オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。</p> <p>次のオペランドを省略してテーブル数を自動算出している場合は、各オペランドの最大値を超過しないよう eesvgdef および mysvgdef オペランドを見直し、TP1/EE を再起動してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• service_group_no</li> <li>• hostname_no</li> </ul>

理由コード	意味	対策
0001	RPC 関連定義の指定値を超えるサイズのテーブルを作成しようとした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• socket_no</li> <li>• fragment_buf_no</li> </ul>
0002	プロセス関連定義の service_group オペラントとサービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの-g オプションで指定されたサービスグループ名が不一致です。	サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの-g オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0003	ホスト名が不正です。	<p>対象領域コードに従って、次のオペラントで指定しているホスト名が、/etc/hosts または DNS に登録されているか確認し、TP1/EE を再起動してください。</p> <p>対象領域コードが HST の場合  サービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンド、mysvgdef 定義コマンド、または myreplydef 定義コマンド</p> <p>対象領域コードが RPCCML の場合  RPC 関連定義の rap_client_manager_node オペラント</p> <p>対象領域コードが RPCRLI の場合  RPC 関連定義の rap_listen_inf オペラント</p> <p>対象領域コードが RPCU_ADRG の場合  UDP グループ情報関連定義の eeudpdef 定義コマンド</p> <p>対象領域コードが RPCU_SNDG の場合  UDP グループ情報関連定義の myudpsnddef 定義コマンド</p> <p>対象領域コードが RPCU_RCVG の場合  UDP グループ情報関連定義の myudprcvdef 定義コマンド、または clgrpdef 定義コマンド</p> <p>対象領域コードが RPCRAPCIP の場合  RPC 関連定義の rap_client_hostname オペラント</p>
0004	プロセス関連定義の service_group オペラントとサービスグループ情報関連定義の myreplydef 定義コマンドの-g オプションで指定されたサービスグループ名が不一致です。	サービスグループ情報関連定義の myreplydef 定義コマンドの-g オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0005	リソースが不足しています。	直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージを参照して対策してください。直前にメッセージが出力されていない場合は、メモリ関連定義の max_mem_size オペラントの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0006	UDP グループ情報関連定義の eeudpdef 定義コマンドの-p オプションで指定したポート番号が重複しています。	UDP グループ情報関連定義の eeudpdef 定義コマンドの-p オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0007	UDP グループ情報関連定義の myudpsnddef 定義コマンドの-g オプ	UDP グループ情報関連定義の myudpsnddef 定義コマンドの-g オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。



理由コード	意味	対策
0007	ションで指定した送信 UDP グループ名が重複しています。	UDP グループ情報関連定義の myudpsnddef 定義コマンドの-g オプションの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。
0008	UDP グループ情報関連定義の myudprcvdef 定義コマンドの-g オプションで指定した受信 UDP グループ名が重複しているか、CL を指定しています。	UDP グループ情報関連定義の myudprcvdef 定義コマンドの-g オプションの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。
0009	UDP グループ情報関連定義の myudprcvdef 定義コマンド、または clgrpdef 定義コマンドの-a オプションで指定したホスト名が重複しています。	UDP グループ情報関連定義の myudprcvdef 定義コマンド、または clgrpdef 定義コマンドの-a オプションの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。
0010	UDP グループ情報関連定義の clgrpdef 定義コマンドの-n オプションで指定したノード識別子が重複しています。	UDP グループ情報関連定義の clgrpdef 定義コマンドの-n オプションの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。
0011	UDP グループ情報関連定義の eeudpdef 定義コマンドの-g オプションで指定されたあて先 UDP グループ名が不正です。	UDP グループ情報関連定義の eeudpdef 定義コマンドの-g オプションには CL 以外を指定して、TP1/EE を再起動してください。
0012	サービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンドの-u オプションで指定されたあて先 UDP グループ名が不正です。	サービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンドの-u オプションには CL 以外を指定して、TP1/EE を再起動してください。
9000	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB60302-E

インタフェーステーブルは壊れています。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb  
The interface table is corrupted. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

該当するインタフェーステーブルは壊れています。

**aa....aa** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)RPC 初期化処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB60303-E

UAP 共用ライブラリのオープンに失敗しました。理由コード = aaaa, UAP 共用ライブラリ名 = bb....bb

An attempt to open a UAP common library has failed. reason code = aaaa, UAP common library name = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

UAP 共用ライブラリをオープンしようとしたのですが失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : UAP 共用ライブラリ名

(S)UAP 共用ライブラリのオープン処理を中止し, TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0021	ユーザサービス関連定義の module オペランドが指定されていません。	ユーザサービス関連定義の module オペランドを見直して, TP1/EE を再起動してください。
0022	UAP 共用ライブラリのオープンに失敗しました。	UAP 共用ライブラリファイルのアクセス権限を確認してください。
0023	パス名が指定値を超えています。	パス名を確認してください。
0024	メモリが不足しています。	以前に出力されたメッセージに従って障害を取り除き, TP1/EE を再起動してください。
0031	ファイルのヘッダが正しくありません。	UAP 共用ライブラリファイルの状態を確認してください。
0032	シンボリックの数が多過ぎます。	
0033	ローディング時, またはシンボル解決時に障害が発生しました。	
0034	すでにほかのプロセスがファイルをオープンしています。	
0035	パス・プレフィクスが存在しません。	
0036	パス・プレフィクスの構成要素がディレクトリではありません。	
0037	対象ディレクトリがすでにアンマウントされたファイルシステムの領域に割り当てられています。	
8000	システムコールの呼び出しに失敗しました。	このメッセージの直前に出力された <a href="#">KFSB40107-E</a> メッセージを参照して原因を取り除き, 再実行してください。解決しない場合は, 保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
9000	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB60304-E

エントリポインタ名は見つかりませんでした。サービス名 = aa....aa, エントリポインタ名 = bb....bb  
 The name of the entry pointer was not found. service name = aa....aa, entry pointer name = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

ユーザサービス関連定義で設定されたエントリポインタが UAP 共用ライブラリ内で見つかりませんでした。

**aa....aa** : 該当するサービス名

**bb....bb** : 該当するエントリポインタ名

(S)UAP 共用ライブラリのローディング処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/EE のユーザサービス関連定義、MCP 構成定義などを見直してください。

サービス名	見直す定義内容
SYSTEM_MI	TP1/EE のユーザサービス関連定義の system_start_mi オペランド
SYSTEM_ME	TP1/EE のユーザサービス関連定義の system_end_me オペランド
SYSTEM_UI	TP1/EE のユーザサービス関連定義の system_start_ui オペランド
SYSTEM_JI	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の ji_tm オペランド
SYSTEM_UT	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の user_init_ut オペランド
SYSTEM_BS	TP1/FSP のオフラインバッチ関連定義の user_bpp_bs オペランド
ERRTRN1	TP1/EE のユーザサービス関連定義の errtrn1 オペランド
ERRTRN2	TP1/EE のユーザサービス関連定義の errtrn2 オペランド
ERRTRN3	TP1/EE のユーザサービス関連定義の errtrn3 オペランド
ERRTRN4	TP1/EE のユーザサービス関連定義の errtrn4 オペランド
ERRTRNR	TP1/EE のユーザサービス関連定義の errtrnr オペランド
ERRTRNS	TP1/EE のユーザサービス関連定義の errtrns オペランド
OWNSTA	TP1/EE のユーザサービス関連定義の uoc_func オペランドの-s オプション
OWNTRN	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の uoc_func 定義コマンドの-p オプション
OWNPTM	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の uoc_func 定義コマンドの-t オプション
OWNOJED	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の uoc_func 定義コマンドの-o オプション
OWNOBST	TP1/FSP の OBM 関連定義の bcmuocfunc 定義コマンドの-s オプション

サービス名	見直す定義内容
OWNOBED	TP1/FSP の OBM 関連定義の bcmuocfunc 定義コマンドの-e オプション
OWNOBSV	TP1/FSP の OBM 関連定義の bcsuocfunc 定義コマンドの-s オプション
OWNOBSK	TP1/FSP の OBM 関連定義の bcsuocfunc 定義コマンドの-d オプション
OWNOBLT	TP1/EE サービス定義 (OBM 関連定義) bcmuocfunc の-p または bcsuocfunc の-p
OWNLSG	MCP 構成定義のアプリケーション定義 (eemcpfunc 定義コマンド) の-u オプションの ownlsg オペランド
OWNLMC	MCP 構成定義のアプリケーション定義 (eemcpfunc 定義コマンド) の-u オプションの ownlmc オペランド
OWNLRA	MCP 構成定義のアプリケーション定義 (eemcpfunc 定義コマンド) の-u オプションの ownlra オペランド
OWNLCN	MCP 構成定義のアプリケーション定義 (eemcpfunc 定義コマンド) の-u オプションの ownlcn オペランド
MCP_論理端末名_ERRTRN1	該当の論理端末に対応した, MCP 構成定義の論理端末アプリケーション定義 (eemcplefunc 定義コマンド) の-e オプションの errtrn1 オペランド
MCP_論理端末名_ERRTRN2	該当の論理端末に対応した, MCP 構成定義の論理端末アプリケーション定義 (eemcplefunc 定義コマンド) の-e オプションの errtrn2 オペランド
MCP_論理端末名_ERRTRN3	該当の論理端末に対応した, MCP 構成定義の論理端末アプリケーション定義 (eemcplefunc 定義コマンド) の-e オプションの errtrn3 オペランド
MCP_論理端末名_ERRTRNR	該当の論理端末に対応した, MCP 構成定義の論理端末アプリケーション定義 (eemcplefunc 定義コマンド) の-e オプションの errtrnr オペランド
MCP_論理端末名_ERRTRNS	該当の論理端末に対応した, MCP 構成定義の論理端末アプリケーション定義 (eemcplefunc 定義コマンド) の-e オプションの errtrns オペランド
MCP_論理端末名_OWNRN	該当の論理端末に対応した, MCP 構成定義の論理端末アプリケーション定義 (eemcplefunc 定義コマンド) の-u オプションの owntrn オペランド
MCP_論理端末名_OWNOJED	該当の論理端末に対応した, MCP 構成定義の論理端末アプリケーション定義 (eemcplefunc 定義コマンド) の-u オプションの ownojed オペランド
MCP_論理端末名_OWNLSG	該当の論理端末に対応した, MCP 構成定義の論理端末アプリケーション定義 (eemcplefunc 定義コマンド) の-u オプションの ownlsg オペランド
MCP_論理端末名_OWNLMC	該当の論理端末に対応した, MCP 構成定義の論理端末アプリケーション定義 (eemcplefunc 定義コマンド) の-u オプションの ownlmc オペランド
MCP_論理端末名_OWNLRA	該当の論理端末に対応した, MCP 構成定義の論理端末アプリケーション定義 (eemcplefunc 定義コマンド) の-u オプションの ownlra オペランド
MCP_論理端末名_OWNLGN	該当の論理端末に対応した, MCP 構成定義の論理端末アプリケーション定義 (eemcplefunc 定義コマンド) の-u オプションの ownlcn オペランド
ee_zrc_uap_entry_pname	MCP 構成定義の全銀 RC システム定義 (eemcpzrc 定義コマンド) の-u オプション
RKSSTE	TP1/EE サービス定義 (データ連携支援関連定義) の trn_rks_startend_uoc

サービス名	見直す定義内容
RKSENT	TP1/EE サービス定義（データ連携支援関連定義）の trn_rks_entry_uoc
上記以外	TP1/EE のユーザサービス関連定義の service オペランド、dbq_service オペランド、dbq_obs_service オペランド、または obm_service オペランド TP1/EE サービス定義（データ連携支援関連定義）の trnrks_service

## KFSB60305-E

ホスト管理テーブルの排他初期化処理に失敗しました。詳細コード 1 = aaaa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc

An attempt to initialize the lock on the host management table has failed. detail code 1 = aaaa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc (E) (1) (NOS)

ホスト管理テーブルの排他初期化処理で障害が発生しました。

aaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)RPC 初期化処理を中止し, TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB60306-E

U A P 共用ライブラリの定義数が変更されました。

The number of definitions of UAP common libraries has been changed. (E+P+L) (1) (NOS)

ユーザサービス関連定義の uap\_exchange\_use オペランドで Y を指定している場合の再開始で, ユーザサービス関連定義の module オペランドの定義数が変更されました。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 ユーザサービス関連定義の module オペランドを見直して TP1/EE を再起動してください。

## KFSB60310-E

受信スレッドの初期化処理中に障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaa, 詳細コード 2 = bb....bb

An error occurred during initialization processing of a received thread. detail code 1 = aaaa, detail code 2 = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

初期化処理中に回復できない障害が発生したため、プロセスを終了します。

**aaaa** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)初期化処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

### KFSB60311-E

受信スレッドのサービス処理中に障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaa, 詳細コード 2 = bb....bb  
An error occurred during service processing of a received thread. detail code 1 = aaaa, detail code 2 = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

サービス処理中に回復できない障害が発生したため、プロセスを終了します。

**aaaa** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)サービス処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

### KFSB60320-E

サーバコネクションの初期化に失敗しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd  
An attempt to initialize a server connection has failed. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd (E+P+L) (1) (NOS)

相手システム (クライアント) からのコネクションを受け付けるソケットの初期化処理に失敗しました。

**aa....aa** : 自システムの IP アドレス

0.0.0.0 を表示します。

**bb....bb** : 自システムのポート番号

cccc：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ソケット，またはパイプの生成に失敗しました。	プロセス関連定義の max_descriptors オペランドの指定値を見直してください。指定値に問題がない場合は，保守員に連絡してください。
0002	自システムの IP アドレスとポート番号の，ソケットへの割り当てに失敗しました。	RPC 要求メッセージ受信用コネクションの場合は，サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの-h オプションの指定値を見直してください。 RPC 応答メッセージ送信用コネクションの場合は，サービスグループ情報関連定義の myreplydef 定義コマンドの-h オプションの指定値を見直してください。 rap サーバの rap 用コネクションの場合は，RPC 関連定義の rap_listen_port オペランドの指定値を見直してください。 rap クライアントの rap 用コネクションの場合は，RPC 関連定義の rap_client_manager_port オペランドの指定値を見直してください。 DB キューのイベント通知メッセージ受信用コネクションの場合は，サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの-h オプションの指定値を見直してください。 指定値に問題がない場合は，保守員に連絡してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB60321-E

RPCサービス要求を行うコネクション取得時、排他解放に失敗しました。詳細コード1 = aaaa，詳細コード2 = bb....bb

An attempt to release a lock has failed during the acquisition of a connection for executing RPC service requests. detail code 1 = aaaa, detail code 2 = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

相手システム（サーバ）にRPCサービス要求を行うためのコネクション取得処理時に，排他解放に失敗しました。

aaaa：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制終了します。



(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB60322-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc  
An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code  
3 = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

関数発行時に内部矛盾が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB60323-E

ソケットの初期化に失敗しました。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, 理由コード =  
cccc, 詳細コード = dd....dd  
Failed to initialize the socket. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, reason code =  
cccc, detail code = dd....dd (E+P+L) (1) (NOS)

myudpsnddef 定義コマンド, myudprcvdef 定義コマンド, または clgrpdef 定義コマンドで指定したソ  
ケットの初期化処理が失敗しました。

aa....aa : 自システムの IP アドレス

myudprcvdef 定義コマンドおよび clgrpdef 定義コマンドのソケットは, 0.0.0.0 と表示されます。ま  
た, myudpsnddef 定義コマンドのソケットでもタイミングによっては, 0.0.0.0 と表示されることが  
あります。

bb....bb : 自ポート番号

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。



(O)エラー要因を取り除いて、TP1/EE プロセスを再起動してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001 0002	ソケットの作成に失敗しました。	プロセス関連定義の max_descriptors オペランドの設定値を見直してください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0021	ソケット受信バッファの設定に失敗しました。	myudprcvdef 定義コマンドおよび clgrpdef 定義コマンドの-B オペランドの設定値を見直してください。システムで設定できるソケット受信バッファの最大値を超過している場合は、ソケット受信バッファ最大値を拡張するか、または-B オペランドの設定値を小さくしてください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。なお、システムのソケット受信バッファの最大値については、OSのマニュアルを参照して設定方法および参照方法を確認してください。
0022	ソケット送信バッファの設定に失敗しました。	myudpsnddef 定義コマンドの-b オペランドの設定値を見直してください。システムで設定できるソケット送信バッファの最大値を超過している場合は、ソケット送信バッファ最大値を拡張するか、または-b オペランドの設定値を小さくしてください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。なお、システムのソケット送信バッファの最大値については、OSのマニュアルを参照して設定方法および参照方法を確認してください。
0023	マルチキャストグループの参加に失敗しました。	次に示す要因が考えられます。問題がない場合は、保守員に連絡してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• myudprcvdef 定義コマンドの-a オプション、または clgrpdef 定義コマンドの-a, -m オプションのホストグループのホスト名として、ホストグループ以外のホスト名を指定している。</li> <li>• myudprcvdef 定義コマンドの-a オプション、または clgrpdef 定義コマンドの-a, -m オプションの LAN アダプタのホスト名として、LAN アダプタ以外のホスト名、または無効なホスト名を指定している。</li> <li>• myudprcvdef 定義コマンドの-a オプション、または clgrpdef 定義コマンドの-a, -m オプションで指定したホストグループのホスト数の合計が、一つのソケットで参加できるマルチキャストグループのシステム上限を超過している。なお、マルチキャストグループのシステム上限値の参照方法は、OSのマニュアルを参照してください。</li> </ul>
0030	自 IP アドレスと自ポート番号のソケットへの割り当てに失敗しました。	次に示す要因が考えられます。問題がない場合は、保守員に連絡してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• myudpsnddef 定義コマンド、myudprcvdef 定義コマンド、clgrpdef 定義コマンドの-p オプションで指定したポート番号が、すでに使用されている。</li> </ul>

理由コード	意味	対策
0030	自 IP アドレスと自ポート番号のソケットへの割り当てに失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>myudpsnddef 定義コマンド, myudprcvdef 定義コマンド, clgrpdef 定義コマンドの-a オプションに、無効な LAN アダプタのホスト名を指定している。</li> </ul>
上記以外	内部矛盾が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB60330-E

RPCの初期化処理に失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細コード = bb...bb

Failed to format the RPC. reason code = aaaa, detail code = bb...bb (E+P+L) (1) (NOS)

RPCの初期化処理で障害が発生しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb...bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	サービスの起動に失敗しました。	TP1/Server Base のユーザサービス定義の service オペランドの指定値を見直してください。TP1/EE で指定しているサービスは service オペランドの先頭に指定する必要があります。また、指定したサービスの状態を確認してください。

## KFSB60350-E

RPCサービス処理中に致命的な障害が発生しました。サービス名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc

A fatal error occurred during RPC service processing. service name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

RPC サービス処理中に致命的な障害が発生しました。

**aa....aa** : 障害が発生したサービス名

システム用トランザクション処理で障害が発生した場合は、\*を表示します。

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	応答データ格納領域を破壊しています。	UAP を見直して、再実行してください。
1001	ステータスファイルのアクセスに失敗しました。	このメッセージの直前に出力されたメッセージを基に障害の原因を取り除いてください。

## KFSB60351-E

定義解析処理中にエラーが発生しました。理由コード = aaaa, オペランド名 = bb...bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred during definition analysis processing. reason code = aaaa, operand name = bb...bb, detail code = cc....cc (E) (1) (NOS)

RPC 関連定義の定義解析時にエラーが発生しました。

aaaa：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb...bb：オペランド名

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	RPC 関連定義の loadcheck_type オペランドに rate を指定していますが、levelup_queue_rate オペランドを指定していません。	levelup_queue_rate オペランドを指定してください。
0002	RPC 関連定義の loadcheck_type オペランドに count を指定していますが、levelup_queue_count オペランドを指定していません。	levelup_queue_count オペランドを指定してください。
0011	RPC 関連定義の levelup_queue_rate オペランド、および leveldown_queue_rate オペランドに指定した値の大小関係が不正です。	levelup_queue_rate オペランド、および leveldown_queue_rate オペランドの指定値を見直してください。

理由コード	意味	対策
0012	RPC 関連定義の levelup_queue_count オペランド、および leveldown_queue_count オペランドに指定した値の大小関係が不正です。	levelup_queue_count オペランド、および leveldown_queue_count オペランドの指定値を見直してください。また、メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値より大きな値を levelup_queue_count オペランド、および leveldown_queue_count オペランドに指定していないかどうか確認してください。
0030	RPC 関連定義の rap_notify オペランドに Y を指定していますが、rap_client_manager_node オペランドが指定されていません。	rap_notify オペランドに Y を指定した場合、必ず rap_client_manager_node オペランドも指定してください。
0031	RPC 関連定義の rap_client_manager_port オペランドに受信用ポート番号を指定していますが、rap_listen_inf オペランドが指定されていません。	rap_client_manager_port オペランドに受信用ポート番号を指定した場合、必ず rap_listen_inf オペランドも指定してください。
0040	サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの -h オプション（ポート番号）が複数指定されていますが、二つ目以降のポート番号にも 0 が指定されています。	mysvgdef 定義コマンドで、-h オプション（ポート番号）に 0 を指定する場合は、先頭のポート番号だけに指定してください。
0041	サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの -t オプションに DBQ を指定していますが、-h オプション（ポート番号）に 0 が指定されています。	mysvgdef 定義コマンドの -t オプションに DBQ を指定した場合、-h オプション（ポート番号）に 0 を指定しないでください。
0050	myudpsnddef 定義コマンド、myudprcvdef 定義コマンド、および clgrpdef 定義コマンドの -p オプションで、同一のポート番号が指定されています。	myudpsnddef 定義コマンド、myudprcvdef 定義コマンド、および clgrpdef 定義コマンドの -p オプションには、すべて異なるポート番号を指定してください。
0051	eeudpdef 定義コマンドまたは、clgrpdef 定義コマンドの -s オプションに指定した送信 UDP グループ名が myudpsnddef オペランドで指定されていません。	該当オペランドの -s オプションと myudpsnddef 定義コマンドの -g オプションの指定値を見直してください。
0052	eeudpdef 定義コマンドの -r オプションに指定した受信 UDP グループ名が myudprcvdef 定義コマンドで指定されていません。	該当オペランドの -r オプションと myudprcvdef 定義コマンドの -g オプションの指定値を見直してください。
0053	myudpsnddef 定義コマンドの -L オプションと -l オプション指定値の大小関係が不正です。	該当オペランドの指定値を見直してください。
0054	複数の clgrpdef 定義コマンドの -n オプションの指定値が一致していません。	複数の clgrpdef 定義コマンドを指定する場合、-n オプションの指定値はすべて一致させてください。
0055	複数の clgrpdef 定義コマンドの、-m オプションまたは -a オプションの指定値が一致していません。	複数の clgrpdef 定義コマンドを指定する場合、-m オプションと -a オプションの指定値はすべて一致させてください。
0056	eesvgdef 定義コマンドの -u オプション設定値が、eeudpdef 定義コマンドの -g オプションで指定されていません。	該当オペランドの -u オプションと eeudpdef 定義コマンドの -g オプションの指定値を見直してください。

理由コード	意味	対策
0057	複数の clgrpdef 定義コマンドの-p オプションの指定値が一致していません。	複数の clgrpdef 定義コマンドを指定する場合、-p オプションの指定値はすべて一致させてください。
0058	複数の clgrpdef 定義コマンドの-c オプションの指定値が一致していません。	複数の clgrpdef 定義コマンドを指定する場合、-c オプションの指定値はすべて一致させてください。
0059	複数の eesvgdef 定義コマンドの-t オプションに UDP が指定されていて、かつ、-g オプションの指定値が一致しています。	複数の eesvgdef 定義コマンドの-t オプションに UDP を指定する場合は、-g オプションを一致させないでください。
0060	複数の eeudpdef 定義コマンドの-g オプションの指定値が一致していますが、-c オプションが一致していません。	あて先 UDP グループ名が一致する eeudpdef 定義コマンドを複数指定する場合、-c オプションの指定値も一致させてください。
0061	node_id オペランドと一致するノード識別子が clgrpdef オペランドの-n オプションに指定されていません。	node_id オペランドと、clgrpdef 定義コマンドの-n オプションの指定値を見直してください。
0062	rpc_udp_packet_size オペランドとオペランド名に指定されているオペランドの大小関係が不正です。	オペランド名に指定されているオペランドによって、次の対策を行ってください。 udp_rcv_message_buf_size または udp_send_message_buf_size の場合 udp_rcv_message_buf_size オペランドと udp_send_message_buf_size オペランドの指定値が、rpc_udp_packet_size オペランドよりも大きい値を指定しているか見直してください。 myudpsnddef の場合 myudpsnddef 定義コマンドの-b オプションの指定値が、rpc_udp_packet_size オペランドよりも大きい値を指定しているか見直してください。 myudprcvdef の場合 myudprcvdef 定義コマンドの-B オプションの指定値が、rpc_udp_packet_size オペランドよりも大きい値を指定しているか見直してください。 clgrpdef の場合 clgrpdef 定義コマンドの-B オプションの指定値が、rpc_udp_packet_size オペランドよりも大きい値を指定しているか見直してください。
0063	udp_rcv_message_buf_cnt オペランドの指定値が不正です。	udp_rcv_message_buf_cnt オペランドの指定値が、次の値よりも大きな値を指定しているか見直してください。

理由コード	意味	対策
0063	udp_rcv_message_buf_cnt オペランドの指定値が不正です。	(myudprcvdef 定義コマンドと clgrpdef 定義コマンドの-p オプションに指定したポート番号) ×6
0064	複数の clgrpdef 定義コマンドの-B オプションの指定値が一致していません。	複数の clgrpdef 定義コマンドを指定する場合、-B オプションの指定値はすべて一致させてください。
9000 番台	内部矛盾が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB60352-E

TCP/IP 共有送信用コネクション関連のテーブル作成中に不正を検知しました。理由コード = aa....aa  
 An invalid event was detected while tables associated with connections for TCP/IP common transmission were being created. reason code = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

TCP/IP 共有送信用コネクション関連のテーブル作成中に不正を検知しました。

aa....aa : 理由コード

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	TCP/IP 共有送信用コネクション関連のテーブルは作成しませんでしたでしたが、該当するコネクションを使用する機能が存在します。	TCP/IP 共有送信用コネクションに関連する RPC 関連定義の次に示すオペランドの指定値、または、TCP/IP 共有送信用コネクションを使用する機能の設定を見直して、TP1/EE を再起動してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• rpc_tcpsend_con_max_cnt</li> <li>• rpc_tcpsend_con_cnt</li> <li>• rpc_tcpsend_proc_max_cnt</li> </ul>

## KFSB60353-E

R P C 関連定義の設定に矛盾があります。オペランド名 = aa....aa, 理由コード 1 = bbbb, 理由コード 2 = cc....cc  
 The settings of RPC-related definitions conflict. operand name = aa....aa, reason code 1 = bbbb, reason code 2 = cc....cc (E) (1) (NOS)

RPC 関連定義の設定に矛盾があります。

aa....aa : オペランド名

#### bbbb : 理由コード 1

理由コード 1 の意味と対策を表に示します。

#### cc....cc : 理由コード 2

理由コード 2 の意味と対策を表に示します。

(S)TP1/EE を強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード 1	理由コード 2	意味	対策
0001	オペランド指定値	オペランド名で指定した取得先 ID は、TP1/FSP のトランザクション関連定義の <code>tmaphputid</code> 定義コマンドの <code>-i</code> オプションで未定義です。	理由コード 2 を指定しているオペランド名を見直してください。
0010	*	同一サービスグループ名に対する <code>eesvgdef</code> コマンド形式定義で、 <code>-c</code> オプションありと <code>-c</code> オプションなしが混在しています。	サービス要求先が <code>Cosminexus</code> の場合は <code>-c</code> オプションあり、 <code>Cosminexus</code> 以外の場合は <code>-c</code> オプションなしで、 <code>eesvgdef</code> コマンド形式定義を統一してください。
上記以外	—	内部矛盾が発生しました。	保守員に連絡してください。

(凡例)

— : 該当しません。

### KFSB60400-E

排他制御用のテーブルが不足しています。

The table for exclusive control is insufficient. (E+P+L) (1) (NOS)

トランザクションが必要とする排他制御用のテーブルが不足しています。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

### KFSB60401-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc, 詳細コード 4 = dd....dd, 詳細コード 5 = ee....ee



An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc, detail code 4 = dd....dd, detail code 5 = ee....ee (E, E+P+L) (1) (NOS)

内部矛盾が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB60402-E

テーブルの確保に失敗しました。要求サイズ = aa....aa

An attempt to allocate a table has failed. request size = aa....aa (E) (1) (NOS)

初期化処理でテーブル用の領域確保に失敗しました。

aa....aa : 要求したテーブルのサイズ (単位: バイト)

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランド, または max\_mem\_size\_mb オペランドの指定値を見直したあと, eedefchk コマンドでメモリが十分であることを確認してください。その後, TP1/EE を再起動してください。

## KFSB60500-E

永続タイマ機能用ライブラリのローディングに失敗しました。DBMS = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd

Failed to load the persistent timer library. DBMS = aa....aa, reason code = bbbb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (E) (1) (NOS)

永続タイマ機能用ライブラリルーチンのローディングに失敗しました。



aa....aa : ローディングに失敗した永続タイマ機能用ライブラリに対応する DBMS  
HiRDB と表示します。

bbbb : 理由コード  
理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ライブラリのオープンに失敗しました。	直前に <a href="#">KFSB40107-E</a> メッセージが出力されていれば、エラーコード、およびダイナミックローディングモジュールのシステムコールがエラーリターンした場合のエラー内容を参照して原因を取り除いてください。 <a href="#">KFSB40107-E</a> メッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。
0002	ライブラリルーチンのアドレス取得に失敗しました。	

## KFSB60501-E

テーブル作成に失敗しました。対象領域コード = aa....aa, 詳細コード = bb....bb  
An attempt to create a table has failed. target area code = aa....aa, detail code = bb....bb  
(E) (1) (NOS)

タイマ制御の初期化処理でテーブルの作成に失敗しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの指定値を見直して TP1/EE を再起動してください。

## KFSB60502-E

タイマデータ表の構成チェックに失敗しました。タイマデータ表名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc  
An attempt to check the structure of a timer data table failed. timer data table name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

タイマデータ表の構成チェック、またはタイマデータ削除に失敗しました。

aa....aa：タイマデータ表名

特定のタイマデータ表に関係ない場合は\*を表示します。

bb....bb：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
ENTRY	自サービスグループをタイマ登録対象とするタイマデータ表を監視対象としていますが、タイマ登録用の定義がありません。	該当するタイマデータ表を、TP1/FSP のタイマ機能関連定義の timpermdef 定義コマンドの -a オプションに entry を指定した定義中の、-t オプションで指定しているか確認してください。
MEMORY	メモリ不足が発生しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランド、および icb_no オペランドの指定値を見直してください。
NOTHING	リソースマネージャ名称が不正です。 タイマデータ表名、またはタイマ監視表が不正です。	TP1/FSP のタイマ機能関連定義の timpermdef 定義コマンドの -t オプションで指定したタイマデータ表名、または -n オプション、-i オプションで指定したリソースマネージャ名の指定値を見直してください。
RETRY	構成チェックのリトライ回数を超過しました。	DBMS との接続状態を確認してください。
SVGNAME	自サービスグループでは登録できないタイマデータ表を指定しています。	TP1/FSP の eetimtblh コマンドで自サービスグループを指定して作成したタイマデータ表を、TP1/FSP の timpermdef 定義コマンドの -t オプションで指定してください。
TABLE	タイマデータ表、またはタイマ監視表の構成が不正です。	TP1/FSP の timpermdef 定義コマンドの -t オプションで正しいタイマデータ表を指定しているか確認してください。

## KFSB60503-E

タイマデータ表を更新したトランザクションがヒューリスティックミックス決着しました。タイマデータ表名 = aa....aa

A transaction to update the timer data table was completed by using heuristic mix. timer data table name = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

タイマデータ表を更新したトランザクションがヒューリスティックミックス決着しました。

aa....aa : タイマデータ表名

特定のタイマデータ表に関係ない場合は\*を表示します。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 トランザクションがヒューリスティックミックス決着した原因を取り除いてください。

## KFSB60590-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb

An internal contradiction occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E)

(1) (NOS)

関数発行時に内部矛盾が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB60801-E

領域不足のためテーブル作成に失敗しました。テーブル名 = aa....aa

An attempt to create a table has failed due to insufficient space. table name = aa....aa (E)

(1) (NOS)

TP1/EE プロセスの初期化処理で領域が不足したため、テーブル作成に失敗しました。

aa....aa : テーブル名

FRBD : サービス停止管理テーブル

PCI : 処理キュー管理テーブル

PCIT : 処理キュー管理テーブル (トランザクションレベル用)

PSLA : システムサービス属性リスト

PSLS : システムサービス用処理キュースケジュールリスト

PSLT : ユーザサービス用処理キュースケジュールリスト (トランザクションレベル用)

PSLU : ユーザサービス用処理キュースケジュールリスト

SPTHHD : 特定 PCI 用処理スレッド機能定義格納領域

SVA : サービス属性テーブル

SVT：サービス管理テーブル

SVTT：サービス管理テーブル（トランザクションレベル用）

(S)初期化処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ所要量の合計がメモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの指定値以下となるように、各 TP1/EE サービス定義の指定値を変更してください。そのあとに、TP1/EE を再起動してください。メモリ所要量の見積もりについては、TP1/EE のリリースノートを参照してください。

## KFSB60802-E

P C E の処理率が低いためプロセスを強制停止します。滞留率 1 = aa....aa, 滞留率 2 = bb....bb, P C E 処理数 1 = cc....cc, P C E 処理数 2 = dd....dd

A process will now be forcibly terminated because its PCE processing rate is low. retention ratio 1 = aa....aa, retention ratio 2 = bb....bb, number of PCE processing occurrences 1 = cc....cc, number of PCE processing occurrences 2 = dd....dd (E+P+L) (1) (NOS)

サービス要求が滞留し、処理キューの処理率が低い状態です。トラブルシュート情報の出力後、TP1/EE プロセスを強制停止します。

aa....aa：前回監視時の処理キューの滞留率（単位：%）

bb....bb：今回監視時の処理キューの滞留率（単位：%）

cc....cc：監視時間間隔に処理されなければならなかった処理キューの数

dd....dd：前回監視時から今回監視時まで実際に処理された処理キューの数

(S)トラブルシュート情報の出力後、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** トラブルシュート情報を参照し、処理率が低下している原因を検証してください。原因がわからない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB60890-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb

An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E) (1) (NOS)

関数発行時に内部矛盾が発生しました。

aa....aa：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB60900-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc  
An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc (E, E+P+L) (1) (NOS)

関数発行時に内部矛盾が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB60901-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc, 詳細コード 4 = dd....dd, 詳細コード 5 = ee....ee  
An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc, detail code 4 = dd....dd, detail code 5 = ee....ee (E, E+P+L) (1) (NOS)

内部矛盾が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB60902-E

トランザクションデータのステータスファイル書き込みが失敗しました。詳細コード 1 = aaa, 詳細コード 2 = bb...bb, 詳細コード 3 = cc...cc, 詳細コード 4 = dd...dd, 詳細コード 5 = ee...ee  
An attempt to write transaction data to a status file has failed. detail code 1 = aaa, detail code 2 = bb...bb, detail code 3 = cc...cc, detail code 4 = dd...dd, detail code 5 = ee...ee (E+P+L) (1) (NOS)

ステータスファイルへのトランザクションデータの書き込みに失敗しました。

aaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb...bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc...cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd...dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee...ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 以前に出力されているメッセージに従って対策してください。

## KFSB60903-E

監視スレッドの初期化処理中に障害が発生しました。監視スレッド種別 = a, 詳細コード 1 = bbbb, 詳細コード 2 = cc...cc  
An error occurred during initialization processing of a monitoring thread. monitoring thread type = a, detail code 1 = bbbb, detail code 2 = cc...cc (E+P+L) (1) (NOS)

初期化処理中に回復できない障害が発生したため、プロセスを終了します。

a : 監視スレッド種別

D : リソースマネージャ障害監視スレッド

I : 通信障害監視スレッド

W : UAP 履歴情報監視スレッド

bbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc...cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)初期化処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB60904-E

監視スレッドの監視処理中に障害が発生しました。監視スレッド種別 = a, 詳細コード 1 = bbbb, 詳細コード 2 = cc....cc

An error occurred during monitoring processing of a monitoring thread. monitoring thread type = a, detail code 1 = bbbb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

監視処理中に回復できない障害が発生したため、プロセスを終了します。

a : 監視スレッド種別

D : リソースマネージャ障害監視スレッド

I : 通信障害監視スレッド

W : UAP 履歴情報監視スレッド

bbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)監視処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB60905-E

RM 要因のスレッドダウン回数が TP1/EE サービス定義値を超えたため TP1/EE プロセスを強制停止します。

The TP1/EE process was forcibly terminated because the number of thread failures caused by resource managers exceeded the definition value for TP1/EE services. (E+P+L) (1) (NOS)

リソースマネージャが要因のスレッドダウン回数が、TP1/EE サービス定義の trn\_thd\_down\_count オペランドの指定値を超えたため、プロセスを終了します。

このメッセージの前に出力されるすべての [KFSB50919-E](#) メッセージを参照し、障害が発生しているリソースマネージャの状態を確認してください。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** リソースマネージャの状態を確認してください。リソースマネージャが起動している場合は、リソースマネージャが出力するメッセージログファイルを参照してください。リソースマネージャの障害を取り除き、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB60906-E

xa\_open 関数の実行に失敗しました。rmid = aa....aa, RM = bb....bb

An attempt to execute an xa\_open function has failed. rmid = aa....aa, RM = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

トランザクション関連定義の trn\_wait\_rm\_open オペランドに stop または retry\_stop が指定された TP1/EE プロセスで、xa\_open 関数の実行に失敗したため、プロセスを終了します。

**aa....aa** : TP1/EE がリソースマネージャに割り当てた ID

**bb....bb** : 該当するリソースマネージャ名 (リソースマネージャ拡張子を含む)

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するリソースマネージャの保守情報がある場合は、その情報を基に原因を取り除いてください。障害が発生したリソースマネージャが起動していない場合は、リソースマネージャを起動してください。リソースマネージャの障害を取り除いたあと、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB60907-E

不正な RM 連携オブジェクトがリンケージされています。rmid = aa....aa, RM = bb....bb

An invalid object for connect with resource manager is linked. rmid = aa....aa, RM = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

不正なリソースマネージャ連携オブジェクトがリンケージされていたため、リソースマネージャが提供する関数の呼び出し時に障害が発生しました。

**aa....aa** : TP1/EE でリソースマネージャに割り当てた ID

**bb....bb** : 該当するリソースマネージャ名 (リソースマネージャ拡張子を含む)

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** リソースマネージャ連携オブジェクトのリンケージ環境を見直し、再構築してください。

## KFSB60908-E

リソースマネージャに TP1/EE では決着できないトランザクションが見つかりました。



A transaction that cannot be determined by TP1/EE exists in a resource manager. (E+P+L) (1) (NOS)

接続しているリソースマネージャに TP1/EE では決着できないトランザクションが見つかったため、プロセスを終了します。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 次に示す事項について確認しても原因がわからないときは、保守員に連絡してください。

- 前回、TP1/EE が正常終了していない場合は、ステータスファイルが正しく定義されているかどうか。
- リソースマネージャの状態に問題がないかどうか。

## KFSB60950-E

履歴情報表管理テーブル用のバッファ確保に失敗しました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 処理種別 = bb....bb

An attempt to reserve a buffer for the log information table failed. UAP log information group name = aa....aa, processing type = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

UAP 履歴情報取得機能で使用する履歴情報表管理テーブル用のバッファ確保に失敗しました。

**aa....aa** : UAP 履歴情報グループ名

処理種別が HISTORY\_WATCH の場合は\*を表示します。

**bb....bb** : 処理種別

PROCESS\_END : 終了処理

PROCESS\_START : 開始処理

HISTORY\_WATCH : 監視処理

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の system\_work\_size オペランドの指定値を見直して TP1/EE を再起動してください。

## KFSB60951-E

開始時の表構成確認処理で内部矛盾が発生しました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

An internal conflict occurred during confirmation of the table structure at startup. UAP log information group name = aa....aa, reason code = bbbb (E+P+L) (1) (NOS)

UAP 履歴情報取得機能による開始時の表構成確認処理でエラーを検知しました。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	メモリ破壊を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB60952-E

開始時の起動情報設定処理で内部矛盾が発生しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

An internal conflict occurred when startup information was being set at startup. UAP log information group name = aa....aa, reason code = bbbb (E+P+L) (1) (NOS)

UAP 履歴情報取得機能による開始時の起動情報設定処理でエラーを検知しました。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	メモリ破壊を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB60953-E

終了時の終了情報設定処理で内部矛盾が発生しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

An internal conflict occurred when termination information was being set at termination. UAP log information group name = aa....aa, reason code = bbbb (E+P+L) (1) (NOS)

UAP 履歴情報取得機能による終了時の終了情報設定処理でエラーを検知しました。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	メモリ破壊を検知しました。	保守員に連絡してください。
0002	内部関数エラーとなりました。	

## KFSB60954-E

UAP 履歴情報取得機能用ライブラリのローディングに失敗しました。DBMS = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd

Failed to load the UAP log information acquisition function library. DBMS = aa....aa, reason code = bbbb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (E) (1) (NOS)

UAP 履歴情報取得機能用ライブラリルーチンのローディングに失敗しました。

aa....aa : ローディングに失敗した UAP 履歴情報取得機能用ライブラリに対応する DBMS

HiRDB と表示します。

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ライブラリのオープンに失敗しました。	直前に <a href="#">KFSB40107-E</a> メッセージが出力されていれば、エラーコード、およびダイナミックローディングモジュールのシステムコールがエラーリターンした場合のエラー内容を参照してください。
0002	ライブラリルーチンのアドレス取得に失敗しました。	

理由コード	意味	対策
0002	ライブラリルーチンのアドレス取得に失敗しました。	照して原因を取り除いてください。KFSB40107-E メッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。

## KFSB60955-E

監視処理で内部矛盾が発生しました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 理由コード = bbbb  
 An internal conflict occurred in monitoring processing. UAP log information group name = aa....aa, reason code = bbbb (E+P+L) (1) (NOS)

UAP 履歴情報取得機能による監視処理でエラーを検知しました。

**aa....aa** : UAP 履歴情報グループ名

グループ単位の処理でない場合は、「\*」を出力します。

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	メモリ破壊を検知しました。	保守員に連絡してください。
0002	内部関数エラーとなりました。	

## KFSB60956-E

オフラインバッチ用ライブラリのローディングに失敗しました。DBMS = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd  
 Failed to load the offline batch function library. DBMS = aa....aa, reason code = bbbb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (E) (1) (NOS)

オフラインバッチ用ライブラリルーチンのローディングに失敗しました。

**aa....aa** : ローディングに失敗したオフラインバッチ用ライブラリに対応する DBMS

HiRDB と表示します。

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**dd....dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ライブラリのオープンに失敗しました。	直前に <a href="#">KFSB40107-E</a> メッセージが出力されていれば、エラーコード、およびダイナミックローディングモジュールのシステムコールがエラーリターンした場合のエラー内容を参照して原因を取り除いてください。 <a href="#">KFSB40107-E</a> メッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。
0002	ライブラリルーチンのアドレス取得に失敗しました。	

## KFSB60957-E

ライブラリのローディングに失敗しました。ライブラリ種別 = aa....aa, DBMS = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード 1 = dd....dd, 詳細コード 2 = ee....ee

Failed to load a library. Library kind = aa....aa, DBMS = bb....bb, reason code = cccc, detail code 1 = dd....dd, detail code 2 = ee....ee (E) (1) (NOS)

ライブラリルーチンのローディングに失敗しました。

aa....aa : ライブラリ種別

NON\_XA : 非 XA 連携機能用ライブラリ

RKS : データ連携支援用ライブラリ

bb....bb : ローディングに失敗したライブラリに対応する DBMS

「HiRDB」と出力します。

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : 詳細コード 1

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

ee....ee : 詳細コード 2

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ライブラリのオープン失敗	直前に <a href="#">KFSB40107-E</a> メッセージが出力されていれば、エラーコード、およびダイナミックローディングモジュールのシステムコールがエラーリターンした場合のエラー内容
0002	ライブラリルーチンのアドレス取得失敗	

理由コード	意味	対策
0002	ライブラリルーチンのアドレス取得失敗	を参照して原因を取り除いてください。メッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB61000-E

ステータスファイルの開始に失敗しました。理由コード = aaaa

An attempt to start a status file has failed. reason code = aaaa (E+P+L) (1) (NOS)

TP1/EE プロセスの初期化処理で、ステータスファイルの開始に失敗しました。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)初期化処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0002	制御用ステータスファイルのバッファ長が不正です。	ステータスファイル関連定義の sts_control_buffer_length オペランドに、eestsinit コマンドを実行して作成した制御用ステータスファイルのレコード長と同じ値を指定して、TP1/EE を再起動してください。
0003	シグナル用ステータスファイルのバッファ長が不正です。	ステータスファイル関連定義の sts_signal_buffer_length オペランドに、eestsinit コマンドを実行して作成したシグナル用ステータスファイルのレコード長と同じ値を指定して、TP1/EE を再起動してください。
0004	現用ステータスファイルがありません。	ステータスファイルを用意して、TP1/EE を再起動してください。
0005	バッファ数が不足しています。	ステータスファイル関連定義の sts_buffer_count オペランドに必要なバッファ数を指定し、TP1/EE を再起動してください。
0006	メモリが不足しています。	以前に出力されたメッセージに従って障害を取り除き、TP1/EE を再起動してください。
0007	ステータスファイルに障害が発生しました。	以前に出力されたメッセージに従って障害を取り除き、TP1/EE を再起動してください。
0008	ステータスファイルの管理レコードバッファの常駐化で障害が発生しました。	以前に出力されたメッセージに従って障害を取り除き、TP1/EE を再起動してください。
0009	スワップ処理で障害が発生しました。	以前に出力されたメッセージに従って障害を取り除き、TP1/EE を再起動してください。

理由コード	意味	対策
0010	ステータスファイル関連定義の sts_initial_error_switch オペランドに stop が指定され、かつ、ステータスファイルに障害が発生しました。	ステータスファイルの障害を取り除き、TP1/EE を再起動してください。
0015	TP1/EE が選択した現用ステータスファイル名と stsflgrp 定義コマンドの-l オプションに指定した論理ファイル名とが一致しません。	stsflgrp 定義コマンドの-l オプションに、前回までの最新の現用ステータス論理ファイル名を指定し、TP1/EE を再起動してください。stsflgrp 定義コマンドの-l オプションに最新の現用ファイル名を指定している場合にこのメッセージが出力されたときは、TP1/EE を再開できません。eestsinit コマンドで全ステータスファイルを初期化するか、強制正常開始で TP1/EE を再起動するかしてください。
0016	前回までの最新の現用ステータスファイルを確定できない状態が発生し、かつ、stsflgrp 定義コマンドの-l オプションに、論理ファイル名の指定がありません。	stsflgrp 定義コマンドの-l オプションに、前回までの最新の現用ステータス論理ファイル名を指定し、TP1/EE を再起動してください。
0017	stsflgrp 定義コマンドの-k オプションに指定した系に障害が発生しました。	TP1/EE を再開できません。eestsinit コマンドで全ステータスファイルを初期化するか、強制正常開始で TP1/EE を再起動するかしてください。
0018	前回までの最新の現用ステータスファイルの片系に障害が発生し、かつ、stsflgrp 定義コマンドの-k オプションに系の指定がありません。	前回のオンライン中の現用ステータスファイルの状態と、直前に出力された KFSB51008-E メッセージが通知した障害の発生した系の組み合わせで、stsflgrp 定義コマンドの-k オプションに系を指定して、TP1/EE を再起動してください。障害系の組み合わせを下記の表に示します。
0019	再開時に初期設定状態のファイルグループを指定しています。	stsflnam 定義コマンドに前回までの最新の現用ステータスファイル名を指定し、TP1/EE を再起動してください。前回までの最新の現用ステータスファイル名を正しく指定している場合にこのメッセージが出力されたときは、TP1/EE を再開できません。eestsinit コマンドで全ステータスファイルを初期化するか、強制正常開始で TP1/EE を再起動するかしてください。
0020	ほかの TP1/EE プロセスで同じステータスファイルを使用しています。	ほかの TP1/EE プロセスとは異なるステータスファイルを指定し、TP1/EE を再起動してください。
0021	レコード数が不正です。	このメッセージより前に出力されたメッセージに従って障害を取り除き、TP1/EE を再起動してください。

理由コード 0018 が表示された場合に、再起動時に stsflgrp 定義コマンドの-k オプションに指定する系を次の表に示します。

前回オンライン中の現用ステータスファイルの状態		KFSB51008-E メッセージが表示した障害の発生した系	再起動時に stsflgrp 定義コマンドの-k オプションで指定する現用系
A 系	B 系		
ACTIVE	ACTIVE	A	B
		B	A



前回オンライン中の現用ステータスファイルの状態		KFSB51008-E メッセージが表示した障害の発生した系	再起動時に stsflgrp 定義コマンドの-k オプションで指定する現用系
A 系	B 系		
ACTIVE	ACTIVE 以外	A	TP1/EE を再開始できません。
		B	A
ACTIVE 以外	ACTIVE	A	B
		B	TP1/EE を再開始できません。

## KFSB61001-E

テーブルを確保できません。要求サイズ = aa....aa

A table could not be allocated. request size = aa....aa (E) (1) (NOS)

ステータスファイル関連のテーブル格納領域の確保に失敗しました。

**aa....aa** : 要求サイズ (単位: バイト)

(S)初期化処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB61002-E

ステータスファイル関連テーブルの作成に失敗しました。理由コード = aaaa, 対象領域コード = bb....bb

An attempt to create tables related to a status file has failed. reason code = aaaa, target area code = bb....bb (E) (1) (NOS)

ステータスファイルの初期化処理でテーブルの作成に失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : 対象領域コード

STS : ステータス管理テーブル

STG : ステータスファイルグループ管理テーブル

STF : ステータスファイル管理テーブル

(S)初期化処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。



[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対象領域コード	対策
0001	ステータスファイル関連定義の stsflnam 定義コマンドの指定値が上限値を超えています。	STF	ステータスファイル関連定義の stsflnam 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0002	ステータスファイル関連定義の stsflgrp 定義コマンドの指定数が必要数を満たしていません。	STG	ステータスファイル関連定義の stsflgrp 定義コマンドの指定数を見直し、TP1/EE を再起動してください。
		STF	ステータスファイル関連定義の stsflnam 定義コマンドの指定数を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0003	ステータスファイル関連定義の stsflgrp 定義コマンドの-g オプションが 0 から昇順に指定されていません。	STG	ステータスファイル関連定義の stsflgrp 定義コマンドの-g オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0004	ステータスファイル関連定義の stsflgrp 定義コマンドの-g オプションと、stsflnam 定義コマンドの-g オプションに指定されたファイルグループ番号が不一致です。	STF	ステータスファイル関連定義の stsflnam 定義コマンドの-g オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0005	論理ファイル名の指定が重複しています。	STF	ステータスファイル関連定義の stsflnam 定義コマンドの-l オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0006	パス名の指定が重複しています。	STF	ステータスファイル関連定義の stsflnam 定義コマンドの-a オプションおよび-b オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0007	パス名の中の物理ファイル名が 14 文字以内ではありません。	STF	ステータスファイル関連定義の stsflnam 定義コマンドの-a オプションおよび-b オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0008	ステータスファイル関連定義の sts_initial_error_switch オペランドに force が指定されているのに、sts_single_operation_switch オペランドに continue が指定されていません。	STS	ステータスファイル関連定義の sts_initial_error_switch オペランドおよび sts_single_operation_switch オペランドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB61003-E

ステータスファイルグループの排他初期化処理に失敗しました。詳細コード 1 = aaaa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc

An attempt to initialize the lock for a status file group has failed. detail code 1 = aaaa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc (E) (1) (NOS)

ステータスファイルグループの排他初期化処理で障害が発生しました。

aaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb...bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)初期化処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB61401-E

テーブル作成に失敗しました。対象領域コード = aa....aa, 理由コード = bb...bb

An attempt to create a table has failed. target area code = aa....aa, reason code = bb...bb

(E) (1) (NOS)

MCP 初期化処理でテーブルの作成に失敗しました。

aa....aa : MCP がトラブルシュートで使用する情報

bb...bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	領域確保に失敗しました。	メモリ関連定義の max_mem_size オペランドの指定値を見直して TP1/EE を再起動してください。
0002	ホスト名が不正です。または自ホスト名の取得に失敗しました。	/etc/hosts または DNS にホスト名が登録されているかどうかを確認し、TP1/EE を再起動してください。
0003	サーバ属性のコネクションの相手 IP アドレスとポート番号に重複があります。	MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpn 定義コマンド) の -o オプションを見直し、TP1/EE を再起動してください。
0004	オブジェクトファイルが不正です。	eemcpgen コマンドを再実行し、オブジェクトファイルを再作成してください。解決しない場合は保守員に連絡してください。
0005	領域確保に失敗しました。	しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。再発する場合、OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

理由コード	意味	対策
0006	オブジェクトファイルのファイルサイズが不正です。	eemcpgen コマンドを再実行し、オブジェクトファイルを再作成してください。解決しない場合は保守員に連絡してください。
0007	オブジェクトファイルのバージョンが一致しません。	eemcpgen コマンドを再実行し、オブジェクトファイルを再作成してください。解決しない場合は保守員に連絡してください。
0008	コネクション定義間で自 IP アドレスとポート番号に重複があります。	MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpcn 定義コマンド) の -r オプションを見直し、TP1/EE を再起動してください。
0009	論理端末定義間で自 IP アドレスとポート番号に重複があります。	MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpcn 定義コマンド) の -r オプションを見直し、TP1/EE を再起動してください。
0010	TP1/EE のバージョンが不正です。	TP1/EE のバージョンを確認してください。
0011	TP1/FSP 以外で回線定義を指定しています。	プロセス関連定義の fsp_use オペランドの設定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB61402-E

定義解析中に環境変数値の取得に失敗しました。環境変数名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
 Acquisition of environment variable values failed during definition analysis. environment variable name = aa....aa, reason code = bb....bb (E) (1) (NOS)

TP1/Server Base で定義された環境変数値の取得に失敗しました。

**aa....aa** : 環境変数名

DCUAPCONFPATH : TP1/Server Base のシステム環境定義に指定された環境変数

DCCONFPATH : TP1/Server Base のシステム環境定義に指定された環境変数

DCDIR : TP1/Server Base のホームディレクトリを設定した環境変数

MCPDEFFILE : TP1/Server Base のシステム環境定義に指定された環境変数

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S) 定義解析を中止しプロセスを強制停止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策し再起動してください。

理由コード	意味	対策
1	環境変数が定義されていません。	TP1/Server Base の定義に該当する環境変数が正しく指定されているかどうかを確認してください。

理由コード	意味	対策
2	環境変数の取得関数に渡す引数が不正です。	保守員に連絡してください。

## KFSB61403-E

定義解析中にファイルのオープンに失敗しました。ファイル名 = aa....aa

Opening of the definition file failed during definition analysis. file name = aa....aa (E) (1) (NOS)

定義オブジェクトファイルをオープンできませんでした。

**aa....aa** : オープンできなかったファイルの絶対パス

DCCONFPATH に設定したディレクトリでファイルのオープンに失敗した場合は、DCUAPCONFPATH に設定したディレクトリをオープンします。DCUAPCONFPATH に設定したディレクトリでのファイルのオープンにも失敗した場合は、DCCONFPATH に設定したディレクトリのパス名が表示されます。

(S) 定義解析を中止しプロセスを強制停止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義ファイルの障害を取り除き再起動してください。考えられる障害の要因を次に示します。

- 設定されたファイルが存在しません。
- ファイル障害が発生しました。
- ディスク障害が発生しました。
- 設定されたパスが不正です。
- 設定されたファイルに対するアクセス権が不正です。
- リソースが不足しています。
- OS の制限（ファイルディスクリプタ、シンボリックリンク数など）を超えています。
- NFS 障害が発生しました。
- ファイル名称ではなくディレクトリを指定しています。

## KFSB61404-E

定義解析中にエラーが発生しました。システムの上限を超える定義がされました。ファイル名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

An error occurred during definition analysis. The system upper limit was exceeded. file name = aa....aa, reason code = bb....bb (E) (1) (NOS)

システムの上限を超える定義がされました。

aa....aa : 障害が発生したファイルの絶対パス (最大 1023 バイト分表示されます)

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)定義解析を中止しプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
PATH	MCP 定義オブジェクトファイルの絶対パス名とファイル名の合計が 1023 文字を超えています。	TP1/Server Base のユーザサービス定義に指定した環境変数 MCPDEFFILE に指定した MCP 定義オブジェクトファイル名を見直し、MCP 定義オブジェクトファイルの絶対パス名とファイル名の合計が 1023 文字を超えないように指定し直したあと、再起動してください。

## KFSB61405-E

サービス名が見つかりませんでした。サービス名 = aa....aa

Could not find the service name. service name = aa....aa (E) (1) (NOS)

トランザクション起動サービス名が見つかりませんでした。

aa....aa : サービス名

(S)定義解析を中止しプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** サービス名が ERRTRNS の場合は、TP1/EE サービス定義の errtrns オペランドを見直してください。サービス名が ERRTRNS 以外の場合は、入力メッセージを受信したときに起動するサービス名、またはトランザクション起動サービス名を意味します。MCP 構成定義の論理端末定義 (eemcple 定義コマンド) の -v オプションの指定値、MCP 構成定義のアプリケーション定義 (eemcplfunc 定義コマンド) の -u オプションの rltrn オペランドの指定値、または論理端末アプリケーション定義 (eemcplfunc 定義コマンド) の -u オプションの rltrn オペランドの指定値が、ユーザサービス関連定義の service オペランドと一致しているかどうかを見直してください。

## KFSB61406-E

実行系と待機系の定義情報が異なります。理由コード = aa....aa, 定義名 = bb....bb, オプションフラグ = cc, オペランド名 = dd....dd

Definitions in the execution system are different from that in the standby system. reason code = aa....aa, definition name = bb....bb, option flag = cc, operand name = dd....dd (E+P+L) (2) (NOS)

実行系と待機系の定義情報が異なります。

**aa....aa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : コマンド形式定義名

コマンド形式定義名に関係のない場合は, \*\*が表示されます。

**cc** : オプションフラグ

オプションフラグに関係のない場合は, \*\*が表示されます。

**dd....dd** : オペランド名

オペランド名に関係のない場合は, \*\*が表示されます。

(S)MCP プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1	定義に指定された値が異なります。	dd....dd に出力されたオペランド名の指定値を確認してください。 また、次の場合は、それぞれ対処してください。 dd....dd に出力されたオペランド名が ipaddr, oipaddr, hostgroupaddr, ripaddr の場合 次の指定値が異なっていないか、確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• ホスト名に関連するオペランド (hostname, ohostname, hostgroupname, および rhostname) の指定値</li><li>• 名前解決後の IP アドレス</li></ul> 実行系と待機系の指定値が一致している場合 関連するほかの定義でこのメッセージが出力されているか、またはほかのメッセージが出力されていないかを確認してください。
2	定義オブジェクトファイルのバージョンが異なります。	実行系と待機系の定義オブジェクトファイルのバージョンが一致しているか確認してください。
3	MCP のバージョンが異なります。	実行系と待機系の MCP のバージョンが一致しているか確認してください。

## KFSB61407-E

トランザクションレベル名の定義解析処理中にエラーが発生しました。トランザクションレベル名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 理由コード = cccc

An error occurred during definition analysis of a transaction level name. transaction level name = aa....aa, service name = bb....bb, reason code = cccc (E) (1) (NOS)

トランザクションレベル名の定義解析処理中にエラーが発生しました。

**aa....aa** : トランザクションレベル名

トランザクションレベル名に関係のない場合は、\*\*が表示されます。

**bb....bb** : サービス名

サービス名に関係のない場合は、\*\*が表示されます。

**cccc** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)定義解析を中止し、プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	MCP 後処理トランザクションのトランザクションレベル名が見つかりませんでした。	論理端末アプリケーション定義 (eemcplefunc 定義コマンド) の-u オプションの指定値, またはアプリケーション定義 (eemcpfunc 定義コマンド) の rlrtnlevel オペランドの指定値が, TP1/FSP のユーザーサービス関連定義の queue_trnlevel オペランドの指定値と一致するか見直してください。
0002	MCP 後処理トランザクションを起動するサービス名を指定しているにもかかわらず, トランザクションレベル名が指定されていませんでした。	TP1/EE でトランザクションレベル方式指定時, MCP 後処理トランザクション起動サービス名を指定する場合は, トランザクションレベル名の指定が必須となります。 論理端末アプリケーション定義 e (emcplefunc 定義コマンド) の-u オプション, またはアプリケーション定義 (eemcpfunc 定義コマンド) の rlrtnlevel オペランドの指定値を見直してください。

## KFSB61408-E

定義の設定に矛盾があります。オペランド名 = aa....aa, 理由コード 1 = bbbb, 理由コード 2 = cc....cc  
The settings of definitions conflict. operand name = aa....aa, reason code 1 = bbbb, reason code 2 = cc....cc (E) (1) (NOS)

定義の設定に矛盾があります。

**aa....aa** : オペランド名

**bbbb** : 理由コード 1

理由コード 1 の意味と対策を表に示します。

**cc....cc** : 理由コード 2

理由コード 2 の意味と対策を表に示します。



(S)TP1/EE/MCP プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード 1	理由コード 2	意味	対策
0001	オペランド指定値	オペランド名で指定した取得先 ID は、TP1/FSP のトランザクション関連定義の tmaphputid オペランドの -i オプションで未定義です。	理由コード 2 を指定しているオペランド名を見直してください。
上記以外	—	上記以外のエラーが発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB61469-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb

An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E) (1) (NOS)

関数発行時に内部矛盾が発生しました。

aa....aa : MCP がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB61470-E

領域確保に失敗しました。プロトコル種別 = aa....aa, 対象領域コード = bb....bb, 要求サイズ = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

Failed to secure an area. protocol type = aa....aa, target area code = bb....bb, requested size = cc....cc, detail code = dd....dd (E) (1) (NOS)

通信機能初期化処理で領域確保に失敗しました。

aa....aa : プロトコル種別

TCP : TCP/IP プロトコル

UDP : UDP プロトコル



**bb....bb** : 対象領域コード

MCPFAT : 空き管理テーブル

MCPHRT : 操作依頼テーブル

MCPHST : ホスト管理テーブル

MCPHSTH : ホスト管理テーブルハッシュ

MCPLUT : コネクション管理テーブル

**cc....cc** : 領域確保要求サイズ (単位: バイト)

**dd....dd** : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)通信初期化処理を中止して TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの設定値を見直して TP1/EE を再起動してください。

## KFSB61471-E

テーブルの作成に失敗しました。プロトコル種別 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 対象領域コード = cc....cc

Failed to create a table. protocol type = aa....aa, reason code = bbbb, target area code = cc....cc (E) (1) (NOS)

通信機能初期化処理でテーブルの作成に失敗しました。

**aa....aa** : プロトコル種別

TCP : TCP/IP プロトコル

UDP : UDP プロトコル

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cc....cc** : 対象領域コード

MCPFAT : 空き管理テーブル

MCPHRT : 操作依頼テーブル

MCPHST : ホスト管理テーブル

MCPHSTH : ホスト管理テーブルハッシュ

MCPLUT : コネクション管理テーブル

(S)通信機能初期化処理を中止して TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0005	リソース不足が発生しました。	直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージから対処してください。それ以外の場合は、メモリ関連定義の max_mem_size オペランドの設定値を見直して TP1/EE を再起動してください。
9000	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB61472-E

受信スレッドのサービス処理中に障害が発生しました。プロトコル種別 = aa....aa, 詳細コード 1 = bbbb, 詳細コード 2 = cc....cc

An error occurred while processing a service for the receiving thread. protocol type = aa....aa, detail code 1 = bbbb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

サービス処理中に回復できない障害が発生したので、プロセスを終了します。

aa....aa : プロトコル種別

TCP : TCP/IP プロトコル

UDP : UDP プロトコル

bbbb : MCP がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S) サービス処理を中止して TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 保守員に連絡してください。

## KFSB61474-E

受信スレッドの初期化処理中に障害が発生しました。プロトコル種別 = aa....aa, 詳細コード 1 = bbbb, 詳細コード 2 = cc....cc

An error occurred while initializing the receiving thread. protocol type = aa....aa, detail code 1 = bbbb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

初期化処理中に回復できない障害が発生したので、プロセスを終了します。

aa....aa : プロトコル種別

TCP : TCP/IP プロトコル

UDP : UDP プロトコル

どちらのプロトコル種別でもない場合は、\*を表示します。

bbbb : MCP がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)初期化処理を中止して TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB61475-E

サーバソケットの初期化に失敗しました。プロトコル種別 = aa....aa, IP アドレス = bb....bb, ポート番号 = cc....cc, 理由コード = dddd, 詳細コード = ee....ee

Failed to initialize the server socket. protocol type = aa....aa, IP address = bb....bb, port number = cc....cc, reason code = dddd, detail code = ee....ee (E+P+L) (1) (NOS)

相手システム (クライアント) からのコネクションを受け付けるソケットの初期化処理に失敗しました。

aa....aa : プロトコル種別

TCP : TCP/IP プロトコル

bb....bb : 自 IP アドレス

MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpn 定義コマンド) で -r オプションの ipaddr オペランドまたは hostname オペランドを設定していない場合は, \*.\*.\* を表示します。

cc....cc : 自ポート番号

dddd : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ee....ee : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001 0101	ソケットの生成に失敗しました。	プロセス関連定義の max_descriptors オペランドの設定値を見直してください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
0002 0102	自 IP アドレスと自ポート番号のソケットへの割り当てに失敗しました。	MCP 構成定義のコネクション定義 (eemcpn 定義コマンド) の -r オプションの設定値を見直してください。設定値に問題がない場合は、保守員に連絡してください。
上記以外	上記以外のエラーが発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB61476-E

内部矛盾が発生しました。プロトコル種別 = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc, 詳細コード 3 = dd....dd

An internal conflict occurred. protocol type = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc, detail code 3 = dd....dd (E+P+L) (1) (NOS)

関数発行時に、内部矛盾が発生しました。

**aa....aa** : プロトコル種別

TCP : TCP/IP プロトコル

UDP : UDP プロトコル

プロトコル種別を特定できない場合は、\*を表示します。

**bb....bb** : MCP がトラブルシュートで使用する情報

**cc....cc** : MCP がトラブルシュートで使用する情報

**dd....dd** : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 保守員に連絡してください。

## KFSB61801-E

定義解析処理中に領域確保に失敗しました。対象領域コード = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 領域サイズ = cc....cc バイト

Area allocation failed during definition analysis. code of affected area = aa....aa, reason code = bb....bb, area size = cc....cc bytes (E) (1) (NOS)

定義格納領域および定義解析作業用領域の確保に失敗しました。

**aa....aa** : 確保に失敗した領域コード

1 : 解析済み定義 (設定数固定の定義) の格納領域の初期確保失敗

2 : set 形式の service オペランドの格納領域の初期確保失敗

3 : set 形式の service オペランドの格納領域の追加確保失敗

4 : eesvgdef 定義コマンドの格納領域の初期確保失敗

5 : eesvgdef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗

6 : eesvgdef 定義コマンドの-h オプションに指定したホスト情報の格納領域の確保失敗

7 : mysvgdef 定義コマンドの格納領域の初期確保失敗

8 : mysvgdef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗

- 9 : mysvgdef 定義コマンドの-h オプションに指定したポート情報の格納領域の確保失敗
- 11 : 定義ファイル名格納領域の確保失敗
- 13 : 定義解析作業領域の初期確保失敗
- 14 : 定義解析作業領域の追加確保失敗
- 15 : MYSVG ホストの重複チェック作業領域の確保失敗
- 16 : myreplydef 定義コマンドの格納領域の初期確保失敗
- 17 : trnstring 定義コマンドの格納領域の初期確保失敗
- 18 : trnstring 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 19 : trnstring 定義コマンドの-i オプションに指定した拡張子の格納領域の確保失敗
- 20 : DB キュー機能関連定義コマンドの格納領域の初期確保失敗
- 21 : dbqsrvedef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 22 : dbqsrvedef 定義コマンドの-q オプションに指定した DB キュー名の格納領域の確保失敗
- 23 : dbqdef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 24 : dbqgrpdef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 25 : dbqsvgdef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 26 : ステータスファイル関連定義コマンドの格納領域の初期確保失敗
- 27 : stsflgrp 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 28 : stsflnam 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 29 : オンラインバッチ機能関連定義コマンドの格納領域の初期確保失敗
- 30 : dbqobsrvedef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 31 : dbqobsdef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 32 : dbqobslotdef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 33 : set 形式の module オペランドの格納領域の初期確保失敗
- 34 : set 形式の module オペランドの格納領域の追加確保失敗
- 39 : dbqprcdef 定義コマンドの格納領域の初期確保失敗
- 40 : dbqprcdef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 41 : set 形式の rap\_client\_manager\_node オペランドの格納領域の初期確保失敗
- 42 : set 形式の rap\_client\_manager\_node オペランドの格納領域の追加確保失敗
- 43 : set 形式の rap\_listen\_inf オペランドの格納領域の初期確保失敗
- 44 : set 形式の rap\_listen\_inf オペランドの格納領域の追加確保失敗
- 45 : eemchsrvedef 定義コマンドの格納領域の初期確保失敗
- 46 : eemchsrvedef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 47 : eemchsrvedef 定義コマンドの-v オプションに指定したサービス名の格納領域の確保失敗
- 48 : service\_attr 定義コマンドの格納領域の初期確保失敗
- 49 : service\_attr 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 50 : uoc\_func 定義コマンドの格納領域の初期確保失敗

- 51 : uoc\_func 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 52 : eeudpdef 定義コマンドの格納領域の初期確保失敗
- 53 : eeudpdef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 54 : eeudpdef 定義コマンドの-p オプションに指定したポート番号の格納領域の初期確保失敗
- 55 : eeudpdef 定義コマンドの-p オプションに指定したポート番号の格納領域の追加確保失敗
- 56 : myudpsnddef 定義コマンドの格納領域の初期確保失敗
- 57 : myudpsnddef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 58 : myudpsnddef 定義コマンドの-p オプションに指定したポート番号の格納領域の初期確保失敗
- 59 : myudpsnddef 定義コマンドの-p オプションに指定したポート番号の格納領域の追加確保失敗
- 60 : myudprcvdef 定義コマンドの格納領域の初期確保失敗
- 61 : myudprcvdef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 62 : myudprcvdef 定義コマンドの-p オプションに指定したポート番号の格納領域の初期確保失敗
- 63 : myudprcvdef 定義コマンドの-p オプションに指定したポート番号の格納領域の追加確保失敗
- 64 : myudprcvdef 定義コマンドの-a オプションに指定したホスト名の格納領域の初期確保失敗
- 65 : myudprcvdef 定義コマンドの-a オプションに指定したホスト名の格納領域の追加確保失敗
- 66 : clgrpdef 定義コマンドの格納領域の初期確保失敗
- 67 : clgrpdef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 68 : clgrpdef 定義コマンドの-p オプションに指定したポート番号の格納領域の初期確保失敗
- 69 : clgrpdef 定義コマンドの-p オプションに指定したポート番号の格納領域の追加確保失敗
- 70 : clgrpdef 定義コマンドの-n オプションに指定したノード識別子の格納領域の初期確保失敗
- 71 : clgrpdef 定義コマンドの-n オプションに指定したノード識別子の格納領域の追加確保失敗
- 72 : clgrpdef 定義コマンドの-a オプションに指定したホスト名の格納領域の初期確保失敗
- 73 : clgrpdef 定義コマンドの-a オプションに指定したホスト名の格納領域の追加確保失敗
- 74 : shinfdef 定義コマンドの格納領域の初期確保失敗
- 75 : shinfdef 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 76 : trnaphgroup 定義コマンドの格納領域の初期確保失敗
- 77 : trnaphgroup 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 78 : trnaphputid 定義コマンドの格納領域の初期確保失敗
- 79 : trnaphputid 定義コマンドの格納領域の追加確保失敗
- 80 : trnaphputid 定義コマンドの-u オプションの UAP 履歴情報グループ名の格納領域の初期確保失敗
- 81 : trnaphputid 定義コマンド-u オプションの UAP 履歴情報グループ名の格納領域の追加確保失敗
- 82 : set 形式の queue\_trnlevel オペランドの格納領域の初期確保失敗
- 83 : set 形式の queue\_trnlevel オペランドの格納領域の追加確保失敗
- 84 : 特定 PCI 用処理スレッド機能定義格納領域の初期確保失敗
- 85 : 特定 PCI 用処理スレッド機能定義格納領域の追加確保失敗



bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : 確保に失敗した領域のサイズ

(S)定義解析処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1	メモリが不足しています。	必要なメモリを確保して、TP1/EE を再起動してください。
2	その他の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB61802-E

定義解析処理中に環境変数値の取得に失敗しました。環境変数名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
Acquisition of environment variable values failed during definition analysis. environment variable name = aa....aa, reason code = bb....bb (E) (1) (NOS)

TP1/Server Base で定義された環境変数値の取得に失敗しました。

aa....aa : 取得に失敗した環境変数名

DCUAPCONFPATH : TP1/Server Base のシステム環境定義に指定された環境変数

DCCONFPATH : TP1/Server Base のシステム環境定義に指定された環境変数

DCDIR : TP1/Server Base のホームディレクトリを設定した環境変数

EEDEFFILE : TP1/Server Base のユーザサービス定義に指定された環境変数

EEPARM1 : TP1/Server Base のユーザサービス定義に指定された環境変数

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)定義解析処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1	環境変数が定義されていません。	TP1/Server Base の定義に該当する環境変数が正しく指定されているかどうか確認してください。
2	環境変数の取得関数に渡す引数が不正です。	保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
3	環境変数の指定値が不正です。	TP1/Server Base の定義に該当する環境変数が正しく指定されているかどうか確認してください。

## KFSB61803-E

定義解析処理中に定義ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名 = aa....aa

Opening of the definition file failed during definition analysis. file name = aa....aa (E) (1)  
(NOS)

定義ファイルをオープンできませんでした。

**aa....aa** : オープンできなかったファイルの絶対パス

TP1/EE の起動時に出力された場合で、DCCONFPATH に設定したディレクトリでファイルのオープンに失敗したときは、DCUAPCONFPATH が設定されていれば、DCUAPCONFPATH に設定したディレクトリでファイルをオープンします。DCUAPCONFPATH に設定したディレクトリでのファイルのオープンにも失敗した場合は、DCCONFPATH に設定したディレクトリのパス名が表示されません。

eedefchk コマンドの使用時に出力された場合は、eedefchk コマンドの引数に指定した定義ファイルのパス名が表示されます。

オフラインバッチプロセス起動時に出力された場合は、オフラインバッチ実行環境下に退避した定義ファイルのパス名が表示されます。

(S)定義解析処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義ファイルの障害を取り除き、再実行してください。考えられる障害の要因を次に示します。

- 設定されたファイルが存在しません。
- ファイル障害が発生しました。
- ディスク障害が発生しました。
- 設定されたパスが不正です。
- 設定されたファイルに対するアクセス権限が不正です。
- リソースが不足しています。
- OS の制限（ファイルディスクリプタ、シンボリックリンク数など）を超えています。
- NFS 障害が発生しました。

## KFSB61804-E

定義解析処理中に定義ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb



```
Loading of the definition file failed during definition analysis. file name = aa....aa, line =
bb....bb    (E) (1) (NOS)
```

定義ファイルの読み込み時に障害が発生しました。

**aa....aa** : 障害が発生したファイルの絶対パス

**bb....bb** : 読み込みに失敗した行の行数

(S)定義解析処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義ファイルの障害を取り除き、再実行してください。考えられる障害の要因を次に示します。

- ファイル障害が発生しました。
- ディスク障害が発生しました。
- 設定されたファイルに対するアクセス権限が不正です。
- OS の制限（ファイルディスクリプタ、シンボリックリンク数など）を超えています。
- NFS 障害が発生しました。

## KFSB61805-E

```
定義解析処理中にエラーが発生しました。定義形式が不正です。ファイル名 = aa....aa, 行数 =
bb....bb, 理由コード = cc....cc
```

```
An error occurred during definition analysis. The definition format is incorrect. file name =
aa....aa, line = bb....bb, reason code = cc....cc    (E) (1) (NOS)
```

定義形式が不正です。

**aa....aa** : 不正な内容があったファイルの絶対パス

オフラインバッチ用定義の定義解析で出力された場合は、オペランドの指定を変更する環境変数が表示されます。また、その指定値が不正であるときは\*が表示されます。

**bb....bb** : 不正があった行の行数

**cc....cc** : 理由コード

- 1 : 定義ファイルの 1 行の文字数が規定の範囲（80 文字）を超えています。
- 2 : コマンド名が不正です。または、行の先頭に set でもコマンド名でもない文字列があります。
- 3 : set 形式のオペランドがありません。
- 4 : set 形式のオペランドが不正です。
- 5 : set 形式のオペランドと指定値の間に=がありません。
- 6 : set 形式の指定値がありません。
- 7 : set 形式の形式が誤っています。

- 8：指定値の引用符が閉じていません。
- 9：指定値のあとに不要な文字があります。または、指定値の中に不要な引用符があります。
- 10：文字列がありません。
- 11：指定値がないか、指定値の先頭にコンマがあるか、または、指定値の間にコンマが連続しています。
- 12：指定値の数が規定数を超えています。
- 13：指定値の数が規定数に達していません。
- 14：指定値の間の区切りにコンマがありません。
- 15：指定値が引用符で囲まれていません。
- 16：「ノード名:ポート番号」の形式が不正です。
- 17：「ノード識別子:ポート番号=ノード名:ポート番号」の形式が不正です。
- 18：該当のオペランドはコンマで区切って複数指定できません。または、指定値にコンマを使用できません。
- 19：指定値が絶対パスで指定されていません。

(S)定義解析処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義ファイルの bb...bb 行目に指定した定義を、理由コードに従って見直し、TP1/EE を再起動してください。ファイル名 aa...aa に\*が表示されている場合は、オペランドの指定値を変更する環境変数の設定内容を理由コードに従って見直し、TP1/EE を再起動してください。環境変数名は、このメッセージのあとに出力される **KFSB61823-E** メッセージを参照してください。

## KFSB61806-E

定義解析処理中にエラーが発生しました。設定値が不正です。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, 理由コード = cc....cc

An error occurred during definition analysis. An incorrect value is set. file name = aa....aa, line = bb....bb, reason code = cc....cc (E) (1) (NOS)

定義ファイルに指定した値に不正な内容があります。

**aa...aa**：不正な内容があったファイルの絶対パス

オフラインバッチ用定義の定義解析で出力された場合は、オペランドの指定を変更する環境変数が表示されます。また、その指定値が不正であるときは\*が表示されます。

**bb...bb**：不正があった行の行数

オフラインバッチ用定義の定義解析で出力された場合は、オペランドの指定を変更する環境変数が表示されます。また、その指定値が不正であるときは0が表示されます。

**cc....cc**：理由コード

1：正の数字、または16進数を指定する所に、使用できない文字を指定しているか、または負の値を指定しています。

2: 数値が規定の範囲内にありません。

4: 文字列の文字数が規定の範囲内にありません。

5: 識別子の先頭にアルファベット以外の文字を使用しているか、または英大識別子の先頭に大文字のアルファベット以外の文字を使用しています。

6: 指定できない文字を使用しています。

- 識別子または英数字列を指定する所に、英数字以外の文字を使用しています。
- 英大識別子を指定する所に、大文字の英数字以外の文字を使用しています。
- ホスト名を指定する所に、ホスト名以外の文字を使用しています。

7: 選択値を指定する所に、選択値以外を指定しています。

8: パス名またはファイル名が不正であるか、ファイル名まで指定する所にディレクトリまでしか指定していません。

9: けた数が不正です。

10: cmd\_port オペランドで指定したポート番号が、mysvgdef 定義コマンドの-h オプションで指定したポート番号と重複しています。

cmd\_port オペランドを省略した場合は、cmd\_port オペランドのデフォルト値と mysvgdef 定義コマンドの-h オプションで指定したポート番号が重複していると、この理由コードが表示されます。

11: 指定値の中に不要なコンマがあります。

12: 送信リトライ最大間隔 T2 に、送信リトライ開始間隔 T1 の設定値よりも小さい値が設定されています。

13: ディレクトリまたはファイルのアクセス権が不正です。

14: パス名が不正か、またはディレクトリ名を指定する所にディレクトリ名を指定していません。

15: オペランドの指定値に重複があります。

(S) 定義解析処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義ファイルの bb....bb 行目に指定した定義を、理由コードに従って見直し、TP1/EE を再起動してください。ファイル名 aa....aa に\*が表示されている場合は、オペランドの指定値を変更する環境変数の設定内容を理由コードに従って見直し、TP1/EE を再起動してください。環境変数名は、このメッセージのあとに出力される [KFSB61823-E](#) メッセージを参照してください。

## KFSB61807-E

定義解析処理中にエラーが発生しました。サービス名の定義が不正です。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, 不正箇所 = cc....cc, 理由コード = dd....dd

An error occurred during definition analysis. A service name is incorrectly defined. file name = aa....aa, line = bb....bb, location = cc....cc, reason code = dd....dd (E) (1) (NOS)

定義ファイルの service オペランド, dbq\_service オペランド, dbq\_obs\_service オペランド, または obm\_service オペランドが不正です。

aa....aa : 該当するファイルの絶対パス

bb....bb : service オペランド, dbq\_service オペランド, dbq\_obs\_service オペランド, または obm\_service オペランドの開始行の行数

cc....cc : 不正と判断された文字列

不正と判断された個所にコンマ, イコール, 引用符などの区切り文字が連続している場合は, \*\*を表示します。

dd....dd : 理由コード

1 : サービス名の前に引用符がありません。

2 : 引用符が閉じていません。

3 : サービス名とエントリポインタ名の間には=がありません。

4 : サービス名が指定されていません。

5 : エントリポインタ名が指定されていません。

6 : サービス名に不正があります。

サービス名に空白が含まれる場合も, この理由コードが表示されます。

7 : エントリポインタ名に不正があります。

エントリポインタ名に空白が含まれる場合も, この理由コードが表示されます。

8 : 引用符を閉じたあと, コンマがありません。

9 : 同時処理限界数に不正があります。

同時処理限界数の前後に不要な空白がある場合も, この理由コードが表示されます。

10 : 指定値の中に不要なコンマがあります。

11 : 該当するオペランドには指定できない指定値を指定しています。

(S)定義解析処理を中止し, TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義ファイルの bb....bb 行目に指定した service オペランド, dbq\_service オペランド, dbq\_obs\_service オペランド, または obm\_service オペランドの指定値を理由コードに従って見直し, TP1/EE を再起動してください。

## KFSB61808-E

定義解析処理中にエラーが発生しました。コマンド形式定義が不正です。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, コマンド名 = cc....cc, オプションフラグ = dd, 理由コード = ee....ee

```
An error occurred during definition analysis. The command format definition is incorrect. file name = aa....aa, line = bb....bb, command name = cc....cc, option flag = dd, reason code = ee....ee (E) (1) (NOS)
```

定義ファイルの定義コマンドが不正です。

aa....aa : 該当するファイルの絶対パス

bb....bb : 不正な定義コマンドの開始行の行数

cc....cc : 定義コマンド名

dd : オプションフラグ

ee....ee : 理由コード

1 : コマンド名しかありません。

2 : 設定内容が多過ぎます。または、フラグ引数のどれかに空白が含まれている可能性があります。

3 : オプションフラグを重複して指定しています。

4 : オプションフラグとフラグ引数が対応していません。または、フラグ引数に空白が含まれている可能性があります。

5 : オプションフラグに指定したフラグ引数が不正です。

フラグ引数を不正に引用符で囲んでいる場合、またはフラグ引数で不正にコンマを使用している場合も、この理由コードが表示されます。

6 : フラグ引数に不要なコンマが含まれているか、またはコンマしかありません。

7 : ホストグループのホスト名 : LAN アダプタのホスト名の形式が不正です。

8 : ノード識別子 : HA ホスト名 : LAN アダプタのホスト名の形式が不正です。

9 : オプションフラグが不正であるか、または指定内容の先頭がオプションフラグではありません。

10 : 省略できないオプションフラグを指定していません。

11 : 同時に指定できないオプションフラグを指定しています。

(S) 定義解析処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 定義ファイル中の bb....bb 行目に指定した定義コマンドを、理由コードに従って見直し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB61809-E

```
定義解析処理中にエラーが発生しました。コマンド形式定義の -h で指定したフラグ引数が不正です。  
ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, コマンド名 = cc....cc, 理由コード = dd....dd
```

An error occurred during definition analysis. An incorrect flag argument is specified in -h in the command format definition. file name = aa....aa, line = bb....bb, command name = cc....cc, reason code = dd....dd (E) (1) (NOS)

定義コマンドの-h オプションに指定したフラグ引数が不正です。

**aa....aa** : 該当するファイルの絶対パス

**bb....bb** : フラグ引数が不正な定義コマンドの開始行の行数

**cc....cc** : 定義コマンド名

**dd....dd** : 理由コード

- 1 : 「相手ホスト名:ポート番号」の形式が不正です。
- 2 : 「ポート番号:自ホスト名」の形式が不正です。
- 3 : 最後に不要なコンマがあります。
- 4 : 相手ホスト名が不正です。
- 5 : ポート番号が不正です。
- 6 : 自ホスト名が不正です。
- 7 : 複数指定できないフラグ引数を、コンマで区切って複数指定しています。
- 8 : 「相手ホスト名:ポート番号:自ホスト名」の形式が不正です。

(S)定義解析処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義ファイル中の bb....bb 行目に指定した定義コマンドの-h オプションで指定したフラグ引数を、理由コードに従って見直し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB61810-E

定義解析処理中にエラーが発生しました。システムの上限值を超える定義がされました。ファイル名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

An error occurred during definition analysis. The system upper limit was exceeded. file name = aa....aa, reason code = bb....bb (E) (1) (NOS)

システムの上限值を超える値が指定されました。

**aa....aa** : 該当するファイルの絶対パス

ただし、理由コードが4の場合は、1023バイト分だけ表示されます。

オフラインバッチ用定義の定義解析で出力された場合は、オペランドの指定を変更する環境変数が設定されます。また、その指定値が不正であるときは、\*が表示されます。

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。



(S)定義解析処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。aa....aa に\*が表示されている場合は、オペランドの指定値を変更する環境変数の設定内容を理由コードに従って見直し、TP1/EE を再起動してください。環境変数名は、このメッセージのあとに出力される [KFSB61823-E](#) メッセージを参照してください。

理由コード	意味	対策
1	スレッド数の合計（受信スレッド数+通常処理スレッド数+予備処理スレッド数+応答受信スレッド数+回復スレッド数+タイマ処理スレッド数+1）が1000を超えています。	thread_no オペランド、reserve_thread_no オペランド、recover_thread_no オペランド、tim_perm_thread_no オペランドの指定値、mysvgdef 定義コマンドの-h オプションで指定したポート番号と自ホスト名の組み合わせ数（ポート番号の重複を除く）、および myreplydef 定義コマンドの-h オプションで指定したポート番号と自ホスト名の組み合わせ数の合計が、1000を超えないよう指定し直し、TP1/EE を再起動してください。
2	service オペランド、dbq_service オペランド、dbq_obs_service オペランド、および obm_service オペランドの指定値の合計が32000を超えています。	service オペランド、dbq_service オペランド、dbq_obs_service オペランド、および obm_service オペランドの指定値を見直し、サービス数が32000を超えないよう指定し直し、TP1/EE を再起動してください。
3	mysvgdef 定義コマンドの-h オプションで指定されたポート番号と、自ホスト名の組み合わせ数が上限値を超えています。ただし、ポート番号が同じものは一つとして数えています。	mysvgdef 定義コマンドを見直し、ポート番号と自ホスト名の組み合わせ数がポート番号の重複を除いて64を超えないように指定し直し、TP1/EE を再起動してください。
4	TP1/EE サービス定義ファイルの絶対パス名とファイル名の合計が1023文字を超えています。	TP1/Server Base のユーザーサービス定義で環境変数 EEDEFFILE に指定した TP1/EE サービス定義ファイル名を見直し、TP1/EE サービス定義ファイルの絶対パス名とファイル名の合計が1023文字を超えないように指定し直し、TP1/EE を再起動してください。
5	module オペランドの指定数が64を超えています。	module オペランドの指定数が64を超えないように指定し直し、TP1/EE を再起動してください。
8	TP1/FSP の trnaphgroup 定義コマンドの指定数が30を超えています。	trnaphgroup 定義コマンドの指定数が30を超えないように指定し直し、TP1/EE を再起動してください。
9	TP1/FSP の trnaphputid 定義コマンドの指定数が255を超えています。	trnaphputid 定義コマンドの指定数が255を超えないように指定し直し、TP1/EE を再起動してください。
10	queue_tmlevel オペランドの指定数が255を超えています。	queue_tmlevel オペランドの指定数が255を超えないように指定し直し、TP1/EE を再起動してください。
11	module_dir オペランドまたは static_module_dir オペランドの指定数が5を超えています。	module_dir オペランドまたは static_module_dir オペランドの指定数が5を超えないように指定し直し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB61811-E

定義解析処理中にエラーが発生しました。省略できない定義が未定義です。ファイル名 = aa....aa,  
定義項目 = bb....bb

An error occurred during definition analysis. A mandatory definition is missing. file name =  
aa....aa, definition item = bb....bb (E) (1) (NOS)

省略できないオペランドまたは定義コマンドが指定されていません。

aa....aa : 該当するファイルの絶対パス

bb....bb : 指定されていないオペランドまたは定義コマンド名

(S) 定義解析処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義内容を見直し bb....bb を追加して、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB61812-E

定義解析処理においてメモリリソース領域作成時にエラーが発生しました。

An error occurred while a memory resource area was being created during definition  
analysis. (E) (1) (NOS)

定義解析処理の、メモリリソース領域作成中に障害が発生しました。

(S) 定義解析処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの前に出力された次に示すメッセージを参照し、原因を取り除き、TP1/EE を再起動してください。

- KFSB55101-E メッセージ
- KFSB55190-E メッセージ
- KFSB65101-E メッセージ
- KFSB65102-E メッセージ
- KFSB65103-E メッセージ

## KFSB61813-E

定義で指定したディレクトリが存在しません。定義名 = aa....aa

The directory specified in a definition does not exist. definition name = aa....aa (E+P+L)  
(1) (NOS)



必要なディレクトリが存在しないため、処理を続行できません。

aa....aa : ディレクトリを指定した定義名

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 aa....aa で指定したディレクトリが存在するかどうか確認してください。

#### KFSB61814-E

ディレクトリ存在確認処理中に障害が発生しました。詳細コード = aa....aa

An error occurred during checking of whether a directory exists. detail code = aa....aa (E +P+L) (1) (NOS)

処理に必要なディレクトリの存在確認で障害が発生したため、処理を続行できません。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB61815-E

定義解析処理において関数処理エラーが発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb

A function processing error occurred during definition analysis. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E) (1) (NOS)

定義解析処理で、関数発行時に障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB61816-E

定義解析処理においてエラーが発生しました。設定が不正です。理由コード = aa....aa

An error occurred during definition analysis. A setting is incorrect. reason code = aa....aa  
(E) (1) (NOS)

定義解析処理に必要な設定が不正です。

aa....aa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)定義解析処理を中止し TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1	TP1/Server Base のユーザサービス定義に指定した環境変数 EEDEFFILE に、TP1/EE サービス定義ファイル名称ではなくディレクトリを設定しています。	TP1/Server Base のユーザサービス定義の環境変数 EEDEFFILE に、TP1/EE サービス定義ファイル名称を指定し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB61817-E

定義解析処理中にエラーが発生しました。オペランド設定値間に矛盾があります。ファイル名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

An error occurred during definition analysis. Operand values conflict. file name = aa....aa, reason code = bb....bb (E) (1) (NOS)

オペランドの指定値間で矛盾があります。

aa....aa : 矛盾があるファイルの絶対パス

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)定義解析処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1	シンプルトランザクション機能を使用する設定ですが、プロセス関連定義の dbq_use オペランドに Y を指定しています。	トランザクション関連定義の trn_simpletrn_mode オペランドおよびプロセス関連定義の dbq_use オペランドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。

理由 コード	意味	対策
2	プロセス関連定義の dbq_use オペランドに N を指定していますが、ほかの DB キュー機能関連定義を指定しています。	DB キュー機能関連定義とプロセス関連定義の dbq_use オペランドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
3	プロセス関連定義の cobol_use_flag オペランドに N を指定していますが、メモリ関連定義の memory_cobol_area_size オペランドを指定していません。	プロセス関連定義の cobol_use_flag オペランドおよびメモリ関連定義の memory_cobol_area_size オペランドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
4	シンプルトランザクション機能を使用する設定ですが、プロセス関連定義の dbq_obs_use オペランドに Y を指定しています。	トランザクション関連定義の trn_simpletrn_mode オペランドとプロセス関連定義の dbq_obs_use オペランドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
5	プロセス関連定義の dbq_obs_use オペランドに N を指定していますが、ほかのオンラインバッチ機能関連定義を指定しています。	オンラインバッチ機能関連定義とプロセス関連定義の dbq_obs_use オペランドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
6	RPC 関連定義の rpc_reply_errtrnr オペランドに Y を指定していますが、ユーザサービス関連定義の errtrnr オペランドを指定していません。	RPC 関連定義の rpc_reply_errtrnr オペランドおよびユーザサービス関連定義の errtrnr オペランドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
8	プロセス関連定義の cobol_use_flag オペランドに Y を指定し、かつご使用のプラットフォームでは使用できない COBOL 製品をプロセス関連定義の cobol_lang オペランドに指定しています。	プロセス関連定義の cobol_use_flag オペランドおよび cobol_lang オペランドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
9	シンプルトランザクション機能を使用する設定ですが、サービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンド、-h オプション (ポート番号) に 0 を指定しています。	トランザクション関連定義の trn_simpletrn_mode オペランドおよびサービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
10	RPC 関連定義の name_use オペランドに N を指定していますが、mysvgdef 定義コマンドの -h オプション (ポート番号) に 0 を指定しています。	RPC 関連定義の name_use オペランドおよびサービスグループ情報関連定義の mysvgdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
11	プロセス関連定義の xtc_use オペランドに N を指定していますが、xdb_use オペランドに Y を指定しています。	プロセス関連定義の xtc_use オペランドと xdb_use オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
12	プロセス関連定義の xtc_use オペランドに N を指定していますが、クラスタ連携関連定義の cluster_mode オペランドに Y を指定しています。	プロセス関連定義の xtc_use オペランドとクラスタ連携関連定義の cluster_mode オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
14	プロセス関連定義の xtc_use オペランドおよび fsp_use オペランドに N を指定していますが、ステータスファイル関連定義の sts_fileless_use オペランドに Y を指定しています。	プロセス関連定義の xtc_use オペランド、fsp_use オペランド、およびステータスファイル関連定義の sts_fileless_use オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
15	プロセス関連定義の xtc_use オペランドおよび fsp_use オペランドに N を指定していますが、トランザクション関連定義の trn_transactional_rpcless_use オペランドに Y を指定しています。	プロセス関連定義の xtc_use オペランド、fsp_use オペランド、およびステータスファイル関連定義の sts_fileless_use オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。

理由 コード	意味	対策
16	メモリ関連定義の max_mem_size オペランドと max_mem_size_mb オペランドの両方を指定しています。	メモリ関連定義の max_mem_size オペランドと max_mem_size_mb オペランドのどちらか一方の定義を省略し、TP1/EE を再起動してください。
17	メモリ関連定義の max_mem_size オペランドと max_mem_size_mb オペランドの両方を指定していません。	メモリ関連定義の max_mem_size オペランドと max_mem_size_mb オペランドのどちらか一方を定義し、TP1/EE を再起動してください。
18	クラスタ連携関連定義の cluster_mode オペランドに Y を指定していて、かつ、cluster_test_mode オペランドに N を指定していますが、standby_start_watch_time オペランドを指定していません。	クラスタ連携関連定義の cluster_mode オペランド、cluster_test_mode オペランド、および standby_start_watch_time オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
19	プロセス関連定義の xdb_use オペランドに Y を指定していますが、メモリ関連定義の memory_xdb_area_size オペランドを指定していません。	プロセス関連定義の xdb_use オペランドとメモリ関連定義の memory_xdb_area_size オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
20	プロセス関連定義の xdb_use オペランドに Y を指定していますが、メモリ関連定義の memory_xdb_limit_size オペランドを指定していません。	プロセス関連定義の xdb_use オペランドとメモリ関連定義の memory_xdb_limit_size オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
21	プロセス関連定義の xtc_use オペランドに Y を指定していますが、メモリ関連定義の memory_xtc_area_size オペランドを指定していません。	プロセス関連定義の xtc_use オペランドとメモリ関連定義の memory_xtc_area_size オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
22	プロセス関連定義の xtc_use オペランドに Y を指定していますが、メモリ関連定義の memory_xtc_limit_size オペランドを指定していません。	プロセス関連定義の xtc_use オペランドとメモリ関連定義の memory_xtc_limit_size オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
23	プロセス関連定義の xtc_use オペランドに N を指定していますが、メモリ関連定義の memory_xtc_area_size オペランドまたは memory_xtc_limit_size オペランドを指定していません。	オペランド xtc_use オペランド、memory_xtc_area_size オペランド、memory_xtc_limit_size オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
24	プロセス関連定義の xdb_use オペランドに N を指定していますが、メモリ関連定義の memory_xdb_area_size オペランドまたは memory_xdb_limit_size オペランドを指定していません。	プロセス関連定義の xdb_use オペランド、メモリ関連定義の memory_xdb_area_size オペランド、および memory_xdb_limit_size オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
25	クラスタ連携関連定義の cluster_mode オペランドに N を指定していますが、プロセス関連定義の xdb_use オペランドに Y を指定しています。	クラスタ連携関連定義の cluster_mode オペランドとプロセス関連定義の xdb_use オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
26	プロセス関連定義の xdb_use オペランドに Y を指定していますが、トランザクション関連定義の	プロセス関連定義の xdb_use オペランドとトランザクション関連定義の trn_transactional_rpcless_use オペランド

理由 コード	意味	対策
26	trn_transactional_rpcless_use オペランドに N を指定しています。または、xdb_use オペランドに Y を指定していますが、XA 連携に関する定義を指定しています。	の指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。または、リソースマネージャ連携オブジェクトのリンケージ環境を見直し、再構築してください。
27	シンプルトランザクション機能を使用する設定ですが、プロセス関連定義の xtc_use オペランド、mcp_use オペランド、または fsp_use オペランドに Y を指定しています。	トランザクション関連定義の trn_simpletrn_mode オペランド、プロセス関連定義の xtc_use オペランド、mcp_use オペランド、または fsp_use オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
28	クラスタ連携関連定義の cluster_mode オペランドに Y を指定していますが、ステータスファイル関連定義の sts_fileless_use オペランドに N を指定しているか、または sts_fileless_level オペランドに 1 以外を指定しています。	クラスタ連携関連定義の cluster_mode オペランド、ステータスファイル関連定義の sts_fileless_use オペランド、および sts_fileless_level オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
29	RPC 関連定義の rpc_tcp_communication_use オペランドに N を指定していますが、次のどれかに該当しています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>プロセス関連定義の xtc_use オペランドに N を指定している。</li> <li>RPC 関連定義の name_use オペランドに Y を指定している。</li> <li>トランザクション関連定義の trn_transactional_rpcless_use オペランドに N を指定している。</li> </ul>	RPC 関連定義の rpc_tcp_communication_use オペランド、プロセス関連定義の xtc_use オペランド、RPC 関連定義の name_use オペランド、およびトランザクション関連定義の trn_transactional_rpcless_use オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
30	プロセス関連定義の xtc_use オペランドに N を指定していますが、メモリ関連定義の memory_mdpsys_area_size オペランド、または memory_mdpsur_area_size オペランドを指定しています。	プロセス関連定義の xtc_use オペランド、メモリ関連定義の memory_mdpsys_area_size オペランドおよび memory_mdpsur_area_size オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
31	clgrpdef 定義コマンドを省略していますが、クラスタ関連定義の cluster_test_mode オペランドに Y を指定しています。	クラスタ関連定義の cluster_test_mode オペランド、または UDP グループ情報関連定義の clgrpdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
32	メモリ関連定義の system_user_area オペランド、および system_user_area_mb オペランドの両方を指定しています。	メモリ関連定義の system_user_area オペランド、または system_user_area_mb オペランドのどちらか一方の定義を省略し、TP1/EE を再起動してください。
33	メモリ関連定義の thread_user_area オペランド、および thread_user_area_mb オペランドの両方を指定しています。	メモリ関連定義の thread_user_area オペランド、または thread_user_area_mb オペランドのどちらか一方の定義を省略し、TP1/EE を再起動してください。
34	プロセス関連定義の fsp_use オペランドに N を指定していますが、TP1/FSP のユーザサービス関連定義の shinfdef 定義コマンド、または ji_tm オペランドを指定しています。	fsp_use オペランド、shinfdef 定義コマンド、および ji_tm オペランドの設定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。

理由 コード	意味	対策
35	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の shinfdef 定義コマンドまたは ji_trn オペランドのどちらか片方しか指定していません。	shinfdef 定義コマンドと ji_trn オペランドの両方を指定するか、両方を省略し、TP1/EE を再起動してください。
36	プロセス関連定義の fsp_use オペランドに N を指定していますが、TP1/FSP のトランザクション関連定義の trn_aph_use オペランドで Y を指定しています。	fsp_use オペランド、および trn_aph_use オペランドの設定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
37	プロセス関連定義の fsp_use オペランドに Y を指定していますが、dbq_obs_use オペランドで Y を指定しているか、または xtc_use オペランドで Y を指定しています。	fsp_use オペランド、dbq_obs_use オペランド、および xtc_use オペランドの設定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
38	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の queue_draw_method 定義コマンドに trnlevel を指定していますが、queue_trnlevel オペランドを指定していません。	queue_draw_method 定義コマンド、および queue_trnlevel オペランドの設定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
39	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の queue_draw_method 定義コマンドに trnlevel を指定していますが、uoc_func オペランドを指定していません。	queue_draw_method 定義コマンド、および uoc_func オペランドの設定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
40	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の queue_draw_method 定義コマンドに trnlevel を指定していますが、プロセス関連定義の reserve_thread_no オペランドで 0 以外を指定しています。	queue_draw_method 定義コマンド、および reserve_thread_no オペランドの設定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
41	プロセス関連定義の fsp_use オペランドに N を指定していますが、TP1/FSP のユーザサービス関連定義の queue_draw_method オペランドに trnlevel を指定しています。	fsp_use オペランド、および queue_draw_method オペランドの設定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
42	プロセス関連定義の fsp_use オペランドに N を指定していますが、TP1/FSP のユーザサービス関連定義の user_init_ut オペランドを指定しています。	fsp_use オペランド、および user_init_ut オペランドの設定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
43	プロセス関連定義の cobol_use_flag オペランドに N を指定していますが、メモリ関連定義の memory_cobol_area_thd_size オペランドを指定しています。	スレッド単位の COBOL 用メモリ管理機能が必要な場合は、cobol_use_flag オペランドに Y を指定してください。必要でない場合は、memory_cobol_area_thd_size オペランドを指定しないでください。 対策後、TP1/EE を再起動してください。
44	プロセス関連定義の fsp_use オペランドに N を指定していますが、TP1/FSP の SDB ハンドラ関連定義の sdh_use オペランドで Y を指定しています。	fsp_use オペランド、および sdh_use オペランドの設定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
46	TP1/FSP の OBM 関連定義の obm_server_type オペランドに M または S を指定していますが、プロセス関連定義の fsp_use オペランドに N を指定しています。	obm_server_type オペランド、および fsp_use オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。



理由 コード	意味	対策
47	TP1/FSP の OBM 関連定義の obm_server_type オペランドに M または S を指定していますが、RPC 関連定義の name_use オペランドに N を指定していません。	obm_server_type オペランド、および name_use オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
48	TP1/FSP の OBM 関連定義の obm_server_type オペランドに M または S を指定していますが、RPC 関連定義の rpc_nowait_cnt オペランドに 0 を指定していません。	obm_server_type オペランド、および rpc_nowait_cnt オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
49	TP1/FSP の OBM 関連定義の obm_server_type オペランドに M または S を指定していますが、TP1/FSP のメモリ関連定義の memory_obm_area_size オペランドを指定していません。	obm_server_type オペランド、および memory_obm_area_size オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
50	プロセス関連定義の fsp_use オペランドに Y を指定していますが、ユーザサービス関連定義の module オペランドを指定していません。	fsp_use オペランド、および module オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
51	プロセス関連定義の fsp_use オペランドに Y を指定していますが、TP1/FSP のユーザサービス関連定義の uap_exchange_use オペランドに Y を指定していません。	fsp_use オペランド、および uap_exchange_use オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
52	プロセス関連定義の fsp_use オペランドに Y を指定していますが、TP1/FSP のユーザサービス関連定義の module_dir オペランドを指定していません。	fsp_use オペランド、および module_dir オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
53	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の uapdir_exchange_use オペランドに Y を指定していますが、RPC 関連定義の name_use オペランドに N を指定していません。	uapdir_exchange_use オペランド、および name_use オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
54	プロセス関連定義の fsp_use オペランドに N を指定していますが、TP1/FSP のユーザサービス関連定義の module_dir オペランドまたは static_module_dir オペランドを指定していません。	fsp_use オペランド、module_dir オペランド、および static_module_dir オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
55	プロセス関連定義の fsp_use オペランドに N を指定していますが、TP1/FSP のユーザサービス関連定義の uapdir_exchange_use オペランドに Y を指定していません。	fsp_use オペランド、および uapdir_exchange_use オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
56	RPC 関連定義の name_use オペランドに N を指定していますが、TP1/FSP のタイマ関連定義の tim_perm_thread_no オペランドに 1 以上の値を指定していません。	name_use オペランド、および tim_perm_thread_no オペランドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
57	<b>【Linux 限定】</b>	<b>【Linux 限定】</b> オペランド descriptors_expanse_use, max_descriptors, fil_filesystem_no, socket_no,

理由 コード	意味	対策
57	descriptors_expanse_use オペランドの指定が' N' であるにもかかわらずオペランドの上限値が拡張されています。	rpc_reply_con_max_cnt, rpc_reply_con_cnt, rpc_reply_proc_max_cnt, rap_max_client, rpc_tcpseend_con_max_cnt, rpc_tcpseend_con_cnt, rpc_tcpseend_proc_max_cnt の設定内容を見直し、対策後 TP1/EE を再起動してください。
59	trn_cl_rpc_reply_timing オペランドの指定が' N' または省略しているにもかかわらず、trn_cl_commit_func_timing オペランドに' 1' を指定しています。	オペランド trn_cl_rpc_reply_timing, trn_cl_commit_func_timing の指定を見直し、対策後 TP1/EE を再起動してください。
60	eesvgdef コマンド形式定義で-c オプションを指定しているにもかかわらず、同一 eesvgdef コマンド形式定義の-t オプションで' RPC' 以外を指定しているか、または name_use に' N' を指定しています。	eesvgdef コマンド形式定義、オペランド name_use の設定内容を見直し、対策後 TP1/EE を再起動してください。
61	fsp_use の指定が' N' であるにもかかわらず、hub_use に' Y' を指定しています。	fsp_use オペランド、hub_use の指定を見直し、対策後 TP1/EE を再起動してください。
62	assistance_use オペランドに' Y' を指定しているにもかかわらず、fsp_use オペランドで' N' を指定しているか、MCP 構成定義の eemcpcn コマンド形式定義-z オプションか eemcpatmuapt コマンド形式定義が指定されていません。	assistance_use, fsp_use オペランド、MCP 構成定義の eemcpcn コマンド形式定義-z オプションまたは eemcpatmuapt コマンド形式定義の指定値を見直し、対策後 TP1/EE を再起動してください。
63	rpc_reply_errtrn3 の指定が' Y' であるにもかかわらず、errtrn3 オペランドを指定していません。	オペランド rpc_reply_errtrn3 と errtrn3 の設定内容を見直し、対策後に TP1/EE を再起動してください。
64	hub_use オペランドの指定が' N' であるにもかかわらず、trn_rm_pool_use オペランドに' Y' を指定しています。	オペランド hub_use と trn_rm_pool_use の設定内容を見直し、対策後に TP1/EE を再起動してください。
65	trn_aph_nonxa_use オペランドに' Y' を指定しているにもかかわらず、hub_use オペランドに' N' を指定しているか、または trn_aph_use オペランドに' N' を指定しています。	オペランド trn_aph_nonxa_use, hub_use と trn_aph_use の設定内容を見直し、対策後に TP1/EE を再起動してください。

## KFSB61818-E

```
yyyy/mm/dd hh:mm:ss (aa....aa) KFSB61818-E Command practice server(eeadmspp) failed
in starting. function=bb....bb, code=cc....cc (E) (1) (NOS)
```

運用コマンド実行サーバの起動中に発行した関数がエラーリターンしたため、サーバの起動に失敗しました。

yyyy/mm/dd : 起動に失敗した年月日

hh:mm:ss : 起動に失敗した時分秒

aa....aa : 起動に失敗したプロセス ID (10 進形式)



bb...bb : エラーリターンした関数名

cc....cc : エラーリターンした関数のリターンコード

(S)運用コマンド実行サーバの起動を停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** エラーリターンした関数とそのリターンコードから原因を調査して、運用コマンド実行サーバを再起動してください。関数とリターンコードの詳細については、マニュアル「OpenTP1 プログラム作成リファレンス C 言語編」またはマニュアル「OpenTP1 プログラム作成リファレンス COBOL 言語編」のうち、ご使用になる言語に対応したマニュアルを参照してください。

## KFSB61819-E

ステータスファイルアクセスでエラーが発生しました。理由コード = aaaa, 詳細コード = bb...bb  
An error occurred during status file access. reason code = aaaa, detail code = bb...bb (E)  
(1) (NOS)

ステータスファイルアクセスに失敗しました。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb...bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)初期化処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1000	ステータスレコードの確保に失敗しました。	以前に出力されているメッセージに従って対策してください。
1001	ステータスファイルの書き込みに失敗しました。	
1002	ステータスファイルの読み込みに失敗しました。	
1009	ステータスファイルの書き込み領域の確保に失敗しました。	

## KFSB61821-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb...bb  
An internal contradiction occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb...bb (E)  
(1) (NOS)

関数発行時に、内部矛盾が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB61822-E

```
代理応答ネーム削除に失敗しました。 I Pアドレス= aa....aa, ポート番号= bb....bb, 詳細コード 1  
= cccc, 詳細コード 2 = dd....dd
```

```
Deletion of the proxy name failed. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, detail code  
1 = cccc, detail code 2 = dd....dd (E+P+L) (1) (NOS)
```

代理応答ネーム情報の削除に失敗しました。

aa....aa : 代理応答ネーム情報の削除要求先の IP アドレス

bb....bb : 代理応答ネーム情報の削除要求先のポート番号

cccc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB61823-E

```
環境変数が不正です。環境変数名 = aa....aa
```

```
An environment variable is incorrect. environment variable name = aa....aa (E+P+L) (1)  
(NOS)
```

環境変数に設定した内容が不正です。

aa....aa : 環境変数名

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メッセージに表示された環境変数を確認してください。環境変数に問題がない場合は保守員に連絡してください。

## KFSB61824-E

```
XTC用ライブラリのローディングに失敗しました。ライブラリ名= aa....aa, 詳細コード= bb....bb  
Failed to load the XTC library. library name = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (1)  
(NOS)
```

XTC 用ライブラリのローディングに失敗しました。

**aa....aa** : ローディングに失敗したライブラリ名

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** プロセス関連定義の xtc\_use オペランドの指定値を確認してください。また、ライブラリが存在するか確認してください。

## KFSB61825-E

```
XDB用ライブラリのローディングに失敗しました。ライブラリ名= aa....aa, 詳細コード1 =  
bb....bb, 詳細コード2 = cc....cc, 詳細コード3 = dd....dd  
Failed to load the XDB library. library name = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2  
= cc....cc, detail code 3 = dd....dd (E+P+L) (1) (NOS)
```

XDB 用ライブラリのローディングに失敗しました。

**aa....aa** : ローディングに失敗したライブラリ名

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**dd....dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** プロセス関連定義の xdb\_use オペランドの指定値を確認してください。また、ライブラリが存在するか確認してください。

## KFSB61826-E

MCP用ライブラリのローディングに失敗しました。ライブラリ名 = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc, 詳細コード 3 = dd....dd

Failed to load the MCP library. library name = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc, detail code 3 = dd....dd (E+P+L) (1) (NOS)

MCP用ライブラリのローディングに失敗しました。

aa....aa : ローディングに失敗したライブラリ名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** プロセス関連定義の mcp\_use オペランドの指定値を確認してください。また、ライブラリが存在するか確認してください。

## KFSB61827-E

MCPの初期化処理に失敗しました。詳細コード = aa....aa

Failed to format the MCP. detail code = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

MCPの初期化処理で障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されていれば、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。

## KFSB61828-E

XDBの定義解析でエラーが発生しました。詳細コード = aa....aa

An error has occurred during definition analysis for the XDB. detail code = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

XDBの定義解析で障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されていれば、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。

## KFSB61829-E

定義解析処理中にエラーが発生しました。トランザクションレベル名の定義が不正です。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, 不正箇所 = cc....cc, 理由コード = dd....dd

An error occurred during definition analysis. A transaction level name is incorrectly defined.  
file name = aa....aa, line = bb....bb, location = cc....cc, reason code = dd....dd (E) (1)  
(NOS)

定義ファイル中 bb....bb 行目のユーザサービス関連定義の queue\_trnlevel オペランドの指定が不正です。

aa....aa : ファイル名の絶対パス

bb....bb : TP1/FSP のユーザサービス関連定義の queue\_trnlevel オペランドの開始行の行数

cc....cc : 不正と判断した文字列

不正と判断した個所にコンマやイコール、引用符などの区切り文字が連続して記述してある場合、ここには\*\*が表示されます。

dd....dd : 理由コード

1 : トランザクションレベル名の前に引用符がありません。

2 : 引用符が閉じていません。

3 : 同時処理限界数に不正があります。

同時処理限界数の前後に不要な空白がある場合も、この理由コードが表示されます。

4 : トランザクションレベル名に不正があります。

トランザクションレベル名に空白が含まれるエラーの場合も、この理由コードが表示されます。

5 : 引用符を閉じたあと、コンマがありません。

(S)定義解析処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義ファイル中の bb....bb 行目に指定したユーザサービス関連定義の queue\_trnlevel オペランドの指定値について、不正個所に該当する部分を理由コードに従って見直し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB61830-E

F S P用ライブラリのローディングに失敗しました。ライブラリ名 = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc, 詳細コード 3 = dd....dd

Failed to load the FSP library. library name = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc, detail code 3 = dd....dd (E+P+L) (1) (NOS)

FSP 用ライブラリのローディングに失敗しました。

aa....aa : ローディングに失敗したライブラリ名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** プロセス関連定義の fsp\_use オペランドの指定値を確認してください。また、ライブラリが存在するか確認してください。

ライブラリの前提バージョンを確認してください。

## KFSB61831-E

コマンド形式定義の定義解析中にエラーが発生しました。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, 定義名 = cc....cc, オプションフラグ = dd....dd, オペランド名 = ee....ee, 理由コード = ff....ff

An error occurred while a command format definition was being analyzed. file name = aa....aa, line = bb....bb, definition name = cc....cc, option flag = dd....dd, operand name = ee....ee, reason code = ff....ff (E) (NOS)

定義ファイルの定義コマンドを解析中にエラーが発生しました。

aa....aa : 障害が発生したファイルのファイルパス

bb....bb : 不正があった行の行番号

行番号に関係のない場合は、\*\*を表示します。

cc....cc : 定義コマンド名

複数の定義コマンド名に関係のある場合は、:で区切って複数表示します。

dd....dd : オプションフラグ

複数のオプションフラグに関係のある場合は、:で区切って複数表示します。オプションフラグに関係のない場合は、\*\*を表示します。

ee....ee : オペランド名

複数のオペランドに関係のある場合は、:で区切って複数表示します。オペランド名に関係のない場合は、\*\*を表示します。

ff....ff : 理由コード

DUPLICATE : オプションフラグまたはオペランドを重複して指定しています。

FLAG : オプションフラグに指定したフラグ引数が不正または指定できないフラグを指定しています。

MAX : 最大定義数を超過しました。

MEMORY : 定義解析用の作業用領域の確保に失敗しました。

MIN : 最小定義数を超過しました。または、省略できない定義コマンドが定義されていません。

NOTHING : 省略できないコマンド、オプションフラグまたはオペランドを指定していません。

OPERAND : オペランドに指定した値が不正、または指定できないオペランドを指定しています。

OVER : 指定内容が多過ぎます。または、フラグ引数のどれかに空白が含まれています。

(S) 定義解析を中止しプロセスを強制停止します。

(O) 理由コードを見て対処してください。

理由コードが MEMORY の場合

しばらく待ってから TP1/EE を再実行してください。再発する場合、OpenTP1 管理者に連絡してください。

上記以外の理由コードの場合

OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コードが MEMORY の場合は、OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。定義ファイルの bb....bb 行目に指定した定義コマンドを理由コードに従って見直し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB61832-E

```
Hub用ライブラリのローディングに失敗しました。ライブラリ名= aa....aa, 詳細コード= bb....bb
Failed to load the Hub library. library name = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (1)
(NOS)
```

TP1/FSP-Hub 用ライブラリのローディングに失敗しました。

aa....aa : ローディングに失敗したライブラリ名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** hub\_use の指定値を確認してください。

ライブラリが存在するか確認してください。

## KFSB61833-E

A s s i s t a n c e用ライブラリのローディングに失敗しました。ライブラリ名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

Failed to load the Assistance library. library name = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

TP1/FSP-Assistance 用ライブラリのローディングに失敗しました。

aa....aa : ローディングに失敗したライブラリ名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** assistance\_use の指定値を確認してください。

ライブラリが存在するか確認してください。

## KFSB61901-E

拡張 SYSLOG ライブラリルーチンのローディングに失敗しました。ライブラリ名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd

An attempt to load the library routine failed. library name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (E) (1) (NOS)

拡張 SYSLOG ライブラリルーチンのローディングに失敗しました。

aa....aa : ローディングに失敗した拡張 SYSLOG ライブラリ名

bbbb : 理由コード

0001 : 拡張 SYSLOG ライブラリのオープン失敗

0002, 0003 : 拡張 SYSLOG ライブラリルーチンのアドレス取得失敗

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。



【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	対策
0001	拡張 SYSLOG がインストールされているか確認してください。直前に KFSB40107-E メッセージが出力されていれば、エラーコード、およびダイナミックローディングモジュールのシステムコールがエラーリターンした場合のエラー内容を参照して、原因を取り除いてください。メッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。
0002	直前に KFSB40107-E メッセージが出力されていれば、エラーコード、およびダイナミックローディングモジュールのシステムコールがエラーリターンした場合のエラー内容を参照して、原因を取り除いてください。メッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。
0003	拡張 SYSLOG 02-00 以降がインストールされているか確認してください。直前に KFSB40107-E メッセージが出力されていれば、エラーコード、およびダイナミックローディングモジュールのシステムコールがエラーリターンした場合のエラー内容を参照して、原因を取り除いてください。メッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。

## KFSB61902-E

SYSLOG 出力の設定が不正です。理由コード = aa....aa

The SYSLOG output setting is invalid. reason code=aa....aa (E) (1) (NOS)

syslog 出力の設定値に不正があります。

aa....aa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	COBOL で syslog 出力する指定と、拡張 SYSLOG 機能を使用する指定に矛盾があります。	環境変数 CBLSYSLOG の指定値、またはメッセージログ関連定義の log_syslog_elist オペランドの指定値を確認してください。CBLSYSLOG に YES を指定する場合は log_syslog_elist オペランドに 1 以上の値を指定してください。

## KFSB62000-E

領域の確保に失敗しました。要求サイズ = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An attempt to allocate area has failed. request size = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (P+L) (1) (NOS)

データ連携支援で使用する領域の確保に失敗しました。

aa....aa : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) データ連携支援のプロセスを強制停止します。

(O) しばらく待ってからデータ連携支援を再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	OS メモリの確保に失敗しました。	OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。
0002	共有メモリの確保に失敗しました。	
0003	OS メモリの確保時に、内部矛盾が発生しました。	OpenTP1 管理者に連絡してください。
0004	共有メモリの確保時に、内部矛盾が発生しました。	
0005	共有メモリのアタッチに失敗、または共有メモリのアタッチ時に、内部矛盾が発生しました。	

## KFSB62002-E

パラメタが不一致です。制御文 = aa....aa, オペランド名 = bb....bb, オペランド値 1 = cc....cc, オペランド値 2 = dd....dd

Parameters do not match. control statement = aa....aa, operand name = bb....bb, operand value 1 = cc....cc, operand value 2 = dd....dd (P+L) (1) (NOS)

データ連携支援の再開始時に、前回起動時の開始パラメタと今回の開始パラメタで不一致があります。なお、オペランド値に NOTHING が表示されている場合、オペランドが指定されていないことを示します。

aa....aa : 制御文 (CONTROL 文, INPUT 文, または OUTPUT 文)

bb....bb : オペランド名

cc....cc : 前回起動時のオペランド値, または NOTHING

dd....dd : 今回起動時のオペランド値, または NOTHING

(S) データ連携支援のプロセスを強制停止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 表示されたオペランド値を修正し、データ連携支援を再実行してください。

## KFSB62003-E

最終累積データ通番が見つかりませんでした。最終累積データ通番 = aa....aa

The last accumulated data number does not exist. last accumulated data number =  
aa....aa (P+L) (1) (NOS)

強制開始時に、指定した最終累積データ通番が見つかりませんでした。

aa....aa：最終累積データ通番（16けたの16進数）

(S)データ連携支援のプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 指定された最終累積データ通番を見直し、再度、データ連携支援を強制開始してください。

## KFSB62004-E

UJ 数が、指定した値を超えました。

The number of UJs exceeded the specified value. (P+L) (1) (NOS)

UOC に渡す 1 トランザクションの UJ 数が、OUTPUT 文の UAPMXCT オペランドに指定した値を超えました。

(S)データ連携支援のプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** OUTPUT 文の UAPMXCT オペランドに指定する値を大きくして、データ連携支援を再実行してください。

## KFSB62007-E

データ連携支援の初期化に失敗しました。理由コード = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

Failed to initialize the data linkage support. reason code = aa....aa, detail code = bb....bb  
(P+L) (1) (NOS)

データ連携支援の初期化に失敗しました。

aa....aa：理由コード

0004：領域の確保に失敗しました。

bb....bb：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)データ連携支援のプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コードで出力されたコード一覧に従って対策してください。

理由コード	意味	対策
0004	TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報	このメッセージの前に出力されている次のメッセージを基にエラー要因を取り除き、対策してください。 • KFSB62000-E 解決できない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB62008-E

処理中に障害が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb

An error occurred during processing. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (P+L) (1) (NOS)

データ連携支援の処理中に障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)データ連携支援のプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB62010-E

継続不可の障害が発生した為、データ連携支援のプロセスを強制停止します。データ連携支援 ID = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd

Cannot continue by error. Shutdown the data linkage support process. data linkage support ID = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (P+L, P) (1) (NOS)

続行できない障害が発生したため、データ連携支援のプロセスを強制停止します。

aa....aa : データ連携支援 ID

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)データ連携支援のプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コードで出力されたコード一覧に従って対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	開始処理中に障害が発生しました。	<p>このメッセージの前に次のメッセージが出力されている場合は、メッセージに従ってエラー要因を取り除き、対策してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• KFSB62000-E~KFSB62002-E</li> <li>• KFSB62008-E</li> <li>• KFSB52110-E~KFSB52137-E</li> <li>• KFSB50970-E</li> </ul> <p>これらのメッセージが出力されない、または解決できない場合は、保守員に連絡してください。</p>
0002	抽出処理中に障害が発生しました。	<p>このメッセージの前に次のメッセージが出力されている場合は、メッセージに従ってエラー要因を取り除き、対策してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• KFSB62003-E~KFSB62004-E</li> <li>• KFSB62008-E</li> <li>• KFSB52110-E~KFSB52137-E</li> <li>• KFSB52008-W</li> <li>• KFSB52009-E</li> <li>• KFSB50970-E</li> </ul> <p>対策後、データ連携支援の再開に失敗した場合、制御情報ファイルの BLOCKNO オペランドに KFSB62011-E で表示した仕掛中累積データ通番、最終累積データ通番を設定し、再実行してください。これらのメッセージが出力されない、または解決できない場合は、保守員に連絡してください。</p>
0003	終了処理中に障害が発生しました。	<p>このメッセージの前に次のメッセージが出力されている場合は、メッセージに従ってエラー要因を取り除き、対策してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• KFSB62003-E~KFSB62004-E</li> <li>• KFSB62008-E</li> <li>• KFSB52110-E~KFSB52137-E</li> <li>• KFSB52008-W</li> <li>• KFSB52009-E</li> <li>• KFSB50970-E</li> </ul> <p>対策後、データ連携支援の再開に失敗した場合、制御情報ファイルの BLOCKNO オペランドに KFSB62011-E で表示した仕掛中累積データ通番、最終累積データ通番を設定し、再実行してください。これらのメッセージが出力されない、または解決できない場合は、保守員に連絡してください。</p>

理由コード	意味	対策
0004	抽出処理中に、DB アクセスでエラーが発生しました。	このメッセージの前に次のメッセージが出力されている場合は、メッセージに従ってエラー要因を取り除き、対策してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• KFSB62003-E~KFSB62004-E</li> <li>• KFSB62008-E</li> <li>• KFSB52110-E~KFSB52137-E</li> <li>• KFSB52008-W</li> <li>• KFSB52009-E</li> <li>• KFSB50970-E</li> </ul> 対策後、データ連携支援の再開に失敗した場合、制御情報ファイルの BLOCKNO オペランドに KFSB62011-E で表示した仕掛中累積データ通番、最終累積データ通番を設定し、再実行してください。これらのメッセージが出力されない、または解決できない場合は、保守員に連絡してください。
0005	抽出一時中断時間が tm_rks_trn_wait 定義値に達しました。	事前に出力されている以下のメッセージに従って対策してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• KFSB42005-W</li> </ul>
0006	反映先指定 UOC のサービス名指定エリアの設定が不正です。	事前に出力されている以下のメッセージに従って対策してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• KFSB62016-E</li> </ul>
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB62011-E

データ連携支援の障害情報：データ連携支援 ID = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 = bb....bb, ルート世代番号 = ccccccc, 世代番号 = dddddddd, 履歴情報表名 = ee....ee, 累積データ通番 = ff....ff (gg....gg), 最大累積データ通番 = hh....hh

Data linkage support error information: data linkage support ID = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, root generation number = ccccccc, generation number = dddddddd, log information table name = ee....ee, accumulated data number = ff....ff (gg....gg), maximum accumulated data number = hh....hh (P+L,P) (1) (NOS)

データ連携支援の障害情報を出力します。

aa....aa：データ連携支援 ID

bb....bb：UAP 履歴情報グループ名

ccccccc：終了したルート世代番号（8 けたの 16 進数）

ddddddd：最終世代番号（8 けたの 16 進数）

ee....ee：最終世代番号に対応する履歴情報表名

**ff...ff** : 仕掛かり中の累積データ通番 (16 けたの 16 進数)

反映サービス処理が完了していないユーザデータ (UJ) のうち、最小の累積データ通番を設定します。トランザクション内で複数の UAP 履歴情報を取得している場合、先頭のユーザデータ (UJ) の累積データ通番となります。

反映サービス処理が完了しているときは、最終累積データ通番と同じ値を設定します。

**gg...gg** : 最終累積データ通番 (16 けたの 16 進数)

反映サービス処理が完了したユーザデータ (UJ) の最終累積データ通番を設定します。

**hh...hh** : 最大累積データ通番 (16 けたの 16 進数)

オンライン (TP1/EE) が出力した最大の累積データ通番を設定します。

抽出対象がリロード用履歴情報表の場合は、すべて 0 が表示されます。

(S) データ連携支援のプロセスを強制停止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 直前に出力されている KFSB62010-E メッセージを基にエラー要因を取り除き、対策してください。

## KFSB62015-E

データサイズの指定値が不正です。反映サービス名 = aa....aa, リターンコード = bb....bb, 最大データサイズ = cc....cc, 指定サイズ値 = dd....dd

The value specified for the data size is invalid. reflect service name = aa....aa, return code = bb....bb, maximum data size = cc....cc, specified size value = dd....dd (P+L) (1) (NOS)

データサイズの指定値が不正です。

**aa....aa** : 反映サービス名

**bb....bb** : 編集 UOC リターンコード

UOC 省略時は「\*\*\*\*」を表示します。

**cc....cc** : 最大データエリアサイズ

trn\_rks\_max\_msg\_size オペランド, または eedbqtblh 定義コマンドの-z オプションの指定値を表示します。

**dd....dd** : 指定サイズ値

bb....bb が「\*\*\*\*」の場合: 対象 UJ サイズ

bb....bb が「0」の場合: UOC 引数の編集データサイズ指定値

bb....bb が「4」の場合: 対象 UJ サイズ

(S) データ連携支援を中断します。

再開時, データ連携支援は中断したトランザクションの UJ から渡します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。



**【対策】** 編集 UOC の編集データサイズ指定値, trn\_rks\_max\_msg\_size オペランド, または eedbqtblh 定義コマンドの -z オプションの指定値を見直してください。

## KFSB62016-E

反映先指定 UOC のサービス名指定エリアの設定が不正です。理由コード = aa....aa, 指定サービス数 = bb....bb, 最大サービス数 = cc....cc, 反映サービス名 = dd....dd

The area settings that specify the UOC service name that dictates the reflecting destination are invalid. reason code = aa....aa, number of specified services = bb....bb, maximum number of services = cc....cc, reflect service name = dd....dd (P+L) (1) (NOS)

反映先指定 UOC のサービス名指定エリアの設定が不正です。

**aa....aa** : 理由コード

理由コードの意味を表に示します。

**bb....bb** : 指定サービス数

**cc....cc** : 最大サービス数

**dd....dd** : 反映サービス名

表示する反映サービス名を表に示します。

(S) データ連携支援を強制停止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コードに従って, trnrks\_service 定義コマンドの指定値を見直してください。または反映先指定 UOC の処理を見直してください。

理由コード	意味	反映サービス名
0001	サービス数が最大サービス数を超過しました。	「****」を表示します。
0002	指定した反映サービス名が未定義です。 または, 反映サービス名の設定がありません。	未定義の反映サービス名を表示します。 反映サービス名の設定がない場合は「****」を表示します。
0003	同じ UJ で重複した反映サービス名を指定しています。	重複した反映サービス名を表示します。

## KFSB62018-E

前回起動時の定義値と今回起動時の定義値が異なります。データ連携支援を強制停止します。オペランド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 前回情報 = cc....cc, 今回情報 = dd....dd

The defined value when starting the last time and the defined value when starting this time do not match. The data linkage support will now be forcefully terminated. operand name =



aa....aa, reason code = bb....bb, previous information = cc....cc, current information = dd....dd (P+L) (1) (NOS)

前回起動時の定義値と今回起動時の定義値が異なります。データ連携支援を強制停止します。

aa....aa：オペランド名

bb....bb：理由コード

理由コードに応じた前回起動時の定義情報を表に示します。

cc....cc：前回起動時の定義情報

表示する前回起動時の定義情報を表に示します。

dd....dd：今回起動時の定義情報

理由コードに応じた今回起動時の定義情報を表に示します。

(S)データ連携支援を強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コードに従って aa....aa 定義の指定値を見直して、データ連携支援を再実行してください。

理由コード	意味	前回起動時の定義情報、および今回起動時の定義情報
0001	前回と今回の定義数が異なります。	aa....aa オペランドの定義数
0002	前回と今回の定義のオプションが異なります。	aa....aa オペランドで指定したオプションフラグ名
0003	前回と今回の定義の指定値が異なります。	aa....aa オペランドで指定した指定値。前回情報、または今回情報がない場合は「****」を表示します。

## KFSB62019-E

定義解析処理中にエラーが発生しました。オペランド設定値間に矛盾があります。理由コード = aa....aa, オペランド 1 = bb....bb, オペランド 2 = cc....cc

An error occurred during definition analysis. Operand values conflict. reason code = aa....aa, operand 1 = bb....bb, operand 2 = cc....cc (P+E) (1) (NOS)

オペランド設定値間に矛盾があります。

aa....aa：理由コード

理由コードの意味を表に示します。

bb....bb：オペランド 1

理由コードに応じたオペランド値を表に示します。

cc....cc：オペランド 2

理由コードに応じたオペランド値を表に示します。

(S)データ連携支援を強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コードに従って、オペランドの指定値を見直してください。

理由コード	意味	オペランド 1	オペランド 2
0001	trnrks_service 定義で指定したリソースマネージャ名が trnstring 定義で未定義です。	trnrks_service 定義-n オプション指定値	trnrks_service 定義-i オプションの指定値。-i オプションを未指定の場合は「**」を表示します。
0002	trnrks_service 定義で指定した送信先サービスグループ名が eesvgdef 定義で未定義です。	trnrks_service 定義-v オプションで指定した送信先サービスグループ名	「**」を表示します。
0003	データ連携支援制御情報ファイルの PJUPITVL オペランド指定値未満の値を、trn_rks_max_trn_num オペランドに指定しています。	trn_rks_max_trn_num オペランド指定値	データ連携支援制御情報ファイルの PJUPITVL オペランド指定値

## KFSB62100-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc  
An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc (P+L) (1) (NOS)

内部矛盾が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)データ抽出ユティリティを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】保守員に連絡してください。

## KFSB64300-E

領域の確保に失敗しました。対象領域コード = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb, 詳細コード = cc....cc  
An attempt to allocate area has failed. target area code = aa....aa, request size = bb....bb, detail code = cc....cc (E) (1) (NOS)

SDB ハンドラ機能初期化処理で領域の確保に失敗しました。

aa....aa : 対象領域コード

SDHIFA : SDB ハンドラ用スレッド管理テーブル

SDHSAT : SDB ハンドラ用プロセス管理テーブル

bb....bb : 領域確保要求サイズ (単位: バイト)

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)SDB ハンドラ初期化処理を中止し TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの指定値を見直して TP1/EE を再起動してください。

## KFSB64301-E

継続不可の障害が発生しました。理由コード = aaaa, 詳細コード = bb....bb

An error has occurred. Processing cannot continue. reason code = aaaa, detail code = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

継続できない障害が発生しました。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)SDB ハンドラ初期化処理を中止し TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	リソースマネージャが未起動のため、SDB ハンドラ関連定義の sdh_start_rmerr_mode オペランド、または sdh_restart_rmerr_mode オペランドの指定値に従い、TP1/EE を強制停止しました。	直前に出力されているメッセージを確認して対策してください。そのあと、TP1/EE を再起動してください。
0002	メモリが不足しました。	
0003	リソースマネージャで障害が発生したため、TP1/EE を強制停止しました。	
0005	PCE 数が不足したため、TP1/EE を強制停止しました。	

理由コード	意味	対策
0006	HiRDB/SD が前提バージョン未満のため、TP1/EE を強制停止しました。	HiRDB クライアント、および HiRDB サーバのバージョンを確認してください。
上記以外	内部処理で障害が発生したため、TP1/EE を強制停止しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB64303-E

SDBハンドラ用ライブラリのローディングに失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細コード 1 = bbbb, 詳細コード 2 = cc....cc  
Failed to load the SDB handler library. reason code = aaaa, detail code 1 = bbbb, detail code 2 = cc....cc (E) (1) (NOS)

SDBハンドラ用ライブラリルーチンのローディングに失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの対策を表に示します。

**bbbb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ライブラリのオープンに失敗しました。	直前に <a href="#">KFSB40107-E</a> メッセージが出力されていれば、エラーコード、およびダイナミックローディングモジュールのシステムコールがエラーリターンした場合のエラー内容を参照して原因を取り除いてください。 <a href="#">KFSB40107-E</a> メッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。
0002	ライブラリルーチンのアドレス取得に失敗しました。	

## KFSB64399-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc  
An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

SDBハンドラ機能内で内部矛盾が発生しました。

**aa....aa** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB65001-E

コマンド制御でエラーが発生したため、サービスを続行することができません。理由コード = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

The service cannot continue operation because a command control error occurred. reason code = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

TP1/EE プロセスの起動処理で、処理を続行できない障害が発生しました。

aa....aa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1	コマンド制御で使用するポート番号が使用できません。	TP1/EE システム定義で指定するコマンドポート番号を見直して、起動してください。
2	コマンド制御が使用するファイルの作成で障害が発生しました。	OpenTP1 のセットアップディレクトリ下のディスクスペースに空きがあるかどうか確認してください。
3	その他の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB65002-E

テーブル作成に失敗しました。対象領域コード = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

An attempt to create a table has failed. target area code = aa....aa, detail code = bb....bb (E) (1) (NOS)

コマンド制御の初期化処理でテーブルの作成に失敗しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの設定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB65003-E

起動時のU A P 共用ライブラリの読み込みに失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細情報 = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

UAP common libraries could not be loaded at startup. reason code = aaaa, detail information = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

起動時の UAP 共用ライブラリの読み込みに失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : 詳細情報

問題があったディレクトリ名またはライブラリ名, 見つからなかったエントリポインタ名を表示します。

理由コードが 0002, 0003, 0007 の場合は, \*が表示されます。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	詳細情報に表示されているディレクトリのオープンに失敗しました。	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の module_dir オペランド, および static_module_dir オペランドの指定値を確認してください。
0002	ライブラリファイルが存在しません。	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の module_dir オペランドの指定値を確認してください。
0003	有効なライブラリファイルが上限値より多く存在します。	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の module_dir オペランド, および static_module_dir オペランドに指定したディレクトリにあるライブラリファイル数を規定値以内にしてください。

理由コード	意味	対策
0004	詳細情報に表示されているライブラリファイルのオープンに失敗しました。	詳細情報に表示されている名称のライブラリファイルを見直してください。
0006	ディレクトリ名が重複しています。	詳細情報に表示されているディレクトリ名が、TP1/FSP のユーザサービス関連定義の module_dir オペランド、および static_module_dir オペランドの両方に指定されています。指定値を見直してください。
0007	ステータスファイルからの情報取得に失敗しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB65010-E

UAP 共用ライブラリの入替えに失敗しました。理由コード = aaaa, ライブラリ名 = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

The UAP common libraries could not be replaced. reason code = aaaa, library name = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

ライブラリの入れ替えに失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : ライブラリ名

理由コードが 0004 の場合は、\*が表示されます。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)ライブラリの入れ替えを中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	表示されているライブラリのオープンに失敗しました。	表示されているライブラリの状態を見直してください。
0003	表示されているライブラリのクローズに失敗しました。	保守員に連絡してください。
0004	UT トランザクションの登録に失敗しました。	

## KFSB65099-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb

An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E) (1)  
(NOS)

関数発行時に内部矛盾が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB65101-E

サービス定義が不正です。定義 = aa....aa, 指定値 = bb....bb

The service definition is invalid. definition = aa....aa, specified value = bb....bb (E) (1)  
(NOS)

TP1/EE サービス定義, または環境変数のオペランドに指定した値が不正です。

aa....aa : 該当する TP1/EE サービス定義, または環境変数のオペランド

EEUSERDUMPDIR : 環境変数 EEUSERDUMPDIR の設定値が 510 バイトを超えています。

fsp\_use : 必要なサービス定義が設定されていません。

max\_mem\_size : TP1/EE のメモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの指定値が不正です。

bb....bb : 該当するオペランドの指定値

ただし, EEUSERDUMPDIR の場合は, \*を表示します。

(S)初期化処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 出力された TP1/EE サービス定義名, または環境変数によって, 次の対策をしてください。

不正を検知した定義	対策
EEUSERDUMPDIR	環境変数 EEUSERDUMPDIR に, 510 バイト以下のパス名を指定し, TP1/EE を再起動してください。
fsp_use	TP1/FSP のトラブルシュート関連定義の trb_dump_area_kind オペランドに 64 が論理和で指定されている, または環境変数 EEUSERDUMPDIR が指定されていますが, TP1/FSP の機能を使用しない設定になっています。ユーザメモリダンプ機能が必要な場合は, プロセス関連定義の fsp_use オペランドに Y を設定し, TP1/EE を再起動してください。



不正を検知した定義	対策
max_mem_size	メモリ関連定義の max_mem_size オペランドの値を見直し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB65102-E

領域不足のためテーブル作成に失敗しました。テーブル名 = aa....aa

An attempt to create a table has failed due to insufficient space. table name = aa....aa (E)  
(1) (NOS)

TP1/EE プロセスの初期化処理で領域が不足したため、テーブル作成に失敗しました。

aa....aa : テーブル名

CBLPOOL : COBOL 用メモリ領域

CIBF : コマンド受信用バッファ

CITCB : システムバッファ管理テーブル

COBF : コマンド送信用バッファ

EIT : ワークエリア

EITCB : ユーザワーク管理テーブル

EPBF : ERRTRN3, 回復トランザクション用拡張 PCE

ETBF : ERRTRN3 用バッファ

IBF : 入力バッファ

IBFCB : 入力バッファ管理テーブル

ICB : タイマサービス制御管理テーブル

IFA : スレッドインタフェースエリア

IMA : 入力メッセージ引き渡しエリア

MEMSAT : メモリ管理用テーブル

OBF : 出力バッファ

OBFCEB : 出力バッファ管理テーブル

OBMPOOL : OBM 用ワーク領域

OMA : メッセージ応答エリア

PCE : 処理キューエレメント

QIBF : DB キュー用入力バッファ

QOBF : DB キュー用出力バッファ

QWBF : DB キュー用ライトアクセスリストバッファ

RIT : 共用ワーク領域

SAT : システム用プロセス管理テーブル

SATHEAD : 出力バッファシステム用プロセス管理テーブルヘッダ

SIT：ワークエリア  
SITCB：システムワーク管理テーブル  
TTBF：タイマトランザクション用バッファ  
UIA：ユーザ IFA  
USAT：ユーザ SAT  
XDBPOOL：XDB 用ワーク領域  
XTCPOOL：XTC 用ワーク領域

(S)初期化処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ所要量の合計がメモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの指定値以下となるように、各 TP1/EE サービス定義の指定値を変更してください。そのあとに、TP1/EE を再起動してください。

メモリ所要量の見積もりについては、TP1/EE のリリースノートを参照してください。

### KFSB65103-E

```
テーブル初期化に失敗しました。詳細コード = aa....aa  
An attempt to initialize tables has failed. detail code = aa....aa    (E) (1) (NOS)
```

TP1/EE プロセスの初期化処理で、テーブル初期化に失敗しました。

aa....aa：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)初期化処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの前に出力されているほかのメッセージを参照し、TP1/EE サービス定義を見直してください。

### KFSB65104-E

```
ユーザワーク領域でメモリ破壊を検知しました。  
Corrupted memory was detected in the user work area.    (P+L) (1) (NOS)
```

ユーザ用ワーク領域のセグメントでメモリ破壊を検知しました。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** UAP を見直してください。

## KFSB65105-E

メモリ破壊を検知しました。領域名称 = aa....aa

Corrupted memory was detected. area name = aa....aa (P+L) (1) (NOS)

TP1/EE 連携製品用のメモリ領域でメモリ破壊を検知しました。

aa....aa : 領域名称

CBLPOOL : COBOL 用メモリプール

EIT : ユーザ用ワーク領域

MPSPOOL : 大量処理用システムメモリプール

MPUPOOL : 大量処理用ユーザメモリプール

RIT : 共用ワーク領域

SIT : システム用ワーク領域

XDBPOOL : XDB 用ワーク領域

XTCPOOL : XTC 用ワーク領域

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** 出力された領域名称によって次の対策をしてください。

出力された領域名称が CBLPOOL, MPSPOOL, SIT, XDBPOOL, または XTCPOOL の場合  
保守員に連絡してください。

出力された領域名称が EIT, MPUPOOL, または RIT の場合  
UAP を見直してください。

## KFSB65106-E

システムコールでエラーが発生しました。システムコール名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

An error has occurred in a system call. system call name = aa....aa, detail code = bb....bb

(E) (1) (NOS)

システムコールでエラーが発生しました。

aa....aa : システムコール名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB65190-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb

An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E, E+P+L) (1) (NOS)

関数発行時に内部矛盾が発生しました。

**aa....aa** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB65300-E

サーバ停止に失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細コード 1 = bbbbbbbb, 詳細コード 2 = cccccccc

An attempt to stop a server has failed. reason code = aaaa, detail code 1 = bbbbbbbb, detail code 2 = cccccccc (E+P+L) (1) (NOS)

TP1/EE の停止に失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bbbbbbbb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**cccccccc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0051	サーバを停止する eesvstop コマンドの実行に失敗しました。	該当するサーバ (TP1/EE) が存在するかどうか、および\$DCDIR/bin/eesvstop を実行できるかどうか

理由コード	意味	対策
0051	サーバを停止する eesvstop コマンドの実行に失敗しました。	か確認してください。問題がない場合は、保守員に連絡してください。
9999	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB65305-E

メインスレッドの初期化中に致命的な障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb  
failed to initialize main-thread. detail code1=aaaaaaaa, detail code2=bbbbbbbb (E+P+L) (1) (NOS)

メインスレッドの初期化中に致命的な障害が発生しました。メッセージオブジェクトファイルの読み出し時に障害が発生した場合は、英語のメッセージが出力されます。

**aaaaaaaa** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**bbbbbbbb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB65306-E

メインスレッドの終了中に致命的な障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb  
A fatal error has occurred during termination processing of the main thread. detail code 1 = aaaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbbb (E+P+L) (1) (NOS)

メインスレッドの終了中に致命的な障害が発生しました。

**aaaaaaaa** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**bbbbbbbb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前に、ほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB65310-E

モニタスレッドの初期化中に致命的な障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb

A fatal error has occurred during initialization processing of a monitor thread. detail code 1 = aaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbb (E+P+L) (1) (NOS)

モニタスレッドの初期化中に致命的な障害が発生しました。

aaaaaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB65311-E

モニタスレッドの処理中に致命的な障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb

A fatal error has occurred during processing of a monitor thread. detail code 1 = aaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbb (E+P+L) (1) (NOS)

モニタスレッドの処理中に致命的な障害が発生しました。

aaaaaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB65315-E

処理スレッドの初期化中に致命的な障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb

A fatal error has occurred during initialization processing of a processing thread. detail code 1 = aaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbb (E+P+L) (1) (NOS)

処理スレッドの初期化中に致命的な障害が発生しました。

aaaaaaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB65316-E

処理スレッドの処理中に致命的な障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb

A fatal error has occurred during processing of a processing thread. detail code 1 = aaaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbb (E+P+L) (1) (NOS)

処理スレッドの処理中に致命的な障害が発生しました。

aaaaaaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB65317-E

処理スレッドの回復中に致命的な障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb

A fatal error has occurred during recovery processing of a processing thread. detail code 1 = aaaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbb (E+P+L) (1) (NOS)

処理スレッドの回復中に致命的な障害が発生しました。

aaaaaaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

#### KFSB65320-E

シグナルスレッドの初期化中に致命的な障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb

A fatal error has occurred during initialization processing of a signal thread. detail code 1 = aaaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbb (E+P+L) (1) (NOS)

シグナルスレッドの初期化中に致命的な障害が発生しました。

aaaaaaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

#### KFSB65321-E

シグナルスレッドの処理中に致命的な障害が発生しました。詳細コード 1 = aaaaaaaaa, 詳細コード 2 = bbbbbbbb

A fatal error has occurred during processing of a signal thread. detail code 1 = aaaaaaaaa, detail code 2 = bbbbbbbb (E+P+L) (1) (NOS)

シグナルスレッドの処理中に致命的な障害が発生しました。

aaaaaaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bbbbbbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

#### KFSB65325-E

動作可能な処理スレッド数が必要最低限の稼働率を下回りました。最低稼働率 = aa....aa



The number of operable processing threads is now less than the required minimum availability. minimum availability = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

処理スレッド（予備処理スレッド含む）の稼働率が、オンラインの続行に最低限必要な稼働率を下回りました。

稼働率は、動作可能な処理スレッド（予備処理スレッド含む）と定義処理スレッド（プロセス関連定義の thread\_no オペランドの指定値+プロセス関連定義の reserve\_thread\_no オペランドの指定値）の比率です。稼働率は、処理スレッドの再起動に失敗すると低下します。

aa....aa：最低稼働率（%）

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

### KFSB65330-E

プロセス内の時刻が、制御可能な上限値を超過しました。

The time in a process has exceeded the system's upper limit. (E+P+L) (1) (NOS)

TP1/EE 内の時刻が、制御可能な上限値 (0xffffffff) を超過しました。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 マシン時刻が不正な場合は、マシン時刻を修正してください。マシン時刻が正しい場合は、保守員に連絡してください。

### KFSB65335-E

初期化／終了処理中にスレッドの強制終了を検出しました。トランザクション種別 = aa

A forced termination of a thread was detected during initialization or termination processing. transaction type = aa (E+P+L) (1) (NOS)

初期化処理または終了処理中に、スレッドの強制終了を検出しました。

aa：UAP 起動トランザクション種別

トランザクション種別については、マニュアル「TP1/Server Base Enterprise Option プログラム作成の手引」のトランザクション種別の説明を参照してください。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** トランザクション種別が ME, MI, RM, UI, JI, および UT の場合は, UAP を見直し, 問題がある場合は修正してください。問題がない場合は, 保守員に連絡してください。トランザクション種別が ME, MI, RM, UI, JI, および UT 以外の場合は, 直前に出力されたメッセージに従って原因を取り除いてください。

## KFSB65336-E

```
eessvstop コマンドの実行に失敗しました。理由コード = aaaa, 詳細コード = bb....bb  
Execution of the eessvstop command failed. reason code = aaaa, detail code = bb....bb (E  
+P+L) (1) (NOS)
```

回復モードによるトランザクション回復完了後, eessvstop コマンドによる自 TP1/EE プロセスの強制停止が失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	eessvstop コマンド実行後, 自 TP1/EE プロセスが 5 秒以内に終了しませんでした。	eessvstop コマンド実行失敗メッセージが標準エラー出力に出力されている場合はメッセージに従い対策してください。出力されていない場合は保守員に連絡してください。
0010	プロセス数の上限超過またはメモリ不足によって eessvstop コマンドが実行できませんでした。	このメッセージが多発する場合は, 不要プロセスを終了させてください。
9000	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB65337-E

```
回復モードを実行できませんでした。サービスグループ名 = aa....aa, 理由コード = bbbb  
Recovery mode execution failed. service group name = aa....aa, reason code = bbbb (E  
+P+L) (1) (NOS)
```

回復モードを実行できませんでした。または, 実行する必要がありません。

**aa....aa** : サービスグループ名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	前回オンラインが正常終了しているため、回復モードの手動起動はできません。	なし。
0002	回復モード実行中に TP1/EE プロセスが異常終了しました。	異常終了時に出力されたメッセージを基に障害を取り除いてください。その後、必要であれば回復モードを手動起動してください。
0010	TP1/FSP 以外では回復モードの手動起動はできません。	なし。

## KFSB65380-E

継続不可の障害が発生した為、プロセスを強制停止します。サービスグループ名 = aa....aa, ラン ID = bbbbbb, IFA 番号 = cc....cc, 終了要因 = dd....dd, エラー要因コード = eeeeeee, 中央処理通番 = ffffffff, トランザクション種別 = gg, サービス名 = hh....hh, 詳細コード 1 = iiiiii  
cannot continue by error. shutdown process. service group name=aa....aa, runid=bbbbbbb, ifano=cc....cc, end info=dd....dd, errno=eeeeeee, central tranid=fffffff, transaction type=gg, service name=hh....hh, detail code1=iiiiiii (E+P+L) (1) (NOS)

続行できない障害が発生したため、TP1/EE プロセスを強制停止します。メッセージオブジェクトファイルの読み出し時に障害が発生した場合は、英語のメッセージが出力されます。

aa....aa : 障害が発生したサービスグループ名

定義解析が終了していない場合は、\*を表示します。

bbbbbbb : 障害が発生したラン ID

ラン ID が決定していない場合は、00000000 を表示します。

cc....cc : 障害の発生したスレッドの IFA 番号 (10 進表記)

IFA 作成前、または IFA を特定できない場合は、0 を表示します。

dd....dd : 終了要因

COMMIT LIMIT OVER : コミット関数の発行回数が上限値を超えました。

ROLLBACK ABEND : UAP で ee\_trn\_chained\_rollback 関数 (EETRN\_PRCS 設定) を呼び出しました。

ROLLBACK LIMIT OVER : ロールバック関数の発行回数が上限値を超えました。

INSIDE : TP1/EE 内部に要因があります。

UNKNOWN：次に示すどちらかの状態になりました。

- UAP または UOC で、pthread\_exit 関数または CBLABN サービスルーチンを呼び出しました。
- UAP で COBOL 実行時に障害が発生しました。

QUEUE RATE OVER：処理キューの滞留監視によってプロセスが強制停止しました。

XDB INSIDE：XDB で障害が発生しました。

BPP TERM：UAP や UOC で ee\_bpp\_term を呼び出しました。

eeeeeeee：エラー要因コード（16 進表記）

終了要因が ROLLBACK ABEND の場合は、ee\_trn\_chained\_rollback 関数で設定したエラー要因コードが表示されます。

終了要因が ROLLBACK ABEND 以外の場合は、TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報が表示されます。

ffffff：中央処理通番

トランザクション処理中に障害が発生した場合は、トランザクションのエントリ中央処理通番が表示されます。トランザクション処理中以外に障害が発生した場合は、00000000 が表示されます。

gg：トランザクション種別

トランザクション種別については、マニュアル「TP1/Server Base Enterprise Option プログラム作成の手引」のトランザクション種別の説明を参照してください。

hh...hh：サービス名

サービス名のないトランザクションの場合は、\*を表示します。

iiiiiii：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 終了要因に従って次の対策をしてください。

終了要因が UNKNOWN の場合

UAP を見直してください。

終了要因が ROLLBACK ABEND の場合

ee\_trn\_chained\_rollback 関数が呼び出された要因を取り除いてください。

終了要因が INSIDE の場合

このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されていれば、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。

終了要因が BPP TERM の場合

ee\_bpp\_term()の呼び出し要因を取り除いてください。

## KFSB65385-E

シグナルが発生した為、プロセスを強制停止します。サービスグループ名 = aa....aa, ラン ID = bbbbbb, IFA 番号 = cc....cc, シグナル番号 = dd....dd, 中央処理通番 = eeeeeee, トランザクション種別 = ff, サービス名 = gg....gg, 走行モード = hh....hh, 詳細コード 1 = iiiiii  
A process will now be forcibly terminated because a signal has occurred. service group name = aa....aa, run ID = bbbbbb, IFA number = cc....cc, signal number = dd....dd, central processing number = eeeeeee, transaction type = ff, service name = gg....gg, run mode = hh....hh, detail code 1 = iiiiii (E) (1) (NOS)

シグナルが発生したため、TP1/EE プロセスを強制停止します。

**aa....aa** : 該当するサービスグループ名

定義解析が終了していない場合は、\*を表示します。

**bbbbbbb** : ラン ID

ラン ID が決定していない場合は、00000000 を表示します。

**cc....cc** : シグナルの発生したスレッドの IFA 番号 (10 進表記)

IFA 作成前, または IFA を特定できない場合は、0 を表示します。

**dd....dd** : シグナル番号 (10 進表記)

OS が AIX の場合に 31 が表示されたときは、タイムアウトが原因です。

OS が Linux の場合に 12 が表示されたときは、タイムアウトが原因です。

**eeeeeee** : 中央処理通番

トランザクション処理中にシグナルが発生した場合は、トランザクションのエントリ中央処理通番が表示されます。トランザクション処理中以外にシグナルが発生した場合は、00000000 が表示されます。

**ff** : トランザクション種別

トランザクション種別については、マニュアル「TP1/Server Base Enterprise Option プログラム作成の手引」のトランザクション種別の説明を参照してください。

**gg....gg** : サービス名

サービス名のないトランザクションの場合は、\*を表示します。

**hh....hh** : 走行モード

シグナル発生個所が表示されます。

タイムアウトが原因の場合、シグナルで処理が停止された個所が表示されますが、停止処理中も対象スレッドが稼働しているため、タイムアウト原因となった個所以外が表示されることがあります。

TP1/EE : TP1/EE 内部処理実行中にシグナルが発生しました。

USER : UAP または UOC 実行中にシグナルが発生しました。

API : UAP または UOC が発行した TP1/EE 提供 API 実行中にシグナルが発生しました。

**iiiiiii** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** UAP または UOC 実行中に TP1/EE プロセスが強制停止した場合は、UAP または UOC を見直してください。UAP や UOC に問題がない場合、または UAP や UOC 以外でシグナルが発生した場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB65387-E

プロセスのハングアップを検出した為、プロセスを強制停止します。サービスグループ名 = aa....aa, ラン ID = bbbbbbbb, 詳細コード 1 = cccccccc, 詳細コード 2 = dddddddd

A process will now be forcibly terminated because a hung process was detected. service group name = aa....aa, run ID = bbbbbbbb, detail code 1 = cccccccc, detail code 2 = dddddddd

(E) (1) (NOS)

プロセスのハングアップを検出したため、TP1/EE プロセスを強制停止します。

**aa....aa** : 該当するサービスグループ名

定義解析が終了していない場合は、\*を表示します。

**bbbbbbbb** : ラン ID

ラン ID が決定していない場合は、00000000 を表示します。

**cccccccc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**dddddddd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** マシン内の負荷 (CPU, ファイル入出力など) が増加したため、TP1/EE プロセスの処理が遅延したおそれがあります。マシンの負荷が高い場合は、負荷の原因を取り除いてください。解決できない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB65390-E

連続異常終了限界経過時間内に 3 回障害が発生、又は初期化中に障害が発生した為、サーバを停止します。サービスグループ名 = aa....aa

The server will now stop because an error has occurred three times within the monitoring period for consecutive abnormal terminations, or an error has occurred during initialization processing. service group name = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

連続異常終了限界経過時間（プロセス関連定義の term\_watch\_time オペランド指定値）内に 3 回障害が発生した、または初期化中に障害が発生したため、サーバを停止します。以降、TP1/EE プロセスは再起動されません。

aa....aa：該当するサービスグループ名

(S)TP1/EE を停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 障害を取り除き、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB65391-E

継続不可能な障害が発生した為、サーバを停止します。サービスグループ名 = aa....aa, ラン ID = bbbbbbbb, 理由コード = cccccccc, 詳細コード = dddddddd

The server will now stop because an error of not being possible to continue occurred. service group name = aa....aa, run ID = bbbbbbbb, reason code = cccccccc, detail code = dddddddd (E+P+L) (1) (NOS)

継続できない障害が発生したため、サーバを停止します。以降、TP1/EE プロセスは再起動されません。

aa....aa：サービスグループ名

bbbbbbbb：ラン ID

ラン ID がまだ決定されていない場合は、00000000 が表示されます。

cccccccc：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dddddddd：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE を停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
00094000	UAP 履歴情報取得機能の処理でエラーが発生しました。	ラン ID が同じプロセスのダウン時に出力された KFSB65380-E メッセージに従って、原因を取り除いてください。 メッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB65400-E

トラブルシュート機能初期化処理に障害が発生しました。詳細コード = aa



```
Failure occurred for initialization processing for the troubleshooting function. detail code =  
aa (E+P+L) (1) (NOS)
```

トラブルシューティング機能の初期化処理で障害が発生したため、TP1/EE を終了します。

**aa** : TP1/EE がトラブルシューティングで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB65401-E

```
トラブルシューティング機能終了処理に障害が発生しました。詳細コード = aa  
Failure occurred for termination processing for the troubleshooting function. detail code =  
aa (E+P+L) (1) (NOS)
```

トラブルシューティング機能の終了処理で障害が発生しました。

**aa** : TP1/EE がトラブルシューティングで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB65402-E

```
トラブルシューティング情報出力処理に障害が発生しました。詳細コード = aa  
Failure occurred for output processing for troubleshooting information. detail code = aa  
(E+P+L) (1) (NOS)
```

トラブルシューティング情報の出力処理で障害が発生しました。

**aa** : TP1/EE がトラブルシューティングで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。



## KFSB65403-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb

An internal conflict occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb (E+P+L) (1)  
(NOS)

内部矛盾が発生しました。

**aa....aa** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB65404-E

定義解析処理中にエラーが発生しました。理由コード 1 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

An error occurred during definition analysis processing. reason code = aa....aa, detail code = bb....bb (E) (1) (NOS)

トラブルシュート関連定義の定義解析時にエラーが発生しました。

**aa....aa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1	トラブルシュート関連定義の trb_tasktm_file_size オペランド, および trb_tasktm_buffer_size オペランドに指定した値の大小関係が不正です。	トラブルシュート関連定義の trb_tasktm_file_size オペランド, および trb_tasktm_buffer_size オペランドの指定値を見直し, TP1/EE を再起動してください。
2	トラブルシュート関連定義の trb_trace_file_size オペランド, および trb_line_trace_buffer_size オペランドに指定した値の大小関係が不正です。	トラブルシュート関連定義の trb_trace_file_size オペランド, および trb_line_trace_buffer_size オペランドの指定値を見直し, TP1/EE を再起動してください。

理由コード	意味	対策
3	トラブルシュート関連定義の trb_trace_file_size オペランド、および trb_line_cmtrace_buffer_size オペランドに指定した値の大小関係が不正です。	トラブルシュート関連定義の trb_trace_file_size オペランド、および trb_line_cmtrace_buffer_size オペランドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
4	トラブルシュート関連定義の trb_uap_trace_file_size オペランド、および trb_uap_trace_buffer_size オペランドに指定した値の大小関係が不正です。	トラブルシュート関連定義の trb_uap_trace_file_size オペランド、および trb_uap_trace_buffer_size オペランドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
5	トラブルシュート関連定義の trb_stc_file_size オペランド、および trb_stc_buffer_size オペランドに指定した値の大小関係が不正です。	トラブルシュート関連定義の trb_stc_file_size オペランド、および trb_stc_buffer_size オペランドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB65600-E

DB キュー機能関連テーブルの領域確保に失敗しました。対象領域コード = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An attempt to allocate area for tables related to the DB queue functions has failed. target area code = aa....aa, request size = bb....bb, detail code = cc....cc (E) (1) (NOS)

DB キュー機能の初期化処理でテーブルの領域確保に失敗しました。

aa....aa : 対象領域コード

DQT : DB キュー管理テーブル

DBA : DB キュー管理テーブル (DB アクセス用)

DBAORA : DB キュー管理テーブル (Oracle 用)

DQG : DB キューグループ管理テーブル

DQSV : DB キューサービス管理テーブル

DQSW : DB キュー関数スイッチテーブル

DQSG : DB キューサービスグループ管理テーブル

DQQLST : DB キューリスト

DBQSAT : DB キュー機能システム管理テーブル

DBQIFA : DB キュー機能インタフェーステーブル

DBQTTR : DB キュー機能トランザクションテーブル

DBAHND : DB アクセスハンドルリスト

DBT : オンラインバッチ機能用 DB キュー管理テーブル

DBTORA : オンラインバッチ機能用 DB キュー管理テーブル (Oracle 用)

DBLT : ロット定義情報テーブル

DPLT : ロット管理テーブル

DBSV : バッチサービス管理テーブル

DOBSAT：オンラインバッチ機能システム管理テーブル  
DOBIFA：オンラインバッチ機能インタフェーステーブル  
DOBTTR：オンラインバッチ機能トランザクションテーブル  
DOBHND：オンラインバッチ機能用 DB アクセスハンドルリスト  
DOBLCB：ロット管理テーブル制御ブロック  
DOSW：オンラインバッチ関数スイッチテーブル  
DQTSTC：統計情報対応 DB キュー管理テーブル  
DBTSTC：統計情報対応オンラインバッチ機能用 DB キュー管理テーブル  
DBLTSTC：統計情報対応ロット定義情報テーブル  
DQMT：キュー管理テーブル  
DQMG：キューグループ管理テーブル  
DQMSV：キューサービス管理テーブル  
DQMLST：キューリスト  
DBMSAT：キュー機能用システム管理テーブル  
DBMIFA：キュー機能用インタフェーステーブル  
DBMTTR：キュー機能用トランザクションテーブル  
DBQM：キュー表

**bb....bb**：領域確保要求サイズ（単位：バイト）

**cc....cc**：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)DB キュー機能の初期化処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB65601-E

DB キュー機能関連テーブルの作成に失敗しました。理由コード = aaaa, 対象領域コード = bb....bb  
An attempt to create a table related to the DB queue functions has failed. reason code = aaaa,  
target area code = bb....bb (E) (1) (NOS)

DB キュー機能の初期化処理でテーブルの作成に失敗しました。

**aaaa**：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb**：対象領域コード

DQT：DB キュー管理テーブル

DQG：DB キューグループ管理テーブル  
DQSV：DB キューサービス管理テーブル  
DQSG：DB キューサービスグループ管理テーブル  
DQQLST：DB キューリスト  
DBT：オンラインバッチ機能用 DB キュー管理テーブル  
DBLT：ロット定義情報テーブル  
DBSV：バッチサービス管理テーブル  
該当する対象領域コードがない場合は、\*を表示します。

(S)DB キュー機能の初期化処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対象領域コード	対策
0001	DB キュー機能関連定義で指定した上限値を超えてテーブルを作成しようとしました。	DQT	DB キュー機能関連定義の dbqdef 定義コマンドの指定を見直し、TP1/EE を再起動してください。
		DQG	dbqgrpdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
		DQSV	DB キュー機能関連定義の dbqsvrdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
		DQSG	DB キュー機能関連定義の dbqsvgdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
		DQQLST	DB キュー機能関連定義の dbqsvrdef 定義コマンドの-q オプションおよび-n オプションの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0002	DB キュー機能関連定義に、テーブル作成に有効な指定が一つもないオペランドがあります。	DQT	DB キュー機能関連定義の dbqdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
		DQG	DB キュー機能関連定義の dbqgrpdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
		DQSV	DB キュー機能関連定義の dbqsvrdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
		DQSG	DB キュー機能関連定義の dbqsvgdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。

理由コード	意味	対象領域コード	対策
0003	オンラインバッチ機能関連定義で指定した上限値を超えてテーブルを作成しようとした。	DBT	オンラインバッチ機能関連定義の dbqobsdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
		DBLT	オンラインバッチ機能関連定義の dbqobslotdef 定義コマンド、または dbq_obs_lot_no オペランドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
		DBSV	オンラインバッチ機能関連定義の dbqobsrvdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0004	オンラインバッチ機能関連定義に、テーブル作成に有効な指定が一つもないオペランドがあります。	DBT	オンラインバッチ機能関連定義の dbqobsdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
		DBLT	オンラインバッチ機能関連定義の dbqobslotdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
		DBSV	オンラインバッチ機能関連定義の dbqobsrvdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0005	バッチサービス定義に、バッチ終了サービスのオプションを指定しているオペランドが一つもありません。	DBSV	バッチサービス定義の dbqobsrvdef 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0006	トランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドの指定値にユーザーバ用 xa_open 関数用文字列を指定しているものが一つもありません。または、trnstring 定義コマンド自体の指定がありません。	*	トランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドの指定内容を見直し、TP1/EE を再起動してください。
9000	内部矛盾を検知しました。	*	保守員に連絡してください。

## KFSB65602-E

インタフェーステーブルが壊れています。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb

The interface table is corrupted. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

インタフェーステーブルが壊れています。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)DB キュー機能の初期化処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB65603-E

DB キュー機能関連テーブルの排他初期化処理に失敗しました。詳細コード 1 = aaaa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc

An attempt to initialize the lock on a table related to the DB queue functions has failed. detail code 1 = aaaa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc (E) (1) (NOS)

DB キュー管理テーブルの排他初期化処理で障害が発生しました。

aaaa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)DB キュー機能の初期化処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB65604-E

DB キュー用ライブラリルーチンのローディングに失敗しました。DBMS = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd

An attempt to load the library routine for the DB queue failed. DBMS = aa....aa, reason code = bbbb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (E) (1) (NOS)

DB キュー用ライブラリルーチンのローディングに失敗しました。

aa....aa : ローディングに失敗した DB キュー用ライブラリルーチンに対応する DBMS  
HiRDB または Oracle が表示されます。

bbbb : 理由コード  
理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	DB キュー HiRDB 用ライブラリ、または DB キュー Oracle 用ライブラリのオープンに失敗しました。	環境変数 LIBPATH* に TP1/EE のライブラリパス、および DBMS のライブラリパスが設定されているかどうかを確認してください。設定されていなければ、設定してください。環境変数 LIBPATH* が正しく設定されていて、直前に KFSB40107-E メッセージが出力されていれば、エラーコード、およびダイナミックローディングモジュールのシステムコールがエラーリターンした場合のエラー内容を参照して原因を取り除いてください。KFSB40107-E メッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。
0002	DB キュー用ライブラリルーチンのアドレス取得に失敗しました。	直前に KFSB40107-E メッセージが出力されていれば、エラーコード、およびダイナミックローディングモジュールのシステムコールがエラーリターンした場合のエラー内容を参照して原因を取り除いてください。KFSB40107-E メッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。

注※

OS が Linux の場合は LD\_LIBRARY\_PATH です。

## KFSB65605-E

DB キュー機能関連テーブルの作成に失敗しました。理由コード = aaaa, 該当オペランド名 = bb....bb, 不正設定値 = cc....cc

An attempt to create a table related to the DB queue functions has failed. reason code = aaaa, operand name = bb....bb, invalid setting value = cc....cc (E) (1) (NOS)

DB キュー機能の初期化処理でテーブルの作成に失敗しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : 該当するオペランド名

該当するエントリを特定するためのオプション設定値も表示します。

**cc....cc** : bb....bb 内で検知した不正な設定値、またはオプション名

該当するオプション名も表示します。該当する設定値がない場合は、\*を表示します。

(S)DB キュー機能の初期化処理を中止し、TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	TP1/FSP のユーザーサービス関連定義の queue_draw_method 定義コマンドの-p	queue_draw_method 定義コマンドの-p オプション、または dbqsrdef 定義コマン



理由コード	意味	対策
0001	オプションに trnlevel が指定されていますが、DB キュー機能関連定義の dbqsrdef 定義コマンドに-l オプションが指定されていません。	ドの-l オプションを見直し、TP1/EE を再起動してください。
0002	cc....cc (DB キュー機能関連定義の dbqsrdef 定義コマンドの-l オプション) に指定しているトランザクションレベル名が、TP1/FSP のユーザサービス関連定義の queue_trnlevel オペランドで定義されていません。	dbqsrdef 定義コマンドの-l オプション、または queue_trnlevel オペランドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0003	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の queue_draw_method 定義コマンドの-p オプションに roundrobin が指定されていますが、DB キュー機能関連定義の dbqsrdef 定義コマンドに-l オプションが指定されています。	queue_draw_method 定義コマンドの-p オプション、または dbqsrdef 定義コマンドの-l オプションを見直し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB65606-E

定義解析処理中にエラーが発生しました。オペランド設定値間に矛盾があります。理由コード = aa....aa, DB キューグループ名 = bb....bb

An error occurred during definition analysis. Operand values conflict. reason code = aa....aa, DB queue group name = bb....bb (E) (1) (NOS)

オペランド設定値間に矛盾があります。

aa....aa : 理由コード

1. bb....bb (dbqdef 定義コマンドの-d オプション) に指定している DB キューグループ名が複数指定されています。
2. bb....bb (trnrks\_service 定義コマンドの-d オプション) に指定している DB キューグループ名が dbqgrpdef 定義コマンドで指定されていません。
3. bb....bb (trnrks\_service 定義コマンドの-d オプション) に指定している DB キューグループ名に対応する dbqdef 定義コマンドが存在しません。
4. trnrks\_service 定義コマンドの-t オプションに dbq が指定されていますが、dbq\_use 定義が Y に設定されていません。
5. set 形式定義オペランド dbq\_inhibit\_use に Y が指定されていますが、bb....bb を指定している dbqgrpdef 定義コマンドの-k オプションが指定されていないか、0 が指定されています。

bb....bb : DB キューグループ名

理由コードが 4 の場合は “\*” が出力されます。

(S) 定義解析処理を中止しデータ連携支援を強制停止します。



(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コードに従って対策してください。

1. dbqdef 定義コマンドの-d オプションを見直し、データ連携支援を再起動してください。
2. tmrks\_service 定義コマンドの-d オプション、または dbqgrpdef の-d オプションを見直し、データ連携支援を再起動してください。
3. tmrks\_service 定義コマンドの-d オプション、または dbqdef 定義コマンドを見直し、データ連携支援を再起動してください。
4. tmrks\_service 定義コマンドの-t オプション、または dbq\_use 定義を見直し、データ連携支援を再起動してください。
5. set 形式定義オペランド dbq\_inhibit\_use の値、または dbqgrpdef 定義コマンドの-k オプションを見直し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB65607-E

```
DB キューの空きが不足しました。強制停止します。DB キュー名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb  
There is not enough free area to the DB queue. The process will be forcibly stopped. DB queue  
name = aa....aa, service name = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)
```

DB キューの空きが不足したため強制停止します。

aa....aa : DB キュー名

bb....bb : サービス名

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 次の対策をしてデータ連携支援を再実行してください。

DB キューからメッセージを読み出す TP1/EE の状態および DB キューの状態を確認してください。

DB キューの状態は eedbqls コマンドで確認してください。

メッセージを読み出す TP1/EE が停止している場合は、TP1/EE を開始してください。

DB キューの状態が読み出し停止状態の場合は、DB キューからメッセージを読み出す TP1/EE で eedbqrst コマンドを実行して読み出しを開始してください。

DB キューの状態が通常状態の場合は、次のどちらかの対策を行ってください。

(1) DB キューの最大書き込みメッセージ数を増やす

- eedbqtblh コマンドの-c オプション指定値を大きくして DB キューを再作成する
- dbqdef -l オプション指定値を大きくする

(2) dbq\_rks\_retry\_count,または dbq\_rks\_retry\_interval の指定値を増やす

## KFSB65630-E

オンラインバッチ処理の回復ができません。処理中のオンラインバッチサービスのエントリポイントがありません。DBキュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, オンラインバッチサービス名 = cc....cc  
Online batch processing could not be recovered. The entry pointer of the online batch service performing the processing does not exist. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, online batch service name = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

オンラインバッチ処理を回復できません。処理中のオンラインバッチサービスのエントリポイントがありません。

aa....aa : 該当する DB キュー名

bb....bb : 該当するロット名

cc....cc : 該当するオンラインバッチサービス名

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** UAP 共用ライブラリを見直してください。

## KFSB65650-E

J I トランザクション関連テーブルの領域確保に失敗しました。詳細コード = aa....aa  
An attempt to allocate area for tables related to JI transaction functions has failed. detail code = aa....aa (E) (1) (NOS)

J I トランザクション関連テーブルの初期化処理でテーブルの領域確保に失敗しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの指定値を見直して TP1/EE を再起動してください。

## KFSB65651-E

J I トランザクション関連テーブルの作成に失敗しました。理由コード = aaaa, オペランド名 = bb....bb, 設定値 = cc....cc  
An attempt to create a table related to JI transaction functions has failed. reason code = aaaa, operand name = bb....bb, setting value = cc....cc (E) (1) (NOS)

J I トランザクション関連テーブルの作成に失敗しました。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : 定義コマンド名

cc....cc : オプションフラグおよび指定値

bb....bb の定義コマンドに不正な指定をしたオプションフラグおよび指定値を表示します。オプションフラグと関係しない場合は、\*を表示します。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	定義コマンド名	オプションフラグ	対策
0001	定義数の上限を超えました。	shinfdef	*	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の shinfdef 定義コマンドの定義数を見直し、TP1/EE を再起動してください。
0002	対応する定義がありません。 または指定できない組み合わせを指定しています。	shinfdef	-n	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の shinfdef 定義コマンドの -n オプション、および -i オプションの指定値に trnstring 定義コマンドの -n オプション、および -i オプションの指定値を指定して TP1/EE を再起動してください。  TP1/FSP-Hub 使用時で trnstring に XA 連携用と非 XA 連携用が混在している場合は、XA 連携用の trnstring と対応するように指定してください。
			-n -i	
0003	サポートしていないリソースマネージャです。	shinfdef	-n	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の shinfdef 定義コマンドの -n オプションの指定を見直し、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB65652-E

J I トランザクション用ライブラリルーチンのローディングに失敗しました。DBMS = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd

An attempt to load the library routine for JI transaction failed. DBMS = aa....aa, reason code = bbbb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (E) (1) (NOS)

JI トランザクション用ライブラリルーチンのローディングに失敗しました。

**aa....aa** : ローディングに失敗した JI トランザクション用ライブラリルーチンに対応する DBMS HiRDB と表示します。

**bbbb** : 理由コード  
理由コードの意味と対策を表に示します。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**dd....dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	JI トランザクション HiRDB 用ライブラリのオープンに失敗しました。	直前に <b>KFSB40107-E</b> メッセージが出力されていれば、エラーコード、およびダイナミックローディングモジュールのシステムコールがエラーリターンした場合のエラー内容を参照して原因を取り除いてください。 <b>KFSB40107-E</b> メッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。
0002	JI トランザクション用ライブラリルーチンのアドレス取得に失敗しました。	

## KFSB65653-E

共有情報表の構成が不正です。共有情報表名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc  
The structure of the JI table is invalid. JI table name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

共有情報表の構成が不正です。

**aa....aa** : 共有情報表名

**bbbb** : 理由コード  
0001 : 共有情報表がありません。  
0002 : 共有情報表の構成が不正です。

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 次の観点で TP1/FSP のユーザサービス関連定義の shinfdef 定義コマンドの指定に誤りがないか見直し、shinfdef 定義コマンドの指定を変更するか、または TP1/FSP の eeshtblh コマンドで共有情報表を作成してください。

- shinfdef 定義コマンドの -t オプションに指定した共有情報表名が TP1/FSP の eeshtblh コマンドで作成した共有情報表名と同じかどうか。
- shinfdef 定義コマンドの -n オプションに指定したリソースマネージャ名が、TP1/FSP の eeshtblh コマンド実行時に接続したリソースマネージャ名と同じかどうか。

## KFSB65654-E

処理キューの登録に失敗しました。共有情報表名 = aa....aa, 登録コード = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd

Registration of the processing queue failed. JI table name = aa....aa, registration code = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd (E+P+L) (1) (NOS)

処理キューの登録に失敗しました。

**aa....aa** : 共有情報表名

**bb....bb** : 登録コード

JI : JI トランザクション

JICTL1 : JI トランザクションを制御するトランザクション

JICTL2 : JI トランザクションを制御するトランザクション

**cccc** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**dd....dd** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0003	PCE が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。
0004	ICB が不足しました。	メモリ関連定義の icb_no オペランドの指定値を見直して、TP1/EE を再起動してください。
9001	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB65655-E

共有情報表を更新したトランザクションがヒューリスティックミックス決着しました。共有情報表名 = aa....aa

A transaction to update the JI table was completed by using heuristic mix. JI table name = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

共有情報表を更新したトランザクションがヒューリスティックミックス決着しました。

aa....aa：共有情報表名

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** トランザクションがヒューリスティックミックス決着した原因を取り除いてください。対策の手順については、TP1/FSP の関連ドキュメントを参照してください。

## KFSB65701-E

処理キューの登録に失敗しました。理由コード = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc

Registration of a processing queue failed. reason code = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

処理キューの登録に失敗しました。

aa....aa：理由コード

ICB：ICB が不足しました。

OTHER：その他の原因で失敗しました。

PCE：PCE が不足しました。

bb....bb：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コードを見て対策したあと、TP1/EE を再起動してください。

ICB：メモリ関連定義の icb\_no オペランドの指定値を増やしてください。

OTHER：保守員に連絡してください。

PCE：メモリ関連定義の pce\_no オペランドの指定値を増やしてください。

## KFSB65702-E

○BM構成定義オブジェクトの読み込み処理で障害が発生しました。理由コード = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

An error occurred while an OBM configuration definition object was being loaded. reason code = aa....aa, detail code = bb....bb (E) (1) (NOS)

OBM 構成定義オブジェクトの読み込み処理で障害が発生しました。

aa....aa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策したあと、TP1/EE を再起動してください。

理由コード	意味	対策
DIRECTLY	環境変数 EEOBMDEFFILE にディレクトリを指定しています。	BCM のユーザサービス定義の環境変数 EEOBMDEFFILE に、TP1/FSP の OBM 構成定義オブジェクトを設定してください。
ENVIRON	環境変数 EEOBMDEFFILE の取得に失敗しました。	BCM のユーザサービス定義の環境変数 EEOBMDEFFILE に、TP1/FSP の OBM 構成定義オブジェクトを設定してください。
FOPEN	ファイルのオープンに失敗しました。	ファイルの障害を取り除き再起動してください。考えられる障害の要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• BCM のユーザサービス定義の環境変数 EEOBMDEFFILE に設定したファイルが存在しません。</li> <li>• ファイル障害が発生しました。</li> <li>• ディスク障害が発生しました。</li> <li>• 設定されたファイルに対するアクセス権が不正です。</li> <li>• リソースが不足しています。</li> <li>• OS の制限（ファイルディスクリプタ、シンボリックリンク数など）を超えています。</li> <li>• NFS 障害が発生しました。</li> </ul>
FREAD	ファイルのリード中にエラーが発生しました。	
INVALID	ファイル形式が正しくありません。次のどれかが原因として考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• BCM のユーザサービス定義の環境変数 EEOBMDEFFILE に OBM 構成定義ファイルではないファイルが指定されています。</li> </ul>	BCM のユーザサービス定義の環境変数 EEOBMDEFFILE に TP1/FSP の OBM 構成定義オブジェクトではないファイルを指定していた場合は、TP1/FSP の OBM 構成定義オブジェクトを設定してください。それ以外の場合は、eeobmgen コマンドおよび eeobminith コマンドを再実行してください。

理由コード	意味	対策
INVALID	<ul style="list-style-type: none"> <li>• eeobmgen コマンドが異常終了した際に出力したファイルが指定されています。</li> <li>• 互換性のないバージョンの eeobmgen コマンドで出力したファイルが指定されています。</li> </ul>	BCM のユーザサービス定義の環境変数 EEOBMDEFFILE に TP1/FSP の OBM 構成定義オブジェクトではないファイルを指定していた場合は、TP1/FSP の OBM 構成定義オブジェクトを設定してください。それ以外の場合は、eeobmgen コマンドおよび eeobminith コマンドを再実行してください。
PATH	OBM 構成定義オブジェクトの絶対パス名の長さが 1023 バイトを超過しました。	BCM のユーザサービス定義の環境変数 EEOBMDEFFILE に設定した TP1/FSP の OBM 構成定義オブジェクトの絶対パス名の長さが 1023 バイト以下になるようにファイル名を変更してください。
STAT	ファイル情報取得 (stat) に失敗しました。	<p>ファイルの障害を取り除き再起動してください。考えられる障害の要因を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• BCM のユーザサービス定義の環境変数 EEOBMDEFFILE に設定したファイルが存在しません。</li> <li>• ファイル障害が発生しました。</li> <li>• ディスク障害が発生しました。</li> <li>• 設定されたファイルに対するアクセス権が不正です。</li> <li>• リソースが不足しています。</li> <li>• OS の制限 (ファイルディスクリプタ, シンボリックリンク数など) を超えています。</li> <li>• NFS 障害が発生しました。</li> </ul>

## KFSB65703-E

○BM構成定義オブジェクトのチェック処理で障害が発生しました。理由コード= aa....aa, 詳細コード= bb....bb

An error occurred while an OBM configuration definition object was being checked. reason code = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

OBM 構成定義オブジェクトのチェック処理で障害が発生しました。

**aa....aa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。



【対策】理由コード一覧を見て対策したあと、TP1/EE を再起動してください。

理由コード	意味	対策
CHANGE	TP1/EE を再開していますが、TP1/FSP の OBM 構成定義オブジェクトが変更されました。	正常開始時に使用した TP1/FSP の OBM 構成定義オブジェクトを使用して TP1/EE を再起動してください。OBM の状態を引き継ぐ必要がない場合は、TP1/EE を強制正常開始してください。
STS_NOCAPA	ステータスファイルのレコード確保要求で容量不足エラーが発生しました。	直前に KFSB51012-E メッセージが出力されていれば、エラー内容を参照して原因を取り除いてください。
上記以外	TP1/FSP の OBM 構成定義オブジェクトの確認に必要なステータスファイルの入出力で障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB65704-E

○BM関連定義の設定に不正がありました。理由コード = aa....aa, 定義名 = bb....bb, フラグ = cc....cc

An OBM-related definition contains invalid settings. reason code = aa....aa, definition name = bb....bb, flag = cc....cc (E) (1) (NOS)

OBM 関連定義の指定に不正がありました。

**aa....aa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : 定義名

エラーの発生した定義コマンド名またはオペランド名です。

**cc....cc** : オプションフラグ

エラーの発生した定義コマンドのオプションフラグです。bb....bb にオペランド名が表示されている場合は、\*\*を表示します。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策したあと、TP1/EE を再起動してください。

理由コード	意味	対策
INVALID	該当する定義コマンドのオプションフラグ、またはオペランドの指定値が不正です。	該当する定義コマンドのオプションフラグ、またはオペランドの指定値を見直してください。
NOT_DEF	bb....bb に示す定義コマンドまたはオペランドが定義されていません。	bb....bb に示す定義コマンドまたはオペランドを定義してください。または、TP1/FSP の OBM 関連定義の obm_server_type オペランドの指定値を見直してください。

- 理由コードが INVALID の場合、次の定義不正が発生しています。

定義コマンド名またはオペランド名	引数	不正内容
bcmstsdef 定義コマンド (TP1/FSP の OBM 関連定義)	-t	指定していません。
	-n	指定していません。 または、指定したリソースマネージャ名が不正です。
	-n:-i	-n および-i で設定されたリソースマネージャが transtring で設定されたリソースマネージャと一致しません。
bcmsvgdef 定義コマンド (TP1/FSP の OBM 関連定義)	-g	指定していません。
	-s	-h オプションに指定したハートビート送信間隔の 2 倍より小さな値を指定しています。
bcsvgdef 定義コマンド (TP1/FSP の OBM 関連定義)	-n	指定していません。
	-g	指定していません。
	-n:-g	-n オプションで指定した TP1/SB のノード識別子の数と、-g オプションで指定した TP1/EE のサービスグループ名の数と一致しません。 -n オプションに指定した TP1/SB のノード識別子と、-g オプションに指定した TP1/EE のサービスグループの組み合わせが、一つ目と二つ目で同じです。 -n オプションに指定した TP1/SB のノード識別子の数、または-g オプションに指定した TP1/EE のサービスグループ名の数、obmstsdef の数と一致しません。
obm_service オペランド (TP1/FSP のユーザーサービス関連定義)	**	OBM 構成定義の obmdef 定義コマンドの-t オプションの close オペランドに指定したサービス名が、obm_service オペランドに指定されたサービス名ではありません。
obm_trnlevel オペランド (TP1/FSP の OBM 関連定義)	**	指定したトランザクションレベル名が、ユーザーサービス関連定義の queue_trnlevel オペランドに指定されたトランザクションレベル名ではありません。
obmdef 定義コマンド (TP1/FSP の OBM 構成定義)	-n:-i	OBM 構成定義の obmdef 定義コマンドの-n オプション、および-i オプションに指定したリソースマネージャ名が、トランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドに指定されたリソースマネージャ名と一致しません。
obmstsdef 定義コマンド (TP1/FSP の OBM 関連定義)	-t	指定していません。
	-n	指定していません。または、指定したリソースマネージャ名が不正です。
	-n:-i	-n オプションおよび-i オプションに指定したリソースマネージャ名が、トランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドに指定されたリソースマネージャ名と一致しません。
	-s	二つの obmstsdef の両方で、-s オプションに指定されている値が normal または switch です。
	-t:-n:-i	一つ目の obmstsdef で指定した-t, -n, -i の値が、二つ目の obmstsdef に指定されています。

- 理由コードが NOT\_DEF の場合、次の定義不正が発生しています。

定義コマンド名またはオペランド名	不正内容
bcmstsdef 定義コマンド (TP1/FSP の OBM 関連定義)	TP1/FSP の OBM 関連定義の obm_server_type オペランドに M を指定し、かつ obmstsdef 定義コマンドを二つ指定していますが、bcmstsdef 定義コマンドが定義されていません。
bcmsvgdef 定義コマンド (TP1/FSP の OBM 関連定義)	TP1/FSP の OBM 関連定義の obm_server_type オペランドに M を指定していますが、TP1/FSP の bcmsvgdef 定義コマンドが定義されていません。
bcsvgdef 定義コマンド (TP1/FSP の OBM 関連定義)	TP1/FSP の OBM 関連定義の obm_server_type オペランドに S を指定していますが、TP1/FSP の bcsvgdef 定義コマンドが定義されていません。
obm_service オペランド (TP1/FSP のユーザサービス関連定義)	TP1/FSP の OBM 関連定義の obm_server_type オペランドに S を指定していますが、TP1/FSP のユーザサービス関連定義の obm_service オペランドが指定されていません。  TP1/FSP の OBM 関連定義の obm_server_type オペランドに M を指定し、かつ OBM 構成定義の obmstart 定義コマンドの -t オプションの close_no_bcs オペランドに bcm を指定していますが、OBM 構成定義の obmdef 定義コマンドの -t オプションの close オペランドに指定したサービス名がユーザサービス関連定義の obm_service オペランドに指定されていません。
obm_trnlevel オペランド (TP1/FSP の OBM 関連定義)	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の queue_draw_method 定義コマンドの -p オプションに trnlevel を指定していますが、TP1/FSP の OBM 関連定義の obm_trnlevel オペランドが指定されていません。
obmstsdef 定義コマンド (TP1/FSP の OBM 関連定義)	TP1/FSP の OBM 関連定義の obm_server_type オペランドに、M または S を指定していますが、TP1/FSP の obmstsdef 定義コマンドが定義されていません。  bcmstsdef を設定していますが、obmstsdef 定義コマンドが一つしか定義されていません。  bcsvgdef 定義コマンドの -n オプションに TP1/SB のノード識別子を、-g オプションにサービスグループ名を、それぞれ二つの値を指定していますが、obmstsdef 定義コマンドが一つしか定義されていません。
trnstring 定義コマンド (トランザクション関連定義)	TP1/FSP の OBM 関連定義の obm_server_type オペランドに、M または S を指定していますが、トランザクション関連定義の trnstring 定義コマンドが定義されていません。

## KFSB65752-E

OBM用ライブラリルーチンのローディングに失敗しました。DBMS = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd

An attempt to load a library routine for OBM transactions failed. DBMS = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (E) (1) (NOS)

OBM用ライブラリルーチンのローディングに失敗しました。

aa....aa : ローディングに失敗した OBM 用ライブラリルーチンに対応する DBMS

HiRDB と表示します。

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
dlopen	OBM トランザクション HiRDB 用ライブラリのオープンに失敗しました。	直前に <a href="#">KFSB40107-E</a> メッセージが出力されていれば、エラーコード、およびダイナミックローディングモジュールのシステムコールがエラーリターンした場合のエラー内容を参照して原因を取り除いてください。 <a href="#">KFSB40107-E</a> メッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。
dlsym	OBM トランザクション用ライブラリルーチンのアドレス取得に失敗しました。	

## KFSB65780-E

○BM開始時の表構成チェックで障害が発生しました。○BM管理表名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred while a table structure was being checked at OBM startup. OBM management table name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

○BM 開始時の表構成チェックで障害が発生しました。

aa....aa : OBM 管理表名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策したあと、TP1/EE を再起動してください。

理由コード	意味	対策
CONNECT	OBM 管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して原因を取り除いてください。
SQL	OBM 管理表の SQL エラーです。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ、 <a href="#">KFSB55782-E</a> メッセージを参照して原因を取り除いてください。
TABLE	OBM 管理表の構成が不正です。	TP1/FSP の OBM 関連定義の obmstsdef 定義コマンドの -t オプション、-n オプション、および -i オプションが正しく指定されているか確認してください。 正しく指定されている場合は、TP1/FSP の eeobmtblh コマンドで OBM 管理表を再作成したあと、TP1/FSP の eeobminith コマンドで OBM 管理表を初期化してください。

## KFSB65781-E

○BM開始時のテーブル更新／回復で障害が発生しました。○BM管理表名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred while tables were being updated or restored at OBM startup. OBM management table name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

OBM 開始時のテーブル更新・回復で障害が発生しました。

aa....aa : OBM 管理表名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策したあと、TP1/EE を再起動してください。

理由コード	意味	対策
BCMOBM_NUM	OBM 表の構成が不正です。	TP1/FSP の eeobmtblh コマンドで OBM 管理表を再作成したあと、TP1/FSP の eeobminith コマンドで OBM 管理表を初期化してください。
BCMLLOT_NUM		
BCMLLOT_INF		
BCMLLOT_OVER		

理由コード	意味	対策
BCMLOT_BOTTOM	OBM 表の構成が不正です。	TP1/FSP の eeobmtblh コマンドで OBM 管理表を再作成したあと、TP1/FSP の eeobminith コマンドで OBM 管理表を初期化してください。
CONNECT	OBM 管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。 リソースマネージャ接続エラーです。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して原因を取り除いてください。
OBMSTS_NONE	OBM 表の構成が不正です。	TP1/FSP の eeobmtblh コマンドで OBM 管理表を再作成したあと、TP1/FSP の eeobminith コマンドで OBM 管理表を初期化してください。
ROLLBACK	ロールバックしました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して原因を取り除いてください。
SQL	OBM 管理表の SQL エラーです。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ、 <a href="#">KFSB55782-E</a> メッセージを参照して原因を取り除いてください。
TABLE	OBM 管理表の構成が不正です（表がないか、または列がない）。	TP1/FSP の eeobmtblh コマンドで OBM 管理表を再作成したあと、TP1/FSP の eeobminith コマンドで OBM 管理表を初期化してください。

## KFSB65782-E

○BM構成定義オブジェクトの作成時刻が一致していません。○BM管理表名 = aa....aa, 作成時刻 = bb....bb, ○BM表の作成時刻 = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

The creation times of OBM configuration definition objects do not match. OBM management table name = aa....aa, creation time = bb....bb, OBM table creation time 1 = cc....cc, detail code = dd....dd (E+P+L) (1) (NOS)

OBM 開始時に BCM のユーザサービス定義の環境変数 EEOBMDEFFILE に設定した OBM 構成定義オブジェクトの作成時刻と、TP1/FSP の eeobminith コマンド実行時に使用した OBM 構成定義オブジェクトの作成時刻で不一致を検知しました。

**aa....aa** : OBM 管理表名

**bb....bb** : BCM のユーザサービス定義の環境変数 EEOBMDEFFILE に設定したオブジェクト作成時刻 YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss の形式で表示します。

YYYY : 年 (西暦)

MM : 月

DD : 日

hh : 時

mm : 分

ss.ssssss : 秒 (マイクロ秒まで表示)

cc....cc : TP1/FSP の eeobminith コマンド実行時に入力したオブジェクトの作成時刻

YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss の形式で表示します。

YYYY : 年 (西暦)

MM : 月

DD : 日

hh : 時

mm : 分

ss.ssssss : 秒 (マイクロ秒まで表示)

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 次の対策をしたあとに、TP1/EE を再起動してください。

環境変数 EEOBMDEFFILE に設定した OBM 構成定義オブジェクトが正しいか見直してください。

誤っている場合は、環境変数 EEOBMDEFFILE の設定を修正してください。

環境変数 EEOBMDEFFILE の設定が正しい場合は、TP1/FSP の eeobminith コマンドで OBM 管理表を初期化してください。

## KFSB65783-E

OBM管理表の整合性を保障できない障害が発生しました。OBM管理表名 = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc

The consistency of an OBM management table cannot be guaranteed. OBM management table name = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

OBM 管理表の整合性を保障できない障害が発生しました。OBM 管理表を更新するトランザクションがヒューリスティックミックス決着しています。

aa....aa : OBM 管理表名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** トランザクションがヒューリスティックミックス決着した原因を調査してください。

DB の整合性に問題がない場合は、TP1/EE を再起動してください。



DBの整合性に問題がある場合は、TP1/FSPのeeobmtblhコマンドでOBM管理表を再作成し、TP1/FSPのeeobminithコマンドでOBM管理表を初期化してからTP1/EEを再起動してください。

## KFSB65785-E

OBM表が他のBCMで使用されています。OBM管理表名 = aa....aa, ノード識別子 = bb....bb, ランID = cc....cc, OBM表のノード識別子 = dd....dd, OBM表のランID = ee....ee, 詳細コード = ff....ff

An OBM table is being used by another BCM. OBM management table name = aa....aa, node ID = bb....bb, run ID = cc....cc, node ID for the OBM table = dd....dd, run ID for the OBM table = ee....ee, detail code = ff....ff (E+P+L) (1) (NOS)

OBM管理表がほかのBCMで使用されていたため、このBCMでは使用できません。

aa....aa : OBM管理表名

bb....bb : BCMのTP1/EEのノード識別子

cc....cc : BCMのTP1/EEのランID

dd....dd : OBM管理表を使用しているBCMのTP1/EEのノード識別子

ee....ee : OBM管理表を使用しているBCMのTP1/EEのランID

ff....ff : TP1/EEがトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EEプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/FSPのOBM構成定義のobmdef定義コマンドに指定したOBM管理表名、および対応するトランザクション関連定義のtrnstring定義コマンドで、接続するHiRDBを見直したあとに、TP1/EEを再起動してください。

## KFSB65786-E

OBM開始時の表構成チェックで障害が発生しました。OPEN状態管理表名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred while a table structure was being checked at OBM startup. OPEN management table name = aa...aa, reason code = bb...bb, detail code = cc...cc (E+P+L) (1) (NOS)

OBM開始時の表構成チェックで障害が発生しました。

aa....aa : OPEN状態管理表名



bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策したあと、TP1/EE を再起動してください。

理由コード	意味	対策
CONNECT	OPEN 状態管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して原因を取り除いてください。
SQL	OPEN 状態管理表の SQL エラーです。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ、 <a href="#">KFSB55782-E</a> メッセージを参照して原因を取り除いてください。
TABLE	OPEN 状態管理表の構成が不正です。	TP1/FSP の OBM 関連定義の bcmstsdef 定義コマンドの -t オプション、-n オプション、および -i オプションが正しく指定されているか確認してください。 正しく指定されている場合は、TP1/FSP の eebcmtblh コマンドで OPEN 状態管理表を再作成したあと、TP1/FSP の eebcminith コマンドで OPEN 状態管理表を初期化してください。

## KFSB65787-E

OBM開始時のテーブル更新/回復で障害が発生しました。OPEN状態管理表名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred while tables were being updated or restored at OBM startup. OPEN management table name = aa...aa, reason code = bb...bb, detail code = cc...cc (E+P+L)  
(1) (NOS)

OBM 開始時のテーブル更新・回復で障害が発生しました。

aa....aa : OPEN 状態管理表名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策したあと、TP1/EE を再起動してください。

理由コード	意味	対策
CONNECT	OPEN 状態管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。 リソースマネージャ接続エラーです。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して原因を取り除いてください。
ROLLBACK	ロールバックしました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して原因を取り除いてください。
SQL	OPEN 状態管理表の SQL エラーです。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ, <a href="#">KFSB55782-E</a> メッセージを参照して原因を取り除いてください。
TABLE	OPEN 状態管理表の構成が不正です (表がないか、または列がない)。	eeobminith コマンドの -t オプション, -s オプションと obmstsdef 定義の -t オプション, -s オプションの組み合わせが一致するように、eeobminith コマンドを再実行するか、obmstsdef 定義コマンド設定値を変更してください。

## KFSB65788-E

○BM構成定義オブジェクトの作成時刻が一致していません。OPEN状態管理表名 = aa....aa, 作成時刻 = bb....bb, OPEN状態管理表の作成時刻 = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

The creation times of OBM configuration definition objects do not match. OPEN management table name = aa...aa, creation time = bb...bb, OPEN management table creation time 1 = cc...cc, detail code = dd...dd (E+P+L) (1) (NOS)

OBM 開始時に BCM のユーザサービス定義の環境変数 EEOBMDEFFILE に設定した OBM 構成定義オブジェクトの作成時刻と、TP1/FSP の eeobminith コマンド実行時に使用した OBM 構成定義オブジェクトの作成時刻で不一致を検知しました。

aa....aa : OPEN 状態管理表名

bb....bb : BCM のユーザサービス定義の環境変数 EEOBMDEFFILE に設定したオブジェクト作成時刻

YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss の形式で表示します。

YYYY : 年 (西暦)

MM : 月

DD : 日

hh : 時

mm : 分

ss.ssssss : 秒 (マイクロ秒まで表示)

cc....cc : TP1/FSP の eeobminith コマンド実行時に入力したオブジェクトの作成時刻

YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss の形式で表示します。

YYYY：年（西暦）

MM：月

DD：日

hh：時

mm：分

ss.ssssss：秒（マイクロ秒まで表示）

**dd...dd**：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 次の対策をしたあとに、TP1/EE を再起動してください。

環境変数 EEOBMDEFFILE に設定した OBM 構成定義オブジェクトが正しいか見直してください。  
誤っている場合は、環境変数 EEOBMDEFFILE の設定を修正してください。

環境変数 EEOBMDEFFILE の設定が正しい場合は、TP1/FSP の eeobminith コマンドで OBM 管理表を初期化してください。

## KFSB65789-E

領域の確保に失敗しました。要求サイズ = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

An attempt to allocate area has failed. request size = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

OBM 機能の他 BCM の OPEN 状態確認処理で領域の確保に失敗しました。

**aa....aa**：領域確保要求サイズ（単位：バイト）

**bb....bb**：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランド、および system\_work\_size の設定値を見直して TP1/EE を再起動してください。

## KFSB65799-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc  
An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

内部矛盾が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB65900-E

現在HA モニタは停止中です。

HA monitor is currently stopped. (E+P+L) (1) (NOS)

現在 HA モニタは停止中です。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)HA モニタを起動してから、TP1/EE プロセスを再起動してください。

【対策】 なし。

#### KFSB65901-E

HA モニタと接続できません。理由コード = aa....aa

Cannot connect to HA monitor. reason code = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

HA モニタとの接続に失敗しました。

aa....aa : HA モニタと接続できない理由を示します。

HA\_NOEXIST : HA モニタがないか、または起動していません。

DUPLICATE : 同一名のサーバを起動しようとしてしました。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)エラー要因を取り除いて、TP1/EE プロセスを再起動してください。

【対策】 なし。

#### KFSB65902-E

HA モニタへの連絡処理中でシステムエラーを検知しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc

A system error was detected during notification processing to HA monitor. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

HA モニタへの連絡処理中にシステムエラーを検知しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O) OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

### KFSB65904-E

正副制御機能で回復不能な障害が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb  
An unrecoverable failure was detected during execution of the online/standby control function. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

CL 連携による系切り替え機能で、回復できない障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

### KFSB65905-E

HA モニタからの停止要求により TP1/EE を停止します。詳細コード = aa....aa  
TP1/EE has been stopped due to the termination request issued from HA monitor. detail code = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

HA モニタからの停止要求によって、TP1/EE を停止します。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

#### KFSB65906-E

```
HA モニタからの再起動要求により TP1/EE を停止します。詳細コード = aa....aa
TP1/EE has been stopped due to the restart request issued from HA monitor. detail code =
aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)
```

HA モニタからの再起動要求によって、TP1/EE を停止します。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

#### KFSB65907-E

```
TP1/EE と HA モニタの定義が不一致です。理由コード 1 = aa....aa, 理由コード 2 = bb....bb
Definitions for TP1/EE and HA monitor did not match. reason code 1 = aa....aa, reason code
2 = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)
```

TP1/EE と HA モニタの定義が不一致です。

aa....aa : 理由コード 1

定義が不一致の理由を示します。理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : 理由コード 2

定義が不一致の項目を示します。理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義を見直してください。

理由コード 1	理由コード 2	意味
0001	HA モニタのホスト名称	自系のホスト名が HA モニタのホスト名と一致しません。
0002	実行系のホスト名称	実行系として起動しているホストが TP1/EE に定義されていません。

理由コード 1	理由コード 2	意味
0003	*	実行系のホストがありません。

## KFSB65908-E

正副制御機能関連テーブルの領域確保に失敗しました。対象領域コード = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

Failed to allocate a table area for the online/standby control function. target area code = aa....aa, requested size = bb....bb, detail code = cc....cc (E) (1) (NOS)

CL 連携による系切り替え機能の初期化処理で、テーブルの領域確保に失敗しました。

**aa....aa** : 対象領域コード

- HAMSAT : 正副制御管理テーブル
- HAMPOST : 正副制御要求テーブル
- HAMHOST : 正副制御ホストテーブル
- HAMSTS : 正副制御ステータステーブル

**bb....bb** : 領域確保要求サイズ (単位: バイト)

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランド, または max\_mem\_size\_mb オペランドの設定値を見直したあと, eedefchk コマンドでメモリが十分であることを確認してください。その後, TP1/EE を再起動してください。

## KFSB65909-E

HA モニタ情報ファイルの保存に失敗しました。理由コード = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

An error has occurred during output processing of the HA monitor information file. reason code = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

HA モニタ情報ファイルの保存に失敗しました。

**aa....aa** : 理由コード

- 01 : HA モニタ情報ファイルのオープンに失敗しました。
- 02 : HA モニタ情報ファイルの書き込みに失敗しました。

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB65910-E

HA モニタ情報ファイルの読み込みに失敗しました。理由コード = aa....aa, 詳細コード = bb....bb  
An error has occurred during input processing of the HA monitor information file. reason code = aa....aa, detail code = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

HA モニタ情報ファイルの読み込みに失敗しました。

aa....aa : 理由コード

05 : HA モニタソケットファイルの情報取得に失敗しました。

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB65911-E

初期化中に孤立を検知しました。  
An isolate was detected during initialization processing. (E+P+L) (1) (NOS)

初期化中に実行系孤立状態を検知しました。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されていれば、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。

## KFSB65912-E

切り離された待機系に切り替わりました。  
Hotstandby is disconnected system. (E+P+L) (1) (NOS)

実行系から切り離された待機系に切り替えが発生しました。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。



【対策】 切り替わる前の実行系のメッセージから、切り離された原因を取り除いてください。

## KFSB66002-E

"aa....aa"."bb....bb"は存在しません。

Table "aa....aa"."bb....bb" is not found in the system. (E+P+L) (2) (NOS)

指定した表識別子は存在しません。

aa....aa：スキーマ名

bb....bb：表識別子

(S)処理を終了します。

(O)表識別子の指定を修正して処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、インポート制御ファイルまたは定義系 SQL 文記述ファイルの指定内容に誤りがあります。指定を修正したあとに XDB を再開始してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、コマンドに指定した処理対象表識別子に誤りがないか確認してください。誤りがない場合は、インポート対象表が定義されていません。

【対策】 なし。

## KFSB66003-E

メモリ不足を検知しました。

Memory is insufficient for processing. (E+P+L) (2) (NOS)

メモリ不足を検知しました。

(S)処理を終了します。

(O)TP1/EE サービス定義に指定する XDB が使用するプロセスメモリのサイズを大きくしたあとに、処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、対処をしたあとに XDB を再開始してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

【対策】 なし。

## KFSB66004-E

ファイルへの aaaaaa 操作においてエラーが発生しました。ファイル名 = bb....bb  
An error occurred in aaaaaa processing on the file bb....bb. (E+P+L) (2) (NOS)

ファイルへの入出力エラーが発生しました。

aaaaaa : エラーが発生した処理

次のどれかが出力されます。

- open
- read
- write
- close
- reopen

bb....bb : ファイル名またはディレクトリ名

(S)処理を終了します。

(O)メッセージログファイルでこのメッセージに続いて出力されるメッセージを参照し、エラーの原因を取り除いたあとに処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、エラーの原因を取り除いたあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、インポート対象表およびそのインデックスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

また、メッセージログファイルにメッセージが出力されていない場合は、bb....bb のファイルに対して次のような原因が考えられます。

- ファイルに対して必要なアクセス権限が設定されていない。
- ディスク容量が満杯である。
- 入出力障害が発生している。

【対策】 なし。

## KFSB66005-E

ファイル入出力中にエラーが発生しました。(エラー理由 = aa.....aa, 関数名 = bb....bb, エラー番号 = cc....cc, 保守情報 = dd....dd)

A file I/O error occurred. (reason = aa....aa, func = bb....bb, errno = cc....cc, (dd....dd)) (E+P+L) (2) (NOS)

ファイルへの入出力エラーが発生しました。

#### aa....aa : エラーの理由

次の表を参照してください。

aa....aa の値	説明
File-lock	該当するファイルは、ほかのユーザが使用しています。
Invalid-environment	uname システムコールで得られる設定値が誤っているため、ストリーミングテープ装置が使用できません。OS が正しく組み込まれているか、また、OS のバージョンや関連プログラムプロダクトの前提条件に合っているかを確認してください。
Invalid-parameter	指定したパラメタの組み合わせが不正です。
Invalid-path	次に示すどちらかの原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"><li>パス名が誤っています。</li><li>プログラム実行中に、操作対象のファイルに対する操作（削除、更新など）をしています。</li></ul>
Invalid-permission	次に示すどれかの原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"><li>指定したファイルのパーミッションが不正です。</li><li>書き込みファイルに対して、読み取り専用ファイルを指定しています。</li><li>ほかのアプリケーションで開かれたファイルを指定しています。</li></ul>
File-format	次に示すどちらかの原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"><li>指定した形式と実際のファイル形式が異なります。定義から計算する入力ファイル行長よりも、実際にファイルから入力した行長（改行までの長さ）が大きい場合、このエラーになることがあります。</li><li>表識別子、またはインデクス識別子を指定するファイルの形式が不正です。</li></ul>
File-sequence	マルチボリュームのファイル順序が不正です。
Invalid-device	指定されたファイルのエントリタイプ（属性）が不正です。エントリタイプが識別できる場合は英字 1 文字を括弧で囲んで表示します。ファイル名を指定する必要がある個所にディレクトリ名を指定（またはその逆）しているおそれがあります。
No-file	読み込み用のファイルがありません。または、書き込み中のファイルが削除されました。
No-space	書き込むファイルに十分な容量がありません。
No swap-file	マルチボリューム用のスワップファイルがありません。容量を見直してください。またはマルチボリュームを指定してください。
Same-file	マルチボリュームのファイルとして、直前に処理したファイルと同じファイルを指定しています。または、マルチボリュームへの書き込み時、現ボリューム以前のボリュームに上書きしようとしてしました。
Unmatch-entry	ヘッダがあるファイルに対して、ヘッダ中のエントリが制御情報ファイルの指定と一致しません。一致しないエントリ名称を括弧で囲んで表示します。
no-data	同期点で記憶されているデータ件数分のデータが、指定されたファイルにありません。

bb....bb : エラーが発生したシステム関数名

cc....cc : システム関数が返却したエラー番号

dd....dd : 障害を検知したファイル名と行番号

(S)処理を終了します。

(O)エラーの理由, システム関数名, およびエラー番号を参照してエラーの原因を取り除いたあとに処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は, エラーの原因を取り除いたあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は, インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに, eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については, マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

[対策] なし。

## KFSB66006-E

インデクス情報ファイル (aa....aa) 中のレコードに不正なレコードがあります。 (理由コード= bb....bb)

An invalid record was found in the index record file aa....aa. (reason = bb....bb) (E+P+L)  
(2) (NOS)

インデクス情報ファイル aa....aa 中に不正なレコードがあるため, インデクスの作成に失敗しました。

aa....aa : インデクス情報ファイル名 (インポート処理時に作成される一時ファイル名)

bb....bb : 理由コード

Tally-length : 固定長の総レコード長が整数倍ではありません。

Variable-record : 可変長のデータ部分長が不正です。

(S)処理を終了します。

(O)エラーの原因を取り除いたあとに, 処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は, エラーの原因を取り除いたあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は, インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに, eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については, マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

【対策】 なし。

## KFSB66007-E

aaaa の処理でエラーが発生しました。(機能名 = bb...bb, リターンコード = cc...cc)

An error occurred in aaaa processing. (func = bb...bb, return code = cc...cc) (E+P+L) (2) (NOS)

aaaa の処理でエラーが発生しました。

aaaa : プログラム名

SORT

bb...bb : エラーが発生した機能名

cc...cc : エラーが発生した機能のリターンコード

(S)処理を終了します。

(O)aaaa が SORT の場合のエラーコード, 原因, および対処を次の表に示します。

エラーコード	原因	対処
-202	メモリ不足です。	ソートバッファサイズを小さくしてください。
-290	ワークバッファ不足です。	ソートバッファサイズを大きくしてください。
-210 -230	ソートワーク用ディスク不足です。	作業用ディレクトリに十分な容量があるディスクを指定してください。
上記以外	ソート処理でエラーが発生しました。	保守員に連絡してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は, エラーの原因を取り除いたあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は, インポート対象表およびそのインデックスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに, eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については, マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

【対策】 なし。

## KFSB66008-E

aa....aa の処理中にエラーが発生しました。(インデックス識別子 = "bb...bb", スキーマ名 = "cc....cc", ファイル名 = dd....dd, DB エリア名 = "ee....ee")

An error occurred in aa....aa processing. (index\_identifier = "bb...bb", schema\_name = "cc....cc", file = dd....dd, DB area = "ee....ee") (E+P+L) (2) (NOS)

aa....aa の処理中にエラーが発生しました。

aa....aa : 処理内容

Check-status : インデクス状態チェックの処理中

Commit : インデクスの作成終了中

Load-index : インデクスの作成中

Preparation : 処理の準備

Purge-index : インデクスの削除処理中

Unfinish-index : インデクス未完状態の処理中

bb....bb : インデクス識別子

cc....cc : スキーマ名

dd....dd : ファイル名

ee....ee : DB エリア名

(S)処理を終了します。

(O)このメッセージの前に出力されたメッセージを参照し、そのメッセージに従ってエラーの原因を取り除いたあとに、必要に応じて処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、エラーの原因を取り除いたあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

【対策】 なし。

## KFSB66009-E

プログラムに論理的な不整合が発生しました。(関数名 = aa....aa, 不正データ内容 = bb....bb)

A logical inconsistency occurred in the program. (func = aa....aa, invalid data = bb....bb)  
(E+P+L) (2) (NOS)

プログラムに論理的な不整合が発生しました。

aa....aa : 関数名

bb....bb : 不正なデータ

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB66010-E

```
aa....aa の処理中に表でエラーが発生しました。表名="bb....bb"."cc....cc"  
An error occurred in the table during aa....aa processing. The table is "bb....bb"."cc....cc".  
(E+P+L) (2) (NOS)
```

aa....aa の処理中に表でエラーが発生しました。

**aa....aa** : 処理内容

scan : 行の検索処理  
delete : 行の削除処理  
insert : 行の挿入処理

**bb....bb** : スキーマ名

**cc....cc** : 表識別子

(S)処理を終了します。

(O)このメッセージの前にメッセージログファイルに出力されているメッセージを参照し、そのメッセージに従ってエラーの原因を取り除いたあとに、処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、エラーの原因を取り除いたあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

【対策】 なし。

## KFSB66011-E

```
aaaaaa の定義情報を取得できませんでした。(表名="bb....bb"."cc....cc")  
The defined information aaaaaa could not be acquired. (table = "bb....bb"."cc....cc") (E+P  
+L) (2) (NOS)
```

定義情報 aaaaaa を取得できませんでした。

**aaaaaa** : 定義情報の種別

table : 表定義情報



column：列定義情報

index：インデクス定義情報

bb....bb：スキーマ名

cc....cc：表識別子

(S)処理を終了します。

(O)ディクショナリに対する入出力エラーが発生しているおそれがあります。エラーの原因を取り除いたあとに、処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、エラーの原因を取り除いたあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

エラーの原因が特定できない場合は、保守員に連絡してください。

[対策] なし。

## KFSB66012-E

メモリ不足が発生しました。(確保サイズ = aa....aa, 保守情報 1 = bb....bb, 保守情報 2 = cc....cc)  
Memory is insufficient. (size of the insufficient memory = aa....aa, part number = bb....bb, part code = cc....cc) (E+P+L) (2) (NOS)

メモリ不足が発生しました。

aa....aa：確保しようとしたメモリサイズ (単位：バイト)

bb....bb：保守情報 1

cc....cc：保守情報 2

(S)処理を終了します。

(O)TP1/EE サービス定義に指定する XDB が使用するプロセスメモリのサイズを大きくしたあとに、処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、対処をしたあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については、マニュアル「TP1/



EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport（表データのインポート）」の注意事項を参照してください。

また、このメッセージが出力された場合は、次に示す対策も検討してください。

- 実行する環境のメモリが、aa....aa で表示されるメモリサイズ分確保できるかを確認してください。
- エラーとなった表の列定義を見直し、列の定義長が格納されるデータの最大長よりも大きくなっていないかを確認してください。大きくなっている場合は、列の定義長を小さくすることを検討してください。

【対策】 なし。

### KFSB66013-E

```
ファイルの aaaaaa 操作に失敗しました。ファイル名 = bb....bb  
An attempt to perform aaaaaa processing for the file bb....bb has failed. (E+P+L) (2)  
(NOS)
```

ファイルの削除に失敗しました。

aaaaaa : unlink

bb....bb : ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)ファイルが削除されていないので、必要に応じてファイルを削除してください。

【対策】 なし。

### KFSB66014-E

```
システムコール（関数）でエラーが発生しました。（関数名 = aa....aa, エラー番号 = bb....bb）  
An error occurred in a system call. (func = aa....aa, errno = bb....bb) (E+P+L) (2) (NOS)
```

システムコール（関数）でエラーが発生しました。

aa....aa : システムコール（関数）名

bb....bb : errno にセットされたエラー番号

(S)処理を終了します。

(O)システムコール名が malloc の場合は、メモリが不足しています。この場合、TP1/EE サービス定義に指定する XDB が使用するプロセスメモリのサイズを大きくしたあとに、処理を再度実行してください。

また、このメッセージの直前に表示されたメッセージを参照し、そのメッセージに従ってエラーの原因を取り除いたあとに、処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、エラーの原因を取り除いたあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

**【対策】** なし。

## KFSB66015-E

aa....aa 行目のデータ格納中にエラーが発生しました。

An error occurred during storage of data. (row number = aa....aa) (E+P+L) (2) (NOS)

aa....aa 行目のデータ格納中にエラーが発生しました。

**aa....aa** : 行番号

(S)処理を終了します。

(O)このメッセージの前に出力されているエラーメッセージを参照し、そのメッセージに従ってエラー原因を取り除いたあとに、処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、エラーの原因を取り除いたあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

**【対策】** なし。

## KFSB66016-E

DAT形式に変換後、aa....aa が最大長 (bb....bb バイト) を超えました。

After conversion to the DAT format, aa....aa exceeded the maximum length (bb....bb bytes). (E+P+L) (2) (NOS)

CSV 形式への変換後、1 行の行長が最大長を超えました。

**aa....aa** : row length

**bb....bb** : 最大長 (単位: バイト)

(S)処理を終了します。

(O)コマンドの制限事項です。SQL (INSERT 文) を発行するアプリケーションを作成して格納してください。

[対策] なし。

#### KFSB66017-E

aa....aa 行目, 列番号 = bbbb の入力データ長が不正です。

The input data length is invalid. (row = aa....aa, column = bbbb) (E+P+L) (2) (NOS)

aa....aa 行目, 列番号が bbbb の入力データ長が不正です。

aa....aa : 行番号

bbbb : 列番号

(S)処理を終了します。

(O)入力データファイル中の該当する行番号のデータを修正したあとに, 処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は, 入力データファイルを修正したあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は, インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに, eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については, マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

[対策] なし。

#### KFSB66018-E

aa....aa 行目, 列番号 = bbbb の固定小数点数形式データが不正です。

The pack format data is invalid. (row = aa....aa, column = bbbb) (E+P+L) (2) (NOS)

aa....aa 行目, 列番号が bbbb の固定小数点数形式データが不正です。

aa....aa : 行番号

bbbb : 列番号

(S)処理を終了します。

(O)入力データファイル中の該当する行番号のデータを修正したあとに, 処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は, 入力データファイルを修正したあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

【対策】 なし。

## KFSB66019-E

aa....aa 行目, 列番号 = bbbb の可変長データの長さ部が不正です。

The variable-data length is invalid. (row = aa....aa, column = bbbb) (E+P+L) (2) (NOS)

aa....aa 行目, 列番号が bbbb の可変長データの長さ部分が不正です。

aa....aa : 行番号

bbbb : 列番号

(S)処理を終了します。

(O)入力データファイル中の該当する行番号のデータを修正したあとに、処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、入力データファイルを修正したあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

【対策】 なし。

## KFSB66020-E

aa....aa 行目, 列番号 = bbbb の入力データの変換処理中にエラーが発生しました。

An error occurred during conversion of input data. (row = aa....aa, column = bbbb) (E+P+L) (2) (NOS)

aa....aa 行目, 列番号が bbbb の入力データの変換処理中にエラーが発生しました。

aa....aa : 行番号

bbbb : 列番号

(S)処理を終了します。

(O)入力データファイル中の該当する行番号のデータを修正したあとに、処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、入力データファイルを修正したあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

【対策】 なし。

## KFSB66021-E

aa....aa 行目の入力データの列数が、格納する列数と一致しません。

The number of columns in the input data does not match the number of stored columns. (row = aa....aa) (E+P+L) (2) (NOS)

aa....aa 行目の入力データの列数が、格納する列数と一致しません。

aa....aa : 行番号

(S)処理を終了します。

(O)入力データファイル中の該当する行番号のデータを修正したあとに、処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、入力データファイルを修正したあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

なお、入力データの列数と表の列数が一致している場合は、次の原因が考えられます。

- 入力ファイルのデータに「(00)16」が含まれている。
- 最後のデータが改行で終わっていない。
- ファイルの終端に EOF 制御文字が記述されている。

【対策】 なし。

## KFSB66022-E

aa....aa 行目、列番号 = bbbb において、ナル値を格納できない列にナル値を指定しています。

The input data contains an invalid null value. (row = aa....aa, column = bbbb) (E+P+L) (2) (NOS)

aa....aa 行目の、列番号 bbbb で、ナル値を格納できない列にナル値を指定しています。

aa....aa : 行番号

bbbb : 列番号

(S)処理を終了します。

(O)入力データファイル中の該当する行番号のデータを修正したあとに、処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、入力データファイルを修正したあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、インポート対象表およびそのインデックスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

【対策】なし。

## KFSB66023-E

aa....aa 行目のデータに不正な囲み文字を検出しました。

```
An invalid enclosing character was detected in the data. (row = aa....aa) (E+P+L) (2)
(NOS)
```

aa....aa 行目のデータに不正な囲み文字を検出しました。

aa....aa : 行番号

(S)処理を終了します。

(O)入力データファイル中の該当する行番号のデータを修正したあとに、処理を再度実行してください。

CSV 形式の入力データファイルの場合、囲み文字と同じ値をデータとして使用しているときには、その文字を 2 個連続して指定してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、入力データファイルを修正したあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、インポート対象表およびそのインデックスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

【対策】なし。

## KFSB66024-E

aa....aa 行目，列番号 = bbbb のデータは，列定義よりも長いため格納できません。

The specified data is longer than the column length. (row = aa....aa, column = bbbb) (E+P+L) (2) (NOS)

aa....aa 行目の，列番号 bbbb のデータは，列定義よりも長いため格納できません。

aa....aa : 行番号

bbbb : 列番号

(S)処理を終了します。

(O)入力データファイル中の該当する行番号のデータを修正したあとに，処理を再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は，入力データファイルを修正したあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は，インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに，eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については，マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

【対策】なし。

## KFSB66025-E

aa....aa の指定に誤りがあります。(エラー詳細情報 = bb....bb)

The aa....aa specification contains an error or indispensable operand is not specified, or a necessary operand has not been specified. (reason = bb....bb) (E+P+L) (2) (NOS)

aa....aa の指定に，bb....bb に示す誤りがあります。指定場所は次のとおりです。

コマンド実行の場合

コマンドで指定した引数

初期インポートの場合

初期インポートのインポート制御ファイル

終了時のエクスポートの場合

終了時のエクスポート制御ファイル

aa....aa : 指定内容

詳細を次の表に示します。



aa...aa の値	説明
table	表名 (" [スキーマ名.] 表識別子"の全体)
schema-name	表名のスキーマ名部
table-identifier	表名の表識別子部
file-name	ファイル名
filetype	データタイプ
fld-char	フィールド区切り文字
fld-char-pre	フィールド区切り文字 (前)
fld-char-suf	フィールド区切り文字 (後)
trm-char	行区切り文字
esc-char	エスケープ文字
idx-mode	インデクス作成方法
index	インデクス識別子
col-inf_n	列単位情報数
col-inf	列単位情報
data-len	列の入力データ長
err-inf	エラー情報
flags	フラグ
delimiter	区切り文字
enclosing-character	囲み文字
table-name-file	表名記述ファイル
table option	表オプション
dump-file-name	ダンプファイル名
export-file-name	エクスポートファイル名
timing-to-output-progress-message	処理経過メッセージの出力契機間隔
temporary-directory	作業ディレクトリパス名 作業ディレクトリパス名を省略している場合は、eexdbimport コマンドの既定値に従います。詳細については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の-w オプションの説明を参照してください。
sort-buffer-size	ソートバッファサイズ

## bb...bb : エラー詳細情報

詳細を次の表に示します。



bb...bb の値	説明
null pointer	領域ポインタの値がナル値です。
invalid char	指定した文字が不正です。指定したファイル名が予約文字である場合や、インポート制御ファイルに EOF 制御文字が含まれる場合も、このエラーとなります。
invalid value	指定した値が不正です。
invalid combination	指定の組み合わせが不正です。
invalid format	指定したフォーマットが不正です。
length over	指定した値が制限値を超えているか、0 バイト文字で指定されています。
length short	指定した値が指定できる最小値未満です。
limit over	指定できる最大数を超えています。
not drive name	ドライブ名が見つかりません。
not directory name	指定したパスはディレクトリでないか、または存在しません。
not file name	ファイル名が見つかりません。
not table name	表名が見つかりません。
insufficient memory(u)	メモリ領域を取得できません。
insufficient memory(s)	メモリ領域を取得できません。
error convert path	絶対パスの変換でエラーが発生しました。
duplicate	指定が重複しています。

(S)処理を終了します。

(O)エラーの原因を取り除き、再度実行してください。このエラーは、指定値不正のほかに次の原因が考えられます。

- 必須のパラメタを指定していない。
- 必須のパラメタのあとにオプションを指定している。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、インポート制御ファイルの指定を修正したあとに XDB を再開始してください。

**【対策】** なし。

## KFSB66026-E

SQLコード = aa....aa のエラーを検知しました。

An error was detected in the system. (SQLCODE = aa....aa) (E+P+L) (2) (NOS)

SQLCODE aa....aa のエラーを検知しました。

aa....aa : SQL コード

(S)処理を終了します。

(O)対応する SQLCODE のメッセージを参照し、再度実行してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、エラーの原因を取り除いたあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、データベースを回復する必要があります。データベースを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。データベースの回復方法については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

[対策] なし。

### KFSB66027-E

aa....aa 行目、列番号 = bbbb のデータは、データ変換できません。

The data cannot be converted. (row = aa....aa, column = bbbb) (E+P+L) (2) (NOS)

aa....aa 行目の、列番号 bbbb のデータは、データ変換できません。

aa....aa : 行番号

bbbb : 列番号

(S)処理を終了します。

(O)インポートしようとしたデータを見直してください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、エラーの原因を取り除いたあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、データベースを回復する必要があります。データベースを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。データベースの回復方法については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

[対策] なし。

### KFSB66028-E

データベース状態解析でエラーが発生しました。(エラー要因 = aa....aa)

An error occurred in the status analysis function. (reason = aa....aa) (E+P+L) (2) (NOS)

データベースの状態解析で、aa....aa に示すエラーが発生しました。

aa....aa : エラー要因

エラー要因の意味を表に示します。

(S)処理を終了します。

(O)エラー要因に従って、次の表に示す対処をしてください。

エラー要因	意味	対処
A function process error occurred.	eexdbsta コマンド（データベースの状態解析）の処理中にエラーが発生しました。エラー要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>データベースの更新を行うプログラムとこのコマンドを同時に実行している場合に、ディレクトリの更新とデータベースの状態解析の取得タイミングが重なってしまった。</li></ul>	同時に実行している、データベースの更新を行うプログラムの終了を待ってから再度コマンドを実行してください。
func：システムコール（関数）名 errno：errno にセットされたエラー番号	システムコール（関数）で、errno に示す理由によるエラーが発生しました。	error.h およびユーザが使用する OS マニュアルを参照して、エラー番号（errno：エラー状態を表す外部整数変数）からエラーの原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

#### KFSB66029-E

作業表用DBエリアまたはデータ用DBエリアが定義されていません。

The DB area for the work table or for the data is not defined. (E+P+L) (2) (NOS)

作業表用 DB エリアまたは表用 DB エリアが定義されていません。

(S)処理を終了します。

(O)作業表用 DB エリアを定義していない場合は、作業表用 DB エリアを一つだけ定義してください。表用 DB エリアを定義していない場合は、一つ以上の表用 DB エリアを定義してください。

【対策】 なし。

#### KFSB66030-E

確保共有メモリ面数の定義値が不正です。DBエリア名="aa....aa"

The number of allocated shared memory segments is specified incorrectly. DB area = "aa....aa" (E+P+L) (2) (NOS)

確保共有メモリ面数の定義値が不正です。

aa....aa：DB エリア名

(S)処理を終了します。

(○)最大確保共用メモリ面数の定義値が、初期確保共用メモリ面数の定義値以下になっています。確保共用メモリ面数の定義値を見直し、次の関係が成立するようにしてください。

初期確保共用メモリ面数 < 最大確保共用メモリ面数

【対策】 なし。

## KFSB66031-E

警告メッセージ出力タイミングの定義値が不正です。DB エリア名="aa....aa"

The alert message output timing is specified incorrectly. DB area = "aa....aa" (E+P+L) (2) (NOS)

警告メッセージ出力タイミングの定義値が不正です。

aa....aa : DB エリア名

(S)処理を終了します。

(○)次の原因が考えられます。

- 警告メッセージ出力タイミング 2 の定義値が、警告メッセージ出力タイミング 1 の定義値以下になっている。
- 警告メッセージ出力タイミング 2 の値が定義されていない。

警告メッセージ出力タイミングを省略するか、または二つ同時に定義する必要があります。また、次の関係が成立するようにしてください。

警告メッセージ出力タイミング 1 < 警告メッセージ出力タイミング 2

【対策】 なし。

## KFSB66032-E

確保共有メモリ面数と警告メッセージ出力タイミングの大小関係が正しくありません。DB エリア名="aa....aa"

The relation between the number of allocated shared memory segments and alert message output timing is incorrect. DB area = "aa....aa" (E+P+L) (2) (NOS)

確保する共用メモリ面数と警告メッセージ出力タイミングが不正です。

aa....aa : DB エリア名

(S)処理を終了します。

(○)次の原因が考えられます。

- 警告メッセージ出力タイミング 1 または警告メッセージ出力タイミング 2 の指定値が、初期確保共用メモリ面数の指定値以下になっている。

- 警告メッセージ出力タイミング 1 または警告メッセージ出力タイミング 2 の指定値が、最大確保共用メモリ面数の指定値以上になっている。

確保共用メモリ面数の定義値と警告メッセージ出力タイミングの定義値を見直し、次の関係が成立するようにしてください。

初期確保共用メモリ面数 < 警告メッセージ出力タイミング 1 < 警告メッセージ出力タイミング 2 < 最大確保共用メモリ面数

【対策】 なし。

### KFSB66033-E

作業表用 DB エリアが複数定義されました。

The DB area for the work table has already been defined. (E+P+L) (2) (NOS)

複数の作業表用 DB エリアが定義されました。

(S)処理を終了します。

(O)作業表用 DB エリアは一つしか定義できません。DB エリアの定義を見直してください。

【対策】 なし。

### KFSB66034-E

DB エリアの数が上限に達しています。

The maximum number of DB areas has been reached. (E+P+L) (2) (NOS)

DB エリアの定義数が上限を超えました。

(S)処理を終了します。

(O)作業表用 DB エリアは一つ、表用 DB エリアとインデクス用 DB エリアは合わせて 1014 までしか定義できません。DB エリアの指定を見直してください。

【対策】 なし。

### KFSB66035-E

ダンプファイルのメモリマッピング処理でエラーが発生しました。ファイル名 = aa....aa

An error occurred in memory mapping processing for a dump file. file name = aa....aa (E)  
(2) (NOS)

ダンプファイルのメモリマッピング処理でエラーが発生しました。

aa....aa : ダンプファイル名

(S)処理を終了します。

(O)直前に出力されるメッセージを基にエラーの原因を取り除き、再度実行してください。

[対策] なし。

#### KFSB66036-E

```
ダンプファイルの内容不正を検知しました。ファイル名 = aa....aa, エラーコード = bbbb  
An error was found in a dump file. file name = aa....aa, error code = bbbb (E) (2) (NOS)
```

ダンプファイルの内容不正を検知しました。

aa....aa : ダンプファイル名

bbbb : エラーコード

(S)処理を終了します。

(O)指定したダンプファイル名が正しいか確認してください。

[対策] なし。

#### KFSB66038-E

```
このユーティリティを実行できる環境ではありません。理由コード : aa....aa  
This utility cannot be executed in this environment. reason = aa....aa (E) (2) (NOS)
```

このコマンドを実行できる環境ではありません。エラーとなった理由コードを aa....aa に示します。

aa....aa : 理由コード

- 1 : 待機系で実行しています。
- 2 : テストモード以外で実行しています。
- 3 : ほかのプログラムが動作しているため実行できません。

(S)処理を終了します。

(O)適切な環境でこのコマンドを実行してください。

[対策] なし。

#### KFSB66039-E

```
XDB サービス定義の取得に失敗しました。定義名 = aa....aa, エラーコード = bb....bb  
An error occurred during acquisition of the XDB service definition. definition name = aa....aa,  
code = bb....bb (E) (2) (NOS)
```

XDB サービス定義の取得に失敗しました。

aa....aa : 取得に失敗した定義名

bb....bb : エラーコード

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB66041-E

更新ログ反映処理に失敗しました。

Reflection of the update-log has failed. (E+P+L) (2) (NOS)

更新ログ反映処理に失敗しました。

(S)異常終了します。

(P)前後のメッセージを参照してエラーの原因を取り除き、システムを再起動してください。

【対策】 前後に KFSB46003-W メッセージ、KFSB46004-W メッセージ、KFSB30930-E メッセージ、または KFSB66233-E メッセージが表示されます。表示されたメッセージを参照してエラーの原因を取り除き、TP1/EE システムを再起動してください。

## KFSB66045-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = ccccc

An error occurred while processing a command. command name = aa....aa, reason code = bbbb, details code = ccccc (E) (2) (NOS)

コマンド実行中にエラーが発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名称

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cccc : XDB がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	データの通信に失敗しました。または、TP1/EE プロセス側で障害が発生しました。	TP1/EE との通信障害、または TP1/EE プロセス側の障害の原因を調査し、その原因を取り除いてください。
0002	TP1/EE プロセス側でエラーが発生しました。	TP1/EE プロセス側のエラーの原因を調査し、その原因を取り除いてください。
0003	指定されたサービスグループ名が見つかりません。	正しいサービスグループ名を指定してコマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE の起動後にコマンドを再実行してください。

## KFSB66046-E

インデクス情報ファイル (aa....aa) が不正です。(理由コード= bb....bb)

The index record file is illegal. (file = aa....aa, reason = bb....bb) (E) (2) (NOS)

インデクス情報ファイル aa....aa が不正です。原因を bb....bb に示します。

aa....aa : インデクス情報ファイル名 (インポート処理時に作成される一時ファイル名)

bb....bb : 理由コード

詳細を次の表に示します。

bb....bb の値	説明
Duplicated-entry	保守員に連絡してください。
Invalid-device	保守員に連絡してください。
Invalid-header	保守員に連絡してください。
Invalid-permission	ファイルのパーミッションが不正です。
Invalid-record-length	保守員に連絡してください。
No-file	保守員に連絡してください。
No-header	保守員に連絡してください。

(S)処理を終了します。

(O)理由コードを参照してエラーの原因を取り除いてください。

XDB 開始時のインポート処理でこのメッセージが出力された場合は、エラーの原因を取り除いたあとに XDB を再開してください。

eexdbimport コマンドの実行時にこのメッセージが出力された場合は、インポート対象表およびそのインデクスを格納している DB エリアを回復する必要があります。DB エリアを回復したあとに、eexdbimport コマンドを再度実行してください。DB エリアの回復方法については、マニュアル「TP1/



EE/Extended Data Cache 使用の手引」の「eexdbimport (表データのインポート)」の注意事項を参照してください。

【対策】 なし。

#### KFSB66051-E

```
ファイル操作に失敗しました。ファイル名 = aa....aa, 操作 = bbbbbb  
A file operation has failed. file = aa....aa, operation = bbbbbb (E+P+L) (2) (NOS)
```

ファイル操作に失敗しました。

aa....aa : ファイル名

bbbbbb : 操作名

次に示すどれかが表示されます。

- open
- read
- stat
- close

(S)処理を終了します。

(O)前後のメッセージを参照してエラーの原因を取り除き、再度コマンドを実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB66052-E

```
定義文の形式が不正です。行数 = aa....aa  
The format of a definition statement is invalid. line = aa....aa (E+P+L) (2) (NOS)
```

定義系 SQL 文記述ファイルに記述した定義文の形式が不正です。

aa....aa : 形式が不正な行

(S)処理を終了します。

(P)定義系 SQL 文記述ファイルの記述内容を修正してください。定義系 SQL 文記述ファイルについては、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」を参照してください。

【対策】 なし。

#### KFSB66053-E

```
初期インポートの制御文の形式が不正です。行数 = aa....aa
```

The format of an initial-import control statement is invalid. line = aa....aa (E+P+L) (2) (NOS)

インポート制御ファイルの形式が不正です。

aa....aa : 形式が不正な行

(S)処理を終了します。

(P)インポート制御ファイルの記述内容を修正してください。インポート制御ファイルについては、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」を参照してください。

【対策】なし。

## KFSB66054-E

初期インポートの制御文中に指定した値が不正です。行数 = aa....aa, オペランド名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc

A value in an initial-import control statement is invalid. line = aa....aa , operand = bb....bb, reason code = cc....cc (E+P+L) (2) (NOS)

インポート制御ファイルの制御文中に指定した値が不正です。

aa....aa : 不正な値を記述した行

bb....bb : 不正な値を記述した指定項目を表すコード

cc....cc : 不正の意味を表すコード

(S)処理を終了します。

(P)エラーの原因を取り除き、再度実行してください。

bb....bb : 詳細を次の表に示します。

bb....bb の値	意味
*	指定項目のどれか
table-identifier	対象表識別子
file-name	入力データファイル名またはエクスポートファイル名
enclosing-character	囲み文字
deliminator	区切り文字
sort-buffer-size	ソートバッファサイズ
timing-to-output-progress-message	処理経過メッセージの出力契機間隔
temporary-directory	一時ファイルを作成するディレクトリパス名

CC....CC：詳細を次の表に示します。

CC....CC の値	意味
*	次のどれかに該当します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 処理対象表識別子, 入力データファイル名の長さ, またはエクスポートファイル名の長さが 0 である。</li> <li>• 囲み文字または区切り文字の長さが 1 でない。</li> <li>• ソートバッファサイズ, または処理経過メッセージの出力契機間隔に指定した数のけた数が多い。</li> <li>• 対象表識別子の長さが制限を超えている。</li> </ul>
invalid char	指定した文字が不正です。指定したファイル名が予約文字である場合や, インポート制御ファイルに EOF 制御文字が含まれる場合も, このエラーとなります。
invalid value	指定した値が不正です。
invalid format	指定したフォーマットが不正です。
length over	指定した値が指定できる最大値を超えています。
length short	指定した値が指定できる最小値未満です。
not table name	表名が見つかりません。
insufficient memory(u)	メモリ領域を取得できません。
duplicate	指定が重複しています。
not file name	指定したパスはファイル名でないか, または存在しません。
not directory name	指定したパスはディレクトリでないか, または存在しません。
not found	指定した値が見つかりません。
上記以外	保守員に連絡してください。

【対策】 なし。

## KFSB66055-E

終了時エクスポートの制御文の形式が不正です。行数 = aa....aa

The format of a final-export control statement is invalid. line = aa....aa (E+P+L) (2)  
(NOS)

エクスポート制御ファイルの形式が不正です。

aa....aa：形式が不正な行

(S)処理を終了します。

(P)エクスポート制御ファイルの記述内容を修正してください。エクスポート制御ファイルについては, マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」を参照してください。

【対策】 なし。

## KFSB66056-E

終了時エクスポートの制御文中に指定した値が不正です。行数 = aa....aa, オペランド名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc

A value in a final-export control statement is invalid. line = aa....aa, operand = bb....bb, reason code = cc....cc (E+P+L) (2) (NOS)

エクスポート制御ファイルの制御文中に指定した値が不正です。

aa....aa : 不正な値を記述した制御文の行

bb....bb : 不正な値を記述した指定項目を表すコード

cc....cc : 不正の意味を表すコード

(S)処理を終了します。

(P)エラーの原因を取り除き、再度実行してください。bb....bb および cc....cc については、[KFSB66054-E](#) メッセージの説明を参照してください。

【対策】 なし。

## KFSB66057-E

ファイルサイズが 2 GB を超えています。ファイル名 = aa....aa

The file size exceeds 2 GB. file = aa....aa (E+P+L) (2) (NOS)

定義系 SQL 文記述ファイル、インポート制御ファイル、またはエクスポート制御ファイルのサイズが 2147483647 バイトを超えています。

aa....aa : ファイル名

(S)処理を終了します。

(P)エラーの原因を取り除き、再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB66200-E

解析ファイルをオープンできません。解析ファイル名 = aa....aa, エラー番号 = bb....bb

An analysis file cannot be opened. analysis file = aa....aa, error number = bb....bb (E) (1) (NOS)

定義情報を解析するために使用する解析ファイルがオープンできません。

aa....aa : 解析ファイル名

bb....bb : エラー番号 (errno の値)

エラー番号が 0 の場合は、パス名の記述に誤りがあります。

(S) 定義情報を解析するために使用する解析ファイルがオープンできません。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 障害を取り除いたあと、再度 OpenTP1 を起動してください。

## KFSB66201-E

変数の指定値に誤りがあります。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, オペランド名 = cc....cc  
A value specified for a variable is invalid. file = aa....aa, line = bb....bb, operand = cc....cc  
(E) (1) (NOS)

定義ファイルに記述されている変数の指定値が誤っています。

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

cc....cc : オペランド名

(S) エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当する変数名の記述形式を確認したあと、指定値を修正してください。

## KFSB66202-E

コマンド名に誤りがあります。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, コマンド名 = cc....cc  
A command name is invalid. file = aa....aa, line = bb....bb, command = cc....cc (E) (1)  
(NOS)

定義ファイルに記述されているコマンドが解析できません。

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

cc....cc : コマンド名

(S) 定義ファイルに記述されているコマンドが解析できません。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するコマンド名の記述形式を確認したあと、コマンド名を修正してください。

#### KFSB66203-E

```
オプション名に誤りがあります。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, オプション名 = cc....cc  
An option name is invalid. file = aa....aa, line = bb....bb, option = cc....cc (E) (1) (NOS)
```

定義ファイルに記述されているオプション名に誤りがあります。

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

cc....cc : オプション名

(S)エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するオプション名の記述形式を確認したあと、オプション名を修正してください。

#### KFSB66204-E

```
オプションの指定が重複してます。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, オプション名 = cc....cc  
An option is specified more than once. file = aa....aa, line = bb....bb, option = cc....cc (E)  
(1) (NOS)
```

コマンド形式の定義のオプション指定に重複があります。

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

cc....cc : オプション名

(S)エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するコマンドの記述形式を確認したあと、引数を修正してください。

#### KFSB66205-E

```
オプションの引数に誤りがあります。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, オプション名 = cc....cc  
An argument of an option is invalid. file = aa....aa, line = bb....bb, option = cc....cc (E) (1)  
(NOS)
```

定義ファイル中のオプション名に誤りがあります。

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

cc....cc : オプション名

(S)エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するオプションの記述形式を確認したあと、引数を修正してください。

#### KFSB66206-E

メモリが足りないため、定義ファイルの解析を行えません。要求メモリ量 = aa....aa

A definition file cannot be analyzed because memory is insufficient. required memory =  
aa....aa (E) (1) (NOS)

定義ファイルの解析処理で、メモリ不足になりました。

aa....aa : エラーが発生した際の要求メモリサイズ (単位: バイト)

(S)定義ファイルの解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 不要なプロセスがあれば削除し、再度実行してください。不要なプロセスがない場合は、メモリが不足しています。対策後、再度 OpenTP1 を起動してください。

#### KFSB66207-E

I/Oエラーが発生しました。ファイル名 = aa....aa

An I/O error occurred. file = aa....aa (E) (1) (NOS)

定義ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

aa....aa : 定義ファイル名

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義ファイルに異常がないか調査し、再度 OpenTP1 を起動してください。

#### KFSB66208-E

定義ファイルをオープンできません。定義ファイル名 = aa....aa, エラー番号 = bb....bb

A definition file cannot be opened. definition file = aa....aa, error number = bb....bb (E)  
(1) (NOS)

XDB サービス定義ファイルがオープンできませんでした。

aa....aa : XDB サービス定義ファイル名

bb....bb : エラー番号 (errno の値)

エラー番号が 0 の場合は、パス名の記述に誤りがあります。

(S)エラーが発生した XDB サービス定義ファイルの解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するファイル名の記述形式を確認したあと、ファイル名およびパス名を修正してください。

## KFSB66209-E

当該レコードは最大レコード長を超えています。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb

The length of a record exceeds the maximum. file = aa....aa, line = bb....bb (E) (1) (NOS)

定義情報のレコード長が最大レコード長 (80 バイト) を超えています。

aa....aa : ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

(S)エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当する定義情報の記述形式を確認してください。なお、システム定義の 1 行に記述できる最大文字数は 80 バイトです。80 バイトを超えて指定する場合は、継続符号 (¥) を記述し、継続行として指定してください。

日本語を記述する場合、1 文字が 2 バイト以上に変換されることがあります。このため、テキストエディタ上では 1 行の長さが 80 バイト以内であっても、80 バイト以上と認識されることがあります。日本語を記述する場合は注意してください。

## KFSB66210-E

変数名の指定に誤りがあります。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb

A specified variable name is invalid. file = aa....aa, line = bb....bb (E) (1) (NOS)

指定された変数に次のどちらかの誤りがあり、解析できません。

- 変数名の記述がありません。
- 指定された変数名に誤りがあります。



aa....aa : ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

(S)エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 変数名を正しく指定してください。または、定義ファイルと定義内容の関係が正しいか見直してください。

## KFSB66211-E

aa....aa の記述形式に誤りがあります。ファイル名 = bb....bb, 行数 = cc....cc

The format of aa....aa is invalid. file = bb....bb, line = cc....cc (E) (1) (NOS)

記述形式に誤りがあります。

aa....aa : エラーが発生した定義名

bb....bb : ファイル名

cc....cc : エラーが発生した行

(S)エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当する定義情報の記述形式を確認したあと、修正してください。

## KFSB66212-E

必須定義が指定されていません。ファイル名 = aa....aa, オペランド名 = bb....bb

A required definition is not specified. file = aa....aa, operand = bb....bb (E) (1) (NOS)

必須の定義が指定されていません。

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : オペランド名

(S)エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 必須の定義を指定するよう定義を修正してください。

## KFSB66213-E

省略できないオプションが指定されていません。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, コマンド名 = cc....cc, オプション名 = dd....dd

A required option is not specified. file = aa....aa, line = bb....bb, command = cc....cc, option = dd....dd (E) (1) (NOS)

省略できないオプションを指定していません。

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

cc....cc : コマンド名

dd....dd : オプション名

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 省略できないオプションを指定するよう定義を修正してください。

## KFSB66214-E

定義ファイルのパスを取得できません。

Definition file path can not be acquired. (E) (1) (NOS)

定義ファイルのパスを取得できません。

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/Server Base のユーザサービス定義に、XDB サービス定義ファイル名を示す環境変数 EEXDBDEFFILE が定義されていることを確認してください。上記の環境変数を定義してもこのメッセージが出力される場合、OpenTP1 管理者に連絡してください。

## KFSB66215-E

解析ファイルのパスを取得できません。

Analysis file path can not be acquired. (E) (1) (NOS)

解析ファイルのパスを取得できません。

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB66216-E

解析ファイルが不正です。解析ファイル名 = aa....aa

An analysis file is invalid. analysis file = aa....aa (E) (1) (NOS)

XDB のバージョンと解析ファイルのバージョンが異なるため、定義解析処理を中止しました。

aa....aa : 解析ファイル名

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 いったん、dcsetup コマンドで OS の登録を削除し、再度 OS へ登録したあと、再度 OpenTP1 を起動してください。それでもこのメッセージが出力される場合は、XDB を再インストールしてください。その後、dcsetup コマンドで OS へ登録して、再度 OpenTP1 を起動してください。

#### KFSB66219-E

製品のバージョンが実行系と異なります。

The product version differs from the product version in the execution system. (E+P+L)  
(1) (NOS)

実行系と待機系の製品のバージョンが異なります。

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 実行系と待機系の製品バージョンを同じにしてください。

#### KFSB66220-E

実行系の定義で待機系に定義されていない定義があります。オペランド名 = aa....aa

There is a definition not defined in the standby system by the definition of the execution system. operand = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

定義情報が異なります。

aa....aa : オペランド名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 実行系と待機系の定義内容を同じにしてください。

## KFSB66221-E

XDB サービス定義情報が実行系と異なります。行数 = aa....aa, オペランド名 = bb....bb  
The XDB service definition information differs from the information in the execution system.  
line = aa....aa, operand = bb....bb (E+P+L) (1) (NOS)

定義情報が異なります。

aa....aa : 行数

bb....bb : オペランド名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 実行系と待機系の定義内容を同じにしてください。

## KFSB66223-E

TP1 / EE / XDB で内部矛盾を検知しました。情報 1 = aa....aa, 情報 2 = bb....bb, 情報 3 = cc....cc  
An internal contradiction was detected in TP1/EE/XDB. information 1 = aa....aa, information 2 = bb....bb, information 3 = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

XDB で内部矛盾を検知しました。

aa....aa : 保守情報 1

bb....bb : 保守情報 2

cc....cc : 保守情報 3

(S)異常終了します。

(O)次の情報を保存して、OpenTP1 管理者に連絡してください。

- このメッセージの内容
- このメッセージのあとに KFSB30318-E メッセージが出力されていれば、その内容
- コアファイルが出力されていれば、そのコアファイル

**【対策】** なし。

## KFSB66224-E

実行系の DB 情報取得に失敗しました。情報 = aa

```
Acquisition of database information from the execution system has failed. information =  
aa (E+P+L) (1) (NOS)
```

実行系のデータベース情報取得に失敗しました。

aa :

- 01 : 実行系のデータベース情報取得中に、XDB サービス定義で指定した xdb\_forward\_time\_limit オペランドの制限を超えました。
- 02 : 通信エラーが発生しました。
- 03 : リソース不足が発生しました。

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

#### 【対策】

aa の値が 01 の場合 :

xdb\_forward\_time\_limit オペランドの値を大きくして、再度実行してください。

aa の値が 02 の場合 :

XTC のメッセージが出力されている場合は、メッセージに従って設定を見直してください。

aa の値が 03 の場合 :

直前に出力されたリソース不足のエラーメッセージに従い、必要なリソースを確保してください。

#### KFSB66225-E

```
実行系から待機系へのDB転送が失敗しました。情報= aa
```

```
Database transfer from the execution system to the standby system has failed. information =  
aa (E+P+L) (1) (NOS)
```

実行系から待機系へのデータベース転送が失敗しました。

aa :

- 01 : 実行系のデータベース情報取得中に、XDB サービス定義で指定した xdb\_forward\_time\_limit オペランドの制限を超えました。
- 02 : 通信エラーが発生しました。
- 03 : リソース不足が発生しました。
- 04 : 実行系が再起動したことによって、自系が持つ実行系のデータベース情報が古くなったため、データベース転送が続行できません。

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

## 【対策】

aa の値が 01 の場合：

xdb\_forward\_time\_limit オペランドの値を大きくして、再度実行してください。

aa の値が 02 の場合：

XTC のメッセージが出力されている場合は、メッセージに従って設定を見直してください。

aa の値が 03 の場合：

直前に出力されたリソース不足のエラーメッセージに従い、必要なリソースを確保してください。

aa の値が 04 の場合：

待機系を再度起動してください。

## KFSB66226-E

共有メモリ破壊を検知しました。情報 = aa....aa

Deallocation of shared memory was detected. information = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

共用メモリ内にある管理情報の破壊を検知しました。

aa....aa：情報

共用メモリ破壊調査用情報

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 サービス起動時に使用したユーザ ID 権限を使用して、eexdbshrmr コマンドを実行してください。この対策を実施したあともこのメッセージが出力される場合は、ユーザサービス定義に指定した uid 句で割り当てている共用メモリを ipcs コマンドで削除して、TP1/EE プロセスを再起動してください。削除する共用メモリがわからない場合には、マシンを再起動してください。

## KFSB66228-E

ダンプ入力ファイルのデータ破壊を検知しました。情報 = aa....aa

Data corruption was detected in a dump input file. information = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

メモリダンプファイルのデータ破壊を検知しました。

aa....aa：情報

メモリダンプファイルデータ破壊調査用情報

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】正しいデータが格納されたメモリダンプファイルを指定してください。

## KFSB66229-E

```
共有メモリの割当てに失敗しました。要求サイズ = aa....aa  
Allocation of shared memory has failed. required size = aa....aa    (E+P+L) (1) (NOS)
```

共有メモリの割当てに失敗しました。

aa....aa : 要求サイズ

割り当てようとした共有メモリのサイズ (単位: バイト)

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】次のどちらかを実施してください。

- カーネルに設定している共有メモリの上限値を超えていないかを確認してください。カーネルの上限値を超えた場合、設定値を変更し、TP1/EE プロセスを再起動する必要があります。
- 不要なプロセスがあれば削除し、再度実行してください。不要なプロセスがない場合またはカーネル設定値の上限値を超えていない場合には、メモリが不足しています。対策後、再度 OpenTP1 を起動してください。

## KFSB66230-E

```
DB 転送完了後の DB 復元処理が失敗しました。  
DB recovery after DB forwarding failed.    (E+P+L) (1) (NOS)
```

データベース転送完了後のデータベース復元処理に失敗しました。

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 TP1/EE サービス定義の memory\_xdb\_limit\_size オペランドの値を大きくして、再度実行してください。

## KFSB66231-E

```
権限不正のため、共有メモリ解放処理に失敗しました。  
Processing to deallocate shared memory failed because permissions are lacking.    (E+P+L)  
(1) (NOS)
```

権限不正のため、共有メモリの解放処理に失敗しました。

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** サービス起動時に使用したユーザ ID 権限を使用して、eexdbshrmr コマンドを実行してください。この対策を実施したあともこのメッセージが出力される場合は、ユーザサービス定義に指定した uid 句で割り当てている共用メモリを ipcs コマンドで削除して、TP1/EE プロセスを再起動してください。削除する共用メモリがわからない場合には、マシンを再起動してください。

## KFSB66232-E

指定した値の大小関係に誤りがあります。オペランド名 = aa....aa

The size of a specified value is incorrect. operand = aa....aa (E) (1) (NOS)

XDB サービス定義のオペランドに指定した値の大小関係に誤りがあります。

aa....aa :

xdb\_trace\_buffer\_size : xdb\_trace\_buffer\_size オペランドが xdb\_trace\_file\_size オペランドより大きいです。

xdb\_trace\_entry\_size : xdb\_trace\_entry\_size オペランドが xdb\_trace\_buffer\_size オペランドより大きいです。

xdb\_sql\_text\_size : xdb\_sql\_text\_size オペランドが xdb\_trace\_entry\_size オペランドより大きいです。

xdb\_sql\_param\_size : xdb\_sql\_param\_size オペランドが xdb\_trace\_entry\_size オペランドより大きいです。

(S)異常終了します。

(O)なし。

**【対策】** オペランドに指定した値を修正して再度起動してください。各オペランドの大小関係については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の XDB サービス定義の各オペランドの説明を参照してください。

## KFSB66233-E

TP1/EE/XDB 実行中にエラーが発生しました。SQLCODE = aa....aa, メッセージテキスト = bb....bb

An error has occurred during TP1/EE/XDB execution. SQLCODE = aa....aa, message text = bb....bb (E+L) (1) (NOS)

XDB の実行でエラーが発生しました。

aa....aa : エラーの原因となった SQLCODE

bb....bb : エラーの原因となったメッセージテキスト



(S)処理を続行します。

(O)エラーの原因となった SQLCODE, およびメッセージテキストを基に原因を取り除いてください。

[対策] なし。

#### KFSB66234-E

メモリ破壊を検知しました。情報 1 = aa....aa, 情報 2 = bb....bb

Corrupted memory was detected. information 1 = aa....aa, information 2 = bb....bb (E+L)

(1) (NOS)

XDB が使用するメモリ領域内にある管理情報の破壊を検知しました。

aa....aa : 調査用情報 1

bb....bb : 調査用情報 2

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 保守員に連絡してください。

#### KFSB67101-E

OpenTP1 の関数でエラーが発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bbbb, リターン値 = cc....cc

An error occurred in an OpenTP1 function. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bbbb, return value = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

OpenTP1 の関数でエラーが発生しました。

aa....aa : 保守情報

bbbb : 保守情報

cc....cc : 関数のリターン値

表示できない場合は, \*\*...\*\*を表示します。

リターン値の意味と対策を表に示します。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 表示された関数のリターン値に従って対策してください。

リターン値	意味	対策
-5303	必要なメモリの確保に失敗しました。	OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB67102-E

排他初期化処理に失敗しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bbbb  
Exclusion initialization processing failed. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bbbb (E  
+P+L) (1) (NOS)

必要なメモリの確保に失敗しました。

**aa....aa** : 保守情報

**bbbb** : 保守情報

表示できない場合は, **\*\*....\*\***を表示します。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB68001-E

領域確保に失敗しました。対象領域コード = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb, 詳細コード = cc....cc  
An attempt to allocate area has failed. target area code = aa....aa, request size = bb....bb,  
detail code = cc....cc (E) (1) (NOS)

初期化処理で領域確保に失敗しました。

**aa....aa** : 対象領域コード

MCHSAT : MCH システム管理テーブル

MCHSVG : サービスグループ管理テーブル

MCHSVGH : サービスグループ管理ハッシュテーブル

MCHOTQ : 出力キュー (OTQ) 管理テーブル

MCHOTQH : 出力キュー (OTQ) 管理ハッシュテーブル

MCHWL : 待ち合わせテーブル

MCHWLHSYNC : 待ち合わせハッシュテーブル (トランザクション同期)

MCHWLHASYNC : 待ち合わせハッシュテーブル (トランザクション非同期)

MCHWRV : 受信メッセージ重複チェックテーブル

MCHWRVHSYNC：受信メッセージ重複チェックハッシュテーブル（トランザクション同期）  
MCHWRVHASYNC：受信メッセージ重複チェックハッシュテーブル（トランザクション非同期）  
MCHCLREQ：CL 同期待ち合わせテーブル  
MCHCLEND：CL 同期済み通知待ち合わせテーブル  
MCHRECVCHK：重複チェックテーブル  
MCHSTADEF：転送用定義領域  
MCH\_VRS：バージョン管理テーブル

bb....bb：領域確保要求サイズ（単位：バイト）

cc....cc：XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)初期化処理を中止し TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランド、または max\_mem\_size\_mb オペランドの指定値を見直したあと、eedefchk コマンドでメモリが十分であることを確認してください。その後、TP1/EE を再起動してください。対象領域コードが MCHSTADEF の場合は、XTC 用ワーク領域 (XTCPOOL) に関連する定義の指定値を見直してください。その後、TP1/EE を再起動してください。

## KFSB68002-E

定義解析処理中にエラーが発生しました。理由コード = aaaa, オペランド名 = bb....bb, エラー情報 = cc....cc

An error has occurred during definition analysis. reason code = aaaa, operand name = bb....bb, error information = cc....cc (E, E+P+L) (1) (NOS)

定義解析時にエラーが発生しました。

aaaa：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb：オペランド名

cc....cc：エラー情報

理由コードが 0003, または 0004 の場合：サービス名

理由コードが 0020 の場合：サービスグループ名

上記以外：\*\*\*\*

(S)XTC プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	送信先サービス関連定義の eemchsrvdef 定義コマンドの定義数が 1024 を超えています。	eemchsrvdef 定義コマンドを見直してください。
0002	同一のサービスグループ名を持つ送信先サービス関連定義の eemchsrvdef 定義コマンド中に指定したサービス名の合計が、1~32000 の範囲内ではありません。	eemchsrvdef 定義コマンドを見直してください。
0003	ユーザサービス関連定義の event_trn オペランドで指定したサービス名がユーザサービス関連定義の service オペランドに定義されていません。	event_trn オペランドと service オペランドを見直してください。
0004	送信先サービス関連定義の eemchsrvdef 定義コマンド中に指定したサービス名がユーザサービス関連定義の service オペランドに定義されていません。	eemchsrvdef 定義コマンドと service オペランドを見直してください。
0020	送信先サービス関連定義の eemchsrvdef 定義コマンドで指定したサービスグループ名がサービスグループ情報関連定義の eesvgdef 定義コマンドで定義されていません。	eemchsrvdef 定義コマンドと eesvgdef 定義コマンドを見直してください。

## KFSB68099-E

内部矛盾が発生しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb, 詳細コード 3 = cc....cc, 詳細コード 4 = dd....dd, 詳細コード 5 = ee....ee

An internal conflict has occurred. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb, detail code 3 = cc....cc, detail code 4 = dd....dd, detail code 5 = ee....ee (E, E+P+L) (1) (NOS)

内部矛盾が発生しました。

aa....aa : XTC がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : XTC がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : XTC がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : XTC がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 保守員に連絡してください。

## KFSB68100-E

オンライン開始UOCがエラーリターンしました。

The online start UOC has returned an error. (E+P+L) (1) (NOS)

オンライン開始UOCがEEMCH\_UOC\_NGでリターンしました。

(S)XTCプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1管理者に連絡してください。

【対策】EEMCH\_UOC\_NGがリターンされた原因を調査してください。

## KFSB68101-E

実行系が開始処理中ではないため待機系を起動できません。

The standby system cannot be started because the execution system has not been started.

(E+P+L) (1) (NOS)

実行系が開始処理中ではないため、待機系を起動できません。

(S)XTCプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1管理者に連絡してください。

【対策】実行系の状態を確認してください。

## KFSB68104-E

定義転送要求の送信に失敗しました。詳細コード = aa....aa

Failed to send a definition transfer request. detail code = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

定義転送要求の送信に失敗しました。

aa....aa : XTCがトラブルシュートで使用する情報

(S)XTCプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1管理者に連絡してください。

【対策】次に示す事項について確認しても原因がわからないときは、保守員に連絡してください。

- 実行系の状態に問題がないかどうか。

## KFSB68105-E

定義の受信に失敗しました。詳細コード = aa....aa

Failed to receive a definition. detail code = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

定義の受信に失敗しました。

aa....aa : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)XTC プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 次に示す事項について確認しても原因がわからないときは、保守員に連絡してください。

- 実行系の状態に問題がないかどうか。

## KFSB68107-E

```
XDBの初期化処理に失敗しました。詳細コード1 = aa....aa, 詳細コード2 = bb....bb  
Failed to format XDB. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E+P+L) (1)  
(NOS)
```

XDB の初期化処理で障害が発生しました。

aa....aa : XTC がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)XTC プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されていれば、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。

## KFSB68109-E

```
状態通知送信に失敗しました。詳細コード1 = aa....aa, 詳細コード2 = bb....bb  
Failed to send the status notification. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E  
+P+L) (1) (NOS)
```

状態通知送信に失敗しました。

aa....aa : XTC がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)XTC プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 次に示す事項について確認しても原因がわからないときは、保守員に連絡してください。

- 実行系の状態に問題がないかどうか。
- 待機系の状態に問題がないかどうか。

## KFSB68110-E

処理キューの登録に失敗しました。理由コード = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc

An attempt to register a processing queue has failed. reason code = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc (E+P+L) (1) (NOS)

処理キューの登録に失敗しました。

**aa....aa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**bb....bb** : XTC がトラブルシュートで使用する情報

**cc....cc** : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)XTC プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	PCE 数が不足しました。	メモリ関連定義の pce_no オペランドの設定値を見直して、再実行してください。
上記以外	上記以外の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB68111-E

状態転送要求の送信に失敗しました。詳細コード = aa....aa

Failed to send a status transfer request. detail code = aa....aa (E+P+L) (1) (NOS)

状態転送要求の送信に失敗しました。

**aa....aa** : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)XTC プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 次に示す事項について確認しても原因がわからないときは、保守員に連絡してください。

- 実行系の状態に問題がないかどうか。

## KFSB68112-E

```
状態の受信に失敗しました。詳細コード = aa....aa  
Failed to receive a status. detail code = aa....aa    (E+P+L) (1) (NOS)
```

状態の受信に失敗しました。

aa....aa : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)XTC プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 次に示す事項について確認しても原因がわからないときは、保守員に連絡してください。

- 実行系の状態に問題がないかどうか。

## KFSB68116-E

```
XDB の定義チェックでエラーが発生しました。詳細コード = aa....aa  
An error has occurred during XDB definition check. detail code = aa....aa    (E+P+L) (1)  
(NOS)
```

XDB の定義チェックでエラーが発生しました。

aa....aa : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)XTC プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されていれば、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。ほかのメッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。

## KFSB68117-E

```
待機系の起動完了待ちでタイムアウトになりました。  
A timeout was detected during the standby system startup.    (E+P+L) (1) (NOS)
```

待機系の起動完了待ちでタイムアウトになりました。タイムアウトになった時点で待機系が一つも起動されていないか、またはクラスタ連携関連定義の standby\_start\_error\_switch オペランドに stop が指定されているため、処理を中断します。

(S)XTC プロセスを強制停止します。



(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 待機系が正常に起動できる状態か確認してください。また、standby\_start\_watch\_time オペランドの指定値が、待機系の起動に必要な十分な値であるか見直してください。

## KFSB68118-E

MCP の定義チェックでエラーが発生しました。詳細コード = aa....aa

An error has occurred during MCP definition check. detail code = aa....aa (E+P+L) (1)  
(NOS)

MCP の定義チェックでエラーが発生しました。

aa....aa : XTC がトラブルシュートで使用する情報

(S)XTC プロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、対策してください。ほかのメッセージが出力されていない場合は、保守員に連絡してください。

# 6

## KFSB80000～KFSB89999

この章では、正常に動作しているときのメッセージ（KFSB80000～KFSB89999）とその意味、および対策について説明します。

## 6.1 KFSB80000～KFSB89999

---

### KFSB80001-I

初期化処理を開始します。

Initialization processing will now start. (S+P+L) (1) (SUP)

TP1/EE の初期化処理を開始します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB80002-I

ラン ID 及び開始モードを決定しました。サービスグループ名 = aa....aa, ラン ID = bbbbbbbb, 開始モード = cc....cc

A run ID and start mode have been determined. service group name = aa....aa, run ID = bbbbbbbb, start mode = cc....cc (S+P+L) (2) (SUP)

ラン ID および開始モードが決定しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bbbbbbbb : 決定したラン ID

cc....cc : 決定した開始モード

NORMAL : 正常開始

RESTART : 再開始

データ連携支援プロセスの場合は、「NORMAL」固定となります。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB80003-I

オンラインを開始します。サービスグループ名 = aa....aa, ラン ID = bbbbbbbb

Online processing will now start. service group name = aa....aa, run ID = bbbbbbbb (S+P+L) (1) (SUP)

初期化処理が完了しました。オンラインを開始します。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bbbbbbbb : 該当するラン ID

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB80011-I

HA構成の待機中に終了指示を受けた為、プロセスを終了します。サービスグループ名 = aa....aa  
A process will now stop because a termination instruction has been received while an HA configuration was in standby status. service group name = aa....aa (S+P+L) (1) (SUP)

HA構成で現用系サーバが終了したため、待機系サーバも終了します。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

(S)TP1/EEを停止します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB80021-I

終了処理を開始します。サービスグループ名 = aa....aa, ラン ID = bbbbbbbb, 終了モード = cc....cc  
Termination processing will now start. service group name = aa....aa, run ID = bbbbbbbb, termination mode = cc....cc (S+P+L) (2) (SUP)

終了指示を受けたため、終了処理を開始します。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bbbbbbbb : 該当するラン ID

cc....cc : 終了モード

NORMAL : 正常終了

PLANA : 計画停止 A

PLANB : 計画停止 B

FORCE : 強制終了

ISOLATEA : 孤立終了モード A

ISOLATEB : 孤立終了モード B

連携支援プロセスの場合は、「NORMAL」固定となります。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB80022-I

```
終了処理が完了しました。サービスグループ名 = aa....aa, ラン ID = bbbbbbbb  
Termination processing has finished. service group name = aa....aa, run ID = bbbbbbbb  
(S+P+L) (1) (SUP)
```

TP1/EE の終了処理が完了しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bbbbbbbb : 該当するラン ID

(S)TP1/EE を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB80300-I

```
rap クライアントとの接続を解除します。IP アドレス = aa....aa, ポート番号 = bb....bb, サービス ID = cc....cc, 理由コード = dddd  
The connection with RAP-processing clients has been released. IP address = aa....aa, port number = bb....bb, service ID = cc....cc, reason code = dddd (S+P+L) (5) (SUP)
```

rap クライアントとの接続を解除します。

aa....aa : rap クライアントの IP アドレス

bb....bb : rap クライアントのポート番号

cc....cc : 該当するサービス ID

dddd : 理由コード

0001 : eerpcrapcls コマンドで, rap クライアントとの接続を解除します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB80301-I

R P C 応答メッセージの送信抑止処理を解放します。サービス名 = aa....aa, I P アドレス = bb....bb, ポート番号 = cc....cc, 抑止識別子 = dd....dd, 抑止開始時刻 = yy/mm/dd hh:mm:ss, 理由コード = eeee

Transmission suppression processing for RPC response messages has been released. service name = aa....aa, IP address = bb....bb, port number = cc....cc, suppression ID = dd....dd, suppression start time = yy/mm/dd hh:mm:ss, reason code = eeee (S+P+L) (5) (SUP)

RPC 応答メッセージの送信抑止処理を解放します。

**aa....aa** : 該当するサービス名

**bb....bb** : 相手システムの IP アドレス

自プロセス送信の場合は, 0.0.0.0 と表示されます。

**cc....cc** : 相手システムのポート番号

自プロセス送信の場合は, 0 と表示されます。

**dd....dd** : 抑止識別子

**yy/mm/dd hh:mm:ss** : 送信抑止処理の開始日時

**eeee** : 理由コード

0001 : eerpcspndrles コマンドで, RPC 応答メッセージの送信抑止処理を解放します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB80310-I

サービスグループ閉塞中です。サービスグループ名 = aa....aa, ノード識別子 = bbbb, サービスグループ状態 = cc....cc

The service group is shut down. service group name = aa....aa, node ID = bbbb, service group status = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

サービスグループ閉塞中, または, 処理中の状態が継続しています。

**aa....aa** : サービスグループ名

**bbbb** : TP1/EE が属する TP1/SB のノード識別子

**cc....cc** : サービスグループ状態

INA : 閉塞中

OBS：閉塞処理中

BID：閉塞解除処理中

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB80311-I

サービスグループを閉塞、又は閉塞解除しました。サービスグループ名 = aa....aa, ノード識別子 = bbbb, サービスグループ状態 = cc....cc

The service group has been shut down or released from the shutdown status. service group name = aa....aa, node ID = bbbb, service group status = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

eesgrpctl コマンドの実行でサービスグループの状態が変更されました。

aa....aa：サービスグループ名

bbbb：TP1/EE が属する TP1/SB のノード識別子

cc....cc：サービスグループ状態

INA：閉塞中

OBS：閉塞処理中

ACT：閉塞解除中

BID：閉塞解除処理中

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB80400-I

排他待ちタイムアウト情報。link\_no = aa....aa, service = bb....bb, GID = cc....cc, BID = dd....dd, type = ee....ee, mode = ff, resource name = gg....gg, owner = hh....hh

Information of lock wait timeout. link\_no = aa....aa, service = bb....bb, GID = cc....cc, BID = dd....dd, type = ee....ee, mode = ff, resource name = gg....gg, owner = hh....hh (S+P+L) (5) (SUP)

資源の排他待ちでタイムアウトが発生しました。排他待ちタイムアウトが発生したトランザクションの情報を表示します。

**aa....aa** : IFA 番号

排他待ちタイムアウトが発生したスレッドの IFA 番号が表示されます。

**bb....bb** : サービス名

該当するサービス名が表示されます。

サービス名がない場合は, \*を表示します。

**cc....cc** : グローバルトランザクション識別子

該当するトランザクションのグローバルトランザクション識別子が表示されます。

**dd....dd** : トランザクションブランチ識別子

該当するトランザクションのトランザクションブランチ識別子が表示されます。

**ee....ee** : 排他待ち

wait : 排他待ちであることを表します。

**ff** : 排他制御モード

排他制御モードが表示されます。

PR : 資源を参照します。ほかの UAP には参照だけを許可し, 更新を禁止します。

EX : 資源を更新します。ほかの UAP には参照と更新の両方を禁止します。

**gg....gg** : 資源名称

排他解除待ちをしていた資源名称が表示されます。

**hh....hh** : 要求種別

排他要求種別が表示されます。

MIGRATE : ユーザの排他要求

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**[対策]** このメッセージが頻繁に出力される場合は, トランザクションが資源の排他を占有している時間に対して排他待ち限界経過時間が小さ過ぎる可能性があります。トランザクション関連定義の lck\_wait\_timeout オペランドの設定値を見直してください。

## KFSB80401-I

```
排他待ちタイムアウト要因。link_no = aa....aa, service = bb....bb, GID = cc....cc, BID =  
dd....dd, type = ee....ee, mode = ff, resource name = gg....gg, owner = hh....hh  
Factor of lock wait timeout. link_no = aa....aa, service = bb....bb, GID = cc....cc, BID = dd....dd,  
type = ee....ee, mode = ff, resource name = gg....gg, owner = hh....hh (S+P+L) (5) (SUP)
```

資源の排他待ちでタイムアウトが発生しました。資源の排他情報を表示します。

**aa....aa** : IFA 番号

資源に対して占有状態, または待ち状態であるスレッドの IFA 番号が表示されます。



**bb....bb** : サービス名

資源に対して占有状態、または待ち状態であるサービス名が表示されます。

サービス名がない場合は、\*を表示します。

**cc....cc** : グローバルトランザクション識別子

資源に対して占有状態、または待ち状態であるトランザクションのグローバルトランザクション識別子が表示されます。

**dd....dd** : トランザクションブランチ識別子

資源に対して占有状態、または待ち状態であるトランザクションブランチのトランザクションブランチ識別子が表示されます。

**ee....ee** : 排他占有、または排他待ち

排他占有状態、または排他待ち状態を表します。

occupy : 排他占有状態であることを表します。

wait : 排他待ち状態であることを表します。

**ff** : 排他制御モード

排他制御モードが表示されます。

PR : 資源を参照します。ほかの UAP には参照だけを許可し、更新を禁止します。

EX : 資源を更新します。ほかの UAP には参照と更新の両方を禁止します。

**gg....gg** : 資源名称

排他占有、または排他待ちをしている資源名称が表示されます。

**hh....hh** : 要求種別

排他要求種別が表示されます。

MIGRATE : ユーザの排他要求

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** このメッセージが頻繁に出力される場合は、トランザクションが資源の排他を占有している時間に対して排他待ち限界経過時間が小さ過ぎる可能性があります。トランザクション関連定義の lck\_wait\_timeout オペランドの設定値を見直してください。

**KFSB80500-I**

永続タイマの監視処理を開始します。タイマデータ表名 = aa....aa

Starting persistent timer monitoring processing. timer data table name = aa....aa (S+P+L)

(5) (SUP)

永続タイマの監視処理を開始します。

**aa....aa** : タイマデータ表名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB80501-I

永続タイマの監視処理を終了しました。タイマデータ表名 = aa....aa

Persistent timer monitoring processing stopped. timer data table name = aa....aa (S+P+L)

(5) (SUP)

永続タイマの監視処理を終了しました。

aa....aa : タイマデータ表名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB80900-I

トランザクションブランチをロールバックしました。XID = aa....aa, 要因 = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

A transaction branch was rolled back. XID = aa....aa, factor = bb....bb, detail code = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

トランザクションブランチをロールバックしました。

aa....aa : 該当するトランザクション識別子

bb....bb : ロールバック要因

RM : リソースマネージャの障害

SUPERIOR : 親トランザクションブランチからのロールバック指示

SUBORDINATE : 子トランザクションブランチからのロールバック報告

RPC\_TIMEOUT : 通信タイムアウト

RPC\_COMMFAIL : 通信障害

ee\_trn\_chained\_rollback : UAP での ee\_trn\_chained\_rollback 関数呼び出し

ee\_trn\_rollback\_mark : UAP での ee\_trn\_rollback\_mark 関数呼び出し

ee\_trn\_retry\_rollback : UAP での ee\_trn\_retry\_rollback 関数呼び出し

TIMEOUT : trn\_watch\_time でのタイムアウト

DOWN : UAP のダウン

OTHER：その他

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB80901-I

決着の付いていないトランザクションブランチがあります。未決着件数 = aa....aa

Undetermined transaction branches exist. number of undetermined transaction branches = aa....aa (S+P+L) (5) (SUP)

決着していないトランザクションブランチがあります。

aa....aa：決着していないトランザクション件数

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB80902-I

仕掛中トランザクションブランチがあるため再開を一時中断します。仕掛件数 = aa....aa

Restart is temporarily suspended because there are transaction branches in progress. number of in-progress transaction branches = aa....aa (S+P+L) (5) (SUP)

仕掛り中トランザクションブランチがあるため、TP1/EE の再開処理を一時中断します。

aa....aa：仕掛り中のトランザクション件数

(S)仕掛り中のすべてのトランザクションブランチが決着するまで、TP1/EE の再開処理を一時中断します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB80903-I

トランザクションブランチの回復が完了しました。XID = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 完了種別 = c, dd....dd, 中央処理通番 = ee....ee

Recovery of transaction branches has been completed. XID = aa....aa, service name = bb....bb, completion type = c, dd....dd, central processing number = ee....ee (S+P+L) (5) (SUP)

トランザクションブランチの回復が完了しました。

**aa....aa** : 該当するトランザクション識別子

**bb....bb** : サービス名

サービス名がない場合は, \*を表示します。

**c** : 該当するトランザクションブランチの完了種別

c : コミット決着

r : ロールバック決着

**dd....dd** : 子トランザクションブランチを含んだ完了種別

c : コミット

r : ロールバック

hc : ヒューリスティックコミット

コマンドでのコミット決着です。

hr : ヒューリスティックロールバック

コマンドでのロールバック決着です。

hm : ヒューリスティックミックス

リソースマネージャまたは子ブランチが, コミット, ロールバックの両方に決着しています。

hh : ヒューリスティックハザード

通信障害などが原因で, リソースマネージャまたは子ブランチの決着が, 該当するトランザクションブランチで認識できない場合の決着です。

**ee....ee** : トランザクションブランチが開始したときの中央処理通番

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB80904-I

XID = aa....aa, 状態 = bb....bb(c), サービス名 = dd....dd, TTR = ee....ee, TBR = ff....ff, OTTR = gg....gg

XID = aa....aa, status = bb....bb(c), service name = dd....dd, TTR = ee....ee, TBR = ff....ff, OTTR = gg....gg (S+P+L) (5) (SUP)

決着していないトランザクションの情報を出力します。

**aa....aa** : 該当するトランザクション識別子

**bb....bb** : トランザクション第 1 状態

BEGINNING : トランザクションブランチ開始処理中状態

ACTIVE : 実行中状態

SUSPENDED : 中断中状態

IDLE : 同期点処理へ移行状態

PREPARE : コミット (1 相目) 処理中状態

READY : コミット (2 相目) 処理待ち状態

HEURISTIC\_COMMIT : ヒューリスティック決着コミット処理中状態

HEURISTIC\_ROLLBACK : ヒューリスティック決着ロールバック処理中状態

COMMIT : コミット処理中状態

ROLLBACK\_ACTIVE : ロールバック処理待ち状態

ROLLBACK : ロールバック処理中状態

HEURISTIC\_FORGETTING : ヒューリスティック決着後のトランザクションブランチ終了処理中状態

FORGETTING : トランザクションブランチ終了処理中状態

**c** : トランザクション第 2 状態

u : トランザクション処理実行中状態

r : 回復スレッドでのトランザクションブランチ回復処理実行中状態

p : 通信障害監視スレッド, またはリソースマネージャ障害監視スレッドでのトランザクションブランチ監視状態

d : リソースマネージャ障害監視スレッドへのトランザクションブランチ監視依頼中状態

i : 通信障害監視スレッドへのトランザクションブランチ監視依頼中状態

**dd....dd** : サービス名

サービス名がない場合は, \*を表示します。

**ee....ee** : トランザクション記述子

**ff....ff** : ブランチ記述子

ルートトランザクションブランチの場合は, \*\*\*\*\*を表示します。

**gg....gg** : 親トランザクション記述子

ルートトランザクションブランチの場合は, \*\*\*\*\*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB80905-I

ヒューリスティック決着しました。XID = aa....aa, サービス名 = bb....bb, rmid = cc....cc, RM = dd....dd, func = ee....ee, 完了種別 = ff....ff

A transaction was heuristically completed. XID = aa....aa, service name = bb....bb, rmid = cc....cc, RM = dd....dd, func = ee....ee, completion type = ff....ff (S+P+L) (5) (SUP)

トランザクション決着処理で該当するリソースマネージャにヒューリスティック決着が発生しました。

aa....aa : トランザクション識別子

bb....bb : トランザクションを起動しているサービス名  
サービス名がない場合は, \*を表示します。

cc....cc : TP1/EE でリソースマネージャに割り当てた ID

dd....dd : リソースマネージャ名 (リソースマネージャ拡張子含む)

ee....ee : xa 関数種別

xa\_commit 関数または xa\_rollback 関数が表示されます。

ff....ff : xa 関数のリターン値としてリソースマネージャから返されたヒューリスティック決着の決着種別

hc : ヒューリスティックコミット

リソースマネージャが独自にコミットしました。

hr : ヒューリスティックロールバック

リソースマネージャが独自にロールバックしました。

hm : ヒューリスティックミックス

リソースマネージャがコミット, ロールバック両方に決着しました。

hh : ヒューリスティックハザード

その他のヒューリスティック決着をしました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB80906-I

ヒューリスティック決着電文を受信しました。XID = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 受信決着種別 = cc....cc, IP アドレス = dd....dd, 送信元 TTR = ee....ee, 完了種別 = ff....ff

A heuristic message was received. XID = aa....aa, service name = bb....bb, received determination type = cc....cc, IP address = dd....dd, transmission-source TTR = ee....ee, completion type = ff....ff (S+P+L) (5) (SUP)

サブオーディネイトトランザクションブランチからのヒューリスティック決着のメッセージを受信しました。

aa....aa : トランザクション識別子

bb....bb : トランザクションを起動しているサービス名  
サービス名がない場合は, \*を表示します。

cc....cc : 受信元のトランザクションブランチ決着種別

c : トランザクションブランチはコミットしました。

r : トランザクションブランチはロールバックしました。

hm : トランザクションブランチはヒューリスティックミックス決着しました。

リソースマネージャまたはサブオーディネイトトランザクションブランチがコミット, ロールバック両方に決着しました。

hh : トランザクションブランチはヒューリスティックハザード決着しました。

リソースマネージャまたはサブオーディネイトトランザクションブランチのヒューリスティック決着が通信障害などが原因で, 該当するトランザクションブランチでは認識できません。

\* : トランザクションブランチの決着種別は確定していません。

dd....dd : 送信元の IP アドレス

ee....ee : 送信元の TTR 番号

ff....ff : ヒューリスティックメッセージの決着種別

hc : ヒューリスティックコミット

リソースマネージャまたはサブオーディネイトトランザクションブランチが独自にコミットしました。

hr : ヒューリスティックロールバック

リソースマネージャまたはサブオーディネイトトランザクションブランチが独自にロールバックしました。

hm : ヒューリスティックミックス

リソースマネージャまたはサブオーディネイトトランザクションブランチがコミット, ロールバック両方に決着しました。

hh : ヒューリスティックハザード

リソースマネージャまたはサブオーディネイトトランザクションブランチのヒューリスティック決着が通信障害などが原因で, 該当するトランザクションブランチでは認識できません。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB80907-I

トランザクション処理の監視時間を変更しました。トランザクション種別 = aa....aa, 定義時間 = bb....bb, 変更前監視時間 = cc....cc, 変更後監視時間 = dd....dd

The monitoring time for transaction processing has been changed. transaction type = aa....aa, definition time = bb....bb, monitoring time before change = cc....cc, monitoring time after change = dd....dd (S+P+L) (5) (SUP)

eetrntim コマンドによって、トランザクション処理の監視時間を変更されました。

**aa....aa** : トランザクション種別

MI : 初期化トランザクション

ME : 終了トランザクション

MN : サービストランザクション

E1 : エラートランザクション 1

E2 : エラートランザクション 2

E3 : エラートランザクション 3

E4 : エラートランザクション 4

ES : エラートランザクション S

ER : エラートランザクション R

TM : タイマトランザクション

UI : 実行系連絡トランザクション

MV : イベント通知トランザクション

RL : MCP 後処理トランザクション

UT : ユーザ初期化トランザクション

CU : ユーザコマンドトランザクション

JI : 共有リソース初期化トランザクション

ALL : 上記のトランザクションすべて

**bb....bb** : トランザクション関連定義の trn\_expiration\_time オペランドまたは trn\_expiration\_time\_\*\* オペランド (\*\*は小文字のトランザクション種別) で指定したトランザクション処理の監視時間 (単位: 秒)

トランザクション種別が ALL である場合, \*が表示されます。

**cc....cc** : 変更前のトランザクション処理監視時間 (単位: 秒)

トランザクション種別が ALL である場合, \*が表示されます。

**dd....dd** : 変更後のトランザクション処理監視時間 (単位: 秒)

(S)eetrntim コマンドを実行したあとに起動したトランザクションは、変更後のトランザクション処理監視時間でトランザクション処理の時間監視を行います。

(O)なし。



[対策] なし。

## KFSB80908-I

トランザクション処理の監視時間を定義値に戻しました。

The monitoring time for transaction processing has been reset to the definition value. (S+P+L) (5) (SUP)

eetrntim コマンドによって、トランザクション処理の監視時間がトランザクション関連定義の trn\_expiration\_time オペランドまたは trn\_expiration\_time\_\*\*オペランド (\*\*は小文字のトランザクション種別) で指定した時間に戻されました。

(S)eetrntim コマンドを実行したあとに起動したトランザクションは、トランザクション関連定義の trn\_expiration\_time オペランドまたは trn\_expiration\_time\_\*\*オペランド (\*\*は小文字のトランザクション種別) で指定した監視時間でトランザクション処理の時間監視を行います。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB80950-I

現用となる履歴情報表を決定しました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 履歴情報表名 = bb....bb, ルート世代番号 = cc....cc, 世代番号 = dd....dd, 累積データ通番 = ee....ee, 割当て可能最大通番 = ff....ff

The current log information table was determined. UAP log information group name = aa....aa, log information table name = bb....bb, root generation number = cc....cc, generation number = dd....dd, accumulated data number = ee....ee, maximum number that can be allocated = ff....ff (S+P+L) (1) (SUP)

UAP履歴情報グループで現用となる履歴情報表を決定しました。

aa....aa : UAP履歴情報グループ名

bb....bb : 現用として使用する履歴情報表名

cc....cc : 現用となった履歴情報表のルート世代番号 (16進表示)

dd....dd : 現用となった履歴情報表の世代番号 (16進表示)

ee....ee : 現用となった履歴情報表の累積データ通番 (16進表示)

ff....ff : 現用となった履歴情報表の割当て可能最大通番 (16進表示)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB80951-I

UAP履歴情報の出力先が切り替わりました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 前回出力先表名 = bb....bb, 今回出力先表名 = cc....cc

The output destination for UAP log information was changed. UAP log information group name = aa....aa, table name for previous output destination = bb....bb, table name for current output destination = cc....cc (S+P+L) (3) (SUP)

UAP履歴情報の出力先が切り替わりました。前回出力した履歴情報表と今回出力した履歴情報表が異なる場合に出力します。

aa....aa : UAP履歴情報グループ名

bb....bb : 前回出力した履歴情報表名

cc....cc : 今回出力した履歴情報表名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB80952-I

計画停止処理で履歴情報表がスワップしました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 履歴情報表名 = bb....bb, 世代番号 = cc....cc, 累積データ通番 = dd....dd, 割当て可能最大通番 = ee....ee

The log information table was swapped during planned termination processing. UAP log information group name = aa....aa, log information table name = bb....bb, generation number = cc....cc, accumulated data number = dd....dd, maximum number that can be allocated = ee....ee (S+P+L) (5) (SUP)

UAP履歴情報取得機能による計画停止処理で履歴情報表がスワップしました。

aa....aa : UAP履歴情報グループ名

bb....bb : 現用となった履歴情報表名

cc....cc : 現用となった履歴情報表の世代番号 (16進表示)

dd....dd : 現用となった履歴情報表の累積データ通番 (16進表示)

ee....ee : 現用となった履歴情報表の割り当て可能最大通番 (16進表示)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB80953-I

切替中の履歴情報表を使用済にしました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 履歴情報表名 = bb....bb, ルート世代番号 = cc....cc, 世代番号 = dd....dd, データ通番 = ee....ee, 累積データ通番 = ff....ff

The status of the log information table being switched was changed to used. UAP log information group name = aa....aa, log information table name = bb....bb, root generation number = cc....cc, generation number = dd....dd, data number = ee....ee, accumulated data number = ff....ff (S+P+L) (1) (SUP)

UAP履歴情報取得機能によるスワップ完了監視処理で切り替え中の履歴情報表を使用済みにしました。該当する履歴情報表で、アンロード、データ抽出ユティリティでのデータ抽出などの運用を行うことができます。

aa....aa : UAP履歴情報グループ名

bb....bb : 使用済みとした履歴情報表名

cc....cc : 使用済みとした履歴情報表のルート世代番号 (16進表示)

dd....dd : 使用済みとした履歴情報表の世代番号 (16進表示)

ee....ee : 使用済みとした履歴情報表のデータ通番 (16進表示)

ff....ff : 使用済みとした履歴情報表の累積データ通番 (16進表示)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB80955-I

現用の履歴情報表を使用済にしました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 処理種別 = bb....bb, 履歴情報表名 = cc....cc, ルート世代番号 = dd....dd, 世代番号 = ee....ee, データ通番 = ff....ff, 累積データ通番 = gg....gg

The status of the current log information table was changed to used. UAP log information group name = aa....aa, processing type = bb....bb, log information table name = cc....cc, root generation number = dd....dd, generation number = ee....ee, data number = ff....ff, accumulated data number = gg....gg (S+P+L) (1) (SUP)

UAP 履歴情報取得機能による開始処理，または終了処理で現用の履歴情報表を使用済みにしました。該当する履歴情報表で，アンロード，データ抽出ユティリティでのデータ抽出などの運用を行うことができます。

aa....aa：UAP 履歴情報グループ名

bb....bb：処理種別

PROCESS\_START：開始処理

PROCESS\_END：終了処理

cc....cc：使用済みとした履歴情報表名

dd....dd：使用済みとした履歴情報表のルート世代番号（16 進表示）

ee....ee：使用済みとした履歴情報表の世代番号（16 進表示）

ff....ff：使用済みとした履歴情報表のデータ通番（16 進表示）

gg....gg：使用済みとした履歴情報表の累積データ通番（16 進表示）

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB80956-I

履歴情報表がスワップしました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, スワップ契機 = bb....bb, スワップ元表名 = cc....cc, スワップ元データ通番 = dd....dd, スワップ先表名 = ee....ee, スワップ先世代番号 = ff....ff, スワップ先累積データ通番 = gg....gg, 詳細コード = hh....hh

The log information table was swapped. UAP log information group name = aa....aa, swap reason = bb....bb, swap origin table name = cc....cc, swap origin data number = dd....dd, swap destination table name = ee....ee, swap destination generation number = ff....ff, swap destination accumulated data number = gg....gg, detail code = hh....hh (S+P+L) (1)  
(SUP)

履歴情報表がスワップしました。

aa....aa：UAP 履歴情報グループ名

bb....bb：スワップ契機

FULL：現用表が満杯になった，前回スワップに失敗した，またはスワップが競合した

FAULT：現用表へのアクセスエラー

COMMAND：スワップコマンド（TP1/FSP の eeaphswap コマンド）の実行

cc....cc：スワップ元の履歴情報表名

dd....dd : スワップ元のデータ通番 (16 進数)

ee....ee : スワップ先の履歴情報表名

ff....ff : スワップ先の世代番号 (16 進数)

gg....gg : スワップ先の累積データ通番 (16 進数)

hh....hh : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)スワップ元の履歴情報表を切り替え中の状態にして処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

### KFSB80958-I

履歴情報表の監視を再開します。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa

The log information table monitor is restarted. UAP log information group name = aa....aa  
(S+P+L) (5) (SUP)

UAP履歴情報取得機能による履歴情報表数の空き監視およびスワップ完了監視を再開します。

aa....aa : UAP履歴情報グループ名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

### KFSB80959-I

切替中の履歴情報表を未使用にしました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 履歴情報表名 = bb....bb

The status of the log information table being switched was changed to unused. UAP log information group name = aa....aa, log information table name = bb....bb (S+P+L) (5) (SUP)

UAP履歴情報取得機能によるスワップ完了監視処理で、切り替え中の履歴情報表を使用済みにしようとしたが、データが1件も格納されていなかったため未使用としました。該当する履歴情報表は、再度、現用として割り当てることができます。

aa....aa : UAP履歴情報グループ名

bb....bb : 未使用とした履歴情報表名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB80960-I

メモリ通番の仮予約および同期を再開します。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa  
Advance reservation and synchronization of memory sequence number is restarted. UAP log  
information group name = aa....aa (S+P+L) (5) (SUP)

UAP履歴情報メモリ機能での通番仮予約および通番同期を再開します。

aa....aa : UAP履歴情報グループ名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB81000-I

現用ステータス論理ファイルを決定しました。グループ番号 = aa....aa, 論理ファイル名 = bb....bb  
The current logical status file has been determined. group number = aa....aa, logical file name  
= bb....bb (S+P+L) (2) (SUP)

現用ステータス論理ファイルを決定しました。

aa....aa : 該当するファイルグループ番号

bb....bb : 現用ステータス論理ファイル名 (8文字以内の英数字)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB81002-I

ステータスファイルのスワップを開始しました。契機 = aa....aa, グループ番号 = bb....bb  
Swap processing for a status file has started. reason = aa....aa, group number = bb....bb  
(S+P+L) (6) (SUP)

ステータスファイルのスワップを開始しました。

**aa....aa** : スワップを開始した契機

START : ステータスサービス開始時, および再開始時の現用ファイル異常 (アクセスエラー, A 系 / B 系間の論理的エラー)

ONLINE : オンライン中の現用ファイルへのアクセスエラー

COMMAND : スワップコマンド (eestsswap) 入力

**bb....bb** : 該当するファイルグループ番号

(S)なし。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB81003-I

ステータスファイルのスワップを完了しました。グループ番号 = aa....aa, 現用論理ファイル名 = bb....bb

Swap processing for a status file has finished. group number = aa....aa, current logical file name = bb....bb (S+P+L) (2) (SUP)

ステータスファイルのスワップを完了しました。

**aa....aa** : 該当するファイルグループ番号

**bb....bb** : 該当する現用ステータス論理ファイル名 (8 文字以内の英数字)

(S)なし。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB81004-I

ステータス論理ファイルでフラグメンテーションによるレコード不足が発生しました。グループ番号 = aa....aa, 論理ファイル名 = bb....bb

A record shortage has occurred in a logical status file due to fragmentation. group number = aa....aa, logical file name = bb....bb (S+P+L) (5) (SUP)

制御用ステータスファイルで, フラグメンテーションによるレコード不足が発生しました。

**aa....aa** : 該当するファイルグループ番号

**bb....bb** : 該当するステータス論理ファイル名 (8 文字以内の英数字)

(S)予備ファイルが存在する場合、スワップ処理をします。予備ファイルが存在しない場合、スワップ処理を中止します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB81005-I

```
ステータスファイルをオープンしました。ファイル名 = aa....aa  
A status file has been opened. file name = aa....aa (S+P+L) (5) (SUP)
```

ステータスファイルのオープンに成功しました。

aa....aa : 該当するステータス論理ファイル名 (8文字以内の英数字), またはステータス物理ファイルのパス名 (510文字以内)

(S)なし。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB81006-I

```
ステータスファイルをクローズしました。ファイル名 = aa....aa  
A status file has been closed. file name = aa....aa (S+P+L) (5) (SUP)
```

ステータスファイルのクローズに成功しました。

aa....aa : 該当するステータス論理ファイル名 (8文字以内の英数字), またはステータス物理ファイルのパス名 (510文字以内)

(S)なし。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB81401-I

```
定義オブジェクトファイル名 = aa....aa, バージョン = bb....bb, 作成日時 = YYYY/MM/DD  
hh:mm:ss nnn.nnn, TP1/EE サービスグループ名 = cc....cc, ノード識別子 = dddd  
definition object file name = aa....aa, version = bb....bb, creation date and time = YYYY/MM/  
DD hh:mm:ss nnn.nnn, TP1/EE service group name = cc....cc, node ID = dddd (S) (5)  
(SUP)
```



定義オブジェクトファイルを読み込みました。

aa....aa : 定義オブジェクトファイル名

bb....bb : 定義オブジェクトファイルのバージョン

YYYY/MM/DD hh:mm:ss nnn.nnn :

定義オブジェクトファイルの作成日時  
nnn.nnn はミリ秒、マイクロ秒を表示

cc....cc : TP1/EE サービスグループ名

dddd : ノード識別子

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB81402-I

コネクションを確立しました。コネクション ID = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
Established the connection. connection ID = aa....aa, reason code = bb....bb (S+P+L) (5)  
(SUP)

コネクションを確立しました。

aa....aa : コネクション ID

bb....bb : 理由コード

トランザクションインタフェースの MCP 固有情報 (TRNINF\_SERVICE\_MCP) の reason 値 (数値) を表示します。

MCP 固有情報 (TRNINF\_SERVICE\_MCP) の reason 値 (数値) については、マニュアル「TP1/EE/Message Control Extension 使用の手引」の「トランザクションインタフェース情報」を参照してください。COBOL 言語の場合は、「データ名 MG」を参照してください。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB81403-I

コネクションを解放しました。コネクション ID = aa....aa, 理由コード = bb....bb

```
Released the connection. connection ID = aa....aa, reason code = bb....bb (S+P+L) (5)
(SUP)
```

コネクションを解放しました。コネクション確立処理の完了前にコネクション解放のコマンドやAPIを発行した場合もこのメッセージを出力します。

**aa....aa** : コネクション ID

**bb....bb** : 理由コード

トランザクションインタフェースの MCP 固有情報 (TRNINF\_SERVICE\_MCP) の reason 値 (数値) を表示します。

MCP 固有情報 (TRNINF\_SERVICE\_MCP) の reason 値 (数値) については、マニュアル「TP1/EE/Message Control Extension 使用の手引」の「トランザクションインタフェース情報」を参照してください。COBOL 言語の場合は、「データ名 MG」を参照してください。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB81404-I

```
論理端末の閉塞を解除しました。論理端末名 = aa....aa, コネクション ID = bb....bb, 理由コード =
cc....cc
```

```
Released the shutdown state of the logical terminal. logical terminal name = aa....aa,
connection ID = bb....bb, reason code = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)
```

論理端末の閉塞を解除しました。

**aa....aa** : 論理端末名

**bb....bb** : コネクション ID

UDP プロトコルの場合は、\*を表示します。

**cc....cc** : 理由コード

トランザクションインタフェースの MCP 固有情報 (TRNINF\_SERVICE\_MCP) の reason 値 (数値) を表示します。

MCP 固有情報 (TRNINF\_SERVICE\_MCP) の reason 値 (数値) については、マニュアル「TP1/EE/Message Control Extension 使用の手引」の「トランザクションインタフェース情報」を参照してください。COBOL 言語の場合は、「データ名 MG」を参照してください。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

## KFSB81405-I

論理端末を閉塞しました。論理端末名 = aa....aa, コネクション I D = bb....bb, 理由コード = cc....cc  
The logical terminal was shut down. logical terminal name = aa....aa, connection ID = bb....bb,  
reason code = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

論理端末を閉塞しました。

aa....aa : 論理端末名

bb....bb : コネクション ID

UDP プロトコルの場合は, \*を表示します。

cc....cc : 理由コード

トランザクションインタフェースの MCP 固有情報 (TRNINF\_SERVICE\_MCP) の reason 値 (数値) を表示します。

MCP 固有情報 (TRNINF\_SERVICE\_MCP) の reason 値 (数値) については, マニュアル「TP1/EE/Message Control Extension 使用の手引」の「トランザクションインタフェース情報」を参照してください。COBOL 言語の場合は, 「データ名 MG」を参照してください。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

## KFSB81406-I

コネクション確立 UOC により確立要求を拒否しました。コネクション I D = aa....aa, 相手 IP アドレス = bb....bb, 相手ポート番号 = cc....cc, 拒否理由 = dd....dd  
Rejects connection establishment request with connection establishment UOC. connection ID = aa....aa, target IP address = bb....bb, target port number = cc....cc, reject code = dd....dd  
(S+P+L) (5) (SUP)

コネクション確立 UOC の指示によって確立要求を拒否しました。

aa....aa : コネクション I D

bb....bb : 相手 IP アドレス

確立要求をした相手システムの IP アドレス

cc....cc : 相手ポート番号

確立要求をした相手システムのポート番号

dd....dd : 拒否理由

コネクション確立 UOC でユーザが設定した拒否理由

(S)確立要求を拒否します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB81803-I

プロセスの強制再開始を行います。サービスグループ名 = aa....aa

Processes will now be forcibly restarted. service group name = aa....aa (S+P+L) (5)  
(SUP)

TP1/EE プロセスの強制再開始を行います。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB81900-I

メッセージ出力を開始します。メッセージログファイル名 = aa....aa, ラン ID = bbbbbbbb

start to output message. logfile name=aa....aa, runid=bbbbbbbb (S+P+L) (5) (SUP)

メッセージログファイルにメッセージ出力を開始します。メッセージオブジェクトファイルの読み出し時に障害が発生した場合は、英語のメッセージが出力されます。

aa....aa : メッセージを出力するメッセージログファイル名

bbbbbbbb : ラン ID

ラン ID が決定していない場合は、00000000 を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB81901-I

メッセージログファイルがスワップしました。スワップ元ファイル = aa....aa, スワップ先ファイル = bb....bb, ラン ID = cccccccc

```
swap logfile. previous logfile name=aa....aa, next logfile name=bb....bb, runid=cccccccc  
(S+P+L) (5) (SUP)
```

メッセージログファイルがスワップしました。メッセージオブジェクトファイルの読み出し時に障害が発生した場合は、英語のメッセージが出力されます。

aa....aa：スワップ元ファイル名

bb....bb：スワップ先ファイル名

cccccccc：ラン ID

ラン ID が決定していない場合は、00000000 を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB81902-I

```
SYSLOG へのメッセージ出力を開始します。ラン I D = aaaaaaaaa  
start to output message to SYSLOG. runid=aaaaaaaa (S+P+L) (5) (SUP)
```

syslog へのメッセージ出力を開始します。メッセージオブジェクトファイルの読み出し時に障害が発生した場合は、英語のメッセージが出力されます。

aaaaaaaa：ラン ID

ラン ID が決定していない場合は、00000000 を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB82000-I

```
データ連携支援の開始処理を開始します。  
Processing to start data linkage support will now start. (P+L) (1) (NOS)
```

データ連携支援の開始処理を開始します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB82001-I

データ連携支援の開始処理を終了します。

Processing to start data linkage support will now end. (P+L) (1) (NOS)

データ連携支援の開始処理を終了します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB82002-I

データ連携支援の終了処理を開始します。

Processing to terminate data linkage support will now start. (P+L) (1) (NOS)

データ連携支援の終了処理を開始します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB82003-I

データ連携支援の終了処理を終了します。

Processing to terminate data linkage support will now end. (P+L) (1) (NOS)

データ連携支援の終了処理を終了します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB82004-I

データ連携支援の開始情報1：バージョン= aa-aa-aa，データ連携支援ID= bb...bb，UAP履歴情報グループ名= cc...cc，開始モード= dd...dd (f)，セグメント識別子= ee...ee

Data linkage support start information 1: version = aa-aa-aa, data linkage support ID = bb...bb, UAP log information group name = cc...cc, start mode = dd...dd (f), segment identifier = ee...ee (P+L) (1) (NOS)

データ連携支援の開始情報を出力します。

aa-aa-aa：実行した eeaphrunrksh コマンドの TP1/EE のバージョン

bb...bb：データ連携支援 ID

cc....cc：UAP 履歴情報グループ名

dd....dd：データ連携支援の開始モード

NORMAL START：正常開始

RESTART：再開始

FORCE：強制開始

ee....ee：共有メモリのセグメント識別子

f：前回中断時の反映先指定 UOC からの読み出し UJ 指定有無

Y：読み出し UJ 指定あり

N：読み出し UJ 指定なし，または読み出し UJ 指定は無効

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB82005-I

データ連携支援の開始情報 2：ルート世代番号 = aaaaaaaa, 世代番号 = bbbbbbbb, 履歴情報表名 = cc....cc

Data linkage support start information 2: root generation number = aaaaaaaa, generation number = bbbbbbbb, log information table name = cc....cc (P+L) (1) (NOS)

データ連携支援の開始情報を出力します。

aaaaaaaa：開始したルート世代番号（8 けたの 16 進数）

bbbbbbbb：開始した世代番号（8 けたの 16 進数）

cc....cc：開始した世代番号に対応する履歴情報表名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB82006-I

```
TP1/EE プロセス情報：ノード識別子 = aaaa, ラン ID = bbbbbbbb, 状態 = cc....cc  
TP1/EE process information: node ID = aaaa, run ID = bbbbbbbb, status = cc....cc (P  
+L) (1) (NOS)
```

TP1/EE プロセス情報を出力します。

抽出対象がリロード用履歴情報表のとき、または抽出対象が最新のルート世代番号の履歴情報表でないときは、このメッセージは表示されません。

**aaaa** : 抽出元 TP1/EE のノード識別子

**bbbbbbbb** : 抽出元 TP1/EE のラン ID (8 けたの 16 進数)

TP1/EE が開始していないときは、00000000 が表示されます。

**cc....cc** : 状態

ACTIVE : TP1/EE 開始処理完了状態

TP1/EE 強制停止状態、および計画停止 B 状態を含みます。

NOT ACTIVE : TP1/EE 開始処理未完了状態

TP1/EE 正常終了を含みます。

PLAN END : 計画停止 A 状態

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB82007-I

```
データ連携支援の終了情報 1 : データ連携支援 ID = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 =  
bb....bb, 終了モード = cc....cc (d)
```

```
Data linkage support termination information 1: data linkage support ID = aa....aa, UAP log  
information group name = bb....bb, end mode = cc....cc (d) (P+L) (1) (NOS)
```

データ連携支援の終了情報を出力します。

**aa....aa** : データ連携支援 ID

**bb....bb** : UAP 履歴情報グループ名

**cc....cc** : データ連携支援の終了モード

NORMAL END : 正常終了

COMMAND REQUEST : eeaphstprks コマンド (-a/-b オプション) による中断



UOC REQUEST : UOC 指示による中断

SRV REQUEST : 反映サービスで中断要因発生による中断

PLAN END : 計画停止検知による中断

RANGE END : TABLE 文の UAPTBL オペランドで指定されたユーザデータ (UJ) 終了による中断

FORCE END : eeaphstprks コマンド (-c オプション) による強制停止

\* : 上記以外の要因による中断

d : 反映先指定 UOC からの読み出し UJ 指定有無

Y : 読み出し UJ 指定あり

N : 読み出し UJ 指定なし, または読み出し UJ 指定は無効

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** 終了モードが SRV REQUEST の場合, 事前に出力されている KFSB50970-E, KFSB52006-E, KFSB52007-W, または KFSB62015-E に従って対策してください。

## KFSB82008-I

データ連携支援の終了情報 2 : ルート世代番号 = aaaaaaaa, 世代番号 = bbbbbbbb, 履歴情報表名 = cc....cc, 終了形態 = dd....dd, レコード数 = ee....ee, 累積データ通番 = ff....ff (gg....gg), 最大累積データ通番 = hh....hh

Data linkage support termination information 2: root generation number = aaaaaaaa, generation number = bbbbbbbb, log information table name = cc....cc, end status = dd....dd, number of records = ee....ee, accumulated data number = ff....ff (gg....gg), maximum accumulated data number = hh....hh (P+L) (1) (NOS)

データ連携支援の終了情報を出力します。

aaaaaaa : 終了したルート世代番号 (8 けたの 16 進数)

bbbbbbb : 最終世代番号 (8 けたの 16 進数)

cc....cc : 最終世代番号に対応する履歴情報表名

dd....dd : 終了形態

EOF : ユーザデータ (UJ) 終了検知

PLAN EOF : 計画停止検知

RANGE EOF : 範囲指定のユーザデータ (UJ) 終了検知

\*\*\*\*\* : 残り情報あり

ee....ee : 抽出したユーザデータ (UJ) のレコード数

ff...ff：仕掛かり中の累積データ通番（16 けたの 16 進数）

反映サービス処理が完了していないユーザデータ（UJ）の最小の累積データ通番を設定します。トランザクション内で複数の UAP 履歴情報を取得している場合、先頭のユーザデータ（UJ）の累積データ通番となります。

反映サービス処理が完了しているときは、最終累積データ通番と同じ値を設定します。

抽出が完了し、すべてのユーザデータ（UJ）の反映サービス処理が完了しているときは、最大累積データ通番と一致します。

gg...gg：最終累積データ通番（16 けたの 16 進数）

反映サービス処理が完了したユーザデータ（UJ）の最終累積データ通番を設定します。

hh...hh：最大累積データ通番（16 けたの 16 進数）

オンライン（TP1/EE）が出力した最大の累積データ通番を設定します。

抽出対象がリロード用履歴情報表の場合は、すべて 0 が表示されます。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB82010-I

データ連携支援のプロセスを強制停止します。データ連携支援 ID = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd

Shutdown the data linkage support process. data linkage support ID = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (P+L) (1) (NOS)

データ連携支援のプロセスを強制停止します。

aa....aa：データ連携支援 ID

bb....bb：理由コード

0001：開始処理中に、中断コマンドが入力されました。

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)データ連携支援のプロセスを強制停止します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB82013-I

オンラインの開始を待ちます。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, ルート世代番号 = bbbbbbbb  
Now waiting for the online transaction to start. UAP log information group name = aa....aa,  
root generation number = bbbbbbbb (P+L) (1) (NOS)

オンラインが開始していないため、オンラインの開始を待ちます。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bbbbbbbb : ルート世代番号 (8 けたの 16 進数)

(S)オンラインが開始し、グループ管理表に情報が出力されるまで待ちます。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB82014-I

オンラインが開始しました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, ルート世代番号 = bbbbbbbb  
The online transaction started. UAP log information group name = aa....aa, root generation  
number = bbbbbbbb (P+L) (1) (NOS)

開始していなかったオンラインが開始したことを知らせます。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bbbbbbbb : ルート世代番号 (8 けたの 16 進数)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB82015-I

オンラインの開始処理完了待ちを中止します。  
The wait for online transaction start processing to finish will now be canceled. (P+L) (1)  
(NOS)

オンライン開始処理の完了待ち状態で中断コマンドが入力されたため、対象となるオンラインの開始処理完了待ちを中止し、データ連携支援のプロセスを強制停止します。

(S)データ連携支援のプロセスを強制停止します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB82016-I

データ抽出処理を開始しました。ルート世代番号 = aaaaaaaa, 世代番号 = bbbbbbbb, 累積データ通番 = cc....cc (dd....dd)

Data extraction processing started. root generation number = aaaaaaaa, generation number = bbbbbbbb, accumulated data number = cc....cc (dd....dd) (P+L) (5) (NOS)

データ抽出処理を開始しました。

aaaaaaa: ルート世代番号 (8 けたの 16 進数)

bbbbbbb: 開始した世代番号 (8 けたの 16 進数)

cc....cc: 仕掛かり中の累積データ通番 (16 けたの 16 進数)

dd....dd: 最終累積データ通番 (16 けたの 16 進数)

強制開始, および再開の場合は, 表示された最終累積データ通番を持つ UJ の次の UJ から処理対象とします。

正常開始の場合は, 0000000000000000 が表示されます。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB82017-I

統計情報ファイルがスワップしました。スワップ元ファイル = aa....aa, スワップ先ファイル = bb....bb

The statistics file was swapped. swap source file = aa....aa, swap destination file = bb....bb (P+L) (5) (NOS)

統計情報ファイルがスワップしました。

aa....aa: スワップ元ファイル名

bb....bb: スワップ先ファイル名

(S)処理を続行します。

(O)必要に応じて, スワップ元ファイルをバックアップしてください。

[対策] なし。

## KFSB82018-I

データ連携支援を一時中断します。データ連携支援 ID = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 = bb....bb, ルート世代番号 = cccccccc, 世代番号 = dddddddd, 履歴情報表名 = ee....ee, 累積データ通番 = ff....ff (gg....gg), 最大累積データ通番 = hh....hh

Data linkage support is temporarily suspended. data linkage support ID = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, root generation number = cccccccc, generation number = dddddddd, log information table name = ee....ee, accumulated data number = ff....ff (gg....gg), maximum accumulated data number = hh....hh (P+L) (1) (NOS)

データ連携支援を一時中断します。

**aa....aa** : データ連携支援 ID

**bb....bb** : UAP 履歴情報グループ名

**cccccccc** : ルート世代番号 (8 けたの 16 進数)

**dddddddd** : 最終世代番号 (8 けたの 16 進数)

**ee....ee** : 最終世代番号に対応する履歴情報表名

**ff....ff** : 仕掛中累積データ通番 (16 けたの 16 進数)

反映サービス処理が完了していないユーザデータ (UJ) の最小の累積データ通番を設定します。トランザクション内で複数の UAP 履歴情報を取得している場合、先頭のユーザデータ (UJ) の累積データ通番となります。

反映サービス処理が完了しているときは、最終累積データ通番と同じ値を設定します。

**gg....gg** : 最終累積データ通番 (16 けたの 16 進数)

反映サービス処理が完了したユーザデータ (UJ) の最終累積データ通番を設定します。

**hh....hh** : 最大累積データ通番 (16 けたの 16 進数)

オンライン (TP1/EE) が出力した最大の累積データ通番を設定します。

抽出対象がリロード用履歴情報表の場合は、すべて 0 が表示されます。

(S) データ連携支援を一時中断します。

(O) なし。

[対策] なし。

## KFSB82019-I

データ連携支援を自動再実行します。再実行回数 = aa....aa

Data linkage support will restart automatically. retry count = aa....aa (P+L) (5) (NOS)

データ連携支援関連定義の trn\_rks\_retry\_interval オペランド値の時間、待ち合わせ後にデータ連携支援を自動再実行します。

aa....aa：自動再実行回数

障害が解消された場合、次の自動再実行回数は 1 となります。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB82020-I

読み出し UJ 指定時の再開始情報：ルート世代番号 = aaaaaaaa, 世代番号 = bbbbbbbb, 履歴情報表名 = cc....cc, 累積データ通番 = dd....dd (ee....ee)

Restart information during specification of the retrieval UJ: root generation number = aaaaaaaa, generation number = bbbbbbbb, log information table name = cc....cc, accumulated data number = dd....dd (ee....ee) (P+L) (1) (NOS)

反映先指定 UOC で、再開始（読み出し UJ 指定）指示があったときの情報を出力します。

このメッセージは、再開始（読み出し UJ 指定）指示があったときの情報を PJ 管理表に書き込んで有効となったときに出力します。

aaaaaaa：ルート世代番号（8 けたの 16 進数）

bbbbbbb：世代番号（8 けたの 16 進数）

cc....cc：世代番号に対応する履歴情報表名

dd....dd：仕掛中累積データ通番（16 けたの 16 進数）

反映サービス処理が完了していないユーザデータ（UJ）の最小の累積データ通番を設定します。トランザクション内で複数の UAP 履歴情報を取得している場合、先頭のユーザデータ（UJ）の累積データ通番となります。

反映サービス処理が完了しているときは、最終累積データ通番と同じ値を設定します。

抽出が完了し、すべてのユーザデータ（UJ）の反映サービス処理が完了しているときは、最大累積データ通番と一致します。

ee....ee：最終累積データ通番（16 けたの 16 進数）

反映サービス処理が完了したユーザデータ（UJ）の最終累積データ通番を設定します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB82100-I

データ抽出ユーティリティの処理を開始します。

The data extraction utility will now start. (P+L) (1) (NOS)

データ抽出ユーティリティの処理を開始します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB82101-I

データ抽出ユーティリティの処理を終了します。

The data extraction utility will now stop. (P+L) (1) (NOS)

データ抽出ユーティリティの処理を終了します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB82110-I

UAP履歴情報の入力を開始します。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 履歴情報表名 = bb....bb, ルート世代番号 = cc....cc, 世代番号 = dd....dd

Logging of the UAP log information will now start. UAP log information group name = aa....aa, log information table name = bb....bb, root generation number = cc....cc, generation number = dd....dd (P+L) (5) (NOS)

UAP履歴情報の入力を開始します。

aa....aa : UAP履歴情報グループ名

bb....bb : 履歴情報表名

cc....cc : ルート世代番号 (16進表示)

dd....dd : 世代番号 (16進表示)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

## KFSB82111-I

UAP履歴情報の入力元を切り替えました。UAP履歴情報グループ名 = aa....aa, 履歴情報表名 = bb....bb, ルート世代番号 = cc....cc, 世代番号 = dd....dd

The input source of the UAP log information was switched. UAP log information group name = aa....aa, log information table name = bb....bb, root generation number = cc....cc, generation number = dd....dd (P+L) (5) (NOS)

UAP履歴情報の入力元を切り替えました。

aa....aa : UAP履歴情報グループ名

bb....bb : 切り替え先の履歴情報表名

cc....cc : ルート世代番号 (16進表示)

dd....dd : 世代番号 (16進表示)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

## KFSB82112-I

UAP履歴情報の入力を終了します。理由コード = aaaa

Logging of UAP log information will stop. reason code = aaaa (P+L) (5) (NOS)

UAP履歴情報の入力を終了します。

aaaa : 理由コード

0001 : EOFを入力しました。

0002 : EORを入力しました。

0003 : 履歴情報表からの入力を完了し、EOTを入力しました。

0004 : オンラインに追い付いたため、EOTを入力しました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。



## KFSB82120-I

再開情報の読み込みを開始します。P J 管理表名 = aa....aa, P J 突合せ表名 = bb....bb

Loading of checkpoint data will start. PJ management table name = aa....aa, PJ comparison table name = bb....bb (P+L) (5) (NOS)

再開情報の読み込みを開始します。

aa....aa : PJ 管理表名

bb....bb : PJ 突き合わせ表名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB82121-I

再開情報を読み込んでいます。P J 管理表名 = aa....aa, P J 突合せ表名 = bb....bb, 行数 = cc....cc (dd%)

Checkpoint data is being loaded. PJ management table name = aa....aa, PJ comparison table name = bb....bb, number of lines = cc....cc (dd%) (P+L) (5) (NOS)

再開情報を読み込んでいます。

aa....aa : PJ 管理表名

bb....bb : PJ 突き合わせ表名

cc....cc : PJ 突き合わせ表のデータ部から読み込んだ行数

dd : PJ 突き合わせ表のデータ部からの読み込みの進捗率 (小数点以下切り捨て)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB82122-I

再開情報の読み込みを終了します。P J 管理表名 = aa....aa, P J 突合せ表名 = bb....bb

Loading of checkpoint data will now end. PJ management table name = aa....aa, PJ comparison table name = bb....bb (P+L) (5) (NOS)

再開情報の読み込みを終了します。

aa....aa : PJ 管理表名

bb....bb : PJ 突き合わせ表名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB82123-I

```
再開情報の書き込みを開始します。 P J 管理表名 = aa....aa, P J 突合せ表名 = bb....bb  
Writing of checkpoint data will now start. PJ management table name = aa....aa, PJ  
comparison table name = bb....bb (P+L) (5) (NOS)
```

再開情報の書き込みを開始します。

aa....aa : PJ 管理表名

bb....bb : PJ 突き合わせ表名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB82124-I

```
再開情報を書き込んでいます。 P J 管理表名 = aa....aa, P J 突合せ表名 = bb....bb, 行数 = cc....cc  
(dd%)  
Checkpoint data is now being written. PJ management table name = aa....aa, PJ comparison  
table name = bb....bb, number of lines = cc....cc (dd%) (P+L) (5) (NOS)
```

再開情報を書き込んでいます。

aa....aa : PJ 管理表名

bb....bb : PJ 突き合わせ表名

cc....cc : PJ 突き合わせ表のデータ部に書き込んだ行数

dd : PJ 突き合わせ表のデータ部への書き込みの進ちょく率 (小数点以下切り捨て)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

#### KFSB82125-I

再開情報の書き込みを終了します。P J 管理表名 = aa....aa, P J 突合せ表名 = bb....bb

Writing of checkpoint data will now end. PJ management table name = aa....aa, PJ comparison table name = bb....bb (P+L) (5) (NOS)

再開情報の書き込みを終了します。

aa....aa : PJ 管理表名

bb....bb : PJ 突き合わせ表名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

#### KFSB82126-I

再開情報を初期化しました。P J 引継ぎ情報名 = aa....aa

Checkpoint data was initialized. PJ checkpoint information name = aa....aa (P+L) (5) (NOS)

再開情報を初期化しました。

aa....aa : PJ 引き継ぎ情報名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

#### KFSB82127-I

履歴情報表がアンロード可能な状態となりました。UAP 履歴情報グループ名 = aa....aa, 履歴情報表名 = bb....bb, ルート世代番号 = cc....cc, 世代番号 = dd....dd

The log information table was the state that unloading is possible. UAP log information group name = aa....aa, log information table name = bb....bb, root generation number = cc....cc, generation number = dd....dd (P+L) (3) (NOS)

履歴情報表がアンロード可能な状態となりました。また、履歴情報表を未使用の状態に変更できます。

aa....aa : UAP 履歴情報グループ名

bb....bb：アンロード可能な取得用履歴情報表名

cc....cc：ルート世代番号（16進表示）

dd....dd：世代番号（16進表示）

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB84300-I

再開時に当該RMをSDBハンドラ機能の対象外としました。RM名称 = aa....aa

When resuming, the RM was excluded as a target of the SDB handler function. RM name = aa....aa (S+P+L) (5) (SUP)

正常開始時に該当するリソースマネージャをSDBハンドラ機能の対象外にしたため、再開時に対象外にしました。

aa....aa：リソースマネージャ名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB84301-I

SDB定義情報の取得処理が正常終了しました。領域種別 = aa....aa, 取得日時 = bb....bb, 総サイズ = cc....cc, 追加確保サイズ = dd....dd, 空きサイズ = ee....ee, SDB表数 = ff....ff

Processing for acquiring the SDB definition information ended properly. area type = aa....aa, acquisition date = bb....bb, total size = cc....cc, additional reserved size = dd....dd, free size = ee....ee, number of SDB tables = ff....ff (S+P+L) (1) (SUP)

SDB定義情報の取得処理が正常終了しました。取得したSDB定義情報は、SDB定義情報領域（正）、またはSDB定義情報領域（副）に格納しています。

aa....aa：領域種別

PRIMARY：SDB定義情報領域（正）

SECONDARY：SDB定義情報領域（副）

bb....bb：取得処理を開始した日時（「YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss」形式）

YYYY：年（西暦）

MM：月

DD：日

hh：時

mm：分

ss.ssssss：秒（マイクロ秒まで表示）

cc....cc：SDB 定義情報領域の総サイズ（単位：バイト）

dd....dd：SDB 定義情報領域の追加確保サイズ（単位：バイト）

追加確保がない場合は「0」を出力します。

ee....ee：SDB 定義情報領域の空きサイズ（単位：バイト）

空きがない場合は「0」を出力します。

ff....ff：取得した SDB 表の数

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB84302-I

SDB 定義情報領域の正副切替が正常終了しました。正領域取得日時 = aa....aa, 副領域取得日時 = bb....bb

Node switching on the SDB definition information area ended properly. primary area acquisition date = aa....aa, secondary area acquisition date = bb....bb (S+P+L) (1) (SUP)

SDB 定義情報領域の正副切り替えが正常終了しました。

aa....aa：切り替え後の SDB 定義情報領域（正）の取得日時（「YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss」形式）※

YYYY：年（西暦）

MM：月

DD：日

hh：時

mm：分

ss.ssssss：秒（マイクロ秒まで表示）

bb....bb：切り替え後の SDB 定義情報領域（副）の取得日時（「YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss」形式）※

正副切り替え時に SDB 定義情報領域（副）を削除した場合（「-d」オプション指定）は、「\*\*\*\*/\*\*/\*\* \*\*:\*:\*.\*.\*\*\*\*\*」を出力

注※ KFSB84301-I メッセージで出力された日時です。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85001-I

ユーザコマンドトランザクションを開始します。サービス名 = aa....aa, 中央処理通番 = bbbbbbbb,  
入力パラメータ = cc....cc

The user command transaction will start. service name = aa....aa, central processing number  
= bbbbbbbb, input parameter = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

ユーザコマンドトランザクションを開始します。

aa....aa : 実行するサービス名

bbbbbbbb : ユーザコマンドトランザクションの中央処理通番

cc....cc : コマンドで入力したサービスの入力パラメータ (文字列形式)

入力パラメータが 128 バイト以上の場合は、先頭 128 バイトを表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85002-I

ユーザコマンドトランザクションが終了しました。サービス名 = aa....aa, 中央処理通番 = bbbbbbbb

The user command transaction is complete. service name = aa....aa, central processing  
number = bbbbbbbb (S+P+L) (5) (SUP)

ユーザコマンドトランザクションが終了しました。

aa....aa : 実行するサービス名

bbbbbbbb : ユーザコマンドトランザクションの中央処理通番

他ノードのユーザコマンドトランザクション内で、連鎖モードのコミット関数

(ee\_trn\_chained\_commit) または連鎖モードのロールバック関数 (ee\_trn\_chained\_rollback) の発行後にスレッドダウンした場合、スレッドダウンしたトランザクションの中央処理通番を表示します。

プロセス再開始時に出力する場合は、\*\*\*\*\*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB85003-I

他ノードでユーザコマンドトランザクションの実行を開始します。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 中央処理通番 = ccccccc, 入力パラメタ = dd....dd

Execution of the user command transaction on another node will start. service group name = aa....aa, service name = bb....bb, central processing number = ccccccc, input parameter = dd....dd (S+P+L) (5) (SUP)

他ノードでユーザコマンドトランザクションを開始します。

aa....aa : ユーザコマンドトランザクション実行先サービスグループ名

bb....bb : 実行するサービス名

ccccccc : ユーザコマンド転送用トランザクションの中央処理通番

dd....dd : コマンドで入力したサービスの入力パラメタ (文字列形式)

入力パラメタが 128 バイト以上の場合、先頭 128 バイトを表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB85004-I

他ノードでユーザコマンドトランザクションが終了しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 中央処理通番 = ccccccc

The user command transaction on another node is complete. service group name = aa....aa, service name = bb....bb, central processing number = ccccccc (S+P+L) (5) (SUP)

他ノードでユーザコマンドトランザクションが終了しました。

aa....aa : ユーザコマンドトランザクション実行先サービスグループ名

bb....bb : 実行するサービス名

ccccccc : ユーザコマンド転送用トランザクションの中央処理通番

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

## KFSB85010-I

トランザクションの静止化が完了しました。

A transaction was staticized successfully. (S+P+L) (5) (SUP)

トランザクションの静止化が完了しました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85011-I

トランザクションの静止化解除が完了しました。

A transaction was unstaticized successfully. (S+P+L) (5) (SUP)

トランザクションの静止化解除が完了しました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85012-I

UAP 共用ライブラリの入替えが完了しました。

The UAP common libraries were replaced successfully. (S+P+L) (5) (SUP)

UAP 共用ライブラリの入替えが完了しました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85013-I

UAP 共用ライブラリ同時入替え機能によるトランザクションの静止化解除が完了しました。

A transaction was unstaticized successfully by the functionality that simultaneously replaces UAP common libraries. (S+P+L) (5) (SUP)

UAP 共用ライブラリ同時入れ替え機能によるトランザクションの静止化解除が完了しました。

(S)処理を続行します。



(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85101-I

プール確保情報。プール名称 = aa....aa, プール全体サイズ = bb....bb, プール確保回数 = cc....cc  
Pool allocation information. pool name = aa....aa, total size of pool = bb....bb, number of pool allocations = cc....cc (P+L) (6) (SUP)

TP1/EE のメモリ管理で確保したプールの統計情報を出力します。

aa....aa : プール名称

CBLPOOL : COBOL 用メモリプール

EIT : ユーザ用ワーク領域

MPSPPOOL : 大量処理用システムメモリプール

MPUPOOL : 大量処理用ユーザメモリプール

OBMPOOL : OBM 機能用メモリプール

RIT : 共用ワーク領域

SIT : システム用ワーク領域

XDBPOOL : XDB 用ワーク領域

XTCPOOL : XTC 用ワーク領域

bb....bb : オンライン中に確保した該当プールの全体サイズ (最大値)

cc....cc : オンライン中にプールを確保した回数 (累計確保回数)

プール確保回数が 4294967295 回を超えた場合は、4294967295 を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85102-I

スレッド単位プールの最大確保情報。プール名称 = aa....aa, プール全体サイズ = bb....bb, プール確保回数 = cc....cc, 中央処理通番 = dd....dd

Pool allocation information of max use thread. pool name = aa....aa, total size of pool = bb....bb, number of pool allocations = cc....cc, central processing number = dd....dd (P+L) (6) (SUP)

TP1/EE のメモリ管理で、最も大きなプールを確保したスレッドに関するプールの統計情報を出力します。

aa....aa : プール名称

CBLPOOL : 処理スレッド単位の COBOL 用メモリプール

bb....bb : オンライン中に確保した当該プールの全体サイズ (最大値)

cc....cc : オンライン中にプールを確保した回数 (累計確保回数)

プール確保回数が 4294967295 回を超えた場合は、4294967295 を表示します。

dd....dd : プール全体サイズが最大となったときの中央処理通番

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB85300-I

サービスを閉塞しました。要求元 = aaa, サービス名 = bb....bb

A service has been shut down. requester = aaa, service name = bb....bb (S+P+L) (3)  
(SUP)

サービスを閉塞しました。

aaa : サービス閉塞の要求元

CMD : コマンド

UAP : UAP

TP1 : TP1/EE (UAP 異常時のサービス自動閉塞)

bb....bb : 閉塞したサービス名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB85301-I

サービスを閉塞解除しました。要求元 = aaa, サービス名 = bb....bb

A service has been released from the shutdown state. requester = aaa, service name =  
bb....bb (S+P+L) (3) (SUP)

サービスを閉塞解除しました。

aaa : サービス閉塞解除の要求元

CMD : コマンド

UAP : UAP

bb....bb : 閉塞を解除したサービス名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB85302-I

全サービスを閉塞しました。要求元 = aaa

All services have been shut down. requester = aaa (S+P+L) (3) (SUP)

すべてのサービスを閉塞しました。

aaa : サービス閉塞の要求元

CMD : コマンド

UAP : UAP

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB85303-I

全サービスを閉塞解除しました。要求元 = aaa

All services have been released from a shutdown state. requester = aaa (S+P+L) (3)  
(SUP)

すべてのサービスを閉塞解除しました。

aaa : サービス閉塞解除の要求元

CMD : コマンド

UAP : UAP

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85304-I

サービスの最大同時処理限界数を変更しました。サービス名 = aa....aa, 変更前 = bbb, 変更後 = ccc  
The maximum number of processes that a service can handle concurrently has been changed.  
service name = aa....aa, before the change = bbb, after the change = ccc (S+P+L) (3)  
(SUP)

サービスの最大同時処理限界数を変更しました。

aa....aa : 該当するサービス名

bbb : 変更前のサービスの最大同時処理限界数

ccc : 変更後のサービスの最大同時処理限界数

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85305-I

オンラインを強制開始します。サービスグループ名 = aa....aa  
Online processing will now be forcibly started. service group name = aa....aa (S+P+L) (3)  
(SUP)

オンライン強制開始コマンドが実行されたため、オンラインを強制開始します。

aa....aa : サービスグループ名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85306-I

スレッドを生成しました。スレッド種別 = aa....aa, スレッド ID = bb....bb  
The thread has been created. thread kind = aa....aa, thread ID = bb....bb (S+P+L) (1)  
(SUP)

スレッドを生成しました。

aa....aa : スレッド種別

udp\_recv : UDP 受信スレッド

**bb....bb** : スレッド ID

生成したスレッドのスレッド ID です。スレッド ID の取得に失敗した場合は -1 が表示されます。

(S)処理を続行します。

(O)renice コマンドを実行して、スレッドの優先順位を変更してください。

【対策】なし。

## KFSB85307-I

```
スレッドを生成しました。サービスグループ名 = aa....aa, スレッド種別 = bb....bb, IFA 番号 = cc....cc, スレッド ID = dd....dd, 変更前 nice 値 = ee....ee, 変更後 nice 値 = ff....ff
```

```
The thread has been created. service group name = aa....aa, thread kind = bb....bb, IFA number = cc....cc, thread ID = dd....dd, nice value before the change = ee....ee, nice value after the change = ff....ff (S+P+L) (1) (SUP)
```

スレッドを生成しました。

**aa....aa** : サービスグループ名

**bb....bb** : スレッド種別

T : TASKTM スレッド

K : 統計情報スレッド

J : XDB トレーススレッド

O : PP トレーススレッド

**cc....cc** : IFA 番号 (10 進表記)

生成したスレッドの IFA 番号が表示されます。

**dd....dd** : スレッド ID

生成したスレッドのスレッド ID です。

スレッド ID の取得に失敗した場合は、-1 を表示します。

**ee....ee** : 変更前 nice 値

プライオリティ変更前の nice 値です。

スレッド ID, または変更前 nice 値の取得に失敗した場合は、\*を表示します。

**ff....ff** : 変更後 nice 値

プライオリティ変更後の nice 値です。

スレッド ID, 変更前 nice 値, または変更後 nice 値の取得に失敗した場合は、\*を表示します。

プライオリティの変更に失敗した場合、変更前 nice 値と変更後 nice 値には同じ値が表示されます。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB85308-I

トランザクションレベルの最大同時処理限界数を変更しました。トランザクションレベル名 = aa....aa, 変更前 = bb....bb, 変更後 = cc....cc

The maximum number of processes that a transaction level can handle concurrently has been changed. transaction level name = aa....aa, before the change = bb....bb, after the change = cc....cc (S+P+L) (3) (SUP)

設定した最大同時処理限界数を変更しました。

aa....aa : トランザクションレベル名

bb....bb : 変更前の最大同時処理限界数

cc....cc : 変更後の最大同時処理限界数

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB85309-I

ユーザコマンドの実行に成功しました。

The user command was successful. (S+P+L) (3) (SUP)

回復モード時、TP1/FSPのプロセス関連定義の recover\_command オペランドで指定したユーザコマンドを実行し、ユーザコマンドが正常終了しました。ユーザコマンドの出力結果は、TP1/EE プロセスの標準出力および標準エラー出力に出力しました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB85310-I

回復モードによるトランザクション回復が完了しました。TP1/EEプロセスを強制停止します。

The transaction was successfully restored in recovery mode. The TP1/EE process will now be forcibly terminated. (S+P+L) (1) (SUP)

回復モードによるトランザクション回復が完了しました。eesvstop コマンドに-f オプションを指定して実行し、自 TP1/EE プロセスを強制停止します。

(S)TP1/EE プロセスを強制停止します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85400-I

トラブルシュートファイルがスワップしました。スワップ元ファイル= aa....aa, スワップ先ファイル= bb....bb

The troubleshooting file was swapped. swap source file = aa....aa, swap destination file = bb....bb (S+P+L) (5) (SUP)

トラブルシュートファイルがスワップしました。

aa....aa : スワップ元ファイル名 (10~40 けた)

bb....bb : スワップ先ファイル名 (10~40 けた)

(S)システムを続行します。

(O)必要に応じて、スワップ元ファイルをバックアップしてください。

【対策】なし。

#### KFSB85401-I

メモリDUMPファイルを出力しました。ファイル名= aa....aa, I F A 番号= bb....bb

The memory dump file was output. file name = aa....aa, IFA number = bb....bb (S+P+L) (5) (SUP)

メモリダンプファイルを出力しました。

aa....aa : 出力を完了したメモリダンプファイル名 (8~38 けた)

bb....bb : 強制終了したスレッドの IFA 番号 (10 進表記)

(S)システムを続行します。

(O)必要に応じて、メモリダンプファイルをバックアップしてください。

【対策】なし。

#### KFSB85402-I

メモリDUMPファイルの並行出力を行いません。I F A 番号= aa....aa

Memory dump files will not be output in parallel. IFA number = aa....aa (S+P+L) (5)  
(SUP)

出力中のメモリダンプファイルがあるため、このスレッドではメモリダンプファイルへ出力しません。

aa....aa：強制終了したスレッドの IFA 番号（10 進表記）

(S)システムを続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85403-I

トラブルシューティング機能を縮退から回復しました。機能名 = aaa, 回復ファイル数 = bbb  
The troubleshooting function was recovered from reduced operation. function name = aaa,  
recovery file count = bbb (S+P+L) (5) (SUP)

トラブルシューティングで使用するファイルが縮退から回復しました。

aaa：トラブルシューティングで使用する機能名

tsk：TASKTM 機能

lin：回線トレース機能

uat：UAP トレースファイル出力機能

stc：統計情報機能

dmp：メモリダンプ機能

mcp：MCP トレース機能

xdb：XDB トレース情報機能

mid：ミドル固有トレース取得機能

bbb：回復したファイル数

(S)システムを続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85404-I

トラブルシューティング機能を開始します。機能名 = aaa, ファイル名 = bb....bb  
The troubleshooting function will start. function name = aaa, file name = bb....bb (S+P  
+L) (5) (SUP)



トラブルシュート機能を開始します。

**aaa** : トラブルシュートで使用する機能名

tsk : TASKTM 機能

lin : 回線トレース機能

uat : UAP トレースファイル出力機能

stc : 統計情報機能

mcp : MCP トレース機能

xdb : XDB トレース情報機能

mid : ミドル固有トレース取得機能

**bb...bb** : ファイル名 (10~40 けた)

(S)システムを続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85405-I

タイマの再登録が成功しました。処理種別 = aa....aa

The timer was successfully reregistered. processing type = aa....aa (S+P+L) (5) (SUP)

タイマの再登録処理が成功しました。

**aa....aa** : 処理種別

1 : 基本統計情報のインタバル取得

2 : OBM 統計情報のインタバル取得

(S)システムを続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85407-I

滞留メッセージのファイル出力を終了しました。ファイル名 = aa....aa

Remaining messages have been saved to a file. file name = aa....aa (S+P+L) (6) (NOS)

滞留メッセージのファイル出力を終了しました。

**aa....aa** : 滞留メッセージを出力したファイル名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85408-I

キューダンプファイルの作成を開始します。ファイル名 = aa....aa

A queue dump file will be created. file name = aa....aa (S+P+L) (1) (NOS)

キューダンプファイルの作成を開始します。

aa....aa : キューダンプファイルのファイル名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85409-I

キューダンプファイルの作成を終了しました。ファイル名 = aa....aa

The queue dump file has been created. file name = aa....aa (S+P+L) (1) (NOS)

キューダンプファイルの作成を終了しました。

aa....aa : キューダンプファイルのファイル名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85501-I

オフラインバッチプロセスを開始します。ジョブ名 = aa....aa

Offline batch processing will now start. job name = aa....aa (S+P+L) (1) (SUP)

オフラインバッチプロセスを開始します。

aa....aa : ジョブ名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85502-I

オフラインバッチプロセスを終了します。ジョブ名 = aa....aa, 終了要因 = bb....bb  
Offline batch processing will now stop. job name = aa....aa, cause of termination =  
bb....bb (S+P+L) (1) (SUP)

オフラインバッチプロセスを終了します。

aa....aa : ジョブ名

bb....bb : 終了要因

API : オフラインバッチ強制終了関数 (TP1/FSP の ee\_bpp\_term 関数) を発行

NORMAL : 正常終了

SIGNAL : シグナルを受信

(S) オフラインバッチプロセスを終了します。

(O) なし。

【対策】 なし。

## KFSB85521-I

データ連携支援プロセスを開始します。データ連携支援 ID = aa....aa  
The data linkage support process will now start. Data linkage support ID = aa....aa (S+P  
+L) (1) (SUP)

データ連携支援プロセスを開始します。

aa....aa : データ連携支援 ID

(S) 処理を続行します。

(O) なし。

【対策】 なし。

## KFSB85522-I

データ連携支援プロセスを終了します。データ連携支援 ID = aa....aa  
The data linkage support process will end. Data linkage support ID = aa....aa (S+P+L)  
(1) (SUP)

データ連携支援プロセスを終了します。

aa....aa : データ連携支援 ID

(S) データ連携支援を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85600-I

プロセスダウンしたオンラインバッチ処理を中断します。DBキュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, オンラインバッチサービス名 = cc....cc

Online batch processing in which a process has failed will now be suspended. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, online batch service name = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

前回のオンラインでオンラインバッチ処理が原因でプロセスダウンしたため、オンラインバッチ処理を中断します。

aa....aa : 該当する DB キュー名

bb....bb : 該当するロット名

cc....cc : 該当するオンラインバッチサービス名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85620-I

DBキューサービスを閉塞しました。要求元 = aaa, DBキューサービス名 = bb....bb

A DB queue service has been blocked. requester = aaa, DB queue service name = bb....bb (S+P+L) (5) (SUP)

DBキューサービスを閉塞しました。

aaa : サービス閉塞の要求元

CMD : コマンド

UAP : UAP

bb....bb : 該当する DB キューサービス名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85621-I

DB キューサービスを閉塞解除しました。要求元 = aaa, DB キューサービス名 = bb....bb  
Blocking of a DB queue service has been released. requester = aaa, DB queue service name = bb....bb (S+P+L) (5) (SUP)

DB キューサービスを閉塞解除しました。

**aaa** : サービス閉塞解除の要求元

CMD : コマンド

UAP : UAP

**bb....bb** : 該当する DB キューサービス名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85622-I

全DB キューサービスを閉塞しました。要求元 = aaa  
All DB queue services have been blocked. requester = aaa (S+P+L) (5) (SUP)

すべてのDB キューサービスを閉塞しました。

**aaa** : サービス閉塞の要求元

CMD : コマンド

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85623-I

全DB キューサービスを閉塞解除しました。要求元 = aaa  
Blocking of all DB queue services has been released. requester = aaa (S+P+L) (5) (SUP)

すべてのDB キューサービスを閉塞解除しました。ただし、永久閉塞中（サービスのエントリポイントがない）のDB キューサービスは除きます。

**aaa** : サービス閉塞解除の要求元

CMD : コマンド

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85624-I

```
DB キューの読み出しを停止しました。要求元 = aaa, DB キュー名 = bb...bb  
Reading of a DB queue has stopped. requester = aaa, DB queue name = bb...bb (S+P  
+L) (5) (SUP)
```

DB キューの読み出しを停止しました。

**aaa** : DB キューの読み出し停止の要求元

CMD : コマンド

UAP : UAP

CNT : TP1/EE (連続ロールバック監視回数を超えた場合の読み出し停止)

TP1 : TP1/EE (UAP 異常時またはリソースマネージャ障害時の自動読み出し停止)

**bb...bb** : 該当する DB キュー名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85625-I

```
DB キューの読み出し停止を解除しました。要求元 = aaa, DB キュー名 = bb...bb  
Reading of a DB queue for which reading stopped has resumed. requester = aaa, DB queue  
name = bb...bb (S+P+L) (5) (SUP)
```

DB キューの読み出し停止を解除しました。

**aaa** : DB キューの読み出し停止解除の要求元

CMD : コマンド

UAP : UAP

**bb...bb** : 該当する DB キュー名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB85626-I

DBキューを縮退しました。要求元 = aaa, DBキューグループ名 = bb....bb, DBキュー名 = cc....cc  
A DB queue has been degraded. requester = aaa, DB queue group name = bb....bb, DB queue name = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

DB キューを縮退運転にしました。

aaa : 縮退の要求元

CMD : コマンド

bb....bb : 該当する DB キューグループ名

cc....cc : 該当する DB キュー名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB85627-I

DBキューを縮退復帰しました。要求元 = aaa, DBキューグループ名 = bb....bb, DBキュー名 = cc....cc  
A DB queue has been recovered from a degraded condition. requester = aaa, DB queue group name = bb....bb, DB queue name = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

DB キューを縮退運転から復帰しました。

aaa : 縮退運転からの復帰の要求元

CMD : コマンド

bb....bb : 該当する DB キューグループ名

cc....cc : 該当する DB キュー名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB85628-I

DBキューの通番初期化を完了しました。DBキュー名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

Number initialization for the DB queue is complete. DB queue name = aa....aa, detail code = bb....bb (S+P+L) (5) (SUP)

DB キューの通番初期化を完了しました。

aa....aa : DB キュー名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB85630-I

オンラインバッチ処理を開始します。DB キュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, オンラインバッチサービス名 = cc....cc

Online batch processing will now start. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, online batch service name = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

オンラインバッチ処理を開始します。

aa....aa : 該当する DB キュー名

bb....bb : 該当するロット名

cc....cc : 該当するオンラインバッチサービス名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB85631-I

オンラインバッチ処理を再開始します。DB キュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, オンラインバッチサービス名 = cc....cc

Online batch processing will now restart. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, online batch service name = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

中断しているオンラインバッチ処理を再開始します。

aa....aa : 該当する DB キュー名

bb....bb : 該当するロット名



cc....cc：該当するオンラインバッチサービス名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85632-I

オンラインバッチ処理を終了，又は中断します。DBキュー名 = aa....aa，ロット名 = bb....bb，オンラインバッチサービス名 = cc....cc，終了要因 = dd....dd，ステータスコード = ee....ee

Online batch processing will now stop or be suspended. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, online batch service name = cc....cc, cause of termination = dd....dd, status code = ee....ee (S+P+L) (5) (SUP)

オンラインバッチ処理を終了，または中断します。

aa....aa：該当するDBキュー名

bb....bb：該当するロット名

cc....cc：該当するオンラインバッチサービス名

dd....dd：終了要因

ABND：障害による中断

FORCE：強制終了

FORCE\_RRN：回復処理失敗による中断中の強制終了

NORMAL：正常終了

RRN：回復処理失敗による中断

USER：ユーザ指定による中断

ee....ee：ステータスコード

DATAFORM：データフォーマット不正

OBSERR：オンラインバッチ機能処理中の障害

ROLLBACK：次に示す要因以外でロールバック

- UAPでの ee\_trn\_chained\_rollback 関数 (thkind に EETRN\_KEEP を設定) 呼び出し
- UAPでの ee\_trn\_rollback\_mark 関数呼び出し
- データフォーマット不正
- DBキューのリソースマネージャアクセスエラー
- スレッドダウン
- プロセスダウン

RMERR：DB キューのリソースマネージャアクセスエラー  
THDDOWN：スレッドダウン  
PROCDOWN：プロセスダウン  
\*：その他

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85633-I

オンラインバッチ終了処理を中止して、オンラインバッチ処理を中断します。DB キュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, オンラインバッチサービス名 = cc....cc, 終了要因 = dd....dd, ステータスコード = ee....ee

Online batch termination processing will now stop, and online batch processing will now be suspended. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, online batch service name = cc....cc, cause of termination = dd....dd, status code = ee....ee (S+P+L) (5) (SUP)

オンラインバッチ終了処理を中止して、オンラインバッチ処理を中断します。

aa....aa：該当する DB キュー名

bb....bb：該当するロット名

cc....cc：該当するオンラインバッチサービス名

dd....dd：終了要因

ABND：障害による中断

RRN：回復処理失敗による中断

ee....ee：ステータスコード

OBSERR：オンラインバッチ機能処理中の障害

ROLLBACK：次に示す要因以外でロールバック

- UAP での ee\_trn\_chained\_rollback 関数 (thkind に EETRN\_KEEP を設定) 呼び出し
- UAP での ee\_trn\_rollback\_mark 関数呼び出し
- DB キューのリソースマネージャアクセスエラー
- スレッドダウン
- プロセスダウン

RMERR：DB キューのリソースマネージャアクセスエラー

THDDOWN：スレッドダウン

PROCDOWN：プロセスダウン

\*：その他

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85634-I

オンラインバッチ処理の開始要求が正常に終了していません。トランザクションブランチをロールバックします。サービス名 = aa....aa

A request to start online batch processing has not been completed correctly. The transaction branch will now be rolled back. service name = aa....aa (S+P+L) (5) (SUP)

オンラインバッチ処理の開始要求が正常に終了していません。トランザクションブランチをロールバックします。

aa....aa：該当するサービス名

サービス名がない場合は、\*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85635-I

プロセスダウンしたオンラインバッチ処理の中断を取り消します。DB キュー名 = aa....aa, ロット名 = bb....bb, オンラインバッチサービス名 = cc....cc

The suspended status of online batch processing in which a process failed will now be canceled. DB queue name = aa....aa, lot name = bb....bb, online batch service name = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

プロセスダウンしたオンラインバッチ処理の中断を取り消します。リソースマネージャでは、すでにオンラインバッチ処理が終了しています。

aa....aa：該当する DB キュー名

bb....bb：該当するロット名

cc....cc：該当するオンラインバッチサービス名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85640-I

最初に起動したサーバの J I トランザクションの終了を待ちます。ノード識別子 = aaaa, ラン ID = bb....bb, 決定時刻 = YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss, 共有情報表名 = cc....cc

The system will wait for the JI transaction of the server started first to end. Node ID = aaaa, Run ID = bb....bb, Decision time = YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss, JI table name = cc....cc (S+P+L) (6) (SUP)

最初に起動したサーバの JI トランザクションの終了を待ちます。

aaaa : 最初に起動したサーバのノード識別子

最初に起動したサーバの情報が取得できなかった場合は, \*\*\*\*を表示します。

bb....bb : 最初に起動したサーバのラン ID

最初に起動したサーバの情報が取得できなかった場合は, \*\*\*\*\*を表示します。

YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss : 最初に起動したサーバを決定した時刻 (最初に起動したサーバのマシン時刻)

YYYY : 年 (西暦)

MM : 月

DD : 日

hh : 時

mm : 分

ss.ssssss : 秒 (マイクロ秒まで表示)

最初に起動したサーバの情報が取得できなかった場合は, \*\*\*\*/\*\*/\*\* \*\*:\*\*:\*.\*\*\*\*\*を表示します。

cc....cc : 共有情報表名

(S)最初に起動したサーバの JI トランザクションの終了を待ちます。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85641-I

J I トランザクションを開始します。起動要因 = aaa, 共有情報表名 = bb....bb

The JI transaction will start. cause of startup = aaa, JI table name = bb....bb (S+P+L) (6) (SUP)

J I トランザクションを開始します。

aaa : JI トランザクションの起動要因  
1ST : 最初に起動したサーバ  
AFT : 2 番目以降に起動したサーバ

bb....bb : 共有情報表名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85642-I

最初に起動したサーバとして J I トランザクションを登録します。ノード識別子 = aaaa, ラン ID = bb....bb, 決定時刻 = YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss, 共有情報表名 = cc....cc  
The JI transaction will be registered as the server started first. Node ID = aaaa, Run ID = bb....bb, Decision time = YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss, JI table name = cc....cc (S+P +L) (6) (SUP)

最初に起動したサーバとして JI トランザクションを登録します。

aaaa : 自サーバのノード識別子

bb....bb : 自サーバのラン ID

YYYY/MM/DD hh:mm:ss.ssssss : 最初に起動したサーバを決定した時刻

YYYY : 年 (西暦)

MM : 月

DD : 日

hh : 時

mm : 分

ss.ssssss : 秒 (マイクロ秒まで表示)

cc....cc : 共有情報表名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85643-I

共有情報表の状態を未起動に変更しました。共有情報表名 = aa....aa

Not changed the status of the table to start JI table. JI table name = aa....aa (S+P+L) (6)  
(SUP)

共有情報表の状態を未起動に変更しました。

aa....aa : 共有情報表名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85650-I

DBキューの読出しを停止しました。要求元 = aaa, DBキュー種別 = bb....bb  
Reading of a DB queue has stopped. requester = aaa, DB queue type = bb....bb (S+P+L)  
(5) (SUP)

DBキューの読み出しを停止しました。

aaa : 要求元

CMD : コマンド

bb....bb : DBキュー種別

ALL : UAP間通信キューとユーザキュー

UAP : UAP間通信キュー

USER : ユーザキュー

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85651-I

DBキューの読出し停止を解除しました。要求元 = aaa, DBキュー種別 = bb....bb  
Reading of a DB queue for which reading stopped has resumed. requester = aaa, DB queue  
type = bb....bb (S+P+L) (5) (SUP)

DBキューの読み出し停止を解除しました。

aaa : 要求元

CMD : コマンド

bb....bb : DB キュー種別

ALL : UAP 間通信キューとユーザキュー

UAP : UAP 間通信キュー

USER : ユーザキュー

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85652-I

DB キューの書き込み禁止状態を設定しました。要求元 = aaa, DB キューグループ名 = bb....bb, DB キュー名 = cc....cc, サービス名 = dd....dd

Set DB queue write inhibit status. requester = aaa, DB queue group name = bb....bb, DB queue name = cc....cc, service name = dd....dd (S+P+L) (5) (SUP)

DB キューの書き込み禁止状態を設定しました。

aaa : 要求元

CMD : コマンド

TP1 : TP1/EE (DB キュー書き込み処理で障害)

bb....bb : DB キューグループ名

要求元が TP1 の場合は、DB キューグループ名を表示します。

要求元が CMD の場合は、eedbqinhibit コマンドのオプションによって表示内容が異なります。eedbqinhibit コマンドのオプションごとの表示内容を次の表に示します。

eedbqinhibit コマンドのオプション	表示内容
-a	ALL
-p	DB キューグループ名
-q	DB キューグループ名

cc....cc : DB キュー名

要求元が TP1 の場合は、DB キュー名を表示します。

要求元が CMD の場合は、eedbqinhibit コマンドのオプションによって表示内容が異なります。eedbqinhibit コマンドのオプションごとの表示内容を次の表に示します。

コマンドのオプション	表示内容
-a	ALL
-p	ALL
-q	DB キュー名

dd....dd : サービス名

サービス名がない場合は、\*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 要求元が TP1 で設定された書き込み禁止状態を解除する場合は、直前に出力されている [KFSB45620-E](#) , [KFSB45621-E](#) , [KFSB45626-W](#) , [KFSB55622-E](#) を参照して原因を取り除いたあとに、`eedbqinhibit` コマンドに `-r` オプションを指定して実行してください。

## KFSB85653-I

DB キューの書き込み禁止状態を解除しました。要求元 = aaa, DB キューグループ名 = bb....bb, DB キュー名 = cc....cc

```
Release DB queue write inhibit status. requester = aaa, DB queue group name = bb....bb, DB queue name = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)
```

DB キューの書き込み禁止状態を解除しました。

aaa : 要求元

CMD : コマンド

bb....bb : DB キューグループ名

`eedbqinhibit` コマンドのオプションによって表示内容が異なります。`eedbqinhibit` コマンドのオプションごとの表示内容を次の表に示します。

コマンドのオプション	表示内容
-a	ALL
-p	DB キューグループ名
-q	DB キューグループ名

cc....cc : DB キュー名

`eedbqinhibit` コマンドのオプションによって表示内容が異なります。`eedbqinhibit` コマンドのオプションごとの表示内容を次の表に示します。

コマンドのオプション	表示内容
-a	ALL
-p	ALL
-q	DB キュー名

(S)処理を続行します。

(O)なし。



【対策】なし。

#### KFSB85654-I

DBキューの書き込み先を交替用のメッセージ表に切り替えました。要求元 = aaa, DBキュー名 = bb....bb, サービス名 = cc....cc

DB queue writing destination changed to replacement message table. requester = aaa, DB queue name = bb....bb, service name = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

DBキューの書き込み先を交替用のメッセージ表に切り替えました。

aaa : 要求元

TP1 : TP1/EE (DB キュー書き込み処理で障害)

bb....bb : DB キュー名

cc....cc : サービス名

サービス名がない場合は, \*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85655-I

DBキューの書き込み先を通常メッセージ表に戻しました。DBキュー名 = aa....aa

DB queue writing destination returned to normal message table. DB queue name = aa....aa (S+P+L) (5) (SUP)

DBキューの書き込み先を通常メッセージ表に戻しました。

aa....aa : DB キュー名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85701-I

○BM機能の通信を終了しました。理由コード = aa....aa, 接続先情報1 = bb....bb, 接続先情報2 = cc....cc, 接続先情報3 = dd....dd

OBM functionality communications ended. reason code = aa....aa, connection destination information 1 = bb....bb, connection destination information 2 = cc....cc, connection destination information 3 = dd....dd (S+P+L) (6) (SUP)

接続先情報で示す TP1/EE と OBM 機能の通信を終了しました。

**aa....aa** : 理由コード

COMMUNICATION : 接続先の TP1/EE との通信障害

NORMAL : 接続先の TP1/EE が正常停止, または計画停止 A で停止

**bb....bb** : 接続先情報 1

接続先の TP1/EE のサーバタイプ

BCM : BCM として動作している TP1/EE

BCS : BCS として動作している TP1/EE

**cc....cc** : 接続先情報 2

接続先の TP1/EE が動作する TP1/Server Base のノード識別子

**dd....dd** : 接続先情報 3

接続先の TP1/EE のサービスグループ名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB85702-I

○ OBM機能の通信を開始しました。接続先情報 1 = aa....aa, 接続先情報 2 = bb....bb, 接続先情報 3 = cc....cc

OBM functionality communications started. connection destination information 1 = aa....aa, connection destination information 2 = bb....bb, connection destination information 3 = cc....cc (S+P+L) (1) (SUP)

接続先情報で示す TP1/EE と OBM 機能の通信を開始しました。TP1/FSP の eeobmstart コマンドが実行できる状態になりました。

**aa....aa** : 接続先情報 1

接続先の TP1/EE のサーバ種別

BCS : BCS として動作している TP1/EE

**bb....bb** : 接続先情報 2

接続先の TP1/EE が動作する TP1/Server Base のノード識別子

cc....cc：接続先情報 3

接続先の TP1/EE のサービスグループ名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85703-I

○OBMを開始します。○OBM名 = aa....aa, 開始要求種別 = bb....bb

OBM started. OBM name = aa....aa, start request type = bb....bb (S+P+L) (5) (SUP)

OBM を開始しました。

aa....aa：OBM 名

bb....bb：OBM を開始した種別

LOTSTART：ロットの再開始

RESTART：OBM 再開始

START：OBM 開始

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85704-I

○OBMを停止しました。○OBM名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, ユーザ設定理由コード = cc....cc

OBM was stopped. OBM name = aa....aa, reason code = bb....bb, user-specified reason code = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

OBM を停止しました。

aa....aa：OBM 名

bb....bb：OBM を停止した理由コード

0000000001：ユーザ要求

0000000003：全ロット停止

0000000011：BCS の TP1/EE 再開始

0000000021：ノーマルランザクション異常終了

0000000022：オープントランザクション異常終了

0000000023：クローズトランザクション異常終了  
0000000024：終了UOCの設定値不正  
0000000031：バッチデータ入力障害  
0000000032：メモリ不足  
0000000033：バッチデータ通番抜け  
0000000034：サービス名不正  
0000000035：バッチデータ表不正  
0000000036：ヒューリスティックハザード決着による通番矛盾  
0000000037：処理済み通番管理表 RD エリア不足  
0000000038：ロットスケジューラ障害  
0000000039：トランザクションレベル名不正  
0000000041：BCM から BCS へ送信時の通信障害  
0000000042：BCS からの応答受信時の通信障害  
0000000043：BCS からの alive 電文タイムアウト  
0000000046：OBM 開始コマンドからの alive 電文タイムアウト  
0000000099：その他要因

cc....cc：ユーザが設定した停止，終了理由コード

bb....bb に 0000000001（ユーザ要求による停止）が表示された場合に，ユーザが設定した停止，終了理由コードを表示します。それ以外の場合は，\*\*\*\*\*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85705-I

OBMを終了しました。OBM名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, ユーザ設定理由コード = cc....cc  
OBM was ended. OBM name = aa....aa, reason code = bb....bb, user-specified reason code = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

OBM を終了しました。

aa....aa：OBM 名

bb....bb：OBM を停止した理由コード

0000000000：正常終了  
0000000001：ユーザ要求  
0000000003：全ロット停止  
0000000011：BCS の TP1/EE 再開始

0000000021：ノーマルランザクション異常終了  
0000000022：オープントランザクション異常終了  
0000000023：クローズトランザクション異常終了  
0000000024：終了UOCの設定値不正  
0000000031：バッチデータ入力障害  
0000000032：メモリ不足  
0000000033：バッチデータ通番抜け  
0000000034：サービス名不正  
0000000035：バッチデータ表不正  
0000000036：ヒューリスティックハザード決着による通番矛盾  
0000000037：処理済み通番管理表 RD エリア不足  
0000000038：ロットスケジューラ障害  
0000000039：トランザクションレベル名不正  
0000000041：BCM から BCS へ送信時の通信障害  
0000000042：BCS からの応答受信時の通信障害  
0000000043：BCS からの alive 電文タイムアウト  
0000000046：OBM 開始コマンドからの alive 電文タイムアウト  
0000000099：その他要因

cc....cc：ユーザが設定した停止，終了理由コード

bb....bb に 0000000001（ユーザ要求による停止）が表示された場合に，ユーザが設定した停止，終了理由コードを表示します。それ以外の場合は，\*\*\*\*\*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85706-I

ネゴシエーションが完了していません。ネゴシエーションをリトライします。理由コード 1 = aa....aa，接続先情報 1 = bb....bb，接続先情報 2 = cc....cc

Negotiation has not yet completed. Negotiation will now be retried. reason code 1 = aa....aa, connection destination information 1 = bb....bb, connection destination information 2 = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

BCM とのネゴシエーションが完了していません。ネゴシエーションをリトライします。

aa....aa：理由コード

NOT\_ONLINE：BCM の TP1/EE がオンライン状態ではありません。開始処理中，または停止処理中です。

NOT\_UP : BCM の TP1/EE が起動していません。

PROGRESS : BCS で仕掛かり中のトランザクションがあります。

bb....bb : 接続先情報 1

接続先の TP1/EE が動作する TP1/Server Base のノード識別子

cc....cc : 接続先情報 2

接続先の TP1/EE のサービスグループ名

(S)TP1/FSP の OBM 関連定義の bcsvgdef 定義コマンドの-e オプションで指定した時間を待って、ネゴシエーションをリトライします。

(O)このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

なお、理由コードが NOT\_UP のときは、BCS の TP1/EE を起動してください。起動しているときは、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	対策
NOT_ONLINE	BCM の TP1/EE の動作状況を確認してください。
NOT_UP	BCM の TP1/EE で、TP1/FSP の OBM 関連定義の bcsvgdef 定義コマンドの-n オプション、および-g オプションを見直してください。
PROGRESS	仕掛かり中のトランザクションの動作状況を確認してください。

## KFSB85707-I

○ OBM 表の状態を更新しました。○ OBM 管理表名 = aa....aa, 処理種別 = bb....bb

An OBM table status was updated. OBM management table name = aa....aa, processing type = bb....bb (S+P+L) (6) (SUP)

OBM 表の状態を更新しました。

aa....aa : OBM 管理表名

bb....bb : 処理種別

START : 開始処理 (OBM の状態回復)

END : 終了処理 (OBM の状態消去)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**[対策]** なし。

## KFSB85709-I

すべてのBCSとの通信を終了しました。サービスグループ名 = aa....aa  
Communication with all BCSs ended. service group name = aa....aa (S+P+L) (1) (SUP)

すべてのBCSとの通信を終了しました。TP1/FSPのeeobmstartコマンドを実行できない状態になりました。

aa....aa : BCSのサービスグループ名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85710-I

○BM機能の通信を開始しました。接続先情報1 = aa....aa, 接続先情報2 = bb....bb, 接続先情報3 = cc....cc  
OBM functionality communications started. connection destination information 1 = aa....aa, connection destination information 2 = bb....bb, connection destination information 3 = cc....cc (S+P+L) (5) (SUP)

接続先情報で示すTP1/EEとOBM機能の通信を開始しました。

aa....aa : 接続先情報1

接続先のTP1/EEのサーバ種別

BCM : BCMとして動作しているTP1/EE

bb....bb : 接続先情報2

接続先のTP1/EEが動作するTP1/Server Baseのノード識別子

cc....cc : 接続先情報3

接続先のTP1/EEのサービスグループ名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85711-I

○BM開始/再開処理で障害が発生しました。○BM開始/再開処理をリトライします。○BM名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred while the OBM was being started or restarted. Processing will now be retried. OBM name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (S+P+L) (6) (SUP)

OBM 開始/再開処理で障害が発生しました。OBM 開始/再開処理をリトライします。

aa....aa : OBM 名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)OBM 開始/再開処理をリトライします。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージのあとに [KFSB55704-E](#) メッセージが出力された場合は、理由コードに従って対策したあとで、TP1/FSP の `eeobmstart` コマンドを再実行してください。

理由コード	意味	対策
CONNECT_DATA	バッチデータ表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが実行されました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
CONNECT_OBM	OBM 管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが実行されました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL_DATA	バッチデータ表で SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ、または <a href="#">KFSB55782-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL_OBM	OBM 管理表で SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ、または <a href="#">KFSB55782-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。

## KFSB85712-I

OBM 停止/終了処理で障害が発生しました。OBM 停止/終了処理をリトライします。OBM 名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred while the OBM was being stopped or terminated. Processing will now be retried. OBM name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (S+P+L) (6) (SUP)

OBM 停止/終了処理で障害が発生しました。OBM 停止/終了処理をリトライします。



aa....aa : OBM 名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)OBM 停止/終了処理をリトライします。

(O)このメッセージのあとに **KFSB55712-E** メッセージが出力された場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
CONNECT_DATA	バッチデータ表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが実行されました。	このメッセージより前に出力されている <b>KFSB50919-E</b> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
CONNECT_OBM	OBM 管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが実行されました。	このメッセージより前に出力されている <b>KFSB50919-E</b> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
CONNECT_OPEN	OPEN 状態管理表の RM を利用しない状態でトランザクションが実行されました。	このメッセージより前に出力されている <b>KFSB50919-E</b> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL_DATA	バッチデータ表で SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されている <b>KFSB45780-E</b> メッセージ、または <b>KFSB55782-E</b> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL_OBM	OBM 管理表で SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されている <b>KFSB45780-E</b> メッセージ、または <b>KFSB55782-E</b> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL_OPEN	OPEN 状態管理表で SQL エラーが発生しました。	このメッセージより前に出力されている <b>KFSB45780-E</b> メッセージ、または、 <b>KFSB55782-E</b> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。

## KFSB85713-I

バッチデータの読み込みに失敗しました。バッチデータの読み込みをリトライします。OBM 名/ロット名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

OBM batch data could not be loaded. Processing will now be retried. OBM/lot name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (S+P+L) (6) (SUP)

バッチデータの読み込みに失敗しました。

aa....aa : OBM 名とロット名

ロットの階層が 1 階層の場合

OBM 名を表示します。

ロットの階層が 2 階層以上の場合

OBM 名のあとにアンダーライン ( ) で区切って、2 階層目以降のロット名を上位階層から順に表示します。

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) バッチデータの読み込み処理をリトライします。

(O) このメッセージのあとに [KFSB55722-E](#) メッセージが出力された場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
CONNECT	バッチデータ表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL	バッチデータ表の SQL で障害が発生しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ、または <a href="#">KFSB55782-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。

## KFSB85714-I

OBM サービス トランザクションで障害が発生しました。OBM サービスをリトライします。OBM 名/ロット名 = aa....aa, 種別 = bb....bb, 処理済通番 = cc....cc, 今回処理対象通番 = dd....dd, 接続先サービスグループ名 = ee....ee, 接続先ノード識別子 = ffff, 理由コード = gg....gg, 詳細コード = hh....hh

An error occurred in an OBM service transaction. Processing will now be retried. OBM/lot name = aa....aa, type = bb....bb, sequence number of the processed record = cc....cc, sequence number of the record to be processed = dd....dd, connection destination service group name = ee....ee, connection destination node ID = ffff, reason code = gg....gg, detail code = hh....hh (S+P+L) (6) (SUP)

OBM サービス トランザクションで障害が発生しました。

**aa....aa** : OBM 名とロット名

OBM トランザクションの種別が NORMAL, SKIP の場合

- ロットの階層が 1 階層のとき  
OBM 名を表示します。
- ロットの階層が 2 階層以上のとき  
OBM 名のあとにアンダーライン ( ) で区切って, 2 階層目以降のロット名を上位階層から順に表示します。

OBM トランザクションの種別が OPEN, CLOSE の場合

OBM 名を表示します。

**bb....bb** : OBM トランザクションの種別

CLOSE : OBM クローズトランザクション

NORMAL : OBM ノーマルトランザクション

OPEN : OBM オープントランザクション

SKIP : スキップデータ UOC を呼び出したトランザクション

**cc....cc** : 処理済み通番 (10 進数)

OBM トランザクションの種別が NORMAL, SKIP の場合

- バッチ形態がデータ型のとき  
これまでに処理したバッチデータの通番を表示します。  
ただし, 通番が確認できなかった場合は\*を表示します。
- バッチ形態がイベント型のとき  
\*を表示します。

OBM トランザクションの種別が OPEN, CLOSE の場合

\*を表示します。

**dd....dd** : 今回処理対象通番 (10 進数)

OBM トランザクションの種別が NORMAL, SKIP の場合

- バッチ形態がデータ型のとき  
今回処理したバッチデータの通番を表示します。
- バッチ形態がイベント型のとき  
\*を表示します。

OBM トランザクションの種別が OPEN, CLOSE の場合

\*を表示します。

**ee....ee** : 接続先サービスグループ名

接続先の TP1/EE のサービスグループ名を表示します。

BCM で OBM クローズトランザクションが動作した場合は, \*を表示します。

ffff : 接続先ノード識別子

接続先の TP1/EE が動作する TP1/Server Base のノード識別子

BCM で OBM クローズトランザクションが動作した場合は、\*\*\*\*を表示します。

gg....gg : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

hh....hh : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)OBM サービストランザクションをリトライします。

(O)このメッセージのあとに [KFSB55724-E](#) メッセージが出力された場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
CHAINED_RBK	ee_tm_chained_rollback 関数 (thkind に EETRN_KILL, または EETRN_ABRT を指定) が発行されました。	UAP で該当する関数が発行された原因を調べてください。
CONNECT	OBM 管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
RBK_MARK	ee_tm_rollback_mark 関数が発行されました。	UAP で該当する関数が発行された原因を調べてください。
RETRY_RBK	TP1/FSP の ee_tm_retry_rollback 関数が発行されました。	
ROLLBACK	その他の要因でロールバックしました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL	OBM 管理表の SQL で障害が発生しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ, または <a href="#">KFSB55782-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
THDDOWN	スレッドダウンが発生しました。	UAP がスレッドダウンした原因を調べてください。

## KFSB85715-I

この BCM が全ての OBM を OPEN しました。

This BCM opened all OBM. (S+P+L) (5) (SUP)

この BCM がすべての OBM を OPEN しました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85716-I

他のBCMが全てのOBMをOPENしました。

Other BCM opened all OBM. (S+P+L) (5) (SUP)

ほかのBCMがすべてのOBMをOPENしました。このメッセージが出力されたBCMのOBM構成定義を変更できます。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85780-I

OBM開始時の表構成チェックで障害が発生しました。構成チェックをリトライします。OBM管理表名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred while the table structure was being checked at OBM startup. Processing will now be retried. OBM management table name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (S+P+L) (6) (SUP)

OBM 開始時の表構成チェックで障害が発生しました。

aa....aa : OBM 管理表名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理種別に従い、OBM の表構成チェックをリトライします。

(O)このメッセージのあとに [KFSB65780-E](#) メッセージが出力された場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
CONNECT	OBM 管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。

理由コード	意味	対策
SQL	OBM 管理表の SQL で障害が発生しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ, または <a href="#">KFSB55782-E</a> メッセージを参照して, 原因を取り除いてください。

## KFSB85781-I

○BM開始時のテーブル更新/回復で障害が発生しました。テーブル更新/回復をリトライします。  
○BM管理表名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc  
An error occurred while tables were being updated or restored at OBM startup. Processing will now be retried. OBM management table name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (S+P+L) (6) (SUP)

OBM 開始時のテーブル更新/回復で障害が発生しました。

aa....aa : OBM 管理表名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)テーブル更新/回復処理をリトライします。

(O)このメッセージのあとに [KFSB65781-E](#) メッセージが出力された場合は, OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
CONNECT	OBM 管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して, 原因を取り除いてください。
ROLLBACK	トランザクションがロールバックしました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して, 原因を取り除いてください。
SQL	OBM 管理表の SQL で障害が発生しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ, または <a href="#">KFSB55782-E</a> を参照して, 原因を取り除いてください。

## KFSB85782-I

○BM開始時の表構成チェックで障害が発生しました。構成チェックをリトライします。OPEN状態管理表名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred while the table structure was being checked at OBM startup. Processing will now be retried. OPEN management table name = aa...aa, reason code = bb...bb, detail code = cc...cc (S+P+L) (6) (SUP)

OBM 開始時の表構成チェックで障害が発生しました。

aa...aa : OPEN 状態管理表名

bb...bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc...cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理種別に従い OBM の表構成チェックをリトライします。

(O)このメッセージのあとに [KFSB65780-E](#) メッセージが出力された場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
CONNECT	OPEN 状態管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL	OPEN 状態管理表の SQL で障害が発生しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ、または <a href="#">KFSB55782-E</a> を参照して、原因を取り除いてください。

## KFSB85783-I

OBM 開始時のテーブル更新/回復で障害が発生しました。テーブル更新/回復をリトライします。  
OPEN 状態管理表名 = aa...aa, 理由コード = bb...bb, 詳細コード = cc...cc  
An error occurred while tables were being updated or restored at OBM startup. Processing will now be retried. OPEN management table name = aa...aa, reason code = bb...bb, detail code = cc...cc (S+P+L) (6) (SUP)

OBM 開始時のテーブル更新/回復で障害が発生しました。

aa...aa : OPEN 状態管理表名

bb...bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc...cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)テーブル更新/回復処理をリトライします。

(O)このメッセージのあとに [KFSB65781-E](#) メッセージが出力された場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
CONNECT	OPEN 状態管理表のリソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが開始されました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して、原因を取り除いてください。
SQL	OPEN 状態管理表の SQL で障害が発生しました。	このメッセージより前に出力されている <a href="#">KFSB45780-E</a> メッセージ、または <a href="#">KFSB55782-E</a> を参照して、原因を取り除いてください。

## KFSB85801-Q

孤立終了モードを選択して、eetrbwtor コマンドを実行してください。サービスグループ名 = aa....aa, メッセージ識別番号 = bb....bb, オプションフラグ = {-a|-b}

Please select the isolation end mode, and execute the eetrbwtor command. service group name = aa....aa, message ID = bb....bb, option flag = {-a|-b} (S+P+L) (1) (NOS)

孤立終了モードを選択して、eetrbwtor コマンドを実行してください。

孤立終了モード A :

正常終了と同様に処理キュー上の受け付け済みのサービス要求をすべて処理したあとに XTC を終了します。

孤立終了モード B :

計画停止 B と同様に処理キュー上の受け付け済みのサービス要求をすべて破棄します。

aa....aa : サービスグループ名

自サービスグループ名

bb....bb : メッセージ識別番号

メッセージ識別番号

(S)eetrbwtor コマンドが実行されるまで待ち合わせます。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】**

- 孤立終了モード A を選択する場合  
eetrbwtor コマンドに -a オプションを指定して実行してください。
- 孤立終了モード B を選択する場合  
eetrbwtor コマンドに -b オプションを指定して実行してください。



## KFSB85802-Q

キューダンプファイルの出力障害が発生しました。eetrbwtor コマンドを実行してください。サービスグループ名 = aa....aa, メッセージ識別番号 = bb....bb, オプションフラグ = {-r|-c}, ファイル名 = cc....cc

An error occurred in the queue dump file output process. Execute the eetrbwtor command. service group name = aa....aa, message ID = bb....bb, option flag = {-r|-c}, file name = cc....cc (S+P+L) (1) (NOS)

キューダンプファイルの出力障害が発生しました。障害要因を取り除いて eetrbwtor コマンドを実行してください。

aa....aa : サービスグループ名

bb....bb : メッセージ識別番号

cc....cc : ファイル名

(S)eetrbwtor コマンドが実行されるまで待ち合わせます。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

### 【対策】

- キューダンプファイルの出力をリトライする場合  
このメッセージより前に出力されている [KFSB40107-E](#) メッセージ, [KFSB45404-W](#) メッセージ, または [KFSB55405-E](#) メッセージのエラーコードを参照して障害の原因を取り除いてください。そのあとで eetrbwtor コマンドに -r オプションを指定して実行してください。
- キューダンプファイルの出力を中止してオンラインを終了する場合  
eetrbwtor コマンドに -c オプションを指定して実行してください。

## KFSB85900-I

実行系孤立を検知しました。

The execution system isolation was detected. (S+P+L) (1) (NOS)

実行系孤立状態を検知しました。孤立終了処理を開始します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB85901-I

H A モニタと接続しました。系種別 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

It connected it with the HA monitor. initial state = aa....aa, detail code = bb....bb (S+P+L) (1) (NOS)

HA モニタとの接続に成功しました。

aa....aa : 系種別

ONLINE : 実行系

STANDBY : 待機系

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85902-I

系切り替えを開始します。

Hotstandby is started. (S+P+L) (1) (NOS)

系切り替えを開始します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85903-I

系切り替えを終了しました。

Hotstandby was completed. (S+P+L) (1) (NOS)

系切り替えを終了しました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85904-I

HA モニタ情報ファイルを削除しました。詳細コード = aa....aa

The HA monitor information file was deleted. detail code = aa....aa (S+P+L) (1) (NOS)

HA モニタ関連状態を初期化し、HA モニタ情報ファイルを削除しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB85905-I

HA モニタから計画系切り替えの連絡を受けました。動作種別 = aa....aa

A planned exchange was notified of the HA monitor. processing type = aa....aa (S+P+L)

(1) (NOS)

HA モニタから、計画系切り替えの連絡を受けました。

aa....aa : 動作種別

01 : 強制停止します。

02 : 孤立終了処理を続行します。

03 : 終了処理を続行します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB86001-I

DB エリアを拡張しました。DB エリア名 = "aa....aa", サイズ = bb....bb, 確保総面数 = cc....cc

A DB area was expanded. DB area = "aa....aa", size = bb....bb, total count = cc....cc. (S+P

+L) (5) (NOS)

共用メモリを取得し、DB エリアを拡張しました。

aa....aa : DB エリア名

bb....bb : 取得した共用メモリのサイズ (単位: キロバイト)

cc....cc : DB エリアの共用メモリセグメントの取得数

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB86002-I

```
aa....aa の処理を開始しました。表名="bb....bb"."cc....cc"  
aa....aa processing started. The table is "bb....bb"."cc....cc".    (S+P+L) (5) (NOS)
```

aa....aa の処理を開始しました。

aa....aa : 実行した処理を示します。

Import

Export

bb....bb : スキーマ名を示します。

cc....cc : 表識別子を示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB86003-I

```
aa....aa 行をインポートしました。  
aa....aa rows loaded.    (S+P+L) (5) (NOS)
```

aa....aa 行を格納しました。

aa....aa : 格納した行数

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB86004-I

```
aa....aa の処理が終了しました。(リターンコード = bb)  
aa....aa processing ended. (return code = bb)    (S+P+L) (5) (NOS)
```

aa....aa の処理が終了しました。

aa....aa : 実行した処理を示します。

Import : 表データのインポート

Export : 表データのエクスポート

Dbsta : データベースの状態解析

bb：リターンコードを示します。

0：正常に終了しました。

1：異常終了しました。

12：エラーが発生しました。

20：コマンドパラメタの指定が不正です。

(S)処理を終了します。

(O)

リターンコードが 1 の場合：

メッセージログファイルに出力されている異常終了のメッセージを参照し、そのメッセージに示す対処をしてください。

リターンコードが 12 または 20 の場合：

メッセージログファイル、または標準エラー出力に出力されたメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、必要であればデータベースの回復を行ったあとにコマンドを再度実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB86005-I

aa....aa 行目を処理しています。

Row number aa....aa is being processed. (S+P+L) (5) (NOS)

aa....aa 行目を処理しています。

aa....aa：行数

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB86006-I

インデクス情報を出力しました。(インデクス名="aa....aa"."bb....bb", DB エリア名="cc....cc", ファイル名= dd....dd)

The index information file was assigned. (index = "aa....aa"."bb....bb", DB area = "cc....cc", file = dd....dd) (S+P+L) (5) (NOS)

DB エリア cc....cc のインデクス aa....aa.bb....bb のインデクス情報を dd....dd に出力しました。

aa....aa：スキーマ名

bb....bb：インデクス識別子

cc....cc : DB エリア名

dd....dd : ファイル名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB86007-I

インデクスを生成する処理を開始しました。(インデクス名="aa....aa"."bb....bb", DBエリア名="cc....cc")

Processing to generate the index started. (index = "aa....aa"."bb....bb", DB area = "cc....cc")  
(S+P+L) (5) (NOS)

インデクス aa....aa.bb....bb を生成する処理を開始しました。

aa....aa : スキーマ名

bb....bb : インデクス識別子

cc....cc : DB エリア名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB86008-I

インデクス生成処理が終了しました。(インデクス名="aa....aa"."bb....bb", DBエリア名="cc....cc", リターンコード= dd)

Processing to generate the index ended. (index = "aa....aa"."bb....bb", DB area = "cc....cc",  
return code = dd) (S+P+L) (5) (NOS)

インデクス aa....aa.bb....bb の生成処理がリターンコード dd で終了しました。

aa....aa : スキーマ名

bb....bb : インデクス識別子

cc....cc : DB エリア名

dd : リターンコード

0 : 正常に終了

12：異常終了

(S)処理を続行します。

(O)異常終了した場合は、このメッセージの前に出力したエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、データベースの回復を行ったあとに再度実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB86009-I

aa....aa の処理を開始しました。

aa....aa processing started. (S+P+L) (5) (NOS)

aa....aa の処理を開始しました。

aa....aa：実行した処理

Dbsta：データベースの状態解析

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB86010-I

データの削除を行いました。(削除対象 = aaaa, 表名 = "bb....bb"."cc....cc", DB エリア名 = "dd....dd")

Row aaaa for table "bb....bb"."cc....cc" stored in DB area "dd....dd" was deleted. (S+P+L)  
(5) (NOS)

DB エリア dd....dd に格納されている表 bb....bb.cc....cc の行データを削除しました。

aaaa：削除したデータ

bb....bb：スキーマ名

cc....cc：表識別子

dd....dd：DB エリア名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB86011-I

エクスポートファイルへの出力処理が終了しました。(ファイル名 = aa....aa)  
Processing to output to the export file ended. (file = aa....aa) (S+P+L) (5) (NOS)

エクスポートファイルへの出力処理が終了しました。

aa....aa : エクスポートファイル名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB86012-I

aa....aa 行をエクスポートしました。(処理種別 = bb....bb, 表名 = "cc....cc"."dd....dd", DB エリア名 = "ee....ee")  
aa....aa rows bb....bb. (table = "cc....cc"."dd....dd", DB area = "ee....ee") (S+P+L) (5) (NOS)

DB エリア ee....ee の表 cc....cc.dd....dd に対して、aa....aa 行のエクスポート処理をしました。

aa....aa : 処理行数

bb....bb : 処理種別  
exported

cc....cc : スキーマ名

dd....dd : 表識別子

ee....ee : DB エリア名  
eexdbexttbl コマンドの実行時は、\*\*\*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB86013-I

出力したエクスポートファイルの、行長の最大値は aa....aa バイトです。  
The maximum row length of the output export file is aa....aa bytes. (S+P+L) (5) (NOS)

出力したエクスポートファイルの、行長の最大値は aa....aa バイトです。



aa....aa : 行長の最大値 (単位: バイト)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB86014-W

DB エリア "aa....aa" のページ長が 2, 0 4 8 の倍数ではありません。このため、bb....bb に切り上げました。

The page size for the DB area "aa....aa" was raised to bb....bb because the page size was not a multiple of 2,048. (S+P+L) (5) (NOS)

ページサイズの定義値が 2048 の倍数でなかったため、2048 の倍数に切り上げます。

aa....aa : DB エリア名

bb....bb : 切り上げた後のページサイズ (単位: バイト)

(S)処理を続行します。

(P)ページサイズの定義値には 2048 の倍数を指定してください。

【対策】なし。

#### KFSB86015-W

警告メッセージ出力タイミングの定義値は無視されます。DB エリア名="aa....aa"

The alert message output timing will be ignored. DB area = "aa....aa" (S+P+L) (5) (NOS)

最大確保共用メモリ面数が定義されていない DB エリア情報では、警告メッセージ出力タイミングの定義値は無視されます。

aa....aa : DB エリア名

(S)処理を続行します。

(P)警告メッセージ出力タイミングは、最大確保共用メモリ面数が定義されているときだけ有効になります。次のどちらかの対策をしてください。

- 警告メッセージ出力タイミングを定義しない。
- 最大確保共用メモリ面数を定義する。

【対策】なし。

## KFSB86200-I

XDBの初期化処理を開始します。

XDB initialization processing will now start. (S+P+L) (1) (NOS)

XDBの初期化処理を開始します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB86201-I

XDBの初期化処理が完了しました。XDBサービスを開始します。

XDB initialization processing has finished. The XDB service will now start. (S+P+L) (1) (NOS)

XDBの初期化処理が完了しました。XDBサービスを開始します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB86202-I

XDBの初期化処理が完了しました。

XDB initialization processing has finished. (S+P+L) (1) (NOS)

XDBの初期化処理が完了しました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB86203-I

XDBサービスを開始します。

The XDB service has started. (S+P+L) (1) (NOS)

待機系への切り替えが完了しました。XDBサービスを開始します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB86204-I

XDBの終了処理を開始します。

XDB termination processing will now start. (S+P+L) (1) (NOS)

XDBの終了処理を開始します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB86205-I

XDBの終了処理が完了しました。

XDB termination processing has finished. (S+P+L) (1) (NOS)

XDBの終了処理が完了しました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB86206-I

DBの作成を開始します。

The database will now be created. (S+P+L) (1) (NOS)

データベースの作成を開始します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB86207-I

DBの作成が完了しました。

The database has been created. (S+P+L) (1) (NOS)

データベースの作成が完了しました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB86208-I

実行系からのDB転送を実行しています (aa%)。

The database is now being forwarded from the execution system. (aa% complete) (S+P+L) (1) (NOS)

実行系からのデータベース転送を実行しています。

aa：データベース転送の進捗率をパーセンテージ（1～99%）で示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB86209-I

実行系からのDB転送が完了しました。

The database has been forwarded from the execution system. (S+P+L) (1) (NOS)

実行系からのデータベース転送が完了しました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB86210-I

DBの出力を開始します。

The database will now be exported. (S+P+L) (1) (NOS)

データベースの出力を開始します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB86211-I

DBの出力が完了しました。

The database has been exported. (S+P+L) (1) (NOS)

データベースの出力が完了しました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB86212-I

DBエリアのダンプ出力を実行しています (aa%)。

The DB area dump is now being output.(aa% complete) (S+P+L) (1) (NOS)

DBエリアのダンプ出力を実行しています。

aa : DB エリアのダンプ出力の進捗率をパーセンテージ (1~99%) で示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB86213-I

DBエリアのダンプ出力が完了しました。ファイル名 = aa....aa

Output of the DB area dump has finished. file = aa....aa (S+P+L) (1) (NOS)

DB エリアのダンプ出力が完了しました。

aa....aa : DB エリアのダンプ出力ファイル名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB87001-I

PVC 接続しました。論理端末名 = aa....aa, 送受信種別 = bbbb, PVC 番号 = c

```
The PVC is connected. logical terminal name = aa....aa, sending or receiving = bbbb, PVC number = c (S+P+L) (5) (SUP)
```

PVC 接続しました。

**aa....aa** : 論理端末名

**bbbb** : 論理端末の送受信種別

SEND : 送信用論理端末

RECV : 受信用論理端末

**c** : PVC 番号

表示できない場合は, **\*\*....\*\***を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB87002-I

```
PVC 切断しました。論理端末名 = aa....aa, 送受信種別 = bbbb, PVC 番号 = c
```

```
The PVC is disconnected. logical terminal name = aa....aa, sending or receiving = bbbb, PVC number = c (S+P+L) (5) (SUP)
```

PVC 切断しました。

**aa....aa** : 論理端末名

**bbbb** : 論理端末の送受信種別

SEND : 送信用論理端末

RECV : 受信用論理端末

**c** : PVC 番号

表示できない場合は, **\*\*....\*\***を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB87003-I

```
回線オープンしました。論理端末名 = aa....aa, 送受信種別 = bbbb, 回線番号 = c
```

A line was opened. logical terminal name = aa....aa, sending or receiving = bbbb, line number = c (S+P+L) (5) (SUP)

回線オープンしました。

aa....aa : 論理端末名

bbbb : 論理端末の送受信種別

SEND : 送信用論理端末

RECV : 受信用論理端末

c : 回線番号

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

#### KFSB87004-I

回線クローズしました。論理端末名 = aa....aa, 送受信種別 = bbbb, 回線番号 = c

A line was closed. logical terminal name = aa....aa, sending or receiving = bbbb, line number = c (S+P+L) (5) (SUP)

回線クローズしました。

aa....aa : 論理端末名

bbbb : 論理端末の送受信種別

SEND : 送信用論理端末

RECV : 受信用論理端末

c : 回線番号

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

#### KFSB87005-I

PVC 切断依頼を送信しました。論理端末名 = aa....aa, 送受信種別 = bbbb

A PVC disconnection request was transmitted. logical terminal name = aa....aa, sending or receiving = bbbb (S+P+L) (5) (SUP)

PVC 切断依頼を送信しました。

aa....aa : 論理端末名

bbbb : 論理端末の送受信種別

SEND : 送信用論理端末

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB87006-I

PVC 未接続または PVC 切断中です。論理端末名 = aa....aa, 送受信種別 = bbbb

The PVC has not been connected, or the PVC is being disconnected. logical terminal name = aa....aa, sending or receiving = bbbb (S+P+L) (5) (SUP)

PVC 未接続または PVC 切断中です。

aa....aa : 論理端末名

bbbb : 論理端末の送受信種別

SEND : 送信用論理端末

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB87007-I

受信シーケンス番号の上昇または下降を検知しました。電文区分 = aaaa, 受信シーケンス番号 = nn....nn, mm....mm

An increase or decrease of the reception sequence number was detected. message type = aaaa, reception sequence number = nn....nn, mm....mm (S+P+L) (5) (SUP)

期待する受信シーケンス番号と異なるシーケンス番号を受信しました。

aaaa : 電文区分

nn....nn : 受信シーケンス番号



mm....mm : TP1/FSP (ATM) で期待していた受信シーケンス番号

(S)処理を続行します。

(O)MCP トレースファイルを取得し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】なし。

#### KFSB87008-I

PVC 時刻取得結果電文を受信し時刻補正値を算出しました。時刻補正値 = aa....aa, T1 = bbbbbbbb, T2 = cccccccc, T3 = dddddddd, T4 = eeeeeeee

A message containing PVC time acquisition results was received, and a time correction value was calculated. time correction value = aa....aa, T1 = bbbbbbbb, T2 = cccccccc, T3 = dddddddd, T4 = eeeeeeee (S+P+L) (5) (SUP)

PVC 時刻取得結果電文を受信し時刻補正値を算出しました。

aa....aa : 時刻補正値 (符号付 10 進表記)

bbbbbbbb : 時刻補正値計算用元データ 1 (16 進数 8 けた固定)

cccccccc : 時刻補正値計算用元データ 2 (16 進数 8 けた固定)

dddddddd : 時刻補正値計算用元データ 3 (16 進数 8 けた固定)

eeeeeeee : 時刻補正値計算用元データ 4 (16 進数 8 けた固定)

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB87101-I

コネクションを再確立します。コネクション ID = aa....aa

Connection will now be re-established. connection ID = aa....aa (S+P+L) (5) (SUP)

aa....aa : コネクション ID

(S)コネクションを再確立します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB88201-I

サービスグループ下の全サービスに対応するOTQを閉塞しました。サービスグループ名 = aa....aa,  
閉塞要因 = bb

Shut down OTQ for all services under the service group. service group name = aa....aa,  
shutdown reason = bb (S+P+L) (3) (NOS)

送信先サービス関連定義の eemchsrvdef 定義コマンドで指定したサービスグループ下の全サービスに対応する出力キュー (OTQ) を閉塞しました。

**aa....aa** : サービスグループ名

**bb** : 閉塞要因

00 : 自動閉塞

01 : UAP 呼び出しによる出力キューの閉塞

02 : コマンド呼び出しによる出力キューの閉塞

(S) サービスグループ下の全サービスに対応する出力キューを閉塞します。

(O) なし。

【対策】 なし。

## KFSB88202-I

サービスに対応するOTQを閉塞しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb,  
閉塞要因 = cc

Shut down OTQ for the service. service group name = aa....aa, service name = bb....bb,  
shutdown reason = cc (S+P+L) (3) (NOS)

送信先サービス関連定義の eemchsrvdef 定義コマンドで指定したサービスに対応する出力キュー (OTQ) を閉塞しました。

**aa....aa** : サービスグループ名

**bb....bb** : サービス名

**cc** : 閉塞要因

00 : 自動閉塞

01 : UAP 呼び出しによる出力キューの閉塞

02 : コマンド呼び出しによる出力キューの閉塞

(S) サービスに対応する出力キューを閉塞します。

(O) なし。

【対策】 なし。

## KFSB88203-I

```
全てのOTQを閉塞しました。閉塞要因= aa  
Shut down all OTQ. shutdown reason = aa    (S+P+L) (3) (NOS)
```

送信先サービス関連定義の eemchsrvcdef 定義コマンドで指定したすべての出力キュー (OTQ) を閉塞しました。

**aa** : 閉塞要因

- 00 : 自動閉塞
- 01 : UAP 呼び出しによる出力キューの閉塞
- 02 : コマンド呼び出しによる出力キューの閉塞

(S)すべての出力キューを閉塞します。

(O)なし。

【対策】 なし。

## KFSB88204-I

```
サービスグループ下の全サービスに対応するOTQの閉塞を解除しました。サービスグループ名=  
aa....aa, 閉塞解除要因= bb  
Cancelled the OTQ shutdown for all services under the service group. service group name =  
aa....aa, shutdown cancellation reason = bb    (S+P+L) (3) (NOS)
```

送信先サービス関連定義の eemchsrvcdef 定義コマンドで指定したサービスグループ下の全サービスに対応する出力キュー (OTQ) の閉塞を解除しました。

**aa....aa** : サービスグループ名

**bb** : 閉塞解除要因

- 03 : UAP 呼び出しによる出力キューの閉塞解除
- 04 : コマンド呼び出しによる出力キューの閉塞解除

(S)サービスグループ下の全サービスに対応する出力キューの閉塞を解除します。

(O)なし。

【対策】 なし。

## KFSB88205-I

サービスに対応するOTQの閉塞を解除しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 閉塞解除要因 = cc

Cancelled the OTQ shutdown for the service. service group name = aa....aa, service name = bb....bb, shutdown cancellation reason = cc (S+P+L) (3) (NOS)

送信先サービス関連定義の eemchsrvdef 定義コマンドで指定したサービスに対応する出力キュー (OTQ) の閉塞を解除しました。

**aa....aa** : サービスグループ名

**bb....bb** : サービス名

**cc** : 閉塞解除要因

03 : UAP 呼び出しによる出力キューの閉塞解除

04 : コマンド呼び出しによる出力キューの閉塞解除

(S) サービスに対応する出力キューの閉塞を解除します。

(O) なし。

【対策】 なし。

## KFSB88206-I

全てのOTQの閉塞を解除しました。閉塞解除要因 = aa

Cancelled all OTQ shutdown. shutdown cancellation reason = aa (S+P+L) (3) (NOS)

送信先サービス関連定義の eemchsrvdef 定義コマンドで指定したすべての出力キュー (OTQ) の閉塞を解除しました。

**aa** : 閉塞解除要因

03 : UAP 呼び出しによる出力キューの閉塞解除

04 : コマンド呼び出しによる出力キューの閉塞解除

(S) すべての出力キューの閉塞を解除します。

(O) なし。

【対策】 なし。

## KFSB88207-I

一部のサービスグループでOTQの閉塞解除が出来ませんでした。閉塞解除要因 = aa

```
Failed to cancel OTQ shutdown in some service groups. shutdown cancellation reason =  
aa (S+P+L) (3) (NOS)
```

送信先サービス関連定義の eemchsrvdef 定義コマンドで指定した一部のサービスグループで出力キュー (OTQ) の閉塞解除ができませんでした。

aa：閉塞解除要因

03：UAP 呼び出しによる出力キューの閉塞解除

04：コマンド呼び出しによる出力キューの閉塞解除

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** eemchotqls コマンドで出力キューの状態を確認し、閉塞中となっている送信先のサービスグループの状態 (起動状態) を確認してください。

### KFSB88300-I

```
メモリ反映待ちの仕掛中リソースがあります。仕掛件数 = aa....aa
```

```
There are some valid resources waiting to be allocated to the memory. number of valid  
resources = aa....aa (S+P+L) (5) (NOS)
```

待機系での仕掛かり中リソース情報の監視で、メモリ反映待ちの仕掛かり中リソースを検出しました。

aa....aa：仕掛かり中リソースの件数

(S)処理を続行します。

(O)このメッセージが出力され続ける場合は、OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** メッセージが出力され続ける場合は、実行系に eehamls コマンドを入力して、自プロセスが切り離されていないか確認してください。切り離されている場合は、速やかに自プロセスを停止してください。切り離されていない場合は、保守員に連絡してください。

### KFSB88401-I

```
系切り替え時、閉塞中のサービスがあります。
```

```
A shutdown service was found during hotstandby. (S+P+L) (5) (NOS)
```

系切り替え時に、閉塞中のサービスがあります。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** なし。

## KFSB88402-I

系切り替え時、閉塞中のOTQがあります。

Shutdown OTQ was found during hotstandby. (S+P+L) (5) (NOS)

系切り替え時に、閉塞中の出力キュー (OTQ) があります。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

# 7

## KFSB90000～KFSB99999

この章では、コマンド実行時のメッセージ（KFSB90000～KFSB99999）とその意味、および対策について説明します。

## 7.1 KFSB90000~KFSB99999

### KFSB90301-E

領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb

An attempt to allocate area has failed. command name = aa....aa, request size = bb....bb  
(E) (NOS)

通信制御コマンドの処理で、必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

### KFSB90302-E

通信障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbbbb

A communication error has occurred. command name = aa....aa, reason code = bbbbbb (E)  
(NOS)

通信制御コマンドの処理で、通信障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
05009	該当するコマンドの-g オプションのフラグ引数に指定されたサービスグループ名が不正です。または、TP1/EE プロセスが起動されていないなどの障害が発生しています。	正しいサービスグループ名を指定して、コマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE を起動して、コマンドを再実行してください。
05060		
05012	TP1/EE のプロセスで障害が発生しました。	メッセージログファイルを参照してください。



理由コード	意味	対策
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB90303-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbbbb  
 The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bbbbbb (E)  
 (NOS)

通信制御コマンドの形式に誤りがあったため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bbbbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
05001	不正なオプションフラグがあります。	正しいコマンド形式で、コマンドを再実行してください。
05053	不正なコマンド引数があります。	
05054	フラグ引数がありません。	
05055	必要なオプションフラグがありません。	
05056	必須のオプションフラグがありません。	
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB90304-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプションフラグ = b, 理由コード = cccccc  
 The flag argument is invalid. command name = aa....aa, option flag = b, reason code = cccccc (E) (NOS)

通信制御コマンドのフラグ引数の指定が不正なため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**b** : 不正なフラグ引数が指定されたオプションフラグ

CCCCC：理由コード

- 00001：指定値が指定範囲外です。
- 00002：指定値が指定できる値ではありません。
- 00003：けた数が多過ぎます。
- 05054：フラグ引数がありません。
- 05057：けた数が不正です。このフラグ引数は固定長です。
- 05058：けた数が多過ぎます。このフラグ引数は可変長です。
- 05059：指定できない文字を指定しています。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】なし。

### KFSB90305-E

コマンド処理でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbbbb  
An error occurred during command processing. command name = aa....aa, reason code = bbbbbb (E) (NOS)

TP1/EE プロセスの通信制御コマンドの処理が不正なため、処理を中止しました。

aa....aa：該当するコマンド名

bbbbbb：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
00002	シンプルトランザクション機能を使用しているため、実行できません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
00304	作業領域の確保に失敗しました。	保守員に連絡してください。
41502	通信障害が発生しました。	
41503	サービスグループ名が不正です。	正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。
41504	ホスト名が不正です。	
41505	エン트리位置が不正です。	

理由コード	意味	対策
41513	rap 機能は使用できません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
41514	RPC 応答抑止機能は使用できません。	
41515	UAP 共用ライブラリ入れ替え機能は使用できません。	
41516	入れ替え元のライブラリファイルが見つかりませんでした。	UAP 共用ライブラリファイルが存在するかどうか確認してください。
41518	UAP 共用ライブラリの入れ替えに失敗しました。	TP1/EE プロセスのメッセージログを参照して原因を調査してください。
41519	eerplscn コマンドの-q オプションに対応する表示対象のコネクションはありません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
41522	常設コネクションを切断できません。	なし。
41525	プロセス関連定義の fsp_use オペランドに Y を指定している場合は使用できません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
41526	受信用コネクションを切断することができません。	しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。
41528	次のどちらかの要因でコマンドは受け付けられません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• MCP 機能を使用している</li> <li>• XTC 機能を使用している</li> </ul>	なし。
41529	ネームサーバへのアクセス時に障害が発生しました。	TP1/EE プロセスのメッセージログファイルを参照して原因を調査してください。
41530	ステータスファイルへのアクセス時に障害が発生しました。	
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB90306-E

内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bbbb

An internal conflict has occurred. command name = aa....aa, detail code = bbbb (E)  
(NOS)

通信制御コマンドの処理で予期しない障害が発生したので、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合は、コアダンプを保守員に渡してください。

## KFSB90307-E

オプションフラグの組み合わせが不正です。コマンド名 = aa....aa

The combination of option flags is invalid. command name = aa....aa (E) (NOS)

通信制御コマンドのオプションフラグの組み合わせが不正なため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいオプションフラグの組み合わせで、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90311-I

使用方法 : eerksrpctcpls -g データ連携支援 I D

Usage: eerksrpctcpls -g <data-linkage-support-ID> (S) (NOS)

eerksrpctcpls コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しく設定してコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90313-I

使用方法 : eerksrpclscn -g データ連携支援 I D [{-s データ連携支援 I D -n ホスト名 [-m] [-q] | -r | -o {all | clt | svr | rep}}]

Usage: eerksrpclscn -g <data-linkage-support-ID> [{-s <data-linkage-support-ID> -n <host-name> [-m] [-q] | -r | -o {all | clt | svr | rep}}] (S) (NOS)

eerksrpclscn コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しく設定してコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90315-I

使用方法：eerksrpcsockcls -g データ連携支援 I D -i I P アドレス [[-l listen ポート番号] [-o 相手ポート番号] [-m 自ポート番号] [-f]]

Usage: eerksrpcsockcls -g <data-linkage-support-ID> -i <IP-address> [[-l <listen port number>] [-o <target port number>] [-m <local port number>] [-f]] (S) (NOS)

eerksrpcsockcls コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しく設定してコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90316-I

使用方法：eerksrpcstat -g データ連携支援 I D [-t {all | svr | rep}]

Usage: eerksrpcstat -g <data-linkage-support-ID> [-t {all | svr | rep}] (S) (NOS)

eerksrpcstat コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しく設定してコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90330-I

使用方法：eerpclscn -g サービスグループ名 [{-s サービスグループ名 -n ホスト名 [-m] [-q] | -r | -o {all | clt | svr | rep}}]

Usage: eerpclscn -g <service-group-name> [{-s <service-group-name> -n <host-name> [-m] [-q] | -r | -o {all | clt | svr | rep}}] (S) (NOS)

eerpclscn コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90338-I

使用方法：eerpcsockcls -g サービスグループ名 -i I P アドレス [[-l listen ポート番号] [-o 相手ポート番号] [-m 自ポート番号] [-f]]

Usage: eerpcsockcls -g <service-group-name> -i <IP-address> [[-l <listen port number>] [-o <target port number>] [-m <local port number>] [-f]] (S) (NOS)

eerpcsockcls コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB90339-I

コネクション切断を受け付けました。I P アドレス = aa....aa, listen ポート番号 = bb....bb, 相手ポート番号 = cc....cc, 自ポート番号 = dd....dd

The connection close has been accepted. IP-address = aa....aa, listen port number = bb....bb, target port number = cc....cc, local port number = dd....dd (S) (NOS)

指定されたコネクションを切断します。

aa....aa : 相手 IP アドレス

bb....bb : listen ポート番号

eerpcsockcls コマンドの-l オプションを省略した場合は、0 を表示します。

cc....cc : 相手ポート番号

eerpcsockcls コマンドの-o オプションを省略した場合は、0 を表示します。

dd....dd : 自ポート番号

eerpcsockcls コマンドの-m オプションを省略した場合は、0 を表示します。

(S)コネクションを切断します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB90350-I

使用方法：eerpcspndls -g サービスグループ名

Usage: eerpcspndls -g <service-group-name> (S) (NOS)

eerpcspndls コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB90355-I

使用方法: eerpcspndrles -g サービスグループ名 -i 抑止識別子

Usage: eerpcspndrles -g <service-group-name> -i <suppression-id> (S) (NOS)

eerpcspndrles コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB90356-I

RPC 応答メッセージ送信抑止状態を解放します。抑止識別子 = aa....aa

The transmission suppression of RPC response messages will now be released. suppression ID = aa....aa (S) (NOS)

RPC 応答メッセージの送信抑止状態を解放します。

aa....aa : 抑止識別子

(S)RPC 応答メッセージの送信抑止状態を解放します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB90357-E

指定された抑止識別子は無効です。抑止識別子 = aa....aa

The specified suppression ID is invalid. suppression ID = aa....aa (E) (NOS)

応答メッセージの送信抑止状態の解放処理が失敗しました。指定した抑止識別子は存在しないか、すでにタイムアウトなどで応答が返されています。

aa....aa : 抑止識別子

(S)RPC 応答メッセージの送信抑止状態の解放処理をしないで、コマンドを終了します。

(O)eerpcspndls コマンドで応答メッセージの送信抑止状態を確認し、抑止識別子の指定を見直してください。

【対策】 なし。

#### KFSB90360-I

使用方法：eerpccraps -g サービスグループ名

Usage: eerpccraps -g <service-group-name> (S) (NOS)

eerpccraps コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB90365-I

使用方法：eerpccrapcls -g サービスグループ名 -i サービス ID

Usage: eerpccrapcls -g <service-group-name> -i <service-id> (S) (NOS)

eerpccrapcls コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB90366-I

コネクションを切断します。サービス ID = aa....aa

The connection will now be closed. service ID = aa....aa (S) (NOS)

常設コネクションを切断します。

aa....aa：サービス ID

(S)常設コネクションを切断します。

(O)なし。



【対策】 なし。

## KFSB90367-E

```
指定されたサービス ID は無効です。サービス ID = aa....aa  
The specified service ID is invalid. service ID = aa....aa    (E) (NOS)
```

常設コネクションの切断処理に失敗しました。指定したサービス ID は存在しないか、すでに常設コネクションが切断されています。

aa....aa : 指定したサービス ID

(S)常設コネクションの切断処理をしないで、コマンドを終了します。

(O)eerpccrpls コマンドで常設コネクションの状態を確認し、サービス ID の指定を見直してください。

【対策】 なし。

## KFSB90368-E

```
指定されたサービス ID は解放できない状態です。サービス ID = aa....aa  
The specified service ID cannot be released. service ID = aa....aa    (E) (NOS)
```

常設コネクションの切断処理に失敗しました。指定したサービス ID は、常設コネクションを切断できない状態です。

aa....aa : サービス ID

(S)常設コネクションの切断処理を行わないで、コマンドを終了します。

(O)常設コネクションの状態を eerpccrpls コマンドで確認してください。

【対策】 なし。

## KFSB90370-I

```
使用方法 : eechgap -g サービスグループ名 {-s | -r | -b 入替元UAP共用ライブラリ名 -a 入替先U  
AP共用ライブラリ名 [-c]} [-t トランザクション静止化監視時間]  
Usage: eechgap -g <service-group-name> {-s | -r | -b <name-of-current-uap-common-  
library> -a <name-of-new-uap-common-library> [-c]} [-t <monitoring-time-of-transaction-  
staticization>]    (S) (NOS)
```

eechgap コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB90371-I

```
UAP 共有ライブラリの入替が完了しました。サービスグループ名 = aa....aa, 入替元UAP 共有ライブラリ名 = bb....bb, 入替先UAP 共有ライブラリ名 = cc....cc  
Switchover processing of a UAP common library has finished. service group name = aa....aa, old UAP common library = bb....bb, new UAP common library = cc....cc (S) (NOS)
```

UAP 共有ライブラリの入替が完了しました。

aa....aa : サービスグループ名

bb....bb : 入れ替え元の UAP 共有ライブラリ名

cc....cc : 入れ替え先の UAP 共有ライブラリ名

(S)なし。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB90372-I

```
トランザクションを静止化しました。サービスグループ名 = aa....aa  
A transaction was staticized. service group name = aa....aa (S) (NOS)
```

トランザクションを静止化しました。

aa....aa : サービスグループ名

(S)なし。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB90373-I

```
トランザクションを静止化解除しました。サービスグループ名 = aa....aa  
The staticization of a transaction was released. service group name = aa....aa (S) (NOS)
```

トランザクションの静止化状態を解除しました。

aa....aa : サービスグループ名

(S)なし。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB90374-E

トランザクションの静止化が完了しませんでした。サービスグループ名 = aa....aa, 理由コード = bbbb  
The staticization of a transaction was not completed. service group name = aa....aa, reason code = bbbb (E) (NOS)

TP1/EE がオンライン中ではない、または起動中のトランザクションがあるためトランザクションの静止化処理が完了しませんでした。

aa....aa : サービスグループ名

bbbb : 理由コード

0001 : TP1/EE がオンライン中ではありません。

0002 : 起動中のトランザクションがあります。

0003 : MCP のコネクションが解放されていません (TCP/IP プロトコルの場合)。または、論理端末が閉塞されていません (UDP プロトコルの場合)。

(S)コマンドの処理を中止します。

(O)コマンドを再度実行してください。

【対策】

理由コードが 0003 の場合

MCP のコネクションを解放、または論理端末を閉塞したあと、コマンドを再実行してください。

また、MCP 後処理トランザクション (RL) を起動するサービスが引き出し禁止状態で UAP 起動前の場合も、この理由コードとなります。引き出し禁止を解除したあと、コマンドを再実行してください。

理由コードが 0003 以外の場合

なし。

## KFSB90375-I

使用方法 : eeapls -g サービスグループ名

Usage: eeapls -g <service-group-name> (S) (NOS)

eeapls コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB90380-I

使用方法：eerpnamdel -u ユーザサーバ名

Usage: eerpnamdel -u <user-server-name> (S) (NOS)

eerpnamdel コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB90381-E

ネームサービス情報の削除に失敗しました。詳細コード 1 = aa....aa, 詳細コード 2 = bb....bb

An attempt to delete name service information has failed. detail code 1 = aa....aa, detail code 2 = bb....bb (E) (NOS)

ネーム情報の削除に失敗しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)ネーム情報の削除をしないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB90382-W

ネームサービス情報の削除に失敗した可能性があります。ユーザサーバ名 = aa....aa

An attempt to delete name service information might have failed. user server name = aa....aa (E) (NOS)

ネーム情報の削除に失敗した可能性があります。

aa....aa : ユーザサーバ名

(S)ネーム情報の削除をしないで処理を続行します。

(O)ネームサービスを使用していない場合は、このメッセージを無視してください。ネームサービスを使用している場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** ネームサービスを使用している場合は、`eerpcnamdel` コマンドを実行してネーム情報を削除してください。

#### KFSB90386-I

使用方法：`eerpctcps -g サービスグループ名`

Usage: `eerpctcps -g <service-group-name>` (S) (NOS)

`eerpctcps` コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

#### KFSB90392-E

ネームサービス機能を使用していません。

The name service processing is no use. (E) (NOS)

ネームサービス機能を使用していません。

(S)なし。

(O)なし。

**【対策】** なし。

#### KFSB90396-I

使用方法：`eenamupdate -g サービスグループ名 -o サービスグループ名`

Usage: `eenamupdate -g <service-group-name> -o <service-group-name>` (S) (NOS)

`eenamupdate` コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しく設定してコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB90399-I

使用方法：eesgrpctl -g サービスグループ名 {-s | -r | -l}

Usage: eesgrpctl -g <service-group-name> {-s | -r | -l} (S) (NOS)

eesgrpctl コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しく設定してコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90401-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E)  
(NOS)

コマンドの引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 理由コード

0001 : 不正なオプションフラグがあります。

0002 : 必要なフラグ引数がありません。

0003 : 必要なオプションフラグがありません。

0004 : コマンド引数の個数が多過ぎます。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しい引数を設定してコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90402-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb, 理由コード = cccc

The flag argument is invalid. command name = aa....aa, option = bb, reason code = cccc  
(E) (NOS)

コマンドのオプションに誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb : オプションフラグ

cccc：理由コード

0001：フラグ引数のけた数が不正です。

0002：フラグ引数に設定した文字の属性が不正です。

0003：フラグ引数に設定した内容が不正です。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいフラグ引数を設定してコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB90404-E

```
コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc  
Command execution has failed. command name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code  
= cc....cc (E) (NOS)
```

コマンド実行中にエラーが発生したため、処理を中止しました。

aa....aa：コマンド名

bbbb：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	サービスグループ名が不正です。	コマンドに指定したサービスグループ名を確認し、再度コマンドを実行してください。
0002	TP1/EE プロセス側でエラーが発生しました。	TP1/EE のメッセージログファイルを調査してください。TP1/EE のメッセージログファイルにメッセージが出力されていない場合は、詳細コードを保守員に連絡してください。
0003	排他制御機能が未使用です。	コマンドは実行できません。
0004	TP1/EE プロセスとの通信に失敗しました。	TP1/EE との通信障害の原因を調査し、取り除いてください。
0005	指定した資源名称は排他制御されていません。	コマンドに指定した資源名称を確認し、再度コマンドを実行してください。

## KFSB90405-E

領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb

An attempt to allocate area has failed. command name = aa....aa, request size = bb....bb  
(E) (NOS)

コマンド処理に必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S) コマンド処理を中止します。

(O) しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。再発する場合、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB90406-E

内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bbbb

An internal conflict has occurred. command name = aa....aa, detail code = bbbb (E)  
(NOS)

コマンド実行中に予期しない障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) コマンド処理を中止します。

(O) OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合は、コアダンプを保守員に渡してください。

## KFSB90421-I

使用方法: eelckls -g サービスグループ名称 [{-a | -r 資源名称}] [-t]

Usage: eelckls -g <service-group-name> [{-a | -r <resource-name>}] [-t] (S) (NOS)

eelckls コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。



(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90501-E

領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb  
An attempt to allocate area has failed. command name = aa....aa, request size = bb....bb  
(E) (NOS)

コマンド処理に必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。再発する場合、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB90502-E

コマンド処理でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc  
A command processing error occurred. command name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E) (NOS)

コマンド実行中にエラーが発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
DATA	メッセージエラーです。	cc....cc に表示された情報を保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
EXECUTE	TP1/EE プロセス側でエラーが発生しました。	しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。解決しない場合は、cc....cc に表示された情報を保守員に連絡してください。
INSIDE	内部矛盾を検知しました。	cc....cc に表示された情報を保守員に連絡してください。
IPC	データの通信に失敗しました。	しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。解決しない場合は、cc....cc に表示された情報を保守員に連絡してください。
PUTENV	環境変数の設定エラーです。	OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。再発する場合は cc....cc に表示された情報を保守員に連絡してください。
SVGNAME	指定されたサービスグループ名が見つかりません。	正しいサービスグループ名を指定してコマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE の起動後にコマンドを再実行してください。

## KFSB90503-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbbbb

The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bbbbbb (E)  
(NOS)

コマンドの形式に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bbbbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいコマンド形式で、コマンドを再実行してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
05001	不正なオプションフラグがあります。	正しいコマンド形式で、コマンドを再実行してください。
05053	不正なコマンド引数があります。	
05054	フラグ引数がありません。	
05055	必要なオプションフラグがありません。	
05056	必須のオプションフラグがありません。	
上記以外	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB90504-E

```
フラグ引数が不正です。コマンド名= aa....aa, オプションフラグ= b, 理由コード= ccccc  
The flag argument is invalid. command name = aa....aa, option flag = b, reason code =  
cccccc (E) (NOS)
```

コマンドのフラグ引数の指定に誤りがあったため、処理を中止しました。

**aa....aa** : コマンド名

**b** : オプションフラグ

**cccccc** : 理由コード

00001 : 指定範囲外の値です。

05054 : フラグ引数がありません。

05057 : けた数が不正です。このフラグ引数は固定長です。

05058 : けた数が多過ぎます。

05059 : 指定できない文字です。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) 正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90505-E

```
オプションの組み合わせが不正です。コマンド名= aa....aa, オプションフラグ= bb....bb  
The combination of options is invalid. command name = aa....aa, option flag = bb....bb (E)  
(NOS)
```

オプションの組み合わせに誤りがあったため、処理を中止しました。

**aa....aa** : コマンド名

**bb....bb** : 組み合わせが不正なオプションフラグ

オプションフラグは:で区切って表示します。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) 正しいオプションを指定してコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90506-E

SQL実行においてエラーが発生しました。DBMSメッセージ= aa....aa, タイマデータ表名= bb....bb, SQLCODE = cc....cc, 詳細コード= dd....dd

An error occurred for SQL execution. DBMS message = aa....aa, timer data table name = bb....bb, SQLCODE = cc....cc, detail code = dd....dd (E) (NOS)

共有情報表へのSQL実行時にSQLエラーが発生しました。SQL実行時のDBMSのエラーメッセージを表示します。

aa....aa : DBMSのエラーメッセージ

bb....bb : タイマデータ表名

cc....cc : SQL実行時のSQLCA構造体の状態変数 (SQLCODE)

dd....dd : TP1/EEがトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1管理者に連絡してください。

**【対策】** DBMSのエラーメッセージを参照し原因を取り除いてください。

## KFSB90507-E

永続タイマの表の構成が不正です。表名= aa....aa, 理由コード= bb....bb, 詳細コード= cc....cc

The structure for a persistent timer table is invalid. table name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E) (NOS)

永続タイマの表の構成が不正です。

aa....aa : 構成不正のタイマデータ表名, またはタイマ監視表名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EEがトラブルシュートで使用する情報

(S)タイマデータ表を削除しないで終了します。

(O)OpenTP1管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
COLNAME	aa....aa に表示された表の列情報が不正です。	TP1/FSP の eetimtblh コマンドで作成したタイマデータ表を指定しているか確認してください。

理由コード	意味	対策
COLSIZE	aa....aa に表示された表の列情報が不正です。	TP1/FSP の eetimtblh コマンドで作成したタイマデータ表を指定しているか確認してください。
COLTYPE		
ROWNUM	aa....aa に表示された表の行情報が不正です。	正しいタイマデータ表を指定しているか確認してください。
TABLE	aa....aa に表示された表が見つかりません。	

## KFSB90520-I

使用方法：eetimtblh -t タイマデータ表名 -g サービスグループ名 [-z 最大引継ぎデータ長] [-b 格納用 RD エリア名]

eetimtblh -t タイマデータ表名 -r

Usage: eetimtblh -t <timer-data-table-name> -g <service-group-name> [-z <maximum-transfer-information-length>] [-b <table-storage-RD-area-name>]

eetimtblh -t <timer-data-table-name> -r (S) (NOS)

TP1/FSP の eetimtblh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB90521-I

コマンドが成功しました。コマンド名 = aa....aa, タイマデータ表名 = bb....bb

Command execution was successful. command name = aa....aa, timer data table name = bb....bb (S) (NOS)

コマンドが成功しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : タイマデータ表名

(S)コマンド処理を正常終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB90522-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, タイマデータ表名 = bb....bb, 理由コード = cccc  
Command execution has failed. command name = aa....aa, timer data table name = bb....bb,  
reason code = cc....cc (E) (NOS)

コマンドが失敗しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : タイマデータ表名

cccc : 理由コード

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0505	指定されたタイマデータ表がありません。	-t オプションに指定したタイマデータ表名に誤りがないか確認してください。また、接続する HiRDB が誤っていないかを環境変数 (PDHOST, PDNAMEPORT, および PDUSER) の設定で確認してください。
0511	SQL 実行時にエラーが発生しました	直前に出力されている <a href="#">KFSB90506-E</a> メッセージを参照して SQL 実行時のエラーの原因を取り除いてください。
0534	表の構成が不正です。	-t オプションに指定したタイマデータ表名に誤りがないか確認してください。また、接続する HiRDB が誤っていないかを環境変数 (PDHOST, PDNAMEPORT, および PDUSER) の設定で確認してください。
上記以外	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB90530-I

使用方法 : eetimchown -g サービスグループ名 -t タイマデータ表名 -n リソースマネージャ名 [-i リソースマネージャ拡張子]

Usage: eetimchown -g <service-group-name> -t <timer-data-table-name> -n <resource-manager-name> [-i <resource-manager-extension>] (S) (NOS)

TP1/FSP の eetimchown コマンドの使用法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90531-I

タイマデータ表の監視変更処理を受け付けました。コマンド名 = aa....aa, タイマデータ表名 = bb....bb  
A request to change timer data table monitoring was accepted. command name = aa....aa,  
timer data table name = bb....bb (S) (NOS)

タイマデータ表の監視変更処理を受け付けました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : タイマデータ表名

(S)コマンド処理を正常終了します。

(O)なし。

【対策】 なし。

## KFSB90532-E

タイマデータ表の監視変更処理でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, タイマデータ表名 = bb....bb, 理由コード = cccc  
An error occurred while timer data table monitoring was being changed. command name = aa....aa, timer data table name = bb....bb, reason code = cccc (E) (NOS)

タイマデータ表の監視変更処理でエラーが発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : タイマデータ表名

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)タイマデータ表の監視変更処理を中止し、コマンドを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0100	該当するタイマデータ表、またはタイマ監視表がありません。	-t オプションに指定したタイマデータ表名に誤りがないか確認してください。

理由コード	意味	対策
0101	リソースマネージャ名が不正です。	トランザクション関連定義の <code>trnstring</code> 定義コマンドに指定したリソースマネージャ ( <code>-n</code> オプションおよび <code>-i</code> オプション) を指定してコマンドを再実行してください。
0102	リソースマネージャの接続状態が不正です。	TP1/EE のメッセージログファイルに出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照してください。
0103	SQL 実行時にエラーが発生しました。	TP1/EE のメッセージログファイルに出力されている <a href="#">KFSB40500-E</a> メッセージを参照して SQL 実行時のエラーの原因を取り除いてください。
0104	該当するタイマデータ表はすでに監視中です。	<code>-t</code> オプションで指定したタイマデータ表名に誤りがないか確認してください。
0105	同時に監視できるタイマデータ表数の上限を超えました。	ほかの TP1/EE でタイマデータ表を監視してください。
0106	ほかの TP1/EE で監視中の可能性があるため、監視変更処理を中止しました。	ほかの TP1/EE でタイマデータ表を監視中でないか確認してください。
0107	永続タイマ機能が有効になっていません。	TP1/FSP のタイマ関連定義の <code>tim_perm_thread_no</code> オペランドの指定値を見直してください。
0108	自サービスグループをタイマ登録対象とするタイマデータ表を監視対象にしようとしたが、タイマ登録用の定義がありません。	該当するタイマデータ表を TP1/FSP のタイマ関連定義の <code>timpermdef</code> 定義コマンドの <code>-a</code> オプションに <code>entry</code> を指定した定義の <code>-t</code> オプションで指定しているか確認してください。
0109	タイマデータ表、またはタイマ監視表の構成が不正です。	TP1/FSP の <code>eetimtblh</code> コマンドで作成した正しいタイマデータ表を指定しているか確認してください。
0110	サービスグループ閉塞中です。	サービスグループ閉塞解除してから再実行してください。
上記以外	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB90900-I

使用方法： `eetrnls -g サービスグループ名`

Usage: `eetrnls -g <service-group-name> (S) (NOS)`

`eetrnls` コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90901-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = `aa....aa`、理由コード = `bbbb`



The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E)  
(NOS)

コマンドの引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbb : 理由コード

0001 : オプションフラグに不正があります。

0002 : 必要なフラグ引数がありません。

0003 : 引数に不正があります。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しい引数を指定して、コマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB90902-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb, 理由コード = cccc  
The flag argument is invalid. command name = aa....aa, option = bb, reason code = cccc  
(E) (NOS)

コマンドのオプションに誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb : 誤りがあったオプションフラグ

cccc : 理由コード

0001 : フラグ引数のけた数が不正です。

0002 : フラグ引数に指定した文字の属性が不正です。

0003 : フラグ引数に指定した内容が不正です。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB90904-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc  
Command execution has failed. command name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code  
= cc....cc (E) (NOS)

コマンド実行中に障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理を中止します。

(O)

理由コードが 0010 の場合

しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

理由コードが上記以外の場合

OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	データ通信に失敗しました。	TP1/EE との通信障害の原因を調査し、その原因を取り除いてください。
0002	TP1/EE のプロセスで障害が発生しました。	TP1/EE プロセスのメッセージログファイルを参照して原因を調査してください。TP1/EE プロセスのメッセージログファイルにメッセージが出力されていない場合は、詳細コードを保守員に連絡してください。
0003	トランザクションが受け付けられる状態ではありません。	TP1/EE のプロセスのトランザクション状態を確認してください。
0004	トランザクション決着の登録時に障害が発生しました。	TP1/EE プロセスのメッセージログファイルを参照して原因を調査してください。TP1/EE プロセスのメッセージログファイルにメッセージが出力されていない場合は、詳細コードを保守員に連絡してください。
0005	指定したトランザクション識別子に誤りがあります。	指定したトランザクション識別子が正しいかどうか確認してください。
0007	シンプルトランザクション機能を使用している場合はこのコマンドを実行できません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0008	指定したノード識別子に誤りがあります。	指定したノード識別子が正しいかどうか確認してください。
0009	排他処理でエラーが発生しました。	コマンドを再実行してください。
0010	環境変数の設定でエラーが発生しました。	OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB90905-E

領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb

An attempt to allocate area has failed. command name = aa....aa, request size = bb....bb  
(E) (NOS)

コマンド処理に必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S)コマンドの処理を中止します。

(O)しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB90906-E

内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bbbb

An internal conflict has occurred. command name = aa....aa, detail code = bbbb (E)  
(NOS)

コマンド実行中に予期しない障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合は、コアダンプを保守員に渡してください。

## KFSB90907-E

ファイルのオープン処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, ファイル名 = cc....cc

An error occurred during processing to open a file. command name = aa....aa, reason code = bbbb, file name = cc....cc (E) (NOS)

入出力ファイル (UNIX ファイル) のオープンで障害が発生しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

**bbbb** : 理由コード

0001 : 指定されたファイルが存在しません。

0002 : 指定されたファイルはすでに存在します。

0003 : 入出力エラーが発生しました。

**cc....cc** : 該当するファイル名

(S)障害が発生したファイルへの入出力処理を中止します。

(O)ファイルが正しいかどうか確認してください。

[対策] なし。

## KFSB90908-E

ファイルからのリード処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
An error occurred during processing to read a file. command name = aa....aa, file name = bb....bb (E) (NOS)

入出力ファイル (UNIX ファイル) からの読み出しで障害が発生しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb....bb** : 該当するファイル名

(S)障害が発生したファイルへの入出力処理を中止します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

[対策] なし。

## KFSB90909-E

ファイルへのライト処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
An error occurred during processing to write a file. command name = aa....aa, file name = bb....bb (E) (NOS)

入出力ファイル (UNIX ファイル) への書き込みで障害が発生しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb....bb** : 該当するファイル名

(S)障害が発生したファイルへの入出力処理を中止します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

#### KFSB90910-E

ファイルのクローズ処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
An error occurred during processing to close a file. command name = aa....aa, file name = bb....bb (E) (NOS)

入出力ファイル (UNIX ファイル) のクローズで障害が発生しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するファイル名

(S)障害が発生したファイルへの入出力処理を中止します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

#### KFSB90911-E

ファイルポインタの移動処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
An error occurred in move processing for a file pointer. command name = aa....aa, file name = bb....bb (E) (NOS)

入出力ファイル (UNIX ファイル) のファイルポインタの移動で障害が発生しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するファイル名

(S)障害が発生したファイルへの入出力処理を中止します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

#### KFSB90912-E

リソースマネージャ情報が表示できません。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb

Resource manager information cannot be displayed. command name = aa....aa, file name = bb....bb (E) (NOS)

指定したオブジェクトファイルのリソースマネージャ情報を表示できません。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するファイル名

(S)コマンドの処理を中止します。

(O)ファイル名が正しいかどうか確認してください。

【対策】なし。

### KFSB90913-E

RM 連携オブジェクトファイルの作成で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, ファイル名 = cc....cc

An error occurred while an object for connect with resource manager was being created. command name = aa....aa, reason code = bbbb, file name = cc....cc (E) (NOS)

リソースマネージャ連携用オブジェクトファイルの作成中に障害が発生しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbb : 理由コード

0001 : オブジェクトファイルのコンパイルに失敗しました。

0002 : オブジェクトファイル (C ソース) の削除に失敗しました。

0003 : カレントディレクトリの取得に失敗しました。

0004 : 環境変数のキャンセルに失敗しました。

cc....cc : 該当するファイル名

(S)コマンドの処理を中止します。

(O)コマンド実行環境, およびコマンドに指定したファイル名を確認してください。このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は, そのメッセージに従って, 原因を取り除いてください。

【対策】なし。

### KFSB90914-I

ファイルの作成を開始しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb

File creation of a file has started. command name = aa....aa, file name = bb....bb (S) (NOS)

リソースマネージャ連携オブジェクトファイルの作成を開始しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するファイル名

(S)コマンドの処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB90915-I

ファイルの作成を完了しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb

The file has been created. command name = aa....aa, file name = bb....bb (S) (NOS)

リソースマネージャ連携オブジェクトファイルの作成を完了しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するファイル名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB90916-I

使用方法: eetrmkobj -r RM 名称[,RM 名称...] -o RM 連携オブジェクト名 -s RM スイッチ名[,RM スイッチ名...] -O RM 関連オブジェクト[,RM 関連オブジェクト...] [-i HiRDB 提供ヘッダのパス] [-C 'コンパイルオプション名[ コンパイルオプション名]...']

Usage: eetrmkobj -r <RM-name>[,<RM-name>...] -o <name-of-RM-linkage-object> -s <RM-switch-name>[,<RM-switch-name>...] -O <RM-related-object>[,<RM-related-object>...] [-i <path-of-HiRDB-provided-header>] [-C '<compile-option>[ <compile-option>]...'] (S) (NOS)

eetrmkobj コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB90917-I

使用方法：eetrnlstrm -o ファイル名[,ファイル名...]

Usage: eetrnlstrm -o <file-name>[,<file-name>...] (S) (NOS)

eetrnlstrm コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB90919-I

使用方法：eetrncmt -g サービスグループ名 {-t [-f]|-T トランザクション識別子 [-f]}

Usage: eetrncmt -g <service-group-name> {-t [-f]|-T <transaction-id> [-f]} (S) (NOS)

eetrncmt コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB90920-I

使用方法：eetrnrbk -g サービスグループ名 {-t [-f]|-T トランザクション識別子 [-f]}

Usage: eetrnrbk -g <service-group-name> {-t [-f]|-T <transaction-id> [-f]} (S) (NOS)

eetrnrbk コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB90921-I

使用方法：eetrnfgt -g サービスグループ名 {-t|-T トランザクション識別子}

Usage: eetrnfgt -g <service-group-name> {-t|-T <transaction-id>} (S) (NOS)



eetrnft コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB90922-I

使用方法：eetrnlstr -g サービスグループ名 {-t [-s] [-i]}-T トランザクション識別子 {[r] | [-s] [-i]} | -a}

Usage: eetrnlstr -g <service-group-name> {-t [-s] [-i]}-T <transaction-id> {[r] | [-s] [-i]} | -a  
(S) (NOS)

eetrnlstr コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB90923-I

使用方法：eetrntim -g サービスグループ名 {-s トランザクション種別 -t トランザクション処理監視時間 | -r | -l}

Usage: eetrntim -g <service-group-name> {-s <transaction-type> -t <monitoring-time-for-transaction-processing> | -r | -l} (S) (NOS)

eetrntim コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB90924-I

使用方法：eetrnlsdump -t [-s] [-i] ファイル名

Usage: eetrnlsdump -t [-s] [-i] <file-name> (S) (NOS)

eetnlsdump コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB90925-E

指定したファイルに編集するデータがありません。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
The specified file contains no data to be edited. command name = aa....aa, file name =  
bb....bb (E) (NOS)

設定したファイルに編集するデータがありません。次に示すどちらかの理由が考えられます。

- 指定したファイルがコアファイルまたはメモリダンプファイルではありません。
- 指定したファイルが破壊されています。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するファイル名

(S)コマンド処理を中止します。

(O)ファイルが正しいかどうか確認してください。

【対策】 なし。

#### KFSB90931-I

履歴情報表の状態を変更しました。コマンド名 = aa....aa, UAP履歴情報グループ名 = bb....bb, 表名 = cc....cc, 変更前 = ddd, 変更後 = eee  
The status of the log information table was changed. command name = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, table name = cc....cc, before change = ddd, after change = eee (S) (NOS)

履歴情報表の状態を変更しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : UAP履歴情報グループ名

cc....cc : 履歴情報表名

ddd, eee : 状態

ACT : 現用

DCT : 閉塞中

ERR : 障害中

SBY : 未使用

SWP : 切替中

USE : 使用済

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB90932-Q

プロセスの状態を変更しますか? [y : 変更する n : 変更しない] コマンド名 = aa....aa, UAP履歴情報グループ名 = bb....bb, ノード識別子 = cccc, ランID = dddddddd, IPアドレス = ee....ee, ポート番号 = ff....ff

Do you want to change the status of the process? [y = yes, n = no] command name = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, node ID = cccc, run ID = dddddddd, IP address = ee....ee, port number = ff....ff (S) (NOS)

プロセスの状態を変更してよいかどうか応答を求めます。

このメッセージは、変更対象となる TP1/EE プロセスとのコネクション接続後の通信で失敗したときに出 force されます。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : UAP 履歴情報グループ名

cccc : TP1/EE プロセスのノード識別子

ddddddd : ラン ID

ラン ID が定まっていない場合は、\*\*\*\*\*を表示します。

ee....ee : 通信先の IP アドレス

ff....ff : 通信先のポート番号

(S)オペレータが設定した応答に従って処理します。y または n 以外を応答した場合は、再度応答を求めます。

(O)このメッセージで表示された IP アドレスのサーバで netstat コマンド、または lsof コマンドを実行し、このメッセージで表示されたポート番号を TP1/EE プロセスで使用しているかどうか確認してください。

TP1/EE プロセスで使用していない場合は、y を応答してください。TP1/EE プロセスで使用している場合は、次の条件を満たすときは y を応答し、満たさないときは、n を応答してください。

- このメッセージのラン ID がオンライン中の TP1/EE プロセスで表示された KFSB80002-I メッセージのラン ID と一致していない。

なお、応答時に設定する y または n は、大文字でも受け付けられます。

[対策] なし。

## KFSB90933-I

プロセスの状態を変更しました。コマンド名 = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 = bb....bb, ノード識別子 = cccc, 変更前 = ddd, 変更後 = eee

The status of the process was changed. command name = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, node ID = cccc, before change = ddd, after change = eee (S) (NOS)

プロセスの状態を変更しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : UAP 履歴情報グループ名

cccc : ノード識別子

ddd, eee : 状態

PLA : 計画停止 A

STA : 起動中

STP : 未起動

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB90934-I

コマンドの受付が成功しました。コマンド名 = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 = bb....bb, スワップ元 = cc....cc, スワップ先 = dd....dd

The command was received successfully. command name = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, swap origin = cc....cc, swap destination = dd....dd (S) (NOS)

コマンドの受付が成功しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : UAP 履歴情報グループ名

cc....cc : スワップ元の履歴情報表名

スワップが競合した場合は、\*を表示します。

dd....dd : スワップ先の履歴情報表名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB90935-E

コマンドの実行に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd

Command execution failed. command name = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd (E) (NOS)

コマンドの実行に失敗しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : UAP 履歴情報グループ名

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)理由コード一覧に示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0002	実行途中で異常が発生しました。	表情報が不一致になっています。以前に出力されたメッセージを参照して対策したあと、必ず再実行してください。
0003	次のどちらかが起動しているため、実行に失敗しました。 TP1/FSP の eeaphchgh コマンドの場合 グループ管理表で管理している TP1/EE。	コマンド名を見て対策してください。 TP1/FSP の eeaphchgh コマンドの場合 TP1/FSP の eeaphlsh コマンドに -n オプションを指定して実行し、TP1/EE のプロセス状態がすべて未起動 (STP) となっているか確認してください。TP1/EE のプロセス状

理由コード	意味	対策
0003	TP1/FSP の eeaphchgph コマンドの場合 TP1/EE のプロセス。	態に未起動以外があるときは、TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して対策したあとに、コマンドを再実行してください。  TP1/FSP の eeaphchgph コマンドの場合 指定したノード識別子を持つ TP1/EE が起動していないか確認してください。
0004	実行できる状態ではありません。	コマンド名を見て状態を確認し、必要であれば再実行してください。  TP1/FSP の eeaphchgph コマンドの場合 指定した履歴情報表の状態が、コマンドを実行できる状態ではありません。  TP1/FSP の eeaphchgph コマンドの場合 指定したノード識別子を持つ TP1/EE の状態が、コマンドを実行できる状態ではありません。
0005	KFSB90932-Q メッセージで n が応答されたため、コマンドの実行を中止しました。	なし。
0006	UAP 履歴情報グループ名が不正です。	正しい UAP 履歴情報グループ名を指定して、コマンドを再実行してください。
0007	UAP 履歴情報グループ下の表が使用できない状態です。	UAP 履歴情報グループ下の表が使用できない状態 (KFSB50955-E メッセージが出力されている) になっていないか確認してください。
0008	スワップ先の履歴情報表がありません。	TP1/FSP の eeaphlsh コマンドに -t オプションを指定して、履歴情報表の状態を確認してください。未使用に変更できる表があるときは、TP1/FSP の eeaphchgph コマンドで、未使用の履歴情報表を確保したあと、コマンドを再実行してください。
0009	表にアクセスしているトランザクションがあるため、実行に失敗しました。	即時停止している TP1/EE がある場合、再開して、トランザクションを決着してください。
0010	UAP 履歴情報取得機能は使用できません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0011	リソースマネージャと接続していません。	リソースマネージャの状態を確認してください。リソースマネージャが起動している場合はリソースマネージャが出力するメッセージログファイルを参照してください。リソースマネージャの障害を取り除いたあとに、コマンドを再実行してください。
0020	履歴情報表の状態がこのコマンドの対象外です。	TP1/FSP の eeaphlsh コマンドに、-t オプションまたは -T オプションを指定して実行し、履歴情報表の状態を確認してください。
0021	eeaphswap (-c オプション) コマンドは実行できません。	UAP 履歴情報メモリ通番機能を使用していないか確認してください。
0022	eeaphswap (-c オプション) コマンドを実行できる状態ではありません。	-c オプションの指定値を確認してください。問題がなければ、eeaphlsh コマンドで履歴情報表の状態を確認してください。

理由コード	意味	対策
0023	eeaphswap (-c オプション) コマンド実行時、スワップ処理後に次の要因によってエラーが発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• UAP 履歴情報取得要求 (OJ 取得要求含む) が発生</li> <li>• ほかの TP1/EE プロセスで eeaphswap コマンド実行</li> </ul>	eeaphlsh コマンドで履歴情報表の状態を確認し、必要であれば、eeaphswap コマンドを再実行してください。
0100	TP1/EE プロセス側でエラーが発生しました。	TP1/EE プロセスのメッセージログファイルを参照して原因を調査してください。TP1/EE プロセスのメッセージログファイルにメッセージが出力されていない場合は、詳細コードを保守員に連絡してください。
9000	グループ管理表が不正です。	保守員に連絡してください。

## KFSB90936-E

表情報はありません。コマンド名 = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 = bb....bb, 入力情報 = cc....cc, 理由コード = dddd, 詳細コード = ee....ee

The table information does not exist. command name = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, input information = cc....cc, reason code = dddd, detail code = ee....ee (E) (NOS)

表情報はありません。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : UAP 履歴情報グループ名

UAP 履歴情報グループ名が不明な場合は、\*を表示します。

cc....cc : 入力情報

グループ管理表名, 履歴情報表名, またはノード識別子です。

dddd : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ee....ee : TP1/EE がトラブルシューティングで使用する情報

(S) コマンド処理を終了します。

(O) 理由コード一覧に示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	UAP 履歴情報グループ名が不正です。	UAP 履歴情報グループ名を確認してください。また、DROP TABLE 文などで表を削除していないか確認してください。
0002	履歴情報表名が不正です。	履歴情報表名を確認してください。また、DROP TABLE 文などで表を削除していないか確認してください。
0003	ノード識別子が不正です。	ノード識別子を確認してください。

## KFSB90937-E

表の構造不正を検知しました。コマンド名 = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 = bb....bb, 対象 = cccc, 表名 = dd....dd, 理由コード = eeee, 詳細コード = ff....ff

A table structure error was detected. command name = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, object = cccc, table name = dd....dd, reason code = eeee, detail code = ff....ff (E) (NOS)

表の構造不正を検知しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : UAP 履歴情報グループ名

UAP 履歴情報グループ名が不明な場合は、\*を表示します。

cccc : 処理の対象

0001 : グループ管理表

0002 : 履歴情報表

0003 : 通番割り当てルーチン

0004 : スワップ前処理ルーチン

0005 : スワップ後処理ルーチン

dd....dd : グループ管理表名, 履歴情報表名, またはストアドルーチン名

eeee : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)理由コード一覧に示した原因を取り除き, コマンドを再実行してください。



【対策】 接続先の DBMS のバージョンが、TP1/EE が前提としているバージョンかどうか確認してください。バージョンが正しい場合は、理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ストアドルーチンが存在しません。	DROP PROCEDURE 文などでストアドルーチンを削除していないか確認してください。 ストアドルーチンを削除している場合は、TP1/FSP の eeaphgrph コマンドで該当する UAP 履歴情報グループを再作成してください。 ストアドルーチンを削除していない場合は、保守員に連絡してください。
0002	指定された UAP 履歴情報グループ名に対応する表ではありません。	UAP 履歴情報グループ名または履歴情報表名を確認してください。
0101	表の構造が不正です。	表名に示す表が処理の対象に該当する表かどうか確認してください。処理の対象に該当する表の場合、次の対策をしてください。
0102	表の列の構造が不正です。	<p>処理の対象がグループ管理表</p> <p>表の作成後に ALTER TABLE 文などで表定義を変更していないか確認してください。</p> <p>表定義を変更している場合は、TP1/FSP の eeaphgrprmh コマンドで該当する UAP 履歴情報グループを削除してください。eeaphgrprmh コマンドでこのメッセージが出力された場合は、TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して UAP 履歴情報グループに関連するすべての表とストアドルーチンを削除してください。該当する UAP 履歴情報グループを削除したあとで、必要に応じて TP1/FSP の eeaphgrph コマンドで UAP 履歴情報グループを作成してください。</p> <p>表定義を変更していない場合は、保守員に連絡してください。</p> <p>処理の対象が履歴情報表</p> <p>表の作成後に ALTER TABLE 文などで表定義を変更していないか確認してください。</p> <p>表定義を変更している場合は、TP1/FSP の eeaphtblrmh コマンドまたは eeaphrtblrmh コマンドで該当する履歴情報表を削除してください。これらのコマンドでこのメッセージが出力された場合は、TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して該当する履歴情報表を削除してください。該当する履歴情報表を削除したあとで、必要に応じて TP1/FSP の eeaphtblh コマンドまたは eeaphrtblh コマンドで履歴情報表を作成してください。</p> <p>表定義を変更していない場合は、保守員に連絡してください。</p>
0201	表の注釈の内容が不正です。	表名に示す表が処理の対象に該当する表かどうか確認してください。 処理の対象に該当する表の場合は、表の作成後に COMMENT 文などで表の注釈を変更していないか確認してください。表の

理由コード	意味	対策
0201	表の注釈の内容が不正です。	<p>注釈を変更しているときは、次の対策をしてください。表の注釈を変更していないときは、保守員に連絡してください。</p> <p>処理の対象がグループ管理表</p> <p>TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して該当する UAP 履歴情報グループに関連するすべての表とストアルーチンを削除してください。該当する UAP 履歴情報グループを削除したあとで、必要に応じて TP1/FSP の eeaphgrph コマンドで UAP 履歴情報グループを作成してください。</p> <p>処理の対象が履歴情報表</p> <p>TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して該当する履歴情報表を削除してください。該当する履歴情報表を削除したあとで、必要に応じて TP1/FSP の eeaphtblh コマンドまたは eeaphrtblh コマンドで履歴情報表を作成してください。</p>
0301	表に格納されている行数が不正です。	<p>表名に示す表が処理の対象に該当する表かどうか確認してください。処理の対象に該当する表の場合、次の対策をしてください。</p> <p>処理の対象がグループ管理表</p> <p>表の作成後に UAP 履歴情報取得機能が提供するコマンドや関数以外で表を更新していないか確認してください。</p> <p>表を更新している場合は、TP1/FSP の eeaphgrprmh コマンドで該当する UAP 履歴情報グループを削除してください。eeaphgrprmh コマンドでこのメッセージが出力された場合は、TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して該当する UAP 履歴情報グループに関連するすべての表とストアルーチンを削除してください。該当する UAP 履歴情報グループを削除したあとで、必要に応じて TP1/FSP の eeaphgrph コマンドで UAP 履歴情報グループを作成してください。</p> <p>表を更新していない場合は、保守員に連絡してください。</p> <p>処理の対象が履歴情報表</p> <p>表の作成後または履歴情報表のリロード後に UAP 履歴情報取得機能が提供するコマンドや関数以外で表を更新していないか確認してください。</p> <p>表を更新している場合は、TP1/FSP の eeaphtblrmh コマンドまたは eeaphrtblrmh コマンドで該当する履歴情報表を削除してください。これらのコマンドでこのメッセージが出力された場合は、TP1/FSP の関連ドキュメントを参照して該当する履歴情報表を削除してください。該当する履歴情報表を削除したあとで、必要に応じて TP1/FSP の eeaphtblh コマンドまたは eeaphrtblh コマンドで履歴情報表を作成してください。</p> <p>表を更新していない場合は、保守員に連絡してください。</p>
0302	表に格納されている値が不正です。	
0303	表に格納されているデータの最大履歴情報長が不正です。	<p>該当する履歴情報表にリロードした履歴情報表のアンロードファイルの最大履歴情報長と、該当する履歴情報表の最大履歴情報長で次の関係が成立しているか確認してください。</p>

理由コード	意味	対策
0303	表に格納されているデータの最大履歴情報長が不正です。	<p>関係が成立している場合は、保守員に連絡してください。</p> <p>履歴情報表のアンロードファイルの最大履歴情報長=該当する履歴情報表の最大履歴情報長</p> <p>関係が成立していない場合は、TP1/FSP の eeaphrtblh コマンドの -z オプションに履歴情報表のアンロードファイルの最大履歴情報長を指定して、リロード用履歴情報表を作成してください。そのあと、作成した表に対してリロードを実行してください。</p>
0401	表が未完成です。または、リロードを実行していない履歴情報表です。	<p>該当する表を作成している TP1/FSP の eeaphgrph コマンド、eeaphtblh コマンド、または該当する表に対する履歴情報表のリロードを実行中でないか確認してください。コマンドまたはリロードを実行中の場合は、これらが終了するのを待ってコマンドを再実行してください。コマンドまたはリロードを実行中ではない場合は、表名に示す表が処理の対象に示す表かどうか確認してください。</p> <p>処理の対象に該当する表の場合、次の対策をしてください。</p> <p>処理の対象がグループ管理表</p> <p>TP1/FSP の eeaphgrpmh コマンドで該当する UAP 履歴情報グループを削除したあと、必要に応じて TP1/FSP の eeaphgrph コマンドで UAP 履歴情報グループを作成してください。</p> <p>処理の対象が履歴情報表</p> <p>次のどちらかの対策をしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当する表が取得用履歴情報表のとき TP1/FSP の eeaphtblrmh コマンドで該当する履歴情報表を削除したあと、必要に応じて TP1/FSP の eeaphtblh コマンドで履歴情報表を作成してください。</li> <li>該当する表がリロード用履歴情報表のとき 該当する表に対して履歴情報表のリロードを実行したあと、コマンドを再実行してください。</li> </ul>
0501	表に格納されている値が不正です。	理由コード 0302 の対策を参照してください。
0601	ストアドルーチンの構造が不正です。	表名に示すストアドルーチンが TP1/FSP の eeaphgrph コマンドで作成したストアドルーチンかどうか確認してください。TP1/FSP の eeaphgrph コマンドで作成したストアドルーチンの場合は、保守員に連絡してください。
2001	グループ管理部がありません。	TP1/FSP の eeaphgrph コマンドまたは eeaphgrpmh コマンドの実行中でないか確認してください。
2002	現用管理部がありません。	
9000	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB90938-E

SQL 実行時にエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 = bb....bb, 対象 = cccc, 表名 = dd....dd, DBMS メッセージ = ee....ee, SQLCODE = ff....ff, 詳細コード = gg....gg

An error occurred during SQL execution. command name = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, object = cccc, table name = dd....dd, DBMS message = ee....ee, SQLCODE = ff....ff, detail code = gg....gg (E) (NOS)

SQL 実行時にエラーが発生しました。

**aa....aa** : コマンド名

**bb....bb** : UAP 履歴情報グループ名

UAP 履歴情報グループ名が不明な場合は, \*を表示します。

**cccc** : 処理の対象

0001 : グループ管理表

0002 : 履歴情報表

0003 : 通番割り当てルーチン

0004 : スワップ前処理ルーチン

0005 : スワップ後処理ルーチン

0006 : DBMS との接続

0007 : DBMS との切り離し

0008 : コミット

0009 : ロールバック

**dd....dd** : グループ管理表名, 履歴情報表名, またはストアドルーチン名

cc....cc が 0006, 0007, 0008, および 0009 の場合は, \*を表示します。

**ee....ee** : DBMS のエラーメッセージ

**ff....ff** : SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

**gg....gg** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) コマンド処理を終了します。

(O) 原因を取り除き, コマンドを再実行してください。

**【対策】** 接続先の DBMS のバージョンが, TP1/EE が前提としているバージョンかどうか確認してください。バージョンが正しい場合は, 次の対策をしてください。

コマンド名が編集出力コマンド名称, かつ SQLCODE が -416 または -801 の場合

制御情報ファイル中の DATE オペランド, または TIME オペランドの値を見直してください。

## SQLCODE が-770 の場合

UAP 履歴情報取得機能が提供するコマンドのうち、表名に示す表を使用するコマンドを実行中でないか確認してください。

または、表名に示す表を使用する TP1/EE が開始および終了処理中でないか確認してください。

コマンドを実行中の場合は、コマンドが終了するのを待ってコマンドを再実行してください。

TP1/EE が開始および終了処理中の場合は、TP1/EE の開始および終了を待ってコマンドを再実行してください。

## 上記以外の場合

DBMS のエラーメッセージ、および SQLCA 構造体の状態変数を基に DBMS のマニュアルを参照して原因を取り除いてください。

## KFSB90939-E

表に情報がありません。コマンド名 = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 = bb....bb, 対象 = cccc, 表名 = dd....dd, 理由コード = eeee, 詳細コード = ff....ff

The table contains no information. command name = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, object = cccc, table name = dd....dd, reason code = eeee, detail code = ff....ff (E) (NOS)

コマンド処理に必要な情報が表にありません。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : UAP 履歴情報グループ名

cccc : 処理の対象

0001 : グループ管理表

0002 : 履歴情報表

dd....dd : グループ管理表, または履歴情報表の表名

eeee : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
2000	管理部に情報がありません。	TP1/FSP の eeaphgrph コマンドまたは eeaphgrprmh コマンドを実行中でないか確認してください。 コマンドを再実行しても現象が改善されない場合は、表が壊れているおそれがあります。保守員に連絡してください。
2003	履歴情報管理部に情報がありません。	TP1/FSP の eeaphgrph コマンドまたは eeaphgrprmh コマンドを実行中でないか確認してください。または、TP1/FSP の eeaphtblh コマンドによって履歴情報表が作成済みかどうかを確認してください。 履歴情報表が作成済みの場合は、表が壊れているおそれがあります。保守員に連絡してください。
2004	プロセス管理部に情報がありません	TP1/FSP の eeaphgrph コマンドまたは eeaphgrprmh コマンドを実行中でないか確認してください。
2005	排他管理部に情報がありません	コマンドを再実行しても現象が改善されない場合は、表が壊れているおそれがあります。保守員に連絡してください。

## KFSB90940-I

使用方法：eeaphlsh -u U A P 履歴情報グループ名 [{-t [-c {act|sby|swp|use|err|dct}]}|-T 履歴情報表名|-n [-c {sta|stp|pla}]}|-N ノード識別子}

eeaphlsh -R 履歴情報表名

Usage: eeaphlsh -u <UAP-log-information-group-name> [{-t [-c {act|sby|swp|use|err|dct}]}|-T <log-information-table-name>|-n [-c {sta|stp|pla}]}|-N <node-id>}]

eeaphlsh -R <log-information-table-name> (S) (NOS)

TP1/FSP の eeaphlsh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB90941-I

使用方法：eeaphchgh -u U A P 履歴情報グループ名 -t 履歴情報表名 -c {sby|use|bac|err|fer}

Usage: eeaphchgh -u <UAP-log-information-group-name> -t <log-information-table-name> -c {sby|use|bac|err|fer} (S) (NOS)

TP1/FSP の eeaphchgh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。



(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

#### KFSB90942-I

```
使用方法：eeaphchgph -u U A P 履歴情報グループ名 -n ノード識別子 -c {stp|pla}
Usage: eeaphchgph -u <UAP-log-information-group-name> -n <node-id> -c {stp|pla}
(S) (NOS)
```

TP1/FSP の eeaphchgph コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

#### KFSB90943-I

```
使用方法：eeaphswap -g サービスグループ名 -u U A P 履歴情報グループ名 [-c 最大履歴情報数]
Usage: eeaphswap -g <service-group-name> -u <UAP-log-information-group-name> [-c
<maximum-amount-of-log-information>] (S) (NOS)
```

TP1/FSP の eeaphswap コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

#### KFSB90944-I

```
使用方法：eeaphgrph -u U A P 履歴情報グループ名 -n ノード識別子[,ノード識別子...] [-z 最大履歴
情報長] [-c 最大履歴情報数] [-b 表格納用RDエリア名] [-i インデクス格納用RDエリア名] [-k 分割
行数 [-m {1|2}]]
Usage: eeaphgrph -u <UAP-log-information-group-name> -n <node-id>[,<node-id>...] [-z
<maximum-length-of-log-information>] [-c <maximum-amount-of-log-information>] [-b
<RD-area-name-for-table-storage>] [-i <RD-area-name-for-index-storage>] [-k <division -
line-number> [-m {1|2}]] (S) (NOS)
```

TP1/FSP の eeaphgrph コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90945-I

```
使用方法： eeaphtblh -u U A P 履歴情報グループ名 -t 履歴情報表名 [-c 最大履歴情報数] [-b 表格納用RDエリア名[,表格納用RDエリア名...]] [-i インデクス格納用RDエリア名[,インデクス格納用RDエリア名...]] [-j 分割キーインデクス格納用RDエリア名[,分割キーインデクス格納用RDエリア名...]] [-o 同期点行数] [-r]
```

```
Usage: eeaphtblh -u <UAP-log-information-group-name> -t <log-information-table-name> [-c <maximum-amount-of-log-information>] [-b <RD-area-name-for-table-storage>[,<RD-area-name-for-table-storage>...]] [-i <RD-area-name-for-index-storage>[,<RD-area-name-for-index-storage>...]] [-j <RD-area-name-for-division-key-index-storage>[,<RD-area-name-for-division-key-index-storage>...]] [-o <number-of-synchronization-point-lines>] [-r] (S) (NOS)
```

TP1/FSP の eeaphtblh コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90946-I

```
使用方法： eeaphgrprmh -u U A P 履歴情報グループ名
```

```
Usage: eeaphgrprmh -u <UAP-log-information-group-name> (S) (NOS)
```

TP1/FSP の eeaphgrprmh コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。



## KFSB90947-I

使用方法：eeaphtblrmh -u U A P 履歴情報グループ名 -t 履歴情報表名

Usage: eeaphtblrmh -u <UAP-log-information-group-name> -t <log-information-table-name> (S) (NOS)

TP1/FSP の eeaphtblrmh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB90948-E

制御情報ファイル解析処理中に領域確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa

Area allocation failed during control information file analysis. command name = aa....aa

(E) (NOS)

制御情報ファイル解析作業用領域の確保に失敗しました。

aa....aa：コマンド名

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

**【対策】** OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。コマンド名が eeaphrksh 以外でメモリ使用状況を改善できない場合は、制御情報ファイルを分割し、複数回に分けてコマンドを実行してください。

## KFSB90949-E

制御情報ファイル解析処理中に制御情報ファイルのアクセスに失敗しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb, 理由コード = cccc, エラー番号 = dd....dd

Access of the control information file failed during control information file analysis. command name = aa....aa, file name = bb....bb, reason code = cccc, errno = dd....dd (E) (NOS)

制御情報ファイルへのアクセスでエラーが発生しました。

aa....aa：コマンド名

bb....bb：ファイルパス

コマンドの引数に指定した制御情報ファイルのパス名です。

cccc：理由コード

0001：システムコール stat でエラーが発生しました。

0002：標準ライブラリ関数 fopen でエラーが発生しました。

0003：指定した制御情報ファイルはディレクトリファイルです。

0004：標準ライブラリ関数 getc でエラーが発生しました。

dd...dd：エラー番号

理由コードが 0001, 0002, および 0004 の場合は、ファイルオープンのシステムコールが設定した errno の値を表示します。それ以外の場合は、\*を表示します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

【対策】 指定した制御情報ファイルを見直してください。

## KFSB90950-E

制御情報ファイル解析処理中にエラーが発生しました。制御情報ファイル形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb, 行数 = cc....cc, オペランド名 = dd....dd, 理由コード = eeee  
An error occurred during control information file analysis. The control information file format is incorrect. command name = aa....aa, file name = bb....bb, line = cc....cc, operand name = dd....dd, reason code = eeee (E) (NOS)

制御情報ファイルの cc....cc 行目の形式が不正です。

aa....aa：コマンド名

bb....bb：ファイルパス

コマンドの引数に指定した制御情報ファイルのパス名です。

cc....cc：不正があった行番号

dd....dd：オペランド名

eeee が 0001, および 0002 の場合は、\*を表示します。

eeee：理由コード

0001：制御文識別子またはパラメタ制御文識別子に誤りがあります。

パラメタ制御文と制御文の組み合わせが誤っているおそれがあります。

0002：オペランド識別子に誤りがあります。

0003：オペランド識別子とオペランドの間の=に誤りがあります。

0004：複数の値を指定できるオペランドで、指定した値の数が上限を超えたか、必要な個数を満たしていません。

0005：オペランドの指定形式が不正です。

考えられる要因を次に示します。

- 括弧で囲めないオペランド指定値を括弧で囲んでいます。
- 括弧で囲む必要のあるオペランド指定値を括弧で囲んでいません。
- オペランドの指定値と指定値の間にコンマがありません。
- コンマとコンマの間にオペランド指定値がありません。
- 括弧とコンマの間にオペランド指定値がありません。
- 括弧が閉じていません。
- =のあとに何もありません。
- 開始と終了の範囲を指定するオペランドに、3個以上の値を指定しました。
- 使用できない文字を使用しています。

0006：オペランド指定値の後ろに誤りがあります。

0007：パラメタ制御文識別子の後ろに誤りがあります。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

【対策】 制御情報ファイル形式を、行数、オペランド名、理由コードに従って見直してください。

## KFSB90951-E

```
制御情報解析処理中にエラーが発生しました。設定値が不正です。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb, 行数 = cc....cc, オペランド名 = dd....dd, 位置 = ee....ee, 理由コード = ffff  
An error occurred during control information analysis. An incorrect value is set. command name = aa....aa, file name = bb....bb, line = cc....cc, operand name = dd....dd, position = ee....ee, reason code = ffff (E) (NOS)
```

制御情報ファイル中の cc....cc 行目のオペランド指定値に不正な内容があります。

aa....aa：コマンド名

bb....bb：ファイルパス

コマンドの引数に指定した制御情報ファイルのパス名です。

cc....cc：不正があった行番号

dd....dd：オペランド名

ee....ee：dd....dd のオペランドによって、次のどれかを表示します。

- オペランド指定値を一つだけ指定するオペランドの場合

\*を表示します。

- 開始と終了の範囲を指定するオペランドの場合  
開始の指定値に誤りがある場合は 1、開始の指定値に誤りがなく終了の指定値に誤りがある場合は 2 を表示します。
- 複数の値を指定できるオペランドの場合  
最初に誤りを検出したオペランド指定値の順序数を表示します。

**ffff**：理由コード

- 1001：長さが規定の範囲内にありません。
- 1002：使用できない文字を使用しています。
- 1003：選択値以外を指定しました。
- 1004：識別子の先頭にアルファベット以外の文字を使用しているか、または英大識別子の先頭に大文字のアルファベット以外の文字を使用しています。
- 1005：数値が範囲外です。
- 1006：シングルクォートで囲んでください。
- 1007：シングルクォートで囲めません。
- 1008：絶対パスの先頭に、/以外の文字を使用しています。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

**[対策]** 指定値を、行数、オペランド名、位置、および理由コードに従って見直してください。

## KFSB90952-E

制御情報ファイル解析処理中にエラーが発生しました。設定値間に矛盾があります。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb, 値 = cc....cc, 理由コード = dd....dd

An error occurred during control information file analysis. Values conflict. command name = aa....aa, file name = bb....bb, value = cc....cc, reason code = dd....dd (E) (NOS)

制御情報ファイルの指定値間に矛盾があります。

**aa....aa**：コマンド名

**bb....bb**：ファイルパス

コマンドの引数に指定した制御情報ファイルのパス名です。

**cc....cc**：値

dd....dd が 2013, 3005, 3006, 3008, 12003, および 16003 の場合

重複を検知した値を表示します。dd....dd が 3005 の場合、大文字で表示します。

その他の場合

\*を表示します。

dd....dd：理由コード

2001：EDIT 文を複数指定できません。

2002：EDIT 文中には、同じオペランドを複数指定できません。

2003：EDIT 文の DATE オペランドには、開始年月日>終了年月日の値を指定できません。

2004：EDIT 文の DATE オペランドに開始年月日=終了年月日と指定している場合は、TIME オペランドに開始時刻>終了時刻の値を指定できません。

2005：EDIT 文で DATE オペランドに開始年月日あり、終了年月日なし、TIME オペランドに開始時刻なし、終了時刻ありの組み合わせは、指定できません。

2006：EDIT 文の DATE オペランドに開始年月日なし、終了年月日あり、TIME オペランドに開始時刻あり、終了時刻なしの組み合わせは、指定できません。

2007：EDIT 文の UAPFNM オペランドと UAPTBL オペランドは同時に指定できません。

2008：EDIT 文の BLOCKX オペランドと DATE オペランド、または BLOCKX オペランドと TIME オペランドは、同時に指定できません。

2009：EDIT 文の BLOCKX オペランドには、開始累積データ通番>終了累積データ通番の値を指定できません。

2010：EDIT 文の DJSQX オペランドには、開始世代番号>終了世代番号の値を指定できません。

2011：EDIT 文の DJSQX オペランドには、(開始世代番号+ 999) <終了世代番号の値を指定できません。

2012：EDIT 文の UAPTBL オペランドの指定数が上限を超えました。

2013：EDIT 文に同じオペランド値を持つ UAPTBL オペランドは複数指定できません。

3001：SELECT 文の JOURNAL オペランドに ALL を指定した場合は、SELECT 文を複数指定できません。

3002：JOURNAL オペランドに同じ値を持つ SELECT 文は複数指定できません。

3003：一つの SELECT 文中には、CPNOX オペランドと CPNORX オペランドを同時に指定できません。

3004：一つの SELECT 文中には、同じオペランドを複数指定できません。

3005：一つの SELECT 文中の CPNOX オペランドには、重複した値を指定できません。

3006：一つの SELECT 文中の SERVICE オペランドには、重複した値を指定できません。

3007：一つの SELECT 文中の MASKOFF オペランド、COND オペランド、または NOTCOND オペランドの指定数が上限を超えました。

3008：一つの SELECT 文に同じロケーションを持つ MASKOFF オペランドは指定できません。

11001：EEFDPARM パラメタは複数指定できません。

12001：CONTROL 文は複数指定できません。

12002：CONTROL 文中には、同じオペランドを複数指定できません。

12003：CONTROL 文の USRCODE オペランドには重複した値を指定できません。

12004 : CONTROL 文の BLOCKNO オペランドには仕掛中累積データ通番 > 最終累積データ通番の値を指定できません。

14001 : OUTPUT 文は複数指定できません。

14002 : OUTPUT 文中には、同じオペランドを複数指定できません。

15001 : EEINPARM パラメタは複数指定できません。

16001 : TABLE 文は複数指定できません。

16002 : TABLE 文中には、UAPTBL オペランドを 1001 個以上指定できません。

16003 : TABLE 文中には、同じ値を持つ UAPTBL オペランドを複数指定できません。

17001 : FILE 文は複数指定できません。

17002 : FILE 文中には、同じオペランドを複数指定できません。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) 原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

**【対策】** 制御情報ファイルを、値、および理由コードに従って見直してください。

### KFSB90953-I

使用方法 : eeaphedh [-z] -j 制御情報ファイル名

Usage: eeaphedh [-z] -j <control-information-file-name> (S) (NOS)

TP1/FSP の eeaphedh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

### KFSB90954-W

履歴情報のフォーマットが不正です。コマンド名 = aa....aa, 表名 = bb....bb, 累積データ通番 = cc....cc, 行番号 = dd....dd

The format of the log information is invalid. command name = aa....aa, table name = bb....bb, accumulated data number = cc....cc, row number = dd....dd (E) (NOS)

履歴情報表に格納した行データに誤りがあります。

**aa....aa** : コマンド名

**bb....bb** : 不正があった履歴情報表名

**cc....cc** : 不正があった履歴情報の累積データ通番 (16 進表記)

dd....dd : 不正があった履歴情報の C00\_ROW\_NUMBER 列の値

(S)編集出力コマンド実行時に指定した制御情報ファイルで、EDIT 文の DUMP オペランドに YES を指定していた場合、該当する行データをエラー情報としてダンプ出力し、処理を続行します。NO を指定していた場合、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** エラー情報のダンプ出力を保守情報として取得し、保守員に連絡してください。

## KFSB90955-E

制御情報ファイル解析処理中にエラーが発生しました。省略できない定義が未定義です。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc

An error occurred during control information file analysis. A mandatory definition is missing.  
command name = aa....aa, file name = bb....bb, reason code = cc....cc (E) (NOS)

省略できないオペランドが指定されていません。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : ファイルパス

コマンドの引数に指定した制御情報ファイルのパス名です。

cc....cc : 理由コード

4001 : EDIT 文がありません。

4002 : EDIT 文中に、UAPTBL オペランドも UAPFNM オペランドもありません。

18001 : EEFDPARM パラメタがありません。

18002 : EEFDPARM パラメタに、CONTROL 文がありません。

18004 : CONTROL 文中に、GRPNAME オペランドがありません。

18006 : EEFDPARM パラメタに、OUTPUT 文がありません。

18008 : OUTPUT 文中に、UAPMXCT オペランドがありません。

18009 : EEINPARM パラメタがありません。

18010 : EEINPARM パラメタに、TABLE 文がありません。

18011 : EEINPARM パラメタに、FILE 文がありません。

18012 : TABLE 文中に UAPTBL オペランドがありません。

18014 : FILE 文中に EEDEFFILE オペランドがありません。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

**【対策】** 制御情報ファイルを、理由コードに従って見直してください。



## KFSB90956-I

履歴情報表のデータ部を作成しています。コマンド名 = aa....aa, UAP履歴情報グループ名 = bb....bb, 履歴情報表名 = cc....cc, 現在時刻 = YYYY/MM/DD hh:mm:ss, 行数 = dd....dd (ee....ee%)

The data division of the log information table is being created. command name = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, log information table name = cc....cc, current time = YYYY/MM/DD hh:mm:ss, number of lines = dd....dd (ee....ee%) (S) (NOS)

履歴情報表のデータ部を作成しています。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : UAP 履歴情報グループ名

cc....cc : 履歴情報表名

YYYY/MM/DD hh:mm:ss : 現在時刻

時刻を取得できない場合は, \*\*\*\*/\*\*/\*\* \*\*:\*\*:\*\*を表示します。

YYYY : 年 (西暦)

MM : 月

DD : 日

hh : 時

mm : 分

ss : 秒

dd....dd : 作成が完了したデータ部の行数

ee....ee : データ部の作成の進捗率 (小数点以下切り捨て)

(S)コマンド処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB90957-E

制御情報ファイル解析処理中に内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細情報 = bb....bb

An internal conflict occurred during control information file analysis. command name = aa....aa, definition information = bb....bb (E) (NOS)

制御情報ファイル解析処理中に内部矛盾が発生しました。

aa....aa : コマンド名



bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。使用した制御情報ファイル、およびコマンドのコアダンプを保守員に渡してください。コアダンプファイルは、このメッセージの出力時、コマンド実行ディレクトリに作成します。必要に応じて別の場所に退避するか、削除するなどしてください。

#### KFSB90958-I

コマンドが成功しました。コマンド名 = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 = bb....bb, 履歴情報表名 = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

Command execution was successful. command name = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, log information table name = cc....cc, detail code = dd....dd (S) (NOS)

コマンドが成功しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : UAP 履歴情報グループ名

UAP 履歴情報グループ名が不明な場合は、\*を表示します。

cc....cc : 履歴情報表名

履歴情報表名が不明な場合は、\*を表示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

**【対策】** なし。

#### KFSB90959-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 = bb....bb, 対象 = cccc, 表名 = dd....dd, 理由コード = eeee, 詳細コード = ff....ff

Command execution failed. command name = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, object = cccc, table name = dd....dd, reason code = eeee, detail code = ff....ff (E) (NOS)

コマンド実行中にエラーが発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb...bb : UAP 履歴情報グループ名

UAP 履歴情報グループ名が不明な場合は, \*を表示します。

cccc : 処理の対象

0001 : グループ管理表

0002 : 履歴情報表

0003 : 通番割り当てルーチン

0004 : スワップ前処理ルーチン

0005 : スワップ後処理ルーチン

dd...dd : グループ管理表名, 履歴情報表名, またはストアドルーチン名

eeee : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ff...ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)理由コード一覧に示した原因を取り除き, コマンドを再実行してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	作成予定の表またはストアドルーチンがすでにあります。 または, 作成予定の履歴情報表はすでに該当するUAP 履歴情報グループに登録されています。	UAP 履歴情報グループ名または履歴情報表名を確認してください。 表またはストアドルーチンを再作成したい場合は, 次のどれかの方法で表またはストアドルーチンを削除したあとで, コマンドを再実行してください。ただし, 障害中状態の履歴情報表を再作成したい場合は, 削除しなくても TP1/FSP の eeaphtblh コマンドに -r オプションを指定してコマンドを実行すれば再作成できます。 TP1/FSP の eeaphgrph コマンドで作成した表またはストアドルーチンのとき TP1/FSP の eeaphgrprmh コマンドを実行してください。 TP1/FSP の eeaphtblh コマンドで作成した表のとき TP1/FSP の eeaphtblrmh コマンドを実行してください。 TP1/FSP の eeaphrtblh コマンドで作成した表のとき TP1/FSP の eeaphrtblrmh コマンドを実行してください。

理由コード	意味	対策
0001	作成予定の表またはストアドレーチンがすでにあります。 または、作成予定の履歴情報表はすでに該当するUAP履歴情報グループに登録されています。	TP1/FSPのeeaphgrphコマンド、eeaphtblhコマンド、eeaphrtblhコマンド以外で作成した表またはストアドレーチンのとき DROP TABLE文やDROP PROCEDURE文などで削除してください。
0002	指定された履歴情報表は該当するUAP履歴情報グループに登録されていません。	UAP履歴情報グループ名または履歴情報表名を確認してください。
0003	該当するUAP履歴情報グループを使用しているTP1/EEプロセス状態が不正です。	TP1/FSPのeeaphlshコマンドに-nオプションを指定して実行し、該当するUAP履歴情報グループを使用しているTP1/EEプロセス状態を確認してください。必要に応じて、TP1/FSPのeeaphchgphコマンドでTP1/EEプロセス状態を変更したあと、コマンドを再実行してください。
0004	該当するUAP履歴情報グループに登録済みの履歴情報表の状態が不正です。	TP1/FSPのeeaphlshコマンドにtオプションを指定して実行し、該当するUAP履歴情報グループに登録済みの履歴情報表の状態を確認してください。必要に応じて、TP1/FSPのeeaphchgphコマンドで履歴情報表の状態を変更したあと、コマンドを再実行してください。
0005	該当する履歴情報表の状態が不正です。	TP1/FSPのeeaphlshコマンドに-tオプションまたは-Tオプションを指定して実行し、該当する履歴情報表の状態を確認してください。必要に応じて、TP1/FSPのeeaphchgphコマンドで履歴情報表の状態を変更したあと、コマンドを再実行してください。
0006	該当するUAP履歴情報グループに登録できる履歴情報表の数を超過しています。	TP1/FSPのeeaphtblrmhコマンドで該当するUAP履歴情報グループに登録済みの履歴情報表を削除したあと、コマンドを再実行してください。
0007	ノード数が不正です。	TP1/FSPのeeaphmodhコマンドの-cオプションにaddを指定した場合、ノード識別子の登録数が64件を超えます。追加が必要な場合は、登録済みの不要なノード識別子をeeaphmodhコマンドで削除してください。 -cオプションにdelを指定した場合、ノード識別子の登録数が0件になります。削除が必要な場合は、いったんeeaphmodhコマンドで別のノード識別子を追加してください。
0008	ノード識別子は登録済み、または削除済みです。	なし。
0100	実行途中で異常が発生しました。	表情報が不一致になっているおそれがあります。TP1/FSPのeeaphlshコマンドに-nオプションまたは-Nオプションを指定し、ノード識別子の情報を確認して、必要に応じてコマンドを再実行してください。
9000	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB90960-E

表の削除に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 = bb....bb, 履歴情報表名 = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

An attempt to delete the table failed. command name = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, log information table name = cc....cc, detail code = dd....dd (E) (NOS)

表またはストアルーチンの作成処理でエラーが発生したため、作成済みの表またはストアルーチンを削除しようとしたのですが、削除に失敗しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : UAP 履歴情報グループ名

UAP 履歴情報グループ名が不明な場合は、\*を表示します。

cc....cc : 履歴情報表名

コマンド名が eeaphgrph の場合は、\*を表示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)コマンド名を見て対処してください。

eeaphgrph の場合

UAP 履歴情報グループ名を-u オプションに指定して TP1/FSP の eeaphgrprmh コマンドを実行してください。

eeaphrtblh の場合

履歴情報表名を-t オプションに指定して TP1/FSP の eeaphrtblrmh コマンドを実行してください。

eeaphtblh の場合

UAP 履歴情報グループ名を-u オプション, 履歴情報表名を-t オプションに指定して TP1/FSP の eeaphtblrmh コマンドを実行してください。

[対策] なし。

## KFSB90961-E

SQL 実行時にエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 = bb....bb, 対象 = cc....cc, 理由コード = dddd, エラーコード = ee....ee, 詳細コード = ff....ff

An error occurred during SQL execution. command name = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, object = cc....cc, reason code = dddd, error code = ee....ee, detail code = ff....ff (E) (NOS)

SQL 実行時にエラーが発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : UAP 履歴情報グループ名

UAP 履歴情報グループ名が不明な場合は, \*を表示します。

cc....cc : 処理の対象

0001 : 接続ハンドルの割り当て

0002 : 接続ハンドルの解放

dddd : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ee....ee : SQL 実行時のエラーコード

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)理由コード一覧に示した原因を取り除き, コマンドを再実行してください。

**【対策】** 接続先の DBMS のバージョンが, TP1/EE が前提としているバージョンかどうか確認してください。バージョンが正しい場合は, 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	メモリが不足しています。	しばらく待ってから, コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は, OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。
9000	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB90962-E

SQL 実行時にエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 = bb....bb, 対象 = cc....cc, 表名 = dd....dd, SQLCODE = ee....ee, SQLWARN = ff....ff, 詳細コード = gg....gg

An error occurred during SQL execution. command name = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, object = cc....cc, table name = dd....dd, SQLCODE = ee....ee, SQLWARN = ff....ff, detail code = gg....gg (E) (NOS)

SQL 実行時にエラーが発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : UAP 履歴情報グループ名

UAP 履歴情報グループ名が不明な場合は, \*を表示します。

cc....cc : 処理の対象

0001 : グループ管理表

0002 : 履歴情報表

0003：通番割り当てルーチン  
0004：スワップ前処理ルーチン  
0005：スワップ後処理ルーチン

dd....dd：グループ管理表名，履歴情報表名，またはストアドルーチン名

ee....ee：SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

ff....ff：SQL 実行時の SQLCA 構造体の警告情報 (sqlwarn0～sqlwarnf)

sqlwarn0 から sqlwarnf までを連続で表示します。警告情報が空白のときは，\*を表示します。

gg....gg：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)原因を取り除き，コマンドを再実行してください。

**【対策】** 接続先の DBMS のバージョンが，TP1/EE が前提としているバージョンかどうか確認してください。バージョンが正しい場合は，SQLCA 構造体の状態変数と警告情報を基に DBMS のマニュアルを参照し原因を取り除いてください。

## KFSB90963-E

マスク出口ルーチン用ライブラリのローディングに失敗しました。コマンド名 = aa....aa，理由コード = bbbb，詳細コード = cc....cc

An attempt to load a library for a mask exit routine failed. command name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code = cc....cc (E) (NOS)

マスク出口ルーチン用ライブラリのローディングに失敗しました。

aa....aa：コマンド名

bbbb：理由コード

0001：制御情報ファイルの MASKEXT オペランドに指定したライブラリのロードでエラーが発生した。

0002：制御情報ファイルの MASKEXT オペランドに指定したマスク出口ルーチン名を見つけられない。

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を中断します。

(O)原因を取り除き，コマンドを再実行してください。

**【対策】** 制御情報ファイル中に指定したライブラリまたはマスク出口ルーチン名が正しいかどうか確認してください。直前に [KFSB40107-E](#) メッセージが出力されていれば，システムコールがエラーリターンした場合のエラー内容を参照して原因を取り除いてください。メッセージが出力されていなければ，保守員に連絡してください。

## KFSB90964-E

マスク出口ルーチンがエラーリターンしました。コマンド名 = aa....aa, リターン値 = bb....bb  
A mask exit routine returned an error. command name = aa....aa, return value = bb....bb  
(E) (NOS)

マスク出口ルーチンがエラーリターンしました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : マスク出口ルーチンのリターン値

(S)コマンド処理を中断します。

(O)原因を取り除き, コマンドを再実行してください。

**【対策】** マスク出口ルーチンを見直してください。

## KFSB90965-E

マスク出口ルーチンが設定したマスクパターンに誤りがあります。コマンド名 = aa....aa  
The mask pattern set by a mask exit routine contains an error. command name = aa....aa  
(E) (NOS)

マスク出口ルーチンが設定したマスクパターンに誤りがあります。

aa....aa : コマンド名

(S)コマンド処理を中断します。

(O)原因を取り除き, コマンドを再実行してください。

**【対策】** 直後にマスク出口ルーチンが設定したマスクパターンをダンプ出力します。これを基にマスク出口ルーチンを見直してください。

## KFSB90966-E

マスク出口ルーチンによるメモリ破壊を検知しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb  
Memory corruption caused by a mask exit routine was detected. command name = aa....aa,  
reason code = bbbb (E) (NOS)

マスク出口ルーチンに指定した領域の範囲外が更新されました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 理由コード

0001 : マスク出口ルーチンの第一引数に指定した領域

0002：マスク出口ルーチンの第三引数に指定した領域

(S)コマンドはアボートします。

(O)原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

【対策】 マスク出口ルーチンを見直してください。

## KFSB90967-E

マスク出口ルーチンの時間監視でタイムアウトが発生しました。コマンド名 = aa....aa  
A mask exit routine timed out. command name = aa....aa (E) (NOS)

マスク出口ルーチンの時間監視でタイムアウトが発生しました。

aa....aa：コマンド名

(S)コマンドはアボートします。

(O)原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

【対策】 マスク出口ルーチンを見直してください。

## KFSB90968-E

指定した履歴情報表に誤りがあります。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細情報 1 = cc....cc (dd....dd), 詳細情報 2 = ee....ee (ff....ff)  
The specified log information table contains errors. command name = aa....aa, reason code = bbbb, detail information 1 = cc....cc (dd....dd), detail information 2 = ee....ee (ff....ff) (E) (NOS)

指定した履歴情報表に誤りがあります。

aa....aa：コマンド名

bbbb：理由コード

0001：UAP 履歴情報グループが一致していません。

0002：最大履歴情報長が一致していません。

cc....cc：ee....ee の履歴情報表と異なる値を持つ履歴情報表名

dd....dd：履歴情報表 cc....cc の理由コード bbbb が示すデータの値

ee....ee：cc....cc の履歴情報表と異なる値を持つ履歴情報表名

ff....ff：履歴情報表 ee....ee の理由コード bbbb が示すデータの値

(S)コマンド処理を中断します。



(O)原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

【対策】理由コード、詳細情報 1、詳細情報 2 を参照し、制御情報ファイルを修正してください。

### KFSB90969-I

使用方法：eeaphrtblh -t 履歴情報表名 [-z 最大履歴情報長] [-b 表格納用RDエリア名] [-i インデクス格納用RDエリア名]

Usage: eeaphrtblh -t <log-information-table-name> [-z <maximum-length-of-log-information>] [-b <RD-area-name-for-table-storage>] [-i <RD-area-name-for-index-storage>] (S) (NOS)

TP1/FSP の eeaphrtblh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

### KFSB90970-I

使用方法：eeaphrtblrmh -t 履歴情報表名

Usage: eeaphrtblrmh -t <log-information-table-name> (S) (NOS)

TP1/FSP の eeaphrtblrmh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

### KFSB90971-I

使用方法：eeaphmodh -u U A P 履歴情報グループ名 -k {add|del} -n ノード識別子[,ノード識別子...]

Usage: eeaphmodh -u <UAP-log-information-group-name> -k {add|del} -n <node-id>[,<node-id>...] (S) (NOS)

TP1/FSP の eeaphmodh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90972-I

使用方法：eeaphlsonl -g サービスグループ名 [-u U A P 履歴情報グループ名]

Usage: eeaphlsonl -g <service-group-name> [-u <UAP-log-information-group-name>]  
(S) (NOS)

eeaphlsonl コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理を行わないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90973-I

使用方法：eeaphrouh -u U A P 履歴情報グループ名

Usage: eeaphrouh -u <UAP-log-information-group-name> (S) (NOS)

eeaphrouh コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB90974-I

使用方法：eerkstrnlstr -g データ連携支援 I D {-t [-s] [-i]|-T トランザクション識別子 {[r] | [-s] [-i]}|-a}

Usage: eerkstrnlstr -g <data-linkage-support-ID> {-t [-s] [-i]|-T <transaction-id> {[r] | [-s] [-i]}|-a} (S) (NOS)

eerkstrnlstr コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91001-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E)  
(NOS)

コマンドの引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bbbb** : 理由コード

0001 : オプションフラグに不正があります。

0002 : 必要なフラグ引数がありません。

0003 : 引数に不正があります。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しい引数を指定してコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB91002-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = b, 理由コード = cccc

The flag argument is invalid. command name = aa....aa, option = b, reason code = cccc  
(E) (NOS)

コマンドのオプションに誤りがあったため、処理を中止しました。

**aa....aa** : オプションに誤りがあるコマンド名

**b** : 該当するオプションフラグ

**cccc** : 理由コード

0001 : フラグ引数のけた数が不正です。

0002 : フラグ引数に指定した文字の属性が不正です。

0003 : フラグ引数の指定値が設定範囲を超えています。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB91003-E

フラグ引数の組み合わせが不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb....bb, 理由コード = cccc

The combination of flag arguments is invalid. command name = aa....aa, option = bb....bb, reason code = cccc (E) (NOS)

コマンドのオプションの組み合わせに誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : オプションフラグの組み合わせに誤りがあったコマンド名

bb....bb : 該当するオプションフラグの組み合わせ

cccc : 理由コード

0002 : フラグ引数に指定したオプションの組み合わせが不正です。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91004-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc  
Command execution has failed. command name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code = cc....cc (E) (NOS)

コマンド実行中に障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	データ通信に失敗しました。	TP1/EE との通信障害の原因を調査し、その原因を取り除いてください。
0002	TP1/EE のプロセスで障害が発生しました。	TP1/EE のプロセスのメッセージログを参照して、原因を調査してください。TP1/EE プロセスのメッセージログにメッセージが出力されていない場合は、詳細コードを保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
0003	-g オプションのフラグ引数（サービスグループ名）が不正です。または、TP1/EEのプロセスが起動されていないなどの障害が発生しています。	正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE を起動して、コマンドを再実行してください。
0004	ステータスファイルレス機能を使用している場合に実行できるコマンドではありません。	ステータスファイル関連定義を見直してください。

## KFSB91005-E

領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb

An attempt to allocate area has failed. command name = aa....aa, request size = bb....bb  
(E) (NOS)

コマンド処理に必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb....bb** : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S) コマンドの処理を中止します。

(O) しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB91006-E

内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bbbb

An internal conflict has occurred. command name = aa....aa, detail code = bbbb (E)  
(NOS)

コマンド実行中に予期しない障害が発生したため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bbbb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) コマンドの処理を中止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合は、コアダンプを保守員に渡してください。

## KFSB91007-E

ステータス物理ファイルでエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 物理ファイル名 = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dd....dd

An error has occurred in a physical status file. command name = aa....aa, physical file name = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dd....dd (E) (NOS)

コマンド実行中にステータス物理ファイルで障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するステータス物理ファイル名 (510 文字以内)

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理を中止します。

(O)理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	ステータスレコードの整合性番号が不一致です。	eestsinit コマンドを実行して、該当するファイルを初期設定してください。
0004	TP1EE ファイルシステムに障害が発生しました。	保守員に連絡してください。
0005	バイトマップが不正です。	
0006	指定したファイルがステータスファイルではありません。	コマンドの引数に指定したステータスファイル名を見直してください。
0008	ステータスファイルの容量が不正です。	ステータスファイルの容量を増やしてください。
0020	TP1EE ファイルシステムに対するアクセス権がありません。	TP1EE ファイルシステムに対するアクセス権を付けてください。
0021	TP1EE ファイルに対するアクセス権がありません。	ステータスファイルのアクセス権を付けてください。
0022	排他エラーが発生しました。	ステータスファイルがほかのプロセスで使用されていないかどうか確認してください。
0023	ロックセグメントが不足しています。	TP1EE ファイルの環境を見直してください。
0025	TP1EE ファイル数が上限値を超えました。	eefilmkfs コマンドの指定値を見直してください。
0026	TP1EE ファイルシステム用に初期化されていません。	eefilmkfs コマンドを実行して初期化してください。
0027	入出力エラーが発生しました。	eestsinit コマンドを実行して、障害の発生したファイルを初期設定してください。

理由コード	意味	対策
0028	メモリが不足しています。	プロセスを動作させることができるメモリを確保してください。
0029	TP1EE ファイルがありません。	eestsinit コマンドを実行して、初期設定してください。
0030	オープンできるファイル数を超過しました。	OS のファイルシステムパラメタを見直してください。
0031	TP1EE ファイル名が不正です。	コマンドの引数に指定したステータスファイル名を見直してください。
0033	アクセス権限が不正です。	保守員に連絡してください。
0034	オープンフラグが不正です。	
0035	レコード数が不正です。	
0036	レコード長が不正です。	
0037	TP1EE ファイルシステムが不正です。	以前に出力されたメッセージを参照して対策してください。メッセージが出力されていない場合は、ステータス物理ファイルのパス名を確認してください。
0038	TP1EE ファイルシステムの空き領域が不足しています。	eefilmkfs コマンドの指定値を見直してください。
0039	TP1EE ファイルシステムのバージョンが不一致です。	TP1EE ファイルシステムを作成するバージョンを合わせてください。
0040	TP1EE ファイルディスクリプタが不正です。	保守員に連絡してください。
0041	バッファアドレスが不正です。	

## KFSB91050-I

使用方法：eestsls -g サービスグループ名 [{-r ファイルグループ番号|-n 論理ファイル名|-f 物理ファイル名|-l|-p}]

Usage: eestsls -g <service-group-name> [{-r <file-group-number>|-n <logical-file-name>|-f <physical-file-name>|-l|-p}] (S) (NOS)

eestsls コマンドの使用法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91053-I

使用方法：eestsclose -g サービスグループ名 {-n 論理ファイル名|-f 物理ファイル名}

```
Usage: eestsclose -g <service-group-name> {-n <logical-file-name>|-f <physical-file-name>} (S) (NOS)
```

eestsclose コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91054-I

```
使用方法：eestsfills -f 物理ファイル名 [-cx]
```

```
Usage: eestsfills -f <physical-file-name> [-cx] (S) (NOS)
```

eestsfills コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91055-I

```
使用方法：eestsinit -f 物理ファイル名 [-s レコード長] [-c レコード数]
```

```
Usage: eestsinit -f <physical-file-name> [-s <record-length>] [-c <record-number>] (S) (NOS)
```

eestsinit コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91056-I

```
使用方法：eestsopen -g サービスグループ名 {-n 論理ファイル名|-f 物理ファイル名}
```

```
Usage: eestsopen -g <service-group-name> {-n <logical-file-name>|-f <physical-file-name>} (S) (NOS)
```



eestsopen コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB91057-I

使用方法：eestsrcm -f 物理ファイル名

Usage: eestsrcm -f <physical-file-name> (S) (NOS)

eestsrcm コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB91058-I

使用方法：eestsswap -g サービスグループ名 -r ファイルグループ番号 [-c]

Usage: eestsswap -g <service-group-name> -r <file-group-number> [-c] (S) (NOS)

eestsswap コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB91300-E

メモリが確保できません。コマンド名 = aa....aa, サイズ = bb....bb, 詳細コード = cc

Memory cannot be reserved. command name = aa....aa, size = bb....bb, detail code = cc

(E) (NOS)

メモリが確保できません。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 確保しようとしたメモリのサイズ (10 進数 10 けた以内, 単位: バイト)

cc : MCP がトラブルシュートで使用する情報 (10 進数 2 けた)

(S) コマンド処理を終了します。

(O) システムの動作状況を確認して、再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB91301-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb

The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bb (E) (NOS)

コマンドの形式が不正です。

aa....aa : コマンド名

bb : 理由コード (10 進数 2 けた)

01 : 不正なオプションフラグを使用しています。

02 : 必要なフラグ引数がありません。

03 : コマンド引数の設定数が制限数を超えています。

04 : コマンド引数の数が、指定が必須である数より少ないです。

(S) コマンドの使用方法を表示してコマンド処理を終了します。

(O) コマンドのパラメタの入力が誤っていないかどうかを確認してください。

[対策] なし。

## KFSB91302-E

コマンドのオプションが不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb, 理由コード = cc

The command options are invalid. command name = aa....aa, option = bb, reason code = cc (E) (NOS)

コマンドのオプションが不正です。

aa....aa : コマンド名

bb : 設定誤りのオプション (2 文字)

cc : 理由コード (10 進数 2 けた)

01 : 必要なオプションフラグがありません。

02 : フラグ引数の設定値に誤りがあります。

03 : フラグ引数の設定値と、コマンド引数の設定数の組み合わせに誤りがあります。

(S)コマンドの使用方法を表示してコマンド処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの入力が誤っていないかどうかを確認してください。

【対策】なし。

### KFSB91303-E

コマンドのオプションの組み合わせが不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション 1 = bb, オプション 2 = cc  
The combination of command options is invalid. command name = aa....aa, option 1 = bb, option 2 = cc (E) (NOS)

コマンドのオプションの組み合わせが不正です。

aa....aa : コマンド名

bb : 組み合わせが不正なオプション 1 (2 文字)

cc : 組み合わせが不正なオプション 2 (2 文字)

(S)コマンドの使用方法を表示してコマンド処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの入力が誤っていないかどうかを確認してください。

【対策】なし。

### KFSB91305-E

ファイルのヘッダ情報が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb, ファイル名 = cc....cc  
The file header information is invalid. command name = aa....aa, reason code = bb, file name = cc....cc (E) (NOS)

ファイルのヘッダ情報が不正です。

aa....aa : コマンド名

bb : 理由コード (10 進数 2 けた)

01 : 設定したファイルにヘッダ情報がありません。

02 : 設定したファイルが MCP トレースファイルではありません。

03 : -r オプションで設定したラン ID のファイルではありません。

cc....cc : ファイル名

(S)ヘッダ情報が不正なファイルへの入出力処理を中止します。

(O)コマンドのパラメタの入力が誤っていないかどうかを確認してください。または、ファイルが正しいかどうかを確認してください。

【対策】 なし。

#### KFSB91306-E

データブロックが不正です。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bb, ファイル名 = cc....cc  
The data block is invalid. command name = aa....aa, detail code = bb, file name = cc....cc  
(E) (NOS)

データブロックが不正です。

aa....aa : コマンド名

bb : MCP がトラブルシュートで使用する情報 (10 進数 2 けた)

cc....cc : ファイル名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)ファイルが正しいかどうかを確認してください。

【対策】 なし

#### KFSB91308-E

編集できないファイルタイプです。コマンド名 = aa....aa, コマンドバージョン = bb....bb, ファイル作成バージョン = cc....cc, ファイルタイプ = d, ファイル名 = ee....ee  
This file type cannot be edited. command name = aa....aa, command version = bb....bb, file creation version = cc....cc, file type = d, file name = ee....ee (E) (NOS)

実行したコマンドの MCP のバージョンでは編集できないファイルタイプです。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 実行したコマンドの MCP のバージョン

cc....cc : ファイルを作成した MCP のバージョン

d : ファイルタイプ

ee....ee : ファイル名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)MCP のバージョンを確認してください。表示したファイルタイプを編集できるバージョンで再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91309-E

実行したコマンドのバージョンとファイル作成バージョンが不一致です。コマンド名 = aa....aa, コマンドバージョン = bb....bb, ファイル作成バージョン = cc....cc, ファイル名 = dd....dd

The version of the executed command does not match the file creation version. command name = aa....aa, command version = bb....bb, file creation version = cc....cc, file name = dd....dd (E) (NOS)

実行したコマンドの TP1/EE のバージョンとファイル作成時の TP1/EE のバージョンが一致していないため編集できません。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 実行したコマンドの TP1/EE のバージョン

cc....cc : ファイルを作成した TP1/EE のバージョン

dd....dd : ファイル名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)ファイルを作成した TP1/EE のバージョンと同じバージョンの TP1/EE でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91310-E

ファイルのオープン処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb, ファイル名 = cc....cc

Failure occurred for file open processing. command name = aa....aa, reason code = bb, file name = cc....cc (E) (NOS)

入出力ファイル (UNIX ファイル) のオープンエラーが発生しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb : 理由コード (10 進数 2 けた)

01 : 指定されたファイルが存在しません。

02 : 入出力エラーが発生しました。

cc....cc : 該当するファイル名

(S)障害が発生したファイルへの入出力処理を中止します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

### KFSB91311-E

```
ファイルからのリード処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
Failure occurred for read processing from the file. command name = aa....aa, file name =  
bb....bb (E) (NOS)
```

入出力ファイル (UNIX ファイル) からの読み出しで障害が発生しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するファイル名

(S)障害の発生したファイルへの入出力処理を中止します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

### KFSB91312-E

```
ファイルへのライト処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
Failure occurred for write processing to the file. command name = aa....aa, file name =  
bb....bb (E) (NOS)
```

入出力ファイル (UNIX ファイル) への書き込みで障害が発生しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するファイル名

標準出力の場合は、stdout を表示します。

(S)障害の発生したファイルへの入出力処理を中止します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

### KFSB91313-E

```
ファイルのクローズ処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb
```

```
Failure occurred for file close processing. command name = aa....aa, file name = bb....bb  
(E) (NOS)
```

入出力ファイル (UNIX ファイル) のクローズエラーが発生しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb....bb** : 該当するファイル名

(S)障害の発生したファイルへの入出力処理を中止します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

**【対策】** なし。

### KFSB91314-E

```
ファイルポインタの移動処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
Failure occurred for file pointer move processing. command name = aa....aa, file name =  
bb....bb (E) (NOS)
```

入出力ファイル (UNIX ファイル) のファイルポインタの移動で障害が発生しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb....bb** : 該当するファイル名

(S)障害の発生したファイルへの入出力処理を中止します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

**【対策】** なし。

### KFSB91315-Q

```
aa オプションに指定したファイルは既に存在します。上書きしていいですか。 [y : 上書きする n :  
上書きしない] コマンド名 = bb....bb, ファイル名 = cc....cc  
The file specified for the aa option already exists. Would you like to overwrite it? [y: Overwrite  
n: Do not overwrite] command name = bb....bb, file name = cc....cc (S) (NOS)
```

aa に表示したオプションに設定したファイルを上書きしてよいか、応答を求めます。

**bb....bb** : コマンド名

**cc....cc** : ファイル名

(S)オペレータが設定した応答に従って処理します。y または n 以外を応答した場合は、再度応答を求めます。

(O)ファイルを上書きしてコマンドの処理を続行する場合は y を、ファイルを上書きしないでコマンドの処理を終了する場合は n を設定してください。応答時に設定する y または n は、大文字でも受け付けられます。

[対策] なし。

## KFSB91316-E

指定したファイルに編集するデータがありません。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
The specified file contains no data to be edited. command name = aa....aa, file name = bb....bb (E) (NOS)

設定したファイルに編集するデータがありません。次に示すどれかが理由として考えられます。

- 設定したファイルが、コアファイル、またはメモリダンプファイルではありません。
- データが破壊されています。
- 設定したファイルが、MCP トレースファイルの出力オプションが「有り」の環境で作成されたコアファイル、またはメモリダンプファイルではありません。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するファイル名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの指定が誤っていないかどうか確認してください。また、ファイルが正しいかどうか確認してください。

[対策] なし。

## KFSB91317-E

データの編集途中でファイルの終わりに達しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
The end of the file was reached during data modification. command name = aa....aa, file name = bb....bb (E) (NOS)

データの編集途中でファイルの終わりに達しました。データが破壊されています。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するファイル名

(S)コマンド処理を終了します。



(O)ファイルが正しいかどうか確認してください。

【対策】なし。

## KFSB91325-I

強制出力コマンドが成功しました。コマンド名 = aa....aa, スワップ元ファイル名 = bb....bb, スワップ先ファイル名 = cc....cc

The forced output command was successful. command name = aa....aa, swap source file name = bb....bb, swap destination file name = cc....cc (S) (NOS)

強制出力コマンドが成功しました。そのため、スワップ元ファイルからスワップ先ファイルへ交代しました。

aa....aa : 強制出力コマンド名

eemcput (MCP 回線トレースの強制ファイル出力) を表示します。

bb....bb : スワップ元ファイル名

cc....cc : スワップ先ファイル名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB91326-E

強制出力コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb, 詳細コード = cc

The forced output command failed. command name = aa....aa, reason code = bb, detail code = cc (E) (NOS)

強制出力コマンド : aa....aa が失敗しました。

aa....aa : 強制出力コマンド名

bb : 理由コード

01 : 入出力エラー

02 : タイミングエラー (コマンド処理中)

03 : タイミングエラー (機能停止中)

04 : タイミングエラー (スワップが発生していない)

05 : プロセス関連定義の trb\_stc\_use オペランドに N が指定されているか, または trb\_stc\_use オペランドの指定が省略されているため, 統計情報機能を使用できません。

06 : 統計情報ファイルが縮退中です。

07：プロセス関連定義の trb\_uap\_trace\_file\_out オペランドに N が指定されているか、または trb\_uap\_trace\_file\_out オペランドの指定が省略されているため、UAP トレースファイル出力機能を使用できません。

99：予期しないエラーが発生しました。

cc：MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)理由コードに示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

**[対策]** TP1/EE プロセスのメッセージログファイルを参照し、原因を調査してください。また、詳細コードが有効な値を示す場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB91327-E

強制出力コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb

The forced output command failed. command name = aa....aa, reason code = bb (E)  
(NOS)

コマンド実行中にエラーが発生したため、処理を中止しました。

aa....aa：該当するコマンド名

bb：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コマンド処理を途中で中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
03	送信データの取得に失敗しました。	保守員に連絡してください。
04	データの送信に失敗しました。	TP1/EE との通信障害の原因を調査し、その原因を取り除いてください。
05	応答データの取得に失敗しました。	コマンドが実行されている可能性があります。TP1/EE のメッセージログファイルを参照してください。または、保守員に連絡してください。
06	応答データが正しく格納されていません。	保守員に連絡してください。
07	データ送信に失敗しました。	TP1/EE が起動しているかどうか、およびサービスグループ名が正しいかどうか確認してください。

## KFSB91328-E

コマンド実行中に内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bb

An internal conflict occurred during command execution. command name = aa....aa, detail code = bb (E) (NOS)

コマンド実行中に内部矛盾が発生したため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb** : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を途中で中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合は、コアダンプを保守員に渡してください。

## KFSB91331-I

使用方法 : eemcped [-e 編集種別] [-t [開始時刻][,終了時刻]] [-r ラン I D] [-s {usr|lin}] [-x 下限値, 上限値] [-l 論理端末名[,論理端末名...]] [-i I P アドレス[,I P アドレス...]] [-c c s v 出力ファイル名] [-n ファイル出力行] MCP トレースファイル名 [MCP トレースファイル名...]

Usage: eemcped [-e <modification-type>] [-t [<start-time>][,<end-time>]] [-r <run-id>] [-s {usr|lin}] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-l <logical-terminal-name>[,<logical-terminal-name>...]] [-i <ip-address>[,<ip-address>...]] [-c <csv-output-file-name> [-n <file-output-line>]] <MCP-trace-file-name>[ <MCP-trace-file-name>...] (S) (NOS)

eemcped コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB91332-I

使用方法 : eemcptrcd -o 出力ファイル名 MCP トレースファイル名

Usage: eemcptrcd -o <output-file-name> <MCP-trace-file-name> (S) (NOS)

eemcptrcd コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB91335-I

使用方法：eemcput -g サービスグループ名

Usage: eemcput -g <service-group-name> (S) (NOS)

eemcput コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB91344-I

使用方法：eemcdump [-r ラン I D] [-s {usr|lin}] [-x 下限値,上限値] [-l 論理端末名[,論理端末名...]]  
[-i I P アドレス[, I P アドレス...]] [-c c s v 出力ファイル名 [-n ファイル出力行]] ファイル名

Usage: eemcdump [-r <run-id>] [-s {usr|lin}] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-l  
<logical-terminal-name>[,<logical-terminal-name>...]] [-i <ip-address>[,<ip-address>...]] [-c  
<csv-output-file-name> [-n <file-output-line>]] <file-name> (S) (NOS)

eemcdump コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB91345-I

使用方法：eemctrdump -o 出力ファイル名 ファイル名

Usage: eemctrdump -o <output-file-name> <file-name> (S) (NOS)

eemctrdump コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91357-Q

aa オプションに指定したファイルは既に存在します。上書きしていいですか。 [y : 上書きする a : 全てのファイルを上書きする n : 上書きしない] コマンド名 = bb...bb, ファイル名 = cc...cc  
The file specified for the aa option already exists. Would you like to overwrite it? [y: Overwrite a: Overwrite all files n: Do not overwrite] Command name = bb...bb, file name = cc...cc  
(S) (NOS)

aa に表示したオプションに設定したファイルを上書きしていいか応答を求めます。

aa : オプション

bb...bb : 該当するコマンド名

cc...cc : ファイル名

(S)オペレータが設定した応答に従って処理します。y, a または n 以外を応答した場合は、再度応答を求めます。

(O)

y : ファイルを上書きしてコマンド処理を続行します。

a : すべてのファイルを上書きしてコマンド処理を続行します。

n : ファイルを上書きしないでコマンド処理を終了します。

【対策】 なし。

y, a, n はマニュアルには小文字で記載しますが、大文字でも受け付けます。

## KFSB91401-E

領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa...aa, 要求サイズ = bb...bb  
An attempt to allocate area has failed. command name = aa...aa, request size = bb...bb  
(E) (NOS)

MCP コマンド処理で、必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

aa...aa : 該当するコマンド名

bb...bb : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。再発する場合、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB91402-E

通信障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

A communication error has occurred. command name = aa....aa, reason code = bb....bb  
(E) (NOS)

MCP のコマンド処理で通信障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
05009	サービスグループ名 (オプションフラグ g のフラグ引数) が不正です。または、TP1/EE プロセスが起動されていないなどの障害があります。	正しいフラグ引数を設定して、コマンドを再実行してください。または、TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE の起動後にコマンドを再実行してください。
05060		
05012	TP1/EE プロセス側でエラーが発生しました。	メッセージログファイルを参照してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB91403-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bb....bb (E)  
(NOS)

MCP のコマンドの形式に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
05001	不正なオプションフラグがあります。	正しい形式で、コマンドを再実行してください。
05053	不正なコマンド引数があります。	
05054	フラグ引数がありません。	
05055	必要なオプションフラグがありません。	
05056	必須のオプションフラグがありません。	
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB91404-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプションフラグ = b, 理由コード = cc....cc  
The flag argument is invalid. command name = aa....aa, option flag = b, reason code = cc....cc (E) (NOS)

MCP のコマンドのフラグ引数の設定に誤りがあったため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**b** : オプションフラグ

**cc....cc** : 理由コード

- 00001 : 設定値が設定できる範囲以外です。
- 00002 : 設定値が設定できる値以外です。
- 00003 : けた数が多過ぎます。
- 05054 : フラグ引数がありません。
- 05057 : けた数が不正です。このフラグ引数は固定長です。
- 05058 : けた数が多過ぎます。このフラグ引数は可変長です。
- 05059 : 設定できない文字を設定しています。
- 10008 : 識別子の個数が多過ぎます。
- 10068 : 識別子の形式が不正です。
- 10061 : 識別子のけた数が多過ぎます。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) 正しいフラグ引数を設定して、コマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB91405-E

コマンド処理でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
An error occurred during command processing. command name = aa....aa, reason code = bb....bb (E) (NOS)

TP1/EE プロセスの通信制御コマンド処理で誤りを見つけたので、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コマンド処理を途中で中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
10009	MCP の TCP/IP プロトコルの接続が解放済みでないか、または UDP プロトコルの論理端末が閉塞中ではありません。	MCP の TCP/IP プロトコルの接続、または UDP プロトコルの論理端末状態を確認して、コマンドを再実行してください。
10010	指定した接続 ID の中に不正な接続 ID があります。	入力した接続 ID が正しいか、また接続定義が設定されているか確認してください。
10011	指定した論理端末名の中に不正な論理端末名があります。	入力した論理端末名称が正しいか、また論理端末定義がされているかどうかを確認してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB91406-E

内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bbbb  
An internal conflict has occurred. command name = aa....aa, detail code = bbbb (E) (NOS)

MCP のコマンド処理で、コマンドプロセスで予期しない障害が発生したので、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bbbb** : MCP がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。



**【対策】** 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合は、コアダンプを保守員に渡してください。

## KFSB91407-E

オプションフラグの組み合わせが不正です。コマンド名 = aa....aa

The combination of option flags is invalid. command name = aa....aa (E) (NOS)

MCP のコマンドのオプションフラグの組み合わせに誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) 正しいオプションフラグの組み合わせで、コマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB91408-E

バージョンの組み合わせが不正です。

The combination of the version is invalid. (E) (NOS)

TP1/EE と MCP のバージョンの組み合わせが不正です。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/EE と MCP のバージョンを確認してください。

## KFSB91420-I

使用方法 : eemcpactcn -g サービスグループ名 -c {接続 ID | "接続 ID 接続 ID... " | "\*" | "先行文字列\*"}  
Usage: eemcpactcn -g <service-group-name> -c {<connection-ID> | "<connection-ID><connection-ID>..." | "\*" | "<preceding-character-string>\*"} (S) (NOS)

eemcpactcn コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB91421-I

コネクションの確立を受け付けました。コマンド名 = aa....aa

Accepted the request to establish a connection. command name = aa....aa (S) (NOS)

コネクションの確立を受け付けました。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S)コネクション確立の受け付け処理を行います。

(O)なし。

**【対策】** なし。

## KFSB91422-E

コネクションの確立の受け付けに失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

Failed to accept the request to establish a connection. command name = aa....aa, reason code = bb....bb (E) (NOS)

TP1/EE プロセスの通信制御コマンド処理で誤りを見つけたため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コネクションの確立処理をしないで、コマンドを終了します。

(O)理由コードに示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
10010	指定したコネクション ID の中に不正なコネクション ID があります。	入力したコネクション ID が正しいか、またコネクション定義がされているかどうかを確認してください。
10030	メモリ不足です。	プロセスが動作できるメモリを確保してください。
10009	コマンド実行タイミング不正です。	コネクションが未確立状態 (INA) のときにコマンドを再実行してください。トランザクション静止化状態の場合は、トランザクション静止化状態を解除したあとにコマンドを再実行してください。
10040	指定した IP アドレスまたはホスト名が不正です。	入力した IP アドレス、またはホスト名が正しいか確認してください。
10041	指定したポート番号が不正です。	入力したポート番号が正しいか確認してください。

理由コード	意味	対策
10048	指定したコネクション ID は使用中です。	コネクションが未確立状態 (INA) の時にコマンドを再実行してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	TP1/EE プロセスのメッセージログファイルを参照して原因を調査してください。TP1/EE プロセスのメッセージログにメッセージが出力されていないければ、保守員に連絡してください。

## KFSB91423-E

コネクションの確立に一部失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
 Partly failed to establish a connection. command name = aa....aa, reason code = bb....bb  
 (E) (NOS)

コネクションの確立に一部失敗しました。指定したコネクションの一部はコネクションを確立できない状態です。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コネクションの確立に失敗した一部のコネクションを除き、コネクション確立を受け付けます。

(O)コネクション確立状態を eemcplscn コマンドで確認してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
10028	コネクションの確立に一部失敗しました。	コネクションが未確立状態 (INA) のときにコマンドを再実行してください。

## KFSB91425-I

使用方法 : eemcpdctcn -g サービスグループ名 -c {コネクション ID | "コネクション ID コネクション ID..." | "\*" | "先行文字列\*"} [-f]

Usage: eemcpdctcn -g <service-group-name> -c {<connection-ID> | "<connection-ID> <connection-ID>..." | "\*" | "<preceding-character-string>\*"} [-f] (S) (NOS)

eemcpdctcn コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91426-I

```
コネクションの解放を受け付けました。コマンド名 = aa....aa  
Accepted the request to release the connection. command name = aa....aa (S) (NOS)
```

コネクションの解放を受け付けました。

aa....aa : コマンド名

(S)コネクション解放の受け付け処理を行います。

(O)なし。

【対策】 なし。

## KFSB91427-E

```
コネクションの解放の受け付けに失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
Failed to accept the request to release the connection. command name = aa....aa, reason code  
= bb....bb (E) (NOS)
```

TP1/EE プロセスの通信制御コマンド処理で誤りを見つけたため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コネクションの解放処理をしないで、コマンドを終了します。

(O)理由コードに示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
10010	指定したコネクション ID の中に不正なコネクション ID があります。	入力したコネクション ID が正しいか、またコネクション定義がされているかどうかを確認してください。
10030	メモリ不足です。	プロセスが動作できるメモリを確保してください。
10009	コマンド実行タイミング不正です。	TP1/EE のシステム状態を確認し、再度コマンドを実行してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB91430-I

使用方法：eemcplscn -g サービスグループ名 -c {コネクション ID | "コネクション ID コネクション ID..." | "\*" | "先行文字列\*"} [-d]

Usage: eemcplscn -g <service-group-name> -c {<connection-ID> | "<connection-ID> <connection-ID>..." | "\*" | "<preceding-character-string>\*"} [-d] (S) (NOS)

eemcplscn コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91440-I

使用方法：eemcpdctl -g サービスグループ名 -l {論理端末名 | "論理端末名 論理端末名..." | "\*" | "先行文字列\*"} [-d]

Usage: eemcpdctl -g <service-group-name> -l {<logical-terminal-name> | "<logical-terminal-name> <logical-terminal-name>..." | "\*" | "<preceding-character-string>\*"} (S) (NOS)

eemcpdctl コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91441-I

論理端末の閉塞を受け付けました。コマンド名 = aa....aa

Accepted the request to shut down the logical terminal. command name = aa....aa (S) (NOS)

論理端末の閉塞を受け付けました。

aa....aa：該当するコマンド名

(S)論理端末の閉塞を受け付けます。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB91442-E

```
論理端末の閉塞の受け付けに失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
Failed to accept the request to shut down the logical terminal. command name = aa....aa,  
reason code = bb....bb (E) (NOS)
```

TP1/EE プロセスの通信制御コマンド処理で誤りを見つけたため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S) 論理端末の閉塞処理をしないで、コマンドを終了します。

(O) 理由コードに示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
10011	指定した論理端末名の中に不正な論理端末名があります。	入力した論理端末名称が正しいか確認してください。
10030	メモリ不足です。	プロセスが動作できるメモリを確保してください。
10009	コマンド実行タイミング不正です。	TP1/EE のシステム状態を確認し、再度コマンドを実行してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB91445-I

```
使用方法: eemcpactle -g サービスグループ名 -l {論理端末名 | "論理端末名 論理端末名..." | "*" |  
"先行文字列*"}
```

```
Usage: eemcpactle -g <service-group-name> -l {<logical-terminal-name> | "<logical-  
terminal-name> <logical-terminal-name>..." | "*" | "<preceding-character-string>*"} (S)  
(NOS)
```

eemcpactle コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB91446-I

論理端末の閉塞解除を受け付けました。コマンド名 = aa....aa

Accepted the request to release the shutdown state of the logical terminal. command name = aa....aa (S) (NOS)

論理端末の閉塞解除を受け付けました。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S) 論理端末の閉塞解除を受け付けます。

(O) なし。

【対策】 なし。

## KFSB91447-E

論理端末の閉塞解除の受け付けに失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

Failed to accept the request to release the shutdown state of the logical terminal. command name = aa....aa, reason code = bb....bb (E) (NOS)

TP1/EE プロセスの通信制御コマンド処理で誤りを見つけたため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S) 論理端末の閉塞解除処理をしないで、コマンドを終了します。

(O) 理由コードに示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
10011	指定した論理端末名の中に不正な論理端末名があります。	入力した論理端末名称が正しいか確認してください。
10030	メモリ不足です。	プロセスが動作できるメモリを確保してください。
10009	コマンド実行タイミング不正です。	コネクションが確立状態 (ACT) か、論理端末が閉塞中 (INA) のときにコマンドを再実行してください。トランザクション静止化状態の場合はトランザクションの静止化状態を解除したあとにコマンドを再実行してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	TP1/EE プロセスのメッセージログファイルを参照して原因を調査してください。TP1/EE プロセスのメッ

理由コード	意味	対策
その他	予期しない障害が発生しました。	セージログにメッセージが出力されていなければ、保守員に連絡してください。

## KFSB91448-E

論理端末の閉塞解除に一部失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb  
 Partly failed to release the shutdown state of the logical terminal. command name = aa....aa,  
 reason code = bb....bb (E) (NOS)

論理端末の閉塞解除に一部失敗しました。指定した論理端末の一部は論理端末の閉塞を解除できない状態です。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb....bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S) 論理端末の閉塞解除に失敗した一部の論理端末を除き、論理端末の閉塞解除を受け付けます。

(O) 論理端末の状態を eemcplsle コマンドで確認してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
10028	論理端末の閉塞解除に一部失敗しました。	コネクションが確立状態 (ACT) か、論理端末が閉塞中 (INA) のときにコマンドを再実行してください。

## KFSB91450-I

使用方法 : eemcplsle -g サービスグループ名 -l {論理端末名 | "論理端末名 論理端末名..." | "\*" | "先行文字列\*"}  
 Usage: eemcplsle -g <service-group-name> -l {<logical-terminal-name> | "<logical-terminal-name> <logical-terminal-name>..." | "\*" | "<preceding-character-string>\*" } (S) (NOS)

eemcplsle コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

eemcplsle コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**[対策]** なし。



## KFSB91460-I

```
使用方法： eemcpgen -i 入力ファイル名 -o 出力オブジェクトファイル名  
Usage: eemcpgen -i <input-file-name> -o <output-object-file-name> (S) (NOS)
```

eemcpgen コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91461-E

```
定義解析中に領域の確保に失敗しました。領域コード = aa....aa, サイズ = bb....bb  
Area allocation failed during definition analysis. area code = aa....aa, size = bb....bb (E)  
(NOS)
```

定義格納領域および定義解析作業用領域の確保に失敗しました。

aa....aa：確保に失敗した領域コード

MCPDEF：解析済み定義格納領域の初期確保失敗

READ1：定義読み込み作業領域の初期確保失敗

READ2：定義読み込み作業領域の追加確保失敗

FARGV1：定義解析作業領域の初期確保失敗

FARGV2：定義解析作業領域の追加確保失敗

MCPDEFFILE：定義ファイル名格納領域の確保失敗

MCPDEFCON：eemcpcn コマンド形式定義の格納領域の確保失敗

MCPDEFLE：eemcple コマンド形式定義の格納領域の確保失敗

MCPDEFZRCPA：eemcpzrcpa コマンド形式定義の格納領域の確保失敗

bb....bb：領域確保を要求したサイズ

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。再発する場合、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB91462-E

```
定義解析中にファイルのオープンに失敗しました。ファイル名 = aa....aa
```

Opening of the definition file failed during definition analysis. file name = aa....aa (E)  
(NOS)

ファイルオープン処理でエラーが発生しました。

aa....aa : オープンできなかったファイルパス

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 入出力ファイルの障害を取り除いて再起動してください。考えられる障害の要因を次に示します。

- 設定されたファイルが存在しません。
- ファイル障害が発生しました。
- ディスク障害が発生しました。
- 設定されたパスが不正です。
- 設定されたファイルに対するアクセス権が不正です。
- リソースが不足しています。
- OS の制限（ファイルディスクリプタ、シンボリックリンク数など）を超えています。
- NFS 障害が発生しました。

## KFSB91463-E

定義解析中に定義ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb  
Loading of the definition file failed during definition analysis. file name = aa....aa, line =  
bb....bb (E) (NOS)

定義ファイルの読み込み時に障害が発生しました。

aa....aa : 障害が発生したファイルパス

bb....bb : 読み込みに失敗した行番号

(S)定義解析を中止してプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義ファイルの障害を取り除いて再起動してください。考えられる障害の要因を次に示します。

- ファイル障害が発生しました。
- ディスク障害が発生しました。
- 設定されたファイルに対するアクセス権が不正です。
- OS の制限（ファイルディスクリプタ、シンボリックリンク数など）を超えています。

- NFS 障害が発生しました。

## KFSB91464-E

定義解析中にエラーが発生しました。定義形式が不正です。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, 理由コード = cc....cc

An error occurred during definition analysis. The definition format is incorrect. file name = aa....aa, line = bb....bb, reason code = cc....cc (E) (NOS)

定義形式が不正です。

aa....aa : 障害が発生したファイルパス

bb....bb : 不正があった行の行番号

cc....cc : 理由コード

OPERAND : オペランドが不正です。またはオペランドに指定した値が不正です。

FORMAT : 定義形式が不正です。

NOTHING : 文字列がありません。

OVER : 定義ファイルの 1 行の文字数が規定の範囲 (80 文字) を超えています。

(S) 定義解析を中止しプロセスを強制停止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義ファイルの bb....bb 行目に指定した定義を理由コードに従って見直したあと、再起動してください。

## KFSB91465-E

定義解析中にエラーが発生しました。コマンド形式定義が不正です。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, 定義名 = cc....cc, オプションフラグ = dd, オペランド名 = ee....ee, 理由コード = ff....ff

An error occurred during definition analysis. The command format definition is incorrect. file name = aa....aa, line = bb....bb, definition name = cc....cc, option flag = dd, operand name = ee....ee, reason code = ff....ff (E) (NOS)

定義ファイルのコマンド形式定義が不正です。

aa....aa : 障害が発生したファイルパス

bb....bb : 不正があった行の行番号

cc....cc : コマンド形式定義名

dd : オプションフラグ

オプションフラグに関係のない場合は、\*\*を表示します。

ee....ee : オペランド名

オペランド名に関係のない場合は, \*\*を表示します。

ff....ff : 理由コード

OVER : 設定内容が多過ぎます。または, フラグ引数のどれかに空白が含まれている可能性があります。

DUPLICATE : オプションフラグまたはオペランドを重複して指定しています。

FLAG : オプションフラグに指定したフラグ引数が不正, または指定できないフラグを指定しています。

OPERAND : オペランドに指定した値が不正, または指定できないオペランドを指定しています。

NOTHING : 省略できないオプションフラグまたはオペランドを指定していません。

(S)定義解析を中止しプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義ファイルの bb....bb 行目に指定したコマンド形式定義を理由コードに従って見直したあと, 再起動してください。

## KFSB91466-E

定義解析処理においてエラーが発生しました。定義間に不正があります。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, 定義名 = cc....cc, オプションフラグ = dd....dd, オペランド名 = ee....ee, 理由コード = ff....ff

An error occurred in the definition analysis processing. An invalid value is specified in the definition. file name = aa....aa, line number = bb....bb, definition name = cc....cc, option flag = dd....dd, operand name = ee....ee, reason code = ff....ff (E) (NOS)

定義ファイルのコマンド形式の定義が不正です。形式定義間に不正があります。

aa....aa : 障害が発生したファイルパス

bb....bb : 不正があった行の行数

cc....cc : コマンド形式の定義名

複数のコマンド形式の定義名に不正がある場合は, 「-」区切りで表示します。

dd....dd : オプションフラグ

複数のオプションフラグに関係のある場合は, 「:」で区切って複数表示します。

ee....ee : オペランド名

複数のオペランドに関係のある場合は, 「:」で区切って複数表示します。オペランド名に関係のない場合は\*\*を表示します。

ff....ff : 理由コード

COMMAND : すでに定義されたコマンド形式定義と矛盾します。

DUPLICATE : すでに定義されています。

NOTHING : 先に定義する必要がある項目がありません。

OPERAND：すでに定義されたオペランドの値と矛盾します。

OVER：定義数の上限を超過しました。

(S)定義解析を中止しプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 定義ファイルの bb....bb 行目に指定したコマンド形式定義を見直したあと、再起動してください。

## KFSB91467-E

定義解析中にエラーが発生しました。省略できない定義が未定義です。ファイル名 = aa....aa, 定義名 = bb....bb, オプションフラグ = cc, オペランド名 = dd....dd

An error occurred during definition analysis. A mandatory definition is incorrect. file name = aa....aa, definition name = bb....bb, option flag = cc, operand name = dd....dd (E) (NOS)

省略できないコマンド形式定義が未定義です。

aa....aa：障害が発生したファイルパス

bb....bb：コマンド形式定義名

cc：オプションフラグ

オプションフラグに関係ない場合は、\*\*を表示します。

dd....dd：オペランド名

オペランド名に関係ない場合は、\*\*を表示します。

(S)定義解析を中止しプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 定義内容を見直し、bb....bb を追加して再起動してください。

## KFSB91468-I

定義オブジェクトファイルを出力しました。入力ファイル名 = aa....aa, 定義オブジェクトファイル名 = bb....bb, バージョン = ccccccc

Created a definition object file. input file name = aa....aa, definition object file name = bb....bb, version = ccccccc (S) (NOS)

定義オブジェクトファイルを出力しました。

aa....aa：入力ファイル名

bb....bb：定義オブジェクトファイル名

cccccccc：定義オブジェクトファイルのバージョン

(S)処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB91469-E

```
ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名 = aa....aa  
Failed to write a file. file name = aa....aa (E) (NOS)
```

定義オブジェクトファイルの書き込み時に障害が発生しました。

aa....aa : 障害が発生したファイルパス

(S)定義解析を中止しプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 定義オブジェクトファイルの障害を取り除いて再起動してください。考えられる障害の要因を次に示します。

- ファイル障害が発生しました。
- ディスク障害が発生しました。
- 設定されたファイルに対するアクセス権が不正です。
- OS の制限（ファイルディスクリプタ、シンボリックリンク数など）を超えています。
- NFS 障害が発生しました。

## KFSB91470-Q

```
-o オプションに指定したファイルは既に存在します。上書きしていいですか。 [y : 上書きする n :  
上書きしない] コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
The file specified in the -o option already exists. Are you sure you want to overwrite the  
existing file? [y: Yes. n: No.] command name = aa....aa, file name = bb....bb (S) (NOS)
```

-o オプションに設定したファイルを上書きしてよいか、応答を求めます。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : ファイル名

(S)オペレータが設定した応答に従って処理します。y または n 以外を応答した場合は、再度応答を求めます。

(O) ファイルを上書きしてコマンドの処理を続行する場合は y を、ファイルを上書きしないでコマンドの処理を終了する場合は n を設定してください。応答時に設定する y または n は、大文字でも受け付けられます。

【対策】 なし。

## KFSB91471-I

使用方法：eemcpactcnto -g サービスグループ名 -c コネクション ID {-i 相手システムの IP アドレス | -n 相手システムのホスト名} -p 相手システムのポート番号

Usage: eemcpactcnto -g <service-group-name> -c <connection-ID> {-i <target-IP-address> | -n <target-host-name>} -p <target-port-number> (S) (NOS)

eemcpactcnto コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S) コマンド処理を行わないで終了します。

(O) コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91472-E

定義オブジェクトファイルが不正です。ファイル名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

The definition object file is incorrect. File name = aa....aa, reason code = bb....bb (E)  
(NOS)

定義オブジェクトファイルが不正です。

aa....aa：障害が発生したファイルパス

bb....bb：理由コード

FORMAT：ファイル形式が不正です。

SIZE：定義オブジェクトファイルのファイルサイズが不正です。

(S) 解析を中止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 eemcpngen コマンドで作成した定義オブジェクトファイルを指定し、再実行してください。

## KFSB91501-I

使用方法：eefilbkup [-y] [-r] [-i] [-{c|l|f}] TP1EE ファイルシステム領域名[/TP1EE ファイル名]  
バックアップファイル名

```
Usage: eefilbkup [-y] [-r] [-i] [-{c|l|f}] <TP1EE-file-system-area-name>[/<TP1EE-file-name>]
<backup-file-name> (S) (NOS)
```

eefilbkup コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB91502-I

```
使用方法： eefilrstr [-y] [-{t|r|o}] [-{c|l}] バックアップファイル名[/TP1EE ファイル名] TP1EE ファイルシステム領域名
```

```
Usage: eefilrstr [-y] [-{t|r|o}] [-{c|l}] <backup-file-name>[/<TP1EE-file-name>] <TP1EE-file-system-area-name> (S) (NOS)
```

eefilrstr コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB91503-I

```
使用方法： eefills [-[H][L][{t|u}]] TP1EE ファイルシステム領域名[/TP1EE ファイル名]
eefills [-x] TP1EE ファイルシステム領域名[/TP1EE ファイル名]
```

```
Usage: eefills [-[H][L][{t|u}]] <TP1EE-file-system-area-name>[/<TP1EE-file-name>]
eefills [-x] <TP1EE-file-system-area-name>[/<TP1EE-file-name>] (S) (NOS)
```

eefills コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。



## KFSB91505-I

使用方法：eefilmkfs {-s セクタ長 -n 容量 -l 最大ファイル数 [-v TP1EE ファイルシステム名] [-p 物理区画サイズ] スペシャルファイル名 | -c 物理区画サイズ スペシャルファイル名}

eefilmkfs [-r] -n 容量 -l 最大ファイル数 [-v TP1EE ファイルシステム名] 通常ファイル名

Usage: eefilmkfs {-s <sector-length> -n <capacity> -l <max-file-count> [-v <TP1EE-file-system-name>] [-p <physical-partition-size>] <special-file-name> | -c <physical-partition-size> <special-file-name>}

eefilmkfs [-r] -n <capacity> -l <max-file-count> [-v <TP1EE-file-system-name>] <path-name> (S) (NOS)

eefilmkfs コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。なお、-p オプションおよび-c オプションは、OS が AIX の場合に使用できます。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91506-I

使用方法：eefilchown 所有者 TP1EE ファイルシステム領域名/TP1EE ファイル名

Usage: eefilchown <owner> <TP1EE-file-system-area-name>/<TP1EE-file-name> (S) (NOS)

eefilchown コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91507-I

使用方法：eefilchgrp グループ TP1EE ファイルシステム領域名/TP1EE ファイル名

Usage: eefilchgrp <group> <TP1EE-file-system-area-name>/<TP1EE-file-name> (S) (NOS)

eefilchgrp コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91508-I

使用方法：eefilchmod モード TP1EE ファイルシステム領域名/TP1EE ファイル名

Usage: eefilchmod <mode> <TP1EE-file-system-area-name>/<TP1EE-file-name> (S)  
(NOS)

eefilchmod コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91510-E

バックアップファイル(aa....aa)がオープンできません。コマンド名 = bb....bb

The backup file (aa....aa) cannot be opened. command name = bb....bb (E) (NOS)

バックアップファイルのオープンに失敗しました。

aa....aa：オープンに失敗したバックアップファイル名

bb....bb：該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

## KFSB91511-E

バックアップファイル(aa....aa)が既に存在します。コマンド名 = bb....bb

The backup file (aa....aa) already exists. command name = bb....bb (E) (NOS)

バックアップファイルがすでに存在しています。

aa....aa：該当するバックアップファイル名

bb....bb：該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)-r オプションを指定するか、または退避先ファイル名を変更するかして、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91512-E

```
TP1EE ファイル(aa....aa)の作成に失敗しました。コマンド名 = bb....bb, 詳細コード = cc....cc  
An attempt to create the TP1EE file (aa....aa) has failed. command name = bb....bb, detail  
code = cc....cc (E) (NOS)
```

TP1EE ファイルの作成に失敗しました。

aa....aa : 該当する TP1EE ファイル名

bb....bb : 該当するコマンド名

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)障害が発生したファイルの作成を中止し、次のファイル処理を続行します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

## KFSB91513-Q

```
aa....aa から bb....bb へ回復を行います。次の処理を選択してください。[t:停止 g:続行]  
Recovery will now be performed from aa....aa to bb....bb. Select either of the following actions:  
[t: Stop g: Continue] (S) (NOS)
```

オペレータに回復を実行してもよいか応答を求めます。

aa....aa : 回復元のバックアップファイル名

bb....bb : 回復対象の TP1EE ファイルシステム領域名

(S)オペレータが設定した応答に従って処理します。t または g のどちらも設定しない場合は、再度応答を求めます。

(O)処理を停止する場合は t を、処理を続行する場合は g を設定してください。t または g は、大文字でも受け付けられます。

【対策】 なし。

## KFSB91514-Q

aa....aa から bb....bb へ退避を行います。次の処理を選択してください。[t:停止 g:続行]  
Saving from aa....aa to bb....bb will now be performed. Select either of the following actions:  
[t: Stop g: Continue] (S) (NOS)

オペレータに退避を実行してもよいか応答を求めます。

aa....aa : 退避対象の TP1EE ファイルシステム領域名

bb....bb : 退避先のバックアップファイル名

(S)オペレータが設定した応答に従って処理します。t または g のどちらも設定しない場合は、再度応答を求めます。

(O)処理を停止する場合は t を、処理を続行する場合は g を設定してください。t または g は、大文字でも受け付けられます。

【対策】なし。

## KFSB91515-W

TP1EE ファイル(aa....aa)のレコード長(bb....bb)が、セクタ長(cc....cc)の整数倍でないため回復できません。コマンド名 = dd....dd  
Recovery cannot be performed because the record length (bb....bb) of the TP1EE file (aa....aa) is not a multiple of the sector length (cc....cc). command name = dd....dd (E) (NOS)

退避されていたファイルのレコード長が、回復先ファイルシステムのセクタ長よりも小さいか、または回復先ファイルシステムのセクタ長の倍数ではないため、回復できません。

aa....aa : 退避されていた TP1EE ファイル名

bb....bb : 退避されていたファイルのレコード長

cc....cc : 回復先ファイルシステムのセクタ長

dd....dd : 該当するコマンド名

(S)該当するファイルに対する処理を中止し、次のファイルの回復を開始します。

(O)障害が発生したファイルが正しいかどうか確認してください。

【対策】なし。

## KFSB91516-E

スーパーユーザまたは TP1EE ファイルシステム初期化ユーザでしか実行できません。コマンド名 = aa....aa

Only the superuser and the user who initialized a TP1EE file system have execution permissions. command name = aa....aa (E) (NOS)

該当するコマンドを実行できるのは、スーパーユーザまたは eefilmkfs コマンドで TP1EE ファイルシステムを初期化したユーザだけです。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 スーパーユーザ、またはファイルシステム初期化ユーザで、コマンドを再実行してください。

## KFSB91517-W

TP1EE ファイル(aa....aa)は、I/O エラーにより正常に退避されていません。コマンド名= bb....bb  
The TP1EE file (aa....aa) has not been saved correctly due to an I/O error. command name = bb....bb (E) (NOS)

TP1EE ファイルの入出力エラーが発生しました。

aa....aa : 入出力エラーが発生した TP1EE ファイル名

bb....bb : 該当するコマンド名

(S)該当するファイルに対する処理を中止し、次のファイルの回復を開始します。

(O)障害が発生したファイルが正しいかどうか確認してください。

【対策】 なし。

## KFSB91518-E

ファイル(aa....aa)は、バックアップファイルではありません。コマンド名= bb....bb  
The file (aa....aa) is not a backup file. command name = bb....bb (E) (NOS)

指定したファイルが、eefilbkup コマンドで退避した退避ファイルではありません。

aa....aa : ユーザが指定したバックアップファイル名

bb....bb : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)正しいバックアップファイルを指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91519-E

TP1EE ファイル(aa....aa)に対する書き込み権がないため回復できません。コマンド名= bb....bb  
Recovery cannot be performed because write permission for the TP1EE file (aa....aa) does not exist. command name = bb....bb (E) (NOS)

TP1EE ファイルに対する書き込み権限がないため、このファイルに対する処理を中止します。

**aa....aa** : 該当する TP1EE ファイル

**bb....bb** : 該当するコマンド名

(S)書き込み権限がない TP1EE ファイルに対する処理をしないで、次の処理を続行します。

(O)該当する TP1EE ファイルの書き込み権限を確認してください。

**【対策】** なし。

## KFSB91527-E

TP1EE ファイルシステム領域(aa....aa)は、他プロセスで使用中的のため、TP1EE ファイルシステムとして初期化できません。コマンド名= bb....bb

The TP1EE file system area (aa....aa) cannot be initialized as a TP1EE file system because the area is being used by another process. command name = bb....bb (E) (NOS)

fcntl システムコールを使用して、TP1EE ファイルシステムをロックしているプロセスがあるため、TP1EE ファイルシステムとして初期化できません。

**aa....aa** : fcntl システムコールでロックされている TP1EE ファイルシステム領域名

**bb....bb** : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** fcntl システムコールを使用してロックしているプロセスを終了させて、コマンドを再実行してください。

## KFSB91528-E

TP1EE ファイルシステム領域(aa....aa)は、他プロセスで使用中的のため、処理を中止します。コマンド名= bb....bb

Processing will now stop because the TP1EE file system area (aa....aa) is being used by another process. command name = bb....bb (E) (NOS)

fcntl システムコールを使用して、TP1EE ファイルシステムをロックしているプロセスがあるため、コマンドの実行を中止します。

aa....aa : fcntl システムコールでロックされている TP1EE ファイルシステム領域名

bb....bb : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** fcntl システムコールを使用してロックしているプロセスを終了させて、コマンドを再実行してください。

## KFSB91529-E

TP1EE ファイル(aa....aa)は、他プロセスで使用中のため、処理を行いません。コマンド名 = bb....bb  
The processing will not be performed because the TP1EE file (aa....aa) is being used by another process. command name = bb....bb (E) (NOS)

TP1EE ファイルをロックしているプロセスがあるため、このファイルに対する処理を中止します。

aa....aa : ロックされている TP1EE ファイル名

bb....bb : 該当するコマンド名

(S)ロックされている TP1EE ファイルに対する処理をスキップします。

(O)ほかのプロセスが TP1EE ファイルを使用していないかどうか確認してください。

**【対策】** なし。

## KFSB91530-Q

ファイル(aa....aa)を TP1EE ファイルシステムとして初期化します。次の処理を選択してください。  
[t:停止 g:続行]  
The file (aa....aa) will now be initialized as a TP1EE file system. Select either of the following actions: [t: Stop g: Continue] (S) (NOS)

指定したファイルを初期化してもよいか、オペレータに応答を求めています。

aa....aa : 初期化対象の TP1EE ファイルシステム領域名

(S)オペレータが設定した応答に従って処理します。t または g のどちらも設定しない場合は、再度応答を求めます。

(O)処理を停止する場合は t を、処理を続行する場合は g を設定してください。t または g は、大文字でも受け付けられます。

[対策] なし。

## KFSB91531-E

容量不足が発生したため、TP1EE ファイルシステム領域(aa....aa)を TP1EE ファイルシステムとして初期化することができません。コマンド名 = bb....bb

The TP1EE file system area (aa....aa) cannot be initialized as a TP1EE file system because capacity is insufficient. command name = bb....bb (E) (NOS)

eefilmkfs の-n オプションで指定した容量を確保できないため、TP1EE ファイルシステムを初期化できません。

aa....aa : 初期化対象の TP1EE ファイルシステム領域名

bb....bb : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 次のどれかの対策をして、コマンドを再実行してください。

- 初期化する容量を減らす。
- 容量を満たすスペシャルファイルを指定する。
- ファイルシステム中にあるほかのファイルを削除する。

## KFSB91532-E

このコマンドは、スーパーユーザまたは TP1EE ファイルシステムの所有者だけが実行できます。コマンド名 = aa....aa

This command can be executed only by the superuser or the owner of the TP1EE file system. command name = aa....aa (E) (NOS)

このコマンドの実行権限がありません。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] スーパーユーザ、または TP1EE ファイルシステムの所有者が、コマンドを実行してください。

## KFSB91533-E

TP1EE ファイル(aa....aa)は存在しません。コマンド名 = bb....bb



The TP1EE file (aa....aa) does not exist. command name = bb....bb (E) (NOS)

該当する TP1EE ファイルは存在しません。または、指定したファイル名が不正です。そのため、ファイルを検索できません。

aa....aa : 指定した TP1EE ファイル名

bb....bb : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)TP1EE ファイルの有無を確認してください。

【対策】 なし。

### KFSB91534-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプションフラグ = b, 理由コード = ccccc  
The flag argument is invalid. command name = aa....aa, option flag = b, reason code = ccccc (E) (NOS)

ファイルサービスコマンドのフラグ引数の指定に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

b : 該当するオプションフラグ

cccccc : 理由コード

00001 : 指定値が設定範囲以外の値です。

00002 : 指定値が設定範囲以外の値です。

00003 : けた数が多過ぎます。

05057 : けた数が不正です。このフラグ引数は固定長です。

05058 : けた数が多過ぎます。このフラグ引数は可変長です。

05059 : 指定できない文字を指定しています。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB91535-E

コマンド引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbbbb  
The command argument is invalid. command name = aa....aa, reason code = bbbbbb (E) (NOS)

ファイルサービスコマンドのコマンド引数の指定に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbbbb : 理由コード

05003 : コマンド引数のけた数が多過ぎます。

その他の文字列 : コマンド引数解析中に内部矛盾が発生しました。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいコマンド引数を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】なし。

### KFSB91536-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bb....bb (E)  
(NOS)

ファイルサービスコマンドの形式に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 理由コード

05001 : 不正なオプションフラグがあります。

05053 : 不正なコマンド引数があります。

05054 : フラグ引数, または必要なコマンド引数がありません。

05055 : 必要なオプションフラグがありません。

05056 : 省略できないオプションフラグがありません。

その他 : 内部矛盾が発生しました。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

### KFSB91537-E

オプションフラグの組み合わせが不正です。コマンド名 = aa....aa

The combination of option flags is invalid. command name = aa....aa (E) (NOS)

ファイルサービスコマンドのオプションフラグの組み合わせに誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいオプションフラグの組み合わせで、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB91538-E

モード引数の指定が不正です。コマンド名 = aa....aa

The specification of the mode argument is invalid. command name = aa....aa (E) (NOS)

eefilchmod コマンドのモード引数の指定に誤りがあります。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)このメッセージの直後に出力されるコマンドの使用方法のメッセージに従い、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB91540-E

指定したログイン名(aa....aa)が存在しません。コマンド名 = bb....bb

The specified login name (aa....aa) does not exist. command name = bb....bb (E) (NOS)

指定したログイン名が、 /etc/passwd ファイルにありません。

aa....aa : 指定したログイン名

bb....bb : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)正しいログイン名を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB91541-E

指定したグループ名(aa....aa)が存在しません。コマンド名 = bb....bb

The specified group name (aa....aa) does not exist. command name = bb....bb (E) (NOS)

指定したグループ名が、 /etc/group ファイルに存在しません。

aa....aa : 指定したグループ名

bb....bb : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)正しいグループ名を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB91542-E

指定したユーザ ID が大きすぎます。コマンド名 = aa....aa

The specified user ID is too large. command name = aa....aa (E) (NOS)

指定したユーザ ID が 4294967295 を超えています。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)正しいユーザ ID を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB91543-E

指定したグループ ID が大きすぎます。コマンド名 = aa....aa

The specified group ID is too large. command name = aa....aa (E) (NOS)

指定したグループ ID が 4294967295 を超えています。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)正しいグループ ID を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB91547-I

コマンドが正常に終了しました。コマンド名 = aa....aa

The command has been executed successfully. command name = aa....aa (S) (NOS)

aa....aa : 正常終了したコマンド名

(S)なし。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB91548-E

正常に退避されていない TP1EE ファイルが存在するため、eefilbkup コマンドが警告終了しました。  
Execution of the eefilbkup command has resulted in termination with a warning because a TP1EE file that was not saved correctly exists. (E) (NOS)

退避できなかった TP1EE ファイル名は、このメッセージが出力される以前のメッセージ (KFSB91529-E, KFSB91581-E) で示しています。

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このメッセージが表示されたバックアップファイルは、eefilrstr コマンドで使用しないようにしてください。使用する場合は、以前のメッセージで示される TP1EE ファイルを正常に回復できません。バックアップ時に障害が発生した TP1EE ファイルには、障害発生以降、ナル文字 ('¥0') が書き込まれています。

## KFSB91549-E

eefilbkup コマンドでエラーが発生したため、処理を中止しました。  
Processing has stopped because an error occurred during execution of the eefilbkup command. (E) (NOS)

eefilbkup コマンドの処理で障害が発生しました。

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このメッセージ以前に出力されたメッセージで示される障害の原因を取り除き、eefilbkup コマンドを再実行してください。

## KFSB91551-I

使用方法: eefilstatfs [-w] [-l] [-p] TP1EE ファイルシステム領域名  
Usage: eefilstatfs [-w] [-l] [-p] <TP1EE-file-system-area-name> (S) (NOS)

eefilstatfs コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。なお、-p オプションは、OS が AIX の場合に使用できます。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB91570-E

バックアップファイルまたは TP1EE ファイルシステム領域(aa....aa)は、このコマンドで扱うことのできないバージョン(bb....bb)です。コマンド名= cc....cc

This command cannot handle this version (bb....bb) of a backup file or TP1EE file system area (aa....aa). command name = cc....cc (E) (NOS)

指定されたバックアップファイル，または TP1EE ファイルシステムは，このコマンドに指定できません。

aa....aa：指定されたバックアップファイル，または TP1EE ファイルシステム領域名

bb....bb：指定されたバックアップファイル，または TP1EE ファイルシステムのバージョン番号

cc....cc：該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 保守員に連絡してください。

## KFSB91571-E

TP1EE ファイルシステム領域(aa....aa)に対するアクセス権がありません。コマンド名= bb....bb

Access permission for the TP1EE file system area (aa....aa) does not exist. command name = bb....bb (E) (NOS)

TP1EE ファイルシステム領域に対するアクセス権がありません。

aa....aa：指定された TP1EE ファイルシステム領域名

bb....bb：該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 該当するファイルのアクセス権限を変更するか，またはアクセス権限のあるユーザでコマンドを再実行してください。

## KFSB91572-E

TP1EE ファイルシステム領域(aa....aa)のオープン処理で上限値オーバが報告されました。コマンド名= bb....bb

An exceeded upper limit was reported during open processing of the TP1EE file system area (aa....aa). command name = bb....bb (E) (NOS)

TP1EE ファイルシステム領域のオープンでオープンできるファイル数の上限値を超えました。

aa....aa : 指定された TP1EE ファイルシステム領域名

bb....bb : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 正しい値を指定するか、またはオープンしている不要なファイルをクローズして、コマンドを再実行してください。

### KFSB91573-E

TP1EE ファイルシステム領域(aa....aa)が存在しません。コマンド名 = bb....bb  
The TP1EE file system area (aa....aa) does not exist. command name = bb....bb (E) (NOS)

コマンドに指定された TP1EE ファイルシステム領域がありません。

aa....aa : 指定された TP1EE ファイルシステム領域名

bb....bb : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)正しい TP1EE ファイルシステム領域名を指定して、コマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

### KFSB91575-E

ファイル(aa....aa)は、TP1EE ファイルシステムを構築できるファイルではありません。コマンド名 = bb....bb  
The file (aa....aa) is not a file that can be used to construct a TP1EE file system. command name = bb....bb (E) (NOS)

指定されたファイルは、キャラクタ型スペシャルファイル、または通常ファイルではありません。キャラクタ型スペシャルファイルの場合は、ファイルはありますが、対応する装置がないおそれがあります。

aa....aa : 指定されたキャラクタ型スペシャルファイル名、または通常ファイル名

bb....bb : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)正しいキャラクタ型スペシャルファイル名, または通常ファイル名を指定して, コマンドを再実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB91576-E

```
ファイル(aa....aa)は, TP1EE ファイルシステムではありません。コマンド名= bb....bb  
The file (aa....aa) is not a TP1EE file system. command name = bb....bb (E) (NOS)
```

指定されたファイルが, TP1EE ファイルシステムではありません。

aa....aa : 指定されたキャラクタ型スペシャルファイル名, または通常ファイル名

bb....bb : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)正しいファイル名を指定して, コマンドを再実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB91577-E

```
このコマンドは, スーパユーザまたは TP1EE ファイルの所有者だけが実行できます。コマンド名=  
aa....aa  
This command can be executed only by the superuser or the owners of the TP1EE file.  
command name = aa....aa (E) (NOS)
```

コマンドの実行権限がありません。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 スーパユーザまたはファイルの所有者が, コマンドを実行してください。

#### KFSB91578-E

```
TP1EE ファイルシステムのロックに失敗しました。コマンド名= aa....aa  
An attempt to lock a TP1EE file system has failed. command name = aa....aa (E) (NOS)
```

ファイルシステムのロック処理で使用する fcntl システムコールで, ロックの上限値オーバが発生しました。

aa....aa : 該当するコマンド名



(S)コマンドの処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** ロックできるレコード数のシステム定数を変更して、システムを再構築してください。

#### KFSB91579-E

```
TP1EE ファイルのロックに失敗しました。コマンド名 = aa....aa  
An attempt to lock a TP1EE file has failed. command name = aa....aa (E) (NOS)
```

ファイルのロック処理で使用する fcntl システムコールで、ロックの上限値オーバが発生しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** ロックできるレコード数のシステム定数を変更して、システムを再構築してください。

#### KFSB91581-E

```
ファイル(aa....aa)で I/O エラーが発生しました。コマンド名 = bb....bb  
An I/O error has occurred in the file (aa....aa). command name = bb....bb (E) (NOS)
```

ディスクの入出力エラーが発生したため、処理を終了しました。

aa....aa : 入出力エラーの発生した TP1EE ファイル、またはバックアップファイル名

bb....bb : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

#### KFSB91582-E

```
領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb  
An attempt to allocate area has failed. command name = aa....aa, size requested =  
bb....bb (E) (NOS)
```

ファイルサービスコマンドの処理で、必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB91583-E

```
TP1EE ファイルシステム領域(aa....aa)で I/O エラーが発生しました。コマンド名= bb....bb  
An I/O error has occurred in the TP1EE file system area (aa....aa). command name =  
bb....bb (E) (NOS)
```

TP1EE ファイルシステムの管理領域で入出力エラーが発生しました。

aa....aa : TP1EE ファイルシステムがある TP1EE ファイルシステム領域名

bb....bb : 該当するコマンド名

(S) コマンドの処理を終了します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB91599-E

```
内部矛盾が発生しました。コマンド名= aa....aa, 詳細コード= bb....bb  
An internal conflict has occurred. command name = aa....aa, detail code = bb....bb (E)  
(NOS)
```

ファイルサービスコマンドの処理で予期しない障害が発生したので、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 次に示す内容を確認しても原因がわからない場合は、保守員に連絡してください。また、コマンドプロセスが強制停止した場合は、コアファイルを保存して保守員に連絡してください。

- eefilmkfs コマンドのオプション、またはコマンドの引数に問題がないか。
- ファイルシステムの属性に問題がないか。

## KFSB91801-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

The command format is incorrect. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E)  
(NOS)

コマンドの引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bbbb** : 理由コード

0001 : オプションフラグに不正があります。

0002 : 必要なフラグ引数がありません。

0003 : 引数に不正があります。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しい引数を指定して、コマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB91802-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb, 理由コード = cccc

A flag argument is incorrect. command name = aa....aa, option = bb, reason code = cccc  
(E) (NOS)

コマンドのオプションに誤りがあったため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb** : 誤りがあったオプションフラグ

**cccc** : 理由コード

0004 : フラグ引数に指定した内容が不正です。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB91803-E

コマンドの引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

A command argument is incorrect. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E)  
(NOS)

コマンドの引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbb : 理由コード

0001 : ユーザーバ格納ディレクトリの指定が不正です。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しい引数を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】なし。

### KFSB91804-E

コマンドの実行環境が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

The command execution environment is incorrect. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E) (NOS)

コマンドの実行環境に不正があったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbb : 理由コード

0001 : すでに環境設定が済んでいるか、または旧バージョンの環境が残っています。

0002 : コマンドを実行したユーザは OpenTP1 システム管理者ではありません。

0003 : dcsetup コマンドが実行されていません。

0004 : TP1/EE のバージョンが古いか、または TP1/EE が正しくインストールされていません。

0005 : 環境設定がされていません。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)理由コードに従って環境を設定し、コマンドを再実行してください。

【対策】なし。

### KFSB91805-E

内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bbbb

An internal contradiction occurred. command name = aa....aa, detail code = bbbb (E)  
(NOS)

コマンド処理で予期しない障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

#### KFSB91806-E

領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb

Area allocation failed. command name = aa....aa, required size = bb....bb (E) (NOS)

コマンド処理に必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 要求されたメモリのサイズ (単位: バイト)

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。再びこのメッセージが出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

#### KFSB91807-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc

A command failed. command name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code = cc....cc  
(E) (NOS)

コマンド実行中にエラーが発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0004	コマンド内で実行するシステムコールで、コマンド処理を続行できないエラーが発生しました。	このメッセージの前に出力された <a href="#">KFSB40107-E</a> を参照して原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

## KFSB91808-E

重複したユーザサーバがあります。ユーザサーバ名 = aa....aa  
Duplicate user servers exist. user server name = aa....aa (E) (NOS)

ユーザサーバ名が重複しています。

aa....aa : ユーザサーバ名

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいユーザサーバ名を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91810-E

引継ぎファイルの作成に失敗しました。ファイル名 = aa....aa  
Creation of an intermediate file failed. file name = aa....aa (E) (NOS)

引き継ぎファイル（ステータスファイル）の作成に失敗したため、処理を中止しました。

aa....aa : 障害の発生したファイル名

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)対策の項目を確認、修正し、コマンドを再実行してください。

【対策】 次の事項を確認してください。

- aa....aa の書き込み権限があるか。
- aa....aa と同じ名称でディレクトリが作成されていないか。
- ディスク容量が不足していないか。

## KFSB91811-E

MCP用ライブラリのローディングに失敗しました。ライブラリ名 = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc, 詳細コード 3 = dd....dd  
Failed to load the MCP library. library name = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc, detail code 3 = dd....dd (E) (NOS)

MCP 用ライブラリのローディングに失敗しました。

aa....aa : ローディングに失敗したライブラリ名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 環境変数 LIBPATH\*に MCP のライブラリパスを設定してください。

注※

OS が Linux の場合は、LD\_LIBRARY\_PATH です。

## KFSB91812-E

コマンド形式定義の定義解析中にエラーが発生しました。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, 定義名 = cc....cc, オプションフラグ = dd....dd, オペランド名 = ee....ee, 理由コード = ff....ff

An error occurred while a command format definition was being analyzed. file name = aa....aa, line = bb....bb, definition name = cc....cc, option flag = dd....dd, operand name = ee....ee, reason code = ff....ff (E) (NOS)

定義ファイルの定義コマンドを解析中にエラーが発生しました。

aa....aa : 障害が発生したファイルパス

bb....bb : 不正があった行の行番号

行番号に関係のない場合は、\*\*を表示します。

cc....cc : 定義コマンド名

複数の定義コマンドに関係のある場合は、:で区切って複数表示します。

dd....dd : オプションフラグ

複数のオプションフラグに関係のある場合は、:で区切って複数表示します。オプションフラグに関係のない場合は、\*\*を表示します。

ee....ee : オペランド名

複数のオペランドに関係のある場合は、:で区切って複数表示します。オペランドに関係のない場合は、\*\*を表示します。

ff....ff : 理由コード

DUPLICATE : オプションフラグまたはオペランドを重複して指定しています。

FLAG：オプションフラグに指定したフラグ引数が不正であるか、または指定できないフラグを指定しています。

MAX：最大定義数を超過しました。

MEMORY：定義解析用の作業領域の確保に失敗しました。

MIN：最小定義数を超過しました。または、省略できない定義コマンドを定義していません。

NOTHING：省略できない定義コマンド、オプションフラグまたはオペランドを指定していません。

OPERAND：オペランドに指定した値が不正であるか、または指定できないオペランドを指定しています。

OVER：指定内容が多過ぎます。または、フラグ引数のどれかに空白が含まれているおそれがあります。

(S)解析を中止します。コマンドは異常終了します。

(O)理由コードを見て対処してください。

理由コードが MEMORY の場合

しばらく待ってからコマンドを再実行してください。再発する場合、OpenTP1 管理者に連絡してください。

理由コードが MEMORY 以外の場合

OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コードが MEMORY の場合は、OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。定義ファイルの bb...bb 行目に指定した定義コマンドを理由コードを参照して見直し、コマンドを再実行してください。

## KFSB91850-I

使用方法：eesvstart -u ユーザサーバ名 1 [,ユーザサーバ名 2 ...] [-a {N | R}]

Usage: eesvstart -u <user-server-name1>[,<user-server-name2>...] [-a {N | R}] (S) (NOS)

eesvstart コマンドの使用法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB91851-I

使用方法：eesvstop [-a|-b|-f|-df] ユーザサーバ名 1 [ ユーザサーバ名 2 ...]

Usage: eesvstop [-a|-b|-f|-df] <user-server-name1>[ <user-server-name2>...] (S) (NOS)

eesvstop コマンドの使用法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。



(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

#### KFSB91852-I

使用方法: eeadmccsetup [-d] [ユーザプログラムファイルディレクトリ]

Usage: eeadmccsetup [-d] [<user-program-file-directory>] (S) (NOS)

eeadmccsetup コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

#### KFSB91853-I

使用方法: eedefchk -t {syntax|detail} EE サービス定義ファイル名

Usage: eedefchk -t {syntax|detail} <EE-service-definition-file-name> (S) (NOS)

eedefchk コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

データ連携支援の場合は、EE サービス定義ファイルではなく、データ連携支援制御情報ファイルを指定してください。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

#### KFSB91854-I

定義チェック処理を終了します。チェック結果 = aa....aa, メモリ算定量 = bb....bb バイト,  
max\_mem\_size = cc....cc バイト

Definition checking will now end. check result = aa....aa, memory = bb....bb bytes,  
max\_mem\_size = cc....cc bytes (S) (NOS)

定義チェック処理が終了し、チェック対象の定義内容から算出したメモリ量を表示します。

## aa....aa : チェック結果

OK : 定義チェック処理は正常に終了しました。eedefchk コマンドの-t オプションに detail を指定した場合は、メモリ量を算出します。

CHK\_NG : 定義チェック中に定義不正を検出しました。メモリ量は算出しません。

MEM\_NG : 定義チェック中にメモリ確保処理で失敗しました。メモリ量は算出しません。

## bb....bb : メモリ算出量

eedefchk コマンドの-t オプションに syntax を指定した場合  
\*\*\*\*を表示します。

eedefchk コマンドの-t オプションに detail を指定した場合  
aa....aa が OK 以外のときは、\*\*\*\*を表示します。aa....aa が OK のときは、TP1/EE の起動に必要な最低限のメモリ量を表示します。

## cc....cc : メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドで指定した値

aa....aa が OK 以外のときは、\*\*\*\*を表示します。

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)

eedefchk コマンドの-t オプションに syntax を指定した場合は、チェック結果に従って、次に示す対応をしてください。

OK

本番環境や定義詳細チェックを行う環境ではメモリ算出量を上回る値をメモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドに指定してください。また、警告メッセージが出力されている場合は、必要に応じて定義を修正してください。

CHK\_NG

このメッセージより前に出力されたメッセージに従って定義を修正してください。

eedefchk コマンドの-t オプションに detail を指定した場合は、チェック結果に従って、次に示す対応をしてください。

OK

本番環境では、必ずメモリ算出量以上の値をメモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドの値に指定してください。また、警告メッセージが出力されている場合は、必要に応じて定義を修正してください。

CHK\_NG

このメッセージより前に出力されたメッセージに従って定義を修正してください。

MEM\_NG

メモリ関連定義の max\_mem\_size オペランドに指定したサイズの空きメモリがあるかどうか確認してください。また、ulimit コマンドを実行したり、環境変数 LDR\_CNTRL を調査したりして、使用できるメモリが制限されていないかどうか確認してください。

[対策] なし。

## KFSB91855-I

定義チェック処理を開始します。eedefchk コマンドのバージョン (aa....aa)

```
Definition checking will now start. version of the eedefchk command = aa....aa (S) (NOS)
```

定義チェックの処理を開始します。

aa....aa : eedefchk コマンドのバージョン

実行した eedefchk コマンドのバージョンを表示します。

(S)コマンド処理を開始します。

(O)チェック対象の定義と eedefchk コマンドのバージョンが一致していることを確認してください。一致していない場合は、チェック対象の定義と同じバージョンのコマンドで再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB91856-I

定義チェック処理を終了します。チェック結果 = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc

```
Definition checking will now end. check result = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc (S) (NOS)
```

定義チェック処理でエラーが発生したため、定義チェック処理を終了します。

aa....aa : 定義チェック結果

NG : 定義チェック中に定義不正を検出しました。

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)このメッセージより前に出力されたメッセージに従って定義を修正してください。定義を修正してもこのメッセージが出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] なし。

## KFSB91857-I

使用方法 : eerksdefchk -t {syntax|detail} 制御情報ファイル名

```
Usage: eerksdefchk -t {syntax|detail} <control-information-file-name> (S) (NOS)
```

eerksdefchk コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91858-I

使用方法：eebppdefchk -t {syntax|detail} オフラインバッチ定義ファイル名

Usage: eebppdefchk -t {syntax|detail} <offline-batch-process-definition-file-name> (S)  
(NOS)

eebppdefchk コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91901-E

failed to initialize. reason code= aa....aa, detail code=bb....bb (E) (NOS)

ログの初期化で障害が発生しました。メッセージを出力できません。

aa....aa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)理由コードが OTHER の場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
ENVIRON	環境変数 DCDIR を取得できません。	環境変数 DCDIR が設定されているかどうか確認してください。

理由コード	意味	対策
CATALOG	メッセージオブジェクトファイルをオープンできません。	所定のディレクトリに、使用するシステムの言語環境に対応したメッセージオブジェクトファイルがあるかどうか確認してください。
MEMORY	メモリを確保できません。	しばらくしてから再実行してください。繰り返し発生する場合は、不要なプロセスを停止する、メモリを増やすなどの対策をしてください。
OTHER	その他の障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB91902-E

failed to close. detail code1= aa....aa, detail code2=bb....bb (E) (NOS)

ログの終了処理で障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB91903-E

failed in the assembly of the message. detail code1=aa....aa, detail code2=bb....bb, detail information=cc....cc (E) (NOS)

メッセージの組み立て処理で障害が発生しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : 詳細情報

出力に失敗したメッセージ番号と詳細情報を、ハイフンで区切って出力します。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB91911-E

メモリが確保できません。

No memory can be allocated. (E) (NOS)

TP1/EE でメモリ確保できなかったため、コマンド処理できませんでした。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドを再実行してください。

繰り返し発生する場合、OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**[対策]** 繰り返し発生する場合、保守員に連絡してください。

## KFSB91912-E

コマンド処理でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc

A command processing error occurred. command name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code = cc....cc (E) (NOS)

コマンド実行中にエラーが発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を途中で中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	データの通信に失敗しました。	TP1/EE との通信障害の原因を調査し、取り除いてください。
0002	TP1/EE プロセス側でエラーが発生しました。	詳細コードを保守員に連絡してください。
0003	設定されたサービスグループ名が見つかりません。	正しいサービスグループ名を設定してコマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE の起動後にコマンドを再実行してください。
0005	メッセージエラーが発生しました。	詳細コードを保守員に連絡してください。
0006	内部矛盾が発生しました。	詳細コードを保守員に連絡してください。

## KFSB91913-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb [,cc....cc]  
The command format is incorrect. command name = aa....aa, reason code =  
bbbb[,cc....cc] (E) (NOS)

コマンドの引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

**aa....aa** : コマンド名

**bbbb** : 理由コード

- 0001 : 不正なオプションフラグを使用しています。
- 0002 : 必要なフラグ引数がありません。
- 0003 : 必要なオプションフラグがありません。
- 0004 : コマンド引数の個数が多過ぎます。

**cc....cc** : フラグ名称

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しい引数を設定して、コマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB91914-E

コマンド引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb [,cc....cc]  
A command argument is incorrect. command name = aa....aa, reason code =  
bbbb[,cc....cc] (E) (NOS)

コマンド引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

**aa....aa** : コマンド名

**bbbb** : 理由コード

- 0001 : 必要なコマンド引数がありません。
- 0002 : コマンド引数の長さが不正です。
- 0003 : 文字属性が不正です。
- 0004 : 指定値が指定範囲以外です。
- 0005 : 指定された値または名称が、不正または見つかりません。

**cc....cc** : フラグ名称

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいコマンド引数を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB91920-I

出力抑止対象のメッセージがありません。理由コード = aaaa

No message about the output suppression target exists. reason code = aaaa (S) (NOS)

出力抑止対象のメッセージがありません。

aaaa : 理由コード

0001 : メッセージの出力抑止機能が有効になっていません。

0002 : 出力抑止中のメッセージがありません。

(S)なし。

(O)なし。

【対策】 なし。

## KFSB92001-I

使用方法 : eeaphdsprks -k データ連携支援 I D -m セグメント識別子

Usage: eeaphdsprks -k <data-linkage-support-ID> -m <segment-identifier> (S) (NOS)

eeaphdsprks コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB92002-I

使用方法 : eeaphstprks -k データ連携支援 I D [-m セグメント識別子] {-a|-b|-c|-f [-d]}

Usage: eeaphstprks -k <data-linkage-support-ID> [-m <segment-identifier>] {-a|-b|-c|-f [-d]} (S) (NOS)

eeaphstprks コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。



## KFSB92003-I

使用方法：eeaphjtblh -p P J 引継ぎ情報名 [-z 最大履歴情報長] [-c 引継ぎ履歴情報数] [-b 表格納用RDエリア名] [-i インデクス格納用RDエリア名] [-o 同期点行数] {[r {a|b}] [-x]}

Usage: eeaphjtblh -p <PJ-checkpoint-information-name> [-z <maximum-length-of-log-information>] [-c <number-of-checkpoint-log-information>] [-b <RD-area-name-for-table-storage>] [-i <RD-area-name-for-index-storage>] [-o <number-of-synchronization-point-lines>] {[r {a|b}] [-x]} (S) (NOS)

eeaphjtblh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB92004-I

使用方法：eeaphjtblrmh -p P J 引継ぎ情報名

Usage: eeaphjtblrmh -p <PJ-checkpoint-information-name> (S) (NOS)

eeaphjtblrmh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB92005-I

コマンドの受付が成功しました。コマンド名 = aa....aa

The command was accepted successfully. command name = aa....aa (S) (NOS)

コマンドの受け付けが成功しました。

aa....aa：該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB92006-E

データ連携支援は、コマンドを受け付ける状態ではありません。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

Data linkage support is unable to accept the command. command name = aa....aa, reason code = bb....bb (E) (NOS)

データ連携支援は、コマンドを受け付ける状態ではありません。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 理由コード

0001 : データ連携支援が開始処理中です。

0002 : データ連携支援が終了処理中, または中断中です。

0003 : データ連携支援が中断コマンドの受け付け済みです。

0004 : データ連携支援が停止中, または -m オプションに指定したセグメント識別子に対応するデータ連携支援が見つかりません。

0005 : -k オプションに指定したデータ連携支援 ID に対応するデータ連携支援が見つかりません。

0006~0010 : 強制停止できませんでした。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コードで出力されたコード一覧に従って対策してください。

理由コード	対策
0001	開始処理終了後にコマンドを再実行してください。
0002	なし。
0003	
0004	-m オプションの指定に誤りがある場合は, 正しい形式でコマンドを再実行してください。
0005	-k オプションまたは -m オプションの指定に誤りがある場合は, 正しい形式でコマンドを再実行してください。
0006	次を確認し, 問題がなければ, 保守員に連絡してください。
0007	• 環境変数 EERKSDIR が設定されていない
0008	• データ連携支援が起動中でない
0009	• ファイルディスクリプタ不足
0010	

## KFSB92007-E

表情報はありません。コマンド名 = aa....aa, P J 引継ぎ情報名 = bb....bb, 対象 = cc....cc, 表名 = dd....dd, 詳細コード = ee....ee

The table information does not exist. command name = aa....aa, PJ checkpoint information name = bb....bb, object = cc....cc, table name = dd....dd, detail code = ee....ee (E) (NOS)

表情報はありません。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : PJ 引き継ぎ情報名

cc....cc : 処理の対象

0010 : PJ 管理表

0011 : PJ 突き合わせ表

dd....dd : PJ 管理表, または PJ 突き合わせ表の表名

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)処理の対象で出力されたコード一覧に示す原因を取り除き, コマンドを再実行してください。

【対策】 処理の対象で出力されたコード一覧に従って対策してください。

処理の対象	対策
0010	表名で出力された PJ 管理表名を確認してください。また, DROP TABLE 文などによって表を削除していないか確認してください。
0011	表名で出力された PJ 突き合わせ表名を確認してください。また, DROP TABLE 文などによって表を削除していないか確認してください。

## KFSB92008-E

表の構造不正を検知しました。コマンド名 = aa....aa, P J 引継ぎ情報名 = bb....bb, 対象 = cc....cc, 表名 = dd....dd, 理由コード = eeee, 詳細コード = ff....ff

A table structure error was detected. command name = aa....aa, PJ checkpoint information name = bb....bb, object = cc....cc, table name = dd....dd, reason code = eeee, detail code = ff....ff (E) (NOS)

表の構造不正を検知しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : PJ 引き継ぎ情報名

cc....cc : 処理の対象

0010 : PJ 管理表

0011 : PJ 突き合わせ表

dd....dd : PJ 管理表, または PJ 突き合わせ表の表名

eeee : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ff....ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)理由コード一覧に示す原因を取り除き, コマンドを再実行してください。

**【対策】** 接続先の DBMS のバージョンが, TP1/EE が前提としているバージョンかどうか確認してください。バージョンが正しい場合は, 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0101	表の構造が不正です。	dd....dd で示す表が, eeaphjtblh/erksaphjtblh コマンドで作成した表かどうか確認してください。eeaphjtblh/erksaphjtblh コマンドで作成した表の場合は, 表の作成後に ALTER TABLE 文などによって表定義を変更していないか確認してください。表定義を変更している場合は, 次の対策をしてください。表定義を変更していない場合は, 保守員に連絡してください。  処理対象が PJ 管理表の場合 DROP TABLE 文を実行して, 該当する PJ 引き継ぎ情報の対象である PJ 管理表および PJ 突き合わせ表を削除してください。 該当する PJ 引き継ぎ情報を削除したあとで, 必要に応じて eeaphjtblh/erksaphjtblh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を作成してください。  処理対象が PJ 突き合わせ表の場合 DROP TABLE 文を実行して該当する PJ 突き合わせ表を削除してください。 該当する PJ 突き合わせ表の削除後, eeaphjtblh/erksaphjtblh コマンドで該当する PJ 引き継ぎ情報を削除してください。 該当する PJ 引き継ぎ情報を削除したあとで, 必要に応じて eeaphjtblh/erksaphjtblh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を作成してください。
0102	表の列の構造が不正です。	
0201	表の注釈の内容が不正です。	dd....dd で示す表が eeaphjtblh/erksaphjtblh コマンドで作成した表かどうか確認してください。eeaphjtblh/erksaphjtblh コマンドで作成した表の場合は, 表の作成後に COMMENT 文などで表の注釈を変更していないか確認してください。表の注釈を変更している場合は, 次の対策をしてください。表の注釈を変更していない場合は, 保守員に連絡してください。  処理対象が PJ 管理表の場合 DROP TABLE 文を実行して, 該当する PJ 引き継ぎ情報の対象である PJ 管理表および PJ 突き合わせ表を削除してください。

理由コード	意味	対策
0201	表の注釈の内容が不正です。	<p>該当する PJ 引き継ぎ情報を削除したあとで、必要に応じて eeaphjtblh/eerksaphjtblh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を作成してください。</p> <p>処理対象が PJ 突き合わせ表の場合</p> <p>DROP TABLE 文を実行して該当する PJ 突き合わせ表を削除してください。</p> <p>該当する PJ 突き合わせ表の削除後、eeaphjtblrmh/eerksaphjtblrmh コマンドで該当する PJ 引き継ぎ情報を削除してください。</p> <p>該当する PJ 引き継ぎ情報を削除したあとで、必要に応じて eeaphjtblh/eerksaphjtblh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を作成してください。</p>
0301	表に格納されている行数が不正です。	dd....dd で示す表が eeaphjtblh/eerksaphjtblh コマンドで作成した表かどうか確認してください。eeaphjtblh/eerksaphjtblh コマンドで作成した表の場合は、表の作成後にデータ連携支援が提供するコマンドや、データ抽出ユティリティの API 以外で表を更新していないか確認してください。表を変更している場合は、次の対策をしてください。表を変更していない場合は、保守員に連絡してください。
0302	表に格納されている値が不正です。	<p>処理対象が PJ 管理表の場合</p> <p>DROP TABLE 文を実行して、該当する PJ 引き継ぎ情報の対象である PJ 管理表および PJ 突き合わせ表を削除してください。</p> <p>該当する PJ 引き継ぎ情報を削除したあとで、必要に応じて eeaphjtblh/eerksaphjtblh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を作成してください。</p> <p>処理対象が PJ 突き合わせ表の場合</p> <p>DROP TABLE 文を実行して、該当する PJ 突き合わせ表を削除してください。</p> <p>該当する PJ 突き合わせ表の削除後、eeaphjtblrmh/eerksaphjtblrmh コマンドで該当する PJ 引き継ぎ情報を削除してください。</p> <p>該当する PJ 引き継ぎ情報を削除したあとで、必要に応じて eeaphjtblh/eerksaphjtblh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を作成してください。</p>
0401	表が未完成です。	<p>該当する表を作成している eeaphjtblh/eerksaphjtblh コマンドを実行中でないか確認してください。</p> <p>コマンドの実行中の場合は、コマンドが終了するのを待ってコマンドを再実行してください。</p> <p>コマンドの実行中ではない場合は、dd....dd で示す表が eeaphjtblh/eerksaphjtblh コマンドで作成した表かどうか確認してください。</p> <p>eeaphjtblh/eerksaphjtblh コマンドで作成した表の場合は、eeaphjtblrmh/eerksaphjtblrmh コマンドで該当する PJ 引き継ぎ情報を削除してください。該当する PJ 引き継ぎ情報を削除したあとで、必要に応じて eeaphjtblh/eerksaphjtblh コマンドで PJ 引き継ぎ情報を作成してください。</p>

理由コード	意味	対策
0402	PJ 突き合わせ表の拡張が完了していません。	該当する PJ 突き合わせ表を拡張している eeaphjtblh/eerksaphjtblh -x コマンドの実行中でないか確認してください。 コマンドの実行中の場合は、コマンドが終了するのを待ってコマンドを再実行してください。 コマンドの実行中ではない場合は、dd....dd で示す PJ 突き合わせ表が eeaphjtblh/eerksaphjtblh -x コマンドでの拡張に失敗した表かどうか確認してください。拡張に失敗した表の場合は、eeaphjtblh/eerksaphjtblh -x コマンドで PJ 突き合わせ表の拡張を完了させてください。PJ 突き合わせ表の拡張に失敗していない場合は、保守員に連絡してください。
0501	表に格納されている値が不正です。	理由コード 0302 の対策を参照してください。
9000	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB92009-E

SQL 実行時にエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, PJ 引継ぎ情報名 = bb....bb, 対象 = cc....cc, 表名 = dd....dd, DBMS メッセージ = ee....ee, SQLCODE = ff....ff, 詳細コード = gg....gg

An error occurred during SQL execution. command name = aa....aa, PJ checkpoint information name = bb....bb, object = cc....cc, table name = dd....dd, DBMS message = ee....ee, SQLCODE = ff....ff, detail code = gg....gg (E) (NOS)

SQL 実行時にエラーが発生しました。

**aa....aa** : コマンド名

**bb....bb** : PJ 引き継ぎ情報名

**cc....cc** : 処理の対象

0006 : DBMS との接続

0007 : DBMS との切り離し

0008 : コミット

0009 : ロールバック

0010 : PJ 管理表

0011 : PJ 突き合わせ表

**dd....dd** : PJ 管理表, PJ 突き合わせ表の表名

処理の対象が 0006, 0007, 0008, または 0009 の場合は, \*を表示します。

**ee....ee** : DBMS のエラーメッセージ

**ff....ff** : SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

gg....gg : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

**【対策】** 接続先の DBMS のバージョンが、TP1/EE が前提としているバージョンかどうか確認してください。バージョンが正しい場合は、次の対策をしてください。

SQLCODE が-770 の場合

データ連携支援が提供するコマンドのうち、dd....dd で示す表を使用するコマンドが実行中でないか確認してください。コマンドの実行中の場合は、コマンドが終了するのを待ってコマンドを再実行してください。

上記以外の場合

DBMS のエラーメッセージ、および SQLCA 構造体の状態変数を基に、DBMS のマニュアルを参照して原因を取り除いてください。

## KFSB92010-I

P J 突合せ表のデータ部を作成しています。コマンド名 = aa....aa, P J 引継ぎ情報名 = bb....bb, P J 突合せ表名 = cc....cc, 現在時刻 = YYYY/MM/DD hh:mm:ss, 行数 = dd....dd (ee....ee%)

The data division of the PJ comparison table is being created. command name = aa....aa, PJ checkpoint information name = bb....bb, PJ comparison table name = cc....cc, current time = YYYY/MM/DD hh:mm:ss, number of lines = dd....dd (ee....ee%) (S) (NOS)

PJ 突き合わせ表のデータ部を作成しています。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : PJ 引き継ぎ情報名

cc....cc : PJ 突き合わせ表名

YYYY/MM/DD hh:mm:ss : 現在時刻

YYYY : 年 (西暦)

MM : 月

DD : 日

hh : 時

mm : 分

ss : 秒

時刻を取得できなかった場合は、\*\*\*\*/\*\*/\*\* \*\*:\*\*:\*\*を表示します。

dd....dd : 作成が完了したデータ部の行数

ee....ee : データ部の作成の進捗よく率 (小数点以下切り捨て)

(S)コマンド処理を続行します。

(O)なし。

[対策] なし。

#### KFSB92011-I

```
コマンドが成功しました。コマンド名 = aa....aa, PJ 引継ぎ情報名 = bb....bb, 詳細コード = cc....cc  
Command execution was successful. command name = aa....aa, PJ checkpoint information  
name = bb....bb, detail code = cc....cc (S) (NOS)
```

コマンドが成功しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : PJ 引き継ぎ情報名

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

[対策] なし。

#### KFSB92012-E

```
コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, PJ 引継ぎ情報名 = bb....bb, 対象 = cc....cc, 表  
名 = dd....dd, 理由コード = eeee, 詳細コード = ff....ff  
Command execution failed. command name = aa....aa, PJ checkpoint information name =  
bb....bb, object = cc....cc, table name = dd....dd, reason code = eeee, detail code = ff....ff  
(E) (NOS)
```

コマンド実行中にエラーが発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : PJ 引き継ぎ情報名

cc....cc : 処理の対象

0010 : PJ 管理表

0011 : PJ 突き合わせ表

dd....dd : PJ 管理表, または PJ 突き合わせ表の表名



eeee : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ff...ff : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)理由コード一覧に示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	作成予定の表がすでに存在しています。	表名を確認してください。 表を再作成したい場合は、次の方法で表を削除したあとで、コマンドを再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• eeaphpjtblh/eerksaphpjtblh コマンドで作成した表の場合は、eeaphpjtblrmh/eerksaphpjtblrmh コマンドを実行してください。</li><li>• eeaphpjtblh/eerksaphpjtblh コマンド以外で作成した表の場合は、DROP TABLE 文などで削除してください。</li></ul>
9000	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB92013-E

表の削除に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, P J 引継ぎ情報名 = bb....bb, 対象 = cc....cc, 表名 = dd....dd, 詳細コード = ee....ee

An attempt to delete the table failed. command name = aa....aa, PJ checkpoint information name = bb....bb, object = cc....cc, table name = dd....dd, detail code = ee....ee (E) (NOS)

表の作成処理でエラーが発生したため、作成済みの表を削除しようとしたのですが、削除に失敗しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : PJ 引き継ぎ情報名

cc....cc : 処理の対象

0001 : PJ 管理表

0002 : PJ 突き合わせ表

dd....dd : PJ 管理表, または PJ 突き合わせ表の表名

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)PJ 引き継ぎ情報名を-p オプションに指定して、eeaphpjtblrmh/eerksaphpjtblrmh コマンドを実行してください。表を削除できない場合は、DROP TABLE 文などで削除してください。

[対策] なし。

## KFSB92014-E

SQL実行時にエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, PJ引継ぎ情報名 = bb....bb, 対象 = cc....cc, 理由コード = dddd, エラーコード = ee....ee, 詳細コード = ff....ff

An error occurred during SQL execution. command name = aa....aa, PJ checkpoint information name = bb....bb, object = cc....cc, reason code = dddd, error code = ee....ee, detail code = ff....ff (E) (NOS)

SQL実行時にエラーが発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : PJ引き継ぎ情報名

cc....cc : 処理の対象

0001 : 接続ハンドルの割り当て

0002 : 接続ハンドルの解放

dddd : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

ee....ee : SQL実行時のエラーコード

ff....ff : TP1/EEがトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)理由コード一覧に示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

[対策] 接続先のDBMSのバージョンが、TP1/EEが前提としているバージョンかどうか確認してください。バージョンが正しい場合は、理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	メモリが不足しています。	しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OS全体のメモリ使用状況を確認してください。
9000	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB92015-E

オプションの組み合わせが不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション1 = bb, オプション2 = cc

The combination of options is invalid. command name = aa....aa, option 1 = bb, option 2 = cc (E) (NOS)

オプションの組み合わせに誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb : 組み合わせが不正なオプション 1

cc : 組み合わせが不正なオプション 2

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいオプションを指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB92016-I

P J 突合せ表の引継ぎ履歴情報数は指定数以上存在するため、拡張しませんでした。コマンド名 = aa....aa, P J 引継ぎ情報名 = bb....bb, P J 突合せ表名 = cc....cc

The PJ comparison table was not expanded because the specified value was less than or equal to the number of checkpoint log information in the table. command name = aa....aa, PJ checkpoint information name = bb....bb, PJ comparison table name = cc....cc (S) (NOS)

PJ 突き合わせ表の引き継ぎ履歴情報数が指定された値以上に存在するため、拡張しませんでした。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : PJ 引き継ぎ情報名

cc....cc : PJ 突き合わせ表名

(S)コマンド処理を続行します。

(O)なし。

【対策】 なし。

## KFSB92017-E

SQL 実行時にエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, P J 引継ぎ情報名 = bb....bb, 対象 = cc....cc, 表名 = dd....dd, SQL CODE = ee....ee, SQL WARN = ff....ff, 詳細コード = gg....gg

An error occurred during SQL execution. command name = aa....aa, PJ checkpoint information name = bb....bb, object = cc....cc, table name = dd....dd, SQLCODE = ee....ee, SQLWARN = ff....ff, detail code = gg....gg (E) (NOS)

SQL 実行時にエラーが発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : PJ 引き継ぎ情報名

cc....cc : 処理の対象

0001 : PJ 管理表

0002 : PJ 突き合わせ表

dd....dd : PJ 管理表, または PJ 突き合わせ表の表名

ee....ee : SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

ff....ff : SQL 実行時の SQLCA 構造体の警告情報 (sqlwarn0~sqlwarnf)

sqlwarn0 から sqlwarnf を連続で表示します。警告情報が空白のときは, \*を表示します。

gg....gg : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) コマンド処理を終了します。

(O) 原因を取り除き, 再実行してください。

**【対策】** 接続先の DBMS のバージョンが, TP1/EE が前提としているバージョンかどうか確認してください。SQLCA 構造体の状態変数と警告情報を基に, DBMS のマニュアルを参照して原因を取り除いてください。

## KFSB92020-I

データ連携支援の終了情報: データ連携支援 ID = aa....aa, UAP 履歴情報グループ名 = bb....bb, ルート世代番号 = ccccccc, 世代番号 = dddddddd, 履歴情報表名 = ee....ee, 累積データ通番 = ff....ff (gg....gg), 最大累積データ通番 = hh....hh

Data linkage support termination information: data linkage support ID = aa....aa, UAP log information group name = bb....bb, root generation number = ccccccc, generation number = dddddddd, log information table name = ee....ee, accumulated data number = ff....ff (gg....gg), maximum accumulated data number = hh....hh (S) (NOS)

データ連携支援の終了情報を出力します。

aa....aa : データ連携支援 ID

bb....bb : UAP 履歴情報グループ名

ccccccc : 終了したルート世代番号 (8 けたの 16 進数)

ddddddd : 最終世代番号 (8 けたの 16 進数)

ee....ee : 最終世代番号に対応する履歴情報表名

ff...ff : 仕掛中累積データ通番 (16 けたの 16 進数)

反映サービス処理が完了していないユーザデータ (UJ) の最小の累積データ通番を設定します。トランザクション内で複数の UAP 履歴情報を取得している場合、先頭のユーザデータ (UJ) の累積データ通番となります。

反映サービス処理が完了しているときは、最終累積データ通番と同じ値を設定します。

gg...gg : 最終累積データ通番 (16 けたの 16 進数)

反映サービス処理が完了したユーザデータ (UJ) の最終累積データ通番を設定します。

hh...hh : 最大累積データ通番 (16 けたの 16 進数)

オンライン (TP1/EE) が出力した最大の累積データ通番を設定します。

抽出対象がリロード用履歴情報表の場合は、すべて 0 が表示されます。

(S) データ連携支援のプロセスを強制停止します。

(O) なし。

【対策】 なし。

## KFSB92021-I

```
使用方法: eerksaphjtblh -p P J 引継ぎ情報名 [-z 最大履歴情報長] [-c 引継ぎ履歴情報数] [-b 表格  
納用 RD エリア名] [-i インデクス格納用 RD エリア名] [-o 同期点行数] {[ -r {a|b} ] [-x]}
```

```
Usage: eerksaphjtblh -p <PJ-checkpoint-information-name> [-z <maximum-length-of-log-  
information>] [-c <number-of-checkpoint-log-information>] [-b <RD-area-name-for-table-  
storage>] [-i <RD-area-name-for-index-storage>] [-o <number-of-synchronization-point-  
lines>] {[ -r {a|b} ] [-x]} (S) (NOS)
```

eerksaphjtblh コマンドの使用法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S) コマンド処理をしないで終了します。

(O) コマンドの形式に誤りがある場合は、正しく設定してコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB92022-I

```
使用方法: eerksaphjtblrmh -p P J 引継ぎ情報名
```

```
Usage: eerksaphjtblrmh -p <PJ-checkpoint-information-name> (S) (NOS)
```

eerksaphjtblrmh コマンドの使用法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S) コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しく設定してコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB94301-E

領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb

An attempt to allocate area has failed. command name = aa....aa, request size = bb....bb  
(E) (NOS)

SDB ハンドラコマンド処理で、必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S)コマンド処理を行わないで終了します。

(O)しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。再発する場合、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB94302-E

通信障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbbbb

A communication error has occurred. command name = aa....aa, reason code = bbbbbb (E)  
(NOS)

SDB ハンドラコマンド処理で、通信障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コマンド処理を行わないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
05009	サービスグループ名 (オプションフラグ g のフラグ引数) が不正です。または、TP1/EE プロセスが起動されていないなどの障害があります。	正しいフラグ引数を設定して、コマンドを再実行してください。または、TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE の起動後にコマンドを再実行してください。
05060		

理由コード	意味	対策
05012	TP1/EE プロセス側でエラーが発生しました。	メッセージログファイルを参照してください。
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB94303-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbbbb

The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bbbbbb (E)  
(NOS)

SDB ハンドラコマンドの形式に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S) コマンド処理を行わないで終了します。

(O) 正しいコマンド形式で、コマンドを再実行してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
05001	不正なオプションフラグがあります。	正しいコマンド形式で、コマンドを再実行してください。
05053	不正なコマンド引数があります。	
05054	フラグ引数がありません。	
05055	必要なオプションフラグがありません。	
05056	必須のオプションフラグがありません。	
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB94304-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプションフラグ = b, 理由コード = ccccc

The flag argument is invalid. command name = aa....aa, option flag = b, reason code = ccccc (E) (NOS)

SDB ハンドラコマンドのフラグ引数の設定に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

b : オプションフラグ

cccc : 理由コード

- 0001 : 設定値が設定可能範囲以外です。
- 0002 : 設定値が設定可能値以外です。
- 0003 : けた数が多過ぎます。
- 00054 : フラグ引数がありません。
- 00057 : けた数が不正です。このフラグ引数は固定長です。
- 00058 : けた数が多過ぎます。このフラグ引数は可変長です。
- 00059 : 設定できない文字を設定しています。
- 00087 : ノード識別子の設定が重複しています。

(S) コマンド処理を行わないで終了します。

(O) 正しいフラグ引数を設定して、コマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

### KFSB94305-E

コマンド処理でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbbb  
An error occurred during command processing. command name = aa....aa, reason code = bbbbb (E) (NOS)

TP1/EE プロセスの SDB ハンドラコマンド処理に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S) コマンド処理を行わないで終了します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
04388	TP1/FP オプションが無効です。	TP1/EE サービス定義に次を設定しているか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• fsp_use=Y</li></ul>
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

### KFSB94306-E

内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bbbb



An internal conflict has occurred. command name = aa....aa, detail code = bbbb (E)  
(NOS)

SDB ハンドラコマンド処理で、コマンドプロセスで予期しない障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 詳細コード

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S) コマンド処理を行わないで終了します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合、コアダンプも保守員に送付してください。

### KFSB94307-E

オプションフラグの組み合わせが不正です。コマンド名 = aa....aa

The combination of option flags is invalid. command name = aa....aa (E) (NOS)

SDB ハンドラコマンドのオプションフラグの組み合わせに誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

(S) コマンド処理を行わないで終了します。

(O) 正しいオプションフラグの組み合わせで、コマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

### KFSB94308-I

使用方法: eesdhchg -g サービスグループ名 [-o サービスグループ名 [-n ノード識別子[:ノード識別子…]]] -b | -c | -l [-t 監視時間] [-d] [-f] [-z]

Usage: eesdhchg -g <service-group-name> [-o <service-group-name> [-n <node-id>[:<node-id>…]]] -b | -c | -l [-t <processing-timeout-value>] [-d] [-f] [-z] (S) (NOS)

eesdhchg コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S) コマンド処理を行わないで終了します。

(O) コマンドの形式に誤りがある場合は、正しく設定してコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB94309-I

```
オン中 SDB 定義変更のコマンドが成功しました。要求種別 = aa....aa, 実行ノード数 = bb....bb  
The online SDB definition modify command ended successfully. request type = aa....aa,  
number of executing nodes = bb....bb (S) (NOS)
```

eesdhchg コマンドによるオン中 SDB 定義変更の要求が成功しました。

**aa....aa** : 要求種別

GET : SDB 定義情報の事前取得

SWITCH : SDB 定義情報の正副切り替え

**bb....bb** : 他ノード実行時の実行ノード数 (10 進表記)

自ノード実行時は「\*」を表示します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB94310-E

```
オン中 SDB 定義変更のコマンドが失敗しました。要求種別 = aa....aa, 実行ノード数 = bb....bb  
cccc(dddd)[,cccc(dddd)…]  
An attempt to execute the online SDB definition modify command has failed. request type =  
aa....aa, number of executing nodes = bb....bb  
cccc(dddd)[,cccc(dddd)…] (E) (NOS)
```

SDB 定義情報の事前取得が失敗しました。このメッセージのあとに出力されるノード識別子に\*\*\*\*が表示された場合は、コマンドを受け付けたノードのエラーを示します。ノード識別子と理由コードの組み合わせは 1 行に 5 個まで出力されます。そのため、失敗したノードが 5 個を超える場合には複数行出力されます。

**aa....aa** : 要求種別

GET : SDB 定義情報の事前取得

SWITCH : SDB 定義情報の正副切り替え

DISPLAY : SDB 定義情報の表示

**bb....bb** : 他ノード実行時の実行ノード数 (10 進表記)

実行ノードへの要求前にエラーとなった場合は「0」を表示します。

自ノード実行時は「\*」を表示します。

**cccc(dddd)** : ノード情報

障害が発生したノードの情報

cccc：ノード識別子

dddd：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
7001 7101	他ノード実行時、実行サーバへのRPC発行が失敗しました。	指示サーバの TP1/EE のメッセージログファイルに出力されているメッセージがある場合はその原因を取り除いてください。または、-o オプションで指定したサービスグループの指定値を見直してください。
7002 7102	他ノード実行時、実行サーバからの応答がタイムアウトしました。	ネットワークの状態または実行サーバの状態を確認してください。
7003 7103	他ノード実行時、指示サーバの TP1/EE サービス定義が不正です。	指示サーバの TP1/EE サービス定義に次を設定しているか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• fsp_use=Y</li><li>• name_use=Y</li></ul>
7004 7104	他ノード実行時、実行サーバの TP1/EE サービス定義が不正です。	実行サーバの TP1/EE サービス定義に次を設定しているか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• sdh_use=Y</li><li>• sdh_redef_use=Y</li></ul>
7005 7105	他ノード実行時、システムエラーが発生しました。	実行サーバの TP1/EE サービス定義の fsp_use オペランドの指定値を見直してください。 また、実行サーバの TP1/EE のバージョンが古い可能性があります。 上記以外の場合は保守員に連絡してください。
7007	他ノード実行時、指定時間内に処理が完了しませんでした。	実行サーバの状態を確認してください。
8001 8101 8201	自ノード実行時、実行サーバの TP1/EE サービス定義が不正です。	実行サーバの TP1/EE サービス定義に次を設定しているか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• fsp_use=Y</li><li>• sdh_use=Y</li><li>• sdh_redef_use=Y</li></ul>
8002	自ノード実行時、指定時間内に処理が完了しませんでした。	実行サーバの状態を確認してください。
上記以外 (0XXX~6XXX)	実行サーバで、オン中 SDB 定義変更が失敗しました。	このメッセージの理由コードとして、KFSB54306-E の理由コードが出力されます。実行サーバの KFSB54306-E メッセージを基に障害を取り除き、コマンドを再実行してください。

## KFSB95001-E

現在コマンドを受け付けることができません。

No commands can be accepted now. (E) (NOS)

TP1/EE は現在、該当するコマンドの処理を実行できません。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)TP1/EE の状態を確認して、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95002-E

メモリが確保できません。

No memory can be allocated. (E) (NOS)

TP1/EE がメモリを確保できなかったため、コマンドの処理を実行できませんでした。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者は連絡してください。

【対策】 このメッセージが繰り返し出力される場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB95003-E

コマンド処理で障害が発生しました。

A command processing error occurred. (E) (NOS)

TP1/EE で障害が発生したため、コマンドの処理を実行できませんでした。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者は連絡してください。

【対策】 このメッセージが繰り返し出力される場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB95004-E

コマンド処理でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc

A command processing error occurred. command name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code = cc....cc (E) (NOS)

コマンド実行中にエラーが発生したため、処理を中止しました。

aa....aa：該当するコマンド名

bbbb：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	データの通信に失敗しました。	TP1/EE との通信障害の原因を調査し、その原因を取り除いてください。
0002	TP1/EE のプロセスで障害が発生しました。	cc....cc を保守員に連絡してください。
0003	指定されたサービスグループ名が見つかりません。	正しいサービスグループ名を指定して、コマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE を起動して、コマンドを再実行してください。
0004	ファイルの出力に失敗しました。	cc....cc を保守員に連絡してください。
0005	RPC メッセージエラーが発生しました。	cc....cc を保守員に連絡してください。
0006	内部矛盾が発生しました。	cc....cc を保守員に連絡してください。

## KFSB95005-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb [,cc....cc]  
The command format is incorrect. command name = aa....aa, reason code = bbbb[,cc....cc] (E) (NOS)

コマンドの引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa：該当するコマンド名

bbbb：理由コード

0001：不正なオプションフラグを使用しています。

0002：必要なフラグ引数がありません。

0003：必要なオプションフラグがありません。

0004：コマンド引数の個数が多過ぎます。

cc....cc：フラグ名称

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しい引数を指定して、コマンドを再実行してください。

[対策] なし。

#### KFSB95006-E

```
コマンド引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb [,cc....cc]  
A command argument is incorrect. command name = aa....aa, reason code =  
bbbb[,cc....cc] (E) (NOS)
```

コマンドの引数またはフラグ引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bbbb** : 理由コード

0001 : 必要なコマンド引数またはフラグ引数がありません。

0002 : コマンド引数またはフラグ引数の長さが不正です。

0003 : 文字属性が不正です。

0004 : 指定できない値を指定しています。

0005 : 指定された値、名称が不正または見つかりません。

0006 : 設定値に重複があります。

0007 : 設定値の数が多過ぎます。

**cc....cc** : フラグ名称

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しい引数を指定して、コマンドを再実行してください。

[対策] なし。

#### KFSB95007-E

```
コマンドの実行環境が不正です。  
The command execution environment is invalid. (E) (NOS)
```

このコマンドの処理を実行できる実行環境ではありません。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)TP1/EE の定義内容を確認してコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95008-E

コマンドのオプションの組み合わせが不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション 1 = bb, オプション 2 = cc

The combination of command options is invalid. command name = aa....aa, option1 = bb, option2 = cc (E) (NOS)

オプションの組み合わせに誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb : 組み合わせが不正なオプション

cc : 組み合わせが不正なオプション

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいオプションを指定してコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95010-Q

-f オプションに指定したファイルは既に存在します。上書きしていいですか。[y : 上書きする n : 上書きしない] コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb

The file specified in the -f option already exists. Are you sure you want to overwrite the existing file? [y: Yes. n: No.] command name = aa....aa, file name = bb....bb (S) (NOS)

-f オプションに指定したファイルを上書きしてよいかどうか応答を求めます。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するファイル名

(S)オペレータが設定した応答に従って処理します。y または n 以外を応答した場合は、再度応答を求めます。

(O)ファイルを上書きしてコマンドの処理を続行する場合は y を、ファイルを上書きしないでコマンドの処理を終了する場合は n を設定してください。応答時に設定する y または n は、大文字でも受け付けられます。

[対策] なし。

## KFSB95020-I

使用方法 : eeucmd -g サービスグループ名 -v サービス名 [-o サービスグループ名] -m 入力文字列 [-t 応答監視時間]

```
Usage: eeucmd -g <service-group-name> -v <service-name> [-o <service-group-name>] -m
<input-string> [-t <response-monitoring-time>] (S) (NOS)
```

TP1/FSP の eeucmd コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB95021-E

ユーザサービスの実行処理でエラーが発生しました。理由コード = aaaa

An error occurred during execution of a user service. reason code = aaaa (E) (NOS)

ユーザサービスの実行処理でエラーが発生したため、コマンド処理を中止しました。

**aaaa** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0200	応答がタイムアウトしました。または、ユーザコマンドトランザクション実行中にスレッドダウンが発生しました。	TP1/FSP の eeucmd コマンドの -t オプションの指定値、およびユーザコマンドトランザクション実行先ノードの状態を確認して、コマンドを再実行してください。
0201	指定したサービス名が見つかりません。	正しいサービス名を指定してコマンドを再実行してください。
0202	指定したサービスは閉塞中です。	サービスの閉塞状態を確認してコマンドを再実行してください。
0203	ユーザコマンドトランザクションがロールバック決着しました。または、コミット処理に失敗しました。	ユーザコマンドトランザクションの状態を確認してください。
0204	他ノードへのコマンド転送処理で通信障害が発生しました。	ユーザコマンドトランザクション実行先ノードの状態を確認して、コマンドを再実行してください。
0205	コマンド転送先のノードで、プロセス関連定義の fsp_use オペランドに Y が指定されていません。	ユーザコマンドトランザクション実行先ノードの状態を確認して、コマンドを再実行してください。
0210	指定したサービスグループ名が見つかりません。	-o オプションで指定したサービスグループ名を確認してコマンドを再実行してください。



## KFSB95022-E

```
ユーザコマンドトランザクションで exit コードを設定しました。 exit コード = aa....aa  
An exit code was set in the user command transaction. exit code = aa....aa (E) (NOS)
```

ユーザコマンドトランザクションで 0 以外の exit コードを指定しました。

**aa....aa** : ユーザコマンドトランザクションで指定した exit コード

(S)aa....aa で示す exit コードでコマンドを終了します。

(O)なし。

**【対策】** なし。

## KFSB95030-I

```
使用方法 : eechglib -g サービスグループ名 [-o サービスグループ名 [-n ノード識別子[:ノード識別子...]]] [-a|-r] [-d U A P 共用ライブラリ格納ディレクトリ名[:U A P 共用ライブラリ格納ディレクトリ名...]] [-t 処理完了までの監視時間]  
Usage: eechglib -g <service-group-name> [-o <service-group-name> [-n <node-id>[:<node-id>...]]] [-a|-r] [-d <UAP-common-library-storage-directory-name>[:<UAP-common-library-storage-directory-name>...]] [-t <processing-timeout-value>] (S) (NOS)
```

TP1/FSP の eechglib コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB95031-E

```
U A P 共用ライブラリの入替えに失敗しました。  
aaaa(bbbb)[,aaaa(bbbb)...]  
Replacement of the UAP common libraries failed.  
aaaa(bbbb)[,aaaa(bbbb)...] (E) (NOS)
```

UAP 共用ライブラリの入替えに失敗しました。

**aaaa(bbbb)** : 障害が発生したノードの情報

**aaaa** : ノード識別子

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

このメッセージで表示されるノード識別子に\*\*\*\*が表示された場合は、コマンドを受け付けたノードのエラーを示します。ノード識別子と理由コードの組み合わせは1行に5個まで表示されます。そのため、失敗したノードが5個を超える場合には複数行表示されます。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	すでに TP1/FSP の eechglib コマンドまたは eeexecut コマンドが実行中です。	先に実行中のコマンドが終了してからコマンドを再実行してください。
0002	RPC の発行に失敗しました。	TP1/EE のメッセージログファイルに出力されているメッセージがある場合はその原因を取り除いてください。または、-o オプションで指定したサービスグループの指定値を見直してください。
0003	実行サーバからの応答がタイムアウトしました。	ネットワークの状態または実行サーバの状態を確認してください。
0004	サービスの静止化に失敗しました。	実行しているサービスの終了後にコマンドを再実行してください。
0005	ライブラリ入れ替えの事前チェックに失敗しました。	失敗した実行サーバに出力されているメッセージの原因を取り除いてください。
0006	ライブラリ入れ替えまたは UT トランザクションの登録に失敗しました。	
0007	TP1/EE サービス定義が不正です。	次に示す TP1/EE サービス定義を見直してコマンドを再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ノード識別子に****が表示された場合 指示サーバのユーザサービス関連定義の uapdir_exchange_use オペランド、および RPC 関連定義の name_use オペランドの指定値</li> <li>ノード識別子に****以外が表示された場合 実行サーバのユーザサービス関連定義の uapdir_exchange_use オペランド、およびプロセス関連定義の fsp_use オペランドの指定値</li> </ul>
0008	実行サーバ側でサービスの処理キューの登録に失敗しました。	時間が経ってからコマンドを再実行してください。コマンドを再実行しても現象が改善されない場合は、実行サーバのメモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直してください。
0009	実行タイミングが不正です。	なし。
0010	システムエラーが発生しました。	実行サーバ側のプロセス関連定義の fsp_use オペランドの指定値を見直してください。 または、実行サーバの TP1/EE のバージョンが古くないか確認してください。 上記以外の場合は保守員に連絡してください。

## KFSB95032-I

UAP 共有ライブラリの入替えが完了しました。

The UAP common libraries were replaced successfully. (S) (NOS)

TP1/FSP の eechglib コマンドによる UAP 共有ライブラリの入替えが完了しました。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB95033-I

使用方法：eelslibdir -g サービスグループ名

Usage: eelslibdir -g <service-group-name> (S) (NOS)

TP1/FSP の eelslibdir コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB95034-I

使用方法：eesvctl -g サービスグループ名 [-o サービスグループ名 [-n ノード識別子[:ノード識別子...]]  
{-s|-r} {-v {all|サービス名[:サービス名...]} | -l {all|トランザクションレベル名[:トランザクションレ  
ベル名...]]} [-t 静止化完了までの監視時間]

Usage: eesvctl -g <service-group-name> [-o <service-group-name> [-n <node-id>[:<node-  
id>...]]] {-s|-r} {-v {all|<service-name>[:<service-name>...]} | -l {all|<transaction-level-  
name>[:<transaction-level-name>...]]} [-t <processing-timeout-value>] (S) (NOS)

TP1/FSP の eesvctl コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB95035-E

トランザクションの静止化に失敗しました。

```
aaaa(bbbb)[,aaaa(bbbb)...]
An attempt to staticize a transaction failed.
aaaa(bbbb)[,aaaa(bbbb)...] (E) (NOS)
```

eesvctl コマンドによるトランザクションの静止化処理に失敗しました。

**aaaa(bbbb)** : 障害が発生したノードの情報

**aaaa** : ノード識別子

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

このメッセージでノード識別子に\*\*\*\*が表示された場合は、コマンドを受け付けたノードのエラーを示します。ノード識別子と理由コードの組み合わせは 1 行に 5 個まで表示されます。そのため、失敗したノードが 5 個を超える場合には複数行表示されます。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	すでに TP1/FSP の eesvctl コマンドが実行中です。	先に実行中のコマンドが終了してからコマンドを再実行してください。
0002	RPC の発行に失敗しました。	TP1/EE のメッセージログファイルに出力されているメッセージがある場合はその原因を取り除いてください。または、-o オプションで指定したサービスグループの指定値を見直してください。
0003	実行サーバからの応答がタイムアウトしました。	ネットワークの状態、または実行サーバの状態を確認してください。
0004	指定されたサービス名 (トランザクションレベル名) が不正です。	コマンドで指定したサービス名 (トランザクションレベル名) を見直し、コマンドを再実行してください。
0005	トランザクションレベル名が指定されましたが、トランザクションレベル方式ではありませんでした。	静止化の対象にトランザクションレベル名を指定している場合は、TP1/FSP のユーザーサービス関連定義の queue_draw_method 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動したあとにコマンドを再実行してください。
0006	指定時間内に実行サーバの実行中トランザクションが終了しませんでした。	-t オプションで指定した監視時間を増やしてコマンドを再実行するか、実行サーバで実行中のトランザクションが終了してからコマンドを再実行してください。
0007	TP1/EE サービス定義が不正です。	RPC 関連定義の name_use オペランド、およびプロセス関連定義の fsp_use オペランドの指定値を見直し、コマンドを再実行してください。

理由コード	意味	対策
0008	実行サーバ側でサービスの処理キューの登録に失敗しました。	時間が経ってからコマンドを再実行してください。コマンドを再実行しても現象が改善されない場合は、実行サーバのメモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直してください。
0009	実行タイミングが不正です。	なし。
0010	システムエラーが発生しました。	実行サーバ側のプロセス関連定義の fsp_use オペランドの指定値を見直してください。 または、実行サーバの TP1/EE のバージョンが古くないか確認してください。 上記以外の場合は保守員に連絡してください。

## KFSB95036-E

トランザクションの静止化解除に失敗しました。

aaaa(bbbb)[,aaaa(bbbb)...]

An attempt to unstaticize a transaction failed.

aaaa(bbbb)[,aaaa(bbbb)...] (E) (NOS)

TP1/FSP の eesvctl コマンドによるトランザクションの静止化解除処理に失敗しました。

**aaaa** : ノード識別子

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

このメッセージでノード識別子に\*\*\*\*が表示された場合は、コマンドを受け付けたノードのエラーを表しています。ノード識別子と理由コードの組み合わせは 1 行に 5 個まで表示されます。組み合わせの情報が 5 個以上ある場合は複数行で表示されます。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	すでに TP1/FSP の eesvctl コマンドが実行中です。	先に実行中のコマンドが終了してからコマンドを再実行してください。
0002	RPC の発行に失敗しました。	TP1/EE のメッセージログファイルに出力されているメッセージがある場合は、その原因を取り除いてください。 または、-o オプションで指定したサービスグループの指定値を見直してください。

理由コード	意味	対策
0003	実行サーバからの応答がタイムアウトしました。	ネットワークの状態、または実行サーバの状態を確認してください。
0004	指定されたサービス名（トランザクションレベル名）が不正です。	コマンドで指定したサービス名（トランザクションレベル名）を見直し、コマンドを再実行してください。
0005	トランザクションレベル名が指定されましたが、トランザクションレベル方式ではありませんでした。	静止化解除の対象にトランザクションレベル名を指定している場合は、TP1/FSP のユーザーサービス関連定義の queue_draw_method 定義コマンドの指定値を見直し、TP1/EE を再起動したあとに、コマンドを再実行してください。
0007	TP1/EE サービス定義が不正です。	RPC 関連定義の name_use オペランド、およびプロセス関連定義の fsp_use オペランドの指定値を見直して、コマンドを再実行してください。
0008	実行サーバ側でサービスの処理キューの登録に失敗しました。	しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。コマンドを再実行しても現象が改善されない場合は、実行サーバのメモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直してください。
0009	実行タイミングが不正です。	なし。
0010	システムエラーが発生しました。	実行サーバ側のプロセス関連定義の fsp_use オペランドの指定値を見直してください。 または、実行サーバの TP1/EE のバージョンが古くないか確認してください。 上記以外の場合は保守員に連絡してください。

## KFSB95037-I

トランザクションの静止化が完了しました。

A transaction was staticized successfully. (S) (NOS)

トランザクションの静止化処理が完了しました。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB95038-I

トランザクションの静止化解除が完了しました。

A transaction was unstaticized successfully. (S) (NOS)

トランザクションの静止化解除処理が完了しました。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB95040-E

UAP 共有ライブラリ同時入替え機能によるトランザクションの静止化解除に失敗しました。

aaaa(bbbb)[,aaaa(bbbb)...]

An attempt to unstaticize a transaction using the functionality that simultaneously replaces UAP common libraries failed.

aaaa(bbbb)[,aaaa(bbbb)...] (E) (NOS)

TP1/FSP の eechglib コマンドによるトランザクションの静止化解除に失敗しました。

aaaa(bbbb) : 障害が発生したノードの情報

aaaa : ノード識別子

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

このメッセージでノード識別子に\*\*\*\*が表示された場合は、コマンドを受け付けたノードのエラーを示します。ノード識別子と理由コードの組み合わせは 1 行に 5 個まで表示されます。そのため、失敗したノードが 5 個を超える場合には複数行で表示されます。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	すでに TP1/FSP の eechglib コマンド、または eeexecut コマンドが実行中です。	先に実行中のコマンドが終了してからコマンドを再実行してください。
0002	RPC の発行に失敗しました。	TP1/EE のメッセージログファイルに出力されているメッセージがある場合は、その原因を取り除いてください。 または、-o オプションで指定したサービスグループの指定値を見直してください。
0003	実行サーバからの応答がタイムアウトしました。	ネットワークの状態または実行サーバの状態を確認してください。
0007	TP1/EE サービス定義が不正です。	TP1/FSP のユーザサービス関連定義の uapdir_exchange_use オペランド、および RPC 関連定義の name_use オペランドの指定値を見直し、コマンドを再実行してください。 実行サーバ側の TP1/FSP のユーザサービス関連定義の uapdir_exchange_use オペランド、およびプロセス関連定義の fsp_use オペランドの指定値を見直してください。

理由コード	意味	対策
0008	実行サーバ側でサービスの処理キュー登録に失敗しました。	しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。コマンドを再実行しても現象が改善されない場合は実行サーバのメモリ関連定義の pce_no オペランドの指定値を見直してください。
0009	実行タイミングが不正です。	なし。
0010	システムエラーが発生しました。	実行サーバ側のプロセス関連定義の fsp_use オペランドの指定値を見直してください。 または、実行サーバの TP1/EE のバージョンが古くないか確認してください。 上記以外の場合は保守員に連絡してください。

## KFSB95041-I

UAP 共用ライブラリ同時入替え機能によるトランザクションの静止化解除が完了しました。  
A transaction was unstaticized successfully using the functionality that simultaneously replaces UAP common libraries. (S) (NOS)

TP1/FSP の eechglib コマンドによるトランザクションの静止化解除が完了しました。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB95101-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb  
The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E)  
(NOS)

コマンドの引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbb : 理由コード

- 0001 : 不正なオプションを使用しています。
- 0002 : 必要なフラグ引数がありません。
- 0003 : 必要なオプションがありません。
- 0004 : コマンド引数の個数が多過ぎます。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しい引数を指定して、コマンドを再実行してください。



[対策] なし。

## KFSB95102-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb, 理由コード = cccc  
The flag argument is invalid. command name = aa....aa, option = bb, reason code = cccc  
(E) (NOS)

フラグ引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb** : 該当するオプション名

**cccc** : 理由コード

- 0001 : フラグ引数の長さが不正です。
- 0002 : フラグ引数に指定できない文字を指定しています。
- 0003 : 指定された値が見つかりません。
- 0004 : 指定値が指定範囲以外の値です。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) 正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95103-E

コマンド引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb  
The command argument is invalid. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E)  
(NOS)

コマンド引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bbbb** : 理由コード

- 0001 : 必要なコマンド引数がありません。
- 0002 : コマンド引数の長さが不正です。
- 0003 : 指定された値が見つかりません。
- 0004 : 指定値が指定範囲以外の値です。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) 正しいコマンド引数を指定して、コマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95104-E

オプションの組み合わせが不正です。コマンド名 = aa....aa

The combination of options is invalid. command name = aa....aa (E) (NOS)

オプションの組み合わせに誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいオプションを指定して、コマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95105-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc

Command execution has failed. command name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code = cc....cc (E) (NOS)

コマンド実行中に障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理を中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	データの通信に失敗しました。	TP1/EE との通信障害の原因を調査し、その原因を取り除いてください。
0002	TP1/EE のプロセスで障害が発生しました。	cc....cc を保守員に連絡してください。
0003	指定されたサービスグループ名が見つかりません。	正しいサービスグループ名を指定して、コマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE を起動して、コマンドを再実行してください。

## KFSB95106-E

領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb

An attempt to allocate area has failed. command name = aa....aa, request size = bb....bb  
(E) (NOS)

コマンド処理に必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb....bb** : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB95107-E

内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

An internal conflict has occurred. command name = aa....aa, detail code = bb....bb (E)  
(NOS)

コマンド実行中に予期しない障害が発生したため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理を中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合は、コアダンプを保守員に渡してください。

## KFSB95120-I

使用方法: eememls -g サービスグループ名 [-u]

Usage: eememls -g <service-group-name> [-u] (S) (NOS)

eememls コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95141-E

指定されたテーブル通番が無効です。コマンド名 = aa....aa, テーブル種別 = bbb, テーブル通番 = cc....cc

The specified table sequence number is invalid. command name = aa....aa, table type = bbb, table sequence number = cc....cc (E) (NOS)

存在しないテーブル通番を指定しています。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbb : 該当するテーブル種別

cc....cc : 該当するテーブル通番

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)表示対象のテーブル通番を確認し、再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95142-E

指定されたテーブルは存在しません。コマンド名 = aa....aa, テーブル種別 = bbb

The specified table does not exist. command name = aa....aa, table type = bbb (E) (NOS)

TP1/EE サービス定義に指定されていないテーブルを指定しています。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbb : 該当するテーブル種別

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB95155-I

使用方法 : eerksmemls -g データ連携支援 I D [-u]

Usage: eerksmemls -g <data-linkage-support-ID> [-u] (S) (NOS)

eerksmemls コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95200-I

使用方法：eedbqrkslsh -q DBキュー名 [-k データ連携支援 I D]

Usage: eedbqrkslsh -q <DB-queue-name> [-k <data-linkage-support-ID>] (S) (NOS)

eedbqrkslsh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理を行わないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95201-I

使用方法：eedbqrkscgh -q DBキュー名 {-k データ連携支援 I D | -a}

Usage: eedbqrkscgh -q <DB-queue-name> {-k <data-linkage-support-ID> | -a} (S)  
(NOS)

eedbqrkscgh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理を行わないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95202-I

使用方法：eerksdbqls -g データ連携支援 I D -q DBキュー名

Usage: eerksdbqls -g <data-linkage-support-ID> -q <DB-queue-name> (S) (NOS)

eerksdbqls コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95203-I

使用方法：eersdbqrkslsh -q DBキュー名 [-k データ連携支援 I D]

Usage: eersdbqrkslsh -q <DB-queue-name> [-k <data-linkage-support-ID>] (S) (NOS)

eersdbqrkslsh コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95204-I

使用方法：eersdbqrkscgh -q DBキュー名 {-k データ連携支援 I D | -a}

Usage: eersdbqrkscgh -q <DB-queue-name> {-k <data-linkage-support-ID> | -a} (S)  
(NOS)

eersdbqrkscgh コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95206-I

使用方法：eedbqinhibit -g サービスグループ名 {-a | -p DBキューグループ名 | -q DBキュー名} [-r]

Usage: eedbqinhibit -g <service-group-name> {-a | -p <DB-queue-group-name> | -q <DB-queue-name>} [-r] (S) (NOS)

eedbqinhibit コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95208-I

使用方法：eedbqaltput -g サービスグループ名 -q DBキュー名

Usage: eedbqaltput -g <service-group-name> -q <DB-queue-name> (S) (NOS)

eedbqaltput コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95209-I

使用方法：eedbqaltlsh -q DBキュー名 [-a][-f]

Usage: eedbqaltlsh -q <DB-queue-name> [-a][-f] (S) (NOS)

eedbqaltlsh コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95210-I

使用方法：eerksdbqaltput -g データ連携支援 I D -q DBキュー名

Usage: eerksdbqaltput -g <data-linkage-support-ID> -q <DB-queue-name> (S) (NOS)

eerksdbqaltput コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95211-I

使用方法：eerkbdbqaltlsh -q DBキュー名 [-a][-f]

Usage: eerkbdbqaltlsh -q <DB-queue-name> [-a][-f] (S) (NOS)

eerkbdbqaltlsh コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95301-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E)  
(NOS)

コマンドの引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbb : 理由コード

0001 : 不正なオプションフラグを使用しています。

0002 : 必要なフラグ引数がありません。

0003 : 必要なオプションフラグがありません。

0004 : コマンド引数の個数が多過ぎます。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しい引数を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95302-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb, 理由コード = cccc

The flag argument is invalid. command name = aa....aa, option = bb, reason code = cccc  
(E) (NOS)

フラグ引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名



bb：該当するオプション名

cccc：理由コード

- 0001：フラグ引数の長さが不正です。
- 0002：フラグ引数に指定できない文字を指定しています。
- 0003：指定された値が見つかりません。
- 0004：指定値が指定範囲以外の値です。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。

[対策] なし。

### KFSB95303-E

```
コマンド引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb  
The command argument is invalid. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E)  
(NOS)
```

コマンド引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa：該当するコマンド名

bbbb：理由コード

- 0001：必要なコマンド引数がありません。
- 0002：コマンド引数の長さが不正です。
- 0003：設定された値が見つかりません。
- 0004：指定値が指定範囲以外の値です。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいコマンド引数を指定して、コマンドを再実行してください。

[対策] なし。

### KFSB95304-E

```
オプションの組み合わせが不正です。コマンド名 = aa....aa  
The combination of options is invalid. command name = aa....aa (E) (NOS)
```

オプションの組み合わせに誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa：該当するコマンド名

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいオプションを指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95305-E

```
コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc  
Command execution has failed. command name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code  
= cc....cc (E) (NOS)
```

コマンド実行中に障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	データの通信に失敗しました。	TP1/EE との通信障害の原因を調査し、その原因を取り除いてください。
0002	TP1/EE のプロセスで障害が発生しました。	cc....cc を保守員に連絡してください。
0003	指定されたサービスグループ名が見つかりません。	正しいサービスグループ名を指定して、コマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE を起動して、コマンドを再実行してください。

## KFSB95306-E

```
領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb  
An attempt to allocate area has failed. command name = aa....aa, request size = bb....bb  
(E) (NOS)
```

コマンド処理に必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

### KFSB95307-E

```
内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb  
An internal conflict has occurred. command name = aa....aa, detail code = bb....bb (E)  
(NOS)
```

コマンド実行中に予期しない障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理を中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合は、コアダンプを保守員に渡してください。

### KFSB95320-I

```
使用方法 : eedctsv -g サービスグループ名 -v サービス名  
Usage: eedctsv -g <service-group-name> -v <service-name> (S) (NOS)
```

eedctsv コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB95321-I

```
サービスを閉塞しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb  
A service has been shut down. service group name = aa....aa, service name = bb....bb (S)  
(NOS)
```

サービスを閉塞しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当するサービス名

(S)なし。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB95322-E

サービスの閉塞に失敗しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb

An attempt to shut down a service has failed. service group name = aa....aa, service name = bb....bb (E) (NOS)

サービスの閉塞に失敗しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当するサービス名

(S)サービスを閉塞しないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 TP1/EE のメッセージログファイルを調査してください。障害を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

## KFSB95330-I

使用方法 : eeactsv -g サービスグループ名 {-a | -v サービス名}

Usage: eeactsv -g <service-group-name> {-a | -v <service-name>} (S) (NOS)

eeactsv コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB95331-I

サービスを閉塞解除しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb

A service has been released from the shutdown state. service group name = aa....aa, service name = bb....bb (S) (NOS)

サービスの閉塞を解除しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当するサービス名

(S)なし。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB95332-E

```
サービスの閉塞解除に失敗しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb  
An attempt to release a service from the shutdown state has failed. service group name =  
aa....aa, service name = bb....bb (E) (NOS)
```

サービスの閉塞解除に失敗しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当するサービス名

(S)サービスの閉塞を解除しないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 TP1/EE のメッセージログファイルを調査してください。障害を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

#### KFSB95333-I

```
全てのサービスを閉塞解除しました。サービスグループ名 = aa....aa  
All services have been released from the shutdown state. service group name = aa....aa  
(S) (NOS)
```

すべてのサービスの閉塞を解除しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

(S)なし。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB95334-E

```
全てのサービスの閉塞解除に失敗しました。サービスグループ名 = aa....aa
```

```
An attempt to release all services from the shutdown state has failed. service group name = aa....aa (E) (NOS)
```

すべてのサービスの閉塞解除に失敗しました。

**aa....aa** : 該当するサービスグループ名

(S)すべてのサービスの閉塞を解除しないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** TP1/EE のメッセージログファイルを調査してください。障害を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

### KFSB95335-I

```
サービスの最大同時処理限界数を変更しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb, 変更前 = ccc, 変更後 = ddd
```

```
The maximum number of processing occurrences that a service can handle concurrently has been changed. service group name = aa....aa, service name = bb....bb, before the change = ccc, after the change = ddd (S) (NOS)
```

サービスの最大同時処理限界数を変更しました。

**aa....aa** : 該当するサービスグループ名

**bb....bb** : 該当するサービス名

**ccc** : 変更前のサービスの最大同時処理限界数

**ddd** : 変更後のサービスの最大同時処理限界数

(S)サービスの最大同時処理限界数を変更します。

(O)なし。

**【対策】** なし。

### KFSB95340-I

```
使用方法 : eelssv -g サービスグループ名 {-s {act | dct | all} | -v サービス名}
```

```
Usage: eelssv -g <service-group-name> {-s {act | dct | all} | -v <service-name>} (S) (NOS)
```

eelssv コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB95350-I

使用方法：eethdls -g サービスグループ名 [-p]

Usage: eethdls -g <service-group-name> [-p] (S) (NOS)

eethdls コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB95360-I

使用方法：eelspce -g サービスグループ名 {-s {sys | usr | all} | -w | -v サービス名 -n 最大同時処理限界数}

Usage: eelspce -g <service-group-name> {-s {sys | usr | all} | -w | -v <service-name> -n <maximum-number-of-processing-occurrences-that-can-be-handled-concurrently>} (S) (NOS)

eelspce コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB95371-I

オンラインを強制開始します。サービスグループ名 = aa....aa

Online processing will now be forcibly started. service group name = aa....aa (S) (NOS)

オンラインを強制開始します。

aa....aa：オンラインを強制開始するサービスグループ名

(S)オンラインを強制開始します。

(O)なし。

【対策】 なし。

## KFSB95372-I

使用方法：eelspcenum -g サービスグループ名 [-v サービス名]

Usage: eelspcenum -g <service-group-name> [-v <service-name>] (S) (NOS)

eelspcenum コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95375-I

使用方法：eepceskip -g サービスグループ名 -v サービス名

Usage: eepceskip -g <service-group-name> -v <service-name> (S) (NOS)

eepceskip コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95376-I

滞留メッセージのスキップが成功しました。コマンド名 = aa....aa

Remaining messages have been successfully skipped. command name = aa....aa (S)  
(NOS)

滞留メッセージのスキップが成功しました。

aa....aa：コマンド名

(S)なし。

(O)なし。

【対策】 なし。



## KFSB95377-E

滞留メッセージのスキップが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb  
Failed to skip remaining messages. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E)  
(NOS)

滞留メッセージのスキップが失敗しました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)なし。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0002	タイミングエラーです。	サービスが引き出し禁止状態かどうかを確認してください。引き出し禁止状態の場合は、しばらく待ってからコマンドを再実行してください。
0004	内部矛盾です。	保守員に連絡してください。

## KFSB95378-I

使用方法 : eepcerefer -g サービスグループ名 -v サービス名 -p {p|n} -o 出力ファイル名 [-r]  
Usage: eepcerefer -g <service-group-name> -v <service-name> -p {p|n} -o <output-file-name> [-r] (S) (NOS)

eepcerefer コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB95379-I

コマンドを受け付けました。コマンド名 = aa....aa  
The command has been accepted. command name = aa....aa (S) (NOS)

コマンドを受け付けました。

aa....aa : コマンド名

(S) 滞留メッセージのファイル出力を開始します。

(O) なし。

【対策】 なし。

## KFSB95380-E

コマンドを受付けませんでした。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

The command has been rejected. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E)  
(NOS)

コマンドを受け付けませんでした。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S) コマンド処理を中止します。

(O) OpenTP1 管理者へ連絡してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	処理キューの登録に失敗しました。	eememls コマンドで処理キュー制御用バッファ (PCE) に空きがあることを確認してからコマンドを再実行してください。空きがない場合は、しばらく待ってから eememls コマンドで処理キュー制御用バッファの使用状況を再確認してください。
0002	ワーク領域が不足しました。	eememls コマンドで共用ワーク領域、または XTC 用ワーク領域に空きがあることを確認してからコマンドを再実行してください。
0003	タイミングエラーです。	サービスが引き出し禁止状態かどうかを確認してください。引き出し禁止状態の場合は、しばらく待ってからコマンドを再実行してください。
0004	ファイルはすでにあります。	コマンドで指定したファイルはすでにあります。次に示す対策のどれかを実行してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• ファイルを削除してからコマンドを再実行する。</li><li>• -r オプションを指定してコマンドを再実行する。</li><li>• -o オプションに別のファイル名を指定してコマンドを再実行する。</li></ul>

理由コード	意味	対策
0005	ファイルのオープンに失敗しました。	TP1/EE プロセスが出力した KFSB45404-W メッセージの理由コード、および KFSB40107-E メッセージのエラーコードを参照して原因を取り除いてください。
0006	滞留メッセージはありません。	eelspcenum コマンドで処理キュー制御用バッファ (PCE) の滞留状況を確認してください。

## KFSB95381-I

使用方法：eeexecut -g サービスグループ名 [-t トランザクション静止化監視時間]

Usage: eeexecut -g <service-group-name> [-t <monitoring-time-of-transaction-staticization>] (S) (NOS)

TP1/FSP の eeexecut コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB95382-E

ユーザ初期化トランザクションの起動に失敗しました。サービスグループ名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

Startup of the user initialization transaction failed. service group name = aa....aa, reason code = bbbb (E) (NOS)

ユーザ初期化トランザクションの起動に失敗しました。

aa....aa：サービスグループ名

bbbb：理由コード

0001：トランザクションの静止化に失敗しました。

0002：前回のユーザ初期化トランザクションが終了していません。

0003：UAP 共用ライブラリの入れ替え中です。

0004：ユーザ初期化トランザクション起動用のエントリポイントが定義されていません。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)コマンドを再実行してください。

## 【対策】

理由コードが 0001, 0002 の場合

しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。

理由コードが 0003 の場合

UAP 共用ライブラリの入れ替え処理が終了してから、コマンドを再実行してください。

理由コードが 0004 の場合

TP1/FSP のユーザサービス関連定義の user\_init\_ut オペランドにユーザ初期化用エントリポインタを指定して TP1/EE を再起動してください。そのあと、コマンドを再実行してください。

## KFSB95383-I

ユーザ初期化トランザクションの起動を受け付けました。サービスグループ名 = aa....aa

Startup of the user initialization transaction was accepted. service group name = aa....aa

(S) (NOS)

ユーザ初期化トランザクションの起動を受け付けました。

aa....aa : サービスグループ名

(S)なし。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB95385-I

使用方法 : eelstrnlevel -g サービスグループ名 [-t トランザクションレベル名 -n 最大同時処理限界数]

Usage: eelstrnlevel -g <service-group-name> [-t <transaction-level-name> -n <maximum-number-of-processing-occurrences-that-can-be-handled-concurrently>] (S) (NOS)

TP1/FSP の eelstrnlevel コマンドの使用法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB95387-I

トランザクションレベルの最大同時処理限界数を変更しました。サービスグループ名 = aa....aa, トランザクションレベル名 = bb....bb, 変更前 = cc....cc, 変更後 = dd....dd

The maximum number of processing occurrences that a transaction level can handle concurrently has been changed. service group name = aa....aa, transaction level name = bb....bb, before the change = cc....cc, after the change = dd....dd (S) (NOS)

最大同時処理限界数の値を変更しました。

aa....aa : サービスグループ名

bb....bb : トランザクションレベル名

cc....cc : 変更前の最大同時処理限界数

dd....dd : 変更後の最大同時処理限界数

(S)最大同時処理限界数を変更します。

(O)なし。

**[対策]** なし。

#### KFSB95390-I

使用方法 : eelsque -g サービスグループ名 [-v {サービス名 | トランザクションレベル名}]

Usage: eelsque -g <service-group-name> [-v {<service-name> | <transaction-level-name>}] (S) (NOS)

eelsque コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

**[対策]** なし。

#### KFSB95396-I

使用方法 : eerksthds -g データ連携支援 I D [-p]

Usage: eerksthds -g <data-linkage-support-ID> [-p] (S) (NOS)

eerksthds コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95397-I

使用方法: eerkslpce -g データ連携支援 I D {-s {sys | usr | all} | -w}

Usage: eerkslpce -g <data-linkage-support-ID> {-s {sys | usr | all} | -w} (S) (NOS)

eerkslpce コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95400-E

メモリが確保できません。コマンド名 = aa....aa, サイズ = bb....bb, 詳細コード = cc

Memory cannot be reserved. command name = aa....aa, size = bb....bb, detail code = cc

(E) (NOS)

メモリを確保できません。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 確保しようとしたメモリのサイズ (10 進数 10 けた以内。単位: バイト)

cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報 (10 進数 2 けた)

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)システムの動作状況を確認して、再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95401-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb

The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bb (E) (NOS)

コマンドの形式が不正です。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb : 理由コード (10 進数 2 けた)

01 : 不正なオプションフラグを使用しています。

- 02：必要なフラグ引数がありません。
- 03：コマンド引数の指定数が上限値を超えています。
- 04：コマンド引数の数が必要な数に達していません。

(S)コマンドの使用方法を表示して、コマンドの処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの指定が誤っていないかどうか確認してください。

【対策】なし。

## KFSB95402-E

```
コマンドのオプションが不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb, 理由コード = cc  
The command options are invalid. command name = aa....aa, option = bb, reason code =  
cc (E) (NOS)
```

コマンドのオプションが不正です。

aa....aa：該当するコマンド名

bb：指定が不正なオプション (2文字)

cc：理由コード (10進数2けた)

- 01：必要なオプションフラグがありません。
- 02：フラグ引数の指定値に誤りがあります。
- 03：フラグ引数の指定値と、コマンド引数の指定数の組み合わせに誤りがあります。

(S)コマンドの使用方法を表示して、コマンドの処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの指定が誤っていないかどうか確認してください。

【対策】なし。

## KFSB95403-E

```
コマンドのオプションの組み合わせが不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション1 = bb, オプ  
ション2 = cc  
The combination of command options is invalid. command name = aa....aa, option 1 = bb,  
option 2 = cc (E) (NOS)
```

コマンドのオプションの組み合わせが不正です。

aa....aa：該当するコマンド名

bb：組み合わせが不正なオプション (2文字)

cc：組み合わせが不正なオプション (2文字)

(S)コマンドの使用方法を表示して、コマンドの処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの指定が誤っていないかどうか確認してください。

[対策] なし。

#### KFSB95405-E

```
ファイルのヘッダ情報が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb, ファイル名 = cc....cc  
The file header information is invalid. command name = aa....aa, reason code = bb, file name  
= cc....cc (E) (NOS)
```

ファイルのヘッダ情報が不正です。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb** : 理由コード (10 進数 2 けた)

01 : 設定したファイルにヘッダ情報がありません。

02 : eetrbtasked コマンドの場合、設定したファイルが TASKTM ファイルではありません。

eetrblined コマンドの場合、設定したファイルが回線トレースファイルではありません。eetrbstced  
コマンドの場合、設定したファイルが統計情報ファイルではありません。eetrbuated コマンドの場合、  
設定したファイルが UAP トレースファイルではありません。

03 : -r オプションで指定したラン ID のファイルではありません。

**cc....cc** : 該当するファイル名

(S)ヘッダ情報が不正なファイルへの入出力処理を中止します。

(O)コマンドのパラメタの指定が誤っていないかどうか、およびファイルが正しいかどうか確認してください。

[対策] なし。

#### KFSB95406-E

```
データブロックが不正です。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bb, ファイル名 = cc....cc  
The data block is invalid. command name = aa....aa, detail code = bb, file name = cc....cc  
(E) (NOS)
```

データブロックが不正です。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報 (10 進数 2 けた)

**cc....cc** : ファイル名



(S)コマンドの処理を終了します。

(O)ファイルが正しいかどうか確認してください。

【対策】なし。

#### KFSB95407-E

取得情報のタイプとコマンドで指定したオプションが不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb, ファイル名 = cc....cc

The acquisition information type and option specified by the command are invalid. command name = aa....aa, reason code = bb, file name = cc....cc (E) (NOS)

取得情報のタイプおよびコマンドで指定したオプションが不正です。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb : 理由コード (10 進数 2 けた)

01 : 定義で TYPE0, または -2 を指定しているため, DB キュー情報は存在しません。

cc....cc : 該当するファイル名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの指定が誤っていないかどうか確認してください。または, ファイルが正しいかどうか確認してください。

【対策】なし。

#### KFSB95408-E

編集できないファイルタイプです。コマンド名 = aa....aa, コマンドバージョン = bb....bb, ファイル作成バージョン = cc....cc, ファイルタイプ = d, ファイル名 = ee....ee

This file type cannot be edited. command name = aa....aa, command version = bb....bb, file creation version = cc....cc, file type = d, file name = ee....ee (E) (NOS)

コマンドを実行した環境の TP1/EE のバージョンでは編集できないファイルタイプです。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : コマンドを実行した環境の TP1/EE のバージョン

cc....cc : ファイルを作成した環境の TP1/EE のバージョン

d : ファイルタイプ

ee....ee : ファイル名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)TP1/EE のバージョンを確認してください。表示したファイルタイプを編集できる TP1/EE のバージョンで再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95409-E

実行したコマンドのバージョンとファイル作成バージョンが不一致です。コマンド名 = aa....aa, コマンドバージョン = bb....bb, ファイル作成バージョン = cc....cc, ファイル名 = dd....dd

The version of the executed command does not match the file creation version. command name = aa....aa, command version = bb....bb, file creation version = cc....cc, file name = dd....dd (E) (NOS)

実行したコマンドの TP1/EE バージョンとファイル作成時の TP1/EE バージョンが一致していないため、編集できません。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 実行したコマンドの TP1/EE のバージョン

cc....cc : ファイルを作成した TP1/EE のバージョン

dd....dd : ファイル名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)ファイルを作成した TP1/EE のバージョンと同じバージョンの TP1/EE でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95410-E

ファイルのオープン処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb, ファイル名 = cc....cc

Failure occurred for file open processing. command name = aa....aa, reason code = bb, file name = cc....cc (E) (NOS)

入出力ファイル (UNIX ファイル) のオープンで障害が発生しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb : 理由コード (10 進数 2 けた)

01 : 指定されたファイルが存在しません。

02 : 入出力エラーが発生しました。

cc....cc：該当するファイル名

(S)障害が発生したファイルへの入出力処理を中止します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

#### KFSB95411-E

```
ファイルからのリード処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
Failure occurred for read processing from the file. command name = aa....aa, file name =  
bb....bb (E) (NOS)
```

入出力ファイル (UNIX ファイル) からの読み出しで障害が発生しました。

aa....aa：該当するコマンド名

bb....bb：該当するファイル名

(S)障害が発生したファイルへの入出力処理を中止します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合はそのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

#### KFSB95412-E

```
ファイルへのライト処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
Failure occurred for write processing to the file. command name = aa....aa, file name =  
bb....bb (E) (NOS)
```

入出力ファイル (UNIX ファイル) への書き込みで障害が発生しました。

aa....aa：該当するコマンド名

bb....bb：該当するファイル名

標準出力の場合は、stdout を表示します。

(S)障害が発生したファイルへの入出力処理を中止します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

## KFSB95413-E

ファイルのクローズ処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
Failure occurred for file close processing. command name = aa....aa, file name = bb....bb  
(E) (NOS)

入出力ファイル (UNIX ファイル) のクローズで障害が発生しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するファイル名

(S)障害が発生したファイルへの入出力処理を中止します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

## KFSB95414-E

ファイルポインタの移動処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
Failure occurred for file pointer move processing. command name = aa....aa, file name = bb....bb  
(E) (NOS)

入出力ファイル (UNIX ファイル) のファイルポインタの移動で障害が発生しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するファイル名

(S)障害が発生したファイルへの入出力処理を中止します。

(O)このメッセージの直前にほかのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

## KFSB95415-Q

aa オプションに指定したファイルは既に存在します。上書きしていいですか。 [y : 上書きする n : 上書きしない] コマンド名 = bb....bb, ファイル名 = cc....cc  
The file specified for the aa option already exists. Would you like to overwrite it? [y: Overwrite n: Do not overwrite] Command name = bb....bb, file name = cc....cc (S) (NOS)

aa に表示したオプションに指定したファイルを上書きしてよいか、応答を求めます。

aa : オプション

bb....bb : コマンド名

cc....cc : ファイル名

(S)オペレータが設定した応答に従って処理します。y または n 以外を応答した場合は、再度応答を求めます。

(O)ファイルを上書きしてコマンドの処理を続行する場合は y を、ファイルを上書きしないでコマンドの処理を終了する場合は n を設定してください。応答時に設定する y または n は、大文字でも受け付けられます。

**[対策]** なし。

## KFSB95416-E

```
指定したファイルに編集するデータがありません。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
The specified file contains no data to be edited. command name = aa....aa, file name =  
bb....bb (E) (NOS)
```

指定したファイルに編集するデータがありません。次に示すどれかが理由として考えられます。

- 指定したファイルが、コアファイルまたはメモリダンプファイルではありません。
- データが破壊されています。
- コマンドのパラメタに指定した番号が誤っています (eetrbuapdump コマンドの場合-e オプションの ifa の指定, eetrbtbldump コマンドの場合-t オプションの指定)。
- 指定したファイルが、プロセス関連定義の trb\_uap\_trace\_file\_out オペランドを指定した環境下で作成されたコアファイルまたはメモリダンプファイルではありません。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するファイル名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの指定が誤っていないかどうか確認してください。また、ファイルが正しいかどうか確認してください。

**[対策]** なし。

## KFSB95417-E

```
データの編集途中でファイルの終わりに達しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
The end of the file was reached during data modification. command name = aa....aa, file name  
= bb....bb (E) (NOS)
```

データの編集途中でファイルの終わりに達しました。データが破壊されています。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当するファイル名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)ファイルが正しいかどうか確認してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95425-I

強制出力コマンドが成功しました。コマンド名 = aa....aa, スワップ元ファイル名 = bb....bb, スワップ先ファイル名 = cc....cc

The forced output command was successful. command name = aa....aa, swap source file name = bb....bb, swap destination file name = cc....cc (S) (NOS)

強制出力コマンドが成功しました。そのため、スワップ元ファイルからスワップ先ファイルへ交代しました。

aa....aa : 強制出力コマンド名

eetrbstcput : 統計情報の強制出力コマンド

eetrbtaskfput : TASKTM 情報の強制出力コマンド

eetrbrtceput : 回線トレース情報の強制出力コマンド

eetrbuatfput : UAP トレース情報の強制出力コマンド

bb....bb : スワップ元ファイル名

cc....cc : スワップ先ファイル名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB95426-E

強制出力コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb, 詳細コード = cc

The forced output command failed. command name = aa....aa, reason code = bb, detail code = cc (E) (NOS)

強制出力コマンドが失敗しました。

aa....aa : 強制出力コマンド名

bb : 理由コード

01 : 入出力エラー

- 02：タイミングエラー（コマンド処理中）
- 03：タイミングエラー（機能停止中）
- 04：タイミングエラー（スワップが発生していない）
- 05：プロセス関連定義の trb\_stc\_use オペランドに N が指定されているか、または trb\_stc\_use オペランドの指定が省略されているため、統計情報機能を使用できません。
- 06：統計情報ファイルが縮退中です。
- 07：プロセス関連定義の trb\_uap\_trace\_file\_out オペランドに N が指定されているか、または trb\_uap\_trace\_file\_out オペランドの指定が省略されているため、UAP トレースファイル出力機能を使用できません。
- 08：トラブルシュート関連定義の trb\_middle\_trace\_use オペランドに N が指定されているか、または trb\_middle\_trace\_use オペランドの指定が省略されているため、ミドル固有トレースファイル取得機能を使用できません。
- 99：予期しないエラーが発生しました。

cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)理由コードに示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

**【対策】** TP1/EE プロセスのメッセージログファイルを参照し、原因を調査してください。また、詳細コードが有効な値を示す場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB95427-E

強制出力コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb

The forced output command failed. command name = aa....aa, reason code = bb (E)  
(NOS)

コマンド実行中に障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa：該当するコマンド名

bb：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コマンドの処理を中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
03	送信データの取得に失敗しました。	保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
04	データの送信に失敗しました。	TP1/EE との通信障害の原因を調査し、その原因を取り除いてください。
05	応答データの取得に失敗しました。	コマンドが実行されている可能性があります。TP1/EE のメッセージログファイルを参照してください。または、保守員に連絡してください。
06	応答データが正しく格納されていません。	保守員に連絡してください。
07	データ送信に失敗しました。	TP1/EE が起動しているかどうか、およびサービスグループ名が正しいかどうか確認してください。

## KFSB95428-E

コマンド実行中に内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bb

An internal conflict occurred during command execution. command name = aa....aa, detail code = bb (E) (NOS)

コマンド実行中に内部矛盾が発生したため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) コマンドの処理を中止して終了します。

(O) OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合は、コアダンプを保守員に渡してください。

## KFSB95429-E

コマンドでエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

An error occurred for the command. command name = aa....aa, reason code = bb....bb (E) (NOS)

コマンド実行時に障害が発生しました。

**aa....aa** : コマンド名

**bb....bb** : 発生した障害

PARAM : 引数が不正です。

ENVIRONMENT VARIABLE : コマンドの実行に必要な環境変数が不正です。

TEMPORARY DIRECTORY : 一時作業領域に十分な空き領域がありません。



OS COMMAND FAILED : OS のコマンド処理に失敗しました。

ファイルのアーカイブ処理またはディレクトリの作成に失敗しました。出力されている OS のコマンドのメッセージに従って対処してください。

(S)コマンドの処理を中止して終了します。

(O)障害の要因を取り除き、コマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95430-I

使用方法 : eetrbtasked [-e {f|r|b} [-t [開始時刻],[終了時刻]] [-r ラン I D] [-i I F A 番号] [-x 下限値,上限値] [-p {コード 1 |コード 2},{コード 1 |コード 2}...] [-v サービス名[,サービス名...]] -c c s v 出力ファイル名 [-n ファイル出力行] [-s [-j 編集間隔]]] T A S K T Mファイル名 [T A S K T Mファイル名...]

Usage: eetrbtasked [-e {f|r|b} [-t [<start-time>],[<end-time>]] [-r <run-id>] [-i <ifa-number>] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-p {<code-1>|<code-2>},{<code-1>|<code-2>}...] [-v <service-name>[, <service-name>...]] -c <csv-output-file-name> [-n <file-output-line>] [-s [-j <modification-interval>]]] TASKTM file name [<tasktm-file-name>...] (S) (NOS)

eetrbtasked コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95431-I

使用方法 : eetrblined [-e 編集種別] [-t [開始時刻],[終了時刻]] [-r ラン I D] [-s {rpc|trn|rap|dbq|ora|udp|sdh}] [-x 下限値,上限値] [-v サービス名[,サービス名...]] [-i I P アドレス[, I P アドレス...]] [-q DB キュー名[,DB キュー名...]] [-l ロット名[,ロット名...]] [-k 出力種別] [-c c s v 出力ファイル名 [-n ファイル出力行]] 回線トレースファイル名 [回線トレースファイル名...]

Usage: eetrblined [-e <modification-type>] [-t [<start-time>],[<end-time>]] [-r <run-id>] [-s {rpc|trn|rap|dbq|ora|udp|sdh}] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-v <service-name>[,<service-name>...]] [-i <ip-address>[,<ip-address>...]] [-q <DB-queue-name>[,<DB-queue-name>...]] [-l <lot-name>[,<lot-name>...]] [-k <output-type>] [-c <csv-output-file-name> [-n <file-output-line>]] <line-trace-file-name> [<line-trace-file-name>...] (S) (NOS)

eetrblined コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95432-I

使用方法：eetrbuapdump [-e {sum|ifa, I F A 番号|rec}] ファイル名

Usage: eetrbuapdump [-e {sum|ifa,<ifa-number>|rec}] <file-name> (S) (NOS)

eetrbuapdump コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95433-I

使用方法：eetrbtbldump {-t テーブル名[,通番]|-e アイキャッチャ [-p]} [-b サイズ] [-a] ファイル名

Usage: eetrbtbldump {-t <table-name>[,<number>]|-e <eye-catcher> [-p]} [-b <size>] [-a] <file-name> (S) (NOS)

eetrbtbldump コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95434-I

使用方法：eetrbtaskfput -g サービスグループ名

Usage: eetrbtaskfput -g <service-group-name> (S) (NOS)

eetrbtaskfput コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95435-I

使用方法：eetrbrceput -g サービスグループ名

Usage: eetrbrceput -g <service-group-name> (S) (NOS)

eetrbrceput コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95436-I

使用方法：eerasget [-l|-s] [-c] 取得先ファイル名

Usage: eerasget [-l|-s] [-c] <acquisition-destination-file-name> (S) (NOS)

eerasget コマンドの使用方法を示します。コマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95437-I

使用方法：eetrbstcse -g サービスグループ名 {[ -e 基本統計情報種別[,基本統計情報種別...] [-k システム統計情報種別[,システム統計情報種別...] [-i 時間間隔] ] -r}

Usage: eetrbstcse -g <service-group-name> {[ -e <basic-statistical-information-type>[,<basic-statistical-information-type>...] [-k <system-statistical-information-type>[,<system-statistical-information-type>...] [-i <time-interval>] ] -r} (S) (NOS)

eetrbstcse コマンドの使用方法を示します。コマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95438-I

使用方法：eetrbstcfput -g サービスグループ名

Usage: eetrbstcfput -g <service-group-name> (S) (NOS)

eetrbstcfput コマンドの使用方法を示します。コマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB95439-I

使用方法：eetrbstced [-e 編集種別] [-t [開始時刻][,終了時刻]] [-r ラン I D] [-i 時間間隔] [-s [開始編集 I D][,終了編集 I D]] [-v サービス名[,サービス名...]] [-q DBキュー名[,DBキュー名...]] [-l ロット名[,ロット名...]] [-o OBM名[,ロット名[,ロット名]]] [-c c s v 出力ファイル名] 統計情報ファイル名 [統計情報ファイル名...]

Usage: eetrbstced [-e <modification-type>] [-t [<start-time>][,<end-time>]] [-r <run-id>] [-i <time-interval>] [-s [<start-modification-id>][,<end-modification-id>]] [-v <service-name>[,<service-name>...]] [-q <DB-queue-name>[,<DB-queue-name>...]] [-l <lot-name>[,<lot-name>...]] [-o <obm-name> [,<lot-name> [,<lot-name>]]] [-c <csv-output-file-name>] <statistical-information-file-name> [<statistical-information-file-name>...] (S) (NOS)

eetrbstced コマンドの使用方法を示します。コマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB95440-I

使用方法：eetrbreport -g サービスグループ名 [-c] [-r] [-s [開始編集 I D][,終了編集 I D]]

Usage: eetrbreport -g <service-group-name> [-c] [-r] [-s [<start-modification-id>][,<end-modification-id>]] (S) (NOS)

eetrbreport コマンドの使用方法を示します。コマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB95441-I

```
使用方法：eetrbstcese -g サービスグループ名 [-e {[ersp],[edly],[edbq],[eobs] | eobm [-i 時間間隔]}] [-r] Usage: eetrbstcese -g <service-group-name> [-e {[ersp] [,edly] [,edbq] [,eobs] | eobm [-i <time-interval>}}] [-r] (S) (NOS)
```

eetrbstcese コマンドの使用方を示します。コマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB95442-I

```
使用方法：eetrbrcvr -g サービスグループ名 [-s {tsk|lin|uat|dmp|stc|mcp|xdb|all}] Usage: eetrbrcvr -g <service-group-name> [-s {tsk|lin|uat|dmp|stc|mcp|xdb|all}] (S) (NOS)
```

eetrbrcvr コマンドの使用方を示します。コマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB95443-I

```
使用方法：eetrbtaskdump [-e 編集種別] [-r ランID] [-i IFA番号] [-x 下限値,上限値] [-p {コード1|コード2},{[コード1|コード2]...}] [-v サービス名[,サービス名...]] -c csv出力ファイル名 [-n ファイル出力行] ファイル名 Usage: eetrbtaskdump [-e <modification-type>] [-r <run-id>] [-i <ifa-number>] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-p {<code-1>|<code-2>},{<code-1>|<code-2>...}] [-v <service-name>[,<service-name>...]] -c <csv-output-file-name> [-n <file-output-line>] <file-name> (S) (NOS)
```

eetrbtaskdump コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB95444-I

```
使用方法：eetrblinedump [-r ラン I D] [-s {rpc|trn|rap|dbq|ora|udp|sdh}] [-x 下限値,上限値] [-v サービス名[,サービス名...]] [-i I Pアドレス[, I Pアドレス...]] [-q DBキュー名[,DBキュー名...]] [-l ロット名[,ロット名...]] [-k 出力種別] [-c c s v出力ファイル名 [-n ファイル出力行]] ファイル名  
Usage: eetrblinedump [-r <run-id>] [-s {rpc|trn|rap|dbq|ora|udp|sdh}] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-v <service-name>[,<service-name>...]] [-i <ip-address>[,<ip-address>...]] [-q <DB-queue-name>[,<DB-queue-name>...]] [-l <lot-name>[,<lot-name>...]] [-k <output-type>] [-c <csv-output-file-name> [-n <file-output-line>]] <file-name> (S) (NOS)
```

eetrblinedump コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95445-I

```
使用方法：eetrbuatfput -g サービスグループ名  
Usage: eetrbuatfput -g <service-group-name> (S) (NOS)
```

eetrbuatfput コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95446-I

```
使用方法：eetrbuated [-e 編集種別] [-t [開始時刻][,終了時刻]] [-r ラン I D] [-x 下限値,上限値] [-v サービス名[,サービス名...]] U A Pトレースファイル名 [U A Pトレースファイル名...]  
Usage: eetrbuated [-e <modification-type>] [-t [<start-time>[,<end-time>]]] [-r <run-id>] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-v <service-name>[,<service-name>...]] <uap-trace-file-name> [<uap-trace-file-name>...] (S) (NOS)
```

eetrbuated コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95447-I

使用方法：eetrbqueued [-e 編集種別] [-q キュー種別] [-g サービスグループ名] [-v サービス名] [-o 編集結果出力ファイル名] キューダンプファイル名 [キューダンプファイル名...]

Usage: eetrbqueued [-e <modification-type>] [-q <queue-type>] [-g <service-group-name>] [-v <service-name>] [-o <edit-result-output-file-name>] <queue-dump-file-name> [<queue-dump-file-name>...] (S) (NOS)

eetrbqueued コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95448-I

使用方法：eetrbwtor -g サービスグループ名 -n メッセージ識別子 処理オプション

Usage: eetrbwtor -g <service-group-name> -n <message-ID> <processing-option> (S) (NOS)

eetrbwtor コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95450-I

コマンドが成功しました。コマンド名 = aa....aa

The command was successful. command name = aa....aa (S) (NOS)

コマンドが成功しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB95451-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb, 詳細コード = cc  
The command failed. command name = aa....aa, reason code = bb, detail code = cc (E)  
(NOS)

コマンドが失敗しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)理由コードに示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
01	定義不正です。	プロセス関連定義の trb_stc_use オペランドに Y を指定して TP1/EE プロセスを再起動してください。
02	統計情報取得中です。	統計情報を取得しています。eetrbstcse コマンドの-r を実行してから、コマンドを再実行してください。
03	システム統計情報を取得していません。	eetrbstcse コマンドを実行してシステム統計情報の取得を開始してから、コマンドを再実行してください。
04	統計情報取得中ではありません。	なし。
05	TP1/EE システムが終了中のため、コマンドを受け付けません。	なし。
06	タイマ登録に失敗しました。TP1/EE システムで、タイマ登録をリトライしています。	なし。
07	統計情報種別の指定を無視しました。	前提機能のオプションが組み込まれているかどうか確認してください。
08	UAP トレースファイル出力機能は使用できません。	プロセス関連定義の trb_uap_trace_file_out オペランドに Y を指定して TP1/EE プロセスを再起動してください。
09	処理キューの登録に失敗しました。	しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。



理由コード	意味	対策
10	MCP トレースファイル出力機能は使用できません。	プロセス関連定義の mcp_use オペランドに Y を指定して、TP1/EE プロセスを再起動してください。
11	XDB トレース情報ファイル出力機能は使用できません。	プロセス関連定義の xdb_use オペランドに Y を指定して、TP1/EE プロセスを再起動してください。
12	OBM 統計情報取得中です。	すでに OBM 統計情報を取得しています。-r 指定の eetrbstcese を実行してから、再実行してください。
13	OBM 統計情報取得中ではありません。	なし。
32	メッセージ識別番号が未登録です。	eetrbwtor コマンドの -n オプションに指定したメッセージ識別番号を見直して、コマンドを再実行してください。
33	コマンド処理中にタイミングエラーが発生しました。	コマンドを再実行してください。
34	処理オプションが不正です。	eetrbwtor コマンドの処理オプションを見直して、コマンドを再実行してください。

## KFSB95452-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb  
The command failed. command name = aa....aa, reason code = bb (E) (NOS)

コマンド実行中に障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コマンドの処理を中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
03	送信データの取得に失敗しました。	保守員に連絡してください。
04	データの送信に失敗しました。	TP1/EE との通信障害の原因を調査し、その原因を取り除いてください。
05	応答データの取得に失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>コマンドはすでに実行されている可能性があります。TP1/EE のメッセージログファイルを参照してください。</li> <li>保守員に連絡してください。</li> </ul>
06	応答データが正しく格納されていません。	保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
07	データ送信に失敗しました。	TP1/EE が起動しているかどうか、またはサービスグループ名が誤っていないかどうかを確認してください。

### KFSB95453-I

コマンドの受付が成功しました。コマンド名 = aa....aa

The command was received successfully. command name = aa....aa (S) (NOS)

コマンドの受け付けが成功しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB95457-Q

aa オプションに指定したファイルは既に存在します。上書きしていいですか。[y : 上書きする a : 全てのファイルを上書きする n : 上書きしない] コマンド名 = bb....bb, ファイル名 = cc....cc

The file specified for the aa option already exists. Would you like to overwrite it? [y: Overwrite a: Overwrite all files n: Do not overwrite] Command name = bb....bb, file name = cc....cc  
(S) (NOS)

aa に表示したオプションに設定したファイルを上書きしていいか応答を求めます。

aa : オプション

bb....bb : コマンド名

cc....cc : ファイル名

(S)ユーザが設定した応答に従って処理します。y, a または n 以外を応答した場合は、再度応答を求めます。

(O)

y : ファイルを上書きしてコマンド処理を続行します。

a : すべてのファイルを上書きしてコマンド処理を続行します。

n : ファイルを上書きしないでコマンド処理を終了します。

【対策】なし。

y, a, n はマニュアルには小文字で記載しますが、大文字でも受け付けます。

## KFSB95460-I

使用方法：eerkstrbtaskfput -g データ連携支援 I D

Usage: eerkstrbtaskfput -g <data-linkage-support-ID> (S) (NOS)

eerkstrbtaskfput コマンドの使用方を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95461-I

使用方法：eerkstrbtasked [-e {f|r|b} [-t [開始時刻][,終了時刻]] [-r ラン I D] [-i I F A 番号] [-x 下限値,上限値] [-p {コード1|コード2},{コード1|コード2}...] [-v サービス名[,サービス名...]] -c c s v 出力ファイル名 [-n ファイル出力行] [-s [-j 編集間隔]]] T A S K T Mファイル名 [T A S K T Mファイル名...]

Usage: eerkstrbtasked [-e {f|r|b} [-t [<start-time>][, <end-time>]] [-r <run-id>] [-i <ifa-number>] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-p {<code-1>|<code-2>}[,<code-1>|<code-2>}...] [-v <service-name>[, <service-name>...]] -c <csv-output-file-name> [-n <file-output-line>] [-s [-j <modification-interval>]]] TASKTM file name [<tasktm-file-name>...] (S) (NOS)

eerkstrbtasked コマンドの使用方を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95462-I

使用方法：eerkstrbtrcefput -g データ連携支援 I D

Usage: eerkstrbtrcefput -g <data-linkage-support-ID> (S) (NOS)

eerkstrbtrcefput コマンドの使用方を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95463-I

```
使用方法：eerkstrblined [-e 編集種別] [-t [開始時刻][,終了時刻]] [-r ラン I D] [-s {rpc|trn|dbq}]
[-x 下限値,上限値] [-v サービス名[,サービス名...]] [-i I Pアドレス[, I Pアドレス...]] [-k 出力種別] [-c
c s v出力ファイル名 [-n ファイル出力行]] 回線トレースファイル名 [回線トレースファイル名...]
Usage: eerkstrblined [-e <modification-type>] [-t [<start-time>],[<end-time>]] [-r <run-id>]
[-s {rpc|trn|dbq}] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-v <service-name>[,<service-
name>...]] [-i <ip-address>[,<ip-address>...]] [-k <output-type>] [-c <csv-output-file-name>
[-n <file-output-line>]] <line-trace-file-name> [<line-trace-file-name>...] (S) (NOS)
```

eerkstrblined コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95464-I

```
使用方法：eerkstrbuapdump [-e {sum|ifa, I F A 番号|rec}] ファイル名
Usage: eerkstrbuapdump [-e {sum|ifa,<ifa-number>|rec}] <file-name> (S) (NOS)
```

eerkstrbuapdump コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95465-I

```
使用方法：eerkstrbtbldump -t テーブル名[,通番] [-b サイズ] ファイル名
Usage: eerkstrbtbldump -t <table-name>[,<number>] [-b <size>] <file-name> (S)
(NOS)
```

eerkstrbtbldump コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95466-I

使用方法：eerkstrbstcse -g データ連携支援 I D {[ -e 基本統計情報種別[,基本統計情報種別...] [-k システム統計情報種別[,システム統計情報種別...] [-i 時間間隔] ] -r}

Usage: eerkstrbstcse -g <data-linkage-support-ID> {[ -e <basic-statistical-information-type>[,<basic-statistical-information-type>...] [-k <system-statistical-information-type>[,<system-statistical-information-type>...] [-i <time-interval>] ] -r} (S) (NOS)

eerkstrbstcse コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95467-I

使用方法：eerkstrbstcese -g データ連携支援 I D [-e {[ersp][,edly][,edbq] [-i 時間間隔]}] [-r]

Usage: eerkstrbstcese -g <data-linkage-support-ID> [-e {[ersp][,edly][,edbq] [-i <time-interval>}] ] [-r] (S) (NOS)

eerkstrbstcese コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95468-I

使用方法：eerkstrbstcfcput -g データ連携支援 I D

Usage: eerkstrbstcfcput -g <data-linkage-support-ID> (S) (NOS)

eerkstrbstcfcput コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95469-I

使用方法：eerkstrbstced [-e 編集種別] [-t [開始時刻],[終了時刻]] [-r ラン I D] [-i 時間間隔] [-s [開始編集 I D],[終了編集 I D]] [-v サービス名[,サービス名...]] [-q DB キュー名[,DB キュー名...]] [-c c s v 出力ファイル名] 統計情報ファイル名 [統計情報ファイル名...]

Usage: eerkstrbstced [-e <modification-type>] [-t [<start-time>],[<end-time>]] [-r <run-id>] [-i <time-interval>] [-s [<start-modification-id>],[<end-modification-id>]] [-v <service-name>],[<service-name>...] [-q <DB-queue-name>],[<DB-queue-name>...] [-c <csv-output-file-name>] <statistical-information-file-name> [<statistical-information-file-name>...]

(S) (NOS)

eerkstrbstced コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95470-I

使用方法：eerkstrbreport -g データ連携支援 I D [-c] [-r] [-s [開始編集 I D],[終了編集 I D]]

Usage: eerkstrbreport -g <data-linkage-support-ID> [-c] [-r] [-s [<start-modification-id>] [<end-modification-id>]] (S) (NOS)

eerkstrbreport コマンドの使用方法を示します。コマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95471-I

使用方法：eerkstrbrcvr -g データ連携支援 I D [-s {tsk|lin|uat|stc|all}]

Usage: eerkstrbrcvr -g <data-linkage-support-ID> [-s {tsk|lin|uat|stc|all}] (S) (NOS)

eerkstrbrcvr コマンドの使用方を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95472-I

使用方法：eerkstrbtaskdump [-e 編集種別] [-r ラン I D] [-i I F A 番号] [-x 下限値,上限値] [-p {コード 1 |コード 2},{[コード 1 |コード 2]...}] [-v サービス名,[サービス名...]] -c c s v 出力ファイル名 [-n ファイル出力行] ファイル名

Usage: eerkstrbtaskdump [-e <modification-type>] [-r <run-id>] [-i <ifa-number>] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-p {<code-1>|<code-2>},{<code-1>|<code-2>}...] [-v <service-name>[,<service-name>...]] -c <csv-output-file-name> [-n <file-output-line>] <file-name> (S) (NOS)

eerkstrbtaskdump コマンドの使用方を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95473-I

使用方法：eerkstrblinedump [-r ラン I D] [-s {rpc|trn|dbq}] [-x 下限値,上限値] [-v サービス名,[サービス名...]] [-i I P アドレス,[I P アドレス...]] [-k 出力種別] [-c c s v 出力ファイル名 [-n ファイル出力行]] ファイル名

Usage: eerkstrblinedump [-r <run-id>] [-s {rpc|trn|dbq}] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-v <service-name>[,<service-name>...]] [-i <ip-address>[,<ip-address>...]] [-k <output-type>] [-c <csv-output-file-name> [-n <file-output-line>]] <file-name> (S) (NOS)

eerkstrblinedump コマンドの使用方を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95474-I

使用方法：eerkstrbuatfput -g データ連携支援 I D

Usage: eerkstrbuatfput -g <data-linkage-support-ID> (S) (NOS)

eerkstrbuatfput コマンドの使用方を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95475-I

使用方法：eerkstrbuated [-e 編集種別] [-t [開始時刻],[終了時刻]] [-r ラン I D] [-x 下限値,上限値] [-v サービス名[,サービス名...]] U A P トレースファイル名 [U A P トレースファイル名...]

Usage: eerkstrbuated [-e <modification-type>] [-t [<start-time>],[<end-time>]] [-r <run-id>] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-v <service-name>[,<service-name>...]] <uap-trace-file-name> [<uap-trace-file-name>...] (S) (NOS)

eerkstrbuated コマンドの使用方を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95476-I

使用方法：eebptrbtasked [-e {f|r} [-t [開始時刻],[終了時刻]] [-r ラン I D] [-i I F A 番号] [-x 下限値,上限値] [-p {コード1 | コード2},{コード1 | コード2}...] [-v サービス名[,サービス名...]] -c c s v 出力ファイル名 [-n ファイル出力行] [-s [-j 編集間隔]]] T A S K T M ファイル名 [T A S K T M ファイル名...]

Usage: eebptrbtasked [-e {f|r} [-t [<start-time>],[<end-time>]] [-r <run-id>] [-i <ifa-number>] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-p {<code-1>|<code-2>}[,<code-1>|<code-2>}...] [-v <service-name>[, <service-name>...]] -c <csv-output-file-name> [-n <file-output-line>] [-s [-j <modification-interval>]]] TASKTM file name [<tasktm-file-name>...] (S) (NOS)



eebptrbtasked コマンドの使用方を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95477-I

```
使用方法：eebptrblined [-e 編集種別] [-t [開始時刻],[終了時刻]] [-r ラン I D] [-s {trn|sdh}] [-x  
下限値,上限値] [-v サービス名[,サービス名...]] [-i I P アドレス[, I P アドレス...]] [-k 出力種別] [-c  
c s v 出力ファイル名 [-n ファイル出力行]] 回線トレースファイル名 [回線トレースファイル名...]  
Usage: eebptrblined [-e <modification-type>] [-t [<start-time>],[<end-time>]] [-r <run-  
id>] [-s {trn|sdh}] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-v <service-name>[,<service-  
name>...]] [-i <ip-address>[,<ip-address>...]] [-k <output-type>] [-c <csv-output-file-name>  
[-n <file-output-line>]] <line-trace-file-name> [<line-trace-file-name>...] (S) (NOS)
```

eebptrblined コマンドの使用方を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95478-I

```
使用方法：eebptrbuapdump [-e {sum|ifa, I F A 番号|rec}] ファイル名  
Usage: eebptrbuapdump [-e {sum|ifa,<ifa-number>|rec}] <file-name> (S) (NOS)
```

eebptrbuapdump コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95479-I

```
使用方法：eebptrbtldump {-t テーブル名[,通番]} [-e アイキャッチャ [-p]] [-b サイズ] [-a] ファイ  
ル名
```

```
Usage: eebptribtdump {-t <table-name>[,<number>]|-e <eye-catcher> [-p]} [-b <size>]
[-a] <file-name> (S) (NOS)
```

eebptribtdump コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95480-I

```
使用方法：eebptribstced [-e 編集種別] [-t [開始時刻],[終了時刻]] [-r ラン I D] [-i 時間間隔] [-s [開
始編集 I D],[終了編集 I D]] [-v サービス名[,サービス名...]] [-c c s v 出力ファイル名] 統計情報ファ
イル名 [統計情報ファイル名...]
```

```
Usage: eebptribstced [-e <modification-type>] [-t [<start-time>],[<end-time>]] [-r <run-
id>] [-i <time-interval>] [-s [<start-modification-id>],[<end-modification-id>]] [-v <service-
name>[,<service-name>...]] [-c <csv-output-file-name>] <statistical-information-file-name>
[<statistical-information-file-name>...] (S) (NOS)
```

eebptribstced コマンドの使用方法を示します。

コマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95481-I

```
使用方法：eebptribtaskdump [-e 編集種別] [-r ラン I D] [-i I F A 番号] [-x 下限値,上限値] [-p
{コード1 | コード2},{コード1 | コード2}...] [-v サービス名[,サービス名...]] -c c s v 出力ファイル
名 [-n ファイル出力行] ファイル名
```

```
Usage: eebptribtaskdump [-e <modification-type>] [-r <run-id>] [-i <ifa-number>] [-x
<minimum-value>,<maximum-value>] [-p {<code-1>|<code-2>}{,<code-1>|
<code-2>}...] [-v <service-name>[,<service-name>...]] -c <csv-output-file-name> [-n <file-
output-line>] <file-name> (S) (NOS)
```

eebptribtaskdump コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB95482-I

使用方法：eebptrblinedump [-r ラン I D] [-s {trn|sdh}] [-x 下限値,上限値] [-v サービス名[,サービス名...]] [-i I P アドレス[, I P アドレス...]] [-k 出力種別] [-c c s v 出力ファイル名 [-n ファイル出力行]] ファイル名

Usage: eebptrblinedump [-r <run-id>] [-s {trn|sdh}] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-v <service-name>[,<service-name>...]] [-i <ip-address>[,<ip-address>...]] [-k <output-type>] [-c <csv-output-file-name> [-n <file-output-line>]] <file-name> (S) (NOS)

eebptrblinedump コマンドの使用方法を示します。

コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB95483-I

使用方法：eebptrbuated [-e 編集種別] [-t [開始時刻][,終了時刻]] [-r ラン I D] [-x 下限値,上限値] [-v サービス名[,サービス名...]] U A P トレースファイル名 [U A P トレースファイル名...]

Usage: eebptrbuated [-e <modification-type>] [-t [<start-time>][,<end-time>]] [-r <run-id>] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-v <service-name>[,<service-name>...]] <uap-trace-file-name> [<uap-trace-file-name>...] (S) (NOS)

eebptrbuated コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB95484-I

使用方法：eetrbmidtrcfput -g サービスグループ名

```
Usage: eetrbmidtrcput -g <service-group-name> (S) (NOS)
```

eetrbmidtrcput コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95485-I

```
使用方法 : eetrbmidtrcdump -o 出力ファイル名 入力ファイル名
```

```
Usage: eetrbmidtrcdump -o <output-file-name> <input-file-name> (S) (NOS)
```

eetrbmidtrcdump コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95500-E

```
領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb
```

```
An attempt to allocate area has failed. command name = aa....aa, request size = bb....bb
```

```
(E) (NOS)
```

オフラインバッチ制御コマンド処理で、必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。再発する場合、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB95501-E

```
コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbbbb
```

The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bbbbbb (E)  
(NOS)

オフラインバッチ制御コマンドの形式に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bbbbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいコマンド形式で、コマンドを再実行してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
05001	不正なオプションフラグがあります。	正しいコマンド形式で、コマンドを再実行してください。
05003	コマンドの引数の長さが不正です。	
05053	不正なコマンド引数があります。	
05054	フラグ引数がありません。	
05055	必要なオプションフラグがありません。	
05056	必須のオプションフラグがありません。	
上記以外	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB95502-E

コマンドのオプションが不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb....bb, 理由コード = ccccc  
The command options are invalid. command name = aa....aa, option = bb....bb, reason code = ccccc (E) (NOS)

コマンドのオプションが不正です。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : オプション

cccccc : 理由コード

00001 : 指定範囲外の値を指定しています。

00002 : 指定できない値を指定しています。

00003 : けた数が多過ぎます。

05054 : フラグ引数がありません。

05057 : けた数が不正です。このフラグ引数は固定長です。

05058：けた数が多過ぎます。このフラグ引数は可変長です。

05059：指定できない文字を指定しています。

(S)コマンドの使用方法を表示してコマンド処理を終了します。

(O)コマンドのオプションが誤っていないか、確認してください。オプションに誤りがある場合は、正しいオプションを指定してコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95503-E

コマンド処理でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc

An error occurred during command processing. command name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code = cc....cc (E) (NOS)

オフラインバッチ制御コマンド処理でエラーが発生したため、処理を中止しました。

aa....aa：コマンド名

bbbb：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

データ連携支援の場合は、一覧内のコマンド名を次に示すコマンド名に読み替えてください。

- eebppsetup → eeaphsetuprks
- eebpprun → eeaphrunrksh
- eebppjobs → eeaphjobsrks

理由コード	意味	対策
0001	オフラインバッチ環境が構築されていません。	TP1/FSP の eebppsetup コマンドの場合 指定したディレクトリを見直してください。指定したディレクトリが正しい場合は、eebppsetup コマンドに-y オプションを追加して再実行してください。 それ以外のコマンドの場合 オフラインバッチ環境の状態を確認してください。
0002	TP1/FSP がインストールされていません。	TP1/FSP をインストールしたあとで、コマンドを再実行してください。

理由コード	意味	対策
0003	オフラインバッチ環境が構築済みです。	TP1/FSP の eebppsetup コマンドで指定したディレクトリを見直してください。指定したディレクトリが正しい場合は、eebppsetup コマンドに-y オプションを追加して再実行してください。
0004	指定されたディレクトリが不正です。	TP1/FSP の eebppsetup コマンドで指定したディレクトリを見直してください。
1001	コマンドの実行権限がありません。	コマンドを実行するユーザが適切であるか確認してください。
1002	リソースが不足しています。	直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージを基に対策してください。メッセージが出力されていない場合は、システムのリソース状態を確認してください。
1004	環境変数の設定に失敗しました。	しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。
1005	定義ファイルの退避に失敗しました。	なし。
1006	オフラインバッチ環境が不正です。	TP1/FSP の eebpprun コマンド、および eebppjobs コマンドの場合は、次の内容を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 実行ユーザはオフラインバッチ環境の所有者と同じか。</li> <li>• オフラインバッチ環境のパス構成要素のアクセス権は適切か。</li> <li>• 環境変数 EEBPPDIR の設定値は正しいか。</li> </ul> TP1/FSP の eebppsetup コマンドの場合は、指定したオフラインバッチホームディレクトリ内のファイル、およびディレクトリを rm コマンドで削除したあと、オフラインバッチ環境を再構築してください。
1007		
1008	同環境内でジョブ名が一致する eebpprun コマンドが実行中です。 または、eebppsetup コマンドが実行中です。	eebpprun コマンドの場合は、同環境内でジョブ名が一致する eebpprun コマンド、または eebppsetup コマンドが終了したあとで、コマンドを再実行してください。 eebppsetup コマンドの場合は、同環境内のすべての eebpprun コマンド、または eebppsetup コマンドが終了したあとで、コマンドを再実行してください。
1009	コマンドの実行が競合しました。	コマンドを再実行してください。
1010	ジョブ実行環境の作成に失敗しました。	オフラインバッチ環境を再構築してください。
1011		
1012		
1013		
1014		
1015	環境変数の取得に失敗しました。	オフラインバッチプロセス、または運用コマンドの実行に必要な環境変数の設定の有無を確認してください。
1016	メッセージの初期化に失敗しました。	直前に出力されているメッセージを見て対策してください。

理由コード	意味	対策
1017	保守情報ファイルの更新に失敗しました。	ディスク容量が不足していないか、またはファイルシステムに異常がないかを確認してください。
2001	<ul style="list-style-type: none"> <li>オフラインバッチの場合 オフラインバッチ定義ファイル不正</li> <li>データ連携支援の場合 TP1/EE サービス定義ファイル不正</li> </ul>	指定した定義ファイルの有無およびアクセス権を確認してください。
2002	環境変数 EEBPPMODULEDIR が不正です。	環境変数の設定値を確認してください。
2003	環境変数 EEBPPBSENTPTR が不正です。	
3001	子プロセスの起動通知が完了する前に子プロセスがプロセスダウンしました。	コマンドを再実行してください。
3002	子プロセスの起動通知が完了する前に親プロセスがプロセスダウンしました。	コマンドを再実行してください。
8001	子プロセスで OS コマンドに失敗しました。	保守員に連絡してください。
8002	子プロセスでファイルアクセスに失敗しました。	オフラインバッチ環境を再構築してください。
8003	不完全な状態のオフラインバッチ環境ディレクトリが指定されました。	TP1/FSP の eebppsetup コマンドで指定したディレクトリを見直してください。指定したディレクトリが正しい場合は、eebppsetup コマンドに -y オプションを追加して再実行してください。
8090	子プロセスで OS コマンドに失敗しました。	保守員に連絡してください。
8091		
9000	内部矛盾が発生しました。	
上記以外	予期しない障害が発生しました。	

## KFSB95504-E

内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cc....cc, 詳細コード 3 = dd....dd

An internal conflict has occurred. command name = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cc....cc, detail code 3 = dd....dd (E) (NOS)

オフラインバッチ制御コマンド処理で内部矛盾が発生したため、処理を中止しました。

**aa....aa** : コマンド名

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

**cc....cc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報



dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合、コアダンプを保守員に渡してください。

## KFSB95505-E

コマンドでエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

An error occurred for the command. command name = aa....aa, reason code = bb....bb (E)  
(NOS)

オフラインバッチ制御コマンド処理でエラーが発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 理由コード

ENVIRONMENT VARIABLE : コマンドの実行に必要な環境変数が不正です。

OS COMMAND FAILED : OS のコマンド処理に失敗したため、出力されている OS のコマンドのメッセージを見て対処してください。または、ファイルのアーカイブ処理もしくはディレクトリの作成に失敗しました。

PARAM : 引数が正しくありません。

TEMPORARY DIRECTORY : 一時作業領域に十分な空き領域がありません。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)エラーの要因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

**[対策]** なし。

## KFSB95506-I

オペランド設定値を環境変数値で置き換えます。オペランド名 = aa....aa, 環境変数名 = bb....bb

The value set for an option will now be replaced with the value of an environment variable.  
operand name = aa....aa, environment variable name = bb....bb (S) (NOS)

オフラインバッチ定義ファイルのオペランド指定値を環境変数値で置き換えて実行します。

aa....aa : オペランド名

置き換え対象のオペランド名を表示します。

bb....bb : 環境変数名

オペランド指定値の置き換えに使用する環境変数名を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB95550-I

使用方法：eebppsetup [-d] [-y] オフラインバッチホームディレクトリ

Usage: eebppsetup [-d] [-y] <offline-batch-process-home-directory> (S) (NOS)

TP1/FSP の eebppsetup コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB95551-I

使用方法：eebprun -f オフラインバッチ定義ファイル名 [-j ジョブ名] [-m ユーザパラメタ] [-e ジョブ識別子]

Usage: eebprun -f <offline-batch-process-definition-file-name> [-j <job-name>] [-m <user-parameter>] [-e <job-id>] (S) (NOS)

TP1/FSP の eebprun コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB95552-I

使用方法：eebppjobs

Usage: eebppjobs (S) (NOS)

TP1/FSP の eebppjobs コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95554-I

使用方法：eebpprasget [-l|-s] [-c] 取得先ファイル名

Usage: eebpprasget [-l|-s] [-c] <acquisition-destination-file-name> (S) (NOS)

TP1/FSP の eebpprasget コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95570-I

使用方法：eeaphsetuprks [-d] [-y] データ連携支援ホームディレクトリ

Usage: eeaphsetuprks [-d] [-y] <data-linkage-support-home-directory> (S) (NOS)

eeaphsetuprks コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理を行わないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95571-I

使用方法：eeaphrunrksh -j データ連携支援制御情報ファイル名 -k データ連携支援 I D [-e メッセージ識別子] [-i]

Usage: eeaphrunrksh -j <data-linkage-support-control-information-file-name> -k <data-linkage-support-ID> [-e <message-ID>] [-i] (S) (NOS)

eeaphrunrksh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理を行わないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95572-I

使用方法：eeaphjobsrks

Usage: eeaphjobsrks (S) (NOS)

eeaphjobsrks コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理を行わないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95574-I

使用方法：eeaphrasgetrks [-l|-s] [-c] 取得先ファイル名

Usage: eeaphrasgetrks [-l|-s] [-c] <acquisition-destination-file-name> (S) (NOS)

eeaphrasgetrks コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理を行わないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は形式を正しく設定して再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95600-E

メモリが確保できません。コマンド名 = aa....aa, サイズ = bb....bb, 詳細コード = cc

Memory cannot be allocated. command name = aa....aa, size = bb....bb, detail code = cc

(E) (NOS)

メモリを確保できません。

aa....aa：該当するコマンド名

bb....bb：確保しようとしたメモリのサイズ（10進数10けた以内。単位：バイト）

cc：TP1/EEがトラブルシュートで使用する情報（10進数2けた）

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)システムの動作状況を確認して、再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95601-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb

The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bb (E) (NOS)

コマンドの形式が不正です。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb : 理由コード (10 進数 2 けた)

- 01 : 不正なオプションフラグを使用しています。
- 02 : 必要なフラグ引数がありません。
- 03 : コマンド引数の指定数が制限数を超過しています。
- 04 : コマンド引数の数が必要な数に達していません。

(S)コマンドの使用方法を表示して、コマンドの処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの指定が誤っていないかどうか確認してください。

【対策】 なし。

## KFSB95602-E

コマンドのオプションが不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb....bb, 理由コード = cc

A command option is invalid. command name = aa....aa, option = bb....bb, reason code = cc (E) (NOS)

コマンドのオプションが不正です。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 指定が誤っているオプション

cc : 理由コード (10 進数 2 けた)

- 01 : 必要なオプションフラグがありません。
- 02 : フラグ引数の指定値に誤りがあります。
- 03 : 複数のうち一つを必ず選択するオプションフラグがありません。

(S)コマンドの使用方法を表示して、コマンドの処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの指定が誤っていないかどうか確認してください。

【対策】 なし。

## KFSB95603-E

コマンドのオプションの組み合わせが不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション 1 = bb, オプション 2 = cc

The combination of command options is invalid. command name = aa....aa, option 1 = bb, option 2 = cc (E) (NOS)

コマンドのオプションの組み合わせが不正です。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb : 組み合わせが不正なオプション (2 文字)

cc : 組み合わせが不正なオプション (2 文字)

(S)コマンドの使用方法を表示して、コマンドの処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの指定が誤っていないかどうか確認してください。

[対策] なし。

## KFSB95604-E

SQL 実行においてエラーが発生しました。DBMS メッセージ = aa....aa, 共有情報表名 = bb....bb, SQLCODE = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

An error occurred during SQL execution. DBMS message = aa....aa, JI table name = bb....bb, SQLCODE = cc....cc, detail code = dd....dd (E) (NOS)

共有情報表への SQL 実行時に SQL エラーが発生しました。

SQL 実行時の DBMS のエラーメッセージを表示します。

aa....aa : DBMS のエラーメッセージ

bb....bb : 共有情報表名

cc....cc : SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] DBMS のエラーメッセージを参照し原因を取り除いてください。

## KFSB95605-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc

Command execution failed. command name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E) (NOS)

コマンドが失敗しました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	メモリが不足しています。	しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。
0002	SQL 実行時にエラーが発生しました。	直前に出力されている <b>KFSB95604-E</b> メッセージを参照して SQL エラーの原因を取り除いてください。
0003	表の構成が不正です。	-t オプションに指定した共有情報表名に誤りがないか確認してください。 または、接続する HiRDB が誤っていないか、環境変数 PDHOST、環境変数 PDNAMEPORT、および環境変数 PDUSER の設定を確認してください。
0004	共有情報表の状態が不正です。	TP1/FSP の eeshlsh コマンドを実行して TP1/EE の共有情報表の状態を確認してください。共有情報表の状態が未起動以外の TP1/EE を正常終了してください。
0005	表の排他が確保できませんでした。	しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、HiRDB のエラー情報を基に、表の排他をしているトランザクションの状態を確認してください。

## KFSB95606-E

DB キュー機能のライブラリがリンケージされていません。

The library of DB queue functions has not been linked. (E) (NOS)

DB キュー機能のライブラリがリンケージされていません。

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)DB キュー機能を使用する場合は、DB キュー機能のライブラリをリンケージしてください。

【対策】 なし。

## KFSB95607-E

```
コマンド実行中に内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bb  
An internal conflict has occurred during execution of a command. command name = aa....aa,  
detail code = bb (E) (NOS)
```

コマンド実行中に内部矛盾が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理を中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合、コアダンプを保守員に渡してください。

## KFSB95608-I

```
DB キューの読出しを停止しました。サービスグループ名 = aa....aa, DB キュー種別 = bb....bb  
Reading of a DB queue has stopped. service group name = aa....aa, DB queue type =  
bb....bb (S) (NOS)
```

DB キュー種別に指定した DB キューの読み出しを停止しました。

aa....aa : サービスグループ名

bb....bb : DB キュー種別

ALL : UAP 間通信機能およびユーザキューアクセス機能の DB キュー

UAP : UAP 間通信機能の DB キュー

USER : ユーザキューアクセス機能の DB キュー

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】 なし。

## KFSB95609-I

```
DB キューの読出しを開始しました。サービスグループ名 = aa....aa, DB キュー種別 = bb....bb
```



```
Reading of a DB queue has started. service group name = aa....aa, DB queue type =
bb....bb (S) (NOS)
```

DB キュー種別に指定した DB キューの読み出しを開始しました。

**aa....aa** : サービスグループ名

**bb....bb** : DB キュー種別

ALL : UAP 間通信機能およびユーザキューアクセス機能の DB キュー

UAP : UAP 間通信機能の DB キュー

USER : ユーザキューアクセス機能の DB キュー

(S) コマンド処理を終了します。

(O) なし。

**[対策]** なし。

## KFSB95613-E

```
SQL 実行時にエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, DB キュー名 = bb....bb, エラーコード =
cc....cc, SQLCODE = dd....dd
```

```
An error has occurred during SQL execution. command name = aa....aa, DB queue name =
bb....bb, error code = cc....cc, SQLCODE = dd....dd (E) (NOS)
```

SQL 実行時にエラーが発生しました。

**aa....aa** : コマンド名

**bb....bb** : 表を作成, または削除しようとした DB キュー名

**cc....cc** : SQL 実行時のエラーコード

HiRDB にエラーが発生した場合に, HiRDB のエラーコードが表示されます。

エラーの発生した SQL が接続ハンドルの割り当て, または解放以外の場合は, \*を表示します。

**dd....dd** : SQL 実行時の SQLCODE

HiRDB にエラーが発生した場合に, HiRDB のリターンコードが表示されます。

エラーの発生した SQL が接続ハンドルの割り当て, または解放の場合は, \*を表示します。

(S) コマンド処理を終了します。

(O) 原因を取り除き, 再実行してください。

**[対策]**

エラーコードが表示された場合

保守員に連絡してください。

## SQLCODE が表示された場合

表示された HiRDB のリターンコードは、HiRDB のメッセージ ID の下 3 けたを表します。3 けたの数字を基にして、次に示す手順に従ってエラーの内容を確認し、原因を取り除いてください。

1. マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」の SQL 連絡領域に関する記述を参照し、3 けたの数字に対応する HiRDB のメッセージ ID を検索します。
2. マニュアル「HiRDB メッセージ」を参照し、手順 1. で検索した HiRDB のメッセージの内容を確認します。

### KFSB95614-E

```
未読みメッセージがあるため表を削除できません。コマンド名 = aa....aa, DB キュー名 = bb....bb  
A table cannot be deleted because it contains unread messages. command name = aa....aa,  
DB queue name = bb....bb (E) (NOS)
```

DB キューに未読み出しメッセージがあるため、表を削除できません。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 表を削除しようとした DB キュー名

(S) コマンド処理を終了します。

(O) 原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

**[対策]** メッセージをすべて読み出すか、eedbqtblh コマンドまたは eedbqtblo コマンドの -r オプションに nochk を指定して再実行してください。

### KFSB95616-E

```
SQL 実行時にエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, DBMS メッセージ = bb....bb, DB  
キュー名 = cc....cc, SQLCODE = dd....dd, 詳細コード = ee....ee  
An error has occurred during SQL execution. command name = aa....aa, DBMS message =  
bb....bb, DB queue name = cc....cc, SQLCODE = dd....dd, detail code = ee....ee (E) (NOS)
```

SQL 実行時にエラーが発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : DBMS のエラーメッセージ

cc....cc : 表を作成または削除しようとした DB キュー名

dd....dd : SQL 実行時の SQLCA 構造体の状態変数 (SQLCODE)

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)原因を取り除いて、コマンドを再実行してください。

【対策】 DBMS のマニュアルを参照して、原因を取り除いてください。

#### KFSB95618-I

使用方法：eedbqclrh -q DB キュー名

Usage: eedbqclrh -q <DB-queue-name> (S) (NOS)

eedbqclrh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95619-I

使用方法：eedbqclr -g サービスグループ名 -q DB キュー名

Usage: eedbqclr -g <service-group-name> -q <DB-queue-name> (S) (NOS)

eedbqclr コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95620-I

使用方法：eedbqlsqg -g サービスグループ名 -p DB キューグループ名

Usage: eedbqlsqg -g <service-group-name> -p <DB-queue-group-name> (S) (NOS)

eedbqlsqg コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95621-I

使用方法：eedbqislt -g サービスグループ名 -q DBキュー名 [-r]

Usage: eedbqislt -g <service-group-name> -q <DB-queue-name> [-r] (S) (NOS)

eedbqislt コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95622-I

使用方法：eedbqchgr -g サービスグループ名 -f {-q DBキュー名|-G 読出し元サービスグループ名|-N 読出し元ノード識別子} [-t]

Usage: eedbqchgr -g <service-group-name> -f {-q <DB-queue-name>|-G <read-source-service-group-name>|-N <read-source-node-id>} [-t] (S) (NOS)

eedbqchgr コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95623-I

使用方法：eedbqwtpr -g サービスグループ名 -q DBキュー名 [-r]

Usage: eedbqwtpr -g <service-group-name> -q <DB-queue-name> [-r] (S) (NOS)

eedbqwtpr コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95624-I

使用方法：eedbqtblh -q DBキュー名 [-z 最大メッセージ長] [-c 最大メッセージ数] {[-b RDエリア名] | [-m メッセージ表RDエリア名] [-M メッセージ表INDEXのRDエリア名] [-n 交替用メッ

```
ページ表RDエリア名] [-N 交替用メッセージ表 I N D E X のRDエリア名] [-p その他の表のRDエ  
リア名]} [-o 同期点行数] [-a DBキューの属性]  
eedbqtblh -q DBキュー名 -r {nochk | chk}  
Usage: eedbqtblh -q <DB-queue-name> [-z <maximum-message-length>] [-c <maximum-  
number-of-messages>] {[-b <RD-area-name>] | [-m <message-table-RD-area-name>] [-M  
<message-index-RD-area-name>] [-n <alter-message-table-RD-area-name>] [-N <alter-  
message-index-RD-area-name>] [-p <otehr-table-RD-area-name>]} [-o <line-number-at-  
synchronization-point>] [-a <attribute>]  
eedbqtblh -q <DB-queue-name> -r {nochk | chk} (S) (NOS)
```

eedbqtblh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95625-I

```
使用方法： eedbqtblh -q DBキュー名 [-c 最大メッセージ数] [-b 表領域名] [-o 同期点行数] -u ユー  
ザー名とパスワード [-n 接続識別子] [-T]  
eedbqtblh -q DBキュー名 -r {nochk|chk} -u ユーザー名とパスワード [-n 接続識別子] [-T]  
Usage: eedbqtblh -q <DB-queue-name> [-c <maximum-message-count>] [-b <tablespace-  
name>] [-o <synchronization-point-line-count>] -u <user-name-and-password> [-n  
<connection-id>] [-T]  
eedbqtblh -q <DB-queue-name> -r {nochk|chk} -u <user-name-and-password> [-n  
<connection-id>] [-T] (S) (NOS)
```

eedbqtblh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95626-I

```
使用方法： eeshtblh -t 共有情報表名 [-b 表格納用 RD エリア名]  
eeshtblh -t 共有情報表名 -r [-f]  
Usage: eeshtblh -t <JI-table-name> [-b <RD-area-name>]
```

```
eeshtblh -t <JI-table-name> -r [-f] (S) (NOS)
```

TP1/FSP の eeshtblh コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB95627-I

使用方法：eeshlsh -t 共有情報表名

```
Usage: eeshlsh -t <JI-table-name> (S) (NOS)
```

TP1/FSP の eeshlsh コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB95628-I

使用方法：eeshchgh -t 共有情報表名 -n TP1/EE のノード識別子 -c {non | fin}

```
Usage: eeshchgh -t <JI-table-name> -n <TP1/EE-node-id> -c {non|fin} (S) (NOS)
```

TP1/FSP の eeshchgh コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB95629-I

コマンドを受け付けました。サービスグループ名 = aa....aa, DB キュー名 = bb....bb

```
The command was received. service group name = aa....aa, DB queue name = bb....bb (S) (NOS)
```

コマンドを受け付けました。

aa....aa : サービスグループ名

bb....bb : DB キュー名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB95630-I

DB キューの接続が成功しました。サービスグループ名 = aa....aa, DB キュー名 = bb....bb, DB キューサービス名 = cc....cc

The connection with a DB queue has been established successfully. service group name = aa....aa, DB queue name = bb....bb, DB queue service name = cc....cc (S) (NOS)

DB キューの接続に成功しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当する DB キュー名

cc....cc : 該当する DB キューサービス名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB95631-I

DB キューの接続解除が成功しました。サービスグループ名 = aa....aa, DB キュー名 = bb....bb, DB キューサービス名 = cc....cc

The connection with a DB queue has been released successfully. service group name = aa....aa, DB queue name = bb....bb, DB queue service name = cc....cc (S) (NOS)

DB キューの接続解除に成功しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当する DB キュー名

cc....cc : 該当する DB キューサービス名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB95632-I

DBキューの読出しを停止しました。サービスグループ名 = aa....aa, DBキュー名 = bb....bb  
Reading of a DB queue has stopped. service group name = aa....aa, DB queue name =  
bb....bb (S) (NOS)

DBキューの読み出しを停止しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当するDBキュー名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB95633-I

DBキューの読出しを開始しました。サービスグループ名 = aa....aa, DBキュー名 = bb....bb  
Reading of a DB queue has started. service group name = aa....aa, DB queue name =  
bb....bb (S) (NOS)

DBキューの読み出しを開始しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当するDBキュー名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB95634-I

DBキューの読出し通番スキップを受け付けました。サービスグループ名 = aa....aa, DBキュー名 = bb....bb  
A request to skip serial numbers during reading of a DB queue has been accepted. service  
group name = aa....aa, DB queue name = bb....bb (S) (NOS)

DBキューの読み出し通番を更新しました。



aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当する DB キュー名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB95635-I

DBキューサービスを閉塞しました。サービスグループ名 = aa....aa, DBキューサービス名 = bb....bb  
A DB queue service has been blocked. service group name = aa....aa, DB queue service name = bb....bb (S) (NOS)

DB キューサービスを閉塞しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当する DB キューサービス名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB95636-I

全てのDBキューサービスを閉塞しました。サービスグループ名 = aa....aa  
All DB queue services have been blocked. service group name = aa....aa (S) (NOS)

すべてのDB キューサービスを閉塞しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB95637-I

DBキューサービスを閉塞解除しました。サービスグループ名 = aa....aa, DBキューサービス名 = bb....bb

Blocking of a DB queue service has been released. service group name = aa....aa, DB queue service name = bb....bb (S) (NOS)

DB キュー用のサービスを閉塞解除しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当する DB キューサービス名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB95638-I

全てのDBキューサービスを閉塞解除しました。サービスグループ名 = aa....aa

Blocking of all DB queue services has been released. service group name = aa....aa (S) (NOS)

すべてのDBキュー用のサービスを閉塞解除しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB95639-I

永久閉塞中サービスを除き全てのDBキューサービスを閉塞解除しました。サービスグループ名 = aa....aa

Blocking of all DB queue services, other than services permanently blocked, has been released. service group name = aa....aa (S) (NOS)

永久閉塞中サービスを除き、すべてのDBキュー用のサービスを閉塞解除しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB95640-I

DBキューの終了監視を強制的に終了しました。サービスグループ名 = aa....aa

The termination monitoring of a DB queue has been forcibly terminated. service group name = aa....aa (S) (NOS)

DB キューの終了監視を強制的に終了しました。

**aa....aa** : 該当するサービスグループ名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB95641-I

オンラインバッチ処理の強制終了を受け付けました。サービスグループ名 = aa....aa, DBキュー名 = bb....bb, ロット名 = cc....cc

A request to forcibly terminate online batch processing has been accepted. service group name = aa....aa, DB queue name = bb....bb, lot name = cc....cc (S) (NOS)

オンラインバッチ処理の強制終了を受け付けました。

**aa....aa** : 該当するサービスグループ名

**bb....bb** : 該当するDBキュー名

**cc....cc** : 該当するロット名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB95642-I

オンラインバッチ処理の中断を受け付けました。サービスグループ名 = aa....aa, DBキュー名 = bb....bb, ロット名 = cc....cc

A request to suspend online batch processing has been accepted. service group name = aa....aa, DB queue name = bb....bb, lot name = cc....cc (S) (NOS)

オンラインバッチ処理の中断を受け付けました。

**aa....aa** : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当するDBキュー名

cc....cc : 該当するロット名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB95643-I

オンラインバッチ処理の再開始を受け付けました。サービスグループ名 = aa....aa, DB キュー名 = bb....bb, ロット名 = cc....cc

A request to restart online batch processing has been accepted. service group name = aa....aa, DB queue name = bb....bb, lot name = cc....cc (S) (NOS)

オンラインバッチ処理の再開始を受け付けました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当するDB キュー名

cc....cc : 該当するロット名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB95644-I

オンラインバッチの終了監視を強制的に終了しました。サービスグループ名 = aa....aa

The termination monitoring of online batch processing has been forcibly terminated. service group name = aa....aa (S) (NOS)

オンラインバッチ処理の終了監視を強制的に終了しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB95645-I

DBキューを縮退しました。サービスグループ名 = aa....aa, DBキューグループ名 = bb....bb, DBキュー名 = cc....cc

A DB queue has been degraded. service group name = aa....aa, DB queue group name = bb....bb, DB queue name = cc....cc (S) (NOS)

DB キューを縮退しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当する DB キューサービスグループ名

cc....cc : 該当する DB キュー名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB95646-I

DBキューを縮退復帰しました。サービスグループ名 = aa....aa, DBキューグループ名 = bb....bb, DBキュー名 = cc....cc

A DB queue has been recovered from a degraded condition. service group name = aa....aa, DB queue group name = bb....bb, DB queue name = cc....cc (S) (NOS)

DB キューを縮退復帰しました。

aa....aa : 該当するサービスグループ名

bb....bb : 該当する DB キューサービスグループ名

cc....cc : 該当する DB キュー名

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB95647-I

コマンドが成功しました。コマンド名 = aa....aa

Command execution was successful. command name = aa....aa (S) (NOS)

コマンドが成功しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB95648-I

コマンドが成功しました。コマンド名 = aa....aa, DB キュー名 = bb....bb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd

Command execution was successful. command name = aa....aa, DB queue name = bb....bb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (S) (NOS)

コマンドが成功しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当する DB キュー名

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB95649-W

コマンドが一部失敗しました。コマンド名 = aa....aa, DB キュー名 = bb....bb

Command execution has partially failed. command name = aa....aa, DB queue name = bb....bb (E) (NOS)

表の削除に一部失敗しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 該当する DB キュー名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)必要に応じて原因を取り除き, コマンドを再実行してください。

**【対策】** 該当するコマンド名に応じて対策してください。

eedbqtblh コマンドの場合

HiRDB のエラーログファイルを参照して原因を取り除いてください。HiRDB のエラーログファイルに、「表がシステムにありません」という内容以外のメッセージが出力されている場合は、eedbqtblh コマンドを再実行してください。HiRDB のエラーログファイルについては、マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。

eedbqtblo コマンドの場合

このメッセージの前に出力されている **KFSB95616-E** メッセージの DBMS メッセージを参照して原因を取り除いてください。**KFSB95616-E** メッセージの DBMS メッセージに「表またはビューが存在しません」という内容以外のメッセージが出力されている場合は、eedbqtblo コマンドを再実行してください。

## KFSB95650-E

```
DB キューコマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cccc  
Execution of a DB queue command has failed. command name = aa....aa, reason code =  
bbbb, detail code = cccc (E) (NOS)
```

DB キューコマンドが失敗しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bbbb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

**cccc** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

理由コードが 9999 の場合だけ、有効な値になります。理由コードが 9999 以外の場合は、\*\*\*\*を表示します。

(S)コマンドの処理を終了します。

(O)理由コードに示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

**【対策】** TP1/EE プロセスのメッセージログファイルを参照し、原因を検証してください。

理由コード	意味	対策
0001	DB キュー機能を使用できません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0002	リソースマネージャへのアクセスに失敗しました。	次のメッセージを基に原因を取り除いてください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• KFSB45620-E メッセージ</li><li>• KFSB45627-E メッセージ</li><li>• KFSB45630-E メッセージ</li><li>• KFSB45636-E メッセージ</li><li>• KFSB55670-E メッセージ</li><li>• KFSB55671-E メッセージ</li></ul>

理由コード	意味	対策
0002	リソースマネージャへのアクセスに失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• KFSB55672-E メッセージ</li> </ul>
0003	要求された DB キューは存在しません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0004	要求された DB キューは使用できない状態か、または読み出し停止中の状態です。	TP1/EE プロセスのメッセージログファイルを参照し、使用できない原因を検証してください。または、運用コマンドで読み出しを再開してください。
0005	要求された DB キューはリソースマネージャに接続されていません。	TP1/EE プロセスの KFSB50919-E メッセージを基に原因を調査し、コマンドを再実行してください。
0006	要求された DB キューサービスは存在しません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0007	要求された DB キューのタイプが相手読み出しの場合は、該当するコマンドは実行できません。	指定する DB キュー名のタイプを確認してください。
0008	要求のあった DB キューが属するグループと DB キューサービスが属するグループとは、接続、接続解除の対象ではありません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0009	要求のあった DB キューは別の DB キューサービスと接続済みのため接続できません。または、要求のあった DB キューと DB キューサービスとは接続解除の対象ではありません。	DB キュー情報の照会コマンドで現在の接続状態を確認し、コマンドを再実行してください。
0010	コマンド実行のタイミングが不正です。	コマンドを実行できる状態か確認してください。または、しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。
0011	指定された通番が不正です。	DB キュー情報の照会コマンドで確認してください。
0012	要求された DB キューサービスは永久閉塞中です。	DB キューサービスの閉塞状態表示コマンドで確認してください。
0013	メモリ不足が発生しました。	KFSB45624-E メッセージまたは KFSB45634-E メッセージを基に原因を取り除いてください。
0014	DB キュー名、DB キューサービス名、ロット名、または IFA 番号が不正です。	TP1/EE サービス定義を見直してください。または、該当するコマンドを見直してください。
0015	該当する DB キューサービスで使用する最大 DB キュー数を超えたため接続できません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0016	すべての DB キューサービスが永久閉塞中のため、閉塞または閉塞解除できません。	DB キューサービスの閉塞状態表示コマンドで確認してください。
0017	オンラインバッチ機能を使用できません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0018	要求されたロット名は存在しません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。



理由コード	意味	対策
0019	該当するロットが受け付けられない状態のため、要求を受け付けられません。	該当するロットの状態でも受け付けられるコマンドを実行してください。
0020	要求された DB キューグループ名は存在しません。	DB キュー機能関連定義を見直してください。
0021	この要求には読み出し済みにするメッセージはありません。	読み出し通番と書き込み通番を確認してください。
0022	コマンドの実行に必要な定義が指定されていません。	TP1/EE サービス定義を見直してください。
0023	コマンドトランザクションのコミット決着に失敗したため、ロールバック決着しました。	コミット決着に失敗した原因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。
0024	コマンドトランザクションがヒューリスティックハザード決着したか、またはヒューリスティックミックス決着しました。	ヒューリスティックハザード決着、またはヒューリスティックミックス決着した原因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。
0025	要求された DB キューは UAP 間通信機能を使用する DB キューではありません。	DB キュー情報の照会コマンドで DB キュー種別を確認してください。
0026	コマンドの実行に必要な DB キュー属性が付与されていません。または、DB キューのフォーマットタイプが 1 ではありません。 eedbqclear コマンドの場合は、通番初期化属性がありません。 eedbqaltput コマンドの場合、交替用メッセージ表書き込み機能を使用する属性がありません。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DB キュー照会コマンドに必要な DB キュー属性が与えられているか確認してください。</li> <li>指定した DB キュー名が属する DB キューグループ定義のフォーマットタイプを確認してください。</li> </ul>
0080	該当するコマンドの転送処理で、処理の実行後に読み出し先サーバの変更を検知しました。	要求した処理の結果は不定です。 実行結果は、eedbqqls コマンドで確認してください。
0081	該当するコマンドの転送処理で、変更要求対象の読み出し先サーバが存在しません。	DB キュー読み出し先サーバ変更機能を使用して読み出し先サーバを決定するか、該当の DB キューを読み出す TP1/EE プロセスを開始してください。
0082	該当するコマンドの転送処理で、読み出し先サーバが RPC 通信を使用した DB キュー機能に対応していません。	メッセージを読み出しているサーバの TP1/EE のバージョンが 07-80 以降かどうかを確認してください。
0083	該当するコマンドの転送処理実行後の結果確認で、リソースマネージャへのアクセスが失敗しました。	要求した処理の結果は不定です。 理由コード 0002 の対策で障害要因を取り除いてから、eedbqqls コマンドで実行結果を確認してください。
0084	該当するコマンドの転送処理実行後の結果確認で、変更要求対象の読み出し先サーバが存在しません。	要求した処理の結果は不定です。 理由コード 0081 の対策で障害要因を取り除いてから、eedbqqls コマンドで実行結果を確認してください。

理由コード	意味	対策
0085	該当するコマンドの転送処理実行後の結果確認で、読み出し先サーバがRPC通信を使用したDBキュー機能に対応していません。	要求した処理の結果は不定です。 理由コード 0082 の対策で障害要因を取り除いてから、eedbqls コマンドで実行結果を確認してください。
0086	該当するコマンドの転送処理が時間切れになりました。	KFSB55626-E メッセージを基に、要求先の TP1/EE プロセスを特定します。 要求先の TP1/EE プロセスが出力するエラーメッセージを基に障害を取り除いてください。
0087	該当するコマンドの転送処理が失敗しました。	次のメッセージを参考に、障害を取り除いてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• KFSB40320-E</li> <li>• KFSB40322-E</li> <li>• KFSB40350-E</li> <li>• KFSB40352-E</li> </ul>
9999	予期しないエラーが発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB95651-E

DB キューコマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb

Execution of a DB queue command has failed. command name = aa....aa, reason code = bb (E) (NOS)

コマンド実行中に障害が発生したため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S) コマンドの処理を中止して終了します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
01	指定されたサービスグループ名が見つかりません。	正しいサービスグループ名を指定して、コマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE を起動して、コマンドを再実行してください。
02	データの通信に失敗しました。	TP1/EE との通信障害の原因を調査し、その原因を取り除いてください。
03	応答データの取得に失敗しました。	コマンドが実行されている可能性があります。TP1/EE のメッセージログファイルを参照してください。または、保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
04	DB キューに通番初期化属性がありません。	-q に指定した DB キュー名に誤りがないか確認してください。
05	DB キューの構成が不正です。	
06		
07	-a オプションで 8 の論理和を指定していませんが、-n オプション、または-N オプションを指定しています。	-a オプションに 8 を加算するか、-n オプションおよび-N オプションを省略してコマンドを再実行してください。
08	DB キューに交替用メッセージ表書き込み機能を使用する属性がありません。	-q に指定した DB キュー名に誤りがないか確認してください。

## KFSB95652-E

DB キューコマンド実行中に内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bb  
 An internal conflict has occurred during execution of a DB queue command. command name = aa....aa, detail code = bb (E) (NOS)

DB キューコマンドの実行中に内部矛盾が発生したため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理を中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合は、コアダンプを保守員に渡してください。

## KFSB95653-E

DB キューコマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, XID = bb....bb, 理由コード = cccc, 詳細コード = dddd  
 Execution of a DB queue command has failed. command name = aa....aa, XID = bb....bb, reason code = cccc, detail code = dddd (E) (NOS)

DB キューコマンドが失敗しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb....bb** : トランザクション識別子

**cccc** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dddd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

理由コードが 9999 の場合だけ、有効な値になります。理由コードが 9999 以外の場合は、\*\*\*\*を表示します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)理由コードに示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

**【対策】** TP1/EE プロセスのメッセージログファイルを参照し、原因を調査してください。また、詳細コードが有効な値を示す場合は、保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
0001~9998	コマンドトランザクションの決着に失敗したため、トランザクションの回復を行っています。	トランザクションの回復が完了してから、eedbqls コマンドで状態を確認してください。
9999	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB95660-I

使用方法 : eedbqls -g サービスグループ名 -q DB キュー名

Usage: eedbqls -g <service-group-name> -q <DB-queue-name> (S) (NOS)

eedbqls コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB95661-I

使用方法 : eedbqlsdq -g サービスグループ名 -s {act | dct | all} [-u {uap | user | all}] [-m]

Usage: eedbqlsdq -g <service-group-name> -s {act | dct | all} [-u {uap | user | all}] [-m]  
(S) (NOS)

eedbqlsdq コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB95662-I

```
使用方法：eedbqcnct -g サービスグループ名 -q DBキュー名 -v DBキューサービス名  
Usage: eedbqcnct -g <service-group-name> -q <DB-queue-name> -v <DB-queue-service-  
name> (S) (NOS)
```

eedbqcnct コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB95663-I

```
使用方法：eedbqrels -g サービスグループ名 -q DBキュー名 -v DBキューサービス名  
Usage: eedbqrels -g <service-group-name> -q <DB-queue-name> -v <DB-queue-service-  
name> (S) (NOS)
```

eedbqrels コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB95664-I

```
使用方法：eedbqstop -g サービスグループ名 {-q DBキュー名 | -u {uap | user | all}}  
Usage: eedbqstop -g <service-group-name> {-q <DB-queue-name> | -u {uap | user |  
all}} (S) (NOS)
```

eedbqstop コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB95665-I

```
使用方法：eedbqrst -g サービスグループ名 {-q DBキュー名 | -u {uap | user | all}}
```

```
Usage: eedbqrst -g <service-group-name> {-q <DB-queue-name> | -u {uap | user | all}}  
(S) (NOS)
```

eedbqrst コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95666-I

```
使用方法：eedbqskip -g サービスグループ名 -q DBキュー名 [-s {all | one | num}] [-n メッセージ読み出し通番]
```

```
Usage: eedbqskip -g <service-group-name> -q <DB-queue-name> [-s {all | one | num}] [-n  
<serial-number-for-reading messages>] (S) (NOS)
```

eedbqskip コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95667-I

```
使用方法：eedbqdctsv -g サービスグループ名 -v DBキューサービス名
```

```
Usage: eedbqdctsv -g <service-group-name> -v <DB-queue-service-name> (S) (NOS)
```

eedbqdctsv コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95668-I

```
使用方法：eedbqactsv -g サービスグループ名 {-a | -v DBキューサービス名}
```

```
Usage: eedbqactsv -g <service-group-name> {-a | -v <DB-queue-service-name>} (S)  
(NOS)
```

eedbqactsv コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95669-I

使用方法：eedbqlssv -g サービスグループ名 -s {act | dct | all}

Usage: eedbqlssv -g <service-group-name> -s {act | dct | all} (S) (NOS)

eedbqlssv コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95670-I

使用方法：eedbqlscs -g サービスグループ名 -v DBキューサービス名

Usage: eedbqlscs -g <service-group-name> -v <DB-queue-service-name> (S) (NOS)

eedbqlscs コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95671-I

使用方法：eedbqmstp -g サービスグループ名 [-s {dbq | obs}]

Usage: eedbqmstp -g <service-group-name> [-s {dbq | obs}] (S) (NOS)

eedbqmstp コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。



【対策】 なし。

## KFSB95672-I

使用方法：eedbqtbl -g サービスグループ名 -t テーブル名 [-q DBキュー名] [-v DBキューサービス名] [-l ロット名] [-n ifa 番号]

Usage: eedbqtbl -g <service-group-name> -t <table-name> [-q <DB-queue-name>] [-v <DB-queue-service-name>] [-l <lot-name>] [-n <ifa-number>] (S) (NOS)

eedbqtbl コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95673-I

使用方法：eedbqobsfan -g サービスグループ名 -q DBキュー名 -l ロット名

Usage: eedbqobsfan -g <service-group-name> -q <DB-queue-name> -l <lot-name> (S) (NOS)

eedbqobsfan コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95674-I

使用方法：eedbqobsstp -g サービスグループ名 -q DBキュー名 -l ロット名

Usage: eedbqobsstp -g <service-group-name> -q <DB-queue-name> -l <lot-name> (S) (NOS)

eedbqobsstp コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。



## KFSB95675-I

使用方法：eedbqobrsst -g サービスグループ名 -q DBキュー名 -l ロット名

Usage: eedbqobrsst -g <service-group-name> -q <DB-queue-name> -l <lot-name> (S)  
(NOS)

eedbqobrsst コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95701-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bb....bb (E)  
(NOS)

コマンドの引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 理由コード

ARGUMENT : 必要なオプションフラグがありません。

FLAG : 必要なフラグ引数がありません。

LIMITS\_OVER : コマンド引数の個数が多過ぎます。

OPERAND : 不正なオプションフラグを指定しています。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しい引数を指定してコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95702-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb, 理由コード = cc....cc

The flag argument is invalid. command name = aa....aa, option = bb, reason code = cc....cc (E) (NOS)

フラグ引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb : オプション名

cc....cc : 理由コード

INVALID : フラグ引数に指定できない文字を指定しています。

LENGTH : フラグ引数の長さが不正です。

NOTHING : 指定された値, および名称が見つかりません。

RANGE : 指定範囲外の値を指定しています。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) 正しいフラグ引数を指定してコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95704-E

オプションの組み合わせが不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション 1 = bb, オプション 2 = cc

The combination of options is invalid. command name = aa....aa, option 1 = bb, option 2 = cc (E) (NOS)

オプションの組み合わせに誤りがあったため, 処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb : 組み合わせが不正なオプション 1 (2 文字)

cc : 組み合わせが不正なオプション 2 (2 文字)

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) 正しいオプションを指定してコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95705-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, 詳細コード = cc....cc

Command execution has failed. command name = aa....aa, reason code = bb....bb, detail code = cc....cc (E) (NOS)

コマンド実行中にエラーが発生したため, 処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
COMMUNICATION	データの通信に失敗しました。	TP1/EE との通信障害の原因を調査し、取り除いてください。
CONNECT	リソースマネージャを利用しない状態でトランザクションが実行されました。	TP1/EE のログファイルに出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して原因を取り除いてください。
INVALID	TP1/FSP の OBM 構成定義で次の指定をしている場合、指定したコマンドは実行できません。 <ul style="list-style-type: none"><li>lotdef 定義コマンドの-r オプションの node_id オペランドの指定を省略 eeobmchgtrn コマンドに-n オプションは指定できません。</li><li>lotdef 定義コマンドの-s オプションの fixed オペランドに N を指定 eeobmchgtrn コマンドに-p オプションは指定できません。</li><li>TP1/FSP のユーザサービス関連定義の queue_draw_method オペランドに- ptrnlevel を指定していないか、または obmdef 定義コマンドの-k オプションの trnlevel_uoc_use オペランドに Y を指定している場合 eeobmchgtrn コマンドに-t オプションは指定できません。</li></ul>	指定した OBM 名、およびロット名が誤っていないか確認してください。
LOT_NAME	指定されたロット名が見つかりません。	正しいロット名を指定し、コマンドを再実行してください。
NO_USE	OBM 機能を使用していません。	指定したサービスグループ名に誤りがないか確認してください。
NOT_OPEN	OBM を OPEN していません。	eebcmtbllsh コマンドで OPEN している BCM を確認してください。
OBM_NAME	指定された OBM 名が見つかりません。	正しい OBM 名を指定し、コマンドを再実行してください。
ROLLBACK	コミット要求がロールバックしました。	TP1/EE のログファイルに出力されている <a href="#">KFSB50919-E</a> メッセージを参照して原因を取り除いてください。

理由コード	意味	対策
SEQNUM	TP1/FSP の eeobmskip コマンドの場合、指定した通番のバッチデータは処理済みのためスキップできません。	指定したバッチデータの通番に誤りがないか確認してください。
SERVER_TYPE	指定された OBM サーバでは、このコマンドは実行できません。	正しいサービスグループ名を指定し、コマンドを再実行してください。
SQL	OBM 管理表、または OPEN 状態管理表に対する SQL 発行でエラーが発生しました。	TP1/EE のログファイルに出力されている KFSB45780-E メッセージ、KFSB55782-E メッセージ、または KFSB55784-E メッセージを参照して原因を取り除いてください。
STATUS	指定された OBM は要求されたコマンドの処理ができない状態です。	eeobmstatus コマンドを実行し、OBM の状態を確認してください。
SUSPEND	指定された OBM は一時休止状態です。	TP1/FSP の関連ドキュメントを参照し、一時休止から回復してください。
SVG_NAME	指定されたサービスグループ名が見つかりません。	正しいサービスグループ名を指定し、コマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE を起動したあとにコマンドを再実行してください。
SYSERR	TP1/EE プロセス側でエラーが発生しました。	詳細コードを保守員に連絡してください。
TYPE	データ型の OBM に対して、TP1/FSP の eeobmstop コマンドの -p オプションが指定されました。	データ型の OBM に対して TP1/FSP の eeobmstop コマンドを実行する場合、-p オプションは指定しないでください。

## KFSB95706-E

領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb

An attempt to allocate area has failed. command name = aa....aa, request size = bb....bb  
(E) (NOS)

コマンドの処理に必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。再発する場合、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB95707-E

内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

An internal conflict has occurred. command name = aa....aa, detail code = bb....bb (E)  
(NOS)

コマンド実行中に予期しない障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合、コアダンプも保守員に送付してください。

## KFSB95710-I

コマンドが成功しました。コマンド名 = aa....aa

Command execution was successful. command name = aa....aa (S) (NOS)

コマンドが成功しました。

aa....aa : コマンド名

(S)コマンド処理を正常終了します。

(O)なし。

**【対策】** なし。

## KFSB95711-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, XID = bb....bb

Command execution has failed. command name = aa....aa, XID = bb....bb (E) (NOS)

コマンドの要求によって OBM 管理表を更新するトランザクションの決着に失敗しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : トランザクション識別子

(S)コマンド処理を終了します。

(O)トランザクションの回復が完了してからコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB95712-E

SQL 実行においてエラーが発生しました。DBMS メッセージ = aa....aa, 表名 = bb....bb, SQL CODE = cc....cc, 詳細コード = dd....dd

An error occurred during SQL execution. DBMS message = aa....aa, table name = bb....bb, SQLCODE = cc....cc, detail code = dd....dd (E) (NOS)

SQL 実行時の DBMS のエラーメッセージを出力します。

aa....aa : DBMS のエラーメッセージ

bb....bb : SQL エラーが発生した表名

OBM 表の場合 : OBM 管理表名

OBM 状態管理表の場合 : OBM 管理表名に加え, ST が表示されます。

ロット状態管理表の場合 : OBM 管理表名に加え, LO が表示されます。

処理済み通番管理表の場合 : OBM 管理表名に加え, NO が表示されます。

OPEN 状態管理表の場合 : OPEN 状態管理表名

BCM 管理表の場合 : OPEN 状態管理表名に加え, BC が表示されます。

OBM 状態管理表 INDEX の場合 : OBM 管理表名に加え, ST\_I が表示されます。

ロット状態管理表 INDEX の場合 : OBM 管理表名に加え, LO\_I が表示されます。

処理済み通番管理表 INDEX の場合 : OBM 管理表名に加え, NO\_I が表示されます。

その他の場合 : \*

cc....cc : SQLCODE

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] DBMS のエラーメッセージを参照し原因を取り除いてください。

## KFSB95720-I

使用方法 : eeobmconls -g サービスグループ名

Usage: eeobmconls -g <service-group-name> (S) (NOS)

TP1/FSP の eeobmconls コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95721-I

使用方法：eeobmcltls -g サービスグループ名

Usage: eeobmcltls -g <service-group-name> (S) (NOS)

TP1/FSP の eeobmcltls コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95722-I

使用方法：eeobmtrnls -g サービスグループ名 [-o OBM名]

Usage: eeobmtrnls -g <service-group-name> [-o <obm-name>] (S) (NOS)

TP1/FSP の eeobmtrnls コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95723-I

使用方法：eeobmstatls -g サービスグループ名 [{-s {sta|act|stp|sus} | -o OBM名}]

Usage: eeobmstatls -g <service-group-name> [{-s {sta|act|stp|sus} | -o <obm-name>}]

(S) (NOS)

TP1/FSP の eeobmstatls コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95724-I

使用方法：eeobmchgtrn -g サービスグループ名 -o OBM名 {-p 同時実行数 [-l ロット名[,ロット名]]  
|-t {1|2} |-n ノード識別子 [-l ロット名[,ロット名]]}

Usage: eeobmchgtrn -g <service-group-name> -o <obm-name> {-p <parallel-num> [-l <lot-name> [,<lot-name>]] |-t {1|2} |-n <node-id> [-l <lot-name> [,<lot-name>]]} (S) (NOS)

TP1/FSP の eeobmchgtrn コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95725-I

使用方法：eeobmstart -g サービスグループ名 -o OBM名 [-l ロット名[,ロット名]]

Usage: eeobmstart -g <service-group-name> -o <obm-name> [-l <lot-name> [,<lot-name>]] (S) (NOS)

TP1/FSP の eeobmstart コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95726-I

使用方法：eeobmstop -g サービスグループ名 -o OBM名 [{-f|-p}] [-u 理由コード]

Usage: eeobmstop -g <service-group-name> -o <obm-name> [{-f|-p}] [-u <reason-code>] (S) (NOS)

TP1/FSP の eeobmstop コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。



## KFSB95727-I

使用方法：eeobmcancel -g サービスグループ名 -o OBM名 [-c] [-u]

Usage: eeobmcancel -g <service-group-name> -o <obm-name> [-c] [-u] (S) (NOS)

TP1/FSP の eeobmcancel コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95728-I

使用方法：eeobmskip -g サービスグループ名 -o OBM名 [-l ロット名[,ロット名]] -n バッチデータの通番

Usage: eeobmskip -g <service-group-name> -o <obm-name> [-l <lot-name>[,<lot-name>]] -n <sequence-number> (S) (NOS)

TP1/FSP の eeobmskip コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95729-I

使用方法：eeobmtblh -t OBM管理表名 [-b OBM表格納用RDエリア名] [-c OBM状態管理表格納用RDエリア名] [-d ロット状態管理表格納用RDエリア名] [-e 処理済通番管理表格納用RDエリア名] [-E 処理済通番管理表インデクス格納用RDエリア名]

eeobmtblh -t OBM管理表名-r

Usage: eeobmtblh -t <OBM-management-table-name> [-b <RDAREA-name-for-OBM-table>] [-c <RDAREA-name-for-OBM-status-management-table>] [-d <RDAREA-name-for-lot-status-management-table>] [-e <RDAREA-name-for-management-table-of-sequence-numbers>] [-E <RDAREA-name-for-management-table-index-of-sequence-numbers>]

eeobmtblh -t <OBM-management-table-name> -r (S) (NOS)

TP1/FSP の eeobmtblh コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB95730-I

使用方法：eeobminith -t OBM管理表名 -o OBM構成定義オブジェクト名 [-C OBM状態管理表  
インデクス格納用RDエリア名] [-D ロット状態管理表インデクス格納用RDエリア名] [-s {normal|  
switch} -S OPEN状態管理表名 [-O OBM構成定義オブジェクト名]]

Usage: eeobminith -t <OBM-management-table-name> -o <OBM-configuration-definition-  
object-name> [-C <RDAREA-name-for-OBM-status-management-table-index>] [-D  
<RDAREA-name-for-lot-status-management-table-index>] [-s {normal|switch} -S <OPEN-  
management-table-name> [-O <OBM-configuration-definition-object-name>]] (S)  
(NOS)

TP1/FSP の eeobminith コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB95731-I

使用方法：eebcmtblh -S OPEN状態管理表名 [-b OPEN状態管理表格納用RDエリア名] [-c B  
CM管理表格納用RDエリア名]

eebcmtblh -S OPEN状態管理表名 -r

Usage: eebcmtblh -S <OPEN-management-table-name> [-b <RDAREA-name-for-OPEN-  
table>] [-c <RDAREA-name-for-BCM-table>]

eebcmtblh -S <OPEN-management-table-name> -r (S) (NOS)

TP1/FSP の eebcmtblh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

### KFSB95732-I

使用方法：eebcmtblsh -S OPEN状態管理表名-o OBM名

Usage: eebcmtbllsh -S <OPEN-management-table-name> -o <obm-name> (S) (NOS)

TP1/FSP の eebcmtbllsh コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95740-I

コマンドが成功しました。コマンド名 = aa....aa, OBM管理表名 = bb....bb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd

Command execution was successful. command name = aa....aa, OBM management table name = bb....bb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (S) (NOS)

コマンドが成功しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : OBM 管理表名

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を正常終了します。

(O)なし。

【対策】 なし。

## KFSB95741-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, OBM管理表名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc, 詳細情報 1 = dd....dd, 詳細情報 2 = ee....ee

Command execution has failed. command name = aa....aa, OBM management table name = bb....bb, reason code = cc....cc, detail information 1 = dd....dd, detail information 2 = ee....ee (E) (NOS)

コマンドが失敗しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : OBM 管理表名

## cc....cc：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

## dd....dd：詳細情報 1

理由コードごとに意味が異なります。

理由コードが INCOMPLETE, LOCK, MEMORY, OTHER, SQL, または TABLE の場合  
TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

理由コードが STATUS の場合

BCM の TP1/EE のサービスグループ名です。

理由コードが LOTPOOL の場合

変更前の obminit -p lotpool オペランドの設定値です。

## ee....ee：詳細情報 2

理由コードごとに意味が異なります。

理由コードが INCOMPLETE, LOCK, MEMORY, OTHER, SQL, または TABLE の場合  
TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

理由コードが STATUS の場合

BCM の TP1/EE のラン ID です。

理由コードが LOTPOOL の場合

変更後の obminit -p lotpool オペランドの設定値です。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
INCOMPLETE	OBM 管理表の作成が完了していません。	TP1/FSP の eeobmtblh コマンドに -r オプションを指定して OBM 管理表を削除してください。そのあと、eeobmtblh コマンドを実行して OBM 管理表を作成し、コマンドを再実行してください。
LOCK	表の排他が確保できませんでした。	しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、HiRDB のエラー情報を基に表の排他をしているトランザクションの状態を確認してください。
MEMORY	メモリが不足しています。	しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。
OTHER	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。

理由コード	意味	対策
SQL	SQL でエラーが発生しました。	直前に出力されている KFSB95712-E メッセージを参照して SQL エラーの原因を取り除いてください。
STATUS	BCM の TP1/EE が正常終了していません。	詳細情報で示す BCM の TP1/EE が起動している場合、正常終了させてからコマンドを再実行してください。 TP1/EE が起動していない場合、開始後に正常終了させてからコマンドを再実行してください。
TABLE	表の構成が不正です。	-t オプションに指定した OBM 管理表名に誤りがないか確認してください。 接続する HiRDB が誤っていないか、または環境変数 PDHOST、環境変数 PDNAMEPORT、および環境変数 PDUSER の設定を確認してください。
LOTPPOOL	-O オプション設定時に OBM 構成定義の obminit -p lotpool オペランドの設定値が減らされています。	OBM 構成定義の obminit -p lotpool オペランドの設定値を変更する前の値以上に修正して、eeobmgen コマンド、および eeobminith コマンドを再実行してください。

## KFSB95742-E

表の削除に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, OBM管理表名 = bb....bb, 詳細コード = cc....cc  
An attempt to delete the tables has failed. command name = aa....aa, OBM management table name = bb....bb, detail code = cc....cc (E) (NOS)

表の作成処理でエラーが発生したため、作成済みの表の削除に失敗しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : OBM 管理表名

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) コマンド処理を終了します。

(O) TP1/FSP の eeobmtblh コマンドに -r オプションを指定して OBM 管理表を削除してください。

【対策】 なし。

## KFSB95743-E

ファイルの読み込みに失敗しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc  
An attempt to load a file failed. command name = aa....aa, file name = bb....bb, reason code = cc....cc (E) (NOS)

OBM 構成定義オブジェクトのファイル読み込み処理でエラーが発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : オープンできなかったファイル名

cc....cc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
FILE	ファイル形式が正しくありません。	考えられる原因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• OBM 構成定義ファイルではないファイルが指定されています。</li><li>• eeobmgen コマンドが異常終了した際に出力したファイルが指定されています。</li><li>• 互換性のないバージョンの eeobmgen コマンドで出力したファイルが指定されています。</li></ul> OBM 構成定義オブジェクトではないファイルを指定していた場合は、OBM 構成オブジェクトファイルを指定してコマンドを再実行してください。それ以外の場合は、eeobmgen コマンドを実行して OBM 構成オブジェクトファイルを再作成してから、コマンドを再実行してください。
FOPEN	ファイルのオープンに失敗しました。	入力ファイルの障害を取り除いたあと、再実行してください。
FREAD	ファイルの読み込みに失敗しました。	考えられる障害の要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 指定されたファイルが存在しません。</li><li>• ファイル障害が発生しました。</li><li>• ディスク障害が発生しました。</li><li>• 指定されたパスが不正です。</li><li>• 指定されたファイルに対するアクセス権が不正です。</li><li>• リソースが不足しています。</li><li>• OS の制限（ファイルディスクリプタ、シンボリックリンク数など）を超えています。</li><li>• NFS 障害が発生しました。</li></ul>

## KFSB95744-I

コマンドが成功しました。コマンド名 = aa....aa, OPEN状態管理表名 = bb....bb, 詳細コード 1 = cc....cc, 詳細コード 2 = dd....dd

Command execution was successful. command name = aa....aa, OPEN management table name = bb....bb, detail code 1 = cc....cc, detail code 2 = dd....dd (S) (NOS)

コマンドが成功しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : OPEN 状態管理表名

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を正常終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB95745-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, OPEN状態管理表名 = bb....bb, 理由コード = cc....cc, 詳細情報 1 = dd....dd, 詳細情報 2 = ee....ee

Command execution has failed. command name = aa....aa, OPEN management table name = bb....bb, reason code = cc....cc, detail information 1 = dd....dd, detail information 2 = ee....ee (E) (NOS)

コマンドが失敗しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : OPEN 状態管理表名

cc....cc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

dd....dd : 詳細情報 1

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

ee....ee : 詳細情報 2

TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
ALREADY_CHANGED	ほかの BCM の OBM 管理表が初期化されています。ほかの BCM がすべての OBM を OPEN するまで自 BCM の OBM 管理表を初期化できません。	ほかの BCM を eesvstart で開始してください。また、自 BCM で未実行状態でない OBM がある場合は、正常終了、または強制終了させてください。
DIFFERENT	-s に normal を指定した場合は、-O に指定した OBM 構成定義オブジェクトが前回	-s に normal を指定した場合は、-O に前回 eeominith コマンドを実行したときの-O に



理由コード	意味	対策
DIFFERENT	<p>eeominith コマンドを実行したときの-o に指定した OBM 構成定義オブジェクトではありません。</p> <p>-s に switch を指定した場合は、-o に指定した OBM 構成定義オブジェクトが前回 eeominith コマンドを実行したときの-o に指定した OBM 構成定義オブジェクトではありません。</p>	<p>指定した OBM 構成定義オブジェクトを指定してください。</p> <p>-s に switch を指定した場合は、-o に前回 eeominith コマンドを実行したときの-o に指定した OBM 構成定義オブジェクトを指定してください。</p>
INIT	OPEN 状態管理表が初期化されていません。	eeobminith コマンドを-s オプションを指定、-O オプションを省略して実行してください。
LOCK	表の排他が確保できませんでした。	しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、HiRDB のエラー情報を基に表の排他をしているトランザクションの状態を確認してください。
NOT_OPEN	<p>OPEN 状態がコマンドを実行できる状態ではありません。</p> <p>eeobminith コマンドに-O オプションを指定して実行した場合は、-s に指定した BCM で OPEN している OBM があります。</p> <p>-O オプションを指定しないで実行した場合は、-s に指定した BCM で OPEN していない BCM があります。</p>	<p>eebcmtbllsh コマンドを実行し OPEN 状態を確認してください。</p> <p>-O オプションを指定していた場合は、-s に指定した値で表示されている OBM を正常終了、または強制終了させてください。</p> <p>-O オプションを省略した場合は、-s に指定した値とは異なる値で表示される OBM を正常終了、または強制終了させてください。</p>
OTHER	内部矛盾を検知しました。	保守員に連絡してください。
SQL	SQL でエラーが発生しました。	直前に出力されている KFSB95712-E メッセージを参照して SQL エラーの原因を取り除いてください。
TABLE	表の構成が不正です。	<p>-S オプションに指定した OPEN 状態管理表名に誤りがないか確認してください。</p> <p>接続する HiRDB が誤っていないか、または環境変数 PDHOST、環境変数 PDNAMEPORT、および環境変数 PDUSER の設定を確認してください。</p>

## KFSB95760-I

使用方法：eeobmgen -i OBM構成定義ファイル -o OBM構成定義オブジェクト

Usage: eeobmgen -i <OBM-configuration-definition-file-name> -o <OBM-configuration-definition-object-name> (S) (NOS)

TP1/FSP の eeobmgen コマンドの使用方を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。



(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

#### KFSB95761-E

```
定義解析中に領域の確保に失敗しました。領域コード = aa....aa, サイズ = bb....bb  
Area allocation failed during definition analysis. area code = aa....aa, size = bb....bb (E)  
(NOS)
```

定義格納領域および定義解析作業用領域の確保に失敗しました。

aa....aa : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

bb....bb : 領域確保を要求したサイズ

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。再発する場合、OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

#### KFSB95762-E

```
定義解析中にファイルのオープンに失敗しました。ファイル名 = aa....aa  
Opening of the definition file failed during definition analysis. file name = aa....aa (E)  
(NOS)
```

入出力ファイル (UNIX ファイル) のファイルオープン処理でエラーが発生しました。

aa....aa : オープンできなかったファイルパス

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 入出力ファイルの障害を取り除き再実行してください。

考えられる障害の要因を次に示します。

- 指定されたファイルがありません。
- ファイル障害が発生しました。
- ディスク障害が発生しました。
- 指定されたパスが不正です。

- 指定されたファイルに対するアクセス権が不正です。
- リソースが不足しています。
- OS の制限（ファイルディスクリプタ、シンボリックリンク数など）を超えています。
- NFS 障害が発生しました。

## KFSB95763-E

```
定義解析中に定義ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb
Loading of the definition file failed during definition analysis. file name = aa....aa, line =
bb....bb (E) (NOS)
```

定義ファイルの読み込み時に障害が発生しました。

**aa....aa** : 障害が発生したファイルパス

**bb....bb** : 読み込みに失敗した行番号

(S)定義解析を中止しプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 定義ファイルの障害を取り除き再実行してください。

考えられる障害の要因を次に示します。

- ファイル障害が発生しました。
- ディスク障害が発生しました。
- 指定されたファイルに対するアクセス権が不正です。
- OS の制限（ファイルディスクリプタ、シンボリックリンク数など）を超えています。
- NFS 障害が発生しました。

## KFSB95764-E

```
定義解析中にエラーが発生しました。定義形式が不正です。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb,
理由コード = cc....cc
An error occurred during definition analysis. The definition format is incorrect. file name =
aa....aa, line = bb....bb, reason code = cc....cc (E) (NOS)
```

定義形式が不正です。

**aa....aa** : 障害が発生したファイルパス

**bb....bb** : 不正があった行番号

cc....cc：理由コード

FORMAT：定義形式が不正です。

NOTHING：内部矛盾です。

OPERAND：オペランドが不正です。またはオペランドに指定した値が不正です。

OVER：定義ファイルの1行の文字数が規定の範囲（80文字）を超えています。

(S)定義解析を中止しプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義ファイル中の bb....bb 行目に指定した定義を、理由コードに従って見直し、再起動してください。

理由コードが NOTHING の場合は、保守員に連絡してください。

## KFSB95765-I

定義オブジェクトファイルを出力しました。入力ファイル名 = aa....aa, 定義オブジェクトファイル名 = bb....bb

Created a definition object file. input file name = aa....aa, definition object file name = bb....bb (S) (NOS)

定義オブジェクトファイルの出力が完了しました。

aa....aa：入力ファイル名

bb....bb：定義オブジェクトファイル名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** なし。

## KFSB95766-E

ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名 = aa....aa

Failed to write a file. file name = aa....aa (E) (NOS)

定義オブジェクトファイルの書き込み時に障害が発生しました。

aa....aa：障害が発生したファイルパス

(S)定義解析を中止しプロセスを強制停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義オブジェクトファイルの障害を取り除き、TP1/EE を再起動してください。考えられる障害の要因を次に示します。

- ファイル障害が発生しました。
- ディスク障害が発生しました。
- 指定されたファイルに対するアクセス権が不正です。
- OS の制限（ファイルディスクリプタ、シンボリックリンク数など）を超えています。
- NFS 障害が発生しました。

## KFSB95767-Q

```
-o オプションに指定したファイルは既に存在します。上書きしていいですか。[y：上書きする n：上書きしない] コマンド名= aa....aa, ファイル名= bb....bb
```

```
The file specified in the -o option already exists. Are you sure you want to overwrite the existing file? [y: Yes. n: No.] command name = aa....aa, file name = bb....bb (S) (NOS)
```

-o オプションに指定したファイルを上書きしていいか応答を求めます。

**aa....aa**：コマンド名

**bb....bb**：ファイル名

(S)オペレータが指定した応答に従って処理します。y または n (Y または N を含む) 以外を応答した場合は、再度応答を求めます。

(O)y または n (Y または N を含む) で応答します。

y：ファイルを上書きしてコマンドの処理を続行します。

n：ファイルを上書きしないでコマンドの処理を終了します。

**【対策】** なし。

## KFSB95770-E

```
An error occurred during command processing. command name = aa....aa, reason code1 = bb....bb, reason code2 = cc....cc, detail code = dd....dd, detail information = ee....ee (E) (NOS)
```

コマンド処理で障害が発生しました。

**aa....aa**：コマンド名

eeobmstart が表示されます。

**bb....bb**：理由コード 1

ENVIRON：コマンドの動作環境によるエラーが発生しました。原因については、理由コード 2 を参照してください。

OTHER：内部矛盾が発生しました。理由コード 2 には、TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報が表示されます。

cc....cc：理由コード 2

理由コード 1 が ENVIRON の場合は、次のどれかが表示されます。

ADMSHM：TP1/EE の内部コマンドでエラーが発生しました。

DCDIR：環境変数 DCDIR が設定されていないか、環境変数 DCDIR に設定するパス長が 52 バイト以上です。

MALLOC, PUTENV：メモリ不足のため、環境変数の設定に失敗しました。

dd....dd：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee：詳細情報

理由コード 2 が ADMSHM の場合、出力に失敗したメッセージ ID と詳細情報を、半角スペースで区切って表示します。該当しない場合は、\*を表示します。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。必要であればコマンドを再実行してください。

理由コード 1	理由コード 2	対策
ENVIRON	ADMSHM	TP1/EE が正しくセットアップされているか確認してください。
	DCDIR	環境変数 DCDIR を設定するか、環境変数 DCDIR に設定するパス長を 51 バイト以下にしてください。
	MALLOC	OS のメモリに十分に空きがあるか確認してください。
	PUTENV	
OTHER	理由コード 2 は TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報です。	保守員に連絡してください。

## KFSB95771-E

○BMの開始／再開始処理でコマンドプロセスでエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード 1 = bb....bb, 理由コード 2 = cc....cc

An error occurred in the command process during an OBM start or restart. command name = aa....aa, reason code 1 = bb....bb, reason code 2 = cc....cc (E) (NOS)

OBM の開始, または再開始処理中に, コマンドプロセス側のエラーが発生しました。

aa....aa：コマンド名

eeobmstart が表示されます。

bb....bb：理由コード 1

## CC....CC：理由コード 2

理由コード 1, 理由コード 2 の意味と対策を表に示します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。必要であればコマンドを再実行してください。

理由コード 1	理由コード 1 の意味	理由コード 2	理由コード 2 の意味	対策
CLTIN_S	TP1/Client の dc_clt_cltin_s 関数でエラーが発生しました。	TP1/Client の dc_clt_cltin_s 関数のリターン値。	TP1/Client の dc_clt_cltin_s 関数のリターン値が表示されます。	マニュアル「OpenTP1 クライアント使用の手引 TP1/Client/W, TP1/Client/P 編」を参照して、dc_clt_cltin_s 関数について、理由コード 2 に示すリターン値の原因を調査してください。
CLTIN_S(HB)	ハートビート用スレッドについて、TP1/Client の dc_clt_cltin_s 関数でエラーが発生しました。			
ENDIAN	コマンドを実行したマシンと BCM とでエンディアンが異なります。	0	0 が表示されます。	BCM と同じプラットフォーム (エンディアン) のマシンからコマンドを実行してください。
OPEN_S	TP1/Client の dc_rpc_open_s 関数でエラーが発生しました。	TP1/Client の dc_rpc_open_s 関数のリターン値。	TP1/Client の dc_rpc_open_s 関数のリターン値が表示されます。	マニュアル「OpenTP1 クライアント使用の手引 TP1/Client/W, TP1/Client/P 編」を参照して、dc_rpc_open_s 関数について、理由コード 2 に示すリターン値の原因を調査してください。
OPEN_S(HB)	ハートビート用スレッドについて、TP1/Client の dc_rpc_open_s 関数でエラーが発生しました。			
REJECT	BCM からリジェクト指示がありました。	KFSB55704-E メッセージの理由コードと同じ値。	KFSB55704-E メッセージを参照してください。	BCM のリジェクト要因 (理由コード 2) に示す不備がないか確認してください。
SET_WATCH_TIME_S	TP1/Client の dc_rpc_set_watch_time_s 関数でエラーが発生しました。	TP1/Client の dc_rpc_set_watch_time_s 関数のリターン値。	TP1/Client の dc_rpc_set_watch_time_s 関数のリターン値が表示されます。	マニュアル「OpenTP1 クライアント使用の手引 TP1/Client/W, TP1/Client/P 編」を参照して、dc_rpc_set_watch_time_s 関数について、理由コード 2 に示すリターン値の原因を調査してください。
SET_WATCH_TIME_S(HB)	ハートビート用スレッドについて、TP1/Client の dc_rpc_set_watch_time_s 関数でエラーが発生しました。			
THREAD	ハートビート用のスレッド生成に失敗しました。	0	0 が表示されます。	システムリソース不足が発生していないか確認してください。

## KFSB95772-E

○BMの実行中にTP1/EEプロセスでエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード 1 = bb....bb, 理由コード 2 = cc....cc

An error occurred in the TP1/EE process during OBM execution. command name = aa....aa, reason code 1 = bb....bb, reason code 2 = cc....cc (E) (NOS)

OBMの実行でエラーが発生しました。

**aa....aa** : コマンド名

eeobmstart が表示されます。

**bb....bb** : 理由コード 1

次のどちらかが表示されます。

HB : ハートビート機能によって障害を検知しました。

REJECT : BCM からリジェクト指示がありました。

**cc....cc** : 理由コード 2

理由コード 1 に示すエラーの詳細情報として次のどれかが表示されます。

理由コード 1 が HB の場合

- NEGOTIATION, START, TIMED\_OUT  
TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報が表示されます。

理由コード 1 が REJECT の場合

- [KFSB55704-E](#) メッセージの理由コードと同じ値  
[KFSB55704-E](#) メッセージを参照してください。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)理由コード 1 が REJECT の場合は、[KFSB55704-E](#) メッセージの対策を参照してください。理由コード 1 が REJECT でない場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】**理由コード 1 が HB の場合は、TP1/EE 側のメッセージログで BCM の状態を確認してください。必要であればコマンドを再実行してください。

## KFSB95773-E

○BMの実行中に通信エラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード 1 = bb....bb, 理由コード 2 = cc....cc

A communication error occurred during OBM execution. command name = aa....aa, reason code 1 = bb....bb, reason code 2 = cc....cc (E) (NOS)

OBMの実行中に BCM との通信エラーが発生しました。

aa....aa : コマンド名

eeobmstart が表示されます。

bb....bb : 理由コード 1

理由コード 1 の意味と対策を表に示します。

cc....cc : 理由コード 2

理由コード 2 には、理由コード 1 に示すエラーに関する詳細情報として、TP1/Client の関数のリターン値が表示されます。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。必要であればコマンドを再実行してください。

理由コード 1	理由コード 1 の意味	対策
CALL_S	TP1/Client の dc_rpc_call_s 関数でエラーが発生しました。	理由コード 2 が-2410 の場合は、BCM の TP1/EE が起動しているか確認してください。起動していないときは、起動してください。起動後、次のどちらかに誤りがないか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• eeobmstart コマンドの-g オプション</li><li>• eeobmstart コマンドの実行環境の環境変数 (DCHOST, DCNAMPORT)</li></ul> 理由コード 2 が-2411 の場合は、次のどちらかに誤りがないか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• eeobmstart コマンドの-g オプション</li><li>• eeobmstart コマンドの実行環境の環境変数 (DCHOST, DCNAMPORT)</li></ul> 理由コード 2 にそのほかの値が表示されている場合は、マニュアル「OpenTP1 クライアント使用の手引 TP1/Client/W, TP1/Client/P 編」を参照して、dc_rpc_call_s 関数について、理由コード 2 に示すリターン値の原因を調査してください。
CALL_TO_S	TP1/Client の dc_rpc_call_to_s 関数でエラーが発生しました。	マニュアル「OpenTP1 クライアント使用の手引 TP1/Client/W, TP1/Client/P 編」を参照して、dc_rpc_call_to_s 関数について、理由コード 2 に示すリターン値の原因を調査してください。
CALL_TO_S(HB)	ハートビート用スレッドについて、TP1/Client の dc_rpc_call_to_s 関数でエラーが発生しました。	

## KFSB95774-W

○BMの実行結果出力中に通信エラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード 1 = bb....bb, 理由コード 2 = cc....cc (E) (NOS)

A communication error occurred during output of OBM execution results. command name = aa....aa, reason code 1 = bb....bb, reason code 2 = cc....cc



OBM の停止または終了時の、実行結果の出力中に BCM との通信エラーが発生しました。

**aa....aa** : コマンド名

eeobmstart が表示されます。

**bb....bb** : 理由コード 1

CALL\_TO\_S : OBM 実行結果要求で、TP1/Client の dc\_rpc\_call\_to\_s 関数にエラーが発生しました。

HB : OBM 実行結果要求で、BCM がハートビート障害を検知しました。

**cc....cc** : 理由コード 2

理由コード 1 に示すエラーの詳細情報が表示されます。

理由コード 1 が CALL\_TO\_S の場合

TP1/Client の各 API のリターン値

理由コード 1 が HB の場合

TP1/EE がトラブルシュートに使用する値

(S) コマンド処理を終了します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 理由コード 1 が CALL\_TO\_S の場合は、マニュアル「OpenTP1 クライアント使用の手引 TP1/Client/W, TP1/Client/P 編」を参照して、dc\_rpc\_call\_to\_s 関数について、理由コード 2 に示すリターン値の原因を調査してください。理由コード 1 が HB の場合は、TP1/EE 側のメッセージログで BCM の状態を確認してください。

なお、オンラインバッチ処理は完了しているため、コマンドを再実行する必要はありません。

## KFSB95775-I

計画停止中ロットの再開を受け付けました。コマンド名 = aa....aa

The request to restart a lot that had been planned termination was accepted. command name = aa....aa (S) (NOS)

実行中状態の OBM の計画停止していたロットに対する再開要求を受け付けました。

**aa....aa** : コマンド名

eeobmstart が表示されます。

(S) コマンド処理を終了します。

再開したロットに関する処理結果は、別に起動している TP1/FSP の eeobmstart コマンドで応答します。

(O) なし。

**【対策】** なし。

## KFSB95900-E

メモリが確保できません。コマンド名 = aa....aa, サイズ = bb....bb

Cannot secure sufficient memory. command name = aa....aa, size = bb....bb (E) (NOS)

コマンド処理に必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。再発する場合、OpenTP1 管理者へ連絡してください。

【対策】 OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB95901-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E) (NOS)

コマンドの引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 理由コード

0001 : 不正なオプションフラグを使用しています。

0002 : 必要なフラグ引数がありません。

0003 : 必要なオプションフラグがありません。

0004 : コマンド引数の個数が多過ぎます。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) 正しい引数を設定してコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB95902-E

コマンドのオプションが不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb, 理由コード = cccc

The command option is invalid. command name = aa....aa, option = bb, reason code = cccc (E) (NOS)

オプションに誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb : オプション名

cccc : 理由コード

0001 : フラグ引数の長さが不正です。

0002 : フラグ引数に設定できない文字を設定しています。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) 正しいオプションを設定してコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95921-I

使用方法 : eehamls -g サービスグループ名

Usage: eehamls -g <service-group-name> (S) (NOS)

eehamls コマンドの使用法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB95950-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc

The command execution has failed. command name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code = cc....cc (E) (NOS)

コマンド実行中にエラーが発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S) コマンド処理を途中で中止して終了します。

(O) OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	データの通信に失敗しました。	TP1/EE との通信障害の原因を調査し、取り除いてください。
0002	TP1/EE プロセス側でエラーが発生しました。	詳細コードを保守員に連絡してください。
0003	設定されたサービスグループ名が見つかりません。	正しいサービスグループ名を設定してコマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE の起動後にコマンドを再実行してください。
0004	プロセス関連定義の xtc_use オペランドに Y、クラスタ連携関連定義の cluster_mode オペランドに N が指定された状態でコマンドが実行されました。	cluster_mode オペランドに N が指定されていると、eehamls コマンドは実行できません。

## KFSB95951-E

コマンド実行中に内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

An internal conflict has occurred during command execution. command name = aa....aa,  
detail code = bb....bb (E) (NOS)

コマンド実行中に予期しない障害が発生したため、処理を中止しました。

**aa....aa** : コマンド名

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンド処理を途中で中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合は、コアダンプを保守員に渡してください。

## KFSB96001-I

aa....aa の処理を開始しました。

aa....aa processing started. (S) (1) (NOS)

aa....aa の処理を開始しました。

**aa....aa** : 実行した処理

Import : 表データのインポート

Export : 表データのエクスポート

Dbsta : データベースの状態解析

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB96002-I

```
aa....aa の処理が終了しました。(リターンコード = bb)
aa....aa processing ended. (return code = bb)    (S) (1) (NOS)
```

aa....aa の処理が終了しました。

**aa....aa** : 実行した処理

Import : 表データのインポート

Export : 表データのエクスポート

Dbsta : データベースの状態解析

**bb** : リターンコード

0 : 正常に終了しました。

12 : エラーが発生しました。

20 : コマンドパラメタの指定が不正です。

(S)処理を続行します。

(O)リターンコードが 12 もしくは 20 の場合、メッセージログファイルまたは標準エラー出力に出力されたメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、必要であればデータベースの回復を行ったあとにコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

### KFSB96003-E

```
コマンドのオプションが不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb
The command options are invalid. command name = aa....aa, reason code = bb    (E) (6)
(NOS)
```

指定されたコマンドに誤りがあります。このメッセージのあとに、コマンドの使用方法を出力します。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb** : 理由コード

01 : 必要なフラグ引数がありません。

02 : フラグ引数の指定値に誤りがあります。

03 : 指定できないオプションフラグです。

04：フラグ引数の数が不正です。

(S)処理を終了します。

(P)コマンドの誤りを修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB96004-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb, 理由コード = cccc  
The flag argument is invalid. command name = aa....aa, option = bb, reason code = cccc  
(E) (6) (NOS)

コマンドのオプションに誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa：該当するコマンド名

bb：誤りがあったオプションフラグ

cccc：理由コード

0001：フラグ引数のけた数が不正です。

0002：フラグ引数に指定した文字の属性が不正です。

0003：フラグ引数に指定した内容が不正です。

(S)処理を終了します。

(O)正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB96005-E

メモリ不足が発生しました。(確保サイズ = aa....aa, 保守情報 1 = bb....bb, 保守情報 2 = cc....cc)  
Memory is insufficient. (size of the insufficient memory = aa....aa, part number = bb....bb, part  
code = cc....cc) (E) (6) (NOS)

XDB の処理中にメモリ不足が発生しました。

aa....aa：確保しようとしたメモリサイズ (単位：バイト)

bb....bb：保守情報 1

cc....cc：保守情報 2

(S)処理を終了します。

(O)メモリを大量に占有するプロセスの終了を待って、必要であればデータベースの回復を行ったあとに再度実行してください。メモリを大量に占有するプロセスがない場合でも、このメッセージが出力される場合は、次の対策を検討してください。

- 実行する環境のメモリが、aa...aa で表示されるメモリサイズ分確保できるかを確認してください。
- エラーとなった表の列定義を見直し、列の定義長が格納されるデータの最大長よりも大きくなっていないかを確認してください。大きくなっている場合は、列の定義長を小さくすることを検討してください。

【対策】 なし。

## KFSB96006-I

使用方法：eexdbimport -g サービスグループ名 [-d] [-k 囲み文字] [-s 区切り文字] [-b ソートバッファサイズ] [-i 処理経過メッセージの出力契機間隔] [-w 一時ファイルを作成するディレクトリパス名] [-R コマンド処理打ち切り時間] 処理対象表識別子 入力DBデータファイル名

Usage: eexdbimport -g <service-group-name> [-d] [-k <enclosing-character>] [-s <delimiter>] [-b <sort-buffer-size>] [-i <timing-to-output-progress-message>] [-w <temporary-directory>] [-R <command-cancellation-time>] <table-name> <input-data-file-name> (S) (1) (NOS)

eexdbimport コマンドの使用法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)処理を終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB96007-I

使用方法：eexdbexport -g サービスグループ名 [-k 囲み文字] [-s 区切り文字] [-i 処理経過メッセージの出力契機間隔] [-r コマンド処理打ち切り時間] 処理対象表識別子 エクスポートファイル名

Usage: eexdbexport -g <service-group-name> [-k <enclosing-character>] [-s <delimiter>] [-i <timing-to-output-progress-message>] [-r <command-cancellation-time>] <table-name> <export-file-name> (S) (1) (NOS)

eexdbexport コマンドの使用法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)処理を終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB96008-I

使用方法：eexdbexttbl -f ダンプファイル名 [-k 囲み文字] [-s 区切り文字] 処理対象表識別子 エクスポートファイル名

Usage: eexdbexttbl -f <dump-file-name> [-k <enclosing-character>] [-s <delimiter>]  
<table-name> <export-file-name> (S) (1) (NOS)

eexdbexttbl コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)処理を終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB96009-I

使用方法：eexdbsta -g サービスグループ名 [-p|-l] [-r コマンド処理打ち切り時間]

Usage: eexdbsta -g <service-group-name> [-p|-l] [-r <command-cancellation-time>] (S)  
(1) (NOS)

eexdbsta コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)処理を終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

[対策] なし。

## KFSB96010-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = ccccc

An error occurred while processing a command. command name = aa....aa, reason code = bbbb, details code = ccccc (E) (6) (NOS)

コマンド実行中にエラーが発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cccc : XDB がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を終了します。



(P)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	データの通信に失敗しました。または、TP1/EE プロセス側で障害が発生しました。	TP1/EE との通信障害、または TP1/EE プロセス側の障害の原因を調査し、取り除いてください。
0002	TP1/EE プロセス側でエラーが発生しました。	TP1/EE プロセス側のエラーの原因を調査し、取り除いてください。
0003	指定されたサービスグループ名が見つかりません。	正しいサービスグループ名を指定してコマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE の起動後にコマンドを再実行してください。

### KFSB96100-I

SQL 実行ユーティリティを開始します。  
The SQL execution utility started. (S) (5) (NOS)

eexdbsql コマンドによって、SQL の実行を開始します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB96102-I

SQL の実行処理が完了しました。  
SQL processing completed. (S) (6) (NOS)

SQL の実行処理が完了しました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

### KFSB96103-I

SQL の実行処理が完了しました。操作行数 = aa....aa, SQL 動作 = bb....bb  
aa....aa rows were bb....bb. (S) (6) (NOS)

SQL の実行によって、データベース操作の対象となった行数を示します。

aa....aa : SQL の実行によって、データベース操作の対象となった行数

bb....bb : SQL 動作

deleted : 削除  
inserted : 挿入  
selected : 検索  
updated : 更新

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB96104-I

インデクス"aa....aa"を使用します。表名="bb....bb"."cc....cc"

The index "aa....aa" of table "bb....bb"."cc....cc" will be used. (S) (6) (NOS)

表 bb....bb.cc....cc のインデクス aa....aa を使用します。インデクスを使用しない場合は、aa....aa を\*\*\*で表示します。

aa....aa : インデクス識別子

bb....bb : スキーマ名

cc....cc : 表識別子

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB96105-I

この SQL の実行によって aa....aa 個の作業表を作成します。

Executing this SQL will create aa....aa work tables. (S) (6) (NOS)

この SQL の実行によって aa....aa 個の作業表を作成します。

aa....aa : 作業表の個数

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB96106-I

```
使用方法：eexdbsql -g サービスグループ名 [-V] [-o 出力ファイル名] [-r コマンド処理打ち切り時間]
Usage: eexdbsql -g <service-group-name> [-V] [-o <output-file-name>] [-r <command-
cancellation-time>] (S) (6) (NOS)
```

eexdbsql コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式に誤りがある場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB96107-W

```
返却データ長が通信バッファ長の上限を超過したため、データの転送を中断しました。
Data transmission stopped because the communication buffer length was exceeded. (S)
(6) (NOS)
```

データの返却に使用する通信バッファの長さより返却データが長いため、返却データの転送を中断しました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** -o オプションを指定して結果を確認してください。

## KFSB96151-E

```
コマンドのオプションが不正です。コマンド名 = eexdbsql, 理由コード = aa
The command options are invalid. command name = eexdbsql, reason code = aa (S) (3)
(NOS)
```

指定されたコマンドに誤りがあります。このメッセージのあとに、コマンドの使用方法を出力します。

**aa**：理由コード

- 01：必要なフラグ引数がありません。
- 02：フラグ引数の指定値に誤りがあります。
- 03：指定できないオプションフラグです。
- 04：フラグ引数の数が不正です。

(S)処理を終了します。

(O)コマンドの誤りを修正して、再度実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB96152-E

e e x d b s q l 制御文解析処理中にエラーが発生しました。aa....aa が不正です。  
aa....aa is invalid. (S) (3) (NOS)

eexdbsql コマンドの aa....aa が不正です。

aa....aa : 不正となった項目

(S)この eexdbsql コマンドを無視します。

(O)不正となった項目, または eexdbsql コマンドを修正して, 再度 eexdbsql コマンドを実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB96153-E

e e x d b s q l 制御文が完成していません。  
The eexdbsql command is incomplete. (S) (3) (NOS)

eexdbsql コマンドが途中で終了しています。

(S)この eexdbsql コマンドを無視します。

(O)eexdbsql コマンドを修正して, 再度実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB96154-E

e e x d b s q l 制御文解析処理中にエラーが発生しました。定数長が32,000バイトを超過しています。  
The length of the aa....aa string literal exceeded 32,000 bytes. (S) (3) (NOS)

eexdbsql コマンドの上限値を超える定数が指定されました。

aa....aa : 定数種別

character : 文字列定数

(S)この eexdbsql コマンドを無視します。

(O)eexdbsql コマンドを修正して, 再度実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB96155-E

e e x d b s q l 制御文解析処理中にエラーが発生しました。このSQL文は実行できません。  
The SQL statement cannot be executed. (S) (3) (NOS)

DELETE 文, INSERT 文, SELECT 文, または UPDATE 文以外の SQL 文は実行できません。

(S)この SQL 文を無視します。

(O)SQL 文を修正して, 再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB96156-E

出力ファイルへの書き込みに失敗しました。出力ファイル名 = aa....aa  
An output file cannot be written. output file = aa....aa (S) (3) (NOS)

出力ファイルへの書き込みに失敗しました。

aa....aa : 出力ファイル名

(S)処理を続行します。

(O)エラーとなった要因を取り除き, 再度実行してください。

【対策】なし。

## KFSB96157-E

領域の確保に失敗しました。コマンド名 = e e x d b s q l , 要求サイズ = aa....aa  
Memory is insufficient.(size = aa....aa) (S) (3) (NOS)

eexdbsql コマンドを処理するためのメモリが不足しています。

aa....aa : 確保しようとした領域のサイズ (単位 : バイト)

(S)処理を終了します。

(O)しばらく待ってから, eexdbsql コマンドを再実行してください。再度このメッセージが出力される場合は, OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB96158-E

aa....aa で示すリターンコードによって, XDB サービスからエラーが返却されました。  
An SQL error occurred. (return code =aa....aa) (S) (3) (NOS)

aa....aa で示すリターンコードによって、XDB サービスからエラーが返却されました。

aa....aa : リターンコード

(S)この SQL 文を無視します。

(O)エラー要因を取り除き、SQL 文を再度実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB96159-E

データ格納領域の合計長が 2 GB を超えています。

The total size of the data storage area exceeds 2 GB. (S) (3) (NOS)

データ格納領域の合計長が 2GB を超えています。

(S)この SQL 文を無視します。

(O)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB96160-E

e e x d b s q l 制御文解析処理中にエラーが発生しました。?パラメタは指定できません。

A dynamic parameter cannot be specified. (S) (3) (NOS)

SQL 文中に ?パラメタを指定しています。

(S)この SQL 文を無視します。

(O)SQL 文を修正して、再度実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB96161-E

e e x d b s q l 制御文解析処理中にエラーが発生しました。SQL 文の長さが 300,000 バイトを超過しています。

The length of an SQL statement exceeds 300,000 bytes. (S) (3) (NOS)

SQL 文の長さが 300,000 バイトを超えています。

(S)この SQL 文を無視します。

(O)SQL 文を修正して、再度実行してください。

[対策] なし。

## KFSB96162-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = eexdbsql, 理由コード = aaaa, 詳細コード = bb....bb  
An error occurred while processing a command. command name = eexdbsql, reason code = aaaa, details code = bb....bb (S) (3) (NOS)

コマンド実行中にエラーが発生したため、処理を中止しました。

aaaa : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

bb....bb : XDB がトラブルシュートで使用する情報

(S)この eexdbsql コマンドを無視します。

(P)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

[対策] 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	データの通信に失敗しました。または、TP1/EE プロセス側で障害が発生しました。	TP1/EE との通信障害、または TP1/EE プロセス側の障害の原因を調査し、取り除いてください。
0002	TP1/EE プロセス側でエラーが発生しました。	TP1/EE プロセス側のエラーの原因を調査し、取り除いてください。 直前にメッセージが出力されている場合、その原因も取り除いてください。
0003	指定されたサービスグループ名が見つかりません。	正しいサービスグループ名を指定してコマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE の起動後にコマンドを再実行してください。

## KFSB96163-I

e e x d b s q l 制御文解析処理中にエラーが発生しました。e e x d b s q l 制御文の長さが2,000,000バイトを超過しています。  
The length of an eexdbsql control statement exceeds 2,000,000 bytes. (S) (3) (NOS)

eexdbsql コマンドの長さが2000000バイトを超えています。

(S)処理を終了します。

(O)eexdbsql コマンドを修正して、再度実行してください。

[対策] なし。

## KFSB96199-I

各種モードの切り替えが発生しました。aa....aa  
aa....aa (S) (6) (NOS)

各種モードの切り替えが発生しました。

aa....aa：モード種別，および切り替え内容

DUMPMODE changed (a1 -> a2)：DUMPMODE の切り替え

a1 は現在のモード状態を表します。

a2 は#SET DUMPMODE サブコマンドの指定値を表します。

OPT REPORT changed (b1 -> b2)：OPT REPORT の切り替え

b1 は現在のモード状態を表します。

b2 は#SET OPT REPORT サブコマンドの指定値を表します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB96200-E

解析ファイルをオープンできません。解析ファイル名 = aa....aa，エラー番号 = bb....bb  
An analysis file cannot be opened. analysis file = aa....aa, error number = bb....bb (E) (1)  
(NOS)

定義情報を解析するために使用する解析ファイルがオープンできません。

aa....aa：解析ファイル名

bb....bb：エラー番号 (errno の値)

エラー番号が 0 の場合は，パス名の記述に誤りがあります。

(S)定義情報を解析するために使用する解析ファイルがオープンできません。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】障害を取り除いたあと，再度 OpenTP1 を起動してください。

## KFSB96201-E

変数の指定値に誤りがあります。ファイル名 = aa....aa，行数 = bb....bb，オペランド名 = cc....cc  
A value specified for a variable is invalid. file = aa....aa, line = bb....bb, operand = cc....cc  
(E) (1) (NOS)



定義ファイルに記述されている変数の指定値が誤っています。

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

cc....cc : オペランド名

(S)エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するオペランド名の記述形式を確認したあと、指定値を修正してください。

### KFSB96202-E

コマンド名に誤りがあります。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, コマンド名 = cc....cc

A command name is invalid. file = aa....aa, line = bb....bb, command = cc....cc (E) (1)  
(NOS)

定義ファイルに記述されているコマンドが解析できません。

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

cc....cc : コマンド名

(S)定義ファイルに記述されているコマンドが解析できません。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するコマンド名の記述形式を確認したあと、コマンド名を修正してください。

### KFSB96203-E

オプション名に誤りがあります。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, オプション名 = cc....cc

An option name is invalid. file = aa....aa, line = bb....bb, option = cc....cc (E) (1) (NOS)

定義ファイルに記述されているオプション名に誤りがあります。

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

cc....cc : オプション名

(S)エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するオプション名の記述形式を確認したあと、オプション名を修正してください。

#### KFSB96204-E

オプションの指定が重複してます。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, オプション名 = cc....cc  
An option is specified more than once. file = aa....aa, line = bb....bb, option = cc....cc (E)  
(1) (NOS)

定義ファイル中のコマンド引数に誤りがあります。

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

cc....cc : オプション名

(S)エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するコマンドの記述形式を確認したあと、引数を修正してください。

#### KFSB96205-E

オプションの引数に誤りがあります。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, オプション名 = cc....cc  
An argument of an option is invalid. file = aa....aa, line = bb....bb, option = cc....cc (E) (1)  
(NOS)

定義ファイル中のオプション名に誤りがあります。

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

cc....cc : オプション名

(S)エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するオプションの記述形式を確認したあと、引数を修正してください。

#### KFSB96206-E

メモリが足りないため、定義ファイルの解析を行えません。要求メモリ量 = aa....aa

```
A definition file cannot be analyzed because memory is insufficient. required memory =
aa....aa      (E) (1) (NOS)
```

定義ファイルの解析処理で、メモリ不足になりました。

**aa....aa** : エラーが発生した際の要求メモリサイズ (単位: バイト)

(S) 定義ファイルの解析処理を中止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 不要なプロセスがあれば削除し、再度実行してください。不要なプロセスがない場合は、メモリが不足しています。対策後、再度 OpenTP1 を起動してください。

## KFSB96207-E

```
I /Oエラーが発生しました。ファイル名 = aa....aa
An I/O error occurred. file = aa....aa      (E) (1) (NOS)
```

定義ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

**aa....aa** : 定義ファイル名

(S) 異常終了します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 定義ファイルに異常がないか調査し、再度 OpenTP1 を起動してください。

## KFSB96208-E

```
定義ファイルをオープンできません。定義ファイル名 = aa....aa, エラー番号 = bb....bb
A definition file cannot be opened. definition file = aa....aa, error number = bb....bb      (E)
(1) (NOS)
```

XDB サービス定義ファイルがオープンできませんでした。

**aa....aa** : XDB サービス定義ファイル名

**bb....bb** : エラー番号 (errno の値)

エラー番号が 0 の場合は、パス名の記述に誤りがあります。

(S) エラーが発生した XDB サービス定義ファイルの解析処理を中止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当するファイル名の記述形式を確認したあと、ファイル名およびパス名を修正してください。

## KFSB96209-E

当該レコードは最大レコード長を超えています。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb  
A record exceeds the maximum length. file = aa....aa, line = bb....bb (E) (1) (NOS)

定義情報のレコード長が最大レコード長（80 バイト）を超えています。

aa....aa : ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

(S)エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当する定義情報の記述形式を確認してください。なお、システム定義の 1 行に記述できる最大文字数は 80 バイトです。80 バイトを超えて指定する場合は、継続符号 (¥) を記述し、継続行として指定してください。

日本語を記述する場合、1 文字が 2 バイト以上に変換されることがあります。このため、テキストエディタ上では 1 行の長さが 80 バイト以内であっても、80 バイト以上と認識されることがあります。日本語を記述する場合は注意してください。

## KFSB96210-E

変数名の指定に誤りがあります。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb  
A specified variable name is invalid. file = aa....aa, line = bb....bb (E) (1) (NOS)

指定された変数に次のどちらかの誤りがあり、解析できません。

- 変数名の記述がありません。
- 指定された変数名に誤りがあります。

aa....aa : ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

(S)エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 変数名を正しく指定してください。または、定義ファイルと定義内容の関係が正しいか見直してください。

## KFSB96211-E

aa....aa の記述形式に誤りがあります。ファイル名 = bb....bb, 行数 = cc....cc  
The format of aa....aa is invalid. file = bb....bb, line = cc....cc (E) (1) (NOS)

記述形式に誤りがあります。

aa....aa：エラーが発生した定義名

bb....bb：ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 該当する定義情報の記述形式を確認したあと、修正してください。

### KFSB96212-E

必須定義が指定されていません。ファイル名 = aa....aa, オペランド名 = bb....bb

A required definition is not specified. file = aa....aa, operand = bb....bb (E) (1) (NOS)

必須の定義が指定されていません。

aa....aa：定義ファイル名

bb....bb：オペランド名

(S)エラーが発生した定義情報の解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 必須の定義を指定するよう定義を修正してください。

### KFSB96213-E

省略できないオプションが指定されていません。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, コマンド名 = cc....cc, オプション名 = dd....dd

A required option is not specified. file = aa....aa, line = bb....bb, command = cc....cc, option = dd....dd (E) (1) (NOS)

省略できないオプションを指定していません。

aa....aa：定義ファイル名

bb....bb：エラーが発生した行

cc....cc：コマンド名

dd....dd：オプション名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 省略できないオプションを指定するよう定義を修正してください。

#### KFSB96214-W

2重定義がありました。1つ目の定義を有効とし処理を続行します。ファイル名 = aa....aa, 行数 = bb....bb, オペランド名 = cc....cc

A definition is repeated. The first definition will be used and processing will continue. file = aa....aa, line = bb....bb, operand = cc....cc (E) (1) (NOS)

同じ定義情報を指定している個所があります。

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

cc....cc : オペランド名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 有効となった定義値で問題ある場合にはシステムをいったん停止し、修正したあとで再度システムを起動してください。

#### KFSB96215-E

解析ファイルが不正です。解析ファイル名 = aa....aa

An analysis file is invalid. analysis file = aa....aa (E) (1) (NOS)

XDB のバージョンと解析ファイルのバージョンが異なるため、定義解析処理を中止しました。

aa....aa : 解析ファイル名

(S)異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** いったん、dcsetup コマンドで OS の登録を削除し、再度 OS に登録したあと、再度 OpenTP1 を起動してください。それでもこのメッセージが出力される場合は、XDB を再インストールしてください。その後、dcsetup コマンドで OS に登録して、再度 OpenTP1 を起動してください。

#### KFSB96216-E

領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb

```
Area allocation has failed. command name = aa....aa, required size = bb....bb (E+L) (1)
(NOS)
```

コマンドの処理で、必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb....bb** : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S)処理を終了します。

(O)しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 不要なプロセスがあれば削除し、再度実行してください。不要なプロセスがない場合は、メモリが不足しています。

## KFSB96217-E

```
領域の確保に失敗しました。要求サイズ= aa....aa
Area allocation has failed. required size = aa....aa (E) (1) (NOS)
```

コマンドの処理で、必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

OS などが検知してサイズを出力できない場合は、「\*」が表示されます。

(S)処理を終了します。

(O)しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 不要なプロセスがあれば削除し、再度実行してください。不要なプロセスがない場合は、メモリが不足しています。

## KFSB96218-E

```
コマンド送受信処理でタイムアウトを検出しました。タイムアウト時間= aa....aa
A timeout was detected during command sending or receiving processing. timeout interval =
aa....aa (E) (1) (NOS)
```

コマンドの処理依頼をデータ送信してから結果のデータ応答を受信するまでにタイムアウトを検出しました。

**aa....aa** : タイムアウト時間 (単位: 分)

(S)コマンドによって、処理を終了するか異常終了します。

(O)コマンド処理打ち切り時間を引数に指定できるコマンドは、コマンド処理打ち切り時間を変更して再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】時間の掛かる処理があればその原因を取り除いて、再実行してください。

## KFSB96219-E

```
コマンド応答待ちでタイムアウトを検出しました。応答種別 = aa....aa, 応答待ち時間 = bb....bb  
A timeout was detected while a command waited for a response. type = aa....aa, timeout  
interval = bb....bb (E) (1) (NOS)
```

コマンドの処理依頼で、データ送信したあとの応答待ちでタイムアウトを検出しました。

aa....aa : 応答種別

- 1 : コマンド処理依頼
- 2 : コマンド結果応答

bb....bb : 応答待ち時間 (単位 : 秒)

(S)コマンドによって、処理を終了するか異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

TP1/EE プロセス側で実行されている可能性がありますので、しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。

【対策】通信障害がないか原因を調査し、通信障害を取り除いてください。

## KFSB96220-E

```
XDB コマンド処理中に通信障害が発生しました。詳細コード = aa....aa  
A communication error occurred during XDB command processing. details code = aa....aa  
(E) (1) (NOS)
```

XDB のコマンド処理で、通信障害が発生しました。

aa....aa : XDB がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】保守員に連絡してください。

## KFSB96221-E

```
これ以上コマンド処理を実行できません。コマンド処理数 = aa....aa
```



```
No more command processing can be executed. command processing count = aa....aa (E)
(1) (NOS)
```

処理できるコマンドの処理数を越えたため、処理を続行できません。

aa....aa：コマンドの処理数

(S)処理を終了します。

(O)しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 不要なコマンドプロセスがあれば削除し、再度実行してください。

## KFSB96222-I

```
使用方法：eexdbmemdmp -g サービスグループ名 [-s サービス停止時間] [-r コマンド処理打ち切り時間]
```

```
Usage : eexdbmemdmp -g <service-group-name> [-s <service-stop-time>] [-r <command-cancellation-time>] (S) (1) (NOS)
```

eexdbmemdmp コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB96223-E

```
コマンドが失敗しました。コマンド名= aa....aa, 理由コード= bbbb, 詳細コード= ccccc
```

```
An error occurred while processing a command. command name = aa....aa, reason code = bbbb, details code = ccccc (E) (1) (NOS)
```

コマンド実行中にエラーが発生したため、処理を中止しました。

aa....aa：該当するコマンド名

bbbb：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cccc：XDB がトラブルシュートで使用する情報

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	データの通信に失敗しました。または、TP1/EE プロセス側で障害が発生しました。	TP1/EE との通信障害、または TP1/EE プロセス側の障害の原因を調査し、取り除いてください。 直前にメッセージが出力されている場合、その原因も取り除いてください。
0002	TP1/EE プロセス側でエラーが発生しました。	TP1/EE プロセス側のエラーの原因を調査し、取り除いてください。 直前にメッセージが出力されている場合、その原因も取り除いてください。
0003	設定されたサービスグループ名が見つかりません。	正しいサービスグループ名を設定してコマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE の起動後にコマンドを再実行してください。
0004	TP1/EE プロセス側への通信が失敗しました。すでに要求が受け付けられ、実行されている可能性があります。	実行結果が不正であるおそれがあります。必要に応じて、直前に出力されているメッセージの原因を取り除き、再実行してください。

## KFSB96224-E

サービス停止待ち時間が超過しました。コマンド名 = aa....aa, サービス停止待ち時間 = bb....bb  
The time to wait to stop a service is over. command name = aa....aa, service stop time = bb....bb (E) (1) (NOS)

サービス停止待ち時間が超過したため、処理を続行できません。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : サービス停止待ち時間 (単位: 秒)

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】

- -s オプションの引数を適切な値に増やしてから、再度実行してください。
- TP1/EE の運用コマンド実行機能によって、同期型 RPC でコマンドを呼び出した場合には、&をコマンド文字列の最後に付けて非同期型 RPC で呼び出すようにプログラムを修正してください。

## KFSB96225-E

ダンプ出力対象共有メモリがありません。コマンド名 = aa....aa  
There is no shared memory to dump. command name = aa....aa (E) (1) (NOS)

ダンプ出力対象の共用メモリがないため、処理を続行できません。

aa....aa：該当するコマンド名

(S)処理を終了します。

(O)対象の共用メモリが存在しないか、起動中または終了中のため存在しません。TP1/EE プロセスが起動されるまでしばらく待ってからコマンドを再実行するか、または出力対象のサービスグループ名が正しいかを確認してください。

【対策】なし。

#### KFSB96227-E

このコマンドは待機系で実行できません。

This command cannot be executed in the standby system. (E) (1) (NOS)

このコマンドは待機系で実行できないため、処理を続行できません。

(S)処理を終了します。

(O)次のどちらかを実施してください。

- 実行系で、このコマンドを再実行してください。
- コマンドに誤りがあれば、正しいコマンドを実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB96228-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb

The command format is incorrect. command name = aa....aa, reason code = bb (E) (1) (NOS)

コマンドの形式に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa：該当するコマンド名

bb：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を終了します。

(O)正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
01	オプションフラグに不正があります。	オプションフラグの過不足や誤りを修正してください。
02	必要なフラグ引数がありません。	フラグ引数が必要なオプションフラグに、フラグ引数を指定してください。
03	引数に不正があります。	コマンド引数の誤りを修正してください。
04	引数の個数が多過ぎます。	余分なコマンド引数を削除してください。

## KFSB96229-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb....bb, 理由コード = cccc  
The flag argument is invalid. command name = aa....aa, option = bb....bb, reason code = cccc (E) (1) (NOS)

コマンドのフラグ引数の指定が不正なため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : オプション

cccc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を終了します。

(O)正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	フラグ引数に指定した内容が不正です。	フラグ引数の誤りを修正してください。
0002	フラグ引数の値が範囲外です。	フラグ引数の値を範囲内で指定してください。

## KFSB96230-E

オンラインが開始していないため、XDBコマンドが受け付けられません。  
XDB command cannot be executed because the online has not started yet. (E) (1) (NOS)

オンラインが開始していないため、XDBのコマンドが受け付けられません。そのため、処理を中止しました。

(S)処理を終了します。

(O)オンラインが開始するまでしばらく待ってから、XDB のコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB96240-E

コマンドでエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

An error occurred for the command. command name = aa....aa, reason code = bb....bb (E)  
(1) (NOS)

コマンド実行時にエラーが発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を終了します。

(O)エラーの要因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
PARAM	<ul style="list-style-type: none"><li>コマンドに指定したオプションまたは引数に誤りがあります。</li><li>保守資料取得ファイル名のパスにワイルドカードは指定できません。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>コマンドのオプションまたは引数を正しく指定してください。</li><li>保守資料取得ファイル名のパスが一意になるように指定してください。</li></ul>
ENVIRONMENT VARIABLE	コマンドの実行に必要な環境変数の設定に誤りがあります。	環境変数を確認して、正しく設定してください。設定する必要がある環境変数については、マニュアル「TP1/Server Base Enterprise Option 使用の手引」の「OpenTP1 管理者の環境設定」を参照してください。
TEMPORARY DIRECTORY	一時作業領域に十分な空きがありません。	保守資料取得ファイルを出力するディレクトリに、保守資料を取得できるだけの十分な空き領域を確保してください。
OS COMMAND FAILED	<ul style="list-style-type: none"><li>OS のコマンド処理に失敗しました。</li><li>ファイルのアーカイブ処理またはディレクトリの作成に失敗しました。</li></ul>	出力されている OS のコマンドのメッセージに従って対処してください。

## KFSB96241-I

使用方法 : eexdbasget [-l|-s] 取得先ファイル名

Usage: eexdbasget [-l|-s] <acquisition-destination-file-name> (S) (1) (NOS)

eexdbrasget コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)処理を終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB96251-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

The command format is incorrect. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E) (1) (NOS)

コマンドの形式に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を終了します。

(O)正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0011	オプションフラグに不正があります。	オプションフラグを修正してください。
0012	必要なフラグ引数がありません。	必須のフラグ引数を指定してください。
0013	引数に不正があります。	引数を見直して、修正してください。

## KFSB96252-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb....bb, 理由コード = cccc

The flag argument is invalid. command name = aa....aa, option = bb....bb, reason code = cccc (E) (1) (NOS)

コマンドのフラグ引数の指定が不正なため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : オプション名

cccc：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を終了します。

(O)正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0014	フラグ引数に指定した内容が不正です。	フラグ引数を修正してください。

## KFSB96253-I

使用方法：eexdbdefchk -t {syntax|detail} XDBサービス定義ファイル名

Usage: eexdbdefchk -t {syntax|detail} <XDB-service-definition-file-name> (S) (1)  
(NOS)

eexdbdefchk コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB96254-I

定義チェック処理を開始します。

Definition checking will now start. (S) (1) (NOS)

定義チェック処理を開始します。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB96255-E

内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

An internal contradiction occurred. command name = aa....aa, detail code = bb....bb (E)  
(1) (NOS)

コマンドの処理で予期しない障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : トラブルシュートで使用する情報

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** このメッセージの内容を記録し、保守員に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、そのコアファイルを保存してください。

#### KFSB96256-I

定義チェック処理を終了します。

Definition checking will now end. (S) (1) (NOS)

定義チェック処理が終了しました。

(S)処理を終了します。

(O)なし。

**【対策】** なし。

#### KFSB96257-E

共有メモリセグメントの上限を超えました。DB エリア名="aa....aa"

The shared memory segment is too large. DB area = "aa....aa" (E) (1) (NOS)

XDB サービス定義に指定した DB エリア情報が共有メモリセグメントの上限を超えました。

aa....aa : DB エリア名

(S)処理を続行します。

(O)次の観点で見直してください。

- 共有メモリの OS 設定値が不当に小さくないか。
- DB エリアのサイズが必要以上に大きくないか (XDB サービス定義の eexdbarea オペランドの指定値が必要以上に大きくないか)。

**【対策】** 定義および OS の設定値を見直し、どちらかの設定を変更して、再度 eexdbdefchk コマンドを実行して問題ないかを確認してください。

なお、コマンド実行環境と XDB の実行環境が異なる場合、OS での設定値によっては、コマンド実行環境ではエラーになるが、XDB の実行環境ではエラーにならないことがあります。



## KFSB96258-E

パス名に誤りがあります。オペランド名 = aa....aa, 理由コード = bb

A path name is invalid. operand = aa....aa, reason code = bb (E) (1) (NOS)

XDB サービス定義に指定したパス名に誤りがあります。

aa....aa : オペランド名

bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
41	指定されたファイルまたはディレクトリが存在しません。	指定したパスを見直して、正しいファイルまたはディレクトリのパスを指定してください。
42	指定されたパスはファイル名ではありません。	ファイルを指定する必要がある定義に、ディレクトリのパスが指定されています。指定したパスを見直して、正しいファイルのパスを指定してください。
43	指定されたパスはディレクトリ名ではありません。	ディレクトリを指定する必要がある定義に、ファイルのパスが指定されています。指定したパスを見直して、正しいディレクトリのパスを指定してください。
44	指定されたファイルまたはディレクトリに十分な権限がありません。	指定したファイルまたはディレクトリの権限を見直して、必要な権限を与えてください。 ファイル：読み込み権限 ディレクトリ：読み込み、書き込み、および実行権限
45	指定されたパスは長過ぎます。	パス名の長さ、またはパス名に含まれるファイル名もしくはディレクトリ名の長さが制限を超えています。制限内で指定してください。
46	指定されたパスの中にシンボリックリンクが多過ぎます。	パスを見直し、シンボリックリンクの少ないパスを指定してください。

なお、コマンド実行時のユーザと XDB 実行時のユーザが異なる場合、コマンド実行時にはエラーにならないで、XDB 実行時にエラーになる場合があります。そのため、XDB 実行時のユーザでコマンドを実行してください。

## KFSB96259-E

共有メモリの合計値がシステムの上限を超えました。理由 = aa....aa

The total value of the shared memory exceeded the upper limit of the system. reason = aa....aa (E) (1) (NOS)

共用メモリの合計値がシステムの上限を超えました。

aa....aa：エラーの原因

SHMALL：システムで使用できる共用メモリサイズ

FSIZE：ファイルに書き込めるサイズ

MLOCK：共用メモリに固定できるサイズ

(S)処理を続行します。

(O)なし。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
SHMALL	OS で設定されている共用メモリの上限を超えているため、XDB 起動時に共用メモリ不足で起動できません。	OS の設定を変更して、使用できる共用メモリサイズを増加させてください。
FSIZE	ファイル書き込みサイズオーバーのため、ダンプ出力が発生した場合に DB エリア上のユーザデータを書き込むファイルが作成できません。	OS の設定を変更して、使用できるファイルサイズを増やしてください。
MLOCK	共用メモリを固定するために十分なサイズが、OS で確保されていません。共用メモリが固定されない状態でシステムが動作するおそれがあります。	共用メモリの固定を行わないようにするか、または setrlimit_memlock オペランドを指定してください。

なお、setrlimit\_memlock オペランドの設定値は定義チェックコマンドでは反映されないため、定義チェックコマンドではエラーが報告されますが、XDB では正しく共用メモリ固定を行うことができます。また、コマンドの実行環境と XDB の実行環境が異なる場合、OS の設定値によっては、コマンドの実行環境ではエラーになるが、XDB の実行環境ではエラーにならないことがあります。

## KFSB96260-W

システムに共有メモリの設定が存在しないため、本設定値を 1 バイトと仮定して処理を続行します。  
種別 = aa....aa

The value of 1 byte is assumed because a shared memory value was not defined for the system. reason = aa....aa (E) (4) (NOS)

システムに共用メモリの設定が存在しないため、この設定値を 1 バイトと仮定して処理を続行します。

aa....aa：カーネルパラメタの種別

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** 仮定した値が不適切な場合は、実行環境に必要な値をカーネルパラメタに設定してください。カーネルパラメタの種別一覧を表に示します。

種別	内容
SHMALL	システム全体の共用メモリおよびページの最大数 使用する DB エリアを加算した以上のページ数にする必要があります。増加分の共用メモリも考慮して設定します。
SHMMAX	共用メモリおよびセグメントの、バイト単位の大きさの上限 DB エリアとして使用する領域の中で、最も大きいエリア長以上のバイト数を指定します。
SHMMNI	システム全体の共用メモリ数の上限 DB エリアの初期確保時に一つ、増分ごとに一つの共用メモリおよびセグメントを使用します。増加分を考慮した共用メモリ数を設定します。

なお、コマンドの実行環境と XDB の実行環境が異なる場合、OS の設定値によっては、コマンドの実行環境ではメッセージが出力されるけれど、XDB の実行環境では出力されないことがあります。

## KFSB96261-E

確保共有メモリ面数の合計値がシステムの上限を超えました。

The number of shared memory segments exceeded the upper limit of the system. (E) (1)  
(NOS)

確保共有メモリ面数の合計値がシステムの上限を超えました。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** カーネルパラメタ SHMMNI を、確保共有メモリ面数の合計値以上に設定してください。

なお、コマンドの実行環境と XDB の実行環境が異なる場合、OS の設定値によっては、コマンドの実行環境ではエラーになるが、XDB の実行環境ではエラーにならないことがあります。

## KFSB96262-E

確保共有メモリ面数と警告メッセージ出力タイミングの大小関係が正しくありません。DB エリア名 = "aa....aa"

The number of shared memory segments or the warning message timing value is invalid. DB area = "aa....aa" (E) (1) (NOS)

確保共有メモリ面数と警告メッセージ出力タイミングの大小関係が正しくありません。

aa....aa : DB エリア名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** 確保共用メモリ面数と警告メッセージ出力タイミングの大小関係が次の関係を満たすように、定義ファイルを修正してください。

初期確保共用メモリ面数 < 警告メッセージ出力タイミング1 < 警告メッセージ出力タイミング2 < 最大確保共用メモリ面数

## KFSB96263-E

オプションの引数に誤りがあります。DBエリア名="aa....aa", オプション = b

An argument of an option is invalid. DB area = "aa....aa", option = b (E) (1) (NOS)

オプションの引数に誤りがあります。

aa....aa : DB エリア名

b : オプション名

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** 次の表を参照し、対策してください。

オプション名	対策
a	-a オプションの引数に初期確保共用メモリ面数と最大確保共用メモリ面数の両方を設定してください。

## KFSB96264-E

指定した値の大小関係に誤りがあります。オペランド名 = aa....aa

The size of a specified value is incorrect. operand = aa....aa (E) (1) (NOS)

指定値の大小関係に誤りがあります。

aa....aa : 定義名

xdb\_trace\_buffer\_size : xdb\_trace\_buffer\_size オペランドが xdb\_trace\_file\_size オペランドより大きいです。

xdb\_trace\_entry\_size : xdb\_trace\_entry\_size オペランドが xdb\_trace\_buffer\_size オペランドより大きいです。

xdb\_sql\_text\_size : xdb\_sql\_text\_size オペランドが xdb\_trace\_entry\_size よりオペランドより大きいです。

xdb\_sql\_param\_size : xdb\_sql\_param\_size オペランドが xdb\_trace\_entry\_size オペランドより大きいです。

(S)処理を続行します。

(O)なし。

**【対策】** 出力された定義を修正してから、再度実行してください。各オペランドの大小関係については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の XDB サービス定義の各オペランドの説明を参照してください。

## KFSB96265-E

メモリ不足のため、eexdbdefchk コマンドを実行できません。

Insufficient memory; cannot execute eexdbdefchk command. (E) (1) (NOS)

メモリ不足のため、eexdbdefchk コマンドを実行できません。

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 不要なプロセスがあれば削除し、再度実行してください。不要なプロセスがない場合は、メモリが不足しています。十分にメモリを増やしてから再度実行してください。

## KFSB96266-I

使用方法：eexdbshrm -g サービスグループ名[,サービスグループ名...]

Usage: eexdbshrm -g <service-group-name>[,<service-group-name>...] (E) (1) (NOS)

eexdbshrm コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB96267-E

内部矛盾が発生しました。情報 1 = aa....aa, 情報 2 = bb....bb, 情報 3 = cc....cc

An internal contradiction occurred. information 1 = aa....aa, information 2 = bb....bb, information 3 = cc....cc (E) (1) (NOS)

コマンドの処理で予期しない障害が発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 保守情報 1

bb....bb : 保守情報 2

cc....cc : 保守情報 3

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合は、コアダンプを保守員に渡してください。

#### KFSB96268-E

指定されたサービスグループ名が起動中のため、対象の共有メモリ解放処理を中断します。

Processing to deallocate the target shared memory was interrupted because the specified service group is starting. (E) (1) (NOS)

TP1/EE 起動中には実行できないコマンドのため、処理を中止しました。

(S)処理を終了します。

(O)TP1/EE の終了を確認後、再度コマンドを実行してください。

**【対策】** なし。

#### KFSB96269-E

指定されたサービスグループ名に誤りがあるか、対象の共有メモリは解放済みです。

There is a mistake in the specified service group name, or the target shared memory has been deallocated. (E) (1) (NOS)

指定されたサービスグループ名に誤りがあるか、解放対象の共有メモリは解放済みのため、処理を中止しました。

(S)処理を終了します。

(O)正しいサービスグループ名を指定し、コマンドを再実行してください。サービスグループ名に誤りがない場合は、解放対象の共有メモリは解放済みです。

**【対策】** なし。

#### KFSB96270-E

権限不正のため、対象の共有メモリ解放処理を中断します。

Processing to deallocate the target shared memory was interrupted because permissions are lacking. (E) (1) (NOS)

権限不正のため、コマンドの処理を中断します。

(S)処理を終了します。

(O)サービス起動時に使用したユーザ ID を使用して、コマンドを実行してください。それでもこのメッセージが出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

#### KFSB96271-E

```
共有メモリの解放処理に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, サービスグループ名 = bb....bb  
Processing to deallocate shared memory has failed. command name = aa....aa, service group  
name = bb....bb (E) (1) (NOS)
```

指定されたサービスグループ名に対する共用メモリの解放処理を行いましたが、解放に失敗しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : サービスグループ名

(S)処理を続行します。

(O)直前に出力されるメッセージを基にエラー要因を取り除き、再度実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB96272-E

```
予約されたDBエリア名です。DBエリア名 = "aa....aa"  
It is a reserved DB area name. DB area = "aa....aa" (E) (1) (NOS)
```

DB エリア名に、予約された DB エリア名と同一の名称が指定されています。

aa....aa : DB エリア名

(S)処理を続行します。

(O)予約された DB エリア名を利用しないように修正してください。DB エリア名に指定できる文字列については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の XDB サービス定義の eexdbarea オペランドの説明を参照してください。

【対策】 なし。

#### KFSB96273-E

```
作業表用DBエリアが複数定義されました。  
The DB area for the work table has already been defined. (E) (1) (NOS)
```

作業表用 DB エリアが複数定義されました。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 作業表用 DB エリアは一つしか定義できません。DB エリア情報の定義を見直してください。

なお、同じ名称の作業表用 DB エリアを複数定義した場合は、定義解析の仕様によって最初に定義した作業表用 DB エリアだけが有効となるため、このメッセージは出力されません。

#### KFSB96274-E

作業表用DBエリアまたはデータ用DBエリアが定義されていません。

The DB area for the work table or for the data is not defined. (E) (1) (NOS)

作業表用 DB エリアまたは表用 DB エリアが定義されていません。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 作業表用 DB エリアを定義していなかった場合は、作業表用 DB エリアを一つだけ定義してください。また、表用 DB エリアを定義していなかった場合は、DB エリア種別が DATA である表用 DB エリアを一つ以上定義してください。

#### KFSB96275-W

DB エリア"aa....aa"のページ長が 2048 の倍数ではありません。bb....bb に切り上げられます。

The page size for the DB area "aa....aa" will be raised to bb....bb because the page size was not a multiple of 2048. (E) (4) (NOS)

ページサイズの定義値が 2048 の倍数でなかったため、2048 の倍数に切り上げます。

aa....aa : DB エリア名

bb....bb : 切り上げたあとのページサイズ (単位: バイト)

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** ページサイズの定義値には 2048 の倍数を指定してください。

#### KFSB96276-E

DB エリアの数が上限に達しています。

The maximum number of DB areas has been reached. (E) (1) (NOS)

DB エリアの定義数が上限を超えました。



(S)処理を続行します。

(O)OpenTPI 管理者に連絡してください。

**【対策】** DB エリア情報の指定では、作業表用 DB エリアは 1 個、表用 DB エリアとインデクス用 DB エリアの総数は 1014 個までしか定義できません。DB エリア情報の指定を見直してください。

## KFSB96277-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb

The command format is incorrect. command name = aa....aa, reason code = bb (E) (1)  
(NOS)

コマンドの形式に誤りがあったため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb** : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を終了します。

(O)正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
01	オプションフラグに不正があります。	オプションフラグの過不足や誤りを修正してください。
02	必要なフラグ引数がありません。	フラグ引数が必要なオプションフラグに、フラグ引数を指定してください。
03	引数に不正があります。	コマンド引数の誤りを修正してください。
04	引数の個数が多過ぎます。	余分なコマンド引数を削除してください。

## KFSB96278-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb, 理由コード = cccc

The flag argument is invalid. Command name = aa....aa, option = bb, reason code = cccc  
(E) (1) (NOS)

コマンドのフラグ引数の指定が不正なため、処理を中止しました。

**aa....aa** : 該当するコマンド名

**bb** : オプション

cccc：理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を終了します。

(O)正しいフラグ引数を指定して、コマンドを再実行してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	フラグ引数に指定した内容が不正です。	フラグ引数の誤りを修正してください。
0002	フラグ引数の値が範囲外です。	フラグ引数の値を範囲内で指定してください。
0003	フラグ引数の個数が上限を超えています。	フラグ引数の個数を少なくしてください。

## KFSB96279-E

DB エリア名に指定できない文字が使用されています。DB エリア名="aa....aa"

The DB area name is specified incorrectly. DB area = "aa....aa" (E) (1) (NOS)

DB エリア名に指定できない文字が使用されています。

aa....aa：DB エリア名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】正しい DB エリア名に修正してください。DB エリア名に指定できる文字列については、マニュアル「TP1/EE/Extended Data Cache 使用の手引」の XDB サービス定義の eexdbarea オペランドの説明を参照してください。

## KFSB96280-E

TP1/EE/XDB コマンドを実行するためのメモリが不足しています。メモリ種別=aaaa, 要求サイズ=bb....bb

Memory to execute TP1/EE/XDB command is insufficient. memory type = aaaa, request size = bb....bb (E) (1) (NOS)

XDB のコマンドを実行するために必要なメモリの確保に失敗しました。

aaaa：不足しているメモリの種類

HEAP：ヒープ領域が不足しています。

bb....bb：取得しようとしたメモリ領域のサイズ（単位：バイト）

(S)処理を続行します。

(O)次の方法で、使用できるメモリに余裕を持たせて、コマンドを再度実行してください。

1. プロセスに割り当てられるヒープ領域のサイズを大きくしてください。
2. 不要なプロセスがある場合には終了させてください。

【対策】 なし。

## KFSB96281-E

```
コマンドが失敗しました。 I n f o r m a t i o n : aa....aa  
An error occurred while processing a command. information = aa....aa    (E) (1) (NOS)
```

コマンド実行中にエラーが発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : 保守情報

(S)異常終了します。

(O)このメッセージの前に出力されているメッセージがある場合には、そのメッセージに従って対策してください。メッセージが出力されていない場合には、このメッセージの内容を、コアファイルが出力されていれば、そのコアファイルも保存し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 なし。

## KFSB96282-E

```
TP1/EE/XDBコマンド実行中にエラーが発生しました。SQLCODE = aa....aa, メッセージ  
テキスト = bb....bb  
An error has occurred during TP1/EE/XDB command execution. SQLCODE = aa....aa,  
message text = bb....bb    (E) (1) (NOS)
```

XDB のコマンド実行で、エラーが発生しました。

aa....aa : エラーの原因となった SQLCODE

bb....bb : エラーの原因となったメッセージテキスト

(S)処理を続行します。

(O)エラーの原因となった SQLCODE, およびメッセージテキストを基に原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

## KFSB96300-E

```
メモリが確保できません。コマンド名 = aa....aa, サイズ = bb....bb, 詳細コード = cc....cc
```

```
Memory cannot be reserved. command name = aa....aa, size = bb....bb, detail code = cc....cc (E+L) (1) (NOS)
```

メモリが確保できません。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 確保しようとしたメモリのサイズ (単位: バイト)

cc....cc : 保守情報

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 不要なプロセスがあれば削除し、再度実行してください。不要なプロセスがない場合は、メモリが不足しています。対策後、再度 OpenTP1 を起動してください。

## KFSB96301-E

```
コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb
```

```
The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bb (E+L) (1) (NOS)
```

コマンドの形式が不正です。

aa....aa : コマンド名

bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの入力が誤っていないか確認してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策し、再度実行してください。

理由コード	意味	対策
01	不正なオプションフラグを使用しています。	オプションフラグが誤っていないか見直してください。
02	必要なフラグ引数がありません。	フラグ引数が誤っていないか見直してください。
03	コマンド引数の設定数が制限数を超えています。	コマンド引数を少なくしてください。
04	コマンド引数の数が必須の数より少ないです。	必要なコマンド引数を指定してください。

## KFSB96302-E

```
コマンドのオプションが不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb, 理由コード = cc
```

```
The command options are invalid. command name = aa....aa, option = bb, reason code = cc (E+L) (1) (NOS)
```

コマンドのオプションが不正です。

aa....aa : コマンド名

bb : 設定誤りのオプション

cc : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの入力が誤っていないか確認してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策し、再度実行してください。

理由コード	意味	対策
01	必要なオプションフラグがありません。	オプションフラグが誤っていないか見直してください。
02	フラグ引数の設定値に誤りがあります。	フラグ引数が誤っていないか見直してください。
03	フラグ引数の設定値と、コマンド引数の設定数の組み合わせに矛盾があります。	コマンド引数の組み合わせを確認してください。

## KFSB96303-E

```
コマンドのオプションの組み合わせが不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション 1 = bb, オプション 2 = cc
```

```
The combination of command options is invalid. command name = aa....aa, option 1 = bb, option 2 = cc (E+L) (1) (NOS)
```

コマンドのオプションの組み合わせが不正です。

aa....aa : コマンド名

bb : 組み合わせが不正なオプション 1

cc : 組み合わせが不正なオプション 2

(S)処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの入力が誤っていないか確認してください。

**【対策】** なし。

## KFSB96305-E

ファイルのヘッダ情報が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb, ファイル名 = cc....cc  
The file header information is invalid. command name = aa....aa, reason code = bb, file name = cc....cc (E+L) (1) (NOS)

ファイルのヘッダ情報が不正です。

aa....aa : コマンド名

bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの入力が誤っていないか確認してください。または、ファイルが正しいか確認してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策し、再度実行してください。

理由コード	意味	対策
01	設定したファイルにヘッダ情報がありません。	ファイルに誤りがないか確認してください。
02	設定したファイルが XDB トレース情報ファイルではありません。	ファイルに誤りがないか確認してください。
03	-r オプションで設定したラン ID のファイルではありません。	ラン ID が誤っていないか、ファイルに誤りがないか確認してください。

## KFSB96306-E

データブロックが不正です。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb, ファイル名 = cc....cc  
The data block is invalid. command name = aa....aa, detail code = bb....bb, file name = cc....cc (E+L) (1) (NOS)

データブロックが不正です。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 保守情報

cc....cc : ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)ファイルが正しいか確認してください。

【対策】 なし。

## KFSB96308-E

編集できないファイルタイプです。コマンド名 = aa....aa, コマンドバージョン = bb....bb, ファイル作成バージョン = cc....cc, ファイルタイプ = d, ファイル名 = ee....ee

This file type cannot be edited. command name = aa....aa, command version = bb....bb, file creation version = cc....cc, file type = d, file name = ee....ee (E+L) (1) (NOS)

編集できないファイルタイプです。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 実行したコマンドの XDB のバージョン

cc....cc : ファイルを作成した XDB のバージョン

d : ファイルタイプ

ee....ee : ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)XDB のバージョンを確認してください。表示したファイルタイプを編集できるバージョンで再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB96309-E

実行したコマンドのバージョンとファイル作成バージョンが不一致です。コマンド名 = aa....aa, コマンドバージョン = bb....bb, ファイル作成バージョン = cc....cc, ファイル名 = dd....dd

The version of the executed command does not match the file creation version. command name = aa....aa, command version = bb....bb, file creation version = cc....cc, file name = dd....dd (E+L) (1) (NOS)

実行したコマンドの TP1/EE バージョンとファイル作成時の TP1/EE バージョンが一致していないため編集できません。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 実行したコマンドの TP1/EE のバージョン

cc....cc : ファイルを作成した TP1/EE のバージョン

dd....dd : ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)ファイルを作成した TP1/EE のバージョンと同じバージョンの TP1/EE でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB96310-E

ファイルのオープン処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb, ファイル名 = cc....cc

Failure occurred for file open processing. command name = aa....aa, reason code = bb....bb, file name = cc....cc (E+L) (1) (NOS)

ファイルのオープン処理で障害が発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って原因を取り除いてください。

【対策】 理由コード一覧を見て対策し、再度実行してください。

理由コード	意味	対策
01	指定されたファイルが存在しません。	存在するファイルを指定してください。
02	入出力エラーが発生しました。	ディスクが壊れていないか確認してください。

## KFSB96311-E

ファイルからのリード処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb

Failure occurred for read processing from the file. command name = aa....aa, file name = bb....bb (E+L) (1) (NOS)

ファイルからの読み出し処理で障害が発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って原因を取り除いてください。



【対策】 なし。

#### KFSB96312-E

ファイルへのライト処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
Failure occurred for write processing to the file. command name = aa....aa, file name =  
bb....bb (E+L) (1) (NOS)

ファイルへの書き込み処理で障害が発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

#### KFSB96313-E

ファイルのクローズ処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
Failure occurred for file close processing. command name = aa....aa, file name = bb....bb  
(E+L) (1) (NOS)

ファイルのクローズ処理で障害が発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

#### KFSB96314-E

ファイルポインタの移動処理で障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, ファイル名 = bb....bb  
Failure occurred for file pointer move processing. command name = aa....aa, file name =  
bb....bb (E+L) (1) (NOS)

ファイルポインタの移動処理で障害が発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb...bb : ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)直前にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って原因を取り除いてください。

【対策】 なし。

#### KFSB96316-E

```
指定したファイルに編集するデータがありません。コマンド名 = aa...aa, ファイル名 = bb...bb  
The specified file contains no data to be edited. command name = aa...aa, file name =  
bb...bb (E+L) (1) (NOS)
```

指定したファイルに編集するデータがありません。

aa...aa : コマンド名

bb...bb : ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)コマンドのパラメタの入力が誤っていないか確認してください。または、ファイルが正しいか確認してください。

【対策】 なし。

#### KFSB96317-E

```
データの編集途中でファイルの終わりに達しました。コマンド名 = aa...aa, ファイル名 = bb...bb  
The end of the file was reached during data modification. command name = aa...aa, file name  
= bb...bb (E+L) (1) (NOS)
```

データの編集途中でファイルの終わりに達しました。

aa...aa : コマンド名

bb...bb : ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)ファイルが正しいか確認してください。

【対策】 なし。

## KFSB96325-I

強制出力コマンドが成功しました。コマンド名 = aa....aa, スワップ元ファイル名 = bb....bb, スワップ先ファイル名 = cc....cc

The forced output command was successful. command name = aa....aa, swap source file name = bb....bb, swap destination file name = cc....cc (S+L) (1) (NOS)

強制出力コマンドが成功しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : スワップ元ファイル名

cc....cc : スワップ先ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB96326-E

強制出力コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb, 詳細コード = cc

The forced output command failed. command name = aa....aa, reason code = bb, detail code = cc (E+L) (1) (NOS)

強制出力コマンドが失敗しました。

aa....aa : コマンド名

bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc : 保守情報

(S)処理を終了します。

(O)理由コードに示した原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策し、再度実行してください。

理由コード	意味	対策
01	入出力エラーが発生しました。	ディスクが壊れていないか確認してください。
02	タイミングエラー (コマンド処理中) が発生しました。	ほかに TP1/EE のコマンドが実行されていないか確認してください。
03	機能停止中です。	なし。

理由コード	意味	対策
04	ファイルに出力する情報がないのでスワップしません。	なし。
09	XDB トレース機能縮退中です。	機能縮退の原因を取り除いてから eetrbrcvr コマンドで縮退状態を解除してください。
99	予期しないエラーです。	保守員に連絡してください。

## KFSB96327-E

強制出力コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

The forced output command failed. command name = aa....aa, reason code = bb....bb (E+L) (1) (NOS)

強制出力コマンドが失敗しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

【対策】理由コード一覧を見て対策し、再度実行してください。

理由コード	意味	対策
03	送信データの取得に失敗しました。	保守員に連絡してください。
04	データの送信に失敗しました。	TP1/EE との通信障害の原因を調査し、取り除いてください。
05	応答データの取得に失敗しました。	コマンドが実行されている可能性があります。TP1/EE のメッセージログファイルを参照してください。
06	応答データが正しく格納されていません。	保守員に連絡してください。
07	データ送信に失敗しました。	TP1/EE が起動しているか、または、サービスグループ名が誤っていないかを確認してください。

## KFSB96328-E

コマンド実行中に内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bb

An internal conflict occurred during command execution. command name = aa....aa, detail code = bb (E+L) (1) (NOS)

コマンド実行中に内部矛盾が発生しました。

aa....aa : コマンド名

bb : 保守情報

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

【対策】 なし。

## KFSB96331-I

使用方法 : eexdbed [-e 編集種別] [-t [開始時刻],[終了時刻]] [-r ラン I D] [-s {sql}] [-x 下限値,上限値] [-v サービス名[,サービス名...]] XDB トレースファイル名 [XDB トレースファイル名...]

Usage: eexdbed [-e <modification-type>] [-t [<start-time>],[<end-time>]] [-r <run-id>] [-s {sql}] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-v <service-name>[,<service-name>...]] <xdb-trace-file-name> [<xdb-trace-file-name>...] (S+L) (1) (NOS)

eexdbed コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB96335-I

使用方法 : eexdbfput -g サービスグループ名

Usage: eexdbfput -g <service-group-name> (S+L) (1) (NOS)

eexdbfput コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB96344-I

使用方法 : eexdbdump [-r ラン I D] [-s {sql}] [-x 下限値,上限値] [-v サービス名[,サービス名...]] ファイル名

Usage: eexdbdump [-r <run-id>] [-s {sql}] [-x <minimum-value>,<maximum-value>] [-v <service-name>[,<service-name>...]] <file-name> (S+L) (1) (NOS)

eexdbdump コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

## KFSB97001-E

内部関数でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 関数名 = bb....bb, ファイル名 = cc....cc, 行番号 = dd....dd, リターン値 = ee....ee

An error occurred in an internal function. command name = aa....aa, function name = bb....bb, file name = cc....cc, line number = dd....dd, return value = ee....ee (E) (NOS)

内部関数でエラーが発生したため、コマンド名 aa....aa が失敗しました。

aa....aa : 入力コマンド名

bb....bb : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

dd....dd : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

表示できない場合は、\*\*....\*\*を表示します。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)MCP トレースファイル, syslog, メッセージログを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 なし。

## KFSB97002-E

OpenTP1 の関数でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 論理端末名 = bb....bb, 送受信種別 = cccc, 関数名 = dd....dd, リターン値 = ee....ee

An error occurred in an OpenTP1 function. command name = aa....aa, logical terminal name = bb....bb, sending or receiving = cccc, function name = dd....dd, return value = ee....ee (E) (NOS)

OpenTP1 の関数でエラーが発生したため、コマンド名 aa....aa が失敗しました。

aa....aa : 入力コマンド名

bb....bb : 論理端末名

cccc：論理端末の送受信種別

SEND：送信用論理端末

RECV：受信用論理端末

dd....dd：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

ee....ee：TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

表示できない場合は、\*\*....\*\*を表示します。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 なし。

### KFSB97003-E

コマンドの引数の指定に誤りがあります。aa....aa

A command argument is incorrectly specified. aa....aa (E) (NOS)

コマンドの引数の指定に誤りがあるため、コマンド名 aa....aa が失敗しました。

aa....aa：入力コマンド名

(S)コマンド処理を中止します。

(O)コマンドの引数を確認し、引数を訂正し、再度コマンドを入力してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

### KFSB97004-E

オプションの指定に誤りがあります。

An option is incorrectly specified. (E) (NOS)

コマンドの引数の指定に誤りがあります。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)コマンドのオプション名を確認し、オプション名を訂正し、再度コマンドを入力してください。

【対策】 なし。

### KFSB97005-E

オプションの引数の指定に誤りがあります。

An option argument is incorrectly specified. (E) (NOS)

オプションの引数の指定に誤りがあります。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)コマンドのオプションの引数を確認し、引数を訂正し、再度コマンドを入力してください。

【対策】 なし。

#### KFSB97007-E

コマンドの使用 방법에誤りがあります。aa....aa

The command contains a usage error. aa....aa (E) (NOS)

コマンドの使用 방법에誤りがあります。

aa....aa : 入力コマンド名

(S)コマンド処理を中止します。

(O)コマンドの使用方法を確認し、再度コマンドを入力してください。

【対策】 なし。

#### KFSB97022-I

使用方法 : eeatmtbl -g サービスグループ名 -o 出力ファイル名

Usage: eeatmtbl -g <service-group-name> -o <output-file-name> (S) (NOS)

eeatmtbl の使用方法を示します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)コマンドフォーマットを確認してください。

【対策】 なし。

#### KFSB97023-I

テーブル情報を取得しました。サービスグループ名 = aa....aa, テーブル情報出力ファイル = bb....bb

Table information was acquired. service group name = aa....aa, table information output file = bb....bb (S) (NOS)

テーブル情報を取得しました。

aa....aa : サービスグループ名

bb....bb : テーブル情報出力ファイル名



(S)コマンド処理を正常終了します。

(O) なし。

【対策】 なし。

#### KFSB97024-E

```
テーブル情報取得に失敗しました。サービスグループ名 = aa....aa  
Acquisition of table information failed. service group name = aa....aa (E) (NOS)
```

テーブル情報取得に失敗しました。

aa....aa : サービスグループ名

(S)コマンド処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 syslog, メッセージログのメッセージに従って障害の原因を対策したあと, 再度コマンドを入力してください。

#### KFSB97025-I

```
使用方法 : eeatmrel -g サービスグループ名 [-f]  
Usage: eeatmrel -g <service-group-name> [-f] (S) (NOS)
```

eeatmrel の使用方法を示します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)コマンドフォーマットを確認してください。

【対策】 なし。

#### KFSB97027-I

```
使用方法 : eeatmlspvc -g サービスグループ名  
Usage: eeatmlspvc -g <service-group-name> (S) (NOS)
```

eeatmlspvc の使用方法を示します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)コマンドフォーマットを確認してください。

【対策】 なし。

## KFSB97028-I

使用方法：eeatmchg -g サービスグループ名 -m {yes|no}

Usage: eeatmchg -g <service-group-name> -m {yes|no} (S) (NOS)

eeatmchg の使用方法を示します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)コマンドフォーマットを確認してください。

[対策] なし。

## KFSB97029-I

テーブル状態を変更しました。変更内容 = aa....aa, 変更前 = bb....bb, 変更後 = cc....cc

Table status was changed. content changed = aa....aa, before change = bb....bb, after change = cc....cc (S) (NOS)

aa....aa : 変更内容

TPa1 : PVC 状態監視依頼送信間隔

TPa3 : PVC 時刻取得結果待ちタイマ

TPa4 : PVC 切断結果待ちタイマ

TPa5 : PVC 時刻取得依頼送信間隔タイマ

NPa1 : PVC 状態監視結果カウンタ

NPa2 : PVC 時刻取得処理の時刻補正規定値オーバカウンタ

NPa3 : PVC 時刻取得結果応答なしカウンタ

NPa4 : PVC 切断結果応答なしカウンタ

trans\_time : PVC 時刻取得伝送遅延時間許容値

time\_stamp\_check\_time : タイムスタンプチェック誤差許容値

bb....bb : 変更前パラメータ

cc....cc : 変更後パラメータ

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

[対策] なし。

## KFSB97030-I

タイムスタンプチェックの抑止を解除します。

Time stamp checking will no longer be suppressed. (S) (NOS)

タイムスタンプチェックの抑止を解除します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB97031-I

タイムスタンプチェックは抑止解除済みです。

Time stamp checking is no longer being suppressed. (S) (NOS)

タイムスタンプチェックは抑止解除済みです。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB97032-I

タイムスタンプチェックを抑止します。

Time stamp checking will be suppressed. (S) (NOS)

タイムスタンプチェックを抑止します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

#### KFSB97033-I

タイムスタンプチェックは抑止済みです。

Time stamp checking is being suppressed. (S) (NOS)

タイムスタンプチェックは抑止済みです。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB97034-I

KFSB87007-I メッセージ出力の抑止を解除します。

Output of the KFSB87007-I message will no longer be suppressed. (S) (NOS)

KFSB87007-I メッセージ出力の抑止を解除します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB97035-I

KFSB87007-I メッセージ出力は抑止解除済みです。

Output of the KFSB87007-I message is no longer being suppressed. (S) (NOS)

KFSB87007-I メッセージ出力は抑止解除済みです。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB97036-I

KFSB87007-I メッセージ出力を抑止します。

Output of the KFSB87007-I message will be suppressed. (S) (NOS)

KFSB87007-I メッセージ出力を抑止します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB97037-I

KFSB87007-I メッセージ出力は抑止済みです。

Output of the KFSB87007-I message is being suppressed. (S) (NOS)

KFSB87007-I メッセージ出力は抑止済みです。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)なし。

【対策】なし。

## KFSB97038-I

使用方法：eeatmwtm -g サービスグループ名 [-d] [{-v|-s|-r|-l 回線番号}] -o テーブル先頭からのオフセット -w 変更情報

Usage: eeatmwtm -g <service-group-name> [-d] [{-v|-s|-r|-l <line-number>}] -o <offset-from-top-of-table> -w <changed-information> (S) (NOS)

eeatmwtm の使用方法を示します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)コマンドフォーマットを確認してください。

【対策】なし。

## KFSB97039-E

変更範囲がテーブル長を超えています。

The change range exceeds the length of the table. (E) (NOS)

指定された、テーブル先頭からのオフセット値と変更情報のサイズの合計が、テーブル長より大きいため変更できません。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)テーブル先頭からのオフセット値と変更情報の値を確認してください。

【対策】なし。

## KFSB97040-E

領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb

Area allocation failed. command name = aa....aa, request size = bb....bb (E) (NOS)

コマンドの処理で、必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

aa....aa：該当するコマンド名

bb....bb：確保に失敗した領域の要求サイズ（単位：バイト）

(S)コマンド処理を中止します。

(O)しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB97041-E

OpenTP1 の関数でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cccc, リターン値 = dd....dd

An error occurred in an OpenTP1 function. command name = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cccc, return value = dd....dd (E) (NOS)

OpenTP1 の関数でエラーが発生しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 保守情報

cccc : 保守情報

dd....dd : 関数のリターン値

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 関数のリターン値を見て対策してください。

リターン値	意味	対策
05009	該当するコマンドの-g オプションのフラグ引数に指定されたサービスグループ名が不正です。または, TP1/EE プロセスが起動されていないなどの障害が発生しています。	正しいサービスグループ名を指定して, コマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は, TP1/EE を起動して, コマンドを再実行してください。
05060		
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB97042-E

通信障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

A communication error has occurred. command name = aa....aa, reason code = bb....bb (E) (NOS)

通信障害が発生しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 保守情報

(S)コマンド処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB97101-E

内部関数でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 関数名 = bb....bb, ファイル名 = cc....cc, 行番号 = dd....dd, リターン値 = ee....ee

An error occurred in an internal function. command name = aa....aa, function name = bb....bb, file name = cc....cc, line number = dd....dd, return value = ee....ee (E) (NOS)

内部関数でエラーが発生したため、コマンドが失敗しました。

aa....aa : 入力コマンド名

bb....bb : 保守情報

cc....cc : 保守情報

dd....dd : 保守情報

ee....ee : 保守情報

表示できない場合は、\*\*....\*\*を表示します。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)MCP トレースファイル, syslog, およびメッセージログファイルを取得し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

## KFSB97102-E

OpenTP1 の関数でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 論理端末名 = bb....bb, コネクション ID = cc....cc, 関数名 = dd....dd, リターン値 = ee....ee

An error occurred in an OpenTP1 function. command name = aa....aa, logical terminal name = bb....bb, connection ID = cc....cc, function name = dd....dd, return value = ee....ee (E) (NOS)

OpenTP1 の関数でエラーが発生したため、コマンドが失敗しました。

aa....aa : 入力コマンド名

bb....bb : 論理端末名

cc....cc : コネクション ID

dd....dd : OpenTP1 の関数名

ee....ee : OpenTP1 の関数のリターン値

表示できない場合は, \*\*...\*\*を表示します。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 表示された関数のリターン値に従って対策してください。

#### KFSB97103-E

コマンドの引数の指定に誤りがあります。aa....aa

A command argument is incorrectly specified. aa....aa (E) (NOS)

aa....aa : コマンド名

(S)コマンド処理を中止します。

(O)正しいコマンドの引数を指定して, コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB97104-E

オプションの指定に誤りがあります。

An option is incorrectly specified. (E) (NOS)

(S)コマンド処理を中止します。

(O)正しいコマンドのオプション名を指定して, コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB97105-E

オプションの引数の指定に誤りがあります。

An option argument is incorrectly specified. (E) (NOS)

(S)コマンド処理を中止します。

(O)正しいコマンドのオプションの引数を指定して, コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB97106-E

コマンドの使用方法に誤りがあります。aa....aa



The command contains a usage error. aa....aa (E) (NOS)

aa....aa : コマンド名

(S)コマンド処理を中止します。

(O)コマンドの使用方法を確認し、コマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB97107-I

使用方法 : eezrctl -g サービスグループ名 [{-s|-c コネクション ID|-l 論理端末名|-p 論理パス名}] -o 出力ファイル名

Usage: eezrctl -g <service-group-name> [{-s|-c <connection-ID>|-l <logical-terminal-name>|-p <logical-path-name>}] -o <output-file-name> (S) (NOS)

eezrctl コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB97108-I

テーブル情報を取得しました。サービスグループ名 = aa....aa, テーブル情報出力ファイル = bb....bb  
Table information was acquired. service group name = aa....aa, table information output file = bb....bb (S) (NOS)

aa....aa : サービスグループ名

bb....bb : テーブル情報出力ファイル名

(S)コマンド処理を正常終了します。

(O)なし。

【対策】 なし。

#### KFSB97109-E

テーブル情報取得に失敗しました。サービスグループ名 = aa....aa  
Acquisition of table information failed. service group name = aa....aa (E) (NOS)

aa....aa : サービスグループ名

(S)コマンド処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** syslog, メッセージログファイルのメッセージに従って障害の原因を対策したあと, コマンドを再実行してください。

## KFSB97118-I

使用方法 : eezrcls -g サービスグループ名 [{-c コネクション ID|-l 論理端末名|-p 論理パス名}]

Usage: eezrcls -g <service-group-name> [{-c <connection-ID>|-l <logical-terminal-name>|-p <logical-path-name>}] (S) (NOS)

eezrcls コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合, またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンド処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は, 正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB97140-E

領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb

Area allocation failed. command name = aa....aa, request size = bb....bb (E) (NOS)

コマンドの処理で, 必要なメモリの確保に失敗したため, 処理を中止しました。

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S)コマンド処理を中止します。

(O)しばらく待ってから, コマンドを再実行してください。このメッセージが繰り返し出力される場合は, OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

## KFSB97141-E

OpenTP1 の関数でエラーが発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード 1 = bb....bb, 詳細コード 2 = cccc, リターン値 = dd....dd

An error occurred in an OpenTP1 function. command name = aa....aa, detail code 1 = bb....bb, detail code 2 = cccc, return value = dd....dd (E) (NOS)

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 保守情報

cccc : 保守情報

dd....dd : 関数のリターン値

表示できない場合は, \*\*....\*\*を表示します。

関数のリターン値の意味と対策を表に示します。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 関数のリターン値を見て対策してください。

リターン値	意味	対策
05009	該当するコマンドの-g オプションのフラグ引数に指定されたサービスグループ名が不正です。または, TP1/EE プロセスが起動していないなどの障害が発生しています。	正しいサービスグループ名を指定して, コマンドを再実行してください。 TP1/EE プロセスが起動していない場合は, TP1/EE プロセスを起動してコマンドを再実行してください。
05060		
その他	予期しない障害が発生しました。	保守員に連絡してください。

## KFSB97142-E

通信障害が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bb....bb

A communication error has occurred. command name = aa....aa, reason code = bb....bb (E) (NOS)

aa....aa : 該当するコマンド名

bb....bb : 保守情報

(S)コマンド処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。

## KFSB97143-E

指定されたテーブルは存在しません。サービスグループ名 = aa....aa

The specified table does not exist. service group name = aa....aa (E) (NOS)

aa....aa : サービスグループ名

(S)コマンド処理を中止します。

(O)該当するコマンドの-c オプション, -l オプション, -p オプション, -b オプション, -r オプションのフラグ引数に指定された, コネクション ID, 論理端末名, 論理パス名の一部またはすべてが不正です。

**【対策】** 該当するコマンドに正しいコネクション ID, 論理端末名, 論理パス名を指定して, コマンドを再実行してください。

## KFSB97144-W

テーブル情報取得に一部失敗しました。サービスグループ名 = aa....aa, テーブル情報出力ファイル = bb....bb

Some table information could not be obtained. service group name = aa....aa, table information output file = bb....bb (E) (NOS)

aa....aa : サービスグループ名

bb....bb : テーブル情報出力ファイル名

(S)テーブル情報出力ファイルにテーブル情報を一部出力し, コマンド処理を中止します。

(O)必要に応じて原因を取り除き, コマンドを再実行してください。

**【対策】** 該当するコマンドに正しいコネクション ID, 論理端末名, 論理パス名を指定し, コマンドを再実行してください。指定のコネクション ID, 論理端末名, 論理パス名が正しい場合, またはコネクション ID, 論理端末名, 論理パス名を指定していない場合は, syslog, およびメッセージログファイルを取得して OpenTP1 管理者に連絡してください。

## KFSB98001-E

コマンドの形式が不正です。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb

The command format is invalid. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E) (NOS)

コマンドの引数に誤りがあったため, 処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 理由コード

- 0001 : 不正なオプションフラグを使用しています。
- 0002 : 必要なフラグ引数がありません。
- 0003 : 必要なオプションフラグがありません。

0004：コマンド引数の個数が多過ぎます。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しい引数を設定してコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB98002-E

フラグ引数が不正です。コマンド名 = aa....aa, オプション = bb, 理由コード = cccc  
The flag argument is invalid. command name = aa....aa, option = bb, reason code = cccc  
(E) (NOS)

フラグ引数に誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa：コマンド名

bb：オプション名

cccc：理由コード

0001：フラグ引数の長さが不正です。

0002：フラグ引数に設定できない文字を設定しています。

0003：設定された値または名称が見つかりません。

0004：設定できない値が設定されています。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいフラグ引数を設定してコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

#### KFSB98004-E

オプションの組み合わせが不正です。コマンド名 = aa....aa  
The combination of options is invalid. command name = aa....aa (E) (NOS)

オプションの組み合わせに誤りがあったため、処理を中止しました。

aa....aa：コマンド名

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)正しいオプションを設定してコマンドを再実行してください。

【対策】なし。

## KFSB98005-E

コマンドが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb, 詳細コード = cc....cc  
Command execution has failed. command name = aa....aa, reason code = bbbb, detail code = cc....cc (E) (NOS)

コマンド実行中にエラーが発生したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

cc....cc : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理を途中で中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0001	データの通信に失敗しました。	TP1/EE との通信障害の原因を調査し、取り除いてください。
0002	TP1/EE プロセス側でエラーが発生しました。	TP1/EE のメッセージログファイルを調査してください。TP1/EE のメッセージログファイルにメッセージが出力されていない場合は、詳細コードを保守員に連絡してください。
0003	設定されたサービスグループ名またはサービス名が見つかりません。	正しいサービスグループ名またはサービス名を設定して、コマンドを再実行してください。TP1/EE が起動していない場合は、TP1/EE の起動後にコマンドを再実行してください。
0004	出力キュー (OTQ) が定義されていません。または、eemchotqact コマンドの-v オプションに指定した出力キューはサービスグループレベルの閉塞中のため、サービスレベルの閉塞解除はできません。	送信先サービス関連定義の eemchsrdef 定義コマンドを指定しているか確認してください。または、eemchotqact コマンドでサービスグループレベルの閉塞解除を実行してください。
0005	出力キュー (OTQ) の終了監視中ではありません。	出力キューの終了監視中かどうか確認してください。
0006	実行系のサーバでは実行できません。	待機系のサーバでコマンドを実行してください。
0007	タイミングエラーです。	系切り替え処理中ではないか確認してください。

## KFSB98006-E

領域の確保に失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 要求サイズ = bb....bb

An attempt to allocate area has failed. command name = aa....aa, request size = bb....bb  
(E) (NOS)

コマンドの処理に必要なメモリの確保に失敗したため、処理を中止しました。

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 確保に失敗した領域の要求サイズ (単位: バイト)

(S) コマンドの処理をしないで終了します。

(O) しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。再発する場合、OpenTP1 管理者へ連絡してください。

【対策】 OS 全体のメモリ使用状況を確認してください。

### KFSB98020-I

全ての OTQ を閉塞しました。  
Shut down all OTQ. (S) (NOS)

すべての出力キュー (OTQ) を閉塞しました。

(S) すべての出力キューを閉塞します。

(O) なし。

【対策】 なし。

### KFSB98021-I

サービスグループ下の全サービスに対応する OTQ を閉塞しました。サービスグループ名 = aa....aa  
Shut down OTQ for all services under the service group. service group name = aa....aa (S)  
(NOS)

設定したサービスグループ下の全サービスに対応する出力キュー (OTQ) を閉塞しました。

aa....aa : サービスグループ名

(S) サービスグループ下の全サービスに対応する出力キューを閉塞します。

(O) なし。

【対策】 なし。

### KFSB98022-I

サービスに対応する OTQ を閉塞しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb

Shut down OTQ for the service. service group name = aa....aa, service name = bb....bb (S)  
(NOS)

設定したサービスに対応する出力キュー (OTQ) を閉塞しました。

aa....aa : サービスグループ名

bb....bb : サービス名

(S) サービスに対応する出力キューを閉塞します。

(O) なし。

【対策】 なし。

#### KFSB98023-I

全てのOTQの閉塞を解除しました。  
Cancelled all OTQ shutdown. (S) (NOS)

すべての出力キュー (OTQ) の閉塞を解除しました。

(S) すべての出力キューの閉塞を解除します。

(O) なし。

【対策】 なし。

#### KFSB98024-I

サービスグループ下の全サービスに対応するOTQの閉塞を解除しました。サービスグループ名 = aa....aa  
Cancelled the OTQ shutdown for all services under the service group. service group name = aa....aa (S) (NOS)

設定したサービスグループ下の全サービスに対応する出力キュー (OTQ) の閉塞を解除しました。

aa....aa : サービスグループ名

(S) サービスグループ下の全サービスに対応する出力キューの閉塞を解除します。

(O) なし。

【対策】 なし。



## KFSB98025-I

サービスに対応するOTQの閉塞を解除しました。サービスグループ名 = aa....aa, サービス名 = bb....bb

Cancelled the OTQ shutdown for the service. service group name = aa....aa, service name = bb....bb (S) (NOS)

設定したサービスに対応する出力キュー (OTQ) の閉塞を解除しました。

aa....aa : サービスグループ名

bb....bb : サービス名

(S) サービスに対応する出力キューの閉塞を解除します。

(O) なし。

【対策】 なし。

## KFSB98026-I

未送信メッセージのスキップが成功しました。コマンド名 = aa....aa

Unsent messages have been successfully skipped. command name = aa....aa (S) (NOS)

未送信メッセージのスキップが成功しました。

aa....aa : コマンド名

(S) なし。

(O) なし。

【対策】 なし。

## KFSB98030-E

OTQの閉塞に失敗しました。理由コード = aa....aa

Failed to shut down OTQ. reason code = aa....aa (E) (NOS)

出力キュー (OTQ) の閉塞に失敗しました。

aa....aa : 理由コード

0001 : 出力キューの閉塞処理中, または出力キューの閉塞解除処理中です。

(S) 出力キューを閉塞しないで終了します。

(O) OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** eemchotqls コマンドで出力キューが閉塞解除状態か確認してください。閉塞解除状態の場合は、しばらく待ってからコマンドを再実行してください。

## KFSB98032-E

```
OTQの閉塞解除に失敗しました。理由コード = aa....aa  
Failed to cancel OTQ shutdown. reason code = aa....aa (E) (NOS)
```

出力キュー (OTQ) の閉塞解除に失敗しました。

**aa....aa** : 理由コード

0001 : 出力キューの閉塞処理中, または出力キューの閉塞解除処理中です。

0002 : 出力キューの閉塞解除ができる状態ではありません。

**(S)**出力キューの閉塞を解除しないで終了します。

**(O)**OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** 理由コードに従って対策してください。

理由コードが 0001 の場合

eemchotqls コマンドで出力キューが閉塞中か確認してください。閉塞中の場合は、しばらく待ってからコマンドを再実行してください。

理由コードが 0002 の場合

eemchotqls コマンドで出力キューの状態を確認し、閉塞中となっている送信先のサービスグループの状態 (起動状態) を確認してください。障害を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

## KFSB98033-E

```
一部のサービスグループでOTQの閉塞解除に失敗しました。  
Failed to cancel OTQ shutdown in some service groups. (E) (NOS)
```

一部のサービスグループで出力キュー (OTQ) の閉塞解除に失敗しました。

**(S)**出力キューの閉塞を解除しないで終了します。

**(O)**OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** eemchotqls コマンドで出力キューの状態を確認し、閉塞中となっている送信先のサービスグループの状態 (起動状態) を確認してください。障害を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

## KFSB98034-E

```
未送信メッセージのスキップが失敗しました。コマンド名 = aa....aa, 理由コード = bbbb  
Failed to skip unsend messages. command name = aa....aa, reason code = bbbb (E) (NOS)
```

未送信メッセージのスキップが失敗しました。

aa....aa : コマンド名

bbbb : 理由コード

理由コードの意味と対策を表に示します。

(S)なし。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**[対策]** 理由コード一覧を見て対策してください。

理由コード	意味	対策
0002	タイミングエラーです。	出力キュー (OTQ) が閉塞状態か確認してください。閉塞状態の場合は、しばらく待ってからコマンドを再実行してください。
0005	CL サーバの待機系でコマンドを実行しました。	CL サーバ実行系のでコマンドを実行してください。

## KFSB98050-I

使用方法: eemchotqdict -g サービスグループ名 [{-m サービスグループ名 -v サービス名 | -m サービスグループ名}]

Usage: eemchotqdict -g <service-group-name> [{-m <service-group-name> -v <service-name> | -m <service-group-name>}] (S) (NOS)

eemchotqdict コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**[対策]** なし。

## KFSB98051-I

使用方法: eemchotqact -g サービスグループ名 [{-m サービスグループ名 -v サービス名 | -m サービスグループ名}]

Usage: eemchotqact -g <service-group-name> [{-m <service-group-name> -v <service-name> | -m <service-group-name>}] (S) (NOS)

eemchotqact コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB98052-I

```
使用方法： eemchotqskip -g サービスグループ名 -m サービスグループ名 -v サービス名 -s {all | one | num} [-n OTQ 通番]
```

```
Usage: eemchotqskip -g <service-group-name> -m <service-group-name> -v <service-name> -s {all | one | num} [-n <OTQ number>] (S) (NOS)
```

eemchotqskip コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB98053-I

```
使用方法： eemchotqls -g サービスグループ名 [-m サービスグループ名] -s {act | dct | all}
```

```
Usage: eemchotqls -g <service-group-name> [-m <service-group-name>] -s {act | dct | all} (S) (NOS)
```

eemchotqls コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

【対策】 なし。

#### KFSB98054-I

```
使用方法： eemchotqend -g サービスグループ名
```

```
Usage: eemchotqend -g <service-group-name> (S) (NOS)
```

eemchotqend コマンドの使用方法を示します。コマンドヘルプを要求した場合、またはコマンドの形式が誤っている場合に出力します。

(S)コマンドの処理をしないで終了します。

(O)コマンドの形式に誤りがある場合は、正しい形式でコマンドを再実行してください。

**【対策】** なし。

## KFSB98099-E

内部矛盾が発生しました。コマンド名 = aa....aa, 詳細コード = bb....bb

An internal conflict has occurred. command name = aa....aa, detail code = bb....bb (E)  
(NOS)

コマンド実行中に予期しない障害が発生したため、処理を中止しました。

**aa....aa** : コマンド名

**bb....bb** : TP1/EE がトラブルシュートで使用する情報

(S)コマンドの処理を途中で中止して終了します。

(O)OpenTP1 管理者へ連絡してください。

**【対策】** 保守員に連絡してください。コマンドプロセスが強制停止した場合は、コアダンプを保守員に渡してください。

# 付録

## 付録 A 中央処理通番

中央処理通番とは、TP1/EE がトランザクションを起動するときに、トランザクション単位に割り当てる通番です。

中央処理通番の範囲は 16 進数で 00000001 ~ ffffffff です。ラップした場合は、再度 00000001 から始まります。

中央処理通番には、次の種類があります。

- カレント中央処理通番  
該当するトランザクションに割り当てられた中央処理通番です。
- オリジナル中央処理通番  
トランザクションから発生したトランザクションの、トランザクション登録元のカレント中央処理通番です。

トランザクションに割り当てられる中央処理通番の例を次の表に示します。

表 A-1 トランザクションに割り当てられる中央処理通番

同期点	カレント中央処理通番*	オリジナル中央処理通番
トランザクション開始	1	0
コミット/ロールバック後 (1 回目)	2	1
コミット/ロールバック後 (2 回目)	3	1
コミット/ロールバック後 (3 回目)	4	1
コミット/ロールバック後 (4 回目)	5	1
コミット/ロールバック後 (5 回目)	6	1
コミット/ロールバック後 (6 回目)	7	1

(凡例)

コミット：ee\_trn\_chained\_commit 関数呼び出し

ロールバック：ee\_trn\_chained\_rollback 関数呼び出し

注※

カレント中央処理通番は、同期点ごとに変更されます。また、連番にならないことがあります。

## 付録 B 各バージョンの変更内容

各バージョンの変更内容を示します。

### 付録 B.1 変更内容 (3000-3-F53-60)

次の製品の変更内容 (3000-3-F53-60) を表に示します。

- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64) 07-89
- uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 02-03
- uCosminexus TP1/Financial Service Platform 01-09

#### 追加・変更内容

適用 OS に AIX V7.2 を追加した。

次のメッセージを追加した。

KFSB55784-E, KFSB65786-E, KFSB65787-E, KFSB65788-E, KFSB65789-E, KFSB82127-I, KFSB85652-I, KFSB85653-I, KFSB85715-I, KFSB85716-I, KFSB85782-I, KFSB85783-I, KFSB95206-I, KFSB95731-I, KFSB95732-I, KFSB95744-I, KFSB95745-E

次のメッセージを変更した。

KFSB40320-E, KFSB45780-E, KFSB55704-E, KFSB55712-E, KFSB60301-E, KFSB65606-E, KFSB65704-E, KFSB82111-I, KFSB85712-I, KFSB95571-I, KFSB95705-E, KFSB95712-E, KFSB95730-I, KFSB95741-E

### 付録 B.2 変更内容 (3000-3-F53-50)

次の製品の変更内容 (3000-3-F53-50) を表に示します。

- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64) 07-87
- uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 02-03
- uCosminexus TP1/Financial Service Platform 01-07

#### 追加・変更内容

次のメッセージを変更した。

KFSB50918-E, KFSB55651-E, KFSB55712-E, KFSB61817-E, KFSB65651-E

次の製品の変更内容 (3000-3-F53-50) を表に示します。

- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64) 07-86
- uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 02-03
- uCosminexus TP1/Financial Service Platform 01-06



#### 追加・変更内容

次のメッセージを追加した。

KFSB55414-E, KFSB95484-I, KFSB95485-I

次のメッセージを変更した。

KFSB45402-W, KFSB45403-W, KFSB45405-W, KFSB45407-W, KFSB50506-E, KFSB52113-E, KFSB52116-E, KFSB52118-E, KFSB52119-E, KFSB52121-E, KFSB52122-E, KFSB52128-E, KFSB52129-E, KFSB52134-E, KFSB52135-E, KFSB52136-E, KFSB52137-E, KFSB55401-E, KFSB61817-E, KFSB62010-E, KFSB85403-I, KFSB85404-I, KFSB95426-E

### 付録 B.3 変更内容 (3000-3-F53-40)

次の製品の変更内容 (3000-3-F53-40) を表に示します。

- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option 07-85
- uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 02-03
- uCosminexus TP1/Financial Service Platform 01-05

#### 追加・変更内容

次のメッセージを追加した。

KFSB40957-W, KFSB42008-W, KFSB50396-E, KFSB61833-E, KFSB80310-I, KFSB80311-I, KFSB82020-I, KFSB90311-I, KFSB90313-I, KFSB90315-I, KFSB90316-I, KFSB90392-E, KFSB90396-I, KFSB90399-I, KFSB90973-I, KFSB90974-I, KFSB91472-E, KFSB91857-I, KFSB91858-I, KFSB92021-I, KFSB92022-I, KFSB95155-I, KFSB95202-I, KFSB95203-I, KFSB95204-I, KFSB95390-I, KFSB95396-I, KFSB95397-I, KFSB95460-I, KFSB95461-I, KFSB95462-I, KFSB95463-I, KFSB95464-I, KFSB95465-I, KFSB95466-I, KFSB95467-I, KFSB95468-I, KFSB95469-I, KFSB95470-I, KFSB95471-I, KFSB95472-I, KFSB95473-I, KFSB95474-I, KFSB95475-I, KFSB95476-I, KFSB95477-I, KFSB95478-I, KFSB95479-I, KFSB95480-I, KFSB95481-I, KFSB95482-I, KFSB95483-I

次のメッセージを変更した。

KFSB50304-E, KFSB61817-E, KFSB81401-I, KFSB82004-I, KFSB82007-I, KFSB85704-I, KFSB85705-I, KFSB90305-E, KFSB90532-E, KFSB91850-I, KFSB92008-E, KFSB92012-E, KFSB92013-E, KFSB95430-I, KFSB95503-E

各バージョンの変更内容を追加した。

### 付録 B.4 変更内容 (3000-3-F53-30)

次の製品の変更内容 (3000-3-F53-30) を表に示します。

- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option 07-84
- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64) 07-84
- uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 02-02

追加・変更内容
次のメッセージを追加した。 KFSB61832-E
次のメッセージを変更した。 KFSB60301-E, KFSB61817-E
各バージョンの変更内容を追加した。

次の製品の変更内容（3000-3-F53-30）を表に示します。

- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option 07-83
- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64) 07-83
- uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 02-01

追加・変更内容
次のメッセージを変更した。 KFSB55317-E, KFSB62000-E

次の製品の変更内容（3000-3-F53-30）を表に示します。

- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option 07-82
- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64) 07-82
- uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 02-00

追加・変更内容
次のメッセージを追加した。 KFSB41481-E, KFSB45901-W, KFSB55392-I, KFSB55395-I, KFSB81406-I, KFSB91471-I
次のメッセージを変更した。 KFSB40355-E, KFSB45702-E, KFSB50304-E, KFSB51401-E, KFSB51403-E, KFSB54302-E, KFSB54304-E, KFSB54305-E, KFSB55003-E, KFSB55107-E, KFSB55310-E, KFSB55311-E, KFSB55312-E, KFSB55313-E, KFSB55715-E, KFSB55724-E, KFSB60304-E, KFSB60353-E, KFSB60801-E, KFSB61801-E, KFSB61806-E, KFSB61830-E, KFSB62007-E, KFSB62010-E, KFSB62011-E, KFSB65380-E, KFSB65702-E, KFSB80002-I, KFSB80021-I, KFSB80301-I, KFSB82007-I, KFSB82008-I, KFSB85405-I, KFSB90305-E, KFSB90338-I, KFSB91422-E, KFSB91466-E, KFSB91853-I, KFSB91912-E, KFSB92002-I, KFSB92006-E, KFSB95439-I, KFSB95441-I, KFSB95451-E, KFSB95503-E, KFSB95551-I, KFSB95705-E, KFSB95712-E, KFSB95743-E

次の製品の変更内容（3000-3-F53-30）を表に示します。

- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option 07-81
- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64) 07-81
- uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 01-05

## 追加・変更内容

次のメッセージを追加した。

KFSB40956-W, KFSB42003-W, KFSB42005-W, KFSB42006-W, KFSB42007-W, KFSB45615-W, KFSB45616-W, KFSB45711-E, KFSB47001-E, KFSB47003-E, KFSB47004-E, KFSB47005-E, KFSB47006-E, KFSB47007-E, KFSB47008-E, KFSB47010-E, KFSB47011-E, KFSB47013-E, KFSB47014-E, KFSB47015-E, KFSB50802-E, KFSB50963-E, KFSB52006-E, KFSB52007-W, KFSB52008-W, KFSB52009-E, KFSB54306-E, KFSB54307-E, KFSB54370-E, KFSB54371-E, KFSB54375-E, KFSB55540-W, KFSB55541-E, KFSB57003-E, KFSB57004-E, KFSB57005-E, KFSB57006-E, KFSB57007-E, KFSB57008-E, KFSB57009-W, KFSB57010-E, KFSB57011-W, KFSB57012-E, KFSB57013-E, KFSB57014-E, KFSB57015-E, KFSB57016-E, KFSB57017-E, KFSB57018-E, KFSB57019-E, KFSB57020-E, KFSB57021-E, KFSB57022-E, KFSB57023-W, KFSB57024-W, KFSB57025-E, KFSB57026-E, KFSB60957-E, KFSB62015-E, KFSB62016-E, KFSB62018-E, KFSB62019-E, KFSB65606-E, KFSB65607-E, KFSB80960-I, KFSB82018-I, KFSB82019-I, KFSB84301-I, KFSB84302-I, KFSB85521-I, KFSB85522-I, KFSB87001-I, KFSB87002-I, KFSB87003-I, KFSB87004-I, KFSB87005-I, KFSB87006-I, KFSB87007-I, KFSB87008-I, KFSB90972-I, KFSB92020-I, KFSB94301-E, KFSB94302-E, KFSB94303-E, KFSB94304-E, KFSB94305-E, KFSB94306-E, KFSB94307-E, KFSB94308-I, KFSB94309-I, KFSB94310-E, KFSB95200-I, KFSB95201-I, KFSB95570-I, KFSB95571-I, KFSB95572-I, KFSB95574-I, KFSB97001-E, KFSB97002-E, KFSB97003-E, KFSB97004-E, KFSB97005-E, KFSB97007-E, KFSB97022-I, KFSB97023-I, KFSB97024-E, KFSB97025-I, KFSB97027-I, KFSB97028-I, KFSB97029-I, KFSB97030-I, KFSB97031-I, KFSB97032-I, KFSB97033-I, KFSB97034-I, KFSB97035-I, KFSB97036-I, KFSB97037-I, KFSB97038-I, KFSB97039-E, KFSB97040-E, KFSB97041-E, KFSB97042-E

次のメッセージを変更した。

KFSB40804-W, KFSB42002-W, KFSB45320-W, KFSB45405-W, KFSB45604-W, KFSB45624-E, KFSB45701-E, KFSB50310-E, KFSB50360-E, KFSB50362-E, KFSB50395-E, KFSB50918-E, KFSB50952-E, KFSB50954-E, KFSB55320-E, KFSB55401-E, KFSB55407-E, KFSB55600-E, KFSB55902-E, KFSB57109-E, KFSB57114-E, KFSB57125-E, KFSB57127-E, KFSB60300-E, KFSB60955-E, KFSB65902-E, KFSB65910-E, KFSB90944-I, KFSB90945-I, KFSB90955-E

## 付録 B.5 変更内容 (3000-3-F53-20)

次の製品の変更内容 (3000-3-F53-20) を表に示します。

- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option 07-80
- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64) 07-80
- uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 01-04

## 追加・変更内容

メッセージの出力を抑止できるようにした。

これに伴い、すべてのメッセージに抑止種別を記載した。

次のメッセージを追加した。

KFSB40306-W, KFSB40307-W, KFSB40366-E, KFSB40367-E, KFSB40368-E, KFSB40500-E, KFSB40815-W, KFSB40950-E, KFSB40953-W, KFSB40954-E, KFSB40955-W, KFSB41808-W, KFSB42000-W, KFSB42001-W, KFSB42002-W, KFSB44300-W, KFSB44301-W, KFSB44302-W, KFSB44303-W, KFSB45010-W, KFSB45109-W, KFSB45614-E, KFSB45628-E, KFSB45629-W, KFSB45671-W, KFSB45672-E, KFSB45673-W, KFSB45674-W, KFSB45701-E, KFSB45702-E, KFSB45703-W, KFSB45704-E, KFSB45705-E, KFSB45706-E, KFSB45707-E, KFSB45708-W, KFSB45709-W, KFSB45710-W, KFSB45712-W, KFSB45713-W, KFSB45780-E, KFSB45781-

追加・変更内容

W, KFSB45782-W, KFSB47101-E, KFSB47103-E, KFSB47104-E, KFSB47105-E, KFSB47106-E, KFSB47107-E, KFSB47108-E, KFSB47110-E, KFSB47111-E, KFSB47113-E, KFSB47114-E, KFSB47115-E, KFSB47116-E, KFSB50500-E, KFSB50501-E, KFSB50502-E, KFSB50503-E, KFSB50504-E, KFSB50505-E, KFSB50506-E, KFSB50507-E, KFSB50801-E, KFSB50950-E, KFSB50951-E, KFSB50952-E, KFSB50953-E, KFSB50954-E, KFSB50955-E, KFSB50956-E, KFSB50957-E, KFSB50958-E, KFSB50959-E, KFSB50960-E, KFSB50962-E, KFSB50964-E, KFSB50965-E, KFSB50966-E, KFSB50967-E, KFSB50968-E, KFSB50969-E, KFSB50970-E, KFSB50971-E, KFSB50972-E, KFSB51022-E, KFSB52000-E, KFSB52001-E, KFSB52002-E, KFSB52003-E, KFSB52004-E, KFSB52005-E, KFSB52100-E, KFSB52101-E, KFSB52102-E, KFSB52103-E, KFSB52104-E, KFSB52105-E, KFSB52110-E, KFSB52111-E, KFSB52112-E, KFSB52113-E, KFSB52114-E, KFSB52115-E, KFSB52116-E, KFSB52117-E, KFSB52118-E, KFSB52119-E, KFSB52120-E, KFSB52121-E, KFSB52122-E, KFSB52124-E, KFSB52125-E, KFSB52126-E, KFSB52127-E, KFSB52128-E, KFSB52129-E, KFSB52131-E, KFSB52132-E, KFSB52133-E, KFSB52134-E, KFSB52135-E, KFSB52136-E, KFSB52137-E, KFSB54301-E, KFSB54302-E, KFSB54303-E, KFSB54304-E, KFSB54305-E, KFSB55012-E, KFSB55013-E, KFSB55014-E, KFSB55015-E, KFSB55016-E, KFSB55020-E, KFSB55021-E, KFSB55022-E, KFSB55023-E, KFSB55024-E, KFSB55303-E, KFSB55313-E, KFSB55370-E, KFSB55391-E, KFSB55520-W, KFSB55612-W, KFSB55626-E, KFSB55627-E, KFSB55628-E, KFSB55650-E, KFSB55651-E, KFSB55701-E, KFSB55702-E, KFSB55703-E, KFSB55704-E, KFSB55706-E, KFSB55707-E, KFSB55709-E, KFSB55710-E, KFSB55711-E, KFSB55712-E, KFSB55713-E, KFSB55714-E, KFSB55715-E, KFSB55716-E, KFSB55717-E, KFSB55718-W, KFSB55719-W, KFSB55721-E, KFSB55722-E, KFSB55724-E, KFSB55725-E, KFSB55726-E, KFSB55727-W, KFSB55728-E, KFSB55729-E, KFSB55782-E, KFSB55783-E, KFSB57101-E, KFSB57102-E, KFSB57103-E, KFSB57104-E, KFSB57105-E, KFSB57106-E, KFSB57108-W, KFSB57109-E, KFSB57110-E, KFSB57111-E, KFSB57112-E, KFSB57113-E, KFSB57114-E, KFSB57125-E, KFSB57127-E, KFSB60330-E, KFSB60353-E, KFSB60500-E, KFSB60501-E, KFSB60502-E, KFSB60503-E, KFSB60950-E, KFSB60951-E, KFSB60952-E, KFSB60953-E, KFSB60954-E, KFSB60955-E, KFSB60956-E, KFSB61407-E, KFSB61408-E, KFSB61829-E, KFSB61830-E, KFSB61831-E, KFSB62000-E, KFSB62001-E, KFSB62002-E, KFSB62003-E, KFSB62004-E, KFSB62005-E, KFSB62006-E, KFSB62007-E, KFSB62008-E, KFSB62009-E, KFSB62010-E, KFSB62011-E, KFSB62012-E, KFSB62100-E, KFSB64300-E, KFSB64301-E, KFSB64303-E, KFSB64399-E, KFSB65002-E, KFSB65003-E, KFSB65010-E, KFSB65099-E, KFSB65336-E, KFSB65337-E, KFSB65391-E, KFSB65605-E, KFSB65650-E, KFSB65651-E, KFSB65652-E, KFSB65653-E, KFSB65654-E, KFSB65655-E, KFSB65701-E, KFSB65702-E, KFSB65703-E, KFSB65704-E, KFSB65752-E, KFSB65780-E, KFSB65781-E, KFSB65782-E, KFSB65783-E, KFSB65785-E, KFSB65799-E, KFSB67101-E, KFSB67102-E, KFSB80500-I, KFSB80501-I, KFSB80950-I, KFSB80951-I, KFSB80952-I, KFSB80953-I, KFSB80955-I, KFSB80956-I, KFSB80958-I, KFSB80959-I, KFSB82000-I, KFSB82001-I, KFSB82002-I, KFSB82003-I, KFSB82004-I, KFSB82005-I, KFSB82006-I, KFSB82007-I, KFSB82008-I, KFSB82010-I, KFSB82011-I, KFSB82013-I, KFSB82014-I, KFSB82015-I, KFSB82016-I, KFSB82017-I, KFSB82100-I, KFSB82101-I, KFSB82110-I, KFSB82111-I, KFSB82112-I, KFSB82120-I, KFSB82121-I, KFSB82122-I, KFSB82123-I, KFSB82124-I, KFSB82125-I, KFSB82126-I, KFSB84300-I, KFSB85001-I, KFSB85002-I, KFSB85003-I, KFSB85004-I, KFSB85010-I, KFSB85011-I, KFSB85012-I, KFSB85013-I, KFSB85102-I, KFSB85308-I, KFSB85309-I, KFSB85310-I, KFSB85501-I, KFSB85502-I, KFSB85628-I, KFSB85640-I, KFSB85641-I, KFSB85642-I, KFSB85643-I, KFSB85650-I, KFSB85651-I, KFSB85701-I, KFSB85702-I, KFSB85703-I, KFSB85704-I, KFSB85705-I, KFSB85706-I, KFSB85707-I, KFSB85709-I, KFSB85710-I, KFSB85711-I, KFSB85712-I, KFSB85713-I, KFSB85714-I, KFSB85780-I, KFSB85781-I, KFSB87101-I, KFSB90338-I, KFSB90339-I, KFSB90501-E, KFSB90502-E, KFSB90503-E, KFSB90504-E, KFSB90505-E, KFSB90506-E, KFSB90507-E, KFSB90520-I, KFSB90521-I, KFSB90522-E, KFSB90530-I, KFSB90531-I, KFSB90532-E, KFSB90931-I, KFSB90934-I, KFSB90935-E, KFSB90936-E, KFSB90937-E, KFSB90938-E, KFSB90939-E, KFSB90940-I, KFSB90941-I, KFSB90942-I, KFSB90943-I, KFSB90944-I, KFSB90945-I, KFSB90946-I, KFSB90947-I, KFSB90948-E, KFSB90949-E, KFSB90950-E, KFSB90951-E, KFSB90952-E, KFSB90953-I, KFSB90954-W, KFSB90955-E, KFSB90956-I, KFSB90957-E, KFSB90958-I, SB90961-E, KFSB90962-E, KFSB90963-E, KFSB90964-E, KFSB90965-E, KFSB90966-E, KFSB90967-E, KFSB90968-E, KFSB90969-I, KFSB90970-I, KFSB90971-I, KFSB91812-E, KFSB91911-E, KFSB91912-E, KFSB91913-E, KFSB91914-E, KFSB91920-I, KFSB92000-I, KFSB92001-I,

## 追加・変更内容

KFSB92002-I, KFSB92003-I, KFSB92004-I, KFSB92005-I, KFSB92006-E, KFSB92007-E, SB92010-I, KFSB92011-I, KFSB92012-E, KFSB92013-E, KFSB92014-E, KFSB92015-E, KFSB92016-I, KFSB92017-E, KFSB92018-E, KFSB92019-E, KFSB95008-E, KFSB95020-I, KFSB95021-E, KFSB95022-E, KFSB95030-I, KFSB95031-E, KFSB95032-I, KFSB95033-I, KFSB95034-I, KFSB95035-E, KFSB95036-E, KFSB95037-I, KFSB95038-I, KFSB95040-E, KFSB95041-I, KFSB95381-I, KFSB95382-E, KFSB95383-I, KFSB95385-I, KFSB95387-I, KFSB95500-E, KFSB95501-E, KFSB95502-E, KFSB95503-E, KFSB95504-E, KFSB95505-E, KFSB95506-I, KFSB95550-I, KFSB95551-I, KFSB95552-I, KFSB95554-I, KFSB95604-E, KFSB95605-E, KFSB95607-E, KFSB95608-I, KFSB95609-I, KFSB95618-I, KFSB95619-I, KFSB95626-I, KFSB95627-I, KFSB95628-I, KFSB95629-I, KFSB95701-E, KFSB95702-E, KFSB95704-E, KFSB95705-E, KFSB95706-E, KFSB95707-E, KFSB95710-I, KFSB95711-E, KFSB95712-E, KFSB95720-I, KFSB95721-I, KFSB95722-I, KFSB95723-I, KFSB95724-I, KFSB95725-I, KFSB95726-I, KFSB95727-I, KFSB95728-I, KFSB95729-I, KFSB95730-I, KFSB95740-I, KFSB95741-E, KFSB95742-E, KFSB95743-E, KFSB95760-I, KFSB95761-E, KFSB95762-E, KFSB95763-E, KFSB95764-E, KFSB95765-I, KFSB95766-E, KFSB95767-Q, KFSB95770-E, KFSB95771-E, KFSB95772-E, KFSB95773-E, KFSB95774-W, KFSB95775-I, KFSB97101-E, KFSB97102-E, KFSB97103-E, KFSB97104-E, KFSB97105-E, KFSB97106-E, KFSB97107-I, KFSB97108-I, KFSB97109-E, KFSB97118-I, KFSB97140-E, KFSB97141-E, KFSB97142-E, KFSB97143-E, KFSB97144-W

次のメッセージを変更した。

KFSB45603-W, KFSB45604-W, KFSB45605-W, KFSB50918-E, KFSB65600-E, KFSB65601-E, KFSB80903-I, KFSB90330-I, KFSB91463-E, KFSB91464-E, KFSB91465-E, KFSB95431-I, KFSB95433-I, KFSB95444-I, KFSB95624-I, KFSB95661-I, KFSB95664-I, KFSB95665-I

次のメッセージの説明を変更した。

KFSB40323-E, KFSB40355-E, KFSB40358-W, KFSB40910-W, KFSB40914-E, KFSB41474-E, KFSB45105-W, KFSB45107-W, KFSB45613-W, KFSB45627-E, KFSB45636-E, KFSB45660-W, KFSB50300-E, KFSB50360-E, KFSB50919-E, KFSB51912-W, KFSB51913-W, KFSB55004-E, KFSB55009-E, KFSB55102-E, KFSB55104-E, KFSB55350-E, KFSB55608-E, KFSB55620-E, KFSB55672-E, KFSB60300-E, KFSB60304-E, KFSB60801-E, KFSB60903-E, KFSB60904-E, KFSB60908-E, KFSB61000-E, KFSB61401-E, KFSB61405-E, KFSB61801-E, KFSB61802-E, KFSB61803-E, KFSB61805-E, KFSB61806-E, KFSB61807-E, KFSB61810-E, KFSB61817-E, KFSB65101-E, KFSB65102-E, KFSB65335-E, KFSB65600-E, KFSB65601-E, KFSB80900-I, KFSB80903-I, KFSB80907-I, KFSB85101-I, KFSB90904-E, KFSB91461-E, KFSB91466-E, KFSB95006-E, KFSB95425-I, KFSB95650-E, KFSB95651-E

別プロセスによるトランザクション回復機能を削除した。

これに伴い、次のメッセージを削除した。

KFSB40916-W, KFSB41807-W, KFSB51806-E, KFSB51808-E, KFSB51809-E, KFSB51810-E, KFSB61820-E, KFSB81800-I, KFSB81801-I, KFSB81802-I, KFSB90926-I, KFSB90927-I, KFSB90928-I, KFSB90929-E, KFSB90930-I, KFSB95370-I

次のメッセージを変更した。

KFSB90919-I, KFSB90920-I, KFSB90921-I, KFSB90922-I

また、次のメッセージの説明を変更した。

KFSB40360-E, KFSB50918-E, KFSB60301-E, KFSB60351-E, KFSB61801-E, KFSB61810-E, KFSB61817-E, KFSB90305-E

各バージョンの変更内容を追加した。

## 付録 B.6 変更内容 (3000-3-F53-10)

次の製品の変更内容 (3000-3-F53-10) を表に示します。

- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option 07-70
- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64) 07-70
- uCosminexus TP1/EE/Extended Transaction Controller 01-02
- uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 01-02

### 追加・変更内容

次のメッセージを追加した。

KFSB61406-E, KFSB65404-E, KFSB68118-E, KFSB85307-I, KFSB85905-I, KFSB91408-E, KFSB91811-E

次のメッセージを変更した。

KFSB40326-W, KFSB45403-W, KFSB51809-E, KFSB51810-E, KFSB60401-E, KFSB85306-I, KFSB90305-E, KFSB91405-E, KFSB91503-I, KFSB91505-I, KFSB91548-E, KFSB95431-I, KFSB95436-I, KFSB95437-I, KFSB95442-I, KFSB95444-I, KFSB95447-I

次のメッセージの説明を変更した。

KFSB40911-W, KFSB50300-E, KFSB50310-E, KFSB50311-E, KFSB50922-E, KFSB50923-E, KFSB50927-E, KFSB51004-E, KFSB51054-E, KFSB51055-E, KFSB51401-E, KFSB51406-E, KFSB51407-E, KFSB55320-E, KFSB58010-E, KFSB58204-E, KFSB60304-E, KFSB61401-E, KFSB61405-E, KFSB61817-E, KFSB80400-I, KFSB80401-I, KFSB80903-I, KFSB81402-I, KFSB81403-I, KFSB81404-I, KFSB81405-I, KFSB88207-I, KFSB90305-E, KFSB90904-E, KFSB91004-E, KFSB91007-E, KFSB91405-E, KFSB91422-E, KFSB91447-E, KFSB91548-E, KFSB95377-E, KFSB95407-E, KFSB98030-E, KFSB98032-E, KFSB98033-E

## 付録 B.7 変更内容 (3000-3-F53)

次の製品の変更内容 (3000-3-F53) を表に示します。

- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option 07-50
- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option 07-60
- uCosminexus TP1/EE/Extended Transaction Controller 01-00
- uCosminexus TP1/EE/Extended Transaction Controller 01-01
- uCosminexus TP1/EE/Extended Data Cache 01-00
- uCosminexus TP1/EE/Extended Data Cache 01-01
- uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 01-00
- uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension 01-01

### 追加・変更内容

XDB サポートに伴い、次のとおり変更した。

- メッセージの意味に、プログラマの処置を追加した。

## 追加・変更内容

- 出力先種別を追加した。
- XDB のメッセージの分類について説明を追加した。

次のメッセージを追加した。

KFSB30101-E, KFSB30102-E, KFSB30104-E, KFSB30105-E, KFSB30106-E, KFSB30107-E,  
KFSB30114-E, KFSB30117-E, KFSB30119-E, KFSB30120-E, KFSB30121-E, KFSB30123-E,  
KFSB30124-E, KFSB30127-E, KFSB30129-E, KFSB30142-E, KFSB30149-E, KFSB30150-E,  
KFSB30151-E, KFSB30201-E, KFSB30202-E, KFSB30203-E, KFSB30204-E, KFSB30205-E,  
KFSB30208-E, KFSB30210-E, KFSB30211-E, KFSB30213-E, KFSB30214-E, KFSB30219-E,  
KFSB30220-E, KFSB30239-E, KFSB30301-E, KFSB30302-E, KFSB30303-E, KFSB30305-E,  
KFSB30311-E, KFSB30312-E, KFSB30313-E, KFSB30317-E, KFSB30318-E, KFSB30326-E,  
KFSB30385-E, KFSB30401-E, KFSB30402-E, KFSB30404-E, KFSB30405-E, KFSB30408-E,  
KFSB30409-E, KFSB30410-E, KFSB30416-E, KFSB30417-E, KFSB30418-E, KFSB30449-E,  
KFSB30501-E, KFSB30502-E, KFSB30512-E, KFSB30549-E, KFSB30563-E, KFSB30564-E,  
KFSB30601-E, KFSB30602-E, KFSB30604-E, KFSB30607-E, KFSB30612-E, KFSB30614-E,  
KFSB30616-E, KFSB30617-E, KFSB30619-E, KFSB30652-E, KFSB30653-E, KFSB30657-E,  
KFSB30661-E, KFSB30673-E, KFSB30692-E, KFSB30705-E, KFSB30706-E, KFSB30756-E,  
KFSB30802-E, KFSB30803-E, KFSB30811-E, KFSB30812-E, KFSB30813-E, KFSB30821-E,  
KFSB30913-E, KFSB30914-E, KFSB30930-E, KFSB30942-E, KFSB30959-E, KFSB31310-E,  
KFSB31405-E, KFSB31713-E, KFSB31719-E, KFSB31824-E, KFSB32000-I, KFSB32100-I,  
KFSB33000-E, KFSB33001-E, KFSB33002-E, KFSB33050-E, KFSB33100-E, KFSB33101-E,  
KFSB33102-E, KFSB33104-E, KFSB33105-E, KFSB33108-E, KFSB33112-E, KFSB33114-E,  
KFSB33118-E, KFSB33122-E, KFSB33131-E, KFSB33132-E, KFSB33133-E, KFSB33134-E,  
KFSB33135-E, KFSB33136-E, KFSB33138-E, KFSB33139-E, KFSB33141-E, KFSB33142-E,  
KFSB33144-E, KFSB33146-E, KFSB33150-E, KFSB33152-E, KFSB33160-E, KFSB33162-E,  
KFSB33170-E, KFSB33201-E, KFSB33202-E, KFSB33203-E, KFSB33204-E, KFSB33205-E,  
KFSB33206-E, KFSB33207-E, KFSB33212-E, KFSB33214-E, KFSB33225-E, KFSB33233-E,  
KFSB33240-E, KFSB33511-E, KFSB33580-E, KFSB33584-E, KFSB33586-E, KFSB33600-E,  
KFSB33601-E, KFSB33602-E, KFSB33603-E, KFSB33610-E, KFSB33635-E, KFSB33706-E,  
KFSB33707-E, KFSB33708-E, KFSB33714-E, KFSB33808-I, KFSB40326-W, KFSB40365-E,  
KFSB40803-W, KFSB40804-W, KFSB41401-E, KFSB41471-W, KFSB41472-E, KFSB41473-E,  
KFSB41474-E, KFSB41475-E, KFSB41476-E, KFSB41477-E, KFSB41478-E, KFSB41479-E,  
KFSB41480-E, KFSB45408-E, KFSB45900-W, KFSB46001-W, KFSB46003-W, KFSB46004-W,  
KFSB46005-E, KFSB46006-E, KFSB46200-W, KFSB48001-W, KFSB48201-W, KFSB48300-W,  
KFSB48301-W, KFSB50313-E, KFSB50930-E, KFSB51401-E, KFSB51402-E, KFSB51403-E,  
KFSB51404-E, KFSB51405-E, KFSB51406-E, KFSB51407-E, KFSB51408-E, KFSB51409-E,  
KFSB51410-E, KFSB51461-E, KFSB51911-E, KFSB51912-W, KFSB51913-W, KFSB55317-E,  
KFSB55318-E, KFSB55410-E, KFSB55411-E, KFSB55412-E, KFSB55413-E, KFSB55625-E,  
KFSB55900-E, KFSB55901-E, KFSB55902-E, KFSB55903-E, KFSB56100-W, KFSB56161-W,  
KFSB56201-E, KFSB56205-W, KFSB56206-W, KFSB56207-W, KFSB56208-Q, KFSB58001-E,  
KFSB58002-E, KFSB58003-E, KFSB58010-E, KFSB58099-E, KFSB58100-E, KFSB58101-E,  
KFSB58102-E, KFSB58103-E, KFSB58104-E, KFSB58105-E, KFSB58106-E, KFSB58200-E,  
KFSB58201-E, KFSB58203-E, KFSB58204-E, KFSB58301-E, KFSB58302-E, KFSB58303-E,



#### 追加・変更内容

KFSB58401-E, KFSB60323-E, KFSB60400-E, KFSB60401-E, KFSB60402-E, KFSB61401-E, KFSB61402-E, KFSB61403-E, KFSB61404-E, KFSB61405-E, KFSB61469-E, KFSB61470-E, KFSB61471-E, KFSB61472-E, KFSB61474-E, KFSB61475-E, KFSB61476-E, KFSB61824-E, KFSB61825-E, KFSB61826-E, KFSB61827-E, KFSB61828-E, KFSB61901-E, KFSB61902-E, KFSB65900-E, KFSB65901-E, KFSB65902-E, KFSB65904-E, KFSB65905-E, KFSB65906-E, KFSB65907-E, KFSB65908-E, KFSB65909-E, KFSB65910-E, KFSB65911-E, KFSB65912-E, KFSB66002-E, KFSB66003-E, KFSB66004-E, KFSB66005-E, KFSB66006-E, KFSB66007-E, KFSB66008-E, KFSB66009-E, KFSB66010-E, KFSB66011-E, KFSB66012-E, KFSB66013-E, KFSB66014-E, KFSB66015-E, KFSB66016-E, KFSB66017-E, KFSB66018-E, KFSB66019-E, KFSB66020-E, KFSB66021-E, KFSB66022-E, KFSB66023-E, KFSB66024-E, KFSB66025-E, KFSB66026-E, KFSB66027-E, KFSB66028-E, KFSB66029-E, KFSB66030-E, KFSB66031-E, KFSB66032-E, KFSB66033-E, KFSB66034-E, KFSB66035-E, KFSB66036-E, KFSB66038-E, KFSB66039-E, KFSB66041-E, KFSB66045-E, KFSB66046-E, KFSB66051-E, KFSB66052-E, KFSB66053-E, KFSB66054-E, KFSB66055-E, KFSB66056-E, KFSB66057-E, KFSB66200-E,

次のメッセージを変更した。

KFSB40909-W, KFSB40913-E, KFSB45404-W, KFSB50300-E, KFSB50302-E, KFSB60304-E, KFSB60907-E, KFSB80902-I, KFSB85400-I, KFSB90913-E, KFSB90916-I, KFSB90917-I, KFSB91532-E, KFSB91850-I, KFSB95360-I, KFSB95415-Q, KFSB95431-I, KFSB95434-I, KFSB95435-I, KFSB95436-I, KFSB95442-I, KFSB95444-I

次のメッセージの説明を変更した。

KFSB40301-W, KFSB40305-W, KFSB40350-E, KFSB40352-E, KFSB45105-W, KFSB45107-W, KFSB45330-W, KFSB45401-W, KFSB45403-W, KFSB45405-W, KFSB45407-W, KFSB45608-W, KFSB45642-W, KFSB45643-W, KFSB50310-E, KFSB50351-E, KFSB50360-E, KFSB50904-E, KFSB50915-E, KFSB50918-E, KFSB51004-E, KFSB51500-E, KFSB51908-E, KFSB55102-E, KFSB55104-E, KFSB55107-E, KFSB55108-E, KFSB55109-E, KFSB55300-E, KFSB55301-E, KFSB55310-E, KFSB55311-E, KFSB55315-E, KFSB55316-E, KFSB55350-E, KFSB55365-E, KFSB55401-E, KFSB55408-E, KFSB60300-E, KFSB60301-E, KFSB60351-E, KFSB60801-E, KFSB61801-E, KFSB61806-E, KFSB61808-E, KFSB61817-E, KFSB61820-E, KFSB65102-E, KFSB65105-E, KFSB65335-E, KFSB65380-E, KFSB65385-E, KFSB65600-E, KFSB80021-I, KFSB85101-I, KFSB85403-I, KFSB85404-I, KFSB90305-E, KFSB90374-E, KFSB90929-E, KFSB91004-E, KFSB91599-E, KFSB91903-E, KFSB95446-I, KFSB95451-E

## 付録 B.8 変更内容 (3000-3-984-40)

次の製品の変更内容 (3000-3-984-40) を表に示します。

- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option 07-01

#### 追加・変更内容

英語のメッセージを追加した。  
全体



#### 追加・変更内容

次のメッセージを追加した。

KFSB45613-W, KFSB45627-E, KFSB45636-E, KFSB51502-W, KFSB55312-E, KFSB55608-E,  
KFSB55672-E, KFSB65604-E, KFSB91808-E, KFSB95616-E, KFSB95625-I

次のメッセージを変更した。

KFSB40304-W, KFSB51901-E, KFSB51909-E, KFSB61818-E, KFSB81901-I, KFSB90382-W,  
KFSB90916-I, KFSB91850-I, KFSB91851-I, KFSB95431-I, KFSB95444-I

## 付録 B.9 変更内容 (3000-3-984-30)

次の製品の変更内容 (3000-3-984-30) を表に示します。

- uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option 07-00

#### 追加・変更内容

次のメッセージを追加した。

KFSB40304-W, KFSB40305-W, KFSB40363-W, KFSB45330-W, KFSB50381-E, KFSB50929-E,  
KFSB55390-E, KFSB55409-E, KFSB65106-E, KFSB90368-E, KFSB91807-E, KFSB95443-I,  
KFSB95444-I, KFSB95445-I, KFSB95446-I

次のメッセージを変更した。

KFSB61818-E, KFSB95431-I, KFSB95432-I, KFSB95442-I

次のメッセージを削除した。

KFSB90340-I, KFSB90341-I, KFSB90342-I, KFSB90343-I, KFSB95140-I

## 付録 C このマニュアルの参考情報

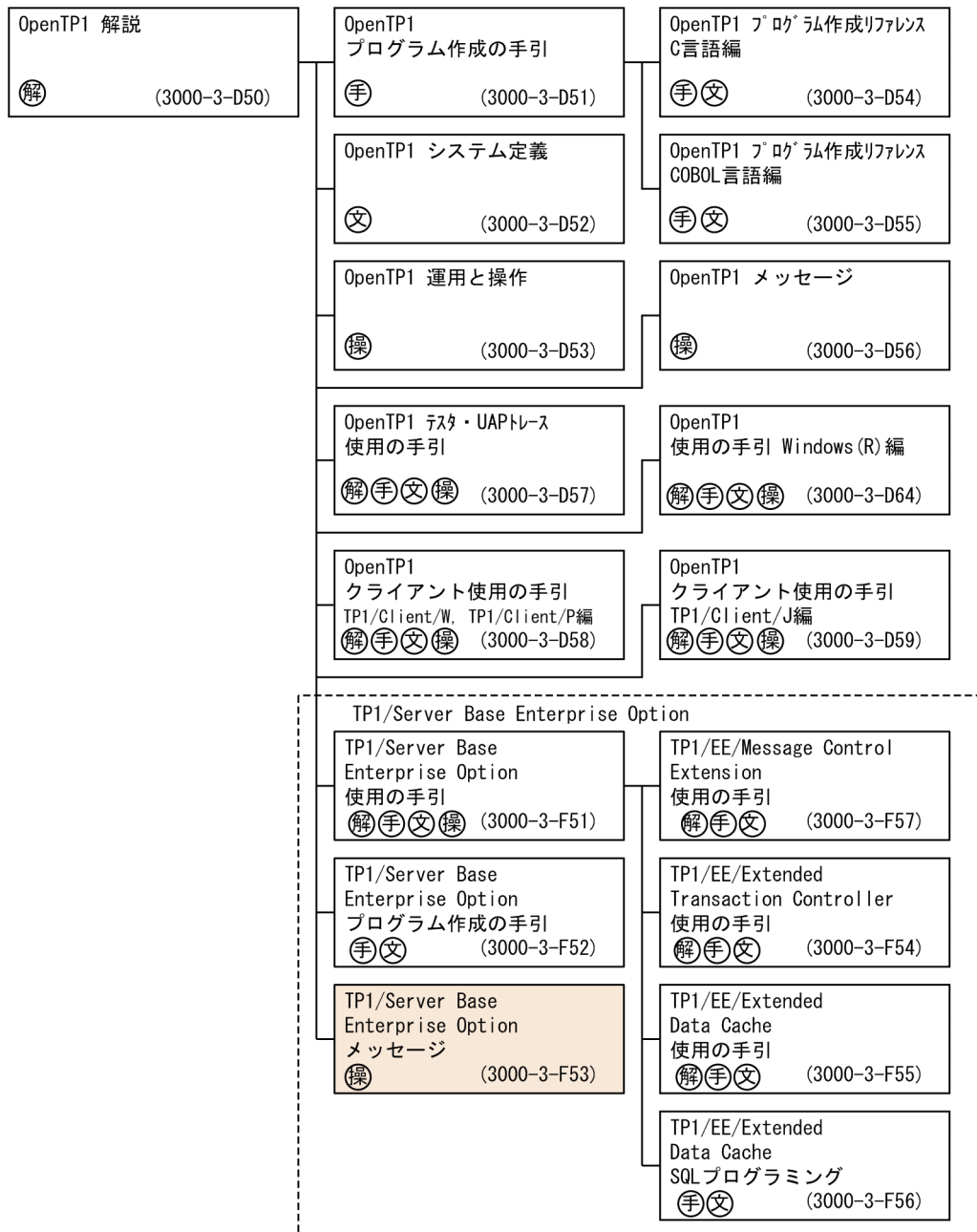
---

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

### 付録 C.1 関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- OpenTP1 Version 7



<記号>

- 解 : 解説書
- 手 : 手引書
- 文 : 文法書
- 操 : 操作書

• 関連製品

- COBOL85 使用の手引 (3000-3-354)
- COBOL2002 使用の手引 手引編 (3000-3-D42)
- COBOL2002 使用の手引 操作編 (3000-3-D43)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (UNIX(R)用) (3000-6-352)

- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム定義 (UNIX(R)用) (3000-6-353)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム運用ガイド (UNIX(R)用) (3000-6-354)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 コマンドリファレンス (UNIX(R)用) (3000-6-355)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド (3020-6-356)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 SQL リファレンス (3020-6-357)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 メッセージ (3020-6-358)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 XDM/RD E2 接続機能 (3020-6-365)
- HiRDB Version 9 構造型データベース機能 (3000-6-361)
- HiRDB Version 9 解説 (3020-6-450)
- HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (UNIX(R)用) (3000-6-452)
- HiRDB Version 9 システム定義 (UNIX(R)用) (3000-6-453)
- HiRDB Version 9 システム運用ガイド (UNIX(R)用) (3000-6-454)
- HiRDB Version 9 コマンドリファレンス (UNIX(R)用) (3000-6-455)
- HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド (3020-6-456)
- HiRDB Version 9 SQL リファレンス (3020-6-457)
- HiRDB Version 9 メッセージ (3020-6-458)
- HiRDB Version 9 XDM/RD E2 接続機能 (3020-6-465)
- 高信頼化システム監視機能 HA モニタ AIX(R)編 (3000-9-130)
- 高信頼化システム監視機能 HA モニタ Linux(R)編 (3000-9-132)
- 高信頼化システム監視機能 HA モニタ メッセージ (3000-9-134)
- Cosminexus Reliable Messaging (3020-3-M17)
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 Cosminexus Reliable Messaging (3020-3-U21)

なお、このマニュアルでは、次のマニュアルについて、対象 OS およびバージョン番号を省略して表記しています。マニュアルの正式名称とこのマニュアルでの表記を次に示します。

正式名称	このマニュアルでの表記
HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (UNIX(R)用)	HiRDB システム導入・設計ガイド
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (UNIX(R)用)	
HiRDB Version 9 システム定義 (UNIX(R)用)	HiRDB システム定義
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム定義 (UNIX(R)用)	

正式名称	このマニュアルでの表記
HiRDB Version 9 システム運用ガイド (UNIX(R)用)	HiRDB システム運用ガイド
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム運用ガイド (UNIX(R)用)	
HiRDB Version 9 コマンドリファレンス (UNIX(R)用)	HiRDB コマンドリファレンス
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 コマンドリファレンス (UNIX(R)用)	
HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド	HiRDB UAP 開発ガイド
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド	
HiRDB Version 9 SQL リファレンス	HiRDB SQL リファレンス
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 SQL リファレンス	
HiRDB Version 9 メッセージ	HiRDB メッセージ
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 メッセージ	
HiRDB Version 9 XDM/RD E2 接続機能	XDM/RD E2 接続機能
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 XDM/RD E2 接続機能	
高信頼化システム監視機能 HA モニタ AIX(R)編	高信頼化システム監視機能 HA モニタ
高信頼化システム監視機能 HA モニタ Linux(R)編	

## 付録 C.2 このマニュアルでの表記

### (1) 製品名

このマニュアルで使用する製品名称の略称を次に示します。

略称	名称
AIX	AIX 5L V5.2
	AIX 5L V5.3
	AIX V6.1
	AIX V7.1
	AIX V7.2
Linux	Linux(R)
Linux	Linux (EM64T)
	Red Hat Enterprise Linux 5 (AMD/Intel 64)
	Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)

略称		名称
Linux	Linux (EM64T)	Red Hat Enterprise Linux Server 6 (64-bit x86_64)
		Red Hat Enterprise Linux Server 7 (64-bit x86_64)
	Linux (IA32)	Red Hat Enterprise Linux 5 (AMD/Intel 64)
		Red Hat Enterprise Linux 5 (x86)
		Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)
		Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform (x86)
		Red Hat Enterprise Linux Server 6 (32-bit x86)
Red Hat Enterprise Linux Server 6 (64-bit x86_64)		
MCP		uCosminexus TP1/EE/Message Control Extension
Oracle	Oracle 10g R2	Oracle Database 10g Release 2
	Oracle 11g R1	Oracle Database 11g Release 1
TP1/Client	TP1/Client/J	uCosminexus TP1/Client/J
	TP1/Client/P	uCosminexus TP1/Client/P
	TP1/Client/W	uCosminexus TP1/Client/W
TP1/EE	TP1/Server Base Enterprise Option	uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option
		uCosminexus TP1/Server Base Enterprise Option(64)
TP1/FSP		uCosminexus TP1/Financial Service Platform
TP1/Server Base	TP1/SB	uCosminexus TP1/Server Base
UNIX		UNIX(R)
XDB		uCosminexus TP1/EE/Extended Data Cache
XTC		uCosminexus TP1/EE/Extended Transaction Controller

次の OS で機能差がない場合、Linux (x86) と表記しています。

- Linux (EM64T)
- Linux (IA32)

## (2) アーキテクチャによる違い

TP1/EE マニュアルでは、32 ビットアーキテクチャ対応 OS と 64 ビットアーキテクチャ対応 OS で記述を書き分けている箇所があります。ご使用の OS をご確認の上、アーキテクチャに応じた記載箇所をお読みください。

このマニュアルでのアーキテクチャの違いによる表記と対応 OS を次の表に示します。

マニュアルの表記	OS
32 ビットアーキテクチャの場合	<ul style="list-style-type: none"><li>• AIX 5L V5.2, AIX 5L V5.3, AIX V6.1, AIX V7.1, AIX V7.2</li><li>• Red Hat Enterprise Linux 5 (AMD/Intel 64, x86), Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64, x86), Red Hat Enterprise Linux Server 6 (32-bit x86), Red Hat Enterprise Linux Server 6 (64-bit x86_64)</li></ul>
64 ビットアーキテクチャの場合	<ul style="list-style-type: none"><li>• AIX V6.1, AIX V7.1, AIX V7.2</li><li>• Red Hat Enterprise Linux 5 (AMD/Intel 64), Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64), Red Hat Enterprise Linux Server 6 (64-bit x86_64), Red Hat Enterprise Linux Server 7 (64-bit x86_64)</li></ul>

## (3) インストールディレクトリのパスの違い

このマニュアルでは、TP1/EE のインストールディレクトリを次のように表記しています。ご利用の OS に応じて読み替えてください。

このマニュアルでの表記	適用 OS ごとの読み替え	
	AIX	Linux
インストールディレクトリ	/BeTRAN	/opt/OpenTP1

## 付録 C.3 英略語

このマニュアルで使用する英略語の一覧を次に示します。

英略語	英字での表記
AP	Application Program
API	Application Programming Interface
C/S	Client/Server
CPU	Central Processing Unit
CR	Carriage Return
CSV	Comma Separated Value

英略語	英字での表記
CUP	Client User Program
DAM	Direct Access Method
DB	Database
DBMS	Database Management System
DML	Data Manipulation Language
DNS	Domain Name System
DTP	Distributed Transaction Processing
EOF	End of File
FIFO	First-In-First-Out
GUI	Graphical User Interface
HA	High Availability
I/O	Input/Output
ID	Identifier
IP	Internet Protocol
J2EE	Java 2 Platform Enterprise Edition
LAN	Local Area Network
LF	Line Feed
MCF	Message Control Facility
MTU	Maximum Transmission Unit
NFS	Network File System
OLTP	Online Transaction Processing
OS	Operating System
OSI	Open Systems Interconnection
OSI TP	Open Systems Interconnection Transaction Processing
PC	Personal Computer
RAC	Real Application Clusters
RPC	Remote Procedure Call
SDB	Structured Database
SPP	Service Providing Program
SUP	Service Using Program
TAM	Table Access Method



英略語	英字での表記
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
TP	Transaction Processing
UAP	User Application Program
UDP	User Datagram Protocol
UOC	User Own Coding
WAN	Wide Area Network
WS	Workstation
XA	Extended Architecture

TP1/EE マニュアルで使用する略称の一覧を次に示します。

略称	名称
AP	アプリケーションプログラム
API	アプリケーションプログラミングインタフェース
CUP	クライアントユーザプログラム
DB	データベース
IFA	スレッド対応エリア
IMA	入力メッセージ引き渡しエリア
OMA	出力メッセージ引き渡しエリア
RPC	リモートプロシジャコール
SPP	サービス提供プログラム
SUP	サービス利用プログラム
UAP	ユーザアプリケーションプログラム
WS	ワークステーション
XID	トランザクション識別子

## 付録 C.4 KB (キロバイト) などの単位表記

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024<sup>2</sup> バイト, 1,024<sup>3</sup> バイト, 1,024<sup>4</sup> バイトです。

# 索引

## K

KFSB30101-E	30	KFSB30311-E	43
KFSB30102-E	30	KFSB30312-E	43
KFSB30104-E	30	KFSB30313-E	44
KFSB30105-E	31	KFSB30317-E	44
KFSB30106-E	31	KFSB30318-E	44
KFSB30107-E	31	KFSB30326-E	45
KFSB30114-E	32	KFSB30385-E	45
KFSB30117-E	32	KFSB30401-E	46
KFSB30119-E	33	KFSB30402-E	46
KFSB30120-E	33	KFSB30404-E	47
KFSB30121-E	34	KFSB30405-E	47
KFSB30123-E	34	KFSB30408-E	47
KFSB30124-E	34	KFSB30409-E	48
KFSB30127-E	35	KFSB30410-E	48
KFSB30129-E	35	KFSB30416-E	48
KFSB30142-E	35	KFSB30417-E	49
KFSB30149-E	36	KFSB30418-E	49
KFSB30150-E	36	KFSB30449-E	49
KFSB30151-E	36	KFSB30501-E	50
KFSB30201-E	37	KFSB30502-E	50
KFSB30202-E	37	KFSB30512-E	50
KFSB30203-E	38	KFSB30549-E	51
KFSB30204-E	38	KFSB30563-E	51
KFSB30205-E	38	KFSB30564-E	51
KFSB30208-E	39	KFSB30601-E	52
KFSB30210-E	39	KFSB30602-E	52
KFSB30211-E	39	KFSB30604-E	53
KFSB30213-E	40	KFSB30607-E	53
KFSB30214-E	40	KFSB30612-E	54
KFSB30219-E	40	KFSB30614-E	54
KFSB30220-E	41	KFSB30616-E	54
KFSB30239-E	41	KFSB30617-E	55
KFSB30301-E	41	KFSB30619-E	55
KFSB30302-E	42	KFSB30652-E	56
KFSB30303-E	42	KFSB30653-E	56
KFSB30305-E	43	KFSB30657-E	57
		KFSB30661-E	57

KFSB30673-E	57	KFSB33133-E	72
KFSB30692-E	58	KFSB33134-E	73
KFSB30705-E	58	KFSB33135-E	73
KFSB30706-E	59	KFSB33136-E	73
KFSB30756-E	59	KFSB33138-E	74
KFSB30802-E	60	KFSB33139-E	74
KFSB30803-E	60	KFSB33141-E	74
KFSB30811-E	60	KFSB33142-E	75
KFSB30812-E	61	KFSB33144-E	75
KFSB30813-E	61	KFSB33146-E	75
KFSB30821-E	62	KFSB33150-E	76
KFSB30913-E	62	KFSB33152-E	76
KFSB30914-E	62	KFSB33160-E	76
KFSB30930-E	63	KFSB33162-E	77
KFSB30942-E	63	KFSB33170-E	77
KFSB30959-E	64	KFSB33201-E	77
KFSB31310-E	64	KFSB33202-E	78
KFSB31405-E	65	KFSB33203-E	78
KFSB31713-E	65	KFSB33204-E	78
KFSB31719-E	65	KFSB33205-E	79
KFSB31824-E	66	KFSB33206-E	79
KFSB32000-I	66	KFSB33207-E	79
KFSB32100-I	66	KFSB33212-E	80
KFSB33000-E	67	KFSB33214-E	80
KFSB33001-E	67	KFSB33225-E	80
KFSB33002-E	68	KFSB33233-E	81
KFSB33050-E	68	KFSB33240-E	81
KFSB33100-E	68	KFSB33511-E	81
KFSB33101-E	69	KFSB33580-E	82
KFSB33102-E	69	KFSB33584-E	82
KFSB33104-E	69	KFSB33586-E	82
KFSB33105-E	70	KFSB33600-E	83
KFSB33108-E	70	KFSB33601-E	83
KFSB33112-E	70	KFSB33602-E	83
KFSB33114-E	71	KFSB33603-E	84
KFSB33118-E	71	KFSB33610-E	84
KFSB33122-E	71	KFSB33635-E	84
KFSB33131-E	72	KFSB33706-E	84
KFSB33132-E	72	KFSB33707-E	85

KFSB33708-E	85	KFSB40801-W	115
KFSB33714-E	85	KFSB40802-W	116
KFSB33808-I	86	KFSB40803-W	116
KFSB40107-E	88	KFSB40804-W	117
KFSB40301-W	89	KFSB40810-W	117
KFSB40302-W	90	KFSB40815-W	118
KFSB40303-W	90	KFSB40900-E	118
KFSB40304-W	91	KFSB40901-W	118
KFSB40305-W	91	KFSB40904-W	119
KFSB40306-W	92	KFSB40905-W	119
KFSB40307-W	93	KFSB40906-W	120
KFSB40310-W	93	KFSB40908-W	120
KFSB40311-W	94	KFSB40909-W	121
KFSB40312-W	94	KFSB40910-W	121
KFSB40313-W	95	KFSB40911-W	122
KFSB40320-E	96	KFSB40912-W	123
KFSB40321-E	97	KFSB40913-E	124
KFSB40322-E	98	KFSB40914-E	124
KFSB40323-E	99	KFSB40915-W	125
KFSB40324-E	100	KFSB40950-E	126
KFSB40325-E	100	KFSB40953-W	126
KFSB40326-W	101	KFSB40954-E	127
KFSB40350-E	101	KFSB40955-W	128
KFSB40351-W	103	KFSB40956-W	128
KFSB40352-E	103	KFSB40957-W	129
KFSB40355-E	104	KFSB41000-W	129
KFSB40356-W	105	KFSB41401-E	130
KFSB40357-W	106	KFSB41471-W	131
KFSB40358-W	106	KFSB41472-E	131
KFSB40359-W	107	KFSB41473-E	132
KFSB40360-E	107	KFSB41474-E	133
KFSB40361-E	109	KFSB41475-E	135
KFSB40362-W	110	KFSB41476-E	136
KFSB40363-W	111	KFSB41477-E	137
KFSB40365-E	111	KFSB41478-E	138
KFSB40366-E	112	KFSB41479-E	139
KFSB40367-E	113	KFSB41480-E	140
KFSB40368-E	114	KFSB41481-E	141
KFSB40500-E	115	KFSB41801-W	142

KFSB41802-W	142	KFSB45601-W	166
KFSB41803-W	143	KFSB45602-W	166
KFSB41804-E	143	KFSB45603-W	166
KFSB41808-W	144	KFSB45604-W	167
KFSB42000-W	144	KFSB45605-W	172
KFSB42001-W	145	KFSB45606-W	173
KFSB42002-W	145	KFSB45607-W	173
KFSB42003-W	146	KFSB45608-W	173
KFSB42005-W	147	KFSB45609-W	174
KFSB42006-W	148	KFSB45610-W	174
KFSB42007-W	149	KFSB45611-W	175
KFSB42008-W	149	KFSB45612-W	175
KFSB44300-W	149	KFSB45613-W	176
KFSB44301-W	150	KFSB45614-E	176
KFSB44302-W	150	KFSB45615-W	177
KFSB44303-W	151	KFSB45616-W	178
KFSB45008-E	151	KFSB45620-E	178
KFSB45009-W	152	KFSB45621-E	179
KFSB45010-W	152	KFSB45622-W	179
KFSB45103-W	153	KFSB45623-E	180
KFSB45105-W	153	KFSB45624-E	180
KFSB45107-W	154	KFSB45625-E	181
KFSB45109-W	155	KFSB45626-W	182
KFSB45300-E	156	KFSB45627-E	183
KFSB45310-E	156	KFSB45628-E	183
KFSB45311-W	157	KFSB45629-W	184
KFSB45320-W	157	KFSB45630-E	184
KFSB45321-E	158	KFSB45631-W	185
KFSB45325-W	158	KFSB45632-W	186
KFSB45330-W	159	KFSB45633-E	186
KFSB45400-W	160	KFSB45634-E	187
KFSB45401-W	160	KFSB45635-E	187
KFSB45402-W	161	KFSB45636-E	188
KFSB45403-W	162	KFSB45637-E	189
KFSB45404-W	162	KFSB45638-W	191
KFSB45405-W	163	KFSB45640-W	192
KFSB45406-W	164	KFSB45641-W	193
KFSB45407-W	165	KFSB45642-W	194
KFSB45408-E	165	KFSB45643-W	195

KFSB45660-W	195	KFSB47011-E	222
KFSB45661-W	198	KFSB47013-E	222
KFSB45662-W	199	KFSB47014-E	223
KFSB45671-W	199	KFSB47015-E	223
KFSB45672-E	200	KFSB47101-E	223
KFSB45673-W	201	KFSB47103-E	224
KFSB45674-W	201	KFSB47104-E	225
KFSB45701-E	202	KFSB47105-E	225
KFSB45702-E	203	KFSB47106-E	226
KFSB45703-W	205	KFSB47107-E	227
KFSB45704-E	206	KFSB47108-E	227
KFSB45705-E	206	KFSB47110-E	228
KFSB45706-E	207	KFSB47111-E	228
KFSB45707-E	207	KFSB47113-E	229
KFSB45708-W	208	KFSB47114-E	229
KFSB45709-W	208	KFSB47115-E	230
KFSB45710-W	209	KFSB47116-E	231
KFSB45711-E	210	KFSB48001-W	231
KFSB45712-W	211	KFSB48201-W	232
KFSB45713-W	211	KFSB48300-W	232
KFSB45780-E	212	KFSB48301-W	233
KFSB45781-W	212	KFSB50300-E	236
KFSB45782-W	213	KFSB50301-E	236
KFSB45900-W	213	KFSB50302-E	237
KFSB45901-W	214	KFSB50303-E	238
KFSB46001-W	214	KFSB50304-E	238
KFSB46003-W	215	KFSB50310-E	239
KFSB46004-W	215	KFSB50311-E	241
KFSB46005-E	215	KFSB50312-E	242
KFSB46006-E	216	KFSB50313-E	243
KFSB46200-W	216	KFSB50340-E	244
KFSB47001-E	217	KFSB50341-E	245
KFSB47003-E	218	KFSB50350-E	245
KFSB47004-E	218	KFSB50351-E	246
KFSB47005-E	219	KFSB50352-E	246
KFSB47006-E	220	KFSB50353-E	246
KFSB47007-E	220	KFSB50360-E	247
KFSB47008-E	221	KFSB50361-E	249
KFSB47010-E	221	KFSB50362-E	250

KFSB50370-E	250	KFSB50921-E	278
KFSB50371-E	251	KFSB50922-E	278
KFSB50372-E	251	KFSB50923-E	279
KFSB50373-E	251	KFSB50924-E	280
KFSB50374-E	252	KFSB50925-E	280
KFSB50375-E	252	KFSB50926-E	281
KFSB50380-E	252	KFSB50927-E	281
KFSB50381-E	254	KFSB50928-E	282
KFSB50390-E	256	KFSB50929-E	283
KFSB50391-E	257	KFSB50930-E	283
KFSB50395-E	258	KFSB50950-E	284
KFSB50396-E	259	KFSB50951-E	285
KFSB50500-E	259	KFSB50952-E	287
KFSB50501-E	260	KFSB50953-E	289
KFSB50502-E	261	KFSB50954-E	289
KFSB50503-E	261	KFSB50955-E	291
KFSB50504-E	262	KFSB50956-E	291
KFSB50505-E	262	KFSB50957-E	292
KFSB50506-E	263	KFSB50958-E	293
KFSB50507-E	263	KFSB50959-E	293
KFSB50801-E	264	KFSB50960-E	294
KFSB50802-E	265	KFSB50962-E	295
KFSB50900-E	265	KFSB50963-E	296
KFSB50901-E	266	KFSB50964-E	296
KFSB50902-E	266	KFSB50965-E	297
KFSB50903-E	267	KFSB50966-E	297
KFSB50904-E	267	KFSB50967-E	298
KFSB50909-E	268	KFSB50968-E	299
KFSB50910-E	269	KFSB50969-E	299
KFSB50911-E	270	KFSB50970-E	300
KFSB50912-E	270	KFSB50971-E	301
KFSB50913-E	271	KFSB50972-E	302
KFSB50914-E	271	KFSB50974-E	302
KFSB50915-E	272	KFSB51000-E	303
KFSB50916-E	273	KFSB51001-E	304
KFSB50917-E	273	KFSB51002-E	304
KFSB50918-E	274	KFSB51003-E	304
KFSB50919-E	276	KFSB51004-E	305
KFSB50920-E	277	KFSB51005-E	308

KFSB51006-E	308	KFSB51901-E	330
KFSB51007-E	308	KFSB51902-E	331
KFSB51008-E	309	KFSB51903-E	332
KFSB51010-E	309	KFSB51904-E	332
KFSB51011-E	310	KFSB51905-E	333
KFSB51012-E	310	KFSB51906-E	333
KFSB51013-E	310	KFSB51907-E	334
KFSB51020-E	311	KFSB51908-E	334
KFSB51021-E	312	KFSB51909-E	335
KFSB51022-E	312	KFSB51910-E	335
KFSB51050-E	313	KFSB51911-E	336
KFSB51051-E	313	KFSB51912-W	336
KFSB51052-E	314	KFSB51913-W	336
KFSB51053-E	314	KFSB52000-E	337
KFSB51054-E	314	KFSB52001-E	338
KFSB51055-E	315	KFSB52002-E	338
KFSB51088-E	316	KFSB52003-E	338
KFSB51089-E	316	KFSB52004-E	339
KFSB51401-E	317	KFSB52006-E	339
KFSB51402-E	319	KFSB52007-W	340
KFSB51403-E	320	KFSB52008-W	341
KFSB51404-E	321	KFSB52009-E	342
KFSB51405-E	321	KFSB52100-E	343
KFSB51406-E	322	KFSB52101-E	344
KFSB51407-E	323	KFSB52102-E	345
KFSB51408-E	323	KFSB52103-E	345
KFSB51409-E	324	KFSB52104-E	346
KFSB51410-E	324	KFSB52105-E	346
KFSB51461-E	324	KFSB52110-E	347
KFSB51500-E	325	KFSB52111-E	348
KFSB51501-E	326	KFSB52112-E	348
KFSB51502-W	326	KFSB52113-E	349
KFSB51801-E	327	KFSB52114-E	350
KFSB51802-E	328	KFSB52115-E	351
KFSB51803-E	328	KFSB52116-E	352
KFSB51804-E	328	KFSB52117-E	354
KFSB51805-E	329	KFSB52118-E	355
KFSB51807-E	329	KFSB52119-E	356
KFSB51900-E	330	KFSB52120-E	357



KFSB52121-E	357	KFSB55021-E	398
KFSB52122-E	358	KFSB55022-E	399
KFSB52124-E	359	KFSB55023-E	400
KFSB52125-E	360	KFSB55024-E	400
KFSB52126-E	361	KFSB55101-E	401
KFSB52127-E	362	KFSB55102-E	401
KFSB52128-E	362	KFSB55104-E	402
KFSB52129-E	363	KFSB55106-E	403
KFSB52131-E	364	KFSB55107-E	403
KFSB52132-E	364	KFSB55108-E	405
KFSB52133-E	365	KFSB55109-E	405
KFSB52134-E	366	KFSB55190-E	406
KFSB52135-E	366	KFSB55300-E	406
KFSB52136-E	367	KFSB55301-E	407
KFSB52137-E	368	KFSB55302-E	408
KFSB54301-E	370	KFSB55303-E	408
KFSB54302-E	370	KFSB55305-E	409
KFSB54303-E	371	KFSB55306-E	409
KFSB54304-E	372	KFSB55310-E	410
KFSB54305-E	373	KFSB55311-E	411
KFSB54306-E	386	KFSB55312-E	411
KFSB54307-E	388	KFSB55313-E	412
KFSB54370-E	389	KFSB55315-E	413
KFSB54371-E	389	KFSB55316-E	414
KFSB54375-E	390	KFSB55317-E	415
KFSB55002-E	390	KFSB55318-E	417
KFSB55003-E	390	KFSB55320-E	418
KFSB55004-E	391	KFSB55321-E	419
KFSB55005-E	392	KFSB55325-E	420
KFSB55006-E	392	KFSB55326-E	420
KFSB55007-E	392	KFSB55330-E	420
KFSB55009-E	393	KFSB55331-E	421
KFSB55011-E	393	KFSB55335-E	421
KFSB55012-E	394	KFSB55340-E	422
KFSB55013-E	394	KFSB55350-E	422
KFSB55014-E	395	KFSB55351-E	424
KFSB55015-E	396	KFSB55355-E	424
KFSB55016-E	397	KFSB55360-E	425
KFSB55020-E	397	KFSB55365-E	425

KFSB55370-E	426	KFSB55625-E	451
KFSB55390-E	427	KFSB55626-E	451
KFSB55391-E	427	KFSB55627-E	452
KFSB55392-I	428	KFSB55628-E	453
KFSB55395-I	429	KFSB55630-E	454
KFSB55400-E	429	KFSB55631-E	455
KFSB55401-E	430	KFSB55650-E	455
KFSB55402-E	431	KFSB55651-E	456
KFSB55403-E	431	KFSB55670-E	457
KFSB55404-E	432	KFSB55671-E	459
KFSB55405-E	432	KFSB55672-E	459
KFSB55406-E	433	KFSB55701-E	460
KFSB55407-E	433	KFSB55702-E	461
KFSB55408-E	433	KFSB55703-E	461
KFSB55409-E	434	KFSB55704-E	462
KFSB55410-E	434	KFSB55706-E	464
KFSB55411-E	435	KFSB55707-E	465
KFSB55412-E	436	KFSB55709-E	465
KFSB55413-E	436	KFSB55710-E	467
KFSB55414-E	437	KFSB55711-E	469
KFSB55520-W	437	KFSB55712-E	469
KFSB55540-W	438	KFSB55713-E	470
KFSB55541-E	438	KFSB55714-E	470
KFSB55600-E	439	KFSB55715-E	472
KFSB55601-E	442	KFSB55716-E	474
KFSB55602-E	443	KFSB55717-E	475
KFSB55603-E	443	KFSB55718-W	475
KFSB55605-E	444	KFSB55719-W	476
KFSB55606-E	444	KFSB55721-E	476
KFSB55607-E	445	KFSB55722-E	477
KFSB55608-E	445	KFSB55724-E	478
KFSB55610-E	446	KFSB55725-E	481
KFSB55611-E	447	KFSB55726-E	482
KFSB55612-W	447	KFSB55727-W	483
KFSB55620-E	448	KFSB55728-E	483
KFSB55621-E	448	KFSB55729-E	485
KFSB55622-E	449	KFSB55782-E	485
KFSB55623-E	449	KFSB55783-E	486
KFSB55624-W	450	KFSB55784-E	487

KFSB55900-E	488	KFSB57105-E	507
KFSB55901-E	488	KFSB57106-E	508
KFSB55902-E	489	KFSB57108-W	509
KFSB55903-E	489	KFSB57109-E	509
KFSB56100-W	490	KFSB57110-E	510
KFSB56161-W	490	KFSB57111-E	511
KFSB56201-E	490	KFSB57112-E	511
KFSB56205-W	491	KFSB57113-E	512
KFSB56206-W	492	KFSB57114-E	512
KFSB56207-W	492	KFSB57125-E	513
KFSB56208-Q	493	KFSB57127-E	513
KFSB57003-E	494	KFSB58001-E	513
KFSB57004-E	495	KFSB58002-E	514
KFSB57005-E	495	KFSB58003-E	514
KFSB57006-E	496	KFSB58010-E	516
KFSB57007-E	496	KFSB58099-E	516
KFSB57008-E	497	KFSB58100-E	517
KFSB57009-W	497	KFSB58101-E	517
KFSB57010-E	498	KFSB58102-E	518
KFSB57011-W	499	KFSB58103-E	518
KFSB57012-E	499	KFSB58104-E	519
KFSB57013-E	500	KFSB58105-E	519
KFSB57014-E	500	KFSB58106-E	520
KFSB57015-E	500	KFSB58200-E	520
KFSB57016-E	501	KFSB58201-E	522
KFSB57017-E	501	KFSB58203-E	523
KFSB57018-E	502	KFSB58204-E	524
KFSB57019-E	502	KFSB58301-E	525
KFSB57020-E	502	KFSB58302-E	527
KFSB57021-E	503	KFSB58303-E	528
KFSB57022-E	503	KFSB58401-E	529
KFSB57023-W	503	KFSB60300-E	532
KFSB57024-W	504	KFSB60301-E	534
KFSB57025-E	504	KFSB60302-E	537
KFSB57026-E	505	KFSB60303-E	538
KFSB57101-E	505	KFSB60304-E	539
KFSB57102-E	506	KFSB60305-E	541
KFSB57103-E	506	KFSB60306-E	541
KFSB57104-E	507	KFSB60310-E	541

KFSB60311-E	542	KFSB61001-E	568
KFSB60320-E	542	KFSB61002-E	568
KFSB60321-E	543	KFSB61003-E	569
KFSB60322-E	544	KFSB61401-E	570
KFSB60323-E	544	KFSB61402-E	571
KFSB60330-E	546	KFSB61403-E	572
KFSB60350-E	546	KFSB61404-E	572
KFSB60351-E	547	KFSB61405-E	573
KFSB60352-E	550	KFSB61406-E	573
KFSB60353-E	550	KFSB61407-E	574
KFSB60400-E	551	KFSB61408-E	575
KFSB60401-E	551	KFSB61469-E	576
KFSB60402-E	552	KFSB61470-E	576
KFSB60500-E	552	KFSB61471-E	577
KFSB60501-E	553	KFSB61472-E	578
KFSB60502-E	553	KFSB61474-E	578
KFSB60503-E	554	KFSB61475-E	579
KFSB60590-E	555	KFSB61476-E	580
KFSB60801-E	555	KFSB61801-E	580
KFSB60802-E	556	KFSB61802-E	583
KFSB60890-E	556	KFSB61803-E	584
KFSB60900-E	557	KFSB61804-E	584
KFSB60901-E	557	KFSB61805-E	585
KFSB60902-E	558	KFSB61806-E	586
KFSB60903-E	558	KFSB61807-E	587
KFSB60904-E	559	KFSB61808-E	588
KFSB60905-E	559	KFSB61809-E	589
KFSB60906-E	560	KFSB61810-E	590
KFSB60907-E	560	KFSB61811-E	592
KFSB60908-E	560	KFSB61812-E	592
KFSB60950-E	561	KFSB61813-E	592
KFSB60951-E	561	KFSB61814-E	593
KFSB60952-E	562	KFSB61815-E	593
KFSB60953-E	562	KFSB61816-E	593
KFSB60954-E	563	KFSB61817-E	594
KFSB60955-E	564	KFSB61818-E	600
KFSB60956-E	564	KFSB61819-E	601
KFSB60957-E	565	KFSB61821-E	601
KFSB61000-E	566	KFSB61822-E	602

KFSB61823-E	602	KFSB65105-E	627
KFSB61824-E	603	KFSB65106-E	627
KFSB61825-E	603	KFSB65190-E	628
KFSB61826-E	604	KFSB65300-E	628
KFSB61827-E	604	KFSB65305-E	629
KFSB61828-E	604	KFSB65306-E	629
KFSB61829-E	605	KFSB65310-E	630
KFSB61830-E	606	KFSB65311-E	630
KFSB61831-E	606	KFSB65315-E	630
KFSB61832-E	607	KFSB65316-E	631
KFSB61833-E	608	KFSB65317-E	631
KFSB61901-E	608	KFSB65320-E	632
KFSB61902-E	609	KFSB65321-E	632
KFSB62000-E	609	KFSB65325-E	632
KFSB62002-E	610	KFSB65330-E	633
KFSB62003-E	611	KFSB65335-E	633
KFSB62004-E	611	KFSB65336-E	634
KFSB62007-E	611	KFSB65337-E	634
KFSB62008-E	612	KFSB65380-E	635
KFSB62010-E	612	KFSB65385-E	637
KFSB62011-E	614	KFSB65387-E	638
KFSB62015-E	615	KFSB65390-E	638
KFSB62016-E	616	KFSB65391-E	639
KFSB62018-E	616	KFSB65400-E	639
KFSB62019-E	617	KFSB65401-E	640
KFSB62100-E	618	KFSB65402-E	640
KFSB64300-E	618	KFSB65403-E	641
KFSB64301-E	619	KFSB65404-E	641
KFSB64303-E	620	KFSB65600-E	642
KFSB64399-E	620	KFSB65601-E	643
KFSB65001-E	621	KFSB65602-E	645
KFSB65002-E	621	KFSB65603-E	646
KFSB65003-E	622	KFSB65604-E	646
KFSB65010-E	623	KFSB65605-E	647
KFSB65099-E	623	KFSB65606-E	648
KFSB65101-E	624	KFSB65607-E	649
KFSB65102-E	625	KFSB65630-E	650
KFSB65103-E	626	KFSB65650-E	650
KFSB65104-E	626	KFSB65651-E	650

KFSB65652-E	651	KFSB66010-E	679
KFSB65653-E	652	KFSB66011-E	679
KFSB65654-E	653	KFSB66012-E	680
KFSB65655-E	654	KFSB66013-E	681
KFSB65701-E	654	KFSB66014-E	681
KFSB65702-E	655	KFSB66015-E	682
KFSB65703-E	656	KFSB66016-E	682
KFSB65704-E	657	KFSB66017-E	683
KFSB65752-E	659	KFSB66018-E	683
KFSB65780-E	660	KFSB66019-E	684
KFSB65781-E	661	KFSB66020-E	684
KFSB65782-E	662	KFSB66021-E	685
KFSB65783-E	663	KFSB66022-E	685
KFSB65785-E	664	KFSB66023-E	686
KFSB65786-E	664	KFSB66024-E	687
KFSB65787-E	665	KFSB66025-E	687
KFSB65788-E	666	KFSB66026-E	689
KFSB65789-E	667	KFSB66027-E	690
KFSB65799-E	667	KFSB66028-E	690
KFSB65900-E	668	KFSB66029-E	691
KFSB65901-E	668	KFSB66030-E	691
KFSB65902-E	668	KFSB66031-E	692
KFSB65904-E	669	KFSB66032-E	692
KFSB65905-E	669	KFSB66033-E	693
KFSB65906-E	670	KFSB66034-E	693
KFSB65907-E	670	KFSB66035-E	693
KFSB65908-E	671	KFSB66036-E	694
KFSB65909-E	671	KFSB66038-E	694
KFSB65910-E	672	KFSB66039-E	694
KFSB65911-E	672	KFSB66041-E	695
KFSB65912-E	672	KFSB66045-E	695
KFSB66002-E	673	KFSB66046-E	696
KFSB66003-E	673	KFSB66051-E	697
KFSB66004-E	674	KFSB66052-E	697
KFSB66005-E	674	KFSB66053-E	697
KFSB66006-E	676	KFSB66054-E	698
KFSB66007-E	677	KFSB66055-E	699
KFSB66008-E	677	KFSB66056-E	700
KFSB66009-E	678	KFSB66057-E	700

KFSB66200-E	700	KFSB68105-E	717
KFSB66201-E	701	KFSB68107-E	718
KFSB66202-E	701	KFSB68109-E	718
KFSB66203-E	702	KFSB68110-E	719
KFSB66204-E	702	KFSB68111-E	719
KFSB66205-E	702	KFSB68112-E	720
KFSB66206-E	703	KFSB68116-E	720
KFSB66207-E	703	KFSB68117-E	720
KFSB66208-E	703	KFSB68118-E	721
KFSB66209-E	704	KFSB80001-I	723
KFSB66210-E	704	KFSB80002-I	723
KFSB66211-E	705	KFSB80003-I	723
KFSB66212-E	705	KFSB80011-I	724
KFSB66213-E	706	KFSB80021-I	724
KFSB66214-E	706	KFSB80022-I	725
KFSB66215-E	706	KFSB80300-I	725
KFSB66216-E	707	KFSB80301-I	726
KFSB66219-E	707	KFSB80310-I	726
KFSB66220-E	707	KFSB80311-I	727
KFSB66221-E	708	KFSB80400-I	727
KFSB66223-E	708	KFSB80401-I	728
KFSB66224-E	708	KFSB80500-I	729
KFSB66225-E	709	KFSB80501-I	730
KFSB66226-E	710	KFSB80900-I	730
KFSB66228-E	710	KFSB80901-I	731
KFSB66229-E	711	KFSB80902-I	731
KFSB66230-E	711	KFSB80903-I	731
KFSB66231-E	711	KFSB80904-I	732
KFSB66232-E	712	KFSB80905-I	734
KFSB66233-E	712	KFSB80906-I	734
KFSB66234-E	713	KFSB80907-I	736
KFSB67101-E	713	KFSB80908-I	737
KFSB67102-E	714	KFSB80950-I	737
KFSB68001-E	714	KFSB80951-I	738
KFSB68002-E	715	KFSB80952-I	738
KFSB68099-E	716	KFSB80953-I	739
KFSB68100-E	717	KFSB80955-I	739
KFSB68101-E	717	KFSB80956-I	740
KFSB68104-E	717	KFSB80958-I	741

KFSB80959-I	741	KFSB82111-I	760
KFSB80960-I	742	KFSB82112-I	760
KFSB81000-I	742	KFSB82120-I	761
KFSB81002-I	742	KFSB82121-I	761
KFSB81003-I	743	KFSB82122-I	761
KFSB81004-I	743	KFSB82123-I	762
KFSB81005-I	744	KFSB82124-I	762
KFSB81006-I	744	KFSB82125-I	763
KFSB81401-I	744	KFSB82126-I	763
KFSB81402-I	745	KFSB82127-I	763
KFSB81403-I	745	KFSB84300-I	764
KFSB81404-I	746	KFSB84301-I	764
KFSB81405-I	747	KFSB84302-I	765
KFSB81406-I	747	KFSB85001-I	766
KFSB81803-I	748	KFSB85002-I	766
KFSB81900-I	748	KFSB85003-I	767
KFSB81901-I	748	KFSB85004-I	767
KFSB81902-I	749	KFSB85010-I	768
KFSB82000-I	749	KFSB85011-I	768
KFSB82001-I	750	KFSB85012-I	768
KFSB82002-I	750	KFSB85013-I	768
KFSB82003-I	750	KFSB85101-I	769
KFSB82004-I	750	KFSB85102-I	769
KFSB82005-I	751	KFSB85300-I	770
KFSB82006-I	752	KFSB85301-I	770
KFSB82007-I	752	KFSB85302-I	771
KFSB82008-I	753	KFSB85303-I	771
KFSB82010-I	754	KFSB85304-I	772
KFSB82013-I	755	KFSB85305-I	772
KFSB82014-I	755	KFSB85306-I	772
KFSB82015-I	755	KFSB85307-I	773
KFSB82016-I	756	KFSB85308-I	774
KFSB82017-I	756	KFSB85309-I	774
KFSB82018-I	757	KFSB85310-I	774
KFSB82019-I	757	KFSB85400-I	775
KFSB82020-I	758	KFSB85401-I	775
KFSB82100-I	759	KFSB85402-I	775
KFSB82101-I	759	KFSB85403-I	776
KFSB82110-I	759	KFSB85404-I	776



KFSB85405-I	777	KFSB85706-I	797
KFSB85407-I	777	KFSB85707-I	798
KFSB85408-I	778	KFSB85709-I	799
KFSB85409-I	778	KFSB85710-I	799
KFSB85501-I	778	KFSB85711-I	799
KFSB85502-I	779	KFSB85712-I	800
KFSB85521-I	779	KFSB85713-I	801
KFSB85522-I	779	KFSB85714-I	802
KFSB85600-I	780	KFSB85715-I	804
KFSB85620-I	780	KFSB85716-I	805
KFSB85621-I	781	KFSB85780-I	805
KFSB85622-I	781	KFSB85781-I	806
KFSB85623-I	781	KFSB85782-I	806
KFSB85624-I	782	KFSB85783-I	807
KFSB85625-I	782	KFSB85801-Q	808
KFSB85626-I	783	KFSB85802-Q	809
KFSB85627-I	783	KFSB85900-I	809
KFSB85628-I	783	KFSB85901-I	809
KFSB85630-I	784	KFSB85902-I	810
KFSB85631-I	784	KFSB85903-I	810
KFSB85632-I	785	KFSB85904-I	810
KFSB85633-I	786	KFSB85905-I	811
KFSB85634-I	787	KFSB86001-I	811
KFSB85635-I	787	KFSB86002-I	812
KFSB85640-I	788	KFSB86003-I	812
KFSB85641-I	788	KFSB86004-I	812
KFSB85642-I	789	KFSB86005-I	813
KFSB85643-I	789	KFSB86006-I	813
KFSB85650-I	790	KFSB86007-I	814
KFSB85651-I	790	KFSB86008-I	814
KFSB85652-I	791	KFSB86009-I	815
KFSB85653-I	792	KFSB86010-I	815
KFSB85654-I	793	KFSB86011-I	816
KFSB85655-I	793	KFSB86012-I	816
KFSB85701-I	793	KFSB86013-I	816
KFSB85702-I	794	KFSB86014-W	817
KFSB85703-I	795	KFSB86015-W	817
KFSB85704-I	795	KFSB86200-I	818
KFSB85705-I	796	KFSB86201-I	818

KFSB86202-I	818	KFSB90313-I	836
KFSB86203-I	818	KFSB90315-I	837
KFSB86204-I	819	KFSB90316-I	837
KFSB86205-I	819	KFSB90330-I	837
KFSB86206-I	819	KFSB90338-I	838
KFSB86207-I	819	KFSB90339-I	838
KFSB86208-I	820	KFSB90350-I	838
KFSB86209-I	820	KFSB90355-I	839
KFSB86210-I	820	KFSB90356-I	839
KFSB86211-I	821	KFSB90357-E	839
KFSB86212-I	821	KFSB90360-I	840
KFSB86213-I	821	KFSB90365-I	840
KFSB87001-I	821	KFSB90366-I	840
KFSB87002-I	822	KFSB90367-E	841
KFSB87003-I	822	KFSB90368-E	841
KFSB87004-I	823	KFSB90370-I	841
KFSB87005-I	823	KFSB90371-I	842
KFSB87006-I	824	KFSB90372-I	842
KFSB87007-I	824	KFSB90373-I	842
KFSB87008-I	825	KFSB90374-E	843
KFSB87101-I	825	KFSB90375-I	843
KFSB88201-I	826	KFSB90380-I	844
KFSB88202-I	826	KFSB90381-E	844
KFSB88203-I	827	KFSB90382-W	844
KFSB88204-I	827	KFSB90386-I	845
KFSB88205-I	828	KFSB90392-E	845
KFSB88206-I	828	KFSB90396-I	845
KFSB88207-I	828	KFSB90399-I	846
KFSB88300-I	829	KFSB90401-E	846
KFSB88401-I	829	KFSB90402-E	846
KFSB88402-I	830	KFSB90404-E	847
KFSB90301-E	832	KFSB90405-E	848
KFSB90302-E	832	KFSB90406-E	848
KFSB90303-E	833	KFSB90421-I	848
KFSB90304-E	833	KFSB90501-E	849
KFSB90305-E	834	KFSB90502-E	849
KFSB90306-E	835	KFSB90503-E	850
KFSB90307-E	836	KFSB90504-E	851
KFSB90311-I	836	KFSB90505-E	851

KFSB90506-E	852	KFSB90938-E	876
KFSB90507-E	852	KFSB90939-E	877
KFSB90520-I	853	KFSB90940-I	878
KFSB90521-I	853	KFSB90941-I	878
KFSB90522-E	854	KFSB90942-I	879
KFSB90530-I	854	KFSB90943-I	879
KFSB90531-I	855	KFSB90944-I	879
KFSB90532-E	855	KFSB90945-I	880
KFSB90900-I	856	KFSB90946-I	880
KFSB90901-E	856	KFSB90947-I	881
KFSB90902-E	857	KFSB90948-E	881
KFSB90904-E	857	KFSB90949-E	881
KFSB90905-E	859	KFSB90950-E	882
KFSB90906-E	859	KFSB90951-E	883
KFSB90907-E	859	KFSB90952-E	884
KFSB90908-E	860	KFSB90953-I	886
KFSB90909-E	860	KFSB90954-W	886
KFSB90910-E	861	KFSB90955-E	887
KFSB90911-E	861	KFSB90956-I	888
KFSB90912-E	861	KFSB90957-E	888
KFSB90913-E	862	KFSB90958-I	889
KFSB90914-I	862	KFSB90959-E	889
KFSB90915-I	863	KFSB90960-E	892
KFSB90916-I	863	KFSB90961-E	892
KFSB90917-I	864	KFSB90962-E	893
KFSB90919-I	864	KFSB90963-E	894
KFSB90920-I	864	KFSB90964-E	895
KFSB90921-I	864	KFSB90965-E	895
KFSB90922-I	865	KFSB90966-E	895
KFSB90923-I	865	KFSB90967-E	896
KFSB90924-I	865	KFSB90968-E	896
KFSB90925-E	866	KFSB90969-I	897
KFSB90931-I	866	KFSB90970-I	897
KFSB90932-Q	867	KFSB90971-I	897
KFSB90933-I	868	KFSB90972-I	898
KFSB90934-I	868	KFSB90973-I	898
KFSB90935-E	869	KFSB90974-I	898
KFSB90936-E	871	KFSB91001-E	899
KFSB90937-E	872	KFSB91002-E	899

KFSB91003-E	899	KFSB91402-E	918
KFSB91004-E	900	KFSB91403-E	918
KFSB91005-E	901	KFSB91404-E	919
KFSB91006-E	901	KFSB91405-E	920
KFSB91007-E	902	KFSB91406-E	920
KFSB91050-I	903	KFSB91407-E	921
KFSB91053-I	903	KFSB91408-E	921
KFSB91054-I	904	KFSB91420-I	921
KFSB91055-I	904	KFSB91421-I	922
KFSB91056-I	904	KFSB91422-E	922
KFSB91057-I	905	KFSB91423-E	923
KFSB91058-I	905	KFSB91425-I	923
KFSB91300-E	905	KFSB91426-I	924
KFSB91301-E	906	KFSB91427-E	924
KFSB91302-E	906	KFSB91430-I	925
KFSB91303-E	907	KFSB91440-I	925
KFSB91305-E	907	KFSB91441-I	925
KFSB91306-E	908	KFSB91442-E	926
KFSB91308-E	908	KFSB91445-I	926
KFSB91309-E	909	KFSB91446-I	927
KFSB91310-E	909	KFSB91447-E	927
KFSB91311-E	910	KFSB91448-E	928
KFSB91312-E	910	KFSB91450-I	928
KFSB91313-E	910	KFSB91460-I	929
KFSB91314-E	911	KFSB91461-E	929
KFSB91315-Q	911	KFSB91462-E	929
KFSB91316-E	912	KFSB91463-E	930
KFSB91317-E	912	KFSB91464-E	931
KFSB91325-I	913	KFSB91465-E	931
KFSB91326-E	913	KFSB91466-E	932
KFSB91327-E	914	KFSB91467-E	933
KFSB91328-E	915	KFSB91468-I	933
KFSB91331-I	915	KFSB91469-E	934
KFSB91332-I	915	KFSB91470-Q	934
KFSB91335-I	916	KFSB91471-I	935
KFSB91344-I	916	KFSB91472-E	935
KFSB91345-I	916	KFSB91501-I	935
KFSB91357-Q	917	KFSB91502-I	936
KFSB91401-E	917	KFSB91503-I	936

KFSB91505-I	937	KFSB91576-E	952
KFSB91506-I	937	KFSB91577-E	952
KFSB91507-I	937	KFSB91578-E	952
KFSB91508-I	938	KFSB91579-E	953
KFSB91510-E	938	KFSB91581-E	953
KFSB91511-E	938	KFSB91582-E	953
KFSB91512-E	939	KFSB91583-E	954
KFSB91513-Q	939	KFSB91599-E	954
KFSB91514-Q	940	KFSB91801-E	955
KFSB91515-W	940	KFSB91802-E	955
KFSB91516-E	940	KFSB91803-E	955
KFSB91517-W	941	KFSB91804-E	956
KFSB91518-E	941	KFSB91805-E	956
KFSB91519-E	942	KFSB91806-E	957
KFSB91527-E	942	KFSB91807-E	957
KFSB91528-E	942	KFSB91808-E	958
KFSB91529-E	943	KFSB91810-E	958
KFSB91530-Q	943	KFSB91811-E	958
KFSB91531-E	944	KFSB91812-E	959
KFSB91532-E	944	KFSB91850-I	960
KFSB91533-E	944	KFSB91851-I	960
KFSB91534-E	945	KFSB91852-I	961
KFSB91535-E	945	KFSB91853-I	961
KFSB91536-E	946	KFSB91854-I	961
KFSB91537-E	946	KFSB91855-I	963
KFSB91538-E	947	KFSB91856-I	963
KFSB91540-E	947	KFSB91857-I	963
KFSB91541-E	947	KFSB91858-I	964
KFSB91542-E	948	KFSB91901-E	964
KFSB91543-E	948	KFSB91902-E	965
KFSB91547-I	948	KFSB91903-E	965
KFSB91548-E	949	KFSB91911-E	966
KFSB91549-E	949	KFSB91912-E	966
KFSB91551-I	949	KFSB91913-E	967
KFSB91570-E	950	KFSB91914-E	967
KFSB91571-E	950	KFSB91920-I	968
KFSB91572-E	950	KFSB92001-I	968
KFSB91573-E	951	KFSB92002-I	968
KFSB91575-E	951	KFSB92003-I	969

KFSB92004-I	969	KFSB95030-I	993
KFSB92005-I	969	KFSB95031-E	993
KFSB92006-E	970	KFSB95032-I	995
KFSB92007-E	970	KFSB95033-I	995
KFSB92008-E	971	KFSB95034-I	995
KFSB92009-E	974	KFSB95035-E	995
KFSB92010-I	975	KFSB95036-E	997
KFSB92011-I	976	KFSB95037-I	998
KFSB92012-E	976	KFSB95038-I	998
KFSB92013-E	977	KFSB95040-E	999
KFSB92014-E	978	KFSB95041-I	1000
KFSB92015-E	978	KFSB95101-E	1000
KFSB92016-I	979	KFSB95102-E	1001
KFSB92017-E	979	KFSB95103-E	1001
KFSB92020-I	980	KFSB95104-E	1002
KFSB92021-I	981	KFSB95105-E	1002
KFSB92022-I	981	KFSB95106-E	1003
KFSB94301-E	982	KFSB95107-E	1003
KFSB94302-E	982	KFSB95120-I	1003
KFSB94303-E	983	KFSB95141-E	1004
KFSB94304-E	983	KFSB95142-E	1004
KFSB94305-E	984	KFSB95155-I	1004
KFSB94306-E	984	KFSB95200-I	1005
KFSB94307-E	985	KFSB95201-I	1005
KFSB94308-I	985	KFSB95202-I	1005
KFSB94309-I	986	KFSB95203-I	1006
KFSB94310-E	986	KFSB95204-I	1006
KFSB95001-E	988	KFSB95206-I	1006
KFSB95002-E	988	KFSB95208-I	1007
KFSB95003-E	988	KFSB95209-I	1007
KFSB95004-E	988	KFSB95210-I	1007
KFSB95005-E	989	KFSB95211-I	1008
KFSB95006-E	990	KFSB95301-E	1008
KFSB95007-E	990	KFSB95302-E	1008
KFSB95008-E	991	KFSB95303-E	1009
KFSB95010-Q	991	KFSB95304-E	1009
KFSB95020-I	991	KFSB95305-E	1010
KFSB95021-E	992	KFSB95306-E	1010
KFSB95022-E	993	KFSB95307-E	1011

KFSB95320-I	1011	KFSB95412-E	1027
KFSB95321-I	1011	KFSB95413-E	1028
KFSB95322-E	1012	KFSB95414-E	1028
KFSB95330-I	1012	KFSB95415-Q	1028
KFSB95331-I	1012	KFSB95416-E	1029
KFSB95332-E	1013	KFSB95417-E	1029
KFSB95333-I	1013	KFSB95425-I	1030
KFSB95334-E	1013	KFSB95426-E	1030
KFSB95335-I	1014	KFSB95427-E	1031
KFSB95340-I	1014	KFSB95428-E	1032
KFSB95350-I	1015	KFSB95429-E	1032
KFSB95360-I	1015	KFSB95430-I	1033
KFSB95371-I	1015	KFSB95431-I	1033
KFSB95372-I	1016	KFSB95432-I	1034
KFSB95375-I	1016	KFSB95433-I	1034
KFSB95376-I	1016	KFSB95434-I	1034
KFSB95377-E	1017	KFSB95435-I	1035
KFSB95378-I	1017	KFSB95436-I	1035
KFSB95379-I	1017	KFSB95437-I	1035
KFSB95380-E	1018	KFSB95438-I	1036
KFSB95381-I	1019	KFSB95439-I	1036
KFSB95382-E	1019	KFSB95440-I	1036
KFSB95383-I	1020	KFSB95441-I	1037
KFSB95385-I	1020	KFSB95442-I	1037
KFSB95387-I	1020	KFSB95443-I	1037
KFSB95390-I	1021	KFSB95444-I	1038
KFSB95396-I	1021	KFSB95445-I	1038
KFSB95397-I	1022	KFSB95446-I	1038
KFSB95400-E	1022	KFSB95447-I	1039
KFSB95401-E	1022	KFSB95448-I	1039
KFSB95402-E	1023	KFSB95450-I	1039
KFSB95403-E	1023	KFSB95451-E	1040
KFSB95405-E	1024	KFSB95452-E	1041
KFSB95406-E	1024	KFSB95453-I	1042
KFSB95407-E	1025	KFSB95457-Q	1042
KFSB95408-E	1025	KFSB95460-I	1043
KFSB95409-E	1026	KFSB95461-I	1043
KFSB95410-E	1026	KFSB95462-I	1043
KFSB95411-E	1027	KFSB95463-I	1044

KFSB95464-I	1044	KFSB95602-E	1061
KFSB95465-I	1044	KFSB95603-E	1062
KFSB95466-I	1045	KFSB95604-E	1062
KFSB95467-I	1045	KFSB95605-E	1062
KFSB95468-I	1045	KFSB95606-E	1063
KFSB95469-I	1046	KFSB95607-E	1064
KFSB95470-I	1046	KFSB95608-I	1064
KFSB95471-I	1046	KFSB95609-I	1064
KFSB95472-I	1047	KFSB95613-E	1065
KFSB95473-I	1047	KFSB95614-E	1066
KFSB95474-I	1048	KFSB95616-E	1066
KFSB95475-I	1048	KFSB95618-I	1067
KFSB95476-I	1048	KFSB95619-I	1067
KFSB95477-I	1049	KFSB95620-I	1067
KFSB95478-I	1049	KFSB95621-I	1068
KFSB95479-I	1049	KFSB95622-I	1068
KFSB95480-I	1050	KFSB95623-I	1068
KFSB95481-I	1050	KFSB95624-I	1068
KFSB95482-I	1051	KFSB95625-I	1069
KFSB95483-I	1051	KFSB95626-I	1069
KFSB95484-I	1051	KFSB95627-I	1070
KFSB95485-I	1052	KFSB95628-I	1070
KFSB95500-E	1052	KFSB95629-I	1070
KFSB95501-E	1052	KFSB95630-I	1071
KFSB95502-E	1053	KFSB95631-I	1071
KFSB95503-E	1054	KFSB95632-I	1072
KFSB95504-E	1056	KFSB95633-I	1072
KFSB95505-E	1057	KFSB95634-I	1072
KFSB95506-I	1057	KFSB95635-I	1073
KFSB95550-I	1058	KFSB95636-I	1073
KFSB95551-I	1058	KFSB95637-I	1073
KFSB95552-I	1058	KFSB95638-I	1074
KFSB95554-I	1059	KFSB95639-I	1074
KFSB95570-I	1059	KFSB95640-I	1075
KFSB95571-I	1059	KFSB95641-I	1075
KFSB95572-I	1060	KFSB95642-I	1075
KFSB95574-I	1060	KFSB95643-I	1076
KFSB95600-E	1060	KFSB95644-I	1076
KFSB95601-E	1061	KFSB95645-I	1077



KFSB95646-I	1077	KFSB95726-I	1096
KFSB95647-I	1077	KFSB95727-I	1097
KFSB95648-I	1078	KFSB95728-I	1097
KFSB95649-W	1078	KFSB95729-I	1097
KFSB95650-E	1079	KFSB95730-I	1098
KFSB95651-E	1082	KFSB95731-I	1098
KFSB95652-E	1083	KFSB95732-I	1098
KFSB95653-E	1083	KFSB95740-I	1099
KFSB95660-I	1084	KFSB95741-E	1099
KFSB95661-I	1084	KFSB95742-E	1101
KFSB95662-I	1085	KFSB95743-E	1101
KFSB95663-I	1085	KFSB95744-I	1102
KFSB95664-I	1085	KFSB95745-E	1103
KFSB95665-I	1085	KFSB95760-I	1104
KFSB95666-I	1086	KFSB95761-E	1105
KFSB95667-I	1086	KFSB95762-E	1105
KFSB95668-I	1086	KFSB95763-E	1106
KFSB95669-I	1087	KFSB95764-E	1106
KFSB95670-I	1087	KFSB95765-I	1107
KFSB95671-I	1087	KFSB95766-E	1107
KFSB95672-I	1088	KFSB95767-Q	1108
KFSB95673-I	1088	KFSB95770-E	1108
KFSB95674-I	1088	KFSB95771-E	1109
KFSB95675-I	1089	KFSB95772-E	1111
KFSB95701-E	1089	KFSB95773-E	1111
KFSB95702-E	1089	KFSB95774-W	1112
KFSB95704-E	1090	KFSB95775-I	1113
KFSB95705-E	1090	KFSB95900-E	1114
KFSB95706-E	1092	KFSB95901-E	1114
KFSB95707-E	1093	KFSB95902-E	1114
KFSB95710-I	1093	KFSB95921-I	1115
KFSB95711-E	1093	KFSB95950-E	1115
KFSB95712-E	1094	KFSB95951-E	1116
KFSB95720-I	1094	KFSB96001-I	1116
KFSB95721-I	1095	KFSB96002-I	1117
KFSB95722-I	1095	KFSB96003-E	1117
KFSB95723-I	1095	KFSB96004-E	1118
KFSB95724-I	1096	KFSB96005-E	1118
KFSB95725-I	1096	KFSB96006-I	1119

KFSB96007-I	1119	KFSB96214-W	1134
KFSB96008-I	1120	KFSB96215-E	1134
KFSB96009-I	1120	KFSB96216-E	1134
KFSB96010-E	1120	KFSB96217-E	1135
KFSB96100-I	1121	KFSB96218-E	1135
KFSB96102-I	1121	KFSB96219-E	1136
KFSB96103-I	1121	KFSB96220-E	1136
KFSB96104-I	1122	KFSB96221-E	1136
KFSB96105-I	1122	KFSB96222-I	1137
KFSB96106-I	1123	KFSB96223-E	1137
KFSB96107-W	1123	KFSB96224-E	1138
KFSB96151-E	1123	KFSB96225-E	1138
KFSB96152-E	1124	KFSB96227-E	1139
KFSB96153-E	1124	KFSB96228-E	1139
KFSB96154-E	1124	KFSB96229-E	1140
KFSB96155-E	1125	KFSB96230-E	1140
KFSB96156-E	1125	KFSB96240-E	1141
KFSB96157-E	1125	KFSB96241-I	1141
KFSB96158-E	1125	KFSB96251-E	1142
KFSB96159-E	1126	KFSB96252-E	1142
KFSB96160-E	1126	KFSB96253-I	1143
KFSB96161-E	1126	KFSB96254-I	1143
KFSB96162-E	1127	KFSB96255-E	1143
KFSB96163-I	1127	KFSB96256-I	1144
KFSB96199-I	1128	KFSB96257-E	1144
KFSB96200-E	1128	KFSB96258-E	1145
KFSB96201-E	1128	KFSB96259-E	1145
KFSB96202-E	1129	KFSB96260-W	1146
KFSB96203-E	1129	KFSB96261-E	1147
KFSB96204-E	1130	KFSB96262-E	1147
KFSB96205-E	1130	KFSB96263-E	1148
KFSB96206-E	1130	KFSB96264-E	1148
KFSB96207-E	1131	KFSB96265-E	1149
KFSB96208-E	1131	KFSB96266-I	1149
KFSB96209-E	1132	KFSB96267-E	1149
KFSB96210-E	1132	KFSB96268-E	1150
KFSB96211-E	1132	KFSB96269-E	1150
KFSB96212-E	1133	KFSB96270-E	1150
KFSB96213-E	1133	KFSB96271-E	1151

KFSB96272-E	1151	KFSB97022-I	1168
KFSB96273-E	1151	KFSB97023-I	1168
KFSB96274-E	1152	KFSB97024-E	1169
KFSB96275-W	1152	KFSB97025-I	1169
KFSB96276-E	1152	KFSB97027-I	1169
KFSB96277-E	1153	KFSB97028-I	1170
KFSB96278-E	1153	KFSB97029-I	1170
KFSB96279-E	1154	KFSB97030-I	1170
KFSB96280-E	1154	KFSB97031-I	1171
KFSB96281-E	1155	KFSB97032-I	1171
KFSB96282-E	1155	KFSB97033-I	1171
KFSB96300-E	1155	KFSB97034-I	1172
KFSB96301-E	1156	KFSB97035-I	1172
KFSB96302-E	1156	KFSB97036-I	1172
KFSB96303-E	1157	KFSB97037-I	1172
KFSB96305-E	1158	KFSB97038-I	1173
KFSB96306-E	1158	KFSB97039-E	1173
KFSB96308-E	1159	KFSB97040-E	1173
KFSB96309-E	1159	KFSB97041-E	1174
KFSB96310-E	1160	KFSB97042-E	1174
KFSB96311-E	1160	KFSB97101-E	1175
KFSB96312-E	1161	KFSB97102-E	1175
KFSB96313-E	1161	KFSB97103-E	1176
KFSB96314-E	1161	KFSB97104-E	1176
KFSB96316-E	1162	KFSB97105-E	1176
KFSB96317-E	1162	KFSB97106-E	1176
KFSB96325-I	1163	KFSB97107-I	1177
KFSB96326-E	1163	KFSB97108-I	1177
KFSB96327-E	1164	KFSB97109-E	1177
KFSB96328-E	1164	KFSB97118-I	1178
KFSB96331-I	1165	KFSB97140-E	1178
KFSB96335-I	1165	KFSB97141-E	1178
KFSB96344-I	1165	KFSB97142-E	1179
KFSB97001-E	1166	KFSB97143-E	1179
KFSB97002-E	1166	KFSB97144-W	1180
KFSB97003-E	1167	KFSB98001-E	1180
KFSB97004-E	1167	KFSB98002-E	1181
KFSB97005-E	1167	KFSB98004-E	1181
KFSB97007-E	1168	KFSB98005-E	1182

KFSB98006-E	1182
KFSB98020-I	1183
KFSB98021-I	1183
KFSB98022-I	1183
KFSB98023-I	1184
KFSB98024-I	1184
KFSB98025-I	1185
KFSB98026-I	1185
KFSB98030-E	1185
KFSB98032-E	1186
KFSB98033-E	1186
KFSB98034-E	1186
KFSB98050-I	1187
KFSB98051-I	1187
KFSB98052-I	1188
KFSB98053-I	1188
KFSB98054-I	1188
KFSB98099-E	1189